2025 年度

事業計画書

2025 年 3 月 27 日

社会福祉法人どろんこ会

目　次

1. 朝霞どろんこ保育園
2. 日高どろんこ保育園
3. メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム
4. 鶴見どろんこ保育園
5. 越谷どろんこ保育園
6. 志木どろんこ保育園
7. 板橋仲町どろんこ保育園
8. P'S スマイル保育園
9. 三原どろんこ保育園
10. メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム
11. 市川どろんこ保育園
12. 新座どろんこ保育園
13. 仲町どろんこ保育園
14. 新羽どろんこ保育園
15. 清瀬どろんこ保育園
16. 美しが丘どろんこ保育園
17. 大豆戸どろんこ保育園
18. 草加松原どろんこ保育園
19. 越谷レイクタウンどろんこ保育園
20. 駒沢どろんこ保育園
21. メリー★ポピンズ 清瀬ルーム
22. メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム
23. つくばどろんこ保育園
24. 岩切どろんこ保育園
25. メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム
26. 東寺尾どろんこ保育園
27. 船橋どろんこ保育園
28. 浦安どろんこ保育園
29. ふじみ野どろんこ保育園
30. 武蔵野どろんこ保育園
31. メリー★ポピンズ 市川ルーム
32. 若林どろんこ保育園

33. 中目黒どろんこ保育園
34. 船橋どろんこ保育園分園
35. 南魚沼どろんこ保育園
36. 和光どろんこ保育園
37. 三鷹どろんこ保育園
38. 万博公園どろんこ保育園
39. メリー★ポピンズ 桶川ルーム
40. 北千住どろんこ保育園
41. 一宮どろんこ保育園
42. 郡山どろんこ保育園
43. 学園の森どろんこ保育園
44. 中里どろんこ保育園
45. メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム
46. 春日どろんこ保育園
47. 宮下どろんこ保育園
48. つつじヶ丘どろんこ保育園
49. 前原どろんこ保育園
50. 石川どろんこ保育園
51. 馬場どろんこ保育園
52. 読売ランド前どろんこ保育園
53. 守谷どろんこ保育園
54. メリー★ポピンズ 登戸ルーム
55. メリー★ポピンズ 川崎西口ルーム
56. 八山田どろんこ保育園
57. 三筑どろんこ保育園
58. メリー★ポピンズ 南砂ルーム
59. メリー★ポピンズ 松山ルーム
60. 篠栗どろんこ保育園
61. 内箕輪どろんこ保育園
62. メリー★ポピンズ 海老名ルーム
63. 香取台どろんこ保育園
64. 見附どろんこ保育園
65. 西崎どろんこ保育園
66. 袖ケ浦どろんこ保育園
67. 東大和どろんこ保育園
68. 百目木どろんこ保育園

69. メリー★ポピンズ 大山ルーム
70. 上目黒どろんこ保育園
71. メリー★ポピンズ つくば駅前ルーム
72. 小平どろんこ保育園
73. 発達支援つむぎ 荻窪ルーム
74. 発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム
75. 発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム
76. 発達支援つむぎ 駒沢ルーム
77. 発達支援つむぎ 目白ルーム
78. 発達支援つむぎ 横浜西口ルーム
79. 発達支援つむぎ ふじみ野ルーム
80. 発達支援つむぎ 池尻ルーム
81. 発達支援つむぎ 横浜東口ルーム
82. 発達支援つむぎ 府中ルーム
83. 発達支援つむぎ 桶川ルーム
84. 発達支援つむぎ 北千住ルーム
85. 発達支援つむぎ 調布ルーム
86. 発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム
87. 発達支援つむぎ 宮下ルーム
88. 子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園
89. 発達支援つむぎ 八山田ルーム
90. 発達支援つむぎ 新羽ルーム
91. 発達支援つむぎ 生田ルーム
92. 発達支援つむぎ 武蔵野ルーム
93. 発達支援つむぎ 内箕輪ルーム
94. 発達支援つむぎ 海老名ルーム
95. 発達支援つむぎ 香取台ルーム
96. 発達支援つむぎ 北朝霞ルーム
97. 発達支援つむぎ 田無ルーム
98. 子ども発達支援センターつむぎ 東大和
99. 発達支援つむぎ 見附ルーム
100. 発達支援つむぎ 袖ケ浦ルーム
101. 発達支援つむぎ 前原ルーム
102. 発達支援つむぎ 篠栗ルーム
103. 発達支援つむぎ 百目木ルーム
104. 発達支援つむぎ 大山ルーム

105.発達支援つむぎ 上目黒ルーム
106.発達支援つむぎ つくば駅前ルーム

２０２５年度　朝霞どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

（１）子育て理念　　「にんげん力。育てます。」

（２）子育て目標　　①センス・オブ・ワンダー

自然の中での原体験や畑仕事・ヤギや鶏の世話などの労働を通して、ものの性質や身近な事象・生命の神秘や尊さ・食材や食の循環に気づく。多様な体験から感じた事を自由に表現することができ、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援する。

②人対人コミュニケーション

銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育など地域交流、世代間交流を実施し、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意する。また自分が周囲の人的環境に支えられ見守られている事を知り、自己と他者を信頼し、他者に貢献する気持ちを育てる。

（３）実現したい保育・子育てのあり方

①法人の子育て理念・目標に基づいて、子どもにとって真に必要な機会と環境を用意し「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」等を通して、毎日の活動を丁寧に行い、生活力を体得する。自分で考え、選択し、行動することのできる心身ともに豊かでたくましく生きる力のある子どもを育成する。

②乳幼児期の保育が、子どもの生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期であることをスタッフ一人ひとりが深く理解する。健常児も障害児も混ざり合いながら養護及び教育が一体となった受容的で応答的な保育を実践する。

③子どもの主体性と大人の主体性が共存し、１人ひとりの思いや考えが大切にされ、子どもも大人も共に学び成長し合う関係となる。

④人対人のコミュニケーションを通し、葛藤や思いが伝わる喜びを経験しながら、自分や他者に対して思いやる心を育てる。

⑤自園の環境を活かし、保護者・スタッフと協働で地域・行政と連携を取り、地域が一体となった子育て環境の実現に取り組む。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	いつ来ても安心感があり居心地が良い施設環境をつくる。
	実践予定内容	スタッフ全員が、子ども、保護者、施設利用者に対して丁寧かつ受容的にかかわり、風通し良く安心感と清潔感を土台とした笑顔が溢れ活気ある環境をつくる。また常に気持ちが良い挨拶と整理整頓された状態が保たれ、いつ来ても安心感があり居心地がよい環境が作られている。
2	計画・ねらい	園内研修を通し、互いが学び合う集団となる。
	実践予定内容	スタッフが個別に自身の目標を設定する。スタッフ一人ひとりが法人理念と学ぶ目的を理解し、リーダー、中堅スタッフがファシリテーターとなり園内研修を実施する。また法人が運営している研修動画等のコンテンツを積極的に園会議に取り入れ、ディスカッションや研修を実施する。
3	計画・ねらい	怪我・ご意見のケーススタディ研修 自園の環境の中で発生しやすい怪我の分析と改善案の策定。保護者、地域からいただく貴重なご意見の根幹や背景の理解。
	実践予定内容	自園他園、他法人で実際に起きた怪我やご意見に対し、その状況を詳しく記録した資料を、事例として園内研修に活用し、リスク管理と保育の質を向上させていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園での日常から、子どもたちのありのままの姿や成長をわかりやすく伝え続けることで、保護者の安心と信頼関係をつくる。
	実践予定内容	・常に気持ちの良いあいさつを心がける。 ・連絡帳、タイムライン、SNSを活用する。（成長し生き生きとした子どもたちの姿を感じ取ることができるか、見やすい構成になっているか等） ・お迎え時は伝達だけではなく、保護者の言葉を傾聴し、困りごとやニーズを聞き取る。 ・ご意見、質問等があった場合に統一的な対応を取ることができるようスタッフ間の情報共有を徹底する。 ・個別対応のために担当を置く場合は、誰が担当であるかを明確化したうえで共有し、お問合せに迅速かつ適切に対応できるよう備える。
2	計画・ねらい	目で見て安心できる保育環境を整備する。
	実践予定内容	・保護者目線となって園側、玄関、保育室を清掃し、整理整頓を実施する。 ・掃除分担表を活用し、スタッフ全員の役割を明確にし、日々の清掃確認をして怠りなく行う。 ・利用時間中に清掃が難しい個所は、日時を設定し、定期的かつ計画的に清掃を実施する。
3	計画・ねらい	個別面談の利用促進
	実践予定内容	・個別面談を必要とする保護者には、「いつでも、何度でも」実施し、子育てのパートナーとしての信頼関係を醸成する。 ・随時面談実施の旨は保護者に周知し、「面談したい」と感じたときに即時対応可能という認識が根付くよう働きかける。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	潜在的ニーズへの働きかけ
	実践予定内容	保育園見学や出前保育、自治体を活用し広告配布等の広報活動を展開することで、地域子育て支援拠点事業を利用したことがない家庭に対し、働きかける。
2	計画・ねらい	地域子育て世帯への育児相談
	実践予定内容	発達、保健衛生、離乳食等に関する悩みを保護者で共有できる場、保育士や子育て経験者の立場から気軽に相談できる機会を提供する。
3	計画・ねらい	自園の環境を活かした支援活動
	実践予定内容	どろんこ遊び、野菜の収穫、焚火、鶏やヤギとのふれ合いなど、朝霞どろんこ保育園ならではの環境を活かした体験活動を実施し、子育ての楽しさや地域とのつながりを感じてもらう。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフの人間力育成
	実践予定内容	計画通りにいかない事象や困難な局面を受け入れ、失敗を積極的に報告し合い、小さな改善を繰り返し、学びにつなげる園の文化を作る。結果や成否にこだわりすぎず、変化を楽しみ挑戦し続けるスタッフ全員の人間力を磨いていく。
2	計画・ねらい	チーム保育
	実践予定内容	異年齢保育を行う中で、クラスの垣根がなく全スタッフがすべての児童を把握し、一つのチームとして保育を行う。責任の所在、役割を明確にして心理的安全性の高い環境のもと保育を行う。
3	計画・ねらい	就学後の子どもたちの未来を想像しながら保育計画を立案する
	実践予定内容	就学後に大きくかかわる乳幼児期の重要性にスタッフ全員が責任を持って保育に取り組む。１０年後２０年後の子どもたちが過ごす未来を想像し、「子どもたちが将来を生きるために必要な力は何か」を話し合い、子どもたちの未来から逆算して保育計画を立案する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る機会を生活の中に取り入れる
	実践予定内容	畑仕事、野菜の下処理を日々の日課として実施。梅ジュース作り、味噌作り、たくあん作り等の食材加工。魚の解体、鶏を捌いて食す体験。飼育している鶏の卵を使った自園調理。ヤギ糞、鶏糞を利用した肥料作りにより、畑で使用する堆肥の自給自足化をめざす。
2	計画・ねらい	給食残渣、調理過程で発生した生ごみの削減と活用
	実践予定内容	給食残渣を定期的に測定し記録検証を行う。調理過程で発生した生ごみや残渣をコンポストで堆肥にする。玉ねぎの皮で染物作りを実施。
3	計画・ねらい	樹木や木材に親しむ体験
	実践予定内容	木登りや大小の木々による天然の木陰の中で園庭遊びを実施。柿、梅、花梨、夏みかん、ザクロ等を園庭の樹木から収穫して食す。木の温もりや感

		触を楽しめる玩具を取り入れ木育を実施。牧や採取した枝を使用した焚き火体験。

〈6〉遊び環境の探求

1	計画・ねらい	遊びの大切さを理解する
	実践予定内容	子どもが夢中になって遊び込む経験は、困難に立ち向かう力や困難から回復する力が高まる事を共通認識とし、園内研修で遊び環境について学ぶ。また遊びで育つ力や学びに繋がる様子を保護者、園内外に積極的に発信していく。
2	計画・ねらい	主体的、対話的で深い学びに繋がる遊び環境の探求
	実践予定内容	子どもたちが個別面と集団面で遊び込むことができるよう、素材や遊びゾーン等の環境を整える。スタッフは子どもたちをよく観察し遊びを最後まで見届け、振り返りの時間をつくる事で遊びの継続と深まりを促し学びに繋げる。
3	計画・ねらい	自然環境を活かした遊び
	実践予定内容	毎日の戸外活動を通して武蔵野台地と荒川低地が入り混じった地形からなる朝霞台の陸生水生生物に親しむ。 夏季は黒目川の水遊びを通して、身近にある豊かな自然に興味を持ち、自然の不思議や壮大さ、脅威を知る。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	15人	15人	24人	24人	24人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人	嘱託職員	0人

パート スタッフ	保育士	2人	子育て支援員	2人	用務	I人	事務	0人

3.運営方針

〈I〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月I回I20分	園内研修（グループワーク・勉強会）、各月のねらいについて共有・各担当者からの報告、共有。
給食運営会議	月I回	食育活動の実施内容・喫食状況の確認、実践報告
事故防止委員会	月I回	自園及び系列園で発生した事故の検証。ヒヤリハット・インシデントの分析と改善計画の策定。
ケース会議	月I回	要支援児個別計画の振り返り及び省察と見直し。
乳児幼児連絡会	毎日	ケガ及び子どもの様子情報共有。
リーダー会議	月I回	保育内容の振り返り。園内連携について、園全体の課題共有と検証。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月I回	諸連絡及び運営方針の共有・系列園運営状況報告。
施設長勉強会	月I回	業務改善、マネジメント・コンプライアンス。 課題改善計画立案及び取組成果発表。
食育会議	年4回	献立内容の改善、提案。 給食提供マニュアル及び運用ルールの作成・見直し。 食育計画の策定。
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成・見直し。 保健計画の策定。
主任会議	月I回	業務改善・マネジメント等の資質向上。 グループワーク・ディスカッション。
子育ての質を上げる会議	月I回	業務改善、マネジメント・コンプライアンス。 課題改善計画立案及び取組成果発表。

各種係の設置

係名	職務内容・役割
保健・衛生管理係	園内の汚染区域、園周辺の衛生管理や備品等の管理。感染症予防。 身体測定・定期健康診断の実施と保護。職員への衛生教育。
安全対策係	安全な人的物的環境の整備、点検。事故防止委員会実施。消防署、警察署との連携。不審者情報の掲示。ハザードマップの更新。
防火管理者	避難訓練計画の立案。設備の防火管理。消防設備点検の実施。
食品衛生責任者	食品の品質衛生管理。食育会議の立案。職員への食品衛生教育。
畑係	年間農業計画と実施の責任者。
生き物係	ヤギ・ニワトリ等、生き物の飼育全般に関する管理。

〈3〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働し、準備進行を実施する。
彩夏祭係	保護者と協働し、準備・進行を行う.

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・欲求が満たされ情緒が安定できる環境づくりを行う。安心感を持ち好きな遊びを十分にできるように応答的な人的環境と物的環境を整える。 ・基本的生活習慣を身につけることができるように、生活のリズムを整え、主体的な行動を見守る。
	下半期 0～1歳児	・遊びを通じて、満足感や自己肯定感が得られる環境を整える。 ・周囲への興味関心を受け止め、自発的に「やりたい」という気持ちや自ら気持ちを立て直す気持ちを見守りながら丁寧に関わる。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢保育を主体とし自分の好きなことを好きな仲間と好きな場所で安心して思う存分遊び込める環境を整える。 ・基本的生活習慣の確立に向け、個々の発達状況に応じて丁寧に関わる。

	下半期 2～5歳児	・習熟度別やグループ活動により、自分で取り組みたい活動を選択する。多くの異年齢の友だちと関わりながら、じっくり遊び込む。相手の気持ちを理解し、折り合えるようにする。 ・異年齢での活動を通じて自分の成長を感じながら、友だちとの協力や役割分担を行い、進級することに喜びを感じられるような環境を整える。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食の循環を理解し、実感することで生命の尊さを五感で理解する。
	実践予定内容	・魚や鶏の解体と焚火調理を体験し、食のサイクルの全行程を知り、命の尊さ、自分の体が他の生き物の命で成り立っている事を理解する。 ・採卵等、鶏の世話を通し、生命のサイクルを体験する。
2	計画・ねらい	人や食材との関わりから、食べる意欲を育てる。
	実践予定内容	・畑仕事による作物の栽培や収穫を通じて、食に対する興味関心や積極性を育てる。 ・一緒に食べる人と楽しく会話を交わし、より多くの共感体験を得ることで食の豊かさを享受し、人と食卓を囲むことの喜びを知る。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）

園児への保健指導・取組等	・毎月20日に身体測定を実施し発育や栄養状況の把握を行う。 ・手洗い、うがい指導、トイレの使い方指導 ・歯磨き指導、衣服の調整について等の健康に関する指導 ・性教育①「体の不思議と大切さ」 ・性教育②「大きくなった喜び～命の誕生～」
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃…手足口病・咽頭結膜炎・ヘルパンギーナ・とびひ 11～3月頃…インフルエンザ・ウィルス性胃腸炎・RSウイルス・溶連菌感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	現在該当する薬の預かり無し。
エピペン使用できるスタッフ	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月31日までに受講予定
その他保健に関する取組	・感染症予防のため、保育室内外の衛生管理に努める。 ・日々の子どもの健康状態や近隣園、地域での感染症流行状況を把握し、感染症拡大防止のための情報発信を行う。 ・保護者に対して保健に関する知識や情報を提供し子どもの保健行動への協力を求める。 ・感染症対策として予防接種状況を把握し保護者に対し年齢に応じた計画的予防接種を勧める。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい 指導 ・手洗い指導を行う。また室温・湿度を基準値に保ち、消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	遊び込める環境の整備
	実践予定内容	・子どもたちが自発的に活動し、時間を忘れて遊び込める環境を整える。そのために大人が介入し過ぎず穏やかにかかわり、子どもの集中が途切れないように配慮する。また大人の声の大きさに配慮し、子どもの視界に入る際は落ち着いて行動する。 ・子どもの発達に合わせ、遊び環境の難易度が難しすぎず簡単すぎず、挑戦したい意欲を引き出せる環境を設定する。 ・取り組んでいる遊びが、自分自身が主人公であるという感覚を持て、連続性があり豊かに発展していく可能性を感じられるように設定する。 ・園会議で室内環境の振り返りを行い、今の子どもの姿や保育のねらいを反映した環境設定を行う。
2	計画・ねらい	主体性と協働性を育む園庭環境の整備・改良
	実践予定内容	・安全に遊び込み、仲間との協力やtrial&errorの体験が豊かになるためのゾーンの構築。 ・木材を中心とした素材を厳選配置し、「何を使って、どのように遊ぶか」を子ども自身が創造する。 ・火、水、土を最大限活用するための園庭整備、修繕の実行。 ・火の特質、有用性、危険性を知り、子ども自身が活用方法を考えられ

		るように、焚火等の機会を増やす。また、消防署への届出や手順、ルールを徹底することで、安全を確保する。
3	計画・ねらい	異年齢交流の推進
	実践予定内容	・空間、クラス担当による障壁を排除し、異年齢交流が推進する方策を職員間で議論する。 ・異年齢との関係性を子ども自身が考え、積極的に交流できるようアイディアを具現化する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ベンチ	園庭	毎日
2	焚火台	園庭	毎日
3	登り壁	ホール	毎日
4	平均台	ホール	毎日
5	スロープセット	ホール	毎日
6	移動式用具入れ	ホール	毎日
7	八角型ベンチ	3.4.5歳児室	毎日
8	製作用収納棚	3.4.5歳児室	毎日
9	テーブル	3.4.5歳児室	毎日
10	ブロック遊び用収納箱	3.4.5歳児室	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルの災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・水害訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備 ・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報の運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアルのケガ防止策・安全点検と保全、事故防止チェック及び 設備点検チェックの実施、手作り備品チェック、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチ ャートに従う。
3	実践予定内容	不審者対策…危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャー トに従う。

4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り光化学スモッグの知識を 身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政 連絡に従って対応する。
5	実践予定内容	普通救命講習会への参加…消防署に協力を依頼し開催。
6	実践予定内容	洪水…集中豪雨等により、園内浸水の可能性を想定し、朝霞市役所と連動した要支援者施設における、洪水時対策計画書を作成。平成３０年１月市役所へ提出済。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

次世代を担う人材育成の観点から、養成施設からの依頼があれば積極的に受け入れる。実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて 具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。また、実習やボランティア活動の実施に際し、法人理念や地域における役割などを説明することで、園の地域施設としての役割について周知・理解の深耕に努める。

1	実践予定内容	実習生…保育所保育指針と学習指導要領をベースとし、保育品質マニュアルに基づいた保育方法の実践指導を行う。
2	実践予定内容	職場体験…子どもと遊ぶ楽しさを通して養護と教育の実体験を提供する。
3	実践予定内容	学生ボランティア…現場体験を通じて、福祉の意義や保育園の地域における役割について理解を深める。

７.スタッフ育成と研修計画

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 養護と人権について ③ 人権チェック・虐待防止研修	園長大学・保育士大学「不適切保育ーなぜ起きるのか？どう防ぐか？」を視聴し人権と養護について話し合う。
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理	園長大学・保育士大学「子どものケガには意味がある ～ポジティブに考える再発防止策～」「午睡中の生存確認」を視聴し自園のハザードとリスクについて話し合う。

6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント	園長大学・保育士大学「楽しく安全な「水遊び」のために　～水辺のリスクマネジメント～」を視聴し夏季の水遊び開始前に事故防止対策を立てる。
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食育と丁寧な給食提供	園長大学・保育士大学「食べることは生きること～子ども主体の「食」を考える～」を参考にし、自園の食育の在り方について、話し合い具体的なアクションプランを立てる。
8月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 遊び込める環境設定	園長大学・保育士大学「初代プレーワーカーに学ぶ 「遊び」解体新書②こどもにとって豊かな遊び環境とは」を視聴し室内環境の見直しを行う。
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育	園長大学・保育士大学「ハイリョ？ハイジョ？「気になる子」への視点整理」を視聴しインクルーシブ保育について理解を深める。」を視聴しインクルーシブ保育の理解を深め、現状の課題に活かす。
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 表現活動 ③ 人権チェック・虐待防止研修	園長大学・保育士大学「触覚科学×保育を探究！「触って感じる・表現する」体験活動の進め方」を 参考にしながら自園の環境を活かした表見活動について話し合う。
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 主体的な学びついて	園長大学・保育士大学「元小学校長が語る 保育園と小学校の共通問題から考える乳幼児期に大切に育みたい力とは？」を視聴し主体的な学びについて話し合う。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校接続と学びの連続性について	園長大学・保育士大学「円滑な小学校接続は保育者次第！ 創造的な思考と主体的な生活態度を育む保育とは」を視聴し小学校接続に向け学びの連続性についての理解を深める。
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間目標の振り返り	次年度に向け、今年度の保育や運営について振り返りを行う
2月20日	18:00～21:00	① コンピテンシー自己採点	2025年度の振り返りを基に次年度に

		② 第1回策定会議	向け、園運営の基盤を固める。
3月1日	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第2回策定会議	園目標や全体の計画をもとに、次年度の年間行事計画を合意形成のもと立案する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個別に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域と積極的に関わり、地域に開かれた保育園を目指す。
子どもたちが地域の中で、幅広い世代のより多くの人々と関わり合うことで、子どもたちが地域の一員である意識や愛着を持ち、ひいては持続可能な地域づくりにつながる。

具体的な活動としては、施設訪問や公開講座を開くなど、地域の子育て世帯、高齢者、小学校、近隣の保育園との交流を行う。

活動を通して、子どもたちが地域に愛着を持ち、地域の方が子どもたちを地域にとってかけがえのない存在であると認識してもらえるよう、職員も地域の方々と積極的に交流し、温かい支援に対する感謝の気持ちをしっかり伝えることを心がける。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：わくわくドームすこやか花壇　　年間集客目標：50名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援センター来所児童親子との交流を計画。 小中高生の職場体験や幅広い年齢層のボランティアの受け入れを行う。
異年齢交流	系列園からの遠足の場所として、遊びの交流を深めたり中学生から大学生までの体験保育の受け入れを行う。
地域拠点活動	どろんこ祭り・彩夏祭
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園と小学校の双方が可能な範囲で行事活動等に参加し交流を深め、子どもの就学への意欲や肯定的な見通しがもてるよう協力関係を築いていく。
学習指導要領と保育所保育指針、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの相互理解を前提として、子どもの成長の連続性が保障されるような密接な連携関係を維持確保する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月1日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
9月頃	朝霞第三小学校	10名予定	運動会参加(小学校校庭)	子ども間交流
10月頃	朝霞第三小学校 1年	16名予定	公開授業参観	子ども間交流

11月頃	朝霞第三小学校 2年	50名予定	保育園見学（朝霞どろんこ保育園）	子ども間交流
11月頃	朝霞市の就学前施設	1～2名予定	幼保小意見交換会	職員間交流
12月頃	朝霞第三小学校	16名予定	学校見学（朝霞第三小）	子ども間交流
1月頃	朝霞市役所	2名予定	幼保小連絡会	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況や発達特性を理解し、ケース会議で共有しながら個別計画の立案、見直しを進める。個々の強みや得意分野が発揮され、社会生活の中で自己効力感を持ち自分と他者を肯定できるよう支援を行う。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：10～20名予定）

発達に特性があり配慮が必要と考えられる子どもを中心に、現在の発達状況や望ましい手立てを話し合い職員全体で共有する 。

課題解決のために保護者を含めた議論を要する場合には、面談などを適宜実施し、課題と方向性を共有するとともに、子どもの最善の利益を目標とした連携を図る。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

クラス担当と新年度前に引継ぎを実施する。

小学校への引継ぎは幼保小連絡会のみならず、小学校の担当者と連携を取り、接続が円滑に進められるよう引き継ぎを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　年間集客目標：8000名 園庭及び園舎、畑の一部を開放し自由に使っていただく。
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　年間集客目標：70名

自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　年間集客目標：150名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　年間集客目標：120名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：わくわくドームすこやか花壇にて開催にて開催　年間集客目標：80名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年６月３週目に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１２時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、乳幼児リーダー、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもと大人の主体性を大切にする。
	振り返り	朝の会・帰りの会にて身近な事柄や問題をテーマにしながら子どもたちで話し合う時間を作った。その際、話し合い全てを子ども任せにせず、スタッフの思いや考えを子どもたちに伝え、指示ではなく提案や問いかけを意識しながら1人ひとりの考えを大切に扱った。 配慮が必要な児童に対し、関わり方や環境設定を話し合い、丁寧な援助を行った。今後は同法人施設である「発達支援つむぎルーム」と連携し、個別最適な援助を行っていく。 「どろんこ祭り」では、前年度に保護者からいただいた提案を参考に子

		ども・保護者・スタッフの思いを行事に反映し、地域に開かれた自園ならではの行事を開催する事ができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	日課・日常保育を丁寧に行い、健常児・障害児が生きる力を獲得するための環境を作っていく。
	重点施策	原点に立ち返り、保育の基礎となる日課や日々の保育を丁寧に行う。 また保育基盤を確固たるものとし、自園の環境を最大限に活かしながら健常児・障害児が主体的に生活力・選択力・思考力を育むことが出来る環境構成に取り組んでいく。
2026年度	目指す姿	日課・日常保育と環境資源を最大限に活用した原体験の融合
	重点施策	丁寧に実施された日課・日常保育のもと環境資源と人的資源を活かした朝霞どろんこ保育園ならではの保育活動を実践する。また法人全体に日々の実践成果を波及させることで旗艦園としての役割を果たしていく。
2027年度	目指す姿	朝霞どろんこ保育園ならではの保育実践や環境への働きかけにより、地域貢献が浸透し、地域から選ばれる園となる。
	重点施策	人的・物的環境を最大限に活用し、園に関わる一人ひとりが主体となり、お互いの個性や特性、大切にしている価値観を受容しながら、寛容で豊かな保育を展開する。また環境に配慮した朝霞どろんこ保育園ならではの保育を展開し、地域に選ばれる園となる。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：朝霞どろんこ保育園 施設長　石井　崇洋

２０２５年度　日高どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

■子育て理念…「にんげん力。育てます」

■子育て目標…「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

■心を育てる
・自分の気持ちを奮い立たせ、自ら挑戦できる子どもを育てる。
・相手の気持ちを理解し、共感できる子どもを育てる。
・人の心を動かし、感動を生む経験ができる子どもを育てる。
・保育者が子どもと真剣に向き合い、心を通わせることで、心の豊かな子を育て。

■子どもの主体性を尊重する環境づくり
・子ども自身が考え、活動を選択し、行動できる環境を整える。
・安心・安全に配慮しながらも、子どもの挑戦する気持ちを信じて見守る。

■ 幅広い異年齢保育の実践
・『日高どろんこ学童保育室』を活かし、0歳から12歳までの異年齢保育を展開する。
・保育園という枠を超え、施設全体で「生活」「遊び」「労働」を教え合う場をつくる。
・家庭的な温かさの中で、年齢を超えた関わりを通じて育ち合う「大きな家」を目指す。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「ほんものの体験」 子ども自ら選び、考え、行動できる力を育み、実際の体験を通して成長を促す
	実践予定内容	・「10よりも100」の経験を大切にし、多様な体験の機会を提供する。 ・自然、文化、社会の中での原体験を重視する。
2	計画・ねらい	「日課の理解と実践」 日課の意味を理解し、保育者自身も実践することで、よりよい習慣形成を支援する。
	実践予定内容	日課の種類とねらいについて全てのスタッフが把握し、子どもと一緒になって実践する。
3	計画・ねらい	「学び合う集団」 子どもの最善の利益を第一に考え、よりよい保育を目指し、保育者同士が知識や技術を共有し、チームとして成長する。
	実践予定内容	・定期的に情報共有の場を設け、知識やスキルを高め合う。 ・他の職員の良い実践を学び、積極的に取り入れる文化をつくる。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	「保護者の立場に立った丁寧な対応」 保護者の気持ちに寄り添い、家庭と園の連携を深化させ、保護者が安心し、信頼できる環境をつくる。
	実践予定内容	家庭での様子、園での一日の様子伝達を丁寧に行う。 お迎え対応では、その子の姿をお伝えし、保護者の心に寄り添い、保護者も安心できる関係づくりを継続して行う。
2	計画・ねらい	「おもてなしのこころ」 園全体であたたかい雰囲気を大切にし、思いやりと誠実さをもって保護者と関わる。
	実践予定内容	「おもいやり・誠実さ・謙虚さ・感謝」を大切にし、保護者との接し方を見直し、保護者が安心して園に通えるよう、温かく迎え入れる姿勢を持つ。
3	計画・ねらい	「共育て」 園と家庭が一体となり、保護者と協力しながら子どもの成長を支える
	実践予定内容	・短時間でも保護者との関わりを大切にし、信頼関係を築くことで、より良い子育て環境を構築する。 ・保護者参加行事を企画し、共に園づくりを行う機会を用意する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て相談や支援
	実践予定内容	支援センターを利用した保護者にもあいさつから始まり、世間話をすることで相談をしやすい環境を整えていく。相談室を利用し、相談しづらい内容でも話さる場を用意する。
2	計画・ねらい	利用者同士が交流
	実践予定内容	園庭開放や自然学校等、イベントに参加された利用者同士がつながれるような雰囲気づくりをする。
3	計画・ねらい	地域への発信
	実践予定内容	保育活動を地域に方にも知ってもらえるようSNSなどを用いて情報を発信する。認知度を高めていき、敷居が低く気軽の立ち入れるような拠点を目指していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「子どもに必要な経験を用意し、質の高い活動を提供し続けるチームであり続ける」
	実践予定内容	子どもにとって必要な経験や機会を用意できるよう、各スタッフが得意なこと・好きなこと等を用いた活動を実施する。
2	計画・ねらい	「妥協のないコミュニケーション」 お互いの意見を尊重しながら、よりよい保育をつい言休する集団を目指

		す。
	実践予定内容	スタッフ同士が日々の保育について話し合い、意見交換を行う。 ・互いに学び合い、高め合う文化を醸成する。 ・ミーティングの時間を確保し、日々の気づきや改善点を共有する。
3	計画・ねらい	「子どもの成長に合わせた遊び込める環境構成する」
	実践予定内容	子どもの発達を捉え玩具を選別していく。玩具の購入や手作り玩具を作成し子どもの興味・関心を広げる選択制のある環境構成をする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環教育
	実践予定内容	畑を耕す、種を植える、生長を見守り世話をする、収穫する、加工する、食べるまでを子ども自身が経験することで食の循環を知る。
2	計画・ねらい	たい肥作り
	実践予定内容	調理で出た残菜ややぎの糞のたい肥化を行う為、コンポストを活用し、必要な準備を子どもと行い、食の循環教育へ繋げる

〈6〉子どもの「やりたい」を大切にする

1	計画・ねらい	子ども主導の保育
	実践予定内容	大人の価値観に囚われず、子どもたちが自分の意思で「やってみたい」を一つひとつ受け止め、自由に考え行動できるよう見守っていく。また、子どもの興味マップなどを作成しながら「やってみたい」から保育が始まるよう取り組んでいく。大人の用意した活動でなく、子ども自ら生み出した活動を広げていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	9人	12人	21人	21人	21人	90人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	2人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	用務	1人	事務	1人		

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	提案と意見交換　園内研修　会議報告　研修報告
給食運営会議	月1回	離乳食進行　食育計画　献立の見直し　喫食状況
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデントの振り返り・対策立案
ケース会議	月1回	個別の振り返り　個別指導計画確認・対応

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人共通の理解確認と問題提起・課題の検討・研修
施設長勉強会	月1回	施設長の質向上および自園スタッフへの共有
食育会議	年4回	食に関することについての改善・提案・報告・共有
保健会議	年4回	衛生面・感染症等子どもの心身にかかわることの共有
主任会議	年4回	保育者の質向上および自園スタッフへの共有
子育ての質を上げる会議	月1回	法人共通の理解確認と問題提起・課題の検討・研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	・子どもの健康維持・温度・湿度・換気確認 ・感染症発症の予防策を実施

	・園内の清潔区域（調乳室/調理室）と汚染区域（トイレ・オムツ交換場所　シャワー室・沐浴室・トイレ後の着替え場所・感染症流行時居室）の安全と衛生管理・職員の検便
安全対策係	・避難訓練（毎月）、不審者侵入訓練（年２回）の実施報告書確認 ・設備安全点検 ・事故防止自主点検 ・園内外、公園のハザードマップの更新・更新（随時）
防火管理者	・消防計画作成と届出 ・安全対策係の任命 ・自衛消防組織作成 ・自主点検チェック票（日常） ・防災用備蓄品の確認（6月・12月）
食品衛生責任者	・衛生管理、点検作業の実施 ・食育会議の計画、実践 ・「作業手順書」と「作業結果の記録」の作成
畑係	・年間農業計画のもと、子どもと共に取り組む、毎月の種や苗の購入 ・食育計画との連動と進捗把握 ・各クラスへの畑仕事のマネジメント、予算計上
生き物係	・健康チェック ・エサ、岩塩、ＥＭ菌等の発注 ・年間休日の当番表作成と実施管理 ・ヤギ小屋の整備、補修管理

〈４〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	企画運営　日程調整　会場設置　近隣広告配布
運動会	企画運営　大道具　会場設置　放送　保護者配布物作成
生活発表会	企画運営　大道具　会場設置　放送　保護者配布物作成

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の発達過程を把握し、生理的欲求やあまえなどの依存的欲求を満たしながら、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・保育者との信頼関係の中で安心感を覚え、遊びを十分楽しむこと が出来る環境のもと、様々な経験をする。
	下半期 0～1歳児	・聞く、見る、触るなどの経験を通して感覚器官や手指の機能の働きを促す。 ・裸足での戸外遊びや室内遊びを十分に楽しみ、好きな玩具や自然物に積極的に関りを持つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・身近な動物を良く見たり、触れたり世話をすることで、親しみや愛情を持つと同時に命の大切さを知る。 ・家庭と異なる場での生活の流れが分かり、自ら考えて行動でき、思いを言葉で伝えることができる
	下半期 2～5歳児	・年下の友だちに親しみや思いやりの気持ちを持ち、年上の友だちに憧れの気持ちを持つ。 ・異年齢で過ごす中で色々な遊びに興味を持ち、基本的な生活習慣やルールなどを覚えていく。 ・保育者に見守られながら、自分の意見を主張し、相手の意見を受け入れる経験を積む。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針
	実践予定内容	「調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」「子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる」を実践する。

2	計画・ねらい	育てる、収穫する、調理、加工する体験を通して、食や食材に興味を持ち、食の循環を知る
	実践予定内容	自分で育て、収穫し、調理、加工することが一連の体験となるよう年間で畑・食育計画を行う。又、全スタッフが子どもと共に体験し実体験を通し、子どもに伝えていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい・歯磨き指導 命の大切さ～幼児期からの性教育～
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12～2月頃･･･感染性胃腸炎・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在全職員が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月中に受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在17名が、研修受講し、修得済み

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･１１月 歯科健診　年1回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが混ざり合う環境
	実践予定内容	全ての人との関わりから判断・行動を身につける。異年齢保育・インクルーシブ生活を通して、年齢や発達の違う子が交じり合うことでお互いが刺激し合う環境を用意する。大人の考えで選択肢を狭めない。
2	計画・ねらい	自己決定のできる人的環境
	実践予定内容	活動を選択し、自分で考えて行動する。子ども自身にまかせる人的環境を用意することで「自己決定」を繰り返し、責任感を持てるようにする。子どもの主体性を尊重することで自己肯定感を伸ばしていく。
3	計画・ねらい	「やりたい」と思いついたときに実現できる環境
	実践予定内容	子どもの表情や言動から「子どもたちの今」を捉え、必要な場やものを用意し実現できるよう環境構成する。試行錯誤することで、深い学びへとつなげるようにしていく。

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策の設置・緊急地震速報の運用・災害発生時は対応フローチャートに従う。
2	怪我・事故防止	怪我事故防止策・安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び設備点検チェックを実施し、安全教育・SIDS防止対策を行う。怪我発生時は対応フローチャートに従う。
3	不審者対策	6月と11月に防犯チエックリストに従い確認を行う。併せて不審者侵入訓練を実施する。不審者侵入時はフローチャートに従う。
4	化学スモッグ	光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時は対応フローチャートに従う。

6.実習生・中高生の受入

・依頼を受けた中高生の体験学習や保育養成校の実習や各種ボランティアは積極的に受け入れる。
・オリエンテーションで接し方やルールを説明し、安心して体験できるように配慮する。
・将来の人材育成の意味もあり、目標を持って体験学習に参加してもらえるようにすすめる。また、職員においては、研修指導を通して教えることの責任感を育み、自分自身の保育を見直す機会にしていく。

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、実習生・研修生を積極的に受け入れていく。保育現場を直接体験することで質の高い学びにつなげ、より実践的な技術を取得できるよう丁寧に指導していく。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受入
2	実践予定内容	保育養成校の学生の実習受け入れ
3	実践予定内容	一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 法人の理念 ③ 虐待防止研修	マニュアルの確認 子育ての質を上げる会議共有 虐待防止研修

5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル再確認	マニュアルの確認 子育ての質を上げる会議共有
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プール事故防止訓練	プール事故防止訓練 子育ての質を上げる会議共有
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保育	預けている保護者の気持ちになって自身の保育を見つめ直す 子育ての質を上げる会議共有
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動会に向けて	一人ひとりが活躍できる運動会とは 子育ての質を上げる会議共有
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 養護の行き届いた保育	子ども一人ひとりがそれぞれ「生命の保持」「情緒の安定」を保障された保育を学ぶ 子育ての質を上げる会議共有
10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修	子育ての質を上げる会議共有 虐待防止研修
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿	幼児期に育ってほしい１０の姿 子育ての質を上げる会議共有
12月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活発表会に向けて	一人ひとりが活躍できる発表会とは 子育ての質を上げる会議共有
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度のMISSIONについて	・年間の振り返り ・次年度に向けて 子育ての質を上げる会議共有
2月	18:00～21:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	策定会議
3月1日	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	策定会議

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

施設長勉強会	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

子どもが自ら環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことが出来るよう配慮する。積極的に園外に出かけ、近隣住民や異世代を含む様々な人との関わりの場をつくっていく。また、子どもを社会全体で育てるための子育て支援の施設としての役割を担っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　集客目標：500名
青空保育（保育園主催）	月I回　　近隣公園にて　　集客目標：5名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	高齢者福祉施設との交流
異年齢交流	小中高生の職場体験・ボランティア・幼保小交流活動 （小学校体験）を通して、小学生・近隣保育園との交流を図る。 本園学童との交流
地域拠点活動	毎月の地域清掃（青空保育実施時にみんなでゴミ拾い） 実習生の受け入れ（大学、専門学校との情報交換、交流） ちきんえっぐ・縁側かふぇ

銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

年度の始めから就学までに育ってほしい姿をイメージしたうえで全体的な計画・年間指導計画を立て、日々の保育を行っていく。「５歳児と小学校１年生との年間連携計画および報告書」を作成するとともに個別記録や月・週の短期的な計画をアプローチカリキュラムへとつなげ、保育と小学校の接続を潤滑にする。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	日高市立高萩北小学校	職員2名予定	情報交換・交流打合せ	職員間交流
４月頃	日高市立高萩北小学校	21名予定	小学校周辺散歩	小学校見学
1月頃	日高市立高萩北小学校	21名予定	伝承遊び	子ども間交流
2月頃	日高市立高萩北小学校	職員2名予定	情報交換	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

保育の方法や内容について、個別支援計画を作成し日常的に保護者と話して理解を得る事や子どもの発達状況・課題発達について情報を共有し、認識の相違を無くすよう努める。
必要に応じて医療機関や専門機関による医療方針・方法を共有する

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　）

半期ごとに立てている個別支援計画を基に子ども一人ひとりに合わせた目標を用意することで、発達の過程に沿った保育を行っていく。また、振り返りをこまめに行い共有することで保育者全員が適当な関わりを持てるようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級するにあたり環境の変化を気にしながらその子の発達にあった環境を用意していく。ケース会議等で共有している内容を理解した上で見守る。
小学校や教育センターと連携を行い、どのような進学でも困り感が少なく、その子らしく通える場を保護者と一緒に考えていく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週1回10:30～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週1回10:30～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　近隣公園にて開催

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年に2度「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：8時00分
自己評価終了予定時刻：17時00分
自己評価実施予定者：田中　誠、森谷　太郎、宮園　司

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	丁寧な保育の実践。 養護の行き届いた環境。
	振り返り	「丁寧な保育」とは何かを常に考えながら実践し、子どもへの言葉の選び方や関わり方、環境整備の質が向上した。 養護面では、安全・衛生管理の徹底を毎月の会議で話し合いながら調整してきた。 引き続き「丁寧な保育」と「養護」の追求が必要。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

25年度	目指す姿	子どもにとってより良い保育を考える集団
	重点施策	子どもの活動や日課の見直しを行い、保育の質をさらに向上させる。 ･環境整備（衛生面・安全面）に細かく配慮し、快適に過ごせる園づくりを目指す。 ･日々の何気ない会話を大切にしながら、「子どもにとって最善かどうか」を考え続ける文化を育てる。
26年度	目指す姿	共育て（ともそだて）
	重点施策	保育者と保護者が互いの想いを理解し合い、子ども一人ひとりにとって最善の利益を考えられる関係性を築く。 ･職員同士の学び合いだけでなく、保護者も含めた学びの場を設定し、共に子育てを支え合う環境を作る。 ･保護者との信頼関係を深め、協力しながら子どもたちの成長を支えていく。
27年度	目指す姿	地域に愛される保育園（選ばれる園）
	重点施策	「子どもにとって何が必要か？」を保育の根本に置き、子ども第一の保育を継続的に実践する。 ･保護者だけでなく、地域とのつながりを深め、地域全体で子育てを支える仕組みをつくる。 ･日高市の代表的な保育園として認知される園を目指し、地域に根付いた保育を確立する。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：日高どろんこ保育園 施設長　宮園 司

２０２５年度　メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム
事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人理念　　『にんげん力。育てます。』
法人保育方針　『センス・オブ・ワンダー』『人対人コミュニケーション』
を基に、子どもの生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、保育を担っていることを深く受け止め、一人の人間として人格を尊重し、一人ひとりに丁寧に関わることを大前提とする。
十分な養護（安心・安全）が行き届いた下で、自分の持っている能力を引き出し、成長していける環境を用意する。その為に、子どもが求めたときにいつでも応答的に関わる。
一人ひとりが違う個性や特性を持っていることを当然のことと理解し、子どもの思いや発想、行動にむやみに介入せず、子どもが様々な葛藤を繰り返しながら主体的に成長できる環境を用意する。
また、集団の中の個として、自分の思いや考えをしっかり持ち、それを人に伝えられる子、相手の考えを受け入れられる子、考えが違ったときにどうしたら良いか折り合いがつけられる真のコミュニケーション力を育てる。
個々の発達・個性をしっかり捉え、『今その子に必要な環境は何か』を深く考察し、子どもの最善の利益を追求し続ける職員チームになる。

原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
①　「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
②　「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
③　「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

どろんこ会グループが目指す園の姿、以下5点を実践していく。
1.　生活の体得
2.　10の姿の体得
3.　子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4.　鶏を絞めて食す　命をいただく活動の実践
5.　自律運営

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動の深い理解
	実践予定内容	■　できうる限り土に触れ、免疫を獲得する物的環境構成・活動の計画と実行をする ■　毎日、歌をうたって聞かせて、歌を知っている子・様々な歌を楽しく歌う子を育てる ■　大人が見せて教えないと知れない遊び（缶蹴り・ハンカチ落とし・あやとり等）を教える ■　生活力と危険な物との距離の取り方（針の扱い・焚き火を通じ火との距離感等）を教える ■　子ども同士で話し合う・順番を決める・交代して行う・皆の前で発

		表・自分の意見を述べることができるように、物的環境構成と大人による導きをする ■ 地域の人たちが集う地域に開かれた拠点となるための計画と行動をする ■ 労働（雑巾がけ・畑仕事・生き物の小屋掃除と糞の始末・堆肥作り）以外の時間を自然や街の中を練り歩くことに充てる
2	計画・ねらい	畑仕事・生き物の世話・たい肥作りを確実に丁寧に行う
	実践予定内容	■ 毎日、大人と子どもで一緒に畑仕事（耕し・苗植え・水やり・間引き・雑草むしり・収穫）をし、料理やケチャップ・梅干・たくあんなどを作る ■ しなければならないことを自覚し自分の仕事をする ■ 堆肥作り・堆肥の畑活用・命の循環教育を確実に丁寧に行う ■ 年長児は、収穫物を販売することで、お金の価値や流れを知るための活動を行う
3	計画・ねらい	混ざるのその先へ
	実践予定内容	■ いま行うべき支援を考えて行動する ■ 子ども自身が活動・玩具・教材・絵本・運動遊具を選び、手に取り、10よりも100の探索ができる環境を構成する ■ 子ども間でのぶつかり合いや葛藤を調整しなければならない機会が得られるように物の数・置き場所を構成し、必要な場面で必要な量のみの言葉がけ・介入を行う ■ 大人から「今日は雨だから室内で活動します」は言わない、子ども自身に判断させる ※生命の保持は大人が配慮したうえで

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践予定内容	保護者の立場に立ち、気持ちに寄り添った接遇とは何かを考え、意見を出し合い、PDCAサイクル用いて実践していく。
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良い施設
	実践予定内容	掃除、片付け、整理整頓を基本に互いに声を掛け合い、いつ見ても気持ちが良い施設を作る。
3	計画・ねらい	年1回以上の保護者個人面談実施
	実践予定内容	保育園と保護者の円滑な連携、子どもの情報共有の場として個人面談を実施していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設になる
	実践予定内容	地域の保護者の子育て支援の為、感染症に注意しながらちきんえっぐや青空保育等を行う。また、保育園を解放し、遊びの提供や子育て相談を行い、保育園が身近な存在となるように努める。
2	計画・ねらい	地域公開講座を実施
	実践予定内容	年1回以上の地域公開講座を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力UP：学び続ける文化
	実践予定内容	全職員が年間目標設定を行い、目標を達成するための学びとアウトプットを行っていく。
2	計画・ねらい	保育所保育指針について理解を深めていく
	実践予定内容	保育の質を上げる会議参加者と連携し勉強会を進めていく。
3	計画・ねらい	マニュアルについて理解を深めていく
	実践予定内容	マニュアルの理解度の確認を毎月行い、再度マニュアルの理解を深めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	畑仕事（種まき、間引く、獲る）・命をいただく（捌く、解体する、焼く、食べる）・加工する
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルを実践
	実践予定内容	食材の廃棄を減らす。駅前園ならではの循環サイクルを考え実践する。
3	計画・ねらい	2022年度比70%に削減する
	実践予定内容	食材を余すことなく使い、2022年度比70%に削減を目指す。

〈6〉期日とルールを守る組織となる

1	計画・ねらい	期日とルールを守る組織となる
	実践予定内容	なぜ期限やルールがあるのかを考え、一人ひとりが意識を高く持ち期限とルールを守る組織となる。期限があるものはスケジュール管理を組む。期限に遅れる場合は、なぜ遅れるのか、スケジュール管理に問題はなかったかを見直し、期限とルールを守る。
2	計画・ねらい	内部監査指摘事項を減らす
	実践予定内容	内部監査項目を全職員が理解する。 昨年度の指摘事項から重点的に担当を決め、担当を中心に全職員で改善を行っていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
６人	１０人	１２人	１４人	１４人	１４人	７０人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	3人
パート スタッフ	保育士	３人	事務	1人	嘱託医	２人

３.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー・各担当からの提案や報告・園内研修・研修報告
給食運営会議	月1回	食育計画進捗確認・献立内容の見直し・アレルギー対応の確認・離乳食の確認・提供方法の確認
事故防止委員会	月1回	園内外の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハット考察・分析・検証
ケース会議	月1回	一人ひとりの子どもの発達の確認や引継ぎ・要支援児童の個別指導計画、経過確認・関係機関との連携
リーダー会議	月1回	園長・主任・各リーダーによる報告・連絡・検討
クラス会議	月1回	担任同士での報告・連絡・検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	コンピテンシー・各園の運営状況報告・各部署からの報告ケース検討・マニュアルの見直し・運営状況の見直し
施設長勉強会	月1回	園運営に係る相互学習や検討・各種マニュアル等の改訂、検討
食育会議	年4回	給食の見直し・食育マニュアルの見直し・各園の取り組み共有

保健会議	年4回	保健マニュアルの見直し・ケース検討
主任会議	年4回	主任業務の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施
施設長会議	月1回	コンピテンシー・各園の運営状況報告・各部署からの報告ケース検討・マニュアルの見直し・運営状況の見直し

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理点検表を用いて、衛生的に園運営がされているか管理運営を行う・清掃確認・染症発生時の対応
安全対策係	事故防止点検、設備点検を行うとともに日々点検・補修・修繕手配を行い生活の安全を図る・事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの記入確認と分析、事故防止への対策・ハザードマップ作成
防火管理者	災害に備え定期点検・避難訓練の実施・消防署への定期報告を行うまた消防設備点検の実施
食品衛生責任者	衛生管理点検表・スタッフ細菌検査実施・食品衛生上の管理
畑係	農業計画作成・畑の管理・苗、種植え、収穫の調整・畑の管理の調整
写真係	個人情報の確認・写真販売

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターとの連携を中心的に行う

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・ 保育者等に見守られながら、好きな遊びを楽しむ ・ 子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく

		・　スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ・　栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
	下半期 0～1歳児	・　土や水等に触れ、全身で感触を楽しみ、感性を育む ・　安心できる保育者等の関わりの中で人への基本的信頼関係をもち、人間関係の基礎を培う ・　個々の発達の状況を捉え、生命の保持と情緒の安定を図り、生活リズムを作る ・　スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ・　栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
幼児保育	上半期 3～5歳児	・　基本的生活習慣を身に付け、喜びながら意慾的に生活する ・　友達との繋がりを広げ、集団で行動する事を楽しむ ・　異年齢で生活をする中で思いやりの心、協力し合う心を養うと共に達成感を知る
	下半期 2～5歳児	・　身近な環境や自然などに自ら関わり、様々な事物や事象と自分達と の生活との関係に気付き、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の 経験を広げる ・　小学校以降の生活や学習の基盤の育成に繋がることに留意し、創造 的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う （幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮する） ・　友達と歌を歌ったり合奏することで、ひとつの物を作り上げる楽しさを知るとともに、動きや言葉などで表現したり演じる楽しさを知る
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の３大食育方針（（１）調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる　（２）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する　（３）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる）を基本とする。

1	計画・ねらい	健康な心と体を育む

	実践予定内容	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ意欲的に食べる
2	計画・ねらい	食に興味を持つ
	実践予定内容	畑で野菜を栽培することで、旬の素材に気づき、食に興味を持つ
3	計画・ねらい	人と食べる楽しさを感じる
	実践予定内容	好きな場所で好きな友達と食べ、人と食べる楽しさを感じる

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）0歳児のみ毎月実施
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いの歌を一緒に歌いながら行うことで、手洗いに親しみを感じ正しい方法を伝えていく。また、バイキンスタンプや手洗いチェッカーを使って可視化することで、意識の向上を図る。
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 8月頃･･･手足口病、ヘルパンギーナ 1月頃･･･インフルエンザ・感染症胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み/冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	保護者に向け、感染症に関する予防対策についての案内を掲示 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日

	不審者侵入訓練	年2回/6･I2月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･II月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･I0･I月の25日
	フロン点検（定期I回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･I0･I月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月I0日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月I回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･I0月
	身長体重測定	毎月I回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6･II月 0歳児のみ年I2回実施 歯科健診 年I回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･I0月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月I回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年I回

〈6〉環境整備

保育所保育指針第２章保育の内容に記載されている「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とする。

I	計画・ねらい	子どもの成長にあった環境を設定する
	実践予定内容	子どもたちの発達、活動から月I回は保育環境の見直しを行い、担任を中心に子どもの成長、季節にあった環境を考え、見直しを行っていく。
2	計画・ねらい	見守る保育(子ども理解と適切な援助)
	実践予定内容	子どもの様子を注意深く観察し、子どもにあった適切な対応を常に考え、実践する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	LaQテーブル	４.５歳児保育室	使用時
2	カバン掛け	幼児棟、乳児棟各保育室	毎日

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災 危機管理マニュアルNo.3の災害対策(P.6～)に則り、消防計画・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得(継続)手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践予定内容	ケガ事故防止 危機管理マニュアルNo.3のケガ事故防止策・安全点検と保全(P.8～)に則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施・上級救急救命資格取得(継続)手続き・安全教育・SIDS防止策・ケガ事故防止のための保育士行動指針を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	防犯 危機管理マニュアルNo.3の不審者対策(P.14～)に則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時には対応フローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ 危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策(P.15～)に則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応する。

６.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

- 養成校、実習生の受け入れ
- 小中高生の保育体験、ボランティアの受け入れ
- 協働で進める保育実習
- 受け入れられる実習生の不安な気持ちを受容して、応答的な関わりが出来るようにする
- 実習体験からの学びを、学生と保育者と相互に対話を重ねて、確認する
- 保育者は、実習指導を担うことでリーダーとしての力を身に付け、キャリアアップする
- 実習指導での気付きが園全体の保育の質を上げる

1	実践予定内容	近隣の養成校と連携をとり、実習生の学びの充実を図ると共に保育業界の質を担保していく。
2	実践予定内容	実習指導者は学生の指導を通して、自身のリーダーとしてのアウトプットスキルやファシリテーションスキルを向上していく。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月24日 25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 理念・方針・運営部ミッション ③ ケガ・ケーススタディ ④ 虐待防止研修 ⑤ 人権チェック ⑥ 質上げ会議の連動研修	理念・方針・運営部ミッションを共有し、ディスカッションを通じて、本年度目指す保育について園スタッフの共通認識を図る。
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育運営マニュアル ③ 散歩 ④ 質上げ会議の連動研修 ⑤ どろんこ祭り	『保育と自然を未来志向で考えてみよう～飼育・栽培・さんぽどうしてる？』を見て、職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る。
6月26日 27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの危険管理 ③ 内部監査 ④ 質上げ会議の連動研修	水遊びの際の危険や注意事項、対応方法をロールプレイ使い確認し、園スタッフの共通認識を図る。
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感触 ③ 質上げ会議の連動研修 ④ 運動会	『触覚科学×保育を探究！「触って感じる・表現する」体験活動の進め方』を見て、職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る。
8月21日 22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 散歩、公園での危機管理	散歩や公園での危険や注意事項、対応方法をロールプレイ使い確認し、園スタッフの共通認識を図る。

		③　質上げ会議の連動研修	
9月26日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　命と食育 ③　質上げ会議の連動研	命と食育についてディスカッションをしながら職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る。
10月23日 24日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　虐待防止研修 ③　人権チェック ④　質上げ会議の連動研修	子どもの人権研修を実施し、ディスカッションを通じて、子どもの人権の擁護について園スタッフの共通認識を図る。
11月28日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　インクルーシブ保育 ③　質上げ会議の連動研修 ④　発表会	『実践！子どもから学ぶインクルーシブ保育』を見て、職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る
12月25日 26日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　命と食育 ③　質上げ会議の連動研修	命と食育についてディスカッションをしながら職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る。
1月30日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　事業計画振り返り ③　質上げ会議の連動研修	１年間の計画について振り返りを行い、次年度に活かしていく。
2月20日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　策定会議	次年度園目標設定
3月19日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　策定会議 ③　キックオフ	● 次年度の行事計画を作成 ● 登降園時の確認 ● ケガ発生時対応フローチャート ● 虐待対応マニュアルの確認 ● 見失いの定義を全職員で確認 ● 疾病発生時対応フローチャートの確認 ● 消毒の方法の確認 ● おむつ交換について確認 ● 嘔吐処理について確認 ● 与薬手順・ルールについて確認 ● アレルギー食について確認 ● エピペン注射ルールについて確認 ダイアップについて確認

エリア研修予算内訳（板橋区内園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		例）６園で按分した自園負担額
4月12日	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
		個人負担費	1600円	
11月8日	7,700円	講師代	6,200円	0円
		講師交通費	1,500円	板ど/大山/中板/成増/東練/バジ
合計	7,700円			0円

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈４〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。

また、積極的に園開放することで、地域の子育て支援に貢献していく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：３０名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：練馬区立 電車の見える公園にて 集客目標：３０名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	● 地域との連携を積極的に行い、多様な年齢層との交流の中で人との繋がりを大切にしていく。「物おじせず、誰とでも目を見て話が出来る子ども」を育む。 ● お年寄りを大切にする優しい心を育む。
異年齢交流	● 養成校とスムーズかつ教育的な視点で実習期間を過ごせるよう連携していく。 ● 職場体験という貴重な学びの時間を充実させるため学校側と連携を取っていく。
地域拠点活動	● 地域のすべての子育て家庭を対象とし、毎月行う。 ● 小中高生の保育体験受け入れ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

徳丸小学校、北野小学校を中心に交流を実施する。

小学校に対し卒園児の引き継ぎ、及び保育要録の作成、提出することで子どもの成長や発育を共有、また小学校と５歳児交流を積極的に行っていく。小学校教諭との情報交換の機会を作ることで、子どもの成長を連続的に見通し、保育と教育の垣根を無くして育ちにつなげることを目指す。また新たに小学校教諭・保育者・保護者の集う会を行い、それぞれの立場で子どもについて語り学び合う機会を設けていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を３月10日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	徳丸小学校校		授業参観	職員間交流
5月頃	北野小学校		授業参観	職員間交流
6月頃	徳丸小学校校	14名予定	小学校に行ってみよう	小学校校庭・外観見学
7月頃	北野小学校	14名予定	小学校に行ってみよう	小学校校舎内見学
8月頃	徳丸小学校	14名予定	プールで遊ぼう	学校のプールを借りて遊ぶ
9月頃	徳丸小学校 1年1組	14名予定	校庭で遊ぼう	子ども間交流
10月頃	北野小学校 1年1組	14名予定	校庭で遊ぼう	子ども間交流
11月頃	徳丸小学校	14名予定	学校見学	学校見学
12月頃	北野小学校	14名予定	学校見学	宗小祭りに参加
1月頃	徳丸小学校 1年1組	14名予定	授業交流	子ども間交流
2月頃	北野小学校 1年1組	14名予定	授業交流	子ども間交流
	徳丸小学校		情報交換	職員間交流
	北野小学校		情報交換	職員間交流
3月頃	徳丸小学校 1年1組	14名予定	授業交流	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできることを目指す。毎月クラス会議とケース会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合って進めていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定　参加者：8名予定）
子どもの様子・対応についての検討・報告を行う。
必要に応じた対応と課題について検討していく。
全職員が家庭状況も踏まえ共通した対応を行っていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級引継ぎは、書面と引継ぎ会議で行う。
小学校への引継ぎは、児童指導要録、個別支援計画また各校の担当職員との面談によって行う。

11.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：５０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：２０名
自然食堂…親子ランチ交流	園行事予定表に沿って実施　　集客目標：２０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	園行事予定表に沿って実施　　集客目標：２０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

・２０１３年度、２０１４年度、２０１７年度、２０２０年度、２０２３年度実施済

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年1月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１３時００分
自己評価終了予定時刻：１５時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、各クラス代表者、調理代表者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	生活力の体得や子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境を職員同士でディスカッションを行い、安全を考慮しながらも常に保育の質の向上を意識して取り組んでいく。
	振り返り	園内研修や園会議で職員間でのディスカッションを行い、意識や考え方の共有やすり合わせ、実際の保育でどう取り組んでいくのかを考え、保育の質の向上を目指して取り組んできた。さらに取り組みを進めていくためにも、2025年継続して取り組んでいきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

25年度	目指す姿	子どもに必要な体験を職員同士で考え、安全を考慮しながら主体的に挑戦をしながら保育の質を上げていく。
	重点施策	生活力の体得や子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境を職員同士でディスカッションを行い、安全を考慮しながらも常に保育の質の向上を意識して取り組んでいく。
26年度	目指す姿	駅前型保育園としての保育園モデルとなる
	重点施策	保育の質の向上、駅前型保育園としての体験活動の充実、地域に選ばれる園、ブログ発信の充実化。
27年度	目指す姿	地域、保護者から愛され、地域に開かれた保育園になる
	重点施策	子育て支援や公開保育、実習生の受け入れを積極的に行い、地域、保護者から愛され、地域に開かれた保育園になる。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ東武練馬ルーム 施設長　添島 崇夫

２０２５年度　鶴見どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針　　～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～

どろんこ会の理念である「にんげん力。育てます」を基本に、生きる力を育む。
「にんげん力」を身につけるために必要な遊びや野外体験を提案・実践し、自ら考え、行動する思考を育む。若者が「0を1に変える力」で課題や困難に向き合い、たくましい未来を創る。
以上を基本とし、子どもの姿を語り合う風土を生み出し、子どもだけでなく、保育者や保護者もワクワクする園をつくる。

保育理念・・・「にんげん力。育てます。」
保育目標・・・「センス・オブ・ワンダー」
　　「人対人コミュニケーション」
私たちが育てる６つの力
　　「ケガをしない強い体を育てる」
　　「自分でできることを自分でする」
　　「すべての人との関りから判断・行動をみにつける」
　　「活動を選択し自分で考えて行動をする」
　　「生死を知る　食の循環を知る」
　　「考えたこと・感じたことを表現する」

スタッフはその子の保育園生活は今しかないことを理解して、子どものすべてを受け入れスタッフは日々学び続けていく。
「子どものすべてを受け入れる」子どもの可能性を広げるために子どもの自由な発言・表現・発想を肯定し受け止めることや子どもがどうしてそう思ったのか、そういう行動をとったのか過程に目を向けて「それでいいよ」と認め一緒に楽しむことで子どもたちは、安心感を持ち遊びが展開され自信に繋がっていく。その中で、子どもたちは日々の生活の中で「にんげん力」を身に付けていく。
間違えることもあるが間違えを修正しない。子どもたちは、失敗から学んで成長をしていく。物事をなんでも正しく教えるより失敗して自分で考えることがとても大事であることを踏まえ、間違えに気付きトライ＆エラーを繰り返す力が身に付くようにする。子どもだけではなく、スタッフも同様である。スタッフは、子どもに手を差し伸べ無駄なことは何一つないと考え保育運営を行っていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	対話的保育
	実践予定内容	子どもの気持に寄り添い、子どもの話に耳を傾け、常に子ども目線で考える。子どもの気持をど真ん中に安心できる環境で安心できる職員と生活ができるようにする。 サークルタイムを設け他者との関りの中で自分の思いを伝え他者の気持ちを聞き受け止めお互いに尊重し合う場を設ける。
2	計画・ねらい	受容的・応答的な関わり
	実践予定内容	アタッチメントを大切に、安心できる環境作り、情緒的な絆を形成する。 子どもの気持ちをそのまま受け入れ話しやすい雰囲気を作り出す。

		適切な言葉を使い子どもの発言や行動を認め「あなたのことが大切である」ことを伝える。 ①子どもの声に耳を傾ける（姿をみる） ②そのまま受け止める③子どもに合わせた言葉がけをする
3	計画・ねらい	主体的な保育
	実践予定内容	一人ひとりの生活を丁寧に保障していくために保育所保育指針を踏まえ、保育者、栄養士、施設長はそれぞれの専門的な知識と技術を高め、常に自己目標・グループ目標・組織目標に向かい学びを深めていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	どろんこサポーターとの関わり
	実践予定内容	どろんこサポーターと共に子どもが安全・安心して過ごせる環境作りを目指し、連携をとり、実現に向け進めていく。
2	計画・ねらい	保護者の心の入り込んだ接遇
	実践予定内容	①思いやり②誠実さ③謙虚さ④感謝 保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に気軽に保護者が相談できる機会を作る。保育参加への積極的な誘いを繰り返し行い、個々に合わせた支援が出来るような工夫をする。
3	計画・ねらい	保育者、保護者との連携
	実践予定内容	お迎え対応、保護者懇談会、個人面談、送迎対応、連絡帳アプリの活用など子どもの育ちを丁寧に共有する時間を積極的に提案していく。 タイムラインの活用を引き続き行う。 1か月の活動内容をA3サイズにて、掲示をする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	出張動物園
	実践予定内容	ヤギ・ニワトリの出張動物園（小学校や近隣保育園）を通して、自園の地域に限らず、広く地域との交流を図る。
2	計画・ねらい	食育を通した地域交流
	実践予定内容	園内の畑でとれた野菜など焚火で焼いたり料理したりと地域の方も参加できるように呼び掛けていく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた園
	実践予定内容	体験保育・出前保育・園開放・小中高生交流・世代交流・ボランティア受け入れ・勝手籠・子育てサロン、子育て相談を引き続き取り組み保育園の役割を果たす。

〈4〉保育の質を高め組織作り

1	計画・ねらい	組織の３つの成立条件
	実践予定内容	①共通の目的②貢献意欲③コミュニケーション 理念に沿って子どもたちに必要な体験とは何か日々職員は考え実践をしていく。一人ひとりのメンバーが培ってきた経験や備えている力量や専門性

		を発揮し、今どのような活動を行ってきているのか伝え合うことを行う。
2	計画・ねらい	活動を提案し合える環境がよりよいものを生み出す
	実践予定内容	職員一人ひとりが「今よりももう少し良くなるために」と日々、意識をする。職員の提案や気付き、学びなどを受け止め学びのモチベーションを高める。話し合いを行った際は議事録を残し参加できなかった職員にも共有をする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・食の循環サイクルの実行
	実践予定内容	野菜の芯などを廃棄せず、コンポストに入れ、ヤギ糞を混ぜ合わせ土作りを年間通して行う。またコンポストでできた堆肥を使って野菜を育てる。 畑仕事（種まき・育てる・間引く・穫る） 食材加工（梅・味噌・ケチャップ） 再生野菜・リボーン・ベジタブル（豆苗・人参・小松菜）
2	計画・ねらい	給食残渣を減らし食べ物を大切に消費する
	実践予定内容	畑仕事を通して苦手な野菜を一人ひとりが克服し、給食残渣を減らす。 生産者の気持ちを知り、食材を大切に扱う事を学ぶ機会を設ける。
3	計画・ねらい	省エネ・省電力
	実践予定内容	植樹などによる木陰で遊べる環境作り、緑のカーテン実地、日常生活で環境に対する悪い影響を少なくする。

〈6〉学び合い高め合う

1	計画・ねらい	リーダー会議（月１回）
	実践予定内容	園の中心となるリーダーが集まって園内の課題だしや職員との関わりの共有をおこない、園か円滑に進めるように基盤をつくる。
2	計画・ねらい	保育の質の向上・保育を語る・語り合う
	実践予定内容	会議以外でもクラス以外の子どもの姿を捉え語り合うことを隙間時間ではなく、日常化する。語り合うだけでなく、ウエブやリフレクションなどを使って子ども探求していく。
3	計画・ねらい	気持ちに寄り添う
	実践予定内容	施設長・主任と定期的に面談を行う。個々の気持ちを聞く機会をつくり語り合っていく。

〈7〉主体性を伸ばす保育

1	計画・ねらい	自分で選ばせる「指示待ちではなく自分で動く」
	実践予定内容	どんなに小さい子でも自身で選ぶ力があることを知り、大人がなんでも遊びや玩具を決めてしまうのではなく「どっちがいい」と言葉をかける。子どもが選択できる環境構成を行う。
2	計画・ねらい	信じて待つ「相手の話に耳を傾ける」
	実践予定内容	子どもたちにも子どものペースがあることを理解し、大人都合で時間を決

		め、先回りをして手伝ってしまわないように注意をする。子どもたちが考える時間を確保する。時間が決まっている場面では、事前に子どもたちに言葉掛けを行うなど工夫をする。
3	計画・ねらい	満足するまでやらせる「強い自信が身に付く」
	実践予定内容	満足するまでやりきった子どもは心が安定、満足する前に終わらせてしまうと不満が残ってしまうことを理解し、強制的に終わらせないように意識をする。満足した子どもは、満足したときに自身で終わりを決めることができるようになる。遊びのルールを子どもたちと決めて行う・散歩帰る時間を事前に一緒に考えるなどと言葉かけを行う工夫をする。
4	計画・ねらい	子どもに解決させる「困難なことがあっても乗り越える力」
		スタッフは安全を確保した中で見守り、子ども同士で解決する・考える機会を奪わないようにする。もちろん、場面に応じてスタッフがフォローを必要なときもあることを考え判断をする。その場面を見極め一緒に困難なことをどのように乗り越えるか行っていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	16人	18人	20人	20人	20人	100人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	6人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	嘱託医	2人						

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	研修計画に基づき園内研修など
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	事故記録簿・インシデント・ヒヤリハットを使い自己分析 園内環境・ハザードマップの見直し
ケース会議	月1回	特児に関しての情報共有、指導方針の確認
リーダー会議	月1回	各リーダーの実践報告、課題だし
クラス会議	週1回	各クラスの保育の流れ、活動の共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各書類提出や運営についての確認事項
施設長勉強会	月1回	保育園の課題検討をしながらスキルアップ
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催
保健会議	年4回	各園の状況からの意識統一、園児健康管理業務改善
主任会議	年4回	他園の主任と切磋琢磨しながら園運営やマネジメントを学ぶ
子育ての質を上げる会議	月1回	子どもの理解を深め、自園の保育の質を高める

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内汚染区域の安全管理、備品などの管理
安全対策係	怪我防止・危機管理マニュアル参照
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生責任者	食育会議の計画や実践、安全に対する管理
畑係	畑管理、畑計画に基づいた作業

生き物係	飼育全般に関する管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域交流、支援に取り組む。どろんこ祭りのサポート
運動会	行事の計画、立案、実施
生活発表会	行事の計画、立案、実地

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分できるようにし、友だちへの関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	・多様な経験を通して、感情豊かにし、感じたことを少しずつ伝える場を大切にする。 ・生活や遊びの中で心身ともに伸びる場を保証する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢の中で友だちとの繋がりを深め楽しむ場をつくり、協調性や自主性を育む。 ・興味関心を持ったことに、主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたりと遊びに取り入れる
	下半期 2～5歳児	・異年齢の関わりの中で生活や遊びの達成感や充実感を味わえる経験を保証する。 ・自分で考え、工夫判断して、自ら行動できる。 ・情動的で様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食事を楽しむ、食欲と意欲を育てる
	実践予定内容	子どもが自分たちで盛り付け、配膳して食べる事を基本として、自分で食べる量を調節していく。十分な遊びから自然とお腹が空く子、意欲的に食べる子が増えるよう生活の中で保育者、栄養士と食事作りや準備に関わり、子どもの食への関心を広げる。
2	計画・ねらい	食品ロスを減らす
	実践予定内容	コンポストから新たに作物を育て、育てた物を調理して食す。子どもも大人も食品ロスについて考える。対話を通して様々な経験を通じ「食」に関する知識とバランスの良い「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践出来る力を育む。
3	計画・ねらい	クッキング・畑で作物作りを継続的に取り組む
	実践予定内容	自ら栽培したものを食することで、個に対しての愛着を持ち、自然の恵み・命の大切さに気付く。行事食、郷土食にも幅広く触れ合う。 クッキングを行事にするのではなく、命を食す、命をいただく「いただきます」を子どもたちと活動を通して実感できるようにする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い、うがい指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12～2月頃･･･インフルエンザ 11～3月頃･･･ウイルス性胃腸炎
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２６名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員２名については4月1日までに受講予定

AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在２６名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員２名については４月１日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6・11月 歯科健診　年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	衛生管理のもと実行し日々の掃除、チェック
	実践予定内容	スタッフ全員が意識を変え、園内の清掃に取り組む。誰がいつ見ても気持ちの良い環境になるように考えて行動する。
2	計画・ねらい	みんなの大きな家をイメージし個々の居場所を確保する
	実践予定内容	園全体を使って遊びの保証をする。どこの部屋で遊んでも良い環境となるようにスタッフ間のコミュニケーションや報連相を大事に連携と取っていく。
3	計画・ねらい	子どもも大人も主体的に活動できる環境
	実践予定内容	子どもの姿を捉えられるようにスタッフ間の対話を大事にしていく。子どもも大人も主体的で、遊び込める楽しい空間作りをする。何事もtrial&errorを基本に自ら挑戦する気持ちを大事にする。

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	月1回の避難訓練実施と共に年2回に不審者侵入訓練実施（保護者にも共有する）。
2	実践予定内容	子どもの達の命を守るため、大惨事に備えて保護者との連絡が取れるようにアプリ利用の確認。
3	実践予定内容	安全マニュアルを2か月ごとに実施し、チェックリストと共に確認をし、保育者との周知に努めていく。
4	実践予定内容	事故防止自主点検を年4回実施。
5	実践予定内容	日々の保育中のヒアリ・ハットした内容用紙に報告し事故防止に努めていく。
6	実践予定内容	公園マップ（ハザードマップ）を作成しルート、危険場所、避難場所を職員同士でも確認し合う。
7	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件、影響、情報、注意報を把握し、発令があった場合は内容に応じて張り紙、アプリを掲示し、室内で過ごすなど移動する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

1	実践予定内容	随時、積極的に受け入れる。実習生が不安にならないように温かく指導する。
2	実践予定内容	中高生の職場体験も積極的に受け入れ、子どもとの触れ合いから様々なことを感じてもらうようにする。先方教員と事前に確認し、安心して体験学習を行えるように配慮する。実習、職場体験も交流が継続して持てるようにしていく。
3	実践予定内容	実習生、一般および学生の各種ボランティア受け入れでは、随時いつで

		も受け入れる体制と雰囲気をつくる。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月１１日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ ③保健計画・振り返り ④質上げ ⑤人権チェック・虐待防止研修	過去のヒヤリハット・インシデント・事故記録簿を参考に危険箇所・危険予測の洗い出し、ハザードマップの見直し
5月９日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	接遇 10の姿について
6月１３日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	プール事故防止ロールプレイ（水遊び・プール活動マニュアル確認） 10の姿について
7月１１日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	お迎え対応ロールプレイ 10の姿について
8月８日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	散歩ロールプレイ 10の姿について
9月１２日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	生存確認ロールプレイ 10の姿について
10月１０日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	ハザードマップ見直し 10の姿について

		⑤人権チェック・虐待防止研修	
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	感染症予防（衛生管理） 10の姿について
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	接遇 10の姿について
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション ③保健計画・振り返り ④質上げ	振り返り 10の姿について
2月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間策定会議	策定会議1日目 2026年度事業計画とその方向性、行事日時と概要の設定
3月	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間策定会議	策定会議2日目 2026年度「子どもにとって、必要な生活・活動を決める」

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園、地域が一丸となって、子育て支援をおこない、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組む。地域の方が自由に園を利用し気軽に相談できるような環境を作り子育ての仲間として地域交流をおこなう。
鶴見区子育て支援課と共に「子育て相談室」子育て支援事業を週1で定期実施を継続し、地域の中で大きな安心できる家となるようにする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：600名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：下末吉公園にて　　集客目標：毎月10組
商店街ツアー	週1回
世代間交流	毎月来園する地域高齢者のみなさん（どろんこサークル）との昔遊びや手仕事交流。
異年齢交流	小学校訪問や中学生の職業体験の受け入れ、伝承行事の際に近隣中学校の生徒に来訪してもらい交流する（節分・すもう大会）
地域拠点活動	法人年間支援事業　　ちきんえっぐ 福祉保健センターの子育て支援者事業の相談会場
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

保育所保育指針における「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり、生命尊重⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現
以上の視点を具体的体験として、主体的で対話的な深い学びの基として、保育計画に取り入れていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	末吉小学校	5名予定	末吉小学校	授業参観（職員のみ）
9月頃	末吉小学校 1年生	20名予定	末吉小学校	子ども間交流
10月頃	下末吉小学校 1年生	20名予定	下末吉小学校	子ども間交流
11月頃	旭小学校	20名予定	旭小学校	子ども間交流
2月頃	末吉小学校 上末吉小学校	各20名予定	末吉小学校 上末吉小学校	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

個別配慮の必要な児童は、個別支援計画を作成し、担当職員だけにとどまらず、園会議にて情報共有する。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：6名予定）
毎月の園会議に先立ち、関係機関とも連絡を取り合い、担当職員を中心として施設長・主任・栄養士が参加する

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級時の引継ぎは、児童の個別記録を見ながら、現在の子どもの様子を共有する。小学校への引継ぎは、各進学予定小学校と連携を取り合い、必要事項をまとめて直接面談して伝える。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：毎月300名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：毎月10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：毎月20組
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：毎月20組
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：下末吉公園にて開催　集客目標：毎月10組

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

株式会社学研データサービスにて２０２４年度受審済み

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年2月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：16時00分
自己評価実施予定者： 施設長、主任、事務、リーダー保育者１名

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３．３カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもも大人も思いやりを大切に、相手の気持ちを想像する、相手の気持ちは自分とは違う、様々な気持ちを知る。職員間で子どもの姿を語り合い、子どもも大人もワクワクする園をつくる。
	振り返り	子どもも大人も思いやりをもった関わりができるように、相手の話を最後まで聞く、相手の目を見て聞く、傾聴部分を意識しておこなった。子ども達は子ども会議の中で相手の話を最後まで聞き、自分の意見を伝えるなど様々な意見がある中でも自分の思いも伝えられるように大人がさりげなくフオローしてきた。引き続き語り合いを中心に子どもも大人も関わりを深めていきたい。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期である　望ましい未来をつくりだすために日々、スタッフは学び続ける
	重点施策	保育所は子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期 養護の行き届いた環境「生命の保持」「情緒の安定」子どもの生理的欲求を満たすことで、情緒の安定は図られ気持ちを十分に満たすことで心身の健やかな育ちを促していく。毎日の時間を大切に人格形成について質高く確実に丁寧一つひとつ行う。スタッフはその子の保育園生活は今しかないことを理解して、子どものすべてを受け入れスタッフは日々学び続けていく。私たちは重要な時期に携われていることに誇りと責任感をもち保育運営をおこなっていく。
2026年度	目指す姿	子どもも大人も主体的に行動をする トライ＆エラーを繰り返す力を身に付ける
	重点施策	子どもも大人も自ら考え何をするべきかを考え行動をする　どんなに小さい子でも自身で選ぶ力があることを理解し、大人がなんでも遊びや玩具を決めてしまうのではなく「どっちがいい」と言葉をかける。間違えることもあるが間違えを修正しない。子どもたちは、失敗から学んで成長をしていく。物事をなんでも正しく教えるより失敗して自分で考えることがとても大事であることを踏まえ、間違えに気付きトライ＆エラーを繰り返す力が身に付くようにする。子どもだけではなく、スタッフも同様である。スタッフは、子どもに手を差し伸べ無駄なことは何一つないと考え保育運営を行っていく。
2027年度	目指す姿	「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・日課が定着し保護者様や地域の方からも保育活動・保育内容・人材で信頼される「選ばれる保育園」が創られている。その中で、食を生活の一部と捉える。
	重点施策	自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けながら生きるために「生活力」と危険なものとの距離の取り方を教える。 （実際にたき火を行い火との距離感や食育活動では、包丁をしようするなど危険なものとの体験をする） 食べることは、生きていく中でとても重要なことであることを踏まえ、

		活動や畑仕事を充実していく。（戸外活動では、たくさん身体を動かす・畑仕事では、野菜に興味を持ち自らが進んで食べようとする）

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：鶴見どろんこ保育園 施設長　森田愛実

２０２５年度　越谷どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

保育理念　「にんげん力。育てます。」
保育方針　「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

子ども一人ひとりを尊重し丁寧に関わる保育を実践していく。その中で養護と教育が一体化され『生きる力』の基礎を培う事を目標に保育を展開していく。「にんげん力」を身につけるために子どもの発達にあった必要な遊びや体験活動を提案し子どもも大人も自分で考え行動できるように導く。基本保育活動の継続と丁寧な保育を実践していく。小学1年生を知り、就学までに育みたい10の姿を目指した保育を実践していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	養護と教育が一体化された保育を展開する。
	実践予定内容	・保育所保育指針を読み解き、日課・基本保育活動を深める。 ・小学1年生の授業を見に行き、10の姿への理解を深め就学に向けの保育を実践する。 ・保育士が背中を見せ一緒に行うことで子どもの知識を広げる。 ・笑顔が溢れ、応答的に丁寧な関わりを持ち安心できる環境つくりをする。
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的になり、自ら選択し遊びこめるようにする。
	実践予定内容	・必要な物が整理整頓された環境で遊べる空間作りをする。 ・やりたいことが存分に発揮できる環境を整え、保育者がそれを見守り支えていけるようにする。 ・ゾーン保育の確立へ園全体で取り組む。
3	計画・ねらい	物的環境や人的環境を整え子どもが伸び伸びと遊べる環境を作る。
	実践予定内容	・子どもたちの遊びや様子を理解し、日々変化をしながら環境構成をする。 ・話し合う、順番を決める、交代して行う、皆の前で発表や自分の意見が述べられるような環境作りをする。 ・子どもの声に耳を傾けありのままの姿を共感し寄り添い、その後の子どもの様子を見守りきる保育を実践する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者との密なコミュニケーションと連携をとる。
	実践予定内容	・タイムラインでの投稿内容を充実させ、保育の様子を発信する。 ・子育て中の保護者の気持ちを理解し、コミュニケーションが図れるよう

		な研修を行い保護者に寄り添った連携が取れるようにする。 ・保育参加での内容を発信し、実際に保育参加をしてもらい子どもの様子や園での取り組みを理解して頂けるようにする。
2	計画・ねらい	3分間対応の内容を充実し、スタッフ全員で子どもの様子を語れる集団にする。
	実践予定内容	・伝達事項は的確に伝え、子どもの様子を表情豊かに伝えられるようにする。 ・待ち時間の充実を考え実施する。
3	計画・ねらい	積極的に挨拶を行い、気持ちの良い関係を築く。
	実践予定内容	・気持ちの良い挨拶で、朝・帰り共に保護者の方が安心して気持ちよく送迎できるような雰囲気作りをする。 ・話しかけやすい、相談しやすい関係を作れるようなコミュニケーションをとる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	一時保育・ちきんえっぐ・青空保育へ多くの方が安心して利用できる環境つくりをする。
	実践予定内容	・一時保育を行っている情報発信やリーピーターを増やしていく。 ・ちきんえっぐや青空保育の告知を積極的に行い、利用者数を伸ばす。
2	計画・ねらい	地域の全ての子育て家庭の方のほっと一息つける場所を目指す。
	実践予定内容	・保護者や地域の子育て世代だけでなく様々な地域の方に対して開かれた場所となり利用者同士が交流を図れるような仕組みを作る。
3	計画・ねらい	地域に開かれた子育て内容の実現や園行事にも積極的に参加してもらう。
	実践予定内容	・SNSを通じて園の活動を発信することで保護者や地域に開かれた子育てを目指す。 ・どろんこ祭りや運動会等に地域の方が参加できる企画をし、園を知ってもらうきっかけを作る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが持っている力を発揮し、保育を楽しめる集団になる。
	実践予定内容	・日々の保育の振り返りや見直しをし、改善することを繰り返し行う。 ・保育者が失敗を恐れずやりたいことに挑戦できる環境作りをする。 ・保育者もわくわくするような活動が出来るように心も身体も時間に余裕が持てるような環境作りをする。
2	計画・ねらい	スタッフ全体で学び合う意識を高め、園内研修を充実する。
	実践予定内容	・『園長大学®･保育士大学』の動画を活用し研修を行う。 ・職種問わずに専門性を高め、園内研修の講師となり学び合える環境を作る。
3	計画・ねらい	一人ひとりの目標を設定し意識の向上をする。
	実践予定内容	・個人面談を定期的に行い、目標に対しての進捗状況を確認する。 ・コンピテンシーを用いて良い所を伸ばし、課題を明確にし、次月に迎え

		られるような環境作りをする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環への意識を育む。
	実践予定内容	・食育にて食材の加工を体験できるようにする。 ・畑活動の充実。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行。
	実践予定内容	・給食残渣を減らす。 ・ヤギや鶏の糞を再利用する。 ・堆肥作りの環境の充実。
3	計画・ねらい	木育活動の充実。
	実践予定内容	・散歩や園外活動を通して木に親しむ機会を作る。 ・木使っての自然物製作を通して色や香り、手触り等の感触が楽しめるようにする。

〈6〉体験活動の充実

1	計画・ねらい	子どもの五感に刺激を与えられるような活動を取り入れていく。
	実践予定内容	・本物の自然、生き物、音や歌等に触れる機会を多く取り入れる。 ・散歩を通して子どもたちが新しい発見が出来るような環境作りをする。
2	計画・ねらい	活動を通して自分で考え行動する力を育む。
	実践予定内容	・畑作業から収穫、食育への繋がりを大事にする。 ・焚き火を通して、火の距離感や火起こしから調理までの過程を子どもたちと一緒に組み立て実践する。
3	計画・ねらい	生活の中でイメージを豊かにし、自分なりに表現して楽しめるようにする。
	実践予定内容	・体験した事や身近な自然物を使って表現活動に取り入れていく。 ・見る、聞く、体験する積み重ねを大切にし、保育者が共感できるようにする。

〈7〉気持ちの良い保育園作り

1	計画・ねらい	どんな人でも心地よく園を利用してもらえる環境作りをする。
	実践予定内容	・美観を考え園内外の清掃が行き届き園を訪れる人が気持ちよく思えるようにする。 ・清掃分担や清掃時間の見直しをし、全員が清掃への意識を高く持つ。 ・整理整頓や次の人が気持ちよく使える環境作りをする。
2	計画・ねらい	園に関わる人が笑顔で、コミュニケーションの取りやすい雰囲気作りをする。
	実践予定内容	・園内や近隣の方等と自然に挨拶の飛び交う関係作りをする。 ・会話やコミュニケーションを取れる時間を作る。 ・感謝の気持ちを忘れず、言葉として伝えられる関係作りをする。 ・良いことも改善することも相談し合える環境つくりをする。

3	計画・ねらい	相手の気持ちや立場になって考えられる集団作りをする。
	実践予定内容	・どんなことも自分事として捉え考えられるようなコミュニケーションがとれるようにする。 ・園内研修で接遇研修を行い相手の立場に立つことを学ぶ。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	9人	12人	21人	21人	21人	90人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	5人	補助	1人	調理	1人	用務	1人
	嘱託医	2人						

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	自己評価、コンピテンシー、統一事項確認、園内研修
給食運営会議	月1回	離乳食進行検討、食育活動の計画と振り返り、給食内容や残食の振り返り
事故防止委員会	月1回	情報共有、ヒヤリハット・インシデントの共有、事故記録簿の検証

ケース会議	月1回	支援計画の振り返り、計画見直し
共有会議	月2回	情報共有、連絡事項

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告・伝達事項・情報共有
施設長勉強会	月1回	業務改善の研修・園運営についての協議と研修・ 各園の取り組みについてのディスカッション
食育会議	年4回	食育研修・マニュアル見直し・献立や調理方法の共有・ 各園の取り組みについてのディスカッション
保健会議	年4回	感染症対策・衛生管理・マニュアル見直し
主任会議	月1回	各園の課題改善・マネージメント研修・主任、ミドルリーダーとしての役割の理解
子育ての質を上げる会議	月1回	保育内容を深める、各園の活動内容のディスカッション

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	全スタッフの安全に対する意識の向上、施設における様々な安全点検と対策に取り組む
防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成、防火管理上必要な業務を計画的に行う、自主点検の確認
食品衛生責任者	食品取扱いに関する業務、施設の衛生管理やスタッフの衛生教育
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防、畑に必要な土や苗などの発注・管理
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善、餌の管理、卵の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協同的に企画・準備・進行を行う。
運動会係	企画・準備・役割分担・進行を行う。
生活発表会係	企画・準備・役割分担・進行を行う。

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・人格形成の基礎となる重要な時期に、一人ひとりと密に信頼関係を築き、ゆとりのある保育を心かける。 ・一人ひとりの子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する。 ・保育者との信頼関係の中で安心して園生活を送る。保育者に見守られながら遊びを十分に楽しめる環境のもと人間関係を築き様々な経験をする。
	下半期 0～1歳児	・生活に必要な言葉がわかり身の回りの事を自分でしようとする。 ・簡単な言葉で気持ちを表現し、友達や保育者と関わる。 ・色々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる。 ・様々な運動遊びを通して生活に必要な動きを身につける。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・子ども本来の姿である遊びが十分に出来る環境の中で、一人ひとりが充実して遊び、仲間意識や集団活動の楽しさを感じる。 ・様々な体験や遊びの中で自分を発揮し、表現する意欲と協調性や社会性を育てる。 ・素話や紙芝居等の読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす。 ・動植物の飼育栽培の体験を通じて自然物や小動物の命の大切さを養う。
	下半期 2～5歳児	・自分たちで考えた遊びを意欲的に取り組む。 ・子どもたちが主体的になり、目的を持ち継続性のある遊びを楽しむ。 ・自分のイメージした物を色々な方法で表現する。 ・自然界の中で発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる。 ・異年齢での関わりの中で相手を受け入れる気持ちや思いやりの気持ちを育んでいく。 ・グループ活動から自信を持って自己表現をする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	よく遊び、よく食べる子を育てる。
	実践予定内容	・空腹感を感じて意欲的に食べる。 ・様々な食材に触れる中で自分が食べられる量を調節し、時間や場所を選択して食べる意欲を持つ。 ・スタッフ全員が子どもと一緒に食卓を囲み、美味しさを共感しながら食べる。
2	計画・ねらい	加工や命をいただく経験から食の循環を知る。
	実践予定内容	・魚を解体する様子を見て、命をいただく活動の実践をする。 ・畑で育てた物や食育活動の中で加工品作りの体験をする。
3	計画・ねらい	様々な食材に親しむことで食への興味を広げる。
	実践予定内容	・畑で野菜を栽培し、収穫したものを味わう。 ・米研ぎ、野菜洗い等食事作りに積極的に関わる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃･･･手足口病、プール熱、とびひ 12月頃･･･感染症胃腸炎、インフルエンザ

発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 フェキソフェナジン･･･1名より預かり済み／鍵付き書庫内にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在24名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては6月末までに受講予定
その他保健に関する取組	年間保健計画作成 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	安心して過ごせる環境作りをする。
	実践予定内容	・必要な物が整理整頓された空間作りをする。 ・保育室内・外の安全な環境整備のための工夫をする。 ・定期的な点検、整備、改善、衛生管理の徹底を継続的に行う。
2	計画・ねらい	伸び伸びと遊べる環境や、自ら考えて行動できる場所作りをする。
	実践予定内容	・何に興味を持っているのか、何を必要としているのかをこどもの様子から読み取り、日々変化のある環境設定をする。 ・子ども間でのぶつかり合いや葛藤を調整しなければならない機会が得られるような環境や言葉掛けと介入をする。 ・子どもが玩具・教材・絵本・運動遊具等選択できる環境つくりを考える。
3	計画・ねらい	園庭の環境充実。
	実践予定内容	・園庭での遊びが充実できるようにどんなものが必要でどんなコーナーにするのかを話し合い、日々変化のある環境構成にする。 ・園外ではなく園庭でしかできない体験がどんな事なのかを考え保育に生かす。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	駒台	3・4・5歳児保育室	毎日
2	肋木	1・2歳児保育室	毎日
3	ベンチ	園庭	毎日
4	棚	1・2歳児保育室	毎日
5	ゴミ箱	縁側	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアル№3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救命資格取得(継続)手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従

		う。
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№３のケガ事故防止策・安全点検と保全(P.14～)に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットに基づく事故検証の実施。(事故防止委員会)
3	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策(P.20～)に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアル№３の光化学スモッグ対策(P.21～)に則り、光化学スモッグの知識を身につけ注意法発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生じ対応および行政連絡に従って対応する。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

地域の小中高生に職業体験や福祉体験が出来るようにする。実習生については沢山受け入れ現場で学べる充実感が味わえるようにする。また、保育の楽しさを現場のスタッフが伝え次世代育成の支援を行う。

1	実践予定内容	中高生の体験学習を受け入れる。
2	実践予定内容	関連学校と連携を取りながら、保育士・栄養士志望の実習生を積極的に受け入れる。
3	実践予定内容	ボランティア学生を受け入れる。

７.スタッフ育成と研修計画

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理について ③ 虐待防止研修・人権チェック	・ハザードマップ、ルートマップ等園外活動についての共有。 ・災害への対応と心構え。 ・ケガケーススタディ。
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者対応・接遇について	・園長大学®･保育士大学『保護者に感動していただける接遇とは？チームで身につける「おもてなし力」』

			視聴後ディスカッション。 ・保護者対応、電話・来客対応。
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 命について考える	・園長大学®・保育士大学『楽しく安全な水遊びのために水辺のリスクマネジメント』視聴後ディスカッション。 ・水遊びマニュアルの確認。
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育について考える	・園長大学®・保育士大学『乳幼児期に大切に育みたい力とは？』視聴後ディスカッション。
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境作りを考える。	・園長大学®・保育士大学『その室に環境大丈夫？空間設計の視点から学ぶ「心を育てる保育環境」』視聴後ディスカッション。
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 架け橋プログラムについて深める	・園長大学®・保育士大学の『円滑な小学校接続は保育者次第！』の講座を元に架け橋プログラムを考える。
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修 ③ 虐待防止研修・人権チェック	・保育業界の動向を知る。 ・運営方針を知り、いま必要な事をディスカッションする。
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 表現を深める	・園長大学®・保育士大学の『感覚科学×保育を研究！「触って感じる・表現する」体験活動の進め方』視聴後ディスカッション。
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 音楽指導を深める	・園長大学®・保育士大学の『音楽はもっと自由でいい』視聴後ディスカッション。
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿を深める。	・10の姿の体得に向けてグループ発表をし、内容を深める。
２月中	18:00～21:00	策定会議①	振り返り 来年度の運営方針
３月中	9:00～18:00	策定会議②	運営部ミッションを踏まえた来年度の計画。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月末までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもたちが地域の方に見守られながら成長し、自然と挨拶が交わされ関わりが持てるような関係性を作る。また、様々な方との関わりから仕事や地域の活動等子どもたちが知るきっかけとする。
地域に開かれた保育園となり、相談しやすく訪問しやすい園を目指して地域の方に愛される園運営を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：100名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：平方公園にて　　集客目標：30名

商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設との交流
異年齢交流	異年齢児保育の実践 小学校との交流会 他園との交流
地域拠点活動	保護者協働によるどろんこ祭りの開催 ちきえっぐにて園庭開放や自然食堂などの企画開催。 音楽演奏会や勤労感謝交流などの行事参加。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

近隣小学校と交流や連携を行う。幼保小連絡協議会や就学に向けての話し合いを行い、カリキュラムを深めていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	平方小学校 1年生	5名予定	授業参観（平方小校庭）	スタッフ間交流
８月頃	幼保小連絡推進研修会	１名予定	情報交流会・研修	スタッフ間交流
11月頃	平方小学校 1年生	21名予定	持久走見学（平方小校庭）	子ども間交流
2月頃	平方小学校 1年生	21名予定	交流会（平方小教室）	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

・関係機関と密に連携しながら作成し、子どもと保護者の支援を行う。
・ケース会議や子どもの様子より振り返りをしながら見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定　参加者：7名予定）

・担任からみた児童の様子や出来事、他スタッフから見た子どもの様子を話し合い多角面の見方で状況を把握する。

・目標を決め具体的な取り組みを個別の支援計画に記載する。

・検討した支援は速やかに実践し、変化が見られない場合は再検討を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

・進学先の小学校、越谷市子育て支援センター、埼玉県越谷児童相談所、越谷市教育委員会に必要に応じて相談する。

11.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：100名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：20名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：100名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：50名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：平方公園にて開催　集客目標：30名

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年7月３１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１０時００分
自己評価終了予定時刻：１６時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、保育士、調理

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・地域に開かれた子育て内容による、子育て世代の育ちあえる場となる。子育て施設や近隣施設で学びを深めていけるよう環境を整える。 ・保育士のスキルアップへ繋げる。
	振り返り	・行事を通して地域の方に園の取り組みを知ってもらい交流する機会へと繋げることが出来た。また、一時保育が再開したこともあり近隣の方が園へ足を運ぶ方が増えている。 ・保育者が積極的にキャリアアップ研修に参加し保育の質向上に意欲的に取り組むことが出来た。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・越谷市や地域に選ばれた保育園になり、子育て支援として園を利用して下さる方を増やし、近隣の方から愛される園作りをする。 ・保育士が主体的になり学んできたことを現場に生かし保育の質の向上に繋げる。
	重点施策	・子育て支援を充実させ、園を様々な形で利用して下さる方が増えるようにする。 ・保育士が研修で学んだ事を自園の研修に生かして共有出来るようにする。
2026年度	目指す姿	・地域との関係が深まり、様々な角度から積極的に関わり地域一番園としての取り組みを積極的に発信していく。 ・保育について語り合い、保育士同士が刺激し合える関係が作られ、保育の質の向上に繋げる。
	重点施策	・地域の活動に積極的に関わり、選ばれる園へと繋げていく。また、活動内容を発信し新しく利用する方も増やしていく。 ・保育についてディスカッションできる場を多く持ち保育を語り合う場をたくさん設けられるようにする。

2027年度	目指す姿	・地域に根付き、様々な方に保育内容や取り組みが理解されると共に、地域の保育に貢献していく。 ・保育士自身が自信を持って保育を行い、より良い意見を交わしチーム保育が確立する。
	重点施策	・保育所保育指針を読み解き実践している事をより多くの保育園でも行われるように自園から発信していく。また、その実践より選ばれる園を継続していく。 ・保育園全体がどんな事にもPDCAサイクルを行い、自信をもって保育士が自園の保育を様々な場で語れるようにする。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：越谷どろんこ保育園　施設長　鈴木 聡子

２０２５年度　志木どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人理念
「にんげん力。育てます。」
法人保育方針
「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

2025年度 施設運営方針

①「豊かに生きる力」を育むために、生活力・選択力・思考力を培う
②想いあい、認め合う経験を通して大人も子どもも共に育ちあう
③基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム・散歩9時出発・畑仕事・縁側給食・商店街ツアー・青空保育を実施し、その中で質を大事にする

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力・選択力・思考力を培う
	実践予定内容	子ども一人ひとりの育ちを把握し、見通しを持った保育を行う。 子ども同士で話し合う・順番を決める・自分の意見を述べることができるような環境構成をおこなう。
2	計画・ねらい	スタッフが自分の保育を語れる集団になる
	実践予定内容	子どもの生活・遊びは学びであり、遊びを通した子どもの学びに気付き、学びの道筋をスタッフが考える。 子どもが何に気付き、何を学び、どう支援するかの手立てを言語化し、その過程を視覚化する。
3	計画・ねらい	食の循環を経験し、知る
	実践予定内容	大人と子どもとで、一緒に畑仕事や堆肥つくり、動物の世話を行う中で食べ物ができるまでの過程や命の尊さを知る。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	思いやり・誠実さ・謙虚さを持って対応する。
	実践予定内容	相手が心地よいと感じる接遇を心掛けていく。 お迎え対応時に子ども自身が頑張ろうとした姿、葛藤した姿などを丁寧にお伝えする。
2	計画・ねらい	保護者との共育ち
	実践予定内容	保育参加への積極的なアプローチをするなどし、子どもの成長を丁寧に伝えていく。言語化・可視化をしながら育児に対する不安を解消できるように共に考え、面談等を通して対話し子育ての楽しさを共有していく。
3	計画・ねらい	保護者間コミュニティの構築

	実践予定内容	どろんこサポーターズと協動しながら、保護者間の繋がりを強めていく。 頼り、頼られ合いながら、信頼関係を築き、どの家庭も孤立することのないようにかかわりを繋いでいく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐの認知度向上
	実践予定内容	「ちきんえっぐ」のおたよりを公共機関に配置を行い、地域の子育て世代に興味を持ってもらう。 子育て世代との交流を充実させ、地域子育ての拠点としての役割を果たしていく。
2	計画・ねらい	子育て支援の質の向上
	実践予定内容	子育てに関する相談や援助、利用者のニーズに柔軟に対応し、地域に開かれた子育て支援を実施する。
3	計画・ねらい	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める
	実践予定内容	どろんこ祭りや、焚火などの地域の方が参加できる行事を設けながら、交流を深め、地域に開かれた保育園を目指す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの思考の補助線を引く
	実践予定内容	スタッフは自身の強みと弱みを理解し受け止め、目標に向かって必要な知識を本や研修・園長大学の視聴等で自ら学ぶ機会を創り、常にアウトプットして実践に活かす。
2	計画・ねらい	保育所保育指針の１０の姿を体得する
	実践予定内容	１０の姿について、園内研修を通して学び合う。子ども一人ひとりの幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見通しながら、特に協同性、社会性、道徳性、規範意識を中心に子どもの育ちの指標を理解する。
3	計画・ねらい	スタッフの自己肯定感を高め、チームとしての連携を大切にする
	実践予定内容	スタッフは日頃の保育の中で、お互いの強みと感じることを伝えあい、それぞれの存在意義を確認することで自己肯定感を高める。 施設長・主任・リーダーは職員一人ひとりのモチベーションを探り、自分の気づきを具体的に伝え、アドバイスをすることで、信頼関係を築いていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	常に美観が保たれる保育園
	実践予定内容	園庭にクローバーの種植えを行い、緑豊かな保育園をつくる。 保育室内は常に清掃が行き届き、誰が来ても心地よさを感じることができる施設であり続ける。
2	計画・ねらい	食材の循環と有効活用
	実践予定内容	食事の廃棄を減らす、残渣をコンポストへ利用するなどの活用実践をおこなう。

3	計画・ねらい	環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	毎日の生き物世話や小屋掃除・畑仕事を通して循環教育を行う。また、ヤギの出産を通して命の誕生を見る機会を設定する。

〈6〉大人も子どもも自己成長できる環境

1	計画・ねらい	職員それぞれの強みを生かしたチーム保育
	実践予定内容	スタッフは自分の強み弱みを理解し受け止め、学び合うことで同僚性を強める。
2	計画・ねらい	職員の年間目標のPDCA化
	実践予定内容	園の課題を見極めて、成長に必要な研修を行い、常に保育のアップデートを行う。 全スタッフが年間目標を設定し、主任・リーダーとフィードバックと課題の抽出を行い、PDCAサイクル化をして客観的視野で目標を達成できるようにしていく。
3	計画・ねらい	子どもが自身で判断できる環境
	実践予定内容	子ども間での想いのぶつかり合いや葛藤できる機会を得られるように、物の数や置き場所を構成し、必要な場面での言葉掛けを行い、自分の気持ちの伝え方、友達の気持への気づき、我慢することを身につけられるようにする。

〈7〉保護者との信頼関係の構築

1	計画・ねらい	保育参加率の向上
	実践予定内容	保護者支援係を設置し、定期的に保育参加の案内を行い、保育参加を通して、日々の保育園での生活を理解していただく。 また、保育参加後に様子などを視覚化で掲示を行い、多くの保護者に興味を持って頂く。
2	計画・ねらい	保護者と共に施設の環境整備を行う
	実践予定内容	保護者との協働で園庭改良や美化活動を行う。
3	計画・ねらい	園の保育・サポーターズ活動の可視化
	実践予定内容	保育園の活動を日々のお迎え伝達や掲示で発信する。サポーターズの活動も可視化することで、保育園の活動の理解を深めていただく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	用務	2人	事務	1人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー/園内研修計画内容
給食運営会議	月1回	食育計画/献立内容見直し/喫食状況(残食の記録簿) 検食簿指摘事項の改善/配膳方法/食育活動実施内容 給食提供マニュアル及び運用ルールの作成見直し
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策の策定/全国事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察 要支援児個別計画の見直し
環境会議	月1回	マニュアルに沿った保育の見直し/ 物的環境及び人的環境の改善
保護者・地域支援会議	月1回	保護者・地域・どろんこサポーターズとの関係構築、支援

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	コンピテンシー、各園の運営状況報告、各部署からの報告、運営状況の見直し
施設長勉強会	月1回	園運営に係る相互学習や検討、各種マニュアル等の改定、検討

食育会議	年4回	給食の内容の見直し/食育マニュアルの見直し/各園の取り組みの共有
保健会議	年4回	保健マニュアルの見直し/ケース検討
主任会議	月1回	主任業務の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成と実施
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成と実施

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
環境係	マニュアルに沿った保育の見直し/ 物的環境及び人的環境の改善
保護者・地域支援係	保護者・地域・どろんこサポーターズとの関係構築、支援
防火管理者	災害全般の予防・対策の取り組み実践
食品衛生責任者	日々の食事や食育プロジェクトの企画と実践の中心
畑係・生き物	農業計画に沿った畑の維持管理と活動準備、および可視化

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
入園式、卒園式係	入園式、卒園式の準備
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズと連携をとり、保護者と協同して内容の企画、運営を行う。
運動会係	子どもの心身の発達を、運動を通して保護者と共有する。保育の継続性に重きを置き、日常の保育の延長にする。
生活発表会係	年間の園生活での育ちを全体的に保護者と共有するために、可視化及び実際に体験できるように企画する。

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・新しい環境に慣れ、生活のリズムを作る。 ・自我を発散できるように、安心できる人間関係を築く。 ・集団の中で自分の存在を知り、他者とつながっていく。
	下半期 0～1歳児	・活動に自ら関わり、様々な体験を積み重ね、興味関心が広がる。 ・表現の基礎となる多様な実体験を通じて、感性が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢での大きな集団で過ごし、仲間との関わりの自己を確立していく。
	下半期 2～5歳児	・選択や自己決定により、主体的に過ごすことができるようになっていく。 ・様々な自己表現を通して、集団を作っていけるようになる。 ・仲間との協同を通して、自分の思いと仲間の思いを照らし合わせるようになる。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２６年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２６年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	健康な心と体を育む
	実践予定内容	健康な心と体を育むために身体を使う遊び十分に行い、お腹を空かせ意欲的に食べる。
2	計画・ねらい	整えられた空間で心地よく食べられるよう連携する
	実践予定内容	子どもが「おいしそう」と思えるようなきれいな盛りつけ、食事環境を心掛ける。職員が食べ物への興味を誘う言葉掛けを意識することで、子どもへの食への関心を育てていく。
3	計画・ねらい	SDGSを視野に入れた食の循環の学びと実践
	実践予定内容	「自分で」育てる、食べる、活用するなど循環にかかわる活動を行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	・手洗い指導 ・歯磨き指導 ・ワクチン接種確認
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･２名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在19名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6・10月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	環境改良プロジェクト
	実践予定内容	「子どもの発達にあった環境」「子どもが自ら経験の選択することができる発達に沿った物的環境の設定」を月ごとに見直し
2	計画・ねらい	子どもと共に作り上げる環境設定
	実践予定内容	子どもが話し合う機会を作り、自分たちの環境の充実についてレイアウトやルール制定などを共に考えて作り上げる。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	玩具棚A	幼児室	毎日
2	ベンチA	園庭	毎日
3	ベンチB	園庭	毎日
4	木製掲示板A	事務所	毎日
5	木製掲示板B	給食室前	毎日
6	玩具棚B	園庭	毎日
7	水槽台	玄関前	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	子どもが話し合う機会を作り、自分たちの環境の充実についてレイアウトやルール制定などを共に考えて作り上げる。
2	実践予定内容	事故防止チェックリストの活用
3	実践予定内容	設備点検チェックリストの活用
4	実践予定内容	毎月の法人事故防止委員会における、施設長間での事故防止の検討
5	実践予定内容	毎月の園内事故防止委員会における事故防止検討実践（数値データによる分析・図面による可視化を行う。）
6	実践予定内容	法人内事故記録簿の職員共有。
7	実践予定内容	ハザードマップ作成の見直し

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当グループでは実習生・研修生を積極的に受け入れます。

1	実習受け入れ	保育士・栄養士・調理師の実習受け入れを行い、実際の現場において行う業務や役割への理解を全面的にサポートする。
2	インターンシップ受け入れ	保育現場がどのような日々なのか丁寧に伝える。担当者は質問や疑問に細かに答えていく。
3	職業体験受け入れ	中高生の職業体験は、社会や職業を知る機会として受け入れしていく。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②子どもの人権について・虐待防止研修 ③危機管理	①具体的アクションと振り返り ②セルフチェックの実施/子どもの権利条約
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇	①具体的アクションと振り返り ②接遇の共通理解
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	①具体的アクションと振り返り

		② 水遊びの安全管理 ③ 子どもの視点	②水遊びのリスク管理 ③事例をもとに考える
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートから	①具体的アクションと振り返り ②昨年度の利用者アンケートから分析
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食育	①具体的アクションと振り返り ②子どもの食に関する研修
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校の実態把握と連携	①具体的アクションと振り返り ②小学校の実態理解
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権について・虐待防止研修	①具体的アクションと振り返り ②セルフチェックの実施/子どもの権利条約
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿について	①具体的アクションと振り返り ②10の姿から子どもの姿を探る
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿について	①具体的アクションと振り返り ②10の姿から子どもの姿を探る
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 行事振り返り	①具体的アクションと振り返り ②行事の振り返りと次年度の計画
2月	18:00～20:00	策定会議①	事業計画の振り返り/次年度の計画
3月	9:00～18:00	策定会議②	次年度の行事/活動計画の制定

〈2〉外部研修への出席

①「エリアで学び合う基本活動の理解」
内容：基本活動の深い理解と取り組みについて
日程：4月合同研修内

②「火・水・土を通した子どもの学び」
内容：自然の事象や変化、道具の使い方の理解を深め、子どもの探求心や自分で考えてやってみる力を育むための研修
日程：１０月頃予定

③「救命救急講習」
園内で消防士にきていただき、救命救急講習を実施する。

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	10月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。

また、積極的に園開放することで、地域の子育てに貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：すみれ児童公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人福祉施設訪問 交流会、園行事招待
異年齢交流	小中高学生の職場体験受け入れ

地域拠点活動	どろんこ祭り、子育てちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

宗岡小学校、宗岡第三小学校を中心に、以下計画を進めていく。
保育・授業見学による、保育士と小学校教諭の相互の学びの機会を作る。
５歳児の保育要録の提出に加え、成長を共有する機会を持つことで、保育園と小学校の連携し、アプローチカリキュラム作成につなげる。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を　２月　５日（水）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
４月頃	宗岡第三小学校	職員２名	授業参観（宗岡第三小学校）	職員間交流
11月頃	宗岡第三小学校	20名予定	授業見学（宗岡第三小学校）	子ども間交流
2月頃	宗岡第三小学校	職員２名	情報交換	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

■個別支援計画を毎月作成し、必要に応じて見直しを行う。
■全職員が周知し、子どもの成長発達を同じ視点で対応していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：6名予定）
■毎月の会議で子どもの様子・対応についての検討・報告を行う。
■必要に応じた対応と課題について検討していく、職員全員が家庭状況も踏まえ、共通した対応を行っていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

■進級引継は書面と引き継ぎ会議で行う。
■小学校への引継ぎは、児童指導要録、また各校の担当職員との面談によって行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（木）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：すみれ児童公園にて開催

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年2月までに「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：19時30分
自己評価終了予定時刻：20時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	保護者、地域と子どもの共育てを考え、頼り頼られ合う関係の構築
	振り返り	・保育所保育所保育指針１０の姿に基づき、目指している保育内容の可視化に努め、保育内容の過程の可視化を努めた。保護者に保育内容に興味を持っていただくきっかけとなる。 ・保育参加についても平均ひと月に1名～2名のご参加を頂き、保育園をオープンにし、活性化を図った。保護者参加行事も拡充し、協働の機会が増えた。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・保護者や地域と協力し、相手の立場を思いやり、愛される開かれた保育園を目指す。 ・子どもの主体性を育むためのかかわりやそのために必要な環境をスタッフ同士で考え、子どもの興味に合わせた環境を構築していく。
	重点施策	・施設長や主任・リーダーが日々の保育での課題感を抽出し毎月の園会議で課題点を取り上げた研修を行う。 その学びを園内で学び合うことで、園全体の保育の質の向上に繋げる。
2026年度	目指す姿	・保護者、地域に愛され、頼り頼られる関係の中でそれぞれの立場を思い合う。地域のこども達が「豊かに生きる力」を体得できる場所とする。 ・目の前の子どもの姿から必要なことにすぐに対応し、子どもの願いを読み取れるようになる。
	重点施策	・地域に愛されるために、園外への発信の強化を行う。地域団体との結びつきを広げると同時に強め、相互の信頼関係の発展を目指す。 ・目の前の子どもたちに必要なことや思いに寄り添う為に、スタッフ間で気づきを共有していく。また、スタッフが学び続け、保育の見直しを常に行っていく。
2027年度	目指す姿	・地域の子どもたちが「豊かに生きる力」を体得するために、スタッフ、保護者、地域の大人が、子どものために必要なことを提案、実行できる。 子どもの主体性を育むために興味や発達に合わせた環境の構築を繰り返し行っていく。
	重点施策	・保護者や地域の方に自園の保育を発信・理解していただく。 ・子どもの「やってみたい」気持ちを経験し、自立心を育む。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：志木どろんこ保育園 施設長　柳澤麻衣子

２０２５年度　板橋仲町どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

・社会福祉法人どろんこ会の理念「にんげん力。育てます。」
・子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
・「わたしたちが育てる６つの力」
① けがをしない強い体を育てる
② 自分でできることを自分でする
③ 全ての関わりから判断、行動を身につける
④ 活動を選択し、自分で考え行動する
⑤ 生死を知る・食の循環を知る
⑥ 感じたこと・考えたことを表現する
を基本として実施していく。

【目標】人格形成の基本を育てていくために毎日の時間を大切にした保育を続けていく
2025年度運営本部ミッション
『原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～』
①基本活動（座禅、雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム、長距離散歩、商店街ツアー、銭湯での裸の付き合い、ヤギや鶏の世話等）を深く理解した上での実践
②「畑仕事・生き物の世話・堆肥作り」を確実に丁寧に行う
③健常児も障害児（異年齢保育、インクルーシブ保育）も生きる力を獲得する

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ケガをしない強い体を育てる
	実践予定内容	裸足保育・草履保育、座禅、雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム、長距離散歩
2	計画・ねらい	自分でできることを自分でする
	実践予定内容	畑仕事、縁側給食、自分たちで食事の盛付け
3	計画・ねらい	全ての人との関わりから判断・行動を身につける
	実践予定内容	異年齢保育、インクルーシブ生活、銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育
4	計画・ねらい	活動を選択し、自分で考えて行動する
	実践予定内容	火と関わる、水と関わる、土と関わる、焚き火保育
5	計画・ねらい	生死を知る
	実践予定内容	ヤギ・鶏・生き物の世話、生死教育、食材と食の循環を知る、性教育
6	計画・ねらい	感じたこと・考えたことを表現する
	実践予定内容	言葉で表現する、描く・つくる、就学前教育（読み書き計算・体操・音楽）

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の子育てに対する様々な悩みや疑問などに寄り添い、どう解決していくかの方法を導き出せるようにサポートをし、喜びや充実感が得られるように支援をしていく中で、成長した姿を一緒に喜び合う
	実践予定内容	日々のお迎え対応や連絡帳でのやり取り、保護者懇談会、個人面談月間、保育体験
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良いと思える施設にする
	実践予定内容	整理整頓、チェックリストを用いた清掃、利用者や訪問者の視点に立っての省察・仕組み作り

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援行事について積極的な宣伝を行い、保育園が身近な子育て支援の場としての位置づけになるようにする
	実践予定内容	園の開放及び親子でクッキングを楽しむ自然食堂、親子で製作などを楽しむ自然学校、子育てに関して学ぶ寺親屋、保育園との子ども達と交流をする青空保育
2	計画・ねらい	板橋仲町どろんこ保育園の保育内容を紹介すると共に、子育ての見通しが持てるように支援を行う
	実践予定内容	保育体験、出産を迎える親の体験学習
3	計画・ねらい	地域の人や生き物（ヤギやニワトリ）との触れ合いを通して、自然との関わりや地域とのつながりを持つ
	実践予定内容	ヤギやニワトリ等の生き物の世話、商店街ツアー、他園交流

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標に沿った個人の目標設定を行い、目標達成の過程を一緒に考えて進めていく（生活力、10の姿の体得）
	実践予定内容	目標管理シートによる個人目標設定、定期的な話し合いや個人面談、定期的な施設長や主任の保育同行
2	計画・ねらい	リーダーを中心に年間を通したコンピテンシー計画を立て、保育を深めていく
	実践予定内容	毎月全体会議や昼礼でコンピテンシーに沿った課題に取り組む
3	計画・ねらい	次世代を担う職員育成に向けて、職務分野別の仕事を各自に割り振って実施する
	実践予定内容	各職務分野（施設長、主任、リーダー等）の仕事の権限委譲

〈5〉環境実施目標

畑仕事・生き物の部屋・堆肥作りを確実に丁寧に行う

1	計画・ねらい	スタッフ全員が畑仕事に関わり、子どもの学びに繋がるよう工夫する
	実践予定内容	・何ができるか、どう関われるか一人ひとりが自ら考え実践する
2	計画・ねらい	野菜の栽培の中で再生も各種実践する
	実践予定内容	・野菜くずを再生する

		・再生したものを収穫し、給食での利用に繋げる

〈6〉子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境を保障する

1	計画・ねらい	子どもの選択肢が広がる環境を設定する
	実践予定内容	・子どもが使う物、触れるべき物を保育室に置く ・年齢差を考慮すべき場合には環境を整えた時間帯に設定する
2	計画・ねらい	子どもが自分の意志で自由に行き来できる生活の場を保障する
	実践予定内容	・ついたてや玩具棚による仕切りについて都度十分に検討する

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	10人	12人	13人	13人	13人	70人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	4人	事務等	0人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	1人	調理	0人	事務等	1人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	事例検討会、園内研修、ケース会議
給食運営会議	月1回	年間食育計画に基づいた給食と食育運営に関する会議

事故防止委員会	月1回	事故事例検討会、ヒヤリハット・インシデントについて周知する中でどうすれば防げるのかの視点や意識の共有、各種訓練検討会
ケース会議	随時	配慮が必要な園児に関して情報共有、支援検討
昼礼会議	随時	子どもの姿についてのエピソード共有、活動報告、保育計画の確認、伝達、事務連絡等
クラス会議	随時	クラス運営に関することの共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人共通の理解確認と問題提起・課題の検討・研修
施設長勉強会	月1回	施設長の質向上および自園スタッフへの共有
食育会議	年4回	食に関することについての改善・提案・報告・共有
保健会議	年4回	衛生面・感染症等子どもの心身にかかわることの共有
主任会議	年4回	園運営・保育運営に関すること
子育ての質を上げる会議	月1回	グループ毎による各園の保育活動の取り組み発表、評価、振り返り

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	施設衛生管理、衛生自主点検の実施、感染症予防対策
安全対策係	怪我防止、危険箇所把握、安全点検
防火管理者	災害対策、避難訓練防災計画作成と実施、自主点検実施
食品衛生責任者	衛生点検実施、食品の衛生品質管理
畑係	畑の年間農業計画推進把握、畑の管理全般、食育計画
生き物係	生き物の飼育に関する管理
環境整備係	子どもの姿に合わせた環境整備 丈夫な体作りの環境整備
地域交流係	商店街ツアー・青空保育計画、地域交流計画と実施、

	地域行事参加の対応

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、実施
運動会係	運動会の計画、実施
生活発表会係	生活発表会の計画、実施

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育者は一人ひとりの要求を優しく受け止め、愛情豊かに受容的応答的に関わることにより、信頼関係を築いていく ・保育者と一緒に友達と関わって、心地よい生活を送れるようにする ・健康状態や家庭環境に配慮しながら、一人ひとりが快適に生活できるようにする
	下半期 0～1歳児	・散歩や戸外遊び、全身運動を十分取り入れ身体能力の向上に努める ・自分のことを自分で行おうとする意欲を引き出し、自分でできた喜びを味わえるように援助する ・挑戦が次の意欲に向かうように自分でしたいという気持ちを大切にし、難しいときには手を差し伸べながらやる気を引き出し、満足感を味わえるようにする
幼児保育	上半期 3～5歳児	・保育者との信頼関係のもと、自分の思いを十分に表現できる ・生活リズム、発達過程、保育時間等に応じて活動内容の調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする。 ・保育者との信頼関係を基盤に、一人ひとりの子どもが主体的に活動できるようにする
	下半期 2～5歳児	・個々の子どもの置かれている状況や発達状況などを的確に把握し、子どもの欲求が適切に満たされるようにする ・自発性、探索意欲などを高めるともに、自分への自信が持てるように成長過程を温かく見守り、適切に働きかける ・周囲から大切な個人として受け入れられ、主体的に育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする
保育参加	4～3月	・希望する保護者が参加/保育参加アンケートにご記入いただく

保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案チャット」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	日々の食事が子どもたちの食べる意欲（食育）につながることを意識した関わりを行う
	実践予定内容	調理者と保育者の連携を密にし、食事提供する時間、基本的な食事量を把握し、子ども自ら盛り付け、配膳ができるように見守り必要に応じて援助をする
2	計画・ねらい	子どもたちが食事の時間を日々楽しみにするような食事を提供する
	実践予定内容	季節の旬な食材、新鮮な食材を使用して噛む力を育て、素材本来の味を感じられる状態で提供する。また、おいしく食べられる状態と温度で提供できるように配慮する。
3	計画・ねらい	畑で収穫した作物を使ってクッキングをし、新鮮な素材の香りや味を味わい、食の意欲に繋げる
	実践予定内容	畑活動、毎月の食育活動

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）　0歳児クラスは毎月
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導、うがい手洗い指導、その他健康に関する指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス、インフルエンザ 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 夏季…手足口病、ヘルパンギーナ等 冬季…感染症胃腸炎等

発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップは現在3名預かり済み／冷蔵庫にて保管 （3名とも37.5度で使用）
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２３名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については3月19日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在２３名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては3月19日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･11月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/ 保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6･10月 0歳児のみ年12回実施 歯科健診 年1回/6月

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが気持ち良く生活できるような環境にする
	実践予定内容	全スタッフが担当する室内整備を心がけ、玩具の清潔、水周り、棚の上の整理整頓、ガラス窓などを常に清掃し、綺麗な状態を保つ
2	計画・ねらい	子どもたちの興味関心に合わせた環境を構成する
	実践予定内容	探究心や観察力が芽生える遊び、数量や図形、標識や文字に親しむ体験が積める環境を、環境係が中心となって全スタッフで考えて進めていく
3	計画・ねらい	子どもが自らあそびを見つけ、楽しみ方を工夫する
	実践予定内容	玩具棚の配置や玩具の置き方、玩具の量や種類等を子どもたちの成長や興味を考慮し常に検討する

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	名札立て	玄関	毎日
2	靴箱	1階縁側	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	・危機管理マニュアルを基本とし、あらゆる事故を想定し事前の予防対策に配慮する ・常日頃より予測を怠らずに保育にあたり、怪我や事故防止に努める
2	実践予定内容	・ヒヤリハット、インシデントを記入することを習慣化し、週会議において情報共有することで大きな怪我を未然に防いでいく ・事故防止委員会において重要な視点の共有、自園・他園の事故記録簿の事故の検証を行い、怪我の防止につなげる。
3	実践予定内容	・事故が起きたことを想定し、緊急時フローチャートの共有と年2回事故を想定しての訓練を実施する。
4	実践予定内容	・毎月1回防災避難訓練を実施し、訓練後の省察、改善（記録に残す）を繰り返し行う ・緊急時にも慌てずに速やかな対応と行動をすべてのスタッフがどの時間帯でも行えるようにする
5	実践予定内容	・保育中は施錠の徹底をする

		・年２回の不審者侵入訓練を行う ・子どもの安全を守ることを最優先に、迅速な対応がとれるよう警察署とも連携して指導を受け非常時に備える
6	実践予定内容	・室内ハザードマップ、戸外ハザードマップ、公園内ハザードマップをスタッフが見える場所へ設置し年4回見直しを行う ・危険箇所が増えた場合には、速やかにハザードマップ上に記載して、全スタッフに周知する。
7	実践予定内容	・光化学スモッグ発生時期には区役所などの情報機関が発信する情報のこまめなチェックをおこない、光化学スモック発生時には屋外での活動を控え、速やかに屋内に入る。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

「目指せ！未来の保育士」

一人でも未来の保育士を育成できるよう「保育」の仕事のやりがいや楽しさに触れる体験を行う

1	実践予定内容	・人事採用部と連携を取り、保育、社会福祉系大学、養成校等からの実習を積極的に受け入れ、丁寧に指導を行う ・実習生、ボランティアの指導を通してスタッフ自身が保育を見直す機会にしていく
2	実践予定内容	・夏休み期間に卒園児（小学1年生～3年生）におたよりを送って、保育体験を募集する

７.スタッフ育成と研修計画

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 動画視聴 保育所における危機管理 ③ 人権チェック ④ 虐待防止研修	①前月コンピテンシー振り返り ②ハザード箇所の再確認と共有 ③④子どもの人権について振り返る
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 動画視聴 災害対策の基本的な考え	①前月コンピテンシー振り返り ②共有と確認　設置場所について
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	①前月コンピテンシー振り返り

		②動画視聴 プール活動監視のポイント	②遊びを確保するための危機管理
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 動画視聴　　環境は保育を変えるきかっけに	①前月コンピテンシー振り返り ②十分に遊びこめる環境の工夫
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 動画視聴 子どもの権利を考える	①前月コンピテンシー振り返り ②自らの保育を振り返る
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 動画視聴 飼育・栽培のデザイン	①前月コンピテンシー振り返り ②畑仕事と食育を考える
10月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 動画視聴　全体研修 ③ 人権チェック ④ 虐待防止研修	①前月コンピテンシー振り返り ②視聴後ディスカッション ③④子どもの人権について振り返る
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 動画視聴	①前月コンピテンシー振り返り
12月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査について	①前月コンピテンシー振り返り ②内部監査の理解を深める
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	①前月コンピテンシー振り返り
2月20日	18:00～21:00	次年度行事計画の策定	前年度振り返り　課題に向けて
3月1日	9:00～18:00	次年度行事計画の策定	次年度の計画立案

エリア研修予算内訳（６園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		6園で按分した自園負担額
4月12日	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
		個人負担費	1600円	
11月8日	7,700円	講師代	6,200円	0円 板ど/大山/中板/成増/東練/バジ
		講師交通費	1,500円	
合計	7,700円			0円

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴予定（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

「地域から愛される保育園」

開園13年目。仲町地域の保育園と連携し地域に根差した保育園になっていく

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：30名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：山中児童遊園にて　　集客目標：30名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域との交流（自治会、老人会、こども会、商店会）を感染症状況に応じて実施する
異年齢交流	小・中・高校生などの職場体験の受け入れや実習生の受け入れも積極的に行う（感染症状況に応じて）

異文化交流	「多言語・多文化」に触れる体験を行う（感染症状況に応じて）
地域拠点活動	近隣の認可保育園と連携し、地域との密接な交流をする（ヤギとの交流や体験活動等を介して）
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉（但し悪天候、猛暑日、極寒期は除く）

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

「地域小学校との円滑な連携が図れる関係作り」

小学校への円滑な接続を図るために「保育園長・幼稚園長・地区小学校校長連絡会（板橋地区）」へ参加し、情報交換や連携が取れる関係作りをする。また、学校行事や公開授業にも感染症状況に応じて参加する。

「小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する」

近隣小学校へこちらから連絡をとって板橋区の小学校では現在どのような教育が行われているのかを見て知った上で、保育園ではどのようなアプローチカリキュラムが必要かを考えて実践していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月２１日(月)より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
12月頃	弥生小学校	15名予定	校内見学	授業参観
2月頃	板橋第6小学校 板橋第8小学校	15名予定 15名予定	校内見学 校内見学	授業参観 授業参観
3月頃	中根橋小学校	15名予定	校内見学	授業参観

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

・法人内発達支援施設との連携を図る
・要支援児と他の子どもたちとの育ち合いも視点にいれる
・保育園でどのような支援が必要かスタッフ同士で考える
・丁寧に関わることで社会において安心して生活し、個性を磨くことのできる支援をしていく

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定　参加者：5名予定）

スタッフ全員が同じ目線で子どもを保育できるよう昼礼時にケース会議を盛り込み、園全体で子どもに必要な援助を考える。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級

各担任から一人ひとりの詳細な情報を引き継ぎ慎重に新年度を迎えられるよう留意する

進学

保育所児童保育要録の送付とともに、引継ぎが必要な事項に関しては直接引継ぎの時間を設けていただき、子どもたちがスムーズに小学校生活を送れるように連携を図る

11.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）　9:30～16:30　　集客目標：10名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：20名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：山中児童遊園にて開催　集客目標：10名

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１月２３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：　８時００分

自己評価終了予定時刻：１７時００分

自己評価実施予定者：施設長、主任、各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・在園家庭への支援のみならず、在宅子育て家庭の方に「ここに来ると話を聞いてもらえる」「心が和む」と言っていただけるよう、利用者の心に寄り添う関係を育める人間性と専門性を身につける。 ・子どもの発達を語る（保護者の方に適切に伝える）ことができるように、知識をアウトプットする機会を設ける。
	振り返り	・園見学の連絡や地域でお会いした家庭に積極的に保育体験を勧めたことで、園児の姿や保育内容だけでなく、子育ての相談についても対応することができた。 ・子どもの発達や成長を語ることができるように、園会議の際に各クラスで子どもたちの姿（ポートフォリオ）を職員に伝える体験を行うことで、保護者に対しても伝えられるようになってきた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

原点回帰：基本活動を深く理解し、保護者がより安心して預けられる園を目指す

2025年度	目指す姿	法人理念を理解し、基本活動を忠実に実施する
	重点施策	・日課のねらいを理解し、子どもたちの手本となる ・スタッフ全員が主体的に日課に取り組む ・自園の状況にあった内容を工夫する
2026年度	目指す姿	法人理念に則した保育内容が保護者に十分発信される
	重点施策	・お迎え対応での話す内容は、法人理念を理解した上で工夫する ・日常のエピソード等について写真を使い発信する ・入職3年目以降のスタッフは見学対応を経験する
2027年度	目指す姿	スタッフが自信を持って保育にあたり、保護者に法人理念が浸透する
	重点施策	・法人理念について全員が語る ・定期的に保護者の声を集める

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：板橋仲町どろんこ保育園 施設長　中島 紗規子

２０２５年度　P'sスマイル保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

保育理念・・・「にんげん力。育てます。」
保育目標・・・「センス・オブ・ワンダー」
「人対人コミュニケーション」
私たちが育てる６つの力
「ケガをしない強い体を育てる」「自分でできることを自分でする」
「すべての人との関りから判断・行動をみにつける」「生死を知る　食の循環を知る」
「活動を選択し、自分で考えて行動する」「考えたこと・感じたことを表現する」

「原点回帰」毎日の時間を大切に人格形成について質高く確実に丁寧に行う。スタッフはその子の保育園生活は今しかないことを理解して、子どものすべてを受け入れスタッフは日々学び続けていく。「子どものすべてを受け入れる」子どもの可能性を広げるために子どもの自由な発言・表現・発想を肯定し受け止めることや子どもがどうしてそう思ったのか、そういう行動をとったのか過程に目を向けて「それでいいよ」と認め一緒に楽しむことで子どもたちは、安心感を持ち遊びが展開され自信に繋がっていく。その中で、子どもたちは日々の生活の中で「にんげん力」を身に付けていく。
子どもたちは子ども、地域の方、スタッフ等様々な「人」と関わりながら生活していく。人と関わる力は大人になっても重要なことである。身近な人とのコミュニケーションを大切にし、人と関わる力を育めるようスタッフは子どもを深く探り、理解を高め丁寧に関わっていく。子どもだけでなく、スタッフ同士も同様にコミュニケーションを密に取り、思いやりを持って接し語り合いの場を多く持ち、相手の気持ちを理解する力を身に付けていく。
スタッフは子どもに手を差し伸べ無駄なことは何一つないと考え保育運営を行っていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	養護の行き届いた環境「生命の保持」「情緒の安定」 子どもの生理的欲求を満たすことで、情緒の安定は図られ気持ちを十分に満たすことで心身の健やかな育ちを促す。
	実践予定内容	・子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息をとることができるようにする。また、食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的な生活ができるように適切に援助する。 ・一人ひとりの子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。 ・保育士等との信頼関係を基盤に、一人ひとりの子どもが主体的に活動し自発性や探求意欲などを高めるとともに、自分への自信を持つことができるような成長の過程を見守り、適切に働きかける。
2	計画・ねらい	子どものすべてを受け入れる（大人の常識や価値観を押し付けない）
	実践予定内容	・子どもの可能性を広げるために子どもの自由な発言・表現・発想を肯定し受け止める。 ・子どもがどうしてそう思ったのか、そういう行動をとったのか過程に目

		を向けて、「それでいいよ」と認め一緒に楽しむ。 ・遊びがさらに展開できるような環境をスタッフや子どもたちとも話し合い取り組んでいく。
3	計画・ねらい	「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・日課
	実践予定内容	・さくらさくらんぼリズム体操・うた・座禅・雑巾がけ・９時出発の散歩・体験活動（畑仕事・生き物のお世話・他）・異年齢保育・裸足保育・移動保育（鶴見どろんこ保育園）・商店街ツアー・銭湯　他

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	①　思いやり②誠実③謙虚さ④感謝を忘れずに、おもてなしの心を込めたサービスを提供します。
	実践予定内容	・お子様を安心して信頼していただけるように接遇を意識する。 ・接遇研修を行う。（園長大学視聴）
2	計画・ねらい	保育園でのお子様の様子が手に取って分かるように発信していく。
	実践予定内容	・お迎えの時の３分間対応をする。 ・１か月の活動内容をA4サイズにて、掲示をする。 ・日頃のタイムラインにて子どもたちの姿を配信し、保育のねらいをも伝えていく。
3	計画・ねらい	保育参加を行っていることを随時に伝え気楽に参加していただける雰囲気づくりを意識する。
	実践予定内容	・保育参加に興味を持っていただけるように参加された方の様子をタイムラインにて発信する。 ・定期的にお迎え時に保育参加を行っていることを案内する。 ・保育参加に参加し、お子様の様子や保育園での取り組みを伝えていく。 ・今後の子育てのヒントに繋がるようにする。

〈３〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	P'sスマイル保育園の認知
	実践予定内容	・公園先で率先して名を名乗り元気よく心地良い挨拶をする。 ・ちきんえっぐのチラシを公園先やわっくん広場にて配布する。 ・青空保育・地域子育て講座・園開放　他
2	計画・ねらい	園開放の活用
	実践予定内容	・園開放を行っていることを周知していく。 ・いつでも通いやすい雰囲気　心地よい環境を確保していく。

〈４〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	接遇（「遇する」とは「もてなす」という意味） 保護者様に安心感・信頼感をもって保育園を利用していただく スタッフ同士のコミュニケーション能力の向上
	実践予定内容	・OJT研修・接遇の研修 ・日々の保育（自身）の振り返りを行う場を設ける。

		・全体で情報共有を行い、対話を密に行い気配り目配りできる職員の資質向上。職員の気付きを受け止め、伝え合う。
2	計画・ねらい	保育の質の向上・保育を語る集団になる
	実践予定内容	・保育を語る場を設ける（会議や昼礼等） ・自己評価に基づく課題等を踏まえ、研修に参加し必要な知識及び技能習得を行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む
	実践予定内容	畑仕事（種まき・育てる・間引く・穫る） 食材加工（梅・味噌・ケチャップ）
2	計画・ねらい	食材の循環リサイクルの実行・食べ物を大切に消費する
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす（皮を捨てずそのまま食べる） 再生野菜・リボーン・ベジタブル（豆苗・人参・小松菜）

〈6〉保育内容

1	計画・ねらい	自分で選ばせる「指示待ちではなく自分で動く」
	実践予定内容	どんなに小さい子でも自身で選ぶ力があることを知り、大人がなんでも遊びや玩具を決めてしまうのではなく「どっちがいい」とかける。子どもが選択できる環境構成を行う。
2	計画・ねらい	信じて待つ「相手の話に耳を傾ける」
	実践予定内容	子どもたちにも子どものペースがあることを理解し、大人都合で時間を決め、先回りをして手伝ってしまわないように注意をする。子どもたちが考える時間を確保する。時間が決まっている場面では、事前に子どもたちに言葉掛けを行うなど工夫をする。
3	計画・ねらい	満足するまでやらせる「強い自信が身に付く」
	実践予定内容	満足するまでやりきった子どもは心が安定、満足する前に終わらせてしまうと不満が残ってしまうことを理解し、強制的に終わらせないように意識をする。満足した子どもは、満足したときに自身で終わりを決めることができるようになる。遊びのルールを子どもたちと決めて行う・散歩帰る時間を事前に一緒に考えるなどと言葉かけを工夫する。
4	計画・ねらい	子どもに解決させる「困難なことがあっても乗り越える力」
	実践予定内容	スタッフは安全を確保した中で見守り、子ども同士で解決する・考える機会を奪わないようにする。もちろん、場面に応じてスタッフのフォローが必要な時もある。その場面を見極め一緒に困難なことをどのように乗り越えるのか行っていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
0人	8人	10人	12人	12人	12人	54人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
パートスタッフ	保育士	4人	補助	1人	調理	1人	事務	1人
	用務	0人						

3.運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返りと質の向上・園内研修・行事進歩・研修報告・安全対策
給食運営会議	月1回	食育・クッキング・保護者支援と発信・保育者との連携
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット分析・インシデント検討と共有・自己情報の共有と対策・マニュアル確認と実施方法の確認
ケース会議	月１回	要支援児について情報共有と保育方法の確認・検討 気になる子の情報共有と保育方法の確認・検討
昼礼会議	週１回	行事・子どもの様子・共有事項確認
担任会議	月１回	指導計画案・週案

朝礼	日1回	1日の確認（保育・行事）・子どもの様子・来客確認・アレルギー児の申し送り・その他 時間差で出勤する職員のためにシッターノートに記載

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一情報共有・課題検討・園状況報告と共有
施設長勉強会	月1回	施設長のスキルアップ研修
食育会議	年4回	栄養士・調理師・施設長が参加　献立の検討・マニュアル確認・食育の推進・OJT・食品ロス・食の循環
保健会議	年4回	看護師・施設長が参加　子どもの健康と保育への参加 感染症・衛生管理・マニュアル確認・社会の動向
主任会議	年5回	主任としての役割とは・職員育成・他
子育ての質を上げる会議	月1回	業務改善研修・子育ての質を上げるための計画立案 成果発表会を実施（自園の課題抽出・自己計画策案・成果発表）

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連絡・施設の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備蓄品の補充と管理・感染症予防対策の管理点検・対コロナ対策消毒と危険管理
安全対策係	火災・地震訓練・不審者侵入訓練および消火・防災自主点検の実施管理・消防署との連携窓口業務・救急講習計画と実施 室内内外の設備点検および事故防止対策の実施
防火管理者	消防計画の作成と備蓄リスト・帰宅困難者表作成 上記計画に基づいた地震・消火・通報訓練を定期的に実施
食品衛生責任者	調理室全般の衛生管理 給食食材および提供食材の衛生管理と在庫品保管状況の管理
畑係	畑づくりの年間計画・畑の管理 子どもと職員の畑活動の推進を図る 教材・道具類の維持補充 保護者への働きかけと情報発信

生き物係	飼育動物の丁寧なお世話と健康管理 子どもや保育者の生き物飼育活動の把握と推進・課題検討
環境整備・備蓄係	美観を意識し、保護者がいつ見ても気持ちよい施設 園内外の環境整備：子どもたちが自身で遊びを選択しのびのびと過ごせる環境づくり
内部プロジェクト	内部監査項目を理解し、保育園をより良くしていく
地域係	地域の方々や団体等との対外的な窓口業務

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの企画と推進 保護者と協働して、準備・開催をする 地域の方も参加し、地域の交流の場とする
鶴見区鶴見中央育児支援イベント	地域の子育て支援の企画と開催

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・受容的、応答的な関りの下で、自分の気持ちや示したいことを伝えようとする意欲を育てる。（代弁や選択が与えられる）また、これらの関係性から身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。 ・戸外活動を喜び、自然に触れて五感を育て、健康な身体を創る。 ・生活や遊びを野中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどを通し、感覚の働きを豊かにする。
	下半期 0～1歳児	・上半期の受容的・応答的な関りの中で獲得した言葉を使って、自分の思いを伝えたり歌を唄う気持ちよさを感じたりして、気持ちを開放し生活する。発達的に駄々こねや癇癪も多いが、それを正当な主張と認められながら、自分自身を育てていく。 ・戸外活動を喜び、自然に触れ五感を育て、健康な身体を創る。 ・自由に動くようなってきた身体を十分に動かして、リズム遊びや散歩活動に意欲的に活動し、保育者に励まされ認めながら、自尊感情を培っていく。
幼児保育	上半期	・生活リズムを整え、情緒を安定させた生活の中で、自分らしさを発

	3～5歳児	揮し毎日を楽しみに登園する。 ・意図的に環境設定された中で、自ら関り発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活の中に十分に取り入れようとする。 ・長距離散歩に挑戦し、集中力や忍耐力、チャレンジする気持ち、爽快な充実感・達成感を毎日体感し、自尊感情を高め、レジリエンスを築く。（レジリエンス：困難や逆境にあっても、しなやかに立ち直れる力）
	下半期 2～5歳児	・異年齢の関りの中で自分を表現して受け入れてもらうこと、相手の気持ちを理解しながら、人対人コミュニケーションの実感をもって生活する。 ・自分が大事にされていることによって、相手を尊重し、思いやりの気持ちを態度や行動に示して、接する。 ・上半期、戸外活動で五感を働かせ、培ってきた感覚・感性や長距離散歩で培ってきた集中力や忍耐力を活かし、描画や造形、歌やリズム遊び、劇遊びや楽器遊びなど、様々な表現を展開する。 ・地域や小学校など、今までより広い社会に目を向けて、小さながらにも、社会貢献できる自分に育っていることを自覚する機会を与えられて、そこに誠心誠意取り組み、自尊心を高める。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	Doronkoの３大食育方針 「調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」 「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」 「子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる」
	実践予定内容	・美味しく食べる経験　興味を誘う言葉かけや取り組み　クッキングや作物　地域との連携　保護者支援　保育士だけではなく調理スタッフも一緒にスタッフ全員が協力して取り組む。
2	計画・ねらい	畑仕事と食育の連携 畑で育てた作物を使い、食育活動に繋げ食への興味・関心を高める

	実践予定内容	・年間で育てる野菜を模造紙に記載し、子どもも大人も見通しを持って育てやすくする。また、各クラス育てる野菜を決め食育まで繋げられるように成長を見守る。 ・育てた野菜を使い、クッキング（ピザ・夏野菜カレー・豚汁）、野外炊飯（カレー作りや豚汁・釜でご飯を炊く等）

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（６月・１１月）
歯科検診	年２回（６月・１１月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	毎月２０日：身体測定実施 手洗い、うがい指導・トイレの使い方指導・歯磨き指導 薄着と裸足：健康に関する指導と家庭への発信 性教育①「体の不思議さと大切さ」 性教育②「大きくなった喜び～命の誕生～」
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ５～９月頃･･･手足口病・ヘルパンギーナ・アデノウィルス・とびひ・咽頭結膜炎（プール熱） １１～３月頃･･･インフルエンザ・RSウィルス感染症・感染症胃腸炎（ノロ・ロタウイルス）流行性耳下腺炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし その他…預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在１５名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員１名については３月３１日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在１３名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員３名については３月３１日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウィルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･１１月 歯科健診　年２回／６・１１月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが自ら遊びを選択できる環境構成
	実践予定内容	・子どもたちの姿を捉え月１回室内の環境構成を見直す。 ・子どもたちの遊びに目を向けさらに遊びが展開できるようにマップに

		記載し、子どもの興味・関心に気づく。
2	計画・ねらい	保護者の皆さんがいつ見ても気持ちの良い施設
	実践予定内容	・ロッカーの上には、極力物を置かず置いても綺麗に並べる美観を意識する。 ・毎朝拭き掃除を行い、衛生が確保されるようにする。 ・足元に玩具が広がっていれば安全を考え拾う。

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止員会リスクマネジメント研修　怪我・事故防止	事故防止：ヒヤリハット収集と統計結果の確認（随時・月1回の共有） 統計結果から振り返りを行う（月1回） 園内インシデント・事故の再発防止検討 過去の重大な事故事例や身近な法人の事例研究 緊急連絡先への連絡・フローチャート確認 心肺蘇生・AED研修・怪我の対応・プール・水の事故防止策 散歩引率など 子どもへの安全教育の定期的な実施
2	避難訓練・ 不審者侵入訓練 防止	・安全対策係が計画立案・実施・自衛消防隊の編成と役割分担 ・十分なシミュレーションの元、立案された計悪を全職員で共有し、実施 ・子どもへの安全教育の定期的な実施 ・予想外の想定にも瞬時の適切な判断が自らできるよう、保育者は戸外・散歩時などの危険予測を日常から行っていく。 ・P'sの広域避難場所：総持寺（保護者様への周知を図る）
3	光化学スモッグ 熱中症	・自治体からの情報で判断、活動を加減する。 ・自治体からの情報を正確に得る。 ・子どもたちに何故屋内で過ごすのかを考え、安全教育と共に光化学スモッグのメカニズムや環境問題への問題的な芽生えにつなげる。
4	災害対策	・「保育運営マニュアル」危機管理マニュアルの確認 ・決められたことの内容と意味を保育者は知って、園運営に携わる
5	日々の事故防止	・保育者の気づきの共有と報告（ヒヤリハット） ・子どもの様子、玩具、戸外、場面の切り替え、保育者同士の連携 ・ハザードマップの更新：室内、戸外環境の変化に気付き情報共有し、ハザードマップに書き込み、講師をする。
6	苦情・ご意見対応	・「保育品質マニュアル」苦情対応マニュアルの確認 ・保護者様のご意見を真摯に聴き受け取った保育者はどのようなことでも、自分事としてとらえ、謝罪と保護者様のご意見に添った問題解決を図ることを第一とする。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当グループで実習生・研修生を積極的に受け入れます。

1	実践予定内容	小学生の保育園見学・交流の受け入れ・ドッチボール大会など
2	実践予定内容	中高生：保育体験（職場体験）の受け入れ・異世代交流
3	実践予定内容	実習生：次世代を担う実習生の受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月１８日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②虐待防止研修 ③人権チェック ④運営マニュアル読み合わせ	子どもに起こりやすいケガや事故を知り、その手当と対応の共有 ハザードマップを活用し、怪我が起こらないように防ぐ
5月１６日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②接遇について ③質上げ共有 ④その他	質上げ：保育をより良くするために話し合い計画をする
6月２０日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②質上げ共有 ③その他	
7月１８日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②質上げ共有 ③その他	子どもの育ちについてスタッフ全体で考える
8月２２日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②散歩のロールプレイング ③質上げ共有 ④その他	９月より長距離散歩が開始するため散歩のマニュアル確認を行い、ロールプレイングを実施する
9月１９日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②質上げ共有	上期の保育の実施・振り返りを行い再アクション意見交換・話し合

		③上期の振り返り下期の目標設定・話し合い ④その他	いを行う
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②人権チェック ③虐待防止研修 ④質上げ共有 ⑤その他	虐待の定義をマニュアルにて確認 共通認識を持つ
11月21日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②質上げ共有 ③全体研修 ④その他	子どもが主役になる発表会についてスタッフ全体でねらいを共有する
12月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②質上げ共有 ③その他	年間の振り返り
1月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②質上げ共有 ③1年間の保育振り返り 保育を語る	1年間の保育の実施・振り返りと再アクションの意見交換・残りニヶ月の課題を振り返り、絞り込みを行い進学・進級する子どもたちへの必要な体験活動の場をつくる。
2月20日	18:00～21:00	策定会議1日目	次年度に向けて
3月1日	9:00～18:00	策定会議2日目	次年度に向けて

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた保育園としてのPR活動を整える。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：本山前桜公園にて　　集客目標：72名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月1回　ケアプラザ訪問：高齢者の方とのふれあい
異年齢交流	近隣の小・中・高・大学との交流会・ボランティアの受け入れ
地域拠点活動	青空保育・ちきんえっぐ・園開放
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

架け橋期のカリキュラムについて、幼保小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるように工夫をする。幼保小の先生が一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１５日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
６月頃	鶴見小学校 1年生	１２名予定	園見学（鶴見小校庭）	子ども間交流
11月頃	豊岡小学校 1年生	１２名予定	豊岡小学校（鶴見小学校）	子ども間交流
１月頃	５歳児・就学予定学校	１２名予定	入学時情報交換	スタッフ間情報交換

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳児期については、個別に保育計画作成を行う、毎月のケース会議を開催し子どもの変化に気付き必要に応じた配慮等を共有し、全スタッフが把握し保育活動に取り組めるようにしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：全正規スタッフ予定）

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

クラス担任は、進級時に引継ぎを実施・引継ぎ事項を記録に残す

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：２０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：３０名
自然食堂…親子ランチ交流	月１回10:00～12:00　　集客目標：３０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月１回10:00～12:00　　集客目標：３０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：本山前桜公園にて開催　集客目標：３０名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし
（２０２０年度１２月9、１０日・横浜サステナビリティ研究センターにおいて、受審済）

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年2月３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１４時００分
自己評価終了予定時刻：１４時３０分
自己評価実施予定者：施設長・主任・リーダーに準ずる当日出勤者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・日課が定着し保護者様や地域の方からも保育活動・保育内容・人材で信頼される「選ばれる保育園」が創られている。その中で、食を生活の一部と捉える。
	振り返り	去年度に引き続き日課が定着され保護者様にも登園時間にご理解ご協力をいただき取り組むことができた。 子どもの気持ちに寄り添い子どもたちが安心して過ごせる環境になるように丁寧に関わることや待つことを意識し行ってきた。嬉しいこと困ったことを言葉として保育士に伝えられる姿があり保育士と子どもたちとの信頼関係が構築されていると感じた。 「選ばれる保育園」を意識するために保育園での活動内容にも力を入れ取り組んできた。お迎えの３分間対応だけではなく他の方法からでも保護者様が手に取り保育園の様子が分かるように来年度も取り組んでいく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	「多くの人と交流することを経験しやり取りを行う」
	重点施策	子どもは、他子ども、他園、地域、スタッフ等幅広い交流をして、多くの人と関わる経験をする。人と関わる楽しさを味わう中で自分の気持ちを伝え、」相手の気持ちも知る。 保育者は、危機管理を考え保育を展開していきながら、人と多くの交流ができる場を多く作っていく。その中で受け入れ認め合いの心を持つ。
2026年度	目指す姿	「安心できる場で自分の思いを伝え、相手の思いに気付く」
	重点施策	子どもは多くの人に囲まれ生活する中で、自分の気持ちや感情を出し、受け止めてもらいながら、自らコミュニケケーションを取っていく。 保育者は、子どもが安心して過ごせる環境を考え作る。子どもの姿を受け止め丁寧に関わっていく。
2027年度	目指す姿	「コミュニケーションを密に取り誰もが主体的に行動する」
	重点施策	子どもは、様々な原体験を経験し、多くの人との交流を経験していく中で、自分らしい姿で人と関わり、自分で考え行動していく。 保育者は、子どもの姿を捉え、適切な関りやアプローチをしていき、丁寧な保育が展開できるようにしていく。そして日々学び続けていく。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：P'sスマイル保育園 施設長　佐藤吏良

２０２５年度　三原どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

■保育理念 「にんげん力。育てます。」
■保育方針 「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
■6つの力と基本活動
・ケガをしない強い体を育てる
・自分でできる事を自分でする
・全ての人との関わりから、判断、行動を身に着ける
・活動を選択し自分で考え行動する
・生死を知る、食の循環
・感じたこと、考えたことを表現する
■2025年園運営方針
①基本活動の深い理解
→生活力を高め、危険な物との距離の取り方について、実際の体験を通して感じ取れるよう焚火保育や川遊びを実践していく
②畑仕事・生き物の世話・たい肥作りを確実に丁寧におこなう
→毎日の糞尿の始末、たい肥作り、畑への活用を計画的におこなう。また、命の循環教育をおこなうにあたり鶏の解体や魚の解体を子どもたちの前でおこなう
③～混ざるその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する
→小学校ではみ出さないための訓練や特別扱いをしないことを全職員が理解し、いま行うべき支援を職員1人ひとりが考えおこなう。また、子ども自身が活動を選択し、より多くの物や機会に触れ、10よりも100の経験ができるようにする
④自走に向けて
→年齢にとらわれない、人間性を重視した人材育成をしていく。

上記の内容をもとにして保育の実践していく。

【目標】
　どろんこ会グループの法人理念に則り、子どもを中心にスタッフ・保護者・地域が参画し協同的に共に育つことで地域に根付いていく。朝霞市の自然に恵まれた環境を活かし、「にんげん力」に必要な遊びや野外体験を通じ、成功体験や失敗を通して学ぶ。
　活動の中で、他者との気持ちのぶつかり合いや折り合いをつけることを試行錯誤していく体験を積み重ねる。やってみたいことの実現ができるように環境を整え子どもが楽しく主体的に活動に取り組めるようにする。また、次世代に向け質の高いコミュニケーション力が必要となる。自分を知って、相手を理解しようとすることで、ぶつかり合い、頼り合い、助け合いながら人との繋がりを深めていく。
　質の向上のためには、学び続けるスタッフ集団であることが求められる。大人も主体性を持ち、考え、学び、みずから率先して行動し続け、大人の人間力を高めていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成
	実践予定内容	原点回帰を前提に毎日の時間を大切にし、人格形成の大切な時期に子どもにとって真に必要な体験と経験を遊びの中に入れ、子どもの姿を観察し理解をおこない、職員間で共有し、PDCAサイクルを用いながら子どもの姿ベースで必要な経験を盛り込んだ保育計画を作成する 。
2	計画・ねらい	食材や食の循環、命をいただく活動の継続
	実践予定内容	近隣園と協力をし、食の循環を知るために鶏を絞めて食す体験を提案実践する。命をいただく活動に参加をしたくない子も仕事や商店街ツアーを通して命をいただくありがたみを感じられる活動にする。
3	計画・ねらい	子どもたちが主体となり、みずから遊びを選択し遊び込めるようにする
	実践予定内容	・必要な物が整理整頓された環境で遊べる空間作りをする。 ・やりたいことが存分に発揮できる環境を整え、保育者がそれを見守り、支えていけるようにする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	お迎え対応の充実
	実践予定内容	夢中で取り組んだこと、成長を感じたこと、試行錯誤しながら取り組んだことなど子どもの1日の様子を手に取るようにお伝えし、共に喜び、共に悩み合える関係性を築く 。
2	計画・ねらい	保護者の立場として考える事を意識する
	実践予定内容	保護者支援、保護者理解の観点から研修をしていく。知識の詰め合わせでなくディスカッション研修を通して「保護者の気持ちになる」をテーマにしておこなっていく。
3	計画・ねらい	保護者参加行事の実施
	実践予定内容	どろんこ祭り、運動会、生活発表会、他に親子で参加ができる行事を計画していく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設になる
	実践予定内容	地域の保護者の子育て支援のため、感染症に注意をしながら『ちきんえっぐ』『青空保育』等をおこなう。また、保育園を解放し、遊びの提供や子育て相談をおこない、保育園が身近な存在になれるようにする。
2	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践予定内容	青空保育の内容や場所の見直しをおこない、1人でも多く親子が参加できるようにし地域子育て拠点の1つとなる。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針に記載がある「3本の柱」「10の姿」を理解し、学び続ける大人の集団になる
	実践予定内容	・乳幼児期のみの知識でなく、学童期に結びつくためにどんな働きかけが

		乳幼児期に出来るかを検討し、実行する。 ・状況に応じた手法を用いて学びあい、検証をしていく。
2	計画・ねらい	日課、基本活動の充実
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが法人の保育理念、園目標、クラス目標、個人目標に向き合い、子どもたちの個々の発達に合わせ、子どもたちの成長に必要な活動、遊びを保障できるようにする。
3	計画・ねらい	大人の人間力向上
	実践予定内容	・全職員が子どもに教えなくてはならないこと、基本活動の意味を理解し、大人も主体的に、背中を見せていく。 ・職員はMBOを設定し、目標達成のための具体的な研修計画、育成計画を立て、上長と進捗確認をしながら進める。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自分で選択する
	実践予定内容	散歩の行き先・遊ぶ場所を子ども自身が決める。 「明日はこういうことをしたいからそれができる〇〇公園へ行きたい」を子どもが発信・選択する。意見が割れた場合は子ども自身がプレゼンテーションを行い、話し合いを通して決めていく 。
2	計画・ねらい	食の循環サイクル、ヤギの糞の堆肥作りを持続的におこなえる環境を作る
	実践予定内容	給食の残食や調理過程での廃棄食材を再利用することでゴミを減らすことや、ヤギの糞から堆肥を作り畑に還元することで、身近にできるSDGsの取り組みを行う。又、持続的、連続的な活動となるよう保育活動へ計画的に取り込んでいく。
3	計画・ねらい	焚火保育の実践
	実践予定内容	・火は暖をとったり、調理をしたり、人間が生きるために必要なものであることを 「火」の保育を通して経験させていく ・火を囲み、温かさ、ぱちぱちと薪が燃える音や炎のゆらめきを味わいながら、自然と心が安らぐ体験をする ・火起こし体験では、マッチを擦ってみたり、確実に火を起こすために落ち葉や薪など様々な素材を火にくべることで、よく燃えるもの、あまり燃えないものに気づいたりしながら、火に親しみを持つ ・たき火でさまざまな調理活動体験をし、薪や枝を拾い、火を維持する経験 や空気を送ると火が変化すること、鍋が熱くなることなどに気づき、温かいものを食べる喜びを実感する ・火に関わることによる様々な気づきを大切にしながら、火の扱い方を間違えれば危険なものになることや、火の始末を学び、付き合い方を体得する

〈6〉・子どもを中心に考えられる保育実践

1	計画・ねらい	子ども1人ひとりに対して丁寧に関わる保育をする
	実践予定内容	・子どもの言葉に耳を傾け、ありのままの姿を受け止め共感する 。 ・日々の関わりの中で、人権や常に子どもにとってどうなのかを考え保育

		の実践をする 。 ・応答的な関わりを大切にする保育の実践。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に遊びを楽しめる保育者集団となる
	実践予定内容	・子どもがどのような事に対して、興味を持ち遊んでいるのかを保育者自身が体験し共感ができるようにする。 ・日々の活動の中で、子どものありのままを捉え職員間で共有し環境を作っていく。

〈7〉子どもも大人もワクワクする本物の体験

1	計画・ねらい	みずから経験を選び取れる環境の充実化
	実践予定内容	・みずからが活動、玩具などやりたいことを選択し、遊び込める環境の構築をおこなう。 ・保育園を1つの大きなお家と捉え、遊びたい場所で遊びたい人と混ざり合って遊ぶ事を選び取れる環境を作る。
2	計画・ねらい	挑戦する気持ちを後押しする
	実践予定内容	・誰かが立ち止まった時には、一緒に考えその人にとって挑戦して失敗したことがダメな事ではなく、次へ挑戦できることや楽しみへつながることを伝えていく。 ・子どもの事は、保護者と速報値で共有し心の動きを共感していく。
3	計画・ねらい	いろいろな道具の使い方を知り、使ってみる
	実践予定内容	・保育者が様々な道具を使い見せることで、興味を持ち使ってみたいと思い本物に触れることができる環境を作る。

２.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
６人	９人	１２人	２１人	２１人	２１人	９０人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人						
パートスタッフ	保育士	3人	補助	1人	調理	1人	用務	1人

3.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー振り返り、園内研修
給食運営会議	月1回	残渣、丁寧な食事についての研修
事故防止委員会	月1回	危機管理研修、園内事故防止委員会
ケース会議	月1回	ケースに基づいたディスカッション

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告、共有事項
施設長勉強会	月1回	園運営における勉強会
食育会議	年4回	食育に関する課題と目標の共有
保健会議	年4回	衛生管理の統一、感染症等のガイダンスの共有
主任会議	年11回	園の課題抽出、組織マネジメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上に向けた研修

〈5〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、衛生全般の管理、心身の健康状態管理等

安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生責任者	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈6〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重し、準備・活動を進める
子育て支援・相談係	子育てに関する相談業務、子育て支援（ちきんえっぐ）開催

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・生理的欲求を満たし、それぞれのリズムで安心して過ごす ・保育者との信頼関係を深める ・環境とのかかわりの中で、好きな遊びや探索活動を十分に楽しみ、友だちへの関わりの芽生えを促す
	下半期 0～1歳児	・様々な体験を通して感性を豊かにし、感じたことや気持ちを保育者に受け止めたもらいながら、表現の喜びを感じる ・身近な自然に興味を持ち、五感を使って楽しむ ・保育者や友だちと一緒にいることで安心し、様々なことに興味・関心を広げる ・生活や遊びの中で、自分でやってみようとする気持ちに丁寧に寄り添い援助する中で、基本的生活習慣が身につく
幼児保育	上半期 3～5歳児	・集団生活の中で、一人ひとりが自己を発揮し、保育者や友だちと関わり合い認められる中で、自己肯定感を培う。 ・身近な環境に主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたり、選択したり、それを遊びや生活に取りいれていく環境を保証する。 ・自分でイメージすることや自由に表現することを楽しみ、創造性を培う。

	下半期 2～5歳児	・友達との関わりの中で、一緒に活動する楽しさを味わい、協働して遊びや生活を展開していく経験を通して、自ら考え行動する力を培う。 ・異年齢で過ごし、刺激を受け合うことで、相手の気持ちに気づき、互いを認め合えるようになる。又、生活や遊びの中で充実感・達成感を保証する。 ・生活の流れに見通しを持ち、遊びや生活を進めていく中で、その場に応じた行動や、善悪の判断をしながら、自ら考えて行動する力を培う。 ・他者との関わりの中で、心を動かすような体験をし、豊な言葉や表現力を培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	実体験を通して、食材や食の循環に対して興味関心を持つ
	実践予定内容	・畑活動の充実をはかり、失敗と成功を繰り返しながら、作物が育って食すことの嬉しさや喜びを感じられるようにする 。 ・食材の加工や命をいただく経験ができるよう計画し、食の知識を学びながら、食べることの大切さを学んでいく 。
2	計画・ねらい	子どもの「食べたい」という意欲を育てる
	実践予定内容	「食べることはいきること」であり、楽しい給食の時間を前提とする。食事は、食べたい分だけよそい、食べたい席を選ぶ事を大事とする。そのために、環境設定を大事にして食事を楽しめるようにする。
3	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針の理解
	実践予定内容	『調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる』『噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供』『子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる』を実践する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい指導、性教育（年長児）、歯磨き指導の実施
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ８月頃･･･手足口病、ヘルパンギーナ １月頃･･･インフルエンザ・感染症胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし エピペン･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	・嘔吐処理、おむつ交換、与薬方法等園会議にてロールプレイを実施。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染症予防のため、うがい指導、手洗い指導を強化。また、消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	園庭環境の充実
	実践予定内容	・限られた園庭の中で遊びが充実できるようにどんなものが必要でどんなコーナーにするのかを話し合い、日々変化のある環境構成にする。 ・園外ではなく園庭でしかできない体験がどんな事なのかを考え保育に生かす。
2	計画・ねらい	協働力を身に付ける遊び環境
	実践予定内容	・子ども同士がグループで話し合い、役割を分担し、一つのモノ・成果物・ ルールなどを創り上げる活動を仕掛け、合意形成エラーや感情コントロールエラーを繰り返す経験からコミュニケーション力を養う。
3	計画・ねらい	みずから様々なモノに主体的に関われる物的環境の整備
	実践予定内容	・土・砂・水・氷・お湯・寒天水・石鹸・野菜・虫・動物・木の実・ほうき・ちりとり・トング・スポンジなど、多様なものを常設し、子ども自身が好き・得意を探索できるよう見守っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	配膳台	幼児室	毎日

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 防災	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う 防災計画に基づき、避難訓練を行う
2	実践予定内容 怪我防止	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う 防災計画に基づき、避難訓練を行う
3	実践予定内容 防犯	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従う 防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行う
4	実践予定内容 光化学スモック	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグフローチャートに従う 行政の連絡に従って対応する
5	実践予定内容 熱中症	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにする

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

次世代を担う学生や中高生を、保育の現場で積極的に受け入れを行います。個々にあった指導や援助を丁寧に進めていきます。地域に開かれた保育園として、様々な人との関わりの中相乗効果で豊かな心を育くみます。

1	実践予定内容	小中学生の体験受入れ
2	実践予定内容	養成校の実習生受入れ

７.スタッフ育成と研修計画

私たち一人ひとりが保育者として責任と誇りを持ちながら、子どもの成長を見守れるように自園の特性と課題を踏まえた園内研修の充実を図り、一人ひとりの保育者の目標設定を行う。
また、保育の質を高めていける園運営を目指し、子ども主体の遊びを重視しながら、保育者同士の同僚性を高め、互いに自分の言葉で思いや意見を伝えあい、対話しやすい環境を整え、日常化していき、一人ひとりの保育者としての成長にもつながるようにする。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修 ③ 虐待防止研修	「子どもの人権」についての虐待防止研修 園内、園外ハザードマップの見直し
5月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 見失い防止	職員間で危険な箇所を室内外共見直し、安全に 努める。散歩ルートの危険箇所の検証と対策
6月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスクマネジメント	子どもを水遊びの危険から守るためのリスクの 共有 水遊び、プールが始まる前の注意すべき点の共有
7月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成	室内遊びの有効な過ごし方や室内遊びの工夫、環境の見直し
8月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動遊びの大切さ	熱中症や脱水症状といった夏に起こりやすい症状の確認、対策
9月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修	「見失い」「置き去り」を防ぐためのリスクマネジメント研修 子どもの姿の共有
10月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 見失い防止 ③ 虐待防止研修	虐待防止研修 職員間で危険な箇所を室内外共見直し、安全に 努める。 散歩ルートの危険箇所の検証と対策
11月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策	感染症を拡大させない為の対策 室内清掃や嘔吐処理の再確認
12月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 乳幼児期の援助	エピソード研修、考察を行う
1月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成	環境構成の見直し、子ども観の考察
2月	18:00～21:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議1回目	次年度の事業計画に向けた目標設定 チーム保育研修
3月	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議2回目	年間行事計画の作成 畝研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校訪問、老人ホームの訪問、絵本読み聞かせ、ボランテイア などを積極的に行っていくことで、保護者や地域の方の協力も得ながら地域に根ざした保育園になる。ちきんえっぐの取り組みを地域へ発信していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：星の森公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	小学校訪問、高齢者施設訪問
異年齢交流	9参照

地域拠点活動	青空保育、ちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

スタートカリキュラムに基づき、自園独自のアプローチカリキュラムを作成し、年間を通して計画的に幼保小連携を進めていく。また、幼保小連携会議・授業参観・授業研究会に積極的に参加し、地域の実態を把握しながら、教員と共に小学校学習指導要領について、これからの未来のために幼児期の子どもにとって必要な経験は何かを具体的に学んでいく。就学時には、横浜市保育所保育要録を送付し、必要に応じて一人ひとりの子どもの情報の申し送り等を丁寧に実施していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	朝霞第5小学校	22名予定	学校探検	子ども間交流
11月頃	朝霞第5小学校	22名予定	授業見学	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況などを観察し、ケース会議内で振り返りをおこない見直しをしていく

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：6名予定）

毎月第4木曜に時間を設け話し合いをおこなっていく

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の引き継ぎは朝霞市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについての申し送りによって行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：15名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	月2回　10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月2回　10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：星の森公園にて開催　集客目標：5名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１０月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１３時４５分
自己評価終了予定時刻：１４時４５分
自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子ども理解を図るため、子どもの姿を観察し、様々な記録や語り合いを元に一人ひとりに必要なことを職員間で共有し行っていく ・子ども一人ひとりが主体的に遊び込める環境を常に課題とし、子ども

		の姿ベースで見直しを図っていく
	振り返り	・園内研修で、子ども感の共有を図る1つとしてエピソード研修を入れてお互いの理解を務めてきた。ディスカッション形式でおこない、そのあとに感想と話を聞いてどのように思ったのかをフィードバックを送りあうことで互いの見え方が分かり大人同士の理解にもつながった。日々の保育の中でも子どもの姿を捉え職員間で常に話し合える環境をさらに作っていくように努める。 ・園会議内で室内環境の現状と課題、どのように改善していくべきかディスカッションを重ね、環境の改善に努めてきた。幼児室では、静と動のメリハリがつけられるようなレイアウトにしたことで、集中して遊ぶ姿が多く見られるようになった。乳児室では、コーナー毎で遊ぶようになり、気に入ったあそびの場所に行き過ごす姿があった。子どもにとって成長発達に繋がるようなあそびの工夫が今後更に必要と感じる。また、室内の環境を定期的に見直し子どもの興味関心に寄り添える環境を作っていけるように工夫をしていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・子どもを真ん中に置き、気持ちに寄り添い共感できる保育者集団となる
	重点施策	・スタッフは、子どもの気持ちや思いを受け止め、安心して主体的に遊びや生活が出来るように見守る ・子ども理解を図るため、子どもの姿を観察し、様々な記録や語り合いを元に一人ひとりに必要なことを職員間で共有していく
2026年度	目指す姿	子ども主体の遊びや生活が定着する
	重点施策	・遊びや生活のルールを5歳児が中心となり作りだせる環境を作り、スタッフは子どものファシリテーターとして見守る ・スタッフは、日々の保育を振り返り、子どもの遊びや生活が継続、発展していくように環境を模索する ・子どもの遊びのプロセスがどのような育ちとなっているのかを保護者に分かりやすく示す
2027年度	目指す姿	互いを認め合い、共に育っていく保育園
	重点施策	・たくさんの自然体験を通して個性を発揮し自分で考えて行動する。自分らしくありのままな姿で関われる関係を築く ・子どもの姿をしっかりと捉え、一人ひとりの心情、行動を受け止め丁寧な関わりをおこなう。大人も互いに認め合い、自己肯定感を高める。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：三原どろんこ保育園 施設長　金子 隼人

２０２５年度　メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人の基本理念 「にんげん力。育てます。」
法人の保育目標
① センス・オブ・ワンダー
② 人対人コミュニケーション

施設運営方針
原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
① 6つの力と基本活動を深く理解し、より多くのホンモノの体験を行う。生活力、１０の姿の体得の為に乳児期のうちから見通しを持った計画を立て10より100の経験を通して人や物との距離感を身につけていく。
② 畑仕事・生き物の世話・たい肥作りを確実に行う。労働の必要性を理解できるように関わり、主体的に毎日土や作物に触るようにする。
農業計画を元に種や苗を植え、作物の変化に気づき生長や収穫する喜びを感じる。また、収穫した野菜を食育活動に利用する。可食部以外はコンポストを使いたい肥を作り食の循環を知る。
③ 「混ざる」その先へ。健常児も障害児もお互いに認め合いながら同じ空間で生活できるように環境を整える。年上児は年下児に思いやりを持って接し、年下児は年上児にあこがれを持ちながら、ワンフロアという特徴を生かし自然に安心して年齢問わず一緒に活動する中で生きる力を培う。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	園長大学・保育士大学を活用し、専門的な知識や技術を高める。園内研修で学んだ知識を共有する。
	実践予定内容	計画的に園長大学・保育士大学を受講し、園内研修で自分が学んだことや得意分野を生かした発表をすることで、インプットとアウトプットを繰り返していく。
2	計画・ねらい	子どもに寄り添った保育の実施
	実践予定内容	子どもたちのありのままの姿を認め、日々の保育や記録の中から子ども一人ひとりの理解を深めていく。エピソード記録やポートフォリオなどを活用していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	接遇への意識を高める。
	実践予定内容	全スタッフが園を訪れる人全員に手を止め、顔を上げて挨拶をする。 お迎え時には一日の様子を伝えることはもちろん、保護者の話を傾聴し、何気ない会話や表情から変化をくみ取り、保護者様に寄り添う対応を実施する。
2	計画・ねらい	保育参加・個人面談の積極的な実施
	実践予定内容	保護者様の持つ不安や悩みに寄り添い、必要な時に個別に話ができる機会を設ける。また普段のお子様のようすをみてもらえるように保育参加など常に開かれ、相談をしやすい雰囲気作りを心がける。

3	計画・ねらい	保護者様の子育てへの意欲や自信を支援する。
	実践予定内容	全スタッフが保護者様と交流し子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことを心がける。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園を目指す。
	実践予定内容	青空保育、園開放の実施。 参加していただきやすいよう配慮し交流をする。月1回の青空保育、毎日の園開放をちきんえっぐだよりにて告知するようにする。
2	計画・ねらい	保護者様や地域に、当該保育所が行う保育の内容を適切に説明するよう努める。
	実践予定内容	中学生職業体験、実習生受け入れ、世代間交流の実施。
3	計画・ねらい	公共の施設利用を通し、ルールやマナーを身につける。
	実践予定内容	幼児組を中心に、図書館の利用や、アトレ店舗との交流や買い物体験など子どもたちに必要な体験を取り入れた保育を行う。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園内研修で学びのアウトプット
	実践予定内容	園会議にてスタッフ同士で学び合える場を設ける。また、外部研修やキャリアアップなどで学んだスタッフは他スタッフに共有とともに自らの学びをアウトプットできるようにする。
2	計画・ねらい	日課・基本保育活動の充実
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが法人の保育理念、園目標、クラス目標、個人目標に向き合い、子どもたちの個々の発達に合わせ、子どもたちの成長に必要な活動、遊びを保障できるようにする。 デイリープログラムに沿った保育をするため、スタッフの動きや配置を見直す。
3	計画・ねらい	質の高い保育の実施
	実践予定内容	一人ひとりのスタッフについての資質向上及びスタッフ全体の専門性の向上を図るように努める。園内研修、外部研修、スキル講座、園長大学®保育士大学への参加を通し、個々の研修結果を園内で共有し活用していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	調理くずの有効活用を通し、廃棄を削減する
	実践予定内容	コンポストを作成、子どもたちと共有しながら堆肥になる過程を楽しみながら廃棄の削減を意識して取り組む。
2	計画・ねらい	畑仕事・プランター栽培、食材加工等の活動を通じ食材や食の循環を意識することができるようにする
	実践予定内容	畑・プランターでの野菜の栽培、コンポストでできた堆肥の活用、取れた野菜を使って味噌やケチャップ作り
3	計画・ねらい	給食残渣を減らす

	実践予定内容	残渣の量を子どもたちでも見てわかるようにし、残渣を減らそうと意識できる活動を取り組む。残渣を減らすためにどうしたらいいか子どもたちと定期的に話し合う機会を設ける。

〈6〉学年や担任の枠を超えた生活

1	計画・ねらい	子どもたちが室内を自由に行き来できる環境
	実践予定内容	学年や担任の枠を超えて活動を選択し、自由に行き来できる環境を整え適宜環境の見直しをおこなう。
2	計画・ねらい	子どもを理解する
	実践予定内容	全スタッフが子ども一人ひとりの発達を理解するために定期的なミーティングを開き情報共有し子どもの理解を深める。
	実践予定内容	

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
なし	１５人	１５人	１５人	１５人	１５人	７５人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	８人	栄養士	２人			
パートスタッフ	保育士	３人	看護師	１人	用務	１人	事務	１人

3.運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	当月の行動計画の成果発表 園内研修 次月の行動計画の決定
給食運営会議	月1回	食育計画策定 食育活動実施内容 喫食状況（残食の記録等）確認 配膳方法
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 全園事故防止委員会での内容共有 当月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察 要支援児個別計画の見直し
リーダー会議	月1回	園の課題の改善 各クラスの運営状況共有
クラス会議	週1回	保育計画の立案見直し

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	1限：マネジメント・コンプライアンスなど 2限：各園/課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	献立内容の改善、提案 給食提供マニュアル及び運用ルールの作成、見直し 食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成、改善 保健計画策定
主任会議	年４回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	1限：マネジメント・コンプライアンスなど 2限：各園/課題改善計画立案及び取り組み成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生状態を常に清潔に保つことで、子どもの健康を維持できるように、清掃と日々の点検を行える仕組みを作る。 園内での感染症発生の予防策を実施・発生時も迅速に対応し、他の子どもへの園内感染を防げるようにする。
安全対策係	スタッフの安全対策の周知・徹底を図る。 定期安全点検計画に則り安全点検を実施し、怪我や事故の発生を予防する。不十分な項目については、園全体で共有・話し合いをし、改善していく。
防火管理者	消防機関との連携をとり、園の防災管理を行う。各種文書を期限までに管轄消防署へ提出する。
食品衛生責任者	日々の個人・園内の衛生状態を点検・記録・確認することで、施設衛生を常に清潔に保つ。園の清掃・害虫駆除・食中毒の防止等を点検する。
畑係	年間農業計画を把握し、どのクラスも計画的に作物の種まき・間引き・耕し・水やりを行えるようにする。

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	当日までの準備、当日の役割を決める。保護者との連携。 集客目標に達するように地域の方の呼びかけ、チラシの作成。
運動会係	運動会会場の確保。 運動会の計画・準備・役割分担
生活発表会係	生活発表会の計画・準備・役割分担

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保健的で安全な環境の中で子どもの生活の安全を「自分で」の思いを汲み取り、子どもの主体性や自発性を尊重しながら援助したり、温かく見守ったりする。 ・保育者の身体的な関わりを伴う養護的な場面に、子どもが経験している教育的な側面を併せ、養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもの育成を目指す。

	下半期 0～1歳児	・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄等の活動を通して自分でしようとする気持ちが芽生えるようにする。 ・保育者の話かけや発語が促されることにより言葉を使うことを楽しめるようにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・友だちと一緒に食事をしながら、様々な食べ物を食べる楽しさを味わう。 ・身近な人と関わり、友だちと遊ぶことを楽しめるようにする。 ・生活に必要な言葉が分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表現できるようにする。
	下半期 2～5歳児	・自分で出来ることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣を次第に身に付けられるようにする。 ・幼児クラスへの憧れや期待感を持って過ごすことができるようにする。 ・友だちとのつながりを広げ、集団で活動することを楽しめるような雰囲気を作る。 ・進んで異年齢の子ども達と関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わえるようにする。 ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で工夫して自由に表現できるよう環境を整える。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	体験を通して食べる意欲へと繋げる
	実践予定内容	プランターや畑での栽培活動を明確にし、子どもはもちろん全スタッフが継続的に関わるようにする。 野菜の皮むきやお米とぎなど、給食を作る過程に触れ、体験する。子どもの体験する内容を調理、保育スタッフ間で話し合い共有をしながら計画していくようにする。

2	計画・ねらい	食の循環から食の重要性・大切さを学ぶ
	実践予定内容	コンポストについて保育スタッフも理解を深め、子どもたちと活用していく。 また、おいしい食事ができるまでにどのような人や仕事が関わっているのかに気づくことで、食の生産から消費までに興味を持てるようにしていく。
3	計画・ねらい	一つの食材から様々なものができることを知る。
	実践予定内容	大豆や小麦粉など調理、加工法で様々なものが作られることを学ぶ。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・12月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導・薄着のススメ・性教育
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5月～9月 手足口病・ヘルパンギーナ 6月～9月 アデノウイルス・咽頭結膜熱（プール熱）伝染性膿痂疹（とびひ） 10月～1月 マイコプラズマ肺炎 10月～2月 RSウイルス感染症 11月～6月 溶連菌感染症 11月～4月 感染性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルスなど） 12月～4月 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） 12月～5月 インフルエンザ 12月～7月 水痘（水ぼうそう）
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	該当なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在17名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については3月19日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在17名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については3月19日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･12月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える
	実践予定内容	個々の発達に合わせ、愛情豊かに応答的な関わりを大切にしながら、常に環境の見直し、改善を行う。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊びこめる環境を整える
	実践予定内容	子どもたちの主体性を第一に考え、一人ひとりがじっくりと遊びこむことができる場が保障されているかスタッフ間で連携を取りながら環境の

		見直し、改善を行う。
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践予定内容	話し合いの場に子どもを交え、共により良い環境を考えていくようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

該当なし

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 防災	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う。防災計画に基づき、避難訓練を行う。
2	実践予定内容 ケガ事故防止	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。事故防止委員会にてケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有する。
3	実践予定内容 防犯	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従う。 防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行う。
4	実践予定内容 光化学スモッグ	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグフローチャートに従う。また、行政の連絡に従って対応する。
5	実践予定内容 熱中症	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにする。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の保育者を育てるため、また、実習生を受け入れることにより保育士自身が自らの保育を振り返り、指導する力を身に付ける良い機会となるので、積極的に受け入れていく。保育士という仕事の素晴らしさとともに、子どもの命をお預かりしているということを伝え次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成していく。

受け入れる際には、全スタッフで暖かく迎え入れることができるようにし、不安なく過ごしてもらえるようにする。

1	実践予定内容	保育士志望の実習生の受け入れ
2	実践予定内容	地域中学校と連携を取り、職業体験の受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 法人理念・マニュアル	連絡帳・タイムライン・日誌の書き方。ハザードマップの見直し 人権チェック・虐待防止研修 ケガ・ケーススタディ研修
5月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 熱中症対策	水分補給の大切さ、熱中症時の対応を学ぶ 『救命救急のプロに学ぶ！保育園にける応急手当』
6月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント	水遊び時の注意点と役割の理解。 ロールプレイの実施 『プール活動・水遊びにおけるリスクマネジメント』
7月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動遊び	ハザードマップの見直し 室内環境の見直し、玩具の選定 リズム体操研修 『生きる力を育む運動遊び』
8月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 散歩時の注意点	散歩時のマニュアルの確認 人数確認時のダブルチェックの仕方 ロールプレイの実施 『保育と自然を未来志向で考えてみよう～飼育・栽培・さんぽどうしてる？（散歩編）』
9月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 室内環境	室内環境の見直し 『その室内環境大丈夫？空間設計の視点から学ぶ「心を育てる保育環境」』
10月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権について	ハザードマップの見直し 人権チェック・虐待防止研修 『すべての保育者に見てほしい「はじめての人権」』
11月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策	感染症対策として嘔吐処理の仕方の確認や、感染症が増えたときの対応を再認識する。 マニュアルの確認

12月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 表現あそび	『表現の本質』
1月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 一年間の振り返り	ハザードマップの見直し
2月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	来年度に向けてのチーム作りの基盤を作る
3月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ③ キックオフ	マニュアルの読み合わせや、おむつ替えや嘔吐処理などのロールプレイを行い新年度すぐに対応できるようにする。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

様々な人・場所・機関などと連携を図りながら、地域に開かれた保育園を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：50名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：入新井西公園(交通公園)にて集客目標：20名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流 地域小中高校生との交流
異年齢交流	近隣保育園との交流 小学校との連携
地域拠点活動	子育て支援事業「ちきんえっぐ」
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校と相談・協議を4月より開始する。小学校との交流、見学、参加を通じて子どもたちの就学がスムーズな連携の中進められるようにする。また、小学校1年生の授業を見学できるよう近隣小学校と計画を立て、1年生を知ることで逆算した保育を遂行することができるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
9月頃	山王小学校　1年	15名予定	学校訪問	子ども間交流
6月頃	山王小学校　1年	3名予定	授業参観	スタッフ間交流
2月頃	山王小学校　1年	15名予定	学校訪問	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

個々の保育計画を立て、見通しを持って保育にあたる。日々変化していく子どもたちの様子を観察、記録し、全スタッフで共有し保護者とも共有しながら、どのスタッフでも保育ができるような体制づくりを行う。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：全正規スタッフ）

支援の必要な子どもの様子、課題から支援の方向性の共有を行う。子どもの特性を生かすことができるよう支援の経過伝え、連携をしていく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

5歳児の児童要録を作成し、小学校との連携、引継ぎを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：20名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：20名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（月）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：入新井西公園(交通公園)にて開催　集客目標：20名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年6月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：8時30分
自己評価終了予定時刻：17時30分
自己評価実施予定者：施設長、主任、保育士、調理員

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	園児が自己決定すべきことと大人が教えねばならないことを理解する。 大人の背中を見て幼児は挑戦してみる、乳児は幼児の姿に憧れを抱く。 また、スタッフは子どもから見られている自覚を持ち規範となる。 定期的な会議の開催、計画・実行・反省の共有を行い保育内容の充実を図る。
	振り返り	園児が自ら活動を選択できるように配慮していたが、職員の都合で活動を決めてしまうことも多かった。大人が教えなければいけないことを必要以上に伝えていることも多く、見守ることや大人の背中を見せることが必要だった。 定期的な会議の開催も園会議や緊急での会議のみとなってしまい円滑なコミュニケーションをとることができなかった。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	乳児は幼児に憧れを抱き、幼児は大人の背中を見て学び挑戦してみようとする。 スタッフ全員でクラスや担任を超えたかかわりを行う。
	重点施策	大人が教えなければならないことと自然と身に付けていくことを見極め子どもたちに必要な援助や言葉掛けを行う。 定期的に会議を開催し、計画・実行・反省の共有を行い保育内容の充実を図る。
2026年度	目指す姿	子ども自らが選択し、行動できるゾーン保育の実施。

	重点施策	ワンルームという施設を活かし、保育室内を自由に行き来できる環境を整える。スタッフは担任の枠を超え、園全体の子どもたちを 見守り、援助していく。
2027年度	目指す姿	メリー★ポピンズ アトレ大森ルームならではの保育実践の公開
	重点施策	日々の保育の記録を振り返り、保育の質の向上を目指す。自園の様子や取り組みを保護者様、地域へと公開し、目指す子育てを広め、知ってもらう。また、選ばれる園を目指す。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム 施設長　的場　玄輝

２０２５年度　市川どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

市川どろんこ保育園は、子どもを中心に置いた保育の追求に努め、温かい雰囲気が特徴の保育園である。子どものにんげん力を育てるためにできることを職員が日々考え、話し合い、実践しているとともに、園として大人のにんげん力を育てるための学びの時間も多く取り入れる。

「社会全体で子どもを育む」という子育て支援の姿勢を地域の中でリードする存在として、積極的に散歩や商店街ツアーなどで地域に交わり、ネットワークの構築に努める。

さらに、子ども家庭庁の「はじめの100カ月は生涯の幸せを育てる。」とあるように、一人の子どもが成長する過程の中で、初めて出会う保育施設の環境はその後の人生を左右すると言っても過言ではない。私たちの日々の保育が保育の質そのものであり、市川どろんこ保育園の環境を最大限に活かし、保育者として子どもたちの脳裏にどんな心の原風景を作っていくかを全スタッフでイメージしながら進んで行く。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

子どもたちの脳裏に残したい心の原風景のイメージを共有し、子どもたちに真に必要な体験として基本活動への理解を深め、スタッフが協働し、日々の保育の充実のために「環境で育てる保育」の実践を共通の軸に進む。

1	計画・ねらい	・原点回帰の意味を理解する研修の継続。 ・どろんこ会が目指す保育の根拠となる保育所保育指針とリンクさせて理解を深める。
	実践予定内容	・育みたい資質、能力を目指した保育とは何かを保育所保育指針の五領域から、どろんこ会が目指す日課、基本活動をリンクさせる園内研修。 ・日々の保育が保育の質であり、日々の保育を大切にする意識の啓発。 ・保育計画の在り方、書き方研修、添削による個別の振返り面談実施。 ・各年齢の計画の共有時に、安全や保育内容への指導を繰り返し、実践にリンクさせて子育ての質を担保する。
2	計画・ねらい	子どもの権利条約、幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解
	実践予定内容	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていく。
3	計画・ねらい	職員は常に温かくポジティブな子育てを目指し、共感力を身につける。
	実践予定内容	子どもに対しポジティブな態度を示す（きちんと向き合い、否定的な態度をとらない）。 子どもの成長発達を正しくとらえ、常に発達に応じた子育て環境を提供し、子どもの思いや気持ちに寄り添い、共感することができる保育を徹底する。 子どもの発声、発音にその都度応答し、子どもが発するサインに丁寧に答えていく。 目先の出来栄えや結果を追うのではなく、その過程を大切にする。 子ども自身のほほえみや、笑顔を引き出す関わりを意識する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・積極的な個別の子育て面談の実施。 ・悩みが多い乳幼児期の保護者と子どもの成長の姿を共有する、積極的な面談の実施。
	実践予定内容	・保護者が子育てへの意欲を高め、自分自身の成長へと繋げるポジティブな思考を持てるように支援する。 ・こども家庭庁が示す保護者がウェルビーイング（幸せな状態）を作り出すための視点をスタッフ間で共有し面談技術向上をめざす。
2	計画・ねらい	・タイムライン、連絡帳、アルバムなど発信強化。 ・日々の直接支援業務への機会を意識し、支援の技術を高める。
	実践予定内容	・タイムラインをスタッフ一人が毎日、一つ以上を投稿する。 ・連絡帳記入のレベルアップ研修。 ・写真撮影技術の向上研修と、アルバムアップ率の向上。 ・日常の何気ない子どもの姿を捉えて、伝える技術の向上。 ・成長を伝える取組み＝子育て支援であることへの意識向上。 ・タイムライン、アルバムの担当リーダーを中心として、啓発を継続。
3	計画・ねらい	・NPSの向上　安心して預けられる園。 ・どろんこサポーターによる保護者交流の促進を支援。
	実践予定内容	・4月から「どろんこ祭り」に向けたサポーターを募集開始。 ・保護者間交流の機会の創出。 ・どろんこ祭りを保護者主体で企画・運営し、保護者同士、保護者と保育者、保護者と地域の方とのかかわりの機会として活動の幅を広げる。
4	計画・ねらい	・就学に向けた保護者支援。 ・子どもの成長を喜びに、プラスに捉える子育て感の共有。
	実践予定内容	・園で行う就学前教育の内容の共有。（保護者会配布資料を基に実施） ・就学に向け保護者の不安軽減と子育てへの見通しを持てるような支援。 ・小学校教育と幼児教育の違いについて理解を深め、不安解消に努める。 ・就学前教育の内容を日々のタイムラインやお迎え対応でお伝えする。 ・保護者同士の繋がり強化を図り、不安を期待へ。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援事業の実施
	実践予定内容	・子育て支援事業としての定期的な取り組みを行う。 ・同じ年代や子育て世代の横のつながりを深められるような場の提供をおこなう。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐという場を知っていただき、気軽に利用していただけるプランを立て、広く周知できるように情報発信をしていく。
	実践予定内容	・園庭解放。 ・青空保育や散歩先でチラシを配布し周知する。 ・自然食堂、芸術学校の実施。
3	計画・ねらい	子育て相談の充実
	実践予定内容	・お子さんの発達に不安を抱えている家庭や孤立する家庭を少しでも減ら

		せるような場として「地域に開かれた子育て支援」を実施する。 ・子育て相談、保育園体験、寺親屋、発達相談会、子育て講座

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもにかかわるすべての職員が丁寧な子育てを実践できるよう育成する
	実践予定内容	・園長大学®· 保育士大学の講座を視聴し、ディスカッションを行いながら全員が丁寧な保育を実践できるようにする。 ・一人ひとりに寄り添う丁寧な子育てとは何かを自身で常に振り返り、園内研修等で学びあい、子どもの最善の利益を追求する。
2	計画・ねらい	子どもの人権を学ぶ。虐待防止について学び徹底した対応をする。
	実践予定内容	・子どもの人権をしっかりと学び、子どもを子育て、支援することはどういうことなのか、大人の都合で子どもたちに接していないか、子どもに一人の人間として応対しているか、子どもの心を傷つけていないか、日々常にプロの保育士としての誇りと責任を感じて子育て・支援に当たる。 ・虐待防止については、虐待の定義を意識し、大人都合である保育を行っていないかをしっかり学び、子どもの人権を考えた行動がとれる職員集団を目指す。
3	計画・ねらい	非認知能力が育まれる環境構成を学び、ととのえる
	実践予定内容	・生きる力、生活力を身につけるために自分たちが実践していくべきことは何かディスカッションし、自分自身の頭で考え、失敗を恐れず行動し実践していける力をつける。 ・大人も主体性をスローガンに、自立した集団を目指す。
4	計画・ねらい	社会人としてのビジネスマナーの定着
	実践予定内容	・保護者支援を実施するにあたり、所作や応対についてのスキルを身に着ける。 ・地域、養成校等の外部機関の方と接する際に、丁寧な応対を実践することで互いの信頼関係構築がしっかりとなされる応対を研修をおこない習得する。

〈5〉環境実施目標

畑仕事を子どもと一緒に取り組み、種まき、育てる、収穫、いただくという体験の中での子どもの気づきに寄り添い「なぜ？」「どうして？」「やってみたい」という気持ちを育む。労働を通して流通の仕組みに興味が持てるように関わり、活動を子どもと一緒に考えていきながら、お金の価値観に気づけるようにする。

1	計画・ねらい	毎日畑仕事に取り組む中でその時に必要なことを判断し、自ら行動する。
	実践予定内容	野菜の成長を見守り、畑の状態や季節によって何をしたら良いのかを考えて取り組み、野菜が成長して収穫に至る喜びを感じながら、いただくことへの感謝の気持ちを持つ。
2	計画・ねらい	労働を通して、流通やお金のやり取りに興味を持つ。
	実践予定内容	遊びの経験から、販売に興味が出てきたタイミングを逃さず、流通やお金の価値観に気づけるような活動を子どもと一緒に考えていく。

〈6〉就学に向けての取り組み

・小学校との接続にむけた連携の重要を図る「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力。人間性等」は中学まで共通化されることを念頭におき、≪三つの柱≫を保育者が理解し、幼児期までに育って欲しい姿を含め、≪環境を通して行なう教育≫「遊びを通して学ぶ」ことを総合的に保育の中で意識し行っていく

・保育園にける子ども達を取り巻く学習の形がどうなっていくのかを把握し、スタートカリキュラムに繋げるため「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を保育の中に落とし込む。

1	計画・ねらい	7月頃　場所　鬼高小学校　交流会を開催
	実践予定内容	小学校へ足を運び小学生との交流をしていく。学校探検・授業体験を通して小学生へのイメージを持ち、期待感を持って就学を迎えられることを目的とした交流会である。
2	計画・ねらい	7月頃　場所　市川どろんこ保育園　交流会を開催
	実践予定内容	小学生との交流をしていく。交流を通して小学生へのイメージを持ち、期待感を持って就学を迎えられることを目的とした交流会である。
3	計画・ねらい	アプローチカリキュラムの理解と充実
	実践予定内容	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を行い、スタッフがアプローチカリキュラムを理解し0歳からのアプローチカリキュラムを充実させていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
１２人	１８人	18人	24人	24人	24人	120人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	14人	看護師	1人	栄養士	２人	事務	１人
パートスタッフ	保育士	6人	補助	１人	嘱託医	1人		

3.運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	子育ての質の向上をめざしたスタッフの園内研修。 運営部Missionへの深い理解のため研修。 ケース会議、給食会議、事故防止委員会等の内容共有
給食運営会議	月1回	喫食状況、嗜好、アレルギー児等に係ることの共有、検討
事故防止委員会	月1回	他園自園の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハット考察と自園で発生した事故の分析と改善の検討
ケース会議	月1回	子どもの様子の共有・関係機関との連携
乳児会議	月1回	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有
幼児会議	月1回	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人による連絡、共有事項。事故防止委員会
施設長勉強会	月1回	施設長のマネジメント力の向上のための勉強会
食育会議	年4回	施設長、調理担当者による食育の取り組み状況、給食に関する情報共有とレベルアップのための内容
保健会議	年4回	施設長、看護師による保健・衛生指導関係の情報共有とレベルアップのための内容
主任会議	年4回	主任としての役割の理解と園運営への理解
子育ての質を上げる会議	月1回	法人の保育の質向上の為の講義・意見交換・ディスカッション

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	法人全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項を元に開催する
安全対策係	事故防止に関する事項 ヒヤリハット集計・分析 改善策の検討と周知、施設設備点検及び人権チェックに関する情報発信

防火管理者	消防計画の作成と届け出・自主検査チェック（日常）避難・消火・通報訓練の実施管理・防災対策・自衛消防隊の編成
食品衛生責任者	衛生管理点検表・職員細菌検査実施・食品衛生上の管理
畑係	畑活動に関しての管理運営
生き物係	生き物に関しての管理運営
ハザードマップ係	散歩コース･園内外のハザードマップ作成（4･7･10･1月改定）

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ募集及びどろんこ祭り企画運営
運動会係	運動会開催に関わる計画運営
生活発表会係	生活発表会に関わる計画運営

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・安心して過ごすことができる環境を整える ・どんなことも気持ちを受け止め共感する ・笑顔や笑いを引き出す保育を展開する ・様々な行動や欲求に適切に応え、身近な大人との情緒的な絆を形成する ・活発な探索活動を楽しみながら、様々な感覚が育つ ・身近な大人や、少し大きい子どもとの日常の中で、身近にいる子どもを見て学び、感情を十分に表現し、大人に見守られながら健やかにのびのびと育つ ・生活の中の様々な遊びや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通し、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ
	下半期 0～1歳児	・自我形成の時期で、他者を認め始める時期に当たるので、異年齢での活動、たくさんの大人や異年齢児との関わりを十分に取り入れ活動する時間を増やしていく

		・とにかく気持ちを受け止め、保育者がそばにいることを実践する ・保育者も一緒に笑顔で遊び、遊びのバリエーションや展開のヒントを率先してみせることで生活の中の様々な遊びや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通し、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ
幼児保育	上半期 3～5歳児	・様々な経験や遊びを通して道具の使い方や工夫などができ、生活を豊かにできるような生活力を身につける ・毎日の生活やあそびの中で、基本的生活習慣や運動が心地よい感覚として身につく ・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ ・遊びたいものを自分で選択し、道具や玩具をいつでも手に取って使える環境の中で思いきり遊ぶ ・園児同士の関わり合いの中で人間関係、コミュニケーション能力を身につける ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動する ・遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みをしっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ
	下半期 2～5歳児	・様々な経験や遊びを通して道具の使い方や工夫などができ、生活を豊かにできるような生活力や身につけたことが定着する ・5歳児の午睡が終了し、2歳児が幼児クラスに合流するので、手伝いや当番活動の充実を図る ・10の姿を卒園する時期の子どもの育ちに照らし合わせながら成長を見守る ・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動する ・遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ ・失敗してももう一度挑戦してみようとする気持ちが育つような配慮をする ・就学に希望を持ち卒園できるようにする。また在園児は5歳児の姿を

		見て進級に見通しを持てるようにする
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・2025年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

【どろんこ会の食育方針】
（１）調理員、保育士、施設長は子どもと一緒に食べる
（２）噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供
（３）子どもが自分たちで盛付、配膳して食べる
　　以上、の３点を基本とする
・子どもの発達に応じた配慮を保護者と連携しながら行う
・子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事の提供をする

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践予定内容	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし子ども達に提供する。 魚の解体等、食育を通して命をいただくことが感じられるような体験を実施する。
2	計画・ねらい	調理スタッフと連携を図りながら食育活動に力を入れていく。
	実践予定内容	調理スタッフの積極的な保育参加により離乳食の進み具合や食事の状況を確認、子ども達の野菜への興味関心の向上。年長児は小学校へ向けた認知能力の刺激といった部分の教育をしていく。
3	計画・ねらい	月１回の給食会議にて情報の共有を行う。
	実践予定内容	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（６月・１１月）
歯科検診	年2回（６月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	・手洗いうがい ・歯磨き指導 ・性教育（年長児希望者のみ）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 夏頃…手足口病、ヘルパンギーナ 冬頃…インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･５名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２０名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員６名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在20名が研修受講し、修得済み 未受講の新入職員6名については3月19日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6月・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	物的環境・人的環境についての理解を深めていく。
	実践予定内容	園内研修、環境勉強会にて理解の深め合いを行う。子どもの興味・関心から環境の課題をみつけ、子どもが自ら考えられるような関りと、遊びの続きがしたくなるような環境を目指していく
2	計画・ねらい	発達（個別理解と発達段階）の理解、保育の質を上げていく。
	実践予定内容	発達段階に合わせた関りを行うため、昼礼等で共有した子どもの姿から必要な関りや発達を学んでいく。
3	計画・ねらい	清掃・美観を念頭に置いた仕組み作り
	実践予定内容	保育園で毎日過ごす、子ども、スタッフ、ヤギや鶏はもちろんこと保護者や訪問者にとっても過ごしやすく居心地の良い場所となれるように日々の清掃や美観に対して敏感になる。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	設置無し		

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災難に備える。マニュアルの徹底。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト年４回、設備点検年4回を行い、事故防止の徹底を図る。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント、ヒヤリハット報告の分析をする。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探る。
4	実践予定内容	年２回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者侵入訓練を実施する。 また訓練は避難訓練確保、不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象とする。

６.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

小中高生の保育体験、ボランティアの受け入れ

・協働で進める保育実習

受け入れられる実習生の不安な気持ちを受容して、応答的な関わりが出来るようにする

実習体験からの学びを、学生と保育者と相互に対話を重ねて、確認する

保育者は、実習指導を担うことでリーダーとしての力を身に付け、キャリアアップする

実習指導での気付きが園全体の保育の質を上げる

1	実践予定内容	近隣の養成校と連携をとり、実習生の学びの充実を図ると共に保育業界の質を担保していく。
2	実践予定内容	実習指導者は学生の指導を通して、自身のリーダーとしてのアウトプットスキルやファシリテーションスキルを向上させる。

７.スタッフ育成と研修計画

保育に携わるスタッフは必要な知識や保育力を身につけ、質を高めていく必要がある。人権に配慮した保育を行うためには、その倫理観や人間性も大事である。日々の保育の振り返りを習慣化し、今後の保育に必要な環境を考えたり、計画を立てたり環境を整えていく意識が求められる。

専門性を高めるためのキャリアアップ研修、外部研修、園長大学®・保育士大学講座に積極的に参加し、個々の学びを園内研修に繋げていくことで保育の質向上を図る。研修で学んだことを共有することで、自らの学びを確実なものにし、仲間と学び合う環境を作っていく。

施設長は、管理責任者としてスタッフが学び続けるための環境ときっかけを常に提供し続ける。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇、保護者対応 ③ 怪我ケーススタディ研修 ④ リスクマネジメント研修 ⑤ 虐待防止研修	コンピテンシーの振り返り 保護者対応で大事なこと、3分間対応でのポイント
5月2日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保育とは ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 丁寧な保育の理解と実践例
6月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの安全管理 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 水遊びの危機管理の共通理解 園長大学Ⓡ保育士大学動画視聴
7月4日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの本物の体験 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 子どもができる本物の体験を考える 就学を視野に入れての保護者連携
8月1日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの主体性の理解 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 子どもが主体的に活動するために必要な関わり方を考える
9月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校接続を考える ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 園長大学Ⓡ保育士大学の動画から接続の在り方について考える
10月3日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの表現について ③ リスクマネジメント研修 ④ 虐待防止研修	コンピテンシーの振り返り 子どもの表現の在り方についての確認　大人主導とは・・
11月7日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 気になる子への関わり方 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 子ども理解と関わり方を考える 全体研修動画視聴
12月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 感染症の理解と対策の共有
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 1年間の振り返り ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 個人と学年、フロアでの振り返り
2月20日	18:00～21:00	策定会議1回目	次年度計画立案

3月1日	9:00～18:00	策定会議2回目	次年度計画立案

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉スタッフ目標進捗確認

施設長はスタッフごと期首に定めた個人目標の進捗確認を四半期ごとの個人面談で確認をおこなう。面談では、どのような計画で行動すれば目標が達成できるかを並走して考え、短い期間での行動計画を立案し、期末においてはスタッフが達成感を得られるアプローチをおこなう。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

地域の人と繋がり子育てしていくことを目指す。子育て支援の拠点として、世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）地域子育て計画を元に時代に合わせた子育て支援を展開していく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：500名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：鬼高遺跡公園にて　　集客目標：30名/月
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・老人施設「まどか」様　月1回　訪問交流
異年齢交流	・他園交流訪問受け入れ ・鬼高小学校　マラソン大会・運動会応援 ・大和田小学校　園児交流
地域拠点活動	・小中高生の育児体験受け入れ ・実習生の受け入れ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

保育所保育要録の送付

保育園で積み重ねられた子どもの育ち（保育所保育指針　第１章総則　「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとに）を、小学校での生活や学びに繋げていくことが重要と考える。

以下計画について、就学前支援の取り組みについて小学校と相談・協議を開始する。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	鬼高小学校	24名予定	交流会（鬼高小校庭）	子ども間交流

10月頃	鬼高小学校	24名予定	市川どろんこ保育園 （当園幼児保育室）	子ども間交流
2月頃	鬼高小学校	５名予定	授業参観	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできることを目指す。毎月幼児会議、乳児会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合って進めていく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：５名予定）
要支援児の過ごす保育室によって、担任だけではなくチームとして話し合い、関わりを検討していく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

今までの支援計画に基づく関わり、ケース会議の資料を使いながら丁寧な引継ぎを行う。
小学校へは保育所保育児童要録の申し送りの他に細やかな面談を実施し、丁寧な引継ぎを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：100名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

2025年９月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時00分
自己評価終了予定時刻：12時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務、各リーダー

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	園の課題をチーム力で解決できる職員集団を目指す
	振り返り	毎月の園内研修にて自身の考えを発信できるよう、意見交換の機会を多く設けてきた。特に９月以降はリーダースタッフを中心に研修企画を立て、現場の課題や保育の振り返り、子どもの姿の共有に力を入れていった。日々の保育、個人の保育に対する考えを周りが認め、チームとして機能する場面が見られるようになってきた。保育の質向上にはチーム間の連携が大切になってくる。体制が変わっても、ブレないカルチャーの土台を築くことが今後の保育のポイントとなる。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	スタッフ全員が基礎を最重要と考え、心構え、実務ともに学び続ける集団となっている
	重点施策	・目標設定時は、スタッフ個々の成長したいこと、実現したいことが盛りこまれている ・施設長は、四半期ごとに各スタッフと進捗面談を実施し、実現したい目標についてサポートし並走しきる ・接遇、ビジネスマナー、養護の3項目について、１年間様々な学びの機会を設定し、互いに情報をアウトプットしあう
２６年度	目指す姿	スタッフ一人ひとりの視座が高く、リーダー層が年間を通して人材育成の視点を持ち、業務にあたっている。
	重点施策	リーダーを中心とした園運営を行い、保育を取り巻く世の中の情勢を理

		解し業務にあたる。
２７年度	目指す姿	エンゲージメント（深いつながりを持った関係性）が高いスタッフ集団であり、園運営を自走できるようになっている
	重点施策	園の未来を自分の人生のように一緒につくっていきたいと思えるようなマネジメントをし、スタッフのエンゲージメントを高める。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：市川どろんこ保育園　施設長　益田 光太郎

2025年度　新座どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

(1)　豊かな自然に囲まれた環境の中で、日本の四季が与えてくれる自然の変化を五感で感じながら好きな遊びを主体的に見つけ、さまざまな体験や気づきを通してたくさんの好奇心や創造力、考える力を育む保育を展開していく。好きなことに夢中になることで自然に集中力が養われていく。大人は干渉しすぎず1人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い温かく見守りながら「子どもの心を育む」ことに重点を置く。

(2)「にんげん力。育てます。」の法人子育て理念に基づき、生活力を身につけ、予測困難な時代を生き抜く力を培う。さまざまな体験を通して友だちと助け合ったり、ぶつかり合ったりしながら人間関係を学び、お互いを認め合いながら心地よくコミュニケーションできる力を身につけていく。また見通しを持って主体的に遊べる環境を整備し、その中で成功体験を積み重ね、失敗を恐れず失敗を成功の機会と捉えられるポジティブな心を育む。

(3)　地域の拠点となり、大人も子どもも混ざり、共に支え合い、学び合い、育ち合える保育園を目指す。

●質の高い基本活動の実施
異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・畑仕事・ヤギと鶏の世話・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得と質の高い基本活動の実施
	実践予定内容	・園会議で基本活動についてディスカッションを行い、深い理解と質の向上を目指す。 ・大人が見せて教えないと知れない遊びや歌、道具の使い方、火や危険なものとの距離の取り方を大人が背中を見せ共主体の保育を実践する。
2	計画・ねらい	子どもの育ちを語り合える職員集団の形成
	実践予定内容	・日々、子どもについての発見の喜びを語り合いながら、どのような育ちにつながっているかを語り合う姿が日常となる風土をつくる。 ・子どもの育ちを考察し、ポートフォリオで可視化し、保護者に積極的に発信する。
3	計画・ねらい	丁寧な保育の実践
	実践予定内容	・「子どもの権利条約」「子どもの最善の利益」を理解し、子どもとの向き合い方を学び続ける。 ・大人の言動が子どもの心を傷つけていないか、大人都合になっていないかを常に振り返る。 ・乳児の人権を尊重し、応答関係と共感性を大切にした保育を行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心に寄り添う接遇
	実践予定内容	・大切なお子さんを預ける不安を理解し、安心して仕事ができるようサポートしていく。 ・保護者の立場に立ち、思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の気持ちを忘れずに接する。 ・日々のコミュニケーションを大切にし、お迎え時には、その日の子どもの様子や育ちの変化を丁寧に伝え、子どもを中心とした共感関係を築く。
2	計画・ねらい	保護者間の繋がりが持てる活動の実施
	実践予定内容	・どろんこサポーターズを募り、積極的に地域や保護者同士・職員と交流できる機会を提供する。 ・どろんこサポーターズを中心に保護者と一緒に作るどろんこ祭りになるよう声掛け・工夫をしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援
	実践予定内容	・園庭解放やちきんえっぐ(自然食堂、自然学校、芸術学校、寺親屋)への参加者を増やし、地域の子育て交流の場とする。 ・園の行事(どろんこ祭り、運動会)を地域に宣伝し、参加を促すことで園の魅力を知っていただく。
2	計画・ねらい	子育て相談の受け入れ
	実践予定内容	・だれにも言えない、相談できない、子育ての悩みを気軽に話せる場として環境を提供していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	チーム保育の強化
	実践予定内容	・子どもを真ん中に置き、職員同士が日常的に語り合う風土をつくる。 ・リーダーは職員一人ひとりの協働力・コミュニケーション力の向上を促し、職員のにんげん力向上に向けてマネジメント力を磨く。
2	計画・ねらい	学び合い、語り合いの風土づくり
	実践予定内容	・園長大学の講座を視聴し、少人数・キャリア別でディスカッション(アウトプット)を行い、学びを深める。 ・職員はペアを組み、子どものエピソードを考察し、ポートフォリオ作成を通じて子どもを深く理解する力を養う。
3	計画・ねらい	大人のにんげん力ＵＰ
	実践予定内容	・大人も新しい事にチャレンジし、失敗を経験しながら学ぶ姿を子どもに見せる。 ・「共主体の保育」を実践し、大人自信が保育を楽しむ。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑の土の改良
	実践予定内容	・給食の残渣やヤギの糞を活用し、たい肥を作りながら野菜を育てる。 ・コンポストを活用し、子ども中心でたい肥作りを体験する。
2	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	・魚をさばく、鶏を絞めるなど、命をいただく体験を行う。 ・毎日の労働で収穫した野菜を活用し、たくあんやケチャップなどの加工を通じた食育体験を実施する。
3	計画・ねらい	給食残渣削減
	実践予定内容	・食品ロスや経済的影響など環境維持の視点から、子どもたちとＳＤＧｓについて考える。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	異年齢児保育
	実践予定内容	・子ども1人ひとりの発達や個性、興味を理解し、好きなことが探索できて安全な環境を整備する。 ・スタッフ全員ですべての子が見守れる体制を強化する。 ・大人の見守りの中で、年齢関係なく多様な関わりができ、それぞれが自分で考えて行動する力を育む。

〈7〉就学の取り組み

1	計画・ねらい	協働して一つのモノを作り上げる活動実践
	実践予定内容	・子ども同士が意見を出し合いながら協働する中で、試行錯誤を繰り返し、ルールの大切さを学び、コミュニケーション力や感情コントロールを育む。 ・協働する喜びを通して、コミュニケーションの楽しさ、自分の意見を聞いてもらう喜びや人の意見を取り入れてみようとする思いやりの気持ち、アイデアなどを経験する。
2	計画・ねらい	スムーズな小学校進学に向けて
	実践予定内容	・小学校と連携し、逆算型の「アプローチカリキュラム」を作成し、就学への接続を確かなものとしていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	15人	15人	15人	15人	81人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	補助	1人	事務	1人	用務	2人		

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	k計画に基づき研修
給食運営会議	月1回	食育計画、献立の振り返り・食環境の振り返り
事故防止委員会	月1回	前月のヒヤリハット、インシデント分析・危機管理研修
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返りと計画
乳児会議・幼児会議	随時	月案、週案の確認・課題の振り返り、見直し
リーダー会議	随時	課題抽出、解決案の検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での事務連絡・経営方針の解説
施設長勉強会	月1回	マネジメント研修・コンプライアンス研修・課題改善取り組み発表
食育会議	年4回	マニュアルの確認・食育研修
保健会議	年4回	保健管理業務の共有・確認・改善
主任会議	年12回	マネジメント研修・主任の役割・各園の課題改善アクションプランの進捗と共有

子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げるための研修・課題抽出・課題改善計画立案及び 取組成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども、職員の健康保持のための環境整備 感染症予防における業務の維持・温度、湿度、換気確認
安全対策係	避難訓練（毎月）、不審者侵入訓練（6月/12月 ）の実施と振り返り、設備点検（5月・7月・9月・11月・1月・3月の25日）、 事故防止自主点検（4月・7月・10月・1月の25日）
防火管理者	消防計画作成と届け出 安全対策係の任命 自主点検チェック（日常） 防災用備蓄の確認（6月・12月）
食品衛生責任者	衛生管理、点検作業実施 食育会議計画と実施 食育計画の作成と振り返り 作業手順と作業記録の作成
畑係	畑の管理・計画
生き物係	ヤギ・鶏の世話・餌の管理・発注

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	企画・運営、保護者との連携

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・生理的欲求を満たし、それぞれのリズムで安心して過ごす ・保育者との信頼関係を深める ・環境とのかかわりの中で、好きな遊びや探索活動を十分に楽しみ、友だちへの関わりの芽生えを促す

	下半期 0～1歳児	・様々な体験を通して感性を豊かにし、感じたことや気持ちを保育者に受け止めたもらいながら、表現の喜びを感じる ・身近な自然に興味を持ち、五感を使って楽しむ ・保育者や友だちと一緒にいることで安心し、様々なことに興味・関心を広げる ・生活や遊びの中で、自分でやってみようとする気持ちに丁寧に寄り添い援助する中で、基本的生活習慣が身につく
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢の中で保育者や友だちに親しみを持ち、他者と共に遊んだり、生活することに喜びや楽しみを見出す ・ 興味関心をもったことに主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたりしながら、遊びに取り入れていく ・ 様々な素材や画材に触れ、思いおもいに表現することを楽しむ
	下半期 2～5歳児	・異年齢の関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を味あう経験を保障する ・遊びや生活の中で、自分の気づきや、考え、思いを、友だちと共有しながら、互いに試行錯誤したり、創意工夫したりして、1つのものを作り上げる ・心を動かす様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	十分に体を動かし、空腹で食事に向かうリズムをつくる。
	実践予定内容	・午前活動は、9時に散歩出発、乳児は11：15、幼児は11：45まで十分に戸外遊びを楽しむ。
2	計画・ねらい	食事を通したコミュニケーション
	実践予定内容	・好きな人と好きな場所で食べて美味しいと感じる子どもを育てる。 ・調理員・保育士・施設長は、子どもと一緒に食事を取り、楽しむ。
3	計画・ねらい	食材・食の循環を知る直接体験を行う
	実践予定内容	・畑仕事を日課とし、収穫野菜を加工する。

		・魚の解体などの体験を通して、命あるものをいただいていることを知り、感謝の気持ちを育む。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（５月・１０月）
歯科検診	年１回（６月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃･･･ウイルス性胃腸炎 1月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･3名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 アレルギー薬･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在18名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・ 手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子ども1人ひとりの個性を捉え、心地よく過ごせる環境の整備
	実践予定内容	・掃除の仕組みを確立し、見た目も含めた清潔な環境の構築を図る。 ・年齢や発達段階に合わせておもちゃの設置をする。 ・取りやすさ、片づけやすさを考えた丁寧な環境構成 ・子どもの年齢に合わせたスキンシップ
2	計画・ねらい	子どもが主体的に好きな遊びを見つけられる環境の整備
	実践予定内容	・様々な材料や道具など多様なものを常設する。 ・子どもの発達に配慮したゾーンの構築。 ・大人が道具の使い方や遊び方を教える。
3	計画・ねらい	安全対策の徹底
	実践予定内容	・施設内の安全点検を定期的に行う ・掃除や消毒方法の見直しなどの衛生管理

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	登りロープ	園庭	毎朝
2	園庭水道パーテーション	園庭	毎朝
3	やぎ鶏小屋	園庭	毎朝
4	長椅子　4個	幼児室	毎朝
5	鏡	幼児室	毎朝
6	コンポスト　2個	畑	毎朝

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎日15日に行う。また、法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時緊急連絡を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる
2	ケガ事故防止	・ヒヤリハット共有と分析、インシデントの検証と対策 ・自園で起こった事故はその日のうちに事故防止委員会を開き、事故の検証と対策を講じる。事故防止として他園で起きた事故について検証を行う ・交通安全教室を実施し、交通マナーの基本を学ぶ
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施する。また、訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象とする
4	光化学スモッグ	・光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握する ・光化学スモッ ク注意報の発令があった場合は内容にあった看板・貼紙等を提示する

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・依頼のある中高生の体験学習やボランティアを積極的に受け入れする。オリエンテーションでルールや園内の案内を行い、安心して体験できるようにする。
・保育・社会福祉系大学、専門学校等の保育実習に関しては、将来の人材育成であることを踏まえ積極的に受け入れをし、目標を持って実習に励むことができるように丁寧に指導する。また、保育実習指導を通して、職員自身の保育を見直す機会にする。

1	実践予定内容	保育士養成校からの実習生の受け入れ
2	実践予定内容	近隣中学校からの職場体験受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修 ③ 日課・基本活動の理解 ④10の姿「健康な心と体」	・人権チェック実施・園長大学視聴(子どもの人権) ・日課・基本活動について考える ・10の姿の事例とポイント
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修 ③ 自然保育研修 ④ 10の姿「自立心」	・保育園における危険予測 ・園長大学視聴（保育と自然を未来志向で考えてみる） ・10の姿の事例とポイント
6月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺の危機管理研修 ③ 心肺蘇生 ④ 10の姿「協同性」	・園長大学視聴(水辺のリスクマネージメント) ・肺蘇生術を学ぶ ・水遊び・感触あそびがもたらす子どもの育ち・夏の環境・取り組みのディスカッション ・10の姿の事例とポイント
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援 ③ ポートフォリオ研修 ④ 10の姿「道徳性・規範意識の芽生え」	・園長大学視聴(保護者支援) ・ポートフォリオを通して子どもを観察・振り返り、保育へ活かす ・10の姿の事例とポイント
8月1日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境整備 ③ 10の姿「社会生活との関わり」	・園長大学視聴(心を育てる保育環境) ・10の姿の事例とポイント
9月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラム ③ 10の姿「思考力の芽生え」	・園長大学視聴(就学支援計画) ・10の姿の事例とポイント
10月2日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課・基本活動 ③ インクルーシブ保育 ④ 10の姿「自然との関わり・生命尊重」 ⑤ 人権チェック・虐待防止研修	・日課・基本活動の振り返り・ディスカッション ・園長大学視聴(インクルーシブ) ・10の姿の事例とポイント ・マニュアルに沿って虐待防止研修の実施。

11月7日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修視聴 ③ 焚火研修 ④ 10の姿「数量や図形・認識や文字などへの関心、感覚」	・全体研修視聴・ディスカッション ・焚火の魅力を知る。 ・焚火時のリスク・ルールの確認 ・10の姿の事例とポイント
12月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り(事業計画) ③10の姿「言葉による伝え合い」	・事業計画書を振り返り、次年度の向ける ・10の姿の事例とポイント
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り（基本活動・日課） ③10の姿「豊かな感性と表現」	・次年度事業計画作成に向けて振り返り ・10の姿の事例とポイント
2月20日	18:00～21:00	② 第一回策定会議	・次年度の事業計画に向けた目標設定
3月8日	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第二回策定会議	・年間事業計画の作成 ・畝づくり研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の方が自由に園を利用し、集いの拠点となるよう、園開放を積極的に行っていく。地域で子どもたちの安全や成長を見守り、更には共に子育てができる施設を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：ほたる公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問、地域の高齢者との交流
異年齢交流	小中高生の職場体験・ボランティア・小学校交流
地域拠点活動	園開放・保育参加
銭湯でお風呂の日	月1回　（3～5歳児）

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもの生活の連続性を踏まえ、スムーズな接続を目指し小学校教諭と相互理解を図っていく。小学校の生活を知り、アプローチカリキュラムを作成し学びの基礎を培う。また、小学校見学や交流会に参加し、小学校就学へ期待が持てるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月2日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	新座第四小学校	2名予定	ブロック別意見交換会（第四小学校）	職員間交流
12月頃	新座第四小学校 1年生	15名予定	授業参観（新座第四小学校）	子ども間交流
1月頃	新座第四小学校 1年生	15名予定	小学生と交流会（新座第四小学校）	子ども間交流
2月頃	新座第四小学校	2名予定	ブロック別意見交換会（第四小学校）	職員間交流
3月頃	新座第四小学校	2名予定	情報共有（当園）	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上計画をたてる。
月1回のケース会議で振り返りとスタッフ間の共有を行い、見直していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：5名予定）
個別支援計画の振り返りと次月計画の確認

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への引継ぎは児童指導要録、または、各校の担当職員と面談を行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：10名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	月2回　10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校	月2回　10:00～12:00　　集客目標：10名

どろんこ自然学校	
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：ほたる公園にて開催　集客目標：10名

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年5月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：　9時00分
自己評価終了予定時刻：16時00分
自己評価実施予定者：園長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	日課・基本活動の充実、全ての子どもが主体的に遊び込める環境の整備、保護者に寄り添った子育てのパートナーシップの強化
	振り返り	・子どもの姿をベースに繰り返し環境整備を行ってきた。主体的に日課や遊びに向かえるよう保育者の関わりや導線など丁寧さにこだわったことで質の向上につながった。次年度は、日課・基本活動の理解を更に深め、ポートフォリオやお迎え対応で子どものどんな育ちにつながっているか、職員1人ひとりが語れるようになり保護者との関係性を深めていけるようにする。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	丁寧な保育が定着し、インクルーシブ保育が実践されている
	重点施策	・子どもの人権について職員間で理解を深め、共感性を高める。 ・「10の姿」ついての理解を深め、0歳児からの成長を逆算した保育計画を作成し実践する。 ・すべての子どもが主体的に遊び、生活ができるよう、物的環境の整備を追求する。
2026年度	目指す姿	大人も子どもも一人の人として尊重され、大きな家で共に考え「にんげん力」が磨かれていく
	重点施策	・大人は子どもの知的好奇心を育む環境や活動を計画・実践する。 ・子どもの想いを共感しながら、新しいことに挑戦できる場をつくる。 ・遊びや生活の中で「後伸びする力」を養うため、対話を重視した活動を行う。
2027年度	目指す姿	地域で子育てができる拠点として選ばれる
	重点施策	・どろんこサポーターズと協働して、園庭解放や交流行事など地域のコミュニケーションの場としての機会を増やす。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：新座どろんこ保育園 施設長　新居 一枝

２０２５年度　仲町どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

内閣府の「目指す未来社会像 Society 5.0」によると、今後日本の未来は『持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会を目指したい』と考えられている。中央省庁の中でも注目されるのが経済産業省の「未来人材ビジョン」である。それによると、次の社会を形づくる若い世代に対しては、

・常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力
・夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢
・グローバルな社会課題を解決する意欲
・多様性を受容し他者と協働する能力

といった、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められる。そしてそれには今後「好きなことに夢中になれる教育への転換」が必要だという。一律・一斉で画一的な知識を詰め込むという考えを改め、一人ひとりの認知特性・興味関心・家庭環境の多様性を前提に、時間・空間・教材・コーチの組み合わせの自由度を高める方向に転換し、子どもたちが好きなことに繰り返し挑戦したくなる機会を増やしていくことをすべきだと謳われている。

まさにどろんこ会が育成しようとする子どもの姿に一致しており、我々は保育のプロ集団として、今後も理念・方針を変えることなく取り組まねばならない。それには大人も主体性を以て考え、学び、動く、自立した組織になる必要がある。その為に2025年度仲町どろんこ保育園では以下の方針としたい。

【法人理念】
「にんげん力。育てます。」

【法人子育て目標】
「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

【仲町どろんこ保育園　基本方針】
＝子どもの人権が守られ、大人が主体性を以て考え、学び、動く、自立した集団＝

1，子どもの人権を尊重しながら最大の利益を優先し成長を見守る為、大人は何をすればよいのかを考え、その結果自身も主体性を以て考え、学び、動く。
2，子どもの主体性を尊重する保育の実践をする。基本活動（土に触れる・歌・焚火活動・針仕事・労働等）を深く理解し、子どもたちが選び取れる環境を作る。大変だがしなくてはならないことがあることも伝える。
3，小学校1年生を見据え、逆算した保育を実践する。その為に子どもも大人も学び続け、井の中の蛙にならない。学び続けるからこそ技術が身に付き視野が広がり、心身ともに豊かになる。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもも大人も「逞しく生き抜く力」＝にんげん力を育む
	実践予定内容	日課・基本保育活動の徹底と戸外活動時間の確実な確保。 なぜ戸外活動時間を確保するかを明確にし、さくらさくらんぼリズム・雑

		巾がけ・座禅を実施した上での9時散歩出発を実施する。戸外では子どもの主体性を尊重し、多くの体験を含む保育を実践する。 大人は保育を通じ、学び続ける。
2	計画・ねらい	乳・幼児混合の異年齢保育を当たり前に実施
	実践予定内容	乳児は幼児により発達が促され、幼児は小さな子を慈しむ心を育むために、乳児・幼児の混合保育を当たり前に進める。
3	計画・ねらい	食の循環・SDGsを考慮した保育の実践をし、子どもの環境への意識を育む
	実践予定内容	食を通した環境への配慮、物を大切にする取り組みを実施する。 コンポスト等を利用した畑活動を実施し、自分で育てた野菜等を使用した食育活動を実施する（梅干し・梅シロップ・干し柿・干し野菜・味噌・ケチャップ等）。 命をいただく活動を通し、食の循環を知る。
4	計画・ねらい	小学校1年生を知り、そこから遡った保育活動の実施
	実践予定内容	幼保小接続の重要性を鑑み、連携プロジェクトを組成しスムーズな接続となるよう取り組む。 小学校1年生を見学し、教職員と会話を進め、大人になる為に必要なものについて確認する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

子どもを真ん中に心を込めた「共育て」の実施。
第三者の目線を持ち、職員自身が受けると嬉しい対応を考え実施する。

1	計画・ねらい	お迎え対応の質向上
	実践予定内容	前提：挨拶・笑顔 ■乳児クラス 子ども一人ひとりの様子を手に取るようにお伝えする。 ■幼児クラス 主に活動内容をお伝えし、ご家庭での会話作りのきっかけとなるようなキーワード伝達を行う。 乳児・幼児クラス共に体調面や様子の変化等については、詳しくお伝えし家庭と連携を密に行っていく。 また、お迎え伝達以外にも連絡帳やタイムライン、ポートフォリオ等を活用しながら保育の様子をお伝えしていく。 利用者アンケートを通じ、保護者からのご意見ご提案に真摯に取り組み、保護者懇談会時にて改善点を公表する。
2	計画・ねらい	積極的に個別面談、支援を行う
	実践予定内容	年に1回の保護者面談とは別に、面談希望のある方や子育てについて悩みを抱えている保護者に対し、面談の機会を積極的に設ける。園としての解決策の提示や、保護者と一緒に時間をかけて解決を行っていくなど親身に寄り添う。

3	計画・ねらい	保育参加への呼びかけ
	実践予定内容	積極的に保育参加を呼びかけ、日頃の園での子どもの様子を見ていただくことで、園と家庭が共に子どもを真ん中に歩み寄る。

〈3〉地域の子育て支援事業

選ばれ続ける園になる為に、地域への園庭開放・子育て支援活動を積極的に実施する

1	計画・ねらい	ちきんえっぐ行事の充実
	実践予定内容	ちきんえっぐの活動のアナウンスを積極的に行い、当園の存在や活動内容を地域へ発信していく。
2	計画・ねらい	地域保護者への関わり
	実践予定内容	公園や園周辺等で子育て中の親子を見かけた際には当園を利用していなくても言葉を掛け、子育ての悩みを1人で抱えてしまう状況を作らないよう、園庭開放や青空保育等のご案内を行う。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

異年齢保育・インクルーシブ保育・子どもの主体性を重要視した保育を実施するには、職員は常に自分をブラッシュアップする必要がある。それこそが保育が楽しく感じるための重要なポイントとなるであろう。井の中の蛙にならないよう常に学ぶ姿勢を忘れてはならない

1	計画・ねらい	職員同士でスキル向上を目指して
	実践予定内容	個人で研修に参加するだけでなく、自身で学んだことや元々持っているスキルのアウトプットにも力を入れていく。毎月交代で一人一講座を持ち研修を実施する。内容は「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を中心に個人が内容をまとめ発表する。最終的には法人内でも講師として研修を開催できることを目標としていく。

〈5〉環境実施目標

異年齢保育・インクルーシブ保育の中で子どもが自分で選択し、協同性を育む

1	計画・ねらい	遊びの行き先は前日に自分で決める。若しくは自分で選択する
	実践予定内容	散歩は目的を以て行き先・遊ぶ場所を子ども自身が決める。 「明日は〇〇がしたいからそれができる〇〇公園へ行きたい」を子どもが発信・選択する。意見が割れた場合は子ども自身がプレゼンテーションを行い、多数決とする。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して協同性を育成する
	実践予定内容	遊びや生活の準備・片付けを一緒に自主的に最後までやりきる。
3	計画・ねらい	火・水・土を積極的に使用し、五感を使った活動の実施
	実践予定内容	火（焚火・クッキング）・水（川遊び）・土（どろんこ遊び）を積極的に行い、集中力や危険察知能力等を養う。

〈6〉リスクマネジメントの徹底

異年齢保育・インクルーシブ保育・見守る保育は全て、リスクマネジメントの徹底の上で成り立つ。これを踏まえ、先ずは各職員が確実にリスクマネジメントを習得し、その上で子どもも大人も楽しむ保育を実施する。

1	計画・ねらい	主体性保育の充実のために、安全・安心を前提とする。
	実践予定内容	「共有」を前提とし、怪我事故・インシデント・ヒヤリハット等の振り返り・ケース会議等を実施し、園の職員として必要なリスクヘッジは何かを常に考えながら保育ができるよう対話をする。
2	計画・ねらい	清掃・美観の徹底
	実践予定内容	リスクを減らすには常に整理整頓された場であることが重要である。第三者の目線を持ち、選ばれ続ける園となる為に常に美観を保てるよう清掃・断捨離を実施する。

〈7〉利用者アンケートの質向上

8月に実施される利用者アンケートは、利用者から選ばれ続け、他者へ勧めたい保育園としての指標となる。

1	計画・ねらい	「ご利用中の保育園を他の人に勧めたいですか」項目で前年度比NPS5%向上を目指す。
	実践予定内容	保育内容の充実、職員の確実なリスクマネジメントの実施、朝の受入れ時・お迎え時の対応内容、笑顔、子どもの姿で前年度を上回る実践をする。
2	計画・ねらい	求められる改善意見について真摯に対応する。
	実践予定内容	アジャイルに改善を進め、保護者懇談会等で報告する。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	18人	18人	18人	90人

弾力運用人数は108名

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	14人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	補助	3人	**事務**	**1人**	用務	1人	嘱託医	2人

3.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返りや課題の抽出、改善に向けての議論 行事の提案や振り返り、保育の質を向上に向けた研修
給食運営会議	月1回	食育活動の提案や振り返り 食事環境についての振り返り
事故防止委員会	月1回	自園、他園の事故記録簿を活用し事故防止に向けての討議 ハザードマップの見直し等
ケース会議	月1回	要支援児について情報共有、対応検討
リーダー会議	月1回	事業計画書の進捗確認、それに関わる園内主要課題抽出と対策の検討
幼児、乳児会議	月1回	リーダー会議を元に細かい配慮の検討、一般職員視点からの課題抽出と検討

〈1〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人の共有事項の確認及び討議等
施設長勉強会	月1回	施設長の質向上に向けた勉強会
食育会議	年4回	献立内容の振り返り、改善や提案。食育活動の共有等
保健会議	年4回	感染症対策や衛生についての議論、共有
主任会議	月1回	主任の立場からの保育運営や職員育成について
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上に向けた研修や議論等

〈2〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども、職員の健康管理、園舎設備の衛生維持
安全対策係	ハザードマップの管理、設備点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練、不審者訓練等の計画実施、自主点検等の管理
食品衛生責任者	食の安全に関する管理及び維持。
畑係	畑の年間計画の遂行、管理維持等
生き物係	ヤギ・鶏をはじめとする飼育物全般の管理、維持

〈3〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	園主体としながらも、保護者ボランティアと連携し準備運営を行っていく
彩夏祭	保護者が主体として準備運営を行っていくが、園としても最大限に協力を行う

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育者との信頼関係を丁寧に築いていき、子どもが保育者に見守られながら安心して生活を送る。 ・子どもの個々の発達を見極め、必要に応じた言葉掛けや援助を行い、子どもの経験や機会を保障していく。
	下半期 0～1歳児	・子どもの心情意欲を汲み取り、気持ちに寄り添った環境構成を行っていく。また子どもが自発的に試してみたいと思う環境を準備し保育者が見守る中で十分に遊べるよう工夫していく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・自ら学び考え楽しめるような環境構成や玩具の導入等を行っていく。保育者は側で見守り、必要に応じて援助を行うことで子どもの自発的な行動を引き出していく。
	下半期 2～5歳児	・異年齢児で触れ合う中で互いに刺激を受け合いながら、活動の中で自分たちで解決し様々なことを学び成長していく。

保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子どもの「食べたい」意欲を育てる環境
	実践予定内容	「食べることは生きること」であり、「楽しく食べる」をモットーとしたい。自分で食べたい分をよそい、自分で席を決める、を大事とする。その為の環境設定を重要視していく。
2	計画・ねらい	食材の流通経路や加工方法を知り、興味関心を高めていく。
	実践予定内容	三色ボードに加え、命をいただく活動等を通して、食材の流通経路を知ることで、食材に対してより興味関心を高めていく。
3	計画・ねらい	給食の下処理や調理に積極的に関わりを持つ。
	実践予定内容	朝の活動時に野菜の下処理や米研ぎなど積極的に行っていく。 定期的に保育室でお米を炊き、出来上がる匂いと共にお腹が空く体験を増やしてく。
4	計画・ねらい	保護者×食育支援
	実践予定内容	家庭での食に対する悩みを積極的に解決していく。食育だよりだけでなく食育相談会や給食メニューの共有等も行っていく。また、調理スタッフも積極的に保護者へ関わり、食に対する悩みへのアドバイス等を行っていく。
5	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、直火を活用した食育活動を行っていく。直火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わう。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（６月・１１月）
歯科検診	年１回（６月）
保健だより	月1回（25日）発行

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導 早寝早起き朝ご飯を推奨していく
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス、インフルエンザ 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 冬季（乾燥期）･･･胃腸炎・インフルエンザ・嘔吐下痢
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ他緊急用医薬品を3名より預かり済み／相談室冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月19日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については7月31日までに受講予定 また地域公開講座としてAED研修を7月中に実施し、使用できる保護者も存在
その他保健に関する取組	感染症拡大時には園内の保育室・手すり・トイレ等、園児が触る個所を徹底的に消毒

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･１１月 歯科健診　年１回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが自ら遊びを作り出せるような環境作りを行う
	実践予定内容	用意された環境ではなく、子どもが可動させることができる棚や大型ブロック等を用意しておくことで、子ども自ら考えて環境を構成し遊び込むことができるよう工夫していく。
2	計画・ねらい	衛生・安全管理について
	実践予定内容	子どもが安心、安全に過ごすことが出来るよう、遊具や建具の点検や清掃消毒を都度行っていく。特に子どもの帽子や歯ブラシの管理については一段と配慮する。
3	計画・ねらい	園舎の環境美化
	実践予定内容	早番、遅番で園舎内外の清掃点検を行う。 施設長、主任が率先し朝の清掃等も行い、園舎の美観を意識した取り組みを行っていく。

〈７〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	乳児保育室/幼児保育室	毎週金曜日
2	乳児・幼児テーブル	乳児・幼児室	毎週金曜日
3	活動選択ボード	縁側	毎週金曜日
4	お店屋さんごっこ台	乳児室	毎週金曜日

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	光化学スモッグ	朝霞市の情報をすばやく園内外の職員へ共有し、園外で活動している職員についてはマニュアルに基づいた対応を指示する。また、園内についても窓を閉め子ども達の健康状況について留意する。
2	安全対策係	係を中心に避難訓練や不審者訓練等を行い、日頃から防犯に対する高め有事の際にスムーズに対応できるよう意識していく。また定期的にマニュアルの読み合わせを行い、災害時における対応についての確認を行う。
3	水辺のリスクマネジメントネジメント	川遊びやプール遊びの際の事故防止についての研修を行う。またプール活動時期前には事故が起きた際のシミュレーションを行い、全職員が迅速に対応できるよう対策を行っていく。
4	応急救命	消防署による救命救急研修を実施し、積極的に参加する。また保護者へもアナウンスし、乳幼児期の命を守る研修を一緒に学ぶ。

６.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・実習依頼があった学校からは積極的に受け入れを行い、実習生に寄り添った指導を心掛けていく。また実習後「働きたい職場」となるよう実習生と関わる。

・近隣の中学校、高校から依頼があった際も積極的に受け入れを行い、教員と連携しながら安心して体験学習を行えるよう配慮する。

1	通年	養成校の実習生受け入れを積極的に実施
2	通年	養成校の保育体験や園見学を積極的に受け入れ
3	学校の授業・長期休暇（夏期休暇等）中	小中高のボランティアの受け入れを実施し、保育体験を行うことで、保育士の業務の楽しさを伝える。

７.スタッフ育成と研修計画

園長大学・保育士大学教材中心に、職員より今、何を学びたいかのニーズを出し合い学びを深める。確実なスキルアップに繋げる

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ケガケーススタディ ③人権チェック・虐待防止研修	■命に関わる項目の確認 ■マニュアル確認

5月30日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ(1)	■「健全な心と体」とは（エピソード研修
6月27日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水の事故のリスクマネジメント研修 ③事業計画書進捗確認	■プール遊びや川遊びを想定したリスクマネジメント ■事業計画書の進捗を確認し、上半期後期に向かって課題を抽出する
7月25日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ(2)	■「自立心」とは（エピソード研修））
8月29日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ(3)	■「共同性」とは（エピソード研修）
9月26日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ(4) ③事業計画書進捗確認	■事業計画書の進捗を確認し、下半期に向かって課題を抽出 ■「道徳性・規範意識の芽生え」とは（エピソード研修）
10月31日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック・虐待防止研修 ③主体性を以て考え、学ぶ(5)	■後半の保育環境の考察 ■「社会生活と関わり」とは（エピソード研修）■「思考力の芽生え」とは（エピソード研修）
11月28日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ(6)	■「思考力の芽生え」とは（エピソード研修）
12月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②事業計画書進捗確認	■事業計画書の進捗を確認し、下半期後期に向かって課題を抽出
1月23日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ(7)	■「自然との関わり・生命尊重」とは（エピソード研修）
2月20日	18:00～21:00	第1回策定会議	施設長の事業計画書と次年度方針発表
3月１日	18:00～20:00	第2回策定会議	次年度年間行事作成

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉MBOを活用した個別目標設定

組織目標の他、個人目標として「10年度どんな保育士（栄養士・調理士等）でありたいかを長期目標とし、その為の確実な短期目標を設定。徹底的な振り返りと軌道修正をすることで確実なスキルアップを計り、どこで働いても恥ずかしくない保育士（栄養士・調理士等）の育成をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

感染症に配慮しながら地域との繋がりを絶やさずに交流を行っていく。また地域包括支援センター主催の会議に出席し、地域活動への参加活動を増やすことで、知名度を上げていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：400名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：あけぼの公園にて　　年間集客目標：50名

商店街ツアー	週I回
世代間交流	高齢者との触れ合い （町内会会議出席、地域包括支援センター利用者とのラジオ体操（隔週/月2回）、園児の祖父母と昔遊び会　等）
異年齢交流	小学生との交流、他保育園との交流会　等
地域拠点活動	ちきんえっぐ、青空保育、地域のお祭り参加
銭湯でお風呂の日	月I回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

スムーズな小学校接続に向けて、近隣の小学校の協力を得ながら「職員間交流」「子ども間交流」を進める。アプローチカリキュラムを作成し、小学校I年生に向けた逆算の保育を実施する為に必要な活動を進める。

〈I〉今年度方針・テーマ

・５歳児と小学校Ｉ年生との年間連携計画および報告書を作成し、積極的に働きかけ運用していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月Ｉ５日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	朝霞第八小学校　I年	24名予定	プール見学（学校）	見学
I2月頃	朝霞第八小学校　Ｉ年	24名予定	マラソン大会応援	見学
I月頃	朝霞第八小学校	24名予定	交流会	子ども間交流
Ｉ月	近隣小学校　教諭	Ｉ名予定	幼保小連絡会	子どもの育ち共有

１０.要支援児計画

〈I〉個別支援計画の作成・見直し

　個別支援計画を立案し、具体的な対応を職員全員で共有していく。また保護者との面談を重視し、子どもの成長発達を同じ視点で得られるようにしていく。

すべての子どもと丁寧に関わり、安心して園生活を送ることができるよう援助していく

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定　参加者：6名予定）

配慮が必要な児についての共有や関わりについて職員間で話し合いを行う。

職員間での共有をしっかりと行っていくことで、職員全員が同じ視点で保育が行えるようにしていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

園児の姿、状況においては幼保小連携会にて各小学校の教諭へ引継ぎを行う。

必要と感じられる場合は保護者に就学相談を進め、それぞれの小学校へ安心して通えるよう支援していく。

11.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　月間集客目標：50名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　月間集客目標：5名
自然食堂…親子ランチ交流	第1・3木曜日　10:30～11:30　　月間集客目標：5名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	第3木曜日　10:00～11:00　　月間集客目標：5名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：あけぼの公園にて開催　集客目標：5名

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年6月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：９時００分

自己評価終了予定時刻：１７時００分

自己評価実施予定者：施設長、主任、各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	①明日の見通しを持って登園を楽しみにする子どもの姿 ②子どもの人権を尊重した保育を通して大人が「学び」を体得する保育計画づくり ③保護者が園運営の当事者となることで「共育て」ができる仕組みづくり
	振り返り	①については結果的には完成したが、時期的に遅かった（1月ごろ）と感じている。秋（10月ごろ）には出来上がることで、子どもの発達が促されたと反省する。 ②については達成された側面ある一方、未達成の部分がある。一斉保育をする職員はおらず、子どもの人権を尊重した関わりができる職員が殆どとなったが、「学び」のである園長大学・保育士大学を視聴する職員は減少している。 ③については達成できたと思われる。保護者懇談会時等に利用者アンケートの回答や、保護者と積極的に関わることで、共に子育てができる意識が広がった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	保育の本質を捉え、利用者から選ばれる保育園 　大人になるために必要なものを育むオンリーワン的要素（自己差別性）の要素に優れた保育をする「地域ナンバー1」となる。
	重点施策	・法人理念・方針に則り年前半には確固たる保育の基盤を作る。 ・上記を通じて、リーダーとなり得る人材育成の強化をし、若年職員に背中を見せて働く職員を育成する。
2026年度	目指す姿	地域に根差し、選ばれ続ける保育園
	重点施策	・子ども家庭庁が推進する「誰でも通園制度」の施行に伴い、園として門戸を広げ、どんな家庭も利用しやすい雰囲気づくりの実施をする。 ・地域会議に参加し、保育園としてできることは何かを考え、保育活動に活かす。広報部と連携し、SNSを活用した広報活動の強化をする。
2027年度	目指す姿	「学生」や「中途求職者」が働いてみたい保育園 学生や中途求職者から選ばれ、明るく働き甲斐のある保育園の「地域ナンバー１」となる。
	重点施策	・子どもの主体性を尊重した保育を更に一段ブラッシュアップさせ、明

		日の見通しを持って登園できる子どもの姿を育成する。 ・大人（職員・保護者）間のコミュニケーションが確りでき日々を楽しむことで連鎖反応が起き、就職希望者が増える

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：仲町どろんこ保育園 施設長　西村 貴子

２０２５年度　新羽どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人理念『にんげん力。育てます。』を基に、生涯にわたる『生きる力』を培い、『次の時代を生き抜く子を育てる』為に、併設するつむぎ新羽ルームと共に全ての子どもが混ざり合い、自由に行き来する子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育を実践する。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども主体
	実践予定内容	・子育てに関わる全てのスタッフは、子ども一人ひとりを尊重し、思いを受け止め、安心して自己を発揮しながら生活できる場となる。 ・大人は人的環境であることを意識し、子ども相互の関わりや繋がりが広がるよう、必要な距離を保ち関わることを意識していく。
2	計画・ねらい	生活や遊びの中で、保育の連続性を保証する
	実践予定内容	・子どもの発達を理解し、興味関心を探り、子どもの姿に合わせたねらいのある保育計画を立案する。 ・子どもの姿を継続して記録し、WEBマップやリフレクション等様々な用法を用い、振り返りながら長期的な見通しを持ち、保育の連続性が保たれるようしていく。
3	計画・ねらい	生活や遊びの中で、保育の連続性を保証する
	実践予定内容	・自分で考え、行動する力を育む為に、生活力と危険なものとの距離の取り方を大人が背中を見せ、子どもが体験をする中で経験から身に付けられるようしていく。 ・子どもにとって必要な体験が何かを考え、道具の使い方を教えたり、遊びをやって見せる環境、様々な歌をうたってみせる環境を作ったりしていく。
4	計画・ねらい	10の姿の体得
	実践予定内容	・生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、保育所保育指針に則り、資質・能力『①知識及び技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力・人間性』を一体的に育む。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立った丁寧な対応
	実践予定内容	・登園時の受け入れや降園時のお迎え対応では、子ども・保護者と目線を合わせて話をし、家庭での様子、園での一日の様子伝達を丁寧に行う。お迎え対応では、その子の姿をお伝えし、保護者の心に寄り添い、保護者も安心できる関係づくりを継続して行う。
2	計画・ねらい	整理整頓の行き届いた環境
	実践予定内容	・いつ誰がみても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓

		と清掃が行き届いた必要な物しかない環境づくりと、その継続を全スタッフが意識し、行う。
3	計画・ねらい	共育て
	実践予定内容	『園生活の見える化』 ・連絡帳やタイムラインに加えドキュメンテーションやポートフォリを用い、連続的な子どもの姿や異年齢、インクルーシブな関わり合いの様子等園生活の様子を掲示し、継続した保育の見える化を行う。保育者は言葉だけでなく写真から情景が思い浮かび、様子が伝わるよう子どもの姿の捉え方や見抜く力を養っていく。 ・保育参加の呼びかけを積極的に行い、園でのお子様の様子や子ども同士の関わり、異年齢。インクルーシブでの生活を実際に見たり体験したりすることで、理解を深めてもらう。又、期間を決めたり、申し出を受けたりする中で個別面談を行い、保護者が子育ての中での悩みを相談し、共育てをしていかれる場となる。 『保護者支援』 ・併設するつむぎ新羽ルームの専門士による、保護者の為の相談支援や支援講座、子どもの発達相談会を行い、保護者が子育ての中での悩みを相談し、必要な支援を受けられる場となる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子の憩いの場となる地域に根付く保育園
	実践予定内容	・園庭開放や青空保育では集団遊びや伝承遊びを取り入れ、園児との交流を深めたり、園生活の様子や保育の中での取り組みを伝えたりする場となるよう努めていく。又、来園時に活動内容や支援に対する意見を聞き、利用者のニーズに合わせた子育て支援に繋がるようしていく。 ・近隣の系列園と連携をし、それぞれの園の置かれた環境や特色を活かした地域支援講座を共有しながら、地域の親子が近隣園を行き来できる基盤を作る。
2	計画・ねらい	実体験のできる場の提供
	実践予定内容	園庭の畑を利用して、苗の植え付け（種まき）、栽培、収穫、加工を年間で体験できるよう計画をする。 ・園庭開放やちきんえっぐ来訪時には、やぎに触れたり世話をしたりし、生き物を身近に感じる体験や堆肥作り等を通して実体験のできる場を提供する。
3	計画・ねらい	子どもの育ちや日々の不安などを気軽に話せる育児相談、子育て支援の場となる
	実践予定内容	・併設するつむぎ新羽ルームの専門士による、保護者の為の相談支援や支援講座、子どもの発達相談会を行い、子育ての中での悩みの相談や、必要な支援を受けられる場を提供する。 ・又、上記内容は近隣の系列園やそこに集う地域の保護者にも案内をし、併設園として行える最大限の支援を必要とする地域の親子に還元していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のインクルーシブ
	実践予定内容	・インクルーシブ保育を実践する併設園のスタッフとして、全ての子どもを全スタッフで見ることを念頭に置く。 ・全スタッフの意見や思いが受け止められ、子どもを真ん中にした話し合いを行う。日々の課題にはtry＆errorを繰り返しながら、両施設の思いを伝え合い、最善を考え進んでいくチームになる。
2	計画・ねらい	子どもが自ら選び取ることができる環境の設定
	実践予定内容	・子どもの姿から興味関心を知り、発達に合わせたねらいを持った環境を構成する。又、子どもの姿に合わせ変化し続ける環境となるよう、話し合いを定期的に行う。
3	計画・ねらい	基本活動、労働の深い理解
	実践予定内容	・法人の基本活動、労働に対するねらいを全スタッフが理解をし、できないではなくできることを探し進んでいく。全ての子どもたちの時間を1分でも無駄にしないよう、必要な経験を与え、背中を見せて労働を教える集団になる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自然の恵みとして食材や食の循環教育
	実践予定内容	・畑を耕す、種を植える、生長を見守り世話をする、収穫する、加工する、食べるまでを子ども自身が経験することで食の循環を知る。
2	計画・ねらい	残菜のリサイクルややぎの糞の堆肥化をし、畑に還元する
	実践予定内容	・調理過程での廃棄食材ややぎの糞の堆肥化を行う為。その為に、肥化する為の仕組みを調べることや日々のやぎ小屋掃除を含む堆肥化の為に必要な準備を子どもと行い、食の循環教育へ繋げる。 ・給食残差の統計と食への興味への繋げ方の検討し、食育活動の在り方や日々の保育、調理の工程の中での工夫を検討。又、子どもと共に食の循環について考える機会を持つ。
3	計画・ねらい	原体験を通して学ぶ
	実践予定内容	・四季折々の自然に触れ過ごす中で、自然の美しさ・大きさ・不思議さを五感で感じる直接体験したり、自然との関わりを深めたりしていく。又、身近な動植物接する中で、生命の大切さに気付いたり、労わったり、大切にしたりしようとする。

〈6〉インクルーシブ保育の充実

～“混ざる”のその先へ～

1	計画・ねらい	全ての子が混ざり合う子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育
	実践予定内容	『生きる力』を培い、『次の時代を生き抜く子』を育てる ・一人ひとりの子どもが安心して自己を発揮しながら生活が送れるよう、園とつむぎが一体となり、丁寧な関わりと保育・支援の充実を図る。
2	計画・ねらい	情報共有を密に行い、子どもの理解を深める

	実践予定内容	・必要な情報共有を密に行い、子どもの理解を深める為に、クラス会議やケース会議での共有以外にも、全スタッフが必要な情報の共有できるようツールを使用し、同じ目線に立ち、必要な距離を保ちながら、子ども同士の関わりや繋がりを見守っていく。 ・つむぎの専門士から各分野の専門知識を学び、園の保育士からは保育の知識、子どもの発達や育ちをそれぞれが学び、知識を広げながら、一人ひとりの子どもにとって最善の利益を提供する。 又、園、つむぎ双方の思いを伝え、話し合いながら最善を考え進んでいく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
６人	１４人	１６人	１８人	１８人	１８人	９０人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	１２人	看護師	１人	栄養士	２人	調理	１人
	用務	1人						
パートスタッフ	保育士	６人	用務	１人	事務	１人	嘱託医	２人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、子どもの姿の共有、保育討議、行事について

給食運営会議	月1回	献立の振り返り、食育活動の立案、検討他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿からクラスごとに傾向分析と対策を行い共有。子どもの姿に合わせた園内外のハザードの確認と配慮点の共有。
ケース会議	月1回	気になる子、配慮を要する児のケース検討
クラス会議・フロア会議	適宜	子どもの興味に合わせた活動の選定と安全に配慮した職員配置。環境構成の見直し。
支援計画策定会議	適宜	つむぎ利用児支援計画作成に伴い、生活を共にする園スタッフも加わり児の姿の共有。ねらい合わせた計画作成の土台を
リーダー会議	適宜	課題及びスタッフの連携状況確認
管理職会議	月1回	園施設長、主任、つむぎ施設長、児発管が参加し、併設園としての現状と課題を共有し、共通認識のもと併設園を運営する。
各行事会議	適宜	各行事の計画、立案、進行、振り返りとまとめ

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営事項確認、事務連絡（書類関係他）、部会
施設長勉強会	月1回	各園の課題を共有しながら、それぞれが選ばれる園になる為に、スキルアップを図る為の学び。施設運営の為のマネジメント研修
食育会議	年4回	各園の給食・食育活動への課題と取り組み状況の共有、マニュアル確認
保健会議	年4回	感染症、園内の保健衛生への課題と取り組みの共有、マニュアル確認
主任会議	年4回	時期施設長育成のマネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	保育所保育指針の理解、子育ての質を上げる為に各園の保育・支援の課題と取り組みの共有。状況・課題に合わせた学びの為の研修
併設園会議	年２回	インクルーシブ保育の実践と課題への取り組み状況の共有、両施設の相互理解

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内清掃、衛生管理、感染症予防対策、備品管理、子ども・スタッフそれぞれを対象とした保健衛生指導
安全対策係	避難訓練、不審者侵入訓練の計画と安全に関わる情報掲示、園内外のハザードマップの作成・更新と共有
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づく消火・通報訓練及び避難訓練の定期実施と振り返り
食品衛生責任者	年間食育計画の作成とこれに添った食育活動の実施、食育会議への参加、給食運営会議計画や実施、食品の安全管理
畑係	年間食育計画・畑計画の主導と管理（子どもと行う作業計画）、畑・堆肥の管理
生き物係	飼育全般に関する管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの活性化の推進、計画、立案、取りまとめ、進行他
地域支援係	子育て支援事業、区内他園と連携して地域子育て支援ニーズに応じた支援を行う
幼保こ小連携係	幼保こ小接続研修・小学校交流の取りまとめ、連携・接続の計画立案と振り返り

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・特定の保育者との関わりの中で、信頼関係を築き、受容されることで、自己肯定感を育み、安心して園生活を送れるようにする。 ・一人ひとりの子どもの置かれている環境や発達過程などを把握し、子どもの欲求を満たしながら応答的な関わりや言葉掛けを行う。 ・見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなど五感を働かせ、探索行動を充分に行えるよう、清潔で安全な環境を整える。

	下半期 0～1歳児	・一人ひとりの興味関心や身振り手振り、簡単な言葉にして伝えようとする自己表現を受け止め、応答的・受容的な関わりを通じて、安心して自己を発揮できるようにする。 ・身近な物や人、環境に親しみ、触れ合う中で様々な事に興味関心を持ち、主体的に関わることのできる環境を構成する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・集団生活の中で、一人ひとりが自己を発揮し、保育者や友だちと関わり合い認められる中で、自己肯定感を培う。 ・身近な環境に主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたり、選択したり、それを遊びや生活に取りいれていく環境を保証する。 ・自分でイメージすることや自由に表現することを楽しみ、創造性を培う。
	下半期 2～5歳児	・友達との関わりの中で、一緒に活動する楽しさを味わい、協働して遊びや生活を展開していく経験を通して、自ら考え行動する力を培う。 ・異年齢、インクルーシブで過ごす中で、相手の気持ちに気づき、互いを認め合えるようになる。又、生活や遊びの中で充実感・達成感を保証する。 ・生活の流れに見通しを持ち、遊びや生活を進めていく中で、その場に応じた行動や、善悪の判断をしながら、自ら考えて行動する力を培う。 ・他者との関わりや実体験を重ねる中で、心を動かすような体験をし、豊な言葉や表現力を培い、自由に表現することを楽しむ。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針
	実践予定内容	『調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる』『噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供』『子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる』を実践する。
2	計画・ねらい	育てる、収穫する、調理、加工する体験を通して、食や食材に興味を持

		ち、食の循環を知る
	実践予定内容	・自分で育て、収穫し、調理、加工することが一連の体験となるよう年間で畑・食育計画を行う。又、全スタッフが子どもと共に体験し実体験を通し、子どもに伝えていく。
3	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を身につける
	実践予定内容	給食の残食や調理過程での廃棄食材を再利用することでゴミを減らすことや、ヤギの糞からたい肥を作り畑に還元することで、身近にできるSDGsの取り組みを行う。又、持続的、連続的な活動となるよう保育活動へ計画的に取り込んでいく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（６月・１１月）
歯科検診	年２回（６月・１１月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの徹底、歯磨き指導・水分補給や休息の大切さについての話、衣服調節の仕方、年長児性教育
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６～８月頃･･･手足口病・アデノウィルス １１～３月頃･･･インフルエンザ・感染胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルス）
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２７名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員２５名については４月１日までに受講予定
その他保健に関する取組	・乳児は適宜検温を行う。 ・登園時の視診、園児の健康状態の把握と健康管理 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導、手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･１１月 歯科健診　年２回／６･１１月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	全ての子どもが混ざり合い、育ちあう一つの大きな家
	実践予定内容	・全ての子どもが自由に行き来をし、好きな場所で好きな遊びを楽しみ、満足するまで遊びこめる環境、安心して過ごせる環境を構成する。その為に、全スタッフは子どもの興味関心を知り、スタッフ間で共通認識をする場を定期的に持ち、子どもの姿に合わせ変化し続け、又必要なものが揃った環境を目指す。
2	計画・ねらい	保育中の安全対策や衛生管理などの職員の共通理解や体制作りの強化をする。
	実践予定内容	・子どもが実体験の中で危険を感じ、危険を予測した身体の使い方を身

		に付けていかれるよう、スタッフは子どもの発達を理解し、姿を予測し、必要時には手助けができる位置で見守りながら、安全に配慮された環境を整えていく。 ・事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、防火・防犯・事故防止など様々な視点を持てるようしていく。又、日々新たに抽出されるハザードやリスクは速やかに園内で共有する。
3	計画・ねらい	必要なものしかない環境づくり
	実践予定内容	・いつ誰が見ても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓と清掃が行き届いた環境を継続する為に、必要なものしかない環境を心掛け、随時園内外の環境の見直しを行う。

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し、年間避難訓練計画に沿って消火訓練・避難訓練を行う。 ・年2回通報訓練と保護者と連携した児童引き取り訓練を行い、非常時はアプリを利用し、保護者へ情報発信を行う通知訓練を合わせて行う。
2	洪水計画	・避難確保計画に基づき、大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報収集をし、被害の未然防止の為、対策を行う。
3	事故防止委員会	・園内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努める。 ・半期毎にリスクマップを活用し、園内外のハザードの見直しを行い、ハザードマップの作成と園内での意識の共有をする。作成したマップは子どもの姿に合ったものであるように定期的に見直しながら、安全配慮に努めていく。
4	不審者侵入訓練	・園の置かれた環境、社会情勢を反映させた不審者侵入訓練を年2回実施し、安全・防犯への意識づけをする。
5	光化学スモッグ	・横浜市メール配信システムを活用し、発令があった時は速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行う。
6	救命救急講習	・新年度キックオフミーティングにてエピペン講習、AED講習を行い必要時には全職員が正しい知識の元で使用できるようにする。
7	事故防止、設備点検チェック	・年4回の事故防止チェック・設備点検チェックはクラス会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育・福祉の現場で次世代を担う人材育成の為、積極的に実習生・中高生の受け入れを行う。子どもと関わり触れ合う中で様々な経験を通し、子ども理解を深め、将来保育現場で働きたいと思えるよ

うに配慮・応援していく。又スタッフは実習生と向き合うことで自身の保育を振り返り、保育のプロとして子どもへの関わりや対応について考える機会とする。

1	実践予定内容	実習生の受け入れや近隣の養成校への訪問を行い、交流を深めるとともに、保育のプロとして保育の仕事の楽しさややりがいを次世代へ繋げていく。特に実習生に対しては子どもと遊ぶことが楽しむことを第一とし、その中で、法人の理念、園の保育目標、日々のならいをわかりやすく、子どもの視点から見る重要性を伝えていく。
2	実践予定内容	新羽高校との継続的な関係を大切にし、保育園に来園してもらい園児と遊んだり、「保育士の仕事」を学んだり、高校を訪問する中で、将来、保育士になろうとする生徒の姿勢を大切にする。また、教師との連携を深め、保育園から高校生までの成長の連続性の重要性などを話し合う。また、大学、専門学校に行く学生のために、ボランティアを積極的に受け入れる。
3	実践予定内容	地域に根付く保育園として、近隣の中学生の受け入れを積極的に行い、小さい子どもと触れ合う機会の少ない学生に対しては、子どもとの関わりや触れ合いに喜びが持てるようにする。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ ケガ・ケーススタディ ④ 虐待防止研修	・ケガ・ケーススタディ ・子どもの人権、虐待の定義 ・目の数キープ ・乳幼児突然死症候群（SIDS）
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 園外保育リスクマネジメント	・リスクマップ ・散歩ロープレ①
6月２０日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び	・プール事故防止訓練・水遊び時のリスクを想定した危機管理。夏の遊びと熱中症対策
7月１８日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 保護者対応/応答的な関わり	・相手の立場に立った対応 ・子どもの育ちを考える
8月２２日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び	・一人ひとりが主役になる運動会とは

		③ 運動会に向けて	
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 園外保育リスクマネジメント	・散歩ロープレ② ・子どもの行動を予測して行動する（子どもの育ちの振り返り）
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 虐待防止研修	・自己評価、虐待の定義 ・子どもを真ん中にした保育とは
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 生活発表会に向けて	・一人ひとりが主役になる発表会とは（上期の育ちと下期のねらいから考える）
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 年度の振り返り（事業計画の振り返り）	・年間の振り返り①（事業計画、行事、係、クラス）
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 次年度のMISSIONについて	・年間の振り返り② ・次年度に向けて
2月20日	18:00～21:00	策定会議１日目	次年度に向けて
3月１日	9:00～18:00	策定会議２日目	次年度に向けて

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

・実体験の伴う地域支援
・駅前で利便性が良いという環境を最大限に活かし、地域の子育て支援拠点として地域の子育て家庭が集う場を目指す。
・地域の資源を保育に取り入れ、農家の方との交流、丘陵公園での草取り、新羽小学校文化スポーツクラブの会合、その他、商店街ツアーを通じて地域の方々とのさらなる広がりを持つ。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：新田公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月1回程度、幼児対象で老人ホーム訪問、ケアプラザ訪問
異年齢交流	新羽高校との年間通じた交流（保育士希望学生対象）体験学習受け入れ
地域拠点活動	子育て支援『ちきんえっぐ』運営、園庭開放、青空保育の実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

・横浜市港北区の幼保小連携事業及び小学校と相談・協議を行いながら、小学校との連携を実施する。小学校見学や教師の保育園来訪、幼保小連携会議に参加し、スムーズな小学校への接続を行って

いく。
・小学校1年生の姿を見て知り、逆算した保育を遂行する。年長児を担当する保育者だけでなく、全スタッフは小学校との接続研修や授業参加、子ども間交流に参加し、情報を得たりしながら入学後の姿を実際に見て知り、知り得た情報をもとに、子どもの育ちの連続性が保証された接続を目指す。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
８月頃	新羽小学校	１名予定	保育園見学（新羽どろんこ保育園）	職員間交流
11月頃	新羽小学校 1年	１８名予定	交流会（丘陵公園）	子ども間交流
２月頃	新羽小学校 1年	１８名予定	授業見学（新羽小学校）	子ども間交流
２月頃	新羽小学校 ５年	１８名予定	体験交流（新羽どろんこ保育園）	子ども間交流
２月頃	新田小学校学童	１０名予定	交流会（新田小学校）	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

・子どもの状況や発達を理解し、ケース会議の中で共有・振り返りを行い、週案・月案の作成次期及び個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行う。子どもの成長の見える化を行い、子どもの成長をどのように支援をしていくかを共有し保護者と共に子育てをしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：数名予定）
・園会議・クラス会議・週案会議などを利用し、個々の様子を共有しながらその子にとって必要なことを考え、支援へとつながるような理解を深めていく。
・配慮の必要な子だけでなく、集団生活の中で気になる子や成長・発達の過程で配慮を要する子についても共有し、一人ひとりに合わせた丁寧な対応を検討、実践していく。
・併設園としてインクルーシブ保育を視点につむぎとの合同ケース会議の場や課題の共有をしながら、各分野での専門家の視点から見た集団の中での関わり方や支援の手立てを園スタッフも学んでいく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

・進級先の小学校や必要に応じ各種関連機関と連携しながら、保育所児童要録・引継ぎ面談で子どもの育ちの詳細伝達を行う。

・進級時は園内で細やかな引継ぎを行い、個々の育ちや背景に配慮した丁寧な関わりへとつなげていく。又、日頃から全職員で全園児をみることで、担当するクラス以外の児にも目を向け、信頼関係を築きながら、養護と教育が一体となった保育が絶え間なく提供できるよう努めていく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細	
園開放	（月）～（土）9:30～16:30	集客目標：２０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30	集客目標：５名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00	集客目標：１０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00	集客目標：１５名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00	
ちきんえっぐだより	毎月1日発行	

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三社評価の受審

株式会社学研データサービスにおいて、２０２１年度受審

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年1月２３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：１４時００分

自己評価終了予定時刻：１７時００分

自己評価実施予定者：施設長、つむぎ施設長、主任、児童発達支援管理責任者、スタッフ代表

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・法人理念『にんげん力、育てます。』を基に、生涯にわたる生きる力を培い、『次の時代を生き抜く子』を育てる。 ・併設するつむぎ新羽ルームと共に全ての子が混ざり合い、自由に行き来する子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育を実践する。 上記２点を主軸に、実体験を通して自分で考えて行動する力を培い、子どもが主体的、意欲的に行動する力を育み、養護と教育が一体となった保育の実践を行う。
	振り返り	・併設園に通う全ての子どもたちが混ざり合い、自由に行き来するインクルーシブ保育を実践する為に必要と考える環境を考え、両施設で話し合いtry＆errorを繰り返しながら進んでいる。 併設園として全ての子どもに目を向けることで、『生きる力』を培い、『次の時代を生き抜く子』を育てる為に何が必要なのか、保育・支援の現状を見返し環境を整えている。又、大人が人的環境であるという意識を持つことで、子ども間の関わり合いを大切にしたり、距離を保ち関わることを意識したりするようになった。その成果として子ども同士の繋がりが増え、当たり前に関わり合う姿がみられるようになってきた。併設園としてより質の高い保育・支援を目指すためにスタッフには、保育園と発達支援施設、それぞれが求められる役割や各スタッフの専門性を理解しながら学んだ。それぞれが自走しながらも、相談し協力し進めていく体制が築かれ、インクルーシブ保育を実践する併設園として目指すことでスタッフの意識の変化も見られてきた。 ・次の時代を生き抜く子を育てる為に、自分で考え行動ができるよう室内外の環境を整え、実体験や基本活動を重ねてきた。人格形成がなされる乳幼児期を無駄にせず過ごす為に、次年度も子どもにとっての最善を考え、子どもの姿をよく見て興味関心を知り、遊びの連続を保証した養護と教育が一体化した保育となるよう努めていく。又、危機管理面ではスタッフは子どもの動きを予測してリスクを想定した行動ができるよう、ヒヤリハットや事故防止委員を活用し、子どもの姿の共有とリスクの洗い出しに努めた。適宜、散歩ローイングプレイの実施や施設長が散歩同行をする中で、視野を広げることの大切さや危険予測が身につき、園全体としての意識の底上げに繋がったと感じる。今後も子どもの興味関心、発達を学ぶことで、より子どもの姿に合わせた遊び込める環境を構成し、ケガや事故を防ぎながら保育を進めていく。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	大人のインクルーシブ
	重点施策	・インクルーシブ保育を実践する併設園のスタッフとして、全ての子どもを全スタッフで見ることを念頭に置き、日々の保育・支援を行う。 ・併設園に勤務する全スタッフの意見や思いが受け止められ、子どもを

		真ん中にした話し合いを行い、日々の課題にはtry＆errorを繰り返しながら、両施設の思いを伝え合い、最善を考え進んでいくチームを目指す。
２６年度	目指す姿	・質の高いインクルーシブ保育・支援の実践 ・地域の子育て支援拠点として根付く
	重点施策	・保育園と発達支援施設それぞれのスタッフの専門性が相互に作用し、協力し合う中で質の高い保育・支援を実践する。 ・地域の子育て支援拠点とし、併設するつむぎ新羽ルームと連携し発達相談や保護者向けの支援講座を行い、子育ての悩みを話せる場となる。又、区内の系列園と連携をし、子育ての中での悩みだけでなく子育てを通し、子どもの成長を感じたり、楽しさを感じたりできる機会を設け、ニーズに合わせた支援・発信を行う。
２７年度	目指す姿	併設園としての形が確立し、モデル園として目指される園となる
	重点施策	・専門性の高いインクルーシブ保育・支援の実践。 ・地域の中で、保育園と発達支援施設それぞれを必要とする保護者にこのニーズに応えられる子育て支援拠点としての環境が備わり、併設園としての子育て支援の形が確立する。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：新羽どろんこ保育園 施設長　松下 杏

２０２５年度　清瀬どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

生活力、選択力、思考力を育む教育・保育・支援のフロントランナーを目指すDoronkoグループの保育園として下記の理念・目標を基盤に活動を行う。私たちはホンモノの体験と労働に拘り、毎日の活動を大切にしながら子どもたちの人格形成・生きる力の育成を確実に丁寧に行ってゆく。

【社会福祉法人どろんこ会　理念・目標】
子育て理念：「にんげん力。育てます。」
子育て目標：「センス・オブ・ワンダー」「人 対 人コミュニケーション」

（育てたい6つの力）
①ケガをしない強い体を育てる
②自分でできることを自分でする
③すべての人との関わりから、判断・行動を身につける
④活動を選択し自分で考えて行動する
⑤生死を知る、食の循環を知る
⑥感じたこと・考えたことを表現する

【清瀬どろんこ保育園　方針】
・多くの緑に恵まれた清瀬市に立地し、周囲の好環境と広い園庭を最大限に活かしながら「通って良かった」と保護者や本人にも思われるようなのびのびとした保育園を目指す。
・子どもの健全な育ちを支援するために、スタッフ全員が主体性を持って「考え、学び、動く、自律した集団」を常に意識し続け、保育の質の向上に邁進する。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

日常の生活・遊び・労働から生きる力を身につける「日課・基本活動の充実」、異年齢保育とインクルーシブ保育を通した「多様性の尊重」など、保育内容の充実・質の向上を図る。

1	計画・ねらい	生活力の体得
	実践予定内容	「生きる力」の基礎となる「生活力」を育むため、適切な環境を設定し大人が背中を見せながら経験と失敗を数多く体験させ、見守る。 日課を疎かにせず、それぞれの基本活動の持つ意味を理解し丁寧に取り組む。
2	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿
	実践予定内容	生涯にわたる生きる力の基礎を培うため「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」という資質・能力を一体的に育む。発達障害児、要支援児に対しても個別の配慮をしながらも生きる力を育む。 小学校との接続を意識し「協同性・社会性・規範意識」獲得に必要な支援を行う。

3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
	実践予定内容	「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解、把握し、様々なものに常時主体的に関わり、経験を選び取ることができる物的環境を整備することで、参加したくなる複数の体験活動を展開する。 大人は子どもの選択肢を狭めることなく、子どもが「自分の足で人生を歩むための支援」を行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

清瀬どろんこ保育園を選んでいただいた保護者に対し「安心・充実」を実現するよう、ホスピタリティを大事にした家庭支援を行う。

1	計画・ねらい	保護者と共に子どもの成長を喜びあえる信頼関係を築き発展させる
	実践予定内容	子どもの成長を園の全てのスタッフが共有しながら、保護者と成長を喜びあえる信頼関係を構築し発展させていく。 日々の送迎時の連絡やアプリの有効活用の他に適時個別面談も実施する。
2	計画・ねらい	スタッフの誰もが「挨拶」「お迎え対応」を自然にできるようになる。
	実践予定内容	大人に対しても子どもに対しても敬意を持って丁寧な対応を行う。 周囲への観察、気付きの感度を意識して上げることを継続することで定着化を図り、スタッフ相互で高め合う。
3	計画・ねらい	子どもの育ちが見える指導計画と子どもの姿の共有。
	実践予定内容	映像や画像を使用したドキュメンテーションを作成し、お迎え時の展示などで共有していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

自然豊かで広い園庭や、保育園の持つ専門性を地域の子育て拠点として活用できる環境を構築する。

1	計画・ねらい	「子育て家庭のつながりの場」コミュニティースペースの提供
	実践予定内容	「ちきんえっぐ」を広く宣伝し、地域来訪者の増加を図る。 園見学、園庭解放も活用し、室内外も在園児と一緒に活動に参加できる場を提供していることを地域の方々に知ってもらう。
2	計画・ねらい	支援を必要とする人が「気軽に話せる、聞くことができる場」になる
	実践予定内容	疑問や不安を気軽に相談できる場として、看護師・栄養士・保育士の専門性を活かしていく。
3	計画・ねらい	広い園庭を活用した「火・水・土」の体験の提供
	実践予定内容	焚き火、水遊び、どろんこ遊び、畑仕事など自園ならではの環境を生かした「火・水・土」の直接体験を地域の親子に提供していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

個々のスタッフの個性を認め合い、職種や経験年数を超えて互いに高め合えるチームとして成長していくため「社会人としての基本動作の徹底」「社会人としての資質向上」「保育の質の向上」のためのスタッフ育成を行う。法人内、社会全体にとっての有為な人材輩出拠点となるべく努力する。

1	計画・ねらい	全スタッフが上位レベルの仕事を行う

	実践予定内容	誰もが常にワンランク上の職位職務を意識し、いつでも上位職務を担うことができるようスキルアップに注力する。 業務の効率化を通じ、子どもに向きあう時間の極大化を図る。
2	計画・ねらい	本音で語り合えるスタッフ集団を目指す
	実践予定内容	子どもを中心に、子どもの最善の利益のために常に大人は考え、本音で語り合える風通しの良いチームを目指す。
3	計画・ねらい	「大人のにんげん力アップ」
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが社会人としての資質を高め、スタッフ間のコミュニケーションや情報発信力、ビジネスマナーなど基本となるスキル向上のためのOJTや研修を進める

〈5〉環境実施目標

自然に恵まれた広い園庭を活かした環境教育を実践する。環境目標への着意を持ち、法的要求事項等順守を徹底する。

1	計画・ねらい	園児、スタッフによる食材の加工
	実践予定内容	「味噌作り」「梅干し作り」「梅ジュース作り」「畑で収穫した野菜で調理」など食材加工を体験することを通して食材や食の循環を知り、環境への意識を育む。
2	計画・ねらい	畑仕事、生き物の世話を丁寧に実施する
	実践予定内容	病院敷地内の為ヤギや鶏の飼育ができない分、畑の環境を一層充実させ年間農業計画に沿った畑仕事や水槽飼育の魚類、昆虫の幼虫の世話をすることで命や食の循環を知ることで環境への意識を育む。
3	計画・ねらい	2027年度に給食残渣を50%に削減する（2022年度対比）
		残渣測定を日々行うことで得る正確なデータを基に実績を集計する。これまでに育んできたノウハウ（子どもたちが食べられる適量を自ら選び、無駄な残渣が発生しない風土）を全ての大人が理解し、後戻りさせずに目標達成を目指す。

〈6〉選ばれる保育園をつくる

全てのスタッフが来訪者や地域の方々に心のこもった挨拶や言葉掛けを行い、積極的に園に迎え入れる姿勢をしっかりと持つことで保護者や地域から「選ばれる」園をつくる。

1	計画・ねらい	「人と環境の魅力が感じられる」温かい雰囲気の定着化
	実践予定内容	「主体的に行動する子どもたちの姿」「園庭、保育室の魅力ある環境」「相手の立場に立った対応」「チームワークの良さから醸し出される明るい雰囲気」を園の魅力の重要な要素として全員が認識し、実現に向けて努力する。
2	計画・ねらい	利用して良かったと思っていただける丁寧な保育を全員で実践する
	実践予定内容	子どもたちが「通いたくなる」保育園を目指し、一人ひとりの子どもと丁寧に向き合い、保護者と成長を喜びあえる信頼関係を構築する。
3	計画・ねらい	全スタッフで共有できる客観的数値目標の達成
	実践予定内容	「内部監査指摘項目数の削減」「保護者評価NPS数値の改善」等に日頃から着意を持って取り組み、定着化させる。

〈7〉業務分担の可視化と共有

「保育の質の向上」ならびに「選ばれる園をつくる」ために、スタッフのチーム力を一層向上させるべく以下に取り組む。

1	計画・ねらい	園全体・各人の業務内容の可視化
	実践予定内容	誰がどの業務に就いているかを日単位で全出勤メンバーが把握可能な可視化掲示ツールを活用し人員運用の効率化を図る。全員が確実に「事務処理時間」「休憩時間」を確保できるよう運営の常軌化を目指す。 良好なチームワークにより保育品質を高めることに繋げる。
2	計画・ねらい	日常ルーティン業務の着実な消化と実践
	実践予定内容	業務分担割り振りに加え各種チェックリストを効果的に活用し、清掃消毒業務等の確実な実施を行う。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	5人	事務	1人	用務	1人	嘱託医	2人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育内容の充実化、園児個別の事例共有

		園として取り組むべき課題への検討、園内研修
給食運営会議	月1回	食育活動実施内容、喫食状況、離乳食進行状況
事故防止委員会	月1回	自園、系列園で発生した事故のケーススタディと改善策検討。当月のインシデント・ヒヤリハット分析検討
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有・検討
リーダー会議	週1回	リーダー保育士・施設長・主任による報告連絡相談
乳児クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、課題共有と検討
幼児クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、課題共有と検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一の事案共有、経営との接続
施設長勉強会	月1回	施設長のスキルアップ（マネジメント、コンプライアンス）、各園課題改善や取り組み成果共有
食育会議	年4回	献立内容の改善・提案、給食提供マニュアル及び運用ルールの作成・見直し
保健会議	年4回	保健計画策定、感染症対策やガイドラインの作成改善
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認共有、マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	各園課題改善や取り組み成果共有
安全運転管理者研修	年2回	車両の安全運行管理、運転担当者資質とサービスレベル向上

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の汚染区域の安全管理、児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断歯科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備品の管理、感染症予防対策の管理点検
安全対策係	園内・園周辺の施設環境安全整備、戸外活動時の危険個所の把握と周知避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理

	消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施 施設内外の設備点検及び事故防止の実施
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づいて消化・通報及び避難の訓練を定期的に実施
食品衛生責任者	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理 食育会議の計画や実践、食品の安全に対する管理や啓蒙
畑係	年間農業計画に基づく円滑な畑仕事の遂行管理
生き物係	園内の動植物の飼育育成の計画立案と管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
保護者参加行事係	どろんこ祭り、運動会、生活発表会等　成長を伝える行事における内外との連絡調整、運営

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育者等の愛情豊かな受容の下で、様々な欲求を満たし、心地よく生活できるようにしていく。 ・保育者等に仕草や表情、発声、言葉等を優しく受け止めてもらい、安心して思いを表現し、伝えたい気持ちを育めるようにしていく。 ・信頼する大人のあたたかく共感的な見守りの下で安心して生活し、興味関心を広げていくなかで活発に探索活動を楽しみながら、様々な感覚が育っていくようにしていく。
	下半期 0～1歳児	・一人ひとりの発育に応じて、十分に体を動かす。 ・身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、自分でできることの喜びを感じながら習慣が少しずつ身についていくようにする。 ・温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生えるようにしていく。 ・生活のなかにある簡単な言葉に気付いて聞き分けたり、繰り返したり模倣したりして遊ぶ。 ・自然や生き物、様々な素材など身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもてるようにしていく。 ・生活や遊びの中で様々なものに触れ、手や指を使った遊びを通して感覚の働きを豊かにする。

幼児保育	上半期 3～5歳児	・身体に異常を感じたら保育者に知らせる、交通ルールを守ろうとする、危険な場所や遊び方、災害時の行動がわかるなど、園生活を送る上で健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。 ・保育者等や友達など身近な人に親しみ、関わりを深め一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 ・身近な環境に好奇心や探求心をもって関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを遊びや生活に取り入れようとする。 ・日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。 ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 ・生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付き、美しいものや心動かす出来事に触れて感性を豊かにする。 ・生活の中でイメージを豊かにし、自分なりに表現して楽しむ。
	下半期 2～5歳児	・身体を十分に動かす充実感を味わい、すすんで戸外で運動しようとする。 ・自分の健康に関心をもち、食事を楽しい雰囲気でバランスよく食べようとし、病気の予防などに必要な活動をすすんで行う。 ・自分で考え、自分の力で行動することの充実感を味わう。 ・生活や遊びの中で、友達と力を合わせて活動する楽しさを味わい、きまりや約束ごとの大切さに気付いて守ろうとする。 ・異世代や地域の方など、いろいろな人に親しみをもって関わろうとする。 ・身近な環境や事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。 ・人の言葉や話など聞き、自分の経験したことや考えを話し、伝え合う喜びを味わう。 ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊んだり、かいたり、つくったり、飾ったりなどする。 ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、イメージを動きや言葉等で表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の３大食育方針
①調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる
②噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
③子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる
以上を基本として、子どもの食欲と意欲を育てるために以下の給食提供・食育を実施していく。

I	計画・ねらい	好きな友達や身近な大人と親しみをもって、楽しく心ゆくまで食べる
	実践予定内容	I年を通して、縁側や園庭を活用して気持ちよく食べる環境をつくる。
2	計画・ねらい	意欲的に食事に向かい、魚や野菜を中心とした和食を好んで食べる
	実践予定内容	離乳食からかぶりつく、つかみ食べを導入する。だしや旬の食材を活かした和食の良さや、日本の行事にちなんだ食文化を伝える。
3	計画・ねらい	分かち合う事のすばらしさや大切さを感じながら食事をする
	実践予定内容	異年齢での活動や給食、焚き火保育を通して思いやりを持つ。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	毎月20日に身体測定を実施し発育や栄養状態の把握に役立てる 手洗い、うがい指導・トイレの使い方指導 身体のつくり、健康管理に関する指導 性教育①「性差について知り、 命をつなぐための大切なプライベートゾーンを守る」 性教育②「命のあゆみ」「多様性、相互尊重」
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス、溶連菌感染症 6～9月頃･･･手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ 11～3月頃･･･インフルエンザ・ウィルス性胃腸炎・RSウィルス感染症 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／調乳室冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については3月19日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については3月19日までに受講予定

その他保健に関する取組	・感染症予防のため、保育室内外の環境衛生管理に努める ・日々の子どもの健康状態や近隣園、地域での感染症流行状況を把握し、感染症拡大防止のための情報発信を行う ・保護者に対して保健に関する知識や情報を提供し子どもの保健行動への協力を求める ・感染症対策として予防接種状況を把握し保護者に対し年齢に応じた計画的予防接種を勧める ・新型コロナウイルス感染症およびその他感染症予防のため、うがい・手洗い指導を行う。また、検温、消毒、換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 （0歳児のみ年12回実施） 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

乳幼児期における教育は“環境をとおして行う教育”であり、遊びを通した総合的な子どもの発達の観点から、下記に記す環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に点検・整備・改善を行っていく。

1	計画・ねらい	主体性を育む
	実践予定内容	自分たちのあそび・生活を自己決定し、自分たちでまかなう事ができるための物的環境を提供することを通して、自分の力で人生を歩むための支援を行う。
2	計画・ねらい	社会性を育む
	実践予定内容	一人ひとりを生かした集団を形成しながら人と関わる力が育つ「混ざる」異年齢・インクルーシブの環境構成を行う。
3	計画・ねらい	協同性を育む
	実践予定内容	自ら行動する力が育つとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができ「折り合いをつける力」と「トライ＆エラー」を経験することができる環境を提供する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	平均台	園庭	毎日
2	丸太ベンチ	園庭	毎日
3	ロープ渡り	園庭	毎日
4	自然木の平均台	園庭	毎日
5	屋台	保育室(可動式)	毎日
6	遊技台(玩具ﾎﾞｯｸｽ付：小)	保育室	毎日
7	トンネル潜り	0歳児室	毎日
8	水槽置台	保育室	年4回（4,7,10,1月）
9	テーブル	保育室	年4回（4,7,10,1月）
10	トイレスリッパ置台	縁側	年4回（4,7,10,1月）
11	送迎受付台	玄関	年4回（4,7,10,1月）
12	本棚	保育室内	年4回（4,7,10,1月）

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNO.3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルNO.3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全　、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	防犯	危機管理マニュアルNO.3の不審者対策（P22）に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従う。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNO.3の光化学スモッグ対策（P23)に則り光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒一人ひとりの様子に合わせて具体的に援助・指導を行っていく。

1	中高生の体験学習の受け入れ	地域の社会資源であり地域研修の場として、地域の中・高生の職業体験やボランティア等を積極的に受け入れ、次代を担う学生の学びの機会を提供していく。
2	保育養成校の学生の実習受け入れ	次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、実習生・研修生を積極的に受け入れていく。
3	一般および学生の各種ボランティア受け入れ	中高生に留まらず広く一般および学生の各種ボランティアを受け入れ、地域におけるボランティア活動の養成に寄与していく。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修	安全・事故防止についての共通理解の浸透。保護者対応の仕方（事例研

		③ 連絡帳、タイムラインの記入のポイント ④ ケガ・ケーススタディ	修）。虐待防止の徹底 新人スタッフのケガ対応力の基礎
5月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 指導案の記載のポイント	子どもの発達段階を捉えた充実した指導計画の立て方についての基本理解を深める
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プール安全研修	事故事例を教材に事故防止安全対策のポイントについての認識を深める
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者対応について	保護者対応全般についての課題を共有し、対応力の強化を図る
8月29日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課「散歩」について	戸外活動時の安全・防犯対策について認識を徹底
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動遊びについて	子どもの発達・育ちつつある力に応じた運動遊びについて検討し、実践のポイントについての認識を共有する
10月31日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修 ③ 事業計画の振り返り	利用者アンケート結果のフィードバック並びに事業計画・運営部Missionの振り返り。課題抽出と達成に向けたアクションプランの共有 虐待防止の徹底
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム	さくらさくらんぼリズムについての基本を復習し、実践のポイントについての認識を共有、発展する
12月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育環境について	環境構成について全スタッフで話し合い、認識の共有を図る
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間行事の振り返り	当年度の振り返りと、次年度に向けた課題の抽出。
2月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間計画策定会議第1回	事業計画及び来年度方針の策定
3月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間計画策定会議第2回	年間活動計画及び保育計画の策定

エリア研修予算内訳（清瀬地区４園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		例）按分した自園負担額
5月,11月頃	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円 性教育研修 （清瀬地区4園合同開催）
4,6,9,12,3月頃	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円 リーダー層マネジメント研修 （運営7,8課保育園合同開催）
合計	0円		0円	0円

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈４〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるようにする。自園が地域の誰もが知る存在となるよう広報活動に努め家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、高齢者や異年齢の子どもを含む人材、行事、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実がはかられるようにする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：180名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：神山公園にて　　集客目標：20名/月
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月１回　　高齢者施設（信愛の園 等）訪問
異年齢交流	随時
地域拠点活動	随時
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

・保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする。
・変化の激しいこれからの社会を生きるために、生きる力＝知・徳・体のバランスのとれた力を子どもが身に付け主体的な判断の下に行動し自立した人間となるよう、小学校教育を見据えた保育を行う。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	清瀬第七小学校 1年	20名予定	体育授業見学 （清瀬第七小校庭）	子ども間交流 職員間交流

7月頃	清瀬市保幼小合同研修会（第1回）	2名予定	関係者連携(清瀬市コミュニティプラザひまわり)	職員間交流
8月頃	清瀬第六小学校 高学年生	5名予定	小学生ボランティア受け入れ（当園）	子ども間交流
11月頃	芝山小学校 1年	20名予定	授業参観、学校見学（芝山小教室）	子ども間交流 職員間交流
12月頃	清瀬市保幼小合同研修会（第2回）	2名予定	関係者連携(清瀬市コミュニティプラザひまわり)	職員間交流
2月頃	清瀬第三小学校 清瀬第七小学校	20名予定	小学生との交流会（清瀬第三、第七小学校）	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

計画作成を要する児につき、保護者・関係機関と情報共有しながら作成する

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：４名予定）

各クラス担任より、ケースを発表し、職員全員で共有(議事録回覧)、特に保護者を含めた課題においては、面談実施し課題と方向性を共有し、課題解決を図ることを重視する。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

クラス担任と新年度前に引き継ぎを実施、小学校への引き継ぎは保幼小連絡会にて要支援の場合は事前相談を行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土） 9:30～16:30　集客目標：100名/月
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：5名/月
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　集客目標：10名/月
どろんこ芸術学校	毎週（金）10:00～12:00　集客目標：10名/月

どろんこ自然学校	
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　神山公園にて開催　集客目標：15名/月

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年５月２３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１７時００分
自己評価実施予定者：山﨑健、木本宗子、谷米桂奈、藤本十望

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・基本を守り、大人一人ひとりが主体性を持って考え学び動く文化をつくる（清瀬どろんこ保育園の伝統の良い面を受け継ぎつつ、新たなメンバーで行うチーム保育の完成）
	振り返り	・各会議体が活性化し、意思決定と共有が円滑に図られるようになった。保護者からの批判的なご意見もあったが、改善策を考え実行する風土が定着してきた。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・全てのスタッフが子どもを中心に生き生きと働き、円滑な園運営が図られている。
	重点施策	・毎日の活動や研修などを通して保育スタッフが成長し、人材育成面で

		も模範的な園を目指す。
2026年度	目指す姿	・保護者、地域、自治体から信頼され選ばれる保育園としてのブランド性を確立する。
	重点施策	・設備や人材を活用し、児童・母子・父子・高齢者等多様な福祉ニーズを持つ地域の方々に利用してもらえるサービスを充実させる。
2027年度	目指す姿	・「生きる力」の基礎を体得した子どもたちを小学校に送り出す保育園としての評価が定着する。 ・高レベルのスタッフ人材輩出の拠点としての評価が定着する
	重点施策	・年間を通じ地域の小学校と連携が図られ、幼保小連携の実践力を高める ・Doronkoが構想する社会（人も食も仕事も循環し、０歳から人生を終えるその時まで、全ての人が「生きる力」をもって、よく生きられる社会をつくる）に近づく為、全てのスタッフが自ら考え行動する風土が定着する

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：清瀬どろんこ保育園 施設長　山﨑　健

２０２５年度　美しが丘どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人理念「にんげん力、育てます」
保育目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
横浜市「保育・教育宣言～乳幼児の心もちをたいせつに～ 今と未来を生きる子どもを育みます」

現代AIが普及してなんでもできる世の中になってきていますが、人間にしかできないものは、「自分で行動する力」です。様々な体験をして失敗を繰り返し自分で考える力が育まれます。
乳幼児期の人格形成期の今、沢山の経験を体験し感情を共に１日１日を大切にして「次の時代を生き抜く子を育てる保育」を目指します。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの発達理解を深める。
	実践予定内容	子どもの10の姿の理解を深める。子ども一人ひとりの成長や育ちを理解して、職員間共有し保育計画を作成する。
2	計画・ねらい	子ども中心に考えられる保育・子どもに対して日々丁寧に関わる保育。
	実践予定内容	・子どもの声に耳を傾けありのままを共感できるようにする。 ・日々の関わりの中で子どもの人権の尊重や常に子どもにとってどうなのか考えられるようにする。 ・笑顔が溢れ応答的な関わりを持ちながら保育する。
3	計画・ねらい	子どもが自分でいつでも経験を選びとることができる環境設定をする。
	実践予定内容	・子どもたちの発達段階を見極めて、子どもの様子に合わせた物的環境・人的環境を整え活動の連続性や新たな興味関心に発展させる。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・保護者と子どもの成長を一緒に喜び合い、子育てが楽しいと感じられるような保護者支援を目指す。
	実践予定内容	・日々の子どもの姿を共有し、子どもの成長を担任だけでなく全てのスタッフと共有することで、保護者が安心して保育園に預けることができる環境をつくる。 ・子育ての悩みやご相談など、いつでも相談できる信頼関係を築く。 ・保育参加や個人面談を取り入れていく。
2	計画・ねらい	・保護者も子どもも安らげる場所にする。
	実践予定内容	・元気な挨拶を実施することを徹底し、「明るい保育園」「気持ちの良い保育園」と感じてもらえるようにする。 ・送りお迎えにいらしたとき、安心できる場を提供していく。スタッフは常に落ち着いた雰囲気を作り、笑顔で出迎えられるようにする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育・ちきんえっぐの更なる充実。
	実践予定内容	・散歩先で地域の方に積極的に挨拶をして、チラシを配布したりし、保育園の認知度を上げていく。 ・青空保育・ちきんえっぐに参加されたご家庭がまた来たいと思うような企画・振り返りをして、美しが丘どろんこ保育園を知っていただく機会を増やす。
2	計画・ねらい	見学時の丁寧な対応を行うことで、保育園に興味を持ち保育園の良さを感じていただく
	実践予定内容	・どんな時間に見学にいらしても日々の子どもの様子や生活が手に取るように分かるようにお伝えしていく。
3	計画・ねらい	火・水・土で遊べる環境を提供し、地域の親子が直接体験を出来るようにする
	実践予定内容	・水遊び、どろんこ遊び、焚き火（炭火）など園の環境を最大に生かした火・水・土の直接体験を地域の親子に提供していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりの得意分野を活かし、保育を楽しめるようなチームになる。
	実践予定内容	・個々が得意分野を発揮できるような環境を作るとともに、いろんなことにチャレンジできる機会を増やしていく。
2	計画・ねらい	子ども姿ベースの指導計画の作成をする。
	実践予定内容	・日々の子どもの姿を共有し、次につながる指導計画の作成をしていく。PDCAサイクルで保育の質の向上を目指す。
3	計画・ねらい	日課・基本活動を深める。
	実践予定内容	・園会議でさくらさくらんぼリズム体操を取り入れ学ぶ。 ・日課・基本活動を行う意味や意義を深く理解する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	給食残渣を減らす。
	実践予定内容	・戸外での活動量を増やし、食欲につなげる。 ・コンポストを運用し畑やプランターの肥料として活用する。 ・出汁がらを味噌汁の具やふりかけにして再利用する。
2	計画・ねらい	様々な食品から加工から食すまで体験し興味関心を深める。
	実践予定内容	・梅シロップ・梅干し・味噌など原材料から加工の工程を知り、実際に体験する。

〈6〉保育の質の向上

1	計画・ねらい	日本ならではの伝承行事を伝えていく。
	実践予定内容	・毎日の時間を大切に、子どもの成長に必要な環境を用意する。また季節

		の遊び・歌など伝え、四季折々感じられるようにする。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しめる保育。
	実践予定内容	・スタッフ個々の得意分野を生かすとともに、子どもが今何に対して興味を持っているか保育者が子どもと同じ目線にたち、様々な体験を一緒に行い共感していく。 ・trial＆errorを大切にしながら一人ひとりの強みを生かし、質の向上をめざす。
3	計画・ねらい	子どもの姿を語り合い、保育を計画する。
	実践予定内容	・スタッフ個々の得意分野を生かすとともに、子どもが今何に対して興味を持っているか保育者が子どもと同じ目線にたち、様々な体験を一緒に行い共感していく。

〈7〉チーム作り

1	計画・ねらい	相手の気持ちや立場になって考えられるチーム保育。
	実践予定内容	・相手の立場に立ち、どんなことも自分事として捉え考えられるよう、報連相が常にできるチームづくり。
2	計画・ねらい	スタッフの得意なことを活かしたチーム保育。
	実践予定内容	・スタッフ一人ひとりの強みを生かし互いに学びを深め、向上していく。
3	計画・ねらい	連携をとれた組織を構築する
	実践予定内容	・互いに認め合い、語り合い風通し良い職場にする。 ・施設長・主任・リーダーが話し合いの場を設け、マニュアルの意義をしっかりとスタッフ同士指摘し高めていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	8人	10人	12人	12人	12人	60人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人

スタッフ								
パート スタッフ	保育士	10人	補助	2人	調理	0人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人	看護師	0人		

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、保育の振り返り、研修報告
給食運営会議	月1回	アレルギー対応、離乳食対応、食育
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハットの検証、安全対策、インシデントの共有
ケース会議	月1回	支援計画及び振り返り
リーダー会議	随時	スタッフ間の連携や共有、保育運営に関する共有
フロア会議	月２回	月案の確認・振り返り、子どもの姿共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営に関する確認事項、業務報告
施設長勉強会	月1回	保育園運営、保育の質向上に関して
食育会議	年4回	食育、離乳食、メニューの検討、給食室発信の保護者 支援に関して
保健会議	年4回	感染症対策、衛生管理、保健業務に関しての共有
主任会議	年6回	チーム保育・職場の良い風土作り
子育ての質を上げる会議	月1回	自園の課題を共有し系列園と共に高め合う
施設長会議	月1回	運営に関する確認事項、業務報告

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生区域・汚染区域の備品管理、安全管理
安全対策係	避難訓練・園内及び園周辺の安全点検と対策に取り組む
防火管理者	防火管理に関わる消防計画を作成し、防火管理上必要な業務 を定期的に行う。自主点検の確認。
食品衛生責任者	食品取扱に関する業務、施設の衛生管理やスタッフの衛生教育
畑係	年間農業計画の遂行や子どもと共に取り組む畑仕事の充実を 図る。
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善
写真・アルバム係	園児の写真の管理・販売用の写真選定、確認販売用及び保存写真の保護管理・選定、卒園アルバムの作成
お誕生日カード	お誕生日カードの作成と配布
絵本係	絵本の整理整頓、

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
入園式・卒園式	役割分担を整理する 稟議書作成
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの窓口 役割分担を整理する 稟議書作成
運動会係	役割分担を整理する 稟議書作成
生活発表会係	役割分担を整理する 稟議書作成
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの窓口 役割分担を整理する 稟議書作成

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	●保健的で安全な環境づくりを目指し、体の状態を観察して快適に生活できるようになる ●安定した生活リズムの中で食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る ●安全な環境を整え、探索活動が活発にできるようになる

		●自然の中で、十分に体を動かして遊ぶ ●身近な動植物に親しみ、関心や愛情が持てるようになる ●言葉でやり取りができない乳児期は、まわりの大人が愛情をもって『応答的な対応』によりさまざまな能力の基礎となる『信頼感』の発達を促す ●優しく語りかけたり、喃語や発語に応答したりして発語の意味を育て言葉を使うことを楽しむ
	下半期 0～1歳児	●安心できる保育士との関わりの中で、食事・排泄・着脱などの活動を通して自分でしようとする気持ちを育む ●まわりにさまざまな大人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊び、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ ●子ども一人ひとりが何に興味を示しているのかを考えながら見守り、学びに向かう意欲へとつなげていく ●生活に必要な言葉がわかり、簡単な喃語や言葉を使って自分の意志を伝えようとする ●身近な自然に触れ自然を使った遊びを楽しむ ●身近な動物に親しみ、関心や愛情が持てるようにする ●食べる喜びや楽しさを味わい進んで食べようとする気持ちが育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	●子どもの主体性や意図を理解し、子どもたち一人ひとりの学びがどのように存在しているかを考えながら支援していく ●保健的で安全な環境づくりを目指し、快適に生活できるようにする ●友だちと一緒に食事をする中で、さまざまな食べ物を食べる楽しさを味わう ●子どもたち一人ひとりの欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る ●子どもが安心して自分の思いを言葉で伝えることができたり、人の話を聞いたりして言葉で伝えあう楽しさを味わう ●友だちとの関わりの中でそれぞれが自分の力を発揮しさまざまな活動に取り組む ●いろいろな体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性を育む ●自然に興味や関心を持ち自ら関わって遊ぶ ●自分でできることに喜びを持ちながら、基本的生活習慣が次第に身につく
	下半期 2～5歳児	●自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的生活習慣や態度を身につける ● 子どもの姿を『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』に照らし合わせてとらえるようにする ●食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事やおやつを取るようになる ●いろいろな体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれ自由な発想でのびのびと表現することを楽しむ ●身近な動植物や自然に関心を持ち、不思議さや神秘さに気づく

		●季節の変化に応じた健康的な生活に留意し、快適に過ごせるようする ●友だちへの親しみや思いやりを深め、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする ●失敗してももう一度挑戦してみようとする気持ちが育つような配慮をする。 ●就学に希望を持ち卒園できるようにする。また在園児は5歳児の姿をみて進級に見通しを持てるようにする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
乳児保育	上半期 0～2歳児	●保健的で安全な環境づくりを目指し、体の状態を観察して快適に生活できるようになる ●安定した生活リズムの中で食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る ●安全な環境を整え、探索活動が活発にできるようになる ●自然の中で、十分に体を動かして遊ぶ ●身近な動植物に親しみ、関心や愛情が持てるようになる ●言葉でやり取りができない乳児期は、まわりの大人が愛情をもって『応答的な対応』によりさまざまな能力の基礎となる『信頼感』の発達を促す ●優しく語りかけたり、喃語や発語に応答したりして発語の意味を育て言葉を使うことを楽しむ

〈2〉年間行事計画

・2025年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食事の時間を楽しみ、食べる意欲を育む。
	実践予定内容	・好きな物を好きな場所で好きな人と食べることで食への楽しさを体験する。 ・全スタッフ子どもと共に昼食を食べ、コミュニケーションを図ると共に、楽しい空間となるよう配慮する。 ・縁側給食を通して四季折々感じながら食べる環境をつくる。また旬の食材にも触れ食への興味関心が持てるようになる。
2	計画・ねらい	「お腹が空いた」という経験を通して食への意欲を高める。

	実践予定内容	・食事の時間だから食べるのではなく、お腹が空いたことを感じることで食へ対しての意欲を高めていく。日中の活動を充実させ、夜は休息するという、人間にとって健康的な生活リズムを作っていく。
3	計画・ねらい	畑活動を通して旬の食材に触れる。
	実践予定内容	・食に旬があることを伝え、季節が感じられるようにする。また食材の名前を知り、どんな栄養があるかを考え食べる大切さを伝えていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・11月）
歯科検診	年2回（5月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯みがき指導・手洗い指導・感染症についての情報共有
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 4～9月頃…手足口病・ヘルパンギーナ 6～10月頃…マイコプラズマ肺炎 7～10月頃…咽頭結膜炎・流行性結膜炎 11～3月頃…水痘・インフルエンザ・感染性胃腸炎 1～6月頃…伝染性紅斑 3～4月頃…麻疹・風疹 一年を通して…突発性発疹・流行性耳科腺炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ坐剤･･･1名より預かり済み／事務所にて保管 セレスタミンシロップ･･･1名より預かり済み／事務所にて保管 フェキソフェナジン・・・1名より預かり済み／事務所にて保管 エピペン…1名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在24名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	・保護者に対して内科検診、歯科検診、身体測定の結果を知らせるとともに必要に応じて治療をすすめる ・感染症、インフルエンザ等の情報をお知らせし、手洗い・うがいの励行は感染拡大予防に大切なことを知らせる ・行政からのお知らせ掲示 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指 導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹

	底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／5・11月 歯科健診　年2回／5・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	季節を身近に感じられるような室内環境を作る。
	実践予定内容	・戸外で拾ってきたものや子どもたちの表現活動を大切にしていく。
2	計画・ねらい	子どもの姿から遊びこめる環境を子どもとともに考え整える。
	実践予定内容	・子どもの姿や子どもの気づきを大切にし環境設定を行ってく。 ・子どもが話し合う場を作り環境を考えていく。整理整頓・物の管理・

		使い方もルールも子どもとともに考えていく。
3	計画・ねらい	静と動に分けられ安心して生活できる場をつくる。
	実践予定内容	・安心して過ごせる安らぎの場、活動できる場を設ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	配膳台	幼児室	毎日
2	丸太ベンチ	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	人数確認方法（2名以上でのダブルカウント）をスタッフ全員に共有し、全員が同じようにできるよう、定期的にロープレや研修を行う。都度、ハザードマップの見直しを行い、人数確認の ポイントを押さえ、散歩に行く前（前日）にハザードマップを見て、危険個所の確認を行う。保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態をふまえて、園内外の安全点検に努める。施設長は怪我発生時対応フローチャートを、全スタッフに周知するフローチャートは事務室に設置し、全スタッフがいつでも対応できるようにする。月1回の事故防止委員会で、インシデント報告書の分析と再発防止策を話し合い、共有し、今後同じような怪我や事故が起こらない意識を高く持ち、保育にあたっていく。
2	実践予定内容	「光化学スモッグ注意報」が横浜市より発令された場合は、いち早く園内・園外にいるスタッフに周知するとともに、特に園外にいるスタッフに対しては、保育園に戻るなどの対応を考え共有する。園内にいる場合は窓を閉め、子どもたちの健康状態に留意する。
3	実践予定内容	遠足や銭湯でバスを利用し移動する際は、乗降時の人数確認（マニュアル参照）を徹底し、置き去り等の事故につながらないよう十分に注意を払う。また、バス走行中でも足の位置・握り手を持っているか、度の過ぎる会話をしていないかなどに気を配り、運転の妨げにならないよう気をつける。(節度をもつこと)
4	実践予定内容	防災対策 災害や事故の発生に備え、危険個所の確認・点検を行い、消防計画に基づいた避難訓練を実施する。 施設長を中心とした連絡体制の強化と行政各所との連携を密に行う。 災害発生時には各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全確 保ができる体制を整える。
5	実践予定内容	防犯対策 定期的に不審者侵入訓練を行う際、自園の場合門扉からの侵入が可能な 他、駐車場側の塀から簡単に侵入することができるため「どのように子どもたちを待機誘導させるか」を考えいく必要がある。（場合によっては調理室の勝手口を利用して誘導する）

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・近隣地域の中高生の職場体験やボランティアの受け入れを積極的に行い、子どもたちと関わる仕事を身近に感じてもらえるようになる。
・実習生が教室ではなく、現場でしか学べない経験を沢山出来るように、また保育の楽しさを味わえるように丁寧に行い、人材育成につなげていく。

1	実践予定内容	小学生のボランティアを随時に受け入れる（卒園児）。
2	実践予定内容	中学生、高校生のボランティアや職場体験の受け入れをしていく。
3	実践予定内容	実習生一人ひとりに合わせた温かい受け入れ体制を整える。また日々の振り返りを丁寧に行い中で、翌日の実習に活かせるような指導を行う。

7.スタッフ育成と研修計画

・園会議の時間を中心に、園内研修(エピソード研修)を行っていく。園内研修で保育士達が自ら の実践を振り返り、成果や課題をしっかりと自覚して保育をスタッフ一丸となり改善していく。
・法人内・外に関わらず、子どもや保育者自身に必要があると感じた研修は積極的に参加する。
・研修を受けるだけでなく、研修の講師を経験することで自分の思いを伝えることや、難しさを 知り、今後の学びとして繋げていく

〈1〉2025年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・危機管理 園長大学「子どものケガには意味があるポシティブに考える再発防止策」を視聴する。	・マニュアルを理解し、基本に沿った 対応を全スタッフができるようにする。 ・ハザードマップ・ルートマップ等散歩についての共有。災害への対応と心構え、ヒヤリハットの考え方。
5月16日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 日課や基本保育活動を深める。 ③ 園長大学 「午睡時間は事務時間？SIDS家族の会から学ぶ命の重さ」を視聴する。 ④ 園目標・Ｉ期振り返り	・日課や基本活動を深める。 ・SIDSの確認、ロールプレイングする。 ・園目標の振り返り。
6月20日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点	・プール開きに向けて水辺の研修を

		② 園長大学「楽しく安全な水遊びのために水辺のリスクマネジメント」を視聴する。 ③ 相手の気持ちに立った接遇	行い事前にリスクを共有する。
7月18日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 夏の感染予防 ③ 運動会について	・夏特有の感染症について知識を深め、感染症予防、拡大を防止する。 ・運動会のねらいについて。
8月22日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について ③ 園目標・Ⅱ期振り返り	・子どもたちの発達や興味に合わせ、室内環境を見直す。 ・園目標の振り返り
9月19日	18:30～20:30	①コンピテンシー自己採点 ②学習指導要領に基づいたアプローチカリキュラムについて ③上期振り返り	・上期を振り返り、事業計画がどこまで進められているのか。下期に向かうのはどこなのかを考える。 ・小学校1年生のカリキュラムを理解して、逆算をしたアプローチを検討する。
10月17日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修園長大学「不適切な保育なぜ起きるのか？どう防ぐのか？」を視聴え	・不適切な関わりについて振り返り、改めて虐待防止をする。
11月21日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 冬の感染症予防	・冬特有の感染症について知識を深め、感染予防、拡大防止に努める。
12月19日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標・Ⅲ期振り返り ③ 事業計画振り返り	・コンピテンシーの振返り ・園目標の振り返り ・事業計画振り返り
1月16日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返り	・コンピテンシーの振返り 事業計画書の振返り
2月20日	18:30～20:30	策定会議	・今年度の課題をもとに次年度の園目標、方向性を決定し、行事について話し合う。
3月1日	18:30～20:30	策定会議	・今年度の課題をもとに、次年度の計画をする。プロポーザルをもとに、子どもたちに経験させたい行事を話し合い決定する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校訪問、老人ホームの訪問、絵本読み聞かせ、ボランテイア などを積極的に行っていくことで、 保護者や地域の方の協力も得ながら地域に根ざした保育園になる。ちきんえっぐの取り組みを地域へ発信していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：100名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：美しが丘公園にて　　集客目標：20名

商店街ツアー	週I回
商店街ツアー	週I回
世代間交流	老人ホーム「ヒルデモア訪問」で交流を深める 中学生・高校生の体験学習の受け入れ
異年齢交流	中学生・高校生の体験学習の受け入れ
地域拠点活動	ちきんえっぐ（自然食堂・寺親屋・芸術学校）の開催 地域支援活動（地域での落ち葉拾い） 園開放・園庭開放 地域公開講座の実施

９.小学校との連携の計画

〈I〉今年度方針・テーマ

子どもの発達の連続性を見据えて保育園における保育が行われていること、子どもたちの生活が 小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているか、小学校と積極的 に連携していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月I日（土）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
II月頃	美しが丘小学校	I2名予定	I年生との交流（美しが丘公園）	子ども間交流
II月頃	近隣小学校公開授業	2名予定	授業参観（青葉区小学校授業研究会）	職員間交流
I2月頃	美しが丘小学校	I2名予定	I年生との交流（美しが丘小学校）	子ども間交流
I月頃	近隣小学校公開授業	2名予定	授業参観（青葉区小学校授業研究会）	職員間交流
2月頃	元石川小学校	I2名予定	I年生との交流（元石川小教室）	子ども間交流
2月頃	美しが丘小学校	I2名予定	I年生との交流（美しが丘小教室）	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

保育の方法や内容について個別支援計画を作成し、定期的に保護者の方と話しをして理解得ること。 子どもの発達状況を捉えて課題を抽出し、情報を共有して認識を同じくしていくよう努める。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：開催日勤務状況によって参加者を選定）

必要に応じて専門機関と連携し、療育方針・方法を共有していく。 スタッフ全員に対して障害児保育の正しい認識が持てるよう配慮していく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校へは保育所児童保育要録の送付とともに、引継ぎが必要な事項に関しては直接引継ぎの時間を設けていただき、子どもたちがスムーズに小学校生活を送れるように連携を図る。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：30名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回　公園名：美しが丘公園にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

学研データサービスに依頼して２０２２年度受審済み

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年3月17日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時００分
自己評価終了予定時刻：１４時００分
自己評価実施予定者：野田和泉・大橋元気・菊地ひなの・齋藤江梨子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子どもを中心に置き保育していく。保育者同士が日々子どもの姿を語り合い、理解し何かをさせる保育ではなく、一人ひとり個性と発達に向き合い、ありのままを受け止め、子どもと共に成長していく共主体の意識を常に持ち合わせるスタッフ集団を目指していく。 ・保護者・子どもたちが安心、安全、安らげる保育園となる。
	振り返り	・子どもの姿をスタッフ間共有して語り合いの場を設けることで、様々目線で保育することができた。また様々な体験を子どもたちとすることでたくさんの気づきを一緒に共感することができた。個を大切にすることで、クラスではなく異年齢とのかかわりも大切にできた。 今後更なる挑戦と失敗を繰り返しより遊びが継続できるよう、trial＆errorをし、子どもも大人もなんでもチャレンジする意欲を育てたい。 ・去年度に比べ保育参加も増えた。保育園と家庭での子どもの姿を共有し質の高い保育を高めていく。 ・利用者アンケートではNPSがあがった。家庭との連携を密にしながら、さらに保護者支援を高めていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・1日を大切に子どもたちの沢山の体験ができるよう、人的環境・物的環境を用意する。日々trial＆errorを大切にしながら一人ひとりの強みを生かし保育の質の向上を目指す ・保育園、家庭と連携し共育てをする。子育てが楽しいと感じられるような子どもを中心に置き保護者支援を目指す
	重点施策	・子どもも大人も様々な実体験から学びを振り返り明日へとつながるような継続的な保育となる。子どもの姿から環境を設定し、「しかけ」を用意することで挑戦するきっかけを作っていく。成功・失敗を繰り返し対話することで生きる力をつけていく。 ・日々保育者同士が子どもの姿を語り合い、理解し何かをさせる保育で

		なく、一人ひとり個性と発達に向き合い、ありのままを受け止め子どもと共に成長していく共主体の意識を持ち合わせるスタッフ集団となる。 ・子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられるような支援や情報提供をしていく中で、スタッフ、保護者で子ども中心に置いた子育てを展開できるようにする。
2026年度	目指す姿	・日課、労働が定着し、子どもたちが生きる力が育ち、子ども主体な保育の定着
	重点施策	・子どもたちが自ら日課に取り組み、年上児が年下児に教える姿や、友達同士教えあう姿が見られる。
2027年度	目指す姿	・保護者・子ども・地域から愛される園、選ばれる園になる。地域の人たちが集う地域に開かれた拠点となる ・年上児が年下児があこがれ、いたわりをもって生活する。自然と園全体が大きな家となる
	重点施策	・地域から選ばれた保育園になり、子育て支援として園を利用してくださる方を増やす。またその実践により選ばれる園として継続していく ・子ども自らが遊びやルールを作り上げ保育園生活を築いている。 ・異年齢の子どもたちが、園舎を行き来し、様々な友だちと関わり合い、お互いに手を差し伸べることができる。年下児は年長児へのあこがれ、年長児は年下児へいたわる気持ちを育み、大きな家になる。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：美しが丘どろんこ保育園 施設長　野田和泉

２０２５年度　大豆戸どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

「にんげん力。育てます。」という理念に基づき、私たちスタッフは、子どもが主体的に自分で考えて行動し、周りの人たちと試行錯誤しながら活動できる環境を作っていきます。自発的・意欲的に関われるような環境を構成していくことで、生活・遊び・労働を教え合い、社会性を育んでいきます。そのために、一人ひとりが「０を１に変える力」で課題や困難に向き合い、やってみたいこと・思い通りにならないことをすべて実際に経験することを大切にしていきます。

また、１０より１００のホンモノの経験する機会を用意し、子どもがやりたいと思う活動を安全に行えるように見守り支援していきます。共に学び、遊び、労働し、頼りあい、ぶつかり合い、教え合うことで、ホンモノの経験を重ね、子どもの豊かな感性が芽吹く瞬間を大切にし、自分の気持ちや考えを表現していく場を作っていきます。

子育ての支えとなるために、保護者との対話を常に大切にし、子どもの成長を喜びあえるよう、子どもの日々の姿を発信し共有し、寄り添っていきます。

子育て拠点として、地域の方にも利用していただきやすい環境を用意していきます。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

法人の理念を深く理解し、研鑽を積み上げ、１分も無駄にせず、子ども一人ひとりの最善の利益を考え、取り組んでいく。

どのスタッフも自信を持って学びあえるように子どもを真ん中にし、共に考えて、共に経験しながら互いに学び直し、ホンモノの体験とは何かを意識しながら、最適な環境が作れるようにしていく。その為、日常からスタッフ同士がコミュニケーションをとり、課題にぶつかった時には、受け止めあえる関係性を築き、共に語り合い、互いに学び直し、学びあえる職場環境（会議、研修など）の下、質の向上を図る。

１	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発信し、伝え合える環境を作る。
	実践予定内容	日々の中での保育についての雑談を語り合える関係を築いていく。また、会議内においても自分の考えを言葉で伝え、相手の考えや思いも聞ける職場環境を日常化する。
２	計画・ねらい	子ども一人ひとりの発達や成長をフロアやクラス会議で話し合い、環境設定や計画から実施、振り返りを行う。
	実践予定内容	一人ひとりの発達や成長を知ることで、その子に必要な養護や教育を知り、スタッフで共有することで、みんなが同じ方向を向いて保育していく。
３	計画・ねらい	園のスタッフとしての現状からみる課題における園内研修を行う。
	実践予定内容	どのスタッフも主導をとり、プロの指導者としての現状からの課題出しを行いながら、具体的な保育の質の向上ができる研修を行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

保護者が感じる不安や戸惑いに寄り添い、小さな心の変化や体調の変化を丁寧に共有していく。家庭ごとに異なる子育ての価値観や考え方を十分に理解しながら、子どもの特性や課題を保護者と共有し、保護者と共に「共育て」の取り組みを進めていく。

日々の子どもの成長や様子については、お迎え時の対話や連絡帳、タイムラインなど丁寧に伝えます。これにより信頼関係を深め、保護者のニーズに応えられる保育を実現していく。

1	計画・ねらい	子どもについて語り合いながら、保護者同士が互いを知ることができる保護者懇談会の実施をする。
	実践予定内容	年2回の保護者懇談会を開き、法人や園からの共有事項を確認すると共に、保育者と保護者が子どもについて語り、学び合う。
2	計画・ねらい	保育者の希望に応じて、子どもが日々、経験していることを知ることができるように保育参加を実施する。
	実践予定内容	保育参加をすることで、子どもがどんなことを経験から学んでいるかを保護者が一人のスタッフとして経験して知り、今後の子育てのヒントに繋がるようにする。
3	計画・ねらい	保護者の希望に応じて、子どもの発達や子育てなどについての悩みを相談することができる保護者面談を実施する。
	実践予定内容	保護者の希望に応じて、子育てについての悩みや相談を聞き、保護者に寄り添いながら、共に考え、学び合える機会を提供する。

〈3〉地域の子育て支援事業

住宅街の中に位置し、広々とした園庭や園舎に、地域の方々に興味を持っていただき、気軽に利用して頂けるようにしていく。ポスターを掲示し工夫したり、園見学や行事参加の際に自園の特性を伝えたりする中で、地域の方々にとって利用しやすい環境を整えていく。地域の方々とより蜜に関わり、自園ならではの体験や経験から、共に学び、考え、伝えあえるような場にしていく。

また、地域子育て拠点として、子育てに悩む地域の方々の心の拠り所になれるようにしていく。

1	計画・ねらい	子育て支援活動「ちきんえっぐ」を知っていただき、活動に参加する中で、自園の魅力も伝える。
	実践予定内容	散歩時にスタッフからの声掛けにより、その場で受付できる仕組みを作り、電話で予約する手間を省くことで参加人数を増やしていく。また、青空保育では、勝手かごを持参することで、活動の認知をあげていく。共に活動を通して地域の方々に自園を知っていただく。
2	計画・ねらい	園庭開放を知っていただき、利用をして頂き、気軽に立ち寄れる場所だと感じてもらう。
	実践予定内容	地域の方々が何を求めているかを知り、寄り添っていく。より分かりやすい表示をすることによって、気軽に立ち寄れる場所で安心して遊べる場所にしていく。
3	計画・ねらい	ベビーステーションや絵本の貸し出しを行い、地域の図書館的な役割をしていく。
	実践予定内容	地域の方々に気軽に立ち寄れる場所であることを知ってもらい、子育ての悩みを相談できる場にしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

園の子どもに関わるスタッフは、職種や経験に関わらず専門性を高めるために研鑽を積み、日々の保育を展開していかなければならない。子どもが人間形成をしていく極めて重要な時期に関わる者としての責任をしっかり理解し、自覚できるスタッフを育てる。状況の変化に応じて、どのスタッフも主体的に判断、行動する組織にしていく。

トップダウン型の園運営ではなく、各職種の専門分野、得意分野にて各自の力を発揮し、互いに連携を図りながら共に語り合い、考え、伝え合うことにより、園全体のチームとして質を上げる。

1	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発信し、伝え合える環境を作る。
	実践予定内容	どのスタッフも日々の中での保育についての雑談を語り合える関係を築いていく。毎週1回のフロア・学年会議内で自分の考えを言葉で伝え、相手の考えや思いも聞ける職場環境を日常化する。 先輩スタッフは、後輩スタッフに寄り添い、保育が楽しいと思える指導ができるよう、環境を整える。
2	計画・ねらい	園のスタッフとしての現状からみる課題における園内研修を行う。
	実践予定内容	月に1回の園内研修において、どのスタッフでも主導を取り、現状からの課題出しを行いながら、具体的な保育の質の向上ができる研修を計画から実施、振り返りまで行う。
3	計画・ねらい	主任、中堅リーダーが園運営についての組織マネジメントの計画の一員となる。
	実践予定内容	施設長からの園の基本方針に基づいて、主任・中堅リーダーとしてできる園運営についての課題を考え、実行する。

〈5〉環境実施目標

法人が構想する社会として、食材の循環、環境の意識を育む環境教育、自然の豊かさを守る活動・共助と自立のための環境作り・仕組み作りを実現し、0歳から人生を終えるその時まで、全ての人が「生きる力」を持って、よく生きられる社会を目指していく中で自園の特性や地域性に応じて環境マネジメントを実践していく。

1	計画・ねらい	畑仕事や生き物の世話を日課にして実践することで、食材や食の循環への意識を育む。
	実践予定内容	毎日の畑仕事や週2回の他園訪問の鶏の世話を通して、食材加工などの食育活動へつなげ、計画から実施、振り返りまでを行う。
2	計画・ねらい	子どもの食べる意欲を育て、給食残渣を減らし、食材の循環サイクルを執行する。
	実践予定内容	毎日の子どもの喫食状況を把握する。給食残渣を意識し、減らしていけるようにしていく。また、コンポストの活用をし、食材が変化していく様子を学ぶ。
3	計画・ねらい	食材を加工することで長期保存できることを学ぶ。
	実践予定内容	食材を加工することによって、保存できる物を知り、実際に作り、保存状態し、食すまで行う。
4	計画・ねらい	グリーンカーテンを作り、木陰で遊べる環境を作る。
	実践予定内容	壁面や窓にあたる直射日光を遮り、省エネ・省電力を実現しながら子ども

		たちと地球環境について学ぶ。

〈6〉子どもの人権

子どもも大人と同じように1人の人間として「人権」が保障されており、心身ともに健康で安全な環境で成長するための環境を整えていく。「生きる力」を育み、明るく、たくましく、前向きに毎日が過ごせるように保育していくことを保障していく。

1	計画・ねらい	子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して保育していく。
	実践予定内容	全てのスタッフが同じレベルで子どもの人権について理解した上で子どもの最善の利益を前提とした保育の提供ができるように、子どもの人権について、「人権に関するチェックリスト」を用いて知識を深めていく。
2	計画・ねらい	子どもが毎日笑顔で登園し、楽しく過ごせるようにしていく。
	実践予定内容	一人ひとりの子どもの声や心情に丁寧に耳を傾け、応答的に関わる。
3	計画・ねらい	自分の子どもを預けたいと思える園作りをする。
	実践予定内容	子ども一人ひとりの人権を大事にし、後ろから抱き上げたり、あだ名呼びをしたりしないなど、日々、指摘し合える関係性を作る。 困っている時は手を差し伸べ、分からない時は質問できる関係作りをする。 リーダー会議で毎月様子を確認する。

〈7〉危機管理マネジメントの育成

全スタッフが、子どもの命を守る意識を持つ。チーム全体の保育力を見極め、安心・安全な環境を目指していく。定期的に事故や怪我の具体的なリスクや安全管理に於いて、過去の事故例から事故の予測をして予防に努め、ハザードマップを使って自園の特性を知り、話し合い、安全性に強化していく。

1	計画・ねらい	過去の事故例を共有し、事故の予防に努める。
	実践予定内容	事故記録簿・インシデント・ヒヤリハットから、傾向と対策を毎週1回の昼礼で共有する。
2	計画・ねらい	園内設備の細やかな点検を行い、安全性を保つ。
	実践予定内容	事故防止係・用務員が中心となり、園内設備の安全を確認し、全スタッフにも共有する。
3	計画・ねらい	マニュアルを遵守することの大切さを知る。
	実践予定内容	子どもと自分たちを守るためにマニュアルがあることを知り、遵守することができる環境を作り、一人ひとりが意識し、行動に移せるようにする。
4	計画・ねらい	安全な環境で過ごせるように、スタッフ一人ひとりが危機管理を意識する。
	実践予定内容	保育士の配置や目線（目の数キープ）、声掛けなどで子どもの怪我を防げる環境で過ごせるようにする。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	16人	18人	18人	18人	90人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人	事務	1人
パート スタッフ	保育士	10人	補助	2人	調理	2人	用務	1人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・コンピテンシー・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	・給食献立の振り返り・各クラスの昼食の様子
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の傾向と対策
ケース会議	月1回	・個人の目標の振り返りと共有
保健会議	月1回	・保健計画の振り返り、感染予防の確認
リーダー会議	月1回	・園全体の運営、人材育成計画・振り返り
昼礼	毎週1回	・事務連絡、子どもの様子を共有、事故・怪我の共有
フロア会議	月1回	・保育計画の立案と振り返り、環境設定、行事の話し合い

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	施設長が参加し、議事録を共有する。
施設長勉強会	月1回	施設長が参加し、保育の質を向上するために学ぶ。
食育会議	年4回	施設長と調理スタッフが参加し、食育について学ぶ。
保健会議	年4回	施設長と看護師が参加し、保健について学ぶ。
主任会議	年4回	主任が参加し、マネジメントを学ぶ。
子育ての質を上げる会議	月1回	ミドルリーダーが参加し、保育の質を向上するために学ぶ。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及び保育者の健康保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理・点検、事故記録の作成、避難訓練計画立案・実施
防火管理者	災害を想定した訓練や消防設備点検、避難経路の確保・点検
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑・食育係	日課（畑仕事）の振り返り・計画立案・実施、食材や食の循環・環境への意識を育む
子育て支援・地域交流係	子育て支援事業・地域交流についての計画立案・実施
備品管理係	園の備品管理・発注
写真・卒園アルバム係	写真販売に関しての写真の確認
絵本係	絵本の管理・発注、絵本通信の作成

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画立案・実施などの補佐
運動会係	運動会の計画立案・実施

生活発表会係	生活発表会の計画立案・実施

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・生理的・心理的欲求を満たし、一人ひとりの生活リズムに合わせ安心して過ごす。 ・保育者との信頼関係のもと、情緒の安定を第一に自分で見つけた遊びを十分に楽しみ、応答的な触れ合いをする。 ・個々の子供たちの発達課題を的確に把握した中で、多角的・適格に子どもを捉え、指示をせず、子どもが自ら選択する保育を行い、発達の連続性・つながりを大切にする。
	下半期 0～1歳児	・子どもの感性を揺さぶり、目を輝かせて遊んでみたくなるような環境を整え、遊びによる満足感や充実感を得られるような保育を行う。また、自発的に試してみたいと思う環境を準備し、保育者の見守る中で子どもが十分遊べるようにする。 ・他児や周囲の人への関心が高まる時期なので、十分に身体を動かす・諸感覚を働かす・興味や関心を育てる・探求意欲を満たす・思考力や認識力の基礎を培う保育を行う。 ・子どもの様々な感情表現を積極的に受け止め、子どもの自己肯定感が育まれる様に努めていく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・一人ひとりの子どもが、主体的に活動できるような環境を準備し、異年齢での経験を大切にしていく。 ・異年齢の中で友だちとの繋がりを深め、楽しむ場を作り、協調性や自主性を育む。 ・興味や関心を持ったことに主体的に関わり、発見を楽しみ、考え、遊びを取り入れていく。
	下半期 2～5歳児	・異年齢児との関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を味わう経験を保証する。 ・子どもが自分で考え、工夫し、判断して自ら行動できる。 ・心を動かす様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを行う。
保育参加	4～3月	・希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼 ・普段の生活を見て、一緒に活動していくことで、子どもの育ちや園での取り組みを知って頂く機会とし、期間を定めず自由に参加ができるようにする。
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

・乳幼児期に欠かせない栄養のバランスを配慮し、噛む力を育てる・素材を味わえる献立を提供する。
・季節の恵み、地域の産物を取り入れながら、保育者も子どもと共に楽しみを待つ給食に努める。
・食材を加工することで、様々な食べ物へ循環することや自然環境への意識を身に付ける食育活動を行い、命を頂くことの大切さを知る経験をする。
・畑で野菜を栽培することで、旬の素材に気づき、食に興味を持つ。
・子どもが自分で「食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ」選択することで意欲的に食べる食育を行い、自分で食べたいと思う意欲も育てる。

1	計画・ねらい	全スタッフが主体的に携われるようにフロアで担当者を立て、畑の見通しを持ち、日課につなげる。野菜や花などの植物を育てることで畑仕事の充実感を得る。
	実践予定内容	日々の畑仕事（土づくり・畝づくり・種まき・苗植え・水やり・雑草とり・収穫）から、命を育てて命を頂く大切さを知る。
2	計画・ねらい	自分が「食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ」選択する。
	実践予定内容	子どもの食に対する意識や意欲が育めるような環境を作る。
3	計画・ねらい	食育についての学びを教わる機会を作る。
	実践予定内容	挨拶やマナー、食具の使い方等、食育指導に取り入れ、身に付けていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい・手洗い指導、歯磨き指導、体の仕組みを知ろう等
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス

	感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃･･･手足口病 7.8月頃･･･ヘルパンギーナ・プール熱 10.11月･･･RSウイルス・溶連菌・手足口病 12．1月･･･インフルエンザ・胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･3名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗アレルギー薬･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在29名が、研修受講し、修得済み

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

園を大きな家として捉え、スタッフ全員で見守り、協力しあいながら、子どもの成長や興味に気付き、子どもの遊びや興味が持続して夢中になり、発展できる環境を作る。

保育環境について定期的に話し合い、一人ひとりの子どもたちの個性を捉えながら、子どもの興味・関心が伸ばせるようにする。全年齢の子どもが自由に行き来でき、夢中になれる環境、子どもの特性が様々な形で表現することができるようにしていく。また、子ども自身がいつでも経験を選択できる環境も意識していく。多くの豊かな表現音楽に触れ、造形活動を充実していき、個々の感性を磨いていく。

清掃分担チェック表を利用し、スタッフで分担し、園全体の清掃に努める。誰もが、園内の整理整頓を行い、園内の美化・緑化に配慮しながら、子どもにとっても保護者や地域の方々にとっても、ここに来園したいと思う環境を目指し、環境の見直しをしていく。

1	計画・ねらい	環境がどうして大切なのかを知り、子どもの今という瞬間を大切にできる環境を作っていくことができるよう、スタッフ一人ひとりが研鑽し、反映していく。
	実践予定内容	子どもの発達や興味・関心を共有し、子どもが自分を表現できる環境を作っていく。
2	計画・ねらい	子どもにホンモノの体験と労働に拘って保育を行う。
	実践予定内容	たとえ手間がかかっても、子どもに必要な経験を用意し、背中を見せて労働を教えることができるように、一日一日を大切に保育していく。
3	計画・ねらい	園内環境の美化・緑化の向上に努める。
	実践予定内容	毎月1回、美化会議を行い、園内環境についての見直しを行い、園内の美化・緑化の向上に努める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	タイヤ	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防犯計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月15日に行う。ま

		た、うちのこアプリにて災害緊急連絡先を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・連絡先を情報共有する体制をとる。
2	実践予定内容	事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、怪我や事故防止に最善を尽くす。
3	実践予定内容	全園事故防止委員会を毎月1回行い、同グループ内での状況を共有し、事故防止策を探る。
4	実践予定内容	年2回不審者侵入訓練を実施し、避難経路・不審者侵入防止・通報の訓練を全保育者が行う。
5	実践予定内容	インシデント・ヒヤリハット報告書の運用をし、自園事故防止委員会で検証を十分に行うことで事故を未然に防ぐ。
6	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった貼紙等を掲示し、通知する。

6.実習生・中高生の受入

小中高校の保育体験などの積極的な受け入れを行い、小中高校生が保育に対して興味を抱いていることを共に模索し、学びあいながら保育士の疑似体験が出来るようにする。
大学・専門学校の依頼による保育実習の積極的な受け入れも行い、保育実習を通して自園の保育士を経験する機会を持ち、実習経験から保育士として子どもの命を守ることの大切さやどろんこ会グループの日課や基本活動を園の特性も交えながら、丁寧に教え、伝える。
また、これを機会に体験や実習期間が終わっても行事などのイベントにも声をかけ、誘い、子どもたちや保育者や保護者や地域の方々と共に自園の魅力を経験していく。

〈1〉今年度方針・テーマ

基本方針である「子どもの個性を受け止め、一人ひとりが協力しあい、自立することで、子どもを真ん中にし、保護者や地域の方々とも共に考えて、共に経験しあう環境」を基本とし、実習経験から保育者としての子どもの命を守ることの大切さも丁寧に教え、伝える。

1	実践予定内容	小中高校の依頼による保育士体験の受け入れ
2	実践予定内容	大学・専門学校の依頼による園見学や保育実習の受け入れ
3	実践予定内容	行事などのイベントに関するボランティアやイベント参加などの受け入れ
4	実践予定内容	大学・専門学校との交流会の計画立案・実施

7.スタッフ育成と研修計画

私たち一人ひとりが保育者として責任と誇りを持ちながら、子どもの成長を見守れるように自園の特性と課題を踏まえた園内研修の充実を図り、一人ひとりの保育者の目標設定を行う。
また、保育の質を高めていける園運営を目指し、子ども主体の遊びを重視しながら、保育者同士の同僚性を高め、互いに自分の言葉で思いや意見を伝えあい、対話しやすい環境を整え、日常化していき、一人ひとりの保育者としての成長にもつながるようにする。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・子どもの人権について ③ 保育の質をあげる研修 ④ ケガ・ケーススタディ	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・子どもの人権について学ぶ。 園長大学「不適切保育」 ・保育のことについて学ぶ。 ・ケガ・ケーススタディを学ぶ。
5月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質を上げる研修 ③ 子どもにとってのホンモノの体験とは①	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・保育のことについて学ぶ。 ・子どもにとってのホンモノの体験について考える。
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質をあげる研修 ③ 水遊びについて ④ リスクマネジメントを学ぶ	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・保育のことについて学ぶ。 ・ 水遊びについて 園長大学「実践動画！水遊び」
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質をあげる研修 ③ 子どもが輝く運動会とは ④ 子どもにとってのホンモノの体験とは②	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・保育のことについて学ぶ。 ・誰のための、何のための行事かを再確認する。 ・子どもにとってのホンモノの体験について考える。
8月29日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質をあげる研修 ③ 保護者支援とは、地域支援とは	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・保育のことについて学ぶ。 ・支援の役割を学ぼう
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質をあげる研修 ③ 環境マネジメントの振り返り ④ 子どもにとってのホンモノの体験とは③	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・保育のことについて学ぶ。 ・環境マネジメントの振り返りと食の循環について学ぶ。 ・子どもにとってのホンモノの体験について考える。
10月31日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・子どもの人権について	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・子どもの人権について学ぶ。

		③ 保育の質をあげる研修	・保育のことについて学ぶ。
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質をあげる研修 ③ 子どもが輝く生活発表会とは ④ 子どもにとってのホンモノの体験とは④	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・保育のことについて学ぶ。 ・誰のための、何のための行事かを再確認する。 ・子どもにとってのホンモノの体験について考える。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質をあげる研修 ③ 今年度の振り返り① ④ 運営部mission	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・保育のことについて学ぶ。 ・今年度を振り返り、課題を見つけ、来年度につなげる。
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質をあげる研修 ⑤ 今年度の振り返り②	・振り返り、アクションプランをたてる。 ・保育のことについて学ぶ。 ・今年度を振り返り、課題を見つけ、来年度につなげる。
2月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の事業計画 ③ 園目標決め	・次年度の事業計画を知り、園の目標を決める。
3月1日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度年間計画策定	・次年度の計画をし、今年度の振り返りを踏まえ、子どもたちが経験したい活動を共に考え、語り合う。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域の目で子どもたちの成長や安全、保育者の子どもへの関わり方を第三者としての視点から見守っていただけるようにしていく。また、積極的に園を開放することで、地域の子育て支援に貢献し、子育てについて語りあえる機会や場所を提供する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：400名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：大豆戸公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問・町内会（ラジオ体操）
異年齢交流	近隣小学校交流会
地域拠点活動	近隣保育園との交流、ベビーステーション、絵本貸出
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

横浜市スタートカリキュラムに基づき、自園独自のアプローチカリキュラムを作成し、年間を通し

て計画的に幼保小連携を進めていく。また、幼保小連携会議・授業参観・授業研究会に積極的に参加し、地域の実態を把握しながら、教員と共に小学校学習指導要領について、これからの未来のために幼児期の子どもにとって必要な経験は何かを具体的に学んでいく。就学時には、横浜市保育所保育要録を送付し、必要に応じて一人ひとりの子どもの情報の申し送り等を丁寧に実施していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
８月頃	大豆戸小学校 １年生の担任職員	１名予定	保育園での生活を見学（登園幼児保育室）	職員間交流
１１月頃	大豆戸小学校 １年生	１８名予定	交流・球根植え（大豆戸小校庭）	子ども間交流
１月頃	大綱小学校 １年生	１８名予定	学校体験（大綱小教室）	子ども間交流
２月頃	太尾小学校 １年生	１８名予定	小学校探検（太尾小教室）	子ども間交流
２月頃	大豆戸小学校 １年生	１８名予定	小学校探検（大豆戸小教室）	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況や発達を理解し、ケース会議の中で共有・振り返りを行い、週案・月案の作成次期及び個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行う。子どもの成長の見える化を行い、子どもの成長をどのように支援をしていくかを共有し保護者と共に子育てをしていく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：４名予定）

毎月第四金曜日に話し合いを設け、担当者と共に行う。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の引き継ぎは横浜市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについての申し送りによって行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：10名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：5名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：大豆戸公園にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

開園３年目と以降５年に１回、第三者評価を受審することにより、保育の質の向上を図る。
（株式会社学研データベースに依頼して２０１８年３月受審・２０２１年１１月受審）
評価会社名　株式会社学研データベースに依頼して受審予定

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年3月１５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：12時00分
自己評価実施予定者：古山郁美、上海綾、荻原汐理、松本琴絵、大山智美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子どもの成長や興味・関心によって、保育者がレイアウトを変えたり、子ども自身が空間を作り出したりするようことができる、柔軟性を持つ。 ・日課（雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム・座禅・畑仕事）を継続し、失敗と成功を繰り返し経験していく中で責任を実感する。 ・保育内容やねらいが充実し、日々、スタッフ同士は対話を重ね、研鑽を積み、丁寧な保育ができる人材に育つ。 ・保育の業務の効率化を図る。子育ての最善の利益を考えることができる。 ・子育て支援の役割や地域のニーズを知る努力をし、地域との繋がりを持つ。
	振り返り	本年度の取り組みでは、子どもたちが生き生きと活動できる環境づくりを意識し、保育者がレイアウトを工夫するなど柔軟に行うことができた。また、雑巾がけや畑の仕事、リズム体操といった日課を継続する中で、失敗と成功を繰り返しながら、子どもたちと保育者双方が責任を持って行うことができてきた。これらの活動が「ホンモノの体験」として行うために、法人の理念やその活動の意味を理解し、日々の保育に取り組む姿勢が必要だと感じた。また、保育内容や目標を意識した丁寧な保育を行う中で、スタッフ間の対話やフロア会議での話し合いが確立しつつある。今後は個々のスキルアップをさらに推進する体制づくりをしていきたい。保育業務の効率化については進歩が見られ、子育てのメリットを考える視点を持つことができたが、業務負担を軽減しつつ、より高いレベルの支援を提供できる仕組みの構築をしていく。また、子育て支援の拠点として地域とのつながりを深める努力を続けたもの、地域住民がより気軽に立ち寄れる環境を整えるためのエ夫をしていく。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・子どもが主体的に過ごせるように柔軟性のある空間で保育をしていくことを目指す。 ・日課では、失敗と成功を繰り返し、経験していく中で、責任を持ち、子ども中心に取り組めるようになる。 ・タイムラインや連絡帳、お迎え対応などを通して、子どもの成長を共有し、信頼関係を深め、保護者に安心して保育園を利用していただく。 ・地域の方々にいつでも気軽に立ち寄っていただけるようになる。
	重点施策	・子どもの成長や興味・関心によって、保育者がレイアウトを変えたり、子ども自身が空間を作り出したりすることができる柔軟性を持つ中で、子どもの心の育ちを捉え、アップデートしっていく。

		・大人や子どもも日課を原点回帰し、一つひとつの活動の意味を学び直し、労働として取り組むことができ、社会性を学ぶ。 ・日々のお迎え対応では、接遇を対話の中で見出し、信頼関係を積み上げていく。 ・地域の方々のニーズに捉え、利用しやすい環境を整えていく。また、認知を拡大していく。
2026年度	目指す姿	・生活のしやすさと安全に配慮し、子どもが生き生きと活動できるようにしていく。 ・日々の保育の中でホンモノの体験と労働ができ、失敗や成功を繰り返し、経験していく中で、責任を持ち、子ども中心に取り組めるようになる。 ・お迎え対応などで信頼関係を深め、子どもの成長を喜び合ったり、子育てに悩んだり、困ったりした時に相談される存在になっている。 ・地域社会で必要とされる子育て拠点としての基盤を確立する。
	重点施策	・子ども自身が自分で空間を作り、居場所を見つけることができる柔軟性を持ち、子どもの心の育ちを育んでいく。 ・生活する中で経験する危険なものなどに対して、大人の勝手なものさしで危ないと決めることがないようにしていき、子どもたちの実体験で学んでいくことができる。大人はそのための研鑽を積んでいく。 ・接遇を持って、保護者と対話し、子育てについて学びあえる関係となる。 ・地域子育ての拠点として、また園を利用したくなる場、憩いの場となるようにする。
2027年度	目指す姿	・大人も子どもも保育園が心地の良い場所になっている。 ・ホンモノの体験を重ねていくことで、自分がやるべき労働を進んで行うことができる。 ・安心して保育園を利用して頂き、保育活動に保護者を巻き込みながら、子どもの成長を共に促進できる関係になる。 ・地域の方々が気軽に立ち寄っていただき、子育ての悩みや困りごとなど相談できる園になる。
	重点施策	・子ども主体とし、子ども自身が話し合う・意見が言えるなどの環境構成ができている。 ・大人も背中を見せる中で、子ども自身が自ら取り組み、子ども主体の保育になっている。 ・接遇を持って、保護者と子育てに対し対話できている。卒園後も原体験・原風景の場となっている。 ・地域に必要とされ、いつでも安心して立ち寄っていただける憩いの場になっている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：大豆戸どろんこ保育園 施設長　古山郁美

２０２５年度　草加松原どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

草加市が誕生した頃に作られた松原団地もマンションへの建替えが進み、周辺風景も大きく変わった。様々な年代が住むこの土地で、地域の方々に包まれ、人と人との繋がりを感じ、自分はたくさんの人に愛され、大切に育ったのだと実感できる、そんな保育を以下のことに注力し展開していく。

① 子ども一人ひとりを尊重し、丁寧に関わる保育の実践。
② 「生きる力」を育むため、日課・基本活動に丁寧に取り組む。
③ 子どもたちが、主体的な遊びや様々な原体験を通して、自分で考え、選び、行動できるよう環境を構成する。
④ 就学までに育みたい10の姿の体得に向け、一人ひとりの今の姿を捉え体験活動の実践を行う。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課・基本活動の充実
	実践予定内容	・日課・基本活動の理解を深め、必要な量や場面に拘り環境構成を行う。 ・保育士が背中を見せて伝えたり、必要な場面で介入したりすることで、子どもの知識や経験を広げる。
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的に、自ら選択し遊び込める環境の保障
	実践予定内容	・必要な物が整理整頓された環境作りをする。 ・子どもたちの発達や遊びを理解し、日々変化する子どもの姿に合わせ環境を構成する。 ・子どもたちに寄り添い、共感し、子どもの姿を最後まで見守りきる保育を実践する。
3	計画・ねらい	子どもの育ちを語り合う保育集団になる。
	実践予定内容	・心が動いた瞬間を捉え、互いに語り合うことで、子どもの理解を深めていく。 ・子どもの発見や育ちに気づき、子どもにとって、今、必要な体験活動を取り入れていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者との密なコミュニケーションと連携をとる。
	実践予定内容	・保護者の気持ちに寄り添い、不安や悩みについて一緒に考えていく。必要に応じて各関係機関に繋げていく。
2	計画・ねらい	子どもの成長を共に喜び合い、協働し合う存在になる。
	実践予定内容	・送迎時には保護者と目線を合わせて話をし、家庭での様子や園での様子を丁寧に伝え合う。 ・連絡帳やタイムラインを活用し、細やかな情報共有を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域との繋がりを深め，地域に開かれた拠点となる。
	実践予定内容	・青空保育やちきんえっぐ、園庭開放などの情報を広く発信し、興味を持ってもらうと共にリピーターを増やす。 ・子育て中の方が悩みを話したり、地域の方と繋がったりすることのできる場として保育園を提供していく。
2	計画・ねらい	地域の方が参加できる行事を開催し、地域との交流を深める。
	実践予定内容	・どろんこ祭りでは、どろんこサポーターズと協力し、地域の方も参加できるような企画を立てる。公共機関や近隣店舗などにもポスター掲示の依頼をし、参加を促す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが持っている力を発揮し、活躍する場を作る。
	実践予定内容	・得意な事を積極的に取り組む中で、自信を持って仕事に打ち込むと共に、人の役に立つことの嬉しさや達成感を感じる。 ・失敗を恐れず、やりたいことに挑戦できる環境作りをする。
2	計画・ねらい	園内研修を充実させ、園全体で学び合う意識を高める。
	実践予定内容	・『園長大学®保育士大学』を活用し研修を行う。 ・自分の考えや意見を言葉で表現する機会を大切にする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	毎日畑仕事に取り組む中で様々な気づきを得るとともに、食材に対する感謝の気持ちを持つ。
	実践予定内容	・畑の耕しから苗植え、水やり、間引き、収穫、調理をして食すまでを子ども自身が体験する。 ・必要なことを判断し、自ら考え行動する。
2	計画・ねらい	食の循環を知る。
	実践予定内容	・毎日のやぎ小屋掃除と糞の始末をすることから堆肥作りに繋げ、畑への活用や食の循環について、知識を得ると共に身をもって体験する。 ・残菜のリサイクルや給食残渣について知り、環境への意識を身につけていく。

〈6〉子どもを中心に考えられる保育

1	計画・ねらい	子どもの思いに心を傾け、ありのままを受け止める。
	実践予定内容	・子どもの行動には全て理由があり、目には見えない裏の部分にしっかりと目を向け、応答的な関わりをしていく。 ・日々の関わりの中で、子どもの人権について常に考え、保育にあたる。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しむ。
	実践予定内容	・子どもの心が動いた時を見逃さず、心と心が通い合う瞬間、目と目で通じ合う瞬間を大切にする。

		・保育者もワクワクした気持ちで活動できるよう、心身共に健康で余裕の持てる保育をしていく。
3	計画・ねらい	子どもについて語り合う保育者集団になる。
	実践予定内容	・一人ひとりの育ちや関わりの中で、小さな変化を見逃さず、スタッフ同士で語り合うことで、明日の保育へ繋げていく。

〈7〉気持ちの良い保育園作り

1	計画・ねらい	整理整頓の行き届いた環境を作る。
	実践予定内容	・園を訪れる人が気持ちいいと感じられるよう、整理整頓と清掃が行き届いた環境を作る。 ・スタッフ全員が美観への意識を高く持つ。
2	計画・ねらい	園に関わる人が、笑顔でコミュニケーションを取れる雰囲気を作る。
	実践予定内容	・園内や近隣の方々と自然に挨拶の飛び交う関係作りをする。 ・感謝の気持ちを忘れず、言葉で伝えられる関係作りをする。 ・良いことも改善すべきことも相談し合える環境作りをする。
3	計画・ねらい	相手の気持ちや立場になって考えられる集団を作る。
	実践予定内容	・どんなことも自分事として捉え、一緒になって考え、取り組めるチームになる。 ・接遇研修を行い、心のこもった対応を身につける。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	18人	18人	18人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人

パート スタッフ	保育士	4人	保育補助	2人	調理	1人
	用務	1人	嘱託医	2人	事務	1人

3.運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	自己評価・コンピテンシーを深める・研修報告・行事や子どもの姿の共有・活動の振り返り・共有事項・園内研修
給食運営会議	月1回	食育活動の計画と振り返り・アレルギーやマニュアル確認・給食内容や給食残渣の振り返り
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハットの分析・インシデントの共有・ 事故報告書の分析・全園事故防止委員会の内容共有
ケース会議	月1回	支援計画の振り返り・計画見直し
クラス会議	月1回	保育内容の検討・環境設定の見直し・子どもの姿の共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告・伝達事項・情報共有
施設長勉強会	月1回	業務改善の研修・園運営についての協議と研修・ 各園の取り組みについてのディスカッション
食育会議	年4回	食育研修・マニュアル見直し・献立や調理方法の共有・ 各園の取り組みについてのディスカッション
保健会議	年4回	感染症対策・衛生管理・マニュアル見直し
主任・ミドルリーダー会議	月1回	各園の課題改善・マネージメント研修・主任、ミドルリーダーとしての役割の理解
子育ての質を上げる会議	月1回	保育内容を深める、各園の活動内容のディスカッション、

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	全スタッフの安全に対する意識の向上、施設における様々な安全点検と対策に取り組む
防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成、防火管理上必要な業務を計画的に行う、自主点検の確認
食品衛生責任者	食品取扱いに関する業務、施設の衛生管理やスタッフの衛生教育
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防、畑に必要な土や苗などの発注・管理
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善、餌の管理、卵の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	企画・立案・計画・役割分担・保護者との連携
運動会係	企画・立案・計画・役割分担
生活発表会係	企画・立案・計画・役割分担

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人ひとりと密な愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心がける。 ・一人ひとりの子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する。 ・人との関わりの中で人に対する愛情や信頼感、そして生きる喜びを感じる。
	下半期 0～1歳児	・生活に必要な言葉がわかり身の回りの事を自分でしようとする。 ・簡単な言葉で気持ちを表現し、友だちや保育者と関わる。 ・色々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる。 ・様々な運動遊びを通して生活に必要な動きを身につける。

幼児保育	上半期 3～5歳児	・子ども本来の姿である遊びが十分に出来る環境の中で、一人ひとりが充実して遊び、仲間意識や集団活動の楽しさを感じる。 ・様々な体験や遊びの中で自分を発揮し、表現する意欲と協調性や社会性を育てる。 ・素話や紙芝居等の読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす。 ・動植物の飼育栽培の体験を通じて自然物や小動物の命の大切さを養う。
	下半期 2～5歳児	・自分たちで考えた遊びを意欲的に取り組む。 ・子どもたちが主体的になり、目的を持ち継続性のある遊びを楽しむ。 ・自分のイメージした物を色々な方法で表現する。 ・自然界の中で発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる。 ・異年齢の関わりを通して思いやりを持って接する。 ・グループ活動から自信を持って自己表現をする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	心地よい空間の中で、安心して意欲的に食べる。
	実践予定内容	・必要なものが整えられ、気持ちの良い空間で楽しみながら食事をする。 ・幼児自身が自分で盛り付け・配膳して食べる事を基本とし、未満児は自分で口に入れる事で自分の食べられる量を知り、おいしく食べる。 ・調理員・保育士・施設長等スタッフ全員が子どもと一緒に食卓を囲みおいしさを共有しながら食べる。
2	計画・ねらい	様々な食材や加工品、旬の素材に触れ食に興味を持つ。
	実践予定内容	・米研ぎ、野菜洗い、皮むき等食事作りに積極的に関わる。 ・味噌作り、ケチャップ作り、梅干し・梅ジュース等加工食品作りの体験をする。 ・食に旬があることを知り、季節を感じながら食べる喜びを感じる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、性教育
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ７月頃･･･手足口病、プール熱、とびひ 12月頃･･･感染症胃腸炎、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 アレロック･･･3名より預かり済み／事務所薬品庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては6月末までに受講予定
その他保健に関する取組	年間保健計画作成 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日

	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回/6･11月 歯科健診　年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	安心して過ごせる環境を作る。
	実践予定内容	・心が落ち着き、安心できる空間を作る。 ・必要な物が整理整頓され、心地よい空間作りをする。
2	計画・ねらい	子どもたちが発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活の中に取り入れて伸び伸びと遊べるような環境を作る。
	実践予定内容	・子どもたちの興味や関心を探り、何を必要としているのかを読み取り、日々試行錯誤しながら変化のある環境設定をする。 ・子どもが自ら選択し、生み出し、遊び込める環境を作る。 ・研修等にも積極的に参加し、スタッフのスキルアップを図る。
3	計画・ねらい	園庭環境の充実を図る。
	実践予定内容	限られた園庭の中で遊びが充実するよう、園庭でしかできない体験がどんな事なのかを考え、環境を作り活かす。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	平均台	縁側	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	非常災害時の対策として毎月消防計画に基づいた避難訓練や消火訓練の実施。防災設備の点検。
2	実践予定内容	年2回の不審者侵入訓練の実施。
3	実践予定内容	保護者や送迎者の確認をし、オートロックによる外部侵入者の立ち入りを防ぐ。
4	実践予定内容	インシデントやヒヤリハットからの分析と改善。
5	実践予定内容	園内・園外ハザードマップと散歩ルートマップの作成と情報共有。
6	実践予定内容	警察や草加市からの不審者情報提供の周知。
7	実践予定内容	光化学スモッグ注意報の際情報の周知と園児・スタッフは外出を自粛する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の小中高生に職業体験や福祉体験ができるようにする。実習生を積極的に受け入れ、現場で学ぶ充実感を味わえるようにする。また、保育の楽しさを現場のスタッフが伝え、次世代育成の支援を行う。

1	実践予定内容	栄中学校・草加中学校・新栄中学校等職場体験を受け入れる。
2	実践予定内容	関連学校と連携を取りながら、保育士・栄養士志望の実習生を積極的に受け入れる。
3	実践予定内容	ボランティア学生を受け入れる。

7.スタッフ育成と研修計画

新人研修

■入社時オリエンテーション
■現場OJT研修
■保育品質マニュアル研修
（事務研修・ケガケーススタディ研修含む）
■コンピテンシー研修

保育スキル研修



←お迎え対応研修

新人社員研修

■新入社員研修
→ 会場研修
→ 系列園保育実地研修



←避難訓練研修

スタッフ研修

■全社員研修（年1回）
■園内研修（月1回以上）
■保育スキル研修（エリア別）
■リーダー養成研修（9～2月）
■業務改善研修（月1回）
（＝保育の質を上げる会議）
■施設長勉強会（月1回）
■デンマークインターンシップ（年1回）
■コンピテンシー自己採点（月1回）
■人権チェック（4月・10月）
■外部研修
■上級救命救急資格取得講習

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理について ③ 人権チェック・虐待防止研修	・ハザードマップ、ルートマップ等園外活動についての共有。 ・災害への対応と心構え。 ・ヒヤリハットの考え方。
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇について	・保護者・お迎え対応で大切なこと
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 命について考える	・虐待定義について考える。 ・水遊びマニュアルの確認と熱中症対策。
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動会に向けて	・子どもの成長を伝える運動会について考える。
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課について	・日課について理解を深める。
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②食と食の循環について考える	・丁寧な食事について考える ・食の循環と堆肥作り
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症の理解を深める	・嘔吐処理手順を再確認し実践できるようにする。

		③人権チェック・虐待防止研修	・感染症について知識を増やす。
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② SIDSについて考える ③生活発表会に向けて	・生存確認の再確認。 ・SIDSについて深める。 ・一人ひとりの成長を伝える生活発表会について
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 一年間の振り返り	・年間の振り返り
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 3月までの課題と来年度に向けて	・3月までの課題と来年度に向けて

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月末までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

子どもたちが地域の方に見守られながら成長し、自然と挨拶が交わされ関わりが持てるような関係性を作る。また、様々な方との関わりから仕事や地域の活動等を子どもたちが知るきっかけとする。

地域に開かれた保育園となり子育てについての情報を保育園より発信し、交流の場を提供できるようにする。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：150名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：松原団地西口公園にて　　集客目標：80名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設との交流
異年齢交流	小中学校との交流会、地域の保育園との交流
地域拠点活動	音楽演奏会、地域清掃、勤労感謝の日交流、ちきんえっぐ、子育て相談、園庭開放
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

スタッフが積極的に小学校の授業を見に行き、小学校の様子をより深く理解し、逆算した保育に取り組む。また、就学に向けて年間を通して連携を進めていく。幼保小連携協議会では情報交換だけでなく架け橋プログラムに沿った園での活動を部会で共有し、子どもにとって連続した関わりになるようにする。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	新田小学校 1年生	2名予定	授業参観（新田小教室）	スタッフ間交流

6月頃	栄小学校 1年生	2名予定	授業参観（栄小教室）	スタッフ間交流
9月頃	松原小学校 1年生	2名予定	授業参観（松原小教室）	スタッフ間交流
11月頃	栄小学校 ５年生	18名予定	交流会（栄小学校）	子ども間交流
2月頃	栄小学校 １年生	18名予定	交流会（栄小学校）	子ども間交流
年5回	幼保小連絡推進協議会	1名予定	情報交流会	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

・関係機関と密に連携しながら作成し、子どもと保護者の支援を行う。
・ケース会議や子どもの様子より、振り返りをしながら見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：７名予定）
・担任から見た児童の様子や出来事、他スタッフから見た子どもの様子を話し合い、多角的な見方で状
況を把握する。
・目標を決め、具体的な取り組みを個別の支援計画に記載する。
・検討した支援は速やかに実践し、変化が見られない場合は再検討を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

・進級引継ぎは書面や会議を通して行う。
・各小学校、草加市子育て支援センター、教育支援室との連携を取り引継ぎを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細

園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：50名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：5名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：20名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：松原団地西口公園にて開催　集客目標：30名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年７月３１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１０時００分
自己評価終了予定時刻：１６時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任保育士、保育士、園事務

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.３カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子育て支援を充実させ、園を様々な形で利用して下さる方が増えるようにする。 ・保育士が研修で学んだ事を自園の研修に生かし学び合う関係作りと保育の質向上のための共有の場を作っていく。
	振り返り	・一時預かりの利用者や希望者が増え、地域の方に園での取り組みが理解されつつある。次年度はより地域に開かれた拠点となるよう園からの情報を積極的に発信していく。 ・キャリアアップ研修への参加により学びの機会は多く得られた。園内研修の充実を図ると共に、保育の質の向上のため、自分の意見や考えを表現する機会を大切にしていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・地域の保育が充実するために率先して関わり、自園の取り組みに自信をもって語れる集団作りをする。 ・保育士自身が自信を持って保育を行い、より良い意見を交わしチーム保育が確立する。
	重点施策	・地域の保育園へ自園の取り組みを発信していき、幼保小に貢献していく。 ・保育園全体がどんな事にもPDCAサイクルを行い、自信をもって保育士が自園の保育を様々な場で語れるようにする。
2026年度	目指す姿	・地域に根付き、様々な方に保育内容や取り組みが理解されると共に、地域の保育に貢献していく。 ・保育について語り合い、保育士同士が刺激し合える関係が作られ、保育の質の向上に繋げる。
	重点施策	・保育所保育指針を読み解き実践している事をより多くの保育園でも行われるように自園から発信していく。また、その実践より選ばれる園を継続していく。 ・リーダーを中心に子どもたちに必要な体験活動や食育活動が計画され実行し振り返るまでを確立する。
2027年度	目指す姿	・日課の深い理解に基づき、子どもたちに必要な体験や機会が日々アップデートされながらも定着し、子どもの興味関心や発達に合わせた環境の構成を繰り返していく。
	重点施策	・自園の取り組みについてスタッフ同士が学びあい、高めあい、質の高い保育を展開していく。 ・常に子どもの「今」に目を向け、丁寧な保育に拘る。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：草加松原どろんこ保育園 施設長　中川　希

２０２５年度　越谷レイクタウンどろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

0歳児から5歳児の繋がりを大切にし、自分らしくいられる大きなお家として助け合い、支え合いながら思いやりあふれる園を目指し、スタッフ一人ひとりが日々子どもたちに真摯に向き合い子どもも保護者もスタッフも園に関わるすべての人が安心して過ごせる越谷レイクタウンどろんこ保育園を目指します。

1. 日々の保育や日課を通し、基本的な活動や発達・生活習慣を身に着け安心して心地よく過ごす。
2. 見て聞いて感じて体験して、様々な経験を積み重ねながら学びに向かう力の基礎や土台を育くみ園で過ごすすべての仲間と共に過ごす。
3. スタッフ自身の人間力を高め、子どもの発達や経験・それに伴う過程を大事に関わっていく。
4. 食の循環・命の尊さ、労働の意味を経験から伝え学びに繋げる。
5. 保護者との相互理解を深め、スタッフ一人ひとりが自律した考えを持ちより良い園運営を目指し日々変化を楽しむ。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ理念また、保育の専門性に特化し自分なりの思いを持ちながら、それをアウトプットすることでより深めていく。
	実践予定内容	常に学び、専門職としての意識や思いをしっかり持てるよう研修や他園との学びを深める。また保育を語れる集団であるよう意識を高める。
2	計画・ねらい	自らの気づき、子どもの育ちや心の動きを読み取り、保育力を高める。
	実践予定内容	発達に応じた環境・関りを日々試行錯誤し、失敗や変化を恐れずに様々な事に挑戦し変化し続けることを一緒に楽しむ。
3	計画・ねらい	養護的な環境に特化し、安心して過ごせる環境を考え、自立に向けた丁寧な養護的関わりを多くし丁寧な保育の質の向上に努める。
	実践予定内容	スタッフ同士での意見交換や発達の共有を行い、整理整頓された環境の中で、応答的または養護面で大事していくことをスタッフ自身が学び感じて丁寧な保育に繋げる。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	家庭での様子を把握し、園での様子や育ちを共有していくことで成長を共に喜び合い、信頼関係を築く
	実践予定内容	報告連絡相談をしっかり行う。情報共有進捗状況の確認を行う。 3分間お迎え対応の伝達内容の質の向上に向け、スタッフ育成に努める。
2	計画・ねらい	専門性を生かした支援とともに的確で相談をしやすいスタッフの雰囲気づくり に努め、保護者とのコミュニケーションを大切にする。
	実践予定内容	行事や保護者懇談会都等でのわかりやすく育ちの説明や共有を行い、子どもたちの成長を共に悩み、喜び関係性を深めていく。
3	計画・ねらい	保護者の思いに寄り添い共に園や子育て意見交換を大事にすることで不安

		や悩みに応じ、保護者への感謝を忘れずに関わっていく。
	実践予定内容	保護者の変化を読み取り、声掛けをして子育てなどでの不安や悩みを和らげていく。また一人ひとり思いやり誠実に対応する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域と密な関係性をもち、互いに協力し合える開けた場としての機能に努める。
	実践予定内容	越谷レイクタウン周辺の地域を活かし、青空保育・子育てサロン・園庭開放等で地域交流を深め地域を盛り上げより関係性を深めていく。
2	計画・ねらい	子育てに悩みや不安を抱えている地域の方にも、開かれた園となるように機会をつくる。
	実践予定内容	育てサロンの声掛けや、団地内・園外先での細やかな配慮や挨拶を通し交流を大切にする。
3	計画・ねらい	地域の方との連携や交流を大事にし、ともに支え合う園となるように機会を作る。
	実践予定内容	近所や地域の方の特技や職を活かし、園での交流できる機会を増やして関り親しみを持てるようにする

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自分自身の保育観や子どもたちの様子を語り合い、学びに繋げていく。
	実践予定内容	気づきや発見、子どもたちの最大限の成長を促すことができるよう伝えあったり意見交換ができたりするスタッフを育成する。
2	計画・ねらい	視野を広げ、報告連絡相談が密に行われ、風通しの良い同僚性や雰囲気を作る。
	実践予定内容	話し合いをする機会や時間を定期的に作り、コミュニケーションをとっていく。様々な視点から意見を交換し理解を深められるまで伝え、学びの場を作る。
3	計画・ねらい	一人ひとりが自律し、チーム力を高めながら楽しみ落ち着いた環境が作れる職場にしていく。
	実践予定内容	互いを認め合い、一人ひとりが自分らしく保育を楽しみながら、自分で考え行動し気づけるスタッフの主体性を育成する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑活動の充実と一つでも多くの経験と学びに繋げる。
	実践予定内容	苦手な事にどう立ち向かい挑戦するのか、葛藤する気持ちを大事にしながらコントロールする力を身に付け、自分にできることを見つけ、どんな形でも関わっていく。
2	計画・ねらい	本物の環境や様々な経験ができる環境を整えていく。
	実践予定内容	魚の解体や食育、また土作りに特化しながら食の循環を実体験できるようにする。また、継続して保育を楽しめるように味噌づくりや梅干しづくり等発酵食品や知恵を知る機会となる活動を取り入れる。

〈6〉認め合える環境の場を創る

1	計画・ねらい	混ざり、認め合い、助け合える場を創る。
	実践予定内容	日々の保育の関わりを全スタッフで考える。また、様々な視点からより良い育ちを導いていく。インクルーシブの本当の関わりをスタッフ一人ひとりが考える。
2	計画・ねらい	学び合える場や環境構成を整える。
	実践予定内容	月齢や発達に応じた環境構成を日々試行錯誤していく。発達や友だちとの関わりを踏まえた上の環境構成、玩具、ジーンの設定につて学び続ける。

〈7〉園に関わる全ての人が心地よく過ごせる園

1	計画・ねらい	整理整頓、常に整えられた心地よい園を創る。
	実践予定内容	担当役割を明確にし、整えられた環境をスタッフ一人ひとりが意識できるように努める。
2	計画・ねらい	すべての人が安心できる場をつくる。
	実践予定内容	応答的なかかわり、対話的保育について一人ひとりが考え、子どもも大人も自分の思いが伝わる場を創る。
3	計画・ねらい	自分事としてとらえ、丁寧に園生活を過ごせるようにする。
	実践予定内容	タイムマネジメントを行い、無駄のないゆとりある保育を目指す。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	14人	18人	19人	19人	19人	95人

〈2〉開所時間

7時００分～19時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
	事務	1人						
パートスタッフ	保育士	3人	補助	1人	用務	1人	嘱託医	2人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・当月の行動計画の成果発表 ・園内研修 ・次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	・食育計画策定 ・食育活動実施内容 ・喫食状況（残食の記録等）確認 ・検食簿指摘事項改善 ・配膳方法
事故防止委員会	月1回	・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画の振り返り及び省察 ・要支援児個別計画の見直し
フロア会議	随時	・保育内容の確認と情報共有 ・子どもの様子の報告共有　など
週会議	随時	・行事内容の確認と情報共有 ・子どもの様子の報告共有　など

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	・連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	・マネジメント、コンプライアンスなど ・各園／課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	・献立内容の改善、提案 ・給食提供マニュアル及び運用ルールの作成、見直し ・食育計画策定
保健会議	年4回	・感染症対策やガイドラインの作成、改善 ・保健計画策定
主任会議	月1回	・各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有、マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	・マネジメント、コンプライアンスなど ・各園／課題改善計画立案及び取り組み成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	環境・衛生に関する事項の計画、実施
安全対策係	けが防止・危機管理マニュアル参照・施設内の設備点検
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生責任者	衛生点検・給食提供マニュアル参照・提供食材の衛生管理
畑係	年間計画に基づく畑管理
生き物係	ヤギの管理・環境整備

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域との交流を図り、子どもの発達や保育の理解を深める
保護者・地域参加行事	保護者、地域と共同的に準備交流を深めながら行う。

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・子ども一人ひとりが安心して過ごし、応答的で丁寧な関わりを通し信頼関係を気づく ・養護的関わりを丁寧に行っていくことで豊かな心を育んでいく。
	下半期 0～1歳児	・様々な人と関わり応答的な関わりを重視することで心身ともに豊かな成長を促す。 ・身近な環境を活かし様々な経験を楽しむ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・身近なものに関わり興味関心や好奇心をもって関わる。 ・主体的に遊びじっくり遊びを楽しむ。
	下半期 2～5歳児	・主体的で対話的な関わりを意識し、深い学びにつなげていく。 ・気づき発見し探求心を深めることで、考える力を身に着けていく。
保育参加	4～3月	・希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	なし

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	楽しい雰囲気の中で様々な食材に興味関心を持てるように素材の味を活かし一人ひとりが満足できる食事の時間を創る
	実践予定内容	盛り付けや見た目、提供の仕方を工夫し、自ら食べたくなる雰囲気を作り関わっていく。食事のタイミングや活動量を考え空腹を感じ食べる楽しさを育てる。
2	計画・ねらい	全スタッフが食事に携わり、食事の時間を大事にしながら発達段階・口腔発達 を共通理解し食事の仕方を身に着けていく。
	実践予定内容	家庭と保育園との連携を大切にしていく。育ちの共通理解を定期的に行っていく。
3	計画・ねらい	食の循環を意識し、無駄のない食の環境づくりを考える
	実践予定内容	食や食材の循環を感じられるリアルな経験を大切にしていく。余り物や残食から作り出せるコンポストや再生野菜などのアイディアを引き出していく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導・トイレトレーニング
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 1月頃･･･ウイルス性胃腸炎

	12・1月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／事務室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ２名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ２名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／6･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたち自らが選択し主体的に遊びこめる整理整頓された見通しのある環境を整える。
	実践予定内容	安心安全で心地よい環境を日々試行錯誤しながら環境設定を丁寧に行っていく。見通しをもった導入や準備が整えられた環境を考える。
2	計画・ねらい	四季を身近に感じながら様々事象を楽しみ経験できる場を作る。
	実践予定内容	大人も様々な経験をし、10よりも100経験や遊びの視野やアイディアを増やし遊びを楽しんでいく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	園庭テーブル2台	園庭	毎日
2	室内テーブル2台	室内	毎日
3	絵本棚	室内	毎日
4	園庭外遊び用玩具棚	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災難に備える。マニュアルの徹底。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト年４回、設備点検年４回を行い、事故防止の徹底を図る。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント、ヒヤリハット報告の分析をする。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探る。
4	実践予定内容	年２回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。 また訓練は避難訓練確保、不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象とする。
5	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容に合った看板、貼紙などを掲示する。その際、園児・スタッフは室内で過ごす。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

積極的に受け入れ、保育士の仕事内容や子どもとの関わりを通して保育の楽しさや面白さを知れる機会を持ち、同じ保育士の仲間とし温かく受け入れ実習生に必要な指導に努め保育士への期待を高められる機会にしていく。

1	実践予定内容	子どもの育ちの理解を深め、子どもと向き合う楽しさを感じる。
2	実践予定内容	保育者の役割や重要性を知る
3	実践予定内容	思いやりを持て接し、安心して実習に取り組む。

７.スタッフ育成と研修計画

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル確認 ③ 今年度の目標 ④ 人権チェック・虐待防止研修	目標を持ち、向上心をもって自分自身と向き合う。虐待防止。
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 応答的対話的な保育	保育の見直しや自分自身の保育に向き合い専門性を高める。
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びについて	水辺の危険性の全スタッフで共有。
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② スタッフ考案	学び合い成長できる場の創出。
8月８日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達に適した環境設定	発達の学びを通し、子どもたちにとってより良い環境を整える。
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な給食について	給食での心地よい環境や食と向き合う環境についてスタッフと考える。
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② スタッフ考案 ③ 人権チェック・虐待防止研修	自分の思いを語れる場の創出。
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソードを語ろう	気づきや発見を楽しみ保育の面白さを感じる。

12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② スタッフ考案	学び合い、認め合える場の創出。
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 混ざる保育について考える	インクルーシブについて向き合いより良い保育を考える。
2月	18:00～21:00	① 策定会議1回目	来年度の目標設定
3月	9:00～18:00	① 策定会議2回目	来年度のマニュアル確認

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月末までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた憩いの場となる保育園であるために、子育て支援を行い地域の方にも寄り添いながら地域とともに子育てを楽しめる保育園となる。また、地域の方と深く関わり互いに支えあえるよう開放的な園となる

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：見田方遺跡公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問 中・高校生ボランティア
異年齢交流	保育参観　体験保育　小学校交流
地域拠点活動	保育体験・マルシェ・園庭開放
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

就学に期待を持ちスムーズな接続を実現するために定期的な小学校見学や交流会を計画的に行いスタッフ自身も教スタッフとの交流を行うことで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し就学に向けて必要な関わりの意識を高めていく

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	越谷市立明正小学校	20名予定	運動会見学	子ども間交流
8月頃	幼保小連絡協議会	1名予定	意見交換会	スタッフ交流
9月頃	越谷市立明正小学校	30名予定	校内・校庭見学	学校見学

12月頃	越谷市立大相模小学校5年生	19名予定	交流会	子ども間交流
1月頃	越谷市立大相模小学校	20名予定	校内・校庭見学	スタッフ子どもの交流
1月～2月頃	越谷市立明正・大相模・川柳小学校	2名予定	就学準備連絡会	スタッフ交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

一人ひとりの様子や発達段階を理解し、その子にとってより良い保育を模索しながら定期的な振り返りや意見交換を行いながら丁寧に支援方法を考えていく

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：３名予定）
園全体全スタッフで関わり、チームとして方向性やねらいを明確にしながら、要支援児自身が安心して成長できる関わりを定期的に共有し理解を深めていく

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

進学先や小学校、越谷市子育て支援センター、埼玉県越谷児童相談所、越谷市教育員会に必要に応じて相談する

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：５名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：５名
自然食堂…親子ランチ交流	各週（火）10:00～12:00　　集客目標：５名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	各週（水）10:00～12:00　　集客目標：５名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：見田方遺跡公園にて開催　集客目標：５名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年６月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１７時３０分
自己評価実施予定者：施設長・主任保育士・事務・調理

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	発達をとらえ、一人ひとりの育ちを共有しチームでの関わりを大事にして保育を楽しめるように、定期的な会議や話す機会を大事にしていった。
	振り返り	情報の伝達や共有が少し弱い部分があったため、さらに強化しながらも、丁寧に関わりや育ちの導きができるよう来年に活かしていけるようにしたい。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	一人ひとりの強みが十分に発揮され、自園だけでなく地域のも発信しながら誰からも親しみを持てる園にする。
	重点施策	園に関わる全ての人が思いやりあふれる人間力高い豊かな人となり、誰からも愛され親しみを持てる園を創り、子どもや保護者だけでなく地域の方、卒園児、身近な人が気軽に立ち寄り人が集う場を創る。
2026年度	目指す姿	スタッフ一人ひとりが自律し、向上心を持ち柔軟に物事をとらえながら子どもを真ん中に置き、日々保育を楽しみ人間力を高め成長できる園を作る。

	重点施策	自分自信の目標を明確にして実行する。学びや経験をアウトプットし相手に伝える力を身に着ける。自分で考え行動できる人間性豊かな人材を育成する。
2027年度	目指す姿	インクルーシブの意味を一人ひとり理解し、壁のない混ざりあう保育の学びを深めていく。
	重点施策	一人ひとりを認め合い、理解し合える。そして子どもにとって本当に必要な関わりを全員で考え関わり合える保育について語れる

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：越谷レイクタウンどろんこ保育園 施設長　榊原　夏美

２０２５年度　駒沢どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

保育理念　「にんげん力。育てます。」
・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動してみる思考”を育みます。

保育目標　センス・オブ・ワンダー
・自然の中に沢山足を運び、自然の中での発展から、生死などの環境認識を。

人対人コミュニケーション
・「物おじせず誰とでも目を見て話が出来る子ども」を育成する。

６つの力
・ケガをしない強い力を育てる
（裸足保育・木登り・座禅・雑巾がけ・リズム体操・長距離散歩）
・自分でできることを自分でする
（畑仕事・米の自給自足・縁側給食・食事盛り付け）
・すべての人とかかわりから判断・行動を身に着ける
（異年齢活動・インクルーシブ・商店街ツアー・銭湯でお風呂）
・活動を選択し、自分で考えて行動する
（　火・水・土　　焚き火保育）
・生死を知る
（小動物や水生動物世話・生死教育・食の循環）
・感じた事・考えたことを表現する
（言葉で表現・かく・つくる・就学前教育）

園目標　【ともに学び　ともに歩み　個々が輝ける場所に】

併設園の理念【子どもが自分で考えて生活する家　　身近な大人がすべての子を育てる家】と
どろんこ会の理念をもとに園の目標を定めた。

駒沢どろんこ保育園は発達支援つむぎ 駒沢ルームと併設園として、日々の活動、行事の参加、人的環境、施設、設備の利用をなど、全面的に共有し日々併設園としての研鑽を重ねている。
保育園、つむぎルームの両スタッフの専門性を互いに学びあうことで、知識と実践力をさらに深めていくことで、すべての子どもが快適かつ、充実した生活を送れるようにする。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	すべての子どもが自由に行きかい、自身の意思によって遊びや道具を選択できる、人的、物的環境を作る
	実践予定内容	・子どもの興味や関心に応じた環境を構築できるよう、子どもの心身の発達の理解を深める

		・発達や興味、関心に合わせた、玩具や道具が提供できるように、定期的に環境構成を見直す ・スタッフ間での意見交換、情報共有を積極的に行い、子どもたちの成長や要求に応じた環境作りをおこなう ・子どもたちと話し合いの時間を持ち、子ども自身が考え、判断する力を養っていく
2	計画・ねらい	様々な体験を通し、生活力、選択力、思考力を養っていく
	実践予定内容	・日課の実践（リズム体操、雑巾がけ、座禅） ・畑活動、生き物の世話 ・意思表示、意見交換の場として、朝の会、サークルタイムを実施 ・伝承遊びの実践 ・針仕事、焚き火の経験を通して危険な物への取り組み ・木工制作を通して、指先の巧緻性と道具の使い方を学ぶ
3	計画・ねらい	子どもの成長、興味、関心の応じた保育計画とアセスメント
	実践予定内容	・子どもの様子を観察、記録し、振り返り、保育計画につなげていく ・園内研修にて保育指針、１０の姿に関して学びの場を持つ ・O(観察) O(方向づけ) D(意思決定) A(行動)の実践

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	信頼関係を築き相互理解を深めていく
	実践予定内容	・登園時、降園時の丁寧な対応（３分対応）ができるようにしていく ・保護者と保育者が一体となって子ども理解を深め、対話することで、安心して日々園生活をおくれるようにする
2	計画・ねらい	保育内容、活動の可視化により、開かれた園づくり
	実践予定内容	・連絡帳、タイムラインにより、日々の保育内容を伝える ・ドキュメンテーションやポートフォリオなどを通して、保育内容、行事までの取り組みや経緯を伝えていく ・保育内容や園行事を事前に伝えることで、親子間での話題や会話に反映できるようにする
3	計画・ねらい	個人面談を適宜実施し、子育不安の低減に努める
	実践予定内容	・園生活のみならず、家庭においての子育て、しつけ、遊びに関して、適宜、面談の場を設ける

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育、ちきんえっぐの実施にて、保育園での保育や活動内容について知っていただく
	実践予定内容	・ブログ、SNSなどにより、ちきんえっぐ便りなどを通し、活動内容を広く知らせ、子育て支援活動を実践していく ・園入り口などに行事予定を掲示し、参加者を増やしていく ・ちきんえっぐ　毎週水曜日実施 ・毎月第一木曜日に青空保育実施　2丁目緑地にて

2	計画・ねらい	子育て相談の実施により、地域の子育て支援の促進に努める
	実践予定内容	・保育所体験、子育て相談などの活動内容を地域に発信していく ・子育て相談随時実施
3	計画・ねらい	どろんこ祭り、保育所体験などを通して、園の行事や保育参加の推進
	実践予定内容	・町内会の掲示などにより広く園行事を知らせていく ・ブログ、SNSなどにより保育活動を発信していく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	個々のスタッフの特性や方向性に合わせ、育成計画を作成する
	実践予定内容	・各スタッフとの面談を実施し、今後の方向性と希望を聞き取り、育成計画を作成、実践に向けて援助していく ・個々の経験や方向性に応じて、MBOを作成、実践に向けて援助していく
2	計画・ねらい	園内研修の実践と充実
	実践予定内容	・園内研修の年間計画を立て、実施していく ・園会議で研修報告や学んだことを、共有することで園全体、各スタッフの知識とスキルの向上につなげていく ・実践した保育を振り返り、予想して、計画に反映させていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	残渣を前年度の６０％を目標とし、減少させていく
	実践予定内容	・時間、内容ともに充実した戸外活動を実践し運動量を増やし、食の増進に努める ・畑活動、食育活動を活性化し、収穫した野菜を調理、食することで、食に関心を高める ・調理法や盛り付けを工夫し、食が進むようにしていく ・野菜は皮付きのまま調理、提供していくことで廃棄部分を減らす
2	計画・ねらい	食の循環、環境問題について理解を深める
	実践予定内容	・畑、収穫、クッキングを継続した活動として行い、食の循環を実感できるようにしていく ・ニュースや絵本、紙芝居などの教材を利用して、身近な問題として認識できる機会を設けていく
3	計画・ねらい	コンポストを運用し、畑の肥料づくりを行う
	実践予定内容	・残渣を利用することで、肥料づくりを行い、野菜の栽培に利用して行く ・残菜がどのように肥料に変化し、野菜の生育に役立つかを実践し、理解を深める

〈6〉体験から学べる環境作り

1	計画・ねらい	様々な体験を積むことにより、探求心の芽をそだてる
	実践予定内容	・季節に応じた自然体験により、動植物に関心を高める ・火、水、土に触れることで五感を活性化させるとともに、危険認知能力を身に着けていく

		・焚き火体験、針仕事 ・伝承遊び、
2	計画・ねらい	継続した畑活動
	実践予定内容	・野菜の栽培、収穫、販売 ・コンポストの運用 ・収穫物を利用したクッキング
3	計画・ねらい	子どもの発達や興味に即した保育計画、実践、アセスメント
	実践予定内容	・子どもの姿を捉え、興味や関心に即した保育計画を立て実践していく ・実践した保育を振り返ることから、予測をし、次の計画へ反映させていく ・子ども同士での話し合いを活性化し、意見やアイディアを保育計画に反映させていく

〈7〉併設園としてのさらなる深化

1	計画・ねらい	【駒沢としてのインクルーシブのテーマの確定、実践】 テーマ：一人ひとりの子どもを理解し、『駒沢』として全員で子育てを行っていく
	実践予定内容	・つむぎ児童の支援計画を共有により、子どもの目標を理解しながら保育にあたるようにする ・両スタッフ参加によるケース会議（月1回）により、気になる事例があった場合、必要に応じて両スタッフがケース会議への提案、実施を担う ・園会議にて、発達や保育に関しての研修を実施 ・行事担当者、係などを中心に、日々の様々な報連相を当たり前に行っていく
2	計画・ねらい	つむぎとの活動内容の発信
	実践予定内容	・入園説明会、保護者懇談会などを通して、つむぎとの取り組みや活動内容の発信の実施
3	計画・ねらい	園とつむぎとの知識やスキルの共有と向上
	実践予定内容	・園会議などの場を利用して学びの場を設け、発達や支援方法について知識やスキルの向上に努める

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	15人	18人	22人	22人	22人	108人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時30分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	20 人	看護師	1人	栄養士	4人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	調理	0人	事務	1人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	つむぎとの情報共有と振り返り・園内研修・事務連絡
給食運営会議	月1回	食育計画の進捗状況、アレルギー対応、喫食状況確認
事故防止委員会	月1回	自園、他園で起きた事故をもとに、再発防止策検討
ケース会議	月1回	個別対応を要する子の情報共有、対応の検討
リーダー会議	月1回	園とのつむぎの代表者により、保育・支援計画の確認 情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題討議、連絡、共通認識事項の確認
施設長勉強会	月1回	法人全体での課題討議・施設長のスキルアップ
食育会議	年4回	法人全体での課題討議・栄養士、施設長のスキルの向上
保健会議	年4回	衛生、感染症ガイドライン・取り組み報告・改善
主任会議	年４回	主任のスキル・マネージメントの向上
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士・園全体の保育スキルの向上

併設園会議	年2回	併設園での取り組みの共有とスキル・マネージメントの向上

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の安全管理や備品などの管理・衛生点検
安全対策係	ヒヤリハット・インシデント振り返り、ハザードマップの見直し、 事故防止委員会の運営
防火管理者	避難訓練の立案・実施・反省
食品衛生責任者	食材の衛生管理・在庫確認と管理・給食運営会議の運営
畑係	畑の管理・栽培計画の進捗確認
生き物係	飼育動物の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ・保護者と共同で、行事内容の計画と運営

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育士との信頼関係を築き、生理的欲求を満たし、安心安定した生活を送る ・遊び、食育、睡眠を中心として生活リズムを整えていく ・保育者に援助されながら、基本的な生活習慣の基礎を身につけていく
	下半期 0～1歳児	・身のまわりのことに興味をもち、保育者と一緒に取り組もうとする ・保育者を仲立ちとして、模倣遊びを楽しみ、友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ ・自分の思いや要求を、自分なりのしぐさや言葉を使って伝えようとする
幼児保育	上半期	・基本的生活習慣を身につけ、自主的に身の回りのことに取り組む

	3～5歳児	・友だちと協力し助け合うことで、遊びや生活を送ることが出来るようになる ・保育者や友だち、異年齢の子どもたちとの触れ合いを通して、人との関りやコミュニケーションを身につけていく 文字や数、社会事象や自然に、興味や関心を持つ
	下半期 2～5歳児	・基本的生活習慣を身につけ、自主的に身の回りのことに取り組む ・友だちと協力し助け合うことで、遊びや生活を送ることが出来るようになる ・保育者や友だち、異年齢の子どもたちとの触れ合いを通して、人との関りやコミュニケーション力を身につけていく 文字や数、社会事象や自然に、興味や関心を持つ
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	・子どもと大人がともにテーブルを囲み、楽しく食する環境作り
	実践予定内容	・食べたいときに、食べたい場所で、食べたい人と、食べたいだけ食べられるような環境づくりを促進していく ・バイキング形式の配膳の実施 ・子どもが食器を持って行き来しやすい、環境設定を構築する
2	計画・ねらい	魚などの解体を体験することで、命を頂くことの意味や尊さを知る
	実践予定内容	・生き物の解体を実体験することで、命を頂くことの意味や尊さ、感謝の気持ちをもてるようにしていく ・生き物の解体の実践に向けて、計画、準備していく
3	計画・ねらい	栽培・収穫した野菜をクッキングと継続した活動とすることで、食の循環と、食することの楽しさを実感する
	実践予定内容	・栽培、収穫計画を立て実施していく ・子どもたち自身が栽培、収穫することで、生育状況を知り、収穫することの楽しさを知る ・収穫物を使ってクッキング、食することで、食への興味を増長し残差の減少につなげていく

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（6月・11月）
歯科検診	年1回（６月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導、手洗い・うがい指導、性教育（5歳児のみ）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月頃…手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ、RSウイルス 12月～2月頃…インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･１名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２０名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員３名については３月３１日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在２０名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員３名については３月３１日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 心肺蘇生、AED操作の周知と講習、嘔吐処理の確認 SIDS防止、午睡チェック方の徹底

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　0歳児：毎月１回 １～５歳児：年２回／6･11月 歯科健診　年１回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	ハザードマップの作成、共有による危険の回避と怪我の低減
	実践予定内容	・ハザードマップの作成、状況に応じて随時、加筆、更新する ・危険個所をスタッフ間で共有し、具体的な安全対策を講じる ・事故防止委員会で情報共有
2	計画・ねらい	園内、園外危険個所をスタッフ間で共有し、子ども自身が選択し、安心して遊び込める環境作り
	実践予定内容	・園会議にて通年環境構成の研修を実施 ・スタッフ間で情報共有を行い、子どもの成長、興味、関心に応じた環境構成を行う ・園内、玩具、遊具の点検を日々行ない、危険個所はすぐ改善する
3	計画・ねらい	・清掃、整理、整頓、衛生面に配慮し快適に遊び込める環境整備
	実践予定内容	・感染予防のために、定期的に玩具、遊具、施設内消毒実施 ・日々の清掃の実施 ・室内の換気、湿度を一定に維持するために加湿

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	座卓テーブル	幼児保育室	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	災害対策	・防災計画の作成と届出 ・毎月一回の避難訓練、消火訓練の実施 ・災害管理マニュアル、災害フローチャートの整備、確認 ・災害用の備品の管理と点検
2	ケガ、事故防止対策	・ケガ、事故防止の為の危機管理マニュアルの設置と理解 ・SIDSの防止策を徹底周知と定期的にロールプレーを行う ・事故報告簿、インシデント・ヒヤリハット報告書の検証 ・投薬方法、アレルギー食の提供方法の徹底 ・保育士の上級救命救急資格取得、エピペン講習
3	防犯対策	・危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不信者侵入訓練の実施 ・カメラ付きインターホンでの防犯対策 ・送迎者登録カードによる園児の引き渡し
4	光化学スモッグ	・光化学スモッグの知識の習得 ・光化学スモッグ注意報発令メールの配信システムへの登録

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の人材育成を視野に入れ積極的に受け入れを行い、保育園での生活を通して、保育の楽しさや重要性を実感できる場として提供をしていく。

1	小学生の保育体験受け入れ	保育体験を通して、園児たちとの関りを通して、幼い子を慈しむ気持ちをはぐくみ、保育士の仕事に興味や関心を持てる場とする。
2	中、高生の職場体験受け入れ	保育士がどのように園児と関り、どのような業務をおこなっているかを、実体験することで、将来の職業選択肢の一つとなるようにする。
3	保育実習生の受け入れ	保育園での実習を通して、保育士の役割や関わり、保育園の運営について実感することで、保育士の職がいかに有益かつ、尊い業務であるかしてってもらい、職業選択につなげていけるようにする。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修・安全管理	・自己振り返り(通年) ・不適切関りについて認識を深め、虐待を防止する
5月９日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 熱中症予防・接遇	・熱中症についての症状や予防法を学び発症予防する ・ロールプレイイングにより、望まし接遇を学ぶ
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスク管理（動画視聴）	・水を介した活動で起こりえるリスクについて理解を深め、事故を防止する
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②夏の感染症予防 ③インクルーシブ研修	・夏特有の感染症について知識を深め、感染症予防、拡大の防止する
8月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校への接続（動画視聴）	・小学校教諭を招くなどして、小学校指導要領読み込み、理解を深め、【小1を知る】の理解につなげていく
9月５日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 防災・安全管理 ③ 見失い防止研修	・防災や安全管理について、スタッフ間での認識を合わせ、必要事項を共有する
10月3日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック・虐待防止研修	・不適切関りについて振り返り、改めて認識を深め、虐待を防止する
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②冬の感染症予防(動画視聴)	・冬特有の感染症に関して知識を深め、感染予防、拡大防止に努める
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進学進級に向けて	・次年度の事業・運営計画に向けて振り返り
1月９日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画振り返り	・円滑な進学進級に向けて、状況共有をする
2月13日	18:00～20:00	策定会議	・次年度の保育計画の準備
3月19日	18:00～20:00	キックオフミーティング	・次年度の保育計画、園の運営につ

			いて、スタッフ間で認識を深め、必要事項を共有する

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉発達支援つむぎ　駒沢ルームとの研修会

毎月の園会議での勉強会を軸として、適宜、各年齢の発達の理解を深め、個々の特性に対しての支援や援助の方法を学びあうことで、スタッフ全体の子ども理解やスキルの向上につなげていく。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣小学校、幼稚園、老人ホーム訪問などを通して、近隣の方との交流を深め、地域に根差した保育園づくりめざす。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：２００名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：2丁目緑地　　集客目標：１０名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人リハビリ施設（正和クラブ）訪問・交流
異年齢交流	近隣小学校との交流、小学生の保育体験、中学生、高校生の職場体験の受け入れ、近隣の高校、大学との交流
地域拠点活動	青空保育、ちきんえっぐ、保育体験
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

　小学校訪問や子ども間交流を通して、就学に向けての安心感と期待感を持てるようにする。
教スタッフ同士での交流、懇談により相互理解を深め、円滑な小学校接続が出来るようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月８日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
12月頃	等々力小学校	22名予定	学校見学	見学
１月頃	深沢小学校	22名予定	学校見学	見学
２月頃	東深沢小学校	22名予定	学校見学	見学
２月頃	等々力小学校、東深沢小学校、その他	３名程度	小学校引継ぎ	スタッフ間交流、引継ぎ業務

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

　要支援児在籍時は、個々の特性を捉え計画を立て、園、つむぎの全スタッフで情報、対応を共有することで、有益の支援を行えるようにしていく。
また、定期的に振り返ることで見直し、修正し、状況に即した支援を実践していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１０名予定）
日々の観察をもとに経過報告、対応策検討し、園、つむぎの全スタッフが共通認識のもと保育にあたるようにする。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

　クラス担任と新年度担任で年度末に引き継ぎし、継続した支援が行えるようにする。
就学児に関しては幼保連絡会、要支援の場合は養護教諭や発達支援担当者との引継ぎを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：２０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：１０名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：１０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	第３水曜日　10:00～12:00　　集客目標：１０名 第３金曜日　10:00～12:00　　集客目標：２０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：２丁目緑地にて開催　集客目標：２０名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

２０２３年１１月に実施済みにて今年度は受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１０月３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１５時００分
自己評価終了予定時刻：１８時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、各年齢リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	発達支援つむぎ 駒沢と共に歩み、併設園としての新たな取り組みと安定した運営
	振り返り	・4月当初より、登園時の受け入れを園、つむぎスタッフ双方で行い、午前の活動、昼食をともにするなど、全面的に活動を共にすることを実践することができた。 また、運動会、生活発表会をはじめとする行事に関しても、計画、準備と両スタッフで、話し合いを重ね取り組むことを実践してきた。 　年度の途中でスタッフの動きや情報共有の不足を感じたことがあったが、スタッフの意見を吸い上げたうえで、施設長やリーダー層で振り返りの場を設け軌道修正軌をおこなった。 ・次年度はお互いの知識やスキルを交換することで、さらなる保育の質と、支援の向上していくことで合意している。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	併設園駒沢としてのスタイルの確立
	重点施策	・安定したインクルーシブ保育の提供が出来る、環境作りと人材育成 ・地域との交流も推進

2026年度	目指す姿	併設園としての取り組みを外部に発信
	重点施策	・併設園として積み上げてきた取り組み内容やスキルを、法人内や外部に発信していく ・見学者や保育参加希望者の受け入れ
2027年度	目指す姿	併設園としてのモデル園としての確立
	重点施策	・園、つむぎルームともに併設園としての役割を熟知し、日々、研鑽を重ねることで、ゆるぎないものとしていく

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：駒沢どろんこ保育園 施設長　髙井めぐみ

2025年度　メリー★ポピンズ 清瀬ルーム保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

・子どもの「生きる力を育む」ために幼児期に繋がる育ちの連続性を見通し、乳児期に必要な活動を日課として計画的に実施する。その際、毎日の時間を大切に、1分1秒を無駄にせず人格形成を質高く確実に丁寧に過ごすことを心がける。
・基本活動を全スタッフが深く理解したうえで、本物の体験と労働を大人と子どもが一緒に行う。
・畑仕事、堆肥づくりを年間の農業計画に基づき大人と一緒に確実に丁寧に行い、食育活動に繋げていくことで食の循環を知る。また、移動保育に行った先でヤギ小屋の掃除をさせてもらうなど乳児でもできる生き物の世話をする。
・発達の違いを見極めながら環境構成を工夫し、大人が適切な距離を保ち援助することで０歳児～2歳児が混ざり合って生活することが出来る。それぞれの年齢の子どもが自我の拡大を保障されながら乳児期に必要な生きる力を獲得する。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	・保育の質の向上に繋げていくため、ポートフォリオやドキュメンテーション作りを継続し、保育の可視化に努める。
	実践予定内容	・園会議でお互いのポートフォリオやドキュメンテーションを見せ合い、昨年度より更に内容の充実を目指す。
2	計画・ねらい	・畑活動、堆肥づくりや食育活動を通して食材や食の循環を知り、環境への意識を育む。
	実践予定内容	・食の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥づくりを大人と一緒に行う。出来た堆肥で野菜を育て【育てる→収穫する→食べる→育てる】を毎日の日課で体験する。 ・近隣園で大型の魚の解体などを見て野菜以外の命の教育を乳児なりの理解ができるような形で保育に取り入れ、大人は命を頂く活動として鶏を絞めて食す体験を近隣園で経験する。
3	計画・ねらい	・幼児期への接続を見据え、近隣園との交流を深める
	実践予定内容	・移動保育や近隣園への散歩で定期的に幼児と交流する機会を作り、スムーズな接続を目指す。 ・夏休みや冬休みなどに、近隣園の卒園児にボランティアを募り、小学生との交流を図る。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・保護者との信頼関係の構築のため、日々真摯に丁寧に誠意のある対応を心がけ、子どもの育ちを共有していくようにする。
	実践予定内容	・一人ひとりの保護者が【現在】何を保育園に求めているのかを知るため、3分間対応を丁寧にする中で相談しやすい関係づくりに努める。また、保護者の様子を観察し随時面談の機会を用意する。
2	計画・ねらい	・待った気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕掛けづくり

	実践予定内容	・ポートフォリオで個人の成長を毎月更新しお迎えの時に見てもらったり、ドキュメンテーションの定期的な掲示をご覧頂いたりする事により、待たされたと思わせない仕掛けづくりの中で、園の方針への理解を深めてもらう。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	・道行く人に畑活動に興味を持ってフェンス越しに覗いてもらったり、声をかけていただいたりして園に親しみを持ち、その後の園訪問に繋げていく。
	実践予定内容	・入園申請時期より前のどろんこ祭りや運動会などの行事に気軽に訪問していただけるように案内し、園見学や保育所体験に繋げていく。
2	計画・ねらい	・地域活動事業の開催や青空保育の工夫により地域住民に園の存在を知ってもらい交流の機会を持つ。
	実践予定内容	・地域活動事業や子育て支援のポスターを人通りのある園のフェンスに見やすいように掲示する。 ・近隣施設や連携施設を訪問し、チラシを配布する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・保育の質を高めるためドキュメンテーションに取り組み、保育内容の可視化を目指す。
	実践予定内容	・ドキュメンテーションの作成に取り組む意義についての研修を行う。作成についてはクラスごとにスタッフの持ち回りで作成することとし、会議で発表、振り返りを重ね内容を深めていく。
2	計画・ねらい	・保育のプロとして本物の実力をつけるため園会議でワークに取り組む。
	実践予定内容	・園会議にて計画的にワークに取り組み、コミュニケーション力を鍛え、保育士としての土台固めをする。
3	計画・ねらい	・相手の気持ちに寄り添った保護者対応について学び合う
	実践予定内容	・園会議にて相手の気持ちに寄り添った丁寧な保護者対応のロールプレイをする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	・畑活動、堆肥づくりや食育活動を通して食材や食の循環を知り、環境への意識を育む。
	実践予定内容	・食の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥作りを大人と一緒に行う。作った堆肥で野菜を育て【育てる→収穫する→食べる→育てる】を毎日の日課で体験する。 ・近隣園で大型の魚の解体などを見て野菜以外の命の教育を乳児なりの理解ができるような形で保育に取り入れ、大人は命を頂く活動として鶏を絞めて食す体験を近隣園で経験する。
2	計画・ねらい	・自分たちの出来るところから環境負荷を削減するため、給食残渣を前年より減らしていく。

	実践予定内容	・バイキング給食を通して、子どもたちと食べきれる量を知っていき、残渣を減らしていく。調理では引き続き皮付き調理を実施する。残渣測定結果は全スタッフと共有し、園全体の課題とする。

〈6〉保育の可視化を目指す

1	計画・ねらい	・ポートフォリオやドキュメンテーションを用いて自園の保育の可視化を目指す。
	実践予定内容	・ポートフォリオで個人の成長を毎月更新しお迎えの時に見てもらったり、ドキュメンテーションの定期的な掲示をご覧頂いたりする事により、待たされたと思わせない仕掛けづくりの中で、園の方針への理解を深めてもらう。
2	計画・ねらい	・毎日の保護者対応ではその日の子どもの様子が手に取るようにわかるようなエピソードを添える。
	実践予定内容	・園会議の中で定期的に保護者対応のロールプレイを行い、役割を交代しながら相手の立場に立って保護者対応が出来るように学びを重ねる。
3	計画・ねらい	・毎日の連絡帳はその日の子どもの様子が想像できるようなエピソードを保護者が読みやすい文章で記入する。
	実践予定内容	・園会議や昼礼の中でスタッフがお互いの連絡帳を読み合って添削する機会を作り、文章表現に磨きをかける。

〈7〉地域に開かれた園となる

1	計画・ねらい	・青空保育は地域の親子の時間に合わせて公園に出かけていき、地域の親子に保育園の楽しさを知ってもらう。
	実践予定内容	・地域の親子の時間に合わせて親子がいそうな時間に施設長、主任、子育て支援の担当者が出かけていく。紙芝居や手遊びなどで楽しい時間を提供し保育園を知ってもらい、園への来園を促す。
2	計画・ねらい	・地域活動事業の開催ではチラシ配布の強化と園のフェンス掲示の工夫をして集客に努める。
	実践予定内容	・フェンス際の畑の充実を図ることでフェンス越しに園を気軽に覗いてもらえるようにし、ポスターを目にとまりやすい場所に掲示する。
3	計画・ねらい	・園庭で畑の野菜を使ってクッキングしたり、子どもたちが生き生きと遊ぶ様子を見てもらったりし、【見える保育、見せる保育】を心がけ、気軽に園に立ち寄ってもらえるようにする。
	実践予定内容	・畑の野菜でクッキングする様子や園庭で生き生きと遊ぶ子どもの様子をフェンス越しに見てもらい、気軽に立ち寄れる雰囲気を作っていく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
６人	15人	18人	0人	0人	0人	39人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	12人	栄養士	１人	調理	１人		
パートスタッフ	保育士	３人	看護師	1人	事務	１人	嘱託医	１人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修
給食運営会議	月1回	食育計画振り返り、献立振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ 前月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り、次月計画の見直し
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討

〈２〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	事務連絡及び運営Visionとの接続

施設長勉強会	月1回	マネジメント、コンプライアンス研修 課題改善計画の共有と取り組み発表
食育会議	年4回	食育活動の共有、マニュアルの確認、献立の提案
保健会議	年4回	感染症対策、保健衛生対策の課題への取り組み共有
主任会議	年4回	施設長育成マネジメント研修、 課題改善のアクションプランの進捗確認
子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げるための研修、 課題改善計画の共有と取り組み発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及びスタッフの健康保持のために、環境の維持向上に努める
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と保持
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通した食育計画案の作成と実施。畑の管理
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営とどろんこサポーターズとの連携

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る ・身の回りの環境に主体的に関わる中で、一人ひとりの子どもの発達や興味関心に合わせた体験活動を充分に行う
	下半期 0～1歳児	・生活の中での遊びを通して見通しやイメージを持つ。 ・身近な人と関わる心地良さを知り、感じたことや考えたことを少し

		ずつ言葉で表現し、相手にも思いがあることに気づく
幼児保育	上半期 3～5歳児	・該当なし
	下半期 2～5歳児	・該当なし
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い 「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	・該当なし

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	規則正しい生活を送ることで、健康な心と身体を育む
	実践予定内容	健康な心と身体を育むために、体を使う活動を十分に行い、お腹を空かせて食欲を十分にかきたてる。
2	計画・ねらい	日課の畑仕事で育てた野菜を収穫し、採れたての野菜の味や加工した食材の味を体験する。
	実践予定内容	野菜を育て収穫することで野菜に興味を持ち、育てた野菜を調理するところを見たり、食べたりすることで野菜を身近に感じる。
3	計画・ねらい	好きな場所で、好きな人と一緒に食べる。
	実践予定内容	食べる場所、人、時間は自分で選択できるようにし、スタッフも子どもと一緒に食べる。またバイキング給食では、食べられる量を配膳の大人と相談しながら盛り付ける。

〈４〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、鼻かみ指導
流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月頃･･･手足口病が発生しやすいので発生時は玩具などの消毒を実施 10月頃･･･胃腸炎が発生しやすいので下痢の児が多いときは 次亜塩素酸での消毒を行う
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･該当なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在17名中、16名が研修受講済み 未受講のスタッフ１名については3月17日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在17名が研修受講済み
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。保護者・スタッフへ流行感染症の伝達、注意喚起。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･11月（0歳児のみ年12回実施） 歯科健診　年１回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	・室内における子どもの育ち、興味関心に合わせて静と動のエリアを分けた子どもに分かりやすい環境を整えていく。
	実践予定内容	・クラス会議などで子どもの姿の共有を行い、【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成を話し合い、見直しを行っていく。
2	計画・ねらい	・園庭における子どもの育ち、興味関心に合わせて時にはサーキット遊びなど変化のある環境構成を考えていく。
	実践予定内容	・クラス会議などで子どもの姿の共有を行い、【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成を話し合い、見直しを行っていく。 ・土遊びが十分にできる環境を用意して土の中の細菌類に触れて免疫を高める。 ・実のなる樹木を育て、成長の過程と収穫の喜びを体験する。

〈７〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	保育室	毎日
2	ミニテーブル	保育室	毎日
3	絵本棚	保育室	毎日
4	制作用品収納棚	保育室	毎日
5	絵本棚	ちきんえっぐ	毎日
6	すのこベンチ	玄関	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎月15日に行う。また法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時の緊急連絡を使用し、発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。
2	怪我・事故防止	事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、怪我・事故防止に最善を尽くす。 インシデント・ヒヤリハットの分析を行い事故の発生を未然に防ぐ。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施する。また訓練は避難経路確保、不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象とする。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握する。光化学スモッグ注意報の発令や自治体から連絡があった場合は内容にあった看板・貼紙等を掲示する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・中高生の保育園体験などを積極的に受け入れ、異世代交流の機会を作る
・大学・専門学校の依頼による保育実習の積極的受け入れ、保育の仕事の素晴らしさを伝える。

1	実践予定内容	保育士養成校からの実習生の受け入れ
2	実践予定内容	近隣中学校からの職場体験の受け入れ
3	実践予定内容	保育ボランティアの受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園外保育のリスクマネジメント ③虐待防止研修	散歩時の人数確認等の基本事項を、ロールプレイを通して確認する
5月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子どもの人権チェック ③ドキュメンテーション研修	ドキュメンテーションについて学び、子ども理解に繋げていく

6月20日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水遊びのリスクマネジメント ③水遊びの時の室内環境について	水遊びマニュアルの確認、ロールプレイを通して学ぶ。
7月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保育のプロになるワーク1	ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
8月22日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園外保育のリスクマネジメント	ロールプレイを通して散歩時の人数確認等、基本事項の確認
9月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション事例研修 ③保育のプロになるワーク2	スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研修を行い、子ども理解を深める。ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
10月17日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子どもの人権チェック ③ドキュメンテーション事例研修 ④保育のプロになるワーク3	スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研修を行い、子ども理解を深める。ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
11月21日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション事例研修 ③保育のプロになるワーク4	スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研修を行い、子ども理解を深める。ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
12月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション事例研修 ③保育のプロになるワーク5	スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研修を行い、子ども理解を深める。ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
1月23日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度の振り返り	今年度を振り返り、アクションプランを立てる
2月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度事業計画発表	事業計画を理解し、次年度の目標を決定する
3月1日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度行事計画策定	プロポーザルを基に子どもたちに経験させたい行事を決定する

※全スタッフが園長大学・保育士大学を視聴し、それぞれが選び取ったコンテンツを紹介しあう場を設ける。

エリア研修予算内訳（4園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		例）●園で按分した自園負担額
未定	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
合計	0円		0円	0円

※園長大学、保育士大学の研修をもとに、清瀬エリアで学びを深める

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉中堅スタッフ育成計画

・目標に向かうための具体的な取り組みを決定し、研修計画を立て、外部研修、系列園でのOJT研修、他施設見学等積極的に組み入れる。
・保育園で課題になっている事柄を園会議で取り上げ、ワークを用いな がら、職員が自ら答えを見出し子どもたちにとって何が必要かを考え、実践を積み重ねる機会を組み入れる。

８.地域交流計画

〈Ｉ〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことで園の存在を周知する事が出来、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようになっていく。
また、園庭解放や子育て支援事業を充実し、地域の子育て支援に貢献していく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月Ｉ回　　公園名：ころぽっくる広場にて
商店街ツアー	週Ｉ回
世代間交流	老人ホームの訪問　月２回
異年齢交流	地域の小中学生との交流
地域拠点活動	子育て支援「ちきんえっぐ」運営
銭湯でお風呂の日	該当なし

９.小学校との連携の計画

〈Ｉ〉今年度方針・テーマ

保育所の子どもと小学校児童との交流を図る（職場体験の受け入れ等）

〈２〉具体的な連携計画

年2回の保幼小連携会議に参加する予定。

１０.要支援児計画

〈Ｉ〉個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて年に2回以上計画を立てる。
月Ｉ回のケース会議で振り返りとスタッフ間共有を行い、見直していく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：５名予定）
個別支援計画の振り返りと次月計画の確認
スタッフ間で計画と支援方法の共有
清瀬市発達支援「とことこ」の巡回指導を年2回受け、カンファレンスを行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

3歳児から進級していく施設（保育園・幼稚園・子ども園）等との連携、保幼小連携会議にて小学1年生から逆算した子どもの姿の引継ぎを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（木）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月１回　１5:00～　公園名：ころぽっくる広場にて開催

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

２０２３年度（2023年12月25日に学研データサービスにて受審済）

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年６月２日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１６時００分
自己評価実施予定者： 山田千恵、成田優月、相澤月菜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

Ⅰ３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・自園の乳児保育をポートフォリオやドキュメンテーションを用いて可視化し、スタッフ一人ひとりが子どもの心の育ちを自分の言葉で語れるようになる。 ・地域活動事業の開催や青空保育などの工夫により、地域住民に園の存在を知ってもらい交流を持つ。
	振り返り	・ポートフォリオは昨年よりも内容の充実が図れたと思う。ドキュメンテーションはファイル形式で閲覧してもらっていたが、見づらいという声があり、送迎時にもれなく見てもらうためには拡大して展示するように変更した結果、子どもと会話しながら見てもらうことができ、好評だった。 ・地域活動事業は地域住民にも好評で来客数が大幅に増加した。一方で青空保育は時間や場所を変えてみたが一般の親子を見つけるのがむずかしかった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・一人ひとりの子どもを観察する力をつけ、子ども理解に繋げていく。子どもの成長や活動の様子をポートフォリオやドキュメンテーションで目に見える形でタイムリーに伝えていくことが出来るようになる。 ・園庭の畑の様子がよく見えるようにしたり、畑の野菜を使った食育活動が外からよく見えるような工夫をしたりし、【見える保育、見せる保育】をアピールする事で、気軽に園を訪問してもらう
	重点施策	・マップ型記録を取り入れて、ドキュメンテーションに繋がる子どもの様子を記録する ・畑の野菜で食育活動をする様子やサーキット遊びなどで生き生きと遊ぶ子どもの様子をフェンス越しに見てもらい、気軽に立ち寄れる雰囲気をつくっていく
2026年度	目指す姿	・近隣園同士の交換研修を計画・実施し、リーダーの育成に力を入れていく事で自園だけでなく近隣園全体の保育の質が底上げされていく。 ・毎日、大人と子どもで一緒に畑仕事をする様子をフェンス越しに見てもらうだけでなく園庭で一緒に収穫作業をしてもらったり、ケチャップや梅干し、たくあんなどを作ったりする。
	重点施策	・自園の保育の質を上げるため近隣園同士の交換研修を実施した後で自園で、保育士の関わりのビデオ撮りや、音声録音などを行う。

		自分たちの保育を客観的に観ることにより高い学びに繋がると考える。 ・地域の親子には気軽に参加してもらえるようにフェンスにポスターを掲示したり勝手籠を見ている親子を誘ったりする。保存食を一緒に作ったら出来上がったころにまた、訪問してもらえるように声掛けしていく。
2027年度	目指す姿	・保育が「質の高い教育」になっていくため、自分たちの保育を日々アセスメントしていく。その結果子ども理解が出来る保育士が増え、リーダーとして地域の保育の質を上げていけるようになる。 ・地域の親子には何時でも気軽に来園して園庭で遊んでもらったり地域子育て支援活動に参加してもらったりすることができるようになり、その後の入園に繋がるようになる。
	重点施策	・保育の質をより高めるため、日々アセスメントを取り入れる。アセスメントの方法としてはOODA(ウーダ)やＳＯＡＰ（ソープ）で保育を振り返り、毎日変化する子どもの様子を観察し、記録していく。 ・青空保育でチラシを配布したり子育て支援センターにポスターを掲示してもらったりして親子の訪問回数を増やし、園の評判が上がっていき入園に繋がるようにしていく

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリーポピンズ清瀬ルーム保育園 施設長　山田　千恵

２０２５年度　メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム
事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人の基本理念 「にんげん力。育てます。」
法人の子育て目標 ① センス・オブ・ワンダー ② 人対人コミュニケーション

法人理念及び子育て目標を全スタッフが理解し、子どもの心情・意欲・態度に留意しながら日々の子どもの生活を大切にしていくこととする。その際、子どもの状況や発達過程を踏まえ、環境を通して養護及び教育を一体的に行うことを留意する。 また、保育所保育指針にも明記されている「子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場」となるようにスタッフ一人ひとりが意識して過ごす。

原点回帰「～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～」を念頭に、全スタッフが、常に「あなたはどうするか」と自身に問いかけ、自分の頭で考え、学び、動くことができるように心がけていく。真に必要な体験を子どもたちが経験することを第一に考え、日々の保育計画、環境の設定をし、都度振り返りを行いながらより深めていくことができるようにする。

茅ヶ崎という立地ならではの海散歩、駅ビル内ならではの地域、周囲の方との関りを保育に取り入れていくようにする。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちの毎日に必要なホンモノの経験を育む
	実践予定内容	子どもたちの成長、発達を捉え、子どもたちに必要な活動を見極められるよう園内研修を通して学び、心情・意欲・態度に留意していく。また、「ホンモノとはなにか」をスタッフ自身も考え、保育に取り入れていく。その際、長期的な見通しを持ち、全スタッフが、”自分ならどうするのか“と当事者意識を持って遊びや生活が連続するようにしていく。子どもたちと話し合い、日々を大切にし、たとえ手間がかかっても子どもに必要な経験を与え、背中を見せて労働を教えていく。
2	計画・ねらい	子どもたちの自己肯定感を育む
	実践予定内容	子どもが安心できる環境の中で、自分の意見を伝え、相手の思いを受け取り相手への信頼や思いやりの心を育むよう活動や行事についての話し合いをサークルタイムや子ども会議を繰り返し行うようにする。
3	計画・ねらい	子どもの主体の保育の実践。
	実践予定内容	保育が子ども主体となっているか施設長、主任とスタッフで年間をとおして都度、保育の中はもちろん乳幼児会議などで議案として取り入れ、振り返り、常に子どもが真ん中となっているか意識して保育をしていく。そして、子ども主体の保育とは何かがスタッフ全体として共通認識していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	接遇への意識を高める。
	実践予定内容	園内研修や動画視聴を通して全スタッフが、挨拶・お迎え時などはもちろん、普段から保護者様に寄り添った対応を実施するようにしていく。その成果として利用者アンケートの結果として評価され、新たな課題があればそれを見つけ必要な対策を講じていく。
2	計画・ねらい	保護者様の子育てへの意欲や自信につなげられる支援をする。
	実践予定内容	全スタッフが保護者様とお迎え対応はもちろんのこと、個人面談、育児相談など積極的に呼びかけながら交流できる機会創出し、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことを心がける。
3	計画・ねらい	保護者様の気持ちを受け止め、話をよく聞き、保護者様が自分で解決していくための方法を導きだせるよう保育や子育てに関する知識や技術を生かした支援を行う。
	実践予定内容	保育参加へのお誘いや、必要に応じて個別に相談する機会を取り入れる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園を目指す。
	実践予定内容	青空保育、園開放、勝手籠フリーマーケットの実施。 参加していただきやすいよう配慮し交流をする。月1回の青空保育、毎日の園開放に加え、勝手籠の存在をちきんえっぐだよりにて告知し、園見学や一時保育利用者への声掛けを実施する。
2	計画・ねらい	保護者様や地域に向け、自園が行う保育の内容をしおりなどを用いて伝える。
	実践予定内容	保育参加、小中学生職業体験、実習生受け入れ、世代間交流の実施。
3	計画・ねらい	公共の施設利用を通し、ルールやマナーを身につける。
	実践予定内容	幼児組を中心に、図書館の利用や、ラスカ店舗との交流など子どもたちに身近な地域の中で必要な事柄を身につけることのできる保育を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課・基本保育活動への深い理解
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが法人の保育理念、園目標、クラス目標、個人目標に向き合い、日課・基本活動を丁寧に子どもたちとの個々の発達に合わせ、子どもたちの成長に必要な活動、遊びを厳選し、実践できるようにする。
2	計画・ねらい	質の高い保育の追究
	実践予定内容	一人ひとりのスタッフについての資質向上及びスタッフ全体の専門性の向上を図るように努める。園内研修、キャリアアップ研修、園長大学®保育士大学への参加を通し、学んだ成果発表の場を園内研修などでアウトプットをする経験をするようにする。
3	計画・ねらい	自分事として捉える
	実践予定内容	クラス運営や乳児、幼児の視点以外に、園全体について自分だったらどうするかを考えられるよう、まずはリーダーが的確に捉え実行する。そしてその動きや取り組みを通して、全スタッフが行事や園運営の中で担当を決

		め実施するようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事・プランター栽培、食材加工等の活動を通じ食材や食の循環を意識することができるようにする
	実践予定内容	畑・プランターでの野菜の栽培、梅ジュース、味噌、ケチャップ作りなどの実施。
2	計画・ねらい	調理くずの有効活用を通し、廃棄を削減する
	実践予定内容	段ボールコンポストへ子ども、保育スタッフ、調理スタッフ共に取組み、廃棄の削減を意識して取り組む。
3	計画・ねらい	給食残渣を減らす
	実践予定内容	残渣の量を子どもたちに知らせ、配膳時の工夫など共に考えるよう子ども会議を実施する。

〈6〉褒める・認める・感謝する

1	計画・ねらい	感謝を言葉で伝えあう。
	実践予定内容	子どもや保護者様に対してはもちろんスタッフ間においても、相手の良いところ、頑張っているところに気づき、認め、声に出して褒める。同じく、相手への感謝の気持ちを言葉にし、伝え合うようにする。 園内研修の上期、下期の振り返りの中でお互いの長所を認め合うワークを実施する。
2	計画・ねらい	スタッフ間で連携を行い、チーム保育を行う。
	実践予定内容	異年齢保育を進める上でも、クラス、幼児・乳児の枠を超え、園全体の子どもの姿や成長を見逃さず、子どもたちの様子や輝いている場面を話題にし、その中で個々の成長を昼礼やチャットを通して全スタッフで共有していく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
3人	9人	12人	12人	14人	14人	64人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	7人	補助	1人	調理	1人	事務	1人
							嘱託医	2人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、園運営に関する情報共有、計画の決定
給食運営会議	月1回	食育計画振返り、確認と共有
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策・全園事故防止委員会での内容共有・ヒヤリハット及びインシデントの検討、分析、振り返り
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察・要支援児個別計画の見直し
乳児会議	月1回	個々の成長、発達の共有 活動、環境の見直し、計画
幼児会議	月1回	個々の成長、発達の共有 活動、環境の見直し、計画

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	連絡および議題に対しての共有、意見交換
施設長勉強会	月1回	運営全般の改善のための勉強会

食育会議	年4回	献立内容の改善、提案・給食提供マニュアル及び運用ルールの作成、見直し
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成、改善・各園看護師スタッフとの連携
主任会議	年5回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上のための討議・課題取り組み

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、施設内衛生管理全般
安全対策係	定期安全点検・防災自主点検・設備点検チェック・事故防止チェック、ハザードマップ作成更新
防火管理者	消防計画・備蓄品の確認・安全対策係の任命・自衛消防組織
食品衛生責任者	食品の安全に対する管理、食育会議の計画・実践
畑・食育係	畑の環境整備・年間計画、食育・クッキングの計画実行
環境係	内部監査対応、保育室の環境の見直しの実行

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画管理、保護者との連携、地域への告知
運動会係	運動会の計画管理、地域への告知
生活発表会係	生活発表会の計画管理
卒園式係	卒園式の計画管理、保護者との連携
入園式係	入園式の計画管理
地域子育て支援係	地域に向けた子育て支援活動の計画管理

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保健的で安全な環境の中で子どもの生活の安全を「自分で」の思いを汲み取り、子どもの主体性や自発性を尊重しながら援助したり、温かく見守ったりする。 ・保育者の身体的な関わりを伴う養護的な場面に、子どもが経験している教育的な側面を併せ、養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもの育成を目指す。
	下半期 0～1歳児	・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄等の活動を通して自分でしようとする気持ちが芽生えるようにする。 ・保育者の話かけや発語が促されることにより言葉を使うことを楽しめるようにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・友だちと一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わったりする。 ・身近な人と関わり、友だちと遊ぶことを楽しめるようにする。 ・生活に必要な言葉が分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表現できるようにする。
	下半期 2～5歳児	・自分で出来ることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣を次第に身に付けられるようにする。 ・幼児クラスへの憧れや期待感を持って過ごすことができるようにする。 ・友だちとのつながりを広げ、集団で活動することを楽しめるような雰囲気を作る。 ・進んで異年齢の子ども達と関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わえるようにする。 ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で工夫して自由に表現できるよう環境を整える。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	体験を通して食べる意欲へと繋げる
	実践予定内容	畑での栽培活動に、子どもはもちろん全スタッフが関わるようにする。畑仕事について子どもたちとの話し合いを繰り返し行いながら子どもたちが必要なことと捉えていくよう働きかけていく。 野菜の皮むきやお米とぎなど、給食を作る過程に触れ、体験する。子どもの体験する内容を調理、保育スタッフ間で話し合い共有をしながら計画していくようにする。
2	計画・ねらい	様々な食材に触れ、加工する過程に興味を持ち食べることを楽しむ
	実践予定内容	食材の加工について興味が持てるように導入する。梅干し、梅ジュース、ケチャップ、味噌づくりなど季節に合わせて様々な経験ができるように計画する。
3	計画・ねらい	命を頂く活動の実施
	実践予定内容	魚の解体を経験し、命の不思議さや、命を頂くことや「いただきます」の言葉に対して考えたり触れたりする機会を設ける。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（５月・１０月）
歯科検診	年１回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導・薄着のススメ・性教育
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5月～9月 手足口病・ヘルパンギーナ 6月～9月 アデノウイルス・咽頭結膜熱（プール熱）伝染性膿痂疹（とびひ） 10月～1月 マイコプラズマ肺炎 10月～2月 RSウイルス感染症 11月～6月 溶連菌感染症 11月～4月 感染性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルスなど） 12月～4月 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

	12月～5月 インフルエンザ 12月～7月 水痘（水ぼうそう）
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。などを各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／５･１０月 歯科健診　年１回／6月

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える
	実践予定内容	個々の発達に合わせ、愛情豊かに応答的な関わりを大切にしながら、常に環境の見直し、改善を行う。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊びこめる環境を整える
	実践予定内容	子どもたちの主体性を第一に考え、一人ひとりがじっくりと遊びこむことができる場が保障されているかスタッフ間で連携を取りながら環境の見直し、改善を行う。
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践予定内容	話し合いの場に子どもを交え、共により良い環境を考えていくようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	どろんこ遊び場	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う。 防災計画に基づき、避難訓練を行う。
2	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。 事故防止委員会にてケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有する。
3	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従う。 防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行う。
4	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグフローチャートに従う。また、行政の連絡に従って対応する。
5	実践予定内容	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにする。
6	実践予定内容	海岸付近で活動していた際の大津波警報発令時避難訓練を随時行う。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の保育者を育てるため、また、実習生を受け入れることにより保育士自身が自らの保育を振り返り、指導する力を身に付ける良い機会となるので、積極的に受け入れていく。保育士という仕事の素晴らしさとともに、子どもの命をお預かりしているということを伝え次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成していく。

受け入れる際には、全スタッフで暖かく迎え入れることができるようにし、不安なく過ごしてもらえるようにする。

1	実践予定内容	保育士志望の実習生の受け入れ
2	実践予定内容	地域中学校と連携を取り、職業体験の受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ ③ 虐待防止研修 ④ 真に必要な経験について	コンピテンシー自己採点、自己課題 子どものケガに対する知識、応用についての研修 子どもにとって必要な経験について
5月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子どもの人権について ③接遇について	コンピテンシー自己採点、自己課題 人権・虐待防止に関わる研修 接遇についての研修
6月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②離乳食について	コンピテンシー自己採点、自己課題 離乳食の進め方についての研修
7月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②真に必要な経験について	コンピテンシー自己採点、自己課題 子どもにとって必要な経験について
8月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②リズム体操 ③命をいただく活動	コンピテンシー自己採点、自己課題 リズム体操の基礎、新曲の研修 鶏での実施園の記録から学ぶ
9月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②上期振り返り	コンピテンシー自己採点、自己課題 園目標事業計画の振り返り
10月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケート振返	コンピテンシー自己採点、自己課題 利用者アンケートの結果を受け、課

		③ 子どもの人権について ④ 虐待防止研修	題への取組み、実践
11月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②リズム体操 ③キャリアアップ研修について	コンピテンシー自己採点、自己課題 リズム体操の基礎、新曲の研修 研修で学んだことのアウトプット
12月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②下期振り返り	コンピテンシー自己採点、自己課題 園目標事業計画の振り返り
1月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②年度振り返り	コンピテンシー自己採点、自己課題 今年度の振り返り、課題
2月	18:00～21:00	①コンピテンシー自己採点 ②策定会議	コンピテンシー自己採点、自己課題 来年度に向けてチーム作りの基盤を作る
3月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②キックオフ	コンピテンシー自己採点、自己課題 来年度へ向けてチーム作りの基盤を作り４月を迎えられるようにする

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた保育園を目指す。保育士からの日常の挨拶はもちろんのこと、近隣公園での保護者との関わりや他保育園とのコミュニケーションなど丁寧にかつ、積極的に関わる姿勢を持つ。また、急な見学などにも親しみを持って対応し、いつでも園に寄っていただけるようにしていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：中央公園にて　　目標：150名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流 地域小中高校生との交流
異年齢交流	近隣保育園との交流 小学校との連携
地域拠点活動	子育て支援事業「ちきんえっぐ」
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。小学校との交流、見学、参加を通じて子どもたちの就学がスムーズな連携の中進められるようにする。また小学校1年生の授業を見学できるよう近隣小学校と計画を立て、1年生を知ることで逆算した保育を遂行することができるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	茅ヶ崎小学校	28名予定	運動会練習見学	子ども間交流
10月頃	東海岸小学校	14名予定	運動会見学	子ども間交流
11月頃	円蔵小学校	2名予定	小学校見学	スタッフ間交流
2月頃	茅ヶ崎小学校	2名予定	授業参観	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

個々の保育計画を立て、見通しを持って保育にあたる。日々変化していく子どもたちの様子を観察、記録し、全スタッフで共有し保護者とも共有しながら、どのスタッフでも保育ができるような体制づくりを行う。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計１２回開催予定　参加者：全正規スタッフ予定）

支援の必要な子どもの様子、課題から支援の方向性の共有を行う。子どもの特性を生かすことができるよう支援の経過伝え、連携をしていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

5歳児の児童要録を作成し、小学校との連携、引継ぎを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：150名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：60名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（月）10:10～12:00　　目標：150名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:10～12:00　　目標：150名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：中央公園にて開催　目標：150名

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２４年7月12日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１４時００分
自己評価終了予定時刻：１５時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	あたりまえの異年齢保育の実践
	振り返り	ワンルームという施設を活かし、子どもたちが自然に当たり前に異年齢での交流を育み、関わり合う中で思いやりや心地よさ、遊びへの取組みが実施されるよう子どもたちを見守るようにした。 スタッフも、園全体の子どもたちを見守り、どの子がどこで過ごしても良いように園内の環境を見直し、声を掛け合うよう心がけたが、クラスの枠を超えられない場面も多くあったので、もう一歩踏み込んでクラスではなくゾーンで子どもたちを見守れるようにしていきたい。その中で、スタッフ間の連携や思いの共有がスムーズになっていくことを目指していきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	真に必要な経験を一つでも多く
	重点施策	子どもたちに真に必要な経験を厳選し、その質を高めていく。真に必要な体験とは何かを園内研修で学び合い、全スタッフが、”自分ならどうするのか“と当事者意識を持って保育を計画し、子どもたちと話し合い、日々を大切にし、たとえ手間がかかっても子どもに必要な経験を与え、背中を見せて労働を教えていく。
２６年度	目指す姿	子どもがいつでも真ん中に
	重点施策	子どもたちが自分たちの思いを言葉で表現し、相手の思いに触れる体験を繰り返し行える場を保障する。その中で、日々の活動や行事を子どもたちが“やってみよう”と主体となり実践していけるようにする。保育園が子どもたちによる、子どもたちのための生活を送ることのできる場であるように話し合いの場に子どもたちを交え、一人ひとりが“やってみよう”と思えることに向かっていくことができるようにしていく。
２７年度	目指す姿	メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルームならではの保育実践の公開
	重点施策	自園の様子や取り組みを保護者様、地域へと公開し、目指す子育てを広め知ってもらう。公開保育や園に来ていただくよう働きかけ、茅ケ崎地域の保育のロールモデルを目指す。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム 施設長　池田 エミ

２０２５年度　つくばどろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

つくば市は、平成28年以降、人口増加率は1.5%前後で推移し、市区町村の中で全国1位となっている。温暖な気候と自然豊かな風土、高度な都市機能（研究機関や大学など）が調和し、落ち着いた住環境が整っており、住みやすい街として知られている。特に子育て世代や学術研究・専門技術者の流入が多く、市民の教育・研究への意識の高さが特徴である。また、「教育日本一のまち」のスローガンのもと、小中一貫教育体制でICTを活用した教育プログラムが整備され、キャリア教育にも力を入れており、子育て世代から広く支持されている。

つくばどろんこ保育園では、この地域の特性と充実した教育環境を活かし、子どもたちの人格形成の基礎を丁寧に育むことを重視する。

保育所保育指針および社会福祉法人どろんこ会の保育理念・保育方針に基づき、つくばどろんこ保育園の園目標『チーム保育で育てよう！子どものやる気と根気』を全スタッフの共通理念とし、下記の内容を保育方針として園運営を行う。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの基本的人権を尊重し、受容的な関わりの中で安心して自己発揮できる環境を保証する。
	実践予定内容	コンピテンシーの実践と振り返りの活用/品質マニュアルの順守/虐待等に係る園内研修
2	計画・ねらい	基本的な日課活動を確実に丁寧に行う中で「にんげん力」を育む。畑活動・生き物の世話・堆肥作りなど、生活に根差した活動を通じて、協力してやり遂げる力や、必要に応じて我慢や主張をしながら相手と折り合う調整力を身に付ける。
	実践予定内容	異年齢保育・座禅・雑巾掛け・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・山羊と鶏の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育などの実践/Trial＆Errorの場の構築/生活力体得に向けての会議や園内研修の実施
3	計画・ねらい	乳幼児期の発達過程の理解し、「幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿」など、子どもの将来に視点を向けた保育を実践する。１つの体験活動から出来るだけ多くの気づきや学びが得られるように、支援の仕方や言葉掛けについての関わりを重点に話し合う。PDCAサイクルを活用して共通理解を深め、子どもの主体性や持てる力を大事にした保育を進める。
	実践予定内容	活動/異年齢活動・日課活動・協同的活動・社会的活動・創造的活動・行事などの実践 計画/保育計画・個別計画・ゾーン計画におけるPDCAサイクルを活用した話し合い 交流/5歳児と小学校の年間連携計画・児童要録の作成
4	計画・ねらい	インクルーシブ保育の下、健常児も障害児もその子の持つ個性が大事にされ、誰もが「生きる力」を獲得できるように、子どもの「今」に合った人的・物的環境を整える。

	実践予定内容	異年齢保育/子ども自ら選び取れる玩具・遊具・道具・教材の設定/歌などの指導/火の安全な取り扱いや距離の取り方の指導/その他大人がやって見せる指導全般
5	計画・ねらい	必要な伝達事項や事故・怪我の共有を周知徹底し、保育への活用と家庭への対応に繋げる。改善事項は全スタッフで検証し、解決に向けた体制作りを整える。
	実践予定内容	朝礼・昼礼・園会議・クラス会議・リーダー会議を活用し早期に周知共有/園用の共有チャットアプリ・伝達ノートの活用/ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の記載と検証振り返り

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	スタッフの誰もが、自分がされて気持ちの良い、明るい笑顔と挨拶を心掛ける。子どものありのままの姿から読み取れる心に残った場面を、丁寧に伝える。その日々の積み重ねを通して、家庭との信頼関係を構築する。
	実践予定内容	朝夕の送迎時の挨拶の実践/3分間対応の適切な言葉や内容選び/園会議において「接遇・保護者対応」の園内研修の開催
2	計画・ねらい	保育活動や行事の意図を理解した上で、スタッフが自身の言葉で説明し、子どもの成長を互いの励みとして共に喜び、子育てに役立てて頂く。
	実践予定内容	3分間対応や連絡帳の活用/タイムラインの配信/保育参加/保護者懇談会/保護者個人面談/エピソード記録の玄関掲示/生活発表会での子どもの育ちのスライドショーの開催/行事等の開催
3	計画・ねらい	一時保育のお子様の受け入れでは、家庭での情報を詳細にお聞きし、家庭と連携した丁寧な保育を提供する。
	実践予定内容	送迎時の気持ちの良い挨拶/子どもの様子を丁寧に伝える言葉選びや内容選び
4	計画・ねらい	保護者からのご意見ご要望には謙虚な気持ちで受け止め、相手の気持ちを尊重して、対応できることは実現に努める。
	実践予定内容	保護者面談/利用者アンケートの実施/ご意見ご提案シートの設置/スタッフチャットを活用し全スタッフに共有・周知

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	「子どもは地域の宝」であることを認識し、子育て支援「ちきんえっぐ」の拠点として、地域の親子の拠り所となれるよう交流の場としての役割を果たす。
	実践予定内容	「ちきんえっぐ」のイベントの開催/青空保育での保育実践/子育て相談・園庭開放の実施/どろんこ祭りの開催
2	計画・ねらい	近隣小学校との連携や交流を重ねると共に、「小学校までに育てたい子どもの10の姿」に向けた保育内容と子どもの育ちを保証し、責任を持って小学校へと繋げる。
	実践予定内容	5歳と小学校との連携計画作成/3～5歳のアプローチカリキュラムの作成/児童要録の作成と提出/子ども間・職員間の学びの交流
3	計画・ねらい	地域の中学生・大学生の職業体験や実習生を受け入れ、若い世代の育成を

		後押しする。また、老人施設の訪問を通し、お年寄りに喜んで頂く。園の子どもたちが地域の様々な年齢層と交流することで、地域社会との繋がりを意識して生活できるようにする。
	実践予定内容	中学生・大学生からの保育参加やボランティアの受け入れ/実習生の受け入れ/老人施設との交流実施

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	各々のスタッフは自身をよく見つめ、保育スキル、社会人としてのマナー、キャリアアップなど、必要な知識や実践方法を獲得するために、園内外の研修に意欲的に参加する。
	実践予定内容	園長大学®・保育士大学の月1回以上の受講/園内外への研修参加 /研修実践報告
2	計画・ねらい	園の質向上や自身の高みを目指し、組織MBOと個人MBOを掲げることで努力実践していく。
	実践予定内容	MBOの理解と作成の仕方/MBOの実現に向けた年3回の振り返り面談
3	計画・ねらい	経験年数を考慮して編成したグループワークでの学びを、自由なテーマの下、協同で話し合い纏めて、園会議にて発表し合う。
	実践予定内容	6月：園長大学®保育士大学の動画視聴を下に自由にテーマを設定し共有/9～12月：園会議にて、園内研修として各グループ発表（各グループ15分）

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	田畑を耕すことで収穫できた米や作物の恵みに感謝しながら、調理体験に繋げる。また鶏を絞めて食す体験を行い、命に感謝しながら味わう。
	実践予定内容	鶏を食す体験・畑仕事（種蒔き・育てる・間引き・収穫）・食材加工（梅干し・梅ジュース・たくあん・干し柿・味噌作り）・卵拾い
2	計画・ねらい	給食の野菜くずや山羊・鶏の糞を堆肥として食の循環サイクルを実践し、園の生活の中で活用していく。
	実践予定内容	食調理の野菜くずを山羊の餌に活用/山羊と鶏の世話と糞の始末/給食の廃棄物や山羊・鶏の糞を活用して堆肥にして畑の肥料として活用
3	計画・ねらい	出された食事や食べ物を粗末にせずに大切にする気持ちを育て、美味しく食べることで給食残渣を減らす。
	実践予定内容	給食残渣の計量/食材の有効利用と廃棄部分の減量の工夫/子どもの偏食や食べ残しへの働きかけ

〈6〉自走を意識したチーム作り

1	計画・ねらい	各々のスタッフは自身の持つ職位や役割を十分に認識し、「子どもにとってどうか」の視点を忘れずに、それぞれの立場から意見を出し、自ら調整する姿勢を持つ。園の様々な協議内容や課題に対して、従来の当たり前や思い込みを見直し、積極的に意見を出し合える雰囲気を大切にしながら進める。

	実践予定内容	園会議・クラス会議・ゾーン会議・リーダー会議等で課題提案と改善の実践
2	計画・ねらい	各々のスタッフは質の高い保育園を目指し、保育に限らず、清掃や衛生の取り組みや事故防止等の意味を十分に理解する。どのように運用すると良いかを各々が考え発信し、チームとして連携しながら進めていく。
	実践予定内容	係活動・行事担当・清掃担当の役割遂行、点検記録の実施、給食運営会議・事故防止委員会での発信

〈7〉食の循環の実践と生活文化の継承

1	計画・ねらい	つくばの地の生活文化と食の循環の仕組みを楽しく実践し、先人の知恵と工夫を子どもと若手スタッフが共に学び、大事に継承する。堆肥作りの成り立ちでは、子どもたちが見て触って理解できるように丁寧に進める。
	実践予定内容	伝統行事/「ならせ餅」「どんど焼き」 食の循環/堆肥の仕組みの理解と実践・味噌作り・たくあん作り・干し芋作り・干し柿つくり・梅干し作り・各種ジャム作り

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	15人	15人	15人	15人	15人	90人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	14人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	2人	嘱託医	2人				

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 120分	コンピテンシーチェック/人権と虐待研修/ 園運営の目標に向けた課題や共有事項の協議/ 保育場面ごとの記録や話し合いに基づいた保育内容の実践と子どもへの目線合わせ/チーム保育の進め方/園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況と嗜好の確認/食事環境や配膳方法の共有と改善/食育や畑活動報告
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故ケーススタディと改善策/ヒヤリハットの共有と対策
ケース会議	月1回	要支援児個別計画策定と振り返り/要支援児計画の見直し
クラス会議	月1回	クラス運営の共有と検討
週リーダー会議	週1回	各クラスリーダーによるクラス報告と保育内容の検討/園運営に向けての提言と協議
ゾーン会議	月2回	ゾーン係と各クラス月ゾーン担当者による保育内容の企画立案と実践振り返り

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	·月例確認事項/コンピテンシー ·各部署からの連絡伝達 ·部別課題協議
施設長勉強会	月1回	·部課別運営方針の共有/リスクとハザード ·日課活動の実践とアシスト/給食残渣の取り組み ·労働時間管理/人材育成 ·コミュニケーション・アサーションスキルの実践 ·課題解決のためのケーススタディ/インバスケット研修
食育会議	年4回	·食育計画策定と実践報告 ·給食運営並びに献立内容の改善と提案 ·給食時環境の検証 ·給食残渣などのSDGｓに向けた取り組み
保健会議	年4回	·保育計画策定と実践報告 ·感染症対策と実践報告

		·生活習慣付けや怪我事故の対処法
主任会議	年12回	·日課活動の実践とアシスト ·丁寧な生活・保育実践の取り組み ·役割に合わせたアクションプランの取り組み、共有、発表
子育ての質を上げる会議	月1回	·保育実践の話し合いと共有 ·日課活動へのアプローチ

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置/保育所の衛生全般の管理
安全対策係	全職員の安全に対する意識を高め、遊具点検・設備点検・備蓄品点検・安全防災点検や対策の取り組み/避難訓練の実施/ハザードマップ作り
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成と防火管理上必要な業務を計画的に実施
食品衛生責任者	食品の扱いに関する業務/厨房衛生環境全般 食育会議の計画や実践
田畑食育係	田畑の環境整備/作物の管理/食育活動との連携
生き物係	飼育動物の健康管理/環境改善/餌管理
環境整備・絵本係	園内や園庭遊具の整備や安全点検/園内掲示物の点検/絵本の修理や整頓
地域支援係	他園交流/小中学校との交流/実習生の受け入れ対応/一時預かり児の受入対応
ゾーン保育係	保育活動内容の企画・実践/保育内容に合わせた室内及び園庭の遊具・玩具設置と見直し
研修係	年間の園内研修の企画実践全般
倉庫・備品係	倉庫内点検管理/保育教材備品補充全般

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	·保護者の主体性を尊重し、どろんこ祭りの企画、準備、活動を共に実施

子育て支援係	･子育てに関わる相談業務、子育て支援、「ちきんえっぐ」の活動の実行 ･地域の老人施設との文化交流、支援 ･地域小学校との授業・保育参観での子ども間、職員間交流 ･中学校の職場体験、実習生の受け入れ

4.保育方針

〈I〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	･保健的な環境や応答的な関わりを大切にしながら、安心・安全に過ごせるようにする。 ･一人ひとりの子どもの意欲や思いを尊重し､健やかな育ちを保証する ･人との関わりの中で人への愛情や信頼感を育てる。
	下半期 0～I歳児	･生活に必要な事や身の回りの事を自分でしようとする ･簡単な言葉で気持ちを表現し､友だちや保育者と関わる ･様々な体験を通して､豊かな感性や創造性の芽生えを育てる ･様々な運動遊びを通して生活に必要な動きを身につける ･生活に必要な習慣や態度を養い､心身の健康の基礎を育てる ･友だちや保育者と、一緒に食べたいものを選び食べたいだけ食べ、食の楽しさを感じる
幼児保育	上半期 3～5歳児	･保育者の見守りの下､自然遊びや生活体験遊びを通し、自らやりたいことを選び取り、友だちと話し合いや調整をして遊ぶ ･日課活動や社会の決まりを守ることを通して、生活をする上でみんなのために協力して働くことの大切さを理解する ･インクルーシブ保育の中で、色々な個性のある友だちと過ごし、互いを無理なく認め助け合う ･リズム体操､表現遊び､わらべ歌や歌などで自分を発揮し表現する意欲や協調性､社会性を養う ･素話や絵本､紙芝居などの読み聞かせを通して､聞く力や想像力を伸ばす ･動植物の飼育や田畑栽培などの体験を通じて、小動物の命を大事にし作物は生活に活用できることを理解する。 ･食物の成り立ちを理解することで感謝し、食べ物を粗末にしない気持ちを育てる
	下半期 2～5歳児	･自信を持って自分らしく自己を表現する ･目的を持って友だちと思いや考えを出し、人と協同的に遊びを発展させ、持続して遊びを楽しむ ･社会の中の一員としての意識が芽生え、友だちと折り合いをつけながら、決まりを作ったり守ったりする ･嫌なことも皆で分担することの大切さに気付き、自ら行おうとする

		·異年齢や様々な個性ある友だちと触れ合う中で、互いの思いに気づきながら自分たちで問題を解決しようとする。 ·生活をする上で必要な道具の使い方や火の関わり方などを身につける ·自分のイメージしたものを、色々な方法で表現する ·自然界の営みの中の発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる ·畑活動からの堆肥作りや、「命をいただく」などの食育体験活動を通して、食の循環や生克の営み、また環境への興味、関心を抱く
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

食育の５つの子どもの姿「お腹のすくリズムを持てる子ども」「食事を味わって食べる子ども」「一緒に食べたい人がいる子ども」「食事つくりや準備に関わる子ども」「食べ物を話題にする子ども」を目標に、食で得られる子どもの心と体の育ちを支える。
またさらにどろんこ会の3大食育方針(１)調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる(２)噛む力を育て素材の味を味わう(３)子どもが自分たちで盛付・配膳して食べることを念頭に置き、食育を推進する。

1	計画・ねらい	日課活動や戸外遊びを十分に行い、お腹がすいた感覚を感じながら意欲的に良く噛み素材を味わい、食べたいものを食べたいだけ食べてその美味しさを感じる。
	実践予定内容	9時出発の戸外活動/長距離散歩/日課活動/田畑の手入れ/乳児の口腔発達に合わせた離乳食の提供/低年齢児の手づかみ食べ/幼児の食材の噛みちぎりを推進
2	計画・ねらい	年上児が配膳や盛り付けを手伝い、異年齢が助け合って食事環境を整え、好きな人と好きな場所で会話を楽しみながら食事をする。
	実践予定内容	異年齢による縁側給食の実施/子どもによる配膳や盛り付けの実施/全スタッフが関わっての食卓を囲む環境作り/食後の清掃の手伝い
3	計画・ねらい	田畑活動や「鶏を絞めて食す」活動を通して、人々の生活の食の循環の知恵を学び、自然の恵みに感謝する
	実践予定内容	田畑活動の実践/鶏を絞めて食す活動実践/山羊・鶏の世話/山羊・鶏の糞や野菜くずを利用した堆肥作り/食育活動の実施/食環境やSDGｓの教育

4	計画・ねらい	体験活動を通して、地域の食文化を若いスタッフや子どもたちに継承する
	実践予定内容	味噌作り/沢庵作り/梅干し作り/干し芋作り/干し柿作り

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい・手洗い励行/手洗いチェッカーによる手洗い指導/薄着の励行/身体測定/体温計測/歯みがき指導/生存確認チェック/温湿度管理/性教育（5才児）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃･･･流行性胃腸炎 1月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･7名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員３名については2025年3月までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示/予防接種の推奨/保健だよりの配信 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	園舎内や園庭では、子どもたちのやりたい事を形にできるように遊びを自ら選択し、継続して遊びを展開できる環境を子どもと共に作る。
	実践予定内容	安全で年齢発達に相応しい玩具と玩具棚の設置/針や糸・ナイフ・工具など使用方法を学ぶための道具の設置/自ら選び取り出し片付けができる配置/十分量でない調整が必要な量の道具/話し合いの場と時間の確保
2	計画・ねらい	感染症を予防し、毎日を安心して過ごせる衛生環境を保持する
	実践予定内容	朝の健康チェック・検温記録/うがい・手洗い/必要時の手指消毒・マスク着用/室内換気/保育室や遊具類の清掃と消毒の実施/衛生備品の補充/最適な温湿度管理/生存確認のチェック/帽子や歯ブラシの衛生管理/年3回の布団乾燥
3	計画・ねらい	子ども・保護者・来客者目線に立って園舎内外の清掃・整理整頓をし、誰にも気持ちのよい環境を整える。
	実践予定内容	清掃チェック表に基づき清掃実践/園舎内外の草木の管理/田畑の管理
4	計画・ねらい	保育室や園庭・園庭建造物の危険物や危険箇所の有無を確認点検し、安全に遊ぶ場所を確保する
	実践予定内容	早番による毎日の保育室・園庭・手作り遊具の見回り点検/毎月25日の園庭遊具点検/年4回の事故点検と設備点検チェック/園内ハザードマップの作成

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	丸太の平均台	園庭	毎日
2	乳児用平均台	園庭	毎日
3	三角アスレチック	園庭	毎日
4	幼児用平均台	園庭	毎日
5	四角基地	園庭	毎日
6	園庭遊具片付台	園庭	毎日
7	堆肥場	畑	毎日
8	一人用テーブル（1台）	幼児室	毎日
9	子ども用ロッカー（2つ）	幼児と2歳児保育室	毎日
10	大型テーブル（2台）	2歳児保育室	毎日
11	飾り台（6台）	玄関、2歳児保育室	毎日
12	ハイハイスロープ	0.1歳児保育室	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	･非常災害時の対策として、毎月消防計画に基づいた避難訓練や消火訓練を実施する。 ･防災設備(自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓)を設置する。 ･保護者向けアプリより、災害時の緊急連絡にて子どもの安否、園舎の状況、避難先の情報のおたよりを配信する。 ･備蓄品点検(年2回)や子ども引渡し訓練(年1回)を実施する。
2	実践予定内容	･年2回の不審者侵入訓練の実施をする。 ･警察官による訓練時の防犯講和/警察官による巡回を依頼する。 ･門扉や畑の入り口を施錠し、外部侵入者の立ち入りを防ぐ ･保護者登録情報による送迎時の保護者確認を行う。 ･市役所からの不審者情報を共有する。
3	実践予定内容	･人体に影響が心配される場合に発令の、つくば市役所の「光化学スモッグ注意報」に従い、発令中の外出や運動の自粛などの対策をとる
4	実践予定内容	･熱中症予防情報の自動メールつくば（茨城）を活用して1時間ごとの暑さ指数の情報を得て、戸外活動の目安とする
5	実践予定内容	･園外の散歩先のハザードマップを作成し道中と散歩先での危険箇所を共有周知する。また年4回の見直し更新をすることによって最新の危険情報を共有し、危険防止に努める。

		·園内の新たな危険箇所を把握し、年4回の更新を通して職員間の共有に努める ・園外保育では出発前にハザードマップを確認し、出発時帰園時と現地、道中の要所で、職員がダブルチェックで子どもの人数確認を行う。また現地到着時に危険物がないかを確認し、事故防止に努める。 ·バスの乗降では前後や乗降口に職員を配置し、危険を回避する。 ·安全見守りの方の点検・指導の下、園内外の活動や散歩先の危険の回避に向けての助言を保育に活用する
6	実践予定内容	·フロンガス第1種特定製品簡易点検リストを用いて年4回点検を実施し、劣化や損傷などの有無や正常な作動を確認し、事故防止に努める
7	実践予定内容	·プール遊びでは職員2名体制をとる。事前に職員間で水遊びによる事故の共有をし、事故が起きた場合を想定しロールプレイを実施する。 ·救急救命の講習を受け、スタッフ全員が救命の仕方やAEDの使用方法などを確認し行動できるようにする

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の人材育成のために、中高大学生に保育現場での実践体験の場を提供し、地域における保育園としての社会的役割を果たす。乳幼児期の子どもの可愛さに触れて、虐待などの社会問題の解決の一助となることを目指す。

1	実践予定内容	関連校と連携を取りながら保育士、看護師、栄養士、作業療法士など志望の実習生を受け入れる
2	実践予定内容	地域の中高生のための職場体験やボランティア活動を受け入れ、乳幼児との関わり方を体験する場を提供する

7.スタッフ育成と研修計画

「全スタッフで子どもを育てる」ことを念頭に、様々な会議等で意見を出し合い「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」に向けて、そのプロセスを重視し、6年間継続する保育を丁寧に進める。一つ1つの基本活動の意味を理解し、子どもが将来真に必要とする「生きる力」を育むことを基本にし、園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、話し合いの材料とする。
また、今年度はグループワークを中心としたコミュニケーションの場を多く設け、自ら選んだテーマに沿って自由な形式で発表ができるように研修計画を組んでいく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックと虐待防止 ③ 怪我・ケーススタディ	·仕事と保育の向き合い方を互いに話し高め合える手立てとしてコンピテンシーを活用する（年間継続） ·子どもの人権を考え、怪我に繋がらないよう場面ごとに検証する。
5月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課活動からの「生き力」を考える ③ 組織MBOと個人MBO ④ マニュアルの理解と運用	·今年度の園目標の「生きる力」について共通理解をする。 ·今年度のMBOの説明と共有 ·マニュアルに則った保育の重要性を全スタッフで共有する。
6月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援・子育て支援（園長大学の視聴参考） ③ マニュアルの理解と運用	· 保護者に限らず園を利用される方に対してのより良い対応を考え、保護者や地域への実践に繋げる。
7月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解と運用	·「幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿」の理解を進め、記録を通じ社会性や共同性、規範意識などの育ちを検証し今後に活用する。
8月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の人的・物的環境の重要性と現状の振り返り	·子どもへの言葉かけや援助支援、効率的な動線への配慮、またゾーンの室内環境の設定や遊具類の設置を検証し、話合いの中で新たな環境作りをする。
9月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育の良さを考える ③ グループワークと発表（園長大学視聴を通して）	·チーム保育の良さを発見し、お互いに相手を尊重しながら意見の出し合える職場環境の中で仕事をする。 ·経験年数ごとのグループがテーマを選び、その学びを協力して纏め発表する。（9～12月に発表）
10月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② スタッフの発信の提案 ③ グループワークと発表（同上） ④人権チェックと虐待防止	· 半期を終えて、保育や園運営に対して様々な意見や考え、困っていることをスタッフ発信で考える。
11月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	·子どもにとって食べることは生きる

		② 子ども主体の食を考える ③ グループワークと発表（同上）	ことを理解し、より良い食環境を考える。
12月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食の循環と食文化を知る ③ グループワークと発表（同上）	·畑活動や山羊・鶏の世話を通して、食の循環の体験活動の学びを共有し、地域文化を子どもと楽しむ姿勢を深め、今後に活用する。
1月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返りとつくばどろんこ10年間の統括 ③ 行事担当・係からの引継ぎ	·10 年間の園の運営の総まとめとして、報告と課題を抽出し次年度に繋げる。
2月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の事業計画の周知と園目標の設定	·次年度の園の方向性について共有する。 ·新体制の中で、園目標の意識統一をする。
3月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の保育計画の策定	·次年度の活動内容を設定する。

エリア研修予算内訳
（つくばどろんこ保育園・学園の森保育園・つくば駅前保育園・アイビー保育園・ほしのこ保育園が参加予定）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	会場	総予算	按分予算
6月14日(土)	9:00~12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円
6月21日(土)	9:00~12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

施設長勉強会	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～II月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉経験年数ごとのグループワークと発表の場の構築

専門職である保育者として、保育スキル、コミュニケーション能力の向上の育成に力を入れていく。経験年数を考慮して編成した2～4名のグループに分かれ、学びたいテーマに添って園長大学®・保育士大学から講座を選択し、グループワークを通してその学びを15分程度に纏め、自由な形式で発表する。決めたテーマに添って積極的に討議し、協力して0を Iにできるようにまとめ上げる力を育成し、各々の自信に繋げることを目的とする。

8.地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

多様化する保育ニーズに合わせ、保育園としての専門的機能を地域のために活用する。小中学校との交流、老人施設交流、地域のシニアとの文化交流、近隣の商店街や官公庁との交流など、交流の仕方を検討した上で今後もさらに地域との連携を深める。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　集客目標：450名
青空保育（保育園主催）	月I回　　公園名：みはらし公園にて　　集客目標：20名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	老人施設訪問/運動会/発表会/どろんこ祭り/伝承遊び体験/ならせ餅

	作り/どんど焼き
異年齢交流	小学校交流/他園交流/中学生職場体験/異年齢クラスとの生活や遊びでの交流
地域拠点活動	ちきんえっぐのイベントの実施/青空保育/子育て相談/園庭開放

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

小学校と保育園が互いの教育内容や子どもの育ちに対して理解を深め、小1プロブレムなどの問題に対応できるように発達や学びが連続し段差がないことを目的とする。双方の職員間のカリキュラム等の情報交換や子ども・職員間の教育現場への活発な交流を実施することで、相互に子ども理解を深めるようにする。また、5歳児では、6年間の乳幼児期の心と身体の発達の経過を下に、アプローチカリキュラムや児童要録を作成し小学校へ繋げる。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
3月頃	地域の連携校と連携園	1名予定	幼保小次年度連携・交流研修	職員間交流
4月頃	春日学園義務教育学校 学園の森義務教育学校 研究学園小学校	2名予定	新年度挨拶 幼保小連携年間計画 アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの共有	職員間交流
4月末	研究学園小学校	2名予定	授業参観（1年生）	職員間交流
5月頃	学園の森義務教育学校	30名予定	運動会招待見学	子ども間交流
10月頃	研究学園小学校	30名予定	運動会招待見学	子ども間交流
11月頃	研究学園小学校 春日学園義務教育学校	各15名予定	校内見学、秋ランド参加、春日ランド	子ども間交流
3月頃	学園の森義務教育学校	15名予定	小学校の行事、校内案内	子ども間交流
3月頃	春日学園義務教育学校、 学園の森義務教育学校	各校1名予定	学級編成資料・児童要録提出、引継ぎ面	職員間交流

	研究学園小学校他		談	
年間	研究学園小学校		毎月の学校通信、 園だよりの交換掲示	職員間交流 保護者支援

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

インクルーシブ環境の中で対象児の育ちを保障しながら個別の保育計画を立案し、全職員で具体的な対応を共有する。保護者との面談を見直し、子どもの成長・発達を共通の視点で確認する。また、関係機関との連携を図り、幅広い情報を得て支援にあたる。

発達に関する気になる点を理解し、社会で生きていくための手立てを支援するようにする。

〈２〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定　参加者：4名予定）

課題と発達について具体的に検証し、発達促進について担当者一人ひとりの目線からの意見を出し合い、次の手立てとする。支援計画に基づいて、実践と検証を繰り返し進めていく。

〈３〉進級・小学校への引き継ぎ

現状の育ちと必要な支援や配慮事項を、看護師・担当保育者に引継ぎ、その記録を次年度の個別計画に繋げる。小学校の引継ぎにおいて必要な場合は、保護者の同意を得て、教育委員会及びつくば市支援センターへ相談し、安心して通える状況を構築する。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：50名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：5名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：みはらし公園にて開催　集客目標：20名

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年２月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時00分
自己評価終了予定時刻：12時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、当日出勤の職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	全スタッフが子どもにとって必要な体験とは何かを問い、将来にわたって望ましい子ども像の育成を目指す。スタッフは子どもが社会の一員として必要な体験を選びとれる環境を整え、丁寧で継続的な保育を実践する。その実践を通じて学びを深め、スタッフ間で共有し、保育の楽しさと共に子どもの姿の変化を利用者や地域に発信しながら、社会に貢献できる資質の育成に努める。
	振り返り	毎日の日課や戸外体験活動を継続的に丁寧に実践できた。1年間のゾーン会議や園会議において、各クラスの年齢発達や興味関心や季節感を加味しながら保育内容を協議し、その都度振り返ることができたことは、子どもの姿を捉える上で大変役に立った。また、子どもの育ちの過程を保護者へ共有したことで、園の保育実践への理解に繋がったことは、お互いにとって大きなメリットとなった。今後の継続にも繋げていきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	2016年に開園した後の10年間の園運営と保育内容について、その成果の総括をする。その結果、地域の中で広がりゆくどろんこ会の卒園生やその家庭との絆を深め、地域に根を下ろす園となる。これまでの振り返りをもとに、今後も大事に継続することと、新たに進めたいことを選別し、全スタッフの理解のもと新たな保育を展開する。
	重点施策	10年間の園運営と保育の成果の統括/年間行事の策定/子育て支援・地域交流・小学校交流・次世代育成の実践
2026年度	目指す姿	地域に根差した園として、乳幼児期の子育てと環境の関わりの大切さと「にんげん力」を高めるための取り組みを、誇りと自信を持って地域に示す。園目標を全スタッフが共通認識し、毎日の子どもとの保育実践の積み重ねから見取る子どもの成長を捉え、日常の在り方を常に見直しながら保育を更新していく。
	重点施策	園内外の研修参加と学びの実践と発表/ゾーン保育の話し合いと振り返りの実践/子育て支援・地域交流・小学校交流・次世代育成の実践
2027年度	目指す姿	子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育内容を常に考え、実践から得られた知恵とスキルを持ったスタッフ集団による地域社会への支援を目指す。保育の多様性と向き合い、より良い子育ての在り方を真摯に探ることで、スタッフが仕事に自信と誇り、喜びを持ち、地域が求める支援を考え、その具体策を示し、地域に還元する。
	重点施策	園内外の研修参加と学びの実践と発表/ゾーン保育の話し合いと振り返りの実践/子育て支援・地域交流・小学校交流・次世代育成の実践/地域公開の実施

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：つくばどろんこ保育園 施設長　瀧澤 佳子

２０２５年度　岩切どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

～目の前の子どもに丁寧に向き合い、育ちを支える～

開園１０年目となる岩切どろんこ保育園では、昨年度より対話を大切にした保育の実践を通して、質の向上に努めてきた。対話から見えてくる、子どもやスタッフ一人ひとりの思いを互いに受け止める、発達を踏まえた環境構成や丁寧な関わりの大切さなど、今年度も引き続き尽力していきたい。共働きが主流の現代社会では、家で過ごす時間よりも、園で過ごす時間が主となる子どもが多い現状にある。より家庭的な雰囲気を大切に保育者や他の子どもたちと関わる中での育ちを支えていく、また子どものありのままの姿を受け止め、一人ひとりに合わせた丁寧な保育を園全体で展開するために、常に学び合う、研鑽する姿勢を持った集団を目指していく。

上記を踏まえ、以下の項目を基本方針とする。

１．日々の日課を丁寧に行い、生活力を身に付ける
２．個々を尊重し、自分も他者も大切にできる価値観を育む
３．命をいただく体験を通して、命の尊さや食の循環について知る
４．子どもの育ちを保証する物的環境の設定

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育を語り合う風土を定着し、子どもの成長や保育を楽しむ
	実践予定内容	エピソード研修や、日々の保育の振り返りを行い、自身の保育の振り返りの機会を設ける。また他の保育者の価値観や視点を共有することで、保育の奥深さや面白さを感じる。
2	計画・ねらい	園内研修や園長大学®保育士大学講座を活用し、専門性を高める
	実践予定内容	自分の考えを積極的に発信できる力を身に付けられるよう、学ぶだけでなく学んだ事をアウトプットする機会を設ける。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の立案
	実践予定内容	各計画立案の前に、クラスやフロアで子どもの興味関心や、発達、人間関係について話し合う機会を作る。その上で、今後の育ちを見通した計画を立案することで、連続性のある保育を実現していく。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った保護者支援
	実践予定内容	家庭や園でのお子さんの様子の共有はもちろんのこと、保護者の方の様々な困り感を傾聴していくことで保護者に寄り添った対応を心がける。
2	計画・ねらい	気持ちの良い挨拶から信頼関係を築く
	実践予定内容	送迎時に最初にかける言葉は挨拶である。明るく元気な挨拶を心がけ、信頼関係を築く。余裕のある立ち振る舞いをすることで、保護者が話しやす

		い雰囲気作り、豊かなコミュニケーションが図れるようにする。
3	計画・ねらい	親切丁寧な保護者対応
	実践予定内容	スタッフの接遇に対する理解を深め、保護者一人ひとりの気持ちを汲み取った心を込めた対応を行う。働きながら育児をする保護者の立場に立ち、親切丁寧な対応をすることでホッと一息つける場所となる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域のネットワークを活用した子育て支援の広報活動
	実践予定内容	子育てネットワークの会議で地域との繋がりを持つことで、自園の子育て支援の取り組みをアピールする。
2	計画・ねらい	子育て支援活動の充実
	実践予定内容	近隣施設のみだけでなく、範囲を広げて子育て支援の活動を広報することで一人でも多くの方に来園してもらう。 気軽に参加できる活動を計画し活動の充実を図る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	社会人基礎力の向上
	実践予定内容	社会人基礎力の３つの力「考え抜く力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を身に付け、園全体で自立した集団を目指していく。 園長大学・保育士大学講座などを活用し、ビジネスマナーや接遇など社会人としての基礎知識を学ぶ機会を設ける。
2	計画・ねらい	エピソード研修
	実践予定内容	自身の保育を振り返る意識を定着させる。目の前の姿を肯定的に受け止め、明日の保育に繋いでいくことで、保育の質の向上を図る。 エピソードを周りのスタッフと共有する中で、互いの保育観や価値観の違いを知り、認め合う・語り合う中で、同僚性を高めていく。
3	計画・ねらい	スタッフのスキルや個性を活かした保育を行う中で、自己肯定感を高める
	実践予定内容	施設長や主任・リーダースタッフを中心に、保育者一人ひとりの対話の中で、強みやスキルを引き出し、保育での実践に繋げていく。また、保育を振り返る中で、PDCAのサイクルの意識を定着させる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	命をいただく経験を通して、生命の尊さや食の循環への意識を育む
	実践予定内容	鶏や魚など、身近な食材が自分の口に入るまでの過程を知る。 畑仕事・食材加工・命をいただく活動を実践する。
2	計画・ねらい	毎日の日課である畑仕事に取り組む中で、その場で必要なことを判断し、自ら行動する力を身に付ける
	実践予定内容	毎日の畑仕事を丁寧に行う中で、育てている作物への興味や関心を広げ、主体的な関わりを大切にしていく。 畑仕事で保育者から道具の扱い方を学び、実際に使ったり、異年齢児同士で使い方を共有したりしようとする。

〈6〉保育を語り合う～子どもを肯定的に捉える視点～

1	計画・ねらい	互いの価値観の違いを受け入れ、支え合う中で同僚性の向上を図る
	実践予定内容	園内研修や、保育者の対話の時間を設け、互いの価値観や保育観の違いを知る。その中で相手を知ろうとする意識を持ち、よりチーム力の高い集団となっていく。
2	計画・ねらい	エピソード研修を通して、自身の思いを発信する
	実践予定内容	日々保育を行う中で、子どもの姿を捉える視点を磨く。子どもの行動や発言、遊びひとつひとつをじっくりと観察し、その中での気付きや発見を記録し、エピソード研修に持ち込む。保育者がエピソードを振り返りながら、どう関わったか、どう感じたのかなど自身の思いを発言する場を日々設ける。
3	計画・ねらい	子ども理解の本質を学び、保育を楽しめる集団となっていく
	実践予定内容	子どもたちの毎分毎秒変化していく心持ちに分からなさや疑問を感じながらも、あきらめずに理解しようと探求する肯定的な姿勢を身に付ける。 保育の面白さを感じる・共感できる集団を目指す。

〈7〉接遇と美観

1	計画・ねらい	相手を思いやり、心を込めた接遇を定着させる
	実践予定内容	来訪した全ての方や、保護者・子ども、他のスタッフに思いやりを持ち、言動や立ち振る舞いを意識しながら、心地の良い園の風土を構築する。
2	計画・ねらい	気持ちの良い園内環境の維持、美観への意識向上を図る
	実践予定内容	清掃個所の担当や仕組みの見直しや、汚れや乱れに気付いたらすぐに清掃や整頓を行う習慣を身に付け、気持ちの良い園内環境の維持を目指す。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	18人	18人	22人	22人	22人	111人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	事務	1人	用務	1人				

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修　　保育の振り返り
給食運営会議	月1回	食事の様子の共有　食育活動振り返り
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの分析　危機管理等の共有
ケース会議	月1回	子どもの姿、課題と支援の共有
週会議	隔週	各クラスの情報共有　行事等の確認、共有
クラス会議	隔週	保育計画についての振り返りと今後の共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内の情報共有　事故防止委員会
施設長勉強会	月1回	テーマに沿った研修、情報交換
食育会議	年4回	食育や食の循環教育活動に関する研修　実践報告
保健会議	年4回	衛生管理や感染症についての研修
主任会議	月1回	テーマに沿った研修　主任の役割について
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに沿った研修　実践報告、情報交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	健康管理、衛生管理、感染症流行時、発生時の対応
安全対策係	施設内外の遊具、設備等の安全点検　スタッフの危機管理の共有
防火管理者	災害を想定した訓練の実施　設備の点検
食品衛生責任者	マニュアルに基づいた衛生管理　給食の提供
畑係	畑計画の作成　　年間を通した畑の管理　種、苗の購入
生き物係	飼育の管理　　堆肥作り　エサの管理、購入

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ企画、運営連携　地域との連携
岩切市民まつり	岩切市民まつりのお手伝い　　ブース展開

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人ひとりの欲求を満たし、情緒の安定を図る ・新しい生活に慣れ、生活リズムを整えながら安心して過ごす ・安心できる保育者や友だちのもと様々なものへの興味関心を育む
	下半期 0～1歳児	・一人遊びを十分に楽しみ周りの環境へ関心を持つ ・身近な大人との信頼関係が構築され、自分の気持ちを安心して表出する ・様々な人と関わる中で自我が芽生えたり、自分でしようとしたりする気持ちを大事にする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・基本的な生活習慣を身に着ける ・生活や遊びの中で葛藤など様々な気持ちを経験する ・言葉や仕草で自分の思いを相手に伝えようとしたり、相手の話を聞こうとしたりする。
	下半期 2～5歳児	・仲間と協働で遊びを進める力を育む ・自分で考え行動しながら主体的に生活する ・自分で考えたり、工夫したり、判断したりしながら創造性を培って

		いく ・遊びや生活の中で達成感や満足感を得ながら、自信をつけ意欲的に過ごす。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	家庭的で落ち着いた環境で、様々な人と一緒に食べる
	実践予定内容	保育者だけでなく、調理士・用務員・主任・施設長も子どもと一緒に食べる。落ち着いた食事の環境を構築し、丁寧な関わりの中で食への意欲を育む。
2	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する
	実践予定内容	食材の旬や季節感を感じたり、様々な地域の産物や食文化に触れたり、多様な食経験を大切にする。
3	計画・ねらい	野菜くずを活用した堆肥作りを通して、食の循環や環境への意識を育む
	実践予定内容	コンポストを使って野菜くずを活用した堆肥を作る。日々の畑仕事の中で、野菜の成長に必要なことが分かり、堆肥を使用して良い土壌環境を維持しようとする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い、歯磨き、薄着の指導

流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 8月頃･･･プール熱 12～1月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし 抗アレルギー薬･･･3名より預かり済み／スタッフ室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ3名については3月19日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ3名については6月までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。などを各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日

	児童健康診断	内科健診　年2回／4･10月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	目の前の子どもの姿から興味関心を捉え、環境を再構築するサイクルを定着させる。
	実践予定内容	日々の保育の中でのエピソード記録や、マインドマップ、ポートフォリオ等を活用し、遊びや活動を可視化する。また、子どもの姿に合わせた環境の再構成を実現するために、子どもとのサークルタイムや、フロア間での保育の振り返りの時間を大切にする。
2	計画・ねらい	全ての子どもの居場所がある、居心地の良い園を創る
	実践予定内容	全ての子どもに自分にとっての安心できる場所があり、そこを安全基地として、新しい環境や経験と行き来できることを保障する。
3	計画・ねらい	整えられた空間の中で、整理整頓の意識を身に付ける
	実践予定内容	保育者一人ひとりが子どもたちの生活の場の美観維持のための意識を持つ。室内の動線を考えた上で環境を構成し、取り出しやすさ、片付けやすさを考える。 清潔な環境で過ごす気持ちよさや安心感がもてるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	小屋	園庭	毎日
2	製作テーブル	1階保育室	毎日
3	レゴ台	1階保育室	毎日
4	お一人様コーナー	1階保育室　2階保育室	毎日
5	ベンチ	2階保育室	毎日
6	丸太の平均台	2階保育室	毎日
7	ハイハイスロープ	２階保育室倉庫	毎日
8	太鼓橋	2階保育室	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	園庭・室内遊具(手作り)毎日の点検) 毎日点検することで未然にけがや事故を防ぐ
2	実践予定内容	地震等災害に備え避難訓練を実施する。また、備蓄品の在庫確認、発電機等の使い方を把握災害時速やかな対応ができるようにする
3	実践予定内容	けがや事故を未然に防ぐためヒヤリハット、インシデント、他園の事故記録簿を分析する。けがや事故が発生した場合は都度検証と分析を行い、同じことが起きないようスタッフで周知徹底する
4	実践予定内容	築山にピンクたすきを付けたスタッフが立ち、子どもの遊びの様子の把握や安全なスタッフ配置の指示をするとともに、不審者に対する視点も持ちながら全体把握に努める
5	実践予定内容	年4回のハザードマップの見直し
6	実践予定内容	光化学スモッグについて確認し発生時の対応の共通理解を図る

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生：保育が楽しいと感じてもらえるよう丁寧に指導していく。細やかなコミュニケーションを図り、安心して実習に臨める環境を整える。
中高生の受入：保育の面白さ、楽しさを感じてもらえるよう子どもと関わる時間をしっかり保障する

1	実践予定内容	実習生の受け入れ
2	実践予定内容	中学生の職場体験の受け入れ
3	実践予定内容	養成校のボランティアの受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度　園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者対応のポイント ③ 人権チェック・虐待防止研修	・保護者への理解を深める ・保護者対応時の要点を知る
5月16日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理について	・子どもたちの生活の中でのリスクについて考える
6月13日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点	・子どもの発達を踏まえた環境構成

		② 環境について（ゾーン保育の理解）	について
7月11日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの危機管理	・水遊びやプール遊びの危機管理について動画を使いながら学ぶ
8月8日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 日課の重要性 ③ 丁寧な保育～養護～	・丁寧な日課の実現のために、日々の振り返りや流れについて話し合う ・養護の本質について、園長大学講座を使用しながら学ぶ
9月12日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② １０の姿について	・子どもたちの動画を視聴しながら、１０の姿を探っていく
10月10日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校接続を考える ③ 人権チェック・虐待防止研修	・小学校接続を見据え、今後の保育について話し合う ・園長大学講座の視聴
11月14日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② ＳＩＤＳ防止研修	・SIDSについて園長大学講座を視聴し、危機意識の再認識を図る
12月12日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修	・保育の中の虐待について考える ・アンガーマネジメントを知る
1月16日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 非認知能力について	・非認知能力を育むための関わりについて学ぶ
2月20日	18:00～21:00	① コンピテンシー自己採点 ② 昨年度の振り返り	・今年度の保育を振り返り、次年度の保育に繋げる
3月1日	18:00～21:00	① コンピテンシー自己採点 ② 来年度の行事決定	・法人の理念、園目標を理解した上で、子どもに必要な経験を考える

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用
全社員研修	9月末までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子育て支援ちきんえっぐや園開放の取り組み、園行事などの活動を広く発信し地域の遊び場として地域の子育て家庭の支援を行う。高齢者や異世代の人との交流の場を持つことで様々な人と関わり、にんげん力を育んでいく

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：400名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：一号公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問
異年齢交流	小中高生との交流
地域拠点活動	子育て支援ちきんえっぐ　園開放　岩切子育てネットワーク参加
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

小学校一年生との子ども間交流やスタッフの授業見学等の場を積極的に設けられるよう小学校と連携を図る。スタッフ間の情報共有を行い、スムーズな接続に向けていく。アプローチカリキュラムを作成し保育実践をしていく。連絡会に参加し丁寧な引継ぎを行う。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を３月２０日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	岩切小学校 1年	22名予定	（当保育園保育室）	小学校一年を知る
9月頃	岩切小学校 1年	22名予定	岩切小学校	子ども間交流
９～１１月頃	岩切小学校 1年	3名予定	授業参観	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

半期の計画を年度初めに作成し、月ごと一人ひとりの発達に合わせながら必要な支援計画を作成する。月に１回ケース会議内で現状の課題や今後の支援について話し合い、保護者とも共有しながら計画を見直し、作成する。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：６名予定）

支援計画をもとに、一か月の子どもの様子や取り組みについて振り返りを実施する。現状を共有し今後に向けた支援の共通理解を図る。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

幼保小連絡会の資料や保育児童要録を作成する。保護者とも綿密な連携を図り丁寧な引継を行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：10名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：3名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：3名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：3名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回　公園名：一号公園にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年６月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１８時３０分
自己評価実施予定者：全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	同僚性を高めチームとしての保育の実践の実現 美観への基準を揃え整理整頓された環境設定の徹底
	振り返り	昨年度はスタッフ編成が大きく変わったことにより、スタッフ同士の関係性の構築やチームとしての連携について力を入れ取り組んできた。同僚性を高めるために、スタッフ間のコミュニケーションや日々の保育の振り返りの機会を設け、保育の質の研鑽に取り組む。スタッフ同士の対

		話の中で、発信力や取り組みへの行動力の差という課題が上がった。来年度も引き続き取り組んでいく。美観への意識については、スタッフ同士声を掛け合い、美観向上のための話し合いを行う中で、園全体の意識が高まったように感じる。今後は清掃個所の担当や仕組みの見直しや、汚れや乱れに気付いたらすぐに清掃や整頓を行う習慣を身に付け、気持ちの良い園内環境の維持を目指していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	個性を受け止め合い、支え合う園内風土の構築 日々の語り合いを通した丁寧な保育の実践 社会人基礎力の向上、自ら考え・発信する力を身に付ける 来訪した方への思いやりの思考、接遇と美観の向上
	重点施策	スタッフ同士のコミュニケーションの中で、相手の個性や価値観の違いを理解し、互いに支え合うあたたかみのある職場環境の構築を目指していく。昨年度、対話を通した保育の実践を園目標として取り組んできた。会議形式での対話ではなく、隙間時間に自然と生まれる対話が根付くよう、エピソード研修や子どもの姿を捉える視点を増やしていく。その中で昨年度の課題として取り上げている発信力を高められるよう、リーダースタッフのファシリテーションスキルの向上を研鑽していく。園内で過ごす全ての人にとって心地の良い環境を保つため、日々の清掃業務だけでなく汚れや乱れに気付いたらすぐに行動する習慣を身に付ける。
2026年度	目指す姿	本物の経験を知る、にんげん力の高い保育者の育成 目の前の子どもに丁寧に向き合う視点を持ち、質の高い保育を実践する PDCAサイクルの意識が定着し、自ら考え行動する集団となる
	重点施策	子どもたちの生きる力の獲得を保証するために、保育者自身が本物の経験の知識を身に付けなければならない。園内研修などを活用し、自然の中での遊びの引き出しを増やし、道具の扱い方、子どもの育ちの基盤となる多様な物的環境の設定などを学ぶ時間を設け、日々研鑽する姿勢を大切にしていく。子ども理解に正解はなく、保育者によって関わり方や感じ方など価値観にずれがある。日々のエピソードを活用し、保育者同士の関わり合いの中で他者の価値観に触れる、自らの保育を省みる視点を定着させ、子どもに向き合う肯定的な姿勢を園全体で向上させる。
2027年度	目指す姿	質の高い丁寧な保育の提供、地域で選ばれる園となる 語り合いで紡ぐ、連続性のある保育の実践
	重点施策	丁寧で質の高い保育を提供し、またその取り組みを外部発信している。 保育を語り合い、お互い認め合いながらチーム力を高め、保育内容の充実や質の向上を目指す。 子どもの育ちを促す物的環境が常に更新され、自ら選択し経験することが保障された場を維持する。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：岩切どろんこ保育園 施設長　山本　明子

２０２５年度　メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム
事業計画書

Ⅰ.基本方針

自分で考えて（スタッフを含めて）行動する力を育てていくために、以下を念頭に子どもの主体性を引き出す環境・体験・学び・成長に必要な環境を大切にして行く。人間形成に重要な乳幼児期を培っていることを受け止め、スタッフ全員が常に子どもの最善の利益を念頭に子どもの人格、危機管理意識を最善にしながら必要な体験を与え、保育にあたる。

１，子どもをいつも真ん中にして、保護者と子どもの成長した事や良かった所を認めながら、スタッフ全員で共有していくこと

２，どろんこ会グループの保育園として、子どもにとって真に必要な機会を用意して、生きる力のある心と体を育てる

３，どろんこ会グループが基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操や音楽指導・９時出発散歩・生き物の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でのお風呂の日・青空保育を実施する

４，リアルな体験・原体験をもとに自分の力で健康で安全な生活をつくりだす力を養う。室内・室外共に子ども自発的に関わる環境を設定する

５，感じたことや考えてことを水・砂・土・紙・粘土を使用し、造形・描写にて表現する。活動を子ども自身が選択したり自分で考えたことを発表したりする

６，就学に向けてアプローチプログラムを作りつつ数量・図形・文字・運動・音楽表現を指導する

７，地域の方々に積極的に挨拶をはじめ交流を深めることにより、地域に密着した保育園を目指していくと共に地域の核となる子育ち支援を実施していく

８，保育の課題などの共通理解や共同性を高め、保育園全体として保育の質の向上を図っていくための園内研修を計画的に実施していく子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べることを基本として食欲と意欲を育てる

９，どろんこ会の食育方針（1）栄養士・調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる（２）噛力を育て素材の味を味わえる状態で提供する（３）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる基本として食欲と意欲を育てる。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育士、栄養士、看護師、事務員などすべてのスタッフがそれぞれの専門知識と技術のスキルを磨き、常に自己目標に向かって研修などを利用して勉強に励む。
	実践予定内容	各々が研修、勉強会などで得た知識を習得し、それぞれの専門知識を持ってお互いに話し合いの場を多く持ち、アウトプット・インプットの場を創出する。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して子どもの心に寄り添い、見通しを持って物的、人的環境を整え、計画的に保育を実践する。
	実践予定内容	子どもたちの気持ちや遊んでいる様子など細かく観察し、話し合いの場で子どもの状況を共有し、皆が寄り添える環境を創る。
3	計画・ねらい	子どもの主体性を伸ばすために、子ども同士で生じた課題は子ども同士で解決できるようサポートを行う。
	実践予定内容	子ども同士で話し合いや譲り合いが行えるよう、スタッフはサポートし、気持ちの葛藤などを経験させる。そして、その子どもをしっかり受け止める。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	大切な子どもを預ける不安をしっかりと把握し、安心して仕事ができるように日々の様子をスタッフ全員が小さな情報も適宜共有する。
	実践予定内容	スタッフは日々の子どもたちの様子を共有し、特に頑張ったところを保護者に伝えていく。また、連絡帳でも子どもの様子を細かく伝える。
2	計画・ねらい	保護者面談を積極的に実施する。
	実践予定内容	日々の送迎等で少し悩みや不安を持たれているような保護者に積極的に言葉を掛け、個人面談を実施し、保護者ニーズを把握し、日々の運営に反映する。
3	計画・ねらい	年2回予定の保護者懇談会において、保護者に日々の子どもの姿を伝えると同時に保護者間の交流を深める。
	実践予定内容	普段の生活の様子を細かく記録しながら、園での様子に興味を持っていただき、懇談会に参加して良かったと感じてもらえるよう企画する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育ての悩みや不安に対する相談や親子で遊ぶ機会の提供などを多く持ち、地域の中での子育て機能を明確にして、対象となる人々の拠点となる。
	実践予定内容	保育園をより多くの方に知ってもらえるよう、パンフレットやちきんえっぐだよりを見やすいところや、子育て支援センター、市役所などに掲示し、興味を持ってもらえるようにする。
2	計画・ねらい	保育園は【いつ来てもいい所】として、地域に浸透させていく
	実践予定内容	散歩や青空保育・商店街ツアーなどで地域の方に積極的に挨拶、声がけをして保育園の認知度向上に努める
3	計画・ねらい	地域の集まりや行事に参加しながら交流を深めていく

	実践予定内容	地域の行事にできるだけ多くのスタッフが参加して、意見交換を行い、保育園の認知度向上に努める

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	それぞれが自発的に学び、話し合いを繰り返すことで、共有する機会を増やし、学び合い、支え合う保育者集団をつくる
	実践予定内容	スタッフ各自が研修や課題について積極的に取り組み、学んだことを園会議などで多くのスタッフに共有していくことで視野を広げる。
2	計画・ねらい	スタッフ間のコミュニケーションを高め、お互いの思いを共有できる様な話し合いの場を創出する。
	実践予定内容	園会議の場だけでなく、普段からスタッフ間でコミュニケーションが取れるよう、役職者がタイムマネジメントを行い、話し合いの場を創出する。
3	計画・ねらい	自己肯定できる保育を日々考えながら実践をすることで、子どもが自ら主体的に活動し、自発的に生活できるように援助できるスタッフ育成をする
	実践予定内容	オンライン研修の園長大学®保育士大学を積極的に活用し、子ども自ら主体的に活動できる環境構成を日々行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑で採れた野菜を積極的に活用する。
	実践予定内容	自給自足とまでは言わないが、自分たちで一生懸命育てた野菜などを収穫する喜びから、それを調理して食すまでの喜びを味わえるよう、子どもたちに日々働きかけを行う。
2	計画・ねらい	コンポストを実施し、肥料をつくり活用していく
	実践予定内容	改めてコンポストの意味を再確認して、子どもも巻き込んでみんなで目的・目標を話し合いしながら進める。
3	計画・ねらい	同グループの仙台3園合同で鶏をしめる体験の実施
	実践予定内容	仙台3園で計画を立て実行し、命をいただくことへの感謝の気持ち・食の循環を子どもに教える

〈6〉食の大切さを知る（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	年間を通して野菜や植物の成長に関わり、収穫や食育活動等で、健康な体を作ることや生命の大切さを理解できるようになる
	実践予定内容	実際に畑やプランターで、野菜や植物の成長を観察しながら生命の大切さを教える。
2	計画・ねらい	食べたいものを食べたい人と食べたいだけ食べる経験をもとに食への関心を持たせる。
	実践予定内容	友達や保育者と一緒になって食べることの楽しさを味わうことの機会を多く持つ。
3	計画・ねらい	園庭にある畑での四季折々の野菜つくり・コメつくり・芋掘りを経験させ、また火起こし体験も行い・焼き芋・ピザつくりなど食の循環・工程を知り、食べることの楽しさ、作ることの楽しさ、感謝の心を育ませる

	実践予定内容	事前に立てた畑計画の進捗状況を見ながら、遅れや漏れが出ないようにリーダー中心にスケジュールを確認し、実行する。

〈7〉大きな家の中で、全年齢の子どもたちが自由に行き来する保育園

1	計画・ねらい	子ども、保護者、スタッフが三位一体となり保育ができる保育園
	実践予定内容	いつも子どもたちの気持ち・成長を考えて話し合いを多く持ち、保護者へ共有できるようにする
2	計画・ねらい	異年齢の子どもたちが園舎・園庭を自由に行き来し、様々な友だちと関わり合い、お互いに手を差し伸べたりしながら、子どもたち、スタッフの笑顔がいっぱいの保育園にする
	実践予定内容	いつも子どもの気持ちに寄り添いながら、前向きに話し合えるスタッフ集団を心がける。

２.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	１８人	１８人	１８人	90人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人		
パートスタッフ	保育士	2人	用務	0人	調理	１人	事務	１人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・コンピテンシー ・活動の振り返り及び共有、子どもの姿の共有 ・園内研修
給食運営会議	月1回	・食育活動の策定 ・食育活動実施内容の共有 ・喫食状況（残食記録）の確認 ・給食簿指摘事項の確認
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントの分析 ・ハザードマップの見直し（年3回） ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策を分析 ・全園事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画及び考察 ・要支援児個別計画の見直し
リーダー会議	週1回	・各クラスの問題点 ・保育内容、環境について
クラス会議	その都度	・各クラスの保育内容 ・環境への配慮 ・その他

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例確認事項、コンピテンシー、請求スケジュール 各部署からの連絡、確認事項の伝達
施設長勉強会	月1回	マニュアル及び運用ルールの作成･見直し 保育における課題点の抽出･改善アクションプランの立案､成果発表 保育所保育指針の理解
食育会議	年4回	マニュアルの見直し、各園の取り組み、疑問や課題について話し合い
保健会議	年4回	マニュアルの見直し、各園の取り組み、感染症対策、衛生管理、疑問や課題について話し合い

主任会議	年4回	保育の見直し、スタッフと面談をして課題を出し合い話し合いを密にする
子育ての質を上げる会議	月1回	自分で考えたことを現場におろして結果を発表していくと同時に各園の状況を知り、勉強会を実施

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育環境、衛生、予防に関する提案
安全対策係	防犯、保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練、不審者訓練、通報訓練の実施、改善の取り組み、消防署への届出
食品衛生責任者	食の安全、食育活動への取り組み、衛生点検
畑係	年間を通しての企画、種、苗の購入
生き物係	日々生き物の世話をしながら、命の大切さを知らせていく

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と連携して一緒に行う
地域の文化祭	年長児共同作品出展

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育者との信頼関係の下、情緒の安定を第1に自分で見つけた遊びを充分に楽しむ ・一人一人の子どもの意欲を尊重し、食、遊び、眠りを満たす ・大人との対応的な関わりを通じて情緒的な絆が、形成される時期であるため愛情豊かに対応的に関わる ・天候にかかわらず基礎体力を培う
	下半期 0～1歳児	・子どもの感性を揺さぶり、遊んでみたくなるような環境を整え、満足感・充実感が得られるような保育を行う

		・いろいろな体験を通して、豊かな感性・創造性を育て運動機能を身につける ・他児や周囲への関心が高まる時期であるため、充分身体を動かし、色々な感覚を働かせ興味や関心を育て、思考力や認識力の基礎を培う ・生活や遊びを通じて、子どもたちの身体的、精神的、社会的な基礎を培う ・大人との間に愛着関係が形成される大事な時期であるため、子どもの様々な要求を満たすように、気持のやり取りを丁寧に行う ・保育士などの応対的な関わりや言葉がけにより自ら言葉を使おうとしたり、生活に必要な言葉に理解し聞き分けたり、遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ ・自我の発達するこの時期友達とのトラブルを通じて人との関わりを知る ・自分の意欲や努力を認め温かく見守り励まし、子どもの気持ちを受け止め、自己肯定感や様々な力を身につける ・なるべく戸外に出て体を動かし、室内でさくらさくらんぼ体操して、基礎体力を培う
幼児保育	上半期 3～5歳児	・発達、興味、関心にあった遊具環境を整え、継続的に遊びが展開され、一人ひとりが充分満足感や充実感が得られる保育を行う ・異年齢で生活する中で助け合いする経験を積み重ねていく ・絵本、紙芝居、素話などの読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばし豊かな感性を育む ・動植物を飼育、栽培し体験を通して、自然物や生き物の命の大切さを学ぶ ・生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かい心と身体を十分に働かせ,見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようにする ・戸外遊びを日々行う中で、身体機能の発達を促し安全についての構えを身につける
	下半期 2～5歳児	・リズム体操、表現遊びなどで自分を発揮し表現する意欲や協調性を育てる ・異年齢で触れ合う中で、お互いに刺激を受け合いながら、自分たちで、問題や課題を解決する力が育ち、相手の気持ちに気が付くことができるようになる ・自分たちで考えた約束やルールの中で、目的を持ち積極的に遊びを楽しむそして仲間意識を深め共同性を培う ・経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し相手に話こと、聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う ・生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と身体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる ・自然体験、野菜つくり体験、動物飼育体験のなかで命の尊さ等様々

		な感動を味わう ・戸外遊びを中心に、身体機能の発達、体力増進を図る ・子ども同士のグループで話し合い、役割を分担し、1つのものを、制作物、発表、ルールなどを作り上げ、共同遊びへつなげ、異年齢遊び、生活発表会などで表現していく
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	家庭的で落ち着いた環境作り 一人ひとりに合わせた食事の提供
	実践予定内容	食事中の会話を大事に知るなど楽しく食べることを常に意識し、丁寧な関わり方をする。 一人ひとりの食事の様子が把握できる食事の空間作りを心掛け、食事の様子について家庭と連携を取りながら食に対す意欲を育む。
2	計画・ねらい	調理くずによるコンポストにおいて食の循環や環境への意識を育む 食育体験を通して食への興味関心を持つ
	実践予定内容	調理くずの有無を掲示して見える化をするなど、子どもと一緒にコンポスト等の取り組みが行えるようにする。
3	計画・ねらい	季節の恵み、行事食、伝統食などを取り入れながら、子どもたちが楽しみに待つ給食提供に努める
	実践予定内容	地域の伝統食などにみんなで話し合いながら、食に対して興味関心を持たせる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年１回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの遂行・歯磨き指導・性教育
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃･･･嘔吐・下痢 12月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･4名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ1名については4月25日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ1名については4月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示、保険関係研修、会議に参加 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日

	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／4･10月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが遊び込めるゾーン作り、また同時にリスク防止強化
	実践予定内容	いつも危機管理を持ちながら遊びの様子や年齢や発達にあっているかの視点で定期的にハザードマップを見直す。
2	計画・ねらい	大人も子どももTrial＆Errorしながら関わる環境作り
	実践予定内容	ゾーンの物的環境や人的環境を整えることで、“やってみた”意欲を引き出し様々な環境に自ら関わる経験を積んでいく。
3	計画・ねらい	自ら選択し遊びこめる環境構成の実践
	実践予定内容	子どもの姿を踏まえた環境構成をするのはもちろんのこと、子どもの声や発達を見据えた環境構成をすることで興味関心、創造を育んでいく。 遊びが断続的にならず、“昨日の続き”が実践できるよう環境を整えたり、保育を展開したりする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	レゴブロック用テーブル	幼児室	毎日（朝1番）
2	製作ワゴン	幼児室	毎日（朝1番）
3	室内遊具（ボルダリング）	幼児室	毎日（朝1番）

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	年間計画に沿って避難訓練実施
2	実践予定内容	不審者侵入訓練（年2回）の実施
3	実践予定内容	事故防止委員会を開催・事故の検証と防止対策の話し合い実施
4	実践予定内容	設備点検、自主点検（毎日行う）
5	実践予定内容	インシデント、ヒヤリハットの検証、共有、再発防止策などの確認
6	実践予定内容	法人内の事故発生記録簿の全スタッフ回覧、再発防止策の話し合い実施
7	実践予定内容	ビル全体避難訓練（年1回）の実施

6.実習生・中高生の受入

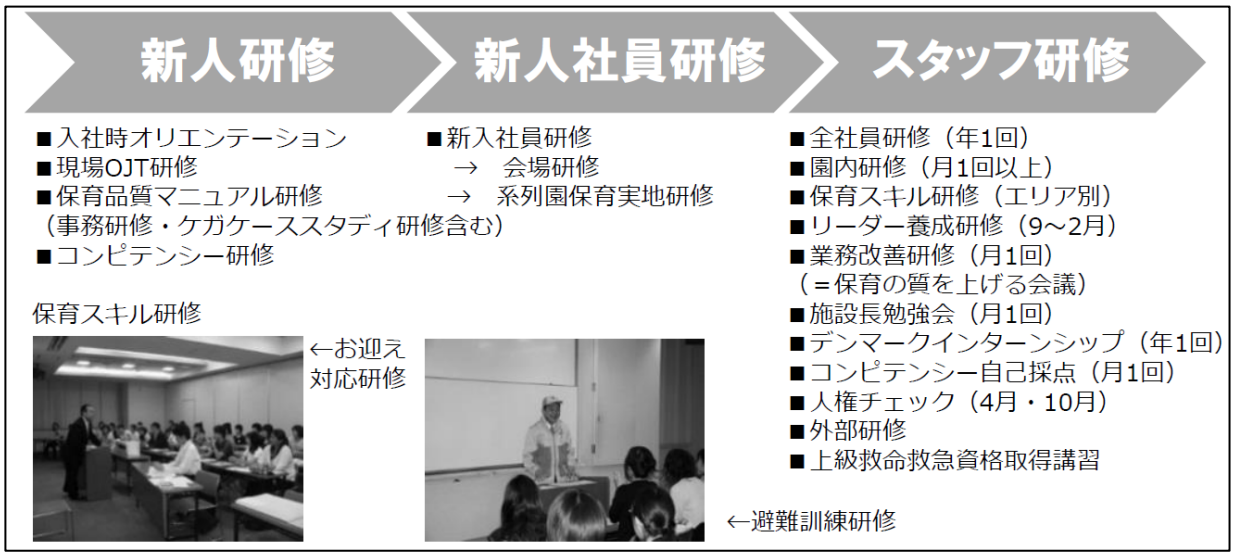
〈1〉今年度方針・テーマ

実習生：保育が楽しいと感じてもらえるよう丁寧に指導していく。細やかなコミュニケーションを図り、安心して実習に臨める環境を整える。
中高生の受入：保育の面白さ、楽しさを感じてもらえるよう子どもと関わる時間をしっかり保障する

1	実践予定内容	小学生、中学生との交流や職場体験
2	実践予定内容	実習生の受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

スタッフ全員が経験年数に合わせた目標をそれぞれ設定し、振り返ることをその都度行う。そして研修で学んだことを共有できる集団にしていく



〈1〉２０25年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 音楽・体育・のびのび教室指導について ③ 安心安全のための危機管理 ④ 人権チェック・虐待防止研修	2025年チームワーク作り園での取り組みについて怪我など危機管理研修
5月23日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇向上、連絡帳・タイムラインの書き方	言葉遣いや、電話の対応など具体的に説明して理解を深める
6月27日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② プールの安全・事故防止（ロールプレイ） ③ 保育環境の現状と見直し	プールの安全、事故防止
7月25日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 不適切な行為・虐待について ③ 日々の保育についてエピソードを用いて考える	実例研究をしての勉強会
8月22日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所保育指針について（全学年）気になる子について理解と連携について	各クラスの様子を共有しながら一人ひとりの思いを話し合う
9月26日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの発達について学ぶ ③ 保育の現状を振り返る	インクルーシブ教育について
10月24日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 就学前の保育について ③ 安心安全のための危機管理 ④ 人権チェック・虐待防止研修	アプローチプログラムについて
11月28日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 保育環境の現状と見直し	保育環境について

12月19日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査について	内部監査勉強会
1月23日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の振り返りと次年度の方向性	保育所保育指針について（全学年）
2月21日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 第1回策定会議	来年度に向けて
3月8日	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第二回策定会議	来年度に向けて

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月末までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉園長大学・保育士大学のコンテンツを活用した学びの創出

園長大学®・保育士大学の多数あるコンテンツを活用し、スタッフ一人ひとりが学ぶ機会を作る。園会議等で学んだことをアウトプットする場を設け、自分の学びの落とし込みをするとともに、園の

スタッフの学びにつなげる。
　人前で話す場を繰り返し持つことで大人ものおじせず話せるよう育成する

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

　地域の方と触れ合い、思いやり、いたわりの気持ちを持ち、感謝の心を育む場所にする

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：榴岡四丁目公園にて　　集客目標：120名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・近隣の老人施設との交流 ・地域の方々、祖父母の方々との交流 ・町内保育園との交流
異年齢交流	・大きな家で異年齢がまじりあい、兄弟のように過ごす ・小学校、中学校、高校との交流
地域拠点活動	青空保育、公開保育、職場体験の受け入れ、実習生
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

　小学校一年生との子ども間交流やスタッフの授業見学等の場を積極的に設けられるよう小学校と連携を図る。スタッフ間の情報共有を行い、スムーズな接続に向けていく。アプローチカリキュラムを作成し保育実践をしていく。連絡会に参加し丁寧な引継ぎを行っていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	榴岡小学校 1年全クラス	18名予定	小学校探検（榴岡小校庭）	子ども間交流
10月頃	榴岡小学校 1年全クラス	18名予定	授業参観	子ども間交流
2月頃	榴岡小学校 1年全クラス	18名予定	授業参観（榴岡小教室）	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

半期の計画を年度初めに作成し、月ごと一人ひとりの発達に合わせながら必要な支援計画を作成する。月に1回ケース会議内で現状の課題や今後の支援について話し合い、保護者とも共有しながら計画を見直し作成していく

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計１２回開催予定　参加者：3名予定）

　支援計画をもとに、一か月の子どもの様子や取り組みについて振り返りを実施する。現状を共有し今後に向けた支援の共通理解を図る。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

・年度末、担任からの進級児についての共有

・小学校との引継ぎとして、小学校との連絡共有、保育要録送付

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：200名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：100名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：100名

どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：100名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回　公園名：榴岡四丁目公園にて開催　集客目標：120名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１０月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１７時３０分
自己評価終了予定時刻：１８時００分
自己評価実施予定者：施設長・主任保育士・各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもを真ん中にして、子どもに寄り添い、養護を大切にする集団として注力する。子どもの発達に応じて適宜、環境構成を変化させられる集団になる。
	振り返り	環境構成を考える上で話し合いの時間を多く持ち、様々な決定を行ってきたが、なかなか浸透しないことが多くあった。「継続する」という事が自園の課題である。役職者が日々継続できるよう、タイムマネジメントしていく必要があった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	非認知能力を高め自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、協調性、社交性、道徳性、思いやりなど人と関わる能力が身につく子どもを育てる

	重点施策	子どもたちを真ん中にした保育を展開し、保護者と連携を図ると同時に地域に密着して根を張り巡らす。
2026年度	目指す姿	前年度の反省点を生かし、自分たちの目指した保育の質を後追いする。 自分たちの保育実践を保護者や地域、法人へ発信していく
	重点施策	常に先を見越した保育の連続性を意識し、線で保育を展開する。その連続性を形にして、保護者・地域などにツールを使用して発信する。
2027年度	目指す姿	次世代への引き継ぎを目的とし、リーダー的スタッフを中心にチームでの保育を展開する。
	重点施策	にんげん力が育まれ、リーダー的スタッフを中心に子どもにとって必要な経験を主体的に提案、実践する集団となる。 保育を語り合い、お互い認め合いながらチーム力を高めチームとしての保育内容の充実や質の向上を目指す。

以上

作成日：２０２５年１月31日　　作成者：メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム
施設長　末永　冨貴子

２０２５年度　東寺尾どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

「子ども主体の保育園」～見通しを持つ力を育む～

自らが選択肢、主体となって動くことができる子どもたちと育つべく、スタッフは、子ども主体における「東寺尾どろんこ保育園」を、保育者自身の言葉で語り、伝えることができる組織を目指すべく、以下の施設運営方針を基礎とする。

【主題】原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～

① 「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～

② 「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～

③ 「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

どろんこ会の保育園として目指す園の姿のポイント

1. 生活の体得
2. 10の姿の体得
3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4. 命をいただく活動の実践
5. 自律運営

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課、日々の生活から子ども自ら発揮し、乳幼児期に応じたホンモノ体験を積み重ねる。
	実践予定内容	生き物の世話、日課から命に係わる体験を実践していくことで、生命の保持と情緒の安定を図る養護と、自発的・自主的活動を図る教育が一体となった保育を強く意識して臨む。
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉え、子どもの個人差、子どもの姿を考慮しながら、どの子も１０に姿を体得する保育内容を創意工夫する。
	実践予定内容	「目指す子ども像（１０の姿）」を、日々の中の学びや保育の振り返りを通して、スタッフ間でよく話し合いながら実践し、本園の子ども、保護者、環境等を考慮した上で、保育内容を工夫し質の向上に努める。
3	計画・ねらい	どの子も自らがいつでも経験の選択をすることができることを前提とした環境設定とし、日々の保育の中からその選択肢を見出す。
	実践予定内容	インクルーシブの視点を前提に、年齢、発達を考慮した環境と同時にハザードマップの確立からどの子も遊びを選択できる環境を期毎に振り返り作り上げていく。
4	計画・ねらい	畑活動、生き物の飼育、堆肥作りの命の循環を実践し、命をいただくということを考え知る体験を積み重ねる。
	実践予定内容	循環による実践を通して命をいただく活動を実践と机上論として絵本や資料を活用し、理論と実践の融合をもって、その体験を確かなものとして行く。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	ICTサービスの活用。ご家庭への発信、子どもの姿や保育の姿「こだわりの保育の可視化・見える化」を推進する。
	実践予定内容	
2	計画・ねらい	直接的な関わり。いつでも、どんなことも、誰でも、子どものため共に考える場、相談できる時間を周知していく。
	実践予定内容	育児に携わるすべての人に対して、いつでも、どんなことでも話し、相談できる保育園として、門戸を開き、随時育児相談できる支援体制を確立する。
3	計画・ねらい	以上を①思いやり　②誠実さ　③謙虚さ　④感謝　を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスを提供する。
	実践予定内容	保育者と保護者様との礼節、敬意を以て、保護者支援に臨む。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て拠点としての役割の向上。
	実践予定内容	鶴見区をはじめ関係機関と連携及び協力を図り、子育て拠点として、保護者に寄り添いながら相談に応じる。障害がある子もない子も均しく子育て支援の輪を広げていく。
2	計画・ねらい	地域交流の起点となる保育園として確立する。
	実践予定内容	保育所の役割や機能を達成するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報がスタッフ間で共有されるようにする。
3	計画・ねらい	地域交流事業(ちきんえっぐ)の認知度向上、交流のハブ組織を目指す
	実践予定内容	散歩やその巡回を通して、ちきんえっぐたより(web版)の周知をし、公園や施設などで地域の方と言葉を交わしたときに、「いつ」「どんなことを」行っているかなど、対話を通して、繰り返し知らせていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	マニュアルの意味と必要性を考慮し、園マニュアル、保育品質マニュアルの遵守。
	実践予定内容	マニュアルの重要性を毎月の園会議で、読み合わせ、その意図を再確認しながら、遵守することを徹底する。
2	計画・ねらい	保育の連続性を追求するチーム保育を構築していく。
	実践予定内容	アセスメントの重要性を考慮し、PDCA、OODAサイクルで、デザインマップ、ポストイット、保育web、8つの窓等のアクティビティを活用し、その時に有効な打ち合わせの中で検証していき、チーム保育を作り上げる。
3	計画・ねらい	社会人として、保護者、地域の方と広くできる接遇力を身につける。
	実践予定内容	園長大学保育士大学、コンピテンシーの活用と併せて、事務、スタッフ間で昼礼にて常的に接遇の研修を日常的に行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材循環サイクル、SDGsの実行
	実践予定内容	給食調理廃棄を減らし、残渣の再利用の実施、「捨てる」ではなく「有効活用」の視点を持つ。
2	計画・ねらい	省エネ・省電力・カーボンニュートラルの実現
	実践予定内容	施設の日常生活で、環境に対する悪い影響を少なくする。
3	計画・ねらい	陸の豊かさをも守る活動の実践
	実践予定内容	自然物、木育＝木材利用に関する教育活動　の実施 地球温暖化や持続可能循環社会の形成など、環境問題について理解し、学び、実践し、保護者様にも興味関心を持てるよう啓蒙活動を行う

〈6〉マニュアル遵守を前提とした事故防止委員会で、事故を風化させない。

1	計画・ねらい	ヒヤリハット件数を増やし、予測力のあるスタッフ集団になる。
	実践予定内容	ヒヤリハットに自ら気付き、それを記録簿だけでなく、チャット機能で共有し、インシデント事故の未然防止へ繋げていく。
2	計画・ねらい	インシデント、対話的に深く考察し、通院事故を削減していく。
	実践予定内容	起こってしまったインシデントを共有し、再発事故に向けて、スタッフ間で考察共有していく。
3	計画・ねらい	主体的に、事故防止委員会を実施し、再発事故をゼロにする。
	実践予定内容	毎月の事故防止委員会をスタッフ主体で実施し、事故検証と共に再発防止策を多様なパターンで想定しながら、防止していく。

〈7〉ダイバーシティ(多様性)とインクルーシブ(包括)の保育の実践

1	計画・ねらい	個別配慮、受容という安易な保育にならないようにする。
	実践予定内容	個別配慮の必要性を安易な受容やルーティンで計画するのではなく、配慮の視野を広げ、子どもの姿から、混ざった状態での保育できるケース会議を実施し、多くの保育者視点を集めるための口頭だけでなく、社用携帯におけるチャット機能を活用していく。
2	計画・ねらい	配慮、支援が必要な園児に関わらず、多様な視点で対応を検討する。
	実践予定内容	一色単に子どもの姿を捉えることなく、スタッフ数の多さを利点に多様な視点から、ケース会議で対象の子どもを捉えていく。一人の子どもについて、リフレクションをしながら多方面から子どもをとらえることにより、他の子どもにも同じように必要な対応を実践していく。
3	計画・ねらい	タイバーシティなインクルーシブ保育の実践。
	実践予定内容	包括性、多様性を考慮した保育に臨むために、日々の記録の中での「エピソード」を通して具体化していく。子どもの姿そのものとそこでの関わりを日常の日誌で記録し、多様な姿、視点のエピソードを共有しながら、ケース会議へ繋げていく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	24人	25人	30人	30人	30人	154人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	16人	看護師	１人	栄養士	２人	調理員等	２人
							事務	１人
パートスタッフ	保育士	13人	補助	１人	調理	０人	用務	２人
	用務	２人					嘱託医	２人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー、研修報告、保育の振り返り、共有事項
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアルの確認、食育、アレルギー対応
事故防止委員会	月1回	安全対策、事故防止
ケース会議	月1回/随時	ケース検討、気になる子へのアプローチ、支援計画
週案会議	週1回	子どもの姿のベースで指導計画を立案する

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告、伝達事項
施設長勉強会	月1回	保育園の課題検討をしながらスキルアップ
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催
保健会議	年4回	各園の状況からの意識統一、園児健康管理業務改善
主任会議	年6回	主任としての保育園の課題検討とマネジメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質を向上させるべく勉強会

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	施設清掃と日々の点検　衛生的改善と疾病の予防処置 感染症発症の予防策を実施　保育所の衛生全般の管理
安全対策係	全スタッフの安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生責任者	食育会議の計画や実践、安全に対する管理や啓蒙
畑係	畑の年間計画の推進と環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、立案、計画とどろんこサポーターズとの連携。地域、各関係機関への周知、安全対策
子育て支援・相談担当	子育てに関する相談業務、寺親屋開催、地域育児支援イベント、子育てサロン、地域育児支援講座開催

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・言葉でのやり取りができない乳児期は周囲の大人との愛情やり取り豊かなやり取り（応答的）で、互いの気持ちを響き合わせて、様々な能力の基礎となる「信頼感」の発達を促す。 ・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 ・優しく語りかけたり、喃語や発語に応答したりして発語の意欲を育て、言葉を使うことを楽しむようにする。 ・安全な環境を整え、探索行動が活発にできるようにする。 ・身近な動植物に親しみ、関心や愛情が持てるようにする。 ・自然の中で、十分に体を動かして遊ぶ。
	下半期 0～1歳児	・子どもが何に興味を示しているのかを考えながら見守り、学びに向かう意欲へとつなげていく。 ・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちを育む。 ・生活に必要な言葉が次第にわかり、簡単な喃語や言葉を使って自分の意思を伝えようとする。 ・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊び、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 ・身近な自然に触れ自然を使った遊びを楽しむ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・子どもの主体性や意図を理解し、そこに子どもの個別の学びがどのように存在しているのかを考え、支援する。 ・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・友だちと一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わったりするようにする。 ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。 ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・友だちとの関わりの中でそれぞれが自分の力を発揮して活動に取り組む。 ・いろいろな体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれる。 ・自然に興味を持ち自分から関わって遊ぶ
	下半期 2～5歳児	・子どもの様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で捉えるようにする。

		・季節の変化に応じた健康的な生活に留意し、快適に過ごせるようにする。 ・食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事や間食を取るようになる。 ・自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につける。 ・友だちへの親しみや思いやりを深めながら、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする。 ・色々な体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれ自由な発想でのびのびと表現することを楽しむ。 ・身近な動植物や自然に関心を持ち、その大きさ、美しさ、不思議さに気づく。 ・希友だちへの親しみや思いやりを深めながら、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の３大食育方針
（１）調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる
（２）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
（３）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる）

1	計画・ねらい	子どもが中心となって、畑での作物つくり、伝承的な取り組みといった生活の中で、意欲をもって食にかかわる体験を重ね、食事を楽しむ。
	実践予定内容	畑で収穫したものを喜び、その場そのままで食べ、素材の味を実体験できるように、保障する。 生活の中の行事として、継続的且つ日常的に楽しむ「行事」としての食育を目指す。
2	計画・ねらい	生き物の飼育、ふれあいを通して、命をいただく活動と体験を充実する。
	実践予定内容	命を育み、その命を感じながら、命をいただいているということを、数回の行事のみで伝えるのではなく、日々の生き物の飼育から命を実感できるように伝え、感謝の心を育む。

3	計画・ねらい	SDGsの観点からの調理過程の野菜くずや残食などを堆肥つくり(コンポスト)や飼育動物の餌作りなど、子どもと一緒に行いながら、持続的・継続的な保育の取り組みを行う。
	実践予定内容	調理前の野菜くずの一部を使ったコンポストだけでなく、調理後の残食も活用したコンポストや、鳥類、魚類の餌作成(乾物)と、使用できる可能性を全て使っていくことを子どもたちと考えながら実践する。 その過程、成果をポートフォリオで見える化し、継続していく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導…6月/11月　手洗い指導…6月/11月 手洗い指導…6月/11月　目・耳の話…10月/2月 衣服の調節…5月/12月　感染症についての話…12月頃
流行が予測される感染症	通年･･･コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ４～　９月頃…手足口病・ヘルパンギーナ ６～１０月頃…マイコプラズマ肺炎 ７～１０月頃…咽頭結膜炎・流行性結膜炎 １１～３月頃…インフルエンザ・感染性胃腸炎 １１～５月頃…水痘・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 １～６月頃　…伝染性紅斑 ３～４月頃　…麻疹・風疹 １年を通して…突発性発疹・流行性耳下腺炎など
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･2名より預かり済み／休憩室冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在39名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月19日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在39名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員２名については3月19日までに受講予定
その他保健に関する取組	アレルギー食提供手順及び発生時の対応について/嘔吐物・下痢の処理の仕方/おむつ交換手順/予薬ルールについて品質管理マニュアルに則り、ロールプレイングしながら確認する。 新型コロナウイルス感染症および他ウイルス感染予防のため、うがい

	指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 行政からの通知掲示 スタッフの保健関係研修受講

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

「自分で考え、自分で行動する」
「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」

1	計画・ねらい	室内・室外・園外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定し続ける。
	実践予定内容	子どもの姿を起点に、園内、戸外で道具や材料などを随時仕掛けていき、クラス会議において、発達にあっているかアセスメントしていく。 異年齢児が混じりあう環境の中で、発達の差を考慮した環境設定になっているか、子どもが遊びこんでいるかなど、タイムラインでの発信と併用しながら写真での検証展開していく。 外部環境ありのままではなく、前述配慮を想定したものを仕掛けて環境設定していく。
2	計画・ねらい	安全性を維持していくことを基本とし、子どもたちの発達、個性に合った環境設定に仕掛けていく。
	実践予定内容	玩具の破損や材料の確認、設置場所の安全性など、各担当の係が中心になって、日常的に確認していく。 玩具の設定がマンネリ化していないかを四半期に一度、検証していく。
3	計画・ねらい	保育品質マニュアルを大前提として、前述1、2の環境設定の共通理解や体制作りのスタッフ意識を強化する。
	実践予定内容	子どもの姿を踏まえ、予測し、施設内外の安全点検に努める。 ヒヤリハット、インシデント検証しながら重大事故が発生しやすい場面を抽出し、子どもの主体性、自主性を大切にしつつ、室内外の環境に配慮し、チーム保育に努めながら、スタッフ同士が共有することを習慣化していく。 事故防止チェック、設備点検など確実に行い、不備がある場合にはすぐに対応し、全スタッフに周知する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	現在、手作り遊具無し	該当なし	該当なし

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	●防災対策として 災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や毎月消防計画に基づいた避難訓練の実施。また、「連絡体制の周知」と「行政等関係各所との連携」を行い、災害発生時に各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全を確保できる体制を整える。
2	実践予定内容	●ケガ事故防止対策として 保育中の事故防止として、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外

		の安全点検に努め、ケガ事故発生時対応フローチャートを全スタッフに周知する。フローチャートは更衣室・職員室に掲示し、全スタッフはいつでも対応できる状態にする。 ケガ、事故発生時またはケガに至らなかった記録（ヒヤリハット）を作成し、報告・共有の上、時系列で検証、分析し今後同じような怪我・事故の発生を防ぐ。 その都度、保育品質マニュアルを再確認し、マニュアル遵守を踏まえていく。
3	実践予定内容	●防犯対策として 定期的な不審者侵入対策の他、日々の不審者対策として 1．笛の携帯 2．代理送迎者登録の更新及び代理送迎者の身分証明書の確認 3．不審者情報の収集（各関係機関と連携を取り）不審者情報を随時収集する。 適宜、文書やメールでの共有・防犯速報の玄関への掲　示等を行う。
4	実践予定内容	●光化学スモック対策として 発令中は発令内容に看板・張り紙等の文書を掲示し、スタッフ・園児を屋外へ入れ、原則屋外活動は行わない。（特に運動）
5	実践予定内容	●熱中症対策として 過度な水分補給による塩分、電解質不足による脱水症状を考慮した正しい水分補給を理解した上で、子どもたち自らが水分補給できる環境設定をする。水分の損失が多い天候下では、活動そのものを随時検討する。
6	実践予定内容	●感染症対策として マニュアル、規定での日々の消毒を徹底し、過度な消毒にも留意しながら、感染対策していく。 法人、園、自治体、保健所と連携を取りながら対策していく。
7	実践予定内容	●情報収集 横浜市防災情報に登録。該当地域の情報を詳細に収集し、早期対応に努める。

6.実習生・中高生の受入

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任がある。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当園では実習生・研修生を積極的に受け入れていく。

〈1〉今年度方針・テーマ

【種類】小学校との生活科連携受入／中高生の体験学習の受入／保育養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ／他随時相談

実習生一般および学生の各種ボランティアの受け入れでは、ワークショップ開催し、随時いつでも受け入れる体制と雰囲気を、横浜どろんこ保育園の拠点園として確立していく。

1	実践予定内容	中学生、高校生や実習生が安心して保育園で子どもたちと接することができるようにスタッフが暖かく対応するように心がけ、子どもとの触れ

		合いから学びと楽しさを感じてもらえるように指導していく。
2	実践予定内容	実習、ボランティアといった一過性で終わってしまうのではなく、その後も継続的に交流で来てもらえるような体制作りをする。
3	実践予定内容	保育以外の分野の受け入れ、インターンシップの受け入れ。保育専門での学生だけでないダイバーシティー(多様性)で受け入れていく。

7.スタッフ育成と研修計画

園長大学保育士大学を活用し、日常的に学べる環境を作る。
日ごろから、保育者が子どものことを話し合いお互いに勉強しあうことや、様々な方法で学べるよう、学ぼうとする意識や学びやすい雰囲気づくりを施設長や主任、リーダーが意識して工夫して作り出していく。
・外部研修　施設長は研修の機会を確保し、研修を個人的な体験に終わらせず、研修で得た成果を職場で共有し、園全体の力にしていくよう努め、職場全体の実践力を高めていく。
・園内研修　施設長は保育の質の向上に向けた課題に組織的に対応するため、保育の内容の改善や保育者等の役割分担の見直し等に取り組むとともに、各スタッフが必要な知識や技能を見につけられるようにする。また、日常的にスタッフ同士が主体的に学びあう姿勢と環境を整え、職場内での研修の充実を図る。
・スタッフから園内研修について学びたいこと、検討したいこと等聞き取り反映させていき、スタッフが講師となり学びの場を設定する。その成果を実践報告として発表の場を設ける。
また、外部に発表し保育士としての専門的知識と自信を身につけていく。
・コンピテンシーのNo.３「計画・実行する」，４「判断する」については、チェックをするだけでなく、「日々の業務を遂行する」にあたり「子どもたちを真ん中に計画し、判断する」とは何かを設問の実際のケースを取り上げ、スタッフ内で話し合い高め合う。
・２０２５年度、スタッフ一人ひとりがMBO目標を立て、半期ごとに施設長が確認することにより、実践を確実なものにしていく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 怪我・ケーススタディ ③虐待防止研修	事故検証と再発防止策。事故防止委員の必要性を再確認する。
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育	子どもから学ぶインクルーシブ保育 障害児保育のこれまでとこれから
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育 ②水遊びのリスクマネジメント	子どもから学ぶインクルーシブ保育 「気になる子」ってどんな子？
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	子どもから学ぶインクルーシブ保育

		② インクルーシブ保育	
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育	大人が壊すインクルーシブ保育
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育	苦しさからやりがいに変わる～インクルーシブ保育
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育 ③虐待防止研修	チームで行うインクルーシブ保育
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所児童保育要録	保育所児童保育要録の書き方 「保育所児童保育要録」とは？
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所児童保育要録	保育所児童保育要録の書き方 子どもの育ちの捉え方
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所児童保育要録	保育所児童保育要録の書き方 要録～添削ワーク
2月20日	18:00～21:00	策定会議１日目	次年度に向けて
3月１日	9:00～18:00	策定会議２日目	次年度に向けて

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回
施設長勉強会	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回	１回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉キャリアアップ(エキスパート)研修の積極的な受講

専門性を高めるべく、どろんこ会主催のキャリアアップ研修を中心に、内外問わず積極的に受講し、その各能力を高めながら、自らが学ぶ意欲をと共に、リーダーとしての役割を認識し学びを深め、実践へ繋げていく。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

ヤギ、畑といった園資源(法人資源)を最大限活用しながら、地域の拠点園として、園内外問わずに子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組む。地域の方が自由に園を利用し相談しあえる仲間でいられるように、月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：６００名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：白幡公園ログハウスにて　　集客目標：１００名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加　老人施設訪問　どろんこ祭り　運動会　園外保育 学生交流
異年齢交流	近隣の幼、保、小、中学校との交流他、教育施設及び保育士養成校との交流　日常生活の中で異年齢保育の実施
地域拠点活動	ちきんえっぐ、一時保育、寺親屋の開催
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉人数多いため、分けて入浴

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

横浜市小学校架け橋プログラムを考慮し、年間を通して生活科とリンクした計画を立て、小学校への見通しを持って生活できるようにする。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月11日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	上寺尾小学校 1年1組	２名予定	授業参観（上寺尾小校教室）	職員間交流
10月頃	寺尾小学校 1年1組	30名予定	運動会（上寺尾小学校校庭）	子ども間交流
12月頃	寺尾小学校 1年1組	30名予定	授業参観（寺尾小教室）	子ども間交流
1月頃	上寺尾小学校 1年1組	30名予定	授業参観（上寺尾小教室）	子ども間交流
１～２月頃	就学先小学校	延べ20名予定	情報交流会（当園保育室）	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

保育の方法や内容について、個別支援計画を作成し日常的に保護者と話して理解を得ることや子どもの発達状況・課題発達について情報を共有し、認識の相違をなくすように努める。

期毎、保護者の願いを聞き取り、保育園での姿を共有するため計画的に個別面談を実施する。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：５名予定）

医療機関や専門機関による療育方針・方法を共有する。

保育所の保護者全体に対しても障害児保育への正しい認識が持てるように配慮していく.

子どもの特性を理解し心と体の発達にあったより良い保育のため、発達支援ルーム「つむぎ」と連携し、障害児保育研修を実施する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

障がいのある子どもの生活の質が高められるよう、その子どもの特性を活かすよう支援の経過を伝えると共に連携していく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：月間４００名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：相談件１００%実施
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：月間１００名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：月間２００名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：白幡公園ログハウスにて開催　集客目標：月間１００名

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

開園３年目と以降５年に１回受審。第三者評価を受けることにより質の向上を図る。
（２０２４年１月受審）

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年２月２０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１３時３０分
自己評価終了予定時刻：１４時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、各担当リーダー、若手スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	だれかではなく、自身が主体的に考え、言葉にし、周囲の大人が子どもを中心に考える環境を外部発信できるスタッフ集団になる。 主体的・対話的な深い学びの基礎となる背中を見せ続ける。
	振り返り	担当者を中心にスタッフ自身が主体的に各活動にtrial＆errorしながら臨み、内部監査の指摘事項もスタッフが主となり是正に向かっていった。対話不足の課題は残るものの引き続き会議、チャットを活用し臨んでいる。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	子どもが主体に動く保育園 子ども主体における「東寺尾どろんこ保育園」を、保育者自身の言葉で語り、伝えることができる組織を目指す。
	重点施策	大人もこどもも主体的・対話的な深い学びを探求し続ける。 伝える語る力を伸ばす上で、主体的な学びの場を増やし、学ばなければいけないではなく、学びたい意欲を育てていく。
2026年度	目指す姿	ダイバーシティな対話的な保育園 多様性における「東寺尾どろんこ保育園」を、保育者自身の言葉で語り、伝えることができる組織を目指す。
	重点施策	多様性(ダイバーシティ)を実践する礎である対話とこれまで目指してきた主体性を踏まえて、多くの人の交流ができる場としての拠点保育園としての機能を定着化する。
2027年度	目指す姿	主体的で対話的な深い学びを実現する保育園 生きる力、非認知能力を子どもたちだけでなく、大人も作ろうとする。
	重点施策	やるべくことをやりしたいことを実現するべく、民主主義的な対話を通し、自身で考え判断し、他者と対話するというサイクルを作っていく、作っていける力を築く。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：東寺尾どろんこ保育園 施設長　宮入 講一

２０２５年度　船橋どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

船橋市は千葉県で千葉市に次ぐ人口2番目の市であり、都心に通勤する保護者も多い市の中心部に位置する保育園として、整備された都会的な雰囲気と人口の多い雑踏の中であるが、以下のどろんこ会の基本方針をもって子どもたちを育み成長を見守る。

子育て理念『にんげん力。育てます。』
子育て目標『センス・オブ・ワンダー』
『人対人コミュニケーション』
生活・遊び・労働を教えあう保育園生活を実践していく。

【主題】原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
① 「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
② 「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
③ 「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

どろんこ会グループが目指す園の姿のポイント
1. 生活の体得
2. 10の姿の体得
3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4. 鶏を絞めて食す　命をいただく活動の実践
5. 自律運営

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	プロジェクト保育・年間を通じてテーマ設定に沿って保育を進める
	実践予定内容	策定会議で決定した担当保育者のテーマに沿って異年齢保育・表現活動・就学前教育などを担当保育者中心に進めていく
2	計画・ねらい	食育の充実・食育活動、畑作業、調理、廃棄物の活用の循環を意識する
	実践予定内容	畑にて野菜の生産し下拵え、クッキング、加工するなど食の循環を学ぶ
3	計画・ねらい	環境整備・心地の良い居場所づくり
	実践予定内容	各担当を中心に整理整頓・元に戻す・必要なものをきれいに設置する

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
	実践予定内容	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進める。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ
	実践予定内容	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進める。

3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ
	実践予定内容	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援室の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践予定内容	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)を実施する。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピール
	実践予定内容	月1回の近隣公園での青空保育の予告(ポスター掲示など)と実践時の招集活動の促進を行う。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践予定内容	高齢者施設・公民館・商店・銭湯への挨拶、訪問を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止の基本を理解する。
	実践予定内容	園内研修の実施。情報の共有。具体的な事例を知り、理解を深める。
2	計画・ねらい	大人の人間力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践予定内容	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践予定内容	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食物残渣の減量化
	実践予定内容	調理と連携し、日々の残渣を減らす。子どもたちは、日々給食食材に触れることで今日の食事を楽しみに過ごす。
2	計画・ねらい	地球環境への取り組み、食の循環
	実践予定内容	給食廃材や土を使ってコンポストを作成し土を再生させる。 命をいただく活動を通して環境教育を実践する。

〈6〉子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践予定内容	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進める。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践予定内容	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
3	計画・ねらい	人間力を身に付ける。平等性・情報の共有。

	実践予定内容	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることができる人材の育成。

〈7〉有言実行

1	計画・ねらい	期日を守る。提出期限・締め切りはあくまで最終日という事が意識出来る。
	実践予定内容	保育担当チームによるタスク管理。
2	計画・ねらい	有効な保育計画。子どもの成長に沿った保育計画を具体的に実践する。
	実践予定内容	保育計画の基本を意識した上で、臨機応変な対応をする。
3	計画・ねらい	自己計画。自分の目標を立て実行していく。
	実践予定内容	事務室内に目標を掲示し周知・周囲との協同を進める。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	12人	26人	28人	28人	110人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	9人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
	施設長	1人	主任	1人				
パートスタッフ	保育士	6人	補助	人	調理	人	事務	1人
	用務	1人					嘱託医	2人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー・情報共有・研修・交流
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育について
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返り
ケース会議	月1回	支援の必要な児童について
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り・見通し
行事会議	都度	行事についての計画反省

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人の確認事項など・月次報告
施設長勉強会	月1回	施設長の連携・保育を深めるための勉強会
食育会議	年4回	調理・施設長による食育全般について
保健会議	年4回	看護師・施設長による衛生管理などについて
主任会議	年4回	課内の主任による交流・勉強会
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のリーダーによる保育についての会議
併設園会議	年2回	併設園の施設長による情報交換・勉強会

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理の確認
安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認・
食品衛生責任者	給食の安全管理

畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
地域祭り係	地域行事への参加

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分に出来るようにし、友達との関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	・身近な大人との安定した関係のもと、一人遊びを十分に楽しみながら、自我が芽生える。 ・生活の中の様々な遊びや人との関りを通して自我が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・毎日の生活や遊びの中で基本的習慣や運動が心地よい感覚として身につく。 ・友達との関りを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。
	下半期 2～5歳児	・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら他者を受容する感情が育つ。 ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験し、目標に向かって友達と力を合わせて活動する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。
	実践予定内容	素材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践予定内容	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つ。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践予定内容	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事で、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き・手洗い・うがい指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月頃･･･溶連菌 １月頃･･･インフルエンザ
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員５名については４月1日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員５名については４月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	室内環境の整備
	実践予定内容	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定
2	計画・ねらい	保育園の出入り口の環境整備
	実践予定内容	子どもたちや保護者のスムーズな動線整備。随時見直す。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践予定内容	子どもたちと共に、ハザードマップの作成を進める。

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	避難訓練(月1回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちの子アプリ保護者向け書き込み。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト(年6回)
3	実践予定内容	不審者対応訓練(年2回)
4	実践予定内容	設備点検(年4回)
5	実践予定内容	事故防止委員会
6	実践予定内容	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践予定内容	光化学スモッグの対応

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

新設こども園の魅力を発信し職員全員で協力して作り上げていく姿勢を学生たちにも共有できるように「自分たちの園」を「自分たちで伝えられるように」自分事として意識し実践を進めていく。

1	実践予定内容	保育専門学校などの実習生の受入れ
2	実践予定内容	中高生の実習体験の受入れ
3	実践予定内容	研修生の受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

園内研修の本来目的である『同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見出すために、職場内での研修を行う。』先ずは、施設長自身が中心となり、全スタッフと膝を突き合わせて自園の保育を確実に良質にしていくため、園長大学®･保育士大学から適切な講座を選び､園内研修を計画していく。
また、別途、各スタッフに対しての育成計画は、個々のスキルや経験に応じたものを作成していく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②マナー研修 ③ケガケーススタディ・安全指導・虐待防止＋園長大学	新たなスタートの月。原点回帰。 事故記録簿などの見直し。
5月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②安全教育＋園長大学	子どもの人権の理解。虐待の定義。

6月20日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②危機管理 プール実施前事故防止＋園長大学	子どもの命を守る。
7月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者対応＋園長大学	保護者の信頼を得る。
8月15日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者支援＋園長大学	保護者面談について。
9月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②プロジェクト保育＋園長大学	上半期プロジェクト保育の進展
10月17日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②異年齢保育 ③安全教育・虐待防止＋園長大学	異年齢保育の魅力。
11月14日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②発達支援＋園長大学	インクルーシブ保育
12月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子ども観共有＋園長大学	エピソード記録公開
1月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②来年度の目標＋園長大学	今年度の振り返りから来年度へ。
2月20日	18:00～21:00	策定会議１日目	次年度に向けて
3月１日	9:00～18:00	策定会議２日目	次年度に向けて

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

大学講座および社内限定公開講座	
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉リーダー育成

リーダー会議での積極的な意見交換を重ね、具体的な対応を学ぶ。
様々な事例を検討し、先を見通せる力を培う。また常に現状を把握し、今目の前の子どもの最善の利益を追求出来ているかを確認しあう。
学ぶ姿勢を継続する。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

船橋どろんこ保育園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるようにしていく。また積極的に園を開放し地域の子育てに貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：150名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：　天沼弁天池公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問・中学・高校の体験学習の受け入れ
異年齢交流	小中学校交流、大学生との交流。他園との交流。
地域拠点活動	ちきんえっぐ・青空保育

銭湯でお風呂の日	月3回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

認可保育園として進学先や近隣の小学校との交流を積極的に進めていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	市場小学校 1年１組	10名予定	（小学校校庭）	子ども間交流
９月頃	船橋小学校 1年1組	10名予定	（小学校）	子ども間交流
12月頃	各小学校 1年1組	10名予定	授業参観 （小学校教室）	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

ケース会議にて共有と振り返りを行い、個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行う。子どもの成長をどのように支援をしていくかを保護者と共有し共に子育てを実践していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：5名予定）

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への引継ぎは児童指導要録、また各校の担当スタッフとの面談によって行う

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　集客目標：150人
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：20人
自然食堂…親子ランチ交流	月２回　10:00～12:00　集客目標：20人
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月１回　10:00～12:00　集客目標：10人
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　集客目標：150人
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：天沼弁天池公園にて開催　集客目標：15人

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時00分
自己評価終了予定時刻：15時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、幼児リーダー、乳児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	異年齢・インクルーシブ保育の推進
	振り返り	乳児も幼児もクラス年齢を超えた壁の無い保育を実践する努力は進められた。運動会や生活発表会も異年齢を意識し尚且つ個々の成長が感じられるような行事として計画し実施できた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	チーム保育の確立。異年齢・インクルーシブ保育の推進。
	重点施策	個人とチームでの目標設定。必要なコミュニケーションを全員が意識し、インターネット等を活用し発信していく。
2026年度	目指す姿	どろんこ保育園の理解を得る　広報活動の充実
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢を意識している。
2027年度	目指す姿	どろんこ会の保育方針がすべての人々に理解され、 保育園＝どろんこ保育園のイメージを確立する。 『大きなお家』ここなら安心いつでも快適。 どろんこ保育園旗艦園となる。
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢が全ての関係者に行き渡っている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：船橋どろんこ保育園 施設長　中島　はる香

２０２５年度　浦安どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

① 日課・基本保育活動へのこだわり

子どもに必要な経験を質高く丁寧に繰り返すことで、生活力を身につける。
太陽が出ている時間は戸外で活動し、日課である座禅、雑巾がけ、生き物の世話、畑仕事などの労働を欠かさず行う。
畑仕事・たい肥作りや泥遊び等、できる限り土に触れ、免疫を獲得するための環境構成、計画を実行する。
年間を通してたくさんの歌を歌い、歌詞の情景をイメージしながら歌うことで音楽の楽しさを知り、感性や感情が豊かになる。

② 子ども自らが自己決定をし、経験を選択できる環境設定

子ども同士で話し合う・順番を決める・皆の前で発表し、自分の意見を述べるなどができるように大人が環境構成を行う。
毎日のゾーン保育は、子どもが自分で行先を選択する。大人は主体的に参加したくなる複数の体験活動を展開する。大人が指定、制限しない。子どもが自分で選ぶ、決める。

③ ホンモノの体験と労働（命をいただく活動の実践）

焚火やナイフ、針など危険と敬遠されがちな道具に触れる環境を作り、子どもは火との距離の取り方を学び、ナイフや針の使い方を知る。指導では身につかない体験と失敗を繰り返すことで真の生きる力を体得する。
食べることは生涯にわたって続く「生きる力」である。子どもが自らの感覚や体験・労働を通して、自然・食材・食の循環・生命・環境への意識を身につけていく。

④ 選ばれる園づくり（自律運営）

基本活動に基づく保育を実践していくことで、子どもも保護者も安心して過ごせる環境を整える。
タイムライン・ポートフォリオ等で園の取り組みを配信したり、祭り等の行事への参加を呼びかけ地域の人との交流を盛んにしたりすることで、保護者、地域の人が集う地域に開かれた拠点となる。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課を確実丁寧に
	実践予定内容	人格形成期のイマを大切に、ホンモノの体験と労働を。 戸外活動9時出発、おなかがすくまで目一杯遊ぶことを保障する。 畑仕事・生き物の世話・長距離散歩・座禅・雑巾がけ・裸足保育・園側給食・さくらさくらんぼリズム・100曲の歌・すべてが子どもたちに必要な活動と捉え実践する。
2	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を見据えた保育の実践
	実践予定内容	大人は、子どもが主体的に参加したくなるような複数の体験活動を展開し

		Trial＆Errorを重ねていく中で、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の資質・能力を育む。
3	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践予定内容	日々の労働（畑仕事・生き物の世話）を実践し、食の循環、環境への意識を育む。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践予定内容	整理整頓・清掃を行い、いつみても気持ちのいい園内環境・明るく元気な挨拶を心がけ、丁寧な対応をすることで、保護者の方が安心できる環境を整える。
2	計画・ねらい	タイムライン・ポートフォリオによる共有
	実践予定内容	日々の活動の様子、子どもたちの姿を共有する。 お迎え時３分間対応は、日々の活動内容の共有だけでなく、一人ひとりの子どものエピソードを交え丁寧な対応を心がけることで保護者との信頼関係を築いていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援
	実践予定内容	園の行事やちきんえっぐのイベントに地域の方が参加していただけるようポスター掲示や浦安市子育てサイトでの周知をしていく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐのイベント・園見学・青空保育の参加者増
	実践予定内容	日々の散歩先で出会った地域の方に声をかけ、参加を促す。 地域の方が必要としている参加したくなる活動を設定し、一度参加した方が何度も参加したくなるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園長大学®･保育士大学の動画視聴を推奨
	実践予定内容	職員一人ひとりが自分に必要なコンテンツを視聴し、学び得たことを園会議などで共有、共通理解の機会を設ける。
2	計画・ねらい	学び続ける保育者集団になる
	実践予定内容	一人ひとりがテーマを決め、それに沿って学びを深め、講師となり園内研修を行う。園会議は、傾聴だけでなく、誰もが自分の意見を自分の言葉で話し、学び合う。
3	計画・ねらい	背中を見せられる大人になる
	実践予定内容	大人が日課・基本活動を理解し、子どもとともに行い、自分の仕事を最後までやり遂げる、約束を守るなど子どもの憧れの存在になる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食物残渣の減量
	実践予定内容	調理職員だけでなく、職員全員が子どもの喫食量を把握する。子どもたちは、日々給食食材に触れることで今日の食事を楽しみに過ごす。 太陽が出ている時間は目一杯戸外で活動し、おなかが空くことで、いっぱい食べる子になる。
2	計画・ねらい	地球環境への取り組み、食の循環
	実践予定内容	給食廃材や土を使ってコンポストを作成し土を再生させる。 命をいただく活動を通して環境教育を実践する。
3	計画・ねらい	環境目標実施計画の実施
	実践予定内容	計画したものの実施、不適合箇所の修正を行いながら年間を通して設定した環境目標を実践する。

〈6〉ゾーン保育の充実

1	計画・ねらい	子ども自らが経験を選択できる環境づくり
	実践予定内容	クラス、年齢にとらわれず興味関心の赴くままに遊び込める室内環境 ゾーン保育の充実を図る。 学年、クラスに捉われず、子どもを多角的にみることで、全ての子どもの育ちをすべての保育者が把握し、その家庭環境や背景までも、共有して対応する。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	12人	14人	14人	14人	70人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	3人	事務	1人	嘱託医	2人		

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	施設長会議内容共有、子育ての質を上げる会議内容共有、園内研修、グループワーク
給食運営会議	月1回	アレルギー確認、食育・給食振り返り
事故防止委員会	月1回	事故・インシデント・ヒヤリハットの振り返りと再発防止
ケース会議	月1回	要支援児の課題共有、個別計画の振り返り
昼礼会議	月・木	各部署からの連絡、伝達、事故・インシデント・ヒヤリハットの共有
週案会議	月1回	園全体の課題共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの伝達事項
施設長勉強会	月1回	施設長としてのスキルアップのための研修
食育会議	年4回	マニュアルの見直し、各園の取り組み発表
保健会議	年4回	感染症の共有と対策、マニュアルの見直し、各園の取り組み発表
主任会議	年６回	各園の状況共有、課題検討
子育ての質を上げる会議	月1回	保育者のスキルアップ研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内全般の衛生管理、職員の健康に留意した職場環境の見直し
安全対策係	設備点検、事故防止チェック、事故・インシデント・ヒヤリハットの分析
防火管理者	消防計画の作成、避難訓練計画の作成

食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する業務、給食設備の衛生管理
畑係	畑の環境整備、植え付け、収穫管理
保健係	身体測定、サーベイランス記入、救急箱、散歩リュックの確認
写真、卒園アルバム係	うちのこアプリ管理画面内のアルバム整理・卒園アルバム作成

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連絡、稟議作成、どろんこ祭り計画、運営
運動会係	稟議作成、運動会の計画、運営
生活発表会係	稟議作成、生活発表会の計画、運営
入園・卒園式係	入園・卒園式の計画、運営
MY浦安係	園行事、ちきんえっぐイベントをサイト内に書き込む

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0~2歳児	健やかにのびのびと育つ、身近な人と気持ちが通じ合う、身近なものと関わり感性が育つ。 ・園生活に慣れ安心して過ごせるよう環境を整える。 ・基本的生活習慣を身につけることができるように丁寧な関わりを心がける。 ・睡眠や食事など個々の生活リズムを考慮し、無理なく園生活のリズムに慣れるようにする。 ・手づかみ食べにより、一口量を知り、自分で食べる喜びを感じられるようにする。
	下半期 0~1歳児	異年齢児や友だちとのやり取りを通して、好きなあそびを楽しむ。 ・階段の上り下りなどを遊びの中で積極的に取り入れ、園内を自由に行き来する。 ・食事や身のまわりのことをする喜びが感じられるよう、環境を整え丁寧に関わる。 ・自分の食べられる量を知り、多い、少ないなどを身振りや動作で伝えられるようにする。

幼児保育	上半期 3~5歳児	園生活に慣れ好きな遊びを楽しむ。 ・基本的生活習慣の確立に向けて丁寧な関わりを心がける。 ・バイキング給食に慣れ、準備から後片付けまでを、自信をもって行えるようにする。 ・保育室の移動の際には保育者間で声を掛け合い、園内のどこにだれがいるのかを把握する。 ・さくらさくらんぼリズムや雑巾がけなどの日課による、けがをしない強い体を育てると共に、午前中目一杯体を動かして遊ぶことでお腹が空くリズムを整える。
	下半期 2~5歳児	異年齢児や友だちとの関わりが深まり、共通のイメージを持ち好きな遊びを十分に楽しむ。 ・身についた生活習慣を確認しながら共に成長を喜び合い、進級に期待を持てるような関わりを心がける。 ・洗う、ちぎるなど給食で使用する食材に触れる機会を通して、食への興味関心を深める。 ・年長を中心に食事や片付けの時間を自分たちで決め、1日のおおまかな流れを決められるようにする。 ・幼児の終わりまでに育てたい10の姿を意識して活動を振り返り、保育内容の充実を図る。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し
　別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	・畑仕事に意欲的に取り組む。 ・コンポストを活用し、堆肥を作成する。 ・命をいただく活動を通して、命を頂くことの大切さを知る。
2	計画・ねらい	食材に触れる
	実践予定内容	・野菜の皮むきや米とぎ、包丁で野菜を切るなどの下処理を行う。 ・三色ボードを使い、栄養素を知る。 ・朝の食材紹介をする。

3	計画・ねらい	食べる意欲を育てる
	実践予定内容	・園の職員は調理職員も含め、すべての職員が子どもと一緒に食卓を囲む。 ・噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する。 ・異年齢児で食事をし、年上児が年下児の世話をする。 ・自分で配膳、盛り付けをすることで、子どもたちは自分の食べる量を把握する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（6月・11月）
歯科検診	年２回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・歯磨き指導
流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃･･･手足口病 12月頃･･･胃腸炎・インフルエンザ等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗ヒスタミン剤･･･1名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在13名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示 ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う、また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日

	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが活動を選択し、生き生きと遊べるゾーン保育環境づくり
	実践予定内容	子どもの気持ちを尊重し、遊びたい場所、人を自己決定できるようにする。
2	計画・ねらい	魅力を感じる環境づくり
	実践予定内容	午前・午後、活動場所に関係なく、保育者は子どもたちが遊びたい、やってみたいと魅力を感じるような環境づくりに努め、生きる力を育んでいく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	荷物かけ	幼児室	毎日
2	飼育棚	玄関	毎日
3	棚	縁側	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、水防訓練の実施
2	実践予定内容	防災設備対策の実施（自動火災探知機、煙感知機、誘導灯等）
3	実践予定内容	年２回の不審者侵入訓練
4	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議
5	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知
6	実践予定内容	門扉を施錠状態にすることで外部侵入者の立ち入り禁止
7	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし発生時には屋外での活動を控える。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に根ざした保育園として、地域の中高生の体験学習や、保育養成校の実習受け入れ、その他学生ボランティアなどを積極的に受け入れていく。

1	実践予定内容	中高生の体験学習受け入れ
2	実践予定内容	養成校の実習受け入れ
3	実践予定内容	学生ボランティア受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 怪我ケーススタディ ③ 虐待防止研修	昨年度の怪我、インシデントの振り返りと保育士による虐待、子どもへの言葉がけについて考える
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保健衛生	嘔吐処理、与薬方法確認
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プール実施前事故防止	プール・水遊びマニュアル読み合わせ
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム	さくらさくらんぼリズムの基礎を学ぶ
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 散歩ロープレ	マニュアル通りに散歩に行けるようロールプレイングする
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修動画視聴	動画視聴後、意見交換する
10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所保育指針2	保育所保育指針を読み解き、自園の保育に生かす
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育	園長大学®保育士大学の動画視聴
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 要録の書き方	要録の記載方法を学ぶ
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇	保護者の立場に立った保護者対応を学ぶ
2月20日	18:00～21:00	策定会議１日目	次年度の事業計画を読み合わせる
3月1日	9:00～18:00	策定会議２日目	１年間を通した子どものエピソード記録を持ち寄り、次年度につなげる

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

会議）												
施設長勉強会	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～II月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

子育てへの不安、孤独感を和らげる一助となり、ホッとできる場所として保育園を開放し、園児とともに過ごす機会を設ける。少し未来のわが子の具体的な姿を知ることで、見通しを持てるような子育て支援を行う。
月I回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	月I回　　公園名：しおかぜ緑道にて　　月間集客目標：８名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	こうゆうデイサービスとの交流、小中高生の体験学習の受け入れ
異年齢交流	南小、東野小、堀江中との交流
地域拠点活動	青空保育、園庭開放、ちきんえっぐイベント、子育て相談
銭湯でお風呂の日	月I回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

環境の違いに戸惑わないようスムーズに就学できるよう小学校と連携を取っていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	地域の小学校	2名予定	運動会見学 （南・東・東野・舞浜・浦安小）	スタッフ間交流
6月頃	東野小学校 5年生	14名予定	（東野小教室）	子ども間交流
12月頃	東野小学校	14名予定	（東野小学校）	子ども間交流
12月頃	南小学校 1年生	２名予定	授業参観 （南小学校教室）	スタッフ間交流
１月頃	近隣保育園・南小学校5年生	14名予定	（南小学校教室）	子ども間交流
3月頃	近隣保育園	14名予定	（近隣保育園）	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

要支援児だけでなく、気になる子として繰り返し園会議や共有の場で名前が挙がる児や保護者が支援センターなどに相談に行っている児に対して個別支援計画を作成し、月１回の会議の際、情報を共有し見直しする。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計12回開催予定　参加者：15名予定）

毎月の会議で子どもの様子や対応について共有・報告・検討を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への進級に際し、保護者の同意を得て支援センターや学びサポートなどの関係機関への相談を行い、安心して通える状況を作る。
養護教諭や発達支援担当スタッフ、教務主任など小学校スタッフへ引き継ぎがスムーズに行えるよう、該当施設を経由して行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　年間集客目標：200名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　年間集客目標：20名
自然食堂…親子ランチ交流	隔週（水）10:00～12:00　　年間集客目標：60名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔週（水）10:00～12:00　　年間集客目標：60名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回　公園名：しおかぜ緑道にて開催　年間集客目標：100名

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年６月13日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：13時30分
自己評価終了予定時刻：14時00分
自己評価実施予定者：相馬、村井、丸山、滝澤

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・保育に必要なコミュニケーションを取り、大人同士がお互いの考え方価値観の違いを認め、誰もが生き生きと挑戦できる環境を作る。 ・1日を通して自分で考えて行動できるよう、保育者は環境を整え、好きな遊びを十分に楽しみながら過ごせるようにする。
	振り返り	・担任の枠を超えてすべての職員が子どもたちと関わり遊ぶゾーン保育を実践、全ての子どもの姿の共有を週案会議や、チャットで行ってきた。 子どもたちがたくさんの大人との関わりの中で、挑戦できる環境を整えてきた。 ・保育者が子どもの姿に寄り添い、ありのままの姿を認め、会議等で児に必要な支援とは何かを追求し続けた。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・大人も子どもも自らの意思に基づいて、主体的に行動する。 ・ドキュメンテーションを通じて、児一人ひとりの様子を全員が把握し、自分の言葉で伝えられるようになる。
	重点施策	・学年、クラスに捉われず、子どもを多角的にみることで、全ての子どもの育ちをすべての保育者が把握し、その家庭環境や背景までも、共有して対応する。
2026年度	目指す姿	・好きなことやりたいことだけではなく、園生活においてやらなければならないことを率先して行い、心も体も満たされる。 ・保護者、地域との繋がりを深め、選ばれる園、愛される園になる。
	重点施策	・大人も子どもも主体的・対話的な深い学びを探求し続ける。 ・地域になくてはならない園づくりのため、関係機関と連携し、専門性を生かした子育て支援を行う。
2027年度	目指す姿	・園生活の中で、自分がするべきこと、しなければならないことを当たり前に行い、生きる力、生き抜く力を獲得する。 ・保護者、地域との繋がりを深め、選ばれる園、愛される園になる。
	重点施策	・子どもの姿から保育者は子どもたちに必要な関わり、道具を準備する。 ・地域になくてはならない園づくりのため、関係機関と連携し、専門性を生かした子育て支援を行う。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：浦安どろんこ保育園 施設長　吉野 美和子

２０２５年度　ふじみ野どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

①　子ども一人ひとりの育ちに合った適切な環境の中で、保育士が子どもの自ら学ぶ機会を奪う事なく、時には大人が手本を示しながら、子どもが心身ともに逞しく成長できるよう導く。
また、ヤギの世話、畑仕事、焚き火などの「ホンモノの体験（原体験）」を通して、自分の力で健康で安全な生活を築く力を養う。

②　保育所保育指針、保育理念、方針に則り、人との関わりを大切に子どもの様々な思いや表現を受容し、認め、共感する事を大切にしていく。子どもの内面の豊かさを育むため、自ら興味・関心のあるものを選び、主体的・自発的に生活や遊びを展開できる環境、安心し、集中して遊びこめる空間・時間の環境を創っていく。

③　一人ひとりの個性を大事にした保育を実践し、関わり中でのぶつかり合いや失敗体験を通じて、思考・工夫し、感情のコントロールをする、非認知能力を育む環境づくりをしていく。様々な人と関わりながら自分を認め、自己肯定感を育む場所となるよう、併設園の利点を活かしインクルーシブ保育を実践していく。

④　子どもも大人も安心して集える「温かく愛に溢れた場所」を目指し、すべての人・物に感謝の気持ちを大切にしていく。子育て情報の発信・保育園の開放・育児相談など、保護者の立場に寄り添い、利用者一人ひとりと目線を合わせた関係をもち、皆で子ども達を育んでいく。子ども・保護者・職員・地域に愛され「選ばれる園」を目指す。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保護者と共に子どもを育て、人との関わり・日々の生活の中での発達の成長・育みを保障していく。
	実践予定内容	日々の保育実践を共有していく。ポートフォリオやドキュメンテーションの活用。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い、個を認め、見守り、主体的に活動できるよう最後まで見届ける保育をしていく。
	実践予定内容	子ども一人ひとりを人間として捉え、人権を大切にし、安全に生活を送ることのできる様、危機管理意識をもつ。常にアンテナを張り、心を置き、流さない思考を大事にする。
3	計画・ねらい	チーム保育の強化と質の向上を掲げ、心身の発達への理解を深め、チームで一つのものを創り上げる保育を行う。
	実践予定内容	自分たちで学び合いの機会を増やし、アウトプットを繰り返し行う。 その中で保育者同士が発表し合い、活発な対話を通して質の向上を目指す。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育の見える化
	実践予定内容	日々の保育、園内外での子どもたちの様子・成長が伝わるような視覚的な情報の発信をし、送迎時のコミュニケーションを大切にし、全職員が関係づくりに努める。
2	計画・ねらい	子ども達を共に育てる
	実践予定内容	「子どもを真ん中に」を捉え、子どもにとって何が大切か考え、共有し合える関係、関わり合うことを大切にし、互いに子どもを育むパートナーである事を意識し、関係づくりをしていく。
3	計画・ねらい	利用者のニーズに合わせた選ばれる施設を目指す
	実践予定内容	いつでも気持ちの良い施設を維持する。保護者の目線での対応を心掛け信頼関係を築く。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の憩いの場の提供
	実践予定内容	地域のニーズを捉え、子育て世代同士の繋がりや、多世代の憩いの場となるよう、園に留まらず、園外へ向かう支援を行なっていく。
2	計画・ねらい	子育て支援の相談や情報収集できる場
	実践予定内容	保育園行事への参加・交流等、大人も子どもも様々な体験ができる拠点とし、子育て支援の場としての役割を果たしていく。保育園と地域が共に支え合える、安心できる風通しの良い保育環境を構築する。
3	計画・ねらい	支援内容の発信と利用しやすい環境構成
	実践予定内容	ちきんえっぐ、つむぎカフェ、園の保護者の方々の見えるスペースに活動内容を掲示することや、ブログの発信を行う、つむぎのパンフレットを関係機関に置く。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの心の動き、気持ちに気付く事のできる職員集団となるため、子どもの様子を日常で共有できる「対話的で個を尊重しあえる」環境を構築していく。チーム保育の実践。
	実践予定内容	あそびに夢中になれる環境をチームで考察し、保育者同士が積極的に情報共有・意見交換することで多面的に子どもを捉え、個々の理解を深める。
2	計画・ねらい	アウトプットを意識し「振り返り」をしっかり行いファシリテーション能力を高める。個々の学びを深めると共に、園全体の質の向上を目指す。
	実践予定内容	実践報告会や発達の学びを個々に行う。聞くだけの研修から、誰もが学んで伝える研修になるようにしていく。
3	計画・ねらい	職種（保育士、看護師、調理師、用務、事務）、経験、年齢にとらわれず、全職員が保育者として一人ひとりの子どもに向き合うことを基本とする。それぞれの専門性を存分に生かし、子どもの主体性を引き出す保育を行う。
	実践予定内容	各専門分野を理解した上で、色々な角度からの関りを実践していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環・環境への配慮、意識を育む保育
	実践予定内容	畑仕事（種まき・育てる・間引く・収穫）・食材の加工（梅・味噌・ケチャップなど）生き物の世話・命をいただく活動。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践予定内容	給食調理における破棄を減らす、残渣やヤギ糞鶏糞の再利用など、「捨てる」ではなく「有効活用」の視点を持つ、コンポスト設置。
3	計画・ねらい	自然の豊かさを守る活動の実施
	実践予定内容	木育として木材を利用した活動の実施、園庭改良、木陰を感じる空間の維持、ペーパーレス化。

〈6〉リズムあそびの充実化

1	計画・ねらい	計画：園会議毎にリズム研修を行う ねらい： ケガをしない丈夫な体つくりを行う
	実践予定内容	基礎となるリズムの習得、集団リズムの習得を図る。 実践し振り返りを行う
2	計画・ねらい	計画：スキル講座の主催をする（リズムを行うモデル園となるよう） ねらい：主催する側となることで、手本となることを経験する（自身とルームのスキルＵＰにも繋げる）
	実践予定内容	園会議での園内リズム勉強会を行う。 実践と振り返りを行っていく。
3	計画・ねらい	計画：集団リズムを取り入れていく ねらい：ケガをしない丈夫な体つくりを行う中、他者と関りながら体を動かす楽しさを経験する
	実践予定内容	幼児を中心に集団リズムを取り入れていく。 乳児はわらべ歌や、触れ合い遊びを取り入れていく。

〈7〉ふじみ野の伝統を園と共につくる

1	計画・ねらい	荒馬踊り、太鼓を活動に取り入れていく 現在子どもたちがとても興味をもって取り組んでいる民舞のため、更に学びを深めふじみ野の特色となっていくよう活動に組み込んでいく
	実践予定内容	リズム体操の後に荒馬踊りを取り入れる。 現在は馬役を子どもが行っているが、跳人役やお囃子をする役も設け、自分の得意分野で参加できるようにしていく
2	計画・ねらい	運動会や地域の方に向けて披露する機会を設ける 披露することで自身に繋がる場の提供を行う
	実践予定内容	運動会での披露、地域の方を呼んで披露等、披露する場を作る ブログで活動の様子を発信していく
3	計画・ねらい	すべての職員が太鼓、笛、踊りのいずれかの知識を深める 職員全員が子どもに対し伝承者となれるようにする
	実践予定内容	園内勉強会として盛り込む。習得した職員が次の職員へ教えていけるよう、伝承していくことを大切に、知識を深めていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	18人	18人	20人	20人	20人	102人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	-人	栄養士	3人	調理員等	-人
パートスタッフ	保育士	2人	補助	2人	調理	-人	事務	2人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	行事の振返り、実践報告、ディスカッション、研修計画に基づいた園内研修
給食運営会議	月1回	食育会議、食に関するエピソード共有、ディスカッション
事故防止委員会	月1回	自園の事故やケガの検証、他園の事故やケガの共
ケース会議	月1回	子どもの様子・状況の共有、対応について つむぎとの連携・情報の共有
リーダー会議	月1回	園長・主任・児発管・リーダーによる園運営・各クラスの連絡・課題の抽出及び検討
各係・担当会議	随時	業務の見直しと改善、行事の進め方や進捗状況

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での運営課題の解決・連絡・共有
施設長勉強会	月1回	園運営改善の為のディスカッション・学び合い
食育会議	年4回	法人全体での給食業務改善・検討　食育計画の振返り・実践報告
保健会議	年4回	衛生面・感染症マニュアルの確認・検討　各園の実践報告
主任会議	年11回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有、マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報交換
併設園会議	年2回	目線合わせの為の研修、各園施設の状況共有

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理や備品管理　安全管理 感染症予防・対策　管理点検
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者訓練の計画・実施・振返り 防災実施点検の管理・設備点検・事故防止点検の実施・振返り
防火管理者	災害対策・消防計画に則り避難訓練の実施・自主点検の実施 避難訓練の計画・実施・振り返りを行う
食品衛生責任者	給食・提供食材の安全・衛生管理
畑係	年間畑計画に則り、子どもと共に行う畑活動の実施・計画の 振り返り及び検討 畑の管理
生き物係	飼育動物の健康管理・飼育活動の意義の理解・計画の検討、飼育環境整備
美化係	園庭・室内の清掃整備の計画・伝達

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と共に計画・実行を行う 地域との連携・連絡窓口
保育環境整備係	園庭・室内の環境整備・どろんこサポーターズとの連携・整備作業の計画・実施
大井まつり係	保護者と共に計画・実行を行う 地域との連携・連絡窓口

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求に応え、保育者情緒的な安定した信頼関係を築く ・個々の発達を把握し、充分な探索活動が出来る環境を保障し外界への興味に繋げていく
	下半期 0～1歳児	・子ども自らが、主体的・自発的に活動し、様々な体験を積み重ねる ・身近な人との応答のある安定した関わりの中で、充分に身体を使い、満足感 の得られる遊びを充分にしていく
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢の関わりの中で自分の思いを十分に表現し、相手の思いに気づく ・自ら興味関心のもてるような環境の中、発見や工夫を楽しめる遊びを充分に保障していく
	下半期 2～5歳児	・異年齢の関わりの中、達成感・充実感を味わう活動を行い、友達と力を合わせたり、助け合ったりする様々な経験ができる環境を整えていく ・関わりの中、様々な葛藤を経験し、自分で考え、工夫し自ら行動できる様、また自分たちで約束事やルールを決め、活動できるようにしていく
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べる意欲を育み、好きな物を、好きな場所で好きな人と食べる 食を通して、皆で食べることの楽しさの体験や食事のマナーを学ぶ
	実践予定内容	縁側給食を通して、四季を感じながら食べる場所の提供 自分の食べたい物を自分で配膳できる環境設定 身近な大人と一緒に食事をする中で、食事のマナーを伝える
2	計画・ねらい	食の循環 ０からの食を学ぶことで食を通して学ぶ
	実践予定内容	畑で野菜を育て、収穫、調理、食す、加工品をつくり調理に使用する等 畑仕事、調理活動を活動の中に取り入れていく
3	計画・ねらい	お腹が空いたという経験通して食への意欲を高める 食事の時間だから食べるのではなく、お腹がすいたことを感じることで食に対する意欲を高められるようにする
	実践予定内容	リズム、散歩、園庭遊び畑仕事、ヤギの世話など、９：００からの活動に参加し沢山身体を動かす

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（６月・11月）
歯科検診	年１回（６月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい・歯磨き・性教育（年長児）等、実施
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃･･･プール熱・手足口病・ヘルパンギーナ・とびひ・溶連菌感染症 11～2月頃･･･インフルエンザ・流行性胃腸炎・RSウイルス感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・エピペン･･･現在預かりなし

エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については３月I9日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については３月I9日までに受講予定
その他保健に関する取組	園会議にてロールプレイなど、学習会　年間2回 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･I0･I月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･I2月の25日
	避難消火訓練	毎月I回／I5日
	不審者侵入訓練	年2回／6･I2月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･II月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･I0･I月の25日
	フロン点検（定期I回/3年）	業者による対象物の定期点検 2025年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･I0･I月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月I0日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月I回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･I0月
	身長体重測定	毎月I回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･II月 歯科健診　年I回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･I0月の園会議時

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

自分で考え、自分で選択し、自分で行動できるよう、環境を整えられるよう、常に職員で環境構成を話し合い、振り返り、改善を行っていく。また、来所されるすべての方が心地良いと感じられる環境を保つ。

1	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践予定内容	大人が片付けている姿勢を見せていく 物の場所が分かるようにする
2	計画・ねらい	計画：環境整備委員会の設定 ねらい：美化意識を高められるよう、組み立てを行う
	実践予定内容	園庭、室内の環境整備や安全に考慮した環境を整えられるよう話し合い、全体に周知していく
3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践予定内容	必要な物を揃える、定期的な環境点検 教材の見直しを適宜おこなっていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ロープ登り	幼児室	毎日
2	かまど	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成、避難訓練・消防計画を行う。火災・地震発生時の避難方法を確認。アプリを使用し、園児の情報を発信する
2	怪我・事故防止	事故防止チェックリスト・設備点検チェックの実施。怪我発生時、対応フローチャートに従う。ヒヤリハット報告書・インシデント報告書の検証をし、再発防止策に重きをおき、怪我や事故、保育の見直しを行う。職員同士の対話を大切にし、情報の伝達・共有を職員皆で行っていく。上級者救命救急資格取得・消防職員による園内講習（ＡＥＤ・応急手当・エピペ

		ン・ダイアップ）を行う。
3	防犯	年２回不審者訓練の実施、笛の携帯・送迎者の把握及びつむぎルーム・子育て支援センター利用者へ言葉掛け・インターフォンでの確認を行い、地域との連携をし、安全・防犯への意識づけをしていく。
4	光化学スモッグ・熱中症対策	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・注意報等を把握し、発生時には発生時対応を行政連絡、対応をする。園児・職員は室内で過ごす、健康状態の確認をする。熱中症アラートを確認しながら、外気温・室温・水分補給の管理を行う。
5	その他	遠足時、バスを利用する際の児童の発達の把握をし、乗車が適切であるかの検討・計画の立案をし、乗車時のルールの確認や意識づけをする。 リスクマネジメント会議・各リーダー会議・事故防止委員会を中心として行う。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

保育園を知ってもらい、保育士や子どもたちに関わる仕事を、安心した環境の中で学んでもらう場を提供する。

1	実践予定内容	地域の中の保育園という意識や次世代育成の観点から積極的に受け入れを行い、実習生や生徒一人一人の様子に合わせた温かい受け入れの体制を整えていくことを職員全体で意識の底上げを図る。
2	実践予定内容	コミュニケーションを取り、社会の中で関わりが持てるよう、育成をしていく。
3	実践予定内容	中学・高校の職場体験を受け入れ、事前に学校との連携を図り、体験活動を通し、子どもとの関わりの中で、様々なことを感じてもらえることのできる様にする。また、今後も繋がれる環境をつくっていく。

７.スタッフ育成と研修計画

① 子どもを中心に思考し、最後まで見届ける。
計画・行動に必ず、気づき・ねらい・願いをもって保育し、それらを言語化していくスキルを身に着ける。
② 業務分担の見える化を行う。
スタッフひとりの業務を見える化し把握する事で、スムーズな業務遂行と残業時間のマネジメントをスタッフ間でも意識して行う。
③ ファシリテーション力の向上。
個々が自身の考えを言語化し発信する機会を、園会議を中心に作っていく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月4日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 法人理念研修 ③ 人権チェック	・子どもの安全な環境づくりに特化し、法人マニュアルの理解・確認をし、基本に沿った対応が全職員できる様にする。 ・小グループによるディスカッション及び発表
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育理念研修	・子どもの発達に特化し、法人マニュアルの理解・確認をし、基本に沿った対応が全職員できる様にする。 ・小グループによるディスカッション及び発表
6月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境研修 ③ 水の事故・プールあそび	・環境づくりとはを基礎からスタッフみんなで学び合う ・マニュアルの確認・理解をし、プール遊びの役割分担・保育の見直しを図る
7月4日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② あそび研修	・保育の引き出しを豊かにするため、多角的にアイディアを出し合い研修を行う
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトプットを意識して学び合う。
9月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトプットを意識して学び合う。
10月3日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトプットを意識して学び合う。
11月7日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトプットを意識して学び合う。

12月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトプットを意識して学び合う。
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育実践の振り返り	・自園の弱みを改善し、良かったところを評価し、次年度に向けて同じ方向で保育していくためのディスカッションを行う。
2月下旬	18:00～21:00	策定会議①	運営方針
3月1日	9:00～18:00	策定会議②	園方針・行事計画・新年度準備

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域との関係を深め、町会との関係を密にして地域の行事にも積極的に参加し、地域の中の保育園を目指す。又、近隣園や近隣施設との交流の機会を持っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：500名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：亀久保西公園にて　　集客目標：120名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・高齢者との交流（発達支援センター訪問・世代間交流開催・伝承遊び会実施） ・中学校体験学習受入れ
異年齢交流	・全年齢が混じり合い、自主的・主体的に活動 ・小学校・他保育園・子育て支援センター利用者との交流
地域拠点活動	・青空保育・ちきんえっぐ・子育て支援拠点・子育て相談等 ・町会の交流（防災避難訓練参加など）
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月14日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	三角小学校 1年生	20名予定	校庭交流（三角小校庭）	子ども間交流
6月頃	近隣小学校	20名予定	どろんこ祭り（当園幼児保育室）	子ども間交流
1月頃	東原小、三角小、西原小 、鶴ヶ丘小、亀久保小、福岡小、大井小、西小、さぎのみや小	各2名予定	授業参観（各小学校教室）	職員間交流

	1年生			

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの様子・発達状況を把握し個別計画の立案、具体的且つ個の発達を大切にした関わりを職員全体で共有していく。個を認める保育・異年齢保育・インクルージョン・主体的活動を繋げ、計画の立案をしていく。個々のよいところに気づくことのできる関わり合い、自己肯定感を育む環境つくりをし、人との関わりの中で人と支えあい、社会参加することのできる力を育む環境・保育実践を行う。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１０名予定）
丁寧な関わりを必要とする発達が緩やかな子への関わりを中心とした計画を立て、実践で有効なＰＤＣＡを取り入れ、職員皆での共通理解・情報の共有を行い、保育を展開していく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

就学児の様子状況を学校、校長を中心に養護教諭・発達支援担当・１年担当教諭へ細かな引継ぎを行う。（手立て・家庭状況等）教育委員会・連携施設通所が必要と判断した場合、保護者の了承を得て、関連機関との相談を行い、連携をもつ。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：300名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：20名
自然食堂…親子ランチ交流	第2第４回（金）10:00～12:00　　集客目標：200名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	年4回　10:00～12:00　　集客目標：50名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：亀久保西公園にて開催　集客目標：120名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年１０月２５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時00分
自己評価終了予定時刻：17時00分
自己評価実施予定者： 施設長、主任

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	併設園としてインクルーシブ保育の実践を行う。混ざり合い、話し合いを重ね、子どもたちが遊び込める環境の充実、保育の楽しさを実感できる計画を立案。個々に思考し意見を出し合える様な会議を構築する。
	振り返り	実践と振り返りを繰り返しながら、初心を振り返りねらいをもって計画出来るよう研修を行った。その時の課題をリーダー間で共有しながら、一人ひとりが自分事に出来るよう研修を立案した。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・子どもを中心とした気づきを言語化して、ねらい・願いを持った保育ができる職員集団となる。 ・インクルーシブ保育の実践をし、交じり合いの最高品質を構築する。
	重点施策	実践・振り返り・学びの共有をシステム化していく。 深掘りした発達の理解ができる、学びの場を構築する。 併設園でしかできない事に挑戦し続け、専門性を学びながら担当の壁をなくしていく。
2026年度	目指す姿	・担当の壁を越えた保育計画・実践を構築し、地域の子育ての拠点として、子育ての楽しさを伝える園となる。

	重点施策	園全体で、どのクラスでも計画が立てられる様な保育を実践し、子どもも大人も楽しめる園活動を、地域に広めていく。
2027年度	目指す姿	入りたくても入れない園（選ばれる園）を目指す。
	重点施策	インクルーシブ保育の良さや、原体験を大事にした保育理念を多くの見学者や園に関わる保護者に伝え、地域に認知していただく。保育の内容を理解した上で、選ばれる園を目指す。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：ふじみ野どろんこ保育園 施設長　内田　あゆみ

２０２５年度　武蔵野どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

·子育て理念：「にんげん力。育てます。」
·子育て目標：「センス·オブ·ワンダー」　「人対人コミュニケーション」
・インクルーシブ保育：発達支援つむぎ 武蔵野ルームと連携し、「一人ひとり丁寧に」「みんなと一緒に生活する」ことを目指します。

主題【原点回帰】～毎日の時間を大切に·人格形成を質高く確実に丁寧に～
·～混ざるその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する
インクルーシブ保育
発達支援つむぎ武蔵野ルームと連携し大人も子どもを混ざり合い「子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援の実践」を目指します。

·Doronkoの子育てにより身に付く6つの力
①ケガをしない強い体を育てる
②自分でできることを自分でする
③全ての人との関わりから、判断、行動を身につける
④活動を選択し自分で考えて行動する
⑤生死を知る　食の循環知る
⑥感じたこと·考えたことを表現する　を実践します。6つの力を身に付け「生活力の体得」に繋げていきます。

・「10の姿の体得」：子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的・人的環境の設定に丁寧に関わっていきます。
・散歩（戸外活動）：戸外活動により得られる力について、スタッフ自身が学び、子どもに伝えます。１０よりも１００のホンモノの経験の機会を用意し、生きる力を育みます。
・畑改革：「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～しながら「食の循環」に繋げていきます。また、畑仕事を通し、労働の大切さや他者との関わりについて、生活の中で学べる環境を用意します。

地域に根付く保育園を目指し、子どもを中心にスタッフが混ざり合い学び合いながら、よりよい保育を実践していきます。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育…個性の違いを認め合い、その違いを踏まえたうえでどのような関わり方をするのが望ましいか生活の場で学び、今後の社会で生き抜くうえで必要な力の基盤を育てる。
	実践予定内容	大人も子どもを混ざり合い「子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援の実践」を行う。 大人同士の話し合う場を作り、子ども観の共有を行う。 エピソードの共有を随時行えるスタッフ集団になる。
2	計画・ねらい	原点回帰：どろんこ会グループの日課・基本活動へのこだわり 子どもたちが自ら活動を選び行動し毎日充実した日々を過ごしている。

	実践予定内容	日課８：15開始、戸外活動９：００出発を行う。畑仕事、堆肥作りを日課にする。 園会議（日課、基本活動の学びを深める）
3	計画・ねらい	経験の選択をすることができる物的環境の設定を行う。
	実践予定内容	大人が見せて教えないと知れない遊びを教え楽しむことができる環境を整えていく。また子どもが好きな遊びを選び取ることができる支援を実践する。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	朝の受け入れ・お迎え対応の充実を行い保護者との信頼関係を築く。
	実践予定内容	保護者の立場に立ち、笑顔で受け入れ、お迎え対応ではエピソードを伝えていく。待たせないお迎え対応をする。（タイムラインの充実、ポートフォリオ掲示）
2	計画・ねらい	個人面談実施（随時・月間）
	実践予定内容	保護者一人ひとりの気持ちに寄り添い、話し合える機会を作っていく。 7～８月頃個人面談月間を設けていく。希望があれば随時面談を行う。
3	計画・ねらい	保護者安心できる保育環境を整備する。
	実践予定内容	掃除、片付け、整理整頓を日々行い、保護者がいつ見ても気持ち良い保育園を作る。

〈３〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育所体験、自然食堂、自然学校、芸術学校、寺親屋、青空保育の実施
	実践予定内容	毎月の地域子育て支援を周知して、立ち寄りやすい保育園を目指していく。保育所体験では保護者と一緒に保育園生活を体験してもらい、自園の良さを知ってもらう。
2	計画・ねらい	小中高生職業ボランティアの受け入れ実施。
	実践予定内容	保育士の仕事を体験してもらう機会を設けていく。
3	計画・ねらい	地域子育て世帯への育児相談。
	実践予定内容	発達、保健衛生、離乳食等に関する悩みを保護者で共有できる場、保育士や子育て経験者の立場から気軽に相談できる機会を提供する。

〈４〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	発達について
	実践予定内容	発達支援つむぎ 武蔵野ルームの職員が講師となり勉強会（毎月）を行う
2	計画・ねらい	「10の姿の体得」の勉強会を園会議内で行う。
	実践予定内容	「10の姿の体得」を考え、掘り下げて具体的なアクションプランを話し合い、実践していく。
3	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学講座視聴
	実践予定内容	個人で視聴を行い、講座の感想や講義内容について発表をすることを習慣化し学びを深める。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る機会を作る。
	実践予定内容	梅ジュース作り、梅干し作り、味噌作り等の食材加工体験。魚の解体し食す体験。コンポストで、堆肥作り体験（うさぎの糞）
2	計画・ねらい	2027年度までに給食残渣を2022度対比で50%減らす。
	実践予定内容	給食残渣を毎日測定し記録検証を行う。給食運営委員会で話し合い、残渣量を減らす対策をたて実践していく

〈6〉「日課にこだわる」

1	計画・ねらい	散歩9時出発。
	実践予定内容	身支度を早く行い、出発できる環境を作っていく。散歩に期待感がもてるような環境作りをしていく。
2	計画・ねらい	畑仕事。
	実践予定内容	「毎日畑に行き畑仕事をする」ことを習慣化していく。幼児組を中心に行える環境を整えていく。
3	計画・ねらい	さくらさくらんぼリズムの充実。
	実践予定内容	新しい曲を体得する。「五色の玉」「側転」ができる為に基本の曲の動きを習得出来るようにしていく。

〈7〉「環境」

1	計画・ねらい	室内環境整備。
	実践予定内容	子どもたちの発達にあい、主体的に遊びこめる空間作りを行う。 幼児クラスは子どもたちと話し合いながら環境を整備していく。
2	計画・ねらい	人的環境を整える。
	実践予定内容	子どもが安心感を持って信頼関係を築ける環境を整えていく。また、友だちとの信頼関係が築けるよう見守りながら情緒的発達や社会性の発達に繋げていく。
3	計画・ねらい	物的環境を整え大人の姿を見せる。
	実践予定内容	昔あそびが出来る、楽しめる環境を整えていく。（竹馬、あやとり、ポックリ、凧、独楽など）

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	18人	20人	20人	20人	99人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	10人	看護師	2人	栄養士	3人	調理員等	1人
	バス運転手兼用務	1人	施設長	1人	主任	1人		人
パートスタッフ	保育士	7人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	1人	嘱託職員	1人		人		人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の懸案事項、園内研修、コンピテンシー、行事内容の確認、ディスカッション等
給食運営会議	月1回	喫食状況、食育計画、アレルギー児確認、献立振り返り、給食残渣量の前年比等
事故防止委員会	月1回	事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの検証、再発防止策検討等
ケース会議	月1回	支援計画（振り返り、来月の支援計画）
各クラス会議	週1回	クラス運営について（週案、月案の立案）
昼礼	週1回	各クラス懸案事項共有、各連絡事項の共有
各係、行事会議	随時	各係、行事企画等の詳細検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	本部より園運営に関する事項の確認
施設長勉強会	月1回	施設長としての保育における課題点のディスカッション
食育会議	年4回	園の栄養士、調理師、施設長による食育の質をあげる会議
保健会議	年4回	看護師、施設長による保健活動の質をあげる会議

主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有。マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	園代表職員による保育内容に関する研修
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践報告

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
内部監査係	施設内の掃除、衛生状況の確認、および徹底
図書係	園内の図書の管理、必要図書の購入
防火管理者	火災予防と有事の際の避難訓練計画及び実施
食品衛生責任者	食材の発注および品質管理
畑係	年間計画をもとに畑の管理、必要物品の手配
生き物係	生き物世話全般の計画、実施、餌等の必要物品の手配
卒園アルバム係	卒園アルバム内容の検討、実施、作成
子育て支援係	子育て支援の集客の検討、ちきんえっぐだより作成

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、実施。保護者への呼びかけ。どろんこサポーターズ募集
運動会係	運動会の計画、実施
生活発表会係	生活発表会の計画、実施
入園式・卒園式係	入園式・卒園式の計画　実施

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育士とゆったりとした関わりの中で、安心してひとりあそびを充分に楽しむ。 ・よくあそび、よく食べ、よく眠る。

		・戸外活動を充分に行う。
	下半期 0～1歳児	・室内や戸外で好きなあそびを存分に楽しむ。 ・保育士との信頼関係のもと自我が芽生え、自分の要求や思いを伝えようとする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現しながらあそぶ。 ・自分で活動を選択し、自分で考え行動しながら、好きなあそびを存分に楽しみ達成感を味わう。
	下半期 2～5歳児	・自分の要求や思いを言葉や行動で表現しながら、友だちの要求や思いを受け入れようとする。 ・自分で考え行動しながら、何事も意欲的に取り組み、達成感を味わう。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べることの楽しさと食への意欲を育てる。
	実践予定内容	盛り付け、提供の仕方を工夫し、自ら食べたくなる雰囲気を作り 関わっていく。食事のタイミングや活動量を考え空腹を感じ食べる楽しさを育てる。
2	計画・ねらい	噛む力や食べる意欲を育てる。
	実践予定内容	保育者が一緒に食べながら子どもたちの姿を見て、食材の大きさや固さ、盛り付け方を理解しスタッフ間で共有していく。
3	計画・ねらい	空腹のリズムを確立し、食に対する意欲を育てる。
	実践予定内容	お腹が空いた状態で帰って来られるように、散歩９時出発を目指し、午前中めいっぱい活動する。食物残渣を減らせるよう残さず食べるよう声をかけ見守っていく。
4	計画・ねらい	食材の大切さや感謝の気持ちを育む。
	実践予定内容	畑仕事を通して食の循環の直接体験を行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・11月）0歳児は毎月実施
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・歯磨き指導・熱中症対策・性教育など
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7～8月頃･･･伝染性膿痂疹、手足口病、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、水いぼ、ヒトメタニューモウイルス 7～3月頃･･･RSウイルス感染症 11～3月頃…ウイルス性胃腸炎(ノロ・ロタウイルス感染症)、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし アレルギー薬･･･4名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在25名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については5月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED設置なし（武蔵野徳洲会病院にあり） 本日現在3名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については5月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	園児の健康状態を把握。既往歴・予防接種歴の把握。 水あそびの際の安全・衛生管理。 乳児医療証の有効期限確認。 身体測定毎月２０日。 園会議にて職員への保健関係の情報提供・指導。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月

	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/4･11月 (0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが自ら選択し、好きな場所で好きな仲間と遊び込める環境を整える。
	実践予定内容	安心安全で心地よい環境を日々試行錯誤しながら環境設定を丁寧に行っていく。
2	計画・ねらい	必要なものが必要な場所、必要な量、整理整頓されている状況を維持し、必要な時にそれが使えるようにする。
	実践予定内容	子どもたちと一緒に整理整頓の視える化をしていく。 衛生管理、清掃の役割分担をしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	乳児室　家	2階乳児室	毎日早番業務
2	乳児室　棚	2階乳児室	毎日早番業務
3	幼児室　ヘルメット置き	1階幼児室	毎日早番業務

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	避難訓練	毎月一回避難訓練を実施。火災、地震発生時の避難方法を確認検討
2	ケガ事故防止	ハザードマップの更新をしながら、常にケガや事故防止に努めていく。 ヒヤリハットでの気づきを持ち、ケガにつながる前に防止できるよう、危険察知能力のスキルをあげていく。 インシデント報告書、事故記録簿は、全スタッフが直ぐに確認し、再発防止が出来るようにしていく。 事故防止委員会で話し合った内容の確認は、直ぐに行い、他園や他クラスで起こったことを他人ごととととられないように、再発防止に努めていく。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施。不測の事態に備える。保育者の動きや合言葉の確認をする。
4	光化学スモッグ	西東京市の情報をもとに、園児の室内待機・保護者へのお知らせ等徹底していく。
5	情報共有の徹底	全ての事項の情報共有を強化していく。（昼礼、園会議、緊急事故防止委員会、事故防止委員会）

6.実習生・中高生の受入

〈I〉今年度方針・テーマ

積極的に受け入れ、保育士の仕事内容や子どもとの関わりを通して保育の楽しさや面白さを知れる機会を持ち、同じ保育士の仲間とし温かく受け入れ実習生に必要な指導に努め保育士への期待を高められる機会にしていく。また実習生や小中高生の一人ひとりの様子に合わせて丁寧に具体的に援助や指導を行っていく。

I	小学生の職場体験受け入れ	職場体験から園児たちとの関りを通して、保育士の仕事に興味や関心を持てる場としていく。
2	中、高生の職場体験受け入れ	保育士がどのように園児と関り、どのような業務をおこなっているかを体験することで、将来の職業選択の一つに繋がる場としていく。
3	保育士養成校の実習生受け入れ	オリエンテーションを細かく実施し、実習への参加意欲を高める。 担当は決めるが、誰に質問してもいいような雰囲気つくり、また、それに対応できるように職員のスキルを上げていく。
4	特別支援学校からの実習受け入れ	インクルーシブ生活の一環として特別支援学校からの受け入れを率先して行っていく。
5	各種ボランティアの受け入れ	地域に開かれ、根差した保育園となれるように可能な限り受け入れ地域の方々とのつながりを深めていく。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　ケガ・ケーススタディ研修 ③　虐待防止研修/人権チェック	①　自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②　ケガ対応についての確認 ③　虐待の定義について
5月16日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　アレルギーについて ③　つむぎ研修	①　自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②　アレルギー（インシデント・ヒヤリハット） ③　児童発達
6月20日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　プール事故防止訓練 ③　つむぎ研修	①　自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②　危機管理・ロールプレイ確認 ③　児童発達
7月18日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　10の姿勉強会 ③　つむぎ研修	①　自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②　乳幼児の姿を捉える。 ③　児童発達
8月15日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　10の姿勉強会 ③　つむぎ研修	①　自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②　乳幼児の姿を捉える。 ③　児童発達
9月19日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　危機管理 ③　つむぎ研修	①　自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②　見失い･インシデント ③　児童発達
10月17日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　虐待防止研修/人権チェック ③　つむぎ研修	①　自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②　虐待の定義について ③　児童発達

11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿勉強会 ③ つむぎ研修	① 自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ② あそびの環境 ③ 児童発達
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿勉強会 ③ つむぎ研修	① 自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ② 乳幼児の姿を捉える ③ 児童発達
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿勉強会 ③ つむぎ研修	① 自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ② 乳幼児の姿を捉える。 ③ 児童発達
2月20日	18:00～21:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	① 自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ② 運営方針確認
3月1日	18:00～20:00	① 策定会議	① 策定会議

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の方と積極的に関わり、いつでも来てもらえる保育園を目指していく。
小中校生の職業ボランティアを積極的に受け入れていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	週1回　公園名：おおぞら公園にて集客目標：10名（月間）
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設と交流を深める。 発達支援つむぎ武蔵野ルーム（就労支援・課後デイ）
異年齢交流	小学生との交流。 小中高生の職業体験受け入れ
地域拠点活動	実習生の受け入れ、職業体験、研修生の受け入れ。 ボランティアの受け入れ。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の就学先小学校との連絡を取りながら、就学に向けて保育園側から発信していく。
園児、保護者が安心して就学できるように、アプローチカリキュラムを作成、実施をしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月21日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	上向台小学校	20名予定	運動会見学	運動会見学
11月頃	上向台小学校	20名予定	町探検（当園幼児保育室）	子ども間交流
12月頃	上向台小学校	20名予定	町探検発表会（上向台小教室）	授業見学
12月頃	上向台小学校	20名予定	展覧会見学（上向台小学校）	展覧会見学
2月頃	上向台小学校	20名予定	交流会（上向台小学校）	子ども間交流
2月頃	上向台小学校 向台小学校　他	1名予定	進学児童の引き継ぎ（当保育園・電話）	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

全職員が要支援児の情報を共有し、適切な支援が出来るようにしていく。
毎月の園会議、クラス会議で子ども達の様子を伝えあい支援計画を常に見直していく。
発達支援つむぎ 武蔵野ルームと連携をとり、アドバイスをもらいながら作成・見直しする。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：担任、乳児クラス、幼児クラス、つむぎ職員、主任、看護師、施設長　7名予定）
連携を取りながら、担任、リーダーを中心に毎月ケース会議を行う。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

進級に対する不安を軽減するために、どのスタッフが対応しても同じ支援ができるようにしていく。
小学校の引継ぎは、児童指導要録、また各小学校の担当者との情報を共有していく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：30名（月間） 園庭及び園舎、空き地の一部を開放し自由に過ごしていただく。

子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：19名（月間）
自然食堂…親子ランチ交流	隔週（木）10:00～11:00　　集客目標：20名（月間）
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔週（木）10:00～11:00　　集客目標：20名（月間）
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし。

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年５月２６日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時３０分
自己評価終了予定時刻：１１時３０分
自己評価実施予定者：施設長、主任、乳幼児リーダー、事務

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・インクルーシブ保育：発達支援つむぎ 武蔵野ルームとの連携 ・Doronkoの「子育てで身に付く6つの力」、「10の姿の体得」の為日課を大切にする。 ・大人のにんげん力UP
	振り返り	・つむぎ武蔵野ルームとのインクルーシブ保育は、スタッフ間での共有も増えよい方向に向かっている。 ・たくさんの体験を行い、むかし遊びの環境の設定も行うことが出来た。 ・大人のにんげん力UPは、園会議での研修を行ったがまだ課題があるので、引き続き来年度も行っていく。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・インクルーシブ保育：発達支援つむぎ 武蔵野ルームとの連携4年目。

		・畑活動、散歩9時出発を1年間通して取り組む。 ・大人のにんげんカUP ・地域交流：商店街ツアー、子育て支援（ちきんえっぐ）の参加者を増やす。
	重点施策	・インクルーシブ保育：子どもたちが混ざり合う中で生活力の体得をしながら、たくさんの体験を楽しんでいる。長距離散歩にも挑戦する姿がある。スタッフ同士も混じり合い保育を展開していく。 ・日課の中で「畑活動」と「散歩9時出発」によって得られることを、子どもと考えながら行えるようにしていく。 ・大人のにんげんカUPは、園会議での研修や勉強会を行い全体的にスキルアップできるようにしていく。 ・地域交流：ちきんえっぐ参加者が増えるように集客活動を行っていく。
2026年度	目指す姿	・インクルーシブ保育：発達支援つむぎ 武蔵野ルームとの連携5年目。 ・日課の充実 ・大人のにんげんカUP ・地域交流
	重点施策	・インクルーシブ保育：子どもたちが混ざり合う中で、子どもが好きなものを選択しあそべる環境が定着している。 ・日課の充実：全ての日課がこめ組を中心に出来ている姿がある。 ・大人のにんげんカ：研修のインプット、アウトプットができるスタッフ集団になっている。 ・地域交流：子育て支援活動が地域に根付き始めている。
2027年度	目指す姿	・インクルーシブ保育：発達支援つむぎ 武蔵野ルームとの連携6年目。 ・日課を高年齢児から低年齢児に伝える。 ・大人のにんげんカUP ・地域交流
	重点施策	・インクルーシブ保育：こめ組を中心に混ざり合ってあそぶ姿がある。保育園スタッフ、つむぎスタッフが同じ目線で子どもたちを見ていく。 ・日課の充実：こめ組を中心とした日課をあたり前に行う姿がある。 ・大人のにんげんカUP：自分から学ぶ姿が多くなり、自分からの発信も多くなっている。 地域交流：商店街ツアーでの交流、ちきんえっぐの集客が安定してくる。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：武蔵野どろんこ保育園 施設長　今村眞里

２０２５年度　メリー★ポピンズ市川ルーム　事業計画書

Ⅰ.基本方針

共生・共育　～共に生活し、共に育つ～

子ども・保育者・保護者・地域が共に頼り合い、手を差しのべ合い、共に育ち合う保育園を目指す

1.　自分で考え行動する

子どもたちは、自分で活動を選び、日々trial＆errorを重ねていく。
上手くいかない時に諦めずに継続する気持ちや、他者とのぶつかり合いが生じた時の気持ちの折り合いの付け方を、経験を通して身につけていく。
保育者は子ども一人ひとりの人権を尊重し寄り添いながら、ひとつでも多くの「ホンモノの経験の機会」を用意していく。

2.　丁寧な基本活動の実践

子どもたちは日常で繰り返される、生活・遊び・労働から「生きる力」を身につけ主体的に生活する力を育む。
保育者は日課・異年齢保育・散歩9時出発などを丁寧に確実に実施する。基本の保育原理の理解を深め、子どもの発達への関係性などを考慮した保育が行えるよう質上げを図る。

3.　生活力の体得

子どもたちは毎日土に触れることで免疫を獲得し丈夫な身体を育む。畑活動では自分たちで耕しから収穫までを行い、育てたものを使って料理をする。
子どもたちは針仕事や火と関わる経験を通して、危険な物との距離の取り方を学んでいく。
保育者は1日1日を大切にし、子どもに必要な経験を与え、一緒に行うことで背中を見せて伝えていく。

4.　食の循環・命をいただく活動の実践

子どもたちは毎月の食育体験を通じて食の循環を理解する。
子どもたちは自分たちでの盛り付けやテラスでの食事を行う中で食への興味・関心を高めていく。
保育者は「命あるものを食している」ということを、魚をさばくなどの経験を通して伝えていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	見守る保育・継続する保育の実践
	実践予定内容	保育所保育指針・法人理念の理解を深める為の研修を園会議内で行い、保育計画・保育内容の充実を図る。 指示するのではなく、子どもが自ら考えて行動する機会を保障する。
2	計画・ねらい	丁寧な保育実践
	実践予定内容	それぞれの基本活動と子どもの発達の繋がりを理解し、日々確実に実践していく。

		発達に即した体育指導・音楽指導を行う為に計画を再考し実践する。
3	計画・ねらい	伝え合う力・表現する力を育てる
	実践予定内容	子どもたちが自分で決めて行動する力が身に付くよう、日常的に話し合いの場を設けていく。 また話を聞く態度や相手の意見にも耳を傾け、折り合いをつけていく経験を保障する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	明るい挨拶と誠実な対応
	実践予定内容	保育者は常に明るく気持ちの良い挨拶を心掛ける。 園での様子が手に取るようにわかるよう、その子ならではの姿や成長を具体的に伝えていく（3分間お迎え対応）。
2	計画・ねらい	常に整理整頓を心掛け、安心で気持ちの良い施設
	実践予定内容	棚の上には無駄な物が無く、いつも気持ちの良い環境が整っているようにする。清掃点検表を活用し、確実に清掃・整理整頓を実行していく。
3	計画・ねらい	保育の見える化
	実践予定内容	保育参加への積極的な呼びかけを行う。 園での日課や異年齢保育の様子を実際に見て体験できる機会を作る。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設として交流の場となる
	実践予定内容	青空保育や園見学にいらした方に園開放の機会をお伝えしたり、ポスターを掲示したりし、いつでも遊びに来られることを周知していく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐの参加者数を増やす
	実践予定内容	ちきんえっぐ活動計画を地域の方が足を運びたくなるような魅力的なものにすると同時に、ちきんえっぐだよりを掲示・配布するなどの広報活動を行い参加者の増加を目指す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフが子どもの育ちを語り合う集団になる
	実践予定内容	スタッフは日常的に保育を語り合い、子どもの理解を深め、共に成長を喜んでいく。保育の楽しさ・やりがいを共有し、園全体のボトムアップを目指す。
2	計画・ねらい	学び続け、個々が成長していく集団になる
	実践予定内容	園長大学®･保育士大学の視聴を進める。 受講内容や学びを会議で発表し、スタッフに共有する。
3	計画・ねらい	中堅・リーダースタッフの育成
	実践予定内容	リーダー同士の学び合いを定期的に実施し、園運営の中心を担えるようなスタッフ育成を実践する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	給食残渣の削減と調理くずの有効利用
	実践予定内容	毎日畑仕事で育てた野菜を調理して食すことで食への興味関心を高め、給食残渣の削減へ繋げていく。
2	計画・ねらい	畑の土作り
	実践予定内容	調理くずはコンポストを使って堆肥にする。 堆肥は畑の土作りで使用し、有効利用する。

〈6〉日課と基本的活動の丁寧な実践

1	計画・ねらい	日課・基本の活動と子どもの育ちの繋がりを深く理解し、日々確実に丁寧に取り組んでいく。
	実践予定内容	会議で中堅・リーダー層のスタッフが講師となり日課や基本の活動について学び、理解を深めていく。 日課や基本の活動を全スタッフが日々丁寧に実践し、子どもたちがより多くの「ホンモノの経験の機会」に出会えるようにしていく。 体育指導・音楽指導の計画を再考し学び直すことで指導の充実を図る。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	8人	10人	12人	12人	12人	60人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	4人	補助	3人	事務	1人	嘱託医	2人
	用務	0人						

3.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	子どもの姿の共有・行事進捗・園内研修
給食運営会議	月1回	食育内容の検討と共有・アレルギー対策
事故防止委員会	月1回	当月の事故記録の振り返りと分析、再発防止策の話し合い
ケース会議	月1回	要支援児の姿を共有・個別計画の振り返り
週案会議	適宜	スタッフ同士の情報共有・計画立案・相談
リーダー会議	月1回	園全体の問題の共有・課題検討と対策

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営事項の確認・事務連絡
施設長勉強会	月1回	園の課題検討をしながらスキルアップを目指す研修
食育会議	年4回	マニュアルの見直し・各園の取り組み発表
保健会議	年4回	感染症対策・衛生管理の課題と取り組み共有
主任会議	年4回	主任としてのスキルアップ・園運営の課題検討
子育ての質を上げる会議	月1回	保育者のスキルアップ・課題の改善計画と取り組み

〈5〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	疾病の予防措置・園の衛生管理の維持向上
安全対策係	事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの分析・設備点検
防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成 防火管理上必要な業務を計画的に行う
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する業務・施設の衛生管理
畑係	畑の環境整備・植え付けと収穫の管理
生き物係	生き物の飼育と管理

行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	計画・立案・どろんこサポーターズとの連携
地域との連携係	地域との連携及び子育てに関することの立案、実践

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生活リズムを大切にしながら、新しい生活に慣れるよう丁寧に関わる ・特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆を形成する ・安心できる静かな環境で、ゆったりと食事や睡眠をとる ・個々の発達に応じた環境を設定し、自ら探索活動をしようとする意欲を育てる
	下半期 0～1歳児	・色々な姿勢で様々な遊びができるようになる中で、身近な大人とやり取りをしながら表現する楽しさを感じる ・生活に必要な言葉がわかり、身振り手振りや簡単な言葉のやり取りと挨拶を通して身近な人と気持ちが通じ合う ・人との関わりを喜び、園内を自由に行き来する ・手づかみや食具を使って意欲的に食し、保育者や友だちとの食事を楽しむ
幼児保育	上半期 3～5歳児	・体育指導やリズム体操などで自分の体を十分に動かし、様々な動きが身に付く ・準備から片付けまでの流れを知り、バイキング給食で友だちや保育者と食事を楽しむ ・友だちと積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う ・身近な動植物に親しみ、命の大切さに気付く
	下半期 2～5歳児	・健康で安全な生活に必要な生活習慣を理解し、自分で実践してみようとする気持ちが育つ ・自分で育てた野菜などを調理して食す機会や、給食で使用する食材の下処理をする機会を通して食への興味関心を深める ・自分の思ったことを相手に伝える力が育つ、相手の思っていることに気付いたり理解したりしようとする力が育つ ・色々な素材を使って、工夫して遊ぶことを楽しむ
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	十分に遊び、自然とお腹が空く子・意欲的に食べる子を育てる
	実践予定内容	散歩9時出発を徹底し、午前中の活動の充実を図る。十分に遊びお腹が空くような環境を作る
2	計画・ねらい	調理過程の野菜くずや残菜などはコンポストを使って再生土にし、有効利用する
	実践予定内容	コンポストについての知識を高め、子どもと一緒に行いながら持続的・継続的な取り組みを行う
3	計画・ねらい	調理体験や畑での野菜作りなど、生活の中で意欲的に食にかかわる体験を重ねる
	実践予定内容	畑で収穫したものを食育活動で取り入れ、自分たちで作ったものを自分たちで食す経験を積んでいく 生活の中の一部として、継続的・日常的に楽しむ食育を目指す

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい手洗いの励行・歯磨き指導・温湿度の管理
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月頃･･･手足口病 ７月頃･･･伝染性膿痂疹 １２月頃･･･胃腸炎 １月頃･･･インフルエンザ

発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･１名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗ヒスタミン薬･･･２名より預かり済み／衛生室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月11日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月11日までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示、保健関係の研修の受講 ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う 消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子ども自らが遊びを展開したくなるようなゾーン設置をする
子ども同士の関わりは豊かになるような環境作りをする

1	計画・ねらい	充実した環境の中で、子ども自らが活動を選択する
	実践予定内容	子どもの興味関心がどこに向いているのかを見極め、都度、環境設定を見直していく
2	計画・ねらい	室内・戸外共に子ども同士で試行錯誤しながら活動できる環境を作る
	実践予定内容	保育者は子どもの今の姿を捉えたねらいを持ち、その達成に必要な環境を適宜考え、設定していく 丁寧な保育の振り返りを行うことで、継続して環境の改善に取り組んでいく
3	計画・ねらい	整理整頓・清潔を意識し、いつでも気持ちよく生活できるようにする
	実践予定内容	必要なものしかない環境作り 棚の上にはものを置かない

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月の消防避難訓練・消火訓練の実施・水防訓練の実施
2	実践予定内容	防災設備対策の実施（自動火災探知機・煙探知機・誘導灯）
3	実践予定内容	年2回の不審者侵入訓練
4	実践予定内容	事故記録簿・インシデント・ヒヤリハット記載による事故の原因分析と事故防止委員会による再発防止検討会議
5	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知
6	実践予定内容	オートロックで外部侵入者の立ち入りを阻止する
7	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし屋外での活動を控える

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生・中高生の職場体験、小学生ボランティア等を随時積極的に受け入れ未来の保育士育成に尽力する。

実習・職場体験後も交流が継続し、保育士の職業としての魅力も伝えられるように努める。

1	実践予定内容	保育士養成校からの実習生の受け入れ
2	実践予定内容	中高生の職場体験や小学生のボランティアの受け入れ
3	実践予定内容	学生ボランティアの受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

スタッフの経験年数や能力に合わせた目標設定をし、適宜振り返りを行う（概ね3か月に1度）。
実践に繋がる園内研修を実施し、園全体の保育の質上げを図る。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月１８日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修 ③ 保育理念・デイリープログラム	虐待の早期発見・日々の関わりについて 保育理念・デイリープログラムの理解
5月１６日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 朝の日課 ③ 裸足保育	日課(座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・畑仕事）の理解 裸足保育について
6月２０日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの事故防止	水の事故の事例検証と事故防止 熱中症・光化学スモッグについて
7月１８日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 畑仕事 ③ 給食・食育	畑仕事の年間予定進捗確認 給食・食育の課題抽出と見直し
8月２２日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 異年齢保育 ③ インクルーシブ保育	異年齢保育について インクルーシブ保育の理解
9月１９日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 長距離散歩 ③ 散歩ロールプレイ	長距離散歩について 散歩時の安全管理 マニュアルの理解
10月１７日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修 ③ 上期保育の振り返り	虐待の早期発見・日々の関わりについて 上期保育の振り返りと後期保育について 事業計画の中間振り返り

11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学前教育	のびのび教室の指導法 体育指導計画と音楽指導計画について
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 性教育	性教育の理解を深める 性教育の実施方法を学ぶ
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 道具の使い方 ③ 感染症対策	針や工具の使い方と指導法 感染症について 嘔吐処理のロールプレイ
2月20日	18:00～21:00	① 策定会議1日目	次年度行事・園運営方針・園目標の策定
3月1日	9:00～18:00	① 策定会議2日目	次年度に向けたプロポーザル作成

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園、地域、家族が一丸となって子育て支援を行う。月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、積極的に広報活動をすることで利者の増加を目指す。

活動を工夫する、気持ちの良い環境、丁寧な関わりで何度も訪れたい園を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：150名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：平田公園にて　　集客目標：20名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加、高齢者施設訪問、小中高生の体験学習受け入れ
異年齢交流	青空保育、近隣小学校・保育園との交流
地域拠点活動	青空保育、子育て相談、ちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育者は、就学、子どもの未来を見据えて小学校教育について学び、交流をし、日々の保育に活かす。子どもの生活の連続性を踏まえ小学校との連携が円滑になるよう努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
６月頃	平田小学校	12名予定	校庭見学	子ども間交流
9月頃	八幡小学校	２名予定	授業参観	職員間交流
1月頃	八幡小学校	12名予定	学校見学 交流会	子ども間交流
2月頃	平田小学校	2名予定	小学校への引継ぎ	職員間交流

	八幡小学校			

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画を作成し、月１回の会議の際、情報を共有し見直しをする。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：20名予定）

毎月の会議で子どもの様子や対応について共有、報告、検討を行う。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の進級に際し、養護や発達支援担当スタッフへ引継ぎを行う。

また、通所など必要と感じられた場合、保護者の同意を得て関係機関への相談を行い、安心して通える状況を構築する。小学校への引継ぎは、その間該当施設を経由して行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：25名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：25名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：20名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：平田公園にて開催　集客目標：20名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年某日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：13時30分
自己評価終了予定時刻：14時30分
自己評価実施予定者：緑川大地、馬場優花

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	原点回帰を園目標に掲げ、1年間活動した。 これまで行ってきた保育を、保育所保育指針や法人のマニュアルと照らし合わせ学び直す機会を多く作った。 自分で考え行動する、思いを伝え合うことにも注力をした。 時間がかかったり、上手くいかなかったりすることも多く経験し年齢問わず活動の幅が広がった。 畑活動も日課として取り組み、多くの食育体験へとつなげることが出来た。収穫した野菜を目の前で調理することで、食への興味が広がり、残渣の削減目標を達成出来た。
	振り返り	異年齢保育、散歩9時出発が日常的に行えた。 午前中にたっぷりと活動することで、沢山食べてよく眠る生活の流れが確立できた。 次年度以降、午前中の活動内容を更に充実させた保育内容を検討していく。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	日課や基本の活動が丁寧に行われ、ホンモノの体験の機会が保障されている
	重点施策	デイリープログラム、日課の意図を全スタッフが理解し実践しようとする。基本を丁寧に学び、理解することで保育のボトムアップにつなげ

		る。また、体育指導・音楽指導の理解を深め、日々実践をする。 子どもたちは午前中目一杯太陽を浴びながら体を動かしてお腹を空かせ、たっぷり食べ、休息を取る生活リズムが習慣付く。
2026年度	目指す姿	子どもも大人も主体的に生活する場
	重点施策	様々な経験を通して身に付いた自己肯定感を存分に発揮出来る環境のもと、挑戦する姿・根気よく取り組む力を育む。 スタッフは自身の人間力向上にも注力し、常に学び続ける意識が育つ。
2027年度	目指す姿	語り合う・学び合う姿勢の確立 地域にどろんこ会の保育が広がる
	重点施策	全てのスタッフがどろんこ会の保育を語り、実践できる力がつく。 学び続ける姿勢も根付き、活発に意見交換が出来る集団となる。 ちきんえっぐや青空保育には沢山の地域の方が参加し、開かれた施設として定着する。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ市川ルーム 施設長　清水　千春

２０２５年度　若林どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

若林どろんこ保育園は２０２４年度、新たな仲間と共に学び合い、育ちあい、尊重し合いながら生活をしてきた。大人が充実していれば、自ずと子どもたちも成長し、瞳を輝かせている。その姿は何物にも代えがたい。少子化と言われる昨今であるが、多くの方が若林どろんこ保育園を選んでくださっている。

2025年度は昨年度よりも、もっと本物の体験を追求し、健常児も障害児も「混ざる」のその先へと成長を目指して、本物の体験、生きる力に繋がる丁寧な保育や支援をしていくことで真の「インクルーシブ」を確立していく。

子どもたち自身が選択し、判断できる環境作りをし、経験できるようにしていく。危険が伴う場合は大人が側につき最後まで子どもの姿を見守るようにする。選択できる環境は大人が子どもの発達や興味関心を日頃から把握し、常にアップデートしていく。一人ひとりの個性や特性を子どもも大人も認め合い、受け止め、混ざり合いながら生活し、嬉しさや悔しさを経験できるようにする。

子どもたちが自ら考え、話し合い、自分の意見を自分の言葉で表現する機会を作る。うまく話すことができなくても、待つことや相手の意見を尊重する気持ちを持てるようにする。また、失敗しても悔しい気持ちをバネにし、新たに挑戦できるよう支援していく。

なぜ基本活動なのか、なぜホンモノの体験を子どもたちにさせていくのかを、まず、私たち自身が深く理解することである。一人ひとりの意識が園全体の意識となり、当たり前のこととして捉え、実行できるようになる。畑仕事も生き物の世話も何も言わずとも、大人も子どもも当たり前に行う。命の大切さを日課の一つである動物の世話を通して感じ、鶏を捌く、魚を捌く体験を通して食の循環や食の大切さ、有難さを実感できるようにする。

私たちはどろんこ会の組織の人間としてプロ意識を持ち、やらねばならぬことを当たり前にやり通す、そして学び合う風土を持ち続けるプロ集団を目指していく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課・基本活動の実施
	実践予定内容	日課である生き物の世話、畑仕事、雑巾がけを子どもも大人も当たり前のこととして実践する。大人が汗を流し、労働する姿を見せていくことで子どもの見本となるようにする。
2	計画・ねらい	子ども自らが選択できる環境づくり
	実践予定内容	子ども自身が選択できる環境設定をし、遊び込める環境づくりをする。また、子どもの発達や状況に応じてスタッフ同士でアイデアを出し合いながらアップデートしていく。
3	計画・ねらい	人格形成の土台づくり
	実践予定内容	どんな世の中になっても生き抜くための力や術を自ら考え、行動できるように時間を無駄にせず「生きた体験」を実践していく。また、保育園が子どもにとって安心できる「居場所」となるよう温かく安らげる環境づくりをする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育てをする保護者の思いに寄り添い、子どもの成長を喜び合う
	実践予定内容	仕事をしながら子育てをしている保護者に寄り添いながら、悩みや思いを受け止めていく。また、保育園が保護者にとって「拠り所」となるよう信頼関係を築いていく。
2	計画・ねらい	保護者の立場になり、園全体で丁寧に対応する
	実践予定内容	数多くある保育園の中から「若林どろんこ保育園」を選んでいただいたことに感謝をし、心を込めた丁寧な対応をする。いつでも話しかけやすい雰囲気と笑顔で対応し、保護者が必要としていることを汲み取ることができるようにしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	若林どろんこ保育園が地域の拠点となるよう周知していく
	実践予定内容	若林どろんこ保育園の名前は比較的認知されていると思うが、保育についてもっと知っていただくための周知活動をしていく。来園された方には丁寧に対応し、保育について興味を持っていただけるようにする。
2	計画・ねらい	近隣の保育園、幼稚園、小学校、中学校、施設との交流を図る
	実践予定内容	近隣の施設と関わりを持ち、交流ができるように働きかける。交流することでお互い助け合えるような関係性を築く。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	多様性を認め合い、共に生活をする。
	実践予定内容	大人も子どもも、育ってきた環境や背景、考え方が違ってもお互いを認め合っていく。また、障害のある無しに関係なく尊重しあいながら成長できる関係性と環境を作っていく。
2	計画・ねらい	学びあい、向上心を育てる
	実践予定内容	園内研修や園長大学®保育士大学の学びを通して専門性を高め、多様な人たちと目標に向かって協力する力や考え抜く力、失敗しても粘り強く取り組んでいく力が身につくようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材残差を減らす
	実践予定内容	給食残差について、法人目標値を達成できるよう工夫し、無駄のない食材の発注をする。また、子どもたちへ丁寧に関わりながら楽しく食事をすることで残渣を減らす。
2	計画・ねらい	畑の土づくりを丁寧にする
	実践予定内容	畑の野菜の生長を豊かにするために、堆肥づくりは欠かさないようにする。子どもたちと一緒に堆肥づくりを丁寧に行うことで、堆肥になるまでの過程や、微生物が堆肥づくりに大いに役立っていることなどを知るきっかけになるよう働きかける。

〈6〉人権擁護

1	計画・ねらい	子どもも大人も平等であり、一人の人間として認め合う
	実践予定内容	大人だから、子どもだからではなく、ひとりの人間として誰もが尊重され、平等であることを理解し、お互い認め合える関係性を築く。
2	計画・ねらい	子どもにとっての最善の利益
	実践予定内容	目の前の子どもたちにとって最も良いことは何かを第一に考えていく。また、大人本位の考えではなく、子どもの気持ちや意見を聞き、汲み取りながら保障する。

〈7〉学び合う風土と働きやすい環境

1	計画・ねらい	学び合いと個々の成長
	実践予定内容	園内研修や園長大学®保育士大学の学びを通して学ぶことで、専門性を高め、多様な人たちと目標に向かって協力する力や考え抜く力、失敗しても粘り強く取り組んでいく力を身に付ける。
2	計画・ねらい	働きやすい環境づくり
	実践予定内容	年齢関係なく語り合い、多種多様な意見や考え方があることを寛容に受け止めていく。コミュニケーションを取りながらチームであることを理解し関係性を気づいていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	18人	18人	20人	20人	20人	105人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	17人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	２人	事務	1人	用務	1人	嘱託医	2人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、毎日の日課と活動の振り返り、行事について話し合う。
給食運営会議	月1回	保育との連携、アレルギーや未食について、離乳食の共有、給食残渣について
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故やインシデントの共有と改善
ケース会議	月1回	子どもの特性の理解と支援について
リーダー会議	月1回	現在起きている問題についての対応、改善策、保育に関する全てをリーダーで話し合い共有する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	連絡事項、園事業報告
施設長勉強会	月1回	園運営に関すること、共有事項
食育会議	年4回	アレルギー対応、事例、マニュアル確認
保健会議	年4回	保健に関するマニュアル確認
主任会議	月1回	連絡事項、共有事項
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上についての学び、共有事項

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	薬品管理、衛生環境整備、感染症対策対応
安全対策係	事故防止委員会開催、安全点検、ハザードマップ制作と管理
防火管理者	消防計画、消防自主点検確認
食品衛生責任者	食品衛生管理、給食会議開催
畑係	畑全般、管理、堆肥づくり

生き物係	ヤギの世話、鶏の世話、餌発注、ヤギ当番管理、その他生き物管理
環境係	園全体の安全管理と保持、子どもが遊び込める環境
教材備品発注係	教材、備品の発注と管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連携、計画

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・安心、安全な環境の中で心地よく過ごす。 ・大人に見守られながら食べる意欲を育み、食べる楽しさを味わう。 ・身近な環境との関わりを通して、自発的な欲求や自由に」探索する姿を温かく見守られることで信頼関係を形成する。
	下半期 0～1歳児	・安心安全な環境の中で、体を十分に動かすことを楽しむ。 ・身近な大人や子どもとの関わりの中で喜怒哀楽や自己主張することで自我を表出していく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・園生活に慣れ、安心、安全な環境の中で異年齢との関わりを楽しむ。 ・日課である畑仕事や生き物の世話、雑巾がけ、長距離散歩を継続し、自分の仕事は自分で行う。
	下半期 2～5歳児	・身近な人に親しみを持ち、自分の気持ちや思い、経験したことを相手に伝えあうことで異年齢との関わりを楽しむ。 ・日課である畑仕事や生き物の世話、雑巾がけ、長距離散歩を通して様々な経験を積み、充実感や満足感を味わえるようにする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	実施なし

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食の意欲を育む
	実践予定内容	保育者は子どもと一緒に給食を食べる。食事を共にすることでコミュニケーションを取りながら、食べることが楽しいと思えるようにしていく。
2	計画・ねらい	食べられる適量を配膳する
	実践予定内容	子どもが自分で適量を配膳できるようにする。時にはこぼしたり、皿や茶碗を落として割ってしまったりすることもあるが、落としたら割れることも経験して学んでいくことができるようにする。
3	計画・ねらい	口腔発達の理解
	実践予定内容	年齢ごとの口腔発達について学び、理解を深める。また、給食を一緒に食べることで咀嚼ができているか、食材の大きさは適正かを見極めるようにする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い、うがい、手指消毒、感染症、歯磨き、早寝早起きの習慣、感染症など
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 8月頃･･･夏の感染症　手足口病など 12月頃･･･インフルエンザ 感染症予防のための手洗いうがいの指導、
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･3名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗アレルギー剤･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２3名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては3月中に受講予定
AED使用できるスタッフ	AED設置なし

（AED設置施設のみ）	
その他保健に関する取組	新型コロナウイルス、インフルエンザ、他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／4･10月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが選択し、主体性を育む環境設定
	実践予定内容	子どもが自ら選択し、遊び込める環境を作っていく。やってみたいこと、挑戦したいことを日常的に遊びの中に取り入れて遊ぶことができる環境を継続して考える。
2	計画・ねらい	子どもたちで話し合い、試行錯誤しながら活動を展開する
	実践予定内容	子どもたちが自分の思いや、やってみたいことを話し合い決めていくことができるような環境設定を考える。友だちと話し合う中で意見の食い違いや、言い合いになることがあっても大人は側で見守っていく。話し合いが進まないときは塩梅を見極め、仲立ちをしていくようにする。
3	計画・ねらい	コーナーの充実と素材の工夫
	実践予定内容	子どもが夢中になって遊び込めるコーナーの設定をする。子どもたちが今どんなことに興味がるのかを観察し、発達に合った玩具や素材の工夫をして子どもの興味関心に繋がるように工夫する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	丸太	園庭	毎日
2	ヤギ小屋	園庭	毎日
3	鶏小屋	園庭	毎日
4			
5			

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災 …危機管理マニュアルに則り、消防計画、避難訓練、防災自主点検、危機管理マニュアル整備、自営消防組織と安全対策係の設定を行い、災害発生時にはフローチャートに従う。
2	実践予定内容	ケガ事故防止 …危機管理マニュアルのケガ防止策、安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び設備点検チェック実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生児にはフローチャートに従う。
3	実践予定内容	防犯 …危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の

		携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、ケガ発生児にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ …危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握をしながら発生時には光化学スモッグ発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生や職場体験の学生を積極的に受け入れ、保育士の仕事についてやりがいや楽しさを感じてもらえる」ように関わっていく。学生からの質問や疑問に対しても笑顔で丁寧に対応し、「どろんこ会」の入職に繋がるようにしていく。

1	実践予定内容	実習生、職場体験の受け入れを積極的に行う。また、実習が楽しくなるような話をしながら関わることで期待が持てるようにする。 口コミで「どろんこ保育園」が良い意味で知れわたり、入職に繋がるよう働きかけていく。
2	実践予定内容	学校との繋がりを大切にし、学生ボランティアや見学に来てもらえるよう積極的に学校側へ出向き働きかけていく。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ、与薬ルール ③ SIDS ④ 児童の人権と保護者の守秘義務について ⑤ 人権チェック・虐待防止研修	コンピテンシーについて ケガ、ケーススタディについて具体的に学ぶ。 人権擁護、守秘義務についての研修、人権チェックを行う。
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課について ③ 熱性痙攣	どうして日課を大切にしているのかを知り、学び合う。

6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者対応 ③ プールの安全管理、溺水対応、心肺蘇生について	丁寧な保護者対応について学ぶ。 プールの安全管理、ピンクタスキの役割
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境設定について ③ 熱中症、夏の感染症	子どもたちが自ら選択できる環境設定を具体的に学ぶ。 熱中症、感染症について
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② １０の姿 ③ 誤飲、誤嚥、窒息について	子どもが育ってほしい10の姿を学ぶ。 誤飲、誤嚥、窒息が起きた場合の対処法、連絡について
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの主体性 ③ 口腔機能発達と誤飲、誤嚥	子どもの主体性を育てる保育とは何かを学ぶ。 一人ひとりの口腔発達の理解、誤飲誤嚥について
10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 児童の人権と保護者の守秘義務について、人権チェック・虐待防止研修 ③ 家庭支援について ④ インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎他感染症	子どもの人権と保護者の守秘義務について学ぶ。 多様化する保護者の支援方法について学ぶ。 感染症について
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の質の向上 ③ SIDS ④ 子どもの視覚	保育の質を向上について、どんなことを実践してきたかを共有しながら学ぶ。 SIDSについて 子どもの視覚について
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育要録について ③ アレルギー	保育要録とは何か、また書き方について具体的に学ぶ。 アレルギーについて、アレルギー症状が見られた場合の対処法
1月23日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ④ インクルーシブ保育について ⑤ 排泄の仕組み、トイレットトレーニング	混ざる、その先についてインクルーシブ保育を学ぶ。
2月中	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議１	１年間の保育を振り返り、実行できたこと、できなかったことを共有する。

			今年度の目標達成について共有し、振り返りながら次年度目標や意欲に繋げる。
3月中	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ③ 策定会議２	1年間の自らの保育を振り返りながら来年度について話し合う。 運営本部ミッションを踏まえて来年度の計画をスタッフ全員で提案し、作り上げていく。

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月末までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈４〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈５〉経験年数別の研修

若手、中堅の経験年数別の研修を実施する。研修での学び、保育についての悩みなど、同じ立場で話すことでコミュニケーションを図り、前向きになれるようにする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

近隣の保育園や幼稚園、小学校、中学校、施設、商店など地域の方々と関わり、交流することで「どろんこ保育園」の保育を知っていただく。また、園が地域の拠点となるよう周知活動をし、働きかけていく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：南小泉交通公園にて　　集客目標：50名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問や地域住民との交流、来園した親子との交流を計画、実施する。
異年齢交流	全年齢が混ざり合い、関わり合いながら他園との交流をする。
地域拠点活動	保育参観や保護者共同による「どろんこ祭り」の開催、誘致、未就園児や地域の親子への園庭開放「ちきんえっぐ」誘致、子育て支援、相談
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

小学校の行事や授業参観、幼保小連携に参加し、実際の小学校１年生の生活を知る。また、幼保小のスタッフ間では子どもの姿や支援の仕方を共有、子どもの理解を深めていくようにする。子どもたち同士が交流することで、就学時の段差を低くし、滑らかな接続に繋がるようにしていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4～5月頃	若林小学校	1名予定	年間打合せ（若林小校庭）	スタッフ間交流

7月頃	若林小学校	2名予定	幼保小合同研修会（若林小学校）	スタッフ間交流
11月頃	若林小学校	26名予定	生活発表会（若林小学校体育館）	子ども間交流
1～2月頃	若林小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流
1～2月頃	古城小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流
1～2月頃	古城小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流
1～2月頃	南小泉小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流
1～2月頃	遠見塚小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流
1～2月頃	沖野東小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流
1～2月頃	古城小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流
1～2月頃	沖野小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流
1～2月頃	四郎丸小学校	1名予定	幼保小連絡会	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの特性を理解し、支援や配慮について一人ひとりの計画を見直していく。

「混ざる」のその先への支援を全スタッフで考え、今しかできない体験や活動を選択できる環境づくりをしていく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１０名予定）

要支援児や気になる子の関わりについて話し合う。支援の方法や子どもの状況、保護者の様子についても共有する。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

進級時、就学時に子どもの様子を丁寧に伝え共有、引継ぎを行う。小学校就学時の段差を低くするための情報共有を行うようにする。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：月100名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：30名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：30名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：30名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回　公園名：南小泉交通公園にて開催　集客目標：50名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年６月６日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１３時００分
自己評価終了予定時刻：１５時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任及び当日出勤スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	若林どろんこ保育園在籍数100% スタッフ離職率減
	振り返り	入園希望者が昨年同様３桁であったが、昨年よりも明らかに人数が減っている。少子化の影響もあるが「選ばれるためには」を園全体で考え、次年度に繋げる。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	保育者としてスキルを磨き、向上心を持ち、楽しんで学び続けていく人材育成
	重点施策	学ぶことで自らのスキルを磨き、向上心を持って学びあえる集団を目指す。お互い良い刺激を受けながら楽しく学べるような風土を作っていく。
2026年度	目指す姿	自立できる集団①
	重点施策	保育のこと、保護者のこと、相手のこと、自分のこと、全てを見渡して考え、自身で行動、実践できるようなプロ集団を目指す。
2027年度	目指す姿	自立できる集団②
	重点施策	どのスタッフに聞いても自信を持って保育や法人について答えられるようなスタッフ育成、何事も他人事ではなく、自分事として受け止められる人材育成を目指す。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：若林どろんこ保育園 施設長　門脇　篤子

２０２５年度　中目黒どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

子どもたちには幸せを自分で探し出せる能力は備わっています。自分で自分を育てようとする力を持っている子どもたちは大人の適切なサポートを受け、ホンモノの体験と労働を通じて学びを深め主体性を養い、未知なことに遭遇したとしても困難な課題を乗り越える方法を生み出すことができます。これからの社会を生きる子どもたちだからこそ、1日1日を大切に人々と関わりながら“Try＆Error”「失敗したって、やってみなきゃわからない」子どものチャレンジを私たちは応援していきます。
そして、保育資源を活用し、保護者、スタッフ、地域の方々とともに子どもに関わる全ての人々が協働的に関わりあい、中目黒どろんこ保育園が地域になくてはならない保育施設を目指していきます。

施設運営方針
【主題】原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
①　「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
②　「畑仕事・生き物の世話・堆肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
③　「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

どろんこ会グループが目指す園の姿のポイント
1.　生活の体得
2.　10の姿の体得
3.　子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4.　鶏を絞めて食す　命をいただく活動の実践
5.　自律運営

中目黒どろんこ保育園　園目標
　聞く力・伝える力・考える力・想像する力・楽しむ力

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもが人として生活し成長するための基本的生活習慣（生きる力）を身につける。
	実践予定内容	どろんこ会グループの日課・基本活動を柱に生活に減り張りを持たせ、基本的生活習慣（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱）を子どもと学ぶ姿勢で保育者が根気強くサポートし、日々の生活の中で習慣化していく。 「早寝早起き・朝ごはん」保護者とともに、1日の生活リズムを整えていく。
2	計画・ねらい	生活力の基本（社会的生活習慣）「あいさつ」がすすんでできるようになる。
	実践予定内容	朝の受け入れから始まり、散歩の道中、日常の生活の場面で保育者が相手にわかるように丁寧なあいさつを心掛ける、挨拶運動を展開する。

		相手の気持ちに気づいたり、思いやるきっかけになったりする「感謝の言葉」を０歳児から学ぶ機会を積極的に取り入れていく。
3	計画・ねらい	聞く力、伝える力、考える力を育てる
	実践予定内容	・保育者の聞く力が子どもの話す力・聞く力を育て、保育者が子どもの耳に届く話し方を工夫することでさらに聞く力が育つ。そして、保育者は子どもに有効な質問をすることで伝える力＝考える力が育つようにする。 ・保育者が子どもの気持ちを汲み取って、代弁してあげ、子どもも気持ちを自覚することで、言葉で伝える姿勢を学ぶようにする。 ・子ども同士で話し合う・順番を決める・交代して行う・皆の前で発表したり自分の意見を述べたりできるように、導き見守る。 ・絵本の読み聞かせは、自分以外を考えるきっかけとして大変有効であり、想像する力を養うためその時々、年齢、生活、あそび、子どもの興味関心に合わせて積極的に行う。
4	計画・ねらい	法人理念や法人目標から落とし込まれた、保育目標に向かって、全スタッフが計画的・数量的・体系的な行動計画を持ち実践する
	実践予定内容	園や個人の課題に基づいた園内研修（園長大学・保育士大学）を軸に学び続ける文化を醸成する。その上で「目指す子ども像」「園目標」に適った行動になっているのか、具体的に行動レベルで何が組織として正しくて、何が合理性に欠けるのかを全スタッフで評価し、歩みを進めていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	明るい挨拶と丁寧な対応 （①思いやり　②誠実さ　③謙虚さ　④感謝）を忘れずおもてなしの心を込めたサービスを提供する）
	実践予定内容	・全スタッフが常に明るい笑顔で挨拶するとともに、一言添える。心理的安全性という、安心感と話しやすい雰囲気づくりをこころがけ、保護者と協働の子育てを意識していく。 ・その子ならではの姿・育ちを具体的に伝えるお迎え対応（黄金の15秒）に取り組む。
2	計画・ねらい	保護者と協働の子育て①子どもの基本的生活習慣の自立を支える
	実践予定内容	・「生活力」は日々の生活の中ではぐくんでいくことが大切であり、規則正しい生活リズム（毎日、同じ時刻に寝たり、起きたりすることや朝ごはんを欠かさず食べる）を身につけることが、保育園で元気に過ごす活力になり、「主体的に生きる力」の土台になることをあらゆる方法を用いて知らせる。 ・子ども、それぞれの保育園での生活の姿をわかりやすく知らせ、家庭での生活の姿と歩調を合わせながら、規則正しい生活リズムへと近づけていく。
3	計画・ねらい	保護者と協働の子育て②保育園づくり
	実践予定内容	・保護者懇談会の充実。法人の理念、中目黒どろんこ保育園の保育方針を日々の保育の姿から、目に見える姿だけでなく、その取り組みを通してどのような力が育っているのか、日々の活動にはどんなねらいがあるのかについて知らせ、「子ども主体の保育」を伝えていく。 ・保育参加の推進。保護者が保育者として保育に参加していただくこと

		で、「保育現場は面白い」「子どもも大人も多様性に満ちている」ことを実感していただく。また、保育者とは違った視点から保育園の運営に対し貴重なご意見を伺い、「選ばれる保育園」への一助とする。 ・個人面談の推進。子ども一人ひとりの置かれている状況や特性に合わせて、柔軟に対応し、子どもの生活の場として相応しい充実した保育を展開するため、保護者の意見のお聞きしながら協働的保育を進める。 ・どろんこサポーターズへの登録者(目標：30%)が増えるように働きかけ、出来るだけ多くの保護者様に園運営に携わっていただき、協働の子育ての土台を形成する。
4	計画・ねらい	保護者同士つながりを紡ぐ
	実践予定内容	・護者同士の交流・親睦を深めるため、保護者懇談会での懇談の場、園の行事に関わっていただく機会（行事のお手伝い）の提供、年数回の絵本修理や整理（図書コーナー）のお手伝いなど、保護者から募集してお茶のみ懇談しながら、保護者同士のつながりを深めていただく。 そうした中で、子育て世代同士が交流し、子育ての問題を気軽に話し合い保護者が孤立することなく、みんなの励ましと知恵を受けられる場所となるよう、子育てコミュニティを作る。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て拠点として、交流の場となる保育園
	実践予定内容	保育所保育指針「地域に開かれた子育て支援」及び「東京都の保育所地域子育て支援」を鑑み、保育所の役割や機能を達成するために地域のニーズを把握し地域の資源として保育園を利用できるようにする。そのために、関係機関や各団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報が全スタッフ間で共有されるようにする。
2	計画・ねらい	地域に開かれた保育園「ちきんえっぐ」の認知度を高め、活用を進める。
	実践予定内容	商業施設や公的機関を含め地域の子育て家庭に、「ちきんえっぐだより」やチラシの配布を積極的に行い、広報活動に力を注ぐ。また、散歩先の公園で出会った親子にも積極的に言葉を交わし、興味を持っていただくようにする。
3	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践予定内容	青空保育の内容がマンネリ化しないように、担当保育士だけでなくそれぞれのスタッフの個性が生かされるような取り組みとしていく。その際、参加している親子に対して、この地域に中目黒どろんこ保育園があり、子育て支援室「ちきんえっぐ」の存在を知らせ、利用をお勧めする。
4	計画・ねらい	子どもたちに良い刺激を与え、保育の幅も広げられ近隣園との「交流保育」を推進する。
	実践予定内容	・中目黒どろんこ保育園から積極的に発信し、近隣園との交流の場を設けていく。子どもたちの遊びの場を設定し、初めて出会う人々との関係性を築いていけるような取り組みとする。そうした場からお互いが刺激となって、人を尊重する心や、社会性、協調性、コミュニケーション能力など、集団生活をスムーズにする多くの能力を身につけていく活動とする。 ・他法人、他園との交流を通して、中目黒どろんこ保育園が地域の拠点と

		なるよう、どろんこ保育園ならではの保育のあり方や物的環境(園舎・園庭など)を提供し、活動を展開していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「インクルーシブ保育」分ける保育から混ざる保育へ。 すべての子どもが自ら選んでやってみることができる物的環境・人的環境構成の確立
	実践予定内容	子どもを分けて保育するのではなく、集団の中にあっても子ども一人ひとりの姿に注目して、保育者は個々の発達やバックグラウンドを基に育ちを支えていく。そのために、基本的な発達や行動療法「ペアレント・トレーニング」、口腔発達について学びを深めていく。
2	計画・ねらい	基本活動の深い理解
	実践予定内容	・どろんこ会グループの日課・基本活動に対して全スタッフがその意味、根拠を示すことができるように保育実践する中で理解を深める。 ・基本活動を実践する中で子どもの育ちを捉え、エピソードを記録。エビデンスを取る。
3	計画・ねらい	子どもの姿ベースの指導計画の作成
	実践予定内容	・「子ども主体の保育」を目指して、全体的な計画から年間指導計画、そして月案、週日案へと落とし込む工程の中で、子どもたちの素朴な興味や関心、小さな発見やつぶやきを捉えながら、次の日の、また次の週の保育の展開を構想してゆける保育者を育成する。 ・養護と教育の一体化について学びを深め、計画に反映し、子どもの姿に照らし合わせ、評価する。 ・やりっぱなしの保育から脱却するため、PDCAの取り組みを週会議の場で行ない、仲間とともにキャリアップを図る。
4	計画・ねらい	子どもの姿を捉え、3本の柱、5領域、10の姿の重要性を追求していく。 子どもの資質・能力を育むことで、「生きる力」の土台を培う。
	実践予定内容	10の姿について学び（何を育てる？→育っている子どもの姿は？）子ども育ちを具体的な事例から見取り、子ども理解を進めて子どもの育ちを保証できる人材を育成する。
5	計画・ねらい	スタッフの接遇・ビジネスマナーの向上及びコミュニケーション能力を養う。
	実践予定内容	コンピテシーの活用、接遇研修の開催と合わせ、実際の園の事例をスタッフ全員で考える機会を設ける。（連絡帳・タイムラインのコメント、お迎え対応、ご意見ご提案等）

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで廃棄にかかる環境負荷を減らし、食べ物を大切にする。
	実践予定内容	・子どもの規則正しい生活リズムを家庭と協力して、日々思いっきり体を動かしお腹のすくリズムで給食を食べ、給食残渣を減らしていく。 ・適正な食材発注に留意する。

2	計画・ねらい	調理くずの有効利用や給食残渣・ヤギの糞による堆肥作りをし、循環型のエコサイクルを知らせていく。
	実践予定内容	バケツコンポストやヤギのお世話をすることで、畑やプランターに撒く堆肥を作り、栽培に役立てる。収穫した野菜をクッキングしたり加工したり、生育について調べたりして、食の循環を知らせていく。
3	計画・ねらい	自分たちが生きてゆく上で食と労働が欠かせないものであることを知る。
	実践予定内容	畑仕事・食材の加工・ヤギの世話(小屋の掃除や糞の始末)、魚を子どもが実際に捌いて食べる命をいただく等の活動を通して、生きてゆく上で食と労働が欠かせないことを知らせていく。

〈6〉自律した保育園運営

1	計画・ねらい	スタッフ一人一人が内部監査の確認ポイントを理解し、実践することで質の高い保育を提供する保育園となり、選ばれる保育園を構築する。
	実践予定内容	内部監査・自治体監査、指摘０を目指し、監査項目、園運営について学び、理解し実践し、STPDサイクルで自主運営を目指す。そのために、スタッフ全員が職責に関わらず、チームとなって園運営に関わり、週会議、園会議の場で確認していく。
2	計画・ねらい	主任・各リーダーが保育現場の牽引者として、OODAを実施。保育の質の向上に努める。
	実践予定内容	リーダー会議を適宜行い、課題の抽出、改善について検討する。 ・保育の連続性を担保するためOODAサイクルを日常化、週会議・クラス会議等で保育Wevなどを活用して、その時々に有効な打ち合わせの中で検証し、保育の質の向上に努める。
3	計画・ねらい	意見が出しやすい雰囲気づくりと子どものことが常に話題になる職員集団の構築
	実践予定内容	・毎日、各クラス、給食、用務・事務職ごとに5分から10分間の振り返りの時間をもつ。 ・施設長は職員に対して指導よりも支援を重視し、施設長はトップダウンではなくスーパーサポーターとして下支えをする。 ・ボトムアップを図り、各園会議では批判をしない、まずは受け入れる姿勢を基本として、若手職員や給食や用務・事務職など、意見を言いやすい雰囲気と仕組みづくりに着手する。
4	計画・ねらい	スタッフ一人一人が事業計画・年間スケジュールで保護者様、子どもたちと約束したことを達成するため、責任をもって取り組む。
	実践予定内容	事業計画・年間スケジュールで約束したことを達成するためスタッフ一人一人が「あなたはどうするか」主体性に考え、学び、動き、MBOのアクションプランを着実に実行する。

〈7〉子どもの人権に配慮した丁寧な保育の実践

1	計画・ねらい	一日一日を大切にした丁寧な保育の基本を徹底する。
	実践予定内容	・子どもには常に笑顔で「大丈夫」「先生がいるよ」というメッセージを送り、子どもが自由に活動を展開できるようにする。

		・0歳児であっても、いきなり抱き上げたり、交換条件を出したり、全ての子どもに対して傷つけしまう言葉遣いや態度は示さない。 ・手間がかかったとしても子どもに必要だと思う経験を与え、必要な労働保育者が丁寧に教えていく。
2	計画・ねらい	応答的な対話で子どもの意見が尊重され、発達に応じて考慮されている。
	実践予定内容	・対話の主導権は子どもに委ね、子どもの興味に沿って対話を重ね、言葉を引き出していく。 ・子どもの主体性を育てるため、むやみやたらに話しかけるのではなく、話かけて欲しそうなときに、話して欲しがっていることを推察して対話する。 ・子ども同士で話し合う・順番を決める・交代して行う・皆の前で発表したり自分の意見を述べたりができるように物的環境と人的環境を整える。
3	計画・ねらい	スタッフに見守られながら、安心して未知の状況にあっても自分で考え、選択し、表現する力を養う。
	実践予定内容	「ダメと言わない」保育の実践。否定語を言いかえ、子どもが意欲をもって「自己決定」できるような言葉の選択を実行する。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	10人	12人	13人	13人	13人	70人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時３０分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	2人	栄養士	4人	調理員等	0人
	再雇用スタッフ	0人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人		
パート	保育士	3人	補助	1人	調理	0人	事務	1人

スタッフ	用務	1人	再雇用スタッフ	0人	嘱託職員	0人	嘱託医	2人
	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人				

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー、児童処遇改善検討、保育の内容を図る検討、園として取り組むべき課題討議及び研修
給食運営会議	月1回	運営部ミッションに則り、園の課題を協議、食育計画の振り返り
事故防止委員会	月1回	園内外におけるヒヤリハットやインシデン事例に鑑み事故予防と防止の具体的施策に係る検討
ケース会議	月1回	支援が必要な配慮児の状況把握、職員の意識統一などを行う。
週会議	週1回	指導計画、子どもの状況把握、各情報の共有と意思統一行事の確認
クラス会議	月1回	指導計画、子どもの状況把握、各情報の共有と意思統一行事の確認

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人本部よりの伝達事項、運営状況の報告、検討事項
施設長勉強会	月1回	業務改善会議と連動し、施設長としてのマネジメント方法、園の運営、保育のスキルアップを図る
食育会議	年4回	給食業務改善(衛生管理、SDGｓ、残渣、栄養給与目標量、食環境、保育士との連携、喫食状況、マニュアルの確認等)を図る。
保健会議	年4回	園児健康管理業務改善(保健にかかわる検討、保育との連携、マニュアルの確認等)を図る。

主任会議	年4回	施設長の補佐、保育の質向上のリーダーとしてのマネジメントの確認、園運営のマネジメントを学ぶ。
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園児保健衛生管理、安全管理、環境衛生管理などを行う。
安全対策係	避難訓練実行及び検証、環境安全整備、危機管理などを行う。
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火、消火についての毎月1回の職員訓練と日常的な啓蒙を行う。
食品衛生責任者	食品の安全に関わる管理や啓発、衛生点検などを行う。
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる。
生き物係、植木係	飼育動物の健康管理、動物小屋の維持管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる。 植木や植え込み園庭状態の管理、把握や課題検討におけるイニシアチブをとる。

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの企画・検討・運営のサポートを行う。

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・言葉でのやり取りができない乳児期は周囲の大人との愛情やり取り豊かなやり取り（応答的）で、互いの気持ちを響き合わせて、様々な能力の基礎となる「信頼感」の発達を促す。 ・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄な

		どの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 ・優しく語りかけたり、喃語や発語に応答したりして発語の意欲を育て、言葉を使うことを楽しむようにする。 ・安全な環境を整え、探索行動が活発にできるようにする。 ・身近な動植物に親しみ、関心や愛情が持てるようにする。 自然の中で、十分に体を動かして遊ぶ。
	下半期 0～1歳児	・子どもが何に興味を示しているのかを考えながら見守り、学びに向かう意欲へとつなげていく。 ・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちを育む。 ・生活に必要な言葉が次第にわかり、簡単な喃語や言葉を使って自分の意思を伝えようとする。 ・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊び、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 身近な自然に触れ自然を使った遊びを楽しむ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・子どもの主体性や意図を理解し、そこに子どもの個別の学びがどのように存在しているのかを考え、支援する。 ・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・友だちと一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わったりするようにする。 ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。 ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・友だちとの関わりの中でそれぞれが自分の力を発揮して活動に取り組む。 ・いろいろな体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれる。 自然に興味を持ち自分から関わって遊ぶ。
	下半期 2～5歳児	・子どもの様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で捉えるようにする。 ・季節の変化に応じた健康的な生活に留意し、快適に過ごせるようにする。 ・食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事や間食を取るようになる。 ・自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につける。 ・友だちへの親しみや思いやりを深めながら、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする。 ・色々な体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれ自由な発想でのびのびと表現することを楽しむ。

		・身近な動植物や自然に関心を持ち、その大きさ、美しさ、不思議さに気づく。 ・友だちへの親しみや思いやりを深めながら、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	一人一人の口腔機能の発達を理解し発達に合わせた支援をする。
	実践予定内容	原則にとらわれず、一人ひとりの口腔機能の発達を理解し、食材の形状、姿勢保持など支援の仕方を検討する。 空腹感や食欲を感じ、それが適切に満たされる快感を覚えさせる。（お腹のすくリズムがもてる子どもに）
2	計画・ねらい	食べたいもの・好きなものが増える子ども
	実践予定内容	味わうという感覚は、感覚的な要因と環境的な要因が融合しなければ成立しない。快適な食卓で、五感をしっかり使った食べ方を体得させる。（噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する）
3	計画・ねらい	一緒に食べたい人がいる子どもに
	実践予定内容	スタッフはこどもと一緒に食べる。共食共感は社会性発達の目安であり、食は人と人をつなぐ食育活動を通して実感させる。
	計画・ねらい	食事づくり・準備に関わる子どもに子ども
	実践予定内容	・「満足感」や達成感を味わい、食の自立を獲得していく食育活動を「共同学習」としてとらえる。（子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる） ・畑やプランターで採れた野菜を調理し、食事作りに関わり、食に対する興味をもち、「美味しい」を自分の言葉で表現する。
	計画・ねらい	食生活や健康に主体的に関わり、食べることを会話する子ども
	実践予定内容	・「作って食べて後片付け」といった一連の食生活活動を体験し、作ってくれた人への感謝の気持ちを覚えさせる。 ・こどもSDGｓの観点から残食やヤギの糞など堆肥つくりなど、こどもと一緒に行いながら、持続的、継続的な保育に取り組む。
	計画・ねらい	自分の体に関心を持つ
	実践予定内容	子どもが自分の身体に関心を持ち始めたら、虫歯や好き嫌いなどを通し

		て、食べ方や生活の仕方の悪さを自分でコントロールできるように、食と健康の関わりを教える。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）0歳児のみ毎月
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	・足の話（5月・9月） ・歯磨き指導（6月・11月） ・手洗い指導（6月・11月） ・目の話（10月） ・耳の話（10月） ・性教育（1月ごろ年長児対象）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 4～9月頃…手足口病・ヘルパンギーナ 6～10月頃…マイコプラズマ肺炎 7～10月頃…咽頭結膜炎・流行性結膜炎 11～5月頃…水痘・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 11～3月頃…インフルエンザ・感染性胃腸炎 1～6月頃…伝染性紅斑 3～4月頃…麻疹・風疹 1年を通して…突発性発疹・流行性耳下腺炎など
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／事務所冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員4名については2月20日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検	年2回／6･12月の25日

	（備蓄品点検含む）	
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 0歳児のみ年12回実施 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関われる環境設定に努める。
	実践予定内容	・子どもの興味関心、意欲をから道具や材料などを用意し、週会議やクラス会議において、発達にあっているのかなど検証していく。 ・異年齢児が混ざり合う中で、発達の差を考慮した環境設定になっているか、子どもが遊びこんでいるか等、保育Wevなどを用いて考察し改善していく。
2	計画・ねらい	ゾーン保育や玩具の安全性を常に確認しながら、子どもの興味関心に合

		わせ、マンネリ化を防ぎ遊びを豊かにしていく。
	実践予定内容	玩具の破損や材料の安全性を常に確認しながら、子どもが遊びこめる環境を作っていく。
3	計画・ねらい	保育中の安全対策や衛生管理など職員の共通理解できる体制を整え強化する。
	実践予定内容	・危ないから排除するのではなく、安全性を確認し維持していくことを考えていくことを基本とする。子どもたちの発達、個性、心身の状態に合った環境設定を仕掛けていく。 ・睡眠中、プール活動中、水遊び中、散歩中、食事中、歯磨き中などの場面では命にかかわる重大事故が発生しやすいこと踏まえ、子どもの主体性、自主性を大切にしつつ、室内外の環境に配慮し、チーム保育に努めながら、職員同士の連携を強化していく。 ・玩具や園児の持ち物などは衛生管理に注意し清潔に保つようにする。 ・事故防止チェック、設備点検などを確実に行い不備が認められた時には速やかに対応し、職員周知する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ヤギ小屋	園庭	毎日
2	配膳台	幼児室	毎日
3	平均台(大・中・小)	遊戯室	毎日
4	ヤギ休憩台	園庭	毎日
5	キーボード台	幼児室	毎日
6	パーティション	屋上	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	厚生労働省、法人の運営マニュアル・保育品質マニュアル、自治体条例・規則に基づいて的確に行動する。
2	実践予定内容	防災対策 災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や毎月消防計画に基づいた避難訓練や初夏訓練の実施。また、施設長を中心に日頃から「連絡体制の周知」と「行政等関係各所との連携」を行い、災害発生時に各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全を確保できる体制を整える。
3	実践予定内容	ケガ事故防止対策 ・保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内

		外の安全点検に努め施設長はケガ事故発生時対応フローチャートを全スタッフに周知する。フローチャートは更衣室・職員室に掲示し、全スタッフはいつでも対応できる状態にしておく。 ・ケガ、事故発生時または「ケガに至らなかったが、一歩間違えたらケガをしたであろう」という場合の記録（ヒヤリハット）を作成し、報告・共有の上、時系列で検証、分析し今後同じような怪我・事故の発生を防ぐ。
4	実践予定内容	防犯対策 定期的な不審者侵入対策の他、日々の不審者対策として、 1．笛の携帯 2．代理送迎者登　録の更新及び代理送迎者の身分証明書の確認。 3．不審者情報の収集（各関係機関と連携　を取り）不審者情報を随時収集する。適宣、文書やメールでの共有・防犯速報の玄関への掲示等を行う。
5	実践予定内容	光化学スモック対策 「光化学スモック注意報」が発令された場合、予報・注意報・警報・重大緊急方に従って、園児、スタッフの安全を確保する。
6	実践予定内容	熱中症対策 正しい水分補給を理解した上で、子どもたちが自ら水分補給ができる環境設定をする。天候によっては戸外活動を控える。
7	実践予定内容	有事の際は、地域と連携し地域防災マップに則り、園児、スタッフの安全を確保する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当グループでは実習生・研修生を積極的に受け入れます。
【種類】中高生の体験学習の受入／保育養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ／他随時相談

実習生一般および学生の各種ボランティアの受け入れでは、ワークショップを地域連携園と開催し、いつでも受入れる体制と迎え入れる雰囲気を作っていく。同時に広報活動をしていく。

1	実践予定内容	中学生、高校生や実習生が安心して保育園で子どもたちと接することができるようにスタッフが温かく対応するように心がけ、子どもとの触れ合いから学びと楽しさを感じてもらえるようにする。
2	実践予定内容	授業の一環として保育園を訪れることも考えられるが、その後個人的にも保育園に遊びに来てもらえるようなかかわりをもつ。
3	実践予定内容	学生以外の他業種の社会人や教育・保育関係者等の受け入れ、インターシップの受け入れ、保育園に興味関心がある方々を柔軟に受け入れていく。
4	実践予定内容	小学生ボランティアの受け入れ（卒園児）

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所における危機管理 ③ 虐待防止研修 ④ 安全指導研修	安心、安全に過ごせる環境を守る 不適切保育を防ぐ
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育と自然を未来志向で考えてみよう～飼育・栽培・さんぽどうしてる？【畑偏】	法人の基本活動を理解する
6月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「stop水難事故」 ③ プール事故防止訓練	重大事故を防ぐ
7月4日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 音楽はもっと自由でいい～心を豊かにする音楽の楽しみ方	楽しく音楽に触れる子育てる
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 気になる子への視点整理	グレイゾーンと呼ばれる子への対応
9月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの姿～自己肯定感とは、見守ると放任～	見守ると放任の違い
10月3日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所における危機管理 ③ 虐待防止研修 ④ 安全指導者研修	安心、安全に過ごせる環境を守る
11月7日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 指導計画＆要録	子どもの姿を指導計画に落とし込み次につなげる保育計画の作成 小学校へつなげる
12月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 明日からできる 乳幼児への性教育～からだのだいじの伝え方～	性教育の正しい理解

1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返り	事業計画の振り返りと次年度の計画について検討
2月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 口腔発達について	離乳食から幼児食へ 口腔発達の正しい理解
3月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 自己評価	自身のMBOの振り返りと次年度の目標について強みを探

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

法人理念における保育方針の「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々なかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に

愛される存在になるよう計画し実践する。また、中目黒どろんこ保育園が地域の子育て拠点となるよう、「交流保育」「ちきんえっぐ」の活動を広く知らせる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：中目黒公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・乳幼児の様子に応じて、高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援センター来所利用親子との交流を計画し、日常の保育活動の中で積極的に交流を行う。
異年齢交流	・主に3-5歳児は日常的に異年齢保育を行いながら、年少児と年長児の生活の中でかかわり合いが密になるように工夫する。 ・０歳－２歳児は子ども一人ひとりの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、様々な人との関わりが充実するように配慮を行う。
地域拠点活動	・園児保護者の随時受け入れ、保護者との協議によるどろんこ祭の開催を行う。 ・一時保育事業を実施する。 ・地域親子に向けて、子育て支援センターちきんえっぐと協同による園庭開放や自然食堂、どろんこ祭への誘致を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもの発達の連続性を見据えた上で、保育所における保育がおこなわれていること、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているか小学校と積極的に連携する。子どもたちと小学生の交流も積極的に実施できるよう小学校との連携を深めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月25日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	中目黒小学校 1学ねん	2名予定	授業参観 （中目黒小学校室）	職間交流
12月頃	中目黒小学校 低学年	3名予定	中目黒小学校学習発表会 （中目黒小学校体育館）	職間交流
1月頃	中目黒小学校 1年学年	15名予定	学校探検 (中目黒小学校校舎・校庭・体育館)	子ども間交流
1月頃	中目黒小学校 1学ねん	15名予定	中目黒小学校作品展示発表会 (中目黒小学校教室)	子ども間交流
2月頃	烏森小学校	15名予定	烏森小学校 (教室・体育館)	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する。個別ケース会議を毎月実施し、園全体でも共通理解を図る。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：7名予定）

・医療機関や専門機関による療育方針・方法を共有する。
・保育所の保育者全体に対しても障害児保育への正しい認識が持てるように配慮していく。
・子どもの特性を理解し心と体の発達あったより良い保育のため、発達支援ルーム「つむぎ池尻ルーム」と連携したケース検討を実施する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

障害のある子どもや医療的ケア児の生活の質が高められるよう、その子どもの特性を活かすような支援の経過を伝えるとともに連携していく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：５名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：２名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：２名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：２名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：中目黒公園にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：13時30分
自己評価終了予定時刻：14時30分
自己評価実施予定者：施設長、主任保育士、リーダー保育士、若手保育士、看護師、栄養士

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子どもが人として生活し成長するための基本的生活習慣（生きる力）を身につける。どろんこ会グループの日課・基本活動を柱に生活に減り張りを持たせ、基本的生活習慣（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱）を子どもと学ぶ姿勢で保育者が根気強くサポートし、日々の生活の中で習慣化していく。

	振り返り	子ども一人ひとりの発達を客観的にとらえ、根気強く丁寧にかかわることができた。しかし、まだまだ改善の余地は残されており、子ども自身が自分の生活を営む力を身につけるために、0歳児からのかかわりを見直し、発達成長に合わせた支援の在り方を検討する。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	様々な生活体験の中から、規則正しい生活のサイクルを知る。 どろんこ会の基本活動を実践し、主体的に環境に関わる。 連携・協働の中で保育所としての役割を果たす。 「すべての子どもと子育て家庭」の支援に取り組む
	重点施策	・家庭と協力し、子どもたちの基本的生活習慣の自立を目指す。 ・どろんこ会の基本活動を実践する中で人格形成を質高く確実に丁寧に取り組むと同時に環境教育を推進する。 ・保育園が地域の資源として、子育て相談、遊びの提供、交流の場として保育園を利用している保護者、地域の子育て家庭、園児、地域の子どもたちを支援する。
2026年度	目指す姿	環境教育（保育環境づくり・自然(地球)環境の理解・ものの大切さ）の実践から生命、自然、社会の事象に興味や関心を持つ。 連携・協働の中で保育所としての役割を果たす。 「すべての子どもと子育て家庭」の支援に取り組み、エピソードを積み重ねていく。
	重点施策	保育環境づくり・自然(地球)環境の理解・ものの大切さを様々な活動の中で触れて、気づき、成長できるように積極的に保育者がかかわり、環境に関われるようにする。 保育園が地域の資源として、子育て相談、遊びの提供、交流の場として保育園を利用している保護者、地域の子育て家庭、園児、地域の子どもたちを支援する。
2027年度	目指す姿	環境教育（保育環境づくり・自然(地球)環境の理解・ものの大切さ）の実践から生命、自然、社会の事象、に興味や関心を持つ。 連携・協働の中で保育所としての役割を果たす。 「すべての子どもと子育て家庭」の支援に取り組み、エビデンスを得る。
	重点施策	保育環境づくり・自然(地球)環境の理解・ものの大切さを様々な活動の中で触れて、気づき、成長できるように積極的に保育者がかかわり、環境に関われるようにする。 保育園が地域の資源として、子育て相談、遊びの提供、交流の場として保育園を利用している保護者、地域の子育て家庭、園児、地域の子どもたちを支援する。地域子育て支援の拠点としての役割を担う。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：中目黒どろんこ保育園 施設長　中村 利江

２０２５年度　船橋どろんこ保育園分園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

船橋市は千葉県で千葉市に次ぐ人口2番目の市であり、都心に通勤する保護者も多い市の中心部に位置する保育園として、整備された都会的な雰囲気と人口の多い雑踏の中であるが、以下のどろんこ会の基本方針をもって子どもたちを育み成長を見守る。

子育て理念『にんげん力。育てます。』
子育て目標『センス・オブ・ワンダー』
『人対人コミュニケーション』
生活・遊び・労働を教えあう保育園生活を実践していく。

【主題】原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
① 「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
② 「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
③ 「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

どろんこ会グループが目指す園の姿のポイント
1. 生活の体得
2. 10の姿の体得
3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4. 鶏を絞めて食す　命をいただく活動の実践
5. 自律運営

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	プロジェクト保育・年間を通じてテーマ設定に沿って保育を進める
	実践予定内容	策定会議で決定した担当保育者のテーマに沿って異年齢保育・表現活動・就学前教育などを担当保育者中心に進めていく
2	計画・ねらい	食育の充実・食育活動、畑作業、調理、廃棄物の活用の循環を意識する
	実践予定内容	畑にて野菜の生産し下拵え、クッキング、加工するなど食の循環を学ぶ
3	計画・ねらい	環境整備・心地の良い居場所づくり
	実践予定内容	各担当を中心に整理整頓・元に戻す・必要なものをきれいに設置する

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
	実践予定内容	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進める。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ
	実践予定内容	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進める。

3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ
	実践予定内容	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援室の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践予定内容	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)を実施する。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピール
	実践予定内容	月1回の近隣公園での青空保育の予告(ポスター掲示など)と実践時の招集活動の促進を行う。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践予定内容	高齢者施設・公民館・商店・銭湯への挨拶、訪問を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止の基本を理解する。
	実践予定内容	園内研修の実施。情報の共有。具体的な事例を知り、理解を深める。
2	計画・ねらい	大人の人間力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践予定内容	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践予定内容	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食物残渣の減量化
	実践予定内容	調理と連携し、日々の残渣を減らす。子どもたちは、日々給食食材に触れることで今日の食事を楽しみに過ごす。
2	計画・ねらい	地球環境への取り組み、食の循環
	実践予定内容	給食廃材や土を使ってコンポストを作成し土を再生させる。 命をいただく活動を通して環境教育を実践する。

〈6〉子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践予定内容	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進める。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践予定内容	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
3	計画・ねらい	人間力を身に付ける。平等性・情報の共有。

	実践予定内容	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることができる人材の育成。

〈7〉有言実行

1	計画・ねらい	期日を守る。提出期限・締め切りはあくまで最終日という事が意識出来る。
	実践予定内容	保育担当チームによるタスク管理。
2	計画・ねらい	有効な保育計画。子どもの成長に沿った保育計画を具体的に実践する。
	実践予定内容	保育計画の基本を意識した上で、臨機応変な対応をする。
3	計画・ねらい	自己計画。自分の目標を立て実行していく。
	実践予定内容	事務室内に目標を掲示し周知・周囲との協同を進める。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	0人	0人	0人	30人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	6人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	1人
	施設長	1人	主任	1人				
パートスタッフ	保育士	3人	補助	人	調理	人	事務	1人
	用務	0人					嘱託医	2人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー・情報共有・研修・交流
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育について
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返り
ケース会議	月1回	支援の必要な児童について
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り・見通し
行事会議	都度	行事についての計画反省

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人の確認事項など・月次報告
施設長勉強会	月1回	施設長の連携・保育を深めるための勉強会
食育会議	年4回	調理・施設長による食育全般について
保健会議	年4回	看護師・施設長による衛生管理などについて
主任会議	年4回	課内の主任による交流・勉強会
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のリーダーによる保育についての会議
併設園会議	年2回	併設園の施設長による情報交換・勉強会

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理の確認
安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認・
食品衛生責任者	給食の安全管理

畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
地域祭り係	地域行事への参加

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分に出来るようにし、友達との関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	・身近な大人との安定した関係のもと、一人遊びを十分に楽しみながら、自我が芽生える。 ・生活の中の様々な遊びや人との関りを通して自我が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・毎日の生活や遊びの中で基本的習慣や運動が心地よい感覚として身につく。 ・友達との関りを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。
	下半期 2～5歳児	・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら他者を受容する感情が育つ。 ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験し、目標に向かって友達と力を合わせて活動する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。
	実践予定内容	素材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践予定内容	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つ。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践予定内容	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事で、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き・手洗い・うがい指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月頃･･･溶連菌 １月頃･･･インフルエンザ
エピペン使用できるスタッフ	本日現在１０名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員２名については４月1日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在１０名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員　名については４月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	室内環境の整備
	実践予定内容	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定
2	計画・ねらい	保育園の出入り口の環境整備
	実践予定内容	子どもたちや保護者のスムーズな動線整備。随時見直す。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践予定内容	子どもたちと共に、ハザードマップの作成を進める。

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	避難訓練(月1回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちの子アプリ保護者向け書き込み。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト(年6回)
3	実践予定内容	不審者対応訓練(年2回)
4	実践予定内容	設備点検(年4回)
5	実践予定内容	事故防止委員会
6	実践予定内容	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践予定内容	光化学スモッグの対応

６.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

船橋どろんこ保育園分園の魅力を発信し職員全員で協力して作り上げていく姿勢を学生たちにも共有できるように「自分たちの園」を「自分たちで伝えられるように」自分事として意識し実践を進めていく。

1	実践予定内容	保育専門学校などの実習生の受入れ
2	実践予定内容	中高生の実習体験の受入れ
3	実践予定内容	研修生の受け入れ

７.スタッフ育成と研修計画

園内研修の本来目的である『同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見出すために、職場内での研修を行う。』先ずは、施設長自身が中心となり、全スタッフと膝を突き合わせて自園の保育を確実に良質にしていくため、園長大学®･保育士大学から適切な講座を選び､園内研修を計画していく。
また、別途、各スタッフに対しての育成計画は、個々のスキルや経験に応じたものを作成する。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②マナー研修 ③ケガケーススタディ・安全指導・虐待防止＋園長大学	新たなスタートの月。原点回帰。 事故記録簿などの見直し。

5月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②安全教育＋園長大学	子どもの人権の理解。虐待の定義。
6月20日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②危機管理 プール実施前事故防止＋園長大学	子どもの命を守る。
7月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者対応＋園長大学	保護者の信頼を得る。
8月15日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者支援＋園長大学	保護者面談について。
9月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②プロジェクト保育＋園長大学	上半期プロジェクト保育の進展
10月17日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②異年齢保育 ③安全教育・虐待防止＋園長大学	異年齢保育の魅力。
11月14日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②発達支援＋園長大学	インクルーシブ保育
12月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子ども観共有＋園長大学	エピソード記録公開
1月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②来年度の目標＋園長大学	今年度の振り返りから来年度へ。
2月20日	18:00～21:00	策定会議１日目	事業計画及び来年度方針の作成
3月１日	9:00～18:00	策定会議２日目	年間活動計画・保育計画の策定

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉リーダー育成

リーダー会議での積極的な意見交換を重ね、具体的な対応を学ぶ。
様々な事例を検討し、先を見通せる力を培う。また常に現状を把握し、今目の前の子どもの最善の利益を追求出来ているかを確認しあう。学ぶ姿勢を継続する。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

船橋どろんこ保育園分園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるようにしていく。また積極的に園を開放し地域の子育てに貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：150名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：　天沼弁天池公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問・中学・高校の体験学習の受け入れ
異年齢交流	小中学校交流、大学生との交流。他園との交流。

地域拠点活動	ちきんえっぐ・青空保育
銭湯でお風呂の日	月3回　〈3～5歳児〉

９.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

　ケース会議にて共有と振り返りを行い、個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行う。子どもの成長をどのように支援をしていくかを保護者と共有し共に子育てを実践していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：4名予定）

〈３〉進級引継

年度後半から2歳児が船橋どろんこ本園の2歳児との交流を深め、次年度3歳児で本園に進級する準備期間を設ける計画を進める。

１０.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　集客目標：150人
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：20人
自然食堂…親子ランチ交流	月２回　10:00～12:00　集客目標：20人
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月１回　10:00～12:00　集客目標：10人
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　集客目標：150人
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：天沼弁天池公園にて開催　集客目標：15人

１１.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時00分
自己評価終了予定時刻：15時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、乳児リーダー

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１２.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	異年齢保育・インクルージョン保育の推進
	振り返り	0歳児がある程度成長した段階から0歳児と1歳児の異年齢保育は順調に進められた。また2歳児に関しても本園の2歳児や幼児との交流を合同で高齢者施設訪問の実施など計画的に実践できた。異文化交流として多くの外国籍の児童の在籍によって実践できた。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	チーム保育の確立。異年齢・インクルーシブ保育の推進。
	重点施策	個人とチームでの目標設定。必要なコミュニケーションを全員が意識し、インターネット等を活用し発信していく。
2026年度	目指す姿	どろんこ保育園の理解を得る　広報活動の充実
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢を意識している。
2027年度	目指す姿	どろんこ会の保育方針がすべての人々に理解され、 保育園＝どろんこ保育園のイメージを確立する。 『大きなお家』ここなら安心いつでも快適。 どろんこ保育園旗艦園となる。
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢が全ての関係者に行き渡っている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：船橋どろんこ保育園分園 施設長　中島　はる香

２０２５年度　南魚沼どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人　保育理念　　「にんげん力、育てます。」
　　子育て目標　「センス・オブ・ワンダー」
　　「人対人コミュニケーション」

社会福祉法人どろんこ会が目指す保育理念・方針、保育所保育指針、および『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を元にし、日本有数の豪雪地帯であり毎日変わるセンス・オブ・ワンダーの世界にありこの恵まれた環境の中、南魚沼どろんこ保育園でしかできない保育実践を目指していく。これからの時代を生きていく子どもたちの為に、１日１日を無駄にすることなく、子どもたちにとって必要だと思うホンモノの体験をスタッフ一人ひとりが考え実践する。共に成長し合いながら一つひとつの活動を丁寧に取り組んでいく。その中で、子どもたちに育みたい「生きる力」は日々の保育の積み重ねにより育まれ、私たち保育者はその瞬間を逃さず、子どもたちが原体験できる環境を整え、保育内容を充実させ、子どもたちが主体的に活動に取り組むことができるように、必要な物を常設し、生きる力を育む。また質の向上の為には、常に学び続けるスタッフ集団であることが求められ、学び続けながら自身のにんげん力を高め、子どもたちにとって最善の保育を展開していく。

上記内容を踏まえ、以下の項目を推進していく。
①一人ひとりを大切にする丁寧な保育を行う。１日１日を無駄にしない保育実践をする。
②“子ども主体”を理解した保育の実践を行う。
③毎日基本活動、日課を実施し丁寧な活動実践と質の向上を目指す。
④対話的・主体的で深い学びを得ることのできる保育実践を行う。
⑤相手の心に入り込んだ接遇力、美観の向上を目指す。

子どもたちの心にこの南魚沼の原風景や保育園で経験したことを残し、このふるさとの雄大さ、温かさをいつの日かこの地を離れることがあっても、この「ふるさと」に帰ってきたくなる場所を目指しここに２０２５年度事業計画を記す。

南魚沼どろんこ保育園　園目標
　　「豊かな心と強い体で　のびのびと遊ぶ」

２０２５年度　南魚沼どろんこ保育園スタッフのキャッチフレーズ
　　「自ら考える」　「自ら学び」　「自ら行動」　「自ら楽しむ」　～大人のにんげん力UP～

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	法人理念を深く理解し、自ら行動する。 ねらい：法人の理念・方針等を深く理解し自園への思いを持ち、業務にあたる姿勢を育成する。
	実践予定内容	・創始者の思い、エピソードの共有。（原点に帰る） ・法人理念・方針・基本活動の意義を深め、自ら語り実践する。

		・日々の保育内容の充実。 ・スタッフの職務の自律。
2	計画・ねらい	私たちが育てる6つの力・基本活動の充実。 ねらい：子どもにとって大切な基本活動の意義を深く理解し、ホンモノの体験・活動の充実を図る。
	実践予定内容	・6つの力と基本活動の意義を深める。 ・日々の保育の実践。振り返り。 ・ゾーン保育の実現。 ・チーム保育の必要性・メリット・デメリットを共有。
3	計画・ねらい	畑活動・生き物の世話・堆肥作りの充実。 ねらい：毎日、確実に丁寧に実践し子どもと大人が体験を通し学ぶ。
	実践予定内容	・畑仕事、生き物の世話などの意義を、実践を通し子どもに伝える。 ・堆肥作り、畑・田んぼ作り等　子どもとスタッフで実施。 ・ヤギ小屋掃除、糞の始末。 ・卵の収穫。
4	計画・ねらい	子どもに必要な生活力を培う。 ねらい：生きる力を育むホンモノの体験から生活力を身につける為の環境作り。子どもと大人が一緒に体験し体得する。
	実践予定内容	・ホンモノの道具を使える環境作り。 ・火・土・水を使った活動の充実。 ・釜戸を子どもと一緒に活用。（食育体験、おやつ作りなど） ・季節の歌、伝承遊び、集団遊び（缶蹴り、ハンカチ落としなど）を子どもと大人が一緒に行う。
5	計画・ねらい	食の循環を知る、食育活動。 ねらい：年間を通して主体的に子どもと大人が体験を通し学ぶ。
	実践予定内容	・食育活動、年間計画を立案。 ・堆肥作り、畑・田んぼ作り等　子どもとスタッフで実施。 ・命をいただく（さばく、解体する、調理する、食べる） ・加工する（梅干し、紫蘇ジュース、干し柿、さわし柿、たくあん、味噌） ・卵の収穫
6	計画・ねらい	「対話的」「主体的」で学びを得ることのできる保育実践。 ねらい：モーニングサークルや活動の中で、子ども同士、子どもと大人、大人同士で対話し気づきや学びを深める。
	実践予定内容	・子どもの育とうとする姿を見守り、子どもに寄り添った保育実践。 ・サークルの意義や年齢に合わせた手法を研修。 ・0～５歳児までの対話的、主体的保育の実践を通し学び深める。 ・サークルの質の向上、環境作り。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	お迎え3分間対応、連絡帳、タイムラインの充実。 ねらい：園の様子や保育内容を手に取るように分かりやすく発信、園で実践している保育内容への理解を深めていく。
	実践予定内容	・保護者の立場にたったお迎え3分間対応。お迎え3分対応の質の向上研

		修。 ・タイムラインの充実。様子がわかるような写真撮影・文章構成研修。 ・ポートフォリオの活用。 ・連絡帳の質の向上。 ・保護者との会話の中から家庭での様子や悩み、要望などを引き出していける関係作り。 ・全スタッフがクラスの枠を超え、子どものエピソードを伝えていく。 （全スタッフで全園児を保育していく）
2	計画・ねらい	保育参加のねらいを伝え、利用者の増加を目指す。 ねらい：実際に保育参加をして頂き、保育内容や子どもの発達の姿を深く知って頂く。
	実践予定内容	・保護者懇談会などで保育参加の周知。 ・保育参加のPR強化。 ・園長、主任、リーダーから個別に保育参加への声かけ。
3	計画・ねらい	保護者面談の充実。 ねらい：保護者の様子、子どもの様子から気軽に面談を行い、保護者の悩みや心理的負担の軽減、子育てに前向きに取り組めるような子育て相談を実施。
	実践予定内容	・お迎え3分間対応や日常の関わりの中で、気軽に子育ての悩みなどを話が出来るような信頼関係を築く。 ・子育て中の保護者の思いに心を寄せ、保護者の立場に立つ保護者支援を深める。 ・様々なケースを通し、保護者支援力アップ。
4	計画・ねらい	保護者の立場に立つ ねらい：保護者の気持ちに寄り添い、問い合わせ等に対し真摯に対応する。
	実践予定内容	・問い合わせに対し、相手の立場に立ち丁寧に対応していく。 ・電話であっても、相手の気持ちを思いより丁寧な対応していく。 ・不安が解消されるように丁寧な説明をしていく。
5	計画・ねらい	どろんこサポーターズの活動のサポート。 ねらい：どろんこサポーターズの活動を通し、保護者同士の親睦を深める。子どもにとって必要な機会の提供のサポートを行う。
	実践予定内容	・どろんこサポーターズ募集の声かけ。 ・どろんこサポーターズの企画運営のサポート。 ・どろんこサポーターズ活動の定着。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援拠点を目指す。（ちきんえっぐ） ねらい：地域の子育て世代の方が気軽に立ち寄り、相談しあえる信頼関係を育む。
	実践予定内容	・利用者のニーズに合わせた活動内容。 ・保育園の特性を生かした活動内容の再考。 ・来園に対し、全職員で心地良いお迎え。 ・出前保育や青空保育の内容の充実。

		・出前保育の開催場所の再考と地域の子育て支援センターとの連携。 ・利用者の口コミからネットワークを拡大。 ・在園保護者への声かけを推進。 ・自然食堂等のちきんえっぐの活動を地域に広く宣伝。 ・一人ひとりの子どもや保護者に合わせた子育て支援。
2	計画・ねらい	どろんこまつりとコラボ開催、「糸と糸盆踊り」の開催。 ねらい：地域で復活した糸と糸盆踊りをどろんこ祭りとコラボ開催し、地域を盛り上げ地域の子育て世代にも昔からの原体験を繋いでいく。
	実践予定内容	・9月第1土曜日に開催。 ・開催に向けて、実行委員会議、太鼓・盆踊りへスタッフが参加。 ・どろんこサポーターズとの連携。 ・地域の伝統盆踊り、太鼓の伝承。 ・当日は、ちきんえっぐとして木六神社へ子育て支援ブースの設置。 ・盆踊り子どもタイムの実施。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自ら学び意欲のある職員育成。 ねらい：自ら学び、学んだことをアウトプットしていく機会を作る。
	実践予定内容	・「園長大学・保育士大学」のコンテンツの利用。 ・主体的に学び、学ぶことを怠らない職員育成。 ・学んだことを自らアウトプットする機会を作り、学び合う風土を作る。
2	計画・ねらい	大人のにんげん力向上。互いに育ち合う職員関係作り。 ねらい：社会人として仕事に取り組む姿勢を先輩の姿から学ぶ。若手育成に向け背中を見せる意識を持ち丁寧に関わり、伝えながら業務にあたる。
	実践予定内容	・全スタッフで取り組む日課や基本活動の充実と質の向上。日々、同じように取り組む。子どもと共に行い、体験から学ぶ。 ・登園、降園時の子ども対応、保護者対応の向上。（季節や状況に合わせた対応力向上） ・社会人としての姿勢態度・言葉使いの定着。 ・「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」と「かくれんぼう（確認・連絡・報告」を実践。 ・若手会議にて社会人の心得・危機管理など研修。
3	計画・ねらい	リスクマネジメントの理解を深める。
	実践予定内容	・リスクとハザードの違いを深める。 ・保育園におけるリスクマネジメントのきっかけとなった事故を振り返る。 ・誤飲、誤嚥の実際の事故から学び、起きた時の対処方法を研修。 ・マニュアルの重要性を深める。 ・リスクマネジメントから子どもたちにとって真に必要な保育実践。
4	計画・ねらい	地域の社会資源として貢献する意欲をもつ職員育成。 ねらい：地域に根差した園を目指し、園の顔となり地域活動に自ら貢献。
	実践予定内容	・春の木六神社清掃にボランティア参加。（任意） ・糸と糸盆踊りの実行委員。（施設長・スタッフ〈任意〉） ・糸と糸盆踊りの太鼓・盆踊りへの参加。（任意）

		・にいがた狼煙プロジェクト南魚沼に参加。 ・園の駐車場に隣接している消防小屋の除雪。（冬季） ・園所在地の歴史、愛宕山に登る思いを語り継ぐ。 ・地域に根差した園運営。（ご近所付き合いを継続）

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る食育活動。 ねらい：畑活動を通し、食の循環を知るホンモノの体験を実践。
	実践予定内容	・毎日の日課の充実、継続。課題抽出から改善、実践。 ・畑仕事の意味を大人が深め、子どもと共に行いながら伝える。 ・旬の野菜を知り、生長や変化を感じる。収穫を喜び、朝どれ野菜の味を味わう。
2	計画・ねらい	昔からの加工食を通し、知恵や伝統、保存食、味の変化を知る。 ねらい：様々な食材を加工することで形や味が変化し保存食の意味を学ぶ。
	実践予定内容	・梅干し、梅シロップ、さわし柿、干し柿、味噌、たくあん。
3	計画・ねらい	年間を通した堆肥・腐葉土作り。 ねらい：山羊の糞、鶏糞、落ち葉などを利用した堆肥作りを年間通し取り組み、畑作りやプランター栽培に使用する。
	実践予定内容	・日課の一つとして、畑仕事と同時に堆肥作りを行う。 ・給食残渣を減らす。（皮付野菜の給食提供、廃棄野菜は山羊、鶏の餌として利用） ・草刈り後の草や落ち葉などをヤギの餌や腐葉土作りに使用する。 ・花壇、プランター栽培にも利用する。
4	計画・ねらい	ビオトープの環境整備。 ねらい：畑、田んぼの中にあるビオトープに自然のままのアメンボやカワニナ、蛙などの水辺の生き物が生息し、観察できる環境作り。
	実践予定内容	・蛙やカワニナ、水カマキリなどが生息できる環境作り。 ・水辺の生き物を観察する。 ・そのままの自然を活かしながら、ビオトープ内の環境整備。 ・ビオトープの藻を乾燥し堆肥に混ぜる。

〈6〉1分1秒を大切に子どもたちにとって充実した1日が過ごせる保育実践

1	計画・ねらい	子どもたちがやってみたい、面白い、楽しいと思う保育実践。 ねらい：常に子どもの目線に立ち、子どもを真ん中にしながら毎日期待感を持ち、登園する保育内容の実践。
	実践予定内容	・子ども中心とした保育実践。子どもの興味関心を知る。 ・発達に合わせたモーニングサークルの実践、継続。サークル内での子どものつぶやき、発言を実現できる行動力の育成。 ・サークルの意義の共有と理解。（研修） ・幅をもった保育計画。
2	計画・ねらい	すべての子どもが意欲を持って登園する。

		ねらい：子どもが自ら園内に入り、意欲的に１日の活動をスタートする。
	実践予定内容	・登園受け入れ時、子ども自ら園内に入り主体的に活動に入る環境作り。 ・子ども一人ひとりの視診や様子を見極め、共有する。 ・子どもの成長に合わせた受け入れ方法の実践。 ・子どもたちが興味を持ち活動をスタートできる面白く、楽しい保育内容の実践。 ・季節に合わせた臨機応変な受け入れを実施。
3	計画・ねらい	火・土・水、ハサミ、針と糸など生活力や危険なものとの距離の取り方を日々の生活の中で育む。 ねらい：ホンモノの道具を実際に使い、道具の扱い方や危険なものとの距離の取り方を学ぶ。
	実践予定内容	・釜戸での火つけ、火との関わりから適切な距離の取り方を学ぶ。 ・ハサミ、針、糸、工具、一輪車、スコップ、竹帚やてみなど様々なものを大人と一緒に使い、使い方を学ぶ。
4	計画・ねらい	子どもが自ら経験の選択をできる環境設定。 ねらい：子ども自身が主体的にものとの距離感を知ることができる環境作り。
	実践予定内容	・子どもの身近にあるものを実際に手に取り使える環境作り。 ・主体的に参加したくなる環境設定。 ・ホンモノの道具を準備する。

〈7〉次代を担うリーダーの職員育成

1	計画・ねらい	法人の理念や方針を理解し、日課・基本活動をリーダー中心に保育をリードしている。 ねらい：法人の理念や方針を深く理解し、子どもが主体的に活動に向かっていけるように全スタッフを導いている。
	実践予定内容	・法人の理念や方針、保育所保育指針を学ぶ。 ・日課・基本活動に取り組み、課題に気づき、自ら発信し改善し取り組んでいく。（課題の抽出からの検討、共有、改善。PDCAサイクルを回していく） ・さくらさくらんぼリズムの質の向上。 ・互いに育ち合う意識を持つ。 ・日々の日課で子どもが主体的に活動に取り組んでいけるように導いている。背中を見せている。 ・畑仕事や堆肥作りなど日課を行う意味を子どもに伝えていく。
2	計画・ねらい	保護者、来客の立場に立った対応をリードしている。 ねらい：リーダーの対応力を若手育成に活かしていく。
	実践予定内容	・必要な時に、必要なタイミングで声をかけ導いている。 ・保護者・来客の視点に立つ意識の育成。 ・アンテナの高い職員育成。
3	計画・ねらい	各係・プログラムが環境構成や充実した保育を展開していけるように、リーダーを中心に導いている。 ねらい：チームとしてスタッフ一人ひとりが責任を持ち環境構成や保育内容を考え実践している。

	実践予定内容	・各係・プログラム運営会議の開催。 ・全スタッフが責任を持って業務に当たる仕組み作り。 ・全スタッフがチームとなり、保育が展開している。 ・課題の抽出からの検討、共有。

〈8〉ホンモノの体験が出来る環境設定

1	計画・ねらい	食育体験・炊飯・おやつ作りなどができる釜戸エリアの改革。 ねらい：日常の中で釜戸を使い、火との距離を知り、生活力を体得していく。
	実践予定内容	・釜戸エリアに丸太を使った椅子や机を設置。 ・日常的に、いつでも火を使った活動を展開。 ・給食の白飯、おやつなど釜戸を使い、子どもと大人が一緒に作り味わう。
2	計画・ねらい	子どもが使いたい道具が常に環境の中にある環境構成を実施。 ねらい：子どもが主体的に様々なものを大人と一緒に使い使い方を学ぶ。
	実践予定内容	・労働（畑仕事、生き物の世話、堆肥・腐葉土作りなど）で使う道具を子どもがいつでも使える環境作り。 ・発達や興味関心、季節を捉え、常に環境設定をアップデートし子どもたちの活動を充実。 ・ハサミ、のり、針など大人が手本となりホンモノの体験が出来る保育内容の充実。

〈9〉いつ来ても綺麗な園舎景観、園庭、園舎内

1	計画・ねらい	いつ来ても綺麗な園庭・園舎環境を保持する。 ねらい：心を込めて、丁寧に管理されていることが伝わる美観を全スタッフで保つ。
	実践予定内容	・施設長は常に、園舎・園庭の景観、外からの視線を意識する。 ・園庭や園舎周りの草、降雪期には雪が近所の迷惑にならないように巡回をし、全スタッフで美観を保つ。 ・整理整頓。 ・園庭やビオトープへの野生動物の侵入等にも注意。見回り。 ・掃除を業務の中に組込み、いつでも整理整頓・清潔な環境を保つ。 ・降雪期の除雪は、保護者を優先し安全と景観に配慮する。
2	計画・ねらい	掃除の行き届いた園舎。 ねらい：日々の業務に掃除を組込み、常に掃除が行き届いている状態を維持する。
	実践予定内容	・掃除を業務の中に組込み、いつでも整理整頓・清潔な環境を保つ。 ・常に開園当時を思い出す磨かれた園舎。 ・物をどかして掃除をする。 ・小さなゴミを拾う。 ・汚れに気づいた時には、率先して掃除をする。 ・はみ出して掃除をする。（担当の場所からはみ出して掃除をすることで

		掃除が全体に行き渡る）
3	計画・ねらい	突然の訪問にも、自信を持ってお迎えできる園内環境、接遇力。 ねらい：どんな時も相手に喜んで頂ける接遇力を高め、保育環境として自信を持って整理整頓された環境を維持する。
	実践予定内容	・どんな時も、笑顔で明るい心地良い接遇力を実践。 ・整理整頓された園舎を維持。組織で確認。 ・全スタッフが環境整備に関わる。 ・物を出したら元に戻す。（一人ひとりの習慣化） ・気配り・心配り・相手の立場に立つ接遇マナーの基本研修。 ・来客時、スタッフの接遇対応力をケースから学ぶ。 ・観葉植物の育成、配置。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	16人	17人	20人	14人	26人	102人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	17人	看護師	1人	事務員	1人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	2人	用務	1人	嘱託医	2人		

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	計画に基づきスタッフの研修、共有事項。
給食運営会議	月1回	喫食状況、嗜好、アレルギー児に関わることの共有、検討

事故防止委員会	月1回	法人から発信された事故の情報や自園のヒヤリハット、インシデント、事故分析の結果から改善を検討。発生した自園の事故は都度検討。季節に合わせた危機管理の検討、共有。
ケース会議	月1回	要支援児のアセスメント情報、育ちの共有、検討。
リーダー会議	月1回	施設長、主任、リーダーによる運営に関わる共有、検討。
乳児・幼児、 各クラス会議	月1回	乳児クラス、幼児クラスの連携や各年齢の活動についての共有・課題検討など保育内容を充実するための会議。
保育計画会議	毎週木曜日	次週の計画検討。計画表の掲示→子ども、スタッフに共有。
各プログラム会議	月1回	教育環境として、言葉・音楽・伝承遊び・アート等をどう保育に取り入れていくのか検討し実践をリードしていく。
各係会議	月1回	戸外、園内環境や地域との繋がりなど自園を多方面から考え各係のリーダーとして業務の中にどう取り組んでいくか検討しリードしていく。
若手会議	月1回	1.2年目、3年目を対象として保育の質向上のための内容。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人による連絡、共有事項。事故防止委員会。
施設長勉強会	月1回	マネジメント力の向上のための勉強会。
食育会議	年4回	施設長、調理担当者による食育活動の取り組み、給食に関する情報共有とレベルアップのための内容。
保健会議	年4回	施設長、看護師による保健、衛生指導関係の情報共有とレベルアップのための内容。
主任・ミドルリーダー会議	年12回	主任・ミドルリーダーとしての役割の理解と園運営への理解。
子育ての質を上げる会議	月1回	若手職員参加による次世代育成のための内容。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	看護師を中心として子どもの健康管理、衛生管理に関わる事項全般 看護師：小倉静子

安全対策係	事故防止に関わること全般　ヒヤリハット集計・分析。改善と検討の周知　施設設備点検及び管理
防火管理者	園長：田村真由子　防火設備点検管理　消防計画作成
食品衛生責任者	調理師：桑原妙子　食品衛生管理
畑係	畑・田んぼ・ビオトープ・堆肥に関わる運営・管理
生き物係	山羊・鶏・飼育コーナー小動物に関わる運営・管理
ハザードマップ係	散歩コース、園内外のハザードマップ作成（4.7.10.1月改定）
研修係	園会議の運営　自主研修の計画・運営　公開講座の計画・運営
環境整備係（園内）	園舎内の清掃、整備、整理整頓に関わる運営・管理
環境整備係（園外）	園舎外（ビオトープ・園庭）の整備、整理整頓に関わる運営・管理
保育環境係	ゾーン保育のための室内・園庭の環境を構成し運営・管理
花・花壇係	花・花壇・プランターの管理
タイムライン係	日々の保育の様子を発信・運営
地域ボランティア係	地域に根差した園を目指して、地域交流に関わる運営・PR （春の木六神社清掃、消防小屋除雪、地域防災訓練に関わる事項など）

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域の「糸と糸盆踊り」コラボ開催でどろんこ祭りを計画・運営
運動会係	運動会開催に関わる計画運営
生活発表会係	生活発表会に関わる企画運営

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人ひとりの子どもの発育や発達状態を明確に把握し、養護の重要さ、アタッチメントの大切さを認識していく。 ・清潔で安全な環境を整え安心して園生活を送ることができるようにする。 ・一人ひとりの発達を踏まえて、応答的な触れ合いや言葉がけを行

		う。表情豊かに応答的な関わりの中で信頼関係を築いていく。 ・一人ひとりの生活リズム、発達過程などを踏まえ、活動内容や適切な食事、休息を摂ることができるようにする。 ・異年齢で過ごす中で、子ども同士が育ち合う環境を大切にする。
	下半期 0～1歳児	・子どもの興味関心を尊重し、センス・オブ・ワンダーの世界を十分に経験できるようにする。 ・身近な環境や人に興味をもって関わろうとする姿を大切にしながら満足感や充実感が得られるように生活や遊びを大切にする。 ・様々な感覚の働きを豊かにする環境を作る。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・子どもの発達や興味関心にあった環境構成の中で子どもが主体的に活動に取り組んでいく。 ・発達の個人差に配慮しながら、一人ひとりの子どもの発達や気持ちを受け止めて援助する。 ・子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しながら自分の力で行う活動を見守り、適切な援助を行う。 ・十分に体を動かす気持ちよさや達成感から、自ら体を動かそうとする意欲が育つ環境設定作り。 ・日課・基本活動に主体的に取り組んでいくための援助を行う。
	下半期 2～5歳児	・モーニングサークルを通し、1日の活動に目的をもって主体的に活動に取り組んでいくための援助を行う。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づいた活動を通して資質能力を育む。 ・異年齢で過ごす中で、互いに刺激し合い憧れや思いやり、思うようにならないことなど様々な気持ちを体験し、解決しようとする姿が増え生活や遊びの達成感や充実感を味わえるように援助を行う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子ども・スタッフが一緒に食べる縁側給食の継続実施。

		ねらい：巻機山など周りの景色や園庭を眺めながらI年を通し子ども・スタッフが一緒に食べる。
	実践予定内容	・縁側・玄関前スペース・園庭と季節に合わせて巻機山や地域の景色を眺めながらの給食を子ども・スタッフで実施する。 ・子どもが自ら空腹感を感じられるように9時には戸外活動を開始し、午前中に思いきり遊び、食事への意欲・関心を広げていく。 ・子どもたちによる盛付・配膳を実施。 ・食べさせるのではなく、一緒に食べる。子どもとの会話を楽しみながらコミュニケーションを深める。 ・食事の時間が子どもにとって、楽しみな時間となるようにする。
2	計画・ねらい	噛む力を育て素材の味を活かした状態で提供する。 ねらい：地元食材に可能な限りこだわる。旬の食材の旨味を味わう。 噛む力を育てる調理に留意。畑で育てた食材も提供。
	実践予定内容	・新鮮な地元食材の仕入れるように配慮する。 ・子どもの発達をスタッフ、調理で共有。 ・離乳食は、一人ひとりの発達に合わせて家庭と連携し進めていく。 ・噛む力に留意した具材の大きさ・味を調理担当、スタッフで共有。 ・畑で育てた食材も使用し、子どもに伝え味わう。
3	計画・ねらい	子どもたちが自分で盛付・配膳して食べる。 ねらい：毎日の盛付・配膳の中で自分の食べられる量を知り、盛付をしていく。できない時には、友だちが手伝う。
	実践予定内容	・盛付しやすい食具を準備。正しい食具の使い方を知る。 ・自分で盛付が出来ない時や年下の子には手伝ってあげようとする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・9月）
歯科検診	年2回（5月・9月）
保健だより	月I回（25日）発行
スタッフ健康診断	年I回
スタッフ検便	全スタッフ月I回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・うがい指導・歯磨き指導・栄養指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃･･･ロタ。ノロウイルスなどによる感染症胃腸炎 8月頃･･･咽頭結膜炎（プール熱） I2月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･2名より預かり済み／事務室にて保管 エピペン…現在、預かりなし

エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については7月31日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ※10人以上の感染を確認した場合は法人本部、県、市に報告対応。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／5・10月 歯科健診　年2回／5・10月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間

	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが自分で考え、自分で行動する園庭・室内環境作り。 ねらい：築山、ビオトープ、小川、草花、木、土、水、火など広い園庭・室内で子どもたちが自分のやりたい遊びを満足するまで展開できるような環境作り。 ・0歳児から5歳児までが混ざり合い遊ぶ。
	実践予定内容	・毎朝のモーニングサークルで自分のやりたいことを伝え、友だちの意見を聞くなどの経験を通し人と関わる力を育み、やりたいことを協同しながら楽しむ。 ・日々変わる環境の中で同じ瞬間はない。その一瞬を逃さず、センス・オブ・ワンダーの世界を感じる保育の実践。 ・静・動のメリハリのある環境を整え、一人ひとりの気持ちが満足できるように園庭のスペースの使い方に留意する。 ・生き物探し。（カエル、てんとう虫、アメンボなど） ・図鑑などを用いて知識を深める。 ・昔からの植物遊び。 ・雪遊び。（かまくら作り、雪だるま作り、雪合戦など）
2	計画・ねらい	子どもが自ら経験を選べる室内環境。 ねらい：自分で遊びを選び、友だちと協同し工夫して遊びこむことができる。子ども同士の関わりの中で協同する体験等を主体的に取り組める室内環境作り。
	実践予定内容	・室内環境レイアウト検討会開催。（随時） ・子ども一人ひとりの観察と共有。 ・子どもの興味関心、発達、季節に合わせた室内環境設定を随時更新 ・子どもが自ら様々なものに主体的に関わり選択することのできる物的環境設定。 ・子どもたちにとって必要なものが揃っている。 ・協同する活動に配慮した保育環境整備。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ベンチ	事務室	毎日
2	出前保育の看板	玄関	毎日
3	生物飼育台	縁側	毎日
4	たまご販売台	玄関	毎日
5	ベンチ（2脚）	幼児室	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	非常事態発生の場合は、法人のマニュアルに従い迅速な対応ができるよう、緊急時の連絡体制などを掲示、共有するなど対応に最善をつくす。
2	実践予定内容	毎月1回実施の避難訓練を基本に日頃より火災・地震・風水害に対する意識を高める。災害は突然に起こるものであり、避難訓練の動作を基本としどんな状況でも最善を尽くす意識を高める。
3	実践予定内容	事故・怪我については、法人ルールに従い迅速かつ的確な対応をする。 ヒヤリハットの収集に努め、園内で集計・分析・改善・実行のPDCAサイクルで重大事故防止に努める。
4	実践予定内容	防犯、不審者に対する訓練は年2回実施する。日々の生活の中でアンテナをはり常に意識することが重要である。年1回舞子駐在所の警察官より訓練時に指導を受けている。散歩時における対応や園内における対応の仕方など会議などで意識統一する。
5	実践予定内容	地域の避難場所、近隣住人等の救援のための施設として重要な役割を担っており、Jアラートの発令頻度が高くなっていることを踏まえ、防災ラジオからの情報を頼りに避難場所は1階幼児室と定める。
6	実践予定内容	個人情報漏洩や管理については万全を期し、定期的にスタッフの意識を高めるための啓発を行う。
7	実践予定内容	広域災害によるライフライン停止、調理担当者感染症発生による給食提供停止などを想定した、外注による食事提供訓練の実施。≪広域災害食訓練の実施≫その他として年1回、非常時の炊き出し訓練を実施する。 備蓄品の点検は定期的に行う。
8	実践予定内容	新潟県柏崎市に原子力発電所が再稼働に向け進んでいる中、災害対策重点区域外（半径30キロ圏内）であっても東日本大震災時の原発事故後には土壌の放射能濃度が高い地域とされてきた経緯を含めて、給食で提供する食材の放射能濃度などにも引き続き配慮する。
9	実践予定内容	例年、熊・猪など野生動物の出没が相次ぎ園外保育を見合わせる事態が発生しており、熊出没情報を常に把握して万全を期す。
10	実践予定内容	雪害に対しての意識を高め、降雪量などの気象状況の情報収集をし、こまめな除雪で安全を確保する。落雪、陥没、転落事故などの防止のため日々、コーンを設置し安全確保に努める。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、次の世代を担う実習生・中高生・ボランティアの受け入れに社会責任があると考える。地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍できる人材を育成するために積極的に受け入れを行い、一人ひとりの学生に対する指導・援助が適切に行われるように配慮していく。南魚沼市は年々人口が減少傾向にあり、保育の仕事を目指す学生にとって不安要素であるのも事実である。その中で各校と連携し近い将来、夢や希望を胸に現場へと進んでいけるように緊張や不安、疑問など実習生の気持ちに配慮しながら保育現場の楽しさを伝え、実りある実習となるように丁寧に対応していく。

1	実践予定内容	・実習生担当者の配置。 ・全スタッフに実習生受け入れ時の心構えを共有。 ・緊張をほぐす丁寧なオリエンテーションの実施。 ・不安のない、楽しい現場実習を実施。
2	実践予定内容	・各校との連携の強化・情報交換。 ・信頼関係の確立。
3	実践予定内容	・毎日の実習の振り返りの実施。フォロー体制作り。 ・保育の楽しさを体験できる実習への配慮。 ・実習を終えて感想・アンケート実施。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点（2.保護者の立場に立つを深める） ②ケガ・ケーススタディ研修 ③人権チェック・虐待防止研修	・ケガ、事故についてケースから学ぶ。 ・虐待について様々なケースから深める。
5月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点（2.保護者の立場に立つを深める） ② 心に響く接遇力とは ③保護者対応の極意	・日常のケースから考える接遇。相手の立場に立った心に残る接遇力を身につける。 〈園長大学・保育士大学視聴〉 「保護者に感動していただける接遇とは？チームで身につける「おもてなし力」」
6月17日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（2.保護者の立場に立つを深める） ②日課・基本活動の意義 ③生活力の体得	・保育指針から子どもたちに必要な体験とは何か。日課・基本活動の意義を深める。 ・子どもたちにとっても「生活力」とは何か。生きる力を育むために私たちが取り組むべきこと。
7月22日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（2.保護者の立場に立つを深める） ②対話的・主体的保育とは ③子どもが自ら経験を選択す	・対話的・主体的保育とは。ケースから深める。 ・子どもに視点を合わせ、私たち保育者の役割とは何かを考える。 〈園長大学・保育士大学視聴〉

		るとは何か	「保育を嫌いになりそうになった時の処方箋。」
8月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（2.保護者の立場に立つを深める） ②命を頂く活動の意義 ③大人の主体性とは何か	・命の循環。命を頂く活動の意義を考え、理解を深める。 ・大人の主体性を考える。
9月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（2.保護者の立場に立つを深める） ②保育と自然を考えてみよう	・保育と自然。これからの時代を生きていく子どもたちにとっての自然とは。 〈園長大学・保育士大学視聴〉 「保育と自然を未来志向で考えてみよう。散歩編。」
10月21日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（1.プロになるを深める） ②人権チェック・虐待防止研修 ③幼児期に育って欲しい10の姿とは	・三つの柱から幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とは。子どものエピソードから学ぶ。
11月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（1.プロになるを深める） ②インクルーシブ保育とは ③わらべうた、伝承遊び	・インクルーシブ保育とは何かをケースから深める。 ・わらべうた・伝承遊びを子どもたちに伝えよう。 〈園長大学・保育士大学視聴〉 「「気になる子」への視点整理」
12月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（1.プロになるを深める） ②架け橋プログラムとは	・就学前教育の意義と必要性を考える。文部科学省が推進している「架け橋プログラム」の理解を深める。 〈園長大学・保育士大学視聴〉 「保育園と小学校の共通問題から考える。乳幼児期に大切に育みたい力とは。」
1月20日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（1.プロになるを深める） ②自園の現状と課題	・自園のおかれている地域の現状を知る。保育内容の質の向上を目指す。社会的役割の理解を深める。
2月	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点（1.プロになるを深める） ②次年度mission ③次年度に向けて	・次年度に向けての共通理解。 次年度missionの共有。 次年度への夢と希望から提案をイメージし夢の実現へ。

3月	16:00～18:00	①コンピテンシー自己採点 （1.プロになるを深める） ②次年度に向けて ③子どもの人権・虐待 ④リスクとハザード （リスクマネジメント）	・次年度に向けての共通理解。 子どもの人権を守る。 虐待の定義の確認・共有。 ハザードとリスクを深める。 豊かな体験のための事故防止。

エリア研修予算内訳

開催日	予算	予算の内訳		例）園で按分した自園負担額
6月19日	1万円	講師代（交通費含む）	1万円	0円
10月17日	10万円	講師代（交通費含む）	10万円	0円
合計	11万円			0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉南魚沼市子ども子育て体制整備総合推進事業助成金　地域公開講座

南魚沼市子ども子育て体制整備総合推進事業助成金を使用して外部講師による地域公開講座を開催し子育ての質を上げる研修会の開催。

子育ての質を上げる研修会の開催

1．【公開講座】　心をつなごう　～手話からインクルーシブを学ぶ～
　　【講　師】　　田村雅子先生
　　【開催日時】　２０２５年6月19日（木）18：30～19：30

2．【公開講座】　小学校へのスムーズな接続のために～自己肯定感・非認知能力を育むためには～
　　【講　師】　　青木善治先生　滋賀大学大学院教育学研修科　高度教職実践専攻（教職大学院）
　　【開催日時】　２０２５年9月18日（木）18：30～２０：００

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

本年も地域の一員として地域活動に継続して参加していきたいと考える。毎年、恒例の春の大木六神社の清掃、糸と糸盆踊りへの参加が定着しスタッフの力が地域の社会資源としての役割を担っていく。地域の子どもが減少傾向の中で、「子どもたちの声が聞こえると元気になる」と温かく見守って頂いている。開園から築いてきた地域との信頼関係を今後も継続し、近隣の方への感謝の気持ちと日頃のコミュニケーションを大切にする。スタッフ一人ひとりができることを考え、地域の一員としてまずは「挨拶プラス一言」を合言葉になくてはならない地域の一員を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：500名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：木六神社にて　　集客目標：50名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・シニア交流 ・中学校　保育体験交流　　・中之島小学校　伝統太鼓交流 ・糸と糸盆踊り　伝承交流
異年齢交流	・中之島小学校訪問　・小学校運動会幼児レース参加 ・中之島小学校　マラソン大会応援
地域拠点活動	・交流訪問（公立保育園・中之島小学校等） ・防災訓練参加（7月）

	・春の木六神社清掃参加（4月）　・冬季、消防小屋前除雪
銭湯でお風呂の日	近隣に銭湯がないため、実施なし

９.小学校との連携の計

〈１〉今年度方針・テーマ

２０２５年度は、卒園児の就学先が５校と広域であり、小学校との連携が重要になる。保護者の同意の元、就学に向けた個別のアプローチを継続し、市のスムーズな就学に向けての取り組みを各関係機関と連携し進めていく。５歳児と小学校１年生との年間連携計画を柱として、子ども、保護者が夢や希望をもち就学に向けていけるように支援を継続していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を５月１２日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	塩沢地区保幼小中学校	30名予定	情報交換会（上田小学校）	職員間交流
5月頃	中之島小学校 六日町小学校 塩沢小学校 上田小学校 石打小学校	26名予定	小学校運動会参加（各校校庭）	子ども間交流
4.6.2月頃	中之島小学校 六日町小学校 塩沢小学校 上田小学校 石打小学校	10名予定	授業参観・情報交換（各校）	職員間交流
7月頃	中之島小学校	60名	伝統太鼓教室・盆踊り体験	子ども・職員間交流
8月頃	中之島小学校 六日町小学校 塩沢小学校 上田小学校 石打小学校	10名	交流訪問	職員間交流
9月頃	木六神社	500名	地域盆踊り・糸と糸盆踊り（木六神社）	子ども・職員間交流

10月頃	塩沢地区保幼小中学校	30名	共有会議・研修 （上田小学校）	職員間交流
10月頃	中之島小学校	26名	マラソン大会応援 （中之島小学校）	子ども・職員間交流
2月	中之島小学校 六日町小学校 塩沢小学校 上田小学校 石打小学校	26名	体験入学	子ども間交流
2～3月頃	中之島小学校 六日町小学校 塩沢小学校 上田小学校 石打小学校	15名	就学に向けた情報交換会	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

個別の支援計画は、年度初めに半期ごと個別に立案し具体的な対応を月に１度のケース会議（必要に応じて都度開催）でスタッフが共有、検討し見直しを行う。保護者面談を通し保護者の動向を知り、各関係機関との連携を密に専門職の意見を頂きながら、一人ひとりに合わせた支援を行う。全スタッフに共有し、同じ視点で子どもを支援することでより良い支援へと導いていく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：５名予定　※園会議にて全スタッフに共有）

月に１度、施設長、主任、担当スタッフで発達段階の関わりや保護者の様子などを共有、検討、見直しを記録し経過を共有することを目的に会議を開催。その後、会議内容を全スタッフに共有。一人ひとりの子どもたちを全スタッフがチームで支援していく意識を高めていく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

南魚沼市では、特別支援の体制がチームで支援する体制となっているため、保護者の同意を得て各関係機関と子どもたちの未来を見据えた支援に向けて、協力し取り組んでいく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：1200名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：30名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：150名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：木六神社にて開催　集客目標：30名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年６月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：１４時００分

自己評価終了予定時刻：１５時００分

自己評価実施予定者： 施設長、主任、リーダー、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・質の高い保育を目指して、スタッフの意識が高まり積極的に学ぶ職員が増える。 ・リーダーとなるスタッフが育成されている。 ・子どもにとって真に必要と思われる体験を積極的に実施している。 ・保育の内容が地域で理解されている。

	振り返り	・園会議等で全スタッフがアウトプットする機会を作った。今後も園長大学・保育士大学を活用し自ら学ぶ意識を高め、保育の質の向上を目指し取り組んでいく。 ・リーダー育成が求められている中で、リーダー会議を通し、課題を共有、検討してきた。リーダーに求められることを深めながら、今後も育成に力を入れていく。 ・火、土、水の活動を日々の保育の中で取り入れていこうとしたが、火を使った活動が少なかった。子どもたちの日々の生活の中で火、土、水の体験を子どもと大人が一緒に取り組み、生活力と危険なものとの距離の取り方を学べるようにしていきたい。 ・子ども中心の視点をもち、保育を展開していこうとするスタッフが増えてきている。今後も法人理念や基本方針、活動の意義を深め保育を展開していきたい。その為には、保育者間の連携が重要となり、チーム保育を目指し継続していく。 ・園児数が横ばいであり、学区外の広域からの入園が継続している。そのことから、地域で自園の保育が理解されているのではないかと考える。今後も地域の保育の質の向上を目指し、保育の研鑽を重ね進んでいきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・丁寧な保育の質の向上と実践。 ・保育の質の向上を目指し、リーダーを中心に自ら学び保育に活かし互いに育ち合う組織となっている。 ・リスクマネジメントが行われる中で、子どもたちが様々な体験をのびのびと行うことができる。 ・子どもたちにとって必要な室内・園庭環境を全スタッフで常に構成していく。 ・日課、基本活動が定着し、子どもたちにとって魅力ある学びの場と定着している。
	重点施策	・丁寧な保育とは何かをスタッフ一人ひとりが考え、子どもとの対話を大切に保育をしていく。子ども同士、子どもと大人、大人同士の対話を積み重ね保育に活かしていく。 ・園内研修の充実。スタッフが必要だと思う自主研修を開催。 ・リスクとハザード、リスクマネジメント等、研修会を実施。 ・子どもの興味関心、発達や季節など様々な要因から環境設定を常に再構成しPDCAサイクルを回し続けていく。 ・日課、基本活動の意義を深め、子どもたちの姿を捉え改善しながら教育的活動として毎日実施。
2026年度	目指す姿	・全スタッフが常に学びアップデートする風土ができている。保育の質が着実に向上している。 ・少子化が進む中で園児数が横ばいであり、地域に保育内容が広く理解され選ばれる園となっている。 ・思いのあるスタッフが自ら学び、子どもたちにとって最善の保育を子どもと共に楽しみ展開している。

	重点施策	・全スタッフが互いの個性や得意なことをリスペクトし合い、保育の質の向上を目指し保育が向上している。 ・どろんこ保育園の保育内容が地域で理解され、少子化が進む2025年以降も横ばいとなり、保育の質の向上から地域で選ばれる園となっている。 ・リーダーを中心に思いのあるスタッフが子どもを常に真ん中にし、真に必要な活動を実践している。 ・子どもが毎日、期待感を持ち登園してくる保育が展開されている。
2027年度	目指す姿	・地域に保育内容が理解され、園児数が横ばいである。 ・子どもたちにとって必要な体験ができる保育が展開されている。 ・思いのあるスタッフが、自ら学びアウトプットすることで他のスタッフの刺激となり、常に保育の向上を目指し育ち合う組織となっている。
	重点施策	・南魚沼どろんこ保育園でしか出来ない保育を展開していく中で、地域に保育内容が理解され地域に選ばれる園となっている。 ・子どもと大人が季節や活動の見通しを持ち、子どもと共に保育の計画を考え1年を通し継続した保育内容が展開されている。 ・毎日を大切に、子どもたちにとって必要な活動をどうしたら実践していけるのか、前を向いて考え助け合いながら進んでいける風土が出来ている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：南魚沼どろんこ保育園 施設長　田村　真由子

２０２５年度　和光どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人理念　『にんげん力。育てます。』
法人保育方針　『センス・オブ・ワンダー』『人対人コミュニケーション』

以上の法人方針を基に

① 日課、基本保育活動を大人と一緒に行うことで、子どもの身体的、精神的発達を促し、生きる力を育む。
日課、基本保育活動を遂行する上で、大人が背中を見せて取り組むことの意味、子どもにどんな経験を積ませてあげたいか、ねらいをもって保育を進められるようにする。

② 子どもがTrial&Errorを経験する環境を用意し、ひとりひとりの成長をすべての職員が見守る保育をすすめていく。
大人も子どもも、期待感をもって一日を過ごすことができる場となるよう、人的環境、物的環境を整えていく。職種にとらわれることなく、すべての職員が子どもたちと一緒に過ごし、成長を喜ぶことのできる場とする。

③ いつ誰が来ても気持ちの良い園であり、地域に愛される園となる。
来園者が心地よく感じるような挨拶や声かけ、気配りができ、心地良い保育園を目指す。大人の姿が子どもに連鎖し、地域の中で和光どろんこ保育園が選ばれる園になる。

以上を基本方針とする。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自分で選択し遊びこむことができる環境の充実をはかる。
	実践予定内容	・保育室内に様々な種類のゾーンを設定し、ひとりひとりの興味関心を満たすことのできる環境作りを行う。 ・定期的な環境の見直しを行い、子どもの様子に合わせた環境をアップデートしていく。
2	計画・ねらい	見通しのある継続的な保育の実践をすすめる。
	実践予定内容	・子どもにどんな経験をさせてあげたいか、そのためにどんな段階を踏み、保育に落とし込んでいくか、スタッフ間で共通認識をもっていく。 ・次の日もやってみたいと思える保育のしかけを工夫し、継続性のあるあそびを展開していく。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	毎日の様子が手に取るようにわかり、安心できる保護者対応を行う。
	実践予定内容	・お迎えの時間を大切にし、その日の様子が具体的に伝えられるよう、保育の中での成長を感じた成長のワンエピソードをお話するようにする。 ・子どもの姿をスタッフ間で共有し合い、園全体で子どもの成長を見守

		り、保護者と共に成長を喜び合える関係を築いていく。
2	計画・ねらい	いつでも気軽に相談できる場所として寄り添う。
	実践予定内容	・保育参加の呼びかけを強化し、園での様子を見ていただき、丁寧に対話する機会をもつことで、安心感に繋げられるようにする。 ・普段のさりげない会話を意識し、挨拶以外の＋αの声をかけ、話しやすい雰囲気を園全体で作っていく。 ・子どもの様子を伝えるだけで終わらないように、その後の変化や成長も継続して共有していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園からの情報発信を強化し、活動を知ってもらう機会を増やす。
	実践予定内容	・ちきんえっぐや青空保育の活動を保護者に定期的にお知らせし、未就園児への参加に繋がるようにしていく。 ・和光市主催のあそぼう会と連携し、集客率を上げていく。 ・系列園と協力し、お互いの活動記録や案内を掲示するなどして、目に留まる機会を増やす。
2	計画・ねらい	参加者のリピート率を高め、継続的な繋がりを深める。
	実践予定内容	・ちきんえっぐやどろんこ祭りへの参加をきっかけに、他の活動にも興味をもってもらえるよう、温かいコミュニケーションをとっていく。 ・来園者に丁寧な声かけや会話をしながら、居心地の良い場所作りをしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	それぞれの得意分野や知識を伝え合い、お互いを高め合えるチームとなる。
	実践予定内容	・すぐに保育に生かせる遊びや技術について園内研修を行い、個々の保育の引き出しを増やす。 ・自分の思いや提案を言葉にして伝えることで、保育の充実や課題解決に繋げていく。
2	計画・ねらい	自分自身の役割を理解し、個々や園の目標達成を目指す。
	実践予定内容	・自身に課せられた役割分担を責任もって果たし、まわりのスタッフを巻き込みながら、目標達成に繋げる。 ・保育を進める中での課題や改善すべき点に気づき、自分の思いを伝え合う機会を意識的に作り、個々のコミュニケーション能力を高めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を通し環境について実体験から学ぶ。
	実践予定内容	・コンポストの作製を行い、堆肥作りを通して食物の循環について学んでいく。そこから食材残渣を減らすことにも繋げていく。 ・食材に触れる経験を通して、皮や種、工夫したら食べられるようになることを知り、食品ロスを身近なものとして考えられるようにする。

2	計画・ねらい	植物を有効活用し、季節に合わせて心地よい園庭環境を整える。
	実践予定内容	・園庭内の植樹の剪定を定期的に実施し、明るさや涼しさを感じながら楽しむことのできる場所にする。 ・落ち葉を堆肥に活用し、変化していく植樹を有効活用していく。 ・アサガオやゴーヤでグリーンカーテンを作り、日陰を確保しながら自然物と共存していく。

〈6〉丁寧で優しさあふれる園づくり（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	大人も子どもも心地よく過ごすことができる空間作り。
	実践予定内容	・着替えや食事、排泄など個々にあわせた細やかな配慮を行い、養護的かかわりを丁寧に行っていく。園全体で統一したかかわりができるよう努める。 ・子どもの気持ちを受け止め、しっかり話を聞いてあげることで、安定した生活を送れるようにする。
2	計画・ねらい	一人ひとりが客観的な視野を持ち、小さなことに気づけるチームとなる。
	実践予定内容	・子どもたちが使用した後のスリッパの整頓、ロッカーの整理、使い終わった後の道具の片づけ等、ひとりひとりが小さなことに気づき、次に使う人の為に動けるようにする。 ・保育を進める上での気づきを、普段の会話の中で話をするようにし、お互いの思いを伝え合える雰囲気を作っていく。 ・子ども、保護者、スタッフ、地域、全ての相手に対し、どんな気配りや優しいかかわりが必要かを意見交換しながら意識する。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	栄養士	2人	調理員	1人	用務	1人

パート スタッフ	保育士	2人	事務	1人				

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返り、保育の質向上の為の園内研修の実施
給食運営会議	月1回	食育活動の振り返り、食に関するエピソード共有
事故防止委員会	月1回	自園のヒヤリハットの検証、自園・他園の記録から危険予測のディスカッション
ケース会議	月1回	子どもの事例共有、保育計画の検討
クラス会議	月1回	保育計画の振り返り、次月の保育内容の検討、クラス内の課題解決

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での運営課題の解決、情報共有
施設長勉強会	月1回	園運営の質向上の為のディスカッション
食育会議	年4回	食育活動の実践報告、調理業務における課題解決の為のディスカッション
保健会議	年4回	保健に関する実践報告、保健衛生面の講義
主任会議	月1回	アクションプランの計画・振り返り
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質を上げる為の自園での取り組み共有、保育に必要な学び、自園の保育の見直し

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理や備品管理、感染症予防・対策

安全対策係	防災実施点検、設備点検、事故防止点検の実施
防火管理者	災害対策、消防計画に則った避難訓練の実施責任、自主点検の実施
食品衛生責任者	給食提供責任、食材の安全衛生管理
畑係	年間計画に基づいた畑活動の実施、計画の振り返り、畑管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズと共同し企画、運営の実施
運動会係	運動会の企画、遂行、小学校との連携
生活発表会係	生活発表会の企画、遂行

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求に応え、保育者と情緒的な安定した信頼関係を築く。 ・個々の発達を把握し、十分な探索活動が出来る環境を保証し、外への興味に繋げていく。
	下半期 0～1歳児	・子ども自らが自発的に活動し、様々な経験を積み重ねる。 ・身近な人との応答のある安定したかかわりの中で、十分に身体を使い、満足感の得られる遊びをしていく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢のかかわりの中で、自分の思いを十分に表現し、相手の思いに気づく。 ・自ら興味関心のもてるような環境の中、発見や工夫を楽しめる遊びを保障していく。
	下半期 2～5歳児	・かかわりの中、様々な葛藤を経験し、自分で考え行動できるようにしていく。 ・自分たちで約束事やルールを決め、活動できるようにしていく。 ・異年齢のかかわりの中、達成感や充実感を味わう活動を行い、友だちと力を合わせたり、助け合ったりする様々な経験ができる環境を整えていく。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	毎日の給食を楽しみにしながら活動する。
	実践予定内容	・整った環境の中で共に食べる喜びを感じながら、心地よく食事を楽しむことができるようにする。 ・全ての職員が子どもと一緒に食事を共にし、食事を通してのコミュニケーションからマナーや、食の大切さを伝えていく。
2	計画・ねらい	実体験を通して食への興味関心をもつ。
	実践予定内容	・畑活動の充実をはかり、失敗と成功を繰り返しながら、作物が育って食すことの嬉しさや喜びを感じられるようにする。 ・食材にふれる機会をつくり、感触や香り、皮を剥き変化していく形、食材を加工する過程を知ることで、食べてみたい意欲に繋げていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（7月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい指導、性教育（年長児）、歯磨き指導の実施
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃･･･プール熱、手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ 11～2月頃･･･インフルエンザ、流行性胃腸炎、RSウイルス感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	なし

エピペン使用できるスタッフ	本日現在12名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員4名については3月18日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	嘔吐処理、おむつ交換、与薬方法等園会議にてロールプレイを実施。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染症予防のため、うがい指導、手洗い指導を強化。また、消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年1回／7月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間

	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもの成長、興味関心に合わせた環境の充実をはかる。
	実践予定内容	・あそびの様子や子どもの成長を見取りながら、様子に合わせた環境をアップデートしていく。 ・環境についての意見交換を積極的に行い、クラス間だけでなく全体でのコミュニケーションを取りながら、共通のかかわりができるようにする。
2	計画・ねらい	・あそびの中で生活力を身に着けることができる。
	実践予定内容	・文字、数、科学に親しめるゾーンや、指先を使ったあそびを用意し、あそびを通して生活に必要な力をつけられるようにする。 ・他者とのやりとりのあるあそびを楽しみながら、ルールがあることを知り、かかわりを楽しめるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	壁登り	幼児室	毎日
2	ピザ窯	園庭	毎日
3	焚火台	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し防災訓練を行う。 ・定期的に火災・地震発生時のマニュアルの読み合わせを行い、避難方法の確認を行う。
2	実践予定内容	安全計画に基づき事故防止チェック､設備点検チェックの実施。
3	実践予定内容	ヒヤリハット・インシデントの検証を行い、再発防止に努め、その都度保育の見直しを行う。
4	実践予定内容	・年2回の不審者侵入訓練の実施。あらゆる場合を想定し、職員で連携し対応できるようにする。 ・近隣園との不審者情報の共有や、市からの情報収集に努める。
5	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・注意喚起を把握し、発生時に迅速な対応をする。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の中の保育園という意識をもち、積極的に受入れを行っていく。保育の仕事に魅力を感じてもらい、次世代育成の第一歩とする。

1	実践予定内容	実習生ひとりひとりに合わせた温かい受入れ体制を整え、実習担当だけでなく、職員全体でコミュニケーションをとり育成していく。
2	実践予定内容	その日毎の気づきや疑問に対し、丁寧な振り返りを行い、翌日の実習に生かせるような指導を行う。
3	実践予定内容	実習や見学期間だけにとどまらず、地域のつながりとして継続して交流していけるようにする。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課、基本保育活動の理解 ③ 虐待防止研修	・日課、基本保育活動について理解を深め、大人のかかわりの重要性を再認識する。 ・マニュアルに沿って虐待防止研修の実施。
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者対応 ③ エピソード研修	・ロールプレイを行い、気持ちのこもった保護者対応に繋げる。 ・子どものエピソードから、大人のかかわりや心情について学びを深める。
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な食事 ③ 水あそびのリスクマネジメント	・食事環境の振り返り、見直しを行い、丁寧な食事を目指す。 ・プール遊び時の監視方法等ロールプレイを行いながら共通認識し、水遊びにおけるリスクマネジメントを身につける。
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 魅力ある環境 ③ エピソード研修	・子どもが遊びこめる環境作りの成果と課題をディスカッションし、保育の充実に繋げる。 ・子どものエピソードから、大人のかかわりや心情について学びを深める。

8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症の理解 ③ 夏のあそび実践	・感染症への理解を深め、園内の感染拡大防止や、子どもへの保健指導に繋げる。 ・夏ならではのあそびの実践共有。
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇 ③ エピソード研修	・誰が来ても気持ちのいい園を目指し、物的人的の両面から接遇を考える。 ・子どものエピソードから、大人のかかわりや心情について学びを深める。
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食の循環 ③ 虐待防止研修	・食の循環を子どもの目線になって考え、身近なものとして捉える。 ・マニュアルに沿って虐待防止研修の実施。
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学動画視聴 ③ エピソード研修	・園長大学動画から、すぐに保育に役立つ知識や技術を学ぶ。 ・子どものエピソードから、大人のかかわりや心情について学びを深める。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保育 ③ 冬のあそび実践	・様々な側面から丁寧な保育について考え実践に生かす。 ・冬ならではのあそびの実践共有。
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返り ③ エピソード研修	・事業計画の振り返りを実施、次年度に繋げる。 ・子どものエピソードから、大人のかかわりや心情について学びを深める。
2月19日	18:00～20:00	策定会議	事業計画の共有、次年度の計画設定。
3月1日	18:00～20:00	策定会議	次年度の行事計画設定。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

育ての質を上げる会議）												
施設長勉強会	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～II月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

保育園の活動を知ってもらう為、情報公開を強化し、地域に根付いた保育園を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　集客目標：250名
青空保育（保育園主催）	月I回　　公園名：外環C広場公園にて　　集客目標：20名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	小学校訪問・高齢者施設訪問・商店街ツアー
異年齢交流	小学校との交流・中学校との交流・職業体験学生の受け入れ
地域拠点活動	どろんこ祭り・青空保育・ちきんえっぐ・和光市あそぼう会
銭湯でお風呂の日	月I回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

近隣小学校との交流を行う。幼保小連絡協議会により卒園児の引継ぎを行い、保育要録を作成することで子どもの成長記録を共有する取り組みは実施済み。小学校教諭との情報交換の機会をつくることで、子どもの成長を連続的に見通すことができ、保育と教育の垣根をなくして育ちに繋げていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	幼保小連絡協議会	2名予定		職員間交流
10月頃	北原小学校	20名予定	交流会	子ども間交流
11月頃	新倉小学校	20名予定	交流会	子ども交流
2月頃	幼保小連絡協議会	2名予定		職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの発達状況を把握し、個別計画の立案、個の発達を大切にしたかかわりを職員全体で共有していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１０名予定）

子どもの事例に対して職員それぞれの思いを共有し、かかわりの中での失敗例、成功例を出し合いながら、職員が同じ視点でかかわることができるようにする。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の担当教諭と細やかな引継ぎを行う。必要な場合は保護者の了承を得た上で、関係機関との相談を行い連携する。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：20名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：30名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：30名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：外環C広場公園にて開催　集客目標：20名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１０月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１１時４５分
自己評価終了予定時刻：１２時４５分
自己評価実施予定者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・定期的に室内外の環境の振り返りを重ねながら、子どもの成長発達に必要なあそびの環境を整えていく。 ・保育者のかかわりがもたらす子どもの姿について、意見交換を密に行い、遊びの中での保育者の役割を意識した保育を進める。
	振り返り	・室内環境については、子どもの興味関心の変化に対し、素早く改善へ

		を進められない部分があった。玩具の選定や配置の見直しを続けたことで、子どもが集中してあそぶ姿が増えた。 ・園会議で環境の改善点やアクションプランを共有することで、スタッフの環境への取り組みに積極性が見られた。1階保育室は合同保育で使用する為、全スタッフで配慮点や子どもの様子の共有をすることで、同じかかわりで保育を進めることができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	遊びこめる環境の中で、ひとりひとりが満足感をもって一日を終えることができる。
	重点施策	・スタッフ間で環境についてのコミュニケーションを活発にとり、定期的に環境のアップデートを行っていく。 ・スタッフひとりひとりの得意分野を生かし、保育園に来ることが楽しみになるような保育内容を充実させていく。
2026年度	目指す姿	子どもに経験させたい活動が充実し、生きる力の基礎を養う保育を展開する。
	重点施策	・生活に必要な力をあそびの中に入れ込み、楽しみながら生活力を養える工夫をする。 ・文字や数、科学的なあそびを日常的に楽しめるように環境設定し、ねらいと見通しを立てた保育を展開していく。
2027年度	目指す姿	和光どろんこ保育園でしかできない体験・経験を園の魅力とし、選ばれる園となる。
	重点施策	・遊びこむことができる環境の充実、生活に必要な力をあそびの中から養うことができる保育を展開し、保育の質を上げていく。 ・子ども、保護者、スタッフ、保育園にかかわる全ての人が、心地よく過ごせる場所となるよう、スタッフ間で意思統一を図る。

以上

作成日：２０２５年3月15日　　作成者：和光どろんこ保育園 施設長　大島 奈美子

２０２５年度　三鷹どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

【社会福祉法人どろんこ会　理念・目標】
子育て理念：「人間力。育てます。」
子育て目標：「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
を実現し、育てたい6つの力を育める保育を実践していく。
また、与えられた環境の中で子どもたちのために何ができるかを常に考え、主体的に行動できる自律したスタッフ集団となり保育の質を高め、選ばれる保育園を目指していく。

〈育てたい６つの力〉
①ケガをしない強い体を育てる
②自分でできることを自分でする
③すべての人との関わりから、判断・行動を身につける
④活動を選択し自分で考えて行動する
⑤生死を知る、食の循環を知る
⑥感じたこと・考えたことを表現する

【三鷹どろんこ保育園　方針】
開園9年目になるため原点に帰り、以下の項目をひとつひとつ丁寧に見直していく。
原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
①　「基本活動」を深く理解する～ホンモノの体験を～
②　「畑仕事・生き物の世話・堆肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
③　「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

また2024年度に引き続き以下の項目に力を入れて取り組んでいく。
①自分で考え行動できるようになるための生活力を、体得できる保育実践を行う。
②10の姿を体得できるように、小学校就学から逆算した保育計画の見直しを行う。
③子どもが自らいつでも経験の選択をすることができるように、人的環境・物的環境を整える。
④守る支援・強制する支援ではなく、すべての園児がともに育ちあえる保育実践を行う。
またその保育実践を保護者に積極的に伝えていく。
⑤命をいただく活動の実践を行う。

園目標
「子どもまんなか～歩み寄る気持ちでGoodコミュニケーション～」

常に子どもを中心に考えた保育を行う。子どもの気持ちに寄り添った言葉がけや関わりをより意識していく。子どもに対してだけでなく、スタッフ同士も歩み寄る気持ちを忘れずにコミュニケーションをとりチームワークを高めていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動を深く理解する
	実践予定内容	園内研修を実施し、基本活動ひとつひとつの意味を全スタッフが理解したうえで、実施できるようにする。
2	計画・ねらい	畑活動・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧に行う
	実践予定内容	2024年度に行ってきたことを見直し、課題点を抽出しPDCAサイクルで確実に行えるようにしていく。
3	計画・ねらい	混ざるのその先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する
	実践予定内容	近隣にある発達支援センターつむぎと連携をとりながら研修を実施し、子どもの発達や特性に合わせた関わりを学ぶ。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

朝は「行ってきます。」と安心して仕事へむかい、お迎えの時は子どもとスタッフの笑顔でホッとできる保育園を目指す。

1	計画・ねらい	保護者の方々が安心して預けられるような、丁寧で細やかな保育実践を行い、お迎え時の保護者対応で、1日の様子を手に取るように伝えていく。
	実践予定内容	どのスタッフが対応しても質の高い対応ができるように、園内研修を行いスキルアップにつなげていく。保護者が話しかけやすいようにスタッフが常に落ち着いて保育する。また伝達担当スタッフ以外のスタッフも、機会を見つけてエピソードを積極的に伝えていく。
2	計画・ねらい	お迎え時に待った気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕組みつくりをする。
	実践予定内容	お迎えが多い時間帯に保護者様の待っている列が長くなってしまった場合は、伝達担当以外のスタッフも伝達に出る等の配慮を常にしていく。正面玄関に作品やドキュメンテーションを置き、待たされたと思わせない仕組みを工夫していく。
3	計画・ねらい	保護者会、個人面談でお子様の様子だけでなく、園全体の保育の様子を細やかに伝え、とも育てができるようにしていく。
	実践予定内容	日々の保育の様子や成長を伝え、子どもたち同士で育ちあうことの良さを伝えていく。個人面談は全クラス年2回（6月・11月）に行い、保護者との信頼関係を築いていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

地域の方がいつでも気楽に立ち寄れる「地域に開かれた拠点」となるように、子育て支援センター事業の活動を活性化し、広めていく。

1	計画・ねらい	イベントの日以外も立ち寄りたくなるような場所にする。
	実践予定内容	週5日実施しているが、イベントの日以外の集客ができていないため広報に力を入れ、いつでも気楽に立ち寄れる場所であることを広めていく。
2	計画・ねらい	三鷹に子育て支援事業があることをたくさんの方に知ってもらえるように、広報に力をいれる。
	実践予定内容	日々立ち寄りやすい場所となるような取り組みに力をいれ、集客率をあげる。園の前にその月の活動を掲示し、利用しやすい工夫をしていく。ま

		た、散歩先の公園でパンフレットを配布して多くの方に三鷹どろんこに子育て支援センターがあることを知ってもらう。近隣施設にもパンフレットを置かせてもらい、交流していく。
3	計画・ねらい	青空保育・出前保育の内容を充実させ、集客率をあげる。
	実践予定内容	青空保育・出前保育ともに集客率が伸びないため、参加したくなるような内容を検討していく。また、広報に力を入れていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

与えられた環境の中で子どもたちのために何ができるかを常に考え、主体的に行動できる自立したスタッフ集団となるために、主体的に学び合えるよう園内研修、法人内園長大学や保育士大学の研修等を積極的に受講しインプット・アウトプットを行っていく。職種や立場を超えてディスカッションができ高め合えるスタッフ集団となるために、話し合える機会を多くし意見を言い合える雰囲気作りをしていく。

1	計画・ねらい	園内研修を定期的に行いインプット・アウトプットの機会を多くする。
	実践予定内容	園の課題となる分野の研修を行い、必ずディスカッションできる時間を設ける。その中で様々な考え方を学び、自分の意見も言えるような雰囲気作りをしていく。
2	計画・ねらい	基本活動の理解を深めるために、毎月研修を行い、理解を深めながら実践していく。
	実践予定内容	園長大学、保育士大学の講座を利用し毎月研修を行って理解を深めていく。また学んだ内容を実践し園の課題を見つけより良い活動になるようにしていく。
3	計画・ねらい	マネジメント力をつけ、業務時間内に業務が終了できるようになる。
	実践予定内容	自分自身の仕事量、仕事のスピードを把握し自分にあったマネジメント力を身につけていけるように研修や他のスタッフのマネジメントの仕方を学んでいく。また、自分だけでなく他スタッフとも協力し、全スタッフが時間内に仕事が終えられるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を高める
	実践予定内容	畑仕事(種まき・育てる・間引く・穫る)・食材加工・卵拾い・鶏など生き物の小屋掃除と糞の始末・命をいただく活動を行う。
2	計画・ねらい	食材循環サイクルの実施
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす。残渣や鶏糞の再利用など、「捨てる」ではなく「有効活用」する。
3	計画・ねらい	陸の豊かさを守る活動の実施
	実践予定内容	木育＝木材利用に関する教育活動　の実施 地球温暖化や持続可能循環社会の形成など、子どもと共に環境問題を理解し、学び、実践し、保護者も興味関心をもつよう啓発活動を実施する。

〈6〉基本活動に深い理解

1	計画・ねらい	さくらんぼリズムの基本を学び実践する
	実践予定内容	さくらんぼリズムの理論と動きの研修を行い、理解を深めたうえで日々実践していく。
2	計画・ねらい	怪我をしない強い身体を育てる保育の基本を学び実践する。
	実践予定内容	怪我をしない強い身体作りのために行っていることを見直し、ひとつひとつ丁寧に実践していく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた拠点となるための計画をたて実行していく。
	実践予定内容	地域の方の行っているラジオ体操に毎月参加する。商店街ツアーを確実に行い交流の場を広げていく。

〈7〉混ざるのその先へ

1	計画・ねらい	発達障害の正しい理解を深め、今行うべき支援を考え行動に移す。
	実践予定内容	近隣の発達支援センターつむぎと連携し研修を行い、専門知識のあるスタッフから学び、保育に活かしていく。
2	計画・ねらい	子ども自身が活動・玩具等を選び、主体的に遊びこめる環境を整える。
	実践予定内容	子どもの発達にあった環境を都度話し合い、主体的に遊びこめる環境を整える。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	18人	20人	20人	20人	99人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	2人
	子育て支援員	1人						

パート スタッフ	保育士	6人	保育補助	3人	事務	1人	用務	1人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の懸案事項検討、園内研修、行事内容の確認等
給食運営会議	月1回	喫食状況報告、アレルギー、離乳食状況共有、食育計画
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、自園・他園の事故記録簿に基づき事故再発防止策検討
ケース会議	月1回	発達の気になる子の情報共有と支援計画作成（振り返り、来月の支援計画）
リーダー会議	月1回	リーダー層における園の課題抽出と検討
各クラス会議	週1回	クラス運営検討（週案・月案の立案）、情報共有
乳児会議	月1回	乳児クラスでの情報共有、課題検討
幼児会議	月1回	幼児クラスでの情報共有、課題検討
非常勤職員会議	随時	情報共有、懸案事項検討等
子育て支援センター会議	月1回	振り返り、次月の予定、集客数の確認等
各行事会議	随時	各行事企画等の詳細検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	本部より園運営に関する事項の確認
施設長勉強会	月1回	施設長としての保育における課題点のディスカッション
食育会議	年4回	園の栄養士、施設長による食育の質をあげる研修
保健会議	年4回	看護師、施設長による保健活動の質をあげる研修
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有。マネジメント研修

子育ての質を上げる会議	月1回	園代表スタッフによる保育内容に関する研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	室内外の衛生状況の確認、および徹底
安全対策係	保育環境の検討、整備、確認
防火管理者	火災予防と有事の際の避難訓練計画及び実施
食品衛生責任者	食材の発注及び品質管理
畑係	年間計画をもとに畑の管理、必要物品の手配
生き物係	生き物の世話全般の計画、実施、餌等の必要物品の手配

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、実施。保護者への呼びかけ。
運動会係	運動会の計画、実施。
生活発表会係	生活発表会の計画、実施。

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・ゆったりとしたかかわりの中、安心して1人遊びを充分に楽しむ。 ・1人ひとりの子どもの気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな発達を促す。 ・よく遊び、よく食べ、よく眠る。 ・安心できる大人との関わりの中で、人に対する信頼感、自己肯定感を育む。
	下半期 0～1歳児	・好きな遊びに熱中し、戸外や室内でたっぷり遊ぶ。 ・安定した関わりの中で、自我が芽生え、自分の要求や思いを伝えようとする。
幼児保育	上半期	・友達との関わりやぶつかり合いを通して、自分の気持ちを言葉や行

	3～5歳児	動で表現し、相手の気持ちを知ろうとする。 ・色々なことに意欲的に取り組み、達成感を味わう。
	下半期 2～5歳児	・自分の要求や思いを言葉や行動で表現しながら、友達の要求や思いも受け入れようとする。 ・自分たちで考えた遊びに意欲的に取り組み、継続的な活動に期待を持ちながらすごす。 ・自分の感じたことイメージしたことを色々な方法で表現する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

今食べているものが自分の身体を作っていることを知り、食も自分も大切にする心を育てる。
また全職員で法人の3大食育方針の理解を深め、方針を実現するための人的環境、物的環境が整えられるようにスタッフのスキルをあげていく。

1	計画・ねらい	命をいただいていることを知り、食べ物を大切にする心をそだてる。
	実践予定内容	魚や鶏をさばいて食べる体験や自分たちで育てた野菜を食べることによって命をいただいいることがわかる活動を多く取り入れていく。また、食物連鎖などの話を聞くことによって理解が深まるようにしていく。
2	計画・ねらい	自分たちで準備、盛り付け、配膳して食べることができる環境（人的・物的）を整え、意欲的に食事できるようになる。またスタッフも一緒に食べ楽しく食事ができる環境を整えていく。
	実践予定内容	子どもたちの発達に応じた環境を設定し、体系的な取り組みを構築し、実施する。スタッフは、自分の担当しているクラス以外でも一緒に食べるようにしていく。
3	計画・ねらい	子どもたちが主体的に畑仕事に取り組み、栽培→収穫→調理→食べるというサイクルを体験する中で食に関する興味、関心を育てる。畑仕事が日課となるように、スタッフと一緒に毎日丁寧に取り組む。
	実践予定内容	スタッフが毎日一緒に行う中で、子どもたちが主体的にかかわれるように、大人の見守る姿勢を大切にする。また主体的に行う中で、トライアンドエラーを体験できるようにしていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・12月）0歳児クラスは毎月実施
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取り組み等	自分で自分を守る力をつけるための指導や取り組みを行う。（感染症について、手洗い・うがい・咳エチケット・怪我をした時等）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月～1月月頃･･･ノロウイルス 12月～2月頃･･･インフルエンザ・ロタウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップその他の薬･･･預り無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在全スタッフが、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については9月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	・園内研修（感染症・衛生マニュアル・怪我の対応等）を行う。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日

	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6･12月 (0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子どもが自ら遊びたい場所で、遊びたい空間をつくることができる環境を目標に、環境を整えていく。施設全体が、必要なものが必要な場所に整理整頓され、誰がいつ来園しても気持ちの良い環境を整える。

1	計画・ねらい	【園庭】自分たちで環境に働きかけて遊びが作りだせる環境
	実践予定内容	大人が作りこみすぎずに、自分たちで設定を変えられるような環境作りをする。 また、草花のエリアをつくり虫さがしや草花を使って遊ぶことができるようにしていく。
2	計画・ねらい	【保育室】発達にあわせた遊びこめる環境
	実践予定内容	乳児：くつろげる空間・好きな遊びを選んで集中して遊びこめる設定 幼児：くつろげる空間を確保する。 自分たちで遊びにあわせて空間が作れる素材を確保する。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者がいつ見ても気持ちの良い施設
	実践予定内容	清掃は役割分担、範囲、きれいの基準を明確にし、常にきれいな状態が保てるようにする。また第三者の目線でチェックを行い、気持ちの良い状態を保てるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期

1	丸太	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	【防災】毎月1回避難訓練実施。火災、地震発生時の避難方法を確認検討。
2	実践予定内容	【防犯】年2回不審者訓練実施。不測の事態に備える。
3	実践予定内容	【事故防止】ハザードマップの適宜更新。事故防止委員会にて再発防止策を検討し全職員に共有
4	実践予定内容	【光化学スモッグ】三鷹市育成課からの情報をもとに、園児の室内待機、保護者へのお知らせを徹底する。
5	実践予定内容	【SIDS防止】午睡チェックの徹底。SIDSの園内研修を実施し危機管理能力を高める。
6	実践予定内容	【怪我をしない強い身体をつくる】日々の活動の中で注意して取り組む。
7	実践予定内容	【情報共有】全ての事項の情報共有を強化し、システムを構築していく。（朝礼、クラス会議、園会議、事故防止委員会、リーダー会議等）

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

全職員が「未来の保育士を育てる」という責任をもち、実習生や中高生を温かく受け入れる。
また保育の仕事の楽しさや、やりがいを伝えられる受け入れを実践していく。

1	実践予定内容	【保育士養成校の実習生受け入れ】 オリエンテーション時に、細かく実習に向けての希望を聞き、気持ちに寄り添いながら実習計画を立て、意欲を高めていく。 実習中は質問しやすいように、必ず担当者を付けて丁寧に質問に答えられるようにしていく、またそれに対応できるようにスタッフのスキルをあげていく。
2	実践予定内容	【中高生の職業体験受け入れ】 保育の仕事の楽しさや、やりがいが伝わり、将来の職業の選択肢のひとつとなるように受け入れていく。
3	実践予定内容	【一般及び学生の各種ボランティア受け入れ】 地域に開かれ、地域に根差した保育園となるように可能な限り受け入れ、地域の方々とのつながりを深めていく。

7.スタッフ育成と研修計画

全スタッフが主体的に学び合い、行動できる人であるために高めあっていく。
職種や年齢、立場を超えて話し合いができるスタッフ集団となることを目指していく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 安全管理（散歩、園庭、室内）・虐待防止研修	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 各場所に安全管理の方法をロールプレーしながら理解する。
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②保護者対応研修	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 保護者対応について事例を基に研修する
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺の危機管理研修	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 水遊びのリスクと楽しさを学び7月からのプール遊びに備える。
7月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 子どもへの向き合い方	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 「否定しない」という本当の意味を考え、事例をもとに理解を深める。
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達支援研修	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 近隣の発達支援つむぎのスタッフから発達支援について学ぶ。
9月26日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の進捗確認	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 事業計画の進捗を確認することで、後半に向けての方向性を見定めていく。

10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境設定研修	① 自己採点の共有とともに次月課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 子どもの興味・関心がどこにあるかを改めて考え、遊びの探求心が高まるような環境を構築する。
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②さくらさくらんぼリズム研修	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② リズム体操の基本の動きを知り、園全体で統一させていく。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 法人の短期・長期計画を知ることで、自身の目指す保育の目線合わせをする。
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② インクルーシブ保育	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② インクルーシブについて学び、自園での保育を振り返る。
2月14日	18:00～20:00	第一回策定会議	次年度の事業計画に向けた目標設定
3月2日	18:00～20:00	第二回策定会議	年間行事計画の作成 畝づくり研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

内限定公開講座	
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

誰でも立ち寄りやすい拠点となり、地域に開かれた保育園となるように地域の方々と交流していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：上連雀児童遊園にて　　集客目標：20名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設への訪問・地域のラジオ体操に参加
異年齢交流	小学生との交流・中高生の保育体験受け入れ
地域拠点活動	実習生の受け入れ、職業体験・研修生の受け入れ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の就学先となる小学校と連携する活動を積極的に行うことで、園児・保護者が小学校を身近に感じ、就学が楽しみに感じられるようにする。

また、小学1年生を見て知り、逆算した保育計画が立案できるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を５月頃より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	井口小学校	2名予定	スタッフの連絡会（井口小教室）	スタッフ間交流
6月頃	井口小学校	2名予定	公開授業見学（井口小学校）	スタッフ間交流
６月頃	井口小学校	年長児・担任予定	運動会リハーサル（井口小校庭）	子ども間交流
9月頃	井口小学校	2名予定	スタッフの連絡会（井口小教室）	スタッフ間交流
10月頃	井口小学校	全園児・保護者・スタッフ予定	運動会（井口小学校庭・体育館）	スタッフ・子ども間交流
1月頃	井口小学校	2名予定	公開授業見学	スタッフ間交流
1月頃	井口小学校	2名予定	スタッフとの連絡会（井口小教室）	スタッフ間交流
2月頃	井口小学校	年長児・担任予定	交流会（井口小1年生教室）	子ども間交流
3月頃	井口小学校、第２小学校、第7小学校他	2名予定	進学児童の引継ぎ（各小学校教室）	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

年間5回の三鷹市の発達支援巡回を依頼し、気になる子の様子を見てもらうようにする。
毎月のケース会議で情報を共有し、支援計画の作成・見直しを行う。
また全スタッフが要支援児の情報を共有できるようにケース会議の内容を園会議にて共有する。
会議内容を共有していくことにより、全スタッフで適切な支援ができるようにしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定　参加者：6名予定）
各関係機関と連携を取りながら、担任、リーダーを中心に毎月ケース会議を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級に対する不安を軽減するために、どのスタッフが対応しても同じ支援ができるようにしていく。
小学校への引継ぎは、年度末に各進学予定小学校と日程を決め情報を共有する。

11.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（金）10:00～16:00　　集客目標：400名(毎月)
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名(毎月)
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：40名(毎月)
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：40名(毎月)
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：東野児童遊園にて開催　集客目標：20名(毎月)

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

2025年度受審予定。

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年6月20日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時30分
自己評価終了予定時刻：11時30分
自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務、看護師、栄養士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

スタッフが入れ替わっても保育の質が低下しない基盤づくりに力を入れ、選ばれる保育園であるために保育の質を高めていく。また、子どもも大人も主体的に考え、学び、動く、自立した集団となり三鷹市で一番預けたいと思われる園を目指していく。

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	三鷹市で一番預けたいと思える保育実践を行い、地域の方から愛され選ばれる保育園になる。園児：5歳児がリーダーとなり、主体的に遊び、生活ができるような環境（人的・物的）を整える。スタッフ：生き生きと仕事ができ、主体的に考え、学び、動くことができる自立したスタッフ集団となるようにマネジメントを強化していく。
	振り返り	スタッフが入れ替わったことで、保育の質が低下したが後半にはチーム力があがり、新入園児の募集人数からみると選ばれる園となってきている。さらに保育の質が安定するように原点にかえって保育をひとつひとつ丁寧に見直していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	保育の原点にかえり、見直しを行い保育の質をあげていく。自律したスタッフ集団となり、質の高い保育、接遇、美観を提供することで、より選ばれる保育園となる。
	重点施策	2024年度に実践したことの課題を抽出し、PDCAサイクルを繰り返し行い、より質を高めていく。
2026年度	目指す姿	生活力、選択力、思考力を育む保育実践を行うことで、大人も子どもも主体的に考え学び自律した集団となり、より魅力的な保育園となる。
	重点施策	2026年までに深めたものをさらにレベルアップしていく。
2027年度	目指す姿	開園11年目となり、地域に根差した保育園となる。
	重点施策	法人の目指す保育を当たり前に実践し、三鷹どろんこならではの保育ができるように日々の保育を丁寧に行っていく。地域に根差した保育園となるように地域交流にも力を入れていく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：三鷹どろんこ保育園 施設長　斉藤　律

２０２５年度　万博公園どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

豊かな自然と高度な都市機能が共存するつくば市に、万博公園どろんこ保育園があります。万博公園どろんこ保育園には棚田があり、そこで生息する四季折々の虫たちと触れ合いながら、子どもたちは季節を五感で感じ取り、感性や思考力を磨いています。

万博記念公園駅から徒歩5分の距離にあり、周辺には新しいマンションや住宅が建ち並び、人口が増加しています。子育て環境が充実しており、近隣には香取台どろんこ保育園をはじめ、多くの保育施設が新たに開園しており、地域資源を活用し、近隣の保育園や学校、地域と連携して、子どもたち一人ひとりの育ちに寄り添い、日々の時間を大切にし、成長を育んでまいります。

どろんこ会の法人理念である「生きる力」を育むために、次の3つのポイントを重点的に取り組んでいます。

①　生きるために必要な力を体得している子
自分の思いを伝え、相手の気持ちを汲みながら折り合いをつける経験を重ねる
多様な人との関わりを通じて判断力を養う
火・水・土を存分に触れながら、自らの興味・関心に応じた活動を選択する
生活に必要な道具の使い方を学び、危険なものとの適切な距離感を身につける

②　生命の尊さを感じられる子
畑仕事、生き物の世話、堆肥作りを丁寧に行う
日々の活動を通して食と命の循環を学び、環境への意識を高める
伝統食の加工などを体験し、食文化の豊かさを学ぶ

③　感じたことを表現できる子
心が動いた瞬間にさまざまな方法で表現できるよう、子どもが主体的に選択できる環境を整える
仲間と協力して一つのものを作り上げる喜びを味わう

２025年度　保育目標

【結ぶ】

知りあい　つながりあい　共に深めよう

子どもも職員も保護者も地域の方も、お互いをさらに深く知り合うことから始めます。
相手を丸ごと受け入れて、同じ方向がむけるように肩を組みつながりを強化します。
みんなで深めていきます。最後にみんなの保育が地域との架け橋となるように結んでいく1年とします。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育について知識を深め、実践する。
	実践予定内容	日課、裸足保育、長距離散歩、畑仕事を、一つずつ丁寧に行う意味を考えながら改善し、実践していく 一つ一つ掘り下げて、知識を深める機会を設ける
2	計画・ねらい	子どもが自発的に関われる環境を、子どもとともに改善していく 園全体で一つの大きな家と捉えて、物的・人的環境を整えていく
	実践予定内容	子どもの興味を引き出す、環境を構成していく 園全体で環境について考えて、主体的に遊べる環境に改善していく
3	計画・ねらい	学びあい、育ち合う共主体保育を目指す
	実践予定内容	子どもの興味にアンテナを立てて、子どもの力と集団で生き抜く力を育む 他者との共同の中で、様々な感情と向き合い、互いに思いや考えを共有していく
4	計画・ねらい	様々な角度から子どもの育ちを理解する
	実践予定内容	子ども、職員、保護者に対する丁寧であたたかい言葉遣いを考えていく 子ども一人一人の育ちに寄り添い、喜び合い共有する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの育ちを喜びあえるような機会を設ける
	実践予定内容	子どもの成長した姿を見逃さずに3分間対応で伝える。 活動の速報を作成し、子どもの成長を喜び合い保護者と共有していく。
2	計画・ねらい	保育者の立場に立ち、いつでも心地良い対応をする
	実践予定内容	保護者に対して傾聴、丁寧な対応を心掛ける。 一人ひとりに合った支援の仕方を保護者と共有し構築していく。
3	計画・ねらい	保護者がいつ訪れても気持ちが良い施設にする
	実践予定内容	清掃を徹底し、人や物への意識を高める。 整理整頓、細やかな気配りができるようにする。 家具や物、配置や管理の仕方を整える。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとって、子育て支援の入口となるような存在を目指す
	実践予定内容	青空保育、ちきんえっぐ活動などを通して、地域の子育て家庭同士が繋がる機会を提供する 困ったときにすぐに相談できる仕組み構築する
2	計画・ねらい	地域内外との繋がりを深めて、子育て支援拠点としての役割を担う
	実践予定内容	見学者や園庭開放に訪れた人たちや、職場体験や実習生の受け入れを通しての交流の様子を地域にも発信していく
3	計画・ねらい	地域の方々を園行事に招待し、交流する場を提供する
	実践予定内容	どろんこ祭りや伝統行事など、地域の方と融合し楽しめる機会をもつ 地域の方が得意なことを、教えていただく機会を設けていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育の引き出しを増やし、互いに学ぶ場を設ける
	実践予定内容	園長大学の講座を用いて、園会議で学びの場を広げていく わらべうたや伝承遊びなど引き出しが増やせるように、学ぶ機会を提供し、アウトプットする場を用意する
2	計画・ねらい	保育の視点を認め合い、語りあう集団
	実践予定内容	1枚の写真から、各々の目線や感じ方があり、認めあい成長していく集団であることを考える機会を設ける 10の姿に紐づけして、子どもを読み解く力が身に付くようにする
3	計画・ねらい	大人のスキルアップ
	実践予定内容	個々の課題を抽出し、面談を通して具体的な取り組みとその進捗状況を確認していく 実践で学んだことを理論と結び付けられるように、アウトプットする

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を日々の畑仕事から感じ取れるようにする
	実践予定内容	堆肥作り、土つくり、種蒔き、間引く、収穫、野菜くず、鶏の糞と循環していることを実体験から学びへと繋げられるようにする
2	計画・ねらい	食材の加工への興味をもつ
	実践予定内容	旬の食材を長持ちさせる方法や無駄にしない方法、日本ならではの伝統食への加工を楽しむ 原材料や調味料に興味を持つ
3	計画・ねらい	命をいただく
	実践予定内容	鶏、魚など命があるものをいただく経験をする 経験を行うにあたって子どもたちと丁寧に向き合い、感謝していただけるようにする。

〈6〉チーム保育の強化

1	計画・ねらい	コンサルテーション能力を高めていく
	実践予定内容	施設長をはじめ、各リーダーは定期的に課題を整理し、適宜助言・指導をしていく
2	計画・ねらい	子どもの心情を読み取り語りあう
	実践予定内容	一つの事例から子どもの気持ちを読み取り、様々な角度から子どもの成長について理解が深められるようにする 子どもの姿をポートフォリオにまとめて、保護者と共有する。
3	計画・ねらい	認め合い、拾い合う関係性を築く
	実践予定内容	得意なことを認識して学び合い、苦手なことは自然に手を貸し合える関係性を築く 職員間で課題があるときに、チームで話し合い、分析して改善していく。

〈7〉１００の本物の体験

1	計画・ねらい	道具の使い方を習得できる環境を作る
	実践予定内容	様々な道具や針仕事など大人が使って見せて、実際に本物に触れる機会を設ける
2	計画・ねらい	子どもが経験を選び取ることができる環境の設定
	実践予定内容	一つの大きな家を行き来し、自分の意識で選び決めることができる環境を用意する 園庭の環境に力を入れて、選び取れる環境を整えていく
3	計画・ねらい	子どもの挑戦する気持ちを後押しする
	実践予定内容	子どもが立ち止まった時には、自分で答えが出せるまで一緒に考えていく 保護者にも丁寧に口頭で伝え、心の動きを共感していく

２.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	15人	15人	15人	15人	15人	90人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人		
パート スタッフ	保育士	3人	補助	1人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	2人						

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、コンピテンシーによる自己評価、研修報告、共有事項、活動振り返り
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラス状況共有、アレルギーへの対応、食育や畑活動報告
事故防止委員会	月1回	事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、検証 再発防止策
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについて情報共有、指導計画
リーダー会議	適宜	活動の軸となる計画、全体での調整事項
乳児・幼児会議	週1回	翌週の活動計画、より良い保育をするために子の現状の把握と共通の目線が持てるような関わりと配慮

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告、共有事項
施設長勉強会	月1回	園運営における
食育会議	年4回	園の取り組み報告、マニュアルの見直し、食育に関する課題・目標共有
保健会議	年4回	衛生管理の統一、感染症等各ガイダンスの共有
主任会議	年1回	月運営、マネージメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質の向けたスキルアップ研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、衛生全般の管理、心身の健康状態管理等
安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む

防火管理者	防火管理に関わる消防計画を作成し、防火管理上必要な業務(防火管理業務)を計画的に行う
食品衛生責任者	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境整備

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重し、準備・活動を進める
子育て支援・相談係	子育てに関する相談業務、子育て支援(ちきんえっぐ)開催

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人ひとりと愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心掛ける ・一人ひとりの子どもの様々な感情や意欲を尊重し、健やかな育ちを保障する ・応答的な関わりの中で、愛情や安心感が得られ、人との関わりの基礎が培われるようにする
	下半期 0～1歳児	・人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人ひとりと愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心掛ける ・受容的・応答的な関わりのもとで、身近な人と親しみ、関わりを深め、人との関わる力の基盤を培う ・様々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる ・子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する ・簡単な言葉で自分の気持ちを表し、友達や保育者と関わる ・様々な運動遊びを通して、生活に必要な動きを身につける
幼児保育	上半期 3～5歳児	・保育者の見守りのもと、子ども本来の姿である遊びが十分にできる環境の中で、一人ひとり遊びきった満足感・仲間意識や集団活動の楽しさを感じ、充実感を得られる保育を行う ・リズム体操、表現遊び、歌遊びなどで自分を発揮し表現する意欲や協調性・社会性を育てる ・動植物を飼育栽培し、体験を通じて自然物や動物の命の大切さ、食

		の循環に気づくことができるようになる ・素話や絵本・紙芝居等の読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす
	下半期 2～5歳児	・自分たちで考えた遊びに意欲的に取り組む ・目的を持ち継続した遊びを楽しむ ・自分のイメージしたものを様々な方法で表現する ・自然の中で発見や不思議さを発見し、豊かな感性を育てる ・異年齢で触れ合う中で、互いに刺激を受け、問題を解決し、相手の思いに気づく ・自信をもって自己表現する
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食事を楽しみにしていて意欲的に食べられる子ども
	実践予定内容	お腹が空くまで遊ぶ、食べられる量を盛り付け、好きな人と食事をとる、旬を味わう、国内産・高品質の食材、日本食・伝統食を大切に考え、昼食・おやつ・夕食も全て手作りのものを提供する
2	計画・ねらい	食への関心を広げ、食を豊かにする
	実践予定内容	素材の味を味わえる形状・温度で提供する 畑で収穫したものを自分たちで考え、調理して食べる機会を提供する 行事食、郷土食と触れ合い、伝統文化を知る 落ち着いた雰囲気づくりを心掛け、心から食事を楽しめるようにする 食器の置く位置・動線など、細かいところまで整えていく
3	計画・ねらい	食の循環を知り、食を豊かにする
	実践予定内容	自ら育てた作物を食する、命をいただく(捌く、解体する)体験を通して自然の恵み・命をいただいて生きていることに気づく

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの施行、歯磨き指導、温湿度管理、SIDS予防チェック 命の大切さ(5歳児)
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃･･･咽頭喉頭炎、手足口病等 11月頃･･･インフルエンザ、胃腸炎等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／冷暗所にて保管 セスタミン･･･1名より預かり済み／常温にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員２名については３月１日までに受講予定
AEDを使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については６月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･11月 歯科健診　年２回／６･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが安心できる居場所を提供する
	実践予定内容	安全を基本に、物的環境、人的環境、社会的環境を整えていく 子どもたちの心の拠り所となれるような環境を整えていく
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的に遊びこめるような環境設定
	実践予定内容	自分で選び取れる素材を用意し、数を調整し、最適な環境を更新していく
3	計画・ねらい	子どもたちの遊びが継続的に発展する環境の設定
	実践予定内容	新たな創造性を育む素材の提供、仕掛けづくりを行う 遊びに適した場所を整える

〈７〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	レゴテーブル	幼児保育室	毎日
2	配膳台(2台)	幼児保育室	毎日
3	一本橋	園庭	毎日

4	鶏小屋	園庭	毎日
5	かまど	園庭	毎日
6	竹馬ホルダー	園庭	毎日
7	廃材入れ	玄関ホール	毎日
8	平均台(2台)	ホール	毎日
9	竹馬(5組)	ホール	使用前

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	（防災） 危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践予定内容	（ケガ事故防止） 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う
3	実践予定内容	（防犯） 危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う
4	実践予定内容	（光化学スモッグ） 危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生対応及び行政の連絡に従って対応する

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代を担う学生や中高生を、保育の現場で積極的に受け入れます。個々に合った指導や援助をきめ細やかに行い、地域に開かれた保育園として、様々な人との関わりを通じて豊かな心を育みます。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受け入れ
2	実践予定内容	養成校の学生の受け入れ(保育士・養護教諭・看護師・栄養士)

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②ケガ・ケーススタディ研修 ③人権チェック・子どもの人権・虐待防止研修	・リスク管理について実践例を踏まえて学ぶ ・子どもの人権を考慮し、保育の質の向上を目指す
5月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム ③子どもを見るまなざし	**・実技を交えながら指導のポイントを理解する** **・様々な角度から子どもを見る目を確立する**
6月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネージメント ③子どもを見るまなざし	**・水辺の危険性について考える** **・様々な角度から子どもを見る目を確立する**
7月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課について ③子どもを見るまなざし	・日課の意義や知識を深める。 ・様々な角度から子どもを見る目を確立する
8月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について(前期) ③子どもを見るまなざし④	・室内環境と物の管理の方法、人員配置等の意見交換と共通理解 ・様々な角度から子どもを見る目を確立する
9月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラムについて ③子どもを見るまなざし⑤	・小学校への理解を深め、虹の架け橋プログラムの内容を理解する ・様々な角度から子どもを見る目を確立する
10月21日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子どもを見るまなざし ③人権チェック・子どもの人権・虐待防止研修	・こどもの人権を考慮し、保育の質の向上を目指す ・様々な角度から子どもを見る目を確立する
11月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② わらべうたの世界 ③子どもを見るまなざし	・わらべうたの引き出しを増やし、保育に役立つ知識を得る ・様々な角度から子どもを見る目を確立する
12月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	・鶏の解体に関して職員間で話し合

		② 鶏の解体について ③子どもを見るまなざし	い、意識を高める ・様々な角度から子どもを見る目を確立する
1月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について(後期) ③子どもを見るまなざし	・室内環境と物の管理の仕方、人員配置等の意見交換と共通理解 ・様々な角度から子どもを見る目を確立する
2月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度振り返り	・1年を振り返り、各自の課題や園の課題を考える
3月1日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	・課題への共通理解や共同性を高め、目標を設定し計画を立てる

エリア研修予算内訳　救急救命講習（つくばどろんこ保育園・万博公園どろんこ保育園・学園の森どろんこ保育園・守谷どろんこ保育園・香取台どろんこ保育園・アイビー保育園・ほしのこ保育園・おひさま保育園合同開催）
救急救命講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	会場	総予算	按分予算
6月14日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円
6月21日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に、「個人ごとの次期目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用し、個別に伝える。半期に一度、中間面談を実施し、進捗確認を行う。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた社会資源として、専門的機能を地域の為に還元する。小学校との交流、地域の商店街や官公庁との繋がりを広げて、地域に根差した保育園になるように密接に連携していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：400名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：諏訪公園にて　　集客目標：60名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人クラブとの伝承遊びを取り入れた交流 運動会・園外保育等、日常保育で活動的に交流
異年齢交流	小学校との連携、他園との交流 中高生の体験活動やボランティアの受け入れ 大学生との交流
地域拠点活動	ちきんえっぐ・青空保育 園庭開放利用者や見学者に積極的に誘い掛け、行事参加やちきんえっぐの広報に努める

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

小学校との連携を密にして、小学校の授業内容や生活について理解を深め、逆算をして子どもの姿や発達が適切であるかを検討する。子どもたちの学びの連続性を共通理解し、目標設定を相互でしていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
４月頃	高山学園香取台小学校	10名予定	組織つくり （香取台小学校）	職員間交流
５月頃	高山学園香取台小学校 1年生	18名予定	授業見学 （香取台小学校校庭）	子ども間交流
７月頃	高山学園香取台小学校 1年生	2名予定	授業参観 （香取台小学校）	職員間交流
9月頃	高山学園香取台小学校 1年生	2名予定	授業参観 （香取台小学校）	職員間交流
10月頃	高山学園香取台小学校	4名予定	運動会見学 （香取台小学校校庭）	子ども間交流
11月頃	高山学園香取台小学校 2年生	8名予定	町探検で来訪 （園）	子ども間交流
11月頃	香取台小学校	2名予定	園見学 (園)	職員間交流
12月頃	高山学園香取台小学校 1年生	18名予定	交流会 (香取台小学校)	子ども間交流
２月頃	高山学園香取台小学校 1年生	18名予定	学習発表会 (香取台小学校)	子ども間交流
3月頃	高山学園香取台小学校	2名予定	入学者引継ぎ面談 (香取台小学校)	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

個別の保育計画を立案し、全職員で具体的な対応を共有し園全体で取り組む。保護者との面談を重視し、子どもの成長発達を同じ視点で見られるようにする。関係機関と連絡を取り、幅広い情報を収集し対応を考えていく。

他児との育ち合いの視点で考え、社会の中で生きていくための手立てを援助する。その子の発達の偏りを理解し、伸びる部分をより伸ばすことで、補う部分も育つように援助する。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：園会議出席者）

担当・保護者等、特に配慮が必要な事例や気になることを職員間で共通理解を図り支援していく。発達支援つむぎとの連携を視野に入れる。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

看護師や担当者へ個々の状況を共有し、丁寧な引継ぎを行う。小学校へ必要な場合は、保護者の同意を得て教育委員会への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：100名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：12名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：24名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：12名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：諏訪公園にて開催　集客目標：36名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年１２月２６日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：13時30分
自己評価終了予定時刻：14時30分
自己評価実施予定者：施設長及び当日出勤の全職員

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	自分をさらけ出し、相手を受け入れ融合することを意識する。 学んだスキルをさらに高め合えるように、園全体で地域に発信し、リードできるような機会を持つ。
	振り返り	自身の得意分野を認識し、得意分野はリードし、苦手な分野は相手を信頼して任せる姿が見られた。各々が自己分析を行い、さまざまな課題を解決するために、スモールステップで日々課題を抽出し、改善をして積み重ねていた。チームPDCAサイクルを回せるようになりつつある。 学んだスキルを園内での発信し、考える機会は重ねていたが、地域を巻き込み還元することには至っていない。来年度の課題として、地域にもさまざまな形で還元することを考えていきたい。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	自分が得意とする分野はさらに伸ばし、苦手とする分野は発信し、チームで補い、学び合い、助け合い、高め合う集団となる。 日々の丁寧な保育を地域に発信する機会を持つ。
	重点施策	自己分析をして、得意なことを前面に出す、苦手なことは謙虚な姿勢で学ぶ気持ちや相手を尊重する気持ちをもち、相互理解を深め、高め合う集団となる。

		学んだスキルを高め合い、地域にも還元できる機会を持つ。
2026年度	目指す姿	万博公園どろんこ保育園らしい保育の明確なビジョンを持ち、一人一人が自信と誇りを持ち、地域に還元をする。
	重点施策	保育を心から楽しみ、地域の子育て家庭にも波及できるようにする。 万博公園どろんこ保育園らしい保育の良さが職員も理解し、チームとして進化し続ける集団となる。
2027年度	目指す姿	地域の保育をリードし頼りにされる園
	重点施策	専門性を高め、地域に対する意識を持ち、常に融合しながら地域全体を高めていく集団となる。 困ったときに、いつでも何度でも誰でも受け入れられる園を目指す

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：万博公園どろんこ保育園 施設長　田中　恵

２０２５年度　メリー★ポピンズ 桶川ルーム　事業計画書

Ⅰ.基本方針

急速な少子化の進行、地域とのつながりの希薄化、経済的理由による子育てへの不安が高まる中、メリー★ポピンズ桶川ルームは駅前園という利便性の高さもあり、開園9年目を迎えてもなお、園児数は常に定員に達している。また、一時保育事業も多くの方にご利用いただいていることから、今後も高い保育需要が見込まれる。
メリー★ポピンズ 桶川ルームでは、併設の発達支援つむぎ 桶川ルームと協働し、地域の先駆けとして、障害の有無に関わらず、子どもたちの力を信じて、生きる力や意欲を育み、たくさんの経験ができるインクルーシブ保育を提供していくとともに、法人方針である『生きる力のある子どもを育てる』を礎に、子ども・保護者・スタッフが協働的に関わりながら、選ばれる園となるよう、地域に愛される保育を実践していく。

① ホンモノの経験の機会を用意し、子ども自らが選択しやってみる
戸外で土・水・風・木・光・火を五感で感じ取る原体験を通して、ものの性質や身近な事象、生命の尊さ、食材や食の循環に気づくことができるように、「10より100のホンモノの経験」ができる機会を用意する。魅力あふれる人的・物的環境を整え、子ども自らが自己選択できる力を育んでいく。

② 生きる力を育むインクルーシブ保育の実践
子どもの「好き」や「やりたい」という気持ちを大切にし、大人は一定の距離を取って見守る。子ども同士のけんかやトラブル、うまくいかないことを経験し、自分の中で折り合いをつける力を育んでいく。
友達との関わりの中で、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする機会を作ることで、様々な意見や思いがあることを知り、思いやりの気持ちを育む。共に暮らす中で頼り合い、時にはぶつかり合うことでお互いを理解し、困った時にはお互いに手を差し伸べ合える『人とのつながり』を大切にすることで人と関わる力や感情コントロール力を育み、自分の好きなことを見つけ、得意を伸ばす保育の場を提供する。

③ 大人も主体的に学び、思考し、成長し続け、チーム保育を行う
大人が主体的に学び、考え、動く姿を見せる。常に子どもを真ん中に、何が必要か、どうすべきかを模索し、考え続ける集団になる。スタッフは、研修等にも積極的に参加し、園内でアウトプットすることで知識の定着をはかる。全ての子どもを全てのスタッフで見守ることが出来るよう、情報共有を徹底し、子どもの育ちについて語る機会を作り、チームで保育を行っていく。

④ 地域の子育て支援の拠点となる
地域の子育て中の保護者の拠り所となるよう、相談会や勉強会などを行い、園に来ていただく機会を作っていく。スタッフが講師となり、それぞれの専門性や行っている保育を発信し、アウトプットすることでスキル向上に繋げる。子ども、保護者、地域に向けてインクルーシブ保育が浸透するよう情報発信し、地域から愛され選ばれる園となる。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生きる力のある子どもを育てる
	実践予定内容	どろんこ会グループの日課・基本活動である、散歩（9時出発）、畑仕事、生き物の

		世話、長距離散歩を実践し、日常の生活、遊び、労働を通じて生きる力を育んでいく。また、それぞれの活動の意味をスタッフ一人ひとりが理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
	実践予定内容	子どもが自ら遊びを選択し、遊び込める環境を整える。子どもの姿を見て、スタッフが主体的に環境設定に関わることができるように、話し合う場を作っていく。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見て気持ちの良い施設を作り、おもてなしの心を持って最高級の接遇で対応する。
	実践予定内容	・施設内の美観を維持し、整理整頓を徹底する。 ・スタッフの接遇研修を行い、自分の得意・不得意を自覚し、チームで補い合いながら最高級の接遇を目指す。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・保護者と、子どもの育ちについて協働的に関わる。
	実践予定内容	・保育内容の説明を丁寧に行う。 ・日々の園での子どもの様子をエピソードと共に具体的に伝える。また、家庭での様子や、心配事等のヒアリングを行う。 ・成長の様子、日々の活動をポートフォリオにまとめ、玄関掲示することで、保護者と子どもの育ちについて協働的に関われるようにする。
2	計画・ねらい	・園と保護者の情報共有の場を積極的に作り、信頼関係を築く。
	実践予定内容	・保護者懇談会、個人面談、送迎対応、連絡帳のアプリやタイムラインなどを活用し、子どもの育ちを丁寧に共有する場を作る。
3	計画・ねらい	・保護者同士の交流の場、スタッフとのコミュニケーションの場を作る。
	実践予定内容	・どろんこ祭りや、畑の除草作業、救急救命講習、キャンプなどを企画し、保護者同士の交流や、スタッフとの信頼関係を作る場としていく。
4	計画・ねらい	・発達に関する悩みを気軽にできる場を作る。
	実践予定内容	・併設園の強みを活かし、心理士、言語聴覚士、理学療法士などの専門士に子どもの発達について相談できる機会を作る。また、勉強会などを開き、就学に向けての不安の解消を図っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域における子育て支援の重要性をスタッフ全員が理解し、実践する。
	実践予定内容	地域の保護者等に、保育園の専門性を活かした子育て支援として、相談会や勉強会などを積極的に行う。
2	計画・ねらい	地域の子育てしている保護者の安らぎの場となる。

	実践予定内容	ちきんえっぐの広報活動を行い、地域の子育てしている保護者が気軽に利用できる場にする。また、そこで生まれる保護者同士の繋がりも大切にしていく。
3	計画・ねらい	地域の関係機関との連携強化
	実践予定内容	・地域の関係機関と積極的な連携を図るとともに、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図る。 ・近隣の園や、小学校、行政と連携を図り、安心して就学に繋げられる体制を築く。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インシデント、ヒヤリハットの分析を行い、保育場面での事故や怪我を未然に防ごうとする意識を持つ。
	実践予定内容	インシデントヒヤリハットを毎月集計して分析を行い、保育環境の見直しにも繋げられるようにする。
2	計画・ねらい	どろんこ会グループのマニュアルの徹底。
	実践予定内容	マニュアルについての理解と実践が行えるように、定期的にロールプレイ研修を実施し、定着を図る。
3	計画・ねらい	法人の取り組みである、雑巾がけ、座禅、畑仕事等の日課を行うことの理解を深める。
	実践予定内容	毎日の日課を行うことの意味を、スタッフ一人ひとりが十分に理解し自身の言葉で語ることができるようにする。丁寧に子どもと関わり、丁寧に伝えていくことを意識する。
4	計画・ねらい	スタッフの学びの機会を設けていくことで、保育の質の向上を図る。
	実践予定内容	スタッフそれぞれの専門性を発揮し、アウトプットする場を設けることで、園全体の質向上に繋げる。
5	計画・ねらい	リーダーの育成
	実践予定内容	様々な場面で、自分の仕事に責任を持ち、後輩に指導していける立場になれるよう、自分の保育をスタッフの前で語る機会を設けていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、調理、食材加工、捌いて食べる等の活動を通し、食材や食の循環や環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践予定内容	・自分たちが畑で野菜を育て、収穫し、食する経験を通じ、食について実際に経験することのできる環境を提供する。 ・魚や鶏等を解体して食べる体験を通して、命をいただき生きていることを知り、食の循環について学ぶ。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで、廃棄に係る環境負荷を減らし、食べ物を大切にする。
	実践予定内容	・野菜を皮付きで調理したり、皮を使ったメニューを考えたりして、給食残渣を減ら

		す。 ・調理くずを用いて、コンポストで堆肥を作り、畑へと循環するシステムを構築する。
3	計画・ねらい	木や花等に触れる機会を作り、生き物の生育環境を知り、木育を行うことで、環境保全の意識を持つ。また、自然の循環について知る。
	実践予定内容	・植物と虫、魚、鳥等が共存する雑木林や園庭ビオトープに触れる機会をもち、生命の循環と生命維持に必要な環境について経験を通して知る。 ・グリーンカーテンとしてつる性の野菜や花を栽培し、室内外の気温上昇を和らげる。 ・桶川市の緑化ボランティア団体と協力し、木工遊び、苗木の育成、花の植栽などを行うことで緑化意識の向上と実践を行う。 ・自然の循環について関心を持てるよう、微生物について学び、コンポストに繋げる。

〈6〉インクルーシブ保育の実践と発信

1	計画・ねらい	併設園の強みを活かしたインクルーシブ保育を実践する。
	実践予定内容	・保育園、つむぎのスタッフの垣根を無くし、チームで子どもを見守る。 ・要支援児のケース会議では、つむぎのスタッフからの助言も得て、その子に必要な支援が行っていけるよう環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	全ての子どもの育ちを全てのスタッフが共有する。
	実践予定内容	・スタッフ間の情報共有が徹底されるよう、事務所で会議を行い、内容は議事録で全員が回覧し共有する。 ・子ども一人ひとりを全てのスタッフで見守ることの必要さ、面白さ、難しさを共有し、目の前の子どもの姿を全員で理解する。
3	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりがチームとしての意識を高める。
	実践予定内容	・保育者間での連携を密にし、声を掛け合うことでチームとして子どもを見守っていく。 ・スタッフ一人ひとりが学ぶ意識を持ち、主体的に取り組むことができるよう、個々が課題を見つけて取り組む。
4	計画・ねらい	インクルーシブ保育の地域発信
	実践予定内容	発達支援つむぎ桶川ルームと協働でインクルーシブ保育を実施し、その保育を地域に向けて発信する機会を多く持つ。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	12人	12人	12人	66人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	2人		
パート スタッフ	保育士	7人	補助	0人	調理	0人	事務	1人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・コンピテンシー ・活動の振り返り及び共有。子どもの姿の共有。 ・園内研修
給食運営会議	月1回	・食育会議の策定 ・食育活動実施内容の共有 ・喫食状況(残渣記録)の確認 ・給食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントの分析 ・ハザードマップの見直し ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策を策定。 ・全園事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画の振り返り及び省察

		・要支援児個別計画の見直し ・支援の必要な園児についての話し合い
クラス会議	週1回	・各クラスの共有事項報告 ・次週の週案の確認と共有 ・クラス運営策定
担当者会議	不定期	・『運動チーム』『音楽チーム』『製作チーム』に分かれて、年間を通して子どもたちに必要な環境を策定する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例確認事項、コンピテンシー、請求スケジュール 各部署からの連絡事項伝達及び経営ビジョンとの接続
施設長勉強会	月1回	マニュアル及び運用ルールの作成・見直し 保育における課題点の抽出・改善アクションプランの立案、成果発表 保育所保育指針の理解
食育会議	年4回	献立の内容改善・提案 給食提供マニュアル及び運用ルールの見直し 食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成・改善 保健計画策定 保健指導についての共有
主任会議	月1回	園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有 マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	環境設定、美観、日課の見直し等、改善アクションプランの進捗確認と共有
併設園会議	年2回	保育園と児童発達支援事業所のインクルーシブモデルに関する実践発表、併設園事業のビジョン、プログラムの策定

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の汚染区域の安全管理や備品などの管理
安全対策係	避難訓練計画の立案や、環境安全整備

	ヒヤリハット、インシデントの分析、事故防止会議運営
防火管理者	園の災害などに対する訓練の立案、実行
食品衛生責任者	食育計画の計画や実践、食品の安全に対する管理
製作チーム	年間を通して継続的な製作遊びの企画・提案、園内研修
運動チーム	年間を通して継続的な運動遊びの企画・提案、園内研修
音楽チーム	年間を通して継続的な音楽遊びの企画・提案、園内研修

〈４〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重しながら、計画、準備、活動を共に行う。
運動会係	行事の企画、立案、実施
生活発表会係	行事の企画、立案、実施
入園式・卒園式係	行事の企画、立案、実施

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の成長や発達にあった援助を行い、一人ひとりが安心して過ごせる。 ・子どもの気持ちに寄り添い、共感し受容する。
	下半期 0～1歳児	・身近な自然や社会とかかわれるような体験の場を作る。 ・子どものやりたいことが保証され、応答のある環境の中、様々な経験や体験を行い、興味関心が促される。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・子どもが安心して大人や友達と関わり、様々な体験や経験を通して友達と学び合い、助け合い、協力できる。 ・喜怒哀楽などの様々な感情を表現することができる。
	下半期 2～5歳児	・様々な体験や経験のもと、自分の興味関心のあることに気づき、それに対して探求し、挑戦する姿が見られる。 ・子ども同士のグループで話し合い、役割を分担し、1つのものを作り上げる経験の中で、合意形成や感情コントロールが身に付く。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	・意欲的に食べる子どもが増えるよう、食への関心を広げる。
	実践予定内容	・十分に遊び、身体を動かし、自然とお腹の空く環境を作る。 ・生活の中で、食事作りや準備に関わる。 ・献立を、栄養素毎に視覚化し、食への興味に繋げる。 ・楽しく食事ができるように、食事場面でも丁寧に関わる。
2	計画・ねらい	・保育士、栄養士、全てのスタッフが口腔発達を理解し、食事提供を行う。
	実践予定内容	・園内研修で口腔発達について学び、子どもの噛む力を育て、素材の味を味わえる状態で提供できるようにする。 ・盛り付け、配膳を自分たちで行うことで、自分で食べられる量を把握する。
3	計画・ねらい	・自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践予定内容	・自分たちで栽培し、それを食する機会を多く作る。 ・梅ジュース作り、干し野菜作り、いちごジャム作りなど、季節ごとに収穫する日本ならではの食材を加工する。 ・魚を捌いて食べる等、命をいただくことを知る。
2	計画・ねらい	・食の循環について興味を持ち、知ろうとする。
	実践予定内容	・畑やプランターで野菜を自分たちで栽培し、食する機会を多く作る。 ・梅ジュース作り、干し野菜作り、漬け物作り等、季節のある日本ならではの食材加工を経験する。 ・魚や鶏等、命を頂いて食べるという経験を通し、生と死の循環を学ぶ。

〈４〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）

保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	・手洗い、うがい指導では、スタッフが手本となり、習慣化できるように促す。 ・歯磨き指導では、歯科衛生士さんに来ていただき、紙芝居や模型を用いて歯の磨き方を伝える。 ・身体の絵や絵本を用いて、からだのしくみを伝える。 ・性教育から、身体の大切さ、自尊心を育むきっかけを作る。
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃・・・胃腸炎 1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 オロパタジン・・・1名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在21名全員が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在21名全員が、研修受講し、修得済み テナント内、4階桶川医療クリニック、桶川マイン歯科クリニック、3階桶川市図書館、東武ストアサービスカウンターに設置あり 散歩先のAED設置場所に関してはハザードマップに記載
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また保育室内の温湿度調整、消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもの主体性を引き出す、自己選択、挑戦ができる環境づくり
	実践予定内容	子どもの好み、発達段階、行動を把握し、子ども自らがアクションを起こして自己選択できる物的及び人的環境を作る。 室内・戸外ともに天候・状況等を子ども自身が感じて理解し、自らが過ごす場所、活動内容を自己決定できるように言葉がけの量を調整する。
2	計画・ねらい	ホンモノに触れる経験のできる機会の提供
	実践予定内容	子ども自身が探索し、自然や生き物に直接触れ感じることのできる機会を提供していく。 針や包丁、火等、危険な物との距離の取り方、扱い方を教える。
3	計画・ねらい	自ら問題解決できる経験が充分に積める環境構成
	実践予定内容	子ども同士でぶつかり合い、葛藤し、自身の気持ちや行動を自分の力で調整する、他者と話し合い協力するなどして、問題解決する経験を充分に積めるよう、物の数、置き場所を構成し、必要な量のみの言葉がけ・介入を行う。
4	計画・ねらい	整理整頓を徹底し「必要なもの以外置かない」施設づくり
	実践予定内容	子どもや保護者が居心地の良いと思える施設づくりを目指し、美観意識、物品の管理や整理、毎日の清掃や消毒を徹底する。

		子どもやスタッフの動線を分析、再構成し、子どもも大人も行動しやすい環境を構築する。 内部監査指摘項目ゼロを目指し、スタッフ一人ひとりが内部監査項目に対して深く理解し、高い意識をもって主体的に働く。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	安全管理	園における事故にかんする安全管理危機マニュアルを設置しており、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。
2	危機管理	事故発生時における危機管理マニュアルを設置しており、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。
3	救急救命講習の実施	スタッフは、応急処置に関する基本的な知識を持ち、事故発生時には適切な連携を図り処置する。
4	防火管理	・防火管理者を選任し、所轄の消防署に遅滞なく届け出る。 ・消防法に定められた必要事項を満たした消防計画を作成し、消防計画の内容を全スタッフに周知する。 ・避難、消火、通報訓練は法令・通達で定められている回数実施する。 ・少なくても年1回は引き取り訓練を実施するが、実施の際は保護者の負担をできる限り少なくす配慮をする。 ・防火管理者は、消防設備等の自主点検を実施し、不良箇所があった場合には即時に改善する。 ・避難機器や消火器を、適正な場所に設置する。 ・非常ベルまたは非常警報設備を設置、点検を行う。
5	光化学スモッグ対応	埼玉県または、桶川市からの情報を素早くスタッフに周知し、園外にいる場合には素早く日陰に入るなどの対応を取り、子どもたちの健康状態などに留意する。
6	熱中症対策	夏場は熱中症警戒アラートを確認し、戸外遊びの活動を検討する。
7	事業継続計画	大規模災害、未知の感染症の発生等の緊急事態における事業継続について事業継続計画（BCP）を作成し、緊急時にはその計画に沿って事業を継続する。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

・保育園は地域の社会資源であり、地域研修の場であることを意識し、実習生、研修生を積極的に受け入れていく。
・次の世代を担う保育・福祉の場で活躍する人材を育成し、また、自園スタッフの自分の保育を振り返るきっかけに繋げ、共に成長の機会となるようにする。

1	中高生の体験受け入れ	近隣の中学校や高校などからの体験学習の依頼があった際は、積極的に受け入れる。 桶川市学事課と協働で、市内中学生の職業体験の受け入れ。
2	実習生・ボランティアの受け入れ	保育養成校の学生の実習、一般および学生各種ボランティアの依頼があった場合は、積極的に受け入れる。
3	実習生への指導	・実習生とは、日々の振り返りを行い、疑問点などはすぐに解決できるように指導する。 ・保育の楽しさを伝えられるように関わる。

７.スタッフ育成と研修計画

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止研修 ④ ＢＣＰ ⑤ ケーススタディ研修	非常時に備えた行動ができるよう、スタッフ周知する 怪我についての対応について事例を通して学ぶ
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル研修 ③ 接遇・保護者対応 ④ 共主体①（主体性・共主体の考え方）	マニュアルの徹底。全スタッフ同レベルで行えるようにする。 相手の気持ちに寄り添い、最高の接遇を学ぶ 主体性を理解し、共主体の保育を考える
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水の事故 ③ 共主体②（日課①）	水の事故への対応、危機管理 共主体の観点から日課を考え見直す
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体③（日課②）	実践を振り返り、共主体の理解を深める

8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体④（環境）	共主体の観点から環境を見直す
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体⑤（経過報告） ③ 小学校への接続	実践の経過を確認する 小学校の今を知り、接続に向けた子育てを考える
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止研修 ④ 利用者アンケート分析 ⑤ 共主体⑥（環境②）	利用者アンケートの分析を行い、園運営について考える 上期の環境を見直し、子どもの育ちを捉えた環境設定をする
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全社員研修	全社員研修をうけて、スタッフ一人ひとりが次年度に向けた自らのMissionを確認し理解する
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体⑦（振り返り）	今年度の取り組みを分析・整理し、次年度に向けた課題を共有する
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進級、進学に向けて ③ 共主体⑧（年度末までにできること）	次年度に向けた課題から、アクションプランを立て実践する
2月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り	体験活動の振り返り、及び次年度の課題抽出
3月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度目標設定	課題への共通理解を深め、次年度の目標を設定する

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

内限定公開講座	
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の保育園や、幼稚園、認定こども園、商業施設等との関わりを持ち、コミュニケーションを大切にしていく。当ルームが保護者や地域の方を対象とした子育てに関する講座や相談会を実施し、地域に貢献できる事業所を目指す。また、つむぎカフェやだれでもアトリエでは、子育て世代のみならず、全ての地域の人に気軽に利用していただき、地域の人が集い安心できる場を作り、人と人とのつながりを実感できる地域の拠点を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：450名
青空保育	月1回　　公園名：駅西口公園にて　　集客目標：70名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流(月1回トミオ桶川べにばなテラスへ訪問) 中高生の体験学習、ボランティアの受け入れ
異年齢交流	小学校訪問 近隣園との交流
地域拠点活動	ちきんえっぐ(自然食堂・寺親屋・芸術学校)の開催 園庭開放 地域公開講座の実施 救急救命講習

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

子どもの発達の連続性を見据え、子どもたちの生活が学校へつながるものとして就学を見通した支援を行っていく。実際に学校に訪問する子ども間交流を実施し、子どもたちが学校に対して期待感を持てるようにする。また、スタッフ一人ひとりが現在の教育を見て知り、子どもたちの将来の姿から逆算した支援を遂行できるよう、スタッフ間交流や架け橋期の子育ての理解を深める勉強会を実施する等して学ぶ。就学先決定後は、保護者からの要請に応じて就学支援シートを積極的に活用し学校や放課後等デイサービスと連携し、子ども本人の発達の状況や特性、支援内容等について情報共有を図り、子どもも保護者も安心して進学できるように環境調整していく。就学後も一生涯に渡り切れ目のない地域支援体制が構築できるよう、地域の子育て会議、地域自立支援協議会等へ積極的に参加し、関係機関、団体等と連携していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2月13日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	桶川西小学校	4名予定	授業見学（1年生教室）	職員間交流
6月頃	上尾特別支援学校	20名予定	保護者交流会	保護者交流 職員間交流
9月頃	朝日小学校	12名予定	小学校に行こう（校内）	子ども間交流
11月頃	桶川西小学校	12名予定	公開授業（校内）	子ども間交流
11月頃	上尾特別支援学校	4名予定	公開授業（校内）	職員間交流
1月頃	桶川小学校	15名予定	小学校の先生と遊ぼう（園内）	子ども間交流
2月頃	桶川小学校	12名予定	校内探検（校内）	子ども間交流
2月下旬	桶川市内小学校	2名予定	幼保小連絡協議会（市役所）	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

・個別支援計画は、年齢・障害・手帳の有無に関わらず、気になる子ども全員に対して作成し、ケース会議を月1回開催する。
・毎月1回行われるケース会議にて、計画・実施状況・結果等の振り返りを行い、前期または後期の個別支援計画に赤入れをして実施する。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：6名予定）
園長、主任、担任、つむぎ専門スタッフとケース会議を行い、記録を取り、全スタッフに周知する

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

支援の必要な園児に行ってきた援助、支援内容を引き継ぎ、入学後の円滑な学校生活に繋げることを目的に作成する。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：年間1200名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：年間24名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：年間120名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：年間70名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回　公園名：駅西口公園にて開催　集客目標：年間70名
子育て相談会	月1回　　集客目標：年間60名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２６年２月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１３時００分
自己評価終了予定時刻：１４時００分
自己評価実施予定者：千葉彩華、軽部瑛子、村田智恵美

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.３カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子どもが自らいつでも経験を選び取ることができる保育環境の構築。 ・子どもを真ん中に、全スタッフが生活力・選択力・思考力を主体的に育む保育を行っていく。
	振り返り	子どもを真ん中に、スタッフが意見を出し合いながら保育環境を整えていった。スタッフの学ぶ意識の向上や、話し合いの機会を増やすことが出来た１年だった。 地域に向けての情報発信や、子育て相談会など、外部発信も増えてきたので次年度もより強化していきたい。 自園でのインクルーシブ保育を地域に浸透させていけるようにさらに取り組んでいきたい。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・保育士のスキル向上と保育の質向上① ・地域の子育て支援の拠点となるよう、外部向け講座や発信を行う。
	重点施策	・目の前の子どもの姿を見て、今の子どもに必要な環境と体験を用意できるよう、スタッフ一人ひとりのスキル向上を行う。 ・スタッフ一人ひとりが、自分の持っている力を十分に発揮できると共に、研修等に積極的に参加し、インプット、アウトプットすることにより保育の質向上に繋げる。

2026年度	目指す姿	・保育士のスキル向上と保育の質向上② ・インクルーシブ保育の標準化 ・就学を見据えた接続期モデルの確立
	重点施策	・自園で行っているインクルーシブ保育について、スタッフが自身の言葉で語ることが出来るようになる。 ・小学校への円滑な接続が可能になるよう、小学校とも協働し、接続期モデルを確立する。
2027年度	目指す姿	・地域に愛され、子育て支援の拠点となる開かれた園になる。 ・地域の中で、障害のあるなしに関わらず、全ての子どもが共に育つインクルーシブ保育のモデル園となる。
	重点施策	・地域の方が気軽の利用できるような取り組みを考え発信する。 ・実践しているインクルーシブ保育を対外的に発信していき、地域の中に浸透させていく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 桶川ルーム 施設長　千葉 彩華

２０２５年度　北千住どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

北千住どろんこ保育園は、子どもを中心に置いた保育の追求に努め、温かい雰囲気が特徴の保育園である。子どものにんげん力を育てるためにできることを職員が日々考え、話し合い、実践しているとともに、園として大人のにんげん力を育てるための学びの時間も多く取り入れている。

・生活力の体得を意識した保育を展開する。自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けられながら“生活力”と“危険なものとの距離の取り方”を教える。
・北千住どろんこ保育園は発達支援つむぎ北千住ルームと併設されているため、この環境を最大限に活かし要支援児、つむぎ利用児、保育園児等、形態にとらわれず、子ども同士のつながりを大切にしている。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	温かい雰囲気の中で子どもを中心に置いた丁寧な保育を追求する。
	実践予定内容	職員同士が互いを認め合い、相手を尊重し合える関係であり続ける。そして、子どもは一人の人間として最大限に尊重され、守らなければならない存在であるから、常に職員は子どもの人権を守る意識をもって保育にあたる。
2	計画・ねらい	保育者・職員は常に温かくポジティブな保育を目指し、共感力を身につける。また、美しい日本語を話せる職員集団を目指す。
	実践予定内容	・子どもに対しポジティブな態度を示す。（きちんと向き合う。否定的な態度を取らない） ・子どもの成長発達を正しくとらえ、常に発達に合った保育環境を提供する。 ・子どもの発声、発音にその都度応答したり、質問したりする。 ・子ども自身のほほえみや、笑うことを引き出し、促していく。 ・指示するのではなく、子どもが発するサインに答えていく。 ・目先の出来栄えを追うのではなく、子どもの心を育てる保育を徹底する。 ・子どもの思いや気持ちに寄り添い、共感することができる保育を徹底する。 ・子どもにきちんとした日本語で話をする。きれいな言葉遣いをする。
3	計画・ねらい	虐待の定義について学び、子どもがのびのびと過ごせる保育を展開する。
	実践予定内容	虐待の疑いさえも絶対にない保育者となるための学び、園内研修は定期的に行う。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育てが楽しいと感じられるような保護者支援を目指し、最高のパートナーとなる。
	実践予定内容	子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられるような支援や情報提供をしていく。保護者が保育者に話しかけやすい雰囲気を保つ。

2	計画・ねらい	保護者同士がつながりを持てるようなどろんこサポーターズの活動の場を作る。
	実践予定内容	どろんこサポーターズとともに、保護者がいきいきと積極的に関われる場を増やし、かけがえのない保育園時代を楽しんでいただく場や環境を提供し、職員と保護者、地域で子どもを中心においた子育てを展開できるようにする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援の実施。
	実践予定内容	子育て支援事業として定期的な取り組みを行う。 子育てが楽しいと思えるような企画や、悩みが軽減するようなイベントを開催する。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐを気軽に利用していただけるプランを立て、広く周知できるように情報発信をしていく。
	実践予定内容	園庭開放、ヤギ、鶏の餌やり。 自然食堂、芸術学校、の実施。 青空保育や散歩先でチラシを配布し周知する。
3	計画・ねらい	孤立する子育てを少しでも減らせる場として「地域に開かれた子育て支援」ができる園を目指す。
	実践予定内容	子育て支援、保育園体験、寺親屋の開催。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	チーム保育の向上を目指す。
	実践予定内容	リーダー中心の体制を作り、誰もが子ども中心の丁寧な保育ができるよう、意見交換を行いながら園全体のモチベーションを上げ、チーム力向上を目指す。
2	計画・ねらい	子どもの人権を学ぶ。虐待防止について学び、徹底した対応をする。
	実践予定内容	子どもの人権をしっかりと学び、子どもを保育することはどういうことなのかを考え、大人都合で子どもに接していないか、子どもを一人の人間として応対しているか、子どもの心を傷つけていないかを常に頭に置き、プロの保育士として、誇りと責任を持って保育にあたる。また、子どもの人権が守られていないと感じた時は、お互いに指摘し合い、子どもの人権を考えた行動がとれる職員集団を目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を高める
	実践予定内容	畑仕事・ヤギや鶏などの生き物の小屋掃除と糞の始末・堆肥作り・堆肥の畑活用・命の循環教育を丁寧に行う。
2	計画・ねらい	作ると食べるがつながる食育を行う。
	実践予定内容	残食を減らす取り組みとして、調理や栽培に関わる取り組みを大切にする。また、食材の生産や調達、調理に触れ、作る人の気持ちも大切にす

		る。収穫した野菜をすぐ食べたり、加工したりして野菜への興味関心を引き出していく。

〈6〉真のインクルーシブ保育を実践する施設づくり

1	計画・ねらい	健常児も障害児も生きる力を獲得する。個々の発達に合わせた個々への配慮と支援を行っていく。
	実践予定内容	発達の早い子も緩やかな子も、その子の豊かな生活を願ってその先に繋がる支援を行っていくことを意識できる職員集団となる。
2	計画・ねらい	要支援児、つむぎ利用児、保育園児等、形態にとらわれず、子ども同士のつながりを大切にする園づくりをする。
	実践予定内容	保育園、つむぎという枠を取り払い、園児をつむぎ職員が対応する、見守る、保育園職員がつむぎ利用児の対応をする、見守ることを実践する。またその関わりについての共有を密に行い全職員が一人ひとりの把握ができ、一緒に丁寧な対応ができる施設づくりをする。 そのために真のインクルーシブ保育とは何かを園内研修を行い追求し、職員の意識をさらに高めていけるようにする。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時30分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	4人	バス運転手	2人
パートスタッフ	保育士	2人	補助	1人	調理	0人	事務	0人
	用務	1人	嘱託医	1人				

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	当月の行動計画の成果発表／園内研修／次月の行動計画決定／品質マニュアル読み合わせ
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・インシデント分析
ケース会議	月１回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見直し
幼児会議	月２回以上	幼児クラスについての情報共有
乳児会議	月２回以上	乳児クラスについての情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	内容の改善・提案／給食提供マニュアル及び運用ルール献立の作成・見直し／食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策ガイドラインの作成、改善／保健計画策定
主任会議	年４回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有／マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表
併設園会議	年2回	

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施する。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う。
食品衛生責任者	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。
畑係	畑の管理をする。
生き物係	生き物に関すること全般。

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭り実施に関わる取りまとめをする。
運動会係	運動会実施に関わる取りまとめをする。
生活発表会係	生活発表会に関わる取りまとめをする。

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・安心して過ごすことができる環境を整える。 ・どんなことも気持ちを受け止め共感する。 ・笑顔や笑いを引き出す保育を展開する。 ・様々な行動や欲求に適切に応え、身近な大人との情緒的な絆を形成する。 ・活発な探索活動を楽しみながら、様々な感覚が育つ。 ・身近な大人や、少し大きい子どもとの日常の中で、身近にいる子どもを見て学び、感情を十分に表現し、大人に見守られながら健やかにのびのびと育つ。 ・生活の中の様々な遊びや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ。

	下半期 0～1歳児	・自我形成の時期で、他者を認め始める時期に当たるので、異年齢での活動、たくさんの大人との関わりを十分に取り入れ0歳児1歳児共に活動する時間を増やしていく。 ・気持ちを受け止める保育者がそばにいることを実践する。 ・保育者も一緒に遊び、遊びのバリエーションや、展開のヒントを率先してみせることで生活の中の様々な遊びや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ。 ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通し、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・毎日の生活や遊びの中で、基本的生活習慣や運動が心地よい感覚として身につく。 ・友達との関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。 ・遊びたいものを自分で選択し、道具や玩具をいつでも手に取って使える環境の中で思いきり遊ぶ。 ・園児同士の関わり合いの中で人間関係、コミュニケーション能力を身につける。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ。 ・生活や遊びの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友達と力を合わせて活動する。 ・遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ。
	下半期 2～5歳児	・5歳児の午睡が終了し、2歳児が幼児クラスに合流するので、手伝いや当番活動の充実を図る。 ・10の姿を、卒園する時期の子どもの育ちに照らし合わせながら成長を見守る。 ・友達との関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ。 ・生活や遊びの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友達と力を合わせて活動する。 ・遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ。 ・失敗してももう一度挑戦してみようとする気持ちが育つような配慮をする。 ・就学に希望を持ち卒園できるようにする。また在園児は5歳児の姿を見て進級に見通しを持てるようにする。

保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

給食運営会議・食育会議を通じ、子どもが楽しく食事ができる環境を設定していく。
日常の生活に密着した食育を深く考察し、実践する。
分かち合う事の素晴らしさや、大切さを感じられるよう工夫する。
食品の加工や命をいただく経験から食の循環を知る。

1	計画・ねらい	友達や身近な大人と親しみを持って、好きな場所で、好きな人と、自分の食べられる量を、楽しい時間、空間の中で食べる。
	実践予定内容	バイキング方式を実施。大人が決めすぎない設定の中で食事ができる環境づくりをする。楽しく食事ができ、食べることを楽しめるような工夫をする。
2	計画・ねらい	食の循環を知る。命の大切さを学ぶ。
	実践予定内容	引き続きコンポストづくりを行い、土にかえったものを使って畑活動をする。 鶏をしめ、命をいただく経験ができる取り組みを行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（5月・11月） 0歳児検診　毎月１回実施
歯科検診	年１回（７月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・うがい歯磨き指導・鼻のかみ方指導

流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5～7月頃･･･ヒトメタニューモウイルス、ＲＳウイルス、アデノウイルス、手足口病 12月頃･･･インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	アレグラドライシロップ（抗ヒスタミン剤）・・・1名より預かり済み／鍵付き書庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在25名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	ＡＥＤ未設置
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。子どもたちおよび、スタッフがこまめに手洗いうがいをするよう徹底する。消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月

	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／4･10月 0歳児のみ年12回実施 歯科健診　年1回／7月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子どもたち自身の生活や遊びは、乳幼児の成長発達を的確にとらえ、その都度発達に即した環境や遊びを展開できるように整えていく。遊具は継続的に点検・整備改善を行い、ゾーンの確立と展開のために、園庭、園内環境をしっかりと整備設置していく。

1	計画・ねらい	子どもたち自身が主体的に選べるように環境設定をする。
	実践予定内容	環境設定を園会議時に話し合い、実践共有しまた実践していけるようにする。
2	計画・ねらい	園長大学®･保育士大学による環境構成についての講座を受講する。
	実践予定内容	子どもたち自身が主体的に選べるよう環境設定をする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ベンチ	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアル№３の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアル№３の災害対策（Ｐ．１２～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。

2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№３のけが事故防止策・安全点検と保全（Ｐ．１４～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策（Ｐ．２０～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアル№３の光化学スモッグ対策（Ｐ．２１～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。中高生の体験学習の受入、保育養成校の学生の実習受け入れ、次世代の子育て保育に携わる人材育成ととらえ、丁寧に受け入れ、指導する。

1	実践予定内容	保育が楽しいと思える保育実習の場を提供する。
2	実践予定内容	自分が思い描く保育士像に希望が持てる体験を実践する。 職員が思いやりとプロとしての意識をきちんと見せられるようにする。
3	実践予定内容	実習を終えて、より具体的に保育士として働くイメージをもって、どろんこ会で働きたいと思える実習生を増やす。

７.スタッフ育成と研修計画

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止・接遇 ③ ケガ・ケーススタディ研修	虐待の定義について学び、各自自分の保育を振り返り、虐待の疑いもない保育の徹底を図る。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	保育運営マニュアルを用いて保育感

		② 保育運営マニュアルの読み合わせ	の統一を図る。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水の事故・救命救急	命を守るということについて職員の意識のすり合わせを行う。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 乳幼児の発達①	発達の観点から保育、環境設定を考える。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理・ハザード	園外保育でのリスクの洗い出し、及びシミュレーションを行い、危機管理を再確認する。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修	全体研修の動画視聴、意見討論を行う。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止・命を知る	命を知る活動（鶏を捌く・性教育）について学ぶ 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所児童保育要録の書き方	保育所児童保育要録の書き方を学ぶ。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 乳幼児の発達②	乳幼児の発達について研修、就学前までに必要な１０の姿について考える。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 1年を振り返る	１年間を振り返り、保育の見直しを行う。 園長大学®の視聴、ディスカッションを行う。
2月下旬	18:00～21:00	第１回策定会議	・次年度職員顔合わせ ・次年度の園目標

			・次年度の保育計画
3月上旬	9:00～18:00	第２回策定会議	・次年度の年間行事決め

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈４〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

積極的に園外に出かけたり、招待したりしながら近隣住民や身近な人と様々な関わりを経験し、地域に愛されるよう計画し実践し、つながりをより深める。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：400名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：千住旭公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	日ノ出町にお住まいの地域の方々との交流を年3回以上行う
異年齢交流	主に３～５歳児は日常的に異年齢保育を行い、年少児と年長児の生活の中でのかかわり合いが密になるように工夫する。 0～２歳児はこどもの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、幼児や様々な人とのかかわりが充実するように配慮する。 小学校訪問や、1年生を園に招待し主に５歳児と交流しながら小学校を知る体験を行う。 地域の小学生を対象に年3回の交流事業を行う。
地域拠点活動	園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との共同によるどろんこ祭りの開催を行う。 ちきんえっぐにて園庭開放や給食体験など地域の方に利用していただくイベントを実施する。 また、子育て相談の対応や子育てサークルの支援を行う。 また、地域にお住いの保護者とそのお子さんを対象に、育児講座を年3回以上開催する。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

足立区接続期カリキュラムをもとに、北千住どろんこ保育園アプローチカリキュラムを作成し、小学校へのスムーズな移行ができるように小学校との連携を図りながら取り組む。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月14日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
６月頃	千寿小学校	2名予定	幼保小連携会議	協議会
７月頃	千寿常東小学校	３名予定	職員間交流研修	見学・職員間交流

11月頃	千寿常東小学校	22名予定	展覧会見学	見学
1月頃	千寿本町小学校	2名予定	幼保小連携会議	協議会
2月頃	千寿常東小学校	22名予定	給食交流会	参加・子ども間交流
2月頃	千寿常東小学校	22名予定	1年生との交流会	参加・交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的・継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：毎月10名予定）

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

併設園としての特性を生かし、職員間での共有や小学校との連携をしっかりと行い、情報共有していく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：10名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：5名
自然食堂…親子ランチ交流	隔週（水）10:00～12:00　　集客目標：3名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔週（金）10:00～12:00　　集客目標：3名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：千住旭公園にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

評価会社名学研データサービスに依頼して受審予定

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年11月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻： 9時00分
自己評価終了予定時刻：12時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、当日出勤のスタッフ

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	温かい雰囲気の中で子どもを中心に置いた丁寧な保育を追求すべく、毎月行われる園会議の中で、各保育者が講師となり園内研修を行う。 インクルーシブ保育について学び、保育園とつむぎの保育体制や、振り返り時間の確保ができるよう、保育園児もつむぎ利用児も子ども同士のやり取りの中で安心して過ごせる場となる。
	振り返り	園内研修において、各自が課題点を見つけて講師となり学ぶことに取り組んできた。アウトプットすることで自身の学びにもつながるため、今後も引き続き行っていく。 園の体制が変わったことにより、今一度インクルーシブ保育を行う上での保育・支援の仕方を考える１年となった。今後、さらにインクルーシブを学び、追求していく。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	いつでもどの職員でも丁寧な保育、かかわりができる園。 インクルーシブでは保育園に通う子ども、発達支援つむぎに通う子どもという意識をなくし保育にあたる。
	重点施策	丁寧な保育を展開するために、園内での言葉遣いを職員同士で意識し合えるような園内研修を継続して行っていく。 インクルーシブをさらに発展させていくために、保育園とつむぎの職員

		での振り返りを細かく行い、保育、支援の観点から日々のねらいを定めていき混ざり合う保育の実践を図る。
2026年度	目指す姿	インクルーシブ保育の実践により、健常児も障害児も生きる力を獲得し、のびのびと生活する園となる。また、地域でインクルーシブ保育のモデル園となる。
	重点施策	併設園の強みを生かして、保育と支援の視点からインクルーシブを実践し、地域の中で発信しながら施設見学などの受け入れをしつつ、取り組みを広めていく。
2027年度	目指す姿	他者からもインクルーシブ園として広く認められる園となる。
	重点施策	保育と支援が融合した子育て施設として、取り組みやインクルーシブのメリットを発信していく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：北千住どろんこ保育園 施設長　金子仁美

２０２５年度　一宮どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

どろんこ会の子育て理念「にんげん力育てます」に基づき自園の恵まれた環境を活かし、子どもたちの「やってみたい」を尊重し認め、「自分で考え、行動する思考を育む保育」を目指す。

・日課、基本活動の安定と充実を図ることで、子ども一人ひとりの育ちの力を伸ばしていく。
・異年齢での関わりの中で様々な体験を通して、非認知能力「目標に向かって最後までやり抜こうとする力」「周りの人と上手にコミュニケーションする力」「気持ちを上手くコントロールする力」を育むための環境を整える。
・子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境を設定すると共に、一つひとつにねらいと意図をもち、子どもたちの育ち合う姿や様々な活動を通して自己選択を積み重ね「自ら考える力」を育む。
・保育士や友達と一緒においしく食べる、楽しく食べる、食文化に触れる、クッキング体験、自分たちで栽培したものを食するなどの体験を通して食に興味を持てる子どもを育てる。子どもが自らの感覚や体験を通して自然の恵みとしての食材や食の循環を知り、調理する人への感謝の気持ちを育てる。
・土や水、火、木など自然物に積極的に触れ、子どもが主体性をもち体験できる場を整える。
・子どもや保護者の心に寄り添うために、保育者一人ひとりが豊かな心で保育する。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもが「やってみたい」遊びや活動を自ら選択できる環境の保障
	実践予定内容	・子どもの発達を理解し状況や時期、個々のねらいを鑑みながらtrial＆errorを体験できる環境を設定していく。 ・子どもの姿に合わせての環境の見直しを実施。
2	計画・ねらい	危険を排除しない安心、安全の保育
	実践予定内容	・子どもたちの発見や不思議などの興味関心を大事にしながら安心安全の園外活動を実践する。 ・スタッフの危機管理の習熟度の向上を目指すための研修実施と実践。
3	計画・ねらい	子ども一人ひとりを大切にした丁寧な保育
	実践予定内容	・見守られている・受け止めてもらえる安心感を子どもに与えることで挑戦する力育み、信頼関係を築いてく。 ・子どもを認めることで次の行動に向かう意欲を育む。 ・スタッフ間で子どもの姿を語り合い、育ちを喜び合う。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心に届く接遇
	実践予定内容	・登園時、降園時の挨拶や丁寧な対応。 ・子どもの姿や育ちを捉えた連絡帳やタイムラインの内容の充実。

2	計画・ねらい	気軽に相談できる保育園作り
	実践予定内容	・保護者から相談に柔軟で細やかな対応ができ、安心してお任せしていただける保育園となる。 ・子どもの育ちを伝え共に悩み、喜びながら子育てを支える役割を担う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育ての輪を広げていく保育園となる
	実践予定内容	・遊びの場を提供することで地域の親子同士の繋がりを作る。 ・子育て中の母親たちが共通の関心ごとや体験、悩みを共有しながら交流を深める場となる ・地域の方が参加したくなるような年間計画の立案・企画を行う。 ・活動内容のチラシの掲示と配布。HPでの公開・町役場の広報誌にて月の予定の掲載

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	チーム保育の確立と充実
	実践予定内容	・保育の方向性を定め、チームで保育に取り組む。 ・保育者同士、コミュニケーションを図り、連携の意識を高める保育の実践。 ・日々の保育の振り返りを実施、目指す保育に繋げていく。 ・それぞれの役割を明確にして保育を進めていく体制を整えていく。 ・保育士同士が支え合い高め合っていく協働的な関係をもつ。
2	計画・ねらい	園内研修にて共に学び合う
	実践予定内容	・園長大学保育士大学の視聴 ・月1回の園会議の講師となり学びを深め保育の質の向上に努める。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	堆肥を活用した畑での野菜作り
	実践予定内容	コンポストを利用し堆肥作りの実践。
2	計画・ねらい	一年を通しての食の循環を知る
	実践予定内容	田んぼの土壌作りから田植え・稲刈り・収穫・稲(藁)の再利用までのサイクルを実体験をしていく。
3	計画・ねらい	給食残差減少
	実践予定内容	給食残差を昨年比７０％に減少させていく。 日課である畑仕事や米作りを通じて食に興味を持ち、残さず食べる環境に取り組んでいく。

〈6〉子どもがまんなかの保育園

1	計画・ねらい	子どもを主人公にした保育
	実践予定内容	・丁寧で受容的で応答的な保育に努める。 ・子どもの育ちを語り一人ひとりに寄り添った保育の充実。 ・子どもの「やってみたい」を実現する環境を整える。
2	計画・ねらい	子どもが育ちを喜び合う場
	実践予定内容	・異年齢保育の充実 ・様々な活動を体験することで、相手の良さに気づく。
3	計画・ねらい	すべての子どもを全保育者で見る
	実践予定内容	・子どもの姿を多面的に見守り、連携を図りながら保育に努める。 ・子ども一人ひとりを理解し、寄り添いながら、安心して過ごせる環境を整える。 ・子どもの行動の背景を理解、主体性を尊重していく。

〈7〉魅力のある保育園

1	計画・ねらい	清潔感のある保育園
	実践予定内容	園舎内外の環境整備と清掃の実施により美観を保つ。
2	計画・ねらい	子どもの育ちの見える保育園
	実践予定内容	親子で楽しめる保護者参加行事の充実。 子どもの姿が見えるタイムライン・ブログ・連絡帳の充実。
3	計画・ねらい	素敵な先生のいる保育園
	実践予定内容	子どもや保護者の心に寄り添う保育者を目指す。 豊かな心で保育に努める。 安心して相談できる保護者との関係性を築く。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
１２人	２４人	２４人	３６人	３７人	３７人	１７０人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	18人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	4人	補助	0人	調理	1人	事務	1人

3.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修（ロールプレイ含）事故防止委員会行事進捗会議報告
給食運営会議	月1回	アレルギー対策給食残量報告　給食の様子共有
事故防止委員会	月1回	当月の事故振り返り　ヒヤリハット　インシデシト
ケース会議	月1回	要支援児の様子　個別支援計画の振り返り
クラス担任会議	担任週1回	子どもの様子について情報共有　日々の怪我報告
行事・係担当会議	週1回	行事計画　共有振り返り

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	本社より、運営についての確認事項の共有
施設長勉強会	月1回	各園の施設長による学び
食育会議	年4回	各園の取り組み発表と課題の検討
保健会議	年4回	各園の取り組み発表と課題の検討
主任会議	年4回	スキルアップ研修 各園の取り組み発表
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のエピソード・記録の共有・学び

〈5〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育園の衛生全般の管理　毎日の点検・改善
安全対策係	安全報告　安全管理対策
防火管理者	安全報告　安全管理対策
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する義務
畑係	田んぼ畑の環境整備　栽培物の管理・土作り・コンポスト管理
生き物係	生き物飼育　小屋衛生管理　エサ管理

〈6〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭り計画・実施。どろんこサポーターズとの連携。

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・睡眠と哺乳を中心とする生活リズムの安定を図る。 ・泣きや喃語に対してその都度あたたかく適切に関わることで人に何かを伝えようとする気持ちや相手に対する信頼感の基礎を培う。 ・身近な大人との間に愛着関係を築く基礎を作っていく。 ・走る、跳ぶ、登る、降りる等の全身運動を楽しめる環境を整える。 ・遊びのイメージを豊かに広げながら周囲の人たちとの言葉のやり取りを楽しめるようにする。 ・自我の育ちや自己主張を受け止め自信を深めるとともに気持ちを止めることやしてはいけないこと等も少しずつ体験する。
	下半期 0～1歳児	・移動の開始によって探索活動をすることで周囲への環境への関心を広げていく。 ・身近な大人が子どもの状態に応じて語りかけたり、やり取りを楽しんだりする経験を通じて、言葉によるコミュニケーションの土台を培う。 ・「自分でしたい」という子どもの思いを受け止め、できることを自分でするという経験を大切にする。
幼児保育	上半期	・異年齢児が一緒に遊ぶ姿を見守り、時には保育者も加わって一緒に

	3～5歳児	体を動かして遊ぶ楽しさを伝えていく。 ・相手を思いやることや言葉の掛け方を援助し一緒にいると楽しいという気持ちを共感していく。
	下半期 2～5歳児	・年下の子どもが年上の子どもに教えてもらうなどの関りを見守り、必要に応じて保育者が仲立ちをしていく。 ・異年齢で関わる中で、遊びが継続できるよう見守ったり、保育者が手助けしたり、遊びの中で関わりが深まるようにする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	おなかがすく子どもを育てる
	実践予定内容	日中よく体を動かすことでおなかがすくリズムを作る。 園外活動の充実。長距離散歩の実施。70メートルの縁側の雑巾がけ実践。
2	計画・ねらい	食べることに関心をもつ
	実践予定内容	自分たちで育てたものをクッキングとして友達と一緒においしく食べる。 自分たちで盛り付け、配膳をするバイキング形式の実施。 食べ物を話題に楽しく食べる。
3	計画・ねらい	食べ物の大切さと感謝をもつ
	実践予定内容	自園のコンポストを活用し食の循環を知る。 自園田んぼでの米作り。日課の野菜作り。 自然の恵みや命の大切さを知る。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導　手洗い指導　性教育
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 4・5月頃･･･水痘・流行性耳下腺炎・はしか 7・8月頃･･･プール熱・クループ・手足口病 12・1・2月頃･･･インフルエンザ・感染性胃腸炎・溶連菌感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･4名より預かり済み／職員室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現27名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については4月11日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在27名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については4月11日までに受講予定
その他保健に関する取組	職員の出勤時の検温・うがい・手指消毒の励行 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日

	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6月・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	遊びたくなる環境
	実践予定内容	・子どもの興味関心に合わせた見通しをもった環境作り。 ・年齢や発達を理解した環境作り。 ・子どもたちと一緒に環境を作っていく。 ・子どもが自ら選択できるような遊びの設定。 ・材料、道具などの充実。 ・作品展示、掲示の工夫。安全な道具の使い方の共有。・
2	計画・ねらい	落ち着ける環境
	実践予定内容	子どもがクールダウンできるような場の確保。 安心してくつろげる場の設定。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	木製ベンチ	園庭	毎日
2	焚火コーナー	園庭	毎日
3	火起こしコーナー	田んぼ	毎日
4	ままごとカウンター	幼児保育室	毎日
5	ドレッサー	幼児保育室	毎日

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月1回の避難訓練実施　年2回の総合避難訓練実施
2	実践予定内容	年2回の不審者侵入訓練実施
3	実践予定内容	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿について、事故の検証・事故防止策について事故防止委員会にて会議の実施
4	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と周知
5	実践予定内容	園独自のルールの実践
6	実践予定内容	園内研修・実践により職員の危機意識の習熟度の向上

６.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育養成校学生の実習生や小中高生職場体験、学生ボランティアなど　の受け入れを行う。・子どもたちとの触れ合いや職員とのかかわりの中で保育園が学びの場となるように、育成に取り組み就職への意欲を高めるとともに、人材確保にもつなげていく。・職場体験において、地域交流も含め保育士の職業としての魅力を伝えていく。

1	実践予定内容	実習生の受け入れ
2	実践予定内容	中高生の職場体験・家庭科授業　小学生職場見学
3	実践予定内容	ボランティアの学生受け入れ

７.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育とはⅠ ③ ケガケーススタディ研修 ④ 今年度の保育について	・チーム力の意識向上を目指す ・怪我対応フロー共有 ・方向性を揃える
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②　日課について深める ③ 保育士の引き出しを作る	・安心安全のための危機意識の向上 ・日課の充実の確認 ・子どもへの関わり方を学ぶ
6月20日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム	・さくらさくらんぼリズム体操の指導についての確認・周知

		体操実践研修 ③労働について学ぶ	・畑仕事、生き物の世話について知識を深める
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の引き出しを増やす	・手遊び　集団遊びなどを学び実践に繋げる
8月22日	18:00～20:00	②　コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保護者対応とは	・理解の共有と保育実践へ繋げる ・保護者対応の困りごとについてデイスカッション
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学時前保育とは	・就学時前の保育について学ぶ ・現状の子どもの様子から実践へ繋げていく
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育とはⅡ	・保育園の現状を振り返りチーム力の向上目指す
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブとは ② 保育環境とは	・インクルーシブについて学ぶ ・子どもの姿から環境を考え設定し繋げる
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園外保育/園内職員配置ロープレ研修Ⅱ ③　主体性とは	・主体性について学ぶ ・ダメと言わない保育について学ぶ ・安心安全のための危機意識の向上 ・
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②　保育の振り返りと次年度の方向性	・今年度の保育についてのディスカッションする ・進級・就学に向けての丁寧な保育についての確認・周知
2月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	・次年度に向けて
3月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	・次年度に向けて

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～9月30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもにとってより良い子育て環境を確保するためには保育園、家庭、地域との連携を図ることが必要である。保育園から情報を発信し交流深めることで地域に開かれた役割を担う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　目標：600名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：上市場中央公園にて　目標：50名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事への参加　高齢者施設への訪問
異年齢交流	近隣小学校との交流　青空保育
地域拠点活動	子育て相談　ちきんえっぐ

銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

小学校との接続をよりスムーズにするために小学校見学・交流会・運動会参加などを通じて交流を図る。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を方向性とし、保育を進めていく。

保育所保育要録送付・小学校教諭の保育園見学・年長児の情報共有など小学校との連携を図る。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
10月頃	一宮小学校 東浪見小学校	34名予定	運動会運動会運動会 （各小学校校庭）	子ども間交流
1月頃	一宮小学校 5年３組	2名予定	一宮小学校	職員間交流
2月頃	一宮小学校 1年1組 1年2組 1年3組	34名予定	学校見学	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

・要支援が必要な児について計画を作成する。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：9名予定）

・役割分担を決めていくことで支援の幅や可能性を広げていく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

・個別の支援計画や保育所指導要録を引き継ぐ。

・小学校教諭来園、引継ぎ実施（3月）

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：50名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：50名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　目標：120名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　目標：120名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：上市場中央公園にて開催　目標：30名
出前保育	月1回　一宮町役場保健センターにて開催　　目標：150名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年12月6日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：16時00分
自己評価終了予定時刻：17時00分
自己評価実施予定者：乳幼児担任、栄養士、各リーダー、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

異年齢での関わりの中で様々な遊びを自ら選択しtrial＆errorをくり返しながら伸び伸びと遊んでいる子どもの姿があり、地域を巻き込んだ保育を展開している。
保育士、保護者、地域と共に子どもたちの育ちを支え、見守っている。

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもの発達を理解し状況や時期を鑑みながら環境を設定していく。 保育士同士連携を図り安心安全の保育に努める。 保護者とのコミュニケーションを図り保育園への関心を深めていく。 全スタッフで子どもたちへの丁寧な保育に努める。
	振り返り	子どもの発達を理解し環境を整えることで異年齢児での関わりが多くみられるようになり、思いやりや優しい気持ちの育ちが見られた。 次年度も危機意識をもち安心安全の保育への施策の継続が必要である。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	子どもたちが異年齢の関わりの中で育ち合いが見られている。 保護者と保育園が連携を図り、共に子どもの育ちを見守っている姿がある。 安心・安全な保育園が継続している。
	重点施策	スタッフ一人ひとりが法人の理念を理解し同じ方向性をもち保育に取り組む。 子どもの興味関心に寄り添った環境を設定していく。 危機管理の習熟度の安定と継続。
２６年度	目指す姿	異年齢での関わりの中で様々な遊びを自ら選択し夢中で遊ぶ姿がある。 異年齢での遊びや活動を通して思いやりや優しい気持ちが育っている。 安心安全の信頼ある保育園となっている。 地域との交流が深まり、地域に開かれた保育園となっている。
	重点施策	子どもが自由に行き来する大きな家の中で育つ環境を大切にする。 保育士と他職種、全スタッフがチームとなり保育に努める。
２７年度	目指す姿	子ども一人ひとりが自ら考え失敗を繰り返しながら挑戦する姿がある。 友達と協力し遊びを進めていく姿がある。 地域の中で子育ての場として、中核を担う保育園となる。
	重点施策	子どもの興味関心に寄り添った環境の充実。 保育園発信の地域交流と地域行事への参加。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：一宮どろんこ保育園 施設長　矢部 幹子

２０２５年度　郡山どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

開園当初から子どもたちの生活の基礎を担う施設として、何ができるのか、何が必要なのか、子どもが求めているものは何かなどを模索し続けてきた。これまで同様、子ども一人ひとりへの丁寧な関わりを大事にしながら、質の高い保育を実践し、選ばれる園であり続けるためにはどのような取り組みが必要になるのかを模索し、以下のことに力を注ぎたいと考える。

①　子どもの「生活力」を育む

大人が子どもに伝えていかないと身につかないことを理解し、見せる、やってみる環境を整え、子どもが楽しく主体的に取り組めるようにしていく。子どもの年齢に合った発達を捉えて経験してほしい活動を計画的に取り入れていく。

②　子どもが「選択できる」環境

様々な遊びや活動を選べる環境を常に整え、子どもが自己決定できるようにする。そのために必要な空間、時間、場所などを確保しながら、心動かす取り組みを大人も一緒にしていく。その関わりの中で子どもの気づきに寄り添い、共感することで活動への意欲を高めていく。

③　食の循環と命の大切さを知る

畑仕事や生き物の世話を通して、やらなければ命が繋がっていかないことに気づく。種まき・育てる・収穫・いただくという経験の中での子どもの気づきに寄り添い、労働の大切さの意識を育む。労働を通してのお金の価値観、流通の仕組みに興味を持つ活動を子どもと一緒に考え、体験していく。

④　共に育つ

子ども一人ひとりの育ちや得意なこと、不得意なことを把握し、それぞれに合わせた発達の願いを持って関わっていく。遊びを通して協力することや他者への思いやり、諦めずに取り組むこと、挑戦する気持ちなどを育み、感情をコントロールする力を身につけていく。

スタッフは自己の成長のために必要なことを明確にし、目標を持ちながら学び続け、自らの保育力、にんげん力の向上に努める。子どもが安らぎを感じながら、わくわくする環境を整えていくことをスタッフ一人ひとりが意識し続け、主体的に動く背中を見せることで、子どもたちも動き出せるようにしていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

日々の生活の中での無駄を省き、見通しを持ったスタッフ連携を心掛け、時間を大切にする意識を持ち続ける。一人ひとりの育ちや関わりでの小さな変化などをスタッフ同士のコミュニケーションなどで共有し、様々な視点からの子どものニーズを探っていく。その中で保育内容の見直しを繰り返し、季節や子どもの興味に合わせた環境構成を意識し続け、アップデートしていく。

自己成長のために必要なことや自身の得意、不得意を把握し、周りのスタッフとの関わりの中で気づいたり、自発的に保育講座の機会に参加して学んだりすることで保育の質の向上に努めていく。自らの学びをアウトプットしていくことで、園全体の質の向上に繋げていく。

1	計画・ねらい	スタッフ同士のコミュニケーションの中で、子どもの興味関心を共有し、保育に活かしていく。
	実践予定内容	様々な視点から子どものニーズを探るために雑談、コミュニケーションを通しての会話、フロア会議にて子どもの興味関心を共有し、今後の保育環境や子どもの関わり方に活かしていく。
2	計画・ねらい	園長大学®保育士大学講座を視聴しながら、自分の強みを強化し、弱みを強みに変えていく。園会議での視聴も取り入れ、学びの機会を設ける。
	実践予定内容	興味を持った講座から積極的に参加し、学びをアウトプットしていく。すぐに保育に取り入れられることはすぐに実践し、自分のものにしていく。 園の課題と感じることを全体で視聴し、共に学び合っていく。 自らの学びやスキルを園会議でアウトプットしていく機会にする。
3	計画・ねらい	エピソードを作成することで、自らの気づきや子どもの育ち、心の動きの読み取りを深める。
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりがエピソードを作成することで、自身の保育の視点を振り返る機会になるようにする。繰り返し作成していくことで保護者への発信と自らの学びへ繋げていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

子どもを安心して預けられるように保護者とのコミュニケーションを大切にし、保護者一人ひとりの思いに寄り添い、ニーズに合わせた対応を心掛ける。そのために一人ひとりの発達を捉え、家庭状況を把握し、対応を合わせて丁寧に関わっていく。

1	計画・ねらい	家庭での様子を把握し、園での様子や育ちを共有していくことで成長を共に喜び合い、信頼関係を築いていく。
	実践予定内容	お迎え3分間対応、保護者懇談会、個別懇談、保護者との日々のコミュニケーションを通して丁寧に関わる。
2	計画・ねらい	日々の関わりの中で保護者の変化を読み取り、言葉をかけて子育てなどでの困り感を和らげる。
	実践予定内容	子どもの成長を伝えていく中で、保護者の思いに寄り添いながら子育ての困り感などの相談に応じ、今後の子育てについて一緒に考える。 必要に応じて医療機関や訪問支援に繋げる。

〈3〉地域の子育て支援事業

「ちきんえっぐ」の活動に関心を持ってもらいながら子育て世代との交流を充実させ、地域子育ての拠点としての役割を果たしていく。地域の方が参加できる園行事についてよりくわしく発信し、地域交流を深める。

1	計画・ねらい	「ちきんえっぐ」のおたよりを公共機関に設置し、興味を持ってもらうことで参加人数を増やす。
	実践予定内容	季節に合わせた自然学校、自然体験、芸術学校などの活動内容を具体的に発信する。
2	計画・ねらい	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める。

	実践予定内容	どろんこまつり、季節のマルシェを計画し、公共機関や園の入り口にポスターなどを掲示して知らせることで参加を促す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

保育の中での気づきや思いを共有し、それぞれの保育感を話し合うことで気づきの視点を育む。スタッフ一人ひとりが自分の弱みと強みを理解した上で、補う努力と強化していくことを意識し、学び合うことを継続していく。リーダー層は自身の理解と周囲スタッフの理解をする。困りごとに直面した時には解決方法の仕方を一緒に考えたり、バックアップしたりしていくことで安心感を持って保育できるように配慮し、一人ひとりのスキルアップに繋げる。

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが自身を理解することで目標を持ち、具体的な取り組みを明確にする。
	実践予定内容	普段のコミュニケーションの中で、自身が気づいていない強みを褒めることで自己肯定感を高めていき、今後の目標を明確にして取り組み方や方向性を考える。
2	計画・ねらい	常日頃から園長大学Ⓡ保育士大学の講座内容を確認することを意識し、興味を持った講座を自ら視聴して学び続ける。
	実践予定内容	スタッフは情報を共有することで、仲間を巻き込みながら共に学び合う意識を持ち続ける。年に一度は自らの学びを園会議で発信していくことで学びを自分のものにし、保育の質を高めていく。園会議では共に学びにしたい講座を視聴し、今後の保育へ活かす。
3	計画・ねらい	リーダーとしての視点や関わり方を確認し合い、チームとしての連携を大切にする。
	実践予定内容	施設長、主任、リーダーはスタッフ一人ひとりのモチベーションを探り、自分の気づきを具体的に伝えたり、関わり方などをアドバイスしたりすることで信頼関係を築く。

〈5〉環境実施目標

畑仕事を子どもと一緒に取り組み、種まき、育てる、収穫、いただくという体験の中での子どもの気づきに寄り添い「なぜ？」「どうして？」「やってみたい」という気持ちを育む。労働を通して流通の仕組みに興味が持てるように関わり、活動を子どもと一緒に考えていきながら、お金の価値観に気づけるようにする。

1	計画・ねらい	毎日畑仕事に取り組む中でその時に必要なことを判断し、自ら行動する。
	実践予定内容	野菜の成長を見守り、畑の状態や季節によって何をしたら良いのかを考えて取り組み、野菜が成長して収穫に至る喜びを感じながら、いただくことへの感謝の気持ちを持つ。
2	計画・ねらい	労働を通して、流通やお金のやり取りに興味を持つ。
	実践予定内容	遊びの経験から、販売に興味が出てきたタイミングを逃さず、流通やお金の価値観に気づけるような活動を子どもと一緒に考える。

〈6〉子どもも大人もチャレンジし続ける

子どもたちの活動の中での気づき、対話、試す、失敗などの学びのプロセス大事にした保育を目指す。子どもの興味、関心を丁寧に捉えて、大人が一緒に楽しみながら関わることで保育が連続していくことを実感する。

1	計画・ねらい	日々の関わりから、子ども一人ひとりの興味、関心を探る。
	実践予定内容	日々、スタッフでコミュニケーションを取っていく中で、子どもの成長、気づき、興味関心を共有する。その中で今後の関わり方や保育準備をチームで探り実践していく。 保育を準備していく中で、大人自身がわくわくする活動を考え、子ども自身がわくわくするためにはどのように環境を整えていくかなど内容を考える。
2	計画・ねらい	子どもの年齢や発達に合った経験してほしい活動の願いを持って用意する。
	実践予定内容	大人が用意しなければ経験できないことを理解し、経験できる場所、時間を確保しながら、大人が一緒に取り組み心動かす。活動を見せる、一緒にやってみる環境を整え、子どもとTrial＆Errorを楽しむ。活動の中での子どもの気づきを大事にすることで、活動への意欲を高める。

〈7〉本物の体験を大事にする

子どもの発達を捉え、子どもができる本物の体験を保育の中にたくさん取り入れる。生活の中で五感を使って様々なことを感じ取っていることを理解し、子どもたちの「やってみたい」気持ちを大事にしながら見守っていく。スタッフも「やってみよう」という気持ちを発信し、子どもと一緒に楽しむ。体験を通して得られる感覚に寄り添うことで、次への活動の意欲を高め、様々な経験を積み重ねていけるようにする。

1	計画・ねらい	子どもが五感を使いながら、感じてほしい体験を保育の中に取り入れる。
	実践予定内容	季節の変化によって体験できる活動を理解し、子どもたちが主体的に関われるようにする。 五感を働かせて感じた子どもたちの言葉に寄り添い、様々な活動へ積極的に関わろうとする気持ちを育む。
2	計画・ねらい	子どもに体験してほしい活動やねらいを明確にし、関わりの中で子どもの挑戦する気持ちを大事にする。
	実践予定内容	活動によっては、大人が背中を見せなければできない活動もあるので、その中で子どもたちが出来ることを探りながら関わり、体験に繋げる。 体験してほしい活動のねらいを明確にすることで、子どもたちが自ら動き出し、主体的に活動できるようにサポートする。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	15人	15人	15人	15人	78人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	2人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人				

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー・研修計画に基づき研修
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・研修
ケース会議	月1回	子どもの困りごとの明確化と対応
学年会議	随時	月・ねらいの確認・子どもの様子報告等
フロア会議	随時	フロアでの共有事項・連携確認

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題解決・連絡
施設長勉強会	月1回	意見交換をする中で学び合う
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催する
保健会議	年4回	グループ全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催する
主任会議	月1回	意見交換をする中で学び、主任としての立ち位置を確認しながら、自園の保育を振り返り活かす
子育ての質を上げる会議	月1回	意見交換をする中で学び、明日への保育へ活かす

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	環境・衛生に関する事項の計画、実施
安全対策係	けが防止・危機管理マニュアル参照・施設内の設備点検
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生責任者	衛生点検・給食提供マニュアル参照・提供食材の衛生管理
畑係	年間計画に基づく畑管理
生き物係	ヤギの管理・環境整備

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域との交流を図り、郡山どろんこ保育園の保育の理解を深める
クリスマスマルシェ	地域との交流を図り、郡山どろんこ保育園の保育の理解を深める

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人ひとりを愛情豊かに受容して生理的欲求を満たし、安心して過ごせるようにする。 ・自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守りながら応答的な関わりを大切にする。
	下半期 0～1歳児	・身近な人に親しみを持って接し、自分の感情を表現して受け止めてもらう経験を通して、言葉の習得を促す。 ・身近な環境に興味や好奇心を持って関わり、感性を豊かにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・友だちと関わりながら集団的な遊びや協同的な活動が楽しめる場を作り、協調性や自主性を育んでいく。 ・友だちとの関わりの中で、心を動かされるような体験を通し、思いを伝え合うことの喜びを味わう。
	下半期 2～5歳児	・様々な体験を通し、試行錯誤しながらも諦めずに取り組み、達成感を味わう。 ・友だちと共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりすることの大切さを経験する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・2025年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

自然の風を感じ、縁側で気持ちよく食べることを大事にし、家庭的なあたたかい雰囲気の中で、友だちや身近な大人と一緒に楽しく食べられるようにする。
「くう」「ねる」「あそぶ」のサイクルの中で、食への意欲が育つよう各家庭と連携を取っていく。
畑仕事の「蒔く」「育てる」「収穫する」の経験を通して、世話をしなければならないことに気づき、食材への感謝の気持ちを育む。野菜の加工体験を通して、食材が形を変えながらも日本の食文化を支えてきたことを知る。

1	計画・ねらい	調えられた空間で心地よく食べられるよう連携し、チームで取り組む。
	実践予定内容	食事の場所には必要なものが揃えられ、気持ちの良い空間で楽しみながら食事ができるようにする。 調理を担当する者は、子どもが「美味しそう」と思えるようなきれいな盛り付けを心掛ける。 食べ物への興味を誘う言葉かけや子どもの気づきの言葉を大事にすることを心掛けることで、子どもの食への関心を育む。
2	計画・ねらい	体をたくさん動かして、お腹が空いて食に向かうリズムを大切にする。
	実践予定内容	午前活動で体をたくさん動かすことを意識し、「あそぶ」「たべる」「ねる」のリズムを整える。 園での様子を家庭と共有し「あそぶ」「たべる」「ねる」のサイクルの大切さを伝える。
3	計画・ねらい	野菜を「蒔く」「育てる」「収穫する」までに必要なことに気づき、畑仕事の大切さを実感する。
	実践予定内容	季節によって変化する畑の状態から、必要な仕事を一緒に考えながら取り組む。その中で世話をする必要性に気づけるように関わる。 野菜の加工体験では、昔の知恵や工夫に気づけるような関りを心掛け、日本の食文化に興味が持てるようにする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃･･･インフルエンザ 2月頃･･･ウイルス性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては3月19日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED設置なし

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

安全で活動しやすい環境を整え、その中で一人ひとりが安心して過ごし、探索活動ができる場を大切にする。子どもが安心して遊び込める場・空間・時間を保障し、子ども主体での活動を大事にしていく。子どもの興味・関心を探り、「やってみたい」と感じて活動を選択できるような環境を構築していく。

子ども自身が取り出しやすい、片付けやすいように保育室の整理整頓を心掛け、清掃・消毒・換気を丁寧に行うことで、安全に過ごせるようにする。

1	計画・ねらい	子どもの興味・関心を探り、スタッフ同士で連携を取りながら子どもの活動を把握する。
	実践予定内容	学年で区切ることなく、大きな家の一人として子どもの主体性を大事にし、マインドマップなどで子どもの興味・関心を探っていく。その中で必要な環境をチームで考え、試行錯誤しながら連携していく。
2	計画・ねらい	環境構成では集団での空間、個の空間を大事にしながら構成する。
	実践予定内容	遊びに応じて安心して遊び込めるような場を確保し、個の空間を確保することで、一人ひとりの活動を大事にする。
3	計画・ねらい	整えられた空間で過ごし、子どもたちにも整える習慣が身につき安心して過ごす。
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが整理整頓を心掛けることで、子どもたち自身が物を大事にする気持ちを育む。取り出しやすさ、片付けやすさを考える。 清潔な場で過ごす心地よさを感じ、安心して過ごす。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	幼児フロア	月に1回
2	木製スロープ	乳児室前の縁側	使用前に都度
3	木製トンネル	乳児室	使用前に都度
4	木製テーブル	幼児室・玄関	月に1回
5	焚火ベンチ	園庭	月に1回
6	竹馬台	園庭	月に1回
7	泥場の枠組	園庭	使用前に都度
8	L字サークル	幼児室	使用前に都度
9	ドレッサー	幼児室	使用前に都度
10	名札台	玄関	月に1回
11	やぎ小屋	園庭	都度
12	やぎ小屋柵	園庭	都度

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災難に備える。マニュアルの徹底。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト年４回、設備点検年4回を行い、事故防止の徹底を図る。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント、ヒヤリハット報告の分析をする。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探る。
4	実践予定内容	年２回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者侵入訓練を実施する。 また訓練は避難訓練確保、不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象とする。

６.実習生・中高生の受入

地域の中学校・高校の職場体験を受け入れ、地域に貢献していく。子どもとの触れ合いから様々なことを感じてもらえるようにする。
実習生を積極的に受け入れ、次世代の人材育成に力を入れていく。実習生が保育の仕事にやりがいを見出し、希望が持てるよう丁寧に対応しながら取り組めるようにしていく。実習生の将来の考えを聞き取り、受け止めながら実現できるような提案をしたり、アドバイスをしたりすることで就職に繋げていく。

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生を積極的に受け入れ、郡山どろんこ保育園の実習経験者からどろんこ会の保育に興味を持ち、入社希望者を増やしていく。

1	実践予定内容	オリエンテーションでは緊張をほぐしながら、実習の見通しが持てるようなスケジュールなども明確にする。
2	実践予定内容	実習生と日々の丁寧な振り返りをする。その中で、実習生の気づきなどを認め、自信に繋げる。
3	実践予定内容	コミュニケーションを取りながら、どろんこ会の保育へ興味を持ち、保育の楽しさが伝わるように関わる。
4	実践予定内容	子どもの姿から保育の楽しさが伝わるようなコミュニケーションの時間を設ける。実習生の気づきを大事にし、認めることで自信に繋げる。

７.スタッフ育成と研修計画

保育に携わるスタッフは必要な知識や保育力を身につけ、質を高めていく必要がある。人権に配慮した保育を行うためには、その倫理観や人間性も大事である。日々の保育の振り返りを習慣化し、今後の保育に必要な環境を考えたり、計画を立てたり環境を整えていく意識が求められる。

専門性を高めるためのキャリアアップ研修、外部研修、園長大学®・保育士大学講座に積極的に参加し、個々の学びを園内研修に繋げていくことで保育の質向上を図る。研修で学んだことを共有することで、自らの学びを確実なものにし、仲間と学び合う環境を作っていく。

〈1〉2025年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇、保護者対応 ③ 怪我ケーススタディ研修 ④ リスクマネジメント研修 ⑤ 人権チェック・虐待防止研修	コンピテンシーの振り返り 保護者対応で大事なこと、3分間対応でのポイント
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保育とは ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 丁寧な保育の理解と実践例
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの安全管理 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 水遊びの危機管理の共通理解 園長大学®保育士大学動画視聴
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの本物の体験 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 子どもができる本物の体験を考える 就学を視野に入れての保護者連携
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの主体性の理解 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 子どもが主体的に活動するために必要な関わり方を考える
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校接続を考える ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 園長大学®保育士大学の動画から接続の在り方について考える
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの表現について ③ リスクマネジメント研修 ④ 人権チェック・虐待防止研修	コンピテンシーの振り返り 子どもの表現の在り方についての確認　大人主導とは・・
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 気になる子への関わり方 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 子ども理解と関わり方を考える 全体研修動画視聴
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	コンピテンシーの振り返り

		② 感染症対策 ③ リスクマネジメント研修	感染症の理解と対策の共有
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 1年間の振り返り ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 個人と学年、フロアでの振り返り
2月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第1回策定会議 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り
3月1日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第2回策定会議 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。
2～3月実施の「外部研修受講アンケート」に基づき、施設長および運営部が推薦する

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた温かさが感じられる保育園であるために、子育て支援を行い子どもの健やかな成長を保障できるように取り組む。
地域の方が自由に園を利用していただきながら園運営の理解を深め、地域の方の見守っていただける保育園となる。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年１回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	月１回　　公園名：開成山公園にて　　集客目標：30名
商店街ツアー	週１回
世代間交流	老人施設訪問（桑野ディサービス）
異年齢交流	青空保育・保育参加・体験活動参加・小学校交流
地域拠点活動	保育体験・園庭解放

９.小学校との連携の計画

就学を見据え、必要な経験や身につけておきたいことを把握するために、小学校見学や教スタッフの交流を計画的に実施する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し、「5歳児と１年生の年間連携計画」に沿った保育を逆算しながら展開していく。地域の幼保小連携推進事業へ積極的に参加し、他園や小学校との情報交換をすることで、就学を見据えて必要なことを考えていく。小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録の送付、児童情報の申し送りや面談、園への見学を実施する。

〈１〉今年度方針・テーマ

近隣小学校の情報を収集し、行事などへの参加または見学可能な活動へ積極的に働きかけていく。
教スタッフとの情報交換を行うことで、小学校への接続をスムーズにしていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	開成小学校	28名予定	運動会練習の見学	子ども間交流
6月頃	にこにこ子ども館	１名予定	幼保小連携推進事業	スタッフ間交流

6月頃	大成小学校	13名予定	授業参観	子ども間交流
9月頃	開成小学校	13名予定	授業参観	子ども・スタッフ間交流
10月頃	にこにこ子ども館	2名予定	幼保小連携推進事業	スタッフ間交流
11月頃	就学予定小学校		情報伝達	スタッフ間交流
2月頃	開成小学校	13名予定	小学校見学	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

要支援児がいる場合は、一人ひとりの様子に合わせて年間・半期ごとに計画を作成する。関わっていく中で毎月ケース会議を行い、見直しをしながら丁寧な支援や手立てを考えていく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：8名予定）
要支援児の過ごす保育室によって、担任だけではなくチームとして話し合い、関わりを検討していく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

今までの支援計画に基づく関わり、ケース会議の資料を使いながら丁寧な引継ぎを行う。
小学校へは保育所保育児童要録の申し送りの他に細やかな面談を実施し、丁寧な引継ぎを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：30名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：5名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：開成山公園にて開催　集客目標：30名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年７月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：16時00分
自己評価終了予定時刻：17時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

子どもの興味関心、発達に合わせた環境を整え、大人も子どもも含めた一人ひとりが楽しんで取り組めるように配慮し、子どもたちの意欲を高めていく。スタッフは保育の中でのPDCAサイクルを身につけ、子どもの姿を伝え合うコミュニケーションを意識していくことでチーム保育を確立していく。Trial＆Errorを繰り返すことで、子どもの非認知能力を高め、未来を生き抜く力を育む。大人も子どもも生活の中での本物の体験を大事にし、気づきと学びを繰り返すことでそれぞれの生活力を高めていく。

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもの興味関心をマインドマップなど使いながら探り、年齢や発達に合わせた環境を常に考え、フロア全体で子どもに必要な環境を試行錯誤しながら構築する。 専門性を高めるために何が必要かを意識し、自身での学びに繋げていく。その学びを園内で共有していくことで、園全体の向上に繋げ、学びへの意欲を高める。
	振り返り	子どもの遊びの変化に気づき、今は何に興味があるのかをマインドマップを使って探り、スタッフ間で共有しながら環境の再構成を行う姿がたくさん見られた。スタッフ自ら気づき「やってみようか」と試行錯誤しながら再構成していく姿は、それぞれの質の向上に繋がっていたと感じる。 子ども一人ひとりの発達に合った関わりで迷ったり、悩んだりすることがあるため、発達の理解とその子に合った関わり方のスキルを身につけなければならないと考える。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	目の前の子どもの姿に対し臨機応変な関わりを心掛け、子どもの思いを読み取れる眼を確かなものにしていく。 PDCAサイクルの意識が定着し、スタッフ同士で保育の提案をし合っている。
	重点施策	昨年と同じで良いという考えではなく、目の前の子どもたちに必要なことや思いに気づく眼を養うために、スタッフ間で気づきを共有して提案し続ける。本物の体験を通しての子どもの気づき学びを大事にする。 子どもの学びの姿を捉え、大人も共に学び続けPDCAサイクルの意識で保育を見直して対応する。
2026年度	目指す姿	子どもの主体性を育むために必要な環境をスタッフ一人ひとりが考え、興味や発達に合わせた環境の再構成を繰り返していく。 子どもたちのTrial＆Errorの姿を大事にし、自立心を育んでいる。
	重点施策	子どもが自ら活動を選択し、主体的に動き出せるような環境を探り、マインドマップなどを使いながらチームで考えていく。子どもの発達と安全性から判断して必要最低限に援助を留める。 「やってみたい」「できた」の経験を重ねていくことで自己肯定感を高める。
2027年度	目指す姿	子どもの年齢に合わせた育ちの願いを明確に持ち、見通しを持った保育計画の中で、子どもの興味関心を捉えながら環境を再構成し続ける。 子ども一人ひとりの発達を理解し、その子に合わせたかかわり方を考えながら育ちを保障する。
	重点施策	子どもの年齢に合った必要と思われる経験を理解しながら、保育の中で計画性を持ち、その時々の子どもの興味関心を探り、環境の中に取り入れていく。子どもが自分で選び、体験できるように配慮する。 子ども一人ひとりの育ちを理解し、スタッフ間で共有していくことで、その子に合った関わりをし、一人ひとりの育ちを保障していく。保護者と育ちを共有していくことで、共に育て合うということを大事にする。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：郡山どろんこ保育園 施設長　佐藤　陽子

２０２５年度　学園の森どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

開園７年目を迎える学園の森どろんこ保育園は、住宅地・工業団地・田園の間に位置している。市中心部から離れているが、７年間の地域との関わりを積み重ね、昔ながらの住民の方々にも受け入れられ、交流を深めてきた。今年度は地域の方々とともに、ゴミ拾い活動などを行い、より深い交流を図りたいと考えている。

少子化や市内保育施設の増加に伴い、保護者様が保育園を選ぶ時代となり、学園の森どろんこ保育園を取り巻く環境も厳しくなってきている。保護者様のニーズや運営本部のMission２０２５を踏まえ、選ばれる園となるために以下の点に注視して運営を進めていく。

【メインテーマ】原点回帰～毎日の時間を大切にし、人格形成の基本を確実かつ丁寧に～

① 共主体に育ちあう

子どもたちのやりたい気持ちと保育士が育てたいと願う気持ちが共存し、互いに学び合い、共に成長し合えるようにする。

まずは共に主体性を育むために開かれた環境づくり、自己肯定感を高めるために肯定的なフィードバックを積極的に取り入れる。また、自己選択の機会を与えその中で問題解決の機会を通じて責任感や自己効力感を育んでいく。

② 生活力の体得

子どもたちが自ら考え自らの足で歩むために昨年度から継続してサークル活動を行い、自分の言葉で思いを伝え相手の声に耳を傾け、問題解決の過程で葛藤し折り合いをつける力を身につけていく。

さまざまな体験活動を通して、自分の得意不得意を知り危険なものとの適切な距離感を学ぶ機会を設ける

③ 食の循環「いただきます」の意味を知る

畑仕事を通じて試行錯誤しながら作物を育て、収穫したものを食べ、食べられない部分を堆肥にして再び畑に戻すという一連の循環を、大人も子どもも実際の経験を通して学ぶ。

普段口にしている食べ物が命あるものであり、その命をいただくことで自分たちが生かされていることを理解し、命の循環を実感しながら感謝の気持ちを育む。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育品質マニュアルの私たちが育てる６つの力の理解を深める 基本活動の見直し
	実践予定内容	運営本部Missionを基に子どもたちに必要な経験、にんげん力を育む意味を一人ひとりが正しく理解し、保育の質の向上に努める
2	計画・ねらい	年齢や障害の有無に捉われず、自分のやりたいことを自己選択し活動できる保育環境を整える。
	実践予定内容	・インクルーシブ保育の実践の日常化を図るため、子どもたちの育ちを共有する。 ・ドキュメント作成を継続することで、スタッフ一人ひとりの子どもを見る目を養う。職員間で共有していくことで多角的に子どもの育ちを読み取

		る ・子ども自身が選択できる環境作りを継続する
3	計画・ねらい	子どもたちが安心して居心地良く過ごせる環境の中で、子どもとのやり取りを丁寧に行う
	実践予定内容	・整理整頓、いつ見ても気持ちが良い空間作り ・正しい言葉使い、丁寧な対応

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	掃除が行き届き整理整頓された気持ちの良い園の環境を常に維持する
	実践予定内容	・マンスリーコンシェルジュ制度の継続 ・環境係りが中心となり、清掃の確認を行う
2	計画・ねらい	ポートフォリオやドキュメンテーションなど園内での様子や成長が伝わる情報の発信の継続
	実践予定内容	・ドキュメンテーション等の研修を深め、感動を与えられる発信を目指す ・保護者に向けて定期的な発信
3	計画・ねらい	保護者からの発信を見逃さず、丁寧に受け止める
	実践予定内容	・3分間対応の内容を深め、子育ての楽しさや成長を共に喜び合い、支援につなげていく ・利用者アンケートのご意見を見直し、保護者様の求めている物を提供していく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域すべての子育て家庭を対象とし、ちきんえっぐを拠点とした憩いの場を提供する
	実践予定内容	・子育て情報交換 ・楽しみにできる計画や企画 ・園活動への巻き込み
2	計画・ねらい	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める
	実践予定内容	・どろんこ祭りや地区の祭り、ごみ拾いなどを計画し公共施設にポスターを掲示していく ・ごみ拾いは地域の方と行えるように共に計画を立てていく
3	計画・ねらい	ちきんえっぐ、青空保育の充実
	実践予定内容	・ちきんえっぐで行っている企画などを青空保育の際に紹介できるように、まずは青空保育の参加者増加を目指す ・子育て世帯の方が家庭では経験することが難しい日・水・土を用いた体験活動を展開していき、どろんこ会の子育て理念への理解を図る

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育の基本を確認、保育者としての資質の向上を図る
	実践予定内容	・保育所保育指針の学び

		・運営マニュアルの読み合わせを行う
2	計画・ねらい	園職員がそれぞれの専門力を高めるとともにチームとしての力を高めていく
	実践予定内容	･個人目標の設定 ･協力すれば達成できるチーム作りをする
3	計画・ねらい	各リーダーが保育園の課題を抽出し、必要な学びを発表することで保育の質の向上を目指す
	実践予定内容	・毎月1回の園会議内にて学びの研修会を行う。学び合う中で自ら調べたり、情報を共有し発表したりすることで、知識を増やし自信を持って保育に向き合えるようにする ・リーダー層が自信を持って保育、現場育成に携われるようにする
4	計画・ねらい	自分の考えを自分の言葉で発していき、園作りに率先して参加する
	実践予定内容	・大人のサークル活動を会議内で実施し、小さな集まりの中で経験差や年齢差に囚われず、発言できる場を作る。風通しの良い園作り ・失敗を恐れずに、まずは子どもたちが楽しいと思う、自分がやってみたいことをやってみる風土作り。保育者のTrial＆Error体験

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環・環境への意識を育む
	実践予定内容	・畑仕事で世話・収穫をしたものの加工 ・調理くずの有効活用をする ・生き物の糞・資材等を堆肥化し循環
2	計画・ねらい	日々の畑仕事生き物の世話に取り組む中で労働の大変さを味わい、その時々に必要なことは何か？を判断する
	実践予定内容	畑仕事生き物の世話を通して失敗を通じて大変さを知り、作物の大切さを学ぶ。成功までの過程で、友だちと協働力を育む

〈6〉職員間の協力体制、チーム保育の確立

1	計画・ねらい	風通しの良い人間関係づくりを心掛け、明るい園を目指す
	実践予定内容	・「ありがとう」感謝の気持ちを伝える ・「私がやります」自ら進んで取り組む姿勢をもつ ・園全体の協力の輪をつなげていく
2	計画・ねらい	チームの力、信頼関係を築くためのアクティビティの実施
	実践予定内容	・園内研修時に簡単なゲームを行い、人とのかかわりを考える ・互いの得手・不得手を認識し、認め合い一つのチームとして動いていく
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育の強化
	実践予定内容	・チームとして園全体をひとつの家と捉え、様々な年齢の子どもたちが共に活動できる環境をつくる ・クラス単位に捉われず、全体の中でアンテナを張り巡らせて大人も子どもも「混ざる」のその先への実践

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	15人	15人	15人	15人	15人	90人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	１人	栄養士	３人	調理員等	人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	人	調理	人	事務	1人
	用務	1人					嘱託医 歯科医	２人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園として取り組むべき課題への研修　研修報告　子どもの姿の共有
給食運営会議	月1回	食育計画の振り返り　給食内容と残渣状況
事故防止委員会	月1回	事故報告書の分析　再発防止　ヒヤリハット　インシデントの報告
ケース会議	月1回	要支援児の育ちの共有
リーダー会議	月1回	施設長、主任、リーダーによる運営に関わる共有検討
乳児・幼児会議 クラス会議	週1回	乳児クラス、幼児クラスの保育の計画と振り返り　課題の検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人による伝達事項、運営状況の報告、検討事項
施設長勉強会	月1回	園運営検討　各種マニュアルの改訂
食育会議	年4回	給食提供および食育に係る検討　各種マニュアルの改訂
保健会議	年4回	児童保健に係る検討　各種マニュアルの改訂
主任ミドル会議	月1回	園運営の核となるスキル向上　役割と運営への理解
子育ての質を上げる会議	月1回	次世代育成と現場の質の向上のためのテーマ別研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理、衛生管理に係る消耗品および備品の管理、感染症予防対策の管理点検
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理、消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施、施設内外の設備点検および事故防止点検の実施
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回の職員訓練と日常的な啓蒙を行う
食品衛生責任者	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
生き物係	飼育動物の健康管理、動物小屋の維持管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
写真係	園児の写真管理、販売用写真の選定、確認販売用および保存用写真の保護管理・選定
環境整備・備品係	園内外の環境整備状況の管理・ゾーン保育のための環境構成、備品の点検と補充
地域　厚生係	地域住民や団体などへの対外的な窓口業務管理　職員厚生に係る業務

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行う
運動会係	保護者と協働的に準備・進行を行う
生活発表会係	保護者と協働的に準備・進行を行う

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・新しい環境の中で落ち着いた雰囲気、丁寧な関りを心掛け情緒の安定を図る ・一人ひとりを受容し、生理的欲求を満たし愛着関係を築いていく ・異年齢保育で過ごす中で、子ども同士で育ちあう環境に配慮する
	下半期 0～1歳児	・応答的な関りの中で安心して探索活動をし、様々な経験を通して感性を豊かにする ・自分でやろうとする気持ちを大切にし、最後まで頑張る姿を見守り達成感を共有する ・子ども一人ひとりの発達を理解し、必要な環境を整えることで歩行の確立に繋げていく
幼児保育	上半期 3～5歳児	・安心して遊びこめる環境を確保し、日々登園に期待感を持って生活できるように配慮する。機会を排除しない保育を心掛ける ・畑や生き物の世話をすることで、自ら考え世話をすることの大変さや生長に喜びを感じ、命の尊さを知る
	下半期 2～5歳児	・友だちとの関りの中で様々な経験をし、達成感を感じ自信を持って生活する ・異年齢ならではの子ども同士の関りを見守り、小さな子への寄り添いの気持ちや大きくなることの憧れを育む ・様々な体験の中で試行錯誤しながら成功体験や失敗体験をしながらも最後までやり切る
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	共に食べる楽しさ・心地よさを味わえる食事の場作りを大切にする
	実践予定内容	・異年齢で一緒に食事をする ・空腹感を感じて意欲的に食べる ・保育者を含めての園側給食での共食を基本とし、楽しみを共に感じる
2	計画・ねらい	自ら栽培し、体験したものを食するという循環を通して、環境や命の大切さに気付く
	実践予定内容	・畑活動、堆肥作りを全スタッフと子どもが共に行う ・行事食、伝統食作り・加工品作りを体験する ・食と命のつながりを体験し、知識を得る機会を提供する
3	計画・ねらい	さまざまな素材を楽しみながら、自分で意欲的に食べることを大切にする
	実践予定内容	・手掴み食べを推奨 ・素材を味わえる状態で提供する ・食べる機能の発達を捉えた援助を行う

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（6月・11月）
歯科検診	年２回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導　早寝早起き
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃～4月頃･･･インフルエンザ 12月頃～3月頃･･･胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 オロパタジン･･･1名より預かり済み／書庫内キャビネットにて保管 ナウゼリン･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 職員への周辺のAED設置場所や操作の周知、5歳児対象に性教育指導

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが快適に過ごせるように環境を整える
	実践予定内容	・整理整頓と日々の清掃、換気や消毒を丁寧に行い、心地よさを味わえるようにする。 ・子どもの動線を考え、ゾーンを配置して身の回りのことがやりやすい環境を整えていく。
2	計画・ねらい	子どもが主体的に育つ環境を作る
	実践予定内容	安心して過ごせるゾーンや子どもたちがやりたいことが詰まった各ゾーンを充実させ、年齢に制限されることなくやりたいゾーンの往来ができるよう見守る。
3	計画・ねらい	子ども自らが選択し実践する中でそれぞれのにんげん力を育む
	実践予定内容	10より100のホンモノの経験の中から自己選択、自己決定をする 畑仕事や生き物の世話に取り組み、友だちとの話し合いや共に取り組む力を身につける

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ひな壇	幼児室	毎日
2	配膳台	幼児室	毎日
3	冷蔵庫	幼児室	毎日
4			
5			

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎

		者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・近隣地域の中高生の職場体験やボランティアの受け入れを積極的に行い、子どもたちと関わる仕事を身近に感じてもらえるようにする。

・実習生が教室ではなく現場でしか学べない経験をたくさんできるように、また保育の楽しさが味わえるように丁寧に対応を行い、人材育成に繋げていく。

1	実践予定内容	保育養成校の実習
2	実践予定内容	中高生の体験学習
3	実践予定内容	一般ボランティア、各種学生の受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月８日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ ケガのケーススタディ ④ 接遇･保護者対応	・コンピテンシー自己採点 ・園長大学®視聴 「初めての人権」 ・3分間対応の極意をシミュレーション
5月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの主体性 ③ 園内研修	・コンピテンシー自己採点 ・園長大学®視聴 「保育を嫌いになりそうになった時の処方箋」 ・リーダーによる研修
6月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント ③ 園内研修	・コンピテンシー自己採点 ・園長大学®視聴 「実践動画水遊び」「STOP‼水難事故」

			・リーダーによる研修
7月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育 ③ 園内研修	・コンピテンシー自己採点 ・園長大学®視聴 「実践から学ぶインクルーシブ保育」 ・リーダーによる研修
8月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 原点回帰　6つの力について考える ③ 園内研修	・コンピテンシー自己採点 ・グループワーク ・リーダーによる研修
9月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 原点回帰　6つの力について考える② ③ 園内研修	・コンピテンシー自己採点 ・グループワーク ・リーダーによる研修
10月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 小学校に向けて大事にしたい育ち ④ 園内研修	・コンピテンシー自己採点 ・園長大学®視聴 「乳幼児期に大切に育みたいちからとは？」 ・リーダーによる研修
11月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修動画視聴	・コンピテンシー自己採点 ・全体研修視聴
12月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所児童要録 ③ 園内研修	・コンピテンシー自己採点 ・園長大学®視聴 「保育所児童要録が書けるようになる動画」 ・リーダーによる研修
1月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標の振り返り ③ 園内研修	・コンピテンシー自己採点 ・グループワーク ・リーダーによる研修
2月10日	18:00～21:00	① 今年度の振り返り ② 次年度に向けて	策定会議1
3月1日	9:00～18:00	① 次年度に向けて ② 畝作り研修 ③プロポーザル発表	策定会議2

エリア研修予算内訳　救急救命講習（つくばどろんこ保育園・万博公園どろんこ保育園・学園の森どろんこ保育園・守谷どろんこ保育園・香取台どろんこ保育園・アイビー保育園・ほしのこ保育園・おひさま保育園合同開催）

救急救命講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	会場	総予算	按分予算
6月14日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円
6月21日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

保育課程における園目標の「人との関わりの中で健やかに育つ」にある通り、積極的に園外に出かける。その中で地域の方々との連携を図り、保育園の活動を地域に広めることを目指す。

地域のイベントに参加したり、地域の方が保育園を自由に訪れたりするなど保育園全体でのコミュニケーションを図っていく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：BLANDE広場にて　　集客目標：60名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	乳幼児の様子に合わせ、高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援センター来所利用親子との交流を計画し、日常の保育活動の中で積極的に交流を行う。 小中高生の職場体験や幅広い年齢層のボランティア受け入れを随時行う。
異年齢交流	主に3～5歳児は日常的に異年齢保育を行い、生活の中での関わり合いが深められるよう工夫する。 0～2歳児は子どもの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、幼児や様々な人との関わりが充実するよう配慮する。 学園の森義務教育小学校訪問（近隣小学校）他園交流 異年齢保育
地域拠点活動	園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との協同によるどろんこ祭りの開催を行う。 ちきんえっぐにて園庭開放や給食体験など地域の方に利用していた

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議し進めていく

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	学園の森義務教育学校・研究学園小学校	2名予定	幼保小連携年間計画	職員間交流
４月頃	研究学園小学校 1年生	2名予定	授業参観	職員間交流
6月頃	学園の森義務教育学校	2名予定	運動会招待見学	子ども間交流
7月頃	研究学園小学校	2～3名	保育園見学	職員間交流
12月頃	研究学園小学校	2名予定	授業参観	子ども間交流
12月頃	つくば市	1名予定	幼児教育と小学校の連携・接続のための研修会（ｚｏｏｍ参加）	職員間交流
3月頃	研究学園小学校	2名予定	学級編成資料・自動要録提出、引き継ぎ面談	職員間交流
年間	学園の森義務教育学校		毎月の学校通信掲示	職員間交流 保護者支援

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

・個別支援計画を作成し、日常的な保護者対応の中で相互理解を図り、子どもの発達状況について職員間で情報共有する。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：園会議参加者）

・医療機関や専門機関による療育方針・方法を知る。

・担当者会議も必要に応じて行い、全体周知していく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

看護師や担当保育者へ丁寧な引継ぎを行う。小学校へは必要な場合保護者の同意を得て、教育委員会への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：50名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：BLANDE広場にて開催　集客目標：20名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年６月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１６時００分
自己評価終了予定時刻：１７時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子どもたちが自主的に学び、行動できる環境作り ・自分でやりたいことを見つけ学びをアウトプットする ・思ったことは声に出し、風通しのよい職員関係を築く
	振り返り	策定会議１回目に「やってみよう」「やってみたい」という声をあげられるようにしていこうと呼びかけたことで、経験年数を問わずさまざまな声があげられる体制が整えられた。その中で、子どもたちのどんな姿を育みたいのか、どんな準備や子どもへの導入が必要かを自身で考えられるようにし、試行錯誤しながらも前向きに取り組む環境作りに向けた一歩が踏み出せた。 職員間の協力体制は根付くまでには至らず、次年度も引き続き取り組んでいきたい。 子どもの主体性の礎となる、自分の意志に基づいて判断し、考えて行動するための環境は整いつつある。園会議の中で主体性や共主体について自分たちで学び、研修を行う時間を設けたことで、チームで学び、意見を出し合い環境を整えていけた。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	保育に携わる専門家として、子どもたちが自分自身や他者との関りの中で主体的に行動できる環境を整えることを目指す。 リーダー層の成長を通じて、各取り組みを強化する
	重点施策	・問題提起を現場から行えるよう、リーダー会議、乳幼児会議ではリーダー層がファシリテートしていく。また各会議では状況に応じてリフレクションやウェブマップなどを適宜活用し、可視化して共有 ・サークル活動の経験を重ねていき、子どもたちが安心して自分の気持ちを表現できる環境を作り続ける
2026年度	目指す姿	子どもたちに必要な体験を子どもの姿から見つけ、１０より１００のホンモノの経験の提供を目指す 地域全体で一体感を持ち、地域全体での共育ちを目指す 「ちきんえっぐ」来園者数を前年度比3倍に増やすことを目標とする
	重点施策	・子どもたちの小さな変化に気づけるようにスタッフ間での共有の時間を設け、取りこぼしのない仕組み作りを構築し続ける。また、子どもたちの経験から得る気づきや学びを大切にする ・垣根のない社会作り、自園の保育が地域から求められ認められるような子育て支援を実施する ・「ちきんえっぐ」の活動のPRを習慣化し、近隣にどろんこ会の保育への理解を深め、好感を得る・
2027年度	目指す姿	子どものやりたい活動が安全に取り組める環境を整備する スタッフと子どもたちの「近隣園とのつながり」がより強固になり、エリア研修の充実を図る

		様々な年齢の子ども達が多くの経験の中でぶつかり合い、葛藤の中で互いを認め合える機会を作る
	重点施策	・子どもの姿や育ち、リスクを捉える目を養う学びの場をリーダーが中心となって行い環境の構築に取り入れていく。 ・近隣園との交流の機会を継続的に持ち、より多くの経験を提供する。職員間交流として、エリア全体で保育の質の向上に向け園長大学®を活用していく ・インクルーシブ保育を正しく理解し、大人も子どもも混ざり合い様々な視点で子どもたちに必要な経験を提案し合える風土を築く

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：学園の森どろんこ保育園 施設長　植杉 麻実

２０２５年度　中里どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

■保育理念：「にんげん力。育てます。」
■保育方針：「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
■２０２５年度法人目標：原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
■中里どろんこ保育園 園目標：「愛あふれる大きな家へ」

どろんこ会グループの法人理念に則り、子どもを中心にスタッフ、保護者、地域が参画し協同的に共に育ち地域に根付いていく。清瀬市の自然に恵まれた環境を活かし、「にんげん力」に必要な遊びや野外体験を通じ、成功体験や失敗体験を経験する。そのなかで、他者との気持ちのぶつかり合いや折り合いをつけ、試行錯誤する体験を積み重ねていく。やってみたいことの実現や思い通りにならないことを経験し、目の前に壁が立ちはだかったときに自分で考え判断し、行動して切り抜けていく力を身につける。また、次世代に向け質の高いコミュニケーション力が必要となる。自分を知って、相手を理解し、ぶつかり合い、頼り合いながら人との繋がりを深めていく。保育者も主体的となることで、自ら考え、学び、見通しをもった実践をすることで自律した集団を目指す。

多様性のある現代社会において、突然の事象にも柔軟に対応できる能力、すなわち「生き抜く力」を培っていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

全スタッフが日課の必要性を理解し、子どもたちに取り組んでいる背中を見せていく。
ゾーン保育・指示をしない保育・継続性のある保育を意識し実践する。

子どもも大人も主体的に生活することで、非認知能力を育み「にんげん力」を向上していく。

1	計画・ねらい	基本活動の深い理解
	実践予定内容	実施している活動の意義を、全スタッフが常に考え続けていくことで、中里どろんこ保育園としての保育を確立させていく。そのために、年間を通して計画的に学べる機会を設けていく。 必要な活動・体験を整理し、目線合わせをすることで、何を大切にして保育に取り組むのかを決定していく。
2	計画・ねらい	原点回帰を図る
	実践予定内容	実践できている取り組みと向上させたい取り組みを精査する。そのなかで、継続させていく内容は引き続き丁寧に取り組み、向上させたい取り組みについては具体的なアクションプランを立てて体験の質を高めていく。 主には、畑活動・音楽指導・商店街ツアーの在り方を見直し、質を高めて確立する。
3	計画・ねらい	保育環境の見直し・充実（人的環境・物的環境）
	実践予定内容	「見える保育・見せる保育」の実践 指示をするのではなく、子ども自身が考え判断し、行動する機会を保証できるような見守る保育を実践していく 「今日の遊びが明日もできる」というような期待をもって、子どもが登園できるよう保育計画をたてていく

		振り返りを重ねることで、次の保育計画につなげていく 結果、子どもたちの情緒が安定し、健康な心と体が保障されていく

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

思いやり・誠実さ・謙虚さ・感謝を基盤とし、信頼関係を深めていく。

保育園に安心して通っていただくためにも、疑問や不安を汲みとり、すばやく解決へ導いていく。自園が目指す保育・子どもの成長発達を理解していただけるよう、保育の可視化を図る。ポートフォリオ・ドキュメンテーションをもとに、お迎えが重なる時にもお待たせした気持ちにならないよう工夫する。お迎え時の対応・個人面談・保育参加を通じ、子どもの成長を共有し見守ることで保育者も保護者も共に育ちあう。

1	計画・ねらい	保護者様の心に入り込んだ接遇
	実践予定内容	受け入れ・お迎え伝達時のコミュニケーションを豊かにとり、子どもたちの様子が手にとるように伝わる伝達を心がける。 スタッフ誰もが対応に気遣いとおもてなしの気持ちをもって接する。 接遇・伝達対応について園内研修を実施（5月・８月）。 ファシリテート研修を実施し、会話を導くことで保護者様の求めている事柄を手渡していけるようにしていく。
2	計画・ねらい	利用者様に選ばれる施設となる
	実践予定内容	保育園見学対応を主任・リーダー層も柔軟に対応し、保育園の良さを最大限にお伝えできるようにしていく。 前年度よりも入園第一希望者数の増加を目指す。 保育の可視化を図り、保育園での様子を透明化する。
3	計画・ねらい	いつ見ても気持ちが良い施設となる
	実践予定内容	日常的な清掃に力を入れ、常に一定の清潔を保つ 不要なものが明確になってきたため、引き続き計画的に断捨離を実施する

〈3〉地域の子育て支援事業

毎月一度の青空保育の内容を深め、地域の方々にも参加していただくことで子育てのネットワークを広げる。ちきんえっぐ（自然食堂・自然学校・芸術学校・寺親屋）への参加率を向上させ、地域に開かれた保育施設を目指す。清瀬市の子育て拠点となるよう、積極的に見学や子育て相談を受け入れ、地域の子育て世帯が集いやすい保育園となる。

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設の確立を目指す
	実践予定内容	地域の子育て世帯を対象に、子育て相談や保育講座などを開催することで、子育ての負担を軽減できる場所となる。 性教育・人権に関する内容の保育講座を段階的に開催することで、清瀬市のなかでの子育て拠点となることを目指す。また、保護者様・地域へ向けて、ブログ等を活用することで子どもたちや保育の様子を分かりやすくお伝えする。その際、自園の強みや特徴を活かした内容を心がける。
2	計画・ねらい	地域に根付く活動の充実
	実践予定内容	清瀬市のボランティア団体が運営している川を守る会や自然を守る会と連携し、自然を中心とした保育活動を取り入れることで地域に根付くことを目指す。 特に、青空保育の内容の充実に力を入れていく。新設した「清瀬花の里公

		園」を実施拠点に変更することで、清瀬市が求めている公園の在り方も同時に達成していくことを期待する。 地域の方々を一人でも多く巻き込み、中里どろんこ保育園という存在を幅広く周知すると共に、保育園へ来訪していただくきっかけ作りの場としていく。
3	計画・ねらい	ちきんえっぐ参加率の向上を図る
	実践予定内容	ちきんえっぐ（自然食堂・自然学校・芸術学校・寺親屋）や園庭開放などを対象とし、地域の子育て世帯へ呼びかけることで参加率を前年度よりも向上させていく。中里どろんこ保育園を知っていただく機会を増やしていくことで、入園第一希望者数の増加も目指す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

施設長・主任・リーダースタッフをはじめ、３～４年目スタッフが中心となり園内研修を率先して行う。特に「環境」についての学びを深め、能力の向上を図る。これは、「物的環境」と「人的環境」の二点が含まれる。

また、リーダースタッフが他スタッフへ、見守りの立ち位置や子どもとの関わり方について、自身の経験をもとに指導していく。

1	計画・ねらい	基本的な接遇マナーを身につける
	実践予定内容	保護者対応のみならず、電話対応や新規来訪者に向けた基本的な接遇技術を身につける。 全スタッフが突然の来訪にも対応できるよう自信をつけることで、誰が対応しても心地よい応対を身につけていく。
2	計画・ねらい	保育の質の向上・リーダー層のマネジメント力向上
	実践予定内容	園長大学・保育士大学からスタッフ自身が研修内容を選びとり、常に学ぶ意欲の向上を目指す。特に、環境に特化した学びを深めていく。 清瀬エリアや分課会を利用して、リーダー層のマネジメント研修を実施していく。リーダー層のスキルを向上していくことにより、豊かな保育の園になる組織の土台づくりを目指す。
3	計画・ねらい	多様性を認めるスタッフ集団
	実践予定内容	子どもも大人も関係なく、自身の在り方を知り、相手を理解しようとすることで、自分自身の価値観にとらわれず自分と相手を認めていく土台を構築していく。 これを確立することにより、建設的な話し合いやコミュニケーションのもと、情緒の安定を図る（離職防止）。

〈5〉環境実施目標

清瀬市の豊かな自然を最大限に保育へ取り入れ、四季折々を感じられる環境を設けていく。
自然物を通して遊ぶことで、子どもたちが試行錯誤し、失敗と挑戦を繰り返しながら直接体験できることを期待する。
また、人的環境の構築にも力を入れ、心の安全基地となれるようスタッフ各々が意識する。

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を高める
	実践予定内容	畑仕事（種まき・育てる・間引く・穫る）・食材加工・卵拾い・ヤギや鶏

		などの生き物の小屋掃除と糞の始末・鶏を捌いて食べる命をいただく活動を行う
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす。残渣やヤギ糞・鶏糞の再利用など、「捨てる」ではなく「有効活用」する。
3	計画・ねらい	陸の豊かさを守る活動の実践
	実践予定内容	木育＝木材利用に関する教育活動　の実施 地球温暖化や持続可能循環社会の形成など、子どもと共に環境問題を理解し、学び、実践し、保護者も興味関心をもつよう啓発活動を実施する。

〈6〉命の大切さを知る性教育

法人としての性教育は５歳児年長が対象であるが、中里どろんこ保育園では３歳児・４歳児から性教育を始める（任意）。体のプライベートゾーンを知ることで自己防衛意識を高めると共に、命の大切さに触れる。個々の存在自体に価値・意義があり、人生のなかで何か大きな壁が立ちはだかっても、決して命を捨てる選択をしないということを分かりやすく伝える。３歳児からの性教育では、相手に対する快と不快の触れ方、触れられ方を知ることで友達同士との距離感も知っていく。この距離感を体得していくことが、社会に出たときの「人対人コミュニケーション」の質を上げていくことにも繋がる。

1	計画・ねらい	年齢に合わせた性教育の実施（3・4歳児）
	実践予定内容	3・4歳児に向けた性教育を実施する。 体のプライベートゾーンを知り、自分のことは自分で守る術を学ぶ。 命の大切さを知ると共に、相手への触れ方・快と不快の感じ方を知り、人との距離感を知ることでコミュニケーション能力を培う。
2	計画・ねらい	命の大切さを知り、自己肯定感を高める（5歳児）
	実践予定内容	5歳児における性教育では、法人指定の教材を基に行う。 ももちゃん人形を抱くことによって、この世に生まれた不思議さや尊さを疑似体験する。自身を愛し、存在するだけで価値があること、命を捨てる選択をしないことを伝えていく。
3	計画・ねらい	清瀬市内同法人4園のスタッフによる合同研修の実施
	実践予定内容	前期・後期に分け、性教育や人権について学びを深める。 清瀬市内同法人4園のスタッフ同士が交流を深め、合同で学び合う機会を設けていくことで、清瀬市の保育の質を総体的に向上させていく。

〈7〉清瀬市の保育の質を底上げする

1	計画・ねらい	園内にて、自園スタッフによる研修を実施
	実践予定内容	リーダー層を中心に、個々のスタッフが、それぞれの得意分野を活かした園内研修を開催する（清瀬市内同法人4園の合同研修含む）。
2	計画・ねらい	交換研修の実施
	実践予定内容	3～4年目のスタッフ同士で交換研修を実施していく。 近隣園の保育・環境・運営への携わり方などを他園から学ぶことで、中里どろんこ保育園での保育運営に活かす（調理・看護師等も含む）。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	16人	18人	20人	20人	20人	100人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	事務	1人	用務	1人		

３.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー実施、重要事項の共有 スタッフによる園内研修 危機管理等におけるロールプレイングの実施
給食運営会議	月1回	子どもの喫食状況の確認、離乳食の進捗確認 アレルギー児の進捗確認 食事マナー教室の実施内容の確認、その他必要事項の共有
事故防止委員会	月1回	自園のインシデント・ヒヤリハットを元に考察を行い、対策や起こりうるリスクを検討する 他園の事故事例をもとに、自園で起こりうる事故を想定することで対策を練る
ケース会議	月1回	対象園児の情報共有、課題検討、その後の様子を振り返り
乳児・幼児会議 リーダー会議	各月2回	議案検討、保育運営確認、他会議内容の共有 （清瀬エリアでのリーダー会を1回以上実施）

〈1〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営本部より必要事項の共有、議案検討、意見交換 コンピテンシー実施、各課による課題内容の実施
施設長勉強会	月1回	法人内研修、スタッフ育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション、課題における取組共有、活動成果発表
食育会議	年4回	議案検討、他園事例紹介、意見交換、成果発表
保健会議	年4回	議案検討、他園事例紹介、意見交換、成果発表
主任会議	年4回	主任会議委員による課内研修、スタッフ育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション、課題における取組共有、活動成果発表
子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げる会議委員による課内研修、スタッフ育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション、課題における取組共有、活動成果発表

〈2〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園全体の衛生管理、感染症予防対策の実施、園児・スタッフの体調管理や自治体報告　等
安全対策係	園内安全管理、ハザードマップ作成・見直し、近隣情報収集　等
防火管理者	消防計画作成、避難訓練計画作成、定期点検の実施　等
食品衛生責任者	食品取扱内容の確認、食育活動の衛生管理　等
畑係	畑の年間計画に沿った作物の、種まきから収穫管理
生き物係	生き物の状態管理、飼育管理・指導　等
誕生日会	誕生日カード作成、各担当配布振り分け　等
青空保育	年間計画作成、実施サポート　等

〈3〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割

どろんこサポーターズ	どろんこサポーターズ主催の行事への協賛窓口

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・愛着関係を育み、様々な行動や欲求に適切に応え、特定の保育者と情緒の安定を図る。 ・自主的な探索活動体験を保障し、様々な感覚を養う。
	下半期 0～1歳児	・身近な人や物との関わりをもち感性を豊かにする。 ・自分でしようとしている気持ちを尊重し、見守ることで自我が芽生え育つ。 ・表現する力の基礎を養う。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・日々の生活や遊びの中で生活習慣が身に付き、ルールの定着を目指す。 ・身近な人や物との関わりを広げ、様々な事象に出会うなかで失敗と挑戦を繰り返す（感情コントロールエラーの体験）。 ・友だち同士の関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し伝えあう心地よさを感じる。 ・遊びの継続性を目指し、可視化を取り入れることで子ども自らが。自主的に遊びを展開していける環境を整える。
	下半期 2～5歳児	・相手の話をよく聞き、自分の思いや要求を言葉や行動で表現し、通じ合う心地よさを感じる。 ・身近な人や物との関わりを広げ、様々な事象に出会うなかで失敗と挑戦を繰り返す（感情コントロールエラーの体験）。 ・遊びに熱中し研究を繰り返すことで、達成感や充実感を味わう。 ・保育所保育指針「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に向かっていくよう意識した保育を行う。 ・遊びの継続性が定着し、日々の充実感を高める。 ・子ども自らが遊びを考え、展開し、日常に新たな遊びのゾーンが生まれている。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

役職関係なく、全スタッフが子どもと一緒に食事をする。

好きな人と好きなときに好きな場所で好きなだけ食事をすることを基本とし、子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる。また、できない子にはできる子が手伝うなど、異年齢保育を活かす。身近な人と一緒に食べる楽しさを味わい、食の話題が盛んに出る子どもを目指す。

1	計画・ねらい	素材の味を活かし、大きな食材にかぶりつくことで噛む力を養う
	実践予定内容	離乳期から大きめの食材にかぶりつくことで、自分の一口量を知る。 よく噛むことで、咀嚼力の発達を促す。
2	計画・ねらい	食事を楽しむ
	実践予定内容	役職関係なく、全スタッフが子どもと一緒に食事をすることで、食べることを楽しむ。 好きな人と好きなときに好きな場所で好きなだけ食事をすることを基本とし、自分で盛り付けすることで、自身の食べられる量を知っていく。
3	計画・ねらい	素材を加工し、食の循環を知る
	実践予定内容	給食の残飯をコンポストに入れ、堆肥をつくる。堆肥を畑にまくことで育った野菜を、年間通して収穫し、食材を加工して食す。切った野菜くずをコンポストに入れるという、一連の循環を知れるよう機会を設けていく。 また、鶏を捌いて食すことでも食の循環を知る機会となる。
4	計画・ねらい	鶏を捌いて食べ、命のありがたみを知る
	実践予定内容	実際に飼育している鶏を目の前で捌いて食すまでを体験することで、「命をいただく」ことの本当の意味を知る。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい指導 トイレの使い方指導 歯磨き指導 3・4歳　性教育（体の大切さを知る） 5歳　　性教育（体と命の大切さを知る）

流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月頃･･･胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、溶連菌 12月～2月頃･･･ノロウイルス、ロタウイルス 1月～2月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名 抗アレルギー薬･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については4月３0日までに受講予定
その他保健に関する取組	感染予防のため、保育室内外の衛生管理に努める 年2回の清瀬市保健会議にて近隣園、地域での感染症流行状況を把握し、感染拡大防止対策をとる 感染症対策として予防接種状況を把握し、保護者に対し年齢に応じた計画的予防接種をすすめていく 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。 消毒・喚起を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日

	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月I回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･I0月
	身長体重測定	毎月I回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6･II月 (0歳児のみ年I2回実施) 歯科健診 年I回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･I0月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月I回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年I回

〈6〉環境整備

子どもの興味関心がどこに向いているのかを保育者が感じ取り、子ども自らが遊びを展開したくなるようなゾーンを設置することで遊びを豊かにしていく。また、子ども同士で遊びの共有できるような関わり方を意識する。遊びの継続性では、「今日の遊びの続きが明日もできる」という期待をもって保育園に登園できるよう、環境の構成を行う。スタッフが子どもと遊び込むということを意識し、ルールのある遊びができる環境を強化する。

I	計画・ねらい	充実した室内環境の定着
	実践予定内容	子どもの興味関心がどこに向いているかをよく観察し、定期的に室内環境の見直しを図る（年4回6月・9月・I2月・3月）。
2	計画・ねらい	継続性のある遊びの充実
	実践予定内容	室内外共に、今日の遊びが明日もできる環境を構築する。 園外にも虫の罠を仕掛けるなど、明日も散歩先に出向くことを期待できるような環境を設定していく。
3	計画・ねらい	自然体験の充実
	実践予定内容	戸外に出向くことで、年間を通して四季の変化に触れる。 季節にそった体験遊びが、自然と充実するような計画をたてる。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
I	鉄棒（大・小）	グラウンド	使用都度
2	レゴブロック作業台	幼児室	毎日

3	作業台2つ	幼児室	毎日
4	ままごと化粧台	幼児室	毎日
5	オオムラサキ飼育小屋	グラウンド	侵入都度
6	コーナーテーブル2台	幼児室	毎日
7	外用テーブルI台	グラウンド	毎日
8	生き物コーナー台2つ	幼児室	毎日
9	ベンチ3台	グラウンド	毎日
I0	お茶用の台4台	室内・園庭・グラウンド	毎日
II	一本橋I台	倉庫収納（幼児室）	使用都度
I2	遊び〇×ボード	幼児室	毎日
I3	鶏小屋	グラウンド	毎日
I4	ホワイトボード	支援室	毎日
I5	外用玩具棚	グラウンド	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルNO.3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・普通救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備。自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNO.3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行いケガ発生時には対応フローチャートに従う
3	実践予定内容	不審者対策…危機管理マニュアルNO.3の不審者対策（PI4）に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従う
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアルNO.3の光化学スモッグ対策（PI5～）に則り、知識を身につけ、注意発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び清瀬市緊急連絡網に沿って情報を流す
5	実践予定内容	自園のヒヤリハット、インシデントをもとに検証・対策を積み重ね、怪我に対する危機管理をもって保育にあたる 子どもの視覚から、遊びや生活の危険を伝えられる可視化を強化する

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

実習生を積極的に受け入れ、次世代の保育人材育成をしていくために、一人ひとりの様子に合わせた具体的な援助・指導を行う。実習指導のみにとどまらず、就職相談から人生相談など幅広く寄り添い、社会福祉法人どろんこ会の人材魅力も伝えていく。

1	実践予定内容	実習生が展開したい保育活動の実現に向けて、リーダーが直接フォローしていく。 将来、保育者になる選択ができるような接遇が土台のもと、実践している魅力ある保育内容を伝えていく
2	実践予定内容	当法人の魅力が伝わるよう、丁寧な実習の振り返りを実施する。 小さな疑問や悩みがあれば、その日のうちに解決できるよう心がけ、丁寧に聞き取っていく。
3	実践予定内容	清瀬市主催のボランティア体験事業に参画し、幅広い世代の方に足を運んでいただく。申し込みの少ない場合は、近隣の小中学校を中心に、ボランティア参加への呼びかけを実施。

７.スタッフ育成と研修計画

スタッフ一人ひとりの経験年数や能力に合わせた自己目標（MBO目標）を設定し、半期ごとに振り返りを行う。目標達成に向けた保育内容や取り組みを実践し、振り返り、新たな課題を見出すことを基本とすることで、保育に対して達成感や充実感を味わっていく。

施設長⇒主任⇒リーダー⇒スタッフへと流れるように情報を伝達していくことで組織を確立させ、リーダーによるスタッフ育成を目指す。上長面談制度を取り入れ、より身近なリーダー職と話しをすることで本音を伝えあい、より絆の深いチームを築いていく。また、コミュニケーションを密にとり、一つの保育チームとして関係を築くことで、スタッフ同士の人間性の質を高めていく。

保育園全体の質を上げていくためにも園内研修の充実を図ることで、目の前の子どもたちの姿を共通理解し、同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら実践していく。

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リスク管理・虐待防止研修	・自園の子どもの姿から危険を予測する ・リスク回避の方法を探る
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇マナー研修	・接遇の基本を学ぶ ・気持ちの良い対応を考える
6月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺の危機管理研修	・水辺の事故を起こさないためにできる基礎知識を学ぶ

			・リスクと楽しさを知り、実践につなげる
7月4日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リズム体操研修	・リズム体操の基本の動きを知ることで、園全体で統一した動きを目指す
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動遊び	・運動遊びの基本を知る ・運動活動に対する補助の方法を知る
9月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の進捗確認	・事業計画の進捗確認をすることで、後半に向けての方向性を見定めていく
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもへの向き合い方	・子どもを肯定的に捉えるとは ・否定しないという本当の意味を理解する
11月7日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境設定研修	・子どもにとってどのような環境が必要か具体的に考える ・子どもの興味・関心がどこにあるかを改めて考え、後半に向けて遊びの探求心が高まるような環境を構築する
12月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修	・法人の短期・長期計画を知ることで、自身の目指す保育の目線合わせをする
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 造形表現	・絵の具の使い方や戸外で実施できる造形表現を学ぶことで、より身近に保育へ取り入れていけるようにしていく
2月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第一回策定会議	・次年度の事業計画に向けた目標設定 ・チーム保育研修
3月2日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第二回策定会議	・年間行事計画の作成 ・畝づくり研修

エリア研修予算内訳（10園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		10園で按分した自園負担額
5月頃 11月頃	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円

性教育研修				
4月頃 6月頃 9月頃 12月頃 3月頃 リーダー層対象 マネジメント研修	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
合計	0円		0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉スタッフ全員が一つの保育チームとなり、互いを育成し合う

細やかなコミュニケーションをとることで相互理解を図り、頼り頼られる関係性を築く。この土台があることで、スタッフ同士が一丸となり互いの保育を確認し合い、伝え合うことで保育の質を高め

られるチームとなる。また、自分の強みと弱みを認めることで、相手の強みと弱みを認めることができるようになる。いかに自己開示をしていけるかに焦点を当て、自信をもって保育をしていける人間性を養う。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

地域の方との交流を盛んに行うことで、子育て支援に力を入れた拠点となるよう以下計画を実施する。また、計画以外にも散歩先ですれ違った全ての方との挨拶をはじめ、交流を深めることで中里どろんこ保育園を開けた施設にしていく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：330名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：清瀬花の里公園にて　　集客目標：50名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	社会福祉法人東京聖労院「清雅苑」に月1回訪問し、交流を図る 歌や手あそびの披露など、普段関わりが少ない世代とのやりとりを楽しむ
異年齢交流	近隣の小学校・保育園などと交流できる機会を設けていく また、同系列保育園との交流会を定常化し、小中高生のボランティア受け入れも積極的に行う
地域拠点活動	どろんこ祭り、運動会、生活発表会に地域の方を招き、保育園を地域に開いていく ちきんえっぐへの参加呼び込みを強化し活性化することで、子育て相談のしやすい地域拠点を目指す
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

小学校接続連携計画・アプローチカリキュラムを近隣小学校と密に相談し計画をたてることで、在園のうちから小学校への見通しをもって生活していく。卒園児がいる小学校へ積極的に出向くことで、進学への不安を取り除き期待を高める。

自園スタッフと小学校の担当教員合同で交流する機会を設け、保育所保育指針第1章4の（2）に記載のある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を元に研修を行う。普段の授業内容や活動内容を振り返り、共有し合うことでスタッフの保育の質を高めると共に小学校との相互作用が生まれる。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を５月１日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	清瀬市 保・幼・小接続研修	30名予定	コミュニティプラザ ひまわり（仮）	職員間交流
11月頃	清瀬第八小学校 1年生	50名予定	交流会 （清瀬第八小学校）	子ども間交流
12月頃	清瀬市 保・幼・小接続研修	30名予定	コミュニティプラザ ひまわり（仮）	職員間交流
2月頃	清瀬第八小学校 1年生	50名予定	交流会 （清瀬第八小学校）	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

法人内施設つむぎルーム、清瀬市発達支援センターとことこ、清瀬市子育て支援課と連携を図り、スタッフ間で相談しながら計画を立てる。また、写真記録を用いて対象児を多面的に捉えることで、保育者は子どもの姿を見て決めつけた判断をしないよう視野を広げる。清瀬市発達支援センターとことこへ通所している園児がいる場合は定期的に行っている能力検査の結果をもとに計画をたて、専門的に近い活動や生活を保育に取り込んでいく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：100名予定）

ケース会議のなかで、計画をたて、振り返り、課題抽出を行う。撮りためた写真記録を元に、対象児の成長点や近況の様子を共有し、次月の計画に取り入れることで個々にあった課題を見出す。また、対象児への関わりをスタッフが統一することで、子どもにとって戸惑いなく心地よい関係性を築いていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

年1回開催される保・幼・小連携合同研修に参加し、園での取り組みや情報の共有を行う。就学前健康診断前後には対象小学校と密に連絡をとり、必要に応じて共有会議を開く。場合によっては、担当教諭の方に来ていただき、園での生活の様子を見て頂く。

保護者の方にはその都度近況を共有していくことで連携を密にとり、育児や就学相談を積極的に受け入れていく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：800名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	各週（木）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔月　　10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：清瀬花の里公園にて開催　集客目標：50名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年６月２日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時１５分
自己評価終了予定時刻：１６時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、保育士リーダー、看護師、事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・保育者が仲介しすぎず、子ども同士で話し合いができるよう見守る。 ・日課を常に意識し、当たり前になるよう根付かせる。 ・危険に気付き、保育者に伝えられるよう可視化のポイントを増やす。 ・どろんこサポーターズ・おやじの会による行事参加を2回以上実施する。 ・ちきんえっぐの広報を、散歩先にて1組以上に宣伝する。 ・計画の立て方をリーダースタッフが指導する。 ・アプローチカリキュラムが計画の中に、常に練り込まれている。 ・全スタッフが園内研修に携わる機会を設ける。
	振り返り	・子ども同士のやりとりを見守る姿勢は、スタッフが意識して関わっていることが感じられるようになった。 ・全ての日課の定着には至らないが、体育指導実施の仕組みが確立した。 ・夏頃までは可視化を意識した導きも多かったが、後半になるにつれ、言葉での危険回避指示も伝わるようになった。 ・どろんこサポーターズ・おやじの会による行事参加を2回以上実施することができた。 ・広報の情報源よりも、ボランティア参加から、ちきんえっぐへの参加につながることが多かった。 ・計画時の言葉選びは個々のスキル向上を感じられる。リーダー層の確認する時間の確保が次の課題となる。 ・逆算し、自身の実践している保育が、アプローチカリキュラムに繋がっていることを確認した。 ・全スタッフが園内研修に携わることができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	（子ども） 中里どろんこ保育園での遊びや生活のルールを、子どもから子どもへと伝承することができる。また、日課活動を年上児から年下児へ伝えることができる。また、相手の話に耳を傾け、折り合いをつけながら子ども同士で問題を解決しようとする。 自らが危険を感知し、ケガをしない体づくりをする。 命の大切さを知ることで、自身を大切にする。 遊びの継続性が実現し、子どもの興味・関心がある環境に囲まれて過ごす。一人ひとりが自発的に遊びを発展させていく。 （保護者、地域） どろんこサポーターズを中心とした保育の充実を図る。 園内保護者参加型行事において、保護者・地域からの行事参加率向上を目指す。青空保育の実施先を新たな場所に変更することで、参加者を大幅に向上させるとともに、清瀬市の新設公園の目的も同時に達成していく。

		（スタッフ） 日課活動を定着・充実することで、子どもの個々の変化を敏感に感じ取り、それを基に保育計画や個人の計画をたてることができる。 小学校接続計画をもとに、逆算したアプローチカリキュラムが展開されている。そこに向けた乳幼児保育が、計画的に成されている。 リーダー層を中心としたマネジメント研修・性教育研修を定期的に開催する（法人内の合同研修）。
	重点施策	・保育者が仲介しすぎず、子ども同士で話し合いができるよう見守る。 ・商店街ツアー・音楽指導・のびのび指導・畑活動の確立を図る。 ・体育指導を基盤とすることで、ケガをしない体づくりを目指し、危険を回避していく。 ・どろんこサポーターズによる行事参加を2回以上実施する。 ・ちきんえっぐの広報を、散歩先にて1組以上に宣伝する。 ・畑の管理を保育士・調理で実践していく。 ・全スタッフが園内研修に携わる機会を設ける。
2026年度	目指す姿	（子ども） 地域や他園の子どもたちと交流を重ね、自然を通した体験遊びを通して関わりを深める。 自らが危険を感知し、ケガをしない体づくりをする。 命の大切さを知ることで、自身を大切にする。 子ども自らが環境構成に携わり、物的環境を整えることができる。 （保護者、地域） ちきんえっぐが地域に根付き、ひと月に3組以上の来訪が確立する。 深く地域に根付くため、清瀬市の他保育施設と合同で青空保育等の地域事業を展開し、合同保育を実現する。 （スタッフ） スタッフ自らが必要なことを学びとり、実践と振り返りを繰り返すことで、常に保育の質が向上していく仕組みができている。 清瀬市内同法人4園の合同研修をもとに交流を深め、リーダー層スタッフがどの園に行っても良い視点を見つけ、助言ができる。 園内だけでなく合同研修の場においても講師ができる（2人以上）。
	重点施策	・年上児が年下児へ遊びや生活のルールを伝えられる機会を設ける。 ・他園の子どもたちがくる公園先へ積極的に出向き、交流を重ねる。 ・散歩先では、他園の子どもたちと次の遊びの約束ができるよう計画する。 ・他園との青空保育の合同実施を打ち合わせ、1回以上実施する。 ・清瀬市のボランティア活動への参加が定着するよう、計画的に交流する。 ・スタッフの学びを、月に1回以上共有する。 ・エリアで共通の保育ができるよう、リーダースタッフが積極的に園を行き来する。 ・清瀬エリアでの合同研修において、2人以上講師を経験する。
2027年度	目指す姿	（子ども） 子ども自らが遊びや生活のルールを作り上げ、保育園生活を築いているその基盤が、年下児にも定着している。

		日課活動をもとに保育園生活における情緒が安定し、継続性のある遊びが常に展開されている。 また、地域や他園の子どもたちとも続きのある遊びが展開されている。 （保護者・地域） 地域で子育てを共にしていく者として、地域の方とも保育園運営を共同で進め、保育内容の充実を図る。 （スタッフ） 積み重ねた学びをもとに、新しい園内事業を展開する（1人以上）。 リーダー層スタッフを中心とした、清瀬市内同法人４園の定期巡回を実現している。
	重点施策	・子どもが発案した遊びやルールが採用され構築するよう、保育者が柔軟に保育に取り入れる ・遊びに継続性がもてるよう、屋内外共にゾーンの確保を常に行う ・清瀬市のボランティア団体の方とも年間の計画をたてることで、子育てを共に実践していく共育てを実現させる。 ・園内での行事や遊び・研修などに対して、一つ以上の新しい分野を取り入れる。 ・リーダースタッフによる巡回がエリアで定期的に実践されることで、清瀬エリアから子育ての質を高めていく。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：中里どろんこ保育園 施設長　小川 愛

２０２５年度　メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム　事業計画書

Ⅰ.基本方針

・「一日一日を大切に。１分も無駄にせず、子どもたちにホンモノの体験をできるようにする。」
法人理念を園全体で学び直し、日課・労働・様々な物との関わり・経験の大切さをスタッフが理解し、子どもの“生きる力”を育てる活動を行う。
・子どもの“人権”を大切にした保育を行う。
子ども一人ひとりの個性を認め、常にその成長や発達を捉える。子どもの成長や必要な物的環境、人的環境を整えられるよう、スタッフ間で話し合い、意見を出し合い学び続ける。
・スタッフが成長のために、大人も主体的に関わる自覚を持ち“大人のにんげん力”を高める。
スタッフそれぞれの得意なことを発揮し、難しいことも協力し合い、挑戦し続けることを子どもに背中を見せていく。
・園としてのリーダーの役割を確立し、園の課題に取り組む中で自ら園を運営していく意識を向上させる。
・地域との繋がりでは、広報活動を積極的に行い、園の活動を知ってもらい地域の来園者のリピーターを獲得する。そこからの繋がりで来園者も広がっていくことを目指し、来園しやすい雰囲気作りを作っていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	日課・労働・様々な物との関わり・経験を大切にした保育を実践する。「ホンモノ」の体験を実現していく。
	実践予定内容	法人理念をスタッフ間で学び直し、日課・経験の大切さの共通理解をする。話し合いを毎月行うことで、日々の活動がより良いものになるように振り返りを行い、そして次の保育計画に活かしていく。また、必要に応じて研修を取り入れ、スタッフも学び、子どもたちに体験の大切さを見せていく。ホンモノの体験として、火・水・土などの子どもに経験させたい活動を日常的に取り入れられるよう物的環境を整える。
２	計画・ねらい	子ども一人ひとりの成長が大切にされ、安心できる環境のもとで自分の好きな遊びを選択することができる環境を整える。
	実践予定内容	クラス会議や園会議で振り返りを行い、子どもの成長に合った物的環境・人的環境を整える。園会議の中で子どもの発達について学ぶ機会を設け、年齢別に完結した保育ではなく、乳児から幼児へ繋げられるように先を見据えた保育を行えるようにする。 子どもが安心した環境で生活するためにも子どもの人権を尊重されるための研修を行い、子どもの最善の利益が守られた保育を実践する。
３	計画・ねらい	異年齢の子ども同士が混ざり合い、子どもが繋がる保育の実践。
	実践予定内容	好きな場所で好きな遊びを満足するまで遊び込める環境構成と異年齢の子どもたちが混ざり合い、子ども同士が繋がる保育の実践の為、全スタッフ

		で全園児を見、0歳児からの育ちで幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識し保育内容を連動させる意識を持つ。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立ち、安心できる丁寧な保護者対応を行う。
	実践予定内容	朝の受け入れや帰りの伝達で、保護者に寄り添った、安心できる言葉がけを行う。ただの伝達にならないよう、スタッフ間で子どもの共有をし、丁寧な3分間対応を行う。 保護者が安心して預けられるよう、スタッフ間の「報連相」を行うよう課題と感じる部分をリーダー会議で話し合い、仕組み作りを行う。 保護者の表情や話のやり取りの中で、面談が必要な場合は声をかけるようにし、保育所が相談しやすい雰囲気作りを心掛けていく。
2	計画・ねらい	園生活の様子や子どもの成長など保育の見える化を行い、成長を喜び合う。
	実践予定内容	日々のタイムラインなどに加え、ドキュメンテーションを用い活動の様子や子どもの成長を保護者へ伝える。 日々子どものできるようになったことや、葛藤している姿を伝えたり、家での様子も共有いただくことで、子どもの成長を共に考えていく。
3	計画・ねらい	整理整頓のいき届いた環境の継続
	実践予定内容	いつでも整理整頓、清掃が行き届いた環境を継続することで安心して預けられる環境を整える。 掲示物の日付や貼り方にも配慮する。棚の上は常に清潔に保つ。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て支援の場ということを広めるための広報活動を行う。
	実践予定内容	・地域の子育て支援センター、子どもが集まりやすい商業施設にチラシの配架依頼を行い、ちきんえっぐの利用者を増やす。 ・支援センターでの子育て世代の繋がりから、紹介をしていただき、訪問いただいた際には相談しやすい雰囲気作りや、地域の家庭のニーズに合わせた支援内容の計画へと繋げていく。 ・保育園の雰囲気を知っていただくために一緒に散歩をする企画や、ちきんえっぐの活動を玄関や、近くのJR川崎駅へ貼り出し活動を知ってもらう。
2	計画・ねらい	実体験ができる場とし、保育園児との交流を持つことでリピーターを獲得する。
	実践予定内容	・実体験が伴う支援として、園庭の畑を利用して、苗植え付け（種まき）、栽培、収穫、加工体験を年間通じて行う。 ・ちきんえっぐで絵本の貸し出しを開始する。保育園の園児に読んでいるものや、年齢別に保育者のおすすめの本を貸し出しできるようにすることでリピーターを増やしていく。 ・園庭開放希望の地域のご家庭に、同じ年代の子どもたちとの散歩を提案し、関わりをもてるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	チーム保育を牽引するリーダーの育成と若手スタッフが得意分野で自己を発揮できるチーム作り
	実践予定内容	・保育の質の向上のため、保育者自身が子どもの成長にとって必要だと思う園内研修を主導し、保育スキルの共有や学んだものをアウトプットしていく。そうすることでより理解を深めるとともに、園内の保育スキルの向上、スタッフの自信に繋げていく。リーダーを中心に年齢問われることなく自分の意見を伝え、認め合う場を積極的に作り、互いの価値観を伝え、子どもの姿を共有し、子どもを真ん中にした話し合いができるチームを作る。 ・リーダー会議を継続することで、園として必要なことを取り上げ分担しながらリーダーの役割を確立していく。
2	計画・ねらい	大人の『にんげん力』、自分で考え行動する力を育む
	実践予定内容	・保育者も「にんげん力」を高めることを意識し、探求心を持つことで、子どもにとって何が必要なのかをそれぞれが考え、率先して行動に移していく。 ・誰かがやってくれる、誰かに言われてやるのではなく、それぞれの業務の進捗を確認し合い、支援したり、してもらったりしながら大人も考えて行動していく姿を子どもに見せていく。 ・スタッフ一人ひとりが自分で決めた課題、目標を適宜振り返りPDCAを回し続けながら、必要なことは何なのかそれぞれが考え取り組む力を身に付けていく。必要に応じて面談を行い、目標を明確化していく。 ・必要に応じて、スタッフが必要と考える研修を取り入れて、学び続ける。
3	計画・ねらい	保育の質向上・保育を語る
	実践予定内容	・必要に応じて、スタッフが必要とする研修を取り入れて、学び続ける。時には講師となり、より学びの効果を高める。 ・子どもの心を動かせる保育者となるため、子どもの思いに寄り添い、どうしたら子どもの気持ちを引き付けられるのかを話し合う。 人権や記録など保育の基本となることについても園内研修で再確認していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑からの食の循環教育・残菜のリサイクル
	実践予定内容	・自作のコンポストで、野菜くず、落ち葉を堆肥に変え再利用する。 ・子どもたちが参加してコンポストでの堆肥作りから良い土つくりを行い、畑仕事に繋げる。 ・畑仕事を充実させるための仕組みを作る。 枝豆から大豆、豆腐作り、味噌作りなどの過程を実際に体験する。
2	計画・ねらい	ゴミ拾い～住み続けられるまちづくり～
	実施予定内容	よく遊ぶ公園のゴミ拾いを行う。 地域の方とも交流をしながら行う。 また、ビニール・プラスチックの削減のため、使用する袋は古新聞を使い

		ごみ袋を作る。 ゴミ拾いを実行するまでに、海洋プラスチックごみが増えている現状を知り。食べている魚が住んでいる海を守るためにもゴミ拾いをする。ことを話していく。

〈6〉スタッフのチーム力向上

1	計画・ねらい	語り合い
	実践予定内容	・クラス単位ではなく、園全体で子どものことを話し合う。 スタッフの得意分野を発揮し、補い合いながらチームとして全体の保育力を上げていく。 ・時にはお互いに必要と感じる部分を伝え合い、自発的に研修を取り入れていく。意見を言いやすい環境を整える。
2	計画・ねらい	モチベーションの管理
	実践予定内容	・施設長・主任との面談を４か月に一度行う。 ・それぞれの目標を管理し、それぞれ異なるスキルを身に付ける。スキルを身に付けるための材料を用意する。

２.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
６人	１０人	１１人	１１人	１１人	１１人	６０人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	４人	補助	0人	調理	１人	事務	1人

3.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、子どもの姿の共有、保育討議、会議共有、行事について
給食運営会議	月1回	献立の振り返り、食育活動の立案、検討他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿からの傾向分析と対策共有、子どもの姿に合わせた園内外のハザードの確認と配慮点の共有
ケース会議	月1回	気になる子・配慮を要する子の状況と関わり方について
リーダー会議	月２回	体裁や仕組みについての検討、園運営に関わる振り返り
クラス会議	月2回	子どもの興味・関心や発達を理解したねらいをもった活動の選定と変化し続ける環境構成。

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	連絡および運営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど 各園課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	・献立内容の改善、提案 ・給食提供マニュアル及び運用ルールの作成、見直し ・食育計画策定
保健会議	年4回	・感染症対策やガイドラインの作成、改善 ・保健計画策定
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有 マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど 各園課題改善計画立案及び取り組み成果発表

〈5〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内清掃、衛生管理、感染症予防対策、備品管理、子ども・スタッフそれぞれを対象とした保健衛生指導
安全対策係	避難訓練、不審者侵入訓練の計画と安全にかかわる情報掲示、園内外のハザードマップの作成・更新と共有
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づく消火・通報訓練及び避難訓練の定期実施と振り返り
食品衛生責任者	年間食育計画の作成とこれに沿った食育活動の実施、食育会議への参加、給食運営会議計画や実施、食品の安全管理
畑係	年間畑計画・プランターの計画の主導と管理、子どもと行う作業計画
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈6〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの活性化の推進、計画、立案、取りまとめ、進行他
地域子育て支援の担当	子育て支援事業の計画、実行、広報活動
幼保小連携係	幼保小接続研修・小学校交流の取りまとめ、連携・接続の計画立案と振り返り

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人ひとりの子どもの発達過程を把握し、子どもの欲求を満たしながら応答的な関わりや言葉がけを行う。 ・特定の保育者との関わりの中で信頼関係を築き、個々の欲求を受容されることで自己肯定感を育み、安心して園生活を送れるようにする。
	下半期 0～1歳児	・一人遊びを十分に楽しめるような環境を整える。 ・1人ひとりの興味関心を受け止め、応答的・受容的な関わりを通じて自己肯定感を育む。 ・事故防止に努め、自発的な活動をできる環境を整える。

幼児保育	上半期 3～5歳児	・集団の中で一人ひとりが自己を発揮し、保育者や友だちと関わる中で認め合う経験をし、存在感や自己肯定感を育む。 ・様々な物に関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしてみようとする。
	下半期 2～5歳児	・身近な環境や事象を見ることで、自分から関わったり考えたりし、生活に取り入れていく。 ・自分の気持ちや考えを自分なりの言葉で表現することの大切さ、相手の話を聞き、相手を想う気持ちの大切さを、話し合いの場や異年齢で過ごし刺激を受け合う中で気づき、共同性や社会性を身に付けていく。 ・様々なことを体験する中で感じる感性を大切にし、自分なりに表現する。感性が広がっていくような関わりや環境を仕掛けていく。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べる意欲のある子どもたち
	実践予定内容	・戸外での活動を時間いっぱい使い、お腹を空かせ食べる意欲をもつ。 ・子どもと一緒に食べることで行動でも食べる楽しさやおいしさを伝えていく。空腹感を感じ、意欲的に食事をとれるような活動を保証する
2	計画・ねらい	育てる、収穫する、調理・加工する体験を通して食や食材に興味を持ち、食の循環を知る。
	実践予定内容	・自分で育て、収穫し、調理・加工することが一連の体験となるよう年間で畑・食育計画を行う。自ら栽培したものを食べることで、自然や食への興味関心を持つ。又、全スタッフが子どもと共に体験し実体験を通して子どもと食育を考え、伝えて行く。 ・畑仕事を充実させることで、突発的な食育も頻繁に行えるようにしていく。
3	計画・ねらい	食の循環を知る体験を行う。
	実践予定内容	魚をさばく

〈4〉保健計画

園児健康診断	０～１歳児　年６回（４月・６月・８月・１０月・12月・2月） ２～５歳児　年２回（４月・６月・８月・１０月・12月・2月） のうち2回実施
歯科検診	年１回（６月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの徹底、歯磨き指導、水分補給や休息の仕方の大切さについての話、衣服調整の仕方、年長児性教育
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月～８月頃･･･手足口病、アデノウイルス １１月～３月頃･･･インフルエンザ、感染性胃腸炎（ノロウイルス、ロタウイルス）、溶連菌
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在１９名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ１名については３月１９日までに受講予定
その他保健に関する取組	乳児は適宜検温、体に触れ体温確認を行う。 登園時の視診、園児の健康状態（けがの確認）の把握と健康管理 新型コロナウイルスおよび感染症予防の為、うがい・手洗い指導を行う。又、園内の消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 ０～１歳児　年６回（４月・６月・８月・１０月・12月・2月） ２～５歳児　年２回（４月・６月・８月・１０月・12月・2月）のうち2回実施 歯科健診　年１回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	掃除や管理の行き届いた保育環境を提供する。誰が来ても気持ちいい環境。
	実践予定内容	整理整頓や棚の上の掃除、掲示物の位置なども整えていく。 環境係が率先して掃除チェック表の確認、掃除の仕方などを意識していき、衛生面に配慮する。
2	計画・ねらい	子どもたちの発達にあった変化し続ける環境。自分で選択し発見を楽しめる環境構成。
	実践予定内容	子どもたちの発達に合う環境構成を整えられるよう、スタッフ間で話し合いを行い。必要な物的環境、人的環境を整える。 自分たちで選択し発見を楽しみ、経験に繋がるような環境を考える。
3	計画・ねらい	自由に行き来できる環境
	実践予定内容	子ども自身が安心できる場、主体性をもちやりたい発揮できる場ですごせる環境を整える。

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し、年間避難訓練計画に沿って消火訓練・避難訓練を行う。 ・年2回通報訓練を兼ねた総合避難訓練、年1回保護者と連携した児童引き取り訓練を行う。非常時はアプリを利用し保護者へ情報発信を行う為、通知訓練も合わせて行う。 ・入居するアトレ川崎の合同避難訓練に参加し、連携を図る。
2	洪水訓練	洪水計画に基づき、大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報を収集し、被害の未然防止の為対策を行う。又、年1回垂直避難訓練を行い、非常時を想定した安全対策訓練を行う。
3	事故防止委員会	・園内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努める。 ・半期毎にリスクマップを活用し、園内外のハザードの見直しを行い、ハザードマップの作成と園内での意識の共有をする。作成したマップは子どもの姿に合ったものであるように定期的に見直しながら、安全配慮に努めていく。
4	不審者侵入訓練	・園の置かれた環境、社会情勢を反映させた不審者侵入訓練を年2回実施し、安全・防犯への意識づけをする。 ・入居するアトレ川崎の防災センターとの連携を図り、緊急時の体制を整える。
5	光化学スモック	川崎市メール配信システムを活用し、発令があった時は速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行う。
6	救命救急講習	新年度キックオフミーティングにてエピペン講習、AED講習を行い必要時には全スタッフが正しい知識の元で使用できるようにする。
7	事故防止・設備点検・誤飲誤嚥防止チェック	年4回の事故防止チェック・設備点検チェックはクラス会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育・福祉の現場で次世代を担う人材育成のため、積極的に実習生・中高生の受け入れを行い異世代交流の機会を設ける。子どもと関わり触れ合う中で様々な経験を通し、子どもの理解を深めていかれるようにする。保育者は実習生と向き合うことで自身の保育の振り返り、保育のプロとして子どもへの関わりや対応について考える機会とする。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受け入れ、保育養成校の学生の実習の受け入れを行う。保育の仕事の素晴らしさを次世代へ繋げていく。 養成校や学校との交流につなげていく。

2	実践予定内容	保育者を実習担当につけ、より親身になった指導を行い学生も質問や疑問を聞くことによって安心して実習に取り組むことができるようにする。保育者自身も保育を振り返り考える機会を持つ。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催月	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「人権」「こどもの権利条約」虐待の定義について ③ ケガ・ケーススタディ研修	・子どもの人権、虐待の定義 ・命を守ることの大切さ、自覚を持ち保育を行う。ＳＩＤＳや子どもの命に係わる面での意識統一。 ・怪我の対応方法。
5月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 法人保育理念・日課の理解 ③ 園外保育の危機管理	・法人の理念や日課の大切さを学び直す。なぜ必要なのか。今の子どもたちにとって必要な経験をさせるために、どうするか。スタッフで考える。 ・散歩ロープレ
6月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント、保健衛生 ③ 乳児保育の発達について	プール事故防止訓練・水遊び時のリスクを想定した危機管理。水遊びと熱中症対策。 乳児の発達段階を把握し、適切に遊びや気持ちに向き合うために必要なことを考える。
7月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ６つの力について ③ 幼児保育について	５月の法人理念についてどうか振り返りながら、『６つの力』について考える。力を育むために今できているか。
8月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② ６つの力振り返り、環境構成と人的環境を考える	７月に考えた『６つの力』について振り返る。そのために必要な環境構成、人的環境について研修を行い、話し合い整えていく。
9月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 散歩の危機管理	プール後、散歩が始まる時期に散歩、戸外での活動の危険か所を再確認する。ハザードマップを確認しながら考える。

10月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケート振り返り ③ 保護者対応について	利用者アンケートを振り返り、必要なことを研修で行う。 保護者や来園された方に対するおもてなし、プロとしての対応の仕方を学ぶ。
11月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校を知る、児童要録	0歳児からの関わり、10の姿を考える。 アプローチカリキュラムについて考える。
12月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り（事業計画、Missionに対して）	事業計画と、運営本部Missionについて振り返りを行う。
1月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り（年間計画・保育）	年間指導計画や行事、1年間の保育について振り返り、次年度に向けて話し合う。
2月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② 第一回策定会議 次年度事業計画発表	今年度の振り返りを元に、次年度の園目標を決定する。
3月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第二回策定会議、次年度行事計画	プロポーザルを元に子どもたちに経験させたい行事を決定する。 農業計画

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈４〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈５〉大人も『にんげんカ』

保育者一人ひとりが園のねらいや課題を理解しながら日々の保育や保護者対応、地域との交流を自ら進んで行う。

園内研修や行事をスタッフ主導で進めていくことで、自身で必要なことに気付き調べて考えた情報をアウトプットしていく。そうすることでより理解を深め、相手への伝え方も学び、自身にとって何が必要なのかに気付いていく。自らそのPDCAを回していくことで、自身が必要なことを大人も挑戦し体験し学んでいく。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

・地域の子育て支援室へチラシの配布を行い、地域の親子に向けてちきんえっぐや園開放、地域講座の開催を知らせていく。
・リピーターを獲得できるような活動内容を行う。
・入居するアトレ川崎の商業施設との交流を増やしていく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：３００名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：スカイコートにて　　集客目標：１０名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設の定期訪問や保育養成校の学生、商店街ツアーでの交流を行う。
異年齢交流	幼保小接続の中での定期的な小学校との連携、地域の中高生による園訪問などのボランティア活動を行いながら、子どもたちが年齢の枠を超えて関わり合う。その中で社会性・思いやりの気持ちなど人と関わる力を育む。

地域拠点活動	・子育て支援「ちきんえっぐ」の運営・園庭開放 ・「ちきんえっぐ」では、絵本の貸し出しを行うことで繰り返し来やすいきっかけを作る。 ・アトレ川崎の広場や散歩先の公園での交流をきっかけに、実施している地域支援、地域向け子育て支援講座の紹介。 ・園庭の畑で苗の植え付け（種まき）、栽培、収穫、加工体験をおこない年間を通した交流を行うことでリピーターを増やす。 ・アトレ川崎のお店（有隣堂・ツバキ広場での特設出店）と連携を取り、スタッフの絵本の読み聞かせや絵本紹介などを行う。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣保育園との年長児交流や情報交換、また小学校を知るための取り組みを積極的に行う。

スタッフは小学校の授業見学や接続研修を通して教育内容を理解したり、子ども同士の交流を図ったりする機会を増やす。

スタッフ間交流を通して、園児が小学校へスムーズに移行できるようなアプローチカリキュラムを作成する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を５月１日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	旭朝小学校 川崎小学校	４名予定	運動会見学（旭町小・川崎小校庭）	小学校を知る スタッフ間交流
６月頃	幼保小連携会議・意見交換会	１名予定	研修・意見交換会	スタッフ間交流
１２月頃	川崎小学校・旭町小学校 1年	２名予定	授業参観（川崎小・旭町小教室）	スタッフ間交流
１月頃	幼保小連携会議/意見交換会	1名予定	研修/意見交換会	スタッフ間交流
2月	川崎小学校	14名	交流会（川崎小教室）	子ども・スタッフ間交流
2月	旭町小学校 宮前小学校	14名	小学校見学（小学校校舎）	子ども・スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況や発達を理解し、ケース会議の中で共有、振り返りを行い、週案・月案の作成時期及び個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行う。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：３名予定）

・園会議・クラス会議・週案会議などを利用し、個々の様子を共有しながらその子にとって必要なことを考え、支援へとつながるような理解を深めていく。

・配慮の必要な子だけでなく、集団生活の中で気になる子や成長・発達の過程で配慮を要する子についても共有し、一人ひとりに合わせた丁寧な対応を検討、実施していく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

・進学先の小学校や必要に応じては各種関連機関と連携しながら、児童要録・引継ぎ面談での子どもの育ちの詳細伝達を行う。

・進級時は園内での細やかな引継ぎを行い、個々の育ちや背景を配慮した丁寧な関わりへとつなげていく。又、肥後里から全スタッフで全園児を見ることで担当するクラスの子以外にも目を向け、信頼関係を気づきながら、用語と教育が一体となった保育が絶え間なく提供できるよう努めていく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：６０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：１０名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：１０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：１０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　アトレ川崎屋外広場：スカイコートにて開催　集客目標：１０名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年3月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１４時００分
自己評価終了予定時刻：１７時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、保育士代表1名、事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子どもたちが様々な人との関わりや体験を重ね、経験していくことで遊びや生活に対して自ら意欲的に過ごすことができる。自分のしたいことを満足するまでやり、子どもたちの意見が尊重されることにより挑戦する意欲をもてるようにする。 ・子どもの一人ひとりの成長を認め、常にその成長や発達をとらえる。子どもの成長について話し合うことを大切にし、子どもに必要な物的環境を整える。 ・大人も主体性を持ち、子どもたちの体験、経験の場を増やしていけるよう、スタッフ全員で学び続けることをしていく。保育者は個々の得意なことを発揮し、園全体の保育の質を上げ、保護者からの信頼、子どもたちのにんげん力の向上に繋げていく。 ・「大人のにんげん力・挑戦・繋がり・話し合い、考え学び続ける」をこの一年間大切にしていきたい。
	振り返り	子どもの体験や意欲的に過ごすことができるよう、計画などしていたが、新卒のスタッフや異動スタッフが多いことにより、スタッフの力量に差が生じ、統一した保育の実践が難しいと感じることもあった。リスク管理に重きを置きすぎて、体験へ繋げられないこともあった。 子ども一人ひとりについて話し合う時間を多く持つように、クラス会議や園会議でも時間をとるようにした。そうすることで子どもの成長や、今の子どもたちに何が必要なのか、考えて行動に移すことができるようになってきた。 下半期では、異年齢での関わりや活動の幅を広げていくことができた。

		異年齢での活動が増える中で、スタッフ間でも話し合いがより増えている。園会議の中で、スタッフ間で共通認識していく学びも少しずつできるようになってきた。 来年度に向けて、様々な人との関わりが持てるようにするにはスタッフも積極的に地域との関わりを増やしていかなければいけない。 また、異年齢での活動や選択制散歩が少しずつできるようになっているので、継続しつつより異年齢での活動が活発になるようにしたい。 地域子育て支援では、地域向けの講座や園庭開放で少しずつ訪問が増えているが、リピーターを確立していきたい。そのために広報活動やリピーターが増えるような活動を取り組めるよう計画をしていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

25年度	目指す姿	・自走できる集団を目指し、大人も『にんげん力』をつける。 ・リーダー層の視座をあげ園の課題に取り組む。 ・子どもたちの人権を大切に、法人理念を学び経験の大切さや意味を理解して実践していく。 ・地域や小学校との関わりを広げていく。地域の保護者が立ち寄りやすい園作り。
	重点施策	・保育のプロとして、子どもを動かすのではなく、子どもの心を動かせる保育者になるために、必要に応じて園内研修を取り入れ、学び続ける機会を設け保育の質を高めていく。どろんこ会の法人理念を学び直し、経験の大切さや意味を理解して実践していく。 ・リーダー会議を通して、園としてのリーダーの役割を確立し、自ら園を運営していく意識を向上させる。 ・小学校との繋がり、アプローチカリキュラムを通して安心して進級をする。 ・地域の子育て支援施設への広報活動や、地域の子育て親子がリピートして園を利用できるような仕組み作りをする。
26年度	目指す姿	・スタッフ一人ひとりが自立した集団を目指す。 ・にんげん力が育ち、子ども自ら気づき、考え、行動できる。 ・『選ばれる園』となるよう、活動の発信や地域との関わり、地域の保育所としての役割を広げていく。
	重点施策	・スタッフ一人ひとりが園の運営を自分ごと捉え、主体的に子どもや園のことを共有し話し合うことができる。 ・体験を通して、子どもが自らやりたいことを主張し、話し合い、遊びや活動を進めていくことができるように保育者は子どもとの対話を大切にする。より意欲がわくような環境を整える。 ・保育所の地域での役割を最大限の活かせるよう、相談できる場であることや交流や様々な体験ができる場であることを表に出していく。
27年度	目指す姿	・スタッフ一人ひとりの視座が高く、専門性の高い保育集団。 ・繋がりの輪を広げていき、子育て相談や気軽に遊び来られる憩いの場になる。
	重点施策	・リーダーが中心となり、活動や園内で必要な研修を取り入れ、全体として視座や保育の質を高めていく。

		・地域で会った方や来てくれた繋がりを大切に、来やすく相談しやすい雰囲気づくりをする。そうすることで紹介での繋がりや集まりやすく地域の方々の交流の場にしていく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム
施設長　古田島彩里

２０２５年度　春日どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

■保育理念：「にんげん力、育てます。」
■保育方針：「センス･オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

昨年度は子どもの発達に着目し、発達に沿った体験と保育計画の継続を意識してきた。また、職員間でも互いの保育に対する考えを発信し、認めながら協力して保育を円滑に行った。

【目指す子どもの姿】
・ホンモノの体験をもとに自ら考えて行動する子どもの生きる力が育ちつつ、様々な人と関わることを楽しんでいる。

【目指す保育者の姿】
・保育内容：ホンモノの体験を選択できる環境を整える。
・園の雰囲気：互いを尊重した対話で保育を語れる。
・職員の業務：業務における仕組みの改善、振り返り最後まで継続する。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	個々の子どもの発達を職員が理解する。
	実践予定内容	子どもの姿の共有、それを元にした子どもの発達に関する研修、振り返りを行う。
2	計画・ねらい	子どもが自発性を持って日々の日課や活動に参加し、様々な経験をする。
	実践予定内容	子どもの意思を大切にしつつ、様々な体験ができる物的環境や人的環境、活動を提供する。
3	計画・ねらい	子どもの主体性を育てる。
	実践予定内容	子どもが自分自身の意思の伝え方を学べるような活動を提供する。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者一人ひとりの気持ちに寄り添い、家庭と保育園の両方で子どもが健全に保育をされる。
	実践予定内容	保護者が気持ちよく子どもを迎えられるお迎え対応、方針を共有できる保護者懇談会、保護者が気持ちを話せる保護者面談など。
2	計画・ねらい	５Ｓ（整理整頓清掃清潔しつけ）を徹底した保育園となり来訪される保護者様が心地よく感じる。
	実践予定内容	整理：要不要の区別　整頓：場所を決める　清掃：整った状態であることを点検する　清潔：きれいな状態を保つ　しつけ：習慣化する
3	計画・ねらい	子どもが成長している姿が多様なメディアツールで共有される。
	実践予定内容	タイムライン、おたより、掲示物、写真販売、外部発信ツールなど。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育てセンター「ちきんえっぐ」を拠点とし、地域に開かれた子育て相談の場所として役割を全うする。
	実践予定内容	一時保育の受入れ、園庭開放、子育て相談と講話、イベント、子育て講座、育児相談会など。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	全職員が「心理的安全性」を大切にし、職員間の言葉遣いや立ち居振る舞いに気を遣い、お互いに思いやりを持って気持ちよく働ける環境を作る。
	実践予定内容	互いを思い合う気持ちを高め自己開示の研修、「社会人としての人間性」を身に付ける研修など。
2	計画・ねらい	全職員が保育のプロとして自覚を持ち、自分の知識をより深める。またそれを実行に移す。
	実践予定内容	子どもの発達に関する知識を深める研修、発達理論と実践をつなげる研修、若手勉強会、ケース会議など。
3	計画・ねらい	リーダーはスタッフの声を拾い上げ課題を設定し、保育の質の担保と園務分掌の仕組みづくりを行う。
	実践予定内容	目標設定を職員自ら行い、達成のために園長・主任・リーダーと主に課題を遂行する。 園運営における課題設定、業務の仕組みづくりなど。
4	計画・ねらい	心地よい園を作る。
	実践予定内容	５Ｓを徹底し、心地よい園を継続できる仕組みづくりを行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	持続し循環する環境を知る（SDGｓ）
	実践予定内容	食物→廃棄物→土→食材の循環を知る仕組みを作る。
2	計画・ねらい	食べたい料理の原材料を育てる。
	実践予定内容	食べたい料理の素材を自ら育て、生活と生産の循環を体験する。

〈6〉チーム春日どろんことしての組織文化の確立

1	計画・ねらい	個々の職員の考え方、気持ち、知識、知恵を合わせ、組織の強みとする。
	実践予定内容	職員のいいところと得意分野を共有する場、個人の強みに併せた園務分掌。
2	計画・ねらい	まずはやってみる。改善していく。
	実践予定内容	周りを巻き込みスモールスタートを実践、改善をして品質を上げていく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
１２人	２４人	２４人	３０人	３０人	３０人	１５０人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	２３人	看護師	０人	栄養士	２人	調理員等	１人
	再雇用スタッフ	０人	言語聴覚士	０人	臨床心理士	０人		
パートスタッフ	保育士	０人	補助	１人	調理	１人	事務	１人
	用務	１人	再雇用スタッフ	０人	嘱託職員	０人	嘱託医	０人
	言語聴覚士	０人	臨床心理士	０人				

３.運営方針

〈１〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返り、及び、次月に向けての意見交換 研修報告、保育の質を上げる園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況報告、アレルギー児確認・対応、食育計画確認、食事提供の改善ディスカッション
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故報告の共有と注意喚起、必要な事案を検討し日々の保育に活かす

ケース会議	月１回	発達に特性がある子どもについての情報共有、支援計画の振り返り
クラス会議・週案会議	週１回	保育計画の振り返り、子どもの姿共有、活動計画
週会議	週１回	各クラスの情報共有、行事の検討
リーダー会議	月１回	園全体の関わるクラスを横断する議題の意思決定
マネジメント会議	月１回	園の運営に関しての情報共有、検討

〈２〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一の議案共有・意見交換、運営状況報告
施設長勉強会	月1回	保育における共通テーマについての検討・意見交換
食育会議	年4回	自園の取り組み成果発表
保健会議	年4回	献立内容の改善・提案、食育計画進捗状況報告
主任会議	年４回	保育における共通テーマについての検討・意見交換
子育ての質を上げる会議	月1回	子どもの発達についての検討・意見交換

〈３〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	清掃指導と衛生管理、感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保護者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの見直しと更新
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づいて消火・通報および避難訓練を定期的に実施
食品衛生責任者	食材発注および給食提供食材の衛生管理と在庫管理
田んぼ係	田んぼの計画・管理、用具類の管理および補充
畑係	畑の計画・管理、用具類の管理および補充
写真係	写真チェック・販売申請、卒園アルバム作成
卒業アルバム係	卒業アルバム制作

園芸係	園周りや園庭の環境整備
備品発注係	消耗品・事務用品・保育材料の購入、管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭係	祭の企画・運営、地域への広報
地域交流係	異世代交流、地域行事参加等の窓口業管理
子育て支援係	ちきんえっぐの活動計画、実施

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	ゆったりとした関わりの中で、子ども一人ひとりの気持ちや意欲を尊重し、健やかな発達を促がす
	下半期 0～1歳児	安心できる大人との関わりの中で、人に対する信頼感、愛着関係を形成し、自己肯定感をはぐくむ
幼児保育	上半期 3～5歳児	個々の発達を把握し「見守る保育」を実践する中で、子どもが自らやってみたいと思えるような環境を整え、遊びによる満足感や充実感を得られる保育を行う
	下半期 2～5歳児	好きな遊びを見つけ、戸外や室内で友だちを意識して遊ぶ
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	五感を使える体験を行い多様な味覚を育て、子どもも大人も心身ともに豊かになる。
	実践予定内容	堆肥作り、畑仕事、日々の味見体験、出汁比べなどの行事。
2	計画・ねらい	持続可能な食環境を子どもが考えられる機会を作る。
	実践予定内容	自分の食を知る：食べこぼしの認知、残食糧の可視化、バイキングにて自分が食べきれる量の把握。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（４月・１０月）
歯科検診	年２回（６月・１２月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導､手洗いうがい指導､咳エチケット
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６～８月頃･･･手足口病、プール熱 １２～２月頃･･･溶連菌、インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／事務所冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在３２名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在３２名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	インフルエンザおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日

	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／４･10月 歯科健診　年2回／６･12月 尿検査　　年1回／２月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	整理整頓・清掃・衛生管理
	実践予定内容	５Ｓを知る研修。理想状態を作り共通認識を作ること、日々確認するべきことを徹底することをリーダーと共に確認を行う。
2	計画・ねらい	室内環境・屋外環境
	実践予定内容	物的環境と自然環境を子どもの発達に併せて適宜更新していく。 室内では子どもの発達に合わせた体験ができる環境を作る。 屋外では子どもが自然の中で体験できることが自由にできることを徹底するために火水土など十分な素材を用意する。

〈７〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	長ベンチテーブル	園庭	毎日
2	六角テーブル	園庭	毎日
3	木製 巧技棚	園庭	毎日
4	平均台	室内	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い火災・地震の避難方法を確認。（6月・11月は消防署と連携をした総合訓練を行う）災害緊急時にはアプリを使って園児情報を発信する。
2	事故防止	危機管理マニュアルのケガ事故の防止策に則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。ハザードマップを作成・半年に1度更新し、ケガや事故防止に努めていく。毎月の事故防止委員会で事故記録簿・インシデント・ヒヤリハット報告書の共有・分析、防止策を検討し再発防止に努める。
3	防犯対策	警察と協力し年2回不審者侵入訓練を実施し、不審者侵入時にはフローチャートに従う。日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく。
4	光化学スモッグ pm2．5	危機管理マニュアルの光化学スモック対策に則り、光化学スモック・ｐｍ２．５の知識を身につけ、注意報発令の把握をしながら発生時には、光化学スモック発生時対応および行政連絡に従い対応する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・基本方針

実習生や中高生の職場体験・交流などの受け入れは、次世代育成・地域貢献のため積極に行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて保育・子育てで大切なこと、大事にして欲しいことなどを具体的に理解し易いように伝え、援助や指導を行う。

・配慮点

実習生には保育の楽しさや魅力を熟練度に沿って伝えるように配慮し、次世代を担う実習生にとって保育の魅力を感じてもらえるようにする。

1	実習生	近隣養成学校より受入れ予定。
2	中高生	春日東中学校1年生他を受入れ予定。
3	実践予定内容	保育体験、保育実習、記録の記入方法、子どもとの接し方の指導　など

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシーNO3自己採点 子どもの発達段階理解①	各クラスの子どもの発達の現状を確認し、一年後を見据えてどのような体験が必要か理解する。
5月３０日	18:00～20:00	①コンピテンシーNO4自己採点 子どもの発達段階理解②	各クラスの子どもの発達の現状を確認し、一年後を見据えてどのような体験が必要か理解する。
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシーNO3自己採点 保育計画	保育計画の立て方、OODAループPDCAサイクルの再確認
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシーNO4自己採点 10の姿の再確認①	10の姿の再確認
8月29日	18:00～20:00	① コンピテンシーNO3自己採点 10の姿の再確認②	10の姿の再確認
9月26日	18:00～20:00	①コンピテンシーNO3自己採点 10の姿の再確認③	10の姿の再確認
10月31日	18:00～20:00	①コンピテンシーNO3自己採点 10の姿の再確認④	10の姿の再確認
11月28日	18:00～20:00	①コンピテンシーNO4自己採点 10の姿の再確認⑤	10の姿の再確認
12月26日	18:00～20:00	①コンピテンシーNO3自己採点 保育計画 振り返り	各クラス 保育計画を振り返り、新年度に向けてどのような体験が必要か理解する。
1月３０日	18:00～20:00	①コンピテンシーNO4自己採点 一年総括：翌年度に向けて	個人とチームで一年の総括を行う。翌年度の計画に生かせる振り返りをし、翌年度の飛躍を狙う。
2月20日	18:00～21:00	策定会議１	翌年度の方針を全員が理解する。

3月８日	9:00～18:00	策定会議２	翌年度の行事を全員が理解する。

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈４〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈５〉新職員勉強会

新しく入職した職員を対象により丁寧に細かくかみ砕いて保育品質マニュアルの内容の講習を行う。また、新たに入職した職員ならではの日々の保育の悩みを共有するし、一緒に解決する方法を話し合える場とする。

研修の担当は年代に合わせて４年目以降の職員から主任、施設長が担当する。

〈６〉リーダー育成勉強会

年 ４回 中堅の職員を対象にリーダーとは何か、その立ち居振る舞いを確実に身に付け実行するための研修と後輩指導についての学びを深める研修を行う。講師は施設長が行う。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験し、また、地域からも関心を持ってもらえる発信をもとに地域との関わりを深めていける計画を実施する。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：４００名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：小倉東公園にて　　集客目標：１００名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問､中高校生の職場体験学習の受入れ 地域の方･園開放利用の親子との交流
異年齢交流	他園交流､小中学校生徒の交流
地域拠点活動	一時保育･ちきんえっぐ･地域行事への参加
先頭でお風呂の日	なし

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

以下の計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。メインは大谷小学校との交流を図り、他小学校とも連携を進めいていく。スムーズな就学を目的とし、保育園と小学校との接続が円滑に進む情報交換や発達・成長の様子をはじめ、子どもの姿を共有できるように働きかけていく

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月14日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	春日市立大谷小学校 春日市立春日東小学校	4名予定	小学校との連携を確立する （各小学校）	職員間交流

7月頃	春日市立大谷小学校	30名予定	小学校の校舎を見よう/ 授業参観 （大谷小学校）	子ども間交流
10月頃	春日市立大谷小学校 春日市立春日東小学校	４名予定	小学校との連携を確立する (春日どろんこ保育園)	職員間交流
２月頃	春日市立大谷小学校	30名予定	授業参観 （大谷小学校）	子ども間交流 情報共有

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

支援が必要な子どもについては個別に保育計画を作成。家庭や連携機関と情報交換を密にして一人ひとりに応じた保育を行い、自らの育つ力を伸ばしていけるように支援し丁

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：３０名予定）
毎月１回　年間計１２回開催予定。日々変化していく子どもの様子を記録し職員全員での共通理解を図る。どの職員でも同じ対応で関わる。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

特に幼児クラスにおいては、就学を見据え必要に応じて関係機関との連携を図っていく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：２００名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：５０名
自然食堂…親子ランチ交流	月2回　10:00～12:00　　集客目標：５０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 10:00～12:00　　集客目標：５０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：小倉東公園にて開催　集客目標：１００名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審
受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施
２０２５年9月までに「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１６時００分
自己評価実施予定者：内部監査室担当者、施設長、主任、保育士

〈3〉利用者アンケートの実施
施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化
〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・体験を経て知った学びや意思に沿った遊びに没頭する中で、子どもの生きる力が育つ経験をしている。 ・保育内容：子どもの発達に沿って様々な体験を作る。 ・園の雰囲気：互いの考えや保育を認め、それぞれが意思を出しながら協力する。 ・職員の業務：園で作った仕組みを継続して最後まで行う。
	振り返り	子どもの発達に着目し、発達に沿った体験を行ってきた。それに伴い、保育計画の継続を意識してきたが、継続するという面では課題を感じる。職員間でも互いの保育に対する考えを発信する姿は多く見られ、認めながら協力して保育を円滑に行うことが出来ていた。翌年度は、継続するための仕組みづくりにも取り組みつつ、対話を通しての職員間の関わりを大切にしながら保育を展開したい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度（開園8年目）	目指す姿	基盤を元にした発展とリーダー意識 【子ども】 子どもの発達に沿った適切な環境が整っており、子ども自身で考え行動している。また自分に自信を持てることでお互いのことを思いやること

		が文化になっている。 【保育者】 業務の仕組みが整い改善されている。またそのための諫言ができている。目指す保育の姿が共通理解されている中で、職員は自ら考え最善の行動を選択している。またお互いのことを尊重しながら穏やかな言葉遣いでチームが機能している。
	重点施策	子ども観の共有と議論をする場作り。 業務における仕組みの改善、振り返り。 諫言できる雰囲気づくり。
2026年度（開園9年目）	目指す姿	発展と互いの思いの尊重 【子ども】 互いを思い合いながら、共同して過ごすことが出来ている。また自信を持って子ども自身で考え行動している。 【保育者】 業務の新たな発展の為の仕組み作りを常に心がけている。また子どもの発達に沿った適切な環境が整っており職員は自ら考え、互いの思い、を尊重しつつチームで発達への理解、知識を深め保育に生かしている。
	重点施策	子どもの発達に沿った適切な環境作り。 保育の知識と保育方針の共通理解を行う場作り。 諫言できる雰囲気づくり。
2027年度（開園10年目）	目指す姿	挑戦とコミュニケーションの充実 【子ども】 挑戦する楽しさを知り、自己決定が尊重され自己肯定感が満たされた中で、共同して過ごすことが出来ている。 【保育者】 職員間の対話から子どもの発達を見つけられるチーム力業務の新たな発展の為の仕組み作りを常に心がけている。また子どもの発達に沿った適切な環境が整っており職員は自ら考え、互いの思いを尊重しつつチームで発達への理解、知識を深め保育に生かしている。
	重点施策	子どもが自ら挑戦したくなる環境づくり 保育の知識と保育方針の共通理解を行う場作り 互いを尊重しながら対話できるコミュニケーションの充実

以上

作成日：２０２５年3月15日　　作成者：春日どろんこ保育園 施設長　篠原 百合香

２０２５年度　宮下どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

　宮下どろんこ保育園は２０２５年度で開所８年目となる。近隣環境においては豊かな自然に恵まれ、田園風景の中を散歩したり、川遊びをしたりなど自然環境を最大限に生かしながら保育を行っている。また、地域の方々や学生とも積極的に交流を行い、地域で支えあい、見守られながら子どもたちは日々成長している。今後も、地域に根差した保育園を運営し、児童発達支援事業併設施設として地域や保護者からも選ばれ続ける園を目指していくために、以下の取り事業計画を策定致します。

【誰もが主役になれる場所】
健常児、障碍児、保育者、利用者、それぞれの個性や強みを生かし、一人ひとりにスポットライトを当てていく。子ども中心はもちろんのこと、時には大人が中心となりそれぞれの個性を発揮しながら、大人も子どもも輝ける場所を目指していく。そして共に学び、共に育ち、助け合う仲間と、より良い「宮下どろんこ保育園」の未来を創り上げていく。

【基本理念『ホンモノ』にこだわる】
ITやゲーム等が急速に普及し、間接体験が増える一方で直接体験の不足が懸念されている。保育園が幼児教育機関として認められた今、保育園で出来ることは日頃から火や水、土など本物の自然に触れることで、子ども自身が直接体験を通して五感を研ぎ澄ますこと、地域に守られていく中で交流を深め様々な世界を知り、感じることである。そのために保育者は様々な機会や学びが生まれる環境を用意していく

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	みんな違ってみんないい～多様性を認め合う～
	実践予定内容	子どもも保育者も、自分とは異なる価値観を持っている人がいることを理解し、尊重することを学んでいく。子ども同士で話し合う場を設けることや、保育者同士でも互いの意見を認め合える環境や風土を築くことで、保育園全体で、発達支援事業併設園としての強みを生かしていきながら、互いに支え合う循環を作っていく。
2	計画・ねらい	キケンを排除しない子育て
	実践予定内容	宮下どろんこ保育園では、川遊びや焚き火などの「本物」の体験活動を通して、危険物との距離の取り方を学んでいます。その際、大人が規制線を張ることなく、子どもたちが自らの体験を通じて安全意識を育むことを大切にしています。これにより、子どもたちは自分自身の経験を基に、「ものさし」を身につけて成長していく。
3	計画・ねらい	異年齢保育、インクル―シブ保育の拡充
	実践予定内容	現在も異年齢保育、インクルーシブ保育を実施しているが、さらなる発展を目指していく。保育園を一つの大きな家と捉え、子どもたちが自ら関わり合える環境を整えることで、大人が主導しなくとも、子ども同士、一つ屋根の下で本当の兄弟のように支え合って生きていく姿を目指していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	面談を通じて、より綿密な共育てを目指していく
	実践予定内容	保育園の様子をお伝えするだけでなく、子どもの家庭での様子やエピソードなどを互いに共有することで、子どもの成長や変化に対する理解を深め、家庭と保育園が一体となってサポートできるようにしていく。お互いの視点を尊重し、協力し合うことで、子どもがより安心して成長できる環境を提供してく。
2	計画・ねらい	お迎え対応
	実践予定内容	「012歳クラス」 エピソードのなどを交えながら、お子様の園での様子を手に取るようにお伝えしてく。 「345歳クラス」 活動内容やお子様の姿の一部分をお伝えする「キーワード伝達」を行うことにより、ご家庭での会話作りのきっかけを提供する 乳児幼児クラス共に、子どもの体調面や様子の変化についてはより丁寧にお伝えすることで、家庭との連携を密に行っていく。 また、連絡帳やタイムライン等を活用しながら保育の様子を発信していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援拠点としての役割
	実践予定内容	地域の子育て拠点として、積極的に地域へ情報を発信していく。いつでも気軽に支援センターを利用できるよう、園舎周辺の清掃や日々の挨拶等を丁寧に行うことで、地域に開かれた園を目指していく。
2	計画・ねらい	地域子育て支援拠点との連携強化
	実践予定内容	地域の子育て支援拠点及び、新たに開所される支援センターとの連携や交流を密に行うことで、地域における支援課題を抽出し課題に合同で取り組んでいく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育者同士の学び合い
	実践予定内容	保育の質向上のために研修を受講することはもちろん、スタッフ同士で知識を共有（アウトプット）することで相互の学びに繋げていく。研修を受けるだけでなく外部に向けた研修の実施や社内外に向けた取り組み発表等も行っていく。また近隣園の内箕輪どろんこ保育園とも連携し、研修の場や交換研修等も実施していく。
2	計画・ねらい	リーダー層のマネジメント力強化
	実践予定内容	保育運営には欠かせないリーダー層のマネジメント力強化と育成に力を入れていく。リーダー会議に加え、マネジメントに関する勉強会を開催したり、外部研修にも積極的に参加したりすることで、リーダーがミドルリー

		ダーを育成する循環を作り上げ、仕組みを整えていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	給食残差減少に向けて
	実践予定内容	給食残差を2022年4月1日時点の数値の７０％に減少させていく。そのために、日々の畑仕事を通じて食材の加工を知り、味わうなど食に興味関心を持ち、食べたくなるような環境つくりや言葉がけを園全体の取り組みとして行っていく。
2	計画・ねらい	日々の畑仕事を通じて、野菜の成長を喜び、収穫まで見届ける。
	実践予定内容	園庭の畑で育てている作物の世話を日課として行っている。日頃食べている食物がどのように育ち、私たちの食卓に運ばれてくるのか、その過程や苦労を知ることで、食べ物へのありがたさを感じる。

〈6〉保育者の主体性

1	計画・ねらい	園全体が1つのチームとして一丸となり園運営を行っていく
	実践予定内容	クラスや事業形態の枠にとらわれず、保育者一人一人が全園児のことを考え、発言提案していける現場を創っていく。そのためにも定期的に子ども感を共有する場や、スタッフが保育の中で挑戦してみたいことなどを話し合う場を設けていく。

〈7〉インクルーシブ保育の実現

1	計画・ねらい	混ざり合う保育について、語り合う。
	実践予定内容	自分が思うインクルーシブ保育について、スタッフ間で語り合い、出来ることを見つけていく。スタッフがそれぞれ同じねらいを持ち、インクルーシブ保育を実施することで大人も子どもも自然と混ざり合う姿を目指していく。
2	計画・ねらい	スタッフ全体で、子ども一人ひとりを理解し、同じ目標をもって関わっていくことで、全体で見守っていくチームを目指す。
	実践予定内容	一人ひとりの発達段階や、成長の目標を共有し合い、ケース会議を積み重ねていくことで、スタッフ全員で同じ目線で子どもに接し、同じ意図を持って子どもを見守ってゆけるようにしていく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	１７人	１７人	１９人	１９人	90人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	１０人	看護師	１人	栄養士	２人	調理員等	1人
	事務	1人	施設長	1人	主任	1人		
パ　ー　ト その他	保育士	４人	保育補助	１人	用務員	1人	嘱託医	2人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・コンピテンシー ・活動の振り返り及び共有、子どもの姿の共有 ・園内研修
給食運営会議	月1回	・食育活動の策定 ・食育活動実施内容の共有 ・喫食状況（残食記録）の確認 ・給食簿指摘事項の確認
事故防止委員会	月1回	・自園、他園の事故記録簿を活用し、事故防止に向けての討議やハザードマップの見直し等
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画の振り返り及び考察 ・要支援児個別計画の見直し
リーダー会議	週1回	・各クラスの問題点

		・保育内容、環境について
クラス会議	その都度	・各クラスの保育内容 ・環境への配慮 ・その他

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例確認事項、コンピテンシー、請求スケジュール各部署からの連絡、確認事項の伝達
施設長勉強会	月1回	施設長の質向上に向けた勉強会
食育会議	年4回	献立内容の振り返り、改善や提案。食育活動の共有。
保健会議	年4回	感染症対策や衛生についての討議、共有
主任会議	年4回	主任としてのスキルアップ、園運営、スタッフ育成について
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上に向けた研修や討議等
併設園会議	年2回	併設園に於ける課題の抽出及び取り組み成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育環境、衛生、予防に関する提案
安全対策係	防犯、保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練、不審者訓練、通報訓練の実施、改善の取り組み、消防署への届出
食品衛生責任者	食の安全、食育活動への取り組み、衛生点検
畑係	年間を通しての企画、種、苗の購入
生き物係	日々生き物の世話をしながら、命の大切さを知らせていく

〈４〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズと連携し、どろんこまつりの企画及び運営

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保護者との信頼関係を丁寧に築いていき、子どもが保育者に見守られながら安心して保育園生活を送る。 ・子どもの個々の発達を見極め、必要に応じた言葉掛けや援助を行う。
	下半期 0～1歳児	・子どもの心情や様子を汲み取り、気持ちに寄り添った環境構成を行っていく。また子どもが自発的に試したいと思う環境を準備し、保育者が見守る中で十分に遊べるように工夫していく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・自ら学びを考え、楽しめるような環境構成や遊具の導入等も行っていく。保育者は側で見守り、必要に応じて援助を行うことで子どもの自発的な行動を引き出していく。 ・友達との繋がりを広げ集団で行動することを楽しみ、自分の気持ちを言葉や行動で表現する力を養う。
	下半期 2～5歳児	・異年齢児で触れ合う中で、互いに刺激を受けながら自分たちで解決し様々なことを学び成長していく。 ・数量や図形、文字などへ興味関心を持つ。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、薪や炭を利用した調理方法を体験し、直火ならではの魅力を感じる。日頃から焚火を行い、自然の２面性を知ることで、火の取り扱いを安全に身に付けていく
2	計画・ねらい	お米を知る
	実践予定内容	日本人に慣れ親しんでいるお米について学んでいく。知識だけでなく、実際に釜や飯盒、災害時の米の炊き方等を子どもたちと学んだり食べ比べたりしながら違いを知る。また、園庭の田んぼを活用し田植えや稲刈りを通して労働の大変さや食材のありがたみを知る
3	計画・ねらい	鶏（家畜）の世話を通して世話の大変さや生き物に対する命の尊さを学んでいく。
	実践予定内容	前年度においては園で飼育している鶏を２羽捌き、食す体験を実施した。今年度においては、新たに鶏を購入ししっかりと飼育していく過程から始めていく。今年度においては捌く体験はできないが、生き物を飼育することの大変さやさまざまな食肉の話を行うなど鶏の命を無駄にしない取り組みを行っていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・11月）
歯科検診	年１回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、流行性感染症の予防
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 冬季･･･インフルエンザ、胃腸炎　等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･７名より預かり済み／事務所冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２２名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては4月４日までに受講予定
その他保健に関する取組	法人内外の保健に関するお知らせの掲示 基本的感染症対策の遂行

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／4･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	居心地の良い園舎、保育環境を目指して
	実践予定内容	異年齢保育を実施するうえで、子どもたちが園舎内を自由に行き来しそれぞれの場所で楽しく安全に過ごすことができるよう、
3	計画・ねらい	園舎の環境美化
	実践予定内容	開園が7年目になり、修繕箇所の増加や汚れが蓄積されている箇所が増えてきている。早番、遅番で園舎内外の清掃点検を行うだけでなく、施

		設長、主任が率先し朝の清掃等も行い、園舎の美観を意識した取り組みを行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	対象なし	対象なし	対象内

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	光化学スモッグ	市が発信する光化学スモッグ情報を随時共有するとともに、園外で活動についてはマニュアルに基づいた対応を行っていく。 園内についても窓を閉め、子ども達の健康状況について留意する。
2	水辺のリスクマネジメント	川遊びの資格を有するスタッフが中心となり、川遊びやプール遊びの際の事故防止についての研修をおこなう。プール活動時期においては事故防止だけでなく事故発生時のシミュレーションを行い有事に備える。
3	応急救命	怪我の応急手当や心肺蘇生方法について学ぶ。また、スタッフも積極的に上級救命等の講習へ参加し資格を取得していく。
4	危険生物対策	危険生物や危険植物についての基礎知識を学び、戸外活動時におけるリスクを未然に防ぐ。また、危険生物に対する応急手当についても学ぶ。
5	防犯対策	不審者訓練実施や警察との連携を図る。 消防計画に基づいた訓練の実施、振り返りをおこなう。
6	怪我防止	ヒヤリハット、ハザードマップの集計分析を行う。他園の記録も活用することで、自園で発生しうる可能性がある事故を未然に防いでいく。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・実習依頼があった園からは積極的に受け入れを行い、実習生に寄り添った指導を心掛けていく。
　また、保育園側からも学校等へ積極的に関わりを行っていく。
・近隣の中学校、高校から依頼があった際も積極的に受け入れを行い、教員と連携しながら安心して体験学習を行えるよう配慮する。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解・ハザードマップの留意点 ③ケース会議について	子どもの目線、視点を実際に体験することで日々の保育やハザードマップ作製に生かす
5月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リズム体操研修	ピアノの弾き方や作業療法士の目線から、リズム体操における体の使い方や効果について学ぶ
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント ③ 応急手当について	プールの事故防止についてディスカッションを行うと共に、夏に発生しやすい事例をもとに応急手当てについても学んでいく。
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード記録	子どもの日常を切り取り、子どもの感性や保育者の気づきの視点を共有し学びあう
8月29日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 支援計画について	支援計画の重要性や立て方、注意点など踏まえ、改めて発達支援について考える。
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学関係について	学校で求められる必要な力を考え、就学に向けて今できることを改めて考える。
10月31日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートについて ③ 虐待防止研修 ④ SIDS予防研修	利用者アンケートの結果をもとに改善点を洗い出し、保育の質や保護者満足度向上につなげていく。 虐待防止、SIDS事故防止について話し合い意識を高めていく。
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 質の高い戸外活動・散歩	目的地に向けて歩いていくだけでなく、ねらいを明確に持ち散歩先でも質の高い活動ができるよう、野外での活動等を学んでいく。
12月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症における基礎知識 ③ 嘔吐発生時におけるロールプレイング	感染症における基礎知識を身に付けると共にロールプレイングを通して、冬の感染症拡大に備える。

1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間の振り返り実施	年度の振り返りを行い、残り２か月間で課題解決を行いながら、次年度へ繋げていく。
2月20日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 第1回策定会議	次年度に向けての計画を行う。
3月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② 第二回策定会議	次年度に向けての計画を行う。

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈４〉スタッフ個人別育成計画

・施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。
・法人内部、外部で実施される研修を見える化し、積極的に参加を募る。
・若手スタッフに向けたフォローアップ研修を施設長が年数回行う。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

地域に根付いた園であることから、今後も近隣住民の方や、学校、老人ホーム施設等の交流を積極的に行っていく。地域を見守ると同時に見守られる園として近隣地域と密に連携を取りながら運営を行っていく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　目標：４００名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：宮下公園にて　　目標：12名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事への参加、高齢者施設みのりへの訪問交流、 小中高生の体験学習受け入れ
異年齢交流	散歩先で小学生との交流、青空保育での交流等
地域拠点活動	青空保育、子育て相談、ちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

小学校に隣接している環境を最大限に生かし、小学校教諭との意見交換を積極的に行う。保育者は学習指導要領やスタートアップカリキュラムを理解したうえで、小学校への接続が円滑に行えるように意識していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月７日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月 ３０日	周南小学校 １年生	１９名予定	「小学校ってどんなところ?」校舎内探検　1回目	子ども間交流
10月	周南小学校	１９名予定	「小学校ってどんな	子ども感穀交流

２４日	1年生		ところ?」校舎内探検　２回目	
10月 ２５日	周南小学校 校庭	１９名予定	授業見学	スタッフ間交流
2月 １４日	周南小学校	１９名予定	児童要録を基に園児の引継ぎを行う予定	(教スタッフ保育士間連携)

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画を立案し、具体的な対応をスタッフ間で共有していく。
保護者との面談の重視し、子どもの成長発達を同じ視点で得られるようにしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：10名予定）
配慮が必要な児についての共有や関わりについてスタッフ間で話し合いを行う。
発達支援つむぎと連携し、情報と支援の在り方を共有しながら支援していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級に際し支援が必要な子どもに対しては早期相談の場を求め、擁護教諭や発達支援担当スタッフへの引継ぎを行う。
通所など必要と感じられた場合は、保護者の同意を得て発達支援つむぎ宮下ルーム及び関係者への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：６０名 （施設長確認ナビゲーション） 園開放は運営全園にて9:30～16:30にて実施。補助金を受給しているセンター園については、10:00～12:00と13:00～16:00の計5時間は2名のスタッフを配置とし、その他時間帯は自主事業として実施する。
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：１２名
自然食堂…親子ラン	毎週（水）10:00～12:00　　目標：１２０名

チ交流	
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　目標：１２０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：宮下公園にて開催　目標：３６名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１０月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１３時００分
自己評価終了予定時刻：１４時００分
自己評価実施予定者：羽澤佑太・佐藤宏美・髙橋美桜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	園自治～法人モデル園を目指して～
	振り返り	保育の質やインクルーシブ、スタッフの知識技術向上や園の美観などを総合的に高め、実習生の受け入れ拡充等にも力を入れてきた。保育の質向上に関しては内部監査結果からみても向上しており、清掃面や美観意識についても結果として表れている。また、実習生の受け入れに関しても積極的に受け入れており今年度は８名の実習生を行け入れ後進育成に園全体で努めている。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	自立した、保育のプロ集団をめざして
	重点施策	スタッフ一人ひとりが保育に対する思いを持ち、互いに認め合いながらチームとして、子どもにとって最善の利益を考えながら保育を行う。 研修を受けるだけでなく、自身の経験や知識をアウトプットすることで共に学び合い、保育の質を深めていく。また、併設園としての強みを生かして、スタッフの知識や技術を最大限に引き出していく。
2026年度	目指す姿	地域の子育て支援拠点として積極的に外部発信を行い、地域との連携を密におこなっていく。地域の子どもを見守り、見守られる関係性を深めていく。
	重点施策	社会、地域の子育て環境における課題を抽出し、必要とされる支援や連携を図る。園庭開放や、ちきんえっぐを利用される方とも積極的にコミュニケーションを図り、いつでも安心して相談等が行える関係性作りを行う。
2027年度	目指す姿	他法人、公立保育園等の見学受け入れや交流を積極的に行う
	重点施策	法人内での交流は実施できているが、他法人や公立保育園のスタッフや子ども同士の交流は現状できていない。市の園長会議等を通じで自園へ見学受け入れや交流に関して積極的に発信を行っていく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：宮下どろんこ保育園 施設長　羽澤　佑太

２０２５年度　つつじヶ丘どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ．基本方針

【社会福祉どろんこ会　法人理念・方針】

子育て理念･･･「にんげん力。育てます。」

子育て方針･･･「センス・オブ・ワンダー」「人 対 人コミュニケーション」

【運営本部Mission】

【主題】原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～

「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

【つつじヶ丘どろんこ保育園　園目標】

【　みんなの居場所　～個性あふれる自分サイン～　】

つつじヶ丘どろんこ保育園は併設園として８年目を迎える。

異なる年齢の子どもたちやつむぎ つつじヶ丘ルームに通う子どもたちが、自然に混ざり合いインクルーシブ保育をしながら、園舎という大きな家の中で互いに存在を認め合い、共に遊び、助け合える保育環境を大切にしていく。

運営本部Missionをどのように園内で実現できるか、スタッフ同士で考え実践していく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の子育てを追及し、実践する。
	実践予定内容	畑仕事、ヤギ・鶏の小屋掃除、糞の始末、雑巾がけ、銭湯で裸の付き合いがなぜ必要なのかを考え、保育者が理解したうえで丁寧に実践していく。
2	計画・ねらい	表現したいと思える環境を作っていく。

	実践予定内容	身近な環境や経験から心を動かす出来事に触れ、子どもの感性を育むと共に、感じたことや考えたことを自分で表現できる環境作りを行う。 言語表現や造形表現、音楽表現、絵画表現等の素材や道具を設置することで、子どもの表現の幅を大きく広げていく。
3	計画・ねらい	子どもの興味・関心からりかい保育を展開していく。
	実践予定内容	日々の保育の中で子どもたちの姿をよく観察し、今興味関心があることを捉えながら保育を展開していく。 中期・長期的視点で遊びを発展し、子ども同士が対話しながら共同的な学びが得られるような保育を考え、展開していく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者との信頼関係を作り、より良い子育て環境を作る。
	実践予定内容	「保育の見える化」に力を入れていく。 日々の子どもの活動をお迎え時に伝えるだけでなく、タイムラインや、制作物、写真の展示をすることで成長を伝えられるようにしていく。 個人面談や保育参加の機会を多く持つことで、安心していただき法人の活動に理解いただける場としていく。 保護者懇談会で、保育者が大切にしている保育内容や日頃の活動の様子を、写真を用いて伝える場とする。
2	計画・ねらい	保育参加、個人面談の実施
	実践予定内容	声かけやポスターを貼り出すことで、参加したいと思えるよう工夫をし続ける。保護者にしっかりと寄り添い子どもの成長や課題について共に理解し、家庭と園が同じ目線での育ちを見守っていく。
3	計画・ねらい	「共育て」の意識を高める。

	実践予定内容	子どもを軸においた対話的なやり取りを通し、子育ての楽しさや喜びを互いに感じられる支援や情報を提供する。 園で行っていることや大事にしていることを保護者と共有し共に育てていく意識を持てるようにする。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	選ばれる園をつくる
	実践予定内容	丁寧な入園説明会や園案内など、いつ見学者が来ても良いように自分の言葉で伝えられるスタッフを増やしていく。 スタッフがやりがいを持ち、働きやすく、保護者・地域・自治体の方から信頼され、評判のよい園づくりをしていく。
2	計画・ねらい	園庭を活用した火・水・土の直接体験の提供をする。
	実践予定内容	水遊び、どろんこ遊び、畑仕事、たき火など園の環境を最大に生かした火・水・土の直接体験を提供、体験していく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた子育て内容の実現や、美観を通し選ばれる施設を目指す。
	実践予定内容	イベントだけでなく、園庭開放や子育て相談、保育事業が混ざった環境の保証をする。 保護者・来訪者がいつ見ても気持ちの良い環境を整え、選ばれる施設を目指す。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダー層のスタッフが若手スタッフの育成担当として役割を担う。

	実践予定内容	人材育成の役割をリーダー層のスタッフが担当し、目標設定、業務確認、進捗確認のサポートを行う。また、保育の質の向上やスタッフのチーム保育を進めるための園内研修の企画、運営も担っていく。
2	計画・ねらい	チーム力を高める。
	実践予定内容	全スタッフが全ての子どもを見守り、保育する環境を作る。 また保育の質向上のため、リーダーを中心に日々の振り返りと改善を行い、保育について話す時間をつくる。 話し合いでてた意見は記録で残し、全スタッフが同じ目線で保育できるようにする。
3	計画・ねらい	スタッフの目標設定から達成までのマネジメントをする。
	実践予定内容	スタッフが主体的に考え行動する中で、進捗状況を確認しながら改善点があれば何が原因か見極めサポートしていく。またスタッフの特性、個性、長所を活かせるよう仕事を分担し、スタッフのモチベーションにつなげる。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	畑仕事、食品加工、卵拾い、ヤギや鶏などの生き物の小屋掃除と糞の始末、命をいただく活動を行う。
2	計画・ねらい	陸の豊かさを守る活動の実践
	実践予定内容	木育＝木材利用に関する教育活動 地球温暖化や持続可能循環社会の形成など、環境問題について理解し、学び、実践し興味関心をもてるような活動を行う。

〈6〉　発達支援つむぎ　つつじヶ丘ルームの連携

1	計画・ねらい	同じ空間での生活
	実践予定内容	マンスリーで通所する子どもも保育園の活動を共にし、保育園に通う子どもたちと同じ空間で生活できるようにする。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育を職員全員が同じ目線で行う
	実践予定内容	園のスタッフ、つむぎのスタッフがさらに壁をなくし、それぞれの目線で子どもを十分に把握していく。振り返りの時間を増やすことで目線合わせを行い、同じ思いで子どもの成長を見守っていく。
3	計画・ねらい	子どもをとらえる質の向上を目指す
	実践予定内容	子どもの動きや遊びを観察し、どのような心の動きがあるのか、どのような関わりがあるのかをエピソードとして記録し共有していく

〈7〉 基本活動を理解し、深めた保育の実践

1	計画・ねらい	労働(雑巾がけ、畑仕事、生き物の小屋掃除、堆肥づくり)の必要性を子どもも大人も理解し、人間力を育てる
	実践予定内容	労働の必要性を理解するため大人同士、子ども同士でなぜ必要なのかをそれぞれ考える時間をつくり、毎日行うことを習慣づけていく。
2	計画・ねらい	歌う習慣を身につけ、歌を知っている子、様々な歌を楽しく歌う子を育てる
	実践予定内容	朝のリズム体操や保育中に季節に合った歌をうたい、自然と口ずさめるようにしていく。そのため歌詞を見える場所に貼ったり、チャットまたはノートで共有したりして、歌う習慣をつける。
3	計画・ねらい	生活力と危険なものとの距離の取り方を教える

	実践予定内容	針の扱いや、火との距離感、包丁の使い方などを伝えられる行事を取り入れ、子どもたちへ丁寧に伝わるように教えていく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	18人	18人	18人	18人	93人

〈2〉 開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	3人	補助	1人	事務	1人	用務	1人

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	事例検討会、園内研修、ケース会議、行事進捗
給食運営会議	月1回	献立、給食残渣の振り返り共有、アレルギー対応、衛生点検
事故防止委員会	月1回	他園自園の事故記録簿考察、インシデント考察、ヒヤリハ

		ット考察・分析・検証
ケース会議	月1回	子どもの様子の共有・関係機関との連携
コンピテンシー会議	月1回	自身の課題と強みの確認、具体目標設定
リーダー会議	月1回	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有
クラス会議	週1回	保育計画の振り返り・立案、子どもの様子の共有

〈1〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題解決、業務連絡
施設長勉強会	月1回	意見交換、ディスカッションでの学び合い
食育会議	年4回	法人全体で給食改善を目指した意見交換、ディスカッション
保健会議	年4回	法人全体で園児健康管理業務改善を目指した意見交換、ディスカッション、流行的感染性の把握と対策
主任会議	年４回	意見交換・ディスカッションでの学び合い
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上の為の講義、意見交換、ディスカッション
併設園会議	年4回	意見交換・ディスカッションでの学び合い

〈2〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子どもの健康維持・温度・湿度・換気確認 感染症発症の予防策を実施 園内の清潔区域（調乳室/調理室）と汚染区域（トイレ・オムツ交換場所・シャワー室・沐浴室・トイレ後の着替え場所・感染症流行時居室）の安全と衛生管理 職員の検便
安全対策係	避難訓練（毎月）、不審者侵入訓練（6月/11月）の実施報告書確認 設備安全点検（5月・7月・9月・11月・1月・3月の25日） 事故防止自主点検（4月・7月・10月・1月の25日） ハザードマップの更新（4月・7月・10月・1月と随時）
防火管理者	消防計画作成と届出 安全対策係の任命 自衛消防組織作成 防災用備蓄品の確認（6月・12月） 自主点検チェック表（日常）
食品衛生責任者	衛生管理、点検作業の実施 食育会議の計画、実践 作業手順書と作業結果の記録の作成
畑係	畑の年間計画の遂行、管理と維持、子どもたちと活動をおこなう。
生き物係	ヤギ、ニワトリをはじめとする飼育物全般の管理、維持、子どもたちへの働きかけ

物品管理	勝手籠の管理、落とし物の管理 衛生用具の管理（在庫管理、発注）
環境係（室内、園庭）	室内外の園庭、遊具の清掃点検、施設の清掃状況の確認、指示、設備危険個所の点検 破損個所の補修、地震時の落下防止、遊具・設備・樹木等の安全点検
アルバム係	個人情報の確認、写真販売、卒園アルバムの作成

〈3〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者ボランティア（どろんこサポーターズ）と連携し、準備・運営を行っていく
環境改良チーム	環境改良を保護者ボランティア（どろんこサポーターズ）と連携し、計画と実行を行う

4. 保育方針

〈1〉 基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	保育者等に見守られながら、好きな遊びを楽しむ 子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、子どもの気持ちを受 容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る 栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る

	下半期 0～1歳児	土や水等に触れ、全身で感触を楽しみ、感性を育む 安心できる保育者等の関わりの中で人への基本的信頼関係をもち、人間関係の基礎を培う 個々の発達の状況を捉え、生命の保持と情緒の安定を図り、生活リズムを作る スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る 栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
幼児保育	上半期 3～5歳児	基本的生活習慣を身に付け、喜びながら意欲的に生活する 友達との繋がりを広げ、集団で行動する事を楽しむ 異年齢で生活をする中で思いやりの心、協力し合う心を養うと共に達成感を知る
	下半期 2～5歳児	身近な環境や自然などに自ら関わり、様々な事物や事象と自分達との生活との関係に気付き、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる 小学校以降の生活や学習の基盤の育成に繋がることに留意し、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う （幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮する） 友達と歌を歌ったり合奏したりすることで、ひとつの物を作り上げる楽しさを知るとともに、動きや言葉などで表現したり演じたりする楽しさを知る
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	実施なし

〈2〉 年間行事計画

・２０２６年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、 別紙「２０２６年度年間スケジュール」に掲載

・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育運営方針

どろんこ会の３大食育方針

（１）調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる

（２）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する

（３）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう、日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践予定内容	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし、子ども達に提供する。
2	計画・ねらい	月1回の給食会議で情報共有を行う。
	実践予定内容	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行う。
3	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、たき火を活用したクッキングを行う。たき火ならではの不便

		さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わう

〈4〉 保健計画

園児健康診断	年２回（６月・１２月）
歯科検診	年2回（5月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いを楽しんで行えるように歌や、掲示物を通して正しい方法を伝えていく。また、バイキンスタンプや手洗いチェッカーを使って可視化し、意識向上を図る。 手洗い、うがい、歯磨きの意味を絵本や紙芝居で伝え、正しい方法を伝えていく。
流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃･･･インフルエンザ、感染性胃腸炎 １月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･１名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗アレルギー薬･･･１名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み

	未受講の新入職員　名については３月までに受講予定
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2022年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断 ※認可園のみ歯科検診年1回	内科健診 年2回/6･11月 (各園入力 東京都0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年2回/6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間

	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	子どもが自分で選択して遊ぶ場所・遊ぶものを決めることが出来る環境を整備する。
	実践予定内容	環境整備を分担し、月毎に振り返りと更新を行う。また子どもたちの発達や、年間を見通した計画的な更新を継続する。
2	計画・ねらい	自然物や土としっかり触れ合うことのできる園庭づくり。
	実践予定内容	落ち葉やたい肥を子どもたちと一緒にすき込み、植物が育ち、虫が集まる園庭を目指す。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	長椅子(4台)	幼児保育室	毎日
2	おままごと机(1台)	ひえ組保育室	毎日
3	ヤギ小屋	園庭	毎日
4	飼育ケース台	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月１回実施。震度５弱以上の際は園が情報を発信し、安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。
2	実践予定内容	事故防止チェックリストについて、年4回設備点検6回を行い、事故防止の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント・ヒヤリハット報告の分析
4	実践予定内容	法人内で事故報告を共有し、事故防止策を探る
5	実践予定内容	年2回防犯チェックリストに従い、確認し合わせて不審者訓練を実施。訓練は避難訓練・不審者訓練・通報訓練としスタッフ全員を対象とする
6	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった情報を発信する。園児・スタッフは室内で過ごす。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度方針・テーマ

1	実践予定内容	実習指導者は学生の指導を通して、リーダーとしてのファシリテーションスキルを向上させる。
2	実践予定内容	温かい受入れ体制を整え、実習担当だけでなく、職員全体でコミュニケーションをとり育成していく。

3	実践予定内容	その日毎の気づきや疑問に対し、丁寧な振り返りを行い、翌日の実習に生かせるような指導を行う。

7. スタッフ育成と研修計画

月１回の園会議では一人ひとりが発表できるテーマの場を設け保育を語れるスタッフ育成を行う。また、活発な意見交換と適切なフィードバックから、保育者が自分の強みとなるよう、また保育へのやりがいを感じる場とする。自分とは違う考えも受容し、それぞれのファシリテート力を伸ばしていく。

〈1〉 ２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月17日	18:00～20:00	①園内研修「保育を嫌いになった時の処方箋」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
5月15日	18:00～20:00	①園内研修「不適切保育～なぜ起きる、どう防ぐ～」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
6月19日	18:00～20:00	①園内研修「見守る保育と放任は大間違え」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有 ⑤水遊びのリスクマネジメ	リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施 プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。

		ント研修	
7月17日	18:00～20:00	①園内研修「すべての保育者に見てほしい「人権」」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
8月21日	18:00～20:00	① 園内研修「食育の基本」「食べる、食べないの境界線」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
9月18日	18:00～20:00	①園内研修「子どもの心の育ちと保育者の言葉」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
10月16日	18:00～20:00	①園内研修「子どものケガには意味がある」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
11月20日	18:00～20:00	①園内研修「気になる子への視点」	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を

		②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	促すのかの理解と実施
12月18日	18:00～20:00	①園内研修「インクルーシブ保育①」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
1月22日	18:00～20:00	①園内研修「インクルーシブ保育②」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
2月19日	18:00～20:00	① 策定会議一回目	今年度の課題をもとに次年度の園 目標、方向性を決定し、行事のあ りかたについて話し合う。
3月19日	18:00～20:00	① 策定会議二回目	今年度の課題をもとに次年度の次 年度の行事を具体的に決める。 く。

〈2〉 外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®・保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®・保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	11月~12月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉 今年度方針・テーマ

月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。また積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験していく

〈2〉 具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：西つつじヶ丘児童遊園にて
商店街ツアー	週1回

世代間交流	地域との連携を積極的に行い、多様な年齢層との交流の中で人との繋がりを大切にしていく。「物おじせず、誰とでも目を見て話しが出来る子ども」を育てていく。
異年齢交流	小学校、中学校、近隣保育園との交流
地域拠点活動	どろんこ祭り 子育て支援事業「ちきんえっぐ」 青空保育・地域に向けた子育てスキル講座
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉 今年度方針・テーマ

幼保小連絡会に参加し、子どもたちが小学校へ安心して就学できるよう、アプローチカリキュラムと スタートカリキュラムを共有しながら積極的な情報交換や意見交換を行う 。

〈2〉 具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	滝坂小学校　1年	18名予定	滝坂小学校	子ども間交流
10月頃	上ノ原小学校　1年	18名予定	上ノ原小校庭	子ども間交流
2月頃	滝坂小学校　1年	18名予定	幼保小連携	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉　個別支援計画の作成・見直し

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできる ことを目指す。毎週クラス会議を行い、その都度どのように支援をしていくかを話し合って進めていく。

〈2〉　毎月のケース会議開催

４～３月に計１２回開催予定　参加者：園長、主任、各クラス担任、つむぎスタッフ
計７名予定ケース会議の内容は全職員が確認し共有していく

〈1〉 進級引継ぎ、および、小学校への引継

個別支援計画を基に進級、小学校への引き継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標： 40名(月間)
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名(月間)
自然食堂…親子ランチ交流	第2（水）10:00～12:00　　集客目標：30名(月間)
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	第3（金）10:00～12:00　　集客目標： 20名(月間)
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援セン	月1回　公園名：西つつじヶ丘児童公園にて開催　集客目標：10名(月間)

ター主催）	

12．園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 園による自己評価の実施

２０２５年３月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：　9時00分

自己評価終了予定時刻：　10時00分

自己評価実施予定者：　施設長・主任

〈3〉 利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13．3カ年計画の具体化

〈1〉 昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	併設園として保育園とつむぎの壁をなくし、すべての子どもを中心に考えそれぞれの見方で子どもを捉え情報共有をしていく。大人も子どもも共感力を身につけ、雰囲気、居心地のいい環境をつくり、保育園とつむぎ共同でインクルーシブ保育の実践と土台作りをする
	振り返り	昨年度まで課題としていたインクルーシブ保育の土台づくりに力を入れ実践していくことができた。実践内容としては、両施設長で話しを十分に行い方向性を定めた。方向性が定まった中で定期的に園とつむぎのスタッフが目線合わせを繰り返し行うことができた。また毎月の園会議で少人数のグループディスカッションを行い、自園のインクルーシブ保育の課題や改善策について時間をかけて話してきたことで、スタッフ間の壁がなくなりお互いの意見や保育を尊重できるようになってきたと感じる。

〈2〉 当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】定着の年
	重点施策	ゾーン保育、チーム保育の定着を目指す。子どもたちが一緒に暮らし、兄弟姉妹のように関わっていく。自らが遊びを選び、没頭して遊べる環境を保育者が整える。
2026年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】充実の年
	重点施策	子どもが主体的にやりたいことを提案し、実現に向け考える力を育む。また大人は子どもたちに寄り添える環境を用意する。
2027年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】追求の年
	重点施策	子どもを中心においた保育を実現させながら、今までのやり方に満足せずに保育を追求し続ける。スタッフ同士が意見を出し合い発信することで、子どもたちがのびのびと安心して過ごせる園環境が整う。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：つつじヶ丘どろんこ保育園　施設長　山上 和希

２０２５年度　前原どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

開園から７年目を迎える本園は、発達支援施設 つむぎ前原ルームを併設し、障害を持った子も持たない子も混ざり合いながらホンモノの経験をする、インクルーシブ保育の在り方を日々研鑽し、生きる力のある心も身体もたくましく思いやりのある子どもを育てていく。
保育園を大きな家として、0歳から5歳児が安心して過ごし、好きな遊びを選べる環境を保証していく。
また、地域とのかかわりを大切にし、地域から選ばれる「地域一番園」を目指していく。

保育理念…「にんげん力。育てます。」
保育目標…「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

施設運営方針「原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～」
①　「基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
②　「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
③　「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

法人の保育方針に基づき、保育園、地域、保護者が相互に関わり合いながら共育てし、 地域に選ばれる園を目指します。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力を体得できる環境
	実践予定内容	日課、基本活動の意義をスタッフが理解し、活動の意味を深めながら、子どもと実践していく。４月の園会議にて日課について研修を行う1。 生きる力を育むために、様々なホンモノの体験ができる環境を用意し、trial ＆ errorを体験する場を設ける。期ごと（５月、８月、１２月、）にクラス環境の見直しを行う。
2	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を体得できる環境
	実践予定内容	子どもの発達を理解し、個々の発達を尊重した保育計画を立てる。 10の姿を意識し、子どもの姿を記録に取り、スタッフ間で共有、意見交換を行う。
3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
	実践予定内容	保育の連続性を大切にし、見通しを持ち生活できる環境設定を行う。 「不思議」「知りたい」「試したい」など、子どもたちの好奇心をくすぐる環境の設定、いつでも好きな遊びができる環境の設定を行う。
4	計画・ねらい	内部監査を通して、保育、園運営の質を高めあう場の設定
	実践予定内容	マニュアルの読み合わせを行う。 内部監査項目についての理解を深めるため、各リーダーが中心となり園会

		議にて研修の場を設ける。 スタッフ間で役割分担をしっかりと行い、担当を中心にわからないところは調べ、伝えていく。仕組み作りを明確にし、スタッフ全員で実践する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	丁寧で安心できる保護者対応
	実践予定内容	連絡帳、タイムライン、ポートフォリオなどを用い、園での子どもたちの様子がわかるよう積極的に発信し、伝える機会を増やしていく。 子どもの園生活や家庭での成長や発達の喜びを共有し、信頼関係を構築する。 おもてなし（思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝）、接遇研修の充実を図る
2	計画・ねらい	保護者同士が関わり、仲良くなれる憩いの場の提供
	実践予定内容	保護者へ積極的に声をかけ関係性を作り、保育行事へ参加しやすい雰囲気を作る。（行事、保護者懇談会、保育参加、お迎え時など）
3	計画・ねらい	保護者の子育てに関する悩み等が相談できる場の提供
	実践予定内容	個人面談等を６月、１月に設け、育児相談ができやすい環境を作る必要に応じて面談の方は随時行う。 変化のみられる保護者に関しては積極的に話しかけ、コミュニケーションを図る。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実現
	実践予定内容	園庭開放やちきんえっぐで来園された方へ継続してきていただけるよう声掛けし、積極的に関わっていく。 （ちきんえっぐ毎月のカレンダーをお渡し宣伝する。次回の予約をとる。ロコミによる宣伝をお願いする） 散歩先で出会った方へ青空保育やちきんえっぐの活動を宣伝し、いつでも来園できる施設であることを伝える。 （散歩時、ポスターを持ち歩きすぐにお渡しできるようにする。公民館でちきんえっぐ、青空保育のお知らせを掲示していただく）

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育園、つむぎスタッフが共に学びあう環境設定
	実践予定内容	保育園、つむぎのスタッフが保育実践の中からケース研修を行い、お互いが学びあう機会を設ける（園会議で５月、１１月つむぎスタッフによる研修を計画する） スタッフ一人一人が個人の目標を決め、年2回以上、施設長と面談を行い、目標の達成度や自信のスキルの向上を確認する。
2	計画・ねらい	幼児、保育リーダー、分野別リーダーの育成
	実践予定内容	園の課題を提起し、改善に向け行動する力のあるスタッフ集団を育成する。

		リーダーを中心に保育園をよりよくするための提案、実践が行える仕組み作りを行う。（内部監査係りと連携をとりながら一緒に質を上げられるようにする）
3	計画・ねらい	バディでチームを組み、教えあうスタッフ集団
	実践予定内容	経験のあるスタッフが新卒、2年目までのスタッフとバディを組み、保育運営に関わるマニュアルなどの研修を行っていく。 お互い思いやりを持ち、何でも相談できる関係性を作っていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る機会を育む環境教育の実践
	実践予定内容	子ども自ら田植え、稲刈り、野菜の種まき、収穫を経験する。 （梅干し、味噌、たくあん作り） 命をいただく活動の実践（魚の解体、鶏、牛、豚肉など）どうやって食材となっているのかを学ぶ機会を設ける。
2	計画・ねらい	食の循環
	実践予定内容	食の残渣を記録し、実際に残を天秤にのせ図りグラフで可視化し、子どもたちが関心を持てるような環境の設定 コンポストを設置し、調理くずやヤギの糞を利用した肥料の生産、利用を行っていく

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	園、つむぎの子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解するスタッフ集団
	実践予定内容	日々の振り返りを大事にし、子の育ちを共有できる場の設定を行う。 園内研修で、子どものエピソードを基に考察の機会を設ける
2	計画・ねらい	自然に協働するチームの構築
	実践予定内容	スタッフが声を掛け合い、自然と混ざり合いながら協力できる体制を構築する 互いの専門性を活かしながら、地域に必要とされる施設になる土台を築いていく。

〈7〉子ども一人ひとりに寄り添う丁寧な保育の実践

1	計画・ねらい	子どもも大人も心地よく過ごすことができる空間作り
	実践予定内容	着替えや食事、排泄など個々に合わせた細やかな配慮を行い、用語的関りを丁寧に行っていく。園全体で統一したかかわりができるよう研修を行っていく。 子どもの気持ちを受け止め、しっかり話を聞いてあげることで安定した保育園生活が送れるようにしていく。
2	計画・ねらい	一人ひとりが客観的な視野を持ち、小さなことに気づくチームとなる

	実践予定内容	子どもたちが使用した後のスリッパの整理、ロッカーの整理、使用後の道具の片付けなど一人一人が小さなことに気づき、次に使う人のために動けるようにする。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	18人	18人	23人	24人	25人	120人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	施設長	1人	主任	1人	保育士	13人	看護師	1人
	栄養士	1人	調理師	２名	事務	1名		
パートスタッフ	保育士	３人	補助	２人	用務	1名		

3.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、コンピテンシー考察
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの前月分検証、法人内で起きた事故の共有、危機管理、安全対策

ケース会議	月２回	気になる子についての状況共有、支援計画書の見直し
管理者会議	週1回	円滑に園運営ができるよう課題の抽出、解決策を検討
リーダー会議	月2回	園の課題を抽出し、解決策を検討
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討

〈４〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内の共有事項、意見交換、事故防止委員会
施設長勉強会	月1回	スタッフ育成、保育の質の向上を目的としたディスカッション、課題の取り組み共有等
食育会議	年4回	法人全体での食育活動の共有、意見交換、成果発表　等
保健会議	年4回	保健衛生に関する事項についての共有、意見交換　等
主任会議	年4回	スタッフ育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有　等
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み　等
併設園会議	年2回	併設施設の質向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み　等

〈５〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理、清掃及び備品の管理・発注・感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保育者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、施設内外の設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの作成・更新
防火管理者	消防計画の作成、それに基づく各種訓練の実施
食品衛生責任者	食材発注、給食提供食材の衛生管理と在庫状況の把握
畑係	畑・田んぼの年間計画作成と実施、用具類の管理と補充
生き物係	鶏、ヤギの健康管理、飼育環境の整備・改善

	命の尊さや自然事象への関心を広める機会の設定

〈6〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの計画・実行、地域への広報
運動会係	運動会の計画・実行、地域への広報
生活発表会係	生活発表会の計画・実行、地域への広報

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人ひとりの生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る ・子どもの興味関心に寄り添った遊びの提供、新進ともに安心して遊べる環境の中で、五感の感覚を育み探索活動を楽しむ
	下半期 0～1歳児	・応答的な関わりを大切にしながら、発語を促し情緒の安定を図る。 ・自分でやろうとする気持ちを大切にし、時間がかかっても自分で最後まで頑張ろうとする思いに寄り添い、達成感を共有する ・ハイハイや歩ける範囲の活動を大切にし、発達段階を踏まえて全身を使って遊びこむ活動を十分に尊重する
幼児保育	上半期 3～5歳児	・安心して夢中になって遊びこめる時間を十分に配慮し、機会を排除しすぎない保育を心がける。 ・自己を十分に発揮し、活動を通してやり遂げる喜びや自信が持てるように配慮する
	下半期 2～5歳児	・自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、友だちと伝えあったり話し合ったりすることの楽しさが味わえるようにする ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現できるような環境設定に留意する
保育参加	4～3月	希望する保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望へ	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご

の対応		意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心を持つ
	実践予定内容	鶏やヤギの糞、廃棄食材で肥料を作り、畑に使用して、食の循環を認知する ・季節に応じた作物を育てて畑活動の充実を図り、失敗と成功を経験しながら、作物が育つまでの世話の大変さ、収穫、食すことのうれしさや喜びを感じられるようにする ・食材を加工し、手間をかけることで食べられるものや長期保存できるものを知らせ、魚の解体を通して命をいただくことの意味を実体験として伝えるなど食の知識を学びながら食べることの大切さを学んでいく
2	計画・ねらい	食べる意欲を育てる
	実践予定内容	・食べたい環境を自分で選択できるようにし、共に食べる喜びを感じながら心地よく食事を楽しめるようにする ・バイキング給食を実施し、自分の食べたいものを自分で盛り付け、自分の食べきれる量を知る ・日々の活動の中で、空腹感を感じることのできる活動を保証し、食欲につなげる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（５月・１１月）
歯科検診	年２回（６月・１２月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、体の仕組み、等
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6から8月頃･･･胃腸炎、手足口病、プール熱 1から2月頃･･･インフルエンザ、溶連菌、胃腸炎

発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	アレルギー内服薬･･･１名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 喘息治療１薬･･･１名より預かり済み／スタッフ室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在３１名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては4月の園会議までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在３１名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ０名
その他保健に関する取組	・日々の子どもの健康状態の把握、近隣園、地域での感染症流行情報の把握、情報発信 ・生存確認、嘔吐処理、おむつ交換、与薬、アレルギー食の提供、定期的なロールプレイを実施 ・新型コロナウイルス及び他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また、消毒・換気を徹底する

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月

	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／５･11月 歯科健診　年２回／６・12月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	一人ひとりにあった教育的意図を持った環境構成（室内・戸外）を考察し続ける
	実践予定内容	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回保育Webマップを用いて、子どもの興味関心を理解するための会議を行う
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損などは速やかに修繕する
	実践予定内容	様々な視点で点検できるように交代で行う。　門のカギ閉めの注意喚起を定期的に行う
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても、気持ちの良い環境を維持する
	実践予定内容	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める

〈７〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	マルチ棒	屋上園庭倉庫	毎日

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 【防災】	・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い、火災・地震の避難方法を確認する ・アプリの災害時緊急掲示板を使って、安否情報（園児数・保育者数・ケガ人・建物の被害状況・避難場所）を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる
2	実践予定内容 【ケガ事故防止】	・ヒヤリハット・インシデント報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証を行い、事故を未然に防ぐ ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し、事故防止策を探る

		・ハザートマップを作成・更新し、ケガや事故防止に努めていく
3	実践予定内容 【防犯】	・年2回不審者侵入訓練を行う ・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく（笛の携帯・代理送迎者の把握など）
4	実践予定内容 【光化学スモッグPM2.5】	・光化学スモッグ、ＰＭ２．５の知識を身に着け、発生時には光化学スモッグ発生時対応、および行政連絡に従い対応する

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

スタッフ含め、園全体で保育園の社会資源の意義を高い意識で持ち、積極的に実習等の受け入れをおこない、保育の楽しさや面白さに共感する。
実習生には保育の楽しさや魅力を伝えるよう配慮し、次世代を担う実習生にとって保育の魅力を感じてもらうようにする

1	実習生	近隣養成学校より受け入れ予定
2	中高生	うるま市内の1年生を受け入れ予定

７.スタッフ育成と研修計画

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 保育理念・日課の理解 虐待防止研修	虐待の定義について マニュアル理解、日課についてディスカッション 保育のねらいや計画の重要性 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
5月９日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 インクルーシブ保育について学ぶ	インクルーシブ保育への理解 つむぎ担当 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う リズム研修・室内環境について
6月13日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 リスクマネジメント研修 保護者支援	プールや水遊び活動時におけるリスクの抽出や活動の見守り方について学ぶ

7月11日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 0歳：3つの視点	乳児リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
8月８日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 5領域について	コンピテンシー自己採点 5領域について 幼児リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
9月12日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 小学校との接続	就学リーダーによる研修 就学前教育の意義の必要性 「架け橋プログラム」の理解を深める
10月10日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 虐待防止研修	事業計画進歩状況確認 虐待防止研修 安全計画・人権チェック
11月14日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 相手の視点から考える接遇	接遇リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
12月12日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 今年度の振り返り①	今年度の振り返りを行い、次年度へつなげていく
1月16日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 今年度の振り返り①	園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
2月	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 策定会議	次年度に向けての計画を行う
3月	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 策定会議	次年度に向けての計画を行う

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

育ての質を上げる会議）												
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

青空保育、商店街ツアー、散歩時など、基本活動の際に、地域の方との交流を大切にしながら、異世代交流、シルバー交流を行っていく

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：500名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：前原公民館広場　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問、ボランティアや行事を通した学生との交流
異年齢交流	青空保育時や近隣の小学生との交流
地域拠点活動	青空保育、ちきんえっぐ運営
銭湯でお風呂の日	実施なし

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

うるま市の方針に基づき、近隣保育園との年長児交流や情報交換、また、小学校を知るための取り組みを積極的に行う。「5歳児と小学校1年生との年間連携計画」に沿って、子ども間、スタッフ間の交流を深める。アプローチカリキュラムを保育計画に取り込み、小学校への接続がスムーズになるような学びに向かう準備をしていく

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	うるま市保幼小連携会議	１名予定	進学先学校	スタッフ間交流
9月頃	小学校、保育園	スタッフ	勉強会	スタッフ間交流
1月頃	近隣小学校お招き会	24名予定	進学先にて交流	子ども間交流
2月頃	うるま市保幼少連携会議	2名	進学先学校	スタッフ間交流を行う

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

つむぎ前原ルームと連携しながら、共に子どもたちを見る中で、要支援児の個別支援計画、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中での子どもの姿、変化をスタッフ同士で共有し、多様な視点から、子どもを援助していくようにする。また、保護者との対話を密に行う中で、子どもの成長を保護者、スタッフ間で共有していく

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：6名予定）

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への引継ぎは児童指導要録、また各校の担当スタッフとの面談によって行う

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：10名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：前原公民館広場にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年８月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：12時００分
自己評価実施予定者：施設長・保育士・看護師・栄養士・調理士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・質の高い保育を目指し積極的に学ぶ姿勢が増える ・リーダーとなるスタッフが育成されている ・保育園・つむぎが一体となり混ざり合いながら分け隔てなく過ごす

		「大きな家」を実現していく
	振り返り	今年度は会議の場を増やし、保育園、つむぎスタッフでの話し合いの場を多く持つことができた。質上げメンバーを中心にこどもの発達理解など保育の質向上に向けた意識が高まっている。 引き続きスタッフ間で、ビジョンを明確にし、子どもの主体性を大事にしながら異年齢保育、インクルーシブ保育を行っていく

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	・リーダーとなるスタッフが育成されている ・保育園・つむぎが一体となり混ざり合いながら分け隔てなく過ごす「大きな家」を実現していく
	重点施策	・園内研修の充実、スタッフが必要だと思う内容を企画し、実施する。 ・保育の質向上に向けた意識が高まり、向上している ・スタッフ間で、ビジョンを明確にし、子どもの主体性を大事にしながら異年齢保育、インクルーシブ保育を行っていく
２６年度	目指す姿	・リーダーが中心となり、互いに学びあい、伝えあう職場風土になっている ・保育園・つむぎの活動が地域に広まり、専門性の高い集団となる
	重点施策	・保育計画の計画・実行・評価・改善というPDCAサイクルが確立し、保育の質が担保されている。 ・どろんこ会のインクルーシブ保育を発信していく
２７年度	目指す姿	・保育園・つむぎのスタッフ一緒に、真のインクルーシブ保育・支援を行える組織となる ・どろんこ会の保育が地域に理解され、誰もが入りたくなるような地域一番園となる
	重点施策	・スタッフ一人ひとりが自園に熱い思いを持ち、互いに認め合いながらチームとして子どもにとっての最善の利益を追求していく ・保育園・つむぎが分け隔てなく混ざり合いながらインクルーシブ保育が行われている

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：前原どろんこ保育園 施設長　アイオメス美和

２０２５年度　石川どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

保育所保育指針に則り、法人理念に沿った保育の実践を目指す

子育て理念・・・「にんげん力。育てます。」
子育て目標・・・「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
法人理念を柱とし、園児・保護者・地域・行政・保育者が相互的かつ協同的にかかわりあえるように努め、地域に根付いた保育を実践していく

＜目指す子どもの姿＞
「やりたいこと」にあふれ、挑戦と失敗を楽しめる子ども
思いやりの気持ちと感謝の気持ちを持つ子ども
地域に則した食を学び、「命をいただく活動」を通し食の循環と命の循環を段階的に学ぶ

＜目指す保育者の姿＞
～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～

日々の生活・遊びは「ホンモノの体験と労働」にこだわり、一つひとつの活動の意味を大人も子どももともに考え、体験を通して学びを深めていく。
子どもたちにとって「ホンモノの体験と労働」とは何かをスタッフは1年かけて考え続ける。
そのために子どもの姿を正しく受け止め、発達を知ることが不可欠であり、それらを学ぶ機会を設ける。

「やりたいこと」にあふれ、挑戦と失敗を子どもと一緒に楽しめるスタッフ
一人ひとりの子どもの個性が十分に発揮され、自己有用感をもてるかかわりを目指すためにもスタッフ一人ひとりの個性も十分に発揮され、得意を活かせる場所となることを目指す。
子どもたちは未来を担う大切な宝物であり、その乳幼児期の発達に携わる施設で働く全てのスタッフもまた大切な存在である。自分たちの仕事に自信と誇りを持てるよう、個々の得意を自覚し、学びを続け、子どもたちと共に成長して行きたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得 日々の生活・遊びを通して学ぶ
	実践予定内容	子どもが自らの興味関心に沿った活動の選択ができるように物的環境を整える。 火・水・土に始まり刃物、針などの道具を使う「ホンモノの体験」を通じ、危険との距離の取り方や人との距離の取り方も学んでいく。 「やりたい」と感じた時にすぐに実践可能にするための物的・人的環境を常に考え続け、子どもたちの「今」の興味関心、発達を逃さないための保

		育計画とその準備を行う。
2	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿の体得を目指すための丁寧な活動
	実践予定内容	保育所保育指針をもとに、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を具体的に計画に取り入れ、実践する。 日々の保育において0歳児から幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識することで、保育内容を連続させる。 施設長・主任・リーダーが計画から振り返りまでのPDCAを共有しスタッフ指導を行う。
3	計画・ねらい	考えを形にする。失敗も認めあい自己肯定感を育む人的・物的環境の整備を「チーム保育」として行う。
	実践予定内容	子どもも大人も共に積極的に挑戦し、安心して失敗できる環境を準備する。日々の活動の中での「初めて」への挑戦や「自信が持てない」ことへ挑戦が容易に行えるように、子どもの声を聴き、実現するための必要な援助をすべてのスタッフで話し合い、共有し保育環境に取り入れていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	共に考え、共に育てる仲間となる
	実践予定内容	朝の丁寧な視診、触診による受け入れを徹底する。 夕方の子どもの姿が手に取るようにわかる丁寧な伝達を行う。 すべての保育者がすべての子どもについて語ることができ、すべての保育者と話題を共有することを目指す。 保護者と子どもの姿を共有し、どのように育ってほしいと思っているかの願いを知り、同じ目線でともによりよく子どもが育つために協力していく。
2	計画・ねらい	保育活動の見える化（デジタル・アナログツールの活用）
	実践予定内容	「うちのこアプリ」の活用や、園内掲示で日々の子どもたちの活動内容を保護者にしっかりと「伝える」ことを意識する。 毎日のクラスごとのタイムラインや壁新聞を活用する。
3	計画・ねらい	子育て相談、適切なサービスの案内 ご意見を園運営の改善に取り込む
	実践予定内容	保護者と保育者の丁寧なコミュニケーションを通して、大小様々なご意見や課題点を拾っていく。 ご意見は保育を見直す最大のチャンスととらえ、自らを振り返り原因を追究し、誠意をもって対応する。 保護者懇談会の７割参加、個人面談を全員に実施することを目指し、子どもの育ちに応じた関りの共有とサービスの提供を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子も含めた子育て拠点となる
	実践予定内容	青空保育や自然食堂、芸術学校・自然学校などの活動の認知度を上げるために積極的に近隣児童館や公民館へのPRを行う。どろんこ会をまず知って

		もらうことから始まり、どろんこ会の活動を通してどろんこ会が目指している保育理念への共感を深め、何が子どもたちに必要であるのかを共に考え共に育てる仲間を増やしていく。 地域支援活動は①沖縄生まれ沖縄育ち向け②転勤・移住者向けの２本柱とする。
2	計画・ねらい	一時保育・病後児保育事業の円滑な運営
	実践予定内容	需要の高い乳児の一時保育をスムーズに行えるスタッフ配置を行う。受け入れのない日には地域の保育指導に当たる。 毎月のちきんえっぐ便りに病後児保育室からの情報を載せ、地域の保育園・保護者へ発信し、看護師による地域に向けた講座を開催し利用者のニーズに合った情報発信を行っていく。 問い合わせ、利用前面談、当日の受け入れに何の情報が必要なのかをすべてのスタッフが理解し説明できるようにすることで、希望者の利便性と安心感を上げていく。
3	計画・ねらい	子ども主体の保育実践を地域で協働して行う
	実践予定内容	変わりつつある保育現場の現状を年度後半に１度公開保育として地域にむけ発信する。対象は近隣保育所、子ども園、小学校とし、子ども主体の保育についての学びを協働し展開してゆく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針を学び保育者の質を上げる
	実践予定内容	１年を通じて学ぶテーマを意識する。（具体的な計画は7スタッフ計画参照） 保育所保育指針の学びでは保育における質の向上を目指し、保育品質マニュアルの学びでは園スタッフとしてあるべき姿を学び、よりよい園運営の向上を目指す。 日々の保育との紐づけ作業も行い、保育を理論的に語れる集団を目指す。
2	計画・ねらい	スタッフひとり一人のＭＢＯの設定（目標設定）と取り組み
	実践予定内容	保育者は面談や前年度の振り返りから個々の目標を設定し通年で取り組むテーマを決定する。 計画は全スタッフにも共有され、自主勉強会への参加や開催、昼礼や園会議での講師を行う機会を持つ。個々のスキルアップこそ園全体のスキル向上につながると考え、自らの得意を意識し伸ばす。 個々のＭＢＯについては適宜ロングまたはショート面談を実施し、継続的に振り返ることで目標を明確化していく。
3	計画・ねらい	保育者の「にんげん力」も育てる
	実践予定内容	指示されて動く、注意されて改めるのではなく子どもたちに育て身に着けてほしいと願っている力は何なのかをスタッフ一人ひとりが考え、取り組んでいくことで自分自身に必要なものが何かを追い求めていく。 そのために園会議やクラス会議にとどまらず、昼礼などの短い時間も活用して話し合いや実践の共有を行っていく。 個々の保育者の得意が活かされることでチーム力の向上を目指し、得意分野でスタッフ自身が講師となり学びあい、尊敬しあえる仲間となってい

		く。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	沖縄の「美ら海」と自分たちできることを考える
	実践予定内容	サンゴの白化、海洋ごみ問題などを、子どもたちでもできることがないかといった切り口で一緒に考え、実際にビーチクリーン、園周辺のごみ拾いなど日々の活動で実践につなげていく。
2	計画・ねらい	空き缶リサイクル活動を通してリサイクルについて学ぶ
	実践予定内容	夏祭りで取り組んでいる空き缶のリサイクル活動を一時的なもので終わらせず、生活の中での「缶」の役割や使い終わった後の流れ、なぜお金になるかを学び、ものを大切にすることにつなげていく。
3	計画・ねらい	ヤギの糞や野菜くずでたい肥つくりと畑仕事への活用
	実践予定内容	飼っているヤギの糞も掃除の際に集め、たい肥をつくための方法を子どもたちと探っていく。温度、湿度にも着目し、科学的な視点も取り入れながら日々取り組んでいく。

〈6〉伝統を大切にしながら興味の幅を広げていく

1	計画・ねらい	沖縄の伝統的な文化や風習に敬意をもって学ぶ機会を持ち、継承する責を子どもたちと保育者が担っていく。
	実践予定内容	エイサーや組踊り、三線などの伝統文化だけでなく、沖縄ならではの行事の由来を理解し、地域交流も含め保育活動にも組み込んでいく。 全国に系列園があることを「資源」と捉え、ＷＥＢなども活用し間接的に子どもたちが他地域の文化や風習に触れる機会も積極的にもち、沖縄の魅力を自ら発信しながらも子どもたちの興味や関心を他県や世界に広げる起点となる。
2	計画・ねらい	伝統の食文化を行事と合わせて触れる機会を持つ
	実践予定内容	沖縄の独特な食文化を子どもたちと調べ、使用する食材を畑育てるなど、食の循環や環境への意識を意識した保育を実践する。 給食残渣を前年比の７０％削減を目指す。
3	計画・ねらい	沖縄戦の歴史に触れる機会を持つ
	実践予定内容	通学先となる宮森小学校の戦闘機墜落事故を通じ平和について考える 子どもそれぞれの平和や幸せについて考える時間を持つ

〈7〉スタッフの充足率の向上

1	計画・ねらい	子ども主体の保育の展開がスムーズにできる人員の確保
	実践予定内容	園の認知度を上げ、保育内容の理解につなげるために公開保育を実施する。（年度後半に１度を計画） 子ども主体の保育の展開を通じてその必要性を感じるスタッフの獲得につなげる。
2	計画・ねらい	新卒保育士の確保
	実践予定内容	養成校の訪問や実習の受け入れ、説明会の実施などを通じどろんこ会の子

		ども主体の保育の認知度を高め、一緒に働きたいと感じる学生を増やし、入職につなげる。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
１２人	１８人	１８人	２３人	２４人	２５人	１２０人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	１６人	看護師	１人	栄養士	０人	調理員等	２人
パート スタッフ	保育士	２人	補助	２人	調理	１人	事務	１人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園の課題・情報共有・討議事項（園内研修含）
給食運営会議	月1回	離乳食進捗状況・アレルギー確認、残渣・喫食状況確認
事故防止委員会	月1回	他園・自園の記録から危険予測をする
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有・検討
リーダー会議	週１回	施設長・主任・リーダーによる報告・連絡・検討
クラス会議・フリー会議	週１回	保育計画と振り返り、園児ごとの検討

週会議	週１回	全クラスによる報告・連絡・検討

〈２〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月１回	法人内統一の議案の共有・意見交換
施設長勉強会	月１回	施設長のスキルアップを目的とする
食育会議	年4回	施設長及び栄養士・調理師　今後の方針の検討
保健会議	年4回	施設長及び看護師　今後の方針検討
主任会議	年４回	主任のスキルアップを目的とする
子育ての質を上げる会議	月１回	スタッフのスキルアップを目的とする

〈３〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	身体測定、健康診断、歯科検診などの実施。園内の衛生管理・清掃及びそれにかかる備品類の管理・発注。感染症予防。
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理 救命講習実施。施設内外の設備点検及び事故防止点検の実施
防火管理者	消防計画の作成。それに基づく各種訓練の実施報告
食品衛生責任者	給食食材及び提供食材の衛生管理と在庫状況の把握 畑状況の管理・計画の見直し。用具類の管理及び補充
生き物係	地域住民・自治体との対外的な窓口業務管理 ちきんえっぐの活動の実施及び報告書の作成

〈４〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域や保護者と共同的に準備・進行を行う
運動会係	地域や保護者と共同的に準備・進行を行う

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	月齢・育ちに配慮し、個々の欲求を受容しされることで身近な大人との信頼関係を築き、心身の安定を図る。 好きな遊びを十分に楽しみ、健康に安心して園生活を送れるようにする
	下半期 0～1歳児	一人遊びを十分に楽しみ、他者との関わりも持つ中で自我が形成されるよう、環境を整える 事故防止に努め、自発的な活動を促していく
幼児保育	上半期 3～5歳児	自然と触れ合う中で豊かな感性や認識力・思考力及び表現力を養う 自己を十分に発揮し、活動を通して達成感や自己肯定感を持てるように配慮する
	下半期 2～5歳児	自分の気持ちや考えを自分なりの言葉で表現することの大切さを知り、共同性や社会性を身につけられるようにする
保育参加	4～3月	希望する保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べることの楽しさや感謝の気持ちも育み伝えていく
	実践予定内容	すべてのスタッフは子どもと食事を共にすることで言葉に頼らず行動でも表現し伝えていく。 作る、触れる、味わうなどの食育体験をすべての年齢において計画的に行うことで、食事になるまでの流れや携わった人への感謝の気持ちを持てるようしていく。 空腹感を感じ、意欲的に食事を摂れるような活動を保証する。
2	計画・ねらい	食材・食の循環を知る直接体験をする
	実践予定内容	自ら栽培したものを口にすることで、自然や命への興味関心を持つ。 また、行事食・郷土食にも積極的に触れ合う機会を持つ。 落ち葉やヤギの糞や残菜などから堆肥を作り、園での畑仕事や米栽培から

		収穫や加工までの流れを子ども自身が体験し食の循環を考えるきっかけとする。 配膳をすることで自分の食べられる量を知り、残食を減らす（前年比７０％）、きれいに食べることの意味を子どもと保育者は一緒に考えていく。 食や命の循環に触れる活動を計画的に行い、子どもたち自身が主体的に考える機会を提供する。
３	計画・ねらい	個々の子どもの発達を理解し適切な援助を行う
	実践予定内容	家庭との連携を図りながら、保育士・栄養士・看護師などの全スタッフがそれぞれの専門性を活かして関わる。 発達に応じた食事形態での提供、安全な食事の提供と介助が行える知識を持つための研修の実施と受講。

〈４〉保健計画

園児健康診断	年２回（５月・１０月）
歯科検診	年２回（６月・１１月）
保健だより	月１回（２５日）発行
スタッフ健康診断	年１回
スタッフ検便	全スタッフ月１回（５日）
園児への保健指導・取組等	規則正しい生活習慣の獲得にむけた働きかけ 手洗い・うがいの敢行、歯磨き指導、栄養の話
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス・インフルエンザ 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ７月頃・・・胃腸炎 １０月頃・・・アデノウイルス・手足口病など通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・０名より預かり済み／
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２７名が、研修受講し、修得済み
ＡＥＤ使用できるスタッフ（ＡＥＤ設置施設のみ）	本日現在２７名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ２か月に一度の看護師による保健・衛生指導の実施。

	「早寝早起き朝ごはん」活動への参加

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／５･11月 歯科健診　年２回／６・12月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	必要なものだけがある保育施設を目指し、掃除や管理の行き届いた保育環境を提供する。
	実践予定内容	衛生管理に配慮し園舎内外の清掃を行う。

		環境係が中心となり、清掃の意義を理解し率先して実行することで、子どもたちへも気持ちよさを伝えていく。
2	計画・ねらい	日々の遊びの中に子どもの育ちがあると考え、自由度の高い遊具の作成を保護者と協同で行う。
	実践予定内容	意図的な環境設定・環境構成を整える。 遊びが限定される遊具ではなく、自由な発想で使える棒や板などの素材を安全に管理し提供できるようにする。 材料は建築現場などから譲り受け、危険がないように毎日の確認と定期的な入れ替えを行う。
3	計画・ねらい	子どもたちが常に主体性をもって遊びを選択できるような環境を整える。
	実践予定内容	目的を持った複数の戸外活動の準備や、室内遊びを好む子どもへの遊びの保証を考える。 保育者は子どもたちの「今」に必要なことを考えスタッフ全員で共有し、週・月での遊び方を工夫し変化させていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ブロック用テーブル	幼児室内	毎日
2	ベンチ	園庭	毎日
3	平均台	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルに則り、毎月の訓練を通して日頃よりスタッフが緊急時の対応を身につける。対応フローチャートの活用
2	実践予定内容	怪我・事故防止対策…危機管理マニュアルに則り、安全点検の実施を行う
3	実践予定内容	怪我・事故発生時には対応フローチャートの活用。安全教育、ＳＩＤＳ防止研修の実施。
4	実践予定内容	事故防止委員会で怪我・事故の検証と防止策検討。
5	実践予定内容	不審者対策…年二回の不審者侵入訓練により、緊急時の対応を身につける。
6	実践予定内容	発生フローチャートの活用。スタッフの笛携帯、登録者のみへの引き渡し徹底。
7	交通安全教室	５月予定　警察も招き交通安全について学び安全な戸外活動につなげる

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

未来の同僚となる保育士育成の観点より、実習生・中高生の受入は積極的に行う。一人一ひとりの様子に合わせ、温かく思いやりのある対応を心掛ける。また、スタッフは自分自身の保育の見直しの機会と捉え、保育内容の向上に役立てる。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受入／保育養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ 前年度まで築いた関係を良好に保ち、養成校・近隣小中高校への訪問を継続する。
2	実践予定内容	若手保育者を学生担当につけより親身になった指導を行い、その保育者担当としてリーダーをつけ、指導の在り方の確認と保育者自身の保育の見直しを行っていく。

７.スタッフ育成と研修計画

〈１〉２０２５年度 園内研修計画

・担当者は施設長大学、保育士大学を活用し、具体的な講座をもとに研修を組み立てる
（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック ③保育における「人権」とは 虐待の定義について ④「命」を守る仕事 生存確認とケガ・ケーススタディ研修	②③保育における「人権」についてチェックシートを使い改めて振り返る ④施設長大学・保育士大学の講義を活用し、「命」を守る仕事の自覚を新たにする
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②質上げ会議を受けての学びあい ③指導計画を見直そう	③毎日の保育の中で子どもたちに必要な力をどのように身につけさせるための指導計画を考える。＊施設長大学動画を活用して
6月27日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水辺のリスクマネジメント ③質上げ会議を受けての学びあい	②プール目前　保育者の動き、注意点を整理する

7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「命」を頂くということ ③質上げ会議を受けての学びあい	②私たちは子どもたちに何を伝えたいのか。＊施設長大学動画を活用
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 質上げ会議を受けての学びあい ③ 表現活動を考える	③子どもの「表現」どんな方法・手法があるかを考えてみよう
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 半期振り返り ③ 質上げ会議を受けての学びあい	③上半期を振り返り子どもの発達に応じた保育実践ができたかを考え、下半期の計画を立てる。
10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックと虐待防止研修 ③ 質上げ会議を受けての学びあい	②保育における「人権」についてチェックシートを使い改めて振り返る
11月21日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 質上げ会議を受けての学びあい ③法人全体研修	法人理念を理解しより良い保育につなげていくために自分たちのすべきことを考える。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 質上げ会議を受けての学びあい ③子どもの発達と遊びを考える	③子どもの何が育って何が弱いのか。発達を知り保育者ができることを考える。
1月23日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②写真を通して子どもの姿を考えよう ③ 質上げ会議を受けての学びあい	②写真に写された子どもの姿。記録としての写真。伝達の一つとしての写真。
2月20日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 質上げ会議を受けての学びあい	1年間の保育を振り返り、自分の強みと弱みを整理しよう。
3月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 質上げ会議を受けての学びあい ③ 1年間のふりかえり	1年間の保育を振り返り、自分の強みと弱みを整理しよう。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	施設長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に受け入れられ愛され育つ実感をもてる日々のために、スタッフは積極的に地域との交流を行う。

未就園児家庭との交流をより積極的に行うために、ちきんえっぐ活動を市役所、公民館、児童館への広報活動を担当者中心に行う。

ちきんえっぐ活動は①沖縄生まれ沖縄育ち向け②移住・転勤者向けの二本柱とし、それぞれのニーズに応えられるよう年間計画を作成する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細

どろんこ祭り	年I回　　集客目標：６００名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	ここいちうるま、憩いなどの高齢者施設との交流を各学年定期的に行っていく。 小中高校生の体験学習受け入れ
異年齢交流	他園交流（学童施設含む） 小中学校訪問
地域拠点活動	ちきんえっぐ どろんこ祭り 地域行事への参加（夏祭りなど）
銭湯でお風呂の日	実施予定なし

９.小学校との連携の計画

〈I〉今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議を４月I日（火）より開始する。

開園７年目となり、近隣小学校との連携もしやすくなってきた。まずは卒園児へのアプローチとして小学校へ訪問の関係を作り、そこから保育園と小学校との連携についての学びの場を提案していく。また、連携小学校に限らず、保護者の小学校教員にも協力を依頼し、新学習指導要領の理解のための講座開催を目指す。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月I日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	うるま市保幼小連携会議	I名	進学先学校	スタッフ間交流
9月頃	小学校・保育園	スタッフ	学習指導要綱勉強会	スタッフ間交流
I0月頃	各近隣小学校お招き会	24名予定	進学先学校にて交流	子ども間交流
I月頃	うるま市保幼小連携会議	2名	進学先学校	スタッフ間交流
2月頃	各近隣小学校お招き会	24名予定	進学先学校にて交流	子ども間交流
2月頃	各近隣小学校申し送り	2名	各進学先小学校	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

保護者と保育者で連携し子どもを取り巻くすべての大人が子どもの現状や育ちを共有する。

インクルーシブ保育を実践する中で子どもの「生きる力」をどのようにつけていくかを共に考える。集団の中での育ちと関りに加え、個別な配慮や対応が必要な場合は計画と現実の整合性を振り返りつつ、常に子どもの「今」に合わせた計画を立案する。子どもも保護者も安心して過ごすことができ、共に育てる「仲間」となる。

児童発達支援事業所利用児に関しては、各機関との情報共有のための機会を自園が中心となり毎月設けることで、保護者と各施設が情報を共有し子どものより良い育ちのための体制を作る。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：６名予定）

４～３月毎月の計画を立て　年１２回開催予定　参加者：施設長・主任・看護師・担任など

子どもの姿の共有と保育の振り返りと次月に向けた関りについて。

毎月の施設間での情報共有に加え、必要に応じて保護者や専門機関、関係機関とも連携する。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

安心して進級・進学できるように必要な情報の開示及び交流を積極的に行う。

行政・相談員・利用施設担当者・保育者との連携会議を年に２回開催し、十分な支援計画のもと保育を行い、情報共有をおこなうことで進級・進学へつなげていく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9：30～16：30　　集客目標：１００名
子育て相談	（月）～（土）13：00～16：30　　集客目標：３０名
自然食堂…親子ランチ交流	隔週（水）10：00～12：00　　集客目標：５０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔週（木）10：00～12：00　　集客目標：５０名
勝手籠設置	（月）～（土）7：00～20：00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：前原西公園にて開催　　集客目標：３０名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年８月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１２時００分
自己評価実施予定者：施設長・保育士・看護師・栄養士・調理師

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	選択制の主活動の実施。その先導を幼児が行えるようにしていく。 個々の特性を理解し、それぞれに合ったかかわり方の学びと環境設定。 子どもだけでなく保育者のにんげん力も高めるために「好奇心」「探求心」をもって学ぶ機会を自ら計画し、学びを深める。 子どもも保育者も一人の人として大切にされることを理解し、「人権」について学びを続ける。
	振り返り	戸外活動の選択は幼児中心に行えるようになったが、戸外と園内の活動の選択までは至らなかったため、次年度に課題として引き継ぐ。 保育者の学びはキャリアアップ講座や自主勉強会など多方面で行われていた。 子どもの人権についてはまだ改善できる余地があると考える。園として大きな課題として継続して取り組んでいく。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	「にんげん力」が育ち、やりたいことを見つけ、挑戦できる子どもたちと保育者がいる保育園となる。 保育者の得意が発揮され、子ども主体の保育に面白さが増していく。
	重点施策	様々な体験活動を通して子どもたちは「生きる力」を獲得していく。 一生の宝となる「ホンモノの体験と労働」を用意する。 小学校との連携では子ども主体となるよう園から交流会、勉強会の働きかけを行い、協力関係を築く。 保育者は体験活動の意味と必要なものは何かを考え続け、スタッフ個人の得意を自覚し、さらに学ぶことで追求する子ども主体の保育が広がっ

		ていく。
2026年度	目指す姿	「にんげん力」が育ち、やりたいことを見つけ、挑戦できる子どもたちと保育者がいる保育園となる。 子どもたちは自らの活動を判断し、主体的に取り組むことができるようになっていく。 法人の理念を理解し保育実践を行いつつ、安定した運営を行う。
	重点施策	「ホンモノの体験と労働」を提供するために必要なことを保育者が主体的に準備し、子どもたちはその中から選択できるように環境を整える。 保育内容が評価されることで入所率が上がり、一時保育や病後児保育、地域支援活動を通し地域へ貢献していく。 また、保育内容が評価されることで働きたい職場として認知されていく。
2027年度	目指す姿	日々の生活や遊びを通じ、自ら考え、歩む力の付いた子どもと保育者がいる保育園となる。 子どもたちは自らの活動を判断し、主体的に取り組むことができるようになっていく。 法人の理念を理解し保育実践を行いつつ、安定した運営を行う。
	重点施策	子どもから主体の保育が認められ、選ばれる園となり、定員を満たす入所率となる。 生き生きした子どもの姿はスタッフの働き甲斐にもつながり、働きたい施設となる。 次世代のリーダーの育成。リーダー・主任・施設長となれる人材を計画的に育成し、園運営につなげる。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：石川どろんこ保育園 施設長　加藤　直子

２０２５年度　馬場どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

『発達を深く理解』

保育の原点に立ち返り、乳幼児期の発達を改めて学ぶ場を園会議で設けます。発達に合った環境や保育を共に考え、子どもにとっての最善の保育を追求します。

『得意なことを発揮できる場』

子どもも大人も“得意なこと”を全力で発揮できる場を作ります。得意な事で互いを補い合い、より良い保育環境を目指します。子どものころに遊んでいた遊びを子どもたちに伝えていきましょう。

『より多くの歌をうたえる子どもたちに』

季節の歌はもちろん、散歩中や活動中に様々な歌をうたって聞かせ、１００曲以上の歌を楽しくうたえる子を育てます。

『思わず遊びたくなる環境』

できる限り土に触れ、免疫を獲得する環境の構成へ向けて園内の環境や園庭、建物の美観などを整えます。園庭に関しては地域の方が思わず遊びたくなる場になるような環境を目指します。

『保護者・地域との協力』

どろんこサポーターズを増員する為に接遇のレベルを上げ、高いNPSの維持と保護者との関係を構築します。地域とのつながりも強くし、将来的に地域・保護者参加行事の開催を目指します。

〈Ⅰ〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動とは何かを知る
	実践予定内容	１．なぜ土に触れることが良いことなのかを知る。実際に土や水に触れ、免疫を獲得するまでの流れを体験する ２．たくさんの歌をうたって聞かせ、様々な歌がうたえる子どもを育てる 3．針の扱いや焚き火を通じ、生活するうえで必要なことを学ぶ 4．挨拶から始まり、地域の方や保護者とのつながりをより深いものにする
2	計画・ねらい	子どもの発達を深く理解する
	実践予定内容	発達表を用いて乳幼児期の発達を再確認し、子どもの最善の利益を考えながら先を見据えて保育を行う
3	計画・ねらい	環境からアプローチする
	実践予定内容	子どもにとっての最善の保育環境はどんなものであるか、園会議や研修等を活用し考える。季節ごとに環境を見直し、子どもたちが遊び込める最高の場を提供する

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	共に成長する場
	実践予定内容	保護者向けにドキュメントやエピソード記録、またブログや写真等で自園活動の共有を行う。
2	計画・ねらい	美観を意識
	実践予定内容	園舎内外を美しく整備し清潔のある施設にすることで、信頼感や安心感を提供する。
3	計画・ねらい	保護者の子育てを実践する力の向上に向けた支援活動
	実践予定内容	・保育士による子育てに関する相談対応や助言を行う。 ・栄養士による食に関する相談対応や栄養指導を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開けた遊びの場
	実践予定内容	地域との積極的な連携及び協働を図ると共に、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るよう努め、地域との一体化を目指す。
2	計画・ねらい	地域子育て支援の拠点としての確立
	実践予定内容	開始から４年目となる「馬場どろんこ新聞」を今年度も作成、子どもたちと共に地域に配布する。自園の取り組みや日々の保育を積極的に地域に発信することで広く自園を知ってもらい、地域の方々と交流を深めながら、地域子育て支援の拠点としての確立を目指す。
3	計画・ねらい	孤立しない子育てへの支援
	実践予定内容	ブログや自治体ホームページ、地域の掲示板等にちきんえっぐの取り組みを掲載することで地域の親子が集うコミュニティの拠点となるよう、地域に開かれた保育園を目指し子育て支援を継続する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自分の得意分野を発揮し、相手の得意分野を知る
	実践予定内容	日々の小さなコミュニケーションから園会議での発表まで、様々なところで自分の得意分野を発揮する。得意分野を知るために「2025年度〇〇で輝きます」を活用し、意識向上を図る。
2	計画・ねらい	一人ひとりが講師
	実践予定内容	日々の保育での気づきや外部研修での学びを発表する。企画、実行、確認、行動とPDCAサイクルを回していき一人ひとりの専門性を高める。
4	計画・ねらい	主体的に思考し行動できる人材
	実践予定内容	問題点を見つけ「今何が最善であるか」を確認し、スタッフ一丸となって問題解決に取り組む。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	思わず足を止める園庭を実現
	実践予定内容	緑の豊富な園庭を作ることで、小さな園庭であっても十分に自然に触れら

		れる環境を構築し、地域の方や子どもたちにとっての身近な自然体験の場となるようにする。
2	計画・ねらい	畑活動の充実
	実践予定内容	園庭改良に合わせて畑も充実させる。どんな野菜が育つかの見える化をして農業カレンダーを子どもたちと作る。
3	計画・ねらい	「ここで遊びたい！」を実現
	実践予定内容	子どもたちが本気で遊び込める環境を目指す。商店街ツアーや地域の方との関わりを活かし、ただのままごとコーナーでなく銀行やコンビニなど実際になり切って遊べる環境を子どもたちと作る。

〈6〉利用者満足度向上

1	計画・ねらい	いつでもどこでも素敵な挨拶で接遇up
	実践予定内容	【挨拶】 ・来訪者が施設に入った時に手を止め、素敵な挨拶をする 【お迎え対応】 ・一日の子どもの様子を保護者に手に取るように伝える ・複数の保護者がお迎えに来た際でも自ら満遍なく声をかける ・待った気がしない・待たされたと思わないお迎え対応をする
2	計画・ねらい	保育参加・保護者個人面談のアナウンス強化
	実践予定内容	保育参加及び保護者個人面談のアナウンスを強化、参加者を多く募ることで、園の保育を知ってもらいオープンな園を目指す。
3	計画・ねらい	安全管理の徹底共有
	実践予定内容	感染症予防策や食物アレルギーの管理、設備の安全管理、緊急時の対応、交通安全等、子どもたちの健康と安全を確保し、保育環境を信頼性の高いものにする。

〈7〉表現活動の充実

1	計画・ねらい	アートの日開催
	実践予定内容	月1回アートの日を開催し、子どもたちの表現活動の場を数多く提供する。自由な表現活動を通じて子どもたちのコミュニケーションスキルや創造性を発展できるようにする。
2	計画・ねらい	法人内の全園で一番歌を知っている子どもを育てる
	実践予定内容	100以上の曲に触れられるようにする。様々な歌を歌うことで多様な文化に触れたり友だちとの一体感を感じたりしながら、歌の好きな心豊かな子どもを育てる。
	計画・ねらい	様々な楽器に触れる
	実践予定内容	多様な楽器に触れられる環境を用意し、子どもたちが様々な音色やリズムに触れることで自分の思いを自由に表出し、表現力を豊かにし運動能力やリズム感を高める。
3	計画・ねらい	劇遊びの充実
	実践予定内容	絵本や素話を通して物語を知り、物語に感情移入する。劇あそびの取り組みを通じて、役になり切る楽しさを味わう。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	12人	14人	14人	14人	70人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	13人	栄養士	２人				
パートスタッフ	保育士	2人	事務	１人	用務	１人	嘱託医	２人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園運営についての情報共有及び園内研修　等
給食運営会議	月1回	調理・運営方法の共有及び討議
事故防止委員会	月1回	安全管理についてのルール決め インシデント及びヒヤリハットの共有・再発防止策討議
ケース会議	月1回	ケース討議、保育・運営方法の共有及び討議
リーダー会議	月1回	保育・運営方法の共有及び討議
クラス会議	月1回	各クラスの保育・運営方法の共有及び討議

〈２〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体の動向共有や運営状況の周知

施設長勉強会	月1回	運営全般の改善の為のディスカッション等
食育会議	年4回	保育所における調理員の役割についての教育と討議
保健会議	年4回	保育所における看護師の役割についての教育と討議
主任会議	年4回	保育所における主任の役割についての教育と討議
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質を上げる為の教育と討議

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	施設内外の破損個所の補修及び清掃状況の確認
安全対策係	避難訓練（地震・火事・不審者）計画及び実施・記録
防火管理者	防災対策策定及び避難訓練計画と実施　消防局との連絡
食品衛生責任者	食材の発注及び品質管理
畑係	農業活動の実践・記録・発信
生き物係	飼育物の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者連携と連携、開催、広報　等
みゆき商店街夏祭り	商店街店舗との連携、企画、開催、広報　等
みゆき商店街クリスマス会	商店街店舗との連携、企画、開催、広報　等

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・受動的・応答的な関わりの下で、思いを伝えようとする意欲や、身近な人との信頼関係を育て、人と関わる力の基礎を養う。 ・身近な環境に自ら関わり、感じたことを表現する力の基礎を養う。
	下半期	・食べる喜びや楽しさを味わい進んで食べようとする気持ちが育つ。

	0～1歳児	・自然体験や直接体験を通じて五感を刺激し、生きる力を養う。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・選択制保育や習熟度別保育を実施し、多くの異年齢の友だちと関わり相乗効果により成長し合う。 ・自然に直接触れる体験を通じて、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力（歌・音・絵・造形・言葉）の基礎が養われる。 ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。 ・様々な遊びを知り、遊びの経験を通じて友だちとの関わりを楽しむ。
	下半期 2～5歳児	・異年齢で過ごす中で、自身と他者との違いに気付き、自己表現や葛藤を繰り返しながら、コミュニケーション力を身に付ける。 ・協力して一つの物を作り上げる経験の中で、協働の楽しさを感じながら、感情をコントロールすることの大切さを知る。 ・経験したことを歌や遊びに取り入れ、自分たちで活動の幅を広げる。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食を通じて人とかかわる
	実践予定内容	「食べたい時に食べたい場所で食べたい人と食べたいだけ」を日々の保育で当たり前のように取り組む。
2	計画・ねらい	食の循環の導入
	実践予定内容	園庭の環境整備の一環で畑活動を強化し、地域の人も思わず足を止める畑を作成し、採れたて野菜をその場で食す。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）

保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いうがい指導（手洗いチェッカー）・衛生や健康に関する絵本の読み聞かせ・気温に合わせた衣服の調整
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12～1月頃･･･ノロウィルス 1～2月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在１９名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員３名については４月１日までに受講予定
その他保健に関する取組	感染症に関する園の予防対策について保護者に共有する。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前

	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	にんげん力が身につく土壌を構築する
	実践予定内容	子どもが遊び込める環境はどんなものであるかをスタッフが知り、そのうえで物的環境や人的環境を整備する。それぞれの環境に対してのねらいを共有し、季節ごとに必ず環境を見直していく。
2	計画・ねらい	スタッフ同士が話しやすい環境を整備する
	実践予定内容	子どもの事を語れる場や、保育から離れて息抜きができる環境を整え、スタッフ同士でのコミュニケーションを取りやすくする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ウッドデッキ	縁側	毎日
2	草履箱	縁側	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	年間計画に沿った地震・火災を想定した避難訓練実施（月1回） アプリへの書き込み訓練実施（年2回）
2	実践予定内容	事故防止チェック実施
3	実践予定内容	不審者対策訓練実施

4	実践予定内容	ヒヤリハット事例の共有、検証、再発防止対策
5	実践予定内容	法人内事故記録簿回覧による園スタッフへの注意喚起
6	実践予定内容	ハザードマップ（園外・園内・園庭）の作成及び更新
7	実践予定内容	法人内事故防止委員会会議実施（月1回）
8	実践予定内容	園内事故防止会議実施（月1回）
9	実践予定内容	環境省熱中症予防情報確認（概ね5月～10月）

6.実習生・中高生の受入

〈8〉今年度方針・テーマ

次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成することは、保育所の重要な社会的責任と捉え、実習生・研修生の受け入れを積極的に行う。子どもにとっても地域の学生等とふれあう経験は、良い人間関係を築く力の基盤構築に重要なことと考える。近隣の養成校への訪問も視野に、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材の育成、開拓に向けて活動していく。

1	実践予定内容	学生向けの園イベントや現地園見学の取り組みをホームページ等で広く周知し、法人の目指す保育を伝える機会を提供する。
2	実践予定内容	保育養成校の実習生や中高生の体験学習の積極的な受け入れを行う。
3	実践予定内容	学生のアイルバイトやボランティアの積極的な受け入れを行う。
4	実践予定内容	中学生に向けて職業講話を行う。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② お迎え対応（接遇）研修 ③ 虐待防止研修・人権チェック	・接遇研修を実施し、ディスカッションやロープレを通じて、丁寧なお迎え対応の重要性について園スタッフの共通認識を図る
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 得意なことを掘り下げよう	・スタッフの専門分野を掘り下げる為、輝きますの再確認をする
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント	・プール開きに向けて水辺の研修を行い、事前にリスクを共有する

7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 乳児期の発達をより知る ③ 保護者支援	・乳児期の発達をより深く見つめなおし、保育の向上につなげる ・更なるNPS向上の為、保護者支援について考える
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故を防ぐには	・９月より再開する戸外活動に向け、事故防止の観点からマニュアルを再確認し、ロープレを行う
9月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子どもと遊ぶ	・知っている遊びを伝えあい、レパートリーを増やしていく
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② スタッフ企画研修 ③ 虐待防止研修・人権チェック	・不適切な関わりについて振り返り、改めて虐待防止をする
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 幼児期の発達をより知る	・幼児期の発達をより深く見つめなおし、保育の向上につなげる
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ゾーン保育研修 ③ スタッフ企画研修	ゾーン保育研修を実施し、ディスカッションを通じて、環境構成の重要性について考える
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画振り返り	２０２６年度目指す姿へ向け、今年度の事業計画の振り返りを行う
2月	18:00～20:00	※策定会議 次年度に向けて	次年度園目標・職員目標設定
3月	9:00～18:00	※策定会議 次年度に向けて	次年度行事設定
3月	18:00～20:00	※キックオフ会議 次年度に向けて	危機管理マニュアル確認・ロールプレイング実施

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をし、一緒に成長できる場にする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

世代間交流・異年齢交流等・様々な交流を通じて、人と関わる力を育めるよう地域交流を推進する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：250名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：馬場七丁目公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	近隣中学校、近隣高等学校、地域ケアプラザと連携
異年齢交流	馬場小学校・近隣保育園と連携
地域拠点活動	移動動物園・園庭開放・商店街各種イベント
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

昨年度に引き続き馬場小学校を中心に交流を実施する。
小学校に対し卒園児の引き継ぎ、及び保育要録の作成、提出することで子どもの成長や発育を共有、また小学校と５歳児交流を積極的に行っていく。小学校教諭との情報交換の機会を作ることで、子どもの成長を連続的に見通し、保育と教育の垣根を無くして育ちにつなげることを目指す。また新たに小学校教諭・保育者・保護者の集う会を行い、それぞれの立場で子どもについて語り学び合う機会を設けていく。

〈１〉今年度方針・テーマ

馬場小学校を中心に交流を実施する。
小学校に対し卒園児の引き継ぎ、及び保育要録の作成、提出することで子どもの成長や発育を共有、また小学校と５歳児交流を積極的に行っていく。小学校教諭との情報交換の機会を作ることで、子どもの成長を連続的に見通し、保育と教育の垣根を無くして育ちにつなげることを目指す。また小学校教諭・保育者・保護者の集う場を参画し、それぞれの立場で子どもについて語り学び合う機会を設けていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
10月頃	馬場小学校　1年生	14名予定	運動会（馬場小校庭）	子ども間交流
12月頃	馬場小学校　1年生	14名予定	協働活動（馬場どろんこ幼児保育室）	子ども間交流
1月頃	馬場小学校	4名	保育参観（馬場どろんこ）	職員間交流
2月頃	馬場小学校　1年生	４名予定	授業参観（馬場小）	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

半期に一度を基本とし、園児の状況によって随時実施

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：２０名予定）
園児の状況により開催（対象児童がいない場合は子ども観会議とする）

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校生活の質が高められるよう、保幼小連絡会・保育要録・個別の申し送りを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30※土曜日は東寺尾どろんこ保育園にて実施 集客目標：240名
子育て相談	（月）～（金）13:00～16:30　集客目標：120名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（金）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：馬場七丁目公園にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年１月３１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１３時３０分
自己評価終了予定時刻：１４時３０分
自己評価実施予定者：施設長、主任、クラスリーダー、調理リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指し	重点施策	・スタッフの専門職としてのスキル向上 ・NPSの推薦者率70%達成

た姿		・どろんこサポーターズとの協力体制の構築 ・畑活動・園庭改良の推進 ・地域行事への参画
	振り返り	・スタッフ主導の園内研修や日々のOJTを中心に、一人ひとりの専門性の向上を目的として様々な取り組みを実施した。適切な目標設定と定期的なフィードバックを行うことで、スタッフの主体的な学びが促進し、組織全体の成長に繋がるようにしていく。 ・昨年度のNPSは推薦者率70%と大幅に向上した。保育の質向上と併せて、スタッフの保護者に対する情報提供力や共感力、柔軟性等のコミュニケーション教育等への取り組みが評価に繋がったと思われる。今年度もより良い保育環境の提供を目指し利用者満足度を向上する。 ・どろんこサポーターズも徐々に拡大し、共育ての保育が展開されている。引き続き協働の場を提供し、保護者と保育者が一体となり、子どもの成長を支える環境を整えていく。 ・畑活動を積極的に行い食の循環を知る経験を数多く提供できた。園庭改良に関しては、築山の土の増量や木々の剪定等で、子どもたちの豊かな自然体験が得られる園庭作りを目指した。更に子どもたちの園庭遊びが充実したものとなるよう引き続き改良を行っていく。 ・地域商店街の夏祭りやクリスマス会等に参画し、地域の親子との交流を深めることが出来た。引き続き園庭や施設の開放、親子向けのイベントを通じて、地域の親子が安心して子育てが出来るよう地域社会との交流の機会を提供する。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・子どもが自信をもって好きなことに取り組む ・スタッフ1人ひとりが乳幼児期の発達について深く理解する ・スタッフ1人ひとりが得意分野を知る ・地域に開けた場とし、遊びに来たくなる園庭を造る ・保護者との協力体制の構築
	重点施策	・スタッフが得意な事を発揮する姿を見せることで、子どもも好きなことに集中して取り組むようになる ・乳幼児期の発達を深く理解し、保育計画や保育実践に繋げる ・園会議にて好きなことを追求する場を設ける ・土、水へ常に触れることができる環境を整え、思わず遊びたくなるような環境にする ・どろんこサポーターズを増員するために接遇を理解し、高いNPSの維持と保護者との関係を構築する
2026年度	目指す姿	・子どもが好きな事や得意な事で輝く ・スタッフ個人が園の課題を発見し、改善に取り組む ・スタッフ1人ひとり得意な分野を保育の場に取り入れる ・どろんこ祭りを園主催からどろんこサポーターズや地域と共同開催する
	重点施策	・好きなことを追求できる保育環境を整え、自信を持って輝ける場を提供する

		・得意分野の分析から見えた園の穴を埋める為、得意分野の再確認と課題発見のトレーニングを行う ・地域の方やどろんこサポーターズとの協力体制の構築をし、どろんこ祭りを共同開催する
2027年度	目指す姿	・子どもがやりたいことを自分たちの力で実現する ・生活を営む上でしなくてはならないことを理解し、取り組もうとする ・スタッフ個人が自信を持ち挑戦したいことに向け自ら動く ・地域に知ってもらい、保護者参加行事や地域参加行事を定期的に開催する
	重点施策	・子どもが「こんなことをして過ごしたい」と考え発表し、それを実現できるようにサポートする ・園生活の中で“苦手だけれども必要な事“の追及をし、それに取り組める環境を整える ・スタッフの得意な分野を更に広げる活動を園会議や法人内の研修で取り入れ、やりたい保育をスタッフ個々の力で実現できるようにする ・地域に根付き、地域・保護者参加行事を共同開催する

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：馬場どろんこ保育園 施設長　大橋　元気

２０２５年度　読売ランド前どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

原点回帰　～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
にんげん力＝『生きていく上で必要な力』がある心も体も逞しい子を育てる。

開園６年目、相手を思い、誠意を持った対応をする丁寧さを大切にし、主体性のある子どもを育む。
全てのコト、モノに教育的意図を持ち、一人ひとりの最善の利益を常に追求し続け、徹底的に質の向上に努める。
また、地域の方々と連携し、地域全体で地域の子どもたちを育てていくための拠点となり、地域になくてはならない保育園を目指す。

① 「生きる力を育む」ために、質の高い日課・基本保育活動を丁寧に実施し、主体性のある子を育む。
〈どろんこ会グループの基本活動の実践〉
異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩９時出発・畑仕事
ヤギと鶏の世話・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育
② 自分たちで育て、調理し食す、自給自足な食育活動の実践
③ 守る･矯正する保育ではなく、子ども自らの意思やタイミングで経験を選び取るための物的環境を徹底的に研究する。
④ 発達を理解し、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を学ぶ。
⑤ 食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践　≪命をいただく活動の実践≫
⑥ 大人のにんげん力UP　～組織のなかで、考え、学び、動く～
⑦ 地域に認められ、地域に選ばれ、地域になくてはならない保育園となる。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「生きる力を育む」ために、質の高い日課・基本保育活動を深く理解し、実施する。
	実践予定内容	・４月の園会議で日課・基本活動の意味・重要性・主体性についてディスカッションを行いスタッフ間で共通理解をする。 ・年間通してホンモノの体験を追求し続けるために毎月の学年会議で一つひとつの活動の意義を丁寧に考察する。
2	計画・ねらい	守る･矯正する保育ではなく、子ども自らの意思やタイミングで経験を選び取るための物的環境を徹底的に研究する。
	実践予定内容	・生きていく上で必要となる、ホンモノの経験を追及し、保育計画を立てる。
3	計画・ねらい	発達を理解し、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を学ぶ。
	実践予定内容	0歳から6歳までの発達過程を1年通して全スタッフで学ぶ。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立ち、感謝の気持ちや思いやりを忘れず、誠実さ、謙虚さを忘れず、保護者の心に入り込んだ接遇をする。
	実践予定内容	・大切なお子さんを預ける不安を理解し、小さな体調の変化や怪我も共有し、安心して仕事ができるようサポートしていく。 ・誰が対応しても同じ内容でお答えできるようスタッフ間の連携を強化する。
2	計画・ねらい	子どもの成長を共に悩み、共に喜び合える関係性をつくる。
	実践予定内容	・できるようになったことだけではなく、日々何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝えたり、家での様子も共有したりすることで、子どもが自ら育つ最善の環境を一緒に考え合える関係性を作る。 ・日頃から子育ての悩みを打ち明けやすい関係作りを心掛ける。
3	計画・ねらい	子育てのヒントを提供しつつ、園の方針を理解していただく。
	実践予定内容	・園の強みや特徴を生かした園の様子をインスタグラムやタイムラインで発信する。 ・保護者懇談会実施　年2回（6月・11月） ・保育参加、個人面談　随時 ・地域公開講座

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に認められ、地域に選ばれ、地域に必要な保育園となる。
	実践予定内容	①　園の保育・行事に参加していただく ・地域参加大型行事を年2回開催 （どろんこ祭り、お餅つき会） ・保育体験（自然食堂、自然学校、芸術学校、青空保育） ②保育所施設及び設備の開放 ・園内、園庭解放 ③子育てに困難を感じている方への支援 ・子育て等に関する相談や援助（子育て相談、寺親屋） ・交流の場の提供、交流の促進（子育てサロン、青空保育） ・情報の提供（地域の子育て支援拠点の紹介） ④どろんこ保育園を知っていただく広報活動 ・子育て支援イベントの告知 ・園の強みや特徴を生かした園の様子をインスタグラムで発信する。 ・多摩区広報誌「たまっこカレンダー」に月の予定を掲載

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげんカup　～組織のなかで、考え、学び、動く～
	実践予定内容	・５月の園会議で園の弱み強みを整理し、組織としてそれぞれの弱みおよ

		び課題をどのようにカバーしていくのか検討する。 ・スタッフ自信ができていること、できていないことをそれぞれが把握し、組織としてカバーできるような体制を構築し、園を運営していく。 ・無駄な業務の断捨離を積極的に行い、業務改善を行う。
2	計画・ねらい	全てのコト、モノに教育的意図を持ち、一人ひとりの最善の利益を常に追求し続け、徹底的に質の向上に努める。
	実践予定内容	月案立案会議で一人ひとりの子どもの発達段階を丁寧に確認し、必要な活動、関わり方、環境を深く考察する。
3	計画・ねらい	園内研修の講師となり、学びをさらに深める。
	実践予定内容	・順番で園長大学®保育士大学を視聴 ・園会議で講師となり、アウトプットすることで学びを深め、広げる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑の改良
	実践予定内容	土づくりにこだわり、質の高い野菜作りを行う。
2	計画・ねらい	ゴミの削減
	実践予定内容	・自作のコンポストで、野菜くず、ヤギの糞を堆肥に変え再利用する。
3	計画・ねらい	園庭の緑化
	実践予定内容	後援会費で芝を購入し、植え、育てる

〈6〉他者との協働の中で互いに思いや考えを共有し、共通の目的を実現する活動実践

1	計画・ねらい	子ども同士がグループで話し合い、役割を分担し、一つのモノ・成果物・ルールなどを創り上げる活動を実践する。
	実践予定内容	幼児は毎日サークルタイムを行う。 自分の考えたことを発表したり、人の話を聞いたりする経験を積み重ね、感情コントロールエラーを繰り返すことで、人対人コミュニケーション力を養う。

〈7〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	子ども一人ひとりの個性や育ちを理解し、最善の利益を全てのスタッフで追及する。
	実践予定内容	・大人がやってあげるのではなく、その子の能力に合わせて仲間同士で支え合い、助け合いながら生きていく術を見つけられるような援助を全てのスタッフで考える。
2	計画・ねらい	「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する
	実践予定内容	・発達支援つむぎ生田ルームと連携し、それぞれの専門性を生かした子育てを取り入れていく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	13人	栄養士	2人				
パートスタッフ	保育士	4人	事務	1人	用務	1人	調理士	1人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、コンピテンシー考察
給食運営会議	月1回	食育計画振り返り、献立の振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ 前月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り、次月計画の見直し
子育て支援会議	月1回	子育て支援活動の振り返り、参加者・人数方法の分析
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討 未来を見据えた園運営の擦り合わせ

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	事務連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンス研修 課題改善計画の共有と取り組み発表
食育会議	年4回	食育活動の共有、マニュアルの確認、献立の提案
保健会議	年4回	感染症対策、保健衛生対策の課題への取り組み共有
主任会議	年4回	施設長養成マネジメント研修、 課題改善のアクションプランの進捗確認
子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げるための研修、 課題改善計画の共有と取り組み発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及びスタッフの健康保持のために、施設内外の環境の維持向上に努める
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と点検
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通した食育計画案の作成と実施。畑の管理
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営とどろんこサポーターズとの連携
地域子育て支援担当	子育て支援事業の計画、実行、広報活動

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分にできるようにし、友達への関わりの芽生えを促す
	下半期 0～1歳児	・たくさんの経験を通して感性を豊かにし、感じたことを少しずつ言葉で伝える場を大切にする ・生活や遊びの中で心身ともに伸びる場を保障する
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢の中で友達との繋がりを深め楽しむ場をつくり協調性や自主性を育む ・興味関心をもったことに主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたりしながら、遊びに取り入れていく ・感じたことや考えたことを水・砂・土・紙・粘土を使用した造形・描画にて表現する
	下半期 2～5歳児	・異年齢の関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を味あう経験を保障する ・自分で考え、工夫し判断して、自ら行動できる ・心を動かす様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ食欲をかきたてる。
	実践予定内容	0～2歳は11:15、3～5歳児は11:45まで戸外で身体を動かして遊ぶ。
2	計画・ねらい	体に必要な栄養を知り、好きな人と楽しく、美味しく食べる。
	実践予定内容	三色ボードなどを活用し、使用される食材に興味を持ち、食べる意欲を育む。 全てのスタッフは子どもと食べることを楽しむ。

3	計画・ねらい	畑カレンダーを活用し、食育活動に必要な野菜を子どもたちが考え、育てる。
	実践予定内容	畑仕事を日課とし、保育計画に組み込み子どもが主体となり実践する。
4	計画・ねらい	食材・食の循環を認知する直接体験を行う。
	実践予定内容	魚の解体、鶏の採卵。

〈4〉保健計画

園児健康診断	０・１歳児　年６回隔月　/　２～５歳児　年３回
歯科検診	年１回（６月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、水分補給とは
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃･･･胃腸炎　、１月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	１名
エピペン使用できるスタッフ	本日現在名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については４月３０日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　０・１歳児　年６回隔月 ２～５歳児　年３回 歯科健診　年１回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	一人ひとりに合った教育的意図を持った環境構成(室内・戸外)を考察し続ける。
	実践予定内容	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回子どもの興味・関心を理解するための会議を行う。
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損等は速やかに修繕する。
	実践予定内容	様々な視点で点検できるように交代で行う。門のカギ閉めの注意喚起を定期的に行う。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても気持ちの良い環境を維持する。
	実践予定内容	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ロープ	幼児室	毎朝

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎日15日に行う。また、法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時緊急連絡を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。
2	事故・怪我防止	・事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、ケガ事故防止に最善を尽くす。 ・インシデント・ヒヤリハット報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証をしっかり行うことで事故を未然に防ぐ。 ・全園事故防止委員会を毎月1回行い、同グループ内で状況を共有し、事故防止策を探る。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施する。また、訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象とする。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握する。光化学スモック注意報の発令があった場合は内容にあった看板・貼紙等を提示する。
5	里山管理	年に3回里山整備を行い、危険個所や危険植物の確認や撤去を行う。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・中高生の保育園体験などの積極的受け入れ、異世代交流の機会をつくる。
・大学、専門学校の依頼による保育実習の積極的受け入れ、保育の仕事の素晴らしさを伝える。
・地域公開講座の参加をポスター等で呼びかけ、学びの場を提供する。

1	実践予定内容	保育士養成校からの実習生の受け入れ
2	実践予定内容	近隣中学校からの職場体験受け入れ
3	実践予定内容	保育ボランティアの受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月24日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価・人権チェック ②保育理念・日課の理解 ③怪我ケーススタディ研修	振り返り、アクションプランをたてる 理念・方針、保育目標、日課の意味を知る 怪我対応の基本を学ぶ
5月22日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②０歳児の心と体の発達	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証

		③ジョハリの窓 ④避難訓練デモンストレーション	組織としての園の弱み強みを整理 災害時の自園での対応方法を確認する。 実際にやってみて役割分担の必要性を知る。
6月26日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②1歳児の心と体の発達 ③保育中の重大事故(水遊び)	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 水遊びマニュアルの確認
7月24日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②保護者支援 ③2歳児の心と体の発達	振り返り、アクションプランをたてる 支援の種類や役割の整理 発達から事例検討
8月28日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②3歳児の心と体の発達 ③子どもが輝く運動会とは？	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 何のために行事をするのかを再確認
9月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②4歳児の心と体の発達 ③感動する保護者対応	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 保護者が感動する内容を考察
10月23日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②5歳児の心と体の発達 ③嘔吐処理デモンストレーション ④表現したいと思える子どもを育てる	振り返り、アクションプランをたてる 発達からの事例検証 マニュアル・手順確 表現とは？を考察する
11月27日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②選ばれる保育園になるために ③6歳児の心と体の発達 ④成長が伝わる生活発表会とは？	振り返り、アクションプランをたてる 発信する必要性、方法を知る。 発達から事例検証 個性を引き出す表現とは？
12月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②全体研修動画視聴 ③今年度の振り返り(保育)	振り返り、アクションプランをたてる 子どもにとって必要な環境とは何かを考察する
1月22日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②今年度の振り返り（係）	振り返り、アクションプランをたてる 今年度の組織としての動きを振り返る。
2月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②次年度事業計画発表・園目標決め	振り返り、アクションプランをたてる 事業計画を理解し、次年度の目標を決定。
3月1日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己評価 ②次年度行事計画策定	振り返り、アクションプランをたてる 次年度計画。プロポーザルを基に、子どもたちに経験させたい行事を決定する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉スタッフ個人別研修計画

・個々のキャリアプランを意識し、今年度の個人MBOを決定する。
・目標に向かうための具体的な取り組みを決定し、研修計画をたて、外部研修、系列園でのOJT研修、他施設見学等積極的に組み入れる。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。
また、積極的に園開放することで、地域の子育て支援に貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：500名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：寺尾台第1公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問、地域の高齢者サークルとの交流
異年齢交流	小中学校との交流
地域拠点活動	子育て支援「ちきんえっぐ」運営・園内(カフェ)開放
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

川崎市の方針に基づき、近隣保育園との年長児交流や情報交換、また小学校を知るための取り組みを積極的に行う。「5歳児と小学校1年生との年間連携計画」に沿って子ども間、スタッフ間の交流を深め、実態を知る。またアプローチカリキュラムを保育計画に取り込み、小学校への接続がスムーズになるような学びに向かう準備をしていく。

【育みたい資質・能力】

ア）「知識及び技能の基礎」豊かな体験を通じて、感じたり気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

イ）「思考力・判断力・表現力の基礎」気付き、できるようになったことなどを使い、考えたり試したり工夫したり、表現したりする。

ウ）「学びに向かう力、人間性等」心情、意欲、態度等が育つ中でよりよい生活を営もうとする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	多摩区	1名予定	園長・校長連絡会	職員間交流
5月頃	西生田小学校	2名予定	授業参観（西生田小教室）	スタッフ間交流
6月・1月頃	多摩区生田地区	1名予定	年長児担当地区別懇談会	職員間交流
10月～11月	西生田小学校	1名予定	授業参観・情報共有会	職員間交流

12月頃	近隣保育園	20名予定	年長児交流	子ども間交流
2月頃	西生田小学校	20名予定	小学校見学	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上計画をたてる。
月1回のケース会議で振返りとスタッフ間の共有を行い、見直していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：３名予定）
個別支援計画の振り返りと次月計画の確認
　スタッフ間で計画と支援方法の共有

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の引継ぎは児童指導要録、また各校の担当スタッフとの面談によって行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：500名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：20名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：50名
どろんこ芸術学校／どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：50名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：寺尾台第一公園にて開催　集客目標：50名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年6月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：16時00分
自己評価実施予定者：片野真実、堤栞里、古田めい

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	① 日課・基本保育活動の実施 ② 子ども自らの意志やタイミングで経験を選び取るための物的環境 ③ 小学1年生を見て理解し、逆算した保育を遂行する ④ 食の循環・環境教育の実践 ⑤ 大人のにんげんカUP ⑥ 地域に認められ、選ばれ、なくてはならない存在になる
	振り返り	① 日課として行う意図が分かり取り組むスタッフが増え、日課として行うことはできてきた。次年度は子どもも大人も重要性を感じ、活動の意味を深く理解し実践することに力を入れ、質をあげる。 畑仕事は「労働」の意識が弱く、育たない野菜が多くなってしまった。次年度は、自分で育て、食す自給自足となる食育活動に力を入れる。 ② 子どもの姿に都度合わせた物的環境を設置したことで、子どもに指示することなく、子ども主体で過ごす流れができてきた。次年度は、教育的意図にこだわった関り方や保育計画の立案に力を入れる。 ③ 子育ての質をあげる会議に参加したスタッフが「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の共有をし、各学年で次月の保育計画につなげられることがないか検討することができたが、丁寧な振り返りをするまでに至らなかったので、振り返り、次に活かすことを大切にしていく。 ④ 鶏を捌いて命をいただく経験を行った。子ども、スタッフ共にそれぞれの方法で命に向き合うことで命の尊さ、食の循環を体感することができた。ホンモノの経験として次年度も大切にしていく。 ⑤ 園の課題解決にリーダースタッフを巻き込むことで、自分事としてとらえるようになり、自立した集団となった。次年度は組織として園の弱みをどのようにカバーするのか考え、学び、行動する組織作りに力を入れる。 ⑥ 方針に興味を持ち来訪する方が増えてきたが、行事などの参加者人

		数向上までには至らなかった。次年度はここでしかできない体験にこだわり、社会情勢やニーズを考察しながら地域に選ばれ、求められる園となれるように子育て支援会議の質をあげる。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	〈保育〉生きていくために必要な営み、労働が文化となるように土台を作る。 〈子育て支援〉 地域の子育て拠点として、また地域の方々が自然と集まる憩いの場となる。
	重点施策	・生きていく上で必要な営みや労働を考え、実践する仕組みを作る。 ・地域にこちらから積極的に関わり、園に訪問しやすい関係性を作る。
2026年度	目指す姿	〈保育〉大人の指示なく、子ども主体で園を運営していくことが文化になり始める。 〈子育て支援〉 地域の子育て拠点として、様々なイベントや講座が地域とコラボして行い、町を活性化させる役割を担う。
	重点施策	・生きていく上で必要な営みや労働を、姿や言葉で伝え、見て、実践する。 ・地域の町会、自治体の方々との交流の機会を持ち、共に多摩区を活性化させるために協力し合う。
2027年度	目指す姿	〈保育〉生きていく上で必要な力を考え、新たなチャレンジをする。 〈子育て支援〉地域の子育て拠点として親子、地域の方をつないでいく場となる。
	重点施策	・ホンモノの経験にこだわり、子どもに必要な経験を追及する。 ・園を介して、地域の方、卒園児が帰ってくるなど、いろいろな人と出会い、よりどころとなる。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：読売ランド前どろんこ保育園　施設長　平塚　有未

２０２５年度　守谷どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

守谷どろんこ保育園は「心身共に逞しくしなやかな子ども」を育てます。
私たちは保育のプロとして、子どもたちにとって何が必要かを分析し、現状の課題を明らかにします。そこで止まることなく考え、創造し、プロセスを明らかにした上で準備し、実行します。今後必要となる「考え抜く力」を、大人がまず体現し、その姿を子どもたちに示します。

① どろんこ会の一つひとつの活動にこだわる
どろんこ会の保育理念を深く理解し、質の高い日課・基本保育活動（インクルーシブ保育、異年齢保育、座禅、雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム体操、午前9時からの散歩、畑仕事、裸足保育、縁側給食、商店街ツアー、青空保育）を実践していく。

② 「子ども主体」という言葉を再定義する
子どもだけが主体なのではなく、保育者・保護者・地域の大人たちも学びのプロセスに主体的に関わり、協働的な関わりの中で豊かな学びを生み出す。「共主体」（子ども・保育者・保護者・地域の大人が共に学び育ち合うこと）を目指す

③ ともに学びあい育ちあう施設を目指す
保育の実践を通じて、地域・業界・さまざまな分野へと、「学びと育ち」の場としての価値を広げていく。具体的には、保育ノウハウの発信や地域の子育て支援活動への貢献などを通して、地域の保育水準向上に寄与することを目指す。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育活動と日課の理解を深める。
	実践予定内容	職員間で定期的な研修や勉強会を実施し、日々の保育実践を振り返りながら、子どもの発達にどのようにつながっているのかを考察する。
2	計画・ねらい	子どもが主体的になり、自ら選択し遊びこめるようにする。
	実践予定内容	やりたいことや子どもたちが興味関心を注いでいる内容がわかる子どもたちの興味関心に基づいたゾーンを設ける。
3	計画・ねらい	自園以外にも目を向け、足を運び、学びを深めていく。
	実践予定内容	法人内、法人外にも目を向けていき、学びを得たものを自園に取り入れていきTrial&Error繰り返していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者との対話の回数を増やす。
	実践予定内容	個人面談や普段からのコミュニケーションを通して、普段の姿を伝えるだけでなく将来について、家庭での様子、子育ての悩みなどを気軽に相談できる雰囲気づくりをする。信頼関係をより深めていく。

2	計画・ねらい	共育ちの実現。
	実践予定内容	申し出しやすいよう、クラスごと期間を決めて、園職員と個別に対話する機会をつくっていく。保護者と園が協力し、子どもの成長を支援する体制を構築する。
3	計画・ねらい	保護者間コミュニティの形成。
	実践予定内容	各家庭を孤立させず、「つながることが子育てのエネルギーになる」ということを体感してもらう機会をサポーターズと協力し、保護者同士が交流できる機会を設ける

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援センターちきんえっぐとして、利用者を増やす。
	実践予定内容	利用者数の推移を分析し、増加に向けた具体的な施策を検討する。例えば、地域への広報活動の強化、イベントの充実、利用者に周辺への口コミを依頼するなどを検討する
2	計画・ねらい	子育て相談の積極的受け入れ。
	実践予定内容	子育ての悩みや迷いを打ち明けてもらえるよう、相談を取りにいくアクションを行う。地域への訪問活動や広報活動を通して、子育て支援センターちきんえっぐの相談事業を積極的に周知する。
3	計画・ねらい	地域の力を取り込む。
	実践予定内容	法人外の地域支援センターと情報交換し、先進的な取り組みを学ぶ。得られた知見を活かし、新たな子育て支援事業を企画・実施する。地域住民の協力を得ながら、子育て支援活動を展開する。例えば、地域イベントへの参加などを検討する 担当職員だけでなく、地域の方の力を活用する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダー層のエンゲージメントを高める。
	実践予定内容	リーダーの意見交換や情報共有を促進し、リーダーシップを発揮できる環境を整える。リーダー研修の実施や、リーダーによる園内プロジェクトの推進などを検討する
2	計画・ねらい	園運営に関与できるスタッフの育成。
	実践予定内容	業務の効率化や標準化を目的としたプロジェクトを実施し、スタッフ一人ひとりが業務改善に積極的に取り組めるようにする。
3	計画・ねらい	子どもも大人も主体性を大切にした共主体な関係を目指す。
	実践予定内容	子ども一人ひとりの最善の利益を求め、日々の保育の中で、子どもたちの意見を丁寧に聞き取り、共に考え、行動する。スタッフ間で定期的に振り返りを行い、保育の質向上に努める。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	伐採した樹木の活用
	実践予定内容	伐採した木を利用して、子どもたちと一緒に遊具を製作する。また、定期的に焚き火を行い、火と触れ合う機会を設ける。
2	計画・ねらい	木陰で遊べる環境づくり。
	実践予定内容	夏場も園庭での活動を保障できるように、園庭の約100本の樹木のメンテナンスし、子どもたちの発達や遊びの内容に合わせて、園庭のレイアウトを定期的に見直し、改善し続ける。
3	計画・ねらい	堆肥作成と畑での活用。
	実践予定内容	ヤギや鶏の糞、食品残渣などで堆肥を作り、畑の野菜栽培へ活用する。

〈6〉サポーターズとの協働

1	計画・ねらい	サポーターズの取り組みに他園や地域も絡ませ波及させていく。
	実践予定内容	サポーターズの取り組みに他園や地域を取り込めるよう広報活動や外部発信を行う。
2	計画・ねらい	サポーターズ主催の企画の継続、実行。
	実践予定内容	サポーターズ主催での企画を引き継いでいくようにする。サポーターズが主体的に企画・運営できるよう、園は必要なサポートを提供する。
3	計画・ねらい	定期的に話し合いの場を設ける。
	実践予定内容	送迎時や定期的に集まる場を設け、園をよくするための話し合いを行う。また、並行して、送迎時にも積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を構築する。

〈7〉選ばれる保育園をつくる

1	計画・ねらい	地域に開かれた園となる。
	実践予定内容	商店街ツアーや青空保育など日頃から地域と密接に関わっていき、保育園を知ってもらい、来園に繋げていく。
2	計画・ねらい	利用してよかったと思われる丁寧な保育を行う。
	実践予定内容	日々の保育において、子どもの権利条約の理念を踏まえ、子どもたちの最善の利益を常に考慮する。職員間で倫理的なジレンマについて話し合う機会を設け、倫理観の向上に努める。
3	計画・ねらい	保育内容の発信。
	実践予定内容	コンテストのエントリーを行い、保育内容を知ってもらう機会を作る。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
１５人	１５人	１５人	１５人	１５人	１５人	９０人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	施設長	１人		１４人	看護師	１人	栄養士	２人
	主任	１人						
パートスタッフ	保育士	３人	栄養士	１人	事務	１人	用務	１人
	嘱託医	２人	保育補助	1人				

３.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修や、園全般を議論する決定会議。
給食運営会議	月1回	チームとして子どもの職環境をどのようにデザインするかを検討する。
事故防止委員会	月1回	園内で発生した、インシデント・ヒヤリハットをもとに再発防止を検討する。
ケース会議	月1回	要支援児と気になる児について、ケース検討などを行う。

クラス会議	月1回	各クラスの保育の質向上に向けて是正検討を行う。
食育ＰＪＴ会議	月1回	園としての食の位置づけや方向性を検討する。

〈1〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人情報の共有・各園の運営状況共有
施設長勉強会	月1回	法人内研修、各課の施設長間研修
食育会議	年4回	食環境の検討や実践報告
保健会議	年4回	園運営上の危機管理や養護面の検討
主任会議	年12回	主任及びミドルリーダーの研修
子育ての質を上げる会議	月1回	各園の質向上の為の、実践報告や研修

〈2〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及びスタッフの健康保持のために、施設内外の環境の維持向上に努める
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検及びインシデント、ヒヤリハットの分析を行う。
防火管理者	災害全般の予防・対策の取組み実践
食品衛生責任者	日々の食事や食育プロジェクトの企画と実践の中心
畑係	農業計画に沿った畑や田んぼの維持管理と活動準備、及び可視化
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈3〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭りチーム	内容について企画運営の中心になる。保護者の参画・協働を踏まえた全体のデザインをする。
運動会チーム	子どもの心身の発達から運動面を切り口に保護者と共有する。 保育と行事の連続性を持った内容に企画していく。

生活発表会チーム	年間の園生活での育ちを全体的に保護者と共有するために、可視化及び実際に体験できるようにデザインをする。サポーターズの参画参加を基本とし、連携していく。

4.保育方針

〈I〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・愛情豊かに応答的に関わることを大切にし、個々の欲求を満たし、ゆとりを持って愛着関係を築く。 ・0歳からの学びの姿に気付き、子どもの意欲を認め見守る保育の中で、安心感ややってみようとする意欲を育む。 ・穏やかな気持ちと優しい笑顔で、目と目を合わせて対話をする。 ・自我を発散できるよう、安心できる人間関係を築く。
	下半期 0～I歳児	・和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちを育てる。 ・身近な環境に興味や関心を持って関わり、感覚の働きを豊かにする環境を整える。 ・表現の基礎となる多様な実体験を通じて、感性が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・一人一人の欲求が十分に満たされ、十分な活動量を保証し、良く遊び、良く食べ、良く眠ることが出来るサイクルを確立する。 ・基本的生活習慣を身に着けられる。 ・労働に積極的に取り組むことが出来る。 ・様々な経験や遊びを通して道具の使い方や、工夫などができ、生活を豊かにできるような生活力を身につける。 ・遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ。
	下半期 2～5歳児	・清潔で安全な環境を整え、子ども達の健康増進が図られるようにする。 ・自己決定により、主体的に過ごすことができるようになっていく。 ・環境に自ら関わりながら遊びや生活を展開していくことが出来る。 ・イメージに合う材料や用具を選び、場の構成の仕方を工夫して遊びを楽しむ。
保育参加	4～3月	・希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食育プロジェクトによる実践力の強化
	実践予定内容	現状を捉え、子どもへのアプローチ方法を考えるチームを園内で運営する。討議内容や情報を職員や保護者へ発信し、実践へと繋げていく。
2	計画・ねらい	食生活や健康に主体的に関わり、子ども自身の食べる意欲を育む。
	実践予定内容	作る、食べる、片づけるといった一連の食体験をすることで食べることの大切さに気付く。 整えられた空間で心地よく食べられる環境、安心して食べられる環境、安心して食べられる信頼関係を築くための取り組みを考える。
3	計画・ねらい	食の循環や環境への意識を身につける
	実践予定内容	子どもSDGsの観点から、残食や鶏の糞を使用した堆肥作りなど継続的な活動を子どもたちと一緒に行う。畑活動にも力を入れ、自ら栽培したものを食することで、自然の恵みや命の大切さに気付く。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・12月）
歯科検診	年1回（9月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導（11月）　歯ブラシ指導（1月）
流行が予測される感染症	インフルエンザ・感染性胃腸炎・アデノウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･３名より預かり済み／事務所にて保管 エピペン･･･２名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２６名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員はゼロ

その他保健に関する取組	保護者周知（熱性けいれんの対応・胃腸炎発生時の洗濯・薄着のススメ・歯ブラシのススメ・熱中症予防・早寝早起きなど

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･１２月（予定） 歯科健診　年１回／9月（予定）
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたち自身が主体的に選べるように環境設定をする。生活力を上げるために必要な道具の補充や、検討する

	実践予定内容	環境設定を園会議時に話し合い、実践を共有し、実行に移せるようにする。子どもたち自身が主体的に選べるような環境設定とは何か、発達に応じた玩具の配置は何どのようなものが必要か、生活力を上げるために必要な環境や道具は整っているのかを話し合いながら、今、必要で、最適な環境を整えていく。
2	計画・ねらい	子どもたちの意欲、挑戦心を高めるために保育者が意図とねらいを持って、園庭の環境を整備する。
	実践予定内容	保育者が明確な意図とねらいを持って設定する。子どもたちが夢中で遊び、試行錯誤できる環境づくり。
3	計画・ねらい	食事環境を整え続け、残渣を減らす。残渣を有効に活用する。
	実践予定内容	給食の残渣を常に把握し、残渣を減らす取り組みと同時に残渣を有効に利用する堆肥づくりに取り組む。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	幼児室	毎日
2	名札入れ	玄関	毎日
3	丸太	園庭	毎日
4	小さなマイホーム	1歳児室	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

守谷市は災害が起こりにくい土地と言われる一方、意識が弱まることのないよう様々な想定や視点を持って危機管理を行っていく必要がある。

1	実践予定内容	年間計画に沿って、月1回の避難訓練（年2回の書き込み訓練）。 突発で起こる災害に対して想定した訓練にする。
2	実践予定内容	事故防止チェックリストの活用。
3	実践予定内容	設備点検チェックリストの活用。
4	実践予定内容	毎月の法人事故防止員委員会における、施設長間での事故防止検討。 園内での深化につなげる。
5	実践予定内容	毎月の園内事故防止委員会における事故防止検討と実践（数値データよる分析・図面による可視化を行う）。
6	実践予定内容	法人内事故記録簿の職員共有。 それを受けて自園で何が出来るか検討しアクションにつなげる。
7	実践予定内容	ハザードマップ・ハザード難易度表の作成及び見直し。 資料としてだけでなく、職員の想定力を活かし議論を反映させる。
8	実践予定内容	園に対しての防犯の目、有事の際の相互協力が出来るよう、町内会や近隣とのコンタクトを定期的にとる。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は地域の社会資源であり、子ども専用の場所にとどまらず、社会人研修の場所にもなるべきだと考えています。次世代を担う保育者の育成も園の重要な役割として捉え、受け入れを積極的に行います。子どもにとっても、多くの人と関わることが豊かな育ちのきっかけになると考えています。

1	実習受け入れ	保育士・栄養士・調理師の実習受け入れを行い、実際の現場において行う業務や役割への理解を全面的にサポートする。
2	インターンシップ受け入れ	保育現場がどのような日々なのかを丁寧に伝える。担当者は質問や疑問に細かに答えていく。
3	職業体験受け入れ	中高生の職業体験は、社会や職業を知る機会としての受け入れしていく。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育理念・日課の理解 ③ 見守る保育 ④ 人権・虐待防止研修	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 新入職員も多いため改めてどろんこ会での保育方法について学ぶ。 ③ 保育の捉え方。 ④ 人権について学び合い、チェックリストを活用する。
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育環境１ ③ アクション振り返り(ドキュメンテーション)	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 保育環境設定の見直しと今後のアクションプランの策定。 ③ 各クラスの保育を語り合い魅力に気づく。
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学の講義を用いた研修 ③ 水辺の事故	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 自園の課題に合った動画を視聴しディスカッションを行う。 ③ 夏本番前に水辺の事故や対策について学ぶ。
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育。	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。

			② チームとグループの違い。チームビルディングについて。
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学の講義を用いた研修 ③ アクション振り返り(ドキュメンテーション)	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 自園の課題に合った動画を視聴しディスカッションを行う。 ③ 各クラスの保育を語り合い魅力に気づく。
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② インクルーシブ保育とは？ここまでの実践について。
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育環境２ ③ 人権・虐待防止研修	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② ここまでのアクションの振り返りと今後のアクションプラン策定。 ③ 人権について学び合い、チェックリストを活用する。
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アクション振り返り(ドキュメンテーション) ③ 全体研修視聴	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 各クラス保育を語り合い魅力に気づく。 ③ 全体研修を視聴し、ディスカッションを行う。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学の講義を用いた研修	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 自園の課題に合った動画を視聴しディスカッションを行う。
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間の相互評価	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 各セクションごとの輝けたことをフィードバックする
2月　日	18:00～20:00	策定会議１	（事業計画振り返り・保育年間振り返り）園目標・職員目標制定など
3月１日	18:00～20:00	策定会議２	次年度の行事・活動計画制定など

エリア研修予算内訳　救急救命講習（つくばどろんこ保育園・万博公園どろんこ保育園・学園の森どろんこ保育園・守谷どろんこ保育園・香取台どろんこ保育園・アイビー保育園・ほしのこ保育園・おひさま保育園合同開催）

救急救命講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	会場	総予算	按分予算
6月14日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円
6月21日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

子育て中の保護者などがコミュニティを作れる場所として、子ども専用施設とせず、どれだけ多様な人が来てくれるかに取り組んでいく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：ログハウス公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	守谷市いきいき・プラザ元気館など
異年齢交流	他園や地域の園児と地域の方を招いて交流の機会を作る
地域拠点活動	子育て支援センターちきんえっぐの機能強化

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

　黒内小学校・大野小学校を中心に、以下計画を進めていく。
保育・授業見学による、保育士と小学校教諭の相互の学びの機会を作る。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月２８日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	黒内小学校 1年生	職員４名予定	授業参観（黒内小教室）	職員間交流
９月頃	黒内小学校 1年生	１５名予定	小学校見学（黒内小学校）	子ども間交流
11月頃	黒内小学校 1年生	１５名予定	交流(黒内小学校)	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

年度当初に計画立案し、毎月具体的取組みを議論していく。9月に下期の計画立案を再度行い、子どもの実態に合った内容にしていく。地域の療育分野とも議論しながら学びを相互に深めていく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：４名予定）
要支援児と気になる児、または気になる場面をもとにスタッフ間で議論する。
要支援児に関しては、個別計画を作り、上期と下期に振り返りと見直しを行う。
具体的アクションを決めて、毎月振り返りと再計画を行う

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

学校生活との接続の質向上のために、保育要録の直接渡し及び個別申し送りを行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：１０００名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：２０名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：３００名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：１５０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　ブランチ守谷にて開催　　集客目標：５０名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年２月２７日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１４時００分
自己評価終了予定時刻：１４時３０分
自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・法人の保育と自分たちの保育のこだわりを語る機会を増やす。 ・提案型保育の深化と外部発信を進める。 ・共育ちに向けてサポーターズと協働の機会を重ねる。
	振り返り	・こだわりを持って取り組んできた結果、「語る」機会としてコンテストに2回エントリーすることができた。 ・保育者の思考力や実践力を引き出し、保育のアップデートを進めてきたが、停滞する時期もあり、課題も残った。 ・サポーターズメンバーは61名に達し、企画の実施回数は少なかったが、協働は文化として根付き、積み上げることができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	スタッフ全員が『どろんこ会』の保育理念や方針について深く理解し、それぞれの役割に誇りを持って保育を実践することを目指す。対話の質を向上させる。また、リーダースタッフは園全体を牽引する役割を担い、自ら理想像を描きながら、主体的に学び、成長し続けることで質の高い保育を提供する。
	重点施策	＜スタッフ主体の園内研修の実施＞ ・園会議のみに依存せず、日々の業務の中でスタッフが自ら研修の機会を作り出す仕組みを整備していく。 ・スタッフが主体的になり、学んできたことを現場に生かし共有できるようにする。 ・外部の研修にも積極的に参加し、得た知識を園内にフィードバックし互いに高め合う。 ・法人外との連携にも力を入れていき、相互に情報交換を行う機会を設けていく。

		＜積極的な外部発信＞ ・園の日々の取り組みや保育の考え方を発信する。 ・保護者向けのワークショップや講演を開催し、地域と連携した学びの機会を創出する。
２６年度	目指す姿	園全体がグローバルな社会課題に目を向け、それを解決しようとする意欲を持つ集団となることを目指す。子どもたちが未来を担うであろうことを念頭に、持続可能な社会の実現に向けた視点を育み、日々の保育を通してインクルーシブな環境づくりを推進する。
	重点施策	＜インクルーシブ保育の探求と発信＞ ・障害の有無や国籍に関わらず、すべての子どもが安心して過ごせる環境を整備する。 ・インクルーシブ保育の先進的な事例を学び、実践を重ねながら新たな手法を模索していく。 ・法人内外に向けた発信を強化し、他の園とも情報交換を行う。 ＜SDGsを意識した保育活動の実践＞ ・廃材を活用した遊びや制作活動を取り入れ、持続可能な社会の意識を子どもたちに育む。 ・『男の子だから女の子だから』ではなく、男女で役割を決めつけない。性別に関わらず、子どもたちが平等に能力を発揮できるようにする。 ・土づくりから野菜の栽培までプロジェクトとして追いかけ、食の循環に対する理解を深める。 ・資源の大切さについて、子どもたちと一緒に考えるプロジェクトを展開する。
２７年度	目指す姿	守谷市における教育の先駆者としての役割を果たし、地域や他園から学びのモデルとして認知されることを目指す。保育の質の向上を継続的に追求し、地域全体の幼児教育のレベルアップに貢献する。
	重点施策	＜法人内外でのモデル園を目指す＞ ・保育指針をより深く理解し、実践と研究を融合させる。 ・自園の取り組みを体系化し、研修資料を作成する。 ・保育者の育成プログラムを充実させ、次世代の保育リーダーの育成を目指す。 ＜保育の更新と発信のサイクルを活発化＞ ・園見学や視察の受け入れを強化し、他園や教育関係者と情報交換を促進。 ・園の特色を生かした保育を追求することで地域の教育の発展に寄与する。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：守谷どろんこ保育園　施設長　添野　雄大

２０２５年度　メリー★ポピンズ 登戸ルーム　事業計画書

Ⅰ.基本方針

原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～

① 「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
保育者は歌・さくらさくらんぼリズム体操・畑仕事・雑巾がけ・座禅・生き物の世話・長距離散歩等の基本活動のねらいを深く理解し、目的を意識しながら保育を実践することで、子どもたちの生きる力を育む質の高い保育を目指す。

② 「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
保育者は畑やプランターで育てる野菜について子どもと調べ、相談して栽培するものを決めていく。種まきから収穫・クッキングまでつなげられるような野菜を育てていく。成功体験が次の栽培意欲につながるように１年を通して畑やプランターの野菜が育てる。
生育の様子については子どもの発見を記録に残し園の掲示板に掲示し保護者や地域の方にも栽培の様子を知っていただく。

③ 「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する
子ども同士の困りごとが起こった時には保育者は介入しすぎずに解決できる方法を自分たちで見つけられるようにする。
保育室はクラスによって分けられることなく自分が何をしたいか選べる環境を整える。発達興味に合わせて環境設定を変え、特に障害児は興味のあることを集中して行える環境が保障される。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	子どもが自らの役割や責任を理解し、他者との関わりの中で協力し合う態度を育む経験を提供する。
	実践予定内容	畑仕事・雑巾がけ・生き物の世話等の日課活動を通して、自分がしなければならない仕事はしっかり行い、働くことのよさを感じてみんなのために働くことの喜びに触れられる環境を提供する。 やりたくないことをなぜやらなければならないのかを教え、協力してやり遂げることの達成感を味わえる経験を提供する。
２	計画・ねらい	「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を理解し成長段階に合わせた保育計画を行う。
	実践予定内容	保育所保育指針の１０の姿からひとつをピックアップし毎月の計画に盛り込む。活動の内容を具体的にし、ねらいを持った活動を日々実践する。ねらいや活動場所については前日夕方までに確定し、活動で使用する道具類を事前に準備し余裕をもって活動ができる。１０の姿を意識した計画の省察を丁寧に行い、振り返りを行うことで次月の計画につなげていく。
３	計画・ねらい	保育園を一つの大きな家として子どもが自分自身でやりたいこと行きたい場所を選べるように活動の内容を保育者が理解し、子どもに選択させる。異年齢で活動するために遊びの引き出しを増やしていく。

	実践予定内容	異年齢で過ごすためには子どもの興味や発達に合わせた遊びを準備する必要があるので保育書や研修を通して遊びの引き出しを増やす。保育者は様々な楽しかった遊びを保育者同士で話したり、子どもと一緒に取り組んでみたりする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもがどんなことをしていたのか楽しみにしながらお迎えに来られるようなお迎え対応をする。
	実践予定内容	保護者の気持ちに寄り添い、子どもの成長が伝わるような対応を心がける。何か質問や問い合わせがあった時には、その場で曖昧な対応するのではなく、園全体で話し合い、意見を一致させてからお伝えする。 どのスタッフに聞いても同じ回答が返ってくるような体制を整え、安心感に繋げていく。 育児の悩みに寄り添い保育園でのかかわりを伝え、困りごとが少しでも解決できるような対応を心掛ける。
2	計画・ねらい	連絡帳アプリ、タイムラインの活用法を考え、成長を共有する。
	実践予定内容	アプリでの配信が多いため、ご覧いただけないご家庭にはお迎え対応時に配信されている手紙や写真を通路に掲示したりすることでご覧いただける機会を提供する。 タイムラインは保育者がどんなねらいをもって活動を行っているのか、活動を行った中で子どもの反応、活動の内容、トラブルの解決方法など具体的に伝える。 保育者は子育ての専門家であることを意識し、保育者は子どもとどのようにかかわっているかを伝えていく。
3	計画・ねらい	保育参加の参加率が高いので保育参加を通して保育者が子どもとどう接しているのか理解を深めていただき、家庭でもできることを実践していただく。保育園の運営に対して理解を得られ、保護者と一緒に企画運営ができる行事が増える。
	実践予定内容	どろんこまつりや運動会はどろんこサポーターズと運営の相談ができ、どろんこサポーターズを中心として保護者が行事に参画する。保育園の行事に積極的に参加していただく中で保育者との信頼関係が深まり、子どもの育児の悩みを気軽に相談でき、子どもの成長をともに喜び合える関係性を深めていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	こども未来局保育事業部多摩区保育総合支援の「たまっこカレンダー」を活用し参加者を募る。園見学の際や散歩の際にチラシを配布する。近隣園の年長児クラスをイベントに招待する。
	実践予定内容	青空保育・出張勝手籠・勝手籠バザー・寺親屋・子育て支援行事（マジックショー・骨盤ストレッチ講座）の日程を告知する。
2	計画・ねらい	園見学やイベントに参加していただいたご家庭同士をつなぎ、園内開放などに来ていただく機会を増やしていく。

	実践予定内容	園見学やイベントの際に子育ての悩みなどを話せる場を作り、保育園にいつでもお越しいただけることを案内していく。室内解放、散歩の同行や水遊びなど保育園の日常生活を体験していただく。
3	計画・ねらい	青空保育を毎月行う。
	実践予定内容	スタッフは効果、やり方について理解をする。毎月どんな遊びをするか、どんな紙芝居等を読むか担当するクラスは月案に計画をする。参加人数と地域の方の様子は記録に残していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自分の役割を理解し、向上心のあるスタッフを育成する。
	実践予定内容	施設長はスタッフのキャリアプランを見据えて、年に2回以上面談をする。また次のステップへの足掛かりとなるスタッフのTrail＆Errorを見守り、アドバイスやサポートをしながら自信と向上心に繋げていく。 園での現状の課題に向き合いスタッフ自身の役割は何か、役割を達成するために必要な行動を自身で決められるように話し合う。
2	計画・ねらい	先輩スタッフは生存確認・嘔吐処理・アレルギー対応・散歩などマニュアルを確認し新人スタッフとの学びあいを月1回行う。
	実践予定内容	施設長・主任は日常の保育から、認識が異なる点や、マニュアルの理解ができていないところをピックアップしておきスタッフに伝える。先輩スタッフは自分自身が理解した上で、新人スタッフが悩んでいるところを聞き、どんな方法が良いかを一緒に考えていく。
3	計画・ねらい	リーダーは園の運営を行う自覚を持ち、率先して課題解決に向かう姿勢を見せる。園やスタッフの課題を見つけ、アクションプランを立て、実行できるまでアドバイス行い手助けをしていく。
	実践予定内容	リーダーは自分が得意なことは何かを自覚し、お互いの苦手な部分をフォローし合う。月1回の園運営会議にて自分ができることは何かをリーダー同士で話し合い、課題解決のために協力する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	給食食材（野菜）のカット方法の変更・皮付き調理・皮の有効活用
	実践予定内容	・出汁で取った昆布や鰹節で、佃煮やふりかけ等、献立に応じて加工する。 ・子どもたちと相談して献立を決め、皮つき野菜で料理を作る。 ・食材の固さ等により、繊維に沿って切り方の調整など、色々試してみる。
2	計画・ねらい	肉を捌いて食べる命をいただく教育の実践
	実践予定内容	食育行事として実施し、子どもの前でスタッフが実際に捌き食す。
3	計画・ねらい	給食残渣を2026年度末までに2022年度比50%に減らす
	実践予定内容	日々の給食残渣を測定し記録する。 バイキングで使用する調理道具は子どもが使いやすいものを準備する。 調理くずなどは調理スタッフが子どもとコンポストで肥料化する。

〈6〉利用者満足度向上

1	計画・ねらい	1.思いやり　2.誠実さ　3.謙虚さ　4.感謝　を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスの提供
	実践予定内容	お迎え対応チェックシートを活用し、日頃のお迎え対応について各自振り返りを行い、保護者の立場になって考える機会を設ける。 【挨拶】 ・来訪者が施設に入った時に大きな声で挨拶をしているか ・手を止め、顔をあげて挨拶をしているか 【お迎え対応】 ・すぐに保育士が対応に出ているか ・一日の子どもの様子を保護者に手に取るように伝えようとしているか ・複数の保護者がお迎えに来た際でも自ら満遍なく声をかけているか ・待った気がしないお迎え対応ができているか　待たされたと思わせない仕掛けづくりをしているか
2	計画・ねらい	保育参加・保護者個人面談のアナウンス強化
	実践予定内容	保育参加及び保護者個人面談のアナウンスを強化、参加者を多く募ることで、園の保育を知ってもらいオープンな園を目指す。
3	計画・ねらい	安全管理の取り組みの見える化
	実践予定内容	感染症予防策や食物アレルギーの管理、設備の安全管理、緊急時の対応、交通安全等、子どもたちの健康と安全を確保し、保育環境を信頼性の高いものにする。それらの取り組みを可視化し、保護者にご覧いただけるようにする。

〈7〉表現活動の充実

1	計画・ねらい	アートの日開催
	実践予定内容	月1回アートの日を開催し、子どもたちの表現活動の場を数多く提供する。自由な表現活動を通じて子どもたちのコミュニケーションスキルや創造性を発展できるようにする。
2	計画・ねらい	年間100曲の歌を歌う
	実践予定内容	100の曲に触れられるようにする。様々な歌を歌うことで多様な文化に触れたり友だちとの一体感を感じたりしながら、歌の好きな心豊かな子どもを育てる。
3	計画・ねらい	様々な楽器に触れる
	実践予定内容	多様な楽器に触れられる環境を用意し、子どもたちが様々な音色やリズムに触れることで自分の思いを自由に表出し、表現力を豊かにし運動能力やリズム感を高める。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
６人	10人	１２人	14人	14人	14人	70人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	０人	栄養士	１人	調理員等	１人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	０人	調理	1人	事務	1人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	スタッフの園内研修、コンピテンシー追求
給食運営会議	月1回	アレルギー、離乳食、献立の振り返り
事故防止委員会	月1回	自園で起きた事故、ヒヤリハット、インシデントの事故分析、危機管理
ケース会議	月１回	個別計画の振り返り、省察
クラス会議	週１回	保育計画の立案振り返り、子どもの様子共有
リーダー会議	月１回	保育園の運営に関して情報共有と改善点話し合い

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営本部より情報共有、議案検討、意見交換
施設長勉強会	月1回	課題改善計画立案、取り組み成果発表
食育会議	年4回	食育計画の立案、献立見直し、給食提供マニュアル
保健会議	年4回	感染対策やガイドラインの作成、食育計画作成
主任会議	年４回	マネジメント、自園での取り組み発表、アクションプラン立案運営
子育ての質を上げる会議	月1回	保幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿を学び実践、取り組み成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	清掃チェック　嘔吐処理セット点検　検便回収投函
安全対策係	ハザードマップの作成・更新　インシデント・ヒアリハットの自己分析
防火管理者	消防機関と連携を取り園の防災管理を行う。
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通した計画の作成と実施、畑の管理
生き物係	生き物の飼育

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画運営
運動会係	運動会の企画運営
生活発表会係	生活発表会の企画運営

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら、ふれあいを多く持ち、安心して過ごせる環境の中で様々な経験をする。 ・個々の発達を把握し、欲求を満たし生命の保持と情緒の安定を図る。
	下半期 0～1歳児	・多様な経験を通して、感情を豊かにし、感じたことを伝えられる場を大切にする。 ・自分でやってみたい気持ちを受け止めながら、遊びの幅が広がるようにしていく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・毎日の生活や遊びの中で基本的生活習慣が身につくようにする。 ・やりたいこと、必要なことを自分で選択し、好きな遊びを通して興味関心を学びに繋げていく。
	下半期 2～5歳児	・異年齢の関わりの中で生活や遊びの達成感や充実感を味わいながら経験できるようにする。 ・子ども同士で思いや考えを共有し、共通の目的を実現できる場をつくっていく。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自身で考え選択し食を通じて人とかかわる。
	実践予定内容	これまでの食育の取り組みや口腔発達の知見を活かしつつ、「食べたい時に食べたい場所で食べたい人と食べたいだけ」食べるという、子どもの意思決定を基盤とする食育を進める。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	１．畑仕事を実施し、3大食育方針を推進しその記録を社外に広報する。 ２．子どもが自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付

		ける活動の実行　①糞・ゴミの堆肥化　②種まき、間引く、獲る　③命をいただく（捌く、解体する、焼く、食べる）　④加工する＝梅・味噌・たくあん・梅干し・ケチャップ・マヨネーズ
3	計画・ねらい	火の暖かさや素晴らしさ、不思議さを感じ、火に親しむ
	実践予定内容	・焚火やクッキングを通じて火育を行う。 ・火の取り扱いを学ぶ機会を提供する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年0.1歳児 年6回(2ヵ月に1回)　2.3.4.5歳児 年3回(4ヵ月に1回)
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	はみがき指導、感染症予防、手洗い指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ５月頃･･･溶連菌　手足口病 １月頃･･･インフルエンザ　胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	対象者なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在１８名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	保育園感染病サーベイランス登録 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい・手洗い指導を行い、消毒・換気を徹底していく。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日

	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	該当なし
	フロン点検（簡易）	該当なし
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科検診 0.1歳児 年6回(2ヵ月に1回) 2.3.4.5歳児 年3回(4ヵ月に1回) 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	散歩先は保育者が狙いや活動の内容を子どもたちに伝え、子どもは自分がやりたいことを選び散歩先を決定する。
	実践予定内容	前日１６：００までに活動の内容はチャットで共有する。保育者はねらいと活動内容を理解し、子どもと話し合い活動先を決めていく。その際何が必要か子どもと考えて準備を行う。
2	計画・ねらい	室内活動は静と動の空間を作り、子どもが好きな場所で活動する。
	実践予定内容	活動内容に合わせた準備物は保育室内に準備をしておく。また静と動の物的環境の整備とともに、子どもを適切に見守る人的環境を整えることで、子どもたちが遊びに没頭出来るようにする。

3	計画・ねらい	子どもが畑やプランターの野菜の生育に関心を持ち、失敗したときはどうしたらよいのか保育者と考える。図鑑や絵本を利用し、栽培したいものを子どもと考え楽しみながら水やり、草取り、収穫が行えるようになる。収穫できたものはどんな料理で食べたいかを話し合う。
	実践予定内容	畑係は子どもたちと相談しながら計画を進める。子どもが主体となり、野菜の生長を楽しみにしながら労働としての畑仕事を経験する。月の農業計画や進捗は園会議や昼礼で共有し、全スタッフが畑活動にかかわるようにする。子どもの提案ややりたいことは保育者が楽しんで行う。調理スタッフと連携し、収穫した野菜を子どもたちが調理して食べることができるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

該当なし

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	年間計画に沿った地震・火災を想定した避難訓練実施（月1回） アプリへの書き込み訓練実施（年2回）
2	実践予定内容	事故防止チェック実施
3	実践予定内容	不審者対策訓練実施
4	実践予定内容	ヒヤリハット事例の共有、検証、再発防止対策
5	実践予定内容	法人内事故記録簿回覧による園スタッフへの注意喚起
6	実践予定内容	ハザードマップ（園外・園内・園庭）の作成及び更新
7	実践予定内容	法人内事故防止委員会会議実施（月1回）
8	実践予定内容	園内事故防止会議実施（月1回）
9	実践予定内容	環境省熱中症予防情報確認（概ね5月～10月）

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

中高生の保育園体験などを積極的に受け入れ、異世代交流の機会をつくる。
大学・専門学校の依頼があった場合は保育実習を積極的に受け入れ保育の仕事の素晴らしさを伝える

1	実践予定内容	広尾学園の中学生の体験学習の受け入れ。
2	実践予定内容	日本児童教育専門学校の学生の実習受け入れ。
3	実践予定内容	近隣の中学生の体験学習受け入れの新規開拓。（稲田中学校・枡方中学校）

7.スタッフ育成と研修計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ研修 ③ 虐待防止研修・人権チェック	理念・方針・運営部ミッションを共有し、ディスカッションを通じて、本年度目指す保育について園スタッフの共通認識を図る
5月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② お迎え対応（接遇）研修 ③ 2025年度運営本部mission確認	接遇研修を実施し、ディスカッションを通じて、丁寧なお迎え対応の重要性について園スタッフの共通認識を図る
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育品質マニュアル研修	保育品質マニュアル研修を実施し、マニュアル遵守の重要性とルール理解について園スタッフの共通認識を図る
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育研修	チーム保育研修を実施し、ディスカッションを通じて、チームワークの重要性について園スタッフの共通認識を図る

8月29日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権研修	子どもの人権研修を実施し、ディスカッションを通じて、子どもの人権擁護の重要性について園スタッフの共通認識を図る
9月26日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ③ クラス別上期振り返り発表	各クラスによる上期振り返りプレゼンテーションを実施し、下期の保育質向上に繋げる
10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 異年齢保育研修 ③ 虐待防止研修・ 人権チェック	異年齢保育研修を実施し、ディスカッションを通じて、異年齢保育の重要性について園スタッフの共通認識を図る
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食育研修	食育（食材・食の循環・環境）研修を実施し、ディスカッションを通じて、食育の重要性について園スタッフの共通認識を図る
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ゾーン保育研修	ゾーン保育研修を実施し、ディスカッションを通じて、環境構成の重要性について園スタッフの共通認識を図る
1月30日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ③ クラス別下期振り返り発表 事業計画振り返り	各クラスによる下期振り返りのプレゼンテーションを実施し、来期の保育質向上に繋げる
2月	18:00～20:00	※策定会議 下期振り返り・次年度に向けて	次年度園目標・スタッフ目標設定
3月	18:00～20:00	※策定会議 次年度に向けて	次年度行事設定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

施設長勉強会	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～I I月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

青空保育は毎月I回開催する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　集客目標：３００名
青空保育（保育園主催）	月I回　　公園名：登戸第I公園にて　　集客目標：I０名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	「ディサービスセンターなごやか向ケ丘遊園」に月I回訪問し、おりがみ・けんだま・ぬりえなど行い交流をする。
異年齢交流	多摩区地域みまもり支援センターと協力し、登戸小学校のI年生と交流する。（年３回を予定　I回目は運動会交流　２回目は保育園で制作あそび　３回目は登戸小学校でI年生と交流する）
銭湯でお風呂の日	月I回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

1.年間を通して計画をたて、小学校への見通しを持って生活できるようにする。
年度初めには「５歳児と小学校１年生との年間連携計画および報告書」を作成する。
2.幼保小連絡協議会や授業参加に参加し、小学校の実態を把握していく。
3.就学時には保育所保育要録送付や申し送りを実施し、スムーズな接続を図る。
4.小学校接続アプローチカリキュラムの理解を施設長・主任・年長児担任が深め作成を行い、園内で共有していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	登戸小学校 1年生	１４名予定	運動会参加（登戸小校庭）	子ども間交流
10月頃	登戸小学校 1年生	１４名予定	運動会ごっこ（当園幼児保育室）	子ども間交流
２月頃	登戸小学校 1年生	２名予定	授業参観（登戸小教室）	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

クラス会議の中で振り返りとスタッフ間の共有を行い、見直していく。
つむぎ生田ルームと保育所等連携支援を行う際は、連携を行いながら６か月に１回計画の見直しを行う。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：6名予定）
施設長、主任、各クラスリーダー4名
子どもの姿・支援計画・振り返りを行う。支援計画は６か月に１回見直しを行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級引き継ぎ：書面と引き継ぎ会議で行う。
小学校引き継ぎ：児童指導要録、また各小学校の担当スタッフとの面談によって行う。

11.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：７０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：３０名
自然食堂…親子ランチ交流	月2回　10:00～12:00　　目標：３０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	いずれか月1回　10:00～12:00　　目標：３０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：登戸第1公園にて開催　目標：７０名

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年１月２６日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時００分
自己評価終了予定時刻：１７時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務 、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・リーダー会議を毎月1回開催し、リーダーが中心となって園運営を行っていく。また、クラス会議では子どもの姿を捉え、活発に意見交換をし、子どもの興味・関心・発達に合わせた環境設定を行う。 ・たまっこカレンダーで毎月の子育て支援行事を知らせ、集客人数を増やす。園見学に来られた方には積極的に散歩や水遊びにお誘いし園の日常を体験していただく。
	振り返り	・初めてリーダーを担うメンバーで最初は迷いもあったがリーダー会を重ねるごとに園の運営を自分事としてとらえられるようになった。クラス会議では子どもの様子について意見の交換は行えていたが新人スタッフの経験値を増やすためリーダーがやって見せてそれを模倣する中で何が良かったかを考える機会を増やす必要がある。環境設定はリーダーが中心に変更を重ねたが、変更後のフィードバックの意見交換は充分に行えなかった。 ・地域支援においては、前年度と比較すると集客は増えた。マジックショーは近隣園の年長児２園の参加があり好評だった。園見学が増える9月から10月にわらべうたあそびや骨盤ストレッチをタイアップしたことで参加者の増加につながった。散歩や水遊びは時間設定が早いのか参加者を増やすことができなかった。多摩区のホームページに掲載される「たまっこカレンダー」は見ている方が多いので積極的に活用していきたい。 また今年度は、0・1際児クラスの散歩の際にチラシの配布を行った。同年代のお子様がいらっしゃるご家庭は興味を持ってくださることが多く集客につながった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・健常児も障害児も生きる力を育むインクルーシブ保育が充実する。 ・チーム同士の連携が密になり保育園が「大きな家」となる。戸外活動でも室内活動でも子どもがやりたいことを自分で選択し活動できる環境が整う。 ・保育園を訪れる方が顔なじみになり小さな子育てサークル仲間で保育園を訪れる方が増える。
	重点施策	・子ども間のぶつかり合いや葛藤によって、感情を調整しなければならない機会が得られるよう、物の数や置き場所を意図的に構成する。また保育者は必要な場面のみで言葉がけ・介入を行う。 ・リーダー会議、クラス会議で活発な意見交換が行われ、日々の子どもの姿をとらえ、一人ひとりに合わせた活動場所、活動内容、援助ができるようになる。 ・安心して過ごせる空間がある中で育児の悩みなどを地域の子育て世代の仲間と安心して語り合える場となるよう、勝手かごのフリーマーケットなどを通して、地域の方同士が話しやすくなり関係性が深められるようになる。

2026年度	目指す姿	・子どもたちが自分のやりたいことを見つけ集中して遊べる環境の中で、自主性や創造力、探求心を育む。 ・スタッフは子どもの姿を語り合え、自分のやってみたいことを協力しながら行える関係になる。 ・保護者は子どものことを保育者とたくさん話して笑顔で帰られる。 ・地域の方が自由に訪れ、楽しくリラックスした時間を過ごす。
	重点施策	子どもの発達・興味・関心に合わせた環境設定が定期的に行われ、たくさんの経験を通して成長する。 ・一人の負担が多くならないよう、クラス会議等を通じて対話を積み重ね、リーダー保育士は後輩の保育士に対して気遣える関係性を築く。後輩保育士はリーダー保育士に相談しながら自分で考えやってみようとし、成功体験を積んでいく。リーダー保育士を中心とした信頼関係がスタッフ間で構築される中で、保育士の仕事にやりがいを感じる。 ・保護者が安心して子どもを預けることができるよう、保育園での出来事をタイムラインや玄関掲示等で見える化する。また信頼関係を築く中で育児の悩みや不安に対して寄り添い、保育のプロとして的確なアドバイスが行えるようになる。 ・地域子育て支援活動を充実させるとともに、テラスの緑を増やし自然に触れながら落ち着いた環境で過ごせる場を提供する。
2027年度	目指す姿	・自分で考え行動できる思考を育み、子ども同士の関わりを通じて忍耐力や社会性、感情コントロール力を獲得する。 ・保育園は、子どもや保護者・保育者・地域の方がともに育児をする仲間となり、子どもの成長を喜び合う場となる。 ・保育者は様々な経験する中で、自分が自信をもってできることを増やし、積極的に企画実行できるようになる。また提案された企画の中で自分は何ができるかを考え、楽しもうとする姿勢をもって活動に取り組む。
	重点施策	・変容していく社会に柔軟に対応し、社会の一員として生き抜いていくために必要な「非認知能力」の獲得に向けて様々な直接体験の機会を数多く提供したり、異年齢保育を中心に仲間と協力し合ったり、葛藤したりするなどの経験を積めるようにする。また自己選択の場を設定し、子どもたちの「自分で考え行動する思考」を育む。 ・保護者や地域の方を巻き込み、保育園での活動を協力し合って企画・運営を行いながら育ちあう関係になる。保育者は専門性を生かして育児に対するアドバイス等の援助を行う中で、子どもの成長を感じあえる関係を築いていく。 ・保育者は子どもや保護者、地域の方と「楽しむこと」を第一に考え、子どもにさせたい経験を、自信をもって企画提案できるようになる。スタッフは自分自身も楽しむ姿勢をもち、保育園全体で子どもが楽しめる環境を整える。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ登戸ルーム　　施設長　田中　三樹子

２０２５年度　メリー★ポピンズ 川崎西口ルーム
事業計画書

Ⅰ.基本方針

【運営本部Mission2025】原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～

① 基本活動・日課の理解と習慣化〈どろんこ会グループの基本活動の実践〉
・異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩９時出発・畑仕事・ヤギと鶏の世話・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育・シニア交流・異世代交流・異文化交流

② 子どもの発達や活動に適した環境構成の充実化
・保育室内の鍵の開放、常にオープンな保育室を目指し、子どもが好きな場所で好きな人と好きな遊びを選び取れ変化し続ける環境設定

③ 地域に根付く保育園を目指す
・地域との交流を広げる。地域子育て支援を周知し、より多くの地域の方々に利用していただけるようなアプローチを行う。
・どろんこサポーターズとの連携を深める

④ SDGsを取り入れた保育の充実化
・幅広くSDGsに目を向け子どもと取り組む

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動の深い理解および実践・生きる力を育む活動の充実化
	実践予定内容	・なぜ基本活動を行うのか会議などで話し合い行動する。また、全スタッフが基本活動の重要性を感じ、語れる集団になる 異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩９時出発・畑仕事・ヤギと鶏の世話・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育・シニア交流・異世代交流・異文化交流・音楽指導・体育指導・のびのび教室・長距離散歩など
2	計画・ねらい	保育所保育指針に書かれている。10の姿の体得（幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿や能力）～子どもの姿をとらえた保育の実践～
	実践予定内容	・10の姿を意識した保育の実践 ・ねらいに沿った保育の意識 ・エピソード研修の実施
3	計画・ねらい	5歳児の子ども会議の習慣化（年長児としての自覚を持つ）
	実践予定内容	・自分の言葉で気持ちや思いを伝えられる ・子どもが自発的にやりたいことを実現できるよう話し合いの場を設ける

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	常に保護者の立場に立ち、気持ちの良い接遇を行う
	実践予定内容	・送迎時の挨拶はもちろん、お見かけした際の一声を大切に。 ・待った気がしない対応、子どもの様子が手に取るようにわかる対応
2	計画・ねらい	生活や遊びの中での育ちを可視化し伝えていく
	実践予定内容	・タイムラインの内容の充実（育ちを伝える） ・SNSを月3回以上更新する（エピソードの展開） ・ドキュメンテーションの作成
3	計画・ねらい	保護者と共に保育園を作り上げる
	実践予定内容	・どろんこサポーターズの拡充 ・保護者を巻き込んだ行事の開催 ・保育参加への呼びかけ（月に最低3家庭）

〈3〉地域の子育て支援事業

「地域に開かれた子育て支援」

1	計画・ねらい	近隣の商業施設との連携・交流を図り地域に根付く園となる。
	実践予定内容	・商店街ツアーの強化 ・商業施設に作品を飾らしていただき、園を知っていただく ・イベント時にはチラシ設置やポスター掲示を依頼する
2	計画・ねらい	保育園が地域の子育て支援施設として、気軽に訪れることのできる地域の方の憩いの場にする。
	実践予定内容	・青空保育の内容の充実 ・公園先で出会う方にちきんえっぐだよりの配布 ・勝手籠の認知度を高める
3	計画・ねらい	異世代交流・異文化交流・地域交流の実践
	実践予定内容	・自らが出向き、積極的に交流する場を設けていく ・シニア交流や小学校・中学校などの異世代との交流の習慣化 ・職業体験の積極的な受け入れ

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	法人の研修(園長大学®保育士大学講座)のコンテンツを活用し、様々な講師からの学びを深めていく。 また、ディスカッションすることで、より理解を深めていけるようにする。
	実践予定内容	・法人の研修(園長大学®保育士大学講座)の活用及びディスカッション ・保育にどのように生かしていけるか考える場を設ける
2	計画・ねらい	施設長、主任のみならず、スタッフからスタッフへの学びを重要視し、伝える側もアウトプットすることで、自らの知識を深めていくことができるようにする。
	実践予定内容	・スタッフ主体による園内研修の実施 　環境構成、ダメと言わない保育、リズム体操、10の姿、保育指数計算、保護者対応、嘔吐処理、危機管理、日課、

3	計画・ねらい	子どもの人数に合わせた保育指数計算が常にできる
	実践予定内容	・散歩に行く際や室内での指数計算を自ら行う ・保育指数計算を行い、自らスタッフ配置を考えて行動する

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	常に子どもがわくわくでき、落ち着いて過ごせる環境設定
	実践予定内容	・マンネリ化しない環境設定を定期的に行う（子どもの姿を見極め行う） ・子どもの発達にあった環境を整える
2	計画・ねらい	SDGsを学び、環境について考えられる子どもの育成
	実践予定内容	・ゴミ拾い以外にも、節水や飢餓、モノづくりなど様々な項目を知る ・保育者が各項目を担当して子どもたちに伝えていく
3	計画・ねらい	オープンな保育室で異年齢保育の実践
	実践予定内容	・鍵がかかっていない環境で、子どもたちが自由に行き来できる ・年齢問わず、行きたい場所で気の合う友だちと過ごす ・戸外活動も異年齢で行い、子どもたち同士の交流を深める

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	11人	11人	11人	11人	60人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	8人	看護師	1人	栄養士	2人
パートスタッフ	保育士	4人	補助	1人	事務	1人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 120分	園運営に関わる報告及び検討、保育についてのディスカッション・ロールプレイング
給食運営会議	月1回	児童の健康・アレルギー・クッキング等
事故防止委員会	月1回	子どもの事故、ケガを未然に防止することを目的とする
管理者会議 （第1木曜日）	月1回	園長・主任で園内の課題や方向性を話し合う
リーダー会議 （第2木曜日）	月1回	自園の課題と感じる部分を話し合いより良い環境を作る
週案会議 （第3水曜日）	週1回	クラスの子どもの情報を他クラスの担任と情報共有、ディスカッション
乳児会議 （第3木曜日）	月1回	乳児保育、子どもの姿、環境について
幼児会議 （第3金曜日）	月1回	幼児保育、子どもの姿、環境について
ケース会議 （第4金曜日）	月1回 (30m)	個別配慮を要する子どもについて
係会議	年4回	計画・実行・振り返りを行う。係以外も意識を持てるよう割り振りなどを考える

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例報告
施設長勉強会	月1回	保育における課題点のディスカッション等
食育会議	年4回	献立内容の改善提案・食育計画進捗報告等
保健会議	年4回	感染症対策・改善提案等
主任会議	年5回	保育の質向上検討、マネジメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上検討

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割

衛生管理係	保育環境・衛生・予防に関わる提案実施
安全対策係	防犯・遊具・保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練の実施・改善取り組みの実施
食品衛生責任者	衛生点検・予防及び管理と全スタッフへの指導
畑係	他園のスタッフと連携を取り、畑計画を行う
絵本係	月に一回各スタッフが絵本紹介、子どもの好きな絵本紹介
SNS係	インスタグラムに地域イベント（青空保育等）の更新月1回、子どもの様子の更新を月3回以上UP
地域子育て係	地域子育て年間計画の周知方法および、地域とつながる取り組みを考える
原点回帰係	商店街ツアー・シニア交流・異世代交流・異文化交流などの計画

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者、商業施設との連携、運営

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・新しい環境や友だち、保育者と慣れ親しむ。 ・個々の発達を大切にゆったりと関わり愛着関係を育む。 ・自然物や生き物、地域との関わりを体験する。
	下半期 0～1歳児	・基本的生活習慣の自立に向け、生活リズムの確立・排泄や着脱等に興味を持ちやってみようとする。 ・戸外での体験活動を広げ、異年齢との関わりを大切にしていく
幼児保育	上半期 3～5歳児	・新しい環境や友だちに慣れ、関わりを深める。 ・基本的生活習慣の自立に向け、主体的に取り組む。 ・自然物や生き物・食・地域との関わりを体験する中で生命の大切さを知る。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
	下半期	・様々な体験や生活に触れ合いを通して、友だち同士の関わりを広

	2～5歳児	げ、楽しむ。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・2025年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自分たちで育てた野菜を調理し食べることで『食』への興味関心を広げる
	実践予定内容	・畑で取れた野菜を収穫し子どもたちと調理して食べる ・子どもが考えた調理法で食す ・収穫までを子どもたちとしっかり追い興味を継続させる
2	計画・ねらい	日本・世界の郷土料理に興味関心を持つ
	実践予定内容	・季節の行事をスタッフが理解し子どもに伝える ・郷土料理を食べる意味を子どもに伝え関心を持てるようにする
3	計画・ねらい	命をいただく活動を通して食のありがたみを感じる
	実践予定内容	・魚の解体を子どもたちの目の前で行う ・「いただきます」「ごちそうさまでした」の意味を子どもたちが理解できるよう伝える ・鶏を絞める活動にスタッフが参加する

〈4〉保健計画

園児健康診断	0.1歳児年6回（4月･6月･8月･10月･12月･2月） 2.3歳児年2回（6月･10月） 4.5歳児年2回（4月･8月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）

園児への保健指導・取組等	鼻のかみ方指導、手洗いうがい指導、歯磨き指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 レボセチリジン塩酸塩･･･1名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在10名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ4名については3月19日までに受講予定 https://sheb.f.msgs.jp/webapp/form/20480_sheb_2/index.do
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	保育園にはＡＥＤ設置なし 保育園があるビル内の防災センターに設置あり
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月

	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年6回／4･6･8･10･12･2月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた環境作り
	実践予定内容	・子ども自身が活動・玩具・教材・絵本・運動器具を選び、手に取り、10より100の探索ができる環境の構成
2	計画・ねらい	保育者の声よりも子どもの声に溢れた保育園
	実践予定内容	・子どもの主体性の尊重 ・子どもたちを信じる心を持つ ・大人判断ではなく、子どもが判断できる環境づくり
3	計画・ねらい	常に異年齢保育を意識した環境設定、遊びを選択できる環境の中での統一されたルールの徹底
	実践予定内容	・クラス保育ではなく、横のつながり・子どもの発達にあった場所で過ごせる環境づくり ・好きな場所で、好きな人と、好きな遊びで過ごせる環境づくり ・全部屋フルオープンの保育室の常態化 ・保育者、子ども全員が理解した上での統一されたルールの中で、子ども主体である遊び込める環境でづくり
4	計画・ねらい	就学を意識した「自らのことを自らができる」子どもを主体とした動線や環境設定
	実践予定内容	・自分でできることは自分でする ・大人の見守りの中でできることを伸ばしていく ・子どもの困りに気付き、適度な配慮を行う ・できるまで待つ、見守る姿勢を大切に

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	常に危機意識を持ち、避難訓練や情報を収集し対応に当たる。
2	実践予定内容	園内外の事故事例・ヒヤリハットを全スタッフで共有し、事故防止に繋げる。遊具、家具等の点検をし、危険個所は速やかに共有、改善し事故防止に繋げる。
3	実践予定内容	各種マニュアルを理解し速やかに行動する。
4	実践予定内容	川崎市メール配信システムを活用し、発令及び解除等の最新情報を収集する。
5	実践予定内容	自治体の方に講師となってもらい、AED使用訓練やスタッフ向けの交通安全教室等の実施。
6	実践予定内容	クライアントとの共同の災害・非常時の避難訓練を実施し、クライアントと密に連携をした訓練を実施する。
7	実践予定内容	洪水時の避難訓練、不審者侵入訓練、総合避難訓練

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域研修の場として、実習生を積極的に受け入れていくことで、新しい保育の情報を手に入れていくとともに、実習生に自分たちの保育の考え方を言葉で伝えていくことで、自分たちの保育を振り返る場にもしていく。

1	実践予定内容	各養成校の実習生の積極的な受け入れ。
2	実践予定内容	小中高生の体験学習等の積極的な受け入れ。

7.スタッフ育成と研修計画

２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修 ③ 園目標の振り返り ④ 保育指数計算を知る	□虐待防止研修 □ケガ・ケーススタディ研修 □保育目標の振り返りとアクションプラン
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標の振り返り ③ 環境構成	□保育目標の振り返りとアクションプラン □フルオープンな保育室にするため

			には何ができるかを考える
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標の振り返り ③ さくらさくらんぼリズム ④ 水辺の危機管理研修	□保育目標の振り返りとアクションプラン □リズム時の体の使い方を学ぶ □水のリスク管理 □プール遊び時の注意点確認
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標の振り返り ③ ダメと言わない保育とは ④ 環境構成の見直し	□保育目標の振り返りとアクションプラン □保育観の統一、ダメと言わない保育に関する研修 □フルオープンな保育室になっているか考える
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標の振り返り ③ 保護者対応研修	□保育目標の振り返りとアクションプラン □気持ちの良い接遇とは
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標の振り返り(上期) ③ 嘔吐処理研修	□保育目標の振り返りとアクションプラン □嘔吐時の処理方法を学ぶ
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標の振り返り ③ 日課の意味	□保育目標の振り返りとアクションプラン □日課の意図を深める
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園目標の振り返り ③ チーム保育とは	□保育目標の振り返りとアクションプラン □チーム保育の大切さを学ぶ
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の体得 ③ 事業計画の振り返り	□保育目標の振り返りとアクションプラン □子どもの姿から10の姿が育っているか考える
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返り	□保育目標の振り返りとアクションプラン □年間を通した事業計画の振り返り
2月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第1回　策定会議	次年度の保育方針の共有及び 園目標の決定
3月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第2回　策定会議	年間行事計画を決定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の子育て支援施設として、地域の子育て世代の交流の場となるようにする。そして、地域での認知が高まっていくことで、“選ばれる保育園”となり、地域になくてはならない施設となる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：150名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：西口さんかく公園にて　　集客目標：120名
商店街ツアー	週1回

世代間交流	地域行事に参加、老人福祉施設の訪問、子育て支援センターとの交流
異年齢交流	幼・保・小連携事業での交流会に参加 中学生の職業体験受け入れ、ボランティアの受け入れ
地域拠点活動	川崎市・区主催 作品展　参加
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

小学校との連携を密に行っていくことで、小学校の現状を理解する。
また、保育園での学びや学習指導要領についても、小学校教諭とともに学び、共有していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月10日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	幸町小学校	1名予定	運動会の日程決め	見学
5月頃	南河原小学校	13名予定	運動会見学（校庭）	見学
6月頃	幸区役所	1名予定	小学校教諭と情報交換	スタッフ間交流
11月頃	幸区役所	1名予定	小学校教諭との情報交換	スタッフ間交流
2月頃	幸町小学校　1年生	13名予定	授業参観	子ども・スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

家庭、専門機関と連携して、全スタッフ共通理解のもと保育にあたる。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１３名予定）

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

児童要録を基に、小学校との連携を図る。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：120名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：120名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　目標：120名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　目標：120名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：西口さんかく公園にて開催　目標：120名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年9月19日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：12時00分
自己評価終了予定時刻：14時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・地域に向けた保育園の発信。SNSを活用し自園の存在を外部により知ってもらえるよう取り組んだ。 ・異年齢保育を目指すことで、クラスを超えた子どもたち同士の関わりや保育者の関わりを広げた。 ・食の循環として、大きなマグロを目の前で解体される姿を見て、普段の食事に感謝の気持ちを持てるようになった。
	振り返り	・どろんこ祭りは、昨年度を超える来訪者数となった。その後も継続し、地域の利用者に足を運んでいただき地域支援を行うべく、自治体のイベントカレンダーに定期掲載を行った。カレンダーからの問い合わせは増えたが、定期的な来訪人数及び地域への発信力は課題として残った。よって、次年度は更に呼び込めるよう、SNS発信に力を入れ、より多くの方へ地域支援に取り組む。 ・異年齢での関わりを多く持てた。あわ組は単独にならずひえ組と合同で戸外活動を行い、ひえ組はあずき組と合同で活動するなど、年上児の姿を見て年下児が成長していく姿が多く見られた。次年度は、より異年齢での関わりを多く持てるよう工夫をしながら保育を行っていく。その一つとして、次年度は保育室内を常時フルオープンにし、子どもが好きな場所で好きな活動を選び取れる環境を構築していく。 ・身近な魚からなかなか出会えない魚まで様々な魚を知り、魚に興味を持つとともに普段食べている魚を伝えていった。また、生きたマグロが釣りあげられる動画を視聴した後、ホンモノの大きなマグロを目の前で解体する活動を通して、食の循環について学ぶことができた。子どもたちは「いただきます」や「ごちそうさま」の意味を理解し、日々の食事で自ら発する姿が見られるようになった。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・保育者が法人の理念を理解し日課や基本活動を言葉で語れる集団を目指す。 ・子どもを真ん中に、子どもにあった環境構成を常に考えられる集団を目指す。 ・地域に根付く保育園を目指し、近隣の商業施設や関係機関に足を運び保育園を知ってもらう。
	重点施策	・園会議や乳児・幼児会議、リーダー会議などの定期的な会議の中で、日課や基本活動に関してなぜ必要なのかの理解を一人ひとりが深める機会を設け、環境を整え、保育を実践していく。 ・人的環境や物的環境が子どもにどう影響を与えるのかを日々考え、会議の中で話し合っていく。また、保育室のフルオープンを行い子どもが好きな場所で好きな友だちと過ごせる環境を整える。 ・SNSを月に3回以上更新し、地域の方々に保育園をよりアピールしていく。また、商店街ツアーや地域交流に力を入れ、地域との交流を広げていく。

2026年度	目指す姿	・基本活動が行えており、地域とのつながりも広げていく。 ・フルオープンの保育室が習慣化され異年齢での交流がより深まる。また、年上児が年下児のお世話を率先して行うことができる。
	重点施策	・自園の存在を地域の方々や保育園に知っていただくためにSNS更新を定期的に行い、自園の保育を外部に向け発信していく。また、SNSを通じて、地域子育て支援の一環として「ちきんえっぐ」の利用者も増やしていく。入園させたいと思ってもらえる保育園づくりの仕組み化を行う。 ・子どもが主体となって、子ども同士でより深く関われる環境づくりを実践する。年下児のお世話や当番活動を子どもたちが自主的に行っている、かつ、労働としての仕事も確立するような働きかけを行う。
2027年度	目指す姿	・子育て支援「ちきんえっぐ」の利用者の増加や近隣の保育園との交流も増え、地域に根付いた保育園となり、子育て世代が気軽に足を運べている園を目指す。また近隣の保育園との交流も増やしていき、近隣園の子ども同士でも遊び合える環境づくりが実現できている姿を目指す。 ・各年齢の育ちを理解し、ゾーンでの保育が確立されている。また、担任関係なく子どもと関わる。
	重点施策	・地域の保育園を巻き込んで研修を行うことで、保育園の目指している保育を地域の子育て世代に理解してもらい、理解した上で、入園をしてもらう。 ・担任関係なく、子どもを見ることができる集団になる。また、ゾーン保育を習慣的に行えており、子どもたちも自由に行き来できる環境を作る。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 川崎西口ルーム　施設長　松居 聖陽

２０２５年度　八山田どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

今後も地域に根ざし多様性を大事にしながら、真のインクルーシブな保育の在り方を日々研鑽し、発信していく時と捉える。異年齢で生活する中でどの子にとっても「その子らしさ」が保障され、子ども大人も「ジブンらしく」を大事にしていく。「みんなと同じに」ではなく、多様性を尊重される場で生きる力を獲得する。

保育所保育指針並びに、社会福祉法人どろんこ会の保育理念、保育方針に則り、当園の保育目標を以下の３つとする。

「自分で考えて行動する子」
「人と繋がることが大好きな子」
「未来に希望を持って探求する子」

この保育目標の実現のために、保育園・発達支援の施設全体で以下の５項目を推進する。

① 子どもの保障される権利を尊重し、自分も他者も大切にできる価値観を育み、子どもの人権を尊重し気持ちに寄り添い、丁寧なまなざしを持って育くむ。特に併設園の良さを最大限に活かしながら、インクルーシブな保育の実践をする。
② 子どもの「やってみたい」を真ん中に「気づく力」「やりぬく力」「調整する力」を見据え、２１世紀の保育のあり方を探求し人間力を育くむ。
③ 基本活動としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩９時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育をより深く理解・実施しその中での質をより大事にする。
④ ホンモノの体験を重視し、子どもたちが人・自然・もの・出来事と様々に関わる暮らしの中で、豊かな感性と体験を通して探求の芽生えを育くむ。
⑤ 主体的・対話的深い学びに注目し「創造」「遊ぶ」「共有」「振り返る」「想像」のサイクルを基に豊な創造的活動を生み出す。受容し安心して生活する場を保障し、自らの興味や関心に基づき主体性を大事にする保育を進める。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	子どもの興味関心にあわせて環境を再構成する。
	実践予定内容	・子ども主体の環境の在り方について学びあう。 ・養護的側面「一人の人として受け入れられる」教育的側面「資質・能力」を生活・遊びを通して育くめる環境を再構成する。
２	計画・ねらい	インクルーシブな保育の中での質の充実を図る。
	実践予定内容	・個々にあわせた丁寧な対応をするために、子どもを深く理解する。 ・多様性を受け入れていく中で子どもが探求できる場を創生する。
３	計画・ねらい	「主体的・対話的で深い学び」を引き出す力を探り実践する。
	実践予定内容	・接続期カリキュラム「学ぶ力」「関わる力」「生活する力」を基に０歳児からの見直しを図る。 ・豊な対話が生まれる保育士の役割を再考する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者の綿密な連携をする。
	実践予定内容	随時、育児不安解消を目的とした子育て等に関する様々な支援を行い保護者が主体的に育児を行えるようにパートナーとして一緒に考え、共に子育ての楽しさを共有していきながら、繋がっていく。
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝えていく中で理解を深めるきっかけにする。
	実践予定内容	保育の過程や子どもの育ちの言語化・可視化し伝える機会をつくる。 スタッフが日々３分間対応の中で様子を丁寧に伝えていく。 日々何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝え、家での様子も共有することで、子どもが自ら育つ最善の環境を一緒に考え合える関係性を作る。
3	計画・ねらい	どろんこサポーターズ制度の拡大
	実践予定内容	保護者同士の関わりを大切にする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園庭を開放し地域の方の癒しの場にする。
	実践予定内容	畑仕事や季節折々に集える場を開放し地域の庭として機能していく。
2	計画・ねらい	保育園の様子を外部に発信していく。
	実践予定内容	SNSで保育園の様子を伝え、地域に開かれた子育て支援を行っていく。
3	計画・ねらい	園と家庭・地域が協働し、いつでも気軽に集える場として地域の方が保育園を活用し、園が安心拠点として機能していく。
	実践予定内容	子育て等に関する相談や援助、子育て支援としてのニーズを柔軟に対応し、地域の核となる地域に開かれた子育て支援を実施し「子育て拠点」としての役割を果たす。特に子育ての知識や情報を伝え地域との関係づくりに努め、地域や家庭と連携し、園が共に育ち合う場となるよう保育園の役割を果たしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフが子どもの育ちを常に語り合う集団であり続ける。
	実践予定内容	保育に打ち込める環境、互いに認め合い尊重される関係性を基に働きやすい職場環境の中で、より語り合う文化をさせていく。スタッフは日常的に保育を語り、子どもを深く理解する。
2	計画・ねらい	主体的対話的深い学びを深める。
	実践予定内容	「主体性」「対話」「共同性」「学び」「環境構成」をキーワードに学んでいく。
3	計画・ねらい	学びの輪を広げていく。
	実践予定内容	自分の考えを積極的に表現する。 園長大学®保育士大学の視聴を進める。 更に充実していくために環境構成の視点から考える。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	畑仕事・食材加工・命を頂く活動を行う。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など捨てるではなく有効活用をする。
3	計画・ねらい	陸の豊かさを守る活動の実践をする。
	実践予定内容	木陰を創り過ごしやすい空間を創る。ペーパーレス化。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	多様性を子どもも大人も受入れ、互いを認め合える保育とスタッフ集団を作っていく。
	実践予定内容	今までの保育の在り方や考えを一旦捨てて、子どもと向き合っていきます。その中でそこに携わる大人全てが一緒に保育を作り直す場を大事にする。
2	計画・ねらい	一人ひとりの良さと違いを理解し、子どもの一人ひとりの健やかな成長を育んでいく。
	実践予定内容	「試行錯誤＝Trial&Error」ができる場を大事にしていく。
3	計画・ねらい	併設園の機能の充実を図る。
	実践予定内容	保育園・つむぎ両機能の充実を測り連携の拡充を図っていく。 専門性を生かし実践していく。

〈7〉食の循環への直接体験

1	計画・ねらい	法人の食のこだわりを追求する。
	実践予定内容	食育３大方針「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」ことの実践をしていく。
2	計画・ねらい	豊かな食の体験の場の構築
	実践予定内容	様々な食育体験の中で子どもの発想や想いを丁寧に繋げていく。子どもたちの試行錯誤の場面を大事に繋げる。
3	計画・ねらい	SDGsを考える場をつくる。
	実践予定内容	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身に着ける活動の実行を進める。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	15人	15人	15人	15人	15人	90人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	１７人	栄養士	3人
パート スタッフ	補助	２人	事務	1人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	研修計画に基づき研修
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・検証・研修
ケース会議	随時	子どもの様子の共有
フロアー会議	随時	月案・ねらいの確認・様子の報告
リーダー会議	随時	マネジメントの共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題解決・連絡
施設長勉強会	月1回	意見交換をする中で学び合う
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催する。
保健会議	年4回	グループ全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催する。
主任会議	年12回	主任の役割を考える。
子育ての質を上げる会議	月1回	若手スタッフのスキルアップを図る
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	グループ全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催する。
安全対策係	けが防止・危機管理マニュアル参照。
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生責任者	衛生点検・給食提供マニュアル参照
畑係	畑管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者とともに企画・運営

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分にできるようにし、友だちへの関わりの芽生えを促す。

	下半期 0～1歳児	たくさんの経験を通して感性を豊かにし、感じたことを少しずつ言葉で伝える場を大切にする。 生活や遊びの中で心身ともに伸びる場を保障する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	異年齢の中での友だちとの繋がりを深め、楽しむ場をつくり協調性や自主性を育む。興味関心を持ったことに、主体的に関わり発見を楽しんだり考えたり遊びに取り入れる。
	下半期 2～5歳児	異年齢の関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を感じる中で経験を保障する。自分で考え、工夫し判断して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長とこどもと一緒に食べる。
	実践予定内容	身近な人と食べて美味しいと思う子を育む。
2	計画・ねらい	心地よい空間作りをする。
	実践予定内容	四季を感じる気持ちの良い空間の中で食事を頂く。
3	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する。
	実践予定内容	食に旬があることを知り、季節を感じながら様々な地域の産物を活かした食事を経験する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・12月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回

スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 １月頃･･･ウイルス性胃腸炎 ２月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･２名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ1名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED設置施設なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･12月 歯科健診　年1回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	居心地の良い場を創っていく。
	実践予定内容	安心でき、居心地の良い空間から隣り合う空間（0歳から5歳）の行き来を大切にする。
2	計画・ねらい	試行錯誤をしながら遊び込む環境を創っていく。
	実践予定内容	「深く学ぶ」「深く観る」ことを大事に心ゆさぶられる環境を大事に保育士も共に感じ、子どもと一緒に環境を創っていく。 興味・関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協働的な学びを生み出す場を大事にする。
3	計画・ねらい	遊び込む場の見直しを図る。
	実践予定内容	夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障する。再構成できるスタッフの育成。

〈７〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	1歳児室／幼児室	毎日

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災：消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月１回実施。震度５弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備える。マニュアルの徹底。

2	実践予定内容	ケガ事故防止：事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い事故防止の徹底を図る。また、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図る
3	実践予定内容	インシデント・ヒヤリハット報告の分析
4	実践予定内容	グループ内で状況を共有し日々の保育の中で事故防止策を探る。
5	実践予定内容	防犯：年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・時報の訓練でスタッフ全員を対象とする。
6	実践予定内容	光化学スモック・光化学スモックが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモック注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示する。園児・スタッフは室内で過ごす。
7	実践予定内容	リスク管理委員会によるリスクマネジメント

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

1	実践予定内容	年間を通した小中高生の保育園体験ボランティア活動の受け入れ一般および学生の各種ボランティアの受け入れ。
2	実践予定内容	保育育養成校の学生の受け入れは、次世代を担う保育・福祉の環境で活躍する人材を育成するために、積極的に受け入れる。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・マニュアルの確認 ・虐待防止研修・人権チェック 子どもの人権について	基本理念を据える 自園の事故から 虐待の定義について
5月9日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・危機管理について ・安全衛生管理について ・子どもの育ちについて ・事故防止について	遊びの捉え方・環境の捉え方 指示をしない保育 人数確認・アレルギー確認・ヒヤリハットから
6月13日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・生活・安心・居心地 ・3分間対応について	・生活を子ども達が創るとは

7月11日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・水の事故 ・3分間対応と連絡帳について ・水と土のマップ	・遊びの子どもへのまなざし。子どもの育ち ・子どものエピソードを保護者への伝え方
8月15日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・守らなくてはいけない基本事項について ・子どもにとって安心できる場・伝える場を引き出す場へ	・子どもにとって安心できる場・伝える場から引き出す場へ
9月12日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・見失い事故の事例から考える ・窒息事故について考える	・他園の事故記録簿から
10月3日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・虐待防止研修 ・見失い事故の事例から考える ・窒息事故について考える	・時間・場・空間・仲間から据える ・他園の事故記録簿から ・虐待に関して再確認する。
11月7日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・乳児幼児の姿から捉える（環境について） ・リスクマネジメント	環境を支えるスタッフの眼差し 他園の事故記録簿から
12月11日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・リスクマネジメント ・同僚性と専門性、チームとして	チームとして・同僚性と専門性 災害の対応・自園のヒヤリハット分析・他園事故分析と要因
1月16日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・乳児幼児の姿から捉える ・リスクマネジメント研修	・保育の中で目指している理由を再考する ・ヒヤリハット分析・他園事故分析と要因
2月20日	18:00～20:00	・来年度の運営方針	策定会議
3月2日	18:00～20:00	・策定会議	策定会議

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®・保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®・保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：八山田子ども広場にて　　集客目標：50名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問
異年齢交流	青空保育・保育参観・体験活動参加・小学校交流会
地域拠点活動	保育参加

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

２１世紀の教育の在り方が模索され「小学校学習指導要領」「保育所保育指針」が改訂された。また、子どもの生活の連続性を踏まえ小学校と連携が円滑にいくように連携・接続していく。
キーワードになっている「主体性・対話的学び」への教育の在り方を具体的に小学校の教諭と共に要領・指針の相互理解を図っていく。以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日より開始する。小学校との交流活動（小学校見学・運動会未就学児プログラムへの参加）を通じて小学校との交流を図る。また、幼保小連絡会議への参加を通じての情報交換を行う。また、小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施する。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を3月３日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
６月頃	行健第二小学校　1年	15名予定	交流会（行健第二小校庭）	子ども間交流
９月頃	行健第二小学校　1年	15名予定	交流会（当園幼児保育室）	子ども間交流
12月頃	行健第二小学校　1年	15名予定	授業参観（行健第二小教室）	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上作成予定
ケース会議の振り返りとスタッフ間の共有を行い、見直していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：9名予定）
個別支援計画の振り返りと次月計画の確認

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への共有は児童指導要録、または各校の担当スタッフとの面接を行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　集客目標：150名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：20名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　集客目標：30名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　集客目標：100名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年３月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１２時００分
自己評価実施予定者：八山田どろんこ保育園施設長・つむぎ 八山田ルーム施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	地域発信する中で地域に理解され密接な関係性の中で、地域に根ざした子育ての場を創生し、インクルーシブな保育の実践
	振り返り	併設園で、子どもたちも多様な友や人と出会い、共に育ち合う場を大切にしてきた。また、インスタグラム等で日々の様子を発信してきた。より丁寧な保育の場を今後も追及していきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	近隣園の中でリードし、近隣園と協同しながら保育の在り方を提言する。
	重点施策	近隣園と保育の在り方を提言し子育ての在り方を一緒に考える。
2026年度	目指す姿	併設園として業界をリードしている
	重点施策	多様性を認め合いながら、どろんこ会のインクルーシブ保育を発信する。
2027年度	目指す姿	併設園として業界をリードし、拡げていく。
	重点施策	インクルーシブな保育の現場を広げていく中で、保育業界の中心的役割を果たせるよう関係各所にアプローチをする。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：八山田どろんこ保育園 施設長　真島 里佳

２０２５年度　三筑どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人　保育理念「にんげん力。育てます。」
　　二大保育目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

三筑どろんこ保育園　園目標　「　　」

・誰もが自由に行き来できる園舎という「大きな家」を軸とし、子ども・職員・保護者・地域社会がつながり、連携を深めながらインクルーシブ保育を実践していく。
・子どもたちに必要な遊び、野外体験、100のホンモノの経験を提案・実践しながら、一人ひとりの〝やりたい〟気持ちを後押ししていく。
・人権が守られ、安心して生活できるように受容し、欲求に丁寧に応答する保育を進めていく。
・自己選択すべきこと、大人が背中を見せて一緒に行うことを計画的に環境として用意し、「意欲をもって働くことができる人格形成」を見据え、日々の日課に取り組んでいく。
・生き物の世話や畑仕事、収穫物の調理・加工、堆肥作りなど、自らの体験を通して食材や食の循環、環境への意識を身に付けていく。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本活動・日課の理解を深める
	実践予定内容	・異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩９時出発、生き物の世話・畑仕事・縁側給食が子どもにとってどのような成長に繋がるのかを職員が理解し、活動の意味を深めながら子どもと実践していく。
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成
	実践予定内容	子どもの育ちや発達を理解して、個々の姿を職員間で共有しそれぞれの発達を尊重した保育計画を作成する。
3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定
	実践予定内容	・子どもが使うもの、触れるべき物を倉庫にしまわない。 ・各保育室に玩具、教材、触れるべき様々なものを常設する。 ・子どもが自分の意志で自由に各保育室を行き来できる生活を保障する。 ・大人が決めない、誘導しない。 ・子どもが自分で選ぶ、決める。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝えていく中で理解を深める。
	実践予定内容	保育の過程や子どもの育ちの言語化・見える化をし伝える機会をつくる。 職員が日々の３分間対応の中で様子を丁寧に伝えていく。 毎日何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝え、家での様子も共有することで、子どもが自ら育つ最善の環境を一緒に考え合える関係性を作る。
2	計画・ねらい	保護者がいつ来ても、どこを見ても気持ちが良い施設づくり
	実践予定内容	園内の清掃・整理整頓を心がける。ごみを拾う、使わないものは元あった場所に片付ける、美しい掲示、手洗い場や鏡は汚れていないか・濡れていないか、窓の汚れはないか等、来訪者目線で確認していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園と家庭・地域が協働し、いつでも気軽に集える場として地域の方が保育園を活用し、園が安心拠点として機能していく。
	実践予定内容	子育て等に関する相談や援助、子育て支援としてのニーズを柔軟に対応し、地域の核となる地域に開かれた子育て支援を実施し「子育て拠点」としての役割を果たす。特に子育ての知識や情報を伝え地域との関係づくりに努め、地域や家庭と連携し、園が共に育ち合う場となるよう保育園の役割を果たしていく。
2	計画・ねらい	保育園の様子を外部に発信していく。
	実践予定内容	ブログや掲示板で保育園の様子を伝え、地域に開かれた子育て支援を行っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課・基本活動の理解を深める
	実践予定内容	日課・基本活動を行う意味や活動を通しての子どもの成長について学び、「やらねばならぬ」ではなく「なぜやるのか」を深く理解する。
2	計画・ねらい	職員が子どもの育ちを常に語り合う集団になる。
	実践予定内容	保育に打ち込める環境、互いに認め合い尊重される関係性を基に働きやすい職場環境の中で、より語り合う文化をさせていく。職員は日常的に保育を語り、子どもを深く理解していく。
3	計画・ねらい	園長大学®保育士大学講座を視聴しながら、自分の強みを強化し、弱みを強みに変えていく。園会議での視聴も取り入れ、学びの機会を設ける。
	実践予定内容	興味を持った講座から積極的に視聴して学び、すぐに保育に取り入れられることはすぐに実践し、自分のものにしていく。 園の課題と感じることを全体で視聴し、共に学び合っていく。 自らの学びやスキルを園会議で発表していく機会を設ける。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	ヤギ・鶏の糞、野菜くず、落ち葉の堆肥化、毎日の畑仕事、食材を加工する経験の充実、命をいただく等の体験を通して食の循環・環境への意識を身につける。
2	計画・ねらい	食べ残しを減らしていく
	実践予定内容	給食残渣を減らすために個々に合わせた定量の配膳を行うとともに、バイキングの子には自分が食べきれる量を把握できるように、丁寧な言葉がけを行っていく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	多様性を子どもも大人も受入れ、互いを認め合える保育とスタッフ集団を作っていく。
	実践予定内容	今までの保育の在り方や考えを一旦捨てて、子どもと向き合っていく。その中でそこに携わる大人全てが一緒に保育を作り直す場を大事にする。
2	計画・ねらい	一人ひとりの良さと違いを理解し、子どもの一人ひとりの健やかな成長を育んでいく。
	実践予定内容	「試行錯誤＝Trial&Error」ができる場を大事にしていく。

〈7〉保護者との信頼関係の構築（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	保護者の保育参加を増やす。
	実践予定内容	保育参加を通して日々の園生活の様子や取り組みを理解していただく。
2	計画・ねらい	保護者と共に園庭整備や行事運営を行い、協同でより良い園づくりを目指す。
	実践予定内容	保護者、どろんこサポーターの取り組みや子どもたちの姿を発信し園生活に理解協力を深めていただく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
１２人	１８人	１８人	２４人	２４人	２４人	１２０人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	20人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	0人	用務	1人	事務	0人
	嘱託医 嘱託歯科医	2人						

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 120分	園の課題・情報共有、研修報告、その他会議共有、 園内研修、次月行事確認等
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデントの前月分検証、法人内で起きた事故の共有、危機管理・安全対策
ケース会議	月1回	気になる子についての情報共有、支援計画書の見直し
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討
週案会議	週1回	全クラスの保育計画の調整と連携

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内の共有事項、意見交換、事故防止委員会
施設長勉強会	月1回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有　等
食育会議	年4回	法人全体での食育活動の共有、意見交換、成果発表　等
保健会議	年4回	保健衛生に関する事項についての共有、意見交換　等

主任会議	年４回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有　等
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有　等

〈３〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理・清掃及び備品の管理・発注、感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保護者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、施設内外の設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの作成・更新
防火管理者	消防計画の作成、それに基づく各種訓練の実施
食品衛生責任者	食材発注、給食提供食材の衛生管理と在庫状況の把握
畑係	畑・田んぼの年間計画作成と実施、用具類の管理と補充
生き物係	鶏の健康管理、飼育環境の整備・改善 命の尊さや自然事象への関心を広める機会の設定
地域交流係	異世代交流、地域行事参加等の窓口業務

〈４〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの計画・実行、地域への広報
運動会係	運動会の計画・実行、地域への広報
生活発表会係	生活発表会の計画・実行、地域への広報

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人一人の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・子どもの興味関心に寄り添った遊びの提供、心身ともに安心して遊べる環境の中で、五感の感覚を育み探索活動を楽しむ。
	下半期 0～1歳児	・応答的な関わりを大切にしながら、発語を促し情緒の安定を図る ・自分でやろうとする気持ちを大切にし、時間がかかっても自分で最後まで頑張ろうとする思いに寄り添い、達成感を共有する。 ・ハイハイや歩ける範囲の活動を大切にし、発達段階を踏まえて全身を使って遊び込む活動を十分に尊重する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・安心して夢中になって遊び込める時間に十分配慮し、機会を排除しすぎない保育を心がける。 ・自己を十分に発揮し活動を通して、やり遂げる喜びや自信が持てるように配慮する。
	下半期 2～5歳児	・自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、友だちと伝えあったり話し合ったりすることの楽しさが味わえるようにする。 ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現できるような環境設定に留意する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

どろんこ会の３大食育方針
（１）調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる
（２）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
（３）子どもが「自分たちで盛付・配膳して食べる」を基本とし、子どもが食に対して興味・関心がもてるよう日々の保育活動の中で積極的に食育活動を取り入れていく。

1	計画・ねらい	体をたくさん動かして、お腹が空いて食に向かうリズムを大切にする。
	実践予定内容	園では午前活動で体をたくさん動かすことを意識し、「遊ぶ」「食べる」「寝る」のリズムを整える。 園での様子を家庭と共有し「遊ぶ」「食べる」「寝る」のサイクルの大切さを伝えていく。
2	計画・ねらい	食べ物の大切さ、命をいただいているということはどんなことかを子どもと一緒に考える。
	実践予定内容	畑で野菜を育て、収穫したものをいただく体験を大切にし、食べ物への興味を高める。 鶏を捌く体験を通して、自分たちが命あるものをいただいて生きていること、生き物の命の循環について考える機会を設ける。 「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味を伝え、感謝の気持ちを育む。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、からだの仕組み等
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃…アデノウイルス 11～12月頃…胃腸炎 12～2月頃…インフルエンザ、溶連菌
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 エピペン･･･1名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在24名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については3月19日までに受講予定
その他保健に関する取組	・日々の子どもの健康状態把握、近隣園・地域での感染症流行情報の把握、情報発信。 ・生存確認・嘔吐処理、おむつ交換、与薬・アレルギー食提供など、定期的なロールプレイを実施。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診	内科健診　年２回／４･１０月 歯科健診　年１回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	居心地の良い場づくり
	実践予定内容	安心でき、居心地の良い空間から隣り合う空間（0歳から5歳）の行き来を大切にする。
2	計画・ねらい	試行錯誤をしながら遊び込む環境づくり
	実践予定内容	「深く学ぶ」「深く観る」ことを大事に心ゆさぶられる環境を大事に保育士も共に感じ、子どもと一緒に環境づくりを行っていく。

		興味・関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協働的な学びを生み出す場を大事にする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧
　該当なし

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 【防災】	・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月１回の避難訓練を行い、火災・地震の避難方法を確認する。 ・アプリの災害時緊急掲示板を使って、安否情報(園名・園児数・保育者数・ケガ人・建物の被害状況・避難場所)を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる。
2	実践予定内容 【ケガ事故防】	・ヒヤリハット・インシデント報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証を行い、事故を未然に防ぐ。 ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し事故防止策を探る。 ・ハザードマップを作成・更新し、ケガや事故防止に努めていく。
3	実践予定内容 【防犯】	・年２回不審者侵入訓練を行う。 ・ちきんえっぐ利用者のインターホンでの確認、名簿記入 ・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく。（笛の携帯・代理送迎者の把握等）
4	実践予定内容 【光化学スモッグ・PM2.5】	・光化学スモッグ、ＰＭ２．５の知識を身につけ発生時には、光化学スモッグ発生時対応、および行政連絡に従い対応する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生や中高生の職場体験・交流などの受け入れは、次世代育成・地域貢献のため積極的に行い実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて保育・子育てで大切なこと、大事にして欲しいこと等、具体的に理解しやすいように伝え援助や指導を行いながら、保育の楽しさや魅力を伝えるよう配慮する。

1	実習生受け入れ	・不安のない受け入れ体制を整え、担当者だけでなく職員全体でコミュニケーションをとり、楽しく学びやすい実習にしていく。 ・その日の気づきや疑問に対して、丁寧な振り返りを行い、翌日からの実習に生かせるような指導を行う

2	職業体験受け入れ	小・中・高校生の職場体験・ボランティアを積極的に受け入れ、地域の社会資源としての役割を担っていく。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・子どもの人権・虐待防止	人権について考え、問題点の改善をはかる 子どもに対する見方、捉え方を学ぶ
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②日課・基本活動の理解を深める。 ③保護者支援	・「なぜやるのか？」を語り合いにより深めていく。形だけ行うのではなく、意味をもって日々実践できるよう理解する。 ・保護者が感動をするような支援・関わり、保護者支援について学ぶ
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理	・危険予測トレーニング、園のルール、ケガ発生時の対応などの再確認。 ・水辺のリスクマネジメント
7月11日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②丁寧な保育	・子どもの発達を理解し、年齢ではなく一人ひとりに合わせた関わりや環境構成の事例報告・ディスカッションを通じて学ぶ。
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②異年齢保育の共通理解と現状把握 ③続きがやりたくなる遊びの環境	・異年齢保育による子どもの発達や期待できる成長について事例報告・ディスカッションを通して学ぶ。 ・子どもの発達を理解し、今必要な環境を事例報告・ディスカッションを通じて学び、園内・園庭の環境を見直す。
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートについて	利用者アンケートを受けて、園の課題点の洗い出し・是正計画を行う
10月10日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②感染症対策 ③インクルーシブ保育	･季節性の感染症の特徴､感染経路､予防方法などを学ぶ ･半年の保育の振り返り

11月14日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②全体研修	･保護者が感動をするような支援･関わり､保護者支援について学ぶ ･全社員への研修動画を視聴し､感想や意見を交換する
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育の必要性	・それぞれが持ち味を発揮しながら「気づき合い・伝え合い・助け合い・高め合う」職場環境について、事例報告・ディスカッションを通じて学ぶ。(一人の保育を皆の保育に)
1月9日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度の振り返り	・園全体・クラス・個人で今年度の保育を振り返り、目標達成状況確認・課題の抽出を行う。
2月13日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②第一回策定会議	・次年度事業計画の発表、次年度に向けての目標設定 ・全体的な計画・年間計画書の作成
3月1日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②第二回策定会議	・次年度年間行事計画作成（プロポーザルを基に子どもに経験させたい行事を話し合う） ・畑活動・畝作り研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験し、また、地域からも関心を持ってもらえる発信をもとに地域との関わりを深めていける計画を実施する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：中尾公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設とのふれあい交流
異年齢交流	・地域の小学校・保育園などと交流できる機会を設けていく。 ・小・中・高校生のボランティア、職場体験の受け入れも積極的に行う。
地域拠点活動	・地域行事への参加やどろんこ祭り・運動会・生活発表会に地域の方を招き、保育園を地域に開いていく。 ・ちきんえっぐの活動発信を強化することで、園に足を運んでくださる地域親子を増やし、子育て相談をしやすい地域拠点を目指す。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校との関係性を重視し、積極的に幼保小の連携をすることで、子どもたちがスムーズに就学に向かえるようにする。スタートカリキュラムに基づき、年間を通して計画的に連携を進めていく。

また、幼保小連携会議・授業参観に積極的に参加し、地域の実態を把握しながらこれからの未来のために、幼児期の子どもにとって必要な経験は何かを具体的に学んでいく。就学時には保育所保育要録を送付し、必要に応じて一人ひとりの子どもの情報の申し送り等を丁寧に実施していく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。三筑小学校を中心に交流を図り、他小学校とも連携を進めいていく。スムーズな就学を目的とし、情報交換や発達・成長の様子をはじめ、子どもの姿を共有できるように働きかけていく。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	三筑小学校1年	２４名予定	運動会見学 （三筑小校庭）	行事見学
10月頃	三筑小学校　他５校	２４名予定	就学前健診 （各校体育館）	子ども間交流
２月頃	三筑小学校　他５校	各１～２名 予定	幼保小連絡会 （各小教室）	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

支援が必要な子どもについては個別に保育計画を作成し、家庭や連携機関と情報交換を密にして一人ひとりに応じた保育を行い、自らの育つ力を伸ばして行けるように支援し丁寧に関わっていく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：7名予定）

日々、変化していく子どもの様子を記録し、全職員での共通理解のもと、どの職員でも同じ対応で関わっていけるようにしていく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

年１回開催される保・幼・小連絡会に参加し、園での取り組みや情報の共有を行う。就学時健康診断前後には対象小学校と密に連絡を取っていく。また、保護者の同意を得て支援センターや療育など関係機関との連携を行い、安心して通える状況を作る。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：30名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：30名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：中尾公園にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２６年２月２４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：16時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、ミドルリーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・保育環境を整え、保育者は指示を出さず、子ども自身が自分で考え行動できるように見守っていく。 ・互いの価値観、物事の捉え方を知る。また、自分の弱みを認めることで互いに助け合い、弱みを強みに変えていくチーム力を育てていく。

	振り返り	・１年を通して環境構成に取り組み、ケガを減らす・遊びの展開について、職員間での話し合いを行いながら定期的な改善を行ってきた。全職員で考えた保育環境で子どもと一緒に遊ぶことで、子どもだけでなく職員も保育を楽しめるようになり、子どもの遊びも充実しケガも減った。遊びが充実してくると、保育者の指示がなくても子ども自らがどんどん遊びを展開し、職員の指示・言葉かけも減り子どもと保育者の対等な関わりがみえてきた。 ・自分の弱みをなかなか認められない職員もいるが、相手の価値観を受け止めかかわり方を変えられる職員が増えてきて、チームとしての土台ができてきた。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・職員一人ひとりが、大人同士や子どもたちとの語り合いを大切にし、互いを知り、自園の良さや自園の強みを見つける。 ・職員間のインクルーシブ、チーム力の向上
	重点施策	・職員一人ひとりがどろんこ会の日課や基本活動の意味を十分理解し、なぜそれをやるのか？をスタッフ同士の対話により深め、自分のものとする。 ・それぞれの立場や役割を理解し、認め合い、補い合いながら、「みんなで」子どもたちを育てていく。施設長・主任・保育士・調理員・事務・用務・社員・パートなど子どもに関わる全てのスタッフが、役割・役職を越えてチームとなり、全職員ですべての子どもを育てる園の実現を目指していく。
2026年度	目指す姿	・インクルーシブ保育が当たり前の日常となり、保育園・ちきんえっぐ・地域がいろいろな意味で壁のない「一つの大きなお家」となる。
	重点施策	・子どもたち一人ひとりが「好きな場所で好きな人と好きな遊びが」展開できるよう、職員同士が子どもについて話すことを大事にして理解を深め、安心安全に見守ることができる保育を身につける。
2027年度	目指す姿	・子どもたち自らがどろんこ会の日課や基本活動に取り組むことができ、子どもを中心とした活動が行われる。 ・地域に根付いた園になる。
	重点施策	・子どもが主体的に活動できるよう、子どもの成長や育ちを理解し環境を整える。 ・散歩先で出会った方や園庭開放やちきんえっぐを利用される方と積極的にコミュニケーションを図り、関係性作りを行う。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：三筑どろんこ保育園 施設長　廣田　麻美

２０２５年度　メリー★ポピンズ南砂ルーム　事業計画書

Ⅰ.基本方針

毎日の時間を大切にし、生活力、選択力、思考力を育む集団となる。

1. 基本活動を理解し、生活力・選択力・思考力を育む
保育者は、子どもの生活力・選択力・思考力を育むために、日課の意義を理解し、保育活動を行う。
保育者は、出来る限り多くの自然に触れ、免疫を獲得する物的環境構成と保育活動を行う。
保育者は、大人が教えないと知れない遊びを子どもに教える。
子どもたちは、多くの原体験から生活力・選択力・思考力を身に付ける

2. 畑仕事、生き物の世話、堆肥作りを確実に丁寧に行う。
保育者は、毎日、子どもと一緒に畑仕事、生き物の世話、堆肥作りを行う。
保育者は、畑の年間計画を元に苗植えや水やり、雑草抜き等を行い、収穫物を食育活動に利用する。
保育者は、堆肥作りを通して、食の循環教育を行う。
子どもたちは、必要な労働を理解し、実践する。
子どもたちは、堆肥作りを通して、食の循環を知る。

3.生きる力を培う
保育者は、子ども自らが興味関心のあるものを選択し、10よりも100の探索が出来る環境を構成する。
保育者は、必要以上に介入せず子ども達を見守る。興味を持つ・継続する・最後までやり抜く・気持ちをコントロールする非認知能力の育成を目指す。
保育者は、子どもたちを主役にして、多くの動植物、自然事象、水・土・火に触れる機会を可能な限り多く作る。
子どもたちは、室内・戸外・年齢を問わず一緒に活動する中で、生きる力を培う。

4.子どもたちが「自由に行き来する大きな家」を目指す
保育者は、ワンフロアの環境を活かし、異年齢の子どもたちが園内を自由に行き来する環境を作る。
保育者は、個々の発達段階を理解し、援助していく。
年上児が年下児の面倒を見、年下児は年上児の行動に憧れが持てるようになる。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	スタッフ個々が園長大学・保育士大学講座を使い、設定した目標に向けて専門的な知識と技術を高め、常に自己研鑽を重ねていく。園内研修で知識を共有する。
	実践予定内容	園会議に於いて、得た知識を発表する機会を多くし、園全体のボトムアップを図る。
2	計画・ねらい	保育者、子ども、保護者と一緒に安全教育を進める。
	実践予定内容	安全計画の内容を保育者と子ども、保護者と共有し実施する。子ども自らが自分の身を守ることが出来るように導く。

3	計画・ねらい	日本の伝統行事を知り、理解を深める。
	実践予定内容	正月、節分等、我が国の伝統行事を知り、導入に力を入れる。絵本、手遊び、歌等を多く取り入れ、行事への理解を深める。
4	計画・ねらい	保育園に関わる全ての人にとって、気持ちの良い接遇を行う。
	実践予定内容	園内研修で接遇に関して学ぶ機会を増やし、連絡帳、保護者対応、待った気がしない玄関対応等を話し合い、都度改善していく。 子どもたちが、大人の接遇を見て気持ちの良い挨拶をし、社会性を身に付けられるように努める。
5	計画・ねらい	小学校学習指導要領を紐解き、学習指導要領スタートカリキュラムとの接続が出来るように支援する。
	実践予定内容	子どもの未来の姿を見据え、小学校との交流活動、小学校見学を行う。
6	計画・ねらい	エピソード記録やポートフォリオを作成し、自園の保育姿勢を発信する
	実践予定内容	エピソード記録やポートフォリオを作成し、スタッフ間で共有する。玄関に掲示し、保護者が待った気がしないお迎え対応に活かす。
7	計画・ねらい	毎日歌を歌い、歌を知っている子が育つ。
	実践予定内容	毎日歌を歌う時間を提供する。保育者が日頃口ずさみ、歌が沢山聞こえる環境を作る。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

保護者一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、子どもたちの成長を喜び合うことの出来る関係作りをしていく。
子どもの様子が目で見て分かり、保育者の保育への考えが伝わるようなタイムラインやエピソード記録、ポートフォリオ、子どもの作品、感染症やアレルギー、子どもの発達についての情報等を発信し、保育の見える化に努める。
必要に応じて、保護者面談を実施する。

1	計画・ねらい	思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスを提供する。常に丁寧な接遇を心掛ける。保護者とのコミュニケーションを密にし、随時保護者面談を実施する。
	実践予定内容	園内研修を通して接遇についての理解を深める。保育者同士がチャット機能を使い、子どもの様子を共有する。必要に応じて、随時保護者面談を実施する。
2	計画・ねらい	園での様子を発信し、共有する。
	実践予定内容	連絡帳やタイムラインの内容の充実に努める。保育者の想いを入れたタイムラインを発信する。エピソード記録やポートフォリオを作成し、子どもの様子を発信、共有する。
3	計画・ねらい	感染症やアレルギー、子どもの発達等について発信していく。
	実践予定内容	タイムラインや玄関掲示等を利用して、感染症やアレルギー、子どもの発達についての情報を啓発していく。
4	計画・ねらい	常に整理整頓を心掛け、環境設定に必要なものをしっかりと揃え、不要な物を置かない気持ちの良い施設を作る
	実践予定内容	清掃責任者による点検を実施していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

地域の子育てニーズの把握に努め、体験保育、園解放、小中高生交流、世代間交流、ボランティア受け入れ、無人フリーマーケット、子育てサロン、子育て相談等に取り組み、地域子育て支援の拠点として保育園の役割を果たす。
日頃活動している内容を地域に発信し、園が地域の子どもたちにとっても原体験の場となるように努める。地域の子どもたちと共に活動を楽しみ、成長し、地域の子育て拠点となる。

1	計画・ねらい	地域の広報サイトを使い、園解放の機会を地域に伝えていく。
	実践予定内容	地域の広報サイトで情報を発信する。園見学にいらした方や、訪問する商店街の方に園解放の機会をお伝えし、いつでも園に遊びに来ることが出来ることを知らせていく。
2	計画・ねらい	地域の方が楽しむことが出来るような活動を提供する
	実践予定内容	年間のちきんえっぐ活動計画を、地域の方が足を運びたくなるような魅力的なものとする

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

経歴、能力、得手不得手を考慮しながら、常に学び続け、スタッフ個々が成長していく集団となる。

1	計画・ねらい	経験の浅い職員については、法人ルール・方針の理解・日々の業務の習得を目指す。子どもと可能な限り関わり、子どもを知る、子どもの思いを感じることを目指す。
	実践予定内容	保育品質マニュアルの読み込み、園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回目指す。
2	計画・ねらい	中堅職員については、法人理念・園目標の具現化に必要な事を考え、実践することを目指す
	実践予定内容	日々の保育についての振り返りを行いチャットで共有する。園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回目指し、受講内容を会議で発表する。経験の浅い職員のフォロー、指導を担う。
3	計画・ねらい	リーダー職員については、運営部mission・園事業計画の実現・十分な安全管理を念頭に置き、園全体の様子を把握し、職員を統率することを目指す。
	実践予定内容	自身のスキルアップのため、園内研修講師役を務める。園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回以上目指し、受講内容を会議で発表し、園全体のボトムアップを目指す。 新入職員、中堅職員のフォロー、指導を担う。中堅職員との面談を行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物や畑に関わる機会を可能な限り増やす。
	実践予定内容	担当係を中心に、当園の環境を活かした畑活動を行う。飼育可能な生き物を常に考え、子どもたちと共に飼育する。
2	計画・ねらい	給食残渣量の測定を継続的に行い、削減する意味を知る
	実践予定内容	給食残渣の測定を継続的に行う。年齢に応じた理解が出来るように、多

		い、少ない、具体的数値等を伝えていく。残渣量を減らす取り組みの意義を伝える。
3	計画・ねらい	コンポスト、落ち葉での腐葉土作りを行う。
	実践予定内容	コンポスト、落ち葉での腐葉土作りを行う。食の循環を視覚化する等して分かりやすく伝える。
4	計画・ねらい	食材の皮や捨ててしまう部分の調理への活用法を考え、子どもたちの前で調理し、その場で食する。
	実践予定内容	食材の皮調理を子どもたちの前で行ったり、清掃やコンポストに利用したりする。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
0人	10人	12人	14人	14人	14人	14人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	8人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	月1回120分 各クラスの様子、行事進捗、園内研修
給食運営会議	月1回	月1回 クッキング内容の共有、アレルギー対策、食育
事故防止委員会	月1回	月1回 当月の事故怪我の振り返り、分析、再発防止策話し合い
ケース会議	月1回	要支援児の姿・保育計画・対応方法の共有
乳児会議・幼児会議	月1回	子どもの姿・保育計画の共有、振り返り
昼礼会議	毎日	子どもの姿共有、伝達、事務連絡、活動の振り返り

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各書類提出や運営についての確認事項
施設長勉強会	月1回	保育園の課題検討をしながらスキルアップを目指す
食育会議	年4回	マニュアルの見直し、園の取り組み発表
保健会議	年4回	感染症対策、衛生管理、園の取り組み発表
主任会議	年4回	主任としてのスキルアップ、園運営の課題検討
子育ての質を上げる会議	月1回	各課題について事例検討、講義

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生改善と疫病の予防措置、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	設備点検、インシデント、ヒヤリハットの分析
防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成、防火管理上必要な業務を計画的に行う
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する業務、施設の衛生管理
畑係	畑の環境整備、植付け・収穫管理

生き物係	生き物の世話

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画・実施

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 1～2歳児	・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・個々の生活リズムを大切にし、園生活に慣れるように丁寧に関わる。歩行、身体バランスの安定により盛んになる探索活動を楽しむことが出来るようにする。 ・様々な行動や欲求に適切に応え、身近な大人と情緒的な絆を形成する。 ・身近な大人や年上児、友だちとの日常の中で、見て学び、感情を十分に表現し、大人に見守られながら健やかにのびのびと育つ。 ・生活の中の様々な遊びや身近なものとの関りを通して感性が育つ。 ・園児同士の関わり合いの中で、身近な人との気持ちが通じ合う。
	下半期 1歳児	・異年齢活動を通し感性を豊かにし、創造性が芽生え、活動に楽しみや喜びを感じる。 ・生活や遊びの充実を図るための環境設定をする。 ・生活に必要な言葉が分かり、身のまわりのことを自分でしようとする。 ・簡単な言葉で気持ちを表現し、友だちや保育者と関わる。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢の中で、友だちとの繋がりを深め、楽しむ場を作り、協調性や自主性を育む。 ・遊びが十分にできる環境の中で一人ひとりが充実して遊び、仲間意識や集団行動の楽しさを知る。 ・リズム体操、表現遊び、歌遊びなどで自分を表現する意欲や協同性、社会性を育てる。 ・童話や絵本、紙芝居の読み聞かせを通して聞く力や想像力を伸ばす。 ・動植物を飼育栽培し、体験を通して自然物や生き物の命の大切さを養う。 ・興味関心を持った事に主体的に関わり、発見を楽しむ。
	下半期	・自分たちで考えた遊びや活動に意欲的に取り組む。

	2～5歳児	・自ら考え、工夫判断して行動する。 ・目的を持ち継続性のある遊びを楽しむ。 ・自分のイメージしたものを自分なりの方法で表現する。 ・自然の中で発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる。 ・年下児や仲間に思いやりをもって接する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

全スタッフが食育についての知識を高め、日々の取り組みを充実したものとしていく。専門性を活かしながら、共に食を営む力を作る。全ての職員が子どもたちと一緒に食事を摂り、食事を楽しむ。

1	計画・ねらい	畑での収穫、日々野菜の下処理や米研ぎの手伝いを通して、子どもの食への関心を広げ、食べる意欲を持った子が育つ
	実践予定内容	スタッフは、畑作業、 野菜の下処理、米とぎを子どもと一緒に行う。
2	計画・ねらい	午前中、存分に遊び、自然とお腹が空き、意欲的に食べる子となる。
	実践予定内容	午前中、戸外活動を存分に楽しみ、自然とお腹が空くような状況を作る
3	計画・ねらい	バイキング給食を取り入れることにより、楽しみながら、自ら意欲的に食べる子どもが育つ。
	実践予定内容	好きなものを、好きなだけ、好きな人と一緒に食べることを日々行う。
4	計画・ねらい	命をいただく体験、残菜をコンポストに取り入れ、再生土を利用し自ら栽培したものを食する事で、食に対しての愛着や感謝の気持ちを抱き、自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践予定内容	スタッフが、命をいただく活動やコンポストや野菜栽培についての知識を高め、活動が充実したものとなるように努める
5	計画・ねらい	離乳食、アレルギー、口腔発達、食具の利用の仕方等について、適切な援助を行う。噛む力を育てることが出来るような援助を行う。
	実践予定内容	園長大学講座、園内研修を利用し、スタッフ個々が必要な知識を学び、適切な援助を行う。
6	計画・ねらい	行事食の由来を知り、伝統行事の理解を深める。
	実践予定内容	行事担当者と調理スタッフが連携し、伝統行事の導入を丁寧に行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい手洗いの励行、歯磨き指導、温度湿度管理
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 夏頃･･･手足口病、プール熱 冬頃･･･インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗アレルギー剤･･･2名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については4月11日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については4月11日までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示、保健関係研修の受講 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	必要なものが配置され、整理整頓が行き届いており、利用者、来園者が気持ちよく過ごすことが出来る園となる。
	実践予定内容	清掃チェック担当者を決め、園内の整理整頓に努める。
2	計画・ねらい	子どもの発達段階や気づきを最大限に活かした環境構成を行う。
	実践予定内容	昼礼、担任週会議、園会議等で子どもの様子を共有し、環境構成を変化させていく。
3	計画・ねらい	子ども個々の様子に応じて、いつでも休養できる環境を整備する。
	実践予定内容	スタッフ間で、子どもの体調、情緒の変化を共有する。子どもが体を休めたり、静かに本を読んだりすることが出来る環境を設定する。
4	計画・ねらい	戸外でも製作活動を行う。
	実践予定内容	自然物を利用した製作活動や、日頃室内で行っている描画活動等を戸外でも行い、子どもの発想を満たすことが出来るような活動を意識し、日々準備をして出かける。
5	計画・ねらい	土や自然に触れる体験を最大限増やす。
	実践予定内容	コンポストや腐葉土作りを通して、土に触れる体験を増やす。公園で出会う自然を園庭に再現する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

該当なし

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、水防訓練の実施
2	実践予定内容	防災設備対策の実施（自動火災探知機、煙感知機、誘導灯、排煙等）
3	実践予定内容	年２回の不審者侵入訓練
4	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議
5	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知
6	実践予定内容	オートロックで外部侵入者の立ち入り禁止訓練
7	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし発生時には屋外での活動を控える

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生、中高生の職場体験、小学生ボランティア等を随時積極的に受け入れ、未来の保育士育成に尽力すると共に、在園児が近未来の自分の姿を想像できるように交流を図る。体験者との交流が継続し、保育士の職業としての魅力も伝えられるように努める。

1	実践予定内容	実習生を随時積極的に受け入れる。実習生が不安にならないように温かく指導する
2	実践予定内容	中高生の職場体験を積極的に受け入れ、子どもとのふれあいから様々な事を感じてもらうようにする
3	実践予定内容	小学生のボランティアを随時積極的に受け入れる

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月4日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本事項の確認	連絡帳タイムラインの書き方、接遇、エピペン使用法、散歩時の安全管理、子どもの人権、ケガ・ケーススタディ研修、保育計画
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課、法人理念	園長大学発表、リズム体操、座薬挿入方法、養護と教育、日課、法人理念、内部監査

6月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 救急救命、水遊び指導法	園長大学発表、救命救急（ＡＥＤ使用方法）、水遊び指導方法、表現方法、５領域/健康
7月4日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育環境、熱中症	園長大学発表、保育環境、熱中症、光化学スモッグ、５領域/人間関係
8月1日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 安全教育、子どもの姿の捉え方	園長大学発表、安全教育、子どもの姿の捉え方、保育環境
9月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上期の振り返り	園長大学発表、上期保育の振り返り、接遇、ハザード見直し、SIDS
10月3日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保幼少連携	園長大学発表、保幼小連携、内部監査、５領域/環境
11月7日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 自己評価	園長大学発表、嘔吐処理、感染症、運動指導方法、自己評価
12月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度振り返り	園長大学発表、今年度振り返り/次年度に向けて、見守る保育、５領域/言葉
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進級に向けて	園長大学発表、進級に向けてのクラス連携、５領域/表現
2月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度行事案	園運営方針、園長大学発表、次年度行事案
3月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	次年度に向けて、ハザード見直し

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子育て負担や不安、孤独感の軽減、解消をすべく、子育て支援を行う。保育園が原体験の宝庫になるように、活動を工夫し地域に発信する。月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：70名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：南砂三丁目公園にて　　集客目標：20名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流(よっちゃん家、老人施設)
異年齢交流	小学校訪問、小中高生との交流、他園交流、職業体験・ボランティアの受け入れ 園庭開放
地域拠点活動	ちきんえっぐ、青空保育
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。小学校との交流活動、小学校見学や交流を通じて小学校との交流を図る。保育者は、就学、子どもの未来を見据えて小学校教育について学び、交流をし、日々の保育に活かす。職員研修の中で、保幼小連携について学び、スタートカリキュラムとの接続が円滑に出来るよう努める。また、卒園児の小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付、児童情報申し送りの面談を実施する。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月7日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
10月頃	江東区第五砂町小学校	10名予定	公開授業参観	子ども間交流
1月頃	江東区第五砂町小学校	2名予定	授業参観（第五砂町小教室）	職員間交流
2月頃	江東区第五砂町小学校 1年生	10名予定	交流会（第五砂町小教室）	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画を作成し、月１回の会議の際、情報を共有し見直しする。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：15名予定）

毎月の会議で子どもの様子や対応について共有・報告・検討を行う。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への進級に際し、養護教諭や発達支援担当スタッフへ引き継ぎを行う。

また、通所など必要と感じられた場合、保護者の同意を得て関係機関への相談を行い、安心して通える状況を構築する。小学校への引継ぎは、その間該当施設を経由して行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：25名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：20名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：南砂三丁目公園にて開催　集客目標：20名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年某日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：11時00分
自己評価実施予定者：川島もえぎ、関小梅、横尾朱咲

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	園に関わる子ども、スタッフが、活動や行動を自分で選択し、主体的に日々を過ごす。
	振り返り	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を紐解き、

		毎月、前月の子どもの姿から各テーマにフォーカスし、学びを深め、日々の保育に活かすよう努めた。 ・ワンフロアの環境を最大限活かしながら、子どもの発達に応じた環境構成を重視した。スタッフ間で子どもの様子を丁寧に考察し、その時々に環境を変化させた。子どもたちは、園内を行き来しながら、自分の好きな遊びや活動を見つけ、遊び込む子どもの姿が多く見られるようになった。 ・日々可能な限りの体験の機会を子どもたちに提供するよう心掛けた。生活力・選択力・思考力の向上が見られた。 ・１年を通して、挨拶、応対、環境を念頭に置き、気持ちの良い接遇を心掛けた。園内研修に於いて接遇をついて取り上げ、スタッフの意識を高めた。総じて接遇が向上した。 ・小学校の接続について、園内研修に於いて理解を深めた。近隣の授業参観参加や交流を行った。次年度も出来る交流を考えながら、更に多くの交流機会を設けたい。

〈２〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・子ども自身が活動を考え、取り組んでいく集団となる。スタッフは、子どもの変化を丁寧に捉え、変化を日々の活動に取り入れる。 ・子どもの生きる力を育てるために、大人も生きる力を持った集団となる。子ども自らが行動や活動を選択し、日々の活動が充実した集団となる。 ・異年齢児が兄弟姉妹のように生活する集団となる。 ・地域に開かれ、地域と共に子育てを実践していく集団となる。
	重点施策	・運動会や発表会等の大きな行事を、年上児を中心に進め実践する。 ・子どもたちが、多くの原体験で感じたことを発表・共有する機会を多く作る。大人も子どもも感受性豊かな集団となる。 ・異年齢児の関わりが深まるような環境構成を行う。 ・繋がりを深めた保護者、地域と共に子育てを楽しむ機会を設け実践する。
2026年度	目指す姿	・生きる力とは何かを考えながら保育が展開され、大人も子どもも生きる力が向上した集団となる。 ・リーダースタッフが園を牽引し、法人内に於いても力を発揮する人材が育つ。 ・子どもの変化を丁寧に捉えながら保育実践していく流れや、ワンフロアの環境を最大限に活かした活動や保育を他園にも共有する。 ・異年齢が混ざり合い、子ども自身が園生活を作っていく集団となる。 ・地域と共に活動する場を増やし、地域子育ての拠点となる。
	重点施策	・リーダースタッフは、法人の方針や活動理念をスタッフ、保護者、地域に発信し、理解される方が増えるように努める。 ・日々の活動選択について、子ども任せにするのではなく、スタッフが子どもの気づきを重視し、個々の発達を促すことが出来るような導きを

		意識して発達の手助けをする。 ・未来を担う子どもたちを、地域と共に育てていくことを念頭に、子育て家庭を巻き込んだ活動を地域に発信する。
2027年度	目指す姿	・大人も子どもも生きる力が向上した集団となり、日々の生活の中で、子ども同士で生きる力を育む集団となる。 ・リーダースタッフが育ち、他園の管理職になる人材が育つ。 ・大人も子どもも、日々の気づきから新たな発見をし、次の活動を展開していく集団となる。 ・異年齢が混ざり合い、年下児が年上児の活動を目指し、日々取り組む集団となる。 ・地域の子育て拠点として、頼りにされる集団となる。
	重点施策	・リーダースタッフは、管理職になるべく管理業務や、マネジメントについての理解を深める。 ・日々の活動について、子ども、スタッフ共に気づきを大切にし、気づきを発展させるにはどうしたら良いかを考える事を促す。 ・地域の子育て拠点である事を念頭に、地域の子育てニーズを捉え、子育て家庭を巻き込んだ活動を地域に発信する。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ南砂ルーム 施設長　抜井　佳代子

２０２５年度　メリー★ポピンズ 松山ルーム 事業計画書

Ⅰ.基本方針

　メリー★ポピンズ松山ルームは、保育所保育指針並びに社会福祉法人どろんこ会の保育理念・保育方針に則り、日々の保育を実践して参ります。また、ここに集う子どもたち・保護者・保育者がありのままの自分らしさを発揮でき、それを共感し受容し合える安心・安全な環境作りを目指します。
日々の暮らしを大切にし、たくましい心と生きる力の基礎となるべく、保育者たちが見本となり、子どもたちと共に成長することを楽しむ集団であり続けます。

園目標：『Re New～笑顔の輪の中で豊かな感性を育む～』

施設運営方針
【主題】原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
①　「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
②　「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
③　「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

目指す園の姿
1.　生活の体得
2.　10の姿の体得
3.　子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4.　命をいただく活動の実践
5.　自律運営

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得・危険な物との距離の取り方を知る
	実践予定内容	どろんこ会グループの日課・基本活動を深く理解し実践する ・できうる限り土にふれ、免疫を獲得する物的環境構成・活動の計画と実行 ・焚火を通じ、火との距離感を知る ・場面にあった挨拶・言葉を知る（おはよう・さようなら・ありがとう・ごめんなさい・いただきます・ごちそうさま等）
2	計画・ねらい	労働・食の循環を意識した食育活動
	実践予定内容	食材や食の循環を知る直接体験をする 畑活動（種まき・収穫・コンポスト作り） 食材の加工（梅干し作り・梅ジュース・味噌作り） 命をいただく（魚の解体見学）
3	計画・ねらい	子どもの発達を理解し、心情に寄り添い適切な環境を保証
	実践予定内容	園内研修にて子どもの発達について学び、日々の保育に活かす

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

どろんこ会グループは、私たちの園を選んで利用してくださっている保護者に①思いやり　②誠実さ　③謙虚さ　④感謝　を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスを提供します。

1	計画・ねらい	丁寧な保護者対応（相手の気持ちに寄り添う）
	実践予定内容	3分間対応の充実 連絡帳の書き方の見直し お迎え時にお待たせしない工夫（ポートフォリオ・ドキュメンテーションの充実、季節感を大事にした玄関掲示物）
2	計画・ねらい	子どもの育ちの共有
	実践予定内容	保育参加に数多くの保護者にご参加いただく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実践
	実践予定内容	園庭解放・子育てサロン・青空保育の告知、宣伝活動の実施
2	計画・ねらい	地域の様々なひととのつながりを大切にした子育ての実践
	実践予定内容	異世代交流（小中学生・高校生との交流） 世代間交流（シニア交流）
3	計画・ねらい	卒園生との交流
	実践予定内容	夏まつりのご案内、ボランティア参加のご案内

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育者自身のにんげん力の向上
	実践予定内容	接遇力の継続 保育者自身の感性を磨く
2	計画・ねらい	MBOの充実
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりに見合った目標設定のサポート
3	計画・ねらい	リーダー育成
	実践予定内容	主任・クラスリーダー・行事リーダー・処遇改善リーダー等それぞれの立場に応じた指導の実践

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	畑仕事・食材加工・命をいただく活動
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など有効活用する
3	計画・ねらい	畑仕事・生き物の世話
	実践予定内容	年間農業計画に沿った畑仕事の実施

〈6〉五感を意識し、音・光・香り・風を感じ、表現する

1	計画・ねらい	日本の四季・行事を意識した取り組み
	実践予定内容	季節行事を実施し、日本の良さを伝える
2	計画・ねらい	五感で感じたことを言葉や様々な手法で表現し、子どもと共有する
	実践予定内容	季節ごとの花々や虫たちの観察。 日向と日陰の違いや影の存在を知る 雨の日を楽しむ 氷を作る・氷で遊ぶ 風を活かした遊び（しゃぼんだま・たこあげ等） 香りを意識してみる（花の香り・給食の食材の香り・焚火の香り等）

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	15人	15人	—	—	—	42人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	—
パート スタッフ	保育士	3人	事務	1人	嘱託医	２人	—	—

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー・園内研修・ディスカッション

給食運営会議	月1回	食育・アレルギー対応児について・離乳食形態確認
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の検討
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の確認
リーダー会議会議	不定期	クラス間の課題検討・調整等
クラス会議	月１回	月案指導計画・行事内容の検討・立案等

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人本部より伝達事項の共有・運営状況報告・検討事項の共有
施設長勉強会	月1回	保育所運営・保育の事例検討
食育会議	年4回	食育・給食提供に関する案件の検討
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成、事例検討
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗状況・共有、マネジメント研修等
子育ての質を上げる会議	月1回	課題の提案・共有、改善計画立案及び取組成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理全般
安全対策係	設備点検・事故防止点検の実施
防火管理者	防災計画の作成・設備点検の実施
食品衛生責任者	給食食材・提供食材の衛生管理、在庫状況の管理
畑係	年間農業計画の遂行状況の確認
生き物係	生き物の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターとの連携・補助

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・望ましい生活リズムの安定を図り、生活・遊び・食育を通して生きる力の基礎を培う ・保育者との安定した信頼関係のもと、様々な経験・体験をし、五感を育む
	下半期 0～1歳児	・子どもの感性を揺さぶり、目を輝かせて遊びたくなるような・自発的に試してみたいと思う環境を整え、満足感・充足感・達成感を得られるような保育の実践 ・周囲の人、物への関心が高まる時期なので、十分に身体を動かし、思考力や認識力礎を培う保育の実践・ ・
幼児保育	上半期 3～5歳児	・該当無し
	下半期 2～5歳児	・該当無し
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	・該当無し

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	３大食育方針の実践
	実践予定内容	・調理員・保育者・施設長は子どもと一緒に食べる。 ・噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供 ・子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる
2	計画・ねらい	・畑・プランターで野菜を育て、調理して食べる
	実践予定内容	・自ら栽培に関わった野菜を食すことで、自然の恵み・命の大切さを知る ・野菜の栽培や下処理（野菜の皮むき等）に関わることで、食材に興味・関心を持つ
3	計画・ねらい	・食事から季節感を味わう
	実践予定内容	・日本の四季を感じ、旬の食材を知る。 ・行事に因んだ行事食に触れることで、季節を感じる

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）※0歳児のみ年12回実施
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	・アレルギー食への対応、爪・頭髪の保清チェック、基本的生活習慣の指導 ・身体測定（毎月20日） ・手洗い、うがい指導、トイレの使い方指導 ・歯磨き指導（6月・1月） ・身体のしくみを知る
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃･･･手足口病・ヘルパンギーナ・プール熱 12～2月頃･･･インフルエンザ・流行性胃腸炎 その他･･･新型コロナウィルス・ノロウイルス・溶連菌感染症・マイコプラズマ肺炎・RSウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	アレルギー児発作時の対処薬/事務所内にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については３月３1日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については３月３1日までに受講予定

その他保健に関する取組	・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ・感染症対策として予防接種状況を把握し、保護者に対し計画的接種を勧める ・「プールでの安全対策と危機管理」「熱中症対策」「皮膚の清潔と保護」「寒さに負けない身体を作ろう」「体力作り」「寒さに負けず元気に遊ぶ」等、市内系列園とも情報共有しながら進めていく

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6･11月(0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	常に気持ちの良い環境で、衛生的に整備された施設のもと、心地よく過ごすことが出来るよう施設内の美化に努める
	実践予定内容	掃除チェック表を作成し、管理する
2	計画・ねらい	子どもたちの成長・発達に必要な物・事を常に意識し、保育環境の整備に努める
	実践予定内容	・環境リーダーが定期的に保育室内外の環境をチェックし、全スタッフで検討し改善していく ・最低年３回（４月・９月・１月）保育室の環境を見直す

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

※現在、手作り遊具・家具無し

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月１回実施。震度５弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先・を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備える。マニュアルの徹底
2	ケガ事故防止	事故防止チェックリスト年４回設備点検年６回を行い事故防止の徹底を図る。また、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図る
3	事故防止	事故防止委員会によるリスクマネジメント インシデント・ヒヤリハット報告の分析・共有/改善案の実施
4	防犯	年２回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・通報の訓練で職員全員を対象とする
5	光化学スモッグ	光化学スモッグ発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示する。園児・職員は室内で過ごす
6	熱中症警戒アラート	暑さ指数を意識し、特に夏場の活動時に配慮する

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

職場体験ボランティア、保育実習を積極的に受け入れ、子どもたちが様々な人と関わる機会を増やしていく。また、実習生を指導することで、保育者自身が自らの保育を振り返り見直す機会にもなるため、スタッフのスキルアップに繋がる。

1	実践予定内容	清瀬市内の小中学校・高校 職場体験・ボランティア
2	実践予定内容	保育士養成校の学生の保育実習受け入れ
3	実践予定内容	理学療法士養成校の学生の実習受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

全てのスタッフが、子どもたちとの日々の暮らしを通じて、必要な知識・技術の習得・維持および向上を一人ひとりが自主的に行っていく。また、保育・給食・看護それぞれの専門分野において課題の共通理解や協同性を高め、チームとして保育の質の向上を図るために、学び合う姿勢と環境作りが必要であることからも研修の充実は不可欠である。個々のインプットに止まらず、アウトプットすることで、学びの深まりを生むため、情報共有の機会を持ち学びの確立に繋げていく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ハザードマップの確認	事故防止の基本・危機管理
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権研修	子どもの人権について
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの危機管理	水遊びのリスクマネジメント
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食育	畑について（中間報告）
8月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境設定について	室内外の環境構成の検討
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 身体発達	運動会に向けての保育の展開
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策	嘔吐処理の実践
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事例検討	事例検討
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修	事例検討

1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 研修発表	外部研修の学びの共有
2月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議1	事業計画書の確認、保育課程・年間計画の作成
3月1日	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議2	年間行事計画・農業計画の作成

エリア研修予算内訳（園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		10園で按分した自園負担額
性教育研修 5月頃 11月頃	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
リーダー層対象 4月頃 6月頃 9月頃 12月頃 3月頃	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
合計	0円		0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

「メリー★ポピンズ松山ルームを認知していただく」
「選ばれる園作りを目指す」
保護者・地域の方々に広く認知していただき、親しみを持って気軽に立ち寄っていただける場所作りを目指す

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：幼児遊園にて　　集客目標：30名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者とのふれあい（高齢者施設訪問） 中高生の体験学習の受け入れ
異年齢交流	近隣保育園や、系列保育園との交流 未就園児との交流
地域拠点活動	実習生、ボランティア、研修生の受け入れ
銭湯でお風呂の日	該当無し

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育所の子どもと小学校の児童との交流を図る（ボランティアの受け入れ）

〈2〉具体的な連携計画

保幼小連携会議への参加

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

必要に応じ、「清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ」や、系列施設である「つむぎ」と連携を図り、個々の発達支援計画を作成し、適切な支援・援助を行う

〈2〉毎月のケース会議開催

対象児のクラス担当・看護師・施設長・主任などが、会議時に振り返りを実施し、次月からの関わり方を検討する

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

3歳児として進級していく施設（保育園・幼稚園・子ども園他）から問い合わせがあった際は、在園期間中の様子をお伝えする。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：年間60名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：年間60名
自然食堂…親子ランチ交流	10:00～12:00　　集客目標：12名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	10:00～12:00　　集客目標：25名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

２０２４年度受審済み

評価会社名：学研に依頼して受審

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年8月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：12時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	地域の子育て施設として、認知度をあげる
	振り返り	・「地域の子育て世帯のニーズを探りながら、気軽に立ち寄りたくなるような安心・安全基地となるような環境作り」を目指したが、地域のニーズを探るところまで至らなかった。引き続き次年度も継続して課題としていきたい。 ・「地域支援事業の実践」に関しては、開始時期が遅くなってしまったが、開催できた。集客には、もう少し努力が必要である。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

25年度	目指す姿	地域の子育て施設として、認知度をあげる
	重点施策	・地域の子育て世帯のニーズを探りながら、気軽に立ち寄りたくなるような安心・安全基地となるような環境作り ・地域支援事業の実践
26年度	目指す姿	保護者・地域の子育て世帯・地域住民と共に「共育て」の実践
	重点施策	どろんこサポーター、地域の子育て世帯、地域住民のマンパワーを活かし、幅広い大人たちに見守られながら育つ環境を整えていく
27年度	目指す姿	どろんこ会の目指す子育ての提案
	重点施策	地域支援事業の充実（未就園児） 卒園児も参加出来る活動の展開

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 松山ルーム 施設長　相沢 由美

２０２５年度　篠栗どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人　保育理念：「にんげん力。育てます。」
保育方針　　：「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

①基本活動の深い理解
・できうる限り土に触れ、免疫を獲得する物的環境構成・活動の計画と実行をする
・大人が見せて教えないと知れない遊び(竹馬・ハンカチ落し・あやとり等)を教える
・子ども同士で話し合う・順番を決める・交代して行う・皆の前で発表したり、自分の意見を述べたりすることができるように物的環境構成と大人による導きをする
②畑仕事・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧におこなう
・毎日、大人と子どもで一緒に畑仕事(耕し・苗植え・水やり・間引き・雑草むしり・収穫)をし、料理をしたり、ケチャップ・梅干し・干し柿などを作ったりする
・しなければならないことを自覚し自分の仕事をする
・毎日の小屋掃除と糞の始末・堆肥作り・堆肥の畑活用・命の循環教育を確実に丁寧に行う
③～混ざるその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する
・小学校ではみ出さないための訓練や特別扱いをしないことを全職員が理解し、いま行うべき支援を職員1人ひとりが考えて行動する。
・子ども自身が活動・玩具・教材・絵本・運動遊具を選択び、手に取り、10よりも100の探索ができる環境を構成する
・大人が決めない・大人が誘導しない・嫌(苦手)か？嫌(苦手)でないか？は都度子ども自身が触れてみて選択する
④自走に向けて
・年齢にとらわれない人間性重視の人材育成をしていく

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	毎日を丁寧に過ごし、子ども同士のかかわりを深める
	実践予定内容	・基本的生活習慣（食事・睡眠・排泄・着脱衣）は生きるために必要な力であり、社会生活を送るために最も大切である。子どもたちに日々丁寧にかかわり積み重ね、当たり前を当たり前にこなせる集団になる。 ・年齢や特性に関係なく、どの子も混ざり合える環境をつくり、子ども同士で話し合ったりルールを決めたりしながら、自分たちで生活ができるよう導いていく。
2	計画・ねらい	多くの経験から、子どもたちの「やってみたい！」が実現する保育の実施
	実践予定内容	・ただ見守るだけの保育ではなく、様々な遊びをやって見せたり、様々な道具を使って見せたりすることで、子どもの興味関心を引き出す。 ・一人ひとりの「やりたい」に耳を傾け、子どもからの発信に丁寧に関わっていく。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成・実践・振り返りの実施

	実践予定内容	・一人ひとりの発達・心情を見つめ、保育計画に落とし込む。実践・振り返りのなかで大人のかかわりや環境を改善し、次の計画に繋げていく ・全職員で共有・意見交換をするなかで、子どもの気持ちと保育者の願いをより合わせて保育の質向上につなげる。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立った丁寧な対応
	実践予定内容	・登園時の受け入れや降園時のお迎え対応では、子ども・保護者と目線を合わせて話をし、家庭での様子、園での一日の様子伝達を丁寧に行う。 ・お迎え対応では、その子の姿をお伝えし、保護者の心に寄り添い、保護者も安心できる関係づくりを継続して行う。
2	計画・ねらい	園生活の見える化
	実践予定内容	・連絡帳やタイムラインに加えポートフォリオを用い、連続的な子どもの姿や、異年齢・インクルーシブな関わり合いの様子等園生活の様子を掲示し、継続した保育の見える化を行う。 ・保育参加の呼びかけを積極的に行い、園でのお子様の様子や子ども同士の関わりを実際に見たり体験したりすることで、理解を深めてもらう。
3	計画・ねらい	保護者がいつ来ても、どこを見ても気持ちが良い施設づくり
	実践予定内容	園内の清掃・整理整頓を心がける。ごみを拾う、使わないものは元あった場所に片付ける、美しい掲示、手洗い場や鏡は汚れていないか・濡れていないか、窓の汚れはないか等、来訪者目線で確認していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園・近隣親子の居心地の良い居場所になる
	実践予定内容	園庭開放、青空保育、ちきんえっぐへの立ち入りがしやすいように、来訪者には職員全員が常に明るくお迎えし、また訪れたくなるような雰囲気づくりを心掛ける。ちきんえっぐという場を知っていただくために、多くの施設にちきんえっぐだよりの設置をお願いして情報発信をしていく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐ企画の充実
	実践予定内容	つむぎとコラボしたイベントの企画や、参加親子に合わせた活動が展開できるよう幅広い内容を準備し、保護者間交流のきっかけづくりの場になる。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	基本活動、労働の深い理解
	実践予定内容	法人の基本活動、労働が子どもにとってどのような成長に繋がるのかを全職員が理解し、活動の意味を深めながら「できない」ではなく「できる」ことを探していく。全ての子どもたちの時間を1分でも無駄にしないよう、必要な経験を与え、背中を見せて労働を教える集団になる。
2	計画・ねらい	語り合い、学び合い、高め合うチーム作り
	実践予定内容	子どものこと、保育のことを日常的に語り合い、試行錯誤を繰り返しなが

		ら学び合い、質の高い保育を目指して、お互いが高め合えるチームとなれるよう職員一人ひとりが意識する。
3	計画・ねらい	園内研修の充実
	実践予定内容	・園会議で園長大学®・保育士大学の講座から園の課題と感じる内容のものを視聴し、ディスカッションを行いながら共に学び合い、知識を深め、職員同士の語り合いや活発な意見交換の場を作っていく。 ・年に一度、全職員が自らの学びを園会議で発表する機会を設けることで学びを自分のものにし、保育の質を高めていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環教育
	実践予定内容	畑を耕す、種を植える、生長を見守り世話をする、収穫する、加工する、食べるまでを子ども自身が経験することで食の循環を知る。
2	計画・ねらい	ヤギの糞の堆肥作りをし、畑に還元する
	実践予定内容	調理過程での廃棄食材やヤギの糞の堆肥作りを行う。日々のヤギ小屋掃除を含む、堆肥作りに必要な準備を子どもと行い食の循環教育へ繋げる。
3	計画・ねらい	給食残渣を減らす
	実践予定内容	・給食食材のカットの方法、野菜の皮を使ったレシピの立案などを通して廃棄する量を減らすと共に、コンポストでの堆肥づくりを進めていく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	全ての子・職員が混ざり合い、子どもを真ん中にした保育
	実践予定内容	一人ひとりの子どもが安心して自己を発揮しながら生活が送れるよう、園とつむぎが一体となって目の前の子どもに真剣に関わり、施設の垣根を越えて助言や情報共有を行い、丁寧な関わりと保育・支援を行う。
2	計画・ねらい	多様性を子どもも大人も受入れ、互いを認め合える職員集団になる
	実践予定内容	今までの保育の在り方や考えを一旦捨てて子どもと向き合い、その中でそこに携わる大人全てが、子どもにとって必要な支援や保育を一緒に作り直す場を大事にする。
3	計画・ねらい	職員の連携・共有を密に行い、子どもの理解を深める
	実践予定内容	・日常的に職員間の会話を密にし、個々の発達、特性、性格の理解を深める。つむぎの専門士から各分野の専門知識を学び、園の保育士からは保育の知識、子どもの発達や育ちをそれぞれが学び、互いに知識を広げながら、一人ひとりの子どもにとって最善の保育・支援を行う。

〈7〉子どもが中心の保育実践

1	計画・ねらい	子ども1人ひとりに対して丁寧に関わる保育をする
	実践予定内容	・子どもの言葉に耳を傾け、ありのままの姿を受け止め共感する 。 ・日々の関わりの中で、子どもの人権や常に子どもにとってどうなのかを考え保育の実践をする 。
2	計画・ねらい	「好きな場所で好きな人と好きな遊び」が保証される環境づくり

	実践予定内容	子どもたちが自分で遊びを選択できるよう、日々の子どもたちの興味関心を十分理解し、たくさんの選択肢を準備する。
3	計画・ねらい	挑戦する気持ちを後押しする
	実践予定内容	誰かが立ち止まった時には一緒に考え、その子にとって挑戦して失敗したことがダメな事ではなく、次へ挑戦できることや楽しみへつながることを伝えていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	29人 (11人・18人)	29人 (11人・18人)	29人 (11人・18人)	123人 (33人・54人)

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	0人	補助	1人	事務	1人	嘱託医	2人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、コンピテンシーによる自己評価、研修報告、共有事項、活動の振り返り
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラスの状況共有、アレルギーへの対応、食育

事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿から傾向分析と検証、再発防止策の共有、
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについて情報共有
週案会議	週1回	全クラスの保育計画の調整と連携
リーダー会議	適宜	園全体の課題検討、職員の連携状況確認
クラス会議	適宜	子どもの興味に合わせた活動の選定と環境構成の見直し。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内事項、各部署からの連絡・確認事項の伝達 事故防止委員会、運営状況報告　等
施設長勉強会	月1回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有　等
食育会議	年4回	法人全体での食育活動の共有、意見交換、成果発表　等
保健会議	年4回	保健衛生に関する事項についての共有、意見交換　等
主任会議	年４回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有　等
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有　等
併設園会議	年2回	意見交換・ディスカッションでの学び合い

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理・清掃及び備品の管理・発注、感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保護者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、施設内外の設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの作成・更新
防火管理者	消防計画の作成、それに基づく各種訓練の実施
食品衛生責任者	食材発注、給食提供食材の衛生管理と在庫状況の把握
畑係	畑・田んぼの年間計画作成と実施、用具類の管理と補充

生き物係	ヤギの健康管理、飼育環境の整備・改善 命の尊さや自然事象への関心を広める機会の設定

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの計画・実行、地域への広報
運動会係	運動会の計画・実行、地域への広報
生活発表会係	生活発表会の計画・実行、地域への広報

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人一人の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・子どもの興味関心に寄り添った遊びの提供、心身ともに安心して遊べる環境の中で、五感の感覚を育み探索活動を楽しむ。
	下半期 0～1歳児	・応答的な関わりを大切にしながら、発語を促し情緒の安定を図る ・自分でやろうとする気持ちを大切にし、時間がかかっても自分で最後まで頑張ろうとする思いに寄り添い、達成感を共有する。 ・ハイハイや歩ける範囲の活動を大切にし、発達段階を踏まえて全身を使って遊び込む活動を十分に尊重する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・安心して夢中になって遊び込める時間に十分配慮し、機会を排除しすぎない保育を心がける。 ・自己を十分に発揮し活動を通して、やり遂げる喜びや自信が持てるように配慮する。
	下半期 2～5歳児	・自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、友だちと伝えあったり話し合ったりすることの楽しさが味わえるようにする。 ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現できるような環境設定に留意する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針の理解
	実践予定内容	『調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる』『噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供』『子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる』を基本とし、子どもが食に対して興味・関心が
2	計画・ねらい	子どもの「食べたい」という意欲を育てる
	実践予定内容	「食べることはいきること」であり、楽しい給食の時間を前提とする。食事は、食べたい分だけよそい、食べたい席を選ぶ事を大事とする。そのために、環境設定を大事にして食事を楽しめるようにする。
3	計画・ねらい	実体験を通して、食材や食の循環に対して興味関心を持つ
	実践予定内容	・畑活動の充実をはかり、失敗と成功を繰り返しながら、作物が育って食すことの嬉しさや喜びを感じられるようにする 。 ・食材の加工や命をいただく経験ができるよう計画し、食の知識を学びながら、食べることの大切さを学んでいく 。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（６・11月）
歯科検診	年2回（6・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、からだの仕組み等
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～７月頃…アデノウイルス 11月頃･･･ウイルス性胃腸炎 12月頃･･･インフルエンザ

発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	緊急時薬 預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在３名が研修受講し、修得済み 未受講の新入職員２名を含む２０名については３月２８日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	全ての子どもが混ざり合い、育ちあう「一つの大きな家」を意識した室内環境づくり
	実践予定内容	・全ての子どもが自由に行き来し、好きな場所で好きな遊びを楽しみ、満足するまで遊びこめる環境、安心して過ごせる環境づくりをする。 ・職員は子どもの興味関心を知り、職員間で共通認識をする場を定期的に持ち、子どもの姿に合わせて変化し続け、必要なものが揃った環境を目指していく。
2	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた保育環境づくり
	実践予定内容	子どもたちの遊びの姿や発達に沿った環境作りを行い、一年通して常に同じ環境ということをなくし、季節やその時の子どもの成長、遊びに合わせた保育環境作りに努める。
3	計画・ねらい	大人も子どもも整理整頓しやすく必要なものしかない環境づくり
	実践予定内容	・日常的に整理整頓されている環境を、一人ひとりが意識する。誰でも片付けがしやすく、わかりやすい工夫を行っていく。 ・いつ誰が見ても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓と清掃が行き届いた環境づくりに努める。美観を継続する為に必要なものしかない環境を心掛け、随時園内外の環境の見直しを行う。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

該当なし

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 【防災】	・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月１回の避難訓練を行い、火災・地震の避難方法を確認する。 ・アプリの災害時緊急掲示板を使って、安否情報(園名・園児数・保育者数・ケガ人・建物の被害状況・避難場所)を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる。
2	実践予定内容 【ケガ事故防止】	・ヒヤリハット・インシデント報告書の運用を徹底し、再発防止と共に危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努める。 ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し事故防止策を探る。 ・園内外の危険個所の見直しを行い、ハザードマップの作成と共有をする。作成したハザードマップは子どもの姿に合ったものであるように、年４回見直しながら更新し、ケガや事故防止に努めていく。
3	実践予定内容 【防犯】	・年２回不審者侵入訓練を行う。 ・ちきんえっぐ利用者のインターホンでの確認、名簿記入 ・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく。（笛の携帯・代理送迎者の把握等）

4	実践予定内容 【光化学スモッグ・PM2.5】	・光化学スモッグ、ＰＭ２．５の知識を身につけ発生時には、光化学スモッグ発生時対応、および行政連絡に従い対応する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域におけるボランティアの養成とともに、次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、積極的に実習受け入れる。

中高生の職場体験や交流なども同様に受け入れを行い、保育に関わる仕事を知り、興味関心を持ってもらえるよう関わっていく。

1	実習生受け入れ	・不安のない受け入れ体制を整え、担当者だけでなく職員全体でコミュニケーションをとり、楽しく学びやすい実習にしていく。 ・その日の気づきや疑問に対して、丁寧な振り返りを行い、翌日からの実習に生かせるような指導を行う
2	職業体験受け入れ	小・中・高校生の職場体験・ボランティアを積極的に受け入れ、地域の社会資源としての役割を担っていく。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止 園長大学動画視聴 「はじめての人権」	子どもの人権について考え、ニゴロの園でのかかわりについて振り返り、改善をはかる 子どもに対する見方、捉え方を学ぶ
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②日課・基本活動の理解を深める。 園長大学動画視聴 「飼育・栽培・散歩どうしてる？」	「なぜやるのか？」を語り合いにより深めていく。形だけ行うのではなく、意味をもって日々実践できるよう理解する。
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②プール実施前事故防止 園長大学動画視聴	･子どもを水遊びの危険から守るためのリスクの 共有 水遊び､プールが始まる前の注意すべき点の共有･水の事故事例

		「水辺のリスクマネージメント	検証と事故防止について学ぶ ・危機管理意識について、災害時の対応、ロールプレイ
7月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②インクルーシブ保育 園長大学動画視聴 「わからない」から「やってみたい」に変える	・インクルーシブ保育の理解を深め、現状の課題に活かす。 ・大人の見守りの中で、年齢関係なく多様な関わりができ、それぞれが自分で考えて行動できる力が身につくように学ぶ。
8月29日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②丁寧な保育 園長大学動画視聴 「子どもの心の育ちと言葉かけ」	・子どもの発達を理解し、年齢ではなく一人ひとりに合わせた関わりや環境構成の事例報告・ディスカッションを通じて学ぶ。
9月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②利用者アンケートについて ③保護者支援 園長大学動画視聴 「おもてなし力」	・利用者アンケートを受けて、保護者の思いを受け止め、園の課題点の洗い出し・是正計画を行う ・保護者が感動をするような支援・関わり、保護者支援について学ぶ
10月24日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②感染症対策	・季節性の感染症の特徴、感染経路、予防方法などを学ぶ ・嘔吐処理冬の感染症について マニュアル読み合わせ 正しい処理の方法
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修動画の視聴	・次年度に目指すMissionの共有。 ・一人ひとりが確実に2026Missionを理解し、レベルアップしていくためのディスカッション。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保育 ③ 冬のあそび実践	・様々な側面から丁寧な保育について考え実践に生かす。 ・冬ならではのあそびの実践共有。
1月23日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度、保育実践の振り返り	・園全体・クラス・個人で今年度の保育を振り返り、目標達成状況確認を含む、今年度の学びの発表。
2月20日	18:00～21:00	①コンピテンシー自己採点 ②第一回策定会議	・次年度事業計画の発表、次年度に向けての目標設定 ・全体的な計画・年間計画書の作成
3月1日	9:00～18:00	①コンピテンシー自己採点	・次年度年間行事計画作成（プロポ

		②第二回策定会議	ーザルを基に子どもに経験させたい行事を話し合う）

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験し、また、地域からも関心を持ってもらえる発信をもとに地域との関わりを深めていける計画を実施する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名

青空保育（保育園主催）	月I回　　公園名：公民館にて　　集客目標：１０名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	高齢者施設とのふれあい交流
異年齢交流	・地域の小学校・保育園などと交流できる機会を設けていく。 ・小・中・高校生のボランティア、職場体験の受け入れも積極的に行う。
地域拠点活動	・地域行事への参加やどろんこ祭り・運動会・生活発表会に地域の方を招き、保育園を地域に開いていく。 ・ちきんえっぐの活動を発信することで、園に足を運んでくださる地域親子を増やし、子育て相談をしやすい地域拠点を目指す。
銭湯でお風呂の日	月I回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈I〉今年度方針・テーマ

小学校との関係性を重視し、積極的に幼保小の連携をすることで、子どもたちがスムーズに就学に向かえるようにする。スタートカリキュラムに基づき、年間を通して計画的に連携を進めていく。
また、幼保小連携会議・授業参観に積極的に参加し、地域の実態を把握しながらこれからの未来のために、幼児期の子どもにとって必要な経験は何かを具体的に学んでいく。就学時には保育所保育要録を送付し、必要に応じて一人ひとりの子どもの情報の申し送り等を丁寧に実施していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	篠栗小学校 I年次クラス	I～2名予定	授業参観 運動会見学	職員間交流 行事見学
I0月頃	篠栗小学校 I年生	29名予定	就学前健診 （各校体育館）	子ども間交流
3月頃	篠栗小学校　等	I～2名予定	保幼小連絡会	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

支援が必要な子どもについては個別に保育計画を作成し、家庭や連携機関と情報交換を密にして一人ひとりに応じた保育を行い、自らの育つ力を伸ばして行けるように支援し丁寧に関わっていく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：22名予定）

日々、変化していく子どもの様子を記録し、全職員での共通理解のもと、どの職員でも同じ対応で関わっていけるようにしていく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

年１回開催される保・幼・小連絡会に参加し、園での取り組みや情報の共有を行う。就学時健康診断前後には対象小学校と密に連絡を取っていく。また、保護者の同意を得て支援センターや療育など関係機関との連携を行い、安心して通える状況を作る。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：１３０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：１３０名
自然食堂…親子ランチ交流	月２回（水）10:00～12:00　　集客目標：４０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月１回（水）10:00～12:00　　集客目標：４０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：図書館にて開催　集客目標：４０名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１１月２８日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１０時００分
自己評価終了予定時刻：１５時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	遊びから生活へ（拡がりから繋がりへ）
	振り返り	・継続的な保育・教育を考え、見通しをもった活動・取り組みを念頭にしてきたが若干不十分な部分もあった。来年度も職員の意思統一を図りながら進めていく。 ・子どもが意欲的に遊ぶ姿は顕著であるが、様々な体験から子ども自身が自ら生活を作っていくことについては、次年度も継続して行っていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	・職員一人ひとりが、大人同士や子どもたちとの語り合いを大切にし、互いを知り、自園の良さや自園の強みを見つける。
	重点施策	・職員一人ひとりがどろんこ会の日課や基本活動の意味を十分理解し、「なぜそれをやるのか？」職員同士の対話により深め、保育に繋げる。 ・それぞれの立場や役割を理解し、認め合い、補い合いながら、「全職員で」子どもと関わっていく。保育士・調理員・事務・用務・専門士・施設長・主任、社員・パートなど子どもに関わる全ての職員が、役割・役職を越えてチームとなり、みんなでみんなを育てる園の実現。
２６年度	目指す姿	・一日の活動を自己決定できる子どもの姿があり、その姿を認め挑戦する姿を見守ることができる保育者集団となる。 ・リーダーを中心とした保育が定着し、子ども一人ひとりの個性が輝く保育を実施する。
	重点施策	・保育環境を整え、保育者は指示を出さず、子ども自身が自分で考え行動できるように見守っていく。 ・職員一人ひとりが互いの価値観、物事の捉え方を知り、自分の弱みを認めることで互いに助け合い、弱みを強みに変えていくチームとなる。

２７年度	目指す姿	・子どもたち自らがどろんこ会の日課や基本活動に取り組むことができ、子どもを中心とした活動が行われる。 ・地域に根付いた園になる。
	重点施策	・子どもが主体的に活動できるよう、子どもの成長や育ちを理解し環境を整える。 ・散歩先で出会った方や園庭開放やちきんえっぐを利用される方と積極的にコミュニケーションを図り、関係性作りを行う。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：篠栗どろんこ保育園 施設長　北原　由美

２０２５年度　内箕輪どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人理念「にんげん力、育てます」
保育目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

君津市の子ども・子育て支援計画：「子どもが心身ともに健やかに育ち、家庭と地域が協力して子育てのできるまち
　上記、君津市の子ども子育て支援計画や法人理念・子育て目標を基に、児童福祉法・保育所保育指針に照らし合わせ、常に子どもの最善の利益と真に必要な体験を追求しながら、保育を行っていくことを保育者一人ひとりが前提とする。
　子ども理解を深め発達段階に見合った関わりと物的環境を用意することで、子どもに必要な経験を質高く繰り返していく。戸外での活動時間を多く設け、日課である座禅、雑巾がけ、生き物の世話、畑仕事などの労働を欠かさず行う。畑仕事・たい肥作りや泥遊び等、できる限り土に触れ、免疫を獲得するための計画を実行していき、下記の目標を達成する。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

　子どもの人権を守ること・危機管理を前提に置き、保育の質・専門性を高めていくことが求められる。保育に携わるスタッフすべて（保育士、調理師、看護師、事務員、用務員、療法士など）を保育者とし、それぞれの専門性を高めると同時に連携を図り、子どもがいきいきと、園に来ることを楽しみにしながら継続的・連続的に生活や遊びを繰り広げられる環境を構成する。「チーム保育」を念頭に常にコミュニケーション・連携をとりながら日々保育の質が向上するよう努める。

1	計画・ねらい	日課・基本活動の充実
	実践予定内容	・大人が日課・基本活動の意図を確りと理解をし、子どもたちに背中を見せられるような関わりを行う ・日課、基本活動に対しての課題を見つけ、常により良くするための学びPDCAサイクルを回していく。
2	計画・ねらい	子どもの発達と子どもに対する理解を深める
	実践予定内容	子どもの発達を理解し、個々にあった保育と支援を実施していく エピソード、ドキュメンテーション、リフレクションなど様々な技法を用いて園内研修を行い、「発達段階」「子ども理解」について学び合う
3	計画・ねらい	アタッチメントを意識した関わりをすることで、自身の感情をコントロールする力を育む。
	実践予定内容	・子どもたちの姿（あそぶ様子）を確りと見守り心情を探る。 ・子どもを見守る立ち位置は、子どもが混乱したときに、すぐに立ち寄れる位置にいる。 ・気持ちを切り替え再度活動に向かう為に、必要以上の関わりはしない。
4	計画・ねらい	連続性のある活動を展開
	実践予定内容	・連続性のある活動を展開することで、子どもたちの興味を深堀、様々な不思議体験を重ねられるようにしていく。

		・遊び、生活が一日毎に途切れてしまわないよう、子どもたちと対話をし、保育計画を立てていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

様々な子育て観や考え方がある中で、保護者同士が子どもの姿を共有し合える場や、保護者と保育者で子どもを真ん中として共に考えられる関係性の土台を構築する。

1	計画・ねらい	保育の可視化
	実践予定内容	つむぎ内箕輪ルームとも連携し、様々なスタッフが多面的に一人ひとりの子どもを見ていることが伝わるお迎え対応、保護者同士の関係を深められる保護者懇談会を行い、積極的に保育参加・個人面談を勧める。また、連絡帳・タイムライン・エピソード記録などを用いて生活・遊びの共有を積極的に行う。
2	計画・ねらい	常に相談できる雰囲気作りをすることで、家庭と保育園の連携を強化
	実践予定内容	子育ての悩みやご相談など、いつでも相談できる体制を整えるために、個人面談の案内をしていく。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流を保護者同士の関わりを深める
	実践予定内容	保護者同士が交流できような場を提供し、保護者同士の繋がりを強固にする。（保護者懇談会年２回）

〈3〉地域の子育て支援事業

地域に開かれた保育園・地域の核の拠点になる土台を構築するため、園児の生活と切り離すことなく園の子育て支援として以下の活動を行っていく。

1	計画・ねらい	地域性、地域の文化、地域のニーズについて積極的に情報収集し、認知度の向上を図る
	実践予定内容	・地域に向けた情報発信をしていき、保育園としての役割を担っていく。 ・地域の方へ遊びの場（火・水・土）を提供していく。
2	計画・ねらい	見学時の丁寧な対応を行うことで、保育園に興味を持ち保育園の良さを感じていただく
	実践予定内容	・どんな時間に見学にいらしても日々の子どもの様子や生活が手に取るように分かるようにお伝えしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	チーム保育の確立
	実践予定内容	・子どもたち一人ひとりをスタッフみんなで見守ることの「面白さ」「必要さ」「難しさ」を共有し、現在の子どもの姿を全員で理解する ・保育者同士でのコミュニケーションは“子どもを真ん中にした対話”を密に行い、子ども理解に努めることで、最善の利益を考えていく。また、保育者同士の密な共有から、子どもの集団を複数で見守り怪我や事故を防ぐ。
2	計画・ねらい	園目標・個人目標に対して各自の進歩状況を明確にしていく

	実践予定内容	・スタッフは自身で個人目標を設定し、定期的にPDCAを行う中で、１歩ずつステップアップが出来るようにしていく。 ・園目標を達成するために、各月どんなことを意識して日々を過ごすかを全スタッフが考え行動していく。
3	計画・ねらい	保育所保育指針に記載がある「３本の柱」「10の姿」「児童発達支援ガイドライン」を理解し学び続ける大人集団になる
	実践予定内容	・乳幼児期のみの知識でなく、学童期に結びつくためにどんな働きかけが乳幼児期に出来るかを検討し、実行する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑活動の充実
	実践予定内容	・畑係を中心に年間計画を確認し、園内へ周知をする。 ・幼児は、毎日散歩出発前に畑に行き、畑の状態確認をする。乳児（主に０歳児１歳児）は、畑の土に触れる機会を多く持ち、土の感触や気持ち良さを肌で感じる体験を持つ。
2	計画・ねらい	様々な物の循環を知る。
	実践予定内容	食材の様々な加工、コンポストを用いたたい肥作り、畑仕事、木材の加工、命を頂くことなど一つひとつの活動が単体ではなく前後の活動とつながり、循環を知ることができる活動となるよう活動への意義付けを行う。
3	計画・ねらい	残渣を意識した子どもへのアプローチ
	実践予定内容	・毎日の給食で出ている残渣について、子どもたちが理解できるような環境（残渣の見える化）を考えていく。 ・どうしたら、残渣がなくなっていくのかを子どもたちと対話し、楽しみながら残渣が減っていくように進めていく。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	子ども姿の共有を密に行う
	実践予定内容	ケース会議・個別計画書など保育園とつむぎスタッフ
2	計画・ねらい	子ども主体な保育を前提に、子ども同士が話し合い、考え合う場を設けることで協力・協働性を身に付ける
	実践予定内容	・保育者は子ども同士が話し合えるようにサポートし、子どもたちの様子や言動・思考を記録に取り子どもたちの心情を理解する。
3	計画・ねらい	自然に協働する関係性の構築
	実践予定内容	・引き続き、普段の保育活動に留まらず、行事・研修・会議体・園内整備など施設内のおおむねの物事において共に協力し合う体制を取っていく。 ・互いの専門性を認め合い、活かしながら日々の業務を行っていく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	18人	18人	24人	24人	24人	120人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	14人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	5人	補助	2人	事務	1人	用務	1人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園運営に必要な情報の共有、各行事や係の進捗状況の共有、園内研修（60分）
給食運営会議	月1回	給食運営に関する情報の共有、課題の抽出・実行など
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故の分析、時季で予測される事故の注意喚起など
ケース会議	月１回	要支援児の支援状況、課題の整理、支援計画の立案など

〈２〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの確認事項、全園の状況確認や課題討議
施設長勉強会	月1回	質上げ会議を受けて、施設長としての行動計画を作 成し

		ながら自園の組織力を強化していく
食育会議	年4回	エリアごとに課題やスキルアップのため、討議を重ねる
保健会議	年4回	各園の状況報告や衛生面などについて意識の統一を図る
主任会議	年4回	各園の主任とマネジメントや後輩と保育を深めることについて学び合う
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のミドルリーダーが自園の保育の質の向上推進のため、アクティビティを実践しながら保育を深めることについて学び合う
併設園会議	年2回	併設園ならではの課題を近隣併設園と共有し学び合う。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保健衛生関係物品・書類の管理、清掃・消毒の状況とりまとめなど
安全対策係	事故防止委員会の運営、ハザードマップの見直しなど
防火管理者	防火管理者：佐藤慶太 消防計画に則り、災害時や不審者対応に対する取り組み（避難訓練の立案・実行・省察なども含む）
食品衛生責任者	食品衛生責任者：関口千尋 給食運営会議の運営、食品の安全に対する管理や啓発など
畑係	年間計画の遂行管理、畑仕事の意義の確認及び整備・管理責任
生き物係	動植物の世話の管理責任（観葉植物なども含む）

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとともに、園児・地域の子どもたちの行事を構築する（主導はどろんこサポーターズ）

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育所保育指針に記載されている0歳児保育における3つの視点、1、2歳児保育における5領域を念頭に置き、保育者との愛着関係の中で安心して生活できるようにする。 ・一人ひとりの発達の理解を図りながら、子どもが育とうとする力を見極めて環境を用意するなど、適切に対応する。 ・養護の観点の重要性を理解しながら、一人ひとりに丁寧な保育を展開する。
	下半期 0～1歳児	・安心して生活する中で、芽生える自我を十分に培えるよう、様々な興味・関心を持てる環境づくりとより受容的・応答的にかかわることを行う。 ・自ら生活や遊びにかかわろうとする子どもの心の動きを敏感に捉え自分でやろうとする気持ち・行動を助長する環境づくり、他者とのかかわりが広がる環境づくりを行い、多様な経験を積めるようにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・一人ひとり保育園生活に楽しみや期待を持ちながら、満足感・充実感を味わえる生活を送れるよう、室内環境の充実、選択の機会の充実、活動の連続性の保障を行う。その中で子ども達は体を動かすこと、考えることの面白さを感じられるようにする。 ・友だちや保育者など様々な人とかかわる環境の中で、自分の思いを伝えたり、相手の思いに耳を傾けたり、折り合いをつけたり、協力し合ったり、けんかして仲直りするなどの経験を積み、毎日様々な人と関わることは楽しく幸福感が高まることであるとたくさん感じられるようにする。
	下半期 2～5歳児	・生活や遊びに主体的にかかわりながら自ら考えたことを行動に移し、判断の力をつけていくために、保育者は都度柔軟に人的環境・物的環境を構成し、子どもが能動的に活動できる生活を保障する。 ・異年齢での生活の中で、葛藤や充実感を多く経験し、自分の思いを言葉で伝える姿や他人の気持ちを理解しようとする姿が育まれるよう、保育者は受容的・応答的・対話的に子どもにかかわる。 ・「幼児期に育ってほしい10の姿」で保育を振り返りながら、子どもにとって必要な体験は何か、どんなことで心が動いているのかを事実を基に専門的に解釈することを集団で行う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	意欲を持ち給食を食べる子ども
	実践予定内容	・食事作りや準備に関わるようにし（当番活動、配膳係）子どもの食への関心を広げる。 ・全スタッフ子どもと共に昼食を食べ、コミュニケーションを図ると共に、楽しい空間となるよう配慮する。
2	計画・ねらい	食への関心を深め命の大切さを学ぶ
	実践予定内容	・食事の下ごしらえを栄養士や保育士と行うことで、食への関心を深め野菜などの知識を得る。 ・畑活動を充実させ、自ら育てた野菜などを食することで、自然の恵み命の大切さに気付き食への関心を深める。
3	計画・ねらい	食材に感心を持つ
	実践予定内容	調理の際は素材の硬さを残しつつ、なるべく大きくすることで子どもが食材にかぶりつく意欲を育てる。
4	計画・ねらい	焚火保育の実践
	実践予定内容	畑で育てた野菜を子ども自身で調理し、食材の有難味を感じると共に、食の循環を学ぶ。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（６月・１１月）
歯科検診	年１回（６月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いうがいの励行、歯磨き指導、性教育（年長児）など年間計画に基づいて取り組む
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施

	6月頃･･･手足口病　I2月頃…胃腸炎 I月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･２名より預かり済み／調乳室にて保管 抗アレルギー剤･･･I名より預かり済み／事務室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在I8名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフI0名については3月I8日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	・行政からのお知らせや注意喚起掲示、保険関係研修の受講 ・感染予防のため、保育室の衛生管理・日々の子どもの健康状態を把握し拡大防止のための情報発信を行う。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･I0･I月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･I2月の25日
	避難消火訓練	毎月I回／I5日
	不審者侵入訓練	年2回／6･I2月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･II月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･I0･I月の25日
	フロン点検（定期I回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･I0･I月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月I0日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月I回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･I0月

	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６・１１月 歯科健診　年１回／６月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	子ども自身が考えて行動できるような、物的環境と人的環境
	実践予定内容	・室内外に問わず、子どもたちの興味関心から今必要な事物は何かを常に考えていく ・保育者の言葉がけは、指示・命令するのではなく、子ども自身が考えて行動できるように行っていく ・子どもたち同士が対話をし、意見・提案をする場を提供することで、
2	計画・ねらい	保育者自身が豊かな感性を持つ
	実践予定内容	保育者が様々な物事に興味を持ち、面白さを感じられる感性を磨き続ける努力を行っていく。自分が目の前にいる子どもと同じ年齢だったらどう感じるのかを考え、美しさや心地よさ、面白さなど遊び心を持って環境構成に取り組む。
3	計画・ねらい	火・水・土に関わる体験強化
	実践予定内容	火・水・土に触れる体験を今までよりも盛んに行われるために、スタッフが積極的に活動し、子どもたちに背中を見せ、どろ遊びや水あそびが好きな子どもが1人でも多くなるように計画・行動する。

〈７〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	鶏小屋	園庭（ヤギ飼育スペース）	毎日
2	玩具棚	園庭	毎日

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会	・過去の事例や予測される事故には、自園だったらどのような課題があり、それを防ぐ為にはどのように行動しなければならないかなど検証し、スタッフ全員周知の上、事故に発展することが無いようにリスクマネジメ

		ントを行う。保育者は見通しや予測を立ててそれを互いに共有しながら行動する。 ・ヒヤリハット・インシデントの事例は、事故防止委員会やクラス会議の中で様々な視点から統計を出した上でケース検証を行い、事故防止につなげる。
2	避難訓練・不審者侵入訓練	・事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高める。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用する。 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	事故・怪我の対応	事故・怪我においては、心身ともに苦痛を負った子どもと保護者の気持ちに誠意を持って応え事実を伝えるようにする。
4	光化学スモッグ	・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。
5	ハザードマップ	・有事の際は、君津市の各種ハザードマップ（地域の危険度マップ）に則り、行動する。 ・散歩先、室内など子ども達が活動するすべての場所においてハザードマップを作成し、スタッフ間でハザード箇所の共有を行うとともに、有事の際の所在確認に活用する。
6	安全計画	バスの置き去りについては使用する全バスに置き去り防止を支援する安全装置の装備の取り付けを行っている。運転者は講習・研修を受講する。 また、その他定期安全点検、安全指導、マニュアル遵守、訓練計画・研修計画をまとめた安全計画を策定している。
7	虐待防止	虐待防止研修について法人本部がスタッフ入社時に1回、施設内で年2回行う。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・ボランティア・中高生の体験学習の受け入れに社会的責任がある。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、実習生等を積極的に受け入れる。また、せっかく保育・福祉の養成校で勉学を積んでも保育現場に就職する学生が非常に少ない現状の中、保育園で働く意義を見出し、子どもとワクワク・ドキドキする日々を送ることを経験する中で、保育業界への興味や期待を引き出せるような体験を提供する。

1	対象について	・中高生の体験学習の受け入れ、保育養成校の学生の実習受け入れ、一般及び学生の各種ボランティアを受け入れる。 ・園児の兄、姉などかかわりの深い中高生にも保育体験を積極的に勧め、地域との一体感を深められるようにする。

2	実習時の対応について	中高生や実習生が安心して保育園で子どもたちと接することができるようにスタッフが温かく対応するよう心がけ、子どもとのふれあいから様々なことを感じてもらいフィードバックの中で更に深められるようにする。特に、中学生や高校生の中には、乳幼児と触れ合う経験が無い生徒もいると思われるので、当該校の教師と事前に生徒の共有事項などを確認し、安心して体験学習が行えるように配慮する。実習生については、保育のやりがいや面白さに気付けるようスタッフが働きかける。
3	実習後の対応について	授業の一環として保育園を訪れることが考えられるが、その後も気軽に保育園に遊びに来るよう働きかける。
4	個人情報・機密情報の保持について	実習、ボランティアの体験を充実させる一方で、園児の個人情報や施設の機密情報、実習生・ボランティア自身の個人情報に関しては慎重に扱い、実習生・ボランティアも情報のセキュリティについて意識し安心して体験できるようにする。

7.スタッフ育成と研修計画

毎月全体会議の中で園内研修として６０分以上は設け、テーマに沿って様々にアクティビティを用いながら討議を行い、スタッフ全体で意見を出し合い、スタッフ自らＯＯＤＡに即して子どもの観察から大切にしたいことを見出せる力をつけていく。また、その場限りで話が終わることなく、次の日からの保育に活かし、実践の経過を翌月の園内研修の場でまた振り返るといった流れの中で、通年で連続性のある園内研修の運営を園とつむぎ内箕輪ルームが協働して行っていく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 危機管理（ケガ・ケーススタディ） ④ 子どもの人権	マニュアルを理解し、基本に沿った 対応を全スタッフができるようにする。（子どもの権利を尊重した保育のあり方とは？）
5月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 環境について	子どもたちの発達や興味関心に合わせて見直す。 （その室内環境大丈夫？空間設計の視点から学ぶ「心を育てる保育環境」）
6月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 水辺のリスクマネジメントについて	プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。 （楽しく安全な「水遊び」のために～水辺のリスクマネジメント～）

7月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 見守る保育について ④ インクルーシブ保育	子どもたちの姿を見ていく中で、子どもの興味関心がどこへ向いているか事例を通して検討していく。（見守ると放任は大違い「信じて待つ保育」）
8月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 食育について	どろんこ会が求めている給食・食育について動画を通して学ぶ（食育の基本）
9月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上半期の振り返り ③ 環境について	室内環境についての現状の振り返りと下期を迎えるにあたっての環境を考える
10月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 学習指導要領に基づいたアプローチカリキュラムについて	小学校1年生のカリキュラムを理解して、逆算をしたアプローチを検討する。（スムーズな小学校進学は保育者次第）
11月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 焚火研修	スタッフが焚火を学び保育実戦として 生かせるようにしていく。 （ゼロから学ぶ野外教育　野外教育～焚火編）
12月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り	１年の振り返り行い、課題の整理をする
1月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り	１２月の振り返りを経て、次年度どのような方法で日々を過ごしていくかを検討する
2月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定
3月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

育ての質を上げる会議）												
施設長勉強会	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月I日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

青空保育、商店街ツアー、散歩時など、地域に出かける中で積極的に挨拶や会話を行い、内箕輪どろんこ保育園の認知度を高める。また、ちきんえっぐにおいては年間７２０名の来訪者数を目指し、来訪した方が心地よく園を活用できるよう環境を整える。小学校や近隣の保育園、児童発達支援施設との連携も計画していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　目標：450名
青空保育（保育園主催）	月I回　　公園名：内箕輪運動公園にて　　目標：１０名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	地域行事への参加、高齢者施設訪問、小中高生の体験学習受け入れ
異年齢交流	青空保育時や近隣小学生との交流
地域拠点活動	青空保育、ちきんえっぐ運営

銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

良好な関係を築けるよう働きかけ、スタッフ間での授業・保育見学や子ども同士の交流の機会を計画し、小学校へ期待をもって移行ができるように連携・引継ぎを行う。

〈１〉今年度方針・テーマ

良好な関係を築けるよう働きかけ、スタッフ間での授業・保育見学や子ども同士の交流の機会を計画し、小学校へ期待をもって移行ができるように連携・引継ぎを行う。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	八重原小学校	20名予定	運動会見学（八重原小校庭）	子ども間交流
10月頃	八重原小学校 1年生	20名予定	小学校見学（八重原小）	子ども間交流
3月頃	八重原小学校	スタッフ4名予定	授業参観・年長児引継（八重原小教室）	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

つむぎ内箕輪ルームと連携しながら、共に子ども達を見る中で要支援児の個別支援計画、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中での子どもの姿の変化をスタッフ同士で共有し、多様な視点から子どもを援助していくようにする。また、保護者との対話を密に行う中で、子どもの成長を保護者・スタッフ間で共有していく。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１０名予定）

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

障害児に対しては、スムーズな小学校への引継ぎができるように、自治体や療育施設との連携を図っていく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：10名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：5名
自然食堂…親子ランチ交流	第2金曜日10:00～12:00　　目標：20名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	第4月曜日10:00～12:00　　目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：内箕輪運動公園（ちびっこ広場）にて開催　目標：30名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年10月２５日「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１７時３０分
自己評価実施予定者：施設長・主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	【子ども】長距離の散歩や日課などに意欲を持って取り組めるよう、子ども達の思いや意欲や興味を見極める。 【保護者支援】保護者が保育にかかわる機会の創出を行い、共育ての場

		となる文化の礎を築く。 【地域支援】継続的にかかわれる集団との関係構築、園庭やちきんえっぐを継続的に利用していただくため、受け入れだけでなく自園の情報発信を積極的に行う。
	振り返り	【子ども】 散歩に関しては、子どもたちの興味がどこへ向いているのかをフロアで考えながら、散歩先を考え計画できていた。また、散歩の行き先も子どもたちが選択できるようにできていたたが、日々違う公園の為、遊びの継続がしにくくなってしまった。 日課に関しては、大人も子どもも意図を確りと持ちながら取り組むことができなかったが、今年度は９時に園外へ出発することが進んだため前進と考える。その他、日課の意図など良く理解をしながら今後進めていきたい。 【保護者支援】 今年度の保育参加数が２１家庭と、多くの方にご参加いただけていたこともあり、保育運営に対してご理解を頂けているという実感を持てた。しかし、園からの発信という面ではタイムラインのみの発信のみで保育のプロセスなどが細かくご家庭に伝わるツールが少なかった。保育の細かいプロセスをどのようにご家庭に共有し、共育てしていくか継続的に検討していきたい。 【地域支援】 人員配置としてセンター園としての動きが乏しかったが、ちきんえっぐのイベント参加率は多く、キャンセル待ちとなる月もあった。開園から２年目ということもあり、少しずつ地域に認知されている一方で、園からの発信が弱いことが課題である。保育園を認知していくための施策をその年にあったアプローチを考えながら継続的に検討していきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	心地よいコミュニケーションをとって活動の幅を広げられる。
	重点施策	【子ども】子どもを基点とした話し合い、語り合いが活発的に行われ、子ども理解について追及しようとする。 【保護者支援】子育てについて共に学んだり語り合ったりする機会の創出を行う。 【地域支援】子育ての場となるような地域資源の探求と関係構築を行い、園と地域がより密接につながるようにする。
2026年度	目指す姿	保育のPDCAサイクルの意識が定着し、保育の提案をし合っている
	重点施策	・目の前の子ども達に必要なことを常に話し合い、学んだことを活かし共有することでチーム力を上げていく
2027年度	目指す姿	子どもたちの将来から逆算した保育の展開
	重点施策	子どもたちを教育する中で保育所保育指針を基に展開してくことは勿論のこと、学習指導要領を意識し逆算をしてアプローチをかけ教育に当たる

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：内箕輪どろんこ保育園 施設長　佐藤　慶太

２０２５年度　メリー★ポピンズ 海老名ルーム
事業計画書

Ⅰ.基本方針　　～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～

どろんこ会の理念でもある「にんげん力。育てます」を基本に生きる力を育んでいきます。
「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し、自分で考え、行動する思考力を育み、若者が「0を1に変える力」で課題や困難に向き合うたくましい未来を創ります。
　また、併設するつむぎ海老名ルームと共に全ての子どもが混ざり合い、自由に行き来する子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育を実践する。

①園児が自己選択すべきこと、大人が教えねばならぬことをスタッフ全員が理解し実践していく。
子ども主体の保育とは、子ども自身が躓きを経験し方法を考えて達成してゆくこと

②大人と子どもで一緒に畑仕事を行い、自分で育てた物を食す。堆肥作りをして食の循環を実践する。

③子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育を実践する。

④地域に開かれた子育て支援を実施し、海老名ルームを子育て拠点地を目指す。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	園児が活動を自己選択する。子どもの気持をど真ん中に安心できる環境で安心できる職員と生活ができるようにする
	実践予定内容	・園内研修にて基本方針の理解を深める。 ・子どもの気持に寄り添い活動選択できているか振り返り会議を月1回行う。
2	計画・ねらい	日課や基本保育活動を通し子ども同士が学び合い、育ちあう経験を支援する
	実践予定内容	・子どもの姿を細かく記録に残し、職員間で共有していく。 ・子どもの活動をポートフォリオにして掲示し保護者様へ伝えていく。 ・子ども同士が学び合える環境作りを追求し作り上げていく。
3	計画・ねらい	主体的な保育
	実践予定内容	・一人ひとりの生活を丁寧に保障していくために保育所保育指針を園会議で読み込み、理解していく。 ・園長大学の動画視聴をおこない、保育者、栄養士、施設長はそれぞれの専門的な知識と技術を高め、常に自己目標・グループ目標・組織目標に向かい学びを深めていく。 ・大人も子どもも主体的に行動できるように全スタッフで主体性とは？を問い続ける。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	おもてなし（思いやり・誠実さ・謙虚さ・感謝など心のこもった接遇のこと）を研鑽し、心がけて、保護者様の気持ちに寄り添う
	実践予定内容	・気持ちの良い安心できる挨拶と受け応えを徹底する。 ・1日の子どもの様子とその姿に成長の意味づけが出来るお迎え対応を実施する。 ・こどもの姿を肯定的にとらえ、ありのままの姿を丁寧に保護者様の気持ちに寄り添って伝えていく。
2	計画・ねらい	子どもの成長を共に喜び合える関係作りをする
	実践予定内容	・エピソード記録・ドキュメンテーションを掲示し子どもの姿の共有を可視化する。 ・保護者様からの伝達や共有事項を全スタッフに周知し、一人ひとりに丁寧に対応できるようにチャットや伝達簿をうまく利用する。
3	計画・ねらい	どろんこサポーターとの関わりを大切にする
	実践予定内容	・どろんこサポーターと共に子どもが安全・安心して過ごせる環境作りを目指し、情報共有をこまめに行う。 ・園の方針が伝わる行事を実践する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に必要な海老名ルーム、つむぎ海老名ルーム
	実践予定内容	・安心して利用できる環境づくりを全スタッフと考え続け実践していく。 ・園見学受け入れの際の接遇を全スタッフが気持ちよく対応できるようにする。 ・子育て支援イベントのチラシ配布。
2	計画・ねらい	子育て相談の実施・地域家庭のニーズの把握
	実践予定内容	・子育て相談を気軽にできるように対話を心がける。 ・園開放の担当者をつくり保護者様との関係性を築く。
3	計画・ねらい	地域に開かれた海老名ルーム、つむぎの知名度・利用率を上げる
	実践予定内容	園周辺での催事への参加、体験保育・出前保育・園開放・小中高生交流・世代交流・ボランティア受け入れ・勝手籠・子育てサロン、子育て相談を引き続き取り組み保育園の役割を果たす。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダー層の育成
	実践予定内容	・保育現場の中核「中堅保育者」がリーダーシップを発揮しチーム保育、運営を担っていけるように主任、施設長は現場に入り込まず指導内容を確認し振り返りを行い、中堅が育つような環境をつくる。
2	計画・ねらい	保育の質の向上、主体的な「にんげん力」ある保育者集団を育成する
	実践予定内容	・一人ひとりの子どもの発達段階を丁寧に確認し、必要な活動、環境、配慮を考え、指導計画を作成する。 ・指導計画では各クラスの振り返り会議を行い、必要なもの、そうでない

		ものを常に選別していく。 ・ダメと言わない保育を全スタッフで考え実践していく。
3	計画・ねらい	園内研修の講師となり、学びをさらに深める
	実践予定内容	園長大学の動画を視聴し、園会議でインプットしたものをアウトプットし学びを深めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環サイクルの実行
	実践予定内容	野菜の芯などを廃棄せず、コンポストに入れ、土作りを年間通して行う。またコンポストでできた堆肥を使って野菜を育てる。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らし食べ物を大切に消費する
	実践予定内容	畑仕事を通して苦手な野菜を一人ひとりが克服し、給食残渣を減らす。生産者の気持ちを知り、食材を大切に扱う事を学ぶ機会を設ける。
3	計画・ねらい	省エネ・省電力
	実践予定内容	子ども達と日常生活で環境に対する悪い影響を話し合い、調べるなど学びの機会をつくり、環境に対して興味関心がもてるようにする。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	子どものゾーン保育・保育者のゾーン保育「混ざる」「自己決定を助け合う」
	実践予定内容	・子どもが混ざる環境づくりを環境会議として月1回行う。 ・スタッフもワンチーム・クラスを超えて混ざり合うことを意識し、全スタッフが理解できるように互いを認め合う関係を築き、情報共有をこまめにおこなう。 ・チャットを利用しての日常の情報共有　昼礼での情報共有　担任会議録回覧をする。 ・ヒヤリハットやインシデントの共有、再発防止策の話合い、事故・怪我の予防と対応（フローの確認）を徹底する。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育・スタッフの学びを進める
	実践予定内容	・つむぎ専門士からの学び、共有事項と保育実践をおこなう。

〈7〉地域と育つ

1	計画・ねらい	世代間交流
	実践予定内容	・海老名の地図を見て、どこに高齢者施設があるかを調べる（施設での生活を知る） ・電話でアポイントを取るときには、どのような言葉が必要か考えてみる ・実際に電話で交渉してみる（事前確認：スタッフ） ・月に1度、Zoomで歌と元気な生命力を届ける。 ・上記歌の交流から、子どもからの声を拾い（保育Web活用）保育者は子どもの発案を形にする手助けをし、年間の活動とする（プロジェクト保育へ）

2	計画・ねらい	商店街ツアー探検
	実践予定内容	・子どもたちもアポイントの方法を知り、効果的なお願いの仕方や受け入れて頂いた時のお礼を考えたり、断られたときにあきらめないで次の方法や場所を考えたりと成功だけでなく、失敗や困ったことからの問題の解決を図る体験を進める。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	8人	11人	11人	11人	11人	60人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	0人	補助	0人	調理	0人	事務	1人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返りと質の向上に向けて・園内研修・研修報告の共有・個別ケース会議・課題の検討・安全対策
給食運営会議	月1回	献立の振り返りと喫食状況と残渣の確認・食育活動・クッキング・行事メニュー・保護者支援と発信・環境への活動推進（地産地消や残食削減）・畑仕事の連携と推進

事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット分析・インシデント検討と再発防止策・事故情報の共有と対策・マニュアル確認と実施方法の確認
ケース会議	月1回	要支援児についての保育方法の確認と検討・情報共有 気になる子についての保育方法の確認と検討・情報共有
昼礼・担任会議	週1回	指導計画案・週案・行事・こどもの様子・共有事項の確認他
朝礼	毎朝	一日の確認（保育のねらいと進め方・行事）・こどもの様子の把握・体調確認・アレルギー児の申し送り・来客確認

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一の情報共有・課題検討・園状況報告と共有
施設長勉強会	月1回	施設長のスキルアップ研修
食育会議	年4回	栄養士、調理師、施設長が参加　献立の検討・マニュアル確認・食育の推進・OJT・食品ロス・食の循環
保健会議	年4回	看護師、施設長が参加　子どもの健康と保育への参加　感染症・衛生管理・マニュアルの確認・社会の動向・新型コロナウイルス対策
主任会議	年5回	主任としての役割とは・スタッフ育成・他
子育ての質を上げる会議	月1回	業務改善研修・子育ての質を上げるための計画立案・成果発表会を実施　（自園の課題抽出・実行計画策定・成果発表）

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連絡　施設の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備品の補充と管理　感染症予防対策の管理点検・対コロナ対策消毒と危機管理
安全対策係	火災・地震訓練・不審者侵入時訓練および消火・防災自主点検の実施管理 消防署との連携窓口業務・救急講習計画と実施 施設内外の設備点検および事故防止対策の実施
防火管理者	消防計画の作成と備蓄リスト　帰宅困難者表作成

	上記計画に基づいた地震、消火・通報訓練を定期的に実施
食品衛生責任者	調理室全般の衛生管理 給食食材および提供食材の衛生管理と在庫品保管状況の管理
畑係	畑づくりの年間計画・畑の管理 関連機関との連絡・調整 子どもとスタッフの畑活動の推進を図る 教材・道具類の維持補充 保護者様への働きかけと情報発信
生き物係	飼育動物の丁寧なお世話と健康管理 子どもや保育者の生き物飼育活動の把握と推進、課題検討
環境整備・備品係	美観・保護者がいつ見ても気持ちがよい施設 園内外の環境整備：子どもの生体リズムを整える環境づくり 室内に自然を取り込む、くつろげる環境設定
内監プロジェクト	内部監査項目に沿って、押印簿点検や課題解決の推進
地域係	地域の方々や団体等との対外的な窓口業務と広報係

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの企画と推進 保護者と協働して、準備・開催をする　懇親を図る 地域サービスとしての位置づけをする
運動会	法人内・地域の子育て支援の企画と開催
生活発表会	法人内・地域の子育て支援の企画と開催

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・受容的・応答的な関りの下で、自分の気持ちや示したいことを伝えようとする意欲を育てる。（代弁や選択肢が与えられる）また、これらの関係性から身近な大人との信頼関係を育て、人と関わるちからの基盤を養う。 ・戸外活動を喜び、自然に触れて五感を育て、健康な身体を創る ・生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気づき、感覚の働きを豊かにする。

	下半期 0～1歳児	・上半期の受容的・応答的な関りの中で獲得した言葉を使って、自分の思いを伝えたり歌を歌う気持ちよさを感じたりして、気持ちを開放し生活する。発達的に駄々こねや癇癪も多いが、それを正当な主張と認められながら、自分自身を育てていく。 ・戸外活動を喜び、自然に触れて五感を育て、健康な身体を創る。 ・自由に動くようになってきた体を十分に動かして、リズム遊びや散歩活動に意欲的に活動し、保育者に励まされ認められながら、自尊感情を培っていく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・生活リズムを整え、情緒を安定させた生活の中で、自分らしさを発揮し毎日を楽しみに登園する。 ・意図的に環境設定された中で、自ら関り、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活の中に十分に取り入れようとする。 ・長距離散歩にトライし、集中力や忍耐力、チャレンジする気持ち、爽快な充実感・達成感を毎日体感し、自尊感情を高め、レジリエンスを築く。
	下半期 2～5歳児	・異年齢のかかわりの中で、自分を表現して受け入れてもらうこと、相手の気持ちを理解しながら、人対人コミュニケーションの実感をもって生活する。 ・自分が大事にされることによって、相手をも尊重し、思いやりの気持ちを態度や行動に表して、接する。 ・上半期、戸外活動で五感を働かせ、培ってきた感覚・感性や長距離散歩で培ってきた集中力や忍耐力を活かし、描画や造形、歌やリズム遊び、劇遊びや楽器遊びなど、様々な表現活動を展開する。 ・地域や小学校など、今までよりも広い社会に目を向けて、小さいながらにも、社会に貢献できる自分に育っていることを自覚する機会を与えられて、そこに誠心誠意取り組み、自尊心を高める。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２４年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	調理員・保育者・施設長・事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする
	実践予定内容	・身近な大人や友達を模倣したり教わったりして食事のマナーや食具の正しい使い方を知る ・散歩・畑での労働・戸外活動で空腹を得る環境を作る
2	計画・ねらい	食の循環を知り、命を頂いていることを感じる
	実践予定内容	・年間計画による畑活動・クッキング・野外炊飯の実施。 ・畑で育った作物を食する過程を知り、おいしく食べ、自然（日光・水・温度・土・大気）の恵みに感謝し、世話の大切さを知る
3	計画・ねらい	子どもが「自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を環境構成する
	実践予定内容	・食育会議を通して子どもに真に体験させたいことを考えて、実践に移す。 ・魚の捌く、手で開く　→　イワシ、豆アジなどを給食で頂く。 ・調理と保育者の連携をこまめにとる。 ・苗植えから収穫・余すことなく使い切るように計画を立てる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・11月）
歯科検診	年1回（5月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	別紙保健計画に記載
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃･･･プール熱、手足口病など 12月頃･･･インフルエンザ、嘔吐下痢証など
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･　1名より預かり済み 誤食緊急薬･･･　2名より預かり済み
エピペン使用できるスタッフ	本日現在13名が研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ3名については４月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在13名が研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ3名については４月30日までに受講予定

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･9月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／5.11月 歯科健診　年1回／5月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	一人ひとりに合った保育環境構成を考える
	実践予定内容	・9時出発、畑仕事、草花遊び、土手滑り、川遊び、樹木のある公園へ行くなど、自然や自然物と関わる毎日を考えて保育活動とする。 ・自然は一日として、同じ日ではないことを念頭に置いて、保育者自身も五感を働かせて、子どもと共に自然から学んでいく。
2	計画・ねらい	誰が来ても見ても気持ちの良い環境を維持する
	実践予定内容	・清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める。
3	計画・ねらい	事故防止チェック、設備点検を定期的におこない、改善が必要なところは修繕する
	実践予定内容	・様々な視点で点検できるように、交代でおこなう。 ・修繕箇所はスピード感を持って対応できるように、報告する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

該当なし

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会 リスクマネジメント研修 怪我・事故の防止	事故の予防：ヒヤリハット収集と統計結果の確認（随時・月1回の共有） 園内インシデント・事故の再発防止検討 過去の重大な事故事例や身近な法人の事例研究 緊急連絡先への連絡・フローチャート確認 見失い・置き去り概念の学び・散歩ロールプレイ 心肺蘇生・AED研修・怪我の対応・プール、水の事故防止策 散歩引率など ・子どもへの安全教育の定期的な実施
2	避難訓練・ 不審者侵入訓練 防犯	・安全対策係が計画立案・実施 ・自衛消防隊の編成と役割分担 ・十分なシミュレーションの元、立案された計画を全スタッフで共有し、実施 ・子どもへの安全教育の定期的な実施 ・予想外の想定にも瞬時の適切な判断が自らできるよう、保育者は戸外・散歩時などの危険予測を日常から行っていく ・広域避難場所：海老名小学校（保護者様への周知を図る）
3	光化学スモッグ	・自治体からの情報で判断、活動を加減する ・自治体からの情報を正確に得る ・子どもたちに何故屋内で過ごすのかを考え、安全教育と共に光化学スモッグのメカニズムや環境問題への問題的の芽生えにつなげる

4	災害対策	「保育運営マニュアル」・危機管理マニュアル確認 決められたことの内容と意味を保育者は知って、園運営に携わる
5	日々の事故防止	・保育者の気づきの共有（保育者間で）と報告（施設長） 子どもの様子・玩具・遊具・屋上・公園・戸外移動時・保育者の保育、関わりと引率 ・ハザードマップの更新：室内、戸外環境の変化や人的要素を敏感にキャッチして、書き込み・更新をする。更新日時を記録する ・ヒヤリハット気づきと記録の習慣化を図る。ハインリッヒの法則を知る
6	ハザードづくり	・室内　ビル共用部　戸外・散歩コースのハザードマップの完備 ハザードマップ管理表で定期的な見直しを図る
7	苦情・ご意見対応	・「保育品質マニュアル」・苦情対応マニュアルの確認 保護者様のご意見を真摯に聴き（訊き）、自分事としてとらえ、謝罪と保護者様のご意向に添った問題解決を図ることを第一とする

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

1	実践予定内容	小学生の保育園見学・交流の受け入れ　ドッジボール大会など
2	実践予定内容	中学生・職場体験の受け入れ・交流
3	実践予定内容	高校生：高校の部活訪問　陸上部：早い走り方教室　吹奏楽部：本物の音に触れよう　など

7.スタッフ育成と研修計画

園内研修本来の目的：「同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見出すために職場内での研修を行う」を軸にアクティブラーニングを意識して展開する。ブレーンストーミングの手法を全スタッフが駆使できるファシリテーションの術を身に着けて、柔軟で多角的なアイディアや意見を数多く出し合って、活発でクリエイティブな会を創出していく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②怪我ケーススタディ ③保育理念・日課の確認	振り返り 過去の事故記録、インシデントを基に危険箇所、ハザードマップなどの

			把握、見直し 保育理念・日課の意味を知る
5月23日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 ③避難訓練ロールプレイ	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか 災害時の動きの確認
6月27日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 ③水遊びと水の事故	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか 水遊びマニュアル確認
7月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか
8月22日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか
9月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか
10月24日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか
11月28日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか
12月26日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか
1月30日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を現場目線でどう捉えるのか
2月27日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②年間策定会議	2025年度事業計画とその方向性、行事日時と概要の設定
3月27日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②年間策定会議	2025年度「子どもにとって、真に必要な生活・活動を決める」

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

年1回実施するフィードバック面談時に施設長は「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画」を記録として整え個々に伝える。これにより、スタッフは自身のキャリアアップに必要な研鑽を自ら図っていく。

MBO（目標管理制度）は法人理念や保育目標、園事業計画に沿って、スタッフ自身が目指したい方向性や方法を定め、自ら目標設定し、成果までの道のりを管理することを指す。自主的なモチベーションアップや目指したい保育の構築を行えるため、保育の活性化や貢献度、やりがいを感じることにつながり、子ども中心の保育を推進、質のアップすることに寄与する。

【MBOのフローは次の通り】

目標の設定・目標面談→自身での進捗確認・中間面談→自身での振り返り・評価面談

目標を達成するためのスタッフ間での共有を図っていく。またチームを組んで共同の目標に取り組むこともチームを活性化させたり成功させたりするメリットがある。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた保育園としてのＰＲ活動を整え、地域に開かれた園運営を目指す。

利用しやすい仕組み作りをして、地域との交流を深める。

園開放にも園スタッフが参加し、井戸端会議のようなたわいもない会話からの子育て相談を試みる。

地域の保護者様が海老名ルームのスタッフと共働して「子育て」しているという実感を持てる、一歩近づいた接遇をおこなう。またこの地域支援を全スタッフが関心をもって関わるための話し合いや実際の活動を策定会議から模索し、効果的な活動を選択して開催にあたる。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月１回　　公園名：海老名中央公園において
商店街ツアー	週１回
世代間交流	月１回　ココファンまたはプラチナコミュニティ訪問 ：高齢者の方とのふれあい 老人施設：歌の訪問（Web交流も視野に入れる） ・訪問時期・回数は施設との相談のうえ決定する
異年齢交流	近隣の小・中・高・大学との交流・ボランティアの受け入れ・
地域拠点活動	青空保育　ちきんえっぐ　園開放
銭湯でお風呂の日	月１回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

国の指針に準じ、『スタッフ間交流』と『子ども間交流』の両者を計画的にバランス良く盛り込んで計画を企画・実施する。年度初めには「５歳児と小学校１年生との年間連携計画および報告書」の確認を全スタッフで行い、効果的なアプローチカリキュラムを考えていく。
小学校教諭および保護者を交えた学習指導要領の読み解きなどのスタッフ勉強会や子どもの学校交流などを実行できるように、海老名市内の小学校にアプローチし企画・実施を試みる。

〈１〉今年度方針・テーマ

・小学校を知り（研修会や公開授業に参加）「幼児期に終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとしながら、幼児期にふさわしい生活を通して、この時期ならではの資質・能力を育み、小学校の生活や学び、および子どもたちの育ちに必要と思われることを「５歳児と小学校１年生との年間連携計画および報告書」に網羅し、年度当初から意識して取り組んでいく。（保育者の研鑽）
・「アプローチカリキュラム」は、就学のための期間限定のものでないことをスタッフ間の共有とし、どろんこ会グループの目指す「生きる力」をはぐくむ日常の保育、日課や基本活動を丁寧に積み上げる。その結果、子どもたちの姿がどのような事柄に対しても、問題の解決を図り、主体的に対話的に乗り越え、喜びをもって生活する子どもたちの育ちになることを知って、保育する。（子どもの育ち）
・小学校・学習要領を知ることによって、今の保育の過不足を知り実施する。保護者様に知っていただくことで、「海老名ルームで取り組んでいる活動」の意味づけを強め、安心感をもった子育ての方向性を共有する。（保護者支援）

〈２〉具体的な連携計画

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	海老名市内・小学校 1年生	11名予定	海老名市立小学校・校庭	子ども間交流
9月頃	海老名市内・小学校 1年生	1クラス予定	海老名ルーム・畑活動招待	子ども間交流
10月頃	海老名市内・小学校 教スタッフ	2名参加予定	授業参観（海老名市立小・教室）	スタッフ間交流
1月頃	海老名市教育委員会開催勉強会へ出席	５名予定	保幼小・合同勉強会	スタッフ間交流・勉強会
２月頃	小学校との情報交換 保育所児童保育要録送付	11名	5歳児就学予定学校	スタッフ間・情報共有

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

２０２５年度開催時の確認事項は〈２〉毎月のケース会議開催に記す。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：18名予定）

・適宜ケアが必要な子どもやスタッフの対応に共通認識が必要な子どもに対しては、継続的な個別指導計画を作成し、継続的・包括的な支援を行い、保育の検討を図る。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

・クラス担任は、進級時に引継ぎを実施・引継ぎ事項を記録に残す

・進級時の引継ぎ時、面談の希望をとり、保護者様と成長や課題の認識のすり合わせをする。（希望者のみ）

・小学校への引継ぎは保護者様のご意見・ご要望を確認する。（卒園面談・希望者）

・保育所児童保育要録作成と送付

・小学校との情報交換（１,２月）：訪問・電話

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30実施　　集客目標：30名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	月２回開催　10:00～12:00　　集客目標：15名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月１回開催　10:00～12:00　　集客目標：15名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　園名：海老名中央公園にて開催　　集客目標：20名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2027年2月27日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：18時00分
自己評価終了予定時刻：19時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、乳児リーダー、幼児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	【こども】 丈夫な体と健やかな心が育ち、自分で選択し、主体的に遊びこんだり自己調整する力を養ったりする。困難があっても内言を育て（自分で自分

		に語りかける）を育て、自分を立ち直らせることができる 【保育者】 子ども主体を常に意識し子どもを尊重する保育が定着化する 「混ざる」児童発達支援＋認可保育所の併設園モデルを目指し、活き活きとした保育を展開している 【子育て支援】 積極的な広報活動を得て、ちきんえっぐ、園開放の来園者が月60名となっている 卒園後も子どもたちの原風景・原体験の場となっている 保育・共育てに関心を募り「どろんこサポーター」が誘発的・自発的に活動している
	振り返り 2024年	事業計画で上げた「生活力の体得」「子ども自らがいつでも経験を選択することができる物的環境の設定」をベースに「10よりも100の経験を」を具体化し実践した。子どもたちは様々な遊びと生活を積み上げて健康な体を育て、心と体を動かして見通しをもって生活を送り、1人ひとりが自分らしく育っていることを確認した。これは園・つむぎ利用児ともに同様であり、スタッフも混ざって活き活きとした保育を展開することができた。どろんこサポーターが増え、園の活動に関心を持って活動しており、子どもを取り巻く環境はまた一段と暖かく整ってきたと感じ、継続・発展を進めていきたい。 子育て支援では来訪者は目標の月60名には届かなかったが、スタッフ一丸となって広報活動に努め、現在もアイディアを出しながら進めている。リピーターが出来つつあるので、今後も積極的な受け入れ態勢を整えていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	全ての子どもを包み込んだ教育
	重点施策	インクルーシブ保育への理解をスタッフ間で常にすり合わせして追求していく。
2026年度	目指す姿	保育園・つむぎが一体となった地域の子育て支援の拠点となる
	重点施策	子育て相談なら海老名ルームへいこうが定着できるように、地域のニーズを理解しデーター化して必要な支援ができるようにスタッフ間で共有する時間を作る（月1子育て会議）。
2027年度	目指す姿	地域をまきこむ、発信するインクルーシブ保育
	重点施策	インクルーシブ保育ってどんな保育？を地域に伝える場作りをする。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 海老名ルーム 施設長　井上　あゆな

２０２５年度　香取台どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

近年、都市化・核家族化・少子化・情報化などの社会状況が変化する中で、「子育て」における幼児教育施設の存在意義と果たすべき役割は、年々重要性が高まっている。次代を担う子どもたちが、人として心豊かにたくましく生きる力を身につけられるよう、生涯にわたる人間形成の基礎を培う、普遍的かつ重要な役割を担っているためである。

つくば市は、国内最大級の研究・教育機関の集積地であり、名峰筑波山をはじめとする豊かな自然環境、多様な文化的背景を持つ130か国の人々が暮らす国際色豊かな地域性など、さまざまな資産を有している。国内では出生率の減少が続く中、子育て世代の移住者も多く、未来を担う子どもたちの成長の場として選ばれていることを踏まえ、子育てを支える保育園として、つくばで育つ子どもたちの『学びと育ち』を支える施設としての責務を果たす。

香取台どろんこ保育園・つむぎ香取台ルーム・つむぎ香取台放課後デイサービス・香取台どろんこ学童は４施設併設園としての強みを活かしながら、真のインクルーシブ保育を目指し、実践を通して『学びと育ち』の質を向上させ、地域や業界の模範となることを目指す。

保育所保育指針並びに児童発達支援ガイドライン、社会福祉法人どろんこ会の保育理念を軸に、子どもも大人も育ちあい、「誰もが自分らしく生きる」を大切にしながら地域の拠り所となる園を目指す。

法人保育理念　「にんげん力。育てます。」
必要な遊び・体験を提案実践し、“自分で考え、行動する思考”を育む。

子育て目標　「センス・オブ・ワンダー」
畑仕事・ヤギや鶏の世話などの労働や自然体験を通して、ものの性質や身近な事象、生命の尊さ、食材や食の循環・環境への意識を育む機会を持ち、子どもがしたいと思う活動を安全に行えるように見守り、支援していく。
「人対人コミュニケーション」
“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成していく。

保育園保育目標　「学びあい　話しあい　認めあい」

・子どもたちが園で過ごすこの時期＝人格形成期であることを十分に理解し、“ホンモノの体験と労働”にこだわり「生きる力」の獲得を支援する。
・誰もが自由に行き来できる園舎という「大きな家」を軸とし、子ども・職員・保護者・地域社会がつながり、連携を深めつつインクルーシブ保育を実践していく。
・子どもたちに必要な遊び、野外体験、100のホンモノの経験を提案・実践しながら、一人ひとりの〝やりたい〟気持ちを後押しする。
・人権が守られ、安心して生活できるように受容し、欲求に丁寧に応答する保育を進めていく。
・大人が背中を見せて一緒に行うことを計画的に取り入れ、「意欲をもって労働に向かうことができる人格形成」を見据え、日々の日課に取り組んでいく。

・生き物の世話や畑仕事、収穫物の調理・加工、堆肥作りなど、自らの体験を通して食材や食の循環、環境への意識を育む。
・地域の特性や社会環境を踏まえ、子育て支援拠点として、子育ての輪を広げる拠点となることを目指す。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動の深い理解
	実践予定内容	できる限り土に触れる機会を増やし、免疫を獲得するための物的環境の整備と活動の計画・実行を行う。 生活力と危険なものとの距離の取り方を学べる環境を準備する 子ども同士で話し合う、順番を決める、交代して行う、皆の前で発表する、自分の意見を述べる、ができるように物的環境を整え、適切に導く。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して、主体的・意欲的にかかわれる環境を作っていく。
	実践予定内容	子どもたちに真に必要なものは何を見極め、子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定を日々アップデートしながら行っていく。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の立案を行っていく。
	実践予定内容	発達を理解し、一人一人の「今」をしっかりと捉えていく。 10の姿、その目指すべき方向性を見据え、一人一人の育ちを読み取っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の視点に立ち、保育園として併設園として保護者に寄り添った細やかな支援を行う。
	実践予定内容	保護者の心情を汲み取り、丁寧に対応していく。 保護者会の開催、個別面談の実施。
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝え、育ちを共に喜び協力し合っていく。
	実践予定内容	送迎時の対応を通して保護者との関係性を深めていく。また、連絡帳やタイムライン等での日々の細やかな情報共有、およびポートフォリオ等子どもの姿の記録と共有を行っていく。
3	計画・ねらい	いつ来ても、どこを見ても気持ちの良い施設を作る。
	実践予定内容	整理整頓・美観を保つシステムの構築。 保護者・来園者への丁寧な対応（接遇）。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとっての、子育ての輪の入り口となる。 輪がつながるエレメントになる。
	実践予定内容	ちきんえっぐ・青空保育の機能を充実させる。地域の子どもたち同士、保護者同士、子育て家庭同士が繋がる機会を提供する。
2	計画・ねらい	園と地域とのつながりを深め、子育て支援拠点としての役割を担う。
	実践予定内容	子育て等に関する相談の場の提供や援助を行っていく。

		地域集会所や施設、店舗などへのアナウンス、商店街ツアー、職場体験や実習生の受け入れなどを通して交流の様子など活動の発信を継続的に行っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	各自が目標設定をしっかり見据え、課題点を捉えた上でやるべきことを見出していく。
	実践予定内容	目標設定から課題抽出、進捗管理をそれぞれリーダー・ミドル・主任と段階的にマネジメントしていく。
2	計画・ねらい	子どもたちに関わるすべてのスタッフが、互いを知り同僚性を育んでいく。
	実践予定内容	スタッフ一人一人の強み・得意な分野を認識していく。 スタッフ同士が互いに吸収し育ちあう集団として成長していく。
3	計画・ねらい	スタッフ自身のにんげん力向上へ向けた機会の創出
	実践予定内容	学び続ける文化の醸造。学んだことを施設内・課内・部内・法人内で研修企画をし、アウトプットし自己変革につないでいく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	混ざるのその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する。
	実践予定内容	子ども自身が活動・玩具・教材・絵本・運動遊具を選び、手に取り、10よりも100の探索ができる環境を構成する。 こども間でのぶつかり合いや葛藤を調整しなければならない機会が得られるように、物の数・置き場所を構成し、必要な場面で必要な量のみの言葉がけ・介入を行う。
2	計画・ねらい	チームとして園全体の連携体制を強化していく。
	実践予定内容	自ら進んで取り組む姿勢を持つ。アンテナを張り全体の中での自身の動きを見据えつつ、「自分で考え、行動する」「自分でできることは自分でする」を大人も実践していく。
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育実践内容の発信と共有。
	実践予定内容	併設園の強みを活かしながら、互いの専門性を学び合う。 インクルーシブ保育の考え方や実践内容を、スタッフ一人一人がしっかりと学びつつ、エリアや業界へとその意義を発信していく。

〈6〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を育む環境保育の実践。
	実践予定内容	畑仕事・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧に行う。 食材の加工、ヤギ・鶏の糞の堆肥化、命をいただく（捌いて食す）等の経験を通して食の循環・環境への意識を身に付ける。

2	計画・ねらい	「つくば」という地域環境を活かし、遊びや体験につなげていく。
	実践予定内容	自然環境から」科学まで、あらゆる分野での機関が集中する「つくば」ならではの環境を活かし、子どもたちの興味とやってみようとする気持ちの後押しをしていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	15人	18人	18人	18人	90人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	園事務	1人						
パートスタッフ	保育士	1人	補助	1人	用務	1人		

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、コンピテンシーによる自己評価、研修報告、共有事項、活動の振り返り
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラスの状況共有、アレルギーへの対応、食育

事故防止委員会	月1回	事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、検証、再発防止策
ケース会議	月１回	特別配慮を要する子どもについて情報共有、指導計画
リーダー会議	適宜	活動のねらい確認および具体的計画、共有事項の確認
クラス会議	週１回	翌週の活動計画、子どもへの関わり、配慮等

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告、共有事項
施設長勉強会	月1回	園運営における質向上のための講義、ディスカッション
食育会議	年4回	園の取り組み報告、マニュアルの見直し、食育に関する課題・目標の共有
保健会議	年4回	衛生管理の統一、感染症等各ガイダンスの共有
主任会議	月１回	園運営・マネジメントにおけるスキルアップ研修
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上に向けたスキルアップ研修
併設園会議	年2回	運営方針・内容のすり合わせ

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、衛生全般の管理、心身の健康状態の管理等
安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生責任者	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重しながら準備・活動を共に進める
子育て支援・相談係	子育てに関する相談業務、子育て支援「ちきんえっぐ」開催

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人一人と愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心がける ・一人一人の子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する ・受容的・応答的な関わりのもとで、身近な人と親しみ、関りを深め、人と関わる力の基盤を培う ・様々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる ・生活に必要な言葉が分かり、身の回りのことを自分でしようとする ・簡単な言葉で自分の気持ちを表し、友達や保育者と関わる ・生活に必要な習慣や態度を養い、心身の健康の基盤を培う ・いろいろな運動遊びを通して、生活に必要な動きを身につける
	下半期 0～1歳児	・人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人一人と愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心がける ・受容的・応答的な関わりのもとで、身近な人と親しみ、関りを深め、人と関わる力の基盤を培う ・一人一人の子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する ・生活に必要な言葉が分かり、身の回りのことを自分でしようとする ・簡単な言葉で自分の気持ちを表し、友達や保育者と関わる ・いろいろな運動遊びを通して、生活に必要な動きを身につける
幼児保育	上半期 3～5歳児	・保育者の見守りのもと、子どもの本来の姿である遊びが十分にできる環境の中で、一人一人が遊びきった満足感・仲間意識や集団活動の楽しさを感じ、充実感を得られる保育を行う ・リズム体操、表現遊び、歌遊びなどで自分を発揮し、表現する意欲や協調性・社会性を育てる ・素話や絵本・紙芝居等の読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす ・動植物を飼育栽培し、体験を通じて自然物や動物の命の大切さ、食の循環に気づく気持ちを養う
	下半期	・自分たちで考えた遊びに意欲的に取り組む

	2～5歳児	・目的を持ち持続性のある遊びを楽しむ ・自分のイメージしたものを様々な方法で表現する ・自然界の中での発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる ・自信をもって自己表現する ・異年齢で触れ合う中で、互いに刺激を受けあいながら自分たちで問題を解決し、相手の思いに気づくことができるようになる
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	意欲的に食事を楽しめる子どもを育てる
	実践予定内容	「お腹がすくまで目一杯遊ぶ」「おいしく楽しく食事をとる」「旬を味わう」「国内産・高品質の食材」「日本食・伝統食」を大切に考え、昼食・おやつ・夕食すべて手作りで提供する。
2	計画・ねらい	食への関心を広げる
	実践予定内容	子どもたちが自分たちで盛り付け、配膳して食べる。 素材の味を生かした状態で提供する。 自分たちで「作る」経験をする。 収穫したものを調理して提供する。 行事食・郷土食に親しみ、伝統文化への理解を深める。
3	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	自ら育てた作物を食する、命をいただく（捌く・解体する）体験を通して自然の恵み、食の循環を知る。 ヤギ・鶏の糞・ごみの堆肥化から、そのサイクルを知る。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい・手洗いの励行　歯磨き指導　温湿度管理　SIDS予防チェック 命の大切さ（5歳児）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃～･･･インフルエンザ、胃腸炎等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･4名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 オロバタジン･･･2名より預かり済み／キャビネットにて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については7月までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については7月までに受講予定
その他保健に関する取組	5歳児対象に性教育指導 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前

	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが安心できる環境を作る
	実践予定内容	安全を基本に、物的環境・社会環境・人的環境を整えていく。子どもたちが必要とする環境（例えば思い切り身体を動かせる広さ、教材や素材のストック・提供、自然との触れ合い、子どもにとっての安全基地の役割など）を職員間でしっかりディスカッションし、深め、共通認識を持つ。
2	計画・ねらい	創造的で自由に発展することができる環境を作る。
	実践予定内容	一つの事象に対し、それがどう発展させられるか保育者自身が想像し、あらゆる角度から準備を進めていく。子どもたちと一緒に楽しみつつ、子どもたちの視点に立ちながら環境をアップデートしていく。また、多様な視点を養うために研修等にも積極的に参加し、スキルアップを図る。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		
2			
3			

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	〈防災〉 危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救命救急資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践予定内容	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	〈防犯〉 危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う
4	実践予定内容	〈光化学スモッグ〉 危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。 つくば市においては、「光化学スモッグ注意報」が発令された場合には市役所から保育園・幼稚園・義務教育学校・公共施設・駅・郵便局等に情報を流し、運動の自粛や看板の設置などの対策をとっている。人体への影響が心配される場合、光化学スモッグ警報が発令される。「光化学スモッグ注意報」連絡体制に伴い、香取台どろんこ保育園でもそれに従い、発令中の間の外出を自粛する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や児童生徒一人一人の様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。

1	実践予定内容	小中学生の体験学習の受け入れ
2	実践予定内容	養成校の実習受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・子どもの人権・虐待防止研修	人権について考え、問題点の改善をはかる 子どもに対する見方、捉え方を学ぶ
5月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム ③３分間対応	実技の確認とともに、指導法のヒントを探る
6月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 夏の感染症予防・危険生物植物	感染症について学び、対策・防止策を考える 生活の中で遭遇する危険生物や植物の知識を共有し、事故防止に繋げる
7月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ゾーン保育・環境について	室内環境の見直し ゾーンの組み方・整理整頓の基準共通理解
8月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 行動分析	一人一人の行動・特性の分析による対応共有
9月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートについて	利用者アンケートを受けて、園の課題点の洗い出し・是正計画を立てる
10月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ゾーン保育・環境について ③人権チェック・子どもの人権・虐待防止研修	室内環境の見直し ゾーンの組み方・整理整頓の基準共通理解
11月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 冬の感染症について	冬の感染症について学び、対策・防止策を考える 情報セキュリティチェック
12月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②BCP	事業継続計画の共有理解
1月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プロポーザルにむけて	法人理念、保育所保育指針、策定会議の意義の理解
2月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	一年を振り返り、それぞれの課題・

		② 年度振り返り	園の課題を考える
3月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	課題への共通理解や協同性を高め、目標を設定し計画を立てる

エリア研修予算内訳　救急救命講習（つくばどろんこ保育園・万博公園どろんこ保育園・学園の森どろんこ保育園・守谷どろんこ保育園・香取台どろんこ保育園・アイビー保育園・ほしのこ保育園・おひさま保育園合同開催）

救急救命講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	会場	総予算	按分予算
6月14日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円
6月21日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

多様化する保育ニーズにより、地域に開かれた社会資源として、専門的機能を地域のために活用する。小学校訪問、地域の商店街や官公庁との繋がりをひろげ、地域に根差した保育園になるように密接に連携していく。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：400名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：吉祥公園にて　　集客目標：60名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加
異年齢交流	小学校訪問　他園との交流 中学生の体験活動やボランティアの受け入れ 日々の生活の中で、クラスで分けることなく異年齢で共に過ごす
地域拠点活動	ちきんえっぐ　青空保育 園庭開放利用者には積極的に誘い掛け、行事参加やちきんえっぐの広報に努める

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

幼保小連携での関係性を更に深め、なめらかな接続を目指す。相手を理解し、相手から学ぶという姿勢を大事にしながら、子どもたちの育つ力・学びの連続性を幼児教育から学校教育へとつなげていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	香取台小学校	7名予定	組織作り	職員間交流

5月頃	香取台小学校	20名予定	運動会見学	子ども間交流
11月頃	香取台小学校 1年生	20名予定	秋祭り参加	子ども間交流
２月頃	香取台小学校	20名予定	一日学校体験	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

個別の保育計画を立案し、全職員で具体的な対応を共有しながら園全体で取り組む。保護者との面談を重視し、子どもの成長発達を同じ視点で見られるようにする。また、関係機関と連絡を取り、できるだけ幅広い情報を収集して対応を考えていく。

他児との育ちあいの視点で考え、社会の中で生きていくための手立てを援助する。その子の発達の偏りを理解し、伸びる部分をより伸ばすことでほかの力も育つよう援助を行う。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：園会議出席者）

担当・保護者等、特に配慮の必要な事例や気になることを職員間で共通理解を図り、支援していく。発達支援センター「つむぎ」との連携も視野に入れていく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

看護師や担当保育者へ丁寧な引継ぎを行う。小学校へは必要な場合保護者の同意を得て、教育委員会への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：４８０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：24名
自然食堂…親子ランチ交流	月2回（火）10:00～12:00　　集客目標：150名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回（火）10:00～12:00　　集客目標：48名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00

ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：吉祥公園にて開催　集客目標：60名

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年12月26日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：13時30分
自己評価終了予定時刻：14時30分
自己評価実施予定者：施設長及び当日出勤の全職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもの成長を支える保育と支援。 各自の強みを活かし、互いに認め合える存在となる。 インクルーシブ保育の理解をエリアに広げていく。
	振り返り	子ども一人ひとりの成長を支えるために、保育園・学童・つむぎの職員が互いに切磋琢磨しながら過ごした1年だった。強みを活かすという点では、まだ発展途上ではあるものの、真のインクルーシブ保育の理解を深めるために日々学びを重ね、保育や支援の質をさらに向上させていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	地域に貢献する施設となる。
	重点施策	地域の人たちが集う地域に開かれた拠点となるための計画を立て行動をする。 園や地域、様々なコミュニティ、多様な人々の中で、スタッフ一人一人が自分のやりたいこと・できることを見つけ、実践していく。
2026年度	目指す姿	地域をリードする施設となる。

	重点施策	保育士・専門士それぞれが互いのスキルを学び合い、インクルーシブ保育の質を向上させる。 地域との交流や連携を積極的に推進し、地域の保育施設全体をリードしていく。
2027年度	目指す姿	育ち合い、生きる力にあふれる園となるよう、さらに研鑽を積む。 質の高い保育・支援の提供ができるようになる。
	重点施策	子ども自身が自ら体験する中で、物事を判断し、周囲の状況に気づけるよう援助する。 子どもたちに必要なもの・ことを見極め、子どもが自ら経験を選び取れるよう支援を実践する。 人格形成を質高く確実に丁寧に行う。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：香取台どろんこ保育園 施設長　篠﨑 理恵

２０２５年度　東大和どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

(1)　子ども発達支援センターつむぎ東大和、東大和どろんこ保育園ではすべての子どもたちが人とのつながりの中で様々な体験を通し、生活力を高め、皆で育ちあう施設を目指す。

(2)　「にんげん力。育てます。」という法人の子育て理念に基づき、子育てを展開する。
にんげん力とは何か。
生涯にわたって意欲をもち、逆境にも耐えうる力を身につけ人生を歩んでほしいと願うとき、これからの時代を生きていく子どもたちに必要な力とは、大人の言うことをきちんと聞ける力ではなく、ルールを理解せず守る力でもないと私たちは考える。自分の意見をきちんと伝え、人の意見にも耳を傾けられる力であり、ルールを守るだけではなく作っていくことができる力である。
また、生活力を身につけ、子どもたちが力強く社会を生き抜いていける土台を作っていく必要があると考え、その土台を作る大切な時期に、私たちは人とかかわる力や感情をコントロールする力を身につけられるような保育環境を整えながら、子どもたちにホンモノの経験を提供していくことこそが必要なことであり、にんげん力につながると考える。指示、命令を子どもに行うのではなく、子どもたちの気持ちに寄り添い、見守り、大人が背中を見せて、自分で選び、自分で決める経験の積み重ねができる園を作り、子育てを展開する職員集団を目指す。

(3)　東大和どろんこ保育園は以下の事について、全職員が使命感を持ち子育て、支援にあたる。
・子ども発達支援センターつむぎ東大和に併設されたセンター型の施設である為、環境を最大限に活かし、すべての子どもたちが日本を支える人材として育成する。
・子どもも職員も、保育園、つむぎということに左右されず主体的に活動し、失敗から学び、大人は背中を見せ、子育て、支援を行っていく。
・保育園、子ども発達支援センターの環境をフラットにし、どの職員でも対応しかかわっていける子育てを行い、そのために必要な環境構成や人員配置など徹底した仕組みづくりを整えていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

・生活力を向上させるために、必要な知識を身につけられるようにスタッフの教育力が不可欠と考える。保育者の言葉がけ、ホンモノの体験ができる環境設定を保育に取り入れていく。
・非認知能力が育まれる環境構成。スタッフの関わり。
・障害特性で決めつけない。

1	計画・ねらい	丁寧な保育の実践 人権：大人も子どもも一人の人として尊重され、居場所がある。
	実践予定内容	子ども扱いするような保育ではなく、思いやりを持った丁寧なかかわりをする。 人権について学びを深める。

		障害の有無にかかわらずその特性を見極め、決めつけず、最善の利益を追求する。 子どもに対してきちんとした日本語で話をする。きれいな言葉づかいで話すとともに、職員の丁寧な所作も気を配り生活する。
2	計画・ねらい	保育所保育指針の理解を深め実践していく
	実践予定内容	保育所保育指針の理解と実践を行う。 その中で5領域を意識したねらいと子育て内容の充実を図る。
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育の実践と充実を図る
	実践予定内容	子ども発達支援センターつむぎ東大和との併設園である強みを最大限に活かし、混ざり、認め合い、大人も子どもも環境も、“分けず”に全てが混ざり合った活動・環境を整える。 子どもがやりたい遊び、経験を自分で考え、自分で決め、自分で行動できるよう援助し見守る。
4	計画・ねらい	職員は常に温かくポジティブな子育てを目指し、共感力を身につける。
	実践予定内容	子どもに対しポジティブな態度を示す。（きちんと向き合う。否定的な態度をとらない） 子どもの成長発達を正しくとらえ、常に発達に応じた子育て環境を提供し、子どもの思いや気持ちに寄り添い、共感することができる保育を徹底する。 子どもの発声、発音にその都度応答し、子どもが発するサインに丁寧に答えていく。 目先の出来栄えや結果を追うのではなく、その過程を大切にする。 子ども自身のほほえみや、笑顔を引き出す関わりを意識する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	最高の子育てパートナーとなる。子育てが楽しいと感じられるような子どもを中心に置いた保護者支援を目指す。 保育園の様子が分かるような発信力をプロの目線で展開していく。相手の立場にたったかかわり。保護者と一緒に成長していける子育てのパートナーになる。
	実践予定内容	子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられるような支援や情報提供をしていく。 保護者の方に、元気や希望がわいてくるような最高のお迎え対応を目指す。 相手の立場に立った対応力をつけるための研修を行う。
2	計画・ねらい	保護者同士がつながりを持てるような子育て支援をする
	実践予定内容	どろんこサポーターズとともに、保護者がいきいきと子育てに積極的にかかわれる場を増やし、かけがえのない保育園時代を楽しんでいただける環境を提供し、職員と保護者、地域で子どもを中心に置いた子育てを展開できるようにする。 保護者とともに行事を作り上げ、横のつながりも大切にした取り組みとなるよう工夫する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援事業の実施
	実践予定内容	子育て支援事業としての定期的な取り組みを行う。 同じ年代や子育て世代の横のつながりを深められるような場の提供となるようにする。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐという場を知っていただき、気軽に利用していただけるプランを立て、広く周知できるように情報発信をしていく。
	実践予定内容	ヤギの餌やり、園庭解放。 青空保育や、散歩先でチラシを配布し周知する。 自然食堂、芸術学校の実施。
3	計画・ねらい	子育て相談の充実
	実践予定内容	お子さんの発達に不安を抱えている家庭や孤立する家庭を少しでも減らせるような場として「地域に開かれた子育て支援」を実施する。 子育て相談、保育園体験、寺親屋、発達相談会、子育て講座

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育を学ぶ。
	実践予定内容	園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、法人が目指す真のインクルーシブ保育を追及する。 自園のインクルーシブ保育の実践の中でインクルーシブ保育の良さを収集し、さらに実践の場で活かせるよう研究する。 保育、療育ともにお互いの知識を学びあい、理解しあう。(個を見る力、集団を見る力) 大人のにんげん力向上のために、学びあえる集団を目指す。
2	計画・ねらい	子どもにかかわるすべての職員が丁寧な子育てを実践できるよう育成する
	実践予定内容	園長大学®･保育士大学の講座を視聴し、ディスカッションを行いながら全員が丁寧な保育を実践できるようにする。 一人一人に寄り添う丁寧な保育とは何か自身で常に振り返り、園内研修等で学びあい、子どもの最善の利益を追求する。
3	計画・ねらい	子どもの人権を学ぶ。虐待防止について学び徹底した対応をする。
	実践予定内容	子どもの人権をしっかりと学び、子どもを子育て、支援することはどういうことなのか、大人の都合で子どもたちに接していないか、子どもに一人の人間として応対しているか、子どもの心を傷つけていないか、日々常にプロの保育士としての誇りと責任を感じて子育て・支援に当たる。 年に2回の法人人権チェックのほかに、年4回自己チェックする。 虐待防止については、虐待の定義を意識し、大人都合である保育を行っていないかをしっかり学び、子どもの人権を考えた行動がとれる職員集団を目指す。
4	計画・ねらい	非認知能力が育まれる環境構成を学び、ととのえる
	実践予定内容	生きる力、生活力を身につけるために自分たちが実践していくべきことは何かディスカッションし、自分自身の頭で考え、失敗を恐れず行動し実践していける力をつける。 大人も主体性をスローガンに、自立した集団を目指す。

〈5〉環境実施目標

運営本部Mission2025のメインテーマ原点回帰を基に毎日の時間を大切にしながら人格形成を質高く確実に丁寧におこなう。

1	計画・ねらい	基本活動の深い理解
	実践予定内容	土、歌、危険な物との距離の取り方、遊び、生活力、話し合い、労働の為に必要な環境とは何かを考える。
2	計画・ねらい	畑仕事、生き物の世話、堆肥作りを確実に丁寧に行う
	実践予定内容	畑仕事、加工食品、命の循環、お金の価値や流れに触れる機会を確実に行っていくために、私たち職員は人的環境や物的環境とは何かを学び、整える。
3	計画・ねらい	食の循環についての意識を高める
	実践予定内容	法人が大切にしている日課について考えた時、なぜ子どもとともに畑仕事をし、ヤギや鶏の小屋掃除・糞の始末をするのか。そこに付随する人的環境、物的環境について考えられる意識を身につけ語れる職員となる。

〈6〉真のインクルーシブ保育を実践する施設づくり

1	計画・ねらい	児の発達に合わせた個々への配慮と支援を行っていく
	実践予定内容	発達の早い児も、緩やかな児も、その児の豊かな生活を願ってその先につながる支援を行っていくことを意識できる職員集団となる。 分けない、大人が壁にならない、子ども同士のやり取りを通して情動のコントロールや判断力を身につける。それはすべての子どもに対して平等にある権利であると考える。
2	計画・ねらい	要支援児、つむぎ利用児、保育園児等、形態にとらわれず、子ども同士のつながりを大切にする園づくりをする
	実践予定内容	子ども発達支援センターと保育園が壁で仕切られていない環境を活かし、互いの子どもを分け隔てなく、全職員が子育て、支援にあたる。 またその関わりについて共有を密に行い、一人ひとりの把握ができ、一緒に丁寧な対応ができる施設を目指す。 そのために真のインクルーシブ保育とは何か、混ざり合うとはどのようなことなのか、インクルーシブ保育についての園内研修を行い追求し、職員の意識をさらに高める。
3	計画・ねらい	インクルーシブの良さを職員が自らの口で語れる集団を目指す
	実践予定内容	見学者や施設の取材等、外部からの質問や保護者への発信を実践の中での取り組みやインクルーシブ保育であることでの良さなど心から感じたことを一人ひとりが言語化し、子育てを語れる集団になる。 職員同士で取り組みの中で感じた喜びを話し、共有し合いながらさらにインクルーシブ保育を深めていけるように取り組んでいく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
0人	16人	16人	16人	16人	16人	80人

〈２〉開所時間

７時００分～20時00分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	１５人	看護師	1人	栄養士	3人	バス運転手	0人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	1人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	1人						

３.運営方針

〈１〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	当月の行動計画の成果発表／園内研修／次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・インシデント分析
ケース会議	月１回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見直し
幼児会議	週１回	幼児クラスについての情報共有

乳児会議	週１回	乳児クラスについての情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	献立内容の改善・提案／給食提供マニュアル及び運用ルールの作成・見直し／食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策ガイドラインの作成、改善／保健計画策定
主任会議	月1回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有／マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施する。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う。
食品衛生責任者	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。
畑係	畑の管理をする。
生き物係	生き物に関すること全般。

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭り実施に関わる取りまとめをする
運動会係	運動会実施に関わる取りまとめをする
生活発表会係	生活発表会に関わる取りまとめをする

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・安心して過ごすことができる環境を整える ・どんなことも気持ちを受け止め共感する ・笑顔や笑いを引き出す保育を展開する ・様々な行動や欲求に適切に応え、身近な大人との情緒的な絆を形成する ・活発な探索活動を楽しみながら、様々な感覚が育つ ・身近な大人や、少し大きい子どもとの日常の中で、身近にいる子どもを見て学び、感情を十分に表現し、大人に見守られながら健やかにのびのびと育つ ・生活の中の様々な遊びや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通し、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ
	下半期 0～1歳児	・自我形成の時期で、他者を認め始める時期に当たるので、異年齢での活動、たくさんの大人や異年齢児との関わりを十分に取り入れ活動する時間を増やしていく ・とにかく気持ちを受け止め、保育者がそばにいることを実践する ・保育者も一緒に遊び、遊びのバリエーションや展開のヒントを率先してみせることで生活の中の様々な遊びや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通し、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ
幼児保育	上半期 3～5歳児	・様々な経験や遊びを通して道具の使い方や工夫などができ、生活を豊かにできるような生活力を身につける ・毎日の生活やあそびの中で、基本的生活習慣や運動が心地よい感覚

		として身につく ・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ ・遊びたいものを自分で選択し、道具や玩具をいつでも手に取って使える環境の中で思いきり遊ぶ ・園児同士の関わり合いの中で人間関係、コミュニケーション能力を身につける ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動する ・遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みをしっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ
	下半期 2～5歳児	・様々な経験や遊びを通して道具の使い方や工夫などができ、生活を豊かにできるような生活力や身につけたことが定着する ・5歳児の午睡が終了し、2歳児が幼児クラスに合流するので、手伝いや当番活動の充実を図る ・10の姿を卒園する時期の子どもの育ちに照らし合わせながら成長を見守る ・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動する ・遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ ・失敗してももう一度挑戦してみようとする気持ちが育つような配慮をする ・就学に希望を持ち卒園できるようにする。また在園児は5歳児の姿を見て進級に見通しを持てるようにする
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈5〉年間行事計画

・２０２４年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈6〉給食・食育運営方針

- 給食運営会議・食育会議を通じ、子どもが楽しく食事ができる環境を設定していく。
- 日常の生活に密着した食育を深く考察し、実践する。
- 分かち合う事の素晴らしさや、大切さを感じられるよう工夫する。
- 食品の加工や命をいただく経験から食の循環を知る。

1	計画・ねらい	友だちや身近なおとなと親しみを持って、好きな場所で、好きな人と、自分の食べられる量を、楽しい時間空間の中で食べる
	実践予定内容	バイキング方式を実施。大人が決めすぎない設定の中で食事ができる環境づくりをする。楽しく食事ができ、食べることを楽しめるような工夫をする。
2	計画・ねらい	食の循環を知る。命の大切さを学ぶ。
	実践予定内容	コンポストづくりを行い、土にかえったものを使って畑活動をする。 命をいただく経験ができる取り組みを行う。 梅干しづくり、ケチャップづくり、味噌づくりなど、食べ物を加工したり発酵させたりしていろいろな食べ物の循環を知ることができるようにする。
3	計画・ねらい	食べ物の種を採取し、種から栽培し収穫する。
	実践予定内容	苗を植えるのではなく、できるだけ種を収穫し、発芽させる体験ができるようにする。 発芽したものを適切に植えて、野菜や果物の成長を見ることで、収穫する喜びを感じるとともに、食べ物の種に興味を持ち研究しようとする意欲を高めていく。

〈7〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（7月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・うがい歯磨き指導・鼻のかみ方指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施

	5～7月頃･･･ヒトメタニューモウイルス、ＲＳウイルス、アデノウイルス、手足口病 I2月頃･･･インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	I名予定
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２３名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	ＡＥＤ未設置
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。子どもたちおよび、スタッフがこまめに手洗いうがいをするよう徹底する。消毒・換気を徹底する。

〈8〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･I0･I月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･I2月の25日
	避難消火訓練	毎月I回／I5日
	不審者侵入訓練	年2回／6･I2月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･II月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･I0･I月の25日
	フロン点検（定期I回/3年）	業者による対象物の定期点検
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･I0･I月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月I0日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月I回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･I0月
	身長体重測定	毎月I回／20日

	児童健康診断	内科健診　年2回／実施月未定 歯科健診　年I回／実施月未定
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･I0月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月I回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年I回

〈9〉環境整備

子どもたち自身の生活やあそびは、乳幼児の成長発達を的確にとらえ、その都度発達に即した環境や遊びを展開できるように整えていく。遊具は継続的に点検・整備改善を行い、ゾーンの確立と展開のために、園庭、園内環境をしっかりと整備設置していく。また生活力向上に必要な道具や環境を都度見直し整えていく

I	計画・ねらい	子どもたち自身が主体的に選べるように環境設定をする。 生活力を上げるために必要な道具の補充や、検討をする。
	実践予定内容	環境設定を園会議時に話し合い、実践共有しまた実践していけるようにする。子どもたち自身が主体的に選べるような環境設定とは何か、発達に応じた玩具の配置は何が必要か、生活力を上げるために必要な環境や道具は取り揃えてあるか、を話し合いながら、今、必要で、最適な環境を整えていく。
2	計画・ねらい	園長大学®･保育士大学による環境構成についての講座を受講する。
	実践予定内容	受講した内容を園内研修の場で学びあい、人的環境・物的環境について今最善の環境を検討する。

〈I0〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

未定

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	実践予定内容	防災…危機管理マニュアル№.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアル№.3の災害対策（P．I2～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№.3のけが事故防止策・安全点検と保

		全（Ｐ．１４～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策（Ｐ．２０～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアル№３の光化学スモッグ対策（Ｐ．２１～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。
5	実践予定内容	防災…危機管理マニュアル№３の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアル№３の災害対策（Ｐ．１２～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
6	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№３のけが事故防止策・安全点検と保全（Ｐ．１４～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
7	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策（Ｐ．２０～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。中高生の体験学習の受入、保育養成校の学生の実習受け入れ、次世代の子育て保育に携わる人材育成ととらえ、丁寧に受け入れ、指導する。

1	実践予定内容	保育が楽しいと思える保育実習の場を提供する。
2	実践予定内容	自分が思い描く保育士像に希望が持てる体験を実践する。 職員が思いやりとプロとしての意識をきちんと見せられるようにする。
3	実践予定内容	実習を終えて、より具体的に保育士として働くイメージをもって、どろんこ会で働きたいと思える実習生を増やす。

７.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
４月２４日（木）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議 ③子ども共有 ④危機管理、災害時の対応 ⑤小学校教育要領の学び	・保育所保育指針の5領域の理解を深める ・子どもの理解を深める ・危機管理意識について、災害時の対応、ロールプレイ ・アプローチカリキュラムを学び、子育て、支援への取り入れ方を具体的に考える
５月２９日（木）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アレルギー対応、与薬について ③１０の姿	・アレルギーについての基礎知識や、対応方法について学ぶ。与薬方法について確認をする。 ・保育所保育指針の１０の姿の理解を深める。
６月２６日（木）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議 ③子ども共有 ④水の事故防止 ⑤物的環境の見直し	・保育所保育指針の5領域の理解を深める ・子どもの理解を深める ・水の事故事例検証と事故防止について学ぶ ・物的環境設定の見直し・検討・改善 ・ハザードマップ見直し
７月２４日（木）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議 ③子ども共有 ④人権	・保育所保育指針の5領域の理解を深める ・子どもの理解を深める ・子どもの人権の保障 ・人権チェックを行い、虐待防止について考える
８月２１日（木）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議 ③子ども共有 ④散歩ロールプレイ ⑤命をいただく活動の研修	・保育所保育指針の5領域の理解を深める ・子どもの理解を深める ・子どもの人権の保障 ・見失い無し、目視無しの怪我を防ぐ ・散歩のロールプレイ実施 ・命をいただく活動の研修をスタッフに動機づけをして秋の開催を目指す
９月２５日（木）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議	・保育所保育指針の5領域の理解を深める

		③子ども共有 ④保護者支援 ⑤上期振り返り ⑥就学について	・子どもの理解を深める ・保護者が感動をするような支援･関わり､保護者支援について学ぶ ・半年の保育の振り返り ・就学の流れ、特別支援教室、特別支援学級、特別支援学校の違い等
10月30日(木)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議 ③子ども共有 ④人権 ⑤環境設定	・保育所保育指針の5領域の理解を深める ・子どもの理解を深める ・人権チェックを行い、虐待防止について考える ・物的環境設定の見直し･検討･改善。子どもが経験を選択できる環境構成を行う ・ハザードマップ見直し
11月27日(木)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議 ③子ども共有 ④全体研修	・保育所保育指針の5領域の理解を深める ・子どもの理解を深める ・全社員への研修動画を視聴し､感想や意見を交換する
12月18日(木)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議 ③子ども共有 ④性教育 ⑤保育要録と就学支援シートを作成する意味と作成方法について	・保育所保育指針の5領域の理解を深める。 ・子どもの理解を深める ・法人の性教育を理解する
1月29日(木)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自園質上げ会議 ③子ども共有 ④今年度振り返り(支援内容や事業計画の取り組みなど) ⑤次年度支援方針・支援目標決め	・保育所保育指針の5領域の理解を深める ・子どもの理解を深める 今年度の振り返りと､次年度の支援方針や支援目標を設定する ・事業報告と次年度事業計画の内容について､意見を出し合う
2月26日(木)	18:00~20:00	策定会議1回目	･次年度準備
3月26日(木)	18:00~20:00	策定会議2回目	･次年度準備

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に新しくできる発達支援センターとの併設保育園としてまず保育園の存在を知ってもらうとともに、子育て支援センターなど地域の方に開放し、行っている行事など多くの方々に利用していただけるように計画し実践する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：東大和南公園
商店街ツアー	週1回　　地域のお店に行き、仕事やお金の流れを知る。

世代間交流	地域の方との交流を行う。
異年齢交流	隣接する東大和市立第八小学校との交流を実施し、小学校を知る機会を設ける。
地域拠点活動	園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との共同によるどろんこ祭りの開催を行う。 ちきんえっぐにて園庭開放や給食体験など地域の方に利用していただくイベントを実施する。 また、地域にお住いの保護者とそのお子さんを対象に子育て相談の対応や子育てサークルの支援を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

東大和どろんこ保育園に隣接する東大和市立第八小学校と連携を図りながら、小学校へのスムーズな移行ができるようなアプローチカリキュラムを作成する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	第八小学校	1名	幼保小連携会議	協議会
6月	近隣小学校	3名	職員間交流研修(授業参観)	見学・
8月	近隣小学校	５名	職員間交流研修(園内見学)	見学・協議会
10月	第八小学校	5名	運動会見学	見学
9月頃	第八小学校	1名	幼保小連携会議	協議会
2月	第八小学校	16名	給食交流会	参加・交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的・継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する

〈2〉毎月のケース会議開催

４～３月に計１２回開催予定　参加者：毎月２０名予定

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

併設園としての特性を生かし、職員間での共有や小学校との連携をしっかりと行い、情報共有していく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
開放	（月）～（土）9:30～16:30
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：東大和南公園にて開催

１２.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年１１月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１２時００分
自己評価実施予定者：施設長、主任、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	保育所保育指針10の姿の読み解き、プロジェクト型の保育展開、インクルーシブ保育のさらなる定着化
	振り返り	園内研修で1年かけ10の姿を学び、保育の中でどのように展開していけばよいのか、着眼点はどこなのかなど学び保育の場で意識することができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	「丁寧な保育・支援が確立され、全員が主体的にインクルーシブ保育へチャレンジしていく。」
	重点施策	・生活に欠かせないものを自分でできるようにする→そのためのスタッフの教育力。保育者の言葉がけ、ホンモノの体験ができる環境設定を保育に取り入れていく。 ・非認知能力が育まれる環境構成。スタッフの関わり。 ・障害特性で決めつけない。 〇丁寧な保育の実践 子どもの人権を尊重した保育支援が確立される。 大人も子どもも一人の人として尊重され、居場所がある。 環境：子どものどのような力を育てたいかの願い、ねらいがある環境設定。 日課：日課を通して生活力が育まれる保育とそれに必要な環境設定。 教育：１０の姿、アプローチカリキュラムの理解を深め、実践していく。 保護者支援：保育園の様子が分かるような発信力をプロの目線で展開していく。相手の立場にたったかかわり。保護者と一緒に成長していける。子育てのパートナーになる。 〇インクルーシブ保育の確立 混ざる(認め合う)：大人も子どもも環境も。“分けず”に全てが混ざり合った活動・環境。子どもがやりたい遊び、経験を自分で考え、自分で決め、自分で行動する。子ども同士のやり取りができる関わり 学び：保育、支援ともにお互いの知識を学びあい、理解しあう。(個を見る力、集団を見る力)。大人のにんげん力向上のために、学びあえる集団。 〇発信し続ける施設 引き続きどろんこ会のインクルーシブ保育を社内、地域、関係機関等へ

		発信をしていく。特に地域の拠点となるべく、発信し続ける。 ブログ、創園、SNS、社内会議、勉強会…これらの中心となり地域で実施できる環境を整える。 〇職員育成 インクルーシブ保育を実践するリーダー層の育成。新人への教育を丁寧に行う。どろんこ会のインクルーシブ保育を語れるスタッフの育成。スタッフを育成できる人材の育成。 〇子育て支援センターちきんえっぐは地域コミュニティの拠点になる。
2026年度	目指す姿	インクルーシブ保育が根付き、選ばれる施設になる。地域、社内、など外部への発信を広げ、インクルーシブ保育のモデル園として認知される
	重点施策	・混ざり、認め合う環境と関係の構築 ・保育園もつむぎも定員を満たしている。 ・どろんこ会の運営方針に沿った保育が実践され、西多摩地区研修の拠点施設になる。
2027年度	目指す姿	日本のインクルーシブ保育のモデル園として確立する。
	重点施策	主体的に考え、学び、動く＝自律したプロの集団

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：東大和どろんこ保育園 施設長　宮澤 叙栄

２０２５年度　見附どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

開園2年目となる見附どろんこ保育園は、地域の社会資源としての役割を果たすべく子育ての質の向上に向けて2025年度も邁進する。

目指したいのは、いつだれが訪れても「活き活きした子どもの姿・スタッフの笑顔・整理整頓された環境」があり「素敵な園」と感じてもらえる園である。これらは一朝一夕に作られるものではなく日々の保育業務の中で培われていくものであると考える。

地方の人口減少に加え、少子化に歯止めがきかない現状は見附市においても深刻な地域課題となっている。質の高い教育施設、保育施設が存在する自治体には子育て中の保護者の関心が寄せられ、それは自治体への評価にも繋がると考える。その一端を担う存在として「子育てから世界が変わる」という法人の方針と繋がり、私たち現場が「子育てから地域が変わる」を目指して行動することである。

「社会全体で子どもを育む」という子育て支援の姿勢を地域の中でリードする存在として、積極的に散歩や商店街ツアーなどで地域と交わり、ネットワークの構築に努める。

さらに、子ども家庭庁の「はじめの100カ月は生涯の幸せを育てる。」とあるように、一人の子どもが成長する過程の中で、初めて出会う保育施設の環境はその後の人生を左右すると言っても過言ではない。私たちの日々の保育が保育の質そのものであり、見附どろんこ保育園の広大な園庭とその先に広がる田園風景、47.5㎞の縁側など恵まれた環境を最大限に活かし、保育者として子どもたちの脳裏にどんな心の原風景を作っていくかを全スタッフでイメージしながら進んで行く。

乳幼児期にどんな環境に置かれ、どんな環境で育つかにより人生が方向づけられるならば、私たち保育者の役割は重大であり、さらなる強固なチームとなり何よりも子育ての質の向上を目指さなければならない。

子どもたちの一日一日が充実し、活き活きとした姿となるよう具体的な保育の方法を「運営本部Mission2025」に従い以下、この事業計画に記載する。

見附どろんこ保育園　【園目標】 ※2025,2,20策定会議にてスタッフで決めた目標
【いきいきと遊びながら、やりたい事をやってみよう】

スタッフ共有キャッチフレーズ
「融合と調和　そして挑戦へ」
その先にある姿
活き活きした子ども・スタッフの笑顔・整理整頓された環境＝素敵な園

〈1〉保育内容の充実・質の向上

子どもたちの脳裏に残したい心の原風景のイメージを共有し、子どもたちに真に必要な体験として基本活動への理解を深め、スタッフが協働し、日々の保育の充実のために「環境で育てる保育」の実践を共通の軸に進む。

1	計画・ねらい	・原点回帰の意味を理解する研修の継続。 ・どろんこ会が目指す保育の根拠となる保育所保育指針とリンクさせて理解を深める。
	実践予定内容	・育みたい資質、能力を目指した保育とは何かを保育所保育指針の五領域

		から、どろんこ会が目指す日課、基本活動をリンクさせる園内研修。 ・日々の保育が保育の質であり、日々の保育を大切にする意識の啓発。 ・保育計画の在り方、書き方研修、添削による個別の振返り面談実施。 ・毎朝の朝礼での各年齢の計画の共有時に、安全や保育内容への指導を繰り返し、実践にリンクさせて子育ての質を担保する。
2	計画・ねらい	・スタッフの融合がもたらすインクルーシブ保育への効果検証。 ・子どもの成長の姿を捉え、視点の共有からスタッフのイメージと業務を融合させる。 ・子どもの成長を実感し、子ども感の共有を図る。 ・当たり前に協同する体制をさらに細部まですり合わせ、一人ひとりの子どもの育ちに合わせた援助を行う。
	実践予定内容	・子どもの姿の多角的視点の共有会議　毎日15分間実施。 （園スタッフと児童発達支援事業所スタッフによる共有の場の創出。） ・子どもへの援助場面における課題の抽出と具体的な指導。 ・業務内容をオープンにし、互いの理解を深める共有会実施。 ・療育から、保育所保育指針の養護と教育へと変革する保育への知識と意識を高める研修実施。（全3回）
3	計画・ねらい	・環境で育てる保育実践。 ・子どもの成長を促す関り方についての見直し。 ・心情、意欲、態度へと成長する過程を理解し、丁寧な関りの中で生活を体得していく、保育者の関りと環境を整える。 ・手を出し過ぎない保育、子どもの力を引き出す保育の実践。
	実践予定内容	・子どもが遊びを選べる環境は、子どもの興味や関心により、適宜変えていく必要がある事、主体は子どもであることの共通認識を高める。 ・援助の意義を理解し、子どもとのかかわりを見直し、実践を振り返るディスカッション研修を実施。 ・子どもたちの生活の体得にあたっては、無理なく子どもたちが自分で出来るようになった事へ、意欲を持って取り組める環境づくり。
4	計画・ねらい	・基本活動の意義の理解を深め、さらに見直し、改善する。 ・基本活動の内容のレベルを高める。
	実施予定計画	・保育者間の基本活動における保育技術やレベルを高める。 ・わらべうた、伝承遊び、自然物遊びなど基本活動となる保育実践研修。 ・子どもの動線、保育者の動線への意識を高め、季節や天候により、臨機応変に対応できる体制の確立のため、リーダー会議を適宜開催。
5	計画・ねらい	・内部監査を活用した保育の質を担保し、指摘数ゼロを目指す。 ・保育の標準化についてスタッフが理解し、保育の質を担保するために、内部監査項目を活用した仕組み作り。
	実践予定内容	・内部監査項目の担当を分担し、スタッフ全員が業務に責任を持つ仕組みを作る。（エキスパートの育成） ・分担された業務について理解し、各々が園全体のレベルアップに貢献する仕組みを作る。
6	計画・ねらい	・子どもが主体的に考えて行動できる環境を整備する。 ・流れるようなスムーズな生活スタイルを理想とし、子どもの動線、保育者の動線への意識を高める。

	実施予定内容	・保育所保育指針解説「保育環境の構成」についての解説研修実施。 ・子どもが考えて主体的に動く環境における、保育者の援助について確認する。（保育者の大きな声や多くの言葉かけを必要としない保育の意義） ・子ども自身が持っている力を引き出し、生活を体得していく過程を見守るイメージの共有。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

子どもの育ちの支援と親の子育ての支援を別の視点でとらえ、乳幼児時期の保護者は悩みを抱えやすいことに配慮し、保護者自身が子育てを自分の人生にプラスに捉えて位置付けてゆく、その過程に寄り添う保護者支援。

1	計画・ねらい	・積極的な個別の子育て面談の実施。 ・悩みが多い乳幼児期の保護者と子どもの成長の姿を共有する、積極的な面談の実施。（各家庭　1回/年　以上）
	実践予定内容	・保護者が子育てへの意欲を高め、自分自身の成長へと繋げるポジティブな思考を持てるように支援する。 ・こども家庭庁が示す保護者がウェルビーイング（幸せな状態）を作り出すための視点をスタッフ間で共有し面談技術向上をめざす。 ・「はじめの100カ月ビジョン」の共有研修実施。
2	計画・ねらい	・子どもの成長に感動があふれる行事の開催。 ・運動会、生活発表会など保護者参加行事は、保護者が子どもの成長の姿に感動し、子育てへの力となるような機会とする。
	実践予定内容	・子どもの成長は何より、親の子育てへの意欲となりうる姿であり、行事の在り方について、真に必要なものは何かを追求しながら実施する。 ・保護者とスタッフが同じ気持ちで、感動を味わい、参加者が一体感を持てるような感動の行事にする。 ・日ごろの保育活動の延長線上に行事がある事を再確認する。
3	計画・ねらい	・タイムライン、連絡帳、アルバムなど発信強化。 ・日々の直接支援業務への機会を意識し、支援の技術を高める。
	実践予定内容	・タイムラインをスタッフ一人が毎日、一つ以上を投稿する。 ・連絡帳記入のレベルアップ研修。 ・写真撮影技術の向上研修と、アルバムアップ率の向上。 ・日常の何気ない子どもの姿を捉えて、伝える技術の向上。 ・成長を伝える取組み＝子育て支援であることへの意識向上。 ・タイムライン、アルバムの担当リーダーを中心として、啓発を継続。
4	計画・ねらい	・NPSの向上　安心して預けられる園。 ・どろんこサポーターによる保護者交流の促進を支援。
	実践予定内容	・4月から「どろんこ祭り」に向けたサポーターを募集開始。 ・保護者間交流の機会の創出。 ・どろんこ祭りを保護者主体で企画・運営し、保護者同士、保護者と保育者、保護者と地域の方とのかかわりの機会として活動の幅を広げる。
5	計画・ねらい	・就学に向けた保護者支援。 ・年長児保護者と7月までに、希望者全員と個別面談を実施する。 ・子どもの成長を喜びに、プラスに捉える子育て感の共有。

	実践予定内容	・園で行う就学前教育の内容の共有。（保護者会配布資料を基に実施） ・就学に向け保護者の不安軽減と子育てへの見通しを持てるような支援。 ・小学校教育と幼児教育の違いについて理解を深め、不安解消に努める。 ・就学前教育の内容を日々のタイムラインやお迎え対応でお伝えする。 ・保護者同士の繋がり強化を図り、不安を期待へ。
6	計画・ねらい	・送迎時の保育者の明るい笑顔と元気なあいさつ ・保護者様をお迎えするときの保育者の表情は重要であり、保育者の笑顔が子育て支援。
	実践予定内容	・自然な明るい笑顔はその園の雰囲気を作っていくため、常に保育のプロとして心がけたい姿勢であることを共有する。 ・自然な笑顔は一朝一夕に作られるものではなく、日頃の協同が大事であることを再認識する。

〈3〉地域の子育て支援事業

子育て支援センター「ちきんえっぐ」が子育て拠点となり、見附市内の関係機関と連携した利用の拡大と併設している児童発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」との共同、園の環境など「ちきんえっぐ」の強みを活かし、子どもの育ちを真に必要な親子体験を通して、子育て支援の基盤を作ってゆく。

1	計画・ねらい	・「出前保育」で関係機関との連携による利用拡大。 （ふぁみりあ・北谷公民館・パティオにいがた等） ・自治体の関係機関と連携して、広報範囲を拡大し利用促進を図る。
	実践予定内容	・出前保育参加利用者を年間100名を目指す。 ・市内にある見附市運営の3カ所の子育て支援センターとは、異なる家庭的な子育て支援センターとして、利用者の選択肢が広がるようにQRコード付きチラシの掲示場所を拡大。（小児科、レストラン、スーパーなど）
2	計画・ねらい	・出前保育における勝手籠（子ども服フリーマーケット）の有効活用。 ・勝手籠は子育て親子が繋がり交流するきっかけとなるため、出前保育に勝手籠を持参し広める。
	実践予定内容	・子育て中の親子の交流は何気ないきっかけが重要であり、そのきっかけ作りの有効な手段として、出前保育では毎回、出張勝手籠を実施する。 ・大人サイズなど勝手籠のバリエーションを広げる工夫をする。
3	計画・ねらい	・「ちきんえっぐ」利用者数の増大。（10名/週） ・利用者のニーズや興味に合ったイベント内容の充実（定期開催の寺親屋、自然食堂、自然学校、芸術学校、ママカフェ等） ・母子健診に繋がる保健師との連携事業実施。 ・広い園庭環境を活かした親子交流、地域交流の促進。 ・自然に触れ、積極的に戸外に出ることの大切さを発信する。
	実践予定内容	・人気の高いクラフト教室など、イベント内容の充実を図る。 ・保護者向け「命の教育」プログラム実施。（保健師連携等） ・生き物（山羊）との触れ合い、畑づくり、米づくりなど自園の特徴を活かし、広い園庭を活用した子育て親子との交流を図る。 ・自然学校などで、子どもの育ちに必要な要素が自然に触れる戸外遊びにあることを保護者に伝える子育て支援を積極的に行う。

4	計画・ねらい	・気軽で、身近な相談が出来る場となる。 ・何気ない会話による子育ての悩みを子育て負担の軽減につなげる技術の向上。
	実践予定内容	・子育ての悩みを抱え込まずに、気軽に発信できる場として周知されるように、利用の際の会話を大切にした支援の実践。 ・どんな小さな事でも相談できる身近な施設となり、頼られる場となるようスタッフの相談援助技術の向上を図る。
5	計画・ねらい	・子どもの発達への不安や悩みを抱える方の相談場所として広報する。 ・保護者が発達への理解を深める場となる。
	実践予定内容	・関係機関を対象に見学・相談会を企画し、選択肢として児童発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」があることを関係機関から保護者へ広報されるような機会を作る。 ・インクルーシブ保育を広く発信し、障害への理解を地域に発信する場として、子育て支援センターと児童発達支援事業所が協同する。 ・子どもの発達について、悩みを抱える保護者が集う場づくりを模索する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

「子どもたちが選んで遊べる環境作り」「インクルーシブ保育の実現」という目的を明確にして、次世代を担うスタッフが深く、その意味と意義を理解し全スタッフでチームとなり進む。

1	計画・ねらい	・インクルーシブ保育を目指して融合するスタッフ。 ・子どもの持っている能力を引き出す、援助の視点への深い理解。
	実践予定内容	・これまで意識してきた園と児童発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」との併用児への対応について、さらなる融合へと進化する。 ・スタッフが迷わずに対応できる具体的場面での対応共有。 （対応困難場面の連携、お迎え対応、怪我発生時の対応等） ・自分のエリアは、責任を持って自分が守る姿勢の育成。 ・子ども同士の関りの中で育つ子どもの姿の共有。
2	計画・ねらい	・組織づくりへの取組み、2年目の課題解決。 ・批判的思考力の育成。
	実践予定内容	・組織づくりの基本事項の再確認。 ・責任の分散防止のための仕組み化。 ・負担感の多い業務の洗い出しと改善。 ・課題に対して、スピーディーな解決姿勢で取り組む体制。
3	計画・ねらい	・３M（ムリ・ムダ・ムラ）の洗い出しによる業務の精査。 ・自分の園は自分たちで改善していく思考を育む。
	実践予定内容	・保育指導計画等の帳簿記入における質を担保した業務の軽減。 ・子どもにとって意味ある行事の在り方。 ・業務の切り替えと隙間時間の使い方のスタッフ間の意識を統一。 ・業務負担が大きいと思われる業務の洗い出しと改善。 ・保育者の心のゆとりと時間のゆとりを生み出す連携体制。 （スタッフの時間軸から空間軸への思考を育む。）
4	計画・ねらい	・子どもがやりたい遊びを選べる環境作り。 ・子ども主体の遊びの理解と保育者の遊びを発展させる保育技術育成。

	実践予定内容	・子どもの表情を読み取り、援助する保育技術育成。 ・保育者に必要な、子どもの興味関心をキャッチする力の育成。 ・大人の考えだけでなく、子どもの興味関心を捉えて適宜、変えていく保育環境の必要性を実践と子どもの姿から学ぶ。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	・給食残渣の減と有効活用と堆肥づくり。 ・適切な給食食材量の把握で残渣を減らし、残渣は有効に活用する。
	実践予定内容	・給食の残渣を常時把握し、残渣を減らす取り組みと同時に残渣を有効活用した堆肥づくりに取り組む。 ・山羊の糞、園庭の枯葉など堆肥となるものを集めて園庭の一角に堆肥場を作り、日課としての堆肥づくりを実施する。 ・野菜くずや野菜収穫時の間引き野菜等を山羊に与えるなど、無駄なく活用する。 ・ゴミサーの活用。
2	計画・ねらい	・本物の食の循環を知る活動。 ・畑づくり、稲づくりは土壌づくりから苗の栽培、収穫まで本物の食の循環を通して、協同性、社会性、規範意識の芽生えへと導く。
	実践予定内容	・日課としての畑活動等を通して、本物の食の循環を知る。 ・畑の作物は一朝一夕にできるのもではなく、毎日、手間暇かける必要があることを体験から学べるように全スタッフ、全園児で取り組む。 ・自分の意志で動くことができるようになった０歳児から参加することで、卒園までの育ちの中に自然に協同性、社会性、規範意識が育つよう、日課活動の目的をスタッフが明確に持ち、保育を実施する。
3	計画・ねらい	・様々な食品の加工体験。 ・食品を加工する意義を知り、食品加工技術を体験する。
	実践予定内容	・梅干し、味噌、干し柿、干し椎茸など食品を加工して食す体験を年間通して実施する。 ・食品の多くは長期間保存することがでないことから、食品の品質保存、有効利用、安定供給を目的として、古くから生活の知恵として行われてきた食品加工技術を子どもたちとスタッフが共に試行錯誤しながら体験してゆく。
4	計画・ねらい	・樹木を保育環境に取り入れる。 ・様々な木に関心を持ち、木に触れる遊び環境を作る。 ・自然物を使った造形活動、焚き火体験
	実践予定内容	・雑木林に出かけ、四季を通して木の変化に気付き、興味を広げる。 ・薪づくり体験活動。（薪拾い、薪割り） ・年輪、木のかたさ、香りなど木々の特質について知る機会を作る。 ・身近に木がある保育環境を作る。 ・自然物の素材を五感で感じながら、気楽で大胆な造形表現活動を日常保育に取り入れる。 ・焚き火で木の性質、有効活用について知る。

〈6〉本気で取り組む田んぼ・畑・堆肥づくり活動に取り組む（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	・年間農業計画に従い確実な収穫を目指して取り組む。 ・子どもたちと共に、年間を通して農業体験を計画的に実施する。
	実践予定内容	・子どもたちと共に農家として、田んぼや畑に主体的に取り組む。 ・畝作り、堆肥の配合、草取り、間引きや脇芽摘みなど、地域の方やネット情報を得て、日々気を抜かずに収穫に向けて取組む。
2	計画・ねらい	・全スタッフが子どもたちと本気で取り組む田んぼ、畑活動。 ・子どもたちに真に必要な体験は、大人も本気で取り組む背中を見せる。
	実践予定内容	・子どもたち、スタッフにとって本気で取り組む田んぼ、畑、堆肥づくり活動への姿勢をリードする役割を担うスタッフ育成 ・四季を通して収穫物がある農業計画に従い、計画的に畑づくりを行う。 ・自分がやるべきことは何かを認識し、全スタッフが本気で取り組む背中を子どもたちに見せる。 ・子どもたちにやるべきことに自主的に向かう姿勢を育てる。
3	計画・ねらい	・米、野菜の収穫への喜びと感謝の気持ちを持つ。 ・収穫したものを無駄にしない有効活用術を模索する。
	実践予定内容	・一人ひとりが収穫して、その喜びを味わい、みんなで食して米や野菜の美味しさを味わう。 ・収穫したものを無駄にしない意識と、日々の保育活動への位置づけを保育指導計画に盛り込む。
4	計画・ねらい	・山羊に愛情を持ち、日々世話をする。 ・日課として行う生き物の世話から、堆肥作りを行う。 ・作った堆肥を使って、畑で作物を育てる。 ・命の循環を日々の活動で伝える。
	実施予定内容	・命ある山羊の世話は、日々欠かさず丁寧に行う姿勢から生き物への愛情を伝える。 ・糞を集めて堆肥場へ運ぶ作業を確実に行う。 ・堆肥のにおいや感触、見た目などを五感で感じて、良い堆肥作りに取り組む。 ・命の循環を子どもたちと絵で表現し確認する。（命の循環の視覚化）

〈7〉地域コミュニティーへの参加（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	・北谷北部地域くさなぎコミュニティーの運営会議に参加する。 ・地域に根差した園運営の第一歩を踏み出す。
	実践予定内容	・地域コミュニティーの中で役割を担う運営会議参加。 ・地域の方と一人でも多く知り合い、園を知って頂く。
2	計画・ねらい	・地域貢献、社会的役割を見つけ出す。 ・地域課題の中でも、子育てや子どもに関わるニーズ把握に努める。
	実践予定内容	・個人ではない園のとしての参加である存在感をコミュニティーにアピー

		ルする。 ・地域のニーズや期待される役割を見出し、明確に示していく。
3	計画・ねらい	・地域の伝統行事「塞の神」を地域の行事として運営。 ・地域の方の思いを形にして、子どもたちの心に残す。 ・園の田んぼを昔ながらの耕法で稲を育てるために地域の方を頼る。 ・スタッフと保護者に「見附まつり」希望者を募って民謡流し参加。
	実践予定内容	・子どもたちの心の中に残したい原風景への共感者を地域の中で増やす。 ・真に必要な子育ては地域の中で育まれる要素も大きいことに鑑み、地域の中の園の在り方の土台として、「塞の神」「田んぼ作り」「見附まつり」を軸に具体的な地域交流を実施する。

〈8〉経験別３層会議の実施（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	・経験別3層会議の実施（各年2回） ・組織の一員として機能するための理解を深める。
	実践予定内容	・マニュアルの意義、責任の明確化、権限の明確化、業務の仕組み化など、園を運営する際に必要とされる事項について確実に伝え、経験別に期待される役割について深く理解するための会議開催。 ・組織としての成長には、過程があることについて、タックマンモデルを用いて、スタッフに組織の成長の見通しを伝える。 ・理解を深め、保育の理解を浸透させるために3層に分けた会議を実施。 ①2年目まで ②3年目から10年目位 ③10年目以上 経験のみでなく、自身で自分の段階を考えて参加する選択制。
2	計画・ねらい	・子どもの主体性を育む保育環境への意識向上。 ・日頃の業務を自分自身が批判的思考力で提案改善。
	実践予定内容	・常にアップデートしていく集団を目指す。 ・丁寧な保育を実践。 ・望ましい方向へ導く保育（自由と放任の違いの深い理解）への理解。 ・当たり前に行っていることを見直し、子ども主体の保育実践。

２.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	12人	12人	14人	14人	14人	75人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	12人	看護師	２人	栄養士	２人	再雇用スタッフ	１人
パートスタッフ	保育士	２人	事務	１人	用務	２人	嘱託医	２人

３.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)※全ての会議につむぎスタッフ参加

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	子育ての質の向上をめざしたスタッフの園内研修。 運営部Missionへの深い理解のため研修。 ケース会議、給食会議、事故防止委員会等の内容共有。
給食運営会議	月1回	喫食状況、嗜好、アレルギー児等に係ることの共有、検討。
事故防止委員会	月1回	法人から発信された事故の情報や自園のヒヤリハット・インシデント・事故分析の結果から改善の検討。 発生した自園の事故は都度実施。
ケース会議	月1回 随時	要支援児のアセスメント実施、モニタリングの結果を共有。
リーダー会議	月1回 随時	業務の課題を洗い出し、改善策を検討。 保育の質の向上に向けた取組み。 業務効率化の検討。
園＆つむぎ融合会議	毎日	その日の振返りと翌日の保育計画提案の共有。 17:15から毎日実施。(１５分)
乳児クラス会議 幼児クラス会議	随時	クラス別に共有事項や課題の検討などを実施。 保育の質を向上させるための検討。 つむぎスタッフも参加必須。
年齢別3層会議 ・新卒から2年目まで ・3年目から10年まで	年各2回	それぞれの保育の経験年数を3層に分けて、それぞれの年代での思いを共有し、さらなる融合に向けてディスカッションする。

・10年以上		
ちきんえっぐ会議	月1回	子育て支援事業の利用拡大のための検討会。 子育て支援担当者に加え、施設長、他2名のスタッフが参加し、幅広い意見で検討。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人による連絡、共有事項。事故防止委員会。
施設長勉強会	月1回	施設長のマネジメント力の向上のための勉強会。
食育会議	年4回	施設長、調理担当者による食育の取り組み状況、給食に関する情報共有とレベルアップのための内容。
保健会議	年4回	施設長、看護師による保健・衛生指導関係の情報共有とレベルアップのための内容。
主任会議	年4回	主任としての役割の理解と園運営への理解。
子育ての質を上げる会議	月1回	法人による連絡、共有事項。事故防止委員会。
併設園会議	年2回	児童発達支援事業所を併設している園の現状と課題についての共有。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	看護師を中心として、子どもの健康管理・衛生管理に関わる事項全般
安全対策係	事故防止に関する事項 ヒヤリハット集計・分析 改善策の検討と周知 施設設備点検及び管理
防火管理者	園長:若杉絵里子　防火設備点検管理 消防計画作成
食品衛生責任者	栄養士:関口理絵　食品衛生管理
畑・田んぼ係	畑・田んぼに関わる管理運営
生き物係	山羊・鶏・飼育コーナー小動物に関わる管理運営
ハザードマップ係	散歩コース・園内外のハザードマップ作成（4・7・10・1月改定）
環境整備係	園舎内外の清掃、整理整頓に関わる事項の運営

保育環境係	子どもが主体的に選べる室内･園庭の環境を構成する
マニュアル向上係	保育業務全般に渡り､リーダー的な視点で園全体の運営に関わる委員 保育の質の向上･研修･内部監査項目理解などを主に担当

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ募集。どろんこ祭り企画運営。
見附祭り係	民謡流し、樽叩きへの参加計画。
運動会係	運動会開催に関わる計画運営。
生活発表会係	生活発表会に関わる計画運営。
塞の神係	地域交流の機会として、日本の伝統行事を子どもたちに伝える。

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人ひとりの発育、発達状態や健康状態を適切に判断し養護する。 ・個別の発達を踏まえて愛情豊かに応答的に関わる。応答的な関わりの中で信頼感を育て人と関わる力の基盤を培う。 ・身近な人に親しみを持って自分の感情を表すことができるようになり、受容的な関わりを通じて自分を肯定する気持ちの芽生えを大切にする。 ・異年齢保育で過ごす中で、子ども同士で育ち合う環境に配慮する。
	下半期 0～1歳児	・和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちを育てる。 ・身近な環境に興味や関心を持って関わり、感覚の働きを豊かにする環境を整える。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・発達の個人差に配慮し一人ひとりの子どもの気持ちを受け止めて援助する ・自ら環境に働きかけ思考錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守り適切な援助を行う。 ・日課、基本保育活動を主体的に行うための援助を行う。
	下半期 2～5歳児	・異なる年齢の子と生活する中で思いやりや憧れ、思うようにならないことを体験する中で様々な感情を経験し豊かな体験とする。

		・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づく活動を通して資質、能力を育む。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	・子どもたちと全スタッフが共に味わう縁側給食の実施。 ・園庭や景色を眺めながら、共に味わう縁側給食を日常の食事風景とする。
	実践予定内容	・毎日、子どもたちと全スタッフが園庭の景色を眺めながら四季を感じながら共に味わう縁側給食を実施する。 ・大人も子どもも一緒に味わい、食を楽しむ。
2	計画・ねらい	・素材の味を噛みしめて味わい、噛む力を育てる給食提供。 ・発達に配慮しながら、給食の素材の旨味を味わうことができる調理に配慮し、噛む力を育てることに配慮する。
	実践予定内容	・調理担当者と保育者の給食会議や施設長の日々の検食の機会を重視し、子どもたちの体つくりの基本である給食提供に関しては、緊密な連携を行う。 ・食材の大きさ、硬さなど子どもたちの噛む力に留意する。
3	計画・ねらい	・バイキング給食の実施で、食べることが好きになる。 ・自分で盛付・配膳をスムーズに行える食事環境を作り、好きな人と食べる給食で食への意欲を育てる。
	実践予定内容	・食べる順番、食べる量などを制限するのではなく、食べることが楽しみになるように、子どもたち一人ひとりの状態に配慮しながら、バイキング給食を実施する。 ・子どもの動線に配慮し、年齢の異なる子どもたちがスムーズに盛付や配膳が行えるように配慮する。
4	計画・ねらい	・計画的に沿って食育を推進し、豊かな食の経験を大切にする。 ・生きるために必要な食についての関心を高め、食べる意欲を育てるために必要な経験を盛り込んだ計画的な食育の実施。
	実践予定内容	・計画的に健康な体つくりに必要な食育に関する体験を実施する。

		・栄養士による食育指導を計画的に行い食への関心を高める。 （食事マナー・栄養素の話・郷土食など） ・雨天の日等　戸外活動に出られない日は、給食で使用する野菜の下処理を日課として実施する。 ※年間食育計画は別紙あり。
5	計画・ねらい	・子どもたちの目の前で大きな魚をさばいて食す体験実施。 ・マグロ等の大きな魚の命について考え、食すことへの感謝の気持ちを持つ。
	実施予定内容	・まな板からはみ出す大きさの魚を子どもたちの目の前でさばく。 ・命あるものを頂くことへの感謝の気持ちを持てるように導入から、丁寧に計画する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・10月）
歯科検診	年2回（5月・10月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導･栄養指導･歯磨き指導･肥満やせに対する助言
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃…感染性胃腸炎等流行予想 12月頃･･･インフルエンザ流行予想
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･3名より預かり済み／事務室冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在24名が、講習受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については10月31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在24名が、講習受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については10月31日までに受講予定
その他保健に関する取組	通年で新型コロナウイルス感染等に考慮し、消毒･換気の徹底 手洗い指導、うがい指導は定期的に実施、感染予防に努める 法定伝染病その他の感染症発症時はタイムライン･玄関掲示で保護者にお知らせする 流行する感染症により、アルコール消毒、塩素消毒を区別し対策を講じる ※10人以上の感染を確認した場合は法人本部、県、市に報告対応

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／5･10月 歯科健診　年2回／5･10月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	・子どもが自分で遊びを選べる室内コーナー保育環境。 ・子どもたちの興味、関心にあったコーナー遊びの玩具が十分に整えられ、子どもたちが毎日、意欲を持って遊べる環境を設定する。
	実践予定内容	・保育室の動のスペースと静のスペースを区分けし、一人ひとりの子どものやりたい遊びが実現できるコーナー環境を整える。

		・年齢や発達に合わせて選べるように、十分な玩具を揃え、子どもの興味、関心に応じて環境を変更する。
2	計画・ねらい	・探索行動が十分に行え、子どもの興味を引き出す園庭。 ・子どもたちの探索意欲を高めるために保育者が意図とねらいを持って、園庭の環境を整備する。
	実践予定内容	・園庭の広さを有効に活かして、子どもたちの探索意欲を高める環境設定においては、安全管理を基盤として、保育者が明確な意図とねらいを持って設定する。 ・子どもたちが夢中で遊び試行錯誤する環境づくり。
3	計画・ねらい	・探索意欲が高まる園庭のレイアウトを作成し、魅力ある環境づくり。 ・魅力ある園庭にするためのねらいを持ってスタッフ間で話合い、レイアウトし、子どもたちが夢中で遊べる環境にする。
	実践予定内容	・子どもたちが遊びに見通しを持ち、様々な素材に触れ試行錯誤でき、探索意欲が高まる環境整備。 ・遊びを充実させるレイアウトされた園庭の整備と維持管理。 ・冬は雪国であることを、最大限生かした雪遊びを積極的に実施する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	設置無し		
2			
3			
4			
5			

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	・非常事態発生の場合は法人のマニュアルに従い迅速な対応が出来るよう、緊急時の連絡体制などを掲示するなど対応に最善を期す。
2	実践予定内容	・毎月の避難訓練を基本に、日ごろより、火災・地震・風水害等に対する意識を高める。災害は突然に起こるものであり、日ごろよりシミュレーションを行い、避難訓練の動作を基本として、どんな状況でも最善を尽くす意識を高める。 ・風水害については、刈谷田川の側に位置する浸水地域内にあるため水害対策マニュアルに従い、移動が困難な乳幼児であることに配慮し、早めの情報キャッチと避難を心がける。近隣施設との連携、協働を図る。 ・水害防災計画を見附市に提出済み。 ・医療ケアが必要な児、ほふくしない児に対する避難体制は、毎月の避難

		訓練にて、さらし帯・抱っこ紐を使用して確実に実践する。
3	実践予定内容	・事故・怪我においては、法人ルールに従い迅速かつ的確な対応をする。 ・園内の事故防止委員会設置。 ・ヒヤリハットの収集に努め、園内で集計・分析・改善・実行のPDCAサイクルで重大事故防止に努める。 ・開園初年度は園内外のハザードのスタッフ間共有と園庭でのタスキルール、園内のリスクなど安全管理には十分な配慮をする。 ※ケガ・ケーススタディ研修　４月に実施
4	実践予定内容	・防犯、不審者に対する訓練は年２回実施する。日々の生活の中で常に意識することが重要であり、年１回、新町交番の警察官より訓練時に指導を受ける。 ・散歩時における対応や園内における対応の仕方など、会議などで意識統一をする。
5	実践予定内容	・Ｊアラートが発令された際に備え、市からの防災メール情報を頼りに、避難場所は屋内幼児室と定める。
6	実践予定内容	・個人情報漏洩や管理については万全を期し、定期的にスタッフの意識を高めるための啓発を行う。
7	実践予定内容	・広域災害によるライフライン停止、調理担当者感染症発生による給食提供停止などを想定した、外注による食事提供訓練の実施。《広域災害食訓練の実施》 ・その他、年１回、非常時の炊き出し訓練を実施する。 ・備蓄品の点検は定期的に行う。 （業務継続計画　作成）
8	実践予定内容	・新潟県柏崎市に原子力発電所があることを踏まえ、災害対策重点区域（半径３０キロ圏内）にあるため、影響を受けやすい乳幼児の安全に最大限配慮し、屋内にとどまって待機する。原子力事故の際には見附市の対応マニュアルに従い、速やかに行動する。ヨウ素剤の服用、圏外への移動などが必要となる避難勧告が出された場合は、保護者へ緊急連絡アプリで速やかな迎え要請をする。 ・原子力災害避難計画マニュアルを見附市に提出済み。
9	実践予定内容	・熊の出没が相次ぎ園外保育を見合わせる事態が発生しており、熊出没情報を常に把握して万全を期す。
10	実践予定内容	・コロナウイルス等の地域の感染状況を把握し、法人や県市町村からの指示に従い、対応しつつ、園内での感染対策には万全を期す。
11	実践予定内容	・雪害についての意識を高め、降雪量などの気象状況の情報収集に努め、こまめな除雪で安全を確保する。 ・気象状況を把握し、落雪、陥没、転落事故などの防止に努める。 ・降雪期は戸外に出る際は都度、安全確認を怠らない。 ・施設長、主任、ビブス担当者は注意喚起を怠らないように努める。
12	実践予定内容	・新採用を含む全スタッフが参加して、3月にリスクの高いマニュアル（おむつ交換、さらし帯の使い方、呼吸チェック、嘔吐処理など）、児童虐待等について、再認識するためのロールプレイを行うキックオフ会議実施。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代を担う実習生・中高生・ボランティア等の受け入れについては、地域の社会資源としての役割と共に将来、福祉の現場で活躍する人材育成の一助になることを願い積極的な受け入れを行う。各校等とも連携し、一人ひとりの学生に対する指導援助が適切に行われ、生徒にとって将来、目指したい職業に夢と希望を持ち、実りある体験の機会となるように配慮する。特に保育実習生についてはコロナ禍で学生生活を過ごし、コミュニケーションの機会が十分でないことを踏まえ、受け入れ側としては不安を取り除き、保育現場の楽しさを伝えることが最優先であると考える。さらにはスタッフも自己の振り返りの機会と捉え、次世代の人材育成についての学びを深める機会とする。

1	実践予定内容	・実習受け入れ担当窓口として担当者を置く。 ・丁寧なオリエンテーションの実施。 ・不安のない現場実習とする。
2	実践予定内容	・各校との緊密な連携体制の確立。 ・事前打ち合わせと情報交換。信頼関係の確立。
3	実践予定内容	・実習中の日々の振り返りの実施。フォロー体制づくり。 ・保育の楽しさを実習への伝える配慮。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② どろんこ会基本活動の意義＝保育所保育指針とリンクさせて理解を深める。 ③人権チェック・虐待防止研修	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②保育所保育指針の組み立ての理解から基本方針の意義を考える。 ③児童憲章から人権の再認識。
5月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 本物の体験　食の循環を通して体得するもの ③畑・田んぼ作り・堆肥作りに本気で取り組む	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②本物の食の循環を知らせる。 ③全スタッフで本気で取り組む田んぼ・畑・堆肥づくりの共有。
6月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 当たり前のインクルーシブ保育 ※園長大学・保育士大学動	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②当たり前のインクルーシブ環境のための保育者の援助の在り方

		画活用「困っている子にしないための視点と園での合理的配慮」	※動画視聴を通してディスカッション。
7月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活の体得 心の育ちと発達理解 ③思考を育くむ環境 援助の在り方	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②「自分で出来ることは自分でやる」環境。 ③思考力を育む環境とは何か、保育場面の具体的事例抽出。
8月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所保育指針５領域から「就学までに育みたい１０の姿」を目指す保育 ※園長大学・保育士大学動画活用「スムーズな小学校進学は保育者次第」	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②10の姿は目指すべき姿、日頃の保育の積み重ねの重要性の理解。 ※動画視聴を通してディスカッションと意見交換。
9月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 思考し、自己判断できる保育環境とは何か。	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②事例を交えた思考を働かせる環境から、判断力が育ち、表現となる子どもの姿の捉え方。
10月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人的環境としての保育者援助の姿勢の共有 ③人権チェック・虐待防止研修	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②人的環境としての、自分自身の援助についての振り返り。 ③人権についての振返り、気付き。
11月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 半期の振り返り 自分自身の成長とこれから	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②半期を振返って、次年度に向けて期待される役割認識。（スタッフのアウトプット）
12月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園を取り囲む社会情勢 園の社会的役割とは	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②園の社会的役割の理解と視野を広げて事業計画を全スタッフでイメージする。
1月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修を視聴して、次年度に目指すMissionの共有。	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②全体研修を視聴して、一人ひとりが確実に2026Missionを理解し、レ

			ベルアップしていくためのディスカッション。
2月20日	18:00～21:00	第1回　策定会議 ① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の方針説明	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②事業計画説明。
3月1日	9:00～18:00	第2回　策定会議 ① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の提案と計画策定【園会議】 ③子どもの人権・虐待防止研修 ④保育のリスク管理 ⑤組織つくり（マニュアルの意義とスタートに当たって再確認事項） ⑥畝研修【座学】	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②2026年度計画策定 2026年度に向けて【園会議】 ③子どもの人権（児童憲章・児童福祉法・保育所保育指針） ④保育のリスク管理 ⑤組織づくりとは何か再確認 ⑥本気で取り組む畝作り座学

※毎回、会議内で事故防止委員会、ケース会議から情報の共有を行う。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育

成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉自主研修受講促進（キャリアアップ研修、園長大学・保育士大学）

保育士の処遇改善に関わる国が推進している保育士等キャリアアップ研修の受講を推進する。受講に際しては、保育の質の向上を目指して、自己研鑽の機会とし積極的な受講を推進する。

いつでも、どこでも手軽に受講できる園長大学・保育士大学の動画研修を積極的に活用し、自分自身でアップデートしていく職場風土を作る。

〈6〉経験別3層会議

スタッフの個別の経験等により、期待される役割について認識を深め、一人ひとりが組織の一員として活躍するために新卒から、経験別に3つの層に分かれて会議を実施。組織の中で期待される役割を果たすことで、自己有用感が生まれ、仕事へのやりがいに繋がることを目的として開催する会議。常に物事を前向きに考え、自己の成長へとアップデートする集団となるため、3層のどこを選ぶかは自分自身で決める。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に根差し、地域に必要とされる園になることが社会的役割であると考える。少子化で子どもが減少し、地域の活気が薄れていく中で未来を担う子どもたちの姿が身近にあることが活気となるように、園の保育活動を地域に溶け込ませ、散歩や商店街ツアーでの子どもの姿が地域の日常の風景となることを期待する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：200名
見附まつり	希望者が地域コミュニティーの民謡流しに参加
塞の神	年1回（小正月）　集客目標100名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：南本町東児童公園にて　　集客目標：30名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・老人施設「古志乃里」様　月1回　訪問交流 ・就労支援事業所「見附ワークス」様　日常交流 ・山羊の「おもち」の魅了を感じて下さる方々との自然な交流

異年齢交流	・他園交流訪問受け入れ　遠足目的地として交流保育 ・名木野小学校　草薙太鼓見学　マラソン大会・運動会応援 ・田井小学校　みつば太鼓見学 ・葛巻小学校　アルパカ見学 ・見附南中学校　体育祭練習見学
地域拠点活動	・北谷北部くさなぎコミュニティー参加 ・自園の田んぼ　昔ながらの耕法での耕作協力者募集 ・塞の神の伝統行事実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

名木野小学校、田井小学校、葛巻小学校、見附小学校、新潟小学校の５校が就学先となることを視野に、各小学校の特色を把握し春期から職員間の連携体制を確立する。子ども間交流が可能な限り実現するように散歩コースとして、意図的に運動会の練習風景などを見学に行く。10月に実施される見附市内小中学校で行われるオープンスクールにスタッフが参加するなどして理解を深める。就学に向けては、見附市スタートカリキュラムを参照に、アプローチカリキュラムを備え、保育所保育指針に示されている「就学までに育てたい10の姿」を目指して保育を実践する。さらに幼児期に目指すべき姿と小学校からの学習指導要領が到達目標へと変わる流れによるギャップが生じないような接続期の在り方について、就学先小学校、保護者と連携する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月30日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	田井小学校	11名予定	運動会練習見学（田井小学校小校庭）	子ども間交流 職員間交流
５月頃	名木野小学校	11名予定	運動会練習見学（名木野小学校校庭）	子ども間交流 職員間交流
6月頃	葛巻小学校	11名予定	葛巻の森アルパカ見学（葛巻小学校）	子ども間交流
６月頃	見附小学校	11名予定	運動会練習見学（見附小学校校庭）	子ども間交流 職員間交流
10月頃	名木野小学校 田井小学校	11名予定	マラソン大会応援見学	子ども間交流

	葛巻小学校			
９月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校 今町小学校 見附小学校 新潟小学校	各2名予定	授業参観（各校1年生教室）	職員間交流
8月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校 今町小学校 見附小学校 新潟小学校	各５名予定	就学相談会 見附どろんこ保育園	職員間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子育ての基本は、子どもが持っている力をどう発揮させるかが保育者の役割であると考える。集団における子どもの成長の機会を重視し、大人が先回りし、手を出しすぎるのではなく、本来持っている子どもの能力が十分に発揮されるように、児童発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」と併設施設である利点を活かして個別支援計画を立案し、具体的な対応を月1回のケース会議（必要によっては都度開催）でスタッフ全員が共有し計画を見直す。保護者の意向確認、つむぎスタッフによる専門性を活かして、子どもの成長発達を多角的に捉えて共有する体制を確立する。さらにインクルーシブ保育の観点から計画との整合性があるか具体的事例に基づいて、検証していく。何よりも、子ども自身が安心した園生活が送れるように援助するという視点に立ち、アセスメントシートを用いて、モニタリングを十分に行う。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計12回開催予定　参加者：120名予定）

特別支援児のみではなく、気になる子の様子についても記録し経過を観る。発達段階の関わり方の共有を目的として施設長と担当スタッフで開催し、必要な情報は関係するスタッフに共有する。インクルーシブによる集団の中での育ちに着目し、スタッフの関り方の共有や保護者のニーズ等について、つむぎスタッフの専門的知見を入れて、建設的な意見交換の場とする。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

就学に向けては、毎年2月頃に保育児童要録を就学先小学校へ提出する。小学校への接続期の重要性に鑑み、スタートカリキュラムの確認、自園のアプローチカリキュラムによる環境の変化に適応する保育内容。保護者や関係機関、小学校との連携を重視し、情報の共有を密にする。進級に向けて、必

要なケースについてはつむぎとの連携、5月頃までには、アセスメント面談を実施。その後は定期的な保護者面談を実施し、関係機関との連携から就学へと接続する。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：500名以上
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：20名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：70名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：30名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：南本町東児童公園にて開催　集客目標：20名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

2025年９月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時00分
自己評価終了予定時刻：12時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務、各リーダー

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・組織づくりへの取り組み。 ・インクルーシブ保育の実現。 ・地域へ周知され100名を超える見学者を目指す。
	振り返り	・4月スタート前の策定会議にて、チームとなるための組織づくりと仕組み化についての理解を深めた事で、一人ひとりのスタッフが組織の一員としての役割を理解しようと試行錯誤しながら前向きに進んできた。 ・インクルーシブが何かを考える前に、同じ空間で共に保育する仲間として、日々の共有会議で目線を合わせ進んできた。日々の保育の中で、共通のイメージを持てるようになってきたと感じる。今後は、細部にわたる目線合わせが期待される。 ・予想以上に地域の中で注目され、積極的に見学を希望されるケースが多かった。予定数をはるかに超える保護者、関係機関、行政などの見学があり、見附市の移住モニターツアーでも自園が紹介されるなど期待を上回った。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	①組織を基盤とし、全スタッフの子育ての質の向上が図られている。 ②スタッフ一人ひとりがやりがいを持って、保育の魅力を感じている。 ③働きやすさが数値結果からも見える。 （超過勤務時間数、有給休暇取得率、離職率等） ④どろんこ会が目指す方針が理解され、保育内容に共感して、入園希望が定員数を超え、自園のニーズが高まっている。 ⑤児童発達支援事業所「見附つむぎルーム」との連携によるインクルーシブ保育が実現している。 ⑥保育の質の向上を目指して、地域の他園と繋がり交流する。 ⑦地域とのつながりの基盤となる行事を実施している。
	重点施策	①業務の仕組み化の定着。 ②策定した計画を活き活きとスタッフが実行し、子どもたちに必要な保育内容を目指して保育実践。 ③リーダー的視点を持ったスタッフを増やし、保育の質の向上に向けて園内研修をスタッフ主導で実施。自園を誇りに勤務しているスタッフが増え、積極的な業務改善提案の実現。 ④ロコミ強化による入園児数拡大。 ⑤発達支援事業所「見附つむぎルーム」と融合して業務を遂行。 ⑥保育の質の向上を目指して、新潟県内の園長大学に加入されている園を中心に、他園や保育士養成校等とつながり交流を図る。 ⑦「見附まつり」「さいの神」「田んぼづくり」で地域交流。
2026年度	目指す姿	①組織づくりによる仕組み化が定着し、スタッフ自らPDCAで改善する仕組みが出来ている。 ②地域で子育て拠点として認知され、広域で利用が拡大している。

		③入園希望者が毎年定員を超えることで、認可定員増が求められる。 ④地域の他園とつながり、園長大学・保育士大学を通して、保育の質を上げるコミュニティーが出来ている。 ⑤地域に根差して、行事が定着し地域コミュニティーの中で役割を担っている。 ⑥県内初の児童発達支援事業所との併設園でインクルーシブ保育が注目され見学や問い合わせが急増している。
	重点施策	①スタッフ業務の仕組み化が定着し、スタッフ自ら提案し業務改善。 ②子育て支援センター「ちきんえっぐ」の利用者が年間600人以上。 ③ロコミで自園の保育への共感者が広がり、入園希望者がさらに増加。 ④新潟県内で保育の質の向上に向けて、共感する園を増やして交流。 ⑤地域コミュニティーとの共同する行事の定着。 ⑥インクルーシブ保育が当たり前となっている自園の保育による発達支援児の活き活きした姿を見学者にアピール。
2027年度	目指す姿	①スタッフに真の協同が生まれ、保育へのやりがいを持ち、様々な挑戦を保育計画に取り入れている。 ②園と発達支援事業所が融合し、当たり前のインクルーシブが実現している。子どもが主体的に遊ぶ環境が整い、豊かな体験が年間通して実践されている。 ③新潟県内の保育内容に共感する園と交流が定着している。 ④リーダーの視点を持ったスタッフが数名いて、スタッフ自ら改善提案をし、子育ての質が高まっていく仕組みが出来ている。 ⑤ロコミによる、入園希望者数のさらなる増加。
	重点施策	①スタッフが定着し、安心して働き続けられる職場を、スタッフ自ら作り出す仕組み作り。 ②インクルーシブ保育が当たり前となり、スタッフが融合した業務の遂行。子どもの主体性を尊重した保育の実現。 ③保育の質を上げる新潟県内のネットワークが確立し、定期的に交流。 ④ミドルリーダーとなるリーダーの視点を持つスタッフ育成。 ⑤ロコミ強化。NPSの向上。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：見附どろんこ保育園 施設長　若杉　絵里子

２０２５年度　袖ケ浦どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

開園2年目、袖ケ浦どろんこ保育園は、児童発達支援つむぎ袖ケ浦ルームと共に「併設園とは」をさらに追求し、当たり前のインクルーシブ保育を実践すべく、スタッフ一人ひとりが継続して学びを深め、誰もが生きやすい居心地の良い場所の実現に向け、チーム一丸となり邁進していく。

運営本部Mission2025「原点回帰」
～毎日の時間を大切に・人格形成を質高く確実に丁寧に～

原点に立ち戻り、日々子どもたちに関わる私たちスタッフ一人ひとりが心がけていくこと、大切にしていくことは以下のとおり。

①応答的な関わりの中で、10よりも100の実体験の積み重ねをする。
スタッフ一人ひとりは、どの子にも丁寧に関わり、ただ見守るだけの保育ではなく、多くの経験から子どもの「やってみたい」が実現できる保育を行う。
②よく食べよく遊び、自ら活動を選択し考え、行動ができる子どもを育てる。
「ジブンで考えジブンでできることをする」子どもを育み、保育に関わるすべての大人も子どもも、ジブンで生きていくための「にんげん力が育つ」環境づくりを行っていく。
③大人もこどもも得意を活かし、子どもを真ん中においた保育を追求する
ひとりの人間として互いを認め合い尊重しながら、日々の生活を丁寧に行う。
子どもが子どもらしく育つことの大切さを保証しながら、保育はよりシンプルに「子ども中心」「子どもを真ん中に」「子どもを置き去りにしない」保育を進めていく。
④ありのままの姿を受けとめ、苦楽を共にし、助け合える仲間
まずは大人が寛大で寛容な心を持ち、「みんなちがってみんないい」が自然な感覚の中で、様々な経験をしながら、助けを求め、手を差し伸べられる関係を築いていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	毎日を丁寧に暮らす
	実践予定内容	基本的生活習慣（食事・睡眠・排泄・着脱衣・清潔）は生きるために必要な力であり、社会生活を送るために最も大切である。乳幼児期に日々丁寧に積み重ねていくことで、その基礎が作られる。当たり前を当たり前にこなせる集団になる。
2	計画・ねらい	子ども同士のかかわりを深める
	実践予定内容	年齢や特性に関係なく、どの子も混ざり合える環境をつくり、子ども同士で話し合ったりルールを決めたりしながら、自分たちで生活ができるよう導いていく。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画
	実践予定内容	今の子どもの姿や成長発達を捉え、必要な環境づくり・支援の在り方を検討した保育計画を作成する。全体計画・年間計画・月案・週案・日案へと

		子どもの育ちや興味関心を熟考し、途切れ途切れではなく連続性のある内容とする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの幸せを最優先に、ともに考え、ともに成長を喜び合える関係性を築く。
	実践予定内容	「手に取るようにわかる子どもの様子」を意識したお迎え対応・タイムライン・連絡帳を心掛ける。年に1回以上、個別面談を行い、園と家庭が切れ目なく連携し一緒に子育てをしていく。
2	計画・ねらい	接遇力UP
	実践予定内容	①思いやり　②誠実さ　③謙虚さ　④感謝　を忘れずに、おもてなしの心を込めた保護者支援を心掛ける。 整理整頓された室内・園庭、掃除が行き届いた園回りなど、誰がいつ見ても気持ちの良い施設を意識する。 スタッフ一人ひとりが身だしなみに気を配り、いつも明るい挨拶やいきいきとした表情で、保護者に対し丁寧で親身な対応を行う。
3	計画・ねらい	悩みや楽しみを共有できる保護者間交流
	実践予定内容	園・つむぎの保護者が交流できる機会を設け、情報交換の場を作る。気軽に相談できる環境づくりに力を入れていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園づくり・居心地の良いみんなの居場所
	実践予定内容	園庭開放、ちきんえっぐ・つむぎカフェへ気軽に立ち寄れるよう、来訪者には常にスタッフ全員が明るくお迎えし、また訪れたくなるような雰囲気作りを心がける。 青空保育、出前保育にたくさんの方を呼び込めるＰＲ活動を行う。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐ企画の充実
	実践予定内容	つむぎとコラボレーションしたイベントの企画。 年齢に合わせた活動が展開できるよう、幅広い内容を準備しておく。 保護者間交流のきっかけづくり。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園内研修の充実
	実践予定内容	毎月の園会議では園内研修に重点を置き、知識を深めることはもちろんのこと、スタッフ同士の語り合いや活発な意見交換の場となるよう計画する。リーダー保育士が研修を行い、後輩を育てていく。
2	計画・ねらい	一人ひとりが組織目標・個人目標を設定し、自身の強みと弱みを理解し課題に取り組む。
	実践予定内容	目標設定時・途中経過・振り返りなど定期的に施設長・主任と面談を行い、方向性を捉えながら、目標達成に向け計画的に進めていく。
3	計画・ねらい	どろんこ会の保育についてさらに理解を深め、その実践から、ワクワクす

		る保育ができる保育者になる。
	実践予定内容	日課・長距離散歩・ダメと言わない保育を実践しながら、子どもの成長をポートフォリオに記録し、保育の楽しさや魅力、探求心に繋げていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	コンポスト、堆肥づくり、命をいただく活動の実施
2	計画・ねらい	日本の伝統的な食品加工の体験
	実践予定内容	味噌、塩、梅干し、漬物などの加工体験
3	計画・ねらい	園内緑化計画
	実践予定内容	現存の観葉植物の挿し木を行い、緑化を促し、植物への関心を高める。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	保育者の混ざり合い
	実践予定内容	目の前の子どもに真剣に関わり、施設の垣根を越えて助言や情報共有を行う。
2	計画・ねらい	子の理解・個の理解
	実践予定内容	日常的にスタッフ間の会話を密にし、個々の発達、特性、性格の理解を深める。
3	計画・ねらい	ユニバーサルデザインの理解
	実践予定内容	誰にでもわかりやすく、使いやすい環境づくりについて、学び考え、実践していく。

〈7〉語り合い、学び合い、高め合えるチームに

1	計画・ねらい	子どものことを語り合える保育者に。
	実践予定内容	日々、子どものことや保育のことを相談しやすい雰囲気を作る。 語り合いを深め、子どもの良いところをたくさん見つけて共有し合うことが日常となる。 会議ではケースを持ち寄り、様々な意見を出し合っていく。
2	計画・ねらい	意欲的に学び、一人ひとりがスキルアップを目指す
	実践予定内容	園長大学・保育士大学の動画を視聴し、自分なりに解釈し、活発な意見交換を行う。
3	計画・ねらい	自身の学びを深め、共有し合える集団に。
	実践予定内容	それぞれが得意分野の学びを深め、伝え合い、お互いに保育の質を上げていく集団になる。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	１８人	１８人	１８人	90人

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	１人	栄養士	３人	調理員等	２人
パートスタッフ	保育士	8人	補助	１人	調理	0人	事務	1人
	用務	１人	嘱託医	２人				

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・コンピテンシー ・活動の振り返り及び共有、子どもの姿の共有 ・園内研修
給食運営会議	月1回	・各クラス食事の様子共有 ・食育活動の策定 ・食育活動実施内容の共有 ・喫食状況（残食記録）の確認 ・給食簿指摘事項の確認
事故防止委員会	月1回	・当月のヒヤリハット、インシデント、事故記録の振り返り 分析と再発防止
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画の振り返り及び考察

		・要支援児個別計画の見直し
リーダー会議	隔週	・各クラスの問題点 ・保育内容、環境について
クラス会議	その都度	・各クラスの保育内容 ・環境への配慮 ・子どもの様子
インクルーシブ推進会議	月1回	・つむぎ利用児の情報共有 ・専門士による勉強会（ユニバーサルデザインの学びを深める）

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例確認事項、コンピテンシー、請求スケジュール各部署からの連絡、確認事項の伝達
施設庁勉強会	月1回	質上げ会議を受けて、施設長としてのアクションプランを作成しながら自園の組織力を強化していく。
食育会議	年4回	エリアごとに課題やスキルアップのための討議を重ねる
保健会議	年4回	各園の状況報告や衛生面などについて意識の統一を図る
主任会議	年４回	各園の主任とマネジメントや後輩と保育を深めることについて学び合う。
子育ての質を上げる会議	月1回	各各園のミドルリーダーが自園の保育の質の向上推進のため、アクティビティを実践しながら保育を深めることについて学び合う
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の実践に関した情報交換・共有。 各併設園での課題の抽出。 つむぎガイドライン勉強会

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育環境、衛生、予防に関する提案 保健衛生関係物品・書類の管理、清掃・消毒の状況とりまとめなど
安全対策係	防犯、保育備品の安全点検及び事故防止 事故防止委員会の運営、ハザードマップの見直しなど

防火管理者	防火管理者：小松聡子 消防計画に則り、災害時や不審者対応に対する取り組み（避難訓練・不審者訓練の立案・実行・省察なども含む） 通報訓練の実施、改善の取り組み、消防署への届出
食品衛生責任者	食品衛生責任者：松澤咲弥 給食運営会議の運営、食品の安全に対する管理や啓発など 食の安全、食育活動への取り組み、衛生点検
畑係	年間計画の遂行管理、畑仕事の意義の確認及び整備・管理責任 年間を通しての企画、種、苗の購入
生き物係	日々生き物の世話をしながら、命の大切さを知らせていく

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営、どろんこサポーターズとの連携
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画・調整
卒入園係	卒園式、入園式の企画・調整

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・愛情豊かに応答的に関わることを大切にし、個々の欲求を満たし、ゆとりを持って愛着関係を築く。 ・0歳からの学びの姿に気付き、子どもの意欲を認め見守る保育の中で、安心感ややってみようとする意欲を育む。 ・穏やかな気持ちと優しい笑顔で、目と目を合わせ対話する。
	下半期 0～1歳児	・応答的な触れ合いや、ゆっくりとした語りかけなどから言葉のやり取りを楽しめるようにする。 ・異年齢児や友だちとの関わりを通して、好きな遊びが楽しめるような安全な環境構成を考える。 ・様々な体験を通して、豊かな感性や創造力の芽生えを育む。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢児や友だちとの関わりが深まり、共通のイメージを持ち遊び込めるような環境を作る。 ・身の回りのことや遊びの中で、自分でできたことを認め、自信と意

		欲を高める。 ・頭や心、体、全身を使って、自分のやりたいことに打ち込み、充実感や達成感を味わう経験を重ねる。
	下半期 2～5歳児	・自分たちで考えた遊びに、意欲的に取り組む。 ・様々な活動の中で一人ひとりの良さを認め合い、子ども同士支え合って生活するために、自立心や人と関わる力を育む。 ・食に関心を持ち、友だちと楽しく食事をする。 ・健康な生活が送れるよう、手洗いうがいを丁寧に行い習慣化する。 ・避難訓練を行う中で、災害や緊急時の適切な行動を理解し、状況に応じて安全な行動をとろうとする。 ・就学に向け、数・図形・文字に興味を持つ。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食に興味を持ち、「食べることは楽しいこと」を体感する。
	実践予定内容	保育士・調理員・事務・用務、全スタッフは子どもとともに食卓を囲み、楽しく食事をする。その中で会話をしながら、食材や調理方法を伝えたり、大人が正しい食事のマナーを見せたり、丁寧に関わっていく。
2	計画・ねらい	自分の食べられる適量を知り、満足いくまで食べる。
	実践予定内容	バイキング給食を通して、自分が食べられる食材の判断や量の調節ができるようにしていく。
3	計画・ねらい	食の循環を意識した環境づくり
	実践予定内容	コンポストの実施。畑係を中心に土づくりから季節ならではの野菜栽培、収穫・調理を一連の流れを1年通して計画的に行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（６月・11月）
歯科検診	年１回（6月）

保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いうがい指導、歯磨き指導、感染症の話
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６～８月頃･･･手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ、 11月頃…RSウイルス感染症、溶連菌感染症 12～２月頃･･･インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･３名より預かり済み／休憩室冷蔵庫にて保管 抗アレルギー薬･･･１名より預かり済み／休憩室冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２７名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員２名については4月１日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED未設置
その他保健に関する取組	自治体からのお知らせ掲示、保健関係研修の受講 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日

	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／4･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	「外で遊びたい」気持ちをかき立てる園庭づくり
	実践予定内容	登りたくなる築山、思い切り遊びたくなる泥場や砂場、虫探しをしたくなる花壇や植え込みなど、子どもたちが様々な経験を重ね「やりたい」が実現できる園庭整備。 石拾いなどの安全対策は、定期的に子どもたちと行う。
2	計画・ねらい	子どもたちの「今」を大事にした室内環境づくり
	実践予定内容	子どもたちの成長発達を理解し、興味関心に常にアンテナを張り、その時々に必要な環境を提供する。
3	計画・ねらい	「食べてみたい」を引き出す畑と田んぼ
	実践予定内容	年間計画に沿った季節の野菜の栽培、泥や水に触れながら米作りを行い、収穫から食すまでを行う。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	鶏小屋	園庭	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 事故防止委員会	過去の事例や予測される事故には、自園だったらどのような課題があり、それを防ぐ為にはどのように行動しなければならないかなど検証し、職員全員周知の上、事故に発展することが無いようにリスクマネジメントを行う。保育者は見通しや予測を立ててそれを互いに共有しながら行動する。 ・ヒヤリハット・インシデントの事例は、事故防止委員会やクラス会議の中で様々な視点から統計を出した上でケース検証を行い、事故防止につなげる。
2	実践予定内容 避難訓練・不審者侵入訓練	・事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高める。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用する。 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	実践予定内容 光化学スモッグ	光化学スモッグ発生時には、市役所などが発信する情報をこまめにチェックし、屋外の活動を控えるなど対応する。
4	実践予定内容 ハザードマップ	園内外のハザードマップを作成し、危険箇所の確認と安全確認の周知を都度更新していく。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域におけるボランティアの養成とともに、次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、積極的に実習生・研修生を受け入れる。
中高生の職場体験や交流なども同様に受け入れを行い、保育に関わる仕事を知り、興味関心を持ってもらえるよう関わっていく。

1	実践予定内容	実習生・ボランティアの受け入れマニュアルに基づき、受け入れ時の配慮事項などについて学ぶ。保育士の良さを伝えられる対応をする。
2	実践予定内容	実習を指導する立場としてのスキルを習得する。実習記録の書きかたや指導案のアドバイスなどを学び実践する。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０25年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月２６日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② (新人研修)ケガケーススタディ ③子どもの人権	・ケガのケーススタディを行い、危機管理の基礎を学ぶ。 ・子どもの人権を「守り」「育む」ために、子どもの権利条約について理解を深める。
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課・基本活動の理解を深める	「なぜやるのか？」を語り合いにより深めていく。形だけ行うのではなく、意味をもって日々実践できるよう理解する。
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理	・危険予測トレーニング、園のルール、ケガ発生時の対応などの再確認。 ・水辺のリスクマネジメント
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 専門的視点 ③10の姿・保育所保育指針	・スタッフの得意分野から専門的知見を深める ・保育所保育指針の読み合わせを行い、理解を深める。
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 専門的視点 ③ 散歩の安全管理	・スタッフの得意分野から専門的知見を深める ・散歩ルールの再確認、ロールプレイ
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 専門的視点 ③アプローチカリキュラム	・スタッフの得意分野から専門的知見を深める ・10の姿を手がかりとしながら、小学校へのスムーズな接続をするために、自分たちにできることは何かを考える。
10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 専門的視点 ③ 虐待防止	・保護者支援・子育て支援の充実。 ・虐待の早期発見に向けた流れを知る。
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 専門的視点 ③インクルーシブ保育・要支援児の対応	・スタッフの得意分野から専門的知見を深める ・気になる子への対応、実践の振り返り。

			・就学に向けた支援の流れ
12月19日	18:00～20:00	① コンテンシー自己採点 ② 感染症対策 ③ 事業計画振り返り	・嘔吐処理、衛生管理、感染症流行時の対策。
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 来年度に向けた事業計画 ③ 児童要録の書き方	・来年度事業計画案の共有とすり合わせ ・児童要録の要点を園長大学・保育士大学を活用し学ぶ
2月20日	18:00～21:00	② コンピテンシー自己採点 ② 第1回策定会議	
3月8日	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 第二回策定会議	

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認

をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

地域の様々な場所に積極的に出向き、園のPRやちきんえっぐのお知らせとともにチラシを配布する。日々の散歩時にすれ違う近隣の方々や商店街ツアーなどの園外活動中に出会うすべての方に、スタッフ自ら笑顔で挨拶をし、その背中を見て子どもたちも元気よく挨拶をすることを習慣化する。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　目標：500名
青空保育（保育園主催）	月1回　公園名：袖ケ浦駅海側地区近隣公園にて　目標：100名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月1回　老人施設「シェアハウス彩輝」に訪問予定
異年齢交流	きょうだいの保育体験
地域拠点活動	系列園との交流 近隣児童発達支援事業所との交流
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　宮の湯

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

自治体含め近隣保育園などと協力・連携し、小学校へのアプローチを継続し、交流の実現に向け、理解をえられるように進めていく。
また、夏休みなどの期間には、学童保育と連携し交流を図る。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的

６月頃	奈良輪小学校 1年1組	25名予定	保育園探検 （当園）	子ども間交流
８月頃	奈良輪小学校 学童	７名予定	学童体験 （奈良輪小学童）	子ども間交流
11月頃	奈良輪小学校 1年全クラス、支援級	４名予定	授業参観 （奈良輪小教室）	職員間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

気になる子、支援が必要な子，つむぎ併用児を中心に、具体的な個別支援計画を作成する。
前期・後期で課題の整理表の見直し、保護者の願いの聴き取りなどを行う。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１０名予定）

支援児については毎月ケース会議を行い、現在の様子などの情報共有、支援計画書を元に次月の支援目標を確認し、全スタッフが同じ関わりができるように共有する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

児童要録や個別支援計画をもとに、小学校接続への段差がないように引き継ぎを行っていく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　来訪者数目標：200名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　参加者数目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（木）10:00～12:00　　参加者数目標：20名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00　　参加者数目標：10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援セン	月1回　公園名：袖ケ浦駅海側地区近隣公園にて開催　参加者数目標：20名

ター主催）	

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年6月４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：12時00分

自己評価終了予定時刻：16時00分

自己評価実施予定者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・スタッフ一人ひとりがどろんこ会の日課や基本活動の意味を十分理解し、なぜそれをやるのか？をスタッフ同士の対話により深め、自分のものとする。 ・それぞれの立場や役割を理解し、認め合い、補い合いながら、「みんなで」子どもたちを育てていく。保育士・調理員・事務・用務・専門士・施設長・主任・社員・パートなど子どもに関わる全てのスタッフが、役割・役職を越えてチーム一丸となり、みんなでみんなを育てる園の実現。
	振り返り	・入園のしおりを熟読し、園に預けてくださっている保護者の期待やニーズを知り、嘘のない保育内容を実践できるよう自主研修などを行い学びを深めた。 ・開園当初から日常的に「みんなでみんなを育てる」ことを意識したこともあり、早い段階から役割・役職を越えた保育が実現できていた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・インクルーシブ保育が当たり前の日常となり、保育園・つむぎ・ちきんえっぐ・地域がいろいろな意味で壁のない「大きなお家」を実現する。
	重点施策	・子どもたち一人ひとりが「好きな場所で好きな人と好きな遊びが」展開できるようスタッフ同士が子どもについて話すことを大事に理解を深め、安心安全に見守ることができる保育力を身につける。 ・子ども一人ひとりの発達や特性・性格を理解したうえで、大人も子どもも互いに認め合える環境を作る。
2026年度	目指す姿	・地域に愛され、地域に根付いた「選ばれる園」になる。 ・併設園のモデル園を目指す。
	重点施策	・まずは身近な立場にいる保護者に「人におススメしたい保育園」と思っていただけるよう、安心安全を第一に、子どもたちがいきいきのびのびと過ごせる保育環境の充実を図る。 ・日常の保育や行事などを、積極的に外部に発信する。 ・併設園のスタッフとしての意識を持ち、専門士による園内研修を実施し知識を深め、語り合いの場を多く設け、質の高い保育に向かって取り組んでいく。
2027年度	目指す姿	誰もが気軽に立ち寄り、相談できる「みんなの居場所」 やりがいを感じ生き生きと働くスタッフ、働きやすい職場
	重点施策	・地域の高齢者、子育て世代、小中学生など、どの年代の方でも気軽に立ち寄り、それぞれ抱える悩みや困りごとの相談や助け合いが自然な形で実現し、地域コミュニティの核となる。 ・それぞれのタスクが管理され、業務の仕組化が定着し、残業削減。 ・スタッフ一人ひとりの得意が活かされ、尊重される職場づくり。 互いの良さを認め合い、弱みをフォローしあえる関係性作り。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：袖ケ浦どろんこ保育園　施設長　小松　聡子

２０２５年度　西崎どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

社会福祉法人どろんこ会の保育理念、保育方針に則り、以下の方針に基づき保育を実践していく。

『心身ともに健康な子どもたちを育み、子どもたちが“生きる力”を身につける』

子ども園は、子どもの尊い命を預かっている場所ということを常に意識し、いかなる時も子どもにとっての最善の利益を提供できる園であり続ける。

『子どもたちにとっての一番は、何なのかを考え続け、常に子どもを真ん中に置いた保育を行う。』

行事、環境設定、活動、言葉かけなど今あるものが子どもたちにとって最善であるかを考え続け、最善でない時は、全てのスタッフがスピード感を持って変化させていけるようにする。

【目指すべき子どもの姿】
・自分でできることを自分でする子ども
・活動を選択し、自分で考えて行動できる子ども
・感じたこと、考えたことを様々な素材、また、言葉で自由に表現する子ども
・異年齢で交流していく中で、多様性を受容し、他者への思いやりを持つことのできる子ども
・様々なことに興味を持ち、また、その興味を自ら広げることができる子ども

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得～どろんこ会の掲げる日課を通して、生きる力を身につける～
	実践予定内容	リズム体操、座禅、雑巾がけ、長距離散歩、生き物の世話、畑仕事など継続的な保育を展開。この中でも特に、長距離散歩を大事にし、計画的に距離を伸ばし、子どもたちの足腰の強化はもちろん、戸外に出ることでの楽しさを伝え、様々なイレギュラーの場に出会うことで、子どもたちの生きる力を育む。また、散歩に出ることで、出会える地域の人との関わりも大切にしていく。
2	計画・ねらい	畑仕事、堆肥作り、どろんこ遊びを通しての学び。
	実践予定内容	まだまだ土に触れる機会が少ないため、継続的にどろんこ遊びができる環境をさらに整える。また、スタッフも一緒になって、どろんこ遊びを行うことでどろんこ遊びの楽しさも伝えていく。
3	計画・ねらい	保育者・子どもたち同士のミーティングの充実
	実践予定内容	子ども主体の保育を実現するうえで、保育者が決めるのではなく、子どもたち同士での話し合いの中で、こども園での活動から様々な行事を決めていく。
4	計画・ねらい	危険なものとの距離の取り方を学ぶ。
	実践予定内容	火や水など扱いを間違えてしまうと、命に関わる危険なものとの距離の取

		り方を実際の保育の中で学ぶ。 焚火を使った活動を継続的に行い、また、焚火を使った食育なども積極的に行う。 海が近いこの立地も生かし、海遊びや磯遊びを保育の中に取り入れ、海での遊びを楽しむ。そして自分たちがおかれている環境において海は無くてはならないものであるため、危険性を理解したうえで海と共にいきていけるスキルを身に着ける
	計画・ねらい	歌や伝承遊びなど大人が伝えるべきものを計画的に伝えて継承していく。
	実践予定内容	歌や遊び(缶蹴りやハンカチ落とし、あやとりなど)を保育者が子どもたちと一緒になって遊びながら、伝えていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

『保護者の困りごとは、自分の困りごとだということを意識する』

1	計画・ねらい	常に保護者の立場に立ち、保護者気持ちに寄り添い、接遇の心を持つ。
	実践予定内容	積極的な保育参加・保育面談の案内を行う。 家庭事情などそれぞれ家庭で抱えている現状が異なることを認識し、保育者の常識で判断するのではなく、その家庭の状況などを把握して上で、寄り添った言葉かけや援助をスタッフ皆で、支援する。 ３分間対応を意識し、誰が対応しても、その日、子どもたちがどのように過ごしていたかを伝えられるようにすることで、安心して預けることのできる園だということを知ってもらう。
2	計画・ねらい	子どもたちの遊びの中での学びを園から発信する。また、園での活動を通し、遊びの中で、子どもたちがたくさんのことを学んでいることを知ってもらう。
	実践予定内容	タイムラインの質の向上・定期的なポートフォリオの作成、また、ポートフォリオ内に保護者の記入スペースを用意し、感想等ももらえるようにすることで、お互いに学んだことなどもやり取りできるものも用意していく。
3	計画・ねらい	保護者懇談会の内容の充実
	実践予定内容	保護者懇談会の出席率が低いため、参加したくなるような内容の充実や子どもたちの園での姿を分かりやすく伝える施策を実施し、参加率を上げた上で、保護者同士交流できる充実した保護者懇談会を実施する。
4	計画・ねらい	絵本を通した保護者支援を行う。
	実践予定内容	絵本の貸し出し・スタッフによる定期的な絵本の紹介

〈3〉地域の子育て支援事業

『地域の子育て支援拠点として、地域に必要とされる選ばれた園となる』

1	計画・ねらい	継続的な商店や小学校などとの交流を大切にする。

	実践予定内容	各箇所への子どもたちの制作などの展示、商店街ツアーの実施、積極的な連携施設との活動
2	計画・ねらい	保育園が地域の子育て支援施設として、気軽に訪れることのできる地域の方の憩いの場にする。
	実践予定内容	商店街ツアーや校区内の連携している園にチラシを置いてもらう。
3	計画・ねらい	地域の子育て世代の方にまずは、園のことを知ってもらうため、商店街ツアーや校区内で連携している園にちきんえっぐのチラシを置いてもらい、広報活動を積極的に行っていく。 その上で、気軽に子育て相談に乗ることをスタッフ全員が意識し、来園してくれた方には親身に子育て相談に乗るようにする。 青空保育を通しての交流を増やす。
	実践予定内容	青空保育の実施日を各地域の保育園に掲示

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

『スタッフ同士による伝え合い、学び合い、支え合い』

1	計画・ねらい	スタッフのキャリアに合った外部研修を受講する。
	実践予定内容	法人の研修(園長大学・®保育士大学)のコンテンツを活用し、様々な講師からの学びを深めた上で、スタッフ同士のディスカッションも多く取り入れる。 また、糸満市、沖縄県の外部研修にも、スタッフの特性に合った研修には積極的に参加してもらうようにし、法人外の保育士等とも交流することで、知見を深めてもらう。
2	計画・ねらい	スタッフが園運営を考え、自ら議題を提案し、園会議等を運営する。
	実践予定内容	園会議を施設長、主任が中心になって運営していくのではなく、スタッフが自ら園の子どもたちのことを考え、会議内容を決めていくことで、スタッフ主体の会議が運営できるようしていく。
3	計画・ねらい	自立運営に向けて、スタッフの業務を整理し、組織形成を行う。
	実践予定内容	内部監査や自治体監査など各スタッフが各分野の担当リーダーとして、各分野の内容を理解し、主体的に動くことができるよう、職務分掌を効果的に行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	地球にある資源を大切にし、自分たちの住む地球を大切にする。
	実践予定内容	子どもたちのゴミ拾い活動、リサイクル活動を行い、ゴミの行方を知る。 公園や道路にゴミが散らかっていることがあり、子どもたちの住む大切な街の環境を自分たちでも、守る意識を育てていく。
2	計画・ねらい	海の豊かさを守る、また、大切さを知る。
	実践予定内容	マイクロプラスチックやサンゴ礁減少についての学習。 海での活動を多く取り入れることで、今、世界で起きている温暖化による海面の上昇やサンゴの減少などを近隣の水産高校と連携することで、子どもたちが学ぶことができるようにする。

〈6〉地域の特性を生かした保育

1	計画・ねらい	沖縄の歴史・食事・行事等を重んじ、後世にその素晴らしさを知ってもらう。
	実践予定内容	沖縄本来の行事、沖縄の歴史を知ることのできる行事を多く取り入れる。 環境から働きかけを大切にし、沖縄の方言かるたや遊びなどを取り入れ、地域の人から学ぶ機会を多く用意することで、保育者以外の地域の方との交流から子どもたちが学ぶことができるようにしていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
-人	-人	-人	20人	30人	30人	80人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	5人
パートスタッフ	事務	1人

3.運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園運営に関わる報告及び検討、保育についてのディスカッション・ロールプレイ
事故防止委員会	月1回	子どもの事故、ケガを未然に防止することを目的とする
ケース会議	月１回	個別配慮を要する子どもについて

週案会議	週１回	クラスの子どもの情報を他クラスの担任と情報共有、ディスカッション

〈４〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例報告
施設長勉強会	月1回	保育における課題点のディスカッション等
食育会議	年4回	献立内容の改善提案・食育計画進捗報告等
保健会議	年4回	感染症対策・改善提案等
主任会議	年5回	保育の質向上検討、マネジメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上検討
施設長会議	月1回	月例報告

〈５〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育環境・衛生・予防に関わる提案実施
危機安全対策係	防犯・遊具・保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練の実施・改善取り組みの実施
食品衛生責任者	衛生点検・予防及び管理と全スタッフへの指導
食育・生き物係	年間畑計画に沿った継続的な畑活動・食育活動

〈６〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り	保護者、地域との連携、運営
生活発表会	保護者、地域との連携、運営
運動会	行事の運営、地域の子育て世代への広報

４.保育方針

〈１〉基本方針

幼児保育	上半期 3～5歳児	・新しい環境や友達に慣れ、関わりを深める。 ・基本的生活習慣の自立に向け、主体的に取り組む。 ・自然物や生き物・食・地域との関わりを体験する中で生命の大切さを知る。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
	下半期 3～5歳児	・様々な体験や生活に触れ合いを通して、友達同士の関わりを広げ、楽しむ。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
保育参加	4～3月	希望する保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自分たちが育てた食材を調理し、食べることで『食』への興味関心を広げる。
	実践予定内容	畑仕事の充実、日常での食育
2	計画・ねらい	空腹感を感じ、食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ食べることのできる環境作り
	実践予定内容	戸外活動の充実、縁側給食(テラス)
3	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践予定内容	魚等をさばく活動を通して、生きているものを食して、生かされていることを体験を通して命の大切さを学ぶ。

〈４〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）

保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いキットを使用した手洗い指導、歯磨き指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 インフルエンザ、ノロウイルス等 7月頃･･･プール熱等 11月頃･･･インフルエンザ、ノロウイルス等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在8名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ3名については4月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	対象なし
	衛生管理点検表／毎週	対象なし
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	対象なし

	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年2回／6･11月 歯科健診　年2回／6月・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

『10より100の探索ができる環境』

1	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた環境作り。
	実践予定内容	動と静の環境を常に意識し、静だけ、動だけにならず、子どもたちの姿に合わせたバランスの取れた環境を意識する。
2	計画・ねらい	保育者の声ではなく、子どもの声に溢れた保育園にする。
	実践予定内容	保育者も人的環境として、子どもの主体性を尊重し、過度な言葉かけはせず、子どもたちを信じる心を持つ。いろんな場面でも保育者や大人の常識で判断せず、子ども自身で判断ができるようにする。
3	計画・ねらい	10より100の探索ができる環境設定。
	実践予定内容	子どもたちが常に遊びたい遊びを自ら選択することができ、玩具や教材を通して、子どもたち同士、楽しみ、時には取り合いなどの子ども同士の葛藤を経験できるよう、常に玩具の量、数量を調整する。
4	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の体得～就学を意識した「自らのことを自らができる」子どもを主体とした動線や環境の設定。
	実践予定内容	就学した時に、子どもたちが困ることのないように子どもたちの小学校生活を常に描き、見通しを持った上で、自然と子どもたちができる環境設定を行う。また、そこに合わせて、保育者全員が統一した言葉かけができるようにしていく。また、子どもたちに片付けさせるのではなく、片付けやすい環境設定、保育者が一緒に片付けることで、整理整頓ができた時の気持ち良さを一緒に感じてもらえるようにする。
5	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の体得～子どもたち自身が安全に、かつ、遊びを選択できる環境の中での統一されたルールの徹底。
	実践予定内容	子ども主体の環境を構築していく中で、子ども主体の定義が崩れ、ルールのない中で、無秩序の環境とならないようにする必要がある。 保育者、子ども全員が理解した上での統一されたルールの中で、子ども主体である遊び込める環境とは何かを考え続ける。

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	各種マニュアルを理解し、速やかに行動する。
2	実践予定内容	(防災)洪水時の避難訓練、台風時の避難訓練、不審者侵入訓練、総合避難訓練の実施。 (防犯)小学校、警察や消防など地域とも連携し、様々なケースを想定した上での訓練を実施する。また、交通安全教室など警察等の関係機関から子どもたちに伝えてもらうことで、自らの身は自らで守る意識を認識できるようにしていく。
3	実践予定内容	常に危機意識を持ち、避難訓練や各災害情報を収集し、対応にあたる。
4	実践予定内容	(ケガ事故防止)園内外の事故事例・ヒヤリハットを全スタッフに共有し、事故防止に繋げる。 遊具、家具等の点検を行い、危険個所は速やかに共有、改善することで、事故防止に繋げる。
5	実践予定内容	(光化学スモッグ)スタッフ全員が光化学スモッグ情報を把握し、戸外活動前や戸外活動時に情報を得ることで、子どもたちの健康を守ることを意識する。

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域研修の場として、実習生を積極的に受け入れていくことで、新しい保育の情報を手に入れていくとともに、実習生に自分たちの保育の考え方を言葉で伝えていくことで、自分たちの保育を振り返る場にもしていく。

1	実践予定内容	各養成校の実習生の積極的な受け入れ。
2	実践予定内容	小中高生の体験学習等の積極的な受け入れ。

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子ども主体の保育を実践するためには。	子ども同士の話し合いについて ケガ・ケーススタディ研修 ※ディスカッション形式
5月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	労働について

		② 子どもたちの“労働”について	※ディスカッション形式
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びとプール遊びの安全について学び、技術を習得する。	水の危険性を知る。 プール遊びを行う上でのマニュアルの再確認。 ※講義・ロールプレイ・ディスカッション形式
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 西崎どろんこ保育園で実践する命をいただく活動とは。	命をいただく活動 ※ディスカッション形式
8月29日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リズム体操	リズム体操 ※ディスカッション、実践形式
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境設定について	室内環境(静と動)と人的環境の見直し ※ディスカッション形式
10月31日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活力と危険なものとの距離の取り方	生活力と危険なものとの距離の取り方 ※ディスカッション形式
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 長距離散歩について	長距離散歩が与える子どもたちへの影響 ※ディスカッション形式
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画書の振り返り	事業計画書に沿って、進めることができているか。 ※ディスカッション形式
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 幼保小の連携～小学校教諭を招いた小学校入学に向けての話し合い	就学を前に、小学校での子どもたちの学び、姿を小学校教諭とともに、学ぶ。
2月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体的な計画、指導計画の見直し	クラス単位での次年度を見据えての振り返りを行う。
3月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 新年度の見通しを立てる。	次年度の事業計画書を知り、次年度どのようにして保育を組み立てていくのか、具体的な指導計画の策定を行う。

		・事業計画を知り、具体的な指導計画の策定を行う。 ※講義とワーク形式	

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の子育て支援施設として、地域の子育て世代の交流の場となるようにする。そして、地域での認知が高まっていくことで、“選ばれる園”となり、地域になくてはならない施設となる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：160名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：西崎親水公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事に参加、老人福祉施設の訪問、子育て支援センターとの交流。
異年齢交流	幼・保・小連携事業での交流会参加。
地域拠点活動	連携園との合同の行事開催。
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

　連結園や小学校と連携し、自然な小学校との交流を行うことで、子どもたちがスムーズに就学に迎えるようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	西崎小学校	3名予定	授業参観	スタッフ間交流
6月頃	西崎小学校	13名予定	小学校　平和人権学習発表会見学	子ども間交流
10月頃	西崎小学校	13名予定	小学校運動会練習　見学	子ども間交流
11月頃	西崎小学校	13名予定	５年生との交流会	子ども間交流
2月頃	西崎小学校	13名予定	お招き会	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

家庭・専門機関と連携して、全スタッフ共通理解のもと、保育にあたる。

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：12名予定）

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

児童要録を基に、小学校との連携を図る。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：20名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎月　２回　10:00～12:00　※ちきんえっぐだより参照 集客目標：5名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎月　各１回　10:00～12:00　※ちきんえっぐだより参照 集客目標：5名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：西崎親水公園にて開催　集客目標：10名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年某日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：12時00分
自己評価終了予定時刻：14時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもたちの育ちをタイムライン、3分間対応、地域子育て支援等、様々な場面で自らの保育を発信していく。
	振り返り	開園当初は、子どもたち、スタッフともに落ち着かず、自らの保育を発信する力が弱かった部分が多かった。そのため、ご意見などが相次ぎ、保護者の方にご心配ご迷惑をおかけした部分が多くあった。下期に入ると徐々に子どもたちもスタッフも西崎どろんこ保育園の保育スタイルに慣れてきたことで、西崎どろんこ保育園の中で、それぞれの良さを発揮し、保育実践することができてきた。自ら理解し、実践できているからこそ、３分間対応やタイムラインでも自らの言葉で子どもたちの成長や発達を発信することができるようになってきた。 異年齢保育を実践する上で、クラス保育のための設計の園舎の難しさ、日課の導入、誰でも選択し、遊べる保育環境の設定などこの一年、スタッフと相談して、試行錯誤をし、変化を加えながら進めてきた一年となった。時には大きな失敗をしながらも、その失敗から課題を抽出し、次に生かしていくことで、日課をやりやすくするためにはどうするか、少しでも戸外での遊びを保証してあげるにはどうするかなど子どもを常に中心とし、考えたことで、後半になり、子どもたちの生活の動線や保育環境の設定など着実に確立することができた。散歩にも子どもたちが積極的に行くようになり、戸外活動を自ら楽しむことができてきている。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	子どもたちに寄り添い、子どもたちの心の変化などにも寄り添えるスタッフが多いこともあるため、2025年度は、さらに質を高めるためにも子ども主体の部分を大切にし、保育者が子どもに寄り添う部分は大切にしていきながらも、子ども同士の育ちに繋げるためにはどうするかを環境、行事、日課など様々な側面から考えていくようにする。 その中で、保護者の保育参加を増やし、スタッフからの発信だけでなく、保護者の方にも、保育の中に入ってもらうことで、一緒に子どもたちの発達や学びを体感してもらう。
	重点施策	・日課などの基本活動や園庭、室内環境などを子ども主体で行うためにはどうするか、子どもたちに10より100の体験をさせるためにはどうするのかを考え続ける。 ・“保育の発信”は引き続き課題として実施していく。日課や食育、子ども同士のぶつかり合いや葛藤から得られるものなど保育の中で、私たちが大切にしていることを発信し続け、かつ、子どもたちと一緒に参加

		してもらうことで、保護者の理解を得て、一緒に保育園を作り上げることができる。
2026年度	目指す姿	西崎どろんこ保育園３年目。 西崎どろんこ保育園でのどろんこスタイルが形になる。 糸満市という沖縄の戦争の影響を色濃く残すところや港が近く、漁業が盛んなところなど糸満市ならではの部分を実際の保育の行事にも多く取り入れ、保護者の方や地域の方と一緒に、行事を作り上げる。
	重点施策	どろんこ祭りや運動会など園の行事と地域の行事を一体化し、園の行事が園に通っている保護者や子どもだけでなく、地域の子育て世代の方にとっても、楽しめる行事とする。 小学校や中学校などのスタッフの園のスタッフが一緒に学べる園内研修を実施する。
2027年度	目指す姿	子ども主体の保育が浸透し、一日の活動や保育生活を子どもたちが見通しを持って行うことができる。雑巾がけ、リズム体操、座禅、畑仕事、生き物の世話など子どもたちが活動する上で、必要なものが揃っているので、保育者が言葉をかけずとも進んでいく。一方で教育の部分も大切にし、子どもたちが日課や保育活動を進めていく中で出てくる疑問を保育者が答えていくのではなく、一緒に考え、一緒に理解していける風土が根付く。 また、ここまでの園としての葛藤も含め、法人内ではなく、糸満市内の研修等の中で、共有することで糸満市全体の保育の質の向上を担えるようにする。
	重点施策	子ども主体の環境が整い、すべての日課を大人が主導するのではなく、子どもたち自身が考え、動くことができる。また、そうするためには、物的環境である道具が揃い、人的環境であるスタッフも必要最小限の言葉かけのみで、活動が進むようになる。 法人外での研修にて、西崎どろんこ保育園の保育を発信する機会を得る。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：西崎どろんこ保育園 施設長　岩本　亮

２０２５年度　百目木どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

袖ヶ浦市で2番目に広大な面積を誇る公園で地域や千葉県内からも多くの利用者がある
『百目木公園』内に新規開園するこども園として
どろんこ会の「基本理念、保育目標」を掲げ
子どもたちの生きる力を育み成長を見守る。

①子どもの「生きる力を育む」ために、法人の日課・基本保育活動（畑仕事・雑巾がけ・リズム体操・生き物の世話）をマンスリー、ビジター共に実施する。活動の意図を深く理解し、大人が背中を見せ、子どもたちが楽しみ取り組むことができる環境を創っていく。

②畑仕事や生き物の世話を通して、他者と協働し取り組み自己有用感を育んでいく。
また堆肥づくりや種まき、収穫、加工を通して循環教育を行って行く

③園を取り囲む豊かな自然環境を存分に活かしながら、子ども自ら主体的に関われる物的環境を戸外・室内に設定し自分で考え、選択し、行動する力を育んでいく。

児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領、児童発達支援ガイドラインをすべての基盤に袖ケ浦市の子ども・子育て支援計画やどろんこ会グループ理念・方針運営本部ミッションに沿って、常に子どもの最善の利益と真に必要な体験を追求しながら、保育を行って行くことを保育者一人ひとりが前提としたうえで、以下の保育目標を達成する。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	**計画：日課・基本活動の充実** ねらい：スタッフ一人ひとりが子どもたちに必要な活動の意図を理解し保育・支援を展開していく
	実践予定内容	・園会議や策定会議の場を活用し、入園のしおりなどを元に法人の基本活動への理解を深める。 ・園長大学などの動画を活用し、リズム体操の際の援助の仕方・意図などを理解し保育の中で実践していく。 ・子どもたちへの言葉掛け、援助だけでなく大人が背中を見せ、日課・基本活動を実践していく。
2	計画・ねらい	**計画：子どもの発達に関する理解を深め、個々の発達に応じた保育・支援を展開していく** ねらい：一人ひとりの保育者が子どもの発達を理解し、受容的に関わり保育・支援を行う。
	実践予定内容	・園内で活用できるツール(チャット)や朝礼・昼礼・夕礼などの場を活用し、子どもたちの姿を密に共有していく。 ・子どもの遊びを通しての育ちや子ども同士の関わりに着目し、子どもの姿を追ったエピソードを共有していく中で、子ども理解を深めていく。

3	計画・ねらい	**計画：誰にとっても心地の良い居場所をつくる** ねらい：子どもの発達に応じた環境構成、整った環境をつくっていく
	実践予定内容	・静と動を意識した環境構成を行い、その時により過ごしたい場所が選択できる環境を保証する。 ・棚・玩具・床など常に整えられた環境をつくり、気持ち良く居心地の良い場をつくっていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
	実践予定内容	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進める。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ
	実践予定内容	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進める。
3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ
	実践予定内容	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援室の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践予定内容	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)を実施する。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピールをする。
	実践予定内容	月1回の近隣公園での青空保育の予告(ポスター掲示など)と実践時の招集活動の促進を行う。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践予定内容	高齢者施設・公民館・商店・銭湯への挨拶、訪問を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	**計画：保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの学びを深める** ねらい：スタッフ全員が保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインを理解し、保育・支援を行う。
	実践予定内容	・園会議内で保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインに関しての学びの場を設ける。園・つむぎスタッフ共に相互で学びを深めることで、一貫した保育・支援を展開していく。常に学びをアップデートしていく。
2	計画・ねらい	大人のにんげん力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践予定内容	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践予定内容	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食物残渣の減量
	実践予定内容	調理と連携し、日々の残渣を減らす。子どもたちは、日々給食食材に触れることで今日の食事を楽しみに過ごす。
2	計画・ねらい	地球環境への取り組み、食の循環
	実践予定内容	給食廃材や土を使ってコンポストを作成し土を再生させる。 命をいただく活動を通して環境教育を実践する。
3	計画・ねらい	年間農業計画に沿った畑仕事の実践
	実践予定内容	計画に沿って畑仕事を実施する。

〈6〉子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践予定内容	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進める。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践予定内容	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
3	計画・ねらい	にんげん力を身に付ける。平等性・情報の共有。
	実践予定内容	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることができる人材の育成。

〈7〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	**計画：子ども同士・大人同士の 混ざりあい** ねらい：子ども同士・大人同士の関係性の構築
	実践予定内容	・園会議の際にディスカッションの機会を多く設け、園・つむぎスタッフ関係なく対話する関係性を構築していく。 ・子ども同士の関わりが育まれる人的・物的環境をつくっていく。大人は必要に応じて子どもと距離をもち保育・支援をおこなっていく。
2	計画・ねらい	**計画：インクルーシブ保育・発達特性に関する学びを深める** ねらい：インクルーシブ保育の学びを深め、自園に置き換えどう保育・支援を展開していくか園全体で考える
	実践予定内容	・園会議で「インクルーシブ保育」を題材とした研修を実施する。 ・つむぎスタッフの専門性を活かし、発達特性などに関しての学びの場をつくる。
3	計画・ねらい	**計画：自然に協働する関係性の構築** ねらい：PDCAサイクルを意識し、対話しながら園、つむぎスタッフ共に連携し保育・支援を展開する。
	実践予定内容	・行事や係など園・つむぎスタッフ共に連携し行い、協働する関係性をつくっていく。互いの専門性を活かし保育・支援を行っていく。 ・個別支援計画書作成における策定会議やケース会議などに必ず園・つむぎスタッフが参加し、同じ目線をもち保育・支援を行っていく。

２.施設運営

〈１〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	30人(含む幼稚園部15名)	30人(含む幼稚園部15名)	30人(含む幼稚園部15名)	120人(含む幼稚園部45名)

〈２〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈３〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
	施設長	1人	主任	1人				
パートスタッフ	保育士	3人	補助	人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人					嘱託医	２人

３.運営方針

〈１〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー・情報共有・研修・交流
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育について
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返り
ケース会議	月1回	支援の必要な児童について
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り・見通し

行事会議	都度	行事についての計画反省

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人の確認事項など・月次報告
施設長勉強会	月1回	施設長の連携・保育を深めるための勉強会
食育会議	年4回	調理・施設長による食育全般について
保健会議	年4回	看護師・施設長による衛生管理などについて
主任会議	年4回	課内の主任による交流・勉強会
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のリーダーによる保育についての会議
併設園会議	年2回	併設園の施設長による情報交換・勉強会

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理の確認
安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認・
食品衛生責任者	給食の安全管理
畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
百目木公園祭り係	地域行事への参加

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分に出来るようにし、友達との関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	・身近な大人との安定した関係のもと、一人遊びを十分に楽しみながら、自我が芽生える。 ・生活の中の様々な遊びや人との関りを通して自我が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・毎日の生活や遊びの中で基本的習慣や運動が心地よい感覚として身につく。 ・友達との関りを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。
	下半期 2～5歳児	・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら他者を受容する感情が育つ。 ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験し、目標に向かって友達と力を合わせて活動する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。
	実践予定内容	素材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践予定内容	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つ。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践予定内容	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事で、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き・手洗い・うがい指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月頃･･･溶連菌 １月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のため薬の預かり	ダイアップ･･･預かりの場合は冷暗所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在　19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ　2名については　5月　31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在　19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ　2名については　５月　31日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／６･11月 歯科健診　年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	室内環境の整備
	実践予定内容	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定
2	計画・ねらい	保育園の出入り口の環境整備
	実践予定内容	子どもたちや保護者のスムーズな動線整備。随時見直す。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践予定内容	子どもたちと共に、ハザードマップの作成を進める。

〈７〉手作り遊具・家具安全点検

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	該当なし		

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	避難訓練(月1回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちの子アプリ保護者向け書き込み。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト(年6回)
3	実践予定内容	不審者対応訓練(年2回)

4	実践予定内容	設備点検(年4回)
5	実践予定内容	事故防止委員会
6	実践予定内容	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践予定内容	光化学スモッグの対応

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

新設こども園の魅力を発信しスタッフ全員で協力して作り上げていく姿勢を学生たちにも共有できるように「自分たちの園」を「自分たちで伝えられるように」自分事として意識し実践を進めていく。

1	実践予定内容	保育専門学校などの実習生の受入れ
2	実践予定内容	中高生の実習体験の受入れ
3	実践予定内容	研修生の受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②マナー研修 ③ケガケーススタディ・安全指導・虐待防止 園長大学動画「はじめての人権」	マニュアルを理解し、基本に沿った対応を全スタッフができるようにする。**（はじめての人権）**
5月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②安全教育・園長大学動画「おもてなし力」	・保護者対応に活かせる接遇のスキルを学ぶ。 **（おもてなし力）**
6月20日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 危機管理・園長大学動画「水辺のリスクマネージメント プール実施前事故防止	・プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。 **（楽しく安全な「水遊び」のために～水辺のリスクマネジメント～）**
7月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②インクルーシブ・園長大	・インクルーシブ保育についての学びを深める。**（「わからない」から**

		学動画「わからない」から「やってみたい」に変える	**「やってみたい」に変える）**
8月15日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②環境・園長大学動画「心を育てる保育環境」	・室内環境についての現状の振り返りと下期を迎えるにあたっての環境を考える。 **（心を育てる保育環境）**
9月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アプローチカリキュラム・園長大学動画円滑な小学校接続は保育者次第	・小学校1年生のカリキュラムを理解して、逆算をしたアプローチを検討する。**（スムーズな小学校進学は保育者次第）**
10月17日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②安全教育・虐待防止・園長大学動画「不適切保育」	・人権について学びを深め日々の保育を見直す。 **（不適切保育）**
11月14日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②「造形＝表現」の誤解	・保育の中で実践できる表現活動を知る。 **（「造形＝表現」の誤解）**
12月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子ども観共有	・子どもの姿エピソード記録の共有。
1月16日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②来年度の目標・園長大学動画「子ども主体の食を考える」	・食事の場面での保育者の関わりを考える。学びを深める。 **（子ども主体の食を考える）**
2月20日	18:00～21:00	①コンピテンシー自己採点 ②策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定
3月20日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉リーダー育成

リーダー会議での積極的な意見交換を重ね、具体的な対応を学ぶ。
様々な事例を検討し、先を見通せる力を培う。また常に現状を把握し、今目の前の子どもの最善の利益を追求出来ているかを確認しあう。
学ぶ姿勢を継続する。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

百目木どろんこ保育園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるようにしていく。また積極的に園を開放し地域の子育てに貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：　百目木公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問・中学・高校の体験学習の受け入れ
異年齢交流	小中学校交流、大学生との交流。他園との交流。

地域拠点活動	ちきんえっぐ・青空保育
銭湯でお風呂の日	月3回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

新設こども園として進学先や近隣の小学校との交流を積極的に進めていく。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月10日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	中川小学校 1年１組	10名予定	（小学校校庭）	子ども間交流
９月頃	中川小学校 1年1組	10名予定	（当園幼児保育室）	子ども間交流
12月頃	中川小学校 1年1組	10名予定	授業参観（小学校教室）	スタッフ間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

保育の方法や内容について、個別支援計画を作成し日常的に保護者と話して理解を得る事や子どもの発達状況・課題発達について情報を共有し、認識の相違を無くすよう努める。
必要に応じて医療機関や専門機関による方針・方法を共有する

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：12名予定）

半期ごとに立てている個別支援計画を基に子ども一人ひとりに合わせた目標を用意することで、発達の過程に沿った保育を行っていく。また、振り返りをこまめに行い共有することで保育者全員が適当な関わりを持てるようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級するにあたり環境の変化を気にしながらその子の発達にあった環境を用意していく。ケース会議等で共有している内容を理解した上で見守る。

小学校や教育センターと連携を行い、どのような進学でも困り感が少なく、その子らしく通える場を保護者と一緒に考えていく。

11.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　目標：150人
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　目標：20人
自然食堂…親子ランチ交流	月2回　10:00～12:00　目標：20人
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回　10:00～12:00　目標：10人
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　目標：150人
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：百目木公園にて開催　目標：15人

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

２０２５年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時00分
自己評価終了予定時刻：15時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任、幼児リーダー、乳児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

新規開園の為無し

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	チーム保育の確立。異年齢・インクルーシブ保育の推進。
	重点施策	個人とチームでの目標設定。必要なコミュニケーションを全員が意識し、インターネット等を活用し発信していく。
2026年度	目指す姿	どろんこ保育園の理解を得る　広報活動の充実
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢を意識している。
2027年度	目指す姿	どろんこ会の保育方針がすべての人々に理解され、 保育園＝どろんこ保育園のイメージを確立する。 『大きなお家』ここなら安心いつでも快適。 どろんこ保育園旗艦園となる。
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢が全ての関係者に行き渡っている。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：百目木どろんこ保育園 施設長　齋藤　みどり

２０２５年度　メリー★ポピンズ 大山ルーム　事業計画書

Ⅰ.基本方針

『毎日の時間を大切に・人格形成を質高く確実に丁寧に』

■基本活動の深い理解

・できうる限り土に触れ、免疫を獲得する物理的環境構成・活動の計画と実行をする。

・毎日、歌をうたって聞かせて、歌を知っている子・様々な歌を楽しく歌う子を育てる。

・大人が見せて教えないと知れない遊び（缶蹴り・ハンカチ落し・あやとり等）を教える。

・生活力と危険な物との距離の取り方（針の扱い・焚火を通し火との距離感等）を教える。

・子ども同士で話し合う・順番を決める・交代して行う・皆の前で発表し自分の意見を述べる、ができるように物的環境構成と大人による導きをする。

・地域の人たちが集う地域に開かれた拠点となるための計画と行動をする。

・労働（雑巾がけ・畑仕事・生き物の世話・堆肥作り）以外の時間を自然や町の中を練り歩くことに充てる。

法人の保育方針に基づき、保育園、地域、保護者が相互に関わり合いながら共育てし、 地域に選ばれる園を目指します。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	“生きる力”獲得のために８歳までの限られた時間を大切にし子どもたちに必要な経験を与え背中を見せて労働を教える自発的集団を目指す。
	実践予定内容	基本活動の深い理解、常に振り返り職員の共通理解を計り質の高い保育を目指す。一人ひとり今何ができるかを考え自らが動いて環境を変えていく力を養う。多様な子どもたちに共感性を持って関わりあう。
2	計画・ねらい	保護者の心に入り込んだ接遇・保護者がいつ見ても気持ちが良い施設を目指す。
	実践予定内容	施設の美観を守り、様々な来訪者が気持ちよく利用できるように日々の清掃に心掛ける。全職員が清掃を自分事と捉え施設を綺麗に使用する意識を培う。共感力・観察力を高め全ての関わりあう人にホスピタリティ精神をもって接する。
3	計画・ねらい	毎日の時間を大切に・人格形成を質高く確実に丁寧に
	実践予定内容	日課や戸外活動の時間を大切にし、子どもを真ん中に据え置いた行動をとる。子どもとの関わり方を丁寧にし、人格形成の基盤である時期を踏まえた上で自分の行動についても俯瞰的に見られる意識を持つ。

〈２〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	園と家庭の共育てを行う。

	実践予定内容	子どもを真ん中に、保育者と保護者が手を取り合い支え一緒に子育てを行う。子どもに楽しいと思う体験、愛されている実感、丁寧に受け入れてもらった実感を感じ取れる環境を協力して作り上げる。子育てのパートナーとなるべく相談事はいつでも受け付け、子育てが楽しいと思える気持ちや、子どもの成長をお互いに喜び合えるようサポートを行う。悩みごとに寄り添っていく関係性を構築する。
2	計画・ねらい	保護者同士が繋がる場を作り、子育ての学びを深められる施設になる。
	実践予定内容	園の行事やどろんこサポーターズ等の取り組みを通して、保護者同士の交流や親睦深めることのできる機会を増やす。
3	計画・ねらい	自園の強み・特徴を生かした園や子どもの姿の記録と公開。
	実践予定内容	アプリのタイムラインで保育を伝えポートフォリオで子どもの心情・意欲・態度を伝えていく。SNSでの保育の見える化を図る

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援拠点となる。
	実践予定内容	子育てサロン・青空保育・ちきんえっぐを通して子育ての悩みを受けながらどなたでも気軽に利用ができるような地域に根付く関係を構築する。
2	計画・ねらい	シニア交流・職場体験等の異世代交流を行い開かれた保育園を目指す。
	実践予定内容	地域での様々な人対人のコミュニケーションを通し身近な存在になり、園を知ってもらう機会を多く作る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育を学ぶ。
	実践予定内容	つむぎ大山ルームと共に日常的に関わり合い相互の職員と話し合いを密にすることで併設園としてのあるべき姿を実現していく。１年を通し自分の言葉でインクルーシブ保育を語れることを目指す。
2	計画・ねらい	チームを感じながら一人ひとりの主体性を培う
	実践予定内容	自ら学ぼうとする意欲の元、その学びを園に展開し園職員全体が向上していく集団を目指す。各々の得意とする項目を意識し保育にあたることでチームを実感する中で生まれる意識を大切にしみんなで補いあえる関係性を目指す。
3	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止を理解する。
	実践予定内容	園内研修にて学びを深め現状の子どもたちとの関わりについて振り返る機会を定期的に設ける。人的環境の重要性を意識する保育を展開する。
4	計画・ねらい	人的環境としての意識を持つ
	実践予定内容	気持ちが良い挨拶を行い、笑顔で接する。地域の方との円滑なコミュニケーションを意識する。誠実な対応・落ち着いた言動・所作を常に念頭に置き振り返りを行いながら子どもたちの見本になる。園内連携を行い全ての子どもをすべての職員で見守っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	堆肥作成とプランターでの活用をする。
	実践予定内容	日課として堆肥を作成し、環境への意欲を培う。プランターに取り入れることで循環していく様子に触れていく。
2	計画・ねらい	給食食材（野菜）のカット方法の変更・皮付き調理・皮の有効活用
	実践予定内容	出汁で取った昆布や鰹節で献立に応じて加工する。 皮つき野菜で料理を作る。

〈6〉インクルーシブ保育を実践する

参加させるための保育から共に楽しむ保育を実現していく。できないことを育てる感覚から興味関心を培うアプローチを行う。枠に入れるのではなく、枠を広げていく意識を持つ。

1	計画・ねらい	すべての子どもたちが生きる力を獲得する
	実践予定内容	子ども自身が活動・玩具・教材・絵本・運動遊具を選び手に取り、10よりも100の探索ができる環境を構成する。
2	計画・ねらい	子ども間でのぶつかり合いや葛藤を調整しなければならない機会が得られるように物の数・置き場所を構成し必要な場面で必要な量のみの言葉掛け・介入を行う。
	実践予定内容	法人が目指す姿を明確に捉え、また目の前にいる子どもたちの姿をしっかりと共有することで何が環境として必要かを会議でディスカッションをし環境を作り上げていく。生活をしながら互いを理解することで多様性を感じ、集団の中で仲間として共にいる環境をつくりあげる。
3	計画・ねらい	大人主導にならす、子ども自身に判断させる。
	実践予定内容	子どもの気持ちを制御しすぎず、背景を汲み取り心情を読み取ろうとし、子どもの声に耳を傾け、肯定的に共感性を持ち見守る保育を展開する。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	11人	11人	11人	11人	60人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	4人
パート スタッフ	保育士	2人	事務	1人		

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	当月の行動計画の成果発表／園内研修／次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見直し
幼児会議	週1回	幼児クラスについての情報共有
乳児会議	週1回	乳児クラスについての情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	献立内容の改善・提案／給食提供マニュアル及び運用ルールの作成・見直し／食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策ガイドラインの作成、改善／保健計画策定
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有／マネ

		ジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表
併設園会議	年2回	現状と課題の共有・実践の振り返り

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	防災実施点検・設備点検・事故防止点検の実施。
防火管理者	災害対策・消防計画に則った避難訓練の実施責任・自主点検の実施。
食品衛生責任者	給食提供責任・食材の安全衛生管理
畑係	年間計画に基づいた畑活動の実施、計画の振り返り、畑管理
生き物係	飼育動物の環境管理、餌の管理・発注

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭り実施に関わる取りまとめ
運動会係	運動会実施に関わる取りまとめ
生活発表会係	生活発表会に関わる取りまとめ

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・保育者等に見守られながら、好きな遊びを楽しむ ・子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、子どもの気持ちを 受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく ・スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ・栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る

	下半期 0～1歳児	・ 土や水等に触れ、全身で感触を楽しみ、感性を育む ・ 安心できる保育者等の関わりの中で人への基本的信頼関係をも ち、人間関係の基礎を培う ・ 個々の発達の状況を捉え、生命の保持と情緒の安定を図り、生活 リズムを作る ・ スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ・ 栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
幼児保育	上半期 3～5歳児	・ 基本的生活習慣を身に付け、喜びながら意慾的に生活する ・ 友達との繋がりを広げ、集団で行動する事を楽しむ ・ 異年齢で生活をする中で思いやりの心、協力し合う心を養うと共 に達成感を知る
	下半期 2～5歳児	・ 身近な環境や自然などに自ら関わり、様々な事物や事象と自分達 との生活との関係に気付き、それらを生活や遊びに取り入れ、生 活の 経験を広げる ・ 小学校以降の生活や学習の基盤の育成に繋がることに留意し、創 造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う （幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮する） ・ 友達と歌を歌ったり合奏することで、ひとつの物を作り上げる楽 しさを知るとともに、動きや言葉などで表現したり演じる楽しさ を知る
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月、及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

・ 給食運営会議・食育会議を通じ、子どもが楽しく食事ができる環境を設定していく。
・ 日常の生活に密着した食育を深く考察し、実践する。
・ 分かち合う事の素晴らしさや、大切さを感じられるよう工夫する。
・ 食品の加工や命をいただく経験から食の循環を知る。）

1	計画・ねらい	子どもの食欲と意欲を育てる
	実践予定内容	十分な遊びから自然とお腹が空く子、意欲的に食べる子が増えるよう生活の中で保育者、栄養士と食事作りや準備に関わり、子どもの食への関心を

		広げる。
2	計画・ねらい	食の循環を通し子どもの環境への意識や興味関心を培う
	実践予定内容	味噌・梅干しなど食材加工を体験することを通して食材や食の循環を知り、環境の意識を育む。畑（プランター）活動を充実させる。
3	計画・ねらい	給食残渣の削減を計画し、振り返る
	実践予定内容	子どもが自分たちで盛り付け、配膳して食べる事を基本として自分で食べる量を調節していく。日々の残渣を記録し具体的な削減計画を実施し分析していく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（６月・１１月）0歳児クラスは毎月
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・うがい歯磨き指導・鼻のかみ方指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12～2月頃･･･インフルエンザ 11～3月頃･･･ウイルス性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･現在預かり無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在１６名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員５名については４月３０日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月

	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6･10月 0歳児のみ年12回実施 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	自ら経験を選び取ることができる物的環境の設定
	実践予定内容	保育者が一定の距離を取り見守る“もの”を常設することでトラブルを経験し折り合いをつける力が育まれていくのを目指す。
2	計画・ねらい	子ども同士が分け隔てなく関わり合える環境の設定
	実践予定内容	全ての人との関わりから判断・行動を身につける。異年齢保育・インクルーシブ生活を通して、年齢や発達の違う子が交じり合うことでお互いを知り葛藤を繰り返しながら生活を共にすることでより良い形を作る過程を大切にする。大人の考えで選択肢を狭めない。

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアル№3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手

		続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアル№３の災害対策（Ｐ．１２～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№３のけが事故防止策・安全点検と保全（Ｐ．１４～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策（Ｐ．２０～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアル№３の光化学スモッグ対策（Ｐ．２１～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する
5	実践予定内容	防災…危機管理マニュアル№３の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアル№３の災害対策（Ｐ．１２～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う６実践予定内容 ケガ事故防
6	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアル№３のけが事故防止策・安全点検と保全（Ｐ．１４～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、ＳＩＤＳ防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
7	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアル№３の不審者対策（Ｐ．２０～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。

６.実習生・中高生の受入

〈１〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。中高生の体験学習の受入、保育養成校の学生の実習受け入れ、次世代の子育て保育に携わる人材育成ととらえ、丁寧に受け入れ、指導する。

1	実践予定内容	実習生…保育所保育指針をベースとし、保育品質マニュアルに基づいた保育方法の実践指導を行う。
2	実践予定内容	小学校の長期休みには近隣におたよりを配り保育体験を募集する。

3	実践予定内容	職場体験…子どもと遊ぶ楽しさから養護と教育の実体験を提供する。

7.スタッフ育成と研修計画

会議の場を大切にし。主にディスカッションを深めることで子ども観を共有し、多様に子どもを捉えていく根底を培う。事故目標設定（MBO）を一人ひとりの職員に応じて設定し、課題についての計画、実行、振り返りを重ねて乗り越えていけるサイクルを作り上げる。 園全体がセキュアベースになり、自発的な挑戦、失敗しても大丈夫という基盤を作り上げ職員育成を 行う。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック・虐待防止 ③ 園内研修1『子どもの人権』（園長大学@保育士大学コンテンツ視聴） ④ハザードマップの点検・おむつ替え手順確認	自身の保育振り返り・人権 についてのディスカッション等
5月30日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修２ 『SIDSについて』（園長大学@保育士大学コンテンツ視聴） ③光化学スモッグ・調乳確認 ④併設園としての学び1	自身の振り返り、SIDSについて のディスカッション等
6月27日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水の事故防止・危機管理・災害時の対応 ③園内研修３ 『水難事故について』（園長大学@保育士大学コンテンツ視聴） ④水遊びについての確認	自身の振り返り、水遊びの危険性、保健・衛生につ いてのディスカッション等
7月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修4 『情報セキュリティについて』 （園長大学@保育士大学コンテンツ視聴） ③ 感染症対応確認 ④心肺蘇生確認	自身の振り返り、保育環境につい てのディスカッション等

8月29日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②小学校教育要領の学び ③併設園の学び２ ④園内研修５『性教育について』（園長大学@保育士大学コンテンツ視聴）	自身の振り返り、小学校教育量料についてのディスカッション等
9月26日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修６『食育について』（園長大学保育士大学コンテンツ視聴） ③全体研修	自身の振り返り、食育についての ディスカッション等
10月31日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アプローチカリキュラムを学ぶ ③園内研修７『子どもの人権について』（園長大学保育士大学コンテンツ視聴） ④併設園の学び３ ⑤嘔吐処理ロールプレイ	自身の振り返り、子どもの人権に ついてのディスカッション等
11月28日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修８『接遇について』（園長大学保育士大学コンテンツ視聴） ③就学支援シートについて	自身の振り返り、接遇についての ディスカッション等
12月26日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修９『保護者支援について』 ③併設園の学び４	自身の振り返り、保護者支援についてのディスカッション等
1月30日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度振り返り(支援内容や事業計画の取り組みなど) ③園内研修１０『地域支援について』（園長大学保育士大学コンテンツ視聴）	自身の振り返り、地域支援についてのディスカッション等
2月20日	18:00～21:00	策定会議①	今年度振り返り・次年度園目標 決め・次年度事業計画発表等
3月1日	9:00～18:00	策定会議②	次年度年間行事決め・畝づくり 等

エリア研修予算内訳（６園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		6園で按分した自園負担額
4月12日	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
		個人負担費	1600円	
11月8日	7,700円	講師代	6,200円	0円
		講師交通費	1,500円	板ど/大山/中板/成増/東練/バジ
合計	7,700円			0円

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈４〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

８.地域交流計画

〈１〉今年度方針・テーマ

地域に新しくできる発達支援センターとの併設保育園としてまず保育園の存在を知ってもらうとともに、子育て支援センターなど地域の方に開放し、行っている行事など多くの方々に利用していただけるように計画し実践する。

〈２〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：７０名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：：三葉児童遊園にて　　集客目標：７０名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域の方との交流を行う。
異年齢交流	近隣小・中・高校生などの職場体験、実習生の受け入れを行う。
地域拠点活動	園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との共同によるどろんこ祭りの開催を行う。 ちきんえっぐにて園庭開放や給食体験など地域の方に利用していた だくイベントを実施する。 また、地域にお住いの保護者とそのお子さんを対象に子育て相談の 対応や子育てサークルの支援を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉（但し悪天候、猛暑日、極寒期は除く）

９.小学校との連携の計画

〈１〉今年度方針・テーマ

近隣小学校と連携を図りながら、小学校へのスムー ズな移行ができるようなアプローチカリキュラムを作成する。

〈２〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月２５日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
４月頃	弥生小学校	11名予定	校内見学	子ども間交流
６月頃	板橋第6小学校	11名予定	校内見学	子ども間交流

８月頃	近隣小学校	11名予定	校内見学	職員間交流
10月頃	近隣小学校	11名予定	校内見学	子ども間交流
12月頃	板橋第8小学校	11名予定	校内見学	子ども間交流
２月頃	中根橋小学校	11名予定	校内見学	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的・継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する

〈２〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：5名予定）

職員全員が同じ目線で子どもを保育することができるよう、昼礼時にケース会議を盛り込み、園全 体で子どもに必要な援助を考える。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

　小学校へは保育所児童保育要録の送付とともに、併設園としての特性を生かし職員間での共有や小学校との連携をしっかりと行い、情報共有していく。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：７０名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：７０名
自然食堂…親子ランチ交流	毎月2回　10:00～12:00　　集客目標：７０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎月 2回　10:00～12:00　　集客目標：７０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：三葉公園にて開催　集客目標：７０名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年６月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１７時３０分
自己評価実施予定者：施設長、主任、乳児リーダー、異年齢リーダー、調理代表

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈４〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	法人の目指すインクルーシブ保育に挑戦する
	重点施策	新しいチームとして一人ひとりとの信頼関係を築き、挑戦や失敗してもいいという基盤の元、心理的安全性が高い組織を構築する。法人の目指すインクルーシブ保育を全体で学び実行し振り返り、自らやり続ける意欲的な集団になる。
2026年度	目指す姿	地域に開かれた施設になる
	重点施策	地域の方がいつでも立ちいれるような保育園であるために、子育て支援を行い、共育てを意識する。園運営の理解を深め、接遇や美観を提供し地域の方に愛される保育園になる。SNSの情報発信強化を行う。
2027年度	目指す姿	インクルーシブ保育の実践が認知され選ばれる園のモデルになる。
	重点施策	保育園・児童発達支援施設共に選ばれる園を目指すべく子ども・保護者との安定し、継続的な信頼関係を築く。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリー★ポピンズ 大山ルーム 施設長　朝重雅恵

２０２５年度　上目黒どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

新園として、安心・安全な環境を確保することを最優先とする。
そのためにまず子どもを知る、保護者を知る、スタッフを知る、地域を知る努力をする。
そして、にんげん力＝『生きていく上で必要な力』がある心も体も逞しい子を育てる。

①一つひとつの基本活動の本質を深く理解し、やらされる活動ではなく、自らの意志で行うことを大切に実施する。
〈どろんこ会グループの基本活動〉
異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩９時出発・畑仕事
生き物の世話・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育
②子どもも大人も一人の人間として、全てにおいて応答的、対話的に丁寧に向き合う。
③やってみたい、やりたくない、やる、やらない、やめるを含んだ自己決定ができる子どもを育てる。（主体性）
④子どもにとって必要なホンモノの体験とは何かを追求し続ける1年にする。
⑤子ども同士で支え合い、学び合い、葛藤し合ううインクルーシブ保育の実践

そして、地域の核となる地域に開かれた子育て支援を実施する。

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	一つひとつの基本活動の本質を深く理解し、やらされる活動ではなく自らの意志で行うことを大切に実施する。
	実践予定内容	・園内研修にて法人の理念・方針の勉強会を行う。 ・子どもが主体的に行うための人的環境を振り返る会議を月1回で行う。 〈力を入れたい活動〉畑仕事・生き物の世話・堆肥作り、命をいただく活動
2	計画・ねらい	・子どもも大人も一人の人間として、応答的・対話的に丁寧に向き合う。 ・やってみたい、やりたくない、やる、やらない、やめるを含んだ自己決定ができる子どもを育てる。（主体性）
	実践予定内容	・子どもを集団の中の個として一人ひとりにあった環境からの働きかけをしていくため、月1回「子どもを知る会議」で、子どもを深く理解し、必要な環境を考察する。
3	計画・ねらい	子どもにとってホンモノの体験とは何かを追求し続ける1年にする。
	実践予定内容	一つひとつの活動の意義を全スタッフで考察し、共通理解できる仕組みを作る。（子どもを知る会議、月案立案会議、保育計画のアプリ可）
4	計画・ねらい	・子ども同士で支え合い、学び合い、葛藤しあうインクルーシブ保育を実践する。 ・守る･矯正する保育ではなく、子ども自らの意思やタイミングで経験を選び取るための物的環境を徹底的に研究する。
	実践予定内容	・発達支援つむぎ上目黒ルームと連携し、専門性を生かした子どもの姿を多面的に捉える併設園ならではの保育を実践する。

		・子どもの姿を共有し合い、一人ひとりの最善の利益を追求する会議を月1回開催。（子どもを知る会議）

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	大切なお子様を慣れない場所に預ける不安を理解し、小さな体調の変化も共有し、安心して仕事ができるようにサポートしていく。
	実践予定内容	・一人ひとりの保護者の状況に合わせた丁寧な対応を心掛けるために、保護者の方からの伝達や共有事項をチャットで全体周知する。 ・第二上目黒保育園から移行した方々の不安に寄り添い、園の保育ややり方を丁寧に伝えていく。
2	計画・ねらい	子どもの成長を共に悩み、共に喜び合える関係性をつくる。
	実践予定内容	・お迎え時、ワンエピソードの共有実践
3	計画・ねらい	日頃から子育ての悩みを打ち明けやすい関係作りを心掛け、子育てのヒントを提供しつつ、園の方針を理解していただく。
	実践予定内容	・まずは全スタッフが気持ちの良い安心できる挨拶を徹底する。 ・子育ての悩みは即共有し、組織で解決できる仕組みを作る。 ・園の方針が伝わる保護者参加型体験型保育を年2回行う。 （どろんこ祭り、アートフェスティバル）

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	どろんこ保育園を知っていただく広報活動
	実践予定内容	・子育て支援イベントのチラシ配布 ・園の強みや特徴を生かした園の様子をインスタグラムで発信する。
2	計画・ねらい	園の保育・行事に参加していただく
	実践予定内容	・地域参加大型行事を年２回開催（どろんこ祭り、アートフェスティバル） ・保育体験（自然食堂、自然学校、芸術学校、青空保育） ・園内、園庭開放
3	計画・ねらい	子育てに困難を感じている方への支援
	実践予定内容	・子育て等に関する相談や援助（子育て相談、寺親屋） ・交流の場の提供、交流の促進（子育てサロン、青空保育） ・情報の提供（地域の子育てサークルの紹介）

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげんカup　～考え、学び、動く、自立した集団となる～
	実践予定内容	・週1回の昼礼で1週間のヒヤリハット共有し、課題は即解決する文化を作っていく。 ・月1回のリーダー会では、園を良くするための提案をリーダー層から上げ、実現できる環境を作る。
2	計画・ねらい	園内研修の講師となり、学びをさらに深める。
	実践予定内容	・順番で園長大学®保育士大学を視聴し、園会議で講師となってアウトプットすることで学びを深め、広げる。

3	計画・ねらい	全ての事、モノに教育的意図を持ち、一人ひとりの最善の利益を常に追求し続けるスタッフを育てる。
	実践予定内容	・月1回の月案会議では子どもの発達・興味関心を共有する時間（1h）、1か月後の姿を予測し必要な活動を話し合う時間（1h）を取り、チームで子どもを育てる仕組みを作る。 ・毎月の園内研修で各年齢の心と体の発達を学ぶ。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	質の高い畑作り
	実践予定内容	土づくりにこだわり、より良い野菜作りを行う。
2	計画・ねらい	ゴミの削減
	実践予定内容	・自作のコンポストで、野菜くず、落ち葉、生き物の糞を堆肥に変え再利用する。 ・年長児が毎日、野菜くずを細かく切る。
3	計画・ねらい	園庭の緑化
	実践予定内容	月に1回、園庭整備Ｄａｙを決めて、全員で行う。

〈6〉全スタッフリーダー制度

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが得意分野を発揮し、園に必要な人材となる。（離職防止）
	実践予定内容	①開園時に一人ひとりと面談し、それぞれの得意分野をヒアリング ②それに合わせた役割や係を任命 ③本人のMBO目標にもその内容を設定することで年間通して、役割を全うすることで成果を上げ、自他共に認めあえる仕組みつくりを実践。 例）保健衛生リーダー、危機管理リーダー、子育て支援リーダー、保育環境リーダー、コンプライアンス（監査）リーダー等

〈7〉インクルーシブ保育の探求

1	計画・ねらい	保育園と発達支援つむぎ、それぞれの役割を知る。
	実践予定内容	多様性を受入れ、意見が違うことも子どもの最善の利益を追求する上で必要な事だと互いを認めあえる関係性を作る。 園は集団の中の個として、つむぎは個を集団の中で視ることで見える景色が違うこと視るべき視点や気づきが違うことに気付く。 月1回のケース会議で意見交換をする。
2	計画・ねらい	併設園の意義を考察する。
	実践予定内容	目黒区初の発達支援事業所との併設園として、地域に欠かせない存在となるようまずは地域を知るためのリサーチを行う。
3	計画・ねらい	系列園の併設園会議で実践報告、情報共有をして高め合う。
	実践予定内容	月1回の法人主催の併設園会議で主体的に実践報告を行う。
4	計画・ねらい	発達支援つむぎ上目黒ルームの専門性を生かし、子育ての質を上げる。
	実践予定内容	・グループ内の専門士同士で症例検証をすることで専門性を高める。

		・自園で解決できないこともグループ内の専門士に相談し、多様的な意見を取り入れることで子どもの最善の利益を追求する。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
６人	１０人	１２人	１４人	１４人	１４人	７０人

〈2〉開所時間

７時００分～２０時３０分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	17人	看護師	１人	栄養士	４人
パートスタッフ	保育士	３人	事務	１人	用務	１人

3.運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、コンピテンシー考察
給食運営会議	月1回	食育計画振り返り、献立の振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ 前月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り、次月計画の見直し
子育て支援会議	月1回	子育て支援活動の振り返り、参加者・人数の分析
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	事務連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンス研修 課題改善計画の共有と取り組み発表
食育会議	年4回	食育活動の共有、マニュアルの確認、献立の提案
保健会議	年4回	感染症対策、保健衛生対策の課題への取り組み共有
主任会議	年**4**回	施設長養成マネジメント研修、 課題改善のアクションプランの進捗確認
子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げるための研修、 課題改善計画の共有と取り組み発表
併設園会議	年12回	インクルーシブ保育の研究と実践発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及びスタッフの健康保持のために、施設内外の環境の維持向上に努める
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と点検
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通した食育計画案の作成と実施。畑の管理。
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営とどろんこサポーターズとの連携
夏祭り（民舞）係	日々の生活の中で民舞に親しむ計画をたてる。

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分にできるようにし、友達への関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	・沢山の経験を通して感性を豊かにし、感じたことを少しずつ言葉で伝える場を大切にする ・生活や遊びの中で心身ともに伸びる場を保障する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢の中で友達との繋がりを深め楽しむ場をつくり協調性や自主性を育む。 ・興味関心をもったことに主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたりしながら、遊びに取り入れていく。 ・感じたことや考えたことを水・砂・土・紙・粘土を使用した造形・描画にて表現する。
	下半期 2～5歳児	・異年齢の関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を味あう経験を保障する。 ・自分で考え、工夫し判断して、自ら行動できる。 ・心を動かす様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる
	実践予定内容	全スタッフが子どもと毎日一緒に食べる。
2	計画・ねらい	噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
	実践予定内容	薄味の和食を基本にし、発達に合わせた形状や切り方を工夫する。
3	計画・ねらい	子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる

	実践予定内容	3歳児から自分で必要な量を判断してバイキング形式で食べる。
4	計画・ねらい	畑で野菜を栽培することで、旬の素材に気づき、食に興味を持つ。
	実践予定内容	畑仕事を日課とする。採れたての美味しさ、加工する美味しさを味わう。
5	計画・ねらい	食材・食の循環を認知する直接体験を行う。
	実践予定内容	魚の解体、鶏の採卵。
6	計画・ねらい	環境を意識し、生ゴミやヤギの糞からの堆肥作りを積極的に行う。
	実践予定内容	食品残差量の管理、野菜くず・ヤギの糞・枯れ葉のコンポスト。

〈4〉保健計画

園児健康診断	０歳児：毎月、　１歳児以上：年２回（６月・１１月）
歯科検診	年２回（６月・１１月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導、手洗い指導、
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃･･･ウイルス性胃腸炎 １月頃･･･インフルエンザ
エピペン使用できるスタッフ	本日現在２５名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては４月３０日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日

衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 0歳:毎月 1歳児以上:年2回(6･11月) 歯科健診 年2回(6月･11月)
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	一人ひとりに合った教育的意図を持った環境構成(室内・戸外)を考察し続ける。
	実践予定内容	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回子どもの発達、興味・関心を理解するための会議を行う。
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損等は速やかに修繕する。
	実践予定内容	様々な視点で点検できるように交代で行う。門のカギ閉めの注意喚起を定期的に行う。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても気持ちの良い環境を維持する。
	実践予定内容	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ぶら下がりロープ	幼児室	毎日

５.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎日15日に行う。また、法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時緊急連絡を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。
2	事故・怪我防止	・設備点検・事故防止チェックを年４回行い、ケガ事故防止に最善を尽くす。 ・インシデント・ヒヤリハット報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証をしっかり行うことで事故を未然に防ぐ。 ・全園事故防止委員会を毎月1回行い、同グループ内で状況を共有し、事故防止策を探る。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施する。また、訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象とする。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握する。光化学スモック注意報の発令があった場合は内容にあった看板・貼紙等を提示する。

６.実習生・中高生の受入

今年度方針・テーマ

今年度は、地域の養成校や教育機関に上目黒どろんこ保育園を知っていただくために積極的に挨拶回りに行く。

1	保育養成校の学生の実習受け入れ	それぞれの実習目的に合わせてねらいをたて、自信をもって保育ができるように育成していく。
2	中高生の体験学習の受入	未来の保育士を増やすべく、保育士としてのやりがいや素晴らしさを伝える。
3	一般および学生の各種ボランティアの受け入れ	地域の子どもを地域で育てる基盤となるよう積極的に受け入れる。

７.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
４月２４日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②保育理念・日課の理解 ③ケガ・ケーススタディ研修	振り返り、アクションプランをたてる 理念・方針、保育目標、日課の意味を知る 怪我を対応の基本を学ぶ
５月２９日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 0歳児の心と体の発達 ③避難訓練デモンストレーション	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 災害時の自園での対応方法を確認する。 実際にやってみ役割分担の必要性を知る。

6月26日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 1歳児の心と体の発達 ③保育中の重大事故(水遊び)	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 水遊びマニュアルの確認
7月24日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 2歳児の心と体の発達 ③感動するお迎え対応とは	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 保護者が感動する内容を考察
8月28日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 3歳児の心と体の発達 ③子どもが輝く運動会とは？	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 何のために行事をするのかを再確認
9月25日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 4歳児の心と体の発達 ③散歩ロールプレイング研修	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 散歩のリスクマネジメント
10月23日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5歳児の心と体の発達 ③ 嘔吐処理デモンストレーション	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 マニュアル・手順確認
11月27日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 6歳児の心と体の発達 ③ 成長が伝わる生活発表会とは？	振り返り、アクションプランをたてる 発達から事例検証 個性を引き出す表現とは？
12月25日(木)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修動画視聴 ③ 今年度の振り返り（保育）	振り返り、アクションプランをたてる 子どもにとって必要な環境とは何かを考察
1月29日(木)	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育 ③今年度の振り返り（行事・係）	振り返り、アクションプランをたてる 実践報告 今年度に実践した行事を振り返る。
2月13日(金)	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 次年度事業計画発表・園目標決め	振り返り、アクションプランをたてる 事業計画を理解し、次年度の目標を決定。
3月1日(日)	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度行事計画策定	振り返り、アクションプランをたてる 次年度計画。プロポーザルを基に、子どもたちに経験させたい行事を決定する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
施設長勉強会	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉系列園OJT研修

様々な形態の当法人の系列園にOJT研修に行き、学び合い、助け合い、支え合い、互いに高め合える関係性を作る。

8.地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

今年度は積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただき、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。
また、積極的に園開放することで、地域の子育て支援に貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　目標：５００名
青空保育（保育園主催）	月I回　　公園名：目黒銀座児童遊園にて　　目標：50名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	老人ホーム訪問、地域の高齢者サークルとの交流
異年齢交流	小中学生との交流

地域拠点活動	中目黒夏祭り参加、商店街ツアー、
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

「５歳児と小学校１年生との年間連携計画」に沿って子ども間、スタッフ間の交流を深め、実態を知る。またアプローチカリキュラムを保育計画に取り込み、小学校への接続がスムーズになるような学びに向かう準備をしていく。

【育みたい資質・能力】
ア）「知識及び技能の基礎」豊かな体験を通じて、感じたり気付いたり、分かったり、できるようになったりする。
イ）「思考力・判断力・表現力の基礎」気付いたり、できるようになったことなどを使い、考えたり試したり工夫したり、表現したりする。
ウ）「学びに向かう力、人間性等」心情、意欲、態度等が育つ中でよりよい生活を営もうとする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	中目黒小学校　1年	２名予定	授業参観	スタッフ間交流
12月頃	中目黒小学校　1年	11名予定	学習発表会参加	子ども間交流
２月頃	中目黒小学校　1年	11名予定	小学校体験	子ども間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上計画をたてる。
月1回のケース会議で振返りとスタッフ間の共有を行い、見直していく。

〈2〉毎月のケース会議開催

月1回開催予定　参加者：５名予定
発達支援つむぎ上目黒ルームと合同で行い、専門性を生かし子どもを多面的な視点で捉えていくよ

うな会議とする。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の引継ぎは児童指導要録、また各校の担当スタッフとの面談によって行う。

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：200名 10:00～12:00と13:00～16:00のは2名のスタッフを配置。
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：２０名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　目標：５０名
どろんこ芸術学校・どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　目標：５０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：目黒銀座児童遊園にて開催　目標：100名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度は受審予定なし

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年6月25日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：１４時00分
自己評価実施予定者：清水　郁、岡田里菜

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈１〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	①まずは安心・安全を確保し、一つひとつの基本活動の本質を深く理解し、やらされる活動ではなく自らの意志で行うことを大切に実施する。 ②一人ひとりを丁寧に視て深く理解し、必要な環境を考察し続ける。 ③目黒区初の発達支援事業との併設施設として、地域に知っていただくためにインクルーシブ保育を発信していく。
	重点施策	①理念・方針の意味をしっかり理解するために園会議はスタッフ研修の場とし、学びを深める。 ②子どもの姿共有チャットの活用し、月１回子どもを知る会議を行い必要な環境を追求し続ける。。 ③Instagramとブログでインクルーシブ保育を発信する。
2026年度	目指す姿	①併設園としての意義を理解し、実践する。そして、地域に必要な施設となる。 ②子育て支援センターとして地域のニーズをキャッチし、必要な支援を提案していく。
	重点施策	①保育園とつむぎの役割を追求し、真のインクルーシブ保育の実現に向けて事例検証を継続していく。 ②様々な支援を企画し、地域のニーズを知りデータに残す。
2027年度	目指す姿	① 生きていく上で必要な事、モノ、労働を年長児を中心に自ら考え、それぞれの個性を生かし、主体的に生活する文化ができる。 ② 地域に認められ、地域に選ばれ、地域になくてはならない保育園となる。
	重点施策	① 園運営を年長児と一緒に考え解決していく仕組みを作る。 ② 前年、前々年度のデータから上目黒どろんこ保育園に求められるニーズをキャッチし、年間子育て支援計画に組み込んでいく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：上目黒どろんこ保育園　施設長　松久保　陽子

２０２５年度　メリーポピンズつくば駅前ルーム
事業計画書

Ⅰ.基本方針

～一人ひとり育ちを大事に、成長を楽しむ～

保育者は子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止め、成長を見守っていく。養護と教育が一体となる保育を目指し、子どもの自己肯定感や生きる力を育む。また、子どもの人格形成や思考力の土台となる時期に関わる重要性を理解し、AI社会を生きるこれからの世代だからこそ、自分で考えて行動する力を育んでいく。そのためには子どもを真ん中におき、子どもにとって必要な体験の意義を理解しながら以下の方針のもと全スタッフが保育の質の向上を目指していく。

① 一人ひとりの育ちを大切にした丁寧な保育
② 子ども主体の意味・意義を理解した保育の実践
③ 人とのつながりを通して考え、伝え、葛藤し、協働する経験を重ね、にんげん力を育む
④ 子どもの生きる力を育む基本活動と環境教育の実践

～混ざり合い、語り合う～

保育の質を向上させるためには、学びはもちろん、対話が重要である。併設園として子どもも大人も混ざり合い、対話を大事にしていく。スタッフ間や子どもとの対話を丁寧に行っていくことで障害の有無にかかわらず、子どもたちの力を信じ、生きる力、意欲を育み多くの経験が出来る保育の場を以下の方針のもと提供していく。

① 障害の有無を問わずすべての子どもが自然に混ざり過ごしていく環境づくり。
② 保育・発達支援スタッフなどが交わり、対話を重ねることで互いの専門性を尊重しながら保育の質の向上を目指す

〈１〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動の取り組みの確立
	実践予定内容	活動の意義を理解したうえで、日々の保育に取り組む。PDCAサイクルで検証と分析を繰り返しながらアップデートし、子どもの現状に合わせながら活動の充実を図る
2	計画・ねらい	丁寧な養護の関わりの充実
	実践予定内容	乳児は特に大人との信頼関係、愛着関係を基盤とし生活していくことが重要である。子どもの情緒の安定を図りながら生活できるよう、丁寧な関わりの重要性を学び続ける。丁寧な関わり、まなざしを持って保育を行う。
3	計画・ねらい	語り合う保育の実践
	実践予定内容	話し合いでは生まれない、子どもを捉えた語り合いを大事にする。その日その時の目の前の子どもの姿やスタッフ同士の今の思いを話すことで、大人も子どもも互いに受け止めてもらえる安心感を持ち、保育の充実を図る。保育士、発達支援スタッフ等様々な専門性を活かしながら対話を繰り返すことで一体感を作る。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に寄り添った保護者支援
	実践予定内容	新しい環境での不安や戸惑いに丁寧に寄り添い、傾聴することで保護者支援を行う。 家庭や園での様子を伝えあう中で必要に応じてアドバイスをすることで共に子育てをする。
2	計画・ねらい	明るく元気な挨拶
	実践予定内容	生活する中で挨拶は基本中の基本である。顔を合わせて、明るく挨拶をすることを徹底し、安心感と信頼関係を構築していく。
3	計画・ねらい	丁寧で落ち着いた保護者対応
	実践予定内容	保護者がほっと一息つける場所にしていく。そのためには、急がず、落ち着いてゆとりを持った送迎時の対応を行っていく。 立ち振る舞い言葉遣いなど接遇について学び、定期的に振り返りを実践する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援の取り組みの発信
	実践予定内容	駅ビル内という立地や、近隣に住宅がある環境を活かし、子育て支援の取り組みの発信・広報活動を実施していく。
2	計画・ねらい	子育て支援の取り組み内容の充実
	実践予定内容	自然食堂、芸術学校などの活動内容を地域の子育て世帯へ向け広報活動を積極的に行っていく、来訪者が興味・関心を持てるような内容の工夫をする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	互いを知り、チームの基礎をつくる
	実践予定内容	積極的に対話をすることで互いを知り、保育士や発達支援スタッフ等専門の枠を超えて、受け止め認め合いながら自己肯定感を育む。語り合いを大事にするために、発言しやすい風通しの良い職場を作る。
2	計画・ねらい	リーダーの育成
	実践予定内容	職員間で気づきを言い合える、保育や子どもの姿を語り合うことを繰り返し、指示を待つのではなく保育者として主体的に能動的に働けるスタッフの育成を行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践予定内容	生き物をさばく経験を通して命の大事さ、食事の大切さ、食の循環について知る。
2	計画・ねらい	身近な物での堆肥つくり
	実践予定内容	野菜くず、落ち葉など身近な物を活用し堆肥作りを行う。活動を通して食の循環について興味関心を持つ。

3	計画・ねらい	畑仕事や生き物の世話の取り組み・身近な物での堆肥つくり
	実践予定内容	プランター栽培など環境をいかした畑仕事を実践していく。 近隣園に出かけるなどしながら、生き物の世話をする経験をしたり、畑仕事を体験したりする中で自ら環境と関わる機会を設ける。その中で、協働すること、気持ちに折り合いをつけながら責任を持って世話をすることを大事にしていく。

〈6〉チーム作り

1	計画・ねらい	チーム力の土台作り
	実践予定内容	毎月園会議で互いを知るレクリエーション等を行いながら信頼関係を築いていく。相手を知り、自分を知りながらコミュニケーション力を高めていく。
2	計画・ねらい	同僚性の構築
	実践予定内容	対話やチーム力を高めるワークを実践しながら、チームで保育をする共通認識を構築していく。
3	計画・ねらい	自園の課題から見えるチーム作り
	実践予定内容	コミュニケーションをとる中での課題をスタッフ間で共有し、課題を強みに変えられる学びの場を設けていく。

〈7〉接遇と美観

1	計画・ねらい	思いやり、誠実さ、謙虚さなど心を込めた立ち振る舞い
	実践予定内容	保護者だけでなく、職員間でも思いやりを持った振る舞いを心がける。忙しさで忘れてしまいがちな部分でもあるからこそ一人ひとりが意識し根付かせていく。
2	計画・ねらい	必要な物以外置かない美観の徹底
	実践予定内容	物が置かれた状態を一日の中でリセットする時間を設け、常に必要な物以外ない状態を定着させる。元の場所に片づける、散らかった状態を見過ごさないなど、大人が背中を見せていくことで子どもにも身の回りの整理整頓の習慣を身につけていく。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	8人	10人	12人	12人	12人	60人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	4人	補助	0人	調理	0人	事務	0人

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返り　行事等の確認　園内研修
給食運営会議	月1回	食事の様子　アレルギー児の確認　　食育活動の共有
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの分析　危機管理等の共有
ケース会議	月1回	要支援児の現状と課題の共有
クラス会議	隔週	保育計画についての共有　子どもの情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内の情報共有　事故防止委員会
施設長勉強会	月1回	テーマに沿った研修、情報交換
食育会議	年4回	食育や食の循環教育活動に関する研修　実践報告
保健会議	年4回	衛生管理や感染症についての研修
主任会議	月１回	テーマに沿った研修　主任の役割について
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに沿った研修　実践報告、情報交換
併設園会議	年2回	テーマに沿った研修　実践報告、情報交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	健康管理、衛生管理、感染症流行時、発生時の対応
安全対策係	施設内外の遊具、設備等の安全点検　職員の危機管理の共有
防火管理者	災害を想定した訓練の実施　設備の点検
食品衛生責任者	マニュアルに基づいた衛生管理　給食の提供
畑係	畑計画の作成　　年間を通した畑の管理　種、苗の購入
生き物係	飼育の管理　　堆肥作り　エサの管理、購入

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	サポーターズと協同での企画、運営　地域を巻き込んだ行事の実施

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・一人ひとりの欲求を満たし、情緒の安定を図る ・新しい生活に慣れ、生活リズムを整えながら安心して過ごす ・身近な大人との信頼関係のもと様々なことへの興味関心を育む
	下半期 0～1歳児	・自ら様々な事象に関わり、感性を豊かにする ・身近な大人との信頼関係が構築され自分の気持ちを安心して表出する ・一人ひとりの遊びを保障していく
幼児保育	上半期 3～5歳児	・生活に必要な習慣を身に着けていく ・興味関心を持ったことに自ら関わり主体的に遊びを進めていく ・言葉や行動で自分なりに思いを伝えようとする
	下半期 2～5歳児	・話し合ったり、試行錯誤したり仲間と協働で遊びを進める力を育む ・自己決定しながら主体的に生活する ・自分で考えたり、工夫したり、判断したりしながら創造性を培っていく
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	家庭的な雰囲気の中で大人も子どもも緒に食べる 一人ひとりに合わせた食事や食生活を整え、食への意欲を育む
	実践予定内容	一緒に食べたい人と食べたいものをおいしく食べられる環境を整える。家庭と連携を図りながら、一人ひとりの食事の様子を把握し、食に対する意欲を育んでいく。
2	計画・ねらい	四季や伝統行事の食文化を学ぶ食育活動の実施
	実践予定内容	旬の食材や伝統行事の食事など食育活動を通して伝え、季節を感じる機会を持つ
3	計画・ねらい	食材を加工する体験活動を通して食材に興味関心を持つ 食の循環や環境へ自ら関わろうとする意欲を育む
	実践予定内容	堆肥作り、コンポストなどの取り組みを、子どもたちと一緒に行いながら、食に対する意欲を育んでいく。素材そのものや、加工の過程を知る活動を行うことで食材や食への興味関心を広げていく

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い、歯磨きの指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施

	６～７月頃･･･胃腸炎　プール熱 １月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･0名より預かり済み／　　にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在0名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員19名については３月２１日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	緊急時薬の更新確認　　感染症発生時の情報共有 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診　年２回／6･11月

		歯科健診　年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	自ら選択し遊び込める環境設定
	実践予定内容	子どもの姿を踏まえた環境構成を実施する。遊びが途切れず、昨日の続きができる環境を日々整えていく。
2	計画・ねらい	子どもの「やってみたい」と思う気持ちを表現できる環境作り
	実践予定内容	ゾーンごとの物的環境や人的環境を整え、子どもがやってみたい遊びや活動を実践し、主体的に関わる経験を積んでいく。 子どもの興味・関心を捉え、自分の意志で生活や遊びを選択できるよう環境を整える
3	計画・ねらい	環境の再構築の実践
	実践予定内容	日々子どもの姿を語り合い、目の前の子どもの興味・関心や発達を把握し、適宜環境を再構成していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	手作り遊具　なし		

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月様々な災害を想定した避難訓練を実施することで非常時にも速やかに対応できるよう訓練を行う。
2	実践予定内容	怪我や事故が発生した場合には、都度検証と分析を行い同じことが起きないよう職員間で共有する。自園、他園の事故記録簿の共有、ヒヤリハット、インシデントを毎月分析することにより危険意識を高めていく。
3	実践予定内容	会議にて光化学スモックについて確認し発生時の対応の共通理解を図る。
4	実践予定内容	水色ビブスを着用したスタッフは人数確認リーダーとして適宜人数確認を行い、他スタッフとWチェックの共有をし、責任を持って行う。
5	実践予定内容	ハザードマップ、ルートマップの作成、年3回の見直しの実施
6	実践予定内容	園内外の死角、危険個所のすり合わせを行い、共通認識を持つ

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育に興味を持ってもらえるよう、中高生の職場体験を積極的に受け入れていく。実習生は保育の面白さ、魅力を感じてもらえるよう責任をもって丁寧な指導を行う。安心して実習に臨める環境を整えることで次世代の人材育成につなげていく。

1	実践予定内容	中高生の職場体験の受け入れ
2	実践予定内容	実習生の受け入れ
3	実践予定内容	養成校のボランティアの受け入れ

7.スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権擁護について・虐待防止研修	子どもの人権の尊重、虐待について学び、自身の保育について考える。人権擁護チェックリストを活用してスタッフ間で共通認識を持つ
5月9日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「最低限身につけておきたい社会人のマナー」を用いてビジネスマナーを学ぶ	社会人としての立ち居振る舞い、接遇ができるよう学びの場を設ける。一定の基準で対応できるよう共通認識を深める。
6月13日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 夏場の安全管理について	夏に向けて水の扱い方、水分補給などの夏場の過ごし方について学び、危機管理意識を養う。
7月11日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「保育を嫌いになりそうになった時の処方箋」(井上さく子)を用いて丁寧な保育について学ぶ	自分が保育の中で大事にしたいことは何かを考えながら、丁寧な保育実践に向けて学ぶ。丁寧な保育に対する目線を合わせる。
8月8日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「実践から学ぶインクルー	インクルーシブ保育について理解を深め、同じ認識のもと保育実践ができるよう学ぶ。自園の保育を振り返

		シブ保育」を用いて保育を学ぶ	り、実践につなげる
9月12日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「SIDS家族の会から学ぶ命の重さ」(田上克男)を用いて生存確認について学ぶ	生存確認の意味や意義を再度確認することで日々行っていることの重要性の理解を深める。万が一を防ぐための生存確認の方法、緊急時の対応について学ぶ。
10月10日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権擁護について・虐待防止研修 ③ 園長大学®保育士大学「心を育てる保育環境」(佐藤将之)を用いて環境について考える	現状の環境やこれまでの環境を振り返り、遊び込める環境か、主体的に関われる環境かを見直しながら実践につなげていく。
11月14日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ②エピソード研修(対話による保育の視野の充実)	対話を通して様々な保育観や保育の仕方を学び、各自保育の視野を広げ充実を図っていく。
12月12日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修(対話から子ども主体の意義を考える)	対話を通して子どもの育ちを捉え、子ども主体の意義を考えながら学びにつなげていく。
1月16日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保育について考える	7月の園内研修の学びをもとに、丁寧な保育を振り返る。振り返りをもとに今後に向けての保育実践を考える。
2月13日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り	クラスごと一年間の振り返りを行い、次年度の保育につなげる。
3月13日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の計画	法人の理念や園目標に基づき子どもにとって必要な経験を考え次年度の計画を立てる。

エリア研修予算内訳　救急救命講習（つくばどろんこ保育園・万博公園どろんこ保育園・学園の森どろんこ保育園・守谷どろんこ保育園・香取台どろんこ保育園・アイビー保育園・ほしのこ保育園・おひさま保育園合同開催）

救急救命講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	会場	総予算	按分予算
6月14日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円
6月21日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子育て世帯に向けて、子育て支援活動や園行事などを発信していくことで地域の遊び場として根付き活用される園になる。学校、商業施設、高齢者施設などとの交流活動が積極的に持てるよう地域を知り、様々な人と関わる機会を設けていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：つくば市中央公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回

世代間交流	老人福祉施設訪問
異年齢交流	小中高校生との交流
地域拠点活動	子育て支援ちきんえっぐ　実習生受入れ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

９.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

スムーズな接続に向けて、スタッフ授業見学や行事見学等様々な交流の場を設けていく。また、アプローチカリキュラムを作成し保育を実践していく。情報交換会などでは丁寧な引継ぎを行っていく

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
４月頃	吾妻小学校 松代小学校 葛城小学校	３名予定	新年度挨拶 保幼小連携計画について共有	職員間交流
6月頃	吾妻小学校 1年	３名予定	授業見学	職員間交流
11月頃	吾妻小学校 1年	12名予定	校内見学、授業見学	子ども間交流
2月頃	地域の連携校と連携園	1名	就学児の共有連携	職員間交流

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

発達支援スタッフと共に、半期の計画を年度初めに作成し、月ごと一人ひとりの発達に合わせながら必要な支援計画を作成する
月に１回ケース会議内で現状の課題や今後の支援について話し合い、保護者とも共有しながら計画を見直し作成していく

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定　参加者：5名予定）
支援計画をもとに、一か月の子どもの様子や取り組みについて振り返りを実施する。現状を共有し今後に向けた支援の共通理解を図る。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

幼保小連絡会の資料や保育児童要録を作成する。保護者とも綿密な連携を図り丁寧な引継を行う

11.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：50名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	隔週（水）10:00～12:00　　集客目標：30名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：つくば市中央公園にて開催　集客目標：10名
地域子育て支援センター運営	（月）～（金）10:00～16:00　（昼休憩1時間）
出張子育て広場	隔週1回　場所：かとりだい交流館

12.園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2026年2月13日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：18時30分
自己評価終了予定時刻：19時00分
自己評価実施予定者：全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	2025年4月開園のため　記載なし
	振り返り	同上

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・どろんこ会の基本方針の理解を深め、養護と教育を丁寧に実践 ・一人ひとりの育ちを捉えた丁寧な保育の実践 ・丁寧な関わりによる保護者との信頼関係の構築及び接遇の充実 ・細やかなコミュニケーションが図れる同僚性の構築 ・地域性をいかして、地域に根付く活動の実践
	重点施策	・スタッフ一人ひとりが基本方針やその他の取り組みの意義を理解し養護、教育を一体的に行いながら子どもの最善の利益を保障する。 ・一人ひとりの育ちを理解し、心の安全基地になることで子どもが意欲的にのびのびと生活できる園を目指す。 ・“コミュニケーションの基本は挨拶から”をモットーに子ども、スタッフ、保護者、来訪者にとって気持ちの良い対応を徹底し、安定した信頼関係を築く。 ・駅ビルという地域性をいかし、様々な人と関われる場をつくることで地域に根付く取り組みを実践していく。
2026年度	目指す姿	・どろんこ会の基本方針をもとに、スタッフ一人ひとりの生きる力・にんげん力の向上を目指す。 ・選ぶ、学ぶ、経験する、失敗を繰り返しながら大人も子どもも意欲的に過ごせる環境作りを実践する。 ・地域との活発なコミュニケーションを構築する。
	重点施策	・どろんこ会の基本方針を理解し、子どもにとって必要な経験を大事にしながらやりたいことを自ら発信していく。その中で、大人も子どももtrial＆errorを繰り返し、経験を積んでいくことで学びややりがいにつ

		なげ、にんげん力の向上につなげていく。 ・保育を実践していく中で、地域交流やコミュニケーションを図り、より良い関係作りを目指していく。
2027年度	目指す姿	・丁寧な保育による質の高い保育の実践 ・リーダーシップのあるスタッフを中心とした、自立した保育士集団の構築 ・ホスピタリティ精神の向上 ・自園の強みを確立し発信することで、選ばれる園を目指す。
	重点施策	・保育実践に対する学びや語り合いの場を増やし、スタッフ一人ひとりが願いや思いを持って保育を実践できるようにする。 ・リーダー的スタッフを中心に子どもにとって必要な経験を主体的に提案、実践する集団を目指す。 ・相手の立場に立ち、寄り添いながら対応できる接遇力を身につけ、すべての方が気持ちよく過ごせるようにする。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：メリーポピンズつくば駅前ルーム 施設長　山本　明子

２０２５年度　小平どろんこ保育園　事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人の子育て理念「にんげん力。育てます。」、子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を実現し、育てたい6つの力を育める保育を実践していく。
また、与えられた環境の中で子どもたちのために何ができるかを常に考え、主体的に行動できる自立したスタッフ集団となり保育の質を高め、選ばれる保育園を目指していく。

開園1年目：原点を知り、以下の項目をひとつひとつ丁寧に行っていく。
原点の深い理解～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～
①　「基本活動」を深く理解する～ホンモノの体験を～
②　「畑仕事・生き物の世話・堆肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
③　「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

また以下の項目に力を入れて取り組んでいく。
①自分で考え行動できるようになるための生活力を、体得できる保育実践を行う。
②10の姿を体得できるように、小学校就学から逆算した保育計画の見直しを行う。
③子どもが自らいつでも経験の選択をすることができるように、人的環境・物的環境を整える。
④守る支援・強制する支援ではなく、すべての園児がともに育ちあえる保育実践を行う。
またその保育実践を保護者に積極的に伝えていく。
⑤命をいただく活動の実践を行う。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動を深く理解する
	実践予定内容	スタッフ一人一人が基本活動を深く理解できるように、園内研修に力をいれる。
2	計画・ねらい	畑活動・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧に行う
	実践予定内容	乳児クラスでできることを考え、課題点を抽出しPDCAサイクルで確実に行えるようにしていく。
3	計画・ねらい	混ざるのその先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する
	実践予定内容	今行うべき支援を考え、園児がともに考えそだちあえるような保育実践を行えるように園内研修に力を入れる。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

朝は「行ってきます。」と安心して仕事へむかい、お迎えの時は子どもとスタッフの笑顔でホッとできる保育園を目指す。

1	計画・ねらい	保護者の方々が安心して預けられるような、丁寧で細やかな保育実践を行い、お迎え時の保護者対応で、1日の様子を手に取るように伝えていく。
	実践予定内容	どのスタッフが対応しても質の高い対応ができるように、園内研修を行いスキルアップにつなげていく。保護者が話しかけやすいようにスタッフが常に落ち着いて保育する。また伝達担当スタッフ以外のスタッフも、機会を見つけてエピソードを積極的に伝えていく。

2	計画・ねらい	お迎え時に待った気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕組みつくりをする。
	実践予定内容	お迎えが多い時間帯に保護者様の待っている列が長くなってしまった場合は、伝達担当以外のスタッフも伝達に出る等の配慮を常にしていく。正面玄関に作品やドキュメンテーションを置き、待たされたと思わせない仕組みを工夫していく。
3	計画・ねらい	保護者会、個人面談でお子様の様子だけでなく、園全体の保育の様子を細やかに伝え、とも育てができるようにしていく。
	実践予定内容	日々の保育の様子や成長を伝え、子どもたち同士で育ちあうことの良さを伝えていく。個人面談は全クラス年2回（6月・11月）に行い保護者との信頼関係を築いていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

地域の方がいつでも気楽に立ち寄れる「地域に開かれた拠点」となるように、子育て支援センター事業の活動を活性化し、広めていく。

1	計画・ねらい	小平どろんこに子育て支援事業があることをたくさんの方に知ってもらえるように、広報に力をいれる。
	実践予定内容	日々立ち寄りやすい場所となるような取り組みに力をいれ、集客率をあげる。園の前にその月の活動を掲示し、利用しやすい工夫をしていく。また、散歩先の公園でパンフレットを配布して多くの方に小平どろんこに子育て支援センターがあることを知ってもらう。近隣施設にもパンフレットを置かせてもらい、交流していく。
2	計画・ねらい	青空保育・出前保育の内容を充実させ、集客率をあげる。
	実践予定内容	青空保育・出前保育ともに、参加したくなるような内容を検討し実施していく。また、広報に力を入れていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

与えられた環境の中で子どもたちのために何ができるかを常に考え、主体的に行動できる自立したスタッフ集団となるために、主体的に学び合えるよう園内研修、法人内園長大学や保育士大学の研修等を積極的に受講しインプット・アウトプットを行っていく。職種や立場を超えてディスカッションができ、高め合えるスタッフ集団となるために、話し合える機会を多くし意見を言い合える雰囲気作りをしていく。

1	計画・ねらい	園内研修を定期的に行いインプット・アウトプットの機会を多くする。
	実践予定内容	園の課題となる分野の研修を行い、必ずディスカッションできる時間を設ける。その中で様々な考え方を学び、自分の意見も言えるような雰囲気作りをしていく。
2	計画・ねらい	基本活動の理解を深めるために、毎月研修を行い、理解を深めながら実践していく。
	実践予定内容	園長大学、保育士大学の講座を利用し毎月研修を行って理解を深めていく。また学んだ内容を実践し園の課題を見つけより良い活動になるようにしていく。
3	計画・ねらい	マネジメント力をつけ、業務時間内に業務が終了できるようになる。

	実践予定内容	自分自身の仕事量、仕事のスピードを把握し自分にあったマネジメント力が身に着けていけるように研修や他のスタッフのマネジメントの仕方を学んでいく。また、自分だけでなく他スタッフとも協力し、全スタッフが時間内に仕事が終えられるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材を加工して給食でいただく。
	実践予定内容	食材を加工して出来上がっていく工程を楽しめるように工夫しながら行う。（味噌作り・梅干し作り・梅ジュース・切干大根等）
2	計画・ねらい	給食残渣を減らす。
	実践予定内容	子どもたちに命をいただいていることやSDGsの話の中から食べ物を大切にすることを伝えていき、給食残渣減少につなげていく。

〈6〉基本活動に深い理解

1	計画・ねらい	さくらんぼリズムの基本を学び実践する
	実践予定内容	さくらんぼリズムの理論と動きの研修を行い、理解を深めていく。
2	計画・ねらい	怪我をしない強い身体を育てる保育の基本を学び実践する。
	実践予定内容	怪我をしない強い身体作りのために行っている活動を理解し、ひとつひとつ丁寧に実践していく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた拠点となるための計画をたて実行していく。
	実践予定内容	地域の方に積極的に関わり地域に愛される保育園の基盤をつくる。商店街ツアーを確実に行い交流の場を広げていく。

〈7〉混ざるのその先へ

1	計画・ねらい	発達障害の正しい理解を深め、今行うべき支援を考え行動に移す。
	実践予定内容	発達障害を正しく理解するための研修を行い、行うべき支援をスタッフ全員で考えていく。
2	計画・ねらい	子ども自身が活動・玩具等を選び、主体的に遊びこめる環境を整える。
	実践予定内容	子どもの発達にあった環境を都度話し合い、主体的に遊びこめる環境を整える。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
0人	12人	18人	26人	26人	26人	108人

〈2〉開所時間

7時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　(3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	10人	栄養士	2人			
パート スタッフ	保育士	3人	事務	1人			

3.運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の懸案事項検討、園内研修、行事内容の確認等
給食運営会議	月1回	喫食状況報告、アレルギー、離乳食状況共有、食育計画
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、自園・他園の事故記録簿に基づき事故再発防止策検討
ケース会議	月1回	発達の気になる子の情報共有と支援計画作成（振り返り、来月の支援計画）
リーダー会議	月1回	リーダー層における園の課題抽出と検討
各クラス会議	週1回	クラス運営検討（週案・月案の立案）、情報共有
乳児会議	月1回	乳児クラスでの情報共有、課題検討
非常勤職員会議	随時	情報共有、懸案事項検討等
子育て支援センター会議	月1回	振り返り、次月の予定、集客数の確認等
各行事会議	随時	各行事企画等の詳細検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	本部より園運営に関する事項の確認
施設長勉強会	月1回	施設長としての保育における課題点のディスカッション
食育会議	年4回	園の栄養士、施設長による食育の質をあげる研修
保健会議	年4回	看護師、施設長による保健活動の質をあげる研修
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有。マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	園代表スタッフによる保育内容に関する研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	室内外の衛生状況の確認、および徹底
安全対策係	保育環境の検討、整備、確認
防火管理者	火災予防と有事の際の避難訓練計画及び実施
食品衛生責任者	食材の発注及び品質管理
畑係	年間計画をもとに畑の管理、必要物品の手配
生き物係	生き物の世話全般の計画、実施、餌等の必要物品の手配

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、実施。保護者への呼びかけ。
運動会係	運動会の計画、実施。
生活発表会係	生活発表会の計画、実施。

４.保育方針

〈１〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・ゆったりとしたかかわりの中、安心して1人遊びを充分に楽しむ。 ・1人ひとりの子どもの気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな発達を促す。 ・よく遊び、よく食べ、よく眠る。 ・安心できる大人との関わりの中で、人に対する信頼感、自己肯定感を育む。
	下半期 0～1歳児	・好きな遊びに熱中し、戸外や室内でたっぷり遊ぶ。 ・安定した関わりの中で、自我が芽生え、自分の要求や思いを伝えようとする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・友達との関わりやぶつかり合いを通して、自分の気持ちを言葉や行動で表現し、相手の気持ちを知ろうとする。 ・色々なことに意欲的に取り組み、達成感を味わう。
	下半期 2～5歳児	・自分の要求や思いを言葉や行動で表現しながら、友達の要求や思いも受け入れようとする。 ・自分たちで考えた遊びに意欲的に取り組み、継続的な活動に期待を持ちながらすごす。 ・自分の感じたことイメージしたことを色々な方法で表現する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈２〉年間行事計画

・２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈３〉給食・食育運営方針

今食べているものが自分の身体を作っていることを知り、食も自分も大切にする心を育てる。
また全職員で法人の3大食育方針の理解を深め、方針を実現するための人的環境、物的環境が整えられるようにスタッフのスキルをあげていく。

1	計画・ねらい	命をいただいていることを知り、食べ物を大切にする心をそだてる。
	実践予定内容	自分たちで育てた野菜を食べることによって命をいただいいることがわかるように伝えていく。

2	計画・ねらい	自分たちで準備、盛り付け、配膳して食べることができる環境（人的・物的）を整え、意欲的に食事できるようになる。またスタッフも一緒に食べ楽しく食事ができる環境を整えていく。
	実践予定内容	子どもたちの発達に応じた環境を設定し、体系的な取り組みを構築し、実施する。スタッフは、自分の担当しているクラス以外でも一緒に食べるようにしていく。
3	計画・ねらい	子どもたちが主体的に畑仕事に取り組み、栽培→収穫→調理→食べるというサイクルを体験する中で食に関する興味、関心を育てる。畑仕事が日課となるように、スタッフと一緒に毎日丁寧に取り組む。
	実践予定内容	スタッフが毎日一緒に行う中で、子どもたちが主体的にかかわれるように、大人の見守る姿勢を大切にする。また主体的に行う中で、トライアンドエラーを体験できるようにしていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・12月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取り組み等	自分で自分を守る力をつけるための指導や取り組みを行う。（感染症について、手洗い・うがい・咳エチケット・怪我をした時等）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月～1月月頃･･･ノロウイルス 12月～2月頃･･･インフルエンザ・ロタウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップその他の薬･･･預かり無し
エピペン使用できるスタッフ	4月に全スタッフでエピペンが使用できるように研修を行う。 未受講の新入職員については9月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	・園内研修（感染症・衛生マニュアル・怪我の対応等）を行う。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/ 保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6･12月 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子どもが自ら遊びたい場所で、遊びたい空間をつくることができる環境を目標に、環境を整えていく。施設全体が、必要なものが必要な場所に整理整頓され、誰がいつ来園しても気持ちの良い環境を整える。

1	計画・ねらい	【園庭】自分たちで環境に働きかけて遊びが作りだせる環境
	実践予定内容	大人が作りこみすぎずに、自分たちで設定を変えられるような環境作りをする。 また、草花のエリアをつくり虫さがしや草花を使って遊ぶことができるようにしていく。

2	計画・ねらい	【保育室】発達にあわせた遊びこめる環境
	実践予定内容	くつろげる空間・好きな遊びを選んで集中して遊びこめる設定を考えて環境を設定する。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者がいつ見ても気持ちの良い施設
	実践予定内容	清掃は役割分担、範囲、きれいの基準を明確にし、常にきれいな状態が保てるようにする。また第三者の目線でチェックを行い、気持ちの良い状態を保てるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

無し

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	【防災】毎月1回避難訓練実施。火災、地震発生時の避難方法を確認検討。
2	実践予定内容	【防犯】年2回不審者訓練実施。不測の事態に備える。
3	実践予定内容	【事故防止】ハザードマップの適宜更新。事故防止委員会にて再発防止策を検討し全職員に共有
4	実践予定内容	【光化学スモッグ】小平市からの情報をもとに、園児の室内待機、保護者へのお知らせを徹底する。
5	実践予定内容	【SIDS防止】午睡チェックの徹底。SIDSの園内研修を実施し危機管理能力を高める。
6	実践予定内容	【怪我をしない強い身体をつくる】日々の活動の中で注意して取り組む。
7	実践予定内容	【情報共有】全ての事項の情報共有を強化し、システムを構築していく。（朝礼、クラス会議、園会議、事故防止委員会、リーダー会議等）

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

全職員が「未来の保育士を育てる」という責任をもち、実習生や中高生を温かく受け入れる。
また保育の仕事の楽しさや、やりがいを伝えられる受け入れを実践していく。

1	実践予定内容	【保育士養成校の実習生受け入れ】 オリエンテーション時に、細かく実習に向けての希望を聞き、気持ちに寄り添いながら実習計画を立て、意欲を高めていく。 実習中は質問しやすいように、必ず担当者を付けて丁寧に質問に答えられるようにしていく、またそれに対応できるようにスタッフのスキルをあげていく。
2	実践予定内容	【中高生の職業体験受け入れ】 保育の仕事の楽しさや、やりがいが伝わり、将来の職業の選択肢のひと

		つとなるように受け入れていく。
3	実践予定内容	【一般及び学生の各種ボランティア受け入れ】 地域に開かれ、地域に根差した保育園となるように可能な限り受け入れ、地域の方々とのつながりを深めていく。

7.スタッフ育成と研修計画

全スタッフが主体的に学び合い、行動できる人であるために高めあっていく。
職種や年齢、立場を超えて話し合いができるスタッフ集団となることを目指していく。

〈1〉２０２５年度 園内研修計画
（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 安全管理（散歩、園庭、室内）	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 各場所に安全管理の方法をロールプレーしながら理解する。
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②保護者対応	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 保護者対応について事例を基に研修する
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びについて	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 水遊びのリスクと楽しさを学び7月からのプール遊びに備える。
7月18日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② さくらんぼリズム	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 実際に動きながら正しいリズムを学ぶ
8月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらんぼリズム	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 実際に動きながら正しいリズムを学ぶ
9月19日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 畑仕事	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを

			立てる。 ② 自園の畑の課題を抽出し学び合う
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 畑仕事	① 自己採点の共有とともに次月課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 自園の畑の課題を抽出し学び合う
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生き物の世話	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 鶏の生態を学び、正しく飼育できるように学び合う。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② インクルーシブについて学び、自園での保育を振り返る。
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② インクルーシブ保育	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② インクルーシブについて学び、自園での保育を振り返る。
2月13日	18:00～20:00	策定会議	
3月1日	18:00～20:00	策定会議	

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8.地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

誰でも立ち寄りやすい拠点となり、地域に開かれた保育園となるように地域の方々と交流していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：100名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：団地内公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設への訪問
異年齢交流	小学生との交流・中高生の保育体験受け入れ
地域拠点活動	実習生の受け入れ、職業体験・研修生の受け入れ

9.小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の就学先となる小学校と連携する活動を積極的に行うことで、園児・保護者が小学校を身近に感じ、就学が楽しみに感じられるようにする。
また、小学1年生を見て知り、逆算した保育計画が立案できるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

今年度は幼児クラスの在籍がないため、交流の基盤をつくっていく。

１０.要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

毎月のケース会議で情報を共有し、支援計画の作成・見直しを行う。
また全スタッフが要支援児の情報を共有できるようにケース会議の内容を園会議にて共有する。
会議内容を共有していくことにより、全スタッフで適切な支援ができるようにしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（４～３月に計１２回開催予定　参加者：4名予定）
各関係機関と連携を取りながら、担任、リーダーを中心に毎月ケース会議を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

今年度は幼児在籍無し

１１.子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（金）10:00～16:00　　集客目標：40名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：5名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：5名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：5名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：東野児童遊園にて開催　集客目標：5名

１２.園運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定

〈２〉園による自己評価の実施

２０２５年6月20日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時30分
自己評価終了予定時刻：11時30分
自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務、栄養士

〈３〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

１３.3カ年計画の具体化

どのような状況でも、保育の質が低下しない基盤づくりに力を入れ、選ばれる保育園であるために保育の質を高めていく。また、子どもも大人も主体的に考え、学び、動く、自立した集団となり小平市で一番預けたいと思われる園を目指していく。

当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	保育の原点と何かを学び、保育の質をあげていく。自律したスタッフ集団となり、質の高い保育を提供し、接遇力、施設内外の美観を整えることで選ばれる保育園となる。
	重点施策	実践したことの課題を抽出し、PDCAサイクルを繰り返し行い、より質を高めていく。
2026年度	目指す姿	生活力、選択力、思考力を育む保育実践を行うことで、大人も子どもも主体的に考えて学び自律した集団となり、より魅力的な保育園となる。
	重点施策	2026年までに深めたものをさらにレベルアップしていく。
2027年度	目指す姿	開園３年目となり、地域に根差した保育園となる。
	重点施策	法人の目指す保育を当たり前に実践し、小平どろんこ保育園ならではの保育ができるように日々の保育を丁寧に行っていく。地域に根差した保育園となるように地域交流にも力を入れていく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：小平どろんこ保育園 施設長　山田　理子

２０２５年度　発達支援つむぎ 荻窪ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

施設運営方針「原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～」のもと、「生活力の体得」「１０の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定」「命をいただく活動の実践」「自律運営」の運営本部ミッションを実践していく。

乳幼児期から就学後の姿を連続したものとして捉え、小学校の現状を知り、逆算した支援(アプローチカリキュラム)に力を入れていく。

支援内容は、これまで大切にしてきたにんげん力(非認知能力)を育むための活動、座禅、雑巾がけ、裸足保育、畑仕事、生き物との関わりについて更に深めていく。特に畑仕事に関しては、子どもが食べ物を育てる環境に興味関心や意識を向けられるよう、畑仕事から環境教育や食育へつなげていく。

開園11年目にあたり、園内の設備や備品等をいま一度見直し、本当に必要な物を厳選しながら整理整頓を心掛けるとともに、老朽化に伴い整備を要する箇所の把握に努める。また、スタッフはにんげん力の向上に努め、子ども、保護者、地域の方、自治体の方など全ての方、発達支援業界にとって役立つことを学び、利用者家族や社会に必要とされる事業所を目指していく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	年間を通じた畑仕事から、実体験の中から様々な感触、運動を経験する（健康な心と体、思考力、数量や図形などへの関心）
	実践予定内容	畑仕事では、土づくりから子どもたちと一緒に取り組んでいく。土壌作りを科学的な視点から考え、試験紙を用いてアルカリ性や酸性を子どもが実際に確認し、野菜に適した土づくりを行っていく。土の手入れ、種まき、草取り、収穫、調理、肥料づくりなど、野菜を単に収穫するだけでなく、畑仕事に必要なサイクルを一貫して体験する。戸外で季節を感じながら、子ども自身が主体的に作物の成長に関わり、ときには他者と協力しながら、思考し行動する経験を提供する。 畑では種を撒くことや作物を間引く際、収穫をする際に数や量の概念を自然に体感することができる。また、思うように育たなかったり、歪な形になったりと困難な場面で、どうすれば上手くいくのか、トライアルアンドエラーを経験する機会を提供していく 野菜以外にも育てたいものを子どもたちと相談し、花や綿などの植物も育てていく。
2	計画・ねらい	生き物の飼育を通して生死を知る。命への理解、大切さや重みについて知り、思いやりの心を育てる（道徳性、共感性、責任感）
	実践予定内容	小さな生き物の観察や世話をすることは、子どもの豊かな心の成長を促すことができる。カブトムシの土交換、メダカの餌あげ、飼育環境の掃除など、支援の中で実際に友達と協力しながら行うことで、責任感が育まれ、仲間意識が芽生えるように支援をしていく。 生き物が卵から幼虫へ、幼虫から成虫へと変化する過程を見届け、ときには死に立ち会う経験から、命の尊さや大切さについて学ぶ機会を提供する。

3	計画・ねらい	協働でひとつの物を創り上げる経験（協同性、達成感、豊かな感性と表現）
	実践予定内容	支援中はスタッフが必要以上に介助したり、完成させることを目的にしたりせず、その過程で子どもがどのように考えたか、子どもが表現しようとしているものは何かを見極めるよう支援し、一人ひとりの表現を大切にしていく 園入口やカフェの壁面の装飾、生き物の展示スペースを子どもたちの製作物で飾り付けられるようにする。製作物を展示することで、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したり、協力したり、諦めずにやり遂げた達成感や充実感を得られるよう支援する

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	事業所内相談支援を活用し、子育てに関する相談や助言、支援方法についてアドバイスを随時行う
	実践予定内容	事業所内相談支援（個別、集団　各1回／月）の制度を保護者へ周知する。「就学について」「子どもの発達について」などテーマを変え、有益な情報発信を行っていく。また、必要だと思われる保護者には随時スタッフからも案内し、参加を促していく
2	計画・ねらい	スタッフが定期的に小学校に訪問をして現状を知り、保護者へ小学校の説明を卒園児の保護者を招いた座談会を開催し、情報交換の場を提供する
	実践予定内容	年長児の保護者は就学に向けての情報を必要としているため、つむぎを卒園した保護者にご協力頂き、情報交換の場を提供する。就学にあたり準備しておいた方が良いこと、困難だったこと、実際に就学した子を持つ保護者の体験談を話してもらい、保護者同士の連携や交流の機会を提供する。
3	計画・ねらい	当法人で行われている園長大学®保育士大学の動画にて、一般向けに配信されるものの情報発信をしていく
	実践予定内容	性教育の一般向けの講座のように、一般向けの講座があった場合保護者に周知していく。 保護者向けの講座の提案を積極的に行っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園との連携を強化する。保護者と相談しながら園訪問の時期を検討し、支援に活用していく
	実践予定内容	つむぎでの様子だけでなく、実際に子どもの所属園に訪問し、生活の場面で子どもの姿を確認する。その結果から必要に応じて個別支援計画を更新し、支援の質を高めていく。訪問時には、園の先生と具体的な支援の手立てについて共有するだけでなく、園の雰囲気や大切にしていることもなど特徴も把握する。
2	計画・ねらい	日帰りショートステイ事業を活用し、子どもや保護者にとってつむぎが安心できる場所になる
	実践予定内容	杉並区の児童通所受給者証を取得した子どもを対象に、日帰りショートステイ事業のサービス提供を行う。杉並区内の子どもが対象なため、地域の

		方に広く活用してもらえるよう周知する。児童発達支援事業だけなく、保護者のレスパイトやきょうだい児の病院受診等、支援以外の部分でも保護者の要望に応えられるようにし、子どもにとってもつむぎが楽しい場所、また行きたいと思えるような安心する場所になることを目指す
3	計画・ねらい	自治体が開催する情報交換会・実務者協議会などへの参加、所属園への園訪問、他事業所等との事例検討会への参加や情報共有、関係機関との連携を強化する
	実践予定内容	感染症予防等、安全に配慮しながら継続的に交流できるよう検討していく。実際に人の往来ができない期間は、オンラインや電話での聞き取り等を活用した連携を行う。積極的に交流できる時期が来た際に、これまで通り連携できるよう関係性を継続し続けることや、新たな関係機関との連携も積極的に行っていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	社内社外問わず、参加したい研修には積極的に参加を促す 園長大学㊙保育士大学の動画を個人だけでなく、ルーム内研修にもとりいれ、スタッフのコミュニケーション能力や支援の質の向上を目指す
	実践予定内容	ルーム内研修において、園長大学㊙保育士大学の講座を利用した研修を行っていく。また、スタッフが講座から学んだ知識や、個人の人生経験から得た知識等を園会議で共有したり、近隣園と連携して事例検討の機会を設けたりすることで、スタッフの知識・説得力・表現力も養うことで園全体の質を高めていく
2	計画・ねらい	戸外活動でのスタッフの関わり方について、子どもの最善の利益を考慮し、スタッフ同士共通見解を持ちながら支援の質を高めていく
	実践予定内容	戸外活動（畑仕事、公園遊び等）において、関わり方、見守り方についてスタッフによって差が見受けられる。動作分析におけるデータの蓄積により環境設定は整ってきているため、スタッフ全員で子どもの最善の利益を考慮し、共通見解を持ちながら支援の質を高めていく。写真や動画を用いた症例検討を定期的に行い、スタッフ間で意見交換を行う機会を増やしていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	虫を飼育することで、「命への理解や思い」「思いやり」を育む。また、飼育を通して他児と関わることで、「仲間関係」も育んでいく(生命尊重、協同性、言葉による伝え合い)。
	実践予定内容	飼育する生き物の種類を増やす（畑や公園にいる虫や水辺の生き物等を）。これまで以上に様々な生き物との触れ合いにより、興味関心を引き出しながら、生と死について考える機会を提供する。生き物に触れることで「命への理解や思い」を促していく グループ支援の中で実際に生き物に触れ、世話をしながら、変化を他児と共有し、土交換や餌あげなど定期的に作業できる環境を用意する

2	計画・ねらい	生き物に触れる力をコントロールすることで、自分の身体の使い方を知る
	実践予定内容	小さな命を扱う上で「そっと」「優しく」「ゆっくり」など、子どもが自身の行動と合わせて考えざるを得ない状況を飼育下で作り出し、力をコントロールする経験を学んでいく 時には強く握ったり乱暴に触ったりしてしまうことで弱らせてしまうことも想定されるが、子どもが様々な経験をし、感じ、考え、主体的に行動することを大切にしていく

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

９時００～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名（施設長兼務）
公認心理士２名
作業療法士１名
保育士３名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回90分	・法人内の情報共有 ・児童発達支援管理責任者、各専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。

事故防止委員会	月1回	・施設内で発生したヒヤリハット、インシデント、事故の分析と再発防止について共有 ・他園で発生した事故について共有 ・全国で発生した事故について事例検討
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
虐待防止委員会 (施設内会議にて実施)	9月、2月	・虐待の定義の確認、虐待防止マニュアルを全員で確認する
ケース会議	適時	・個別／グループ支援での課題の抽出、スタッフの認識のすり合わせ、適切な支援内容の検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
食育会議	年4回	発達に合わせた食形態、食らう力を育てる関わり、アレルギー管理
保健会議	年4回	戸外活動におけるリスク管理
子育ての質を上げる会議	月1回	サービスの質の向上、業務の効率化、事業所間の情報共有
杉並区情報交換会	年2回	区からの連絡事項伝達、事業所間の交流

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起

防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	活動の立案、計画書／報告書の作成、必要備品の準備、当日の運営、（ハザードマップ外の場合）園外保育計画書の作成

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
体験学習係	活動の立案、計画書／報告書の作成、必要備品の準備、当日の運営、（ハザードマップ外の場合）園外保育計画書の作成
地域連絡会係	近隣の他事業所との情報交換会への参加、商店や公共施設との関係づくり

4. 支援方針

〈1〉基本方針

グループ支援	上半期 3～5歳児	・畑仕事や公園活動で、直接土づくりや水遊びをするなど、自然の中で遊ぶことを体験する。畑仕事を通して食への関心を高める ・近隣の公園から徐々に歩ける距離を伸ばしていく ・戸外活動を通して基礎体力づくりを行う ・友達と一緒に活動に参加する経験から、協働する楽しみを知る ・座禅、雑巾がけ、リズム運動などの日課活動に取り組む
	下半期 3～5歳児	・畑仕事で農具の操作を通して、力加減や身体の動かし方を知る ・水や土、温かい、冷たいなど様々な感覚に触れる ・野菜を育てる過程で優しく触れたり、並べて植えたり、水を全体に撒いたりと、力や身体をコントロールする経験を積み、左右の手、上下肢、目と手など協調運動の力を養う ・収穫した野菜の調理や加工を通して食への関心を高める ・子どもたち自らが計画を立て、手段を選び、協働で完成させる体験をする ・散歩の距離を徐々に伸ばしていく

親子グループ支援	上半期 0～2歳児	・つむぎに来ることに慣れ、安心した環境で友達と一緒に活動を楽しむ ・様々な感触に触れる ・安心した場所で主体的に遊ぶ ・保護者以外の大人との関わりを知る ・保護者の子育ての悩みや不安を受容しながら、子どもの成長を感じられるよう、保護者支援を行う
	下半期 0～2歳児	・友達とのやり取りを楽しむ ・視覚や触覚など五感で体験する ・表現する楽しさを知る ・見守りを中心とした干渉しすぎない支援を心掛ける ・保護者同士の関わりを持てる場所になる
個別支援		・個別支援計画に基づき、子どもに合わせた支援を実施する ・活動は原則戸外で実施するが、子どもの希望によって臨機応変に室内活動も実施できる環境を用意する ・活動内容は子どもが主体的に選択し、スタッフはその手助けを行う関わりを心掛ける ・子どもの意欲を高める活動を提供し、「できた」という達成感を感じられる支援を目指す
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子どもに合わせた食事形態、食具（手づかみ食べ）について、定期的に支援を行う
	実践予定内容	子どもに適した食事形態や食具の支援を行っていく。特に課題のある子どもについては、動画や写真を使って勉強会を実施し、児発管や言語聴覚士

		の意見をもとに今後の支援方法について検討していく。自ルームだけでなく、他ルームとのケース検討も行う中で、様々なケースについて理解を深めて行く
2	計画・ねらい	子どもたちが育てた野菜を収穫しその場で食べたり、加工・調理を行い提供したりすることで、食への興味関心を育んでいく
	実践予定内容	子どもの「食」の興味関心を拡げる関わりを心掛ける。実際に育てた野菜を食べるだけでなく、自分が育てた野菜をソースに加工して食べたり、保護者に食べてもらったりといった直接体験重ねていく。食物を育てて食べる、食べてもらうことで、喜びを感じたり、自信を持ったりし、食への興味関心を育んでいく

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年I回
スタッフ検便	全スタッフ月I回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃･･･手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ I I月～3月頃･･･インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・ＲＳウイルス感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･ショートステイ2名より都度預かる/冷蔵庫にて保管 エピペン･･･ショートステイ2名より都度預かる/事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在4名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	未設置
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･I0･I月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回/6･I2月の25日
	避難消火訓練	毎月I回/I5日
	不審者侵入訓練	6･I2月の25日

	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	年2回/6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが主体的に活動を選択する
	実践予定内容	全ての支援は子ども自身が選択できるよう、環境を整える。戸外では畑仕事か公園かなど、その時に子どもが今やりたいことを実現し、その中で子どもの成長を促せる関わりを基本とする
2	計画・ねらい	年間を通して畑仕事を実施する
	実践予定内容	いつ行っても畑仕事を行えるよう、計画的に作物の育成を行う。収穫だけでなく、土づくり、種まき、堆肥づくり、間引きなど、畑が現在どのような状況で、どんな作業が残っているかをスタッフ全員で把握しながら管理していく
3	計画・ねらい	園の整理整頓
	実践予定内容	園内には様々な備品があるが、その備品を今一度見直し、必要なものしか置かない備品管理を徹底していく。一方で必要な物はしっかりと揃え、日々のメンテナンスを徹底する

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルＮｏ．3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手引き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い・災害発生時には対応フローチャートに従う
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルＮｏ．3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う
3	不審者対策	危機管理マニュアルＮｏ．3の不審者対策（P14）に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従う
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルＮｏ．3の光化学スモッグ対策（Ｐ15～）に則り、光化学スモッグの知識を身に着け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時の対応及び行政連絡に従って対応する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

実習生・中高生に限らず、見学や面接で来所された場合には、つむぎでの取り組みや大切にしていることを説明し、つむぎのファンになってもらえるようにする。また、オンラインでの見学にも対応できるよう園の中は常に整理整頓を心掛ける。

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。

② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を

行う。
③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切りロを変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月１回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間６回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低１名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。
（以上のナビゲーションは、本事業計画書を入力する際に削除してください。）

〈１〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理・衛生管理研修 ③ 人権チェック・虐待防止研修 ④ 就学支援について 畑仕事について	・保育品質マニュアルを用い、子どもを安心して安心して任せられる施設となるべく危機管理・衛生管理について確認する。 ・人権チェック及び虐待防止研修を行い、スタッフ全員が子どもの人権について考え、虐待の定義や概要についての共通認識を持つ。 ・職員が就学の制度について理解し、保護者の相談に乗れるようにする。 ・夏の野菜の栽培を振り返り、畑仕事についての基本知識を全員で共有する。
5月16日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの発達・特性理解 ③ 表現・絵本研修 ④ 医療受診について 救急救命研修	・それぞれの子どもの発達段階や特性に合わせた支援を提供できるようにする。 ・職員によるスキル研修を行い、さらなる質の向上を目指す。 ・医療受診に関する相談に対応できるよう知識の確認を行う。 ・緊急対応について全スタッフが対応できるよう改めてマニュアルの確

			認とAEDの取り扱いについてシミュレーションを行う。
6月20日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 個別計画作成に向けた手順と注意点 水遊びのリスク管理研修	・アセスメントの質向上および個別支援計画作成に向け、スタッフが担当するケースの支援方法をスタッフ間で検討を行う。 ・水遊びにおけるリスク管理について確認を行う。
7月18日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 発達検査研修	・心理士による発達検査研修を行い、子どもの状態像の把握や支援の構築のスキルを上げる。
8月15日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 相談支援と保護者支援	・相談支援と保護者支援について、対応の仕方や相談の受け方について学ぶ。
9月19日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ケース検討	・検討したいケースを持ち寄り、対応について協議する。
10月17日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケート改善案検討 ③ 虐待防止研修 就学支援シートについて	・虐待防止研修を実施し、スタッフ全員が虐待の定義や概要等の共通認識をもつ。 ・就学支援シート作成に向けて、作成のポイントを学ぶ。
11月21日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 性教育研修	・つむぎで行う「性教育」に関して学び、共通認識を持つ。
12月19日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 事業計画の振り返り	・今年度の事業計画について振り返り、次年度に向けた計画について全スタッフが構想を話し合い、方向性を定めていく。
1月16日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 次年度Missionの共有と理解	・次年度Missionについて共有、理解し、達成に向けての具体的なアクションを考える。
2月20日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 次年度構想	次年度の支援について具体的な年間計画の策定を全スタッフ担当ごとに行い、集約する。
3月13日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 次年度打ち合わせ	次年度のスタートに向け、具体的な準備を進める。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

区民農園での畑仕事は地域の方と触れ合う貴重な機会であるため、今年度も関わりを強化していく。昨年度、好評で合った公共機関とコラボした体験学習や感染症予防の観点から中止にした企画も改めて内容を見直し実現できるよう努める。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：読書の森公園にて
商店街ツアー	都度

	季節に合わせたイベントを企画する 園で必要な備品の購入等を実際に行う
世代間交流	畑仕事を通じて、地域の方との交流を図りコミュニケーションの楽しさや、保護者やスタッフ以外の大人とのやり取りを経験する
異年齢交流	異年齢のグループでは、年下の子を手伝ってあげる経験や、年上に手伝ってもらう経験を大切にし、干渉し過ぎず見守る支援を心掛ける

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

アプローチカリキュラムおよびスタートカリキュラムへの理解を深め、小学校1年生の姿を逆算した支援が行えるよう努める。職員が就学先の小学校の見学に行き、小学校の現状を把握する。幼稚園、保育園、こども園、小学校の先生方と情報共有を行い、お互いに求めること、子どもにとって必要な支援等について確認する。また、就学後の相談先や相談方法について情報収集を行い、勉強会等を通じて保護者に伝えていく事で、卒園後も継続的な支援が受けられる体制づくりに努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を●月●日（●）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
8月頃	桃井第二小学校	3～4名予定	・学校見学（桃井第二小学校）	スタッフ交流 登校の見通しを持つ 小学校の雰囲気を知る
8月頃	杉並第九小学校	3～4名予定	・遊びと憩いの場の活用（杉並第九小学校）	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、“子どもの最善の利益”を常に念頭に置きながら、保護者の意向、子どもの適正、特性を踏まえ、提供するサービスの適 切な支援内容等について検討し作成する。 提示の2ヶ月前に保護者にモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズなどに ついて適切に把握する。1ヶ月前に児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達を捉え、適切な支援を考える。6ヶ月に一度以上個別支援計画の作成を行うが、子どもの状態や家庭状況などの変化に合わせて支援の見直しをする場合がある。所属園に訪問し、担任らと共に支援

に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加える。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：●名予定）

通所している子どもへの支援の妥当性をケース会議にて、さまざまな職種のスタッフより検討を行っていく。つむぎで見せる姿だけではなく、家庭、所属園、つむぎそれぞれの場所での様子を踏まえ、子どもにとって最善の支援を考えていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートを用いて進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行う。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：読書の森公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：未定
自己評価終了予定時刻：未定
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期

に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子育てのプロとして、障害特性だけでなく、あらゆる保護者様のニーズに応えられるよう知識や経験を増やしていく
	振り返り	職員の入れ替わりにより定着が難しかった。ルームとしての知識や経験の蓄積になるよう、研修や日々の振り返りで職員の平均スキルを上げる必要がある。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	戸外活動や畑仕事、日課を支援に定着させる。
	重点施策	・戸外活動、畑仕事、食の循環、日課 ・ねらいや目的の再確認、共有。 ・写真や動画を用いた症例検討を定期的に行い、スタッフ間で意見交換を行う機会を増やしていく。 ・つむぎならではの支援の定着。（職員、子ども、保護者、地域）
2026年度	目指す姿	地域に認められ必要とされる施設になる
	重点施策	ブログでの情報発信や地域での行事や会議に参加を継続して行う。荻窪ルームの取り組みが地域に認知され、地域の方が気軽に来所し、くつろいだり育児の相談等を話したりすることができる施設となる。また、関係機関や小学校との交流する関係を構築し、子どもに関わる全ての機関からも必要と思われる施設へとなる。 療育を脱却し、どろんこ会の発達支援を率先して行う施設となる。
2027年度	目指す姿	どろんこ会が目指す支援の実践と共有
	重点施策	どろんこ会が目指す支援を実践し、その結果や評価などを他園に成果発表することで、つむぎ全体の質の向上を目指す。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 荻窪ルーム 施設長　中村　大輔

２０２５年度　発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

◇「生きる力」のその先へ～経験・発信・自信の循環を味わおう～

子どもたちとの活動を通じて、自らの「やりたい」にアプローチできる環境や、スタッフからの見守りの中において、ジブンで判断しジブンでやることの喜びを共に経験してきた。つむぎ吉祥寺ルームでは、得た喜びを他者と共有することや、共有することで得られる自信や自己肯定感を育みながら、さらなる「生きる力」を見出す循環サイクルを作り上げていく。また、支援の限られた時間を目いっぱい有効に使いながら必要な経験と活動を提供するとともに、子どもたちが今必要な経験を十分に味わえるよう環境構成を行う。そしてスタッフや保護者、地域の方々の関わりや見守りから喜びの共有の場をひろげたり、共有する機会を設定したりしながら全ての人がよりよく生きていく礎を築く。身につけた「生きる力」を家族・所属集団・そして地域などへとひろげ、「生きる力」の循環サイクルとその先を見据えた力として養っていく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	原点回帰～子どもの人格形成を質高く確実丁寧に～
	実践予定内容	・畑仕事や生き物の世話・雑巾がけといった日課の取り組みについて、子どもが主体的に関われることの把握と実施を定期的に見直して確実に行う。 ・「しなければならないこと」を子ども自身が自覚し、主体的に携われるよう物的・人的環境を整える ・子ども同士のぶつかり合いや葛藤が十分に経験できる機会を提供するために、物の数や置き場所などを都度構成する。
２	計画・ねらい	子どもが「知る」機会を提供する
	実践予定内容	・大人が見せて教えないと知れない遊び（あやとり・ハンカチ落とし・だるまさんが転んだ等）を活動の中に組み込み、スタッフとともに遊ぶ機会を持つ。 ・火や包丁・針といった生活の中にある危険なものとの距離の取り方を経験しながら学べるよう環境を設定する。 ・子ども同士が話し合う・順番を決める・交代して行うといった人との関わり合いが十分にできるよう丁寧に見守る。
３	計画・ねらい	選択と自己決定から「生きる力」を獲得する
	実践予定内容	・施設内にある複数の部屋は、子どもたち自身が「どの部屋で何をしたいか」を決めていけるよう、扉を開放し、必要な物品等を配置する。 ・畑の作物を売る・商店街での買い物などを通じて、お金の価値や流れに触れる活動を定期的に行う。 ・子どもたち自身が選び取った経験を社内外に発信し、他から認められて

		得られる自信や自己肯定感を循環し、「生きる力」のその先を循環し味わう機会を設定する。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	就園・就学に向けた見通しを定期的に確認できる環境づくり
	実践予定内容	・昨年から継続して行っている「就園・就学に向けた保護者懇談会」を年３回程度実施し、就園・就学における見通しや、必要な準備・心配事等を保護者とスタッフが共に話し合い共有できる場を設定する。 ・事前に学校の職員との話し合いを通し、子どもの成長につながる連携の方法を考え共有・確認する。スタッフや利用児が定期的に小学校を見学し、就学へのイメージや期待感が持てるような機会を設定する。また可能な限り子どもたちと教職員・児童間での交流ができるよう働きかける。 ・支援の中で就学相談の進捗や保護者の思いを確認する。適宜園訪問や就学支援シートの活用等を提案し、関係機関との連携を積極的に図る。
2	計画・ねらい	保護者が子育てに前向きに捉えられるような場の提供継続および発展
	実践予定内容	・子育てサポートとして、保護者が子どもとの関わり方を学び、自信をもって子育てができるような学びの場の提供を行う。 ・年に2回程度事業所内での相談（家族）支援などのサービスに関する案内を周知・配布する。 ・事業所内での（家族）支援の機会は定期的に設定し、現在の子どもの様子や今後の見通し等を伝えたり、子育てに関する悩みを整理したりするなどの機会を提供する。
3	計画・ねらい	保護者と子育てについて共有し、学べる場の提供
	実践予定内容	・月１回程度、子育てにまつわる話ができる「おはなしの会」を継続して行い、保護者同士の交流の場を広げ積み重ねていく。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や児童発達支援ガイドラインに基づく「5領域」に紐づけ、支援における実践報告や、子育てに関する講座等、学びの場を提供する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	近隣の小学校とのつながりから継続した支援を構築する
	実践予定内容	・学習指導要領・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの内容について定期的にスタッフ間で共有し、学齢期を中心に発達段階について学ぶ機会を作る。 ・近隣の小学校と連携を図り、教員や児童との関わりを持つ。 ・小1の授業や休み時間などの様子をスタッフが見学し、学校での実際、教員の言葉かけの仕方、合理的配慮の環境などについて知る。 ・教員とつむぎスタッフの交流の機会を設け、現状や課題などの意見交換を行い、接続期の支援のありかたや継続した支援を深め実践する。

2	計画・ねらい	開かれた施設の構築とそのつながりを深める
	実践予定内容	・武蔵野中央公園内の管理を「子ども管理人」として継続的に行う中で、地域貢献や地域でともに育つことへの関わりを深める。 ・吉祥寺駅周辺のお店や公共施設に訪問したり、地域の方々とやり取りしたりする中で、つむぎの活動や子どもたちの育ちを発信していく。 ・商店街の仕事の手伝いや清掃活動などを通じ、生活の中で地域と関わりが持てるような活動を計画し実行する。 ・武蔵野中央公園での青空保育や地域センターで行う「おはなしの会」などを通じて、法人やルームから発信した地域子育て支援を展開する。
3	計画・ねらい	法人内外との定期的なつながりとインクルーシブを実現する
	実践予定内容	・法人内外の保育園・幼稚園へ定期的に訪問し、連携のありかたや多様な考えについて学ぶ。 ・法人内の保育園や地域子育て支援カフェ「ちきんえっぐ」の利用児たちと定期的に混ざり合い、インクルーシブの機会を設ける。 ・法人内の保育園や部内のつむぎと共同で活動を実施したり、支援の内容や特色を知る機会を定期的に設けたりすることで、多職種かつ様々な考えを持つスタッフ間のインクルーシブも図る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自立・自律したチームの構築
	実践予定内容	・日々の朝礼・夕礼・振り返りの時間を有効活用し、スタッフ全員がその日の出来事だけでなく連続性がある業務を遂行できるように環境を整える。 ・他職種かつ領域違いの専門性を十分に支援や業務の中で活かす方法を考え、共有することで全体的な支援の質上げを図る。
2	計画・ねらい	大人が決めない・誘導しない・見守る支援の実行
	実践予定内容	・毎月ケース会議を実施し、5領域における学びや気付きを深め、日々の支援や個別支援計画などに反映する。 ・子どもの「生活力」を向上させるために、どのような支援や活動が必要であるかを考える。これらを通して、経験と失敗を存分に味わい深める環境や、大人が決めない・誘導しない・見守る支援の向上を図る。 ・保護者に対し、子どもの学びや育ちはフィードバックのみならず掲示物やブログなどで発信し、わかりやすく伝える。日頃のフィードバックについては、保護者への伝え方に対するバリエーションを増やし、柔軟に対応できるスキルの向上を目指す。
3	計画・ねらい	地域の社会資源を学び、連携につなげる
	実践予定内容	・スタッフ自ら武蔵野市や周辺地域の社会資源を知り、必要に応じて保護者に発信できるようになる。 ・商店街や園、小学校など様々な地域の場との交流や学びの機会を年1回以上開催し、多角的で充実した支援へと反映させる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環について学ぶ機会から、「人」と「食」との関係について知る
	実践予定内容	・畑の作物や周辺の法人内の連携を活かし、季節ごとに様々な食材に触れる機会を持ち、調理や加工活動を継続的に行う。 ・年間を通して畑仕事を行う環境を設定し、生育に関わる経験を重ねるとともに、収穫したものを食すことで得られる栄養についても触れ、「食べる」ことの大切さを学んでいく。また、食べたものや食べられない部分がどうなっていくかについても学び、食の循環についての知る機会をもつ。
2	計画・ねらい	身近な自然現象や天災に触れる機会を持つ
	実践予定内容	・「なぜ雨は降るのか」「雨水は降った後どうなるのか」といった自然現象についての興味を広げ、図鑑やICT等にて知識を得る機会を持つ。 ・自然現象や天災等について知る機会をもち、有事の際に自分の「命」を守る方法などの危機管理について主体的に学ぶ。
3	計画・ねらい	自分たちが過ごす環境を自分たち自身で整える
	実践予定内容	・日課の雑巾がけに加え、道具を使用した支援室の清掃や、周辺地域の清掃活動、窓ふきやおもちゃ棚・道具棚の整理など、自分たちが過ごす環境がどのように整うと過ごしやすいかなども考えながら、活動を継続して行う。 ・リサイクルやごみの分別など、自分たちができるエコ活動とは何かを考える機会を持ち、環境保全への理解を深める。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員　児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名（施設長兼務）
保育士1名
機能訓練担当スタッフ4名（公認心理師4名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月1回	・園内で発生した事故・インシデント・ヒヤリハット報告の確認と改善点を共有する。 ・他園事故報告書を参照し、自園での事故防止に活かす。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・支援担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	適宜	・共有相談等が必要なケースについて話し合う。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育の推進、意見交換、取り組みの共有
保健会議	年4回	感染症、アレルギー、衛生管理や保健業務の取り組みの共有
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
要保護児童対策地域協議会	適宜	主に虐待などによる問題を抱えた家庭について、適切な保護と支援を目的とし、関係機関が集まって相互理解を図り、役割分担を決めながら協力して支援を行っていく。
武蔵野市児童発達支	年4回程度	基幹センター的な役割をする「ハビット」が中心となり、市

援事業所連絡会		内の児童発達支援事業所が一堂に会し、情報交換や各回のテーマに沿って話し合いをする。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑の整備、支援における計画的な活動の立案
生き物係	エビとミスジドロガメの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
吉南まつり係	情報収集、商店街との連携
地域連携係	地域資源の利用や情報の収集と連携、市報の確認、地域小学校の学校公開やイベントの情報収集をする。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

異年齢で構成された支援 （主に3～5歳児）	上半期	・新しい友達や環境に慣れる。 ・自ら活動に取り組む意欲を育てる。 ・異年齢での活動を通し、協調性や主体性、思いやりの心を育む。

		・戸外で実施する「ホンモノの経験」から豊かな感性や表現力を身につける。 ・様々な道具を使い、試行錯誤する経験を共にし「生活力」の体得を目指す。 ・飼育している動物の世話や命をいただく活動から、生命尊重や生死を知る機会をもつ。
	下半期	・就学や次学年に向けて保護者と相談の場を持つ。 ・ジブンたちで相談・話し合いを通して活動を決める。 ・火や包丁・針などといった生活に即した危険なものとの関わりから距離の取り方を学ぶ。
異年齢で構成された支援 （主に未就園児）	上半期	・少しずつ環境に慣れながら通所を楽しいと思えるようになる。 ・ふれあい遊びや感覚遊び等体全体を使った遊びを経験する。 ・規則正しく通い、適切な生活リズムを作る。 ・スタッフや友達と共に遊ぶ中で遊びの幅をひろげ、経験を選び取れる環境を設定する。 ・保護者と活動を通じて、日々の子育ての悩みや話を聴き、子どもの成長について共に考える。
	下半期	・就園や次学年に向けて保護者と相談の場を持つ。 ・子どもたち同士の関わり合う機会を増やし、人と関わる力や生活や遊びなど自身の「好き」をじっくり味わえる経験をする。 ・散歩の距離を徐々に伸ばし、繰り返し戸外で体を動かす経験から、健康な心と体の育ちや基礎体力の向上を目指す。
個別支援	随時	・子どもの「やりたい」に寄り添い、主体性や選択する力を育む。 ・活動への意欲が持ちやすい環境設定を行い、子どもの言動を見守りながら達成感や自己肯定感へつなげる。
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「家族支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自然の恵みと命をいただく経験を積み重ねる
	実践予定内容	・畑で野菜を育てるうえでの土づくりや種、苗植えも子どもとともに行い、野菜の育ちや成長を定期的に見守る環境を設定する。 ・畑仕事では、雑草抜きや水やりといった定期的な仕事こそ確実に丁寧に行う。 ・肉や魚を捌いて食べる命をいただく食の学びを経験する。 ・加工品を作る工程を知り、食がどのように加工されていくかを知る。 ・できた加工品を食し、食の経験や幅をひろげる。
2	計画・ねらい	季節の行事や食材の変化を感じ取れる調理活動
	実践予定内容	・収穫した野菜等を調理し、自ら作ったものを食す経験から食べる意欲につなげる。 ・調理時の感触や食材の変化、食べた時の舌触りなど五感を十分に働かせて取り組めるよう環境を設定する。 ・生活の中では見えにくい調理工程や過程にも触れ、様々な調理方法や食材の変化を観察できる経験をする。 ・季節を感じる調理活動を行い、日本の四季について触れる機会を持つ。
3	計画・ねらい	食べた後の食の仕組みや健康な体づくりの学びを得る
	実践予定内容	・食物を食べた後に、体にどのように吸収され、体が作られていくか学ぶ。 ・便や尿になった後の行方や循環についても知る機会を設け、体や自然における食の循環についても学ぶ。 ・三食の意味やおやつ（補完食）の意味にも触れ、自分自身の体を健康に保つための食とは何か、を考える機会を持つ。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒を実施する。 6～8月頃･･･アデノウイルス、ヘルパンギーナ、手足口病

	11～3月頃･･･インフルエンザ、RSウイルス 11～1月頃･･･感染性胃腸炎
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月末日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時
	虐待防止研修	年2回/4月･10月
	施設内虐待防止委員会	年2回/9月･2月
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子ども自身がすべての環境や活動から探索できる環境を構成する
	実践予定内容	・様々な道具を常設し、子どもたちがいつでも主体的に関われる環境、経験を選び取れる環境を用意する。 ・決められた量や人数分の量ではなく、子どもたち同士の話し合いや調整が経験できる量の道具を用意する。 ・棚や常設の場は子どもたちの発達に見合っているかどうかや、探索を十分に味わえる環境かどうかを定期的に見直し、アップデートをする。 ・支援の中で子どもたち自身が環境を構成したり、より良い経験の場を自ら作り上げたりする機会をもつ。
2	計画・ねらい	素材から自由な発想を育む経験をする
	実践予定内容	・廃材や模造紙等を使用し、自ら決めた素材で自由に取り組む経験をする。 ・氷やお湯、石や葉っぱ等自然のものも数多く使用しながら、豊かな想像力を育む。 ・その際に必要な道具は子どもが自ら用意したり、量を相談したりして取り組めるよう環境を設定する。 ・苦手な感触や触ることに抵抗があるというものは、子どもたち自身が都度触れて判断できるようにスタッフ間で意識を統一する。
3	計画・ねらい	ルーム内の美観を保つ
	実践予定内容	・来月活動で必要な物品については、毎月の活動計画作成時に明らかにし、不足がないよう確認する。 ・ルームの運営や支援等に必要な備品の見直しを行い、必要なもののみを置くサイクルを回す。 ・定期的なメンテナンスや掃除については、年間計画に盛り込み、確実に必要回数実施できるよう日時を設定する。 ・子どもたち自身も使用する施設をきれいに保つことや、より良い美観の追求に向け、支援内で話し合ったり清掃したりするなどの機会を持つ。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	武蔵野市からの防犯・防災メールを随時確認する。その他注意報や警報の発令を意識し、戸外活動に対する現状リスクを意識する。
2	実践予定内容	防犯を含めた避難訓練を実施し、スタッフの勤務体制にかかわらず、緊急時に誰でも最善の対応ができるよう努める。スタッフ全員が避難場所、避難経路、避難方法、AED設置場所等を熟知しているようにする。
3	実践予定内容	全スタッフがケガや事故に対して常に危機感を持ちつつ支援にあたる。起きたケガや事故に対しては原因の究明を怠らず、再発防止務める。また、未然に防げることへの気づきを忘れず、常にケガや事故の起こりにくい環境設定を配慮していく。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

地域における共育てや交流を活発に行い、児童発達支援事業所を様々な方々に知ってもらうため、ボランティアや実習生等を積極的に受け入れ、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受入
2	実践予定内容	保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ
3	実践予定内容	一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月１回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するスタッフがいれば回数を増やし随時開催する。
④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間６回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、見地を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低１名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題

4月16日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理・衛生管理研修 ③ 虐待防止研修	保育品質マニュアルを用い、特に子どもを安心して任せられる施設となるべく危機管理・衛生管理についてマニュアルを用いて確認していく。また、虐待防止研修を実施し、スタッフ全員が虐待の定義や概要等の共通認識をもつ。
5月14日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラムおよび就学に向けた情報共有	アプローチカリキュラムの知識および支援について園長大学®保育士大学等も活用し、武蔵野市や近隣他市区の就学の流れを理解し、就学後の支援や保護者の相談に乗れるようにする。
6月11日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② アセスメントおよび個別支援計画作成における手順と注意点	アセスメントの質向上および個別支援計画作成に向け、スタッフが担当するケースの支援方法をスタッフ間で検討を行う。
7月9日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 火・土・水に関わる研修	園長大学®保育士大学等のツールを用いて水遊びや火や土との関わり、取り組みやリスクについて学ぶ。
8月20日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 家族支援と保護者支援	家族支援や保護者支援について、事例を用いながら全スタッフが対応・質の向上を目指す。
9月10日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケース検討	スタッフが担当するケースの支援方法をスタッフ間で検討を行う。
10月8日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートの改善策案検討 ③ 虐待防止研修	保護者からのご意見に対し、対応策を考える、迅速な対応を目指し、対応者を分担する。また、虐待防止研修を実施し、スタッフ全員が虐待の定義や概要等の共通認識をもつ。
11月12日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 嘔吐処理	感染症流行期前に、再度嘔吐処理や対応についてシミュレーションを行い、全スタッフが対応できるようにする。
12月10日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画書	次年度に向けた計画について全スタッフが構想を話し合い、方向性を定めていく。

1月14日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度運営本部Missionの共有と理解	次年度運営本部Missionについて共有、理解し、達成に向けての具体的なアクションを考える。
2月10日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 心肺蘇生	緊急対応について全スタッフが対応できるよう改めてマニュアルの確認とAEDの取り扱いについてシミュレーションを行う。
3月11日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度構想	次年度の支援について具体的な年間計画の策定を全スタッフ担当ごとに行い、集約する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に、個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。また、1・2か月程度に1回月報面談を行い、目標達成における具体的行動の確認と進捗の確認をする。インフォーマルな場面も積極的に活用しながら、スタッフのモチベーションや目標達成における小さな悩み・迷いを解決できるよう環境を整える。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

戸外活動や地域交流等を通じて、地域の方々や商業施設、商店街などにも認知されてきている。商店街でのお仕事体験や、ガイドさんを利用した交流等も積極的に行い、地域とのつながりを複数継続できるようになってきているため、引き続き活動を通じて関係性を深めていく。また、子育て支援施設として通所の有無や支援の時間の有無によらず立ち寄ってもらいやすい環境を設定し、日々の子育ての話や悩みを気軽に話せる居場所としても認知されるよう取り組みを行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：武蔵野中央公園にて　　集客目標：延べ100名
商店街ツアー	随時　買い物や等を通じて関係性を深める。
世代間交流	近隣の高齢者施設等に訪問し、交流を深める。
異年齢交流	近隣の法人内保育園や小学校に訪問し、交流を深める。
地域拠点活動	“子ども管理人”として、園内の清掃、植樹、花壇等の管理を行う。また、それらを活用した製作や落ち葉プール等の活動を楽しむ。 園内掲示板を利用して、子どもたちが作成した製作や絵などを掲示する「つむぎギャラリー」を随時開催する。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

引き続きアプローチカリキュラムおよびスタートカリキュラムへの理解を深め、小学校1年生の姿を逆算した支援が行えるよう努める。また積極的な保育園・幼稚園・他事業所等の訪問を行い、子どもの取り巻く環境・背景を踏まえて支援が行えるよう体制を整える。可能な限り教職員との交流を通じて、小学校教育の現状や学びあいの場を設定する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月5日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6・11月頃	近隣の小学校	7名程度	小学校	授業見学 教職員間交流

8～9月頃	近隣の小学校	5名予定	小学校	就学見据えた学校探検 子ども間交流
1～2月頃	近隣の小学校の先生	10名予定	つむぎ吉祥寺ルーム	就学に向けた保護者勉強会

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適正、特性等を踏まえて適切な支援内容等について検討し作成する。また6か月に1度以上個別支援計画書の見直しを行い、子どもの様子や保護者のニーズ、それに伴う適切な支援が提供されているかを確認する。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：7名予定）

保護者へのモニタリング実施後、児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行う。
また、子どもの状態や家庭状況等の変化に合わせて支援や計画を見直す場合は、その都度策定会議を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加える。

また、就学において子どもの様子や配慮事項については、必要に応じて就学支援シート等を用い、スムーズな就学準備や引継ぎが行えるようにする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	随時
自然食堂…親子ランチ交流	随時
勝手籠設置	（月）～（土）9:00～17:00
青空保育	月1回　　武蔵野中央公園にて開催　集客目標：延べ100名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：未定
自己評価終了予定時刻：未定
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２４年８月に利用者アンケートを実施し、２０２５年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	子どもたちが自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために「ジブンのことはジブンで」取り組む主体的な経験や環境設定を取り入れ、「生活力」の体得を目指す。
	振り返り	子どもたちの発達や興味関心、スタッフの多様な見立てなどからなる「今必要な経験」を考え、「ジブンで」やりたい思いを促してきた。また、支援中の子どもの試行錯誤や葛藤、気持ちのぶつかり合いなどはできる限り見守り、その時に感じた思いを十分に味わえるよう気持ちを受けとめ、都度環境を整えた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	「生きる力」のその先へ～経験・発信・自信の循環を味わおう～ 地域に見守られ、活用される施設 子どもも大人もインクルーシブ
	重点施策	・支援を通じて得た学びや喜びを他者と共有することや、共有することで得られる自信や自己肯定感を育みながら、さらなる「生きる力」を見出す循環サイクルを作り上げていく。 ・施設利用者のみならず、地域にひらかれた施設として利用されるよう環境を整える。地域公開講座の開催や立ち寄りまで気軽に足を運べる居場所づくりを行う。

		・施設を拠点とした様々な人との関わり合いの中から、共に育ち学びあえるインクルーシブな環境整備を行う。
２０２６年度	目指す姿	インクルーシブな施設での活動深化
	重点施策	・子育てにまつわる様々な交流や居場所づくりはもちろん、地域の方々が主催する講座等の開催も含め、居場所を深化させる。 ・全ての人が自分で選ぶ・社会を生きるため、ルームスタッフと共に過ごす環境を用意し、職業選択や実習等の機会を設ける。
２０２７年度	目指す姿	多彩なインクルーシブの展開 断捨離～必要なモノ・コトの追及～
	重点施策	・子ども・家族・大人・地域・環境が混ざり合い、互いに影響しあいながら人・食・仕事を循環するサイクルを構想し展開する。 ・2025年度・2026年度を振り返り、今必要なもの・こと以外は整理し、明確かつ分かりやすい施設の再構築を行う。

以上

作成日：２０２５年３月15日　　作成者：発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム 施設長　三浦　郁子

２０２５年度　発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム
事業計画書

1．基本方針

2025年度の施設運営方針ある「原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～」を軸に、大人も子どもも限られた時間の中で、物事の本質や意義を自分で考え主体的に行動できるようになることを目標に施設運営及び支援を行っていく。

① 子どもたちの「生きる力」を育てていくために、それぞれの子どもに合った直接体験や戸外活動を含めた様々な活動の機会を提供していく。子どもの新たな気づきや興味の広がりを大事にしながら、その子が今後の人生を生きていくうえで必要な力を見立て、伸ばしていく。保護者に対しては、なぜ今この活動を行う必要があるのかを療育的視点や意義を交えて説明ができるように努める。また、継続して行っている日課活動については、ただ行うだけでなく、なぜ行う必要があるのかをスタッフ同士で再確認する機会を設け、本質的な意義や必要性について理解を深めていく。

② 10の姿の体得に向けて、協同性・社会性を育む支援の充実を図る。また日々の活動を通して、社会的ルールがなぜ存在しているのかを子ども一緒に考えることで、きまりやルールを守ることの本質的な意味を知ってもらう。また、保育園の子どもたちの現状を知るために、所属園への訪問を定期的に行い、つむぎと保育園が互いの視点や気づきを共有し合い、保育・支援の質を共に高めていく。

③ 誰もが居心地の良い選ばれるルーム運営を実現するために、時代の流れをキャッチしつつも目の前の子どもの姿や保護者のニーズを捉えた支援を行い、利用者の満足度を高めていく。また全スタッフ全員の強みを生かした役割を考え、スタッフがいきいきと働ける環境づくりに努めていく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	アセスメントの質を高める
	実践予定内容	・スタッフ間での陪席を月に1回以上行い、互いの見立てや評価を共有する機会を設ける。 ・半期に1回、自分の担当している利用者のケース検討を行い、ルーム全体で必要な支援内容や保護者支援を考えていく。 ・担当以外の自分が関わっているケースの策定会議に可能な限り参加し、複数の視点でその子現状を見立てることや必要な支援を考える機会を増やす。 ・昨年に引き続き、系列施設である吉祥寺ルーム、府中ルームとのケース検討会を実施する。ルームの垣根を越えて意見交換を行い、支援の質の向上を目指す。 ・所属園への訪問を定期的に行い、つむぎに必要な支援について考える。
2	計画・ねらい	支援内容の充実
	実践予定内容	・子どもが主体的に活動に取り組めるよう、子どもの興味・関心・発達段階を把握し、現在の子どもの姿に合うプログラムを用意する。

		・戸外活動、畑仕事、火を使う活動、魚を裁く活動等の様々な直接体験を取り入れた発達支援を行っていく。 ・新たな地域資源を開拓し、支援の一環で地域交流を行うことで子どもたち自身にも地域の一員であることを知ってもらう機会を増やす。 ・協同で一つのものを創り上げる活動や、子ども同士できまりやルールを相談する活動を行い、子どもの協同性・社会性の育ちに繋げていく。
3	計画・ねらい	つむぎの役割を多角的に捉える
	実践予定内容	・児童発達支援ガイドライン、保育所保育指針、幼稚園指導要領、学習指導要領について一定の理解を持ち、児童発達支援の役割について考え直す機会を持つ。 ・報酬改定の内容を踏まえ、総合支援型の児童発達支援事業所の社会的ニーズについて全スタッフで考える。 ・杉並区内の小学校を見学し、小学校の環境や学び方の現状を把握する。 ・所属園への訪問を定期的に行い、つむぎと保育園が互いの視点や気づきを共有し合い、保育・支援の質を共に高めていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者が居心地の良いルームづくり
	実践予定内容	・保護者目線で整理整頓や清掃を行い、保護者が安心して過ごせる環境を整える。 ・全スタッフがすべての利用者への挨拶、受け入れ対応、見送り対応を行うことで、保護者がどのスタッフにでも安心して相談や悩みを話せるような雰囲気を目指す。 ・毎回のフィードバック時に、前回話していた悩みを後追いして聞くことや、保護者のちょっとした表情の違いに気づき様子を伺うことで、保護者が相談しやすい環境を整えていく。 ・必要に応じて事業所内相談支援を行い、家庭や所属園での困りごとや就学に向けた悩みを丁寧にキャッチアップし対応方法を一緒に考えていく。
2	計画・ねらい	保護者座談会・保護者支援の実施
	実践予定内容	・年に2回、就学座談会を開催し保護者同士が情報交換できる機会を設定する。 ・性教育の保護者向けサロンを実施し、普段の支援では拾いきれない性に関する悩みを保護者同士で共有できる場をつくる。 ・卒園生向けのイベントを行い、卒園後も子どもと保護者が交流できる機会をつくる。また、卒園生の保護者から小学校での子どもの様子や困りごとをヒアリングし、在園児の支援に活かしてく。

〈3〉地域連携

1	計画・ねらい	他事業所との連携・情報交換
	実践予定内容	・杉並区主催の情報交換会や実践報告会に参加し、他事業所の取り組みや支援について知る。
2	計画・ねらい	地域にむけた発信
	実践予定内容	・つむぎでの支援や取り組みをブログや創園で発信していく。 ・地域の幼稚園・保育園・子ども園の先生につむぎの支援を見ていただき、情報共有を行う。
3	計画・ねらい	地域資源の活用
	実践予定内容	・図書館、消防署、福祉施設等、様々な地域資源を活用した支援を実施していく。新たな地域資源を開拓し、支援の一環で地域交流を行うことで、つむぎや発達支援を知ってもらう機会を増やす。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	接遇力を高める
	実践予定内容	・社会人としての基本的な言葉遣いやマナーを学ぶ機会を作り、初めて問い合わせた方や初めて来所された方にとって気持ちの良い対応を目指す。 ・電話対応や普段の会話で使いがちなNGワードを半期に一回ルーム内で確認し、正しい言葉遣いが定着するようにする。
2	計画・ねらい	スタッフが居心地の良いルームづくり
	実践予定内容	・スタッフの強みに合わせた役割や係をつくり、全員が気持ちよく過ごせるルームを目指す。 ・業務の見える化を行い、一人のスタッフに仕事が偏らないよう必要に応じてシステム化する。
3	計画・ねらい	学びの共有
	実践予定内容	・自分の興味のある分野について研修や本、ニュースで学んだ情報をルーム内で共有し合う場を持つ。 ・学んだことをアウトプットする場を定期的に設けることで、自分の言葉で伝える力の向上を図る。
4	計画・ねらい	振り返りの質の向上
	実践予定内容	・毎支援で振り返るべきポイントを整理し、次の支援に繋げるための振り返りを行う。 ・2か月に1回、スタッフとMBOの進捗状況や最近の業務についての悩みや困りごとを聞く機会を設け、自身の働き方について振り返る機会を持つ。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	畑仕事で畝つくりから育成、収穫を実施し、調理活動を行う。調理活動後にはコンポストを作成し、食べ物が土に還っていくことを知る。また、収穫したものから種を採取し、それを土に植えてみることで子どもの興味や意欲の幅を広げていく。
2	計画・ねらい	ISO14001について理解を深め、支援に落とし込んでいく
	実践予定内容	・環境目標についてスタッフと学び合う機会を設ける。 ・武蔵野クリーンセンターに子どもたちと一緒に行き、ゴミの行方について知り、ゴミを減らすために日常生活でできることを子どもたちと一緒に考えていく。

〈6〉支援の最大化と切れ目のない支援の強化

1	計画・ねらい	支援の最大化
	実践予定内容	・総合支援型の位置付けとして、5領域全体をカバーした上で特に重点を置くべき支援内容を決めていくことが求められていることを踏まえ、運動機能、 口腔機能における最低限の専門的な視点を持ち、つむぎでできる最大限の支援を考えていく。 ・常に子どもの最善の利益を考え、適切なタイミン グで医療機関や専門機関に繋げられるように、専門分野の勉強会や事業所内研修を実施する。
2	計画・ねらい	切れ目のない支援・家族支援の強化
	実践予定内容	・アプローチカリキュラムやスタートアップカリキ ュラムに関する理解を深め、小学校への適切な移行 支援を行えるようにする。 ・必要に応じて他の相談機関に繋げられるように、 保健センター、こども家庭支援センター、子育てサ ポートセンターについての役割や機能について勉強 する機会を持つ。 ・支援の一貫として、子どもと保護者と一緒に子ども・子育てプラザに行く。地域の子どもたちとの関 わり増やすことや保護者が相談できる場所を増やす ことに繋げ、保護者が安心して子育てできるように サポートしていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　10人／日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長兼保育士1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
公認心理師1名
言語聴覚士1名
社会福祉士1名
児童指導員1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門職による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月1回	自ルームヒヤリハット、インシデント共有と対策の確認。 他園の事故共有と自園で気を付けるべきことの確認。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表

併設園会議	四半期１回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	保育園、他ルームの取り組み等を共有し、自ルームの活動に活かす。
保健会議	年4回	保育園、他ルームの取り組み等を共有し、自ルームの活動に活かす。
子育ての質を上げる会議	月1回	保育と発達支援の情報・取り組みの共有。支援の質の向上につなげる。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理
畑係	プランターの整備、区民農園での計画的な活動の立案
生き物係	エビ、カブトムシの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
体験学習	月に1度、普段の支援では行いづらいイベント、実体験を実施し、子ども達の新しい魅力を発見することや子どもも大人も楽しめる支援を行う。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

親子グループ	上半期	・様々な行動や欲求に適切に答え、他者を認識し、特定の大人との情緒的な絆を形成する。 ・活発な探索活動を楽しみながら、興味の幅を広げ、様々な感覚を育む。 ・身近な大人との安心した関係の中で、自らの要求を他者に伝え、応答的な関りを楽しむ。
	下半期	・一人遊びや人との関りを通して、自我が育つ。 ・親子で取り組むプログラムを通して、親子関係の構築や発展を促す。 ・親の悩みや相談事を丁寧に聞き取り、適切な助言を行う。 ・親同士の交流が生まれやすい話題の展開や、話しやすい環境の設定を行う。
キッズグループ ３～5歳児	上半期	・様々な体験を通して、体に心地よい感覚刺激を入れる。 ・友達との関わりの中で、自分の気持ちを言葉や行動で表現する。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で他者に表現しながら、他者を受容する感情が育つ。
	下半期	・活動に見通しを持って取り組み、達成感や充実感を味わう経験をする。 ・協力課題や相談課題を設定し、友達と主体的に関り、協力や相談をしながら目標に向かって活動する。 ・自分たちで畑仕事や戸外活動の計画を立て、実行することで達成感や満足感を味わい、子どもが主体的に戸外活動を展開できるよう関わる。
個別支援		・安心・安定・安全な環境・支援者との関係の中で、自分の気持ちを表現する。 ・個別支援計画と子どもの成長や現在の課題に合わせて、プログラムを組み立てる。 ・子どものその日・その時の状態に合わせ、臨機応変にプログラムや支援方法を展開していく。 ・子ども一人ひとりの興味・関心を把握し、主体的かつ意欲的に活動に取り組めるように関わる。 ・活動に見通しを持って取り組み、達成感や充実感を味わう経験をする。 ・子どもの姿に合わせて地域の商店や公園、自然を利用したプログラムを立てて実践していく。
事業所内相談支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」

保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２４年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定する。
別紙「２０２４年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食材や食の循環を認知する直接体験
	実践予定内容	・畑仕事を通して、食物を育てて食べる喜びを経験し、達成感や充実感を味わう。 ・区民農園を利用し、夏野菜・冬野菜等季節に応じた野菜を栽培し、年間を通して畑仕事を行っていく。 ・収穫した食物を使ったプログラムを実施していく。(調理、野菜スタンプ等) ・調理したものを自分たちで盛付・配膳して食べる。 ・子預かり事業では職員がお弁当を持ち寄り、子どもと一緒に食べる。
2	計画・ねらい	保護者へ食に関する助言を行う
	実践予定内容	・咀嚼や嚥下に悩みがある保護者から話を聞き、動画撮影や実際に弁当を持参してもらい、支援者が直接その様子を見て適切な助言や支援を行っていく。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～８月頃･･･手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎（はやり目）、伝染性症軟属腫（水いぼ）、

	伝染性膿痂疹（とびひ）、アデノウイルス感染症 11月～２月頃･･･溶結性連鎖球菌感染症、ウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症、インフルエンザなど
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	預かり未定。 対応者いた場合、マニュアル通りに遂行する。
エピペン使用できるスタッフ	本日現在７名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員１名については４月３０日までに受講予定。
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在６名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員１名については４月３０日までに受講予定。
その他保健に関する取組	うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を必要に応じて実施する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する。

1	計画・ねらい	気持ちの良い環境つくり
	実践予定内容	・整理・整頓・清潔を心掛け、不要な物や壊れている物は処分や修繕を行う。誰もが気持ちよく過ごせる環境設備と維持を徹底する。そのために、毎週のミーティングで修繕箇所や故障個所の確認を行うとともに、他ルームの職員等にルームの環境を視察してもらい、別の視点から見た際に改善箇所がないかを把握する。 ・子どもが興味・関心があるものを把握し、ルームの環境に用意することで、自発的な行動が増え、意欲的に参加する姿が増えるようにする。
2	計画・ねらい	戸外での支援の展開と発展
	実践予定内容	・戸外への活動の幅を広げていくことにより、公園にある自然物・昆虫等の生き物・信号や車等の人工物と触れ合い、子どもの興味や関心を広げる。それらをプログラムに取り入れることで、子どもが意欲をもって主体性に行動できる環境を設定する。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNO.3の災害対策（P6~）に則り、消防訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安産対策係の設置・緊急地震速報運用を行い・災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルNO.3(P8~)のケガ事故防止策・安全点検と保全事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。
3	不審者対策	危機管理マニュアルNO.3の不審者対策(P14)に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者進入時には対応フローチャートに従う。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNO.3の光化学スモッグ対策(P15~)に則り、光化学スモッグの知識を身に着け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応する。
5	救命救急	普通救命講習会への参加

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、要請があった場合には積極的に受け入れを行い、実習生やボランティア一人ひとりの様子に合わせて、具体的かつ丁寧に援助・助言を行う。

1	実践予定内容	「未来の職員を育成する」気持ちで、法人の理念や取り組みを丁寧に説明する。実際に支援内容を見ることや体験する場も設ける。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２4年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月14日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 総合訓練 ④ ケガ、緊急時の対応について	人権と虐待防止について研修 ケガ、緊急時の対応についての共有 グループのねらいの共有
5月12日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇研修 ③ 就学に向けて	電話対応･接遇 アプローチカリキュラム､小学校との連携について
6月9日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援について	保護者の悩みや家庭での悩みの共有、具体的な支援策の検討
7月14日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学に向けて	救命講習 就学後の支援について
8月4日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 専門知識について	専門分野の研修の共有 ケース検討
9月8日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 検査について	発達検査について所見の読み取り方、検査の必要性について等
10月6日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 衛生管理について	嘔吐処理、感染症対策について 上半期振り返り､活動の共有
11月10日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学支援シートについて	就学支援シート、 幼児期までに育ってほしい10の姿について

12月15日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 個別支援計画作成について	モニタリングの個別支援計画の作成について
1月5日	10:00～12:00	① ンピテンシー自己採点 ② 度の振り返り	今年度の支援内容やルーム運営の振り返り、
2月１７日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて ③ インテーク・契約・アセスメントについて	次年度の支援内容とルームの取り組みの話し合い インテーク・契約・アセスメントのロープレの実施
3月１７日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	各グループのねらいと支援計画の立案、新規利用児の個別支援計画の作成と支援内容の立案

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

つむぎ阿佐ヶ谷ルームが地域に根付いているとは言えないため、阿佐ヶ谷の方にルームを知ってもらうことを第一に考える。区との交流会への参加、他事業所や商店街、寺社やデイサービスなど様々な分野の方と積極的な交流を図る。地域の核となれるように職員や子ども、保護者と一緒に考え、交流の幅を広げていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	随時：戸外活動において、近隣の子どもも参加できるプログラムを実施する。
商店街ツアー	週1回
異年齢交流	体験学習やペア活動において、異年齢で関わる機会を積極的に設けていく。
地域拠点活動	阿佐ヶ谷七夕祭りへの参加、図書館、消防署、公園、デイサービス

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

区で開催されている発達障害児地域支援講座や実践報告会、要保護児童対策地域協議会等に積極的に参加し、関係機関と連携した地域支援体制を構築していく。地域の課題や特徴を理解し、様々な関係機関と連携しながら地域単位で包括的な発達支援ができるよう、手立てを提案していく。

全職員が就学先の小学校の見学へ行き、小学校の現状を把握する。幼稚園、保育園、こども園、小学校の先生方と勉強会や情報交換会を企画し、お互いに求めること、子どもにとって必要な支援等の情報共有や意見交換を行う。また、就学後の相談先や相談方法について全職員が理解し、保護者に共有していくことで就学後も継続的な支援が受けられるよう努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月7日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	杉並第二小学校	２名予定	杉並第二小学校教室	小学校の現状把握
5月頃	浜田山小学校	2名予定	浜田山小学校教室	小学校の現状把握

6月頃	杉並第七小学校 堀之内小学校	2名予定 2名予定	杉並第七小学校教室 堀之内小学校教室	小学校の現状把握
7月頃	杉並区内の支援学級	２名予定	杉並区の各小学校の支援学級	発達支援事業所に求められる支援の確認 特別支援教室の見学
8～9月頃	杉並区内の小学校	1名予定	杉並区内の小学校の通常学級	小学校接続〈年長児と参加〉

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修を修了者した者は、子どもの支援陪席や保護者との面談を定期的に実施し、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていく。

区で作成している障害児支援利用計画やアセスメント・モニタリングの情報を照らし合わせ、具体的な支援目標や支援方法を担当スタッフと共有し、個別支援計画の作成を行う。6か月に1回以上モニタリングを実施し、目標達成度の評価や具体的な支援内容・支援方法の再考を行い、子どもや保護者の現在のニーズに適した支援を行っていく。

モニタリングは子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

積極的に所属園へ訪問に行き、生活場面の子どもの様子や状態を把握する。生活場面でできる支援を関係機関に提案することや、つむぎでできる支援を再考し、子どもの状態に合わせて個別支援計画を更新させていく。

アセスメント及びモニタリングの質の向上のため、児童発達支援管理責任者は施設内研修やモニタリングへの陪席とフィードバックを定期的に行っていく。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：７名予定）

毎月スタッフ一人ひとりがケースを持ち寄り、ケース会議を実施していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の現所把握、教諭との情報交換等を踏まえ、架け橋プログラムの内容を把握した上で、アプローチカリキュラムを立案、実施していく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細

施設開放	（月）～（土）9:00～17:00
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）9:00～17:00
つむぎ新聞	3か月に1回発行
青空保育	月1回　　公園名：梅里中央公園にて開催
卒園児・卒園児保護者交流	年1回

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2025年上期、下期に1回ずつ「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：18時00分
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2025年8月に利用者アンケートを実施し、2026年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	選ばれる施設、支援内容の充実、地域連携、リスクマネジメントの徹底
	振り返り	選ばれる施設を目指し、今年度は保護者支援に力を入れ、昨年よりも保護者座談会や保護者サロンの回数を増やしより多くの方に、保護者同士の繋がりや相談し合える場を提供することができた。支援においては、支援を提供する場所を限定せず、子どもたちに必要な経験を踏まえ、地域開拓や支援内容の充実に力を入れた一年だった。デイサービスとの定期的な交流に加え、支援の一環として消防署や警察署、商店街のケーキ屋、花屋、たい焼き屋、薬

		局に協力をいただき、子どもたちの社会経験を広げる機会をつくることができた。リスクマネジメントについては、事故やインシデントの全体の件数としては昨年より減っているものの、物的環境や職員配置の工夫で未然に防ぐことができたケースもあり課題が残った。引き続き様々な状況を想定し考えられる危険についてスタッフ同士で話し合いリスクヘッジすることで、子どもたちがより安全に過ごせるルーム運営を行っていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・選ばれるルーム運営 ・支援内容の充実・質の向上 ・支援の最大化・切れ目のない支援の強化 ・地域連携の強化
	重点施策	・保護者向けの座談会やイベントの企画・実行 ・利用児の所属園や小学校への訪問・連携の強化 ・支援の場を増やすための地域開拓 ・デイサービスや商店街との繋がりの強化 ・スタッフ向けの研修・勉強会の継続
2026年度	目指す姿	・地域を巻き込んだ支援の展開 ・小学校、保育園、幼稚園、その他の関係機関との定期的な交流の確立。 ・支援の質の担保
	重点施策	・小学校、保育園、幼稚園、関係機関との会議や共有会の実施。 ・地域の方が気軽に来所し、くつろいだり育児の相談等を話したりすることができる。 ・スタッフが急に変更となっても支援の質を担保し、安定して保護者にフィードバックが行える。
2027年度	目指す姿	・地域を巻き込んだ支援が継続的に行える。 ・様々な小学校との交流。中学校を視野に入れる。 ・スタッフの入れ替わりがあっても質を保ち続けている。
	重点施策	・地域、時勢に合わせ、必要な機関との連携を図っていく。小学校、保育園、幼稚園、中学校、関係機関と会議や共有会の確立。 ・地域の方が気軽に来所し、くつろいだり育児の相談等を話したりすることができる。 ・スタッフが急に異動となっても保護者が不安にならずに阿佐ヶ谷ルームにて支援を受けたいと思える。

以上

作成日：2025年3月1日　　作成者：発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム 施設長　小坂　莉穂

２０２５年度　発達支援つむぎ 駒沢ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

●ルーム理念　**【丁寧な駒沢】**
　２０２４年度の駒沢ルームでは、『子どもも大人も「全力で自然体」で居られるルーム』というルーム理念を大切に過ごしてきた。２０２５年度もその姿勢を大切にしていきながら、新たに、人対人コミュニケーション、接遇、保育、支援、大人、子ども、全てに対して『丁寧な駒沢』という理念を掲げ、選ばれる施設を目指していく。

●運営部mission２０２５の遂行
【原点回帰　～毎日の時間を大切に・人間形成を質高く確実に丁寧に～】

①基本活動の深い理解
・引き続き戸外活動を中心とした支援を実施していく。木登りや泥遊びなどの戸外活動を通して、ホンモノに触れる体験を多く積んでいく。また、散歩を通してジブンの力で歩く力を身につけていく。
・「子どものやりたい」を大切にしていきながら、伝承遊び、制作、様々なルールのある遊びなど、『大人が見せて教えないと知れない遊び』を取り入れていくことで、子どもの遊び、興味の幅を広げていく。

②畑仕事・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧に行う
・生き物を育てることで、命の大切さを学ぶと共に、食の循環の教育を行う。

③～混ざるのその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する
・大人は子ども同士の壁にならないことを大切にする。
・大人は常に子どもにつき支援をするのではなく、子どもと共に遊びに参加しながら、今その子どもにどんな関わりが必要なのか、見守るべきなのかを丁寧に見極め、子どもの力を信じる姿勢で関わっていく。
・子ども同士の関わり合いの中でうまれる人と関わる楽しさ、喜び、葛藤場面などで、子ども一人ひとりの手段(ジェスチャー、言葉など)で相手に伝えられた経験を積んでいけるよう、大人は子どもの様子を見極め、子ども同士の関わり合いが多くうまれるよう必要な導きをしていく。

④自走にむけて
・駒沢全員のスタッフが内部監査を実施する意味を理解し行動し、全員で指摘項目０を目指す意識をもてるようにする。
・見学対応、面談などの保護者対応を全スタッフが対応できるようになる。
・見学対応では、法人の理念や６つの力、基本活動などを理解し、自分の言葉で駒沢ルームのことを語り伝えられるようになる。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	【他療育、園と連携をし、支援を実施する】 つむぎ駒沢ルームの様子だけでなく、他療育、所属園と連携を図り、つむぎ駒沢ルームでできる支援を実施していく。
	実践予定内容	・園訪問：年間１０園以上実施 ・他療育：年間５園以上
2	計画・ねらい	【子どもの力、可能性を信じる支援】 ・大人が「この子は〇〇だから」などと決めつけず、子どもの力、可能性を信じる支援の実施。 ・見守る姿勢を持つ
	実践予定内容	・６つの力の研修を実施(年間３回)

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	【他療育、園訪問の実施】 他機関と繋がりながら全員で子どもを育てる為に、他療育、園訪問の実施を行っていく。
	実践予定内容	・園訪問の実施(年間１０園以上)。 ・他療育への訪問の実施(年間５園以上)。
2	計画・ねらい	【就学に向けての丁寧な保護者支援】 就学に向けての保護者の不安、疑問を少しでも軽減する。
	実践予定内容	・就学した先輩保護者を招き、既存の保護者に体験談を伝える機会を設ける。
3	計画・ねらい	【自分の言葉で駒沢ルームを語る】 全職員が自分の言葉で法人、ルームのことを語ることができる組織作り。
	実践予定内容	・スタッフ全員が見学対応をできるようになる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【地域を知る】 現在繋がりがある施設とさらに深い関係性を目指していくと共に、地域開拓係による新しい関係を築ける場所を探していく。
	実践予定内容	・近隣人社への初詣の実施１回。 ・正和クラブとの連携１回。 ・近隣消防署との連携１回。 ・地域開拓係による新しい連携先の開拓１か所。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	【駒沢としての『原点回帰』】 ～法人の「６つの力と基本活動」の理解を深める～
	実践予定内容	・園内研修(年間３回)の実施。
2	計画・ねらい	【丁寧な支援、保育の実施】 ・見学対応を全員ができるようにする。
	実践予定内容	・見学対応の研修実施(全員対象)。 ・接遇研修の実施(年１回)。 ・いつ誰が来ても気持ちの良い環境(内部監査衛星面指摘項目０を目指す)。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	【『駒沢』としての気持ちの良い環境の提供】 ・清掃、整理整頓の徹底。 ・全職員が責任を持って日々の清掃、安全面の配慮に努める。
	実践予定内容	・駒沢全体で内部監査時に衛生面指摘項目0を目指す。 ・内部監査に向けて実施するだけでなく、日々の業務の中で衛生係が中心となり月の衛生チェック項目に沿って清掃を実施し、ルームを清潔に保つ意識、責任を全職員がもつ。
2	計画・ねらい	【子どもが自分で選び、遊ぶことができる環境設定】 ・子ども自身が行き先を決める。 ・遊びを自由に選び取ることができる環境設定。
	実践予定内容	・活動の行き先マップを作製、活用(全グループ)。

〈6〉併設園としてのさらなる深化（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

２０２４年度は、常に『駒沢ごと』として支援、保育、環境構成、サービスの質向上に努め、駒沢どろんこ保育園と共に併設園としての深化を目指し日々取り組んできた。

２０２５年度は、さらに保育園、つむぎの相互理解を深めていき、「駒沢としてのインクルーシブ」の思いを共通で持ち、支援、保育にあたっていく。

1	計画・ねらい	【駒沢としてのインクルーシブのテーマの確定、実践】 テーマ：一人ひとりの理解を深め、『駒沢』として全員で子育てを行っていく
	実践予定内容	・つむぎは、つむぎ児童の支援計画の共有をし、園のスタッフも子どもの目標を理解しながら保育にあたれるようにする。 ・ケース会議への参加(月１回以上)。気になる事例があった場合、必要に応じてつむぎスタッフからもケース会議の提案、実施を担う。 ・インクルーシブ研修の実施(年１回)。 ・園会議にて、発達や保育についての研修の実施(年１回)。

		・行事の担当者、係などを中心に、日々の些細な報連相を『当たり前』に行っていく。
2	計画・ねらい	【つむぎからの発信】 つむぎの知識、スキルを共有する。
	実践予定内容	・懇談会、入園説明会などを通し園の保護者につむぎの説明を実施する。 ・園のスタッフに、子どもの発達に関する悩みを募り、つむぎスタッフが知識を共有する研修を開く。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士２名
機能訓練担当スタッフ２名（臨床心理士２名）
他1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・開催される会議に参加し、議事内容の情報共有をする。
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデント、事故の共有。 ・再発防止策の確認。

支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	議事内容の情報共有。
保健会議	年4回	議事内容の情報共有。
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した実践と成果報告。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	駒沢どろんこ保育園や保護者と協働し、祭りを企画・実施する。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・8時30分の受け入れ開始。朝の職員の動きの確認。 ・「ジブンで歩く」ことや、食べることなどの「生活の中で必要な力」を育てる。 ・戸外活動で全身を使って遊び、お腹が空いた感覚を味わい、食べる意欲に繋げていく。
	下半期	・子ども同士の関わり合いの中で、様々な葛藤場面、成功体験を経験する。 ・友達の遊びを真似ることで、遊び、興味の幅を広げていく。 ・長距離散歩の実施。
キッズグループ	上半期 3～5歳児	・やりたいこと、過ごした場所、人を自分で考え、自分で選ぶ。 ・異年齢で活動することで、様々な年齢の友達と関わる。
	下半期 2～5歳児	・上半期に引き続き、自分で考え、自分で選ぶことを大切にしていきながら、子ども同士の関わり合いも深めていく。 ・子ども同士で何の遊びをするか、どんなものを作りたいか（調理活動など）を話し合う時間を設けるようにする。
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	【「食」を楽しいと感じる】 ・空腹感を味わった上で、自然と「食べたい」という気持ちになるように、９時出発を徹底し戸外での活動を充実させる。 ・友達と食を一緒にすることで、食への興味が乏しい子どもも、友達が食べている様子を実際に見ていくことで、食への興味関心を高めていく。
	実践予定内容	マンスリー活動時は給食を園児と共にとる。
2	計画・ねらい	【食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践】 ・自らが畑で育てたものを収穫・調理・食べる経験をする。 ・「命をいただく」ということを体験し知る。
	実践予定内容	・1か月に1回の畑活動の実施。 ・通年で、プランター栽培の実施。 ・活動での調理活動の実施（育てるもの、作るものは子どもたちが決める）。 ・保育園の調理員さんを招き、プロに料理を学ぶ。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月：手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ12月～3月頃･･･インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス 感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・特になし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在７名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在２名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	【安全な環境】 ・子どもたちが安全に遊べる環境の確保。
	実践予定内容	・公園に到着後、危険物が無いか確認の徹底。 ・園内での過ごしの中で、危険物が無いかの確認の徹底、床に落ちているものを片付けるなどの危険防止の実施。 ・全体把握の法人ルールの確認を全スタッフと実施。全体把握のスタッフの役割の確認、また、実施できていない場合は都度気付いたスタッフが言葉かけをすることで改善していく。 ・子どもに合った言葉かけができているか、振り返りの際にスタッフの動きや対応について疑問に思ったことはその都度話し合いを実施し、大人の保育スキルの向上に繋げていく。

		・事故防止委員会の実施。また、２０２４年度に引き続き事故が起きた際には園、つむぎ関係なくスタッフが参加し、改善策を共に考える。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
I	看板	玄関	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	実践予定内容	法人の定める、マニュアルに則って行動をする。
2	実践予定内容	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努める。なお、個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真などを用い、起こりうる事故やケガを協議する。
3	実践予定内容	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行う。訓練の訓練とならないよう、参加者が実際に起こりうるという意識を持ちながら参加できるようにする。なお、全利用児が年にI回は訓練に参加できるようにし、有事に備える。
4	実践予定内容	光化学スモッグについては、自治体の情報を職員に即座に伝達し、マニュアルに則って戸外活動を避けたり、戸外活動を切り上げて戻ってきたりという判断が迅速に行えるようにする。

6. 実習生・中高生の受入

〈I〉今年度の方針・テーマ

次世代育成の観点から、要請があった場合には積極的に受け入れを行い実習生やボランティアー人ひとりの様子に合わせて、具体的かつ丁寧に援助・指導を行う。

I	実践予定内容	児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月１回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間６回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低１名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
４月11日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　人権チェックおよび虐待防止研修 ③　安全管理	①　コンピテンシー自己採点 ②　人権チェックおよび虐待防止 研修 全体把握、危機管理の共有、確認
５月９日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　熱中症予防 ③　園長大学動画視聴	①　コンピテンシー自己採点 ②　　熱中症についての知識理解を深める
６月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスク管理研修・法人内のフロー確認 (動画視聴)	①　コンピテンシー自己採点 ②　水遊びのリスク管理研修・法人内のフロー確認
７月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 夏の感染症予防	① コンピテンシー自己採点 ②　夏に流行する感染症の確認、予

			防策の知識を得る
8月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校への接続(動画視聴)	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校指導要領の読み込みの実施
9月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 地震災害時の対応、非常食、災害グッズの確認、戸外活動時に災害が起こった際の対応 ③ 見失い帽子研修	① コンピテンシー自己採点 ② 地震災害時の対応、非常食、災害グッズの確認、戸外活動時に災害が起こった際の対応 見失いに対する法人ルールの意識の統一
10月3日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックおよび虐待防止 研修 ・人権、虐待についての理解 ・法人内のフローの確認 ・所属園内でできる支援	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックおよび虐待防止 研修 ・人権、虐待についての理解 ・法人内のフローの確認 ・所属園内でできる支援
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 冬の感染症予防(動画視聴)	① コンピテンシー自己採点 ② 冬に流行する感染症の確認、予防策の知識を得る
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進級進学(動画視聴)	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校を知る
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返り	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けての想いやできたこと、今後実施したいことの洗い出し
2月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 2025年度の支援内容の確 認・今年度の取り組みの振り返り・2024年度のより高い支援に向けて	① コンピテンシー自己採点 ② 2025年度の支援内容の確認・今年度の取り組みの振り返り・2024年度のより高い支援に向けて
3月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 2026年度に向けて・具体的な支援内容の話し合い	① コンピテンシー自己採点 ② 2026年度に向けて・具体的な支援内容の話し合い

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域開拓係を新たにさらなる交流を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：１００名(園児、つむぎ児童、地域を含む)
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：深沢２丁目緑地公園にて　　集客目標：５名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・公園で活動が一緒になった際に近隣の小学生との交流をもつ ・近隣にある高齢者施設（世和クラブ）との交流 ・小学校見学の実施。
異年齢交流	・保育園への活動参加 。 ・異年齢グループの実施。

地域拠点活動	・駒沢オリンピック公園 。 ・駒沢管理事務所との連携。 ・子どもが行きたいと思う場所(警察署、消防署)と子どもたちと繋がる。

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の小学校への見学を実施していき交流を目指す。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を５月１日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
６月頃	世田谷区立東深沢小学校	２名予定	学校見学 (東深沢小学校教室)	・職員間交流 ・子ども間交流
７月頃	目黒区立八雲小学校支援学級	２名予定	学校見学(八雲小学校)	・職員間交流 ・子ども間交流
７月頃	目黒区立 鷹番小学校	２名予定	学校見学(鷹番小学校)	・職員間交流 ・子ども間交流
８月～１０月頃	世田谷区立 深沢小学校	２名予定	学校見学 (東深沢小学校教室)	・職員間交流 ・子ども間交流
８月～１０月頃	久我山青光学園	２名予定	学校見学 (久我山青光学園)	・職員間交流 ・子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

・児発管が中心となり、ルーム内会議の場でスタッフ全員が策定会議に参加していく。
・半年を待たずして目標を達成したり、幼稚園や保育園、その他関係機関とのケース検討の結果必要と考えられたりする場合には随時更新していくこととする。
・マンスリー児、保育園利用児の計画は園スタッフと共に策定会議を実施し作成する。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：6名予定）

・策定会議だけでなく、ケース検討会を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深め、支援内容の充実に繋げていく。
・つむぎスタッフだけでなく、園のスタッフと共に実施。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートを作成し、子どもの共有を行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：3名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：深沢２丁目緑地にて開催　集客目標：３名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年6月３０日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時３０分
自己評価終了予定時刻：１０時３０分
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	【駒沢としてのチーム力の向上】
	振り返り	・2024年度の取り組みを活かしさらなる環境、関わりの深化を目指すことができた。 ・それぞれの知識を活かし、駒沢のスタッフがひとりひとりにあった保育、支援ができる「駒沢」となることを目指し、研修などを実施することができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	【併設園としてのスタイルの確立】
	重点施策	スタッフ全員が「駒沢ごと」として考えられるインクルーシブな環境となる。

２６年度	目指す姿	【併設園としての取り組みを外部に発信していく】
	重点施策	・社内報創園への掲載
２７年度	目指す姿	【併設園としてモデル園としての確立】
	重点施策	つむぎ・保育園の壁が無い環境

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 駒沢ルーム 施設長　清水　郁

２０２５年度　発達支援つむぎ 目白ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

法人理念と2025年度運営本部ミッションに基づき、日課・基本活動の理解を深めたうえで丁寧に行い、室内では子ども自身が自由に選び取れる環境を設定し、子どもの主体的な活動参加の中で、思考力・判断力・人間力・生活力が育まれるように支援していく。

スタッフは「子どもが自己選択すべきこと」と「大人が伝えていくこと」を念頭におきながら計画的に環境設定を行い、ホンモノの体験の中で「生きる力」が育つ支援を行っていく。

質の高い子育て支援や最高品質の接遇を提供することで、「つむぎにきてよかった」「つむぎにまた行きたい」と思ってもらえるような施設を目指していく。

また、地域の未来を担う子どもたちが地域と共に成長できるように、近隣の学校、保育園、公共施設、福祉施設、寺など様々な人や場所と連携を取りながら、混ざり合い育ち合い学び合いのインクルージョンを実践していく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：日課・基本活動を丁寧に確実に行う。 ねらい：どの年齢、どのグループ支援においても、さくらさくらんぼリズムや雑巾がけ、座禅などの日課を当たり前に実施し、継続して積み上げていく事で「強い心と体」の基盤を作っていく。
	実践予定内容	「強い心と体」を育てるべく心身の健康の基盤をつくるために、すべての年齢・すべてのグループ支援にて、日課を毎日当たり前に支援として取り入れていく。
2	計画・ねらい	計画：子ども自身が選び取れる環境づくり。 ねらい：子ども一人ひとりが自分で考え、選択して動ける力（にんげん力）を付けるために、自己選択できる環境の中で、自分の意見を持ち、活動を考え、周りも巻き込みながら自分のやりたい事を選択できる仕組みづくりを行う。
	実践予定内容	やりたい事をやりたい時にやりたい人とやりたいだけ一緒に活動できる環境（自分で必要なものをいつでも自由に取り出せる環境）を設定し、自分で考えて選択・試行錯誤できる力を育んでいく
3	計画・ねらい	計画：異年齢を主とした直接体験のグループ支援での育ちあい。 ねらい：①友だちとの協働②感情コントロール③目標の達成をトライ＆エラーを繰り返しながら、子どもたちが育ちあいながら身につけていく。
	実践予定内容	ホンモノの経験ができる活動を通して、他者との関わり合いの中で、意見を共有し試行錯誤するグループ支援を行っていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：保護者同士や地域を繋げる場所になる。 ねらい：つむぎが保護者同士でつながる場、保護者と地域がつながる場になっていくために、ともに学び情報交換し、保護者もインクルージョンへ巻き込んでいく。
	実践予定内容	就学座談会や放課後等デイサービス座談会、保護者懇談会等で保護者同士のつながりを作ったり、社会福祉協議会などを中心に地域の方々を招待などしたりして縦も横も関係性を紡ぐ地域の子育て拠点づくりを目指していく。
2	計画・ねらい	計画：最高品質の接遇を目指していく。 ねらい：「つむぎって最高！」と常に感じられるような最高の接遇を心掛けていく。常に保護者の心に寄り添いながら、期待値を上回る保護者支援を目指す。
	実践予定内容	コンピテンシーに基づく最高品質の接遇と心に寄り添った支援を実践していく。
3	計画・ねらい	計画：誰もが安心して一息つける空間にする。 ねらい：子育てに限らず、悩みがあって目白ルームに来ると、ホッと落ち着ける雰囲気にするために物的にも人的にも環境づくりをしていく。卒園してもまた来たくなる施設になる。
	実践予定内容	ほっと一息つけるカフェの物的・人的な環境づくりと、他者に安心感を与えられるような人材の育成をしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：地域でのインクルージョンの実践。 ねらい：当たり前につむぎの子どもたちが街に溶け込んでいるようなインクルージョンが展開されることを目指していく。
	実践予定内容	池三商店街、椎名町商店街、目白図書館、近隣の区立公園、保育園、福祉施設などの地域資源を利用することだけではなく、共に活動を考えて実践していけるような活用をして地域と共に子育てを行っていく。
2	計画・ねらい	計画：気軽に相談できる拠点として認められる。 ねらい：「いつ」「どこで」「だれでも」気軽に相談できる地域の拠点になる。地域の方々に、特別な場所で特別なことをしているのではないと伝えられる環境や関係を築く。
	実践予定内容	区民広場や区のセンターの掲示板などに目白ルームの活動の様子を掲示してもらったり、地域の方をカフェに招待したりして、特別な場所で特別なことをしているのではないと伝えられる環境や関係を築く。また、地域の方の居場所としてのカフェづくりも目指していく。
3	計画・ねらい	計画：ホンモノの経験ができる場所として地域の方々にも認知される。 ねらい：施設内やつむぎ利用児にとどまらず、地域の人たちと共に活動を

		展開させることで、目白ルームが火・水・土などホンモノの経験ができる場所として認知されるようにアウトリーチを進めていく。
	実践予定内容	近隣の保育園、福祉施設などと一緒に活動を展開することで、つむぎの良さを知ってもらい、地域に認められるルームになる

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：スタッフの「にんげん力。」のさらなる向上。 ねらい：経験をその場だけの出来事と捉えるのではなく、未来の経験や成長に繋がるものとして捉え、子どもたちの「にんげん力。」の向上につなげていけるような環境を常に考えることのできるスタッフの育成をしていく。
	実践予定内容	大人が背中を見せることを意識し、スタッフがまず経験する・学ぶ、という事を徹底する。
2	計画・ねらい	計画：支援を楽しめる、好奇心やチャレンジ意欲をもったスタッフの育成。 ねらい：「楽しくなければつむぎじゃない」を根底に置き、子ども一人ひとりの「ワクワク」「ドキドキ」を追い求めていくことができるスタッフの育成をしていく。
	実践予定内容	園長大学®保育士大学をはじめとした研修の受講やスタッフがチームで支援内容を考えていけるようなチームビルディングの構築。
3	計画・ねらい	計画：機会を排除しないスタッフの育成。 ねらい：「危ないから子どもにやらせない」「子どもにはまだはやい」と安易に決めつけるのではなく、「どのようにすればよいか」という思考を持てるスタッフの育成。
	実践予定内容	園長大学®保育士大学によるリスクマネジメント研修の受講とルーム内研修、OJT研修の実施によるスタッフの育成。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：食の循環、環境への意識を育む ねらい：畑仕事や食材加工、生き物の世話などを通して食の循環や環境への意識を高めていく。
	実践予定内容	自園で育てた食材を使用した調理活動や生き物の世話などを通した環境教育を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：園庭をはじめとした植樹などにおける木陰づくり ねらい：省エネ、省電力、カーボンニュートラルなどを理解するためのきっかけづくりを行う。

	実践予定内容	園庭に植樹を子どもと共に行い、配置や効果などを大人も子どもも考えてみる。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長１名
児童発達支援管理責任者１名
保育士１名
機能訓練担当スタッフ３名（作業療法士１名、理学療法士１名、言語聴覚士１名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月１回 １２０分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食など）を設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月１回	該当なし
事故防止委員会	月１回	自園や他園のヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証を行う。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
共有会議	月１回	グループ活動やポートフォリオ、子育ての質を上げる会議の共有を行う。
ケース会議	月１回	現状の問題点や分析・対策を行い、半年後に振り返る。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月１回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月１回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年２回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年４回	食育にかかる事項の検討、マニュアルの確認と改訂
保健会議	年４回	保健にかかる事項の検討、マニュアルの確認と改訂
子育ての質を上げる会議	月１回	どろんこ会内の施設同士での情報共有と勉強会 リーダー級職員によるルーム内の質の向上

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかやザリガニの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
アトリエ係	メジロックとのアート活動の窓口、交流活動の推進
異世代交流・豊島区福祉協議会係	地域活動の窓口、各種地域行事の参加推進

4. 支援方針

〈1〉基本方針

異年齢グループ	上半期 ３～５歳児	・日課・基本活動の実践 ・友だちとの関わりの中で自分の気持ちを言動で表現する ・友だちと一緒に楽しさを共有する ・友だちとのやりとりを楽しむ
	下半期 ３～５歳児	・日課・基本活動の実践 ・みんなで協力してひとつの事をやり遂げる ・自分たちで活動を決め、主体的に遊びを展開させていく ・人とのかかわりの場所を広げ、食の循環や環境への意識を高める ・異年齢ならではの育ちあい・学びあいを経験する
親子グループ	上半期 0～2歳児	・日課・基本活動の実践 ・つむぎが安心できる場所となるよう、大人や友だちと一緒に楽しみながら活動する ・体づくりを中心に大人とのかかわり、友だちとのかかわりを様々な場面で経験する ・日常生活動作の向上
	下半期 0～2歳児	・日課・基本活動の実践 ・楽しい場所に、いつもの友だちが来ているという安心感からお互いを意識しやり取りが増える ・日常生活動作が向上し、自分でできることが増える
個別支援		・それぞれにあったペースで活動をおこなう ・同じ時間に活動している友だちと場を共有したり一緒に活動したりする ・子どもが自ら活動や玩具、教材を選び取る
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」

保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	計画：自分で育てて自分で食べる。 ねらい：種や苗を植えるところから収穫・調理までを経験すると同時に収穫した野菜から種を得ることを知る。
	実践予定内容	畑で土に触れ野菜の栽培を行う。日々の水やりなどの仕事を子どもたち自身が行い、自分で育てた野菜を自分で調理して食べる。
2	計画・ねらい	計画：食を通して様々な“楽しい”を経験する。 ねらい：様々な形での食を楽しむ。
	実践予定内容	季節の食材を味わい行事に即した調理や加工（梅ジュース・梅干し・夏野菜カレー・味噌・干物など）を経験する。
3	計画・ねらい	計画：子どもと一緒に大人も食べる ねらい：保護者やスタッフと一緒に食べることで、「ともに生きる＝食べること」についての意識を高め、どろんこ会の食育の観点が日々の生活に般化されることをめざす。
	実践予定内容	調理活動にてスタッフや保護者が率先して食べてみる。感想を共有し、様々な感情表出を促していく。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）

流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 10月～1月頃…嘔吐下痢症 11月～3月頃…インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･該当なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月19日までに受講予定

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	計画：室内・室外ともに自分で考えて、自分で選択する環境づくり。 ねらい：自分で考え、行動できるようになるために環境設定を行う。

	実践予定内容	自分で考え、行動できるようになるため、支援の内容や順番は大人が決めず、子どもがやりたい事をやりたい時にやりたいだけ自分で選択できるように設定。自らが選んだやりたいことに集中して取り組めている状況を作る。
2	計画・ねらい	計画：みんなで考え、話し合い、自分たちで決めていく力を育てる。 ねらい：自ら行動する力を育てるとともに、友だちと試行錯誤しながら活動を展開できるようにする。
	実践予定内容	決まりきったルールにはめるのではなく、子どもたちがルールを決めたり、選択をしたりするなど、子ども主導の活動を当たり前に行っていく。
3	計画・ねらい	計画：身近な生き物を通して生死が感じられる環境。 ねらい：生き物にとって良い飼育環境はどんなものかを考えたり、調べたりして、飼育物を自分の仲間のように身近に感じる。生き物へのより深い興味や理解、愛着が生まれ、生死に向き合うきっかけとする。
	実践予定内容	生き物の飼育を通し、ただ可愛がるだけではなく、命を育む活動として、全ての世話を子どもたちと共に考え行っていく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	緊急時における対応について「緊急時対応マニュアル」に従い、全スタッフが対応を理解し、それぞれが役割を実行できるように訓練する。 非常災害に備えて消火設備等の点検をするとともに年間防災計画に沿って訓練を実施し、避難方法や関係機関・団体への通報及び連絡体制を確認する。また、それらを定期的に保護者へ周知する。特性ごとの災害対応についても理解しておく。
2	ケガ事故防止	不必要なケガや事故を防止するために、室内や屋外のハザードマップの作成と定期的な見直しを行う。他園で起きたものも含め、ヒヤリハットやインシデント、事故記録簿をスタッフ間で共有し改善策を出す。
3	防犯	外部からの不審者の侵入など、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所としての防犯マニュアルを定期的に確認するとともに関係機関、団体と連携して見守り活動や防犯にかかわる安全確保への取り組みを行う。
4	光化学スモッグ	外部からの不審者の侵入など、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所としての防犯マニュアルを定期的に確認するとともに関係機関、団体と連携して見守り活動や防犯にかかわる安全確保への取り組みを行う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

種類）中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

1	情報の発信	インターネットやSNSを活用して、ボランティアや実習を受け入れていることの情報を発信する ボランティアや実習の依頼元となる学校などを調べ、連携する準備を行う
2	受け入れ	スタッフの受け入れ体制を整え、準備を行う

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月８日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② ガイドライン、保育所保育指針読み合わせ ③ 人権チェック・虐待防止研修	自己の振り返り 児童発達支援ガイドライン、つむぎガイドライン、保育所保育指針を読み解く 人権チェック・虐待防止研修を行う
5月13日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 保育所における危機管理～予測する力が必要不可欠～（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り どろんこ会のマニュアルの読み合わせを行う 危機管理について学ぶ
6月10日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の振り返り ③ 音楽はもっと自由でいい～心を豊かにする音楽の楽しみ方（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についてこれまでの学習の振り返りを行う 支援における音楽の楽しみ方について学ぶ
7月8日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② ペアトレについて	自己の振り返り ペアレントトレーニングについての

		③　プール活動・水遊びにおけるリスクマネジメント（園長大学®保育士大学）	手法を学ぶ 水遊びのリスクマネジメントを学ぶ
8月12日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 学校を知る＆学校連携 ③ 言語聴覚士に学ぶ！乳幼児期のことばの発達（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り 地域の学校を知り、連携を考えていく 乳児期の言葉の発達について学び、日々の支援や相談支援に生かす
9月9日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ②　ポートフォリオの振り返り ③ 食育実践講座 子どもと一緒にチャレンジしよう！（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り ポートフォリオを用いて上半期の支援や子どもの成長について振り返る 食育について学び、日々の支援に生かす
10月14日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ②　人権チェック・虐待防止研修 ③ 性教育は生教育～導入から実践まで（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り 人権と虐待防止について学ぶ 乳幼児期の性教育について理解を深める
11月11日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ②　利用者アンケート振り返り ③ 保護者に感動していただける接遇とは？チームで身につける「おもてなし力」（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り 利用者アンケートの振り返りを行う 接遇・美観など日々のおもてなしについて学ぶ
12月9日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ③　保護者支援について ③ すべての保育者に見てほしい「はじめての人権」（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り 保護者支援の現状と今後の課題について検討する 子どもの人権について学び、日々の支援を振り返る
1月13日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 火を使った活動について ③ 円滑な小学校接続は保育者次第！ 創造的な思考と主体的な生活態度を育む保育とは（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り 火を使った活動を共有し、支援の幅を広げる 小学校接続・小学校に向けた保育・支援について学ぶ

2月10日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② ポートフォリオからの成果報告 ③ 実践！子どもから学ぶインクルーシブ保育（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り ポートフォリオからの成果報告を実施する インクルーシブ保育についての知識を深める
3月10日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度打ち合わせ ③ 生きる力を育む「運動遊び」（園長大学®保育士大学）	自己の振り返り 次年度打ち合わせ 運動遊びについてスタッフが実践しながら学ぶ

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の様々な人や施設と連携を図り、交流の方法を探るとともに合同活動の実現へつなげる。
商店街やギャラリーと協力し、つむぎが地域の一員になるような企画をする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：上がり屋敷公園にて　　集客目標：11名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	豊島区社会福祉協議会と連携し、高齢者との交流の機会を設ける 感染防止に留意しながらできる限り交流を深めていく
異年齢交流	戸外活動及び青空保育で出会う他園や地域の子どもたちとの交流 系列園のスタッフとのつながりを強める
地域拠点活動	福祉作業所のアートコラボ活動の継続 地域としての福祉活動の発信につなげる

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

区内の学校説明会、学校公開に関しての情報を適宜収集し、できる限りの参加を試み、実際の小学生たちの姿を見ることで就学後の姿を見据えた支援を目指していく。幼少接続プログラムを意識し、所属園を積極的に訪問し、生活に根付いた支援、就学を見据えた連携について模索し、考えていく。

また、相談支援事業所、併用事業所を見学し、連携を図るとともに、子ども家庭支援センター、発達支援センターとの連携を強化し、適切な支援について多角的に考えて行く。そして、近隣の発達に関する医療機関についても学び、必要なときに情報提供できるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月2日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
9月頃	池袋第三小学校	2名予定	学校参観（教室）	スタッフ間交流
10月頃	王子特別支援学校	3名予定	授業参観（教室）	スタッフ間交流
10月頃	池袋第三小学校	4名予定	交流（池袋第三小学校）	子ども間交流

10月頃	北特別支援学校	2名予定	学校見学（北特別支援学校）	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適正、特性を踏まえ、提供するサービスの適切な支援内容等について検討し作成する。

提示の2ヶ月前に保護者にモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズなどについて適切に把握。1ヶ月前に児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達を捉え、適切な支援を考える。6ヶ月に一度以上個別支援計画の作成を行うが、子どもの状態や家庭状況などの変化に合わせて支援の見直しをする場合がある。また、個別指導担当者が支援計画を作成し、児童発達支援管理責任者が確認して提示する。

所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加える。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：●名予定）

通所している子どもへの支援の妥当性をケース会議にて、さまざまな職種のスタッフより検討を行っていく。つむぎで見せる姿だけではなく、家庭、所属園、つむぎそれぞれの場所での様子を踏まえて子どもにとって最善の支援を考えていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートおよび電話などで進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行う。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	（月）～（土）10:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：11名
勝手籠設置	（月）～（土）10:00～17:00

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年8月4日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：10時00分
自己評価終了予定時刻：14時00分
自己評価実施予定者： 平石 友理、元住 野花、櫻田 幸乃

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	地域に出ること、地域の中に混ざること、地域の一員として役割を担っていくことを念頭に、単独拠点ならではのインクルージョンを実現させていく。
	振り返り	近隣地域の商店街ツアー、どろんこ保育園訪問、季節ごとにプレイパークでの活動、東京ベルディインクルーシブサッカーへの参加、地域の高齢者や学生との交流、子育て相談お話カフェや地域向け講座開催など、昨年度よりも地域とのかかわりを深めた体験活動を実施することができた。日々の活動でも、地域に出ていき様々な人とかかわりを持つことや、店や施設を調べる・利用するなど、地域に出ることや混ざることを実践することができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	地域に認められるインクルージョンの拠点となる
	重点施策	つむぎ目白ルーム＝インクルージョンを実践している拠点として、地域から認められる施設となる。子どもたちの生きる力を、地域を形成する一員として、地域の方々と共に身に着けていく。 子どもだけではなく地域の大人が気軽に立ち寄れる居場所づくりを行う。
２０２６年度	目指す姿	目白のインクルージョンモデルが他の施設の見本となる
	重点施策	つむぎ目白ルームのインクルージョンのアクションが地域から認められ、子どもの成長にも繋がる事が認知されていく。 また、他の施設が真似したくなるようにアクションプランを公開していく。 子育て相談や地域向けの講座を開き、地域の子育て広場となる。

２０２７年度	目指す姿	近隣地域にも認められるインクルージョンの拠点となる。
	重点施策	豊島区に隣接する地域の児童発達支援センターや他事業所からも認められるインクルージョンの施設となる。 子育て相談や保護者や関係者向けの講座を開き、近隣地域の子育て広場となる。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 目白ルーム 施設長　平石 友理

２０２５年度　発達支援つむぎ ふじみ野ルーム
事業計画書

保育園に併設された児童発達支援事業所として、インクルーシブ保育の実践をおこないます。
「保育所保育指針」「児童発達支援ガイドライン」に基づき、どろんこ会の「にんげん力。育てます。」を理念のもと、以下の項目を推進していきます。

① 一人ひとりの個性を大切にしながら、障がいの有無に関わらず生活を共にし、人と人との関りの中で、友だちと過ごす楽しさを感じ、コミュニケーション力を育みます。
② 異年齢との関りの中で生活に基づいた身近な経験や、実体験を重視したホンモノの体験ができる環境を用意していく。
③ 運営本部missionである「原点回帰」毎日の時間を大切に・人格形成を質高く確実に丁寧に・・を達成するため、保育園と発達支援とが一つのチームとなり、一日一日を大切に日々振り返り、目の前の子どもたちに必要な経験を与えられるよう、背中を見せ労働を教える大人の集団である。
④ 「子どもの姿」から読み取り「どんな支援が必要か」「どんな活動をとりいれていくか」「どんなねらいをもち参加していくか」という意図やねらいを共通認識のもと進めていき、スタッフ皆が同じ方向で丁寧な保育・支援を行う。
⑤ 様々な専門士がいることで、子どもの姿を更に多面的にみることができる環境である併設園の良さを最大限に活かした組織づくりを目指します。

Ⅰ．基本方針

〈Ⅰ〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：子どもの姿、状況からの計画を立てる ねらい：「どう参加していくか」という子どもの姿を大切にし、子ども自身の持つ発達の可能性を高められるようにしていく。
	実践予定内容	・引き続き、マンスリーは振り返り、保育計画を園と共に行い、ビジターは支援毎の振り返りをおこなっていく。 ・子どもの姿→読み取り→ねらい→環境構成・計画立ての手順を踏む
2	計画・ねらい	計画：支援の明確化を図る ねらい：支援内容の意図やどんな力や成長に繋がるかを明確化し、利用者の理解促進にも繋げる
	実践予定内容	・支援後都度のフィードバックを行うと共に、定期的に懇談会や事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）を利用し書面や写真で支援の様子を伝えていく
3	計画・ねらい	計画：子どもの現状の姿や興味関心に合わせて環境構成を行う ねらい：子どもが主体となれる環境の構築を図る
	実践予定内容	・子ども主体の環境、遊びが展開していけるような環境のあり方を学ぶ機会を設ける ・日々の保育・支援の振り返りを都度行っていく

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

I	計画・ねらい	計画：つむぎで行っている支援を分かりやすく伝える ねらい：大人が決めない・誘導しない訓練ではなく支援の大切さを日々のフィードバックで伝えていくことで理解促進を図る
	実践予定内容	・子どもの育ちや、行った支援内容がどんな姿に繋がるかを伝えていく ・コミュにケーションの強化を図り、保護者の不安や悩みを早期に気付けるようにする
2	計画・ねらい	計画：関係機関との連携 ねらい：関係機関との連携を図ることで相乗効果を図る
	実践予定内容	・保護者の同意のもと、所属園への訪問、就学先への就学支援シートの作成及び情報共有 ・自治体会議への出席、サービス担当者会議への参加を行う
3	計画・ねらい	計画：事業所内相談支援の充実 ねらい：個別に相談できる場を設ける。同じグループ保護者間で学び合う時間や家庭でも行える支援を学ぶ機会を設けることで、支援のねらいの共通理解を図ると共に、保護者同士が交流できる場を提供することで、横の繋がりを作り、保護者自身が安心して相談できる人間関係を築いていけるような環境の構築を行う
	実践予定内容	・事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）の周知、お話会、勉強会、リフレッシュ企画等の開催 ・個別相談は随時受付、実施する

〈3〉地域の子育て支援事業

I	計画・ねらい	計画：支援内容の発信 、発達支援情報の発信 ねらい：行っている支援の発信を行い、認知度を上げ地域の子育て力の向上を図る計画：支援の様子や発達支援情報を外部へ向け発信する
	実践予定内容	・ちきんえっぐ、つむぎカフェ、園の保護者の方々の見えるスペースに活動内容を掲示することや、ブログの発信をしていく ・つむぎのパンフレットを関係機関 に配架、定期的に訪問し自治体からの情報の更新を行う
2	計画・ねらい	計画：支援室を利用する方への発達相談の機会の提供 ねらい：支援室と連携し子育てや発達の相談の窓口となる。
	実践予定内容	・随時受付を行う 日頃から事務所廊下の窓をオープンにし気軽に声を掛けやすい雰囲気作りを行う
3	計画・ねらい	計画：支援室を利用する方への発達相談の機会の提供 ねらい：支援室と連携し子育てや発達の相談の窓口となる。
	実践予定内容	・随時受付を行う 日頃から事務所廊下の窓をオープンにし気軽に声を掛けやすい雰囲気作りを行う

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

I	計画・ねらい	計画：子どもの姿から保育、支援を展開できるスタッフ育成 ねらい：保育や支援を通してやりがいを感じられるようにすることで、学ぶ意欲を高められるようにする
	実践予定内容	・業務の見える化、動きの見える化を図ることで業務効率を上げ、話し合える時間を抽出する ・子どもの姿や様子をスタッフ間で話す時間を設けることで、子どもを多面的に捉え、チームの一員としていることを実感できるようにする。
2	計画・ねらい	計画：学びの輪を広げる ねらい：質の高い保育・支援を提供するために常に学ぶ姿勢をもつ
	実践予定内容	・園長大学、保育士大学の視聴を進める ・アウトプット後のプットアウトをしていくことで自分の考えを積極的に表現する
3	計画・ねらい	計画：個人として、組織の一員としての目標設定を立てる ねらい：プロとしての自覚を持つために自己分析、自己研鑽を行う
	実践予定内容	・MBOの目標設定をする際に、自己分析し現状の課題や自身の強みをしっかり把握する ・組織の一員として何が必要で何ができるのか自分ごととして捉える

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践予定内容	大人が片付けている姿勢を見せていく モノの場所が分かるようにすることで片づけやすい環境作りを行う
2	計画・ねらい	計画：廃材を利用しての遊びを充実化する ねらい：ゴミとするか、工夫することでゴミではなく再利用し遊びの資源とするか、身近な「遊び」という環境の中で子どもたち自身が主体的にできるSDGsを行う
	実践予定内容	空の容器や空箱をすぐに捨ててしまうのではなく、自由制作の際に子どもが自由に使用できるようにする
3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践予定内容	必要な物を揃える、定期的な環境点検 教材の見直しを適宜おこなっていく

〈6〉インクルーシブな保育・支援の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

I	計画・ねらい	計画：共に生活する中で一人一人の違いに触れながら他者も自分も認めることのできる ねらい：共に生活する中でそれぞれの違いに触れ、知ることで他者も自身も受け入れられるようにする
	実践予定内容	子どもの素朴な疑問や質問に丁寧に返していく 友だちや身近な大人から受け入れられる経験を積める環境の構築 安心してTrial&Errorがでる環境を園と共に作る
2	計画・ねらい	計画：併設園としての機能の充実化を図る ねらい：併設園としての強みを最大限に打ち出す
	実践予定内容	保育園・児童発達支援が併設されていることの強みをスタッフそれぞれが語れるよう園内勉強会や日々の伝えの中で話し共通認識を高める

〈7〉多機能型の事業所としての充実化（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

I	計画・ねらい	計画：多機能型事業所としての事業内容の発信を行う ねらい：支援を必要としている人に、必要なサービスと情報を届ける
	実践予定内容	各サービスを単体で提供するのではなく一体的に行えることを外部に向けて発信してく
2	計画・ねらい	計画：児童発達支援、相談支援、保育所等訪問支援の連携 ねらい：段階的に必要な支援を必要な時に受けられるよう各事業の連携、共有を行う
	実践予定内容	情報共有する時間の抽出を行う 必要に応じて定期的に会議を行う

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　I０人／日

〈2〉開所時間

8時３０分～I７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名

児童発達支援管理責任者I名

保育士４名　　他２名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・食育活動実践報告、喫食状況確認、配膳方法等
事故防止委員会	月1回	・インシデント、事故記録簿、ヒヤリハットの共有 ・再発防止に向けた検証
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	・子どもの様子、状況の共有、対応について ・つむぎと園との連携、情報共有と検討 ・支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方 についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援 の検証をする。
リーダー会議	月1回	各リーダーによる園運営、課題の抽出及び検討
朝礼、昼礼、終礼	毎日	その日の確認と振り返り、園との情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	四半期1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表

併設園会議	四半期１回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育計画振り返り、実践報告
保健会議	年4回	衛生、感染症マニュアルの確認、検討、実践報告
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保育園と共に計画・実行を行う
運動会係	運動会の企画・運営を行う
生活発表会係	生活発表会の企画・運営を行う
卒園式係	卒園式の企画・運営を行う
入園式係	入園式の企画・運営を行う

4. 支援方針

〈I〉基本方針

マンスリー	上半期	・安心して過ごすことのできる環境を整える ・情緒の安定を図りつつ、生活リズムを安定させていく ・身近な大人との安心した関りの中で、人と関わることの楽しさを感じ人間関係の基礎となる部分を養う ・やりとりを通して身振り・手振りや簡単な言葉を用いて、自分の気持ちや要求を表現する力を育む ・様々な体験を通し「やってみたい」と思う気持ちを育てる
	下半期	・生活に基づいた身近な原体験を重ねていく ・異年齢の友だちとの関りの中で友だちと過ごすことの楽しさやりとりするためのコミュニケーション力を育む ・やりたいことを自ら選択し自己決定して参加していく中で興味や探求心を育む ・主体的な参加（どう参加するか）を大切にする
ビジターグループ	上半期 ２～5歳児	・安心して過ごすことができる環境を整える ・他者との関りの中でコミュニケーション能力を育む ・様々な体験を通し「やってみたい」と思う気持ちを育てる ・園庭遊び、散歩、公園など戸外に積極的に出かけ四季折々に触れる経験や、身体を動かすことを楽しめる環境を整える
	下半期 2～5歳児	・四季折々の事象に触れ、様々な原体験を重ねる ・まず小集団の中から、自分の気持ちを伝えつつ、相手の気持ちにも触れながら関わる経験を積む ・活動内容を話し合う、作る物を話し合いで決める、必要な物を考えるなど子ども同士のやりとりをする機会を多く設ける ・主体的な参加（どう参加するか）を大切にする
事業所内相談支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第Ｉ回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

I	計画・ねらい	計画：すべての大人と子どもとが一緒に食べる ねらい：食を通して、皆で食べることの楽しさを体験し、食を通してのコミュニケーションを図る
	実践予定内容	身近な人と食べることで、おいしいと思う心を育む
2	計画・ねらい	計画：食の循環 ねらい：０からの食を学ぶことで食を通して学ぶ
	実践予定内容	畑で野菜を育て、収穫、調理、食す、加工品をつくり調理に使用する等 畑仕事、調理活動を活動の中に取り入れていく
3	計画・ねらい	計画：空腹感を感じることで、食べる事に期待を持つ ねらい：食事の時間だから食べるのではなく、お腹がすいたことを感じ食に対する意欲を高められるようにする
	実践予定内容	日々の日課、散歩、園庭遊び、畑仕事、生き物の世話など８：３０からの活動に参加し、沢山体を動かす

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年I回
スタッフ検便	全スタッフ月I回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月頃･･･手足口病、咽頭結膜炎、ヘルパンギーナ I2月頃･･･ウイルス性胃腸炎、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	特になし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在７名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員３名については７月Ｉ日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	１２月、Ｉ月までにスタッフ全員研修受講し、修得済み

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。など各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える

	実践予定内容	大人が片付けている姿勢を見せていく モノの場所が分かるようにすることで片づけやすい環境作りを行う
2	計画・ねらい	計画：安心できる居心地の良い場を作る ねらい：居心地のいい環境、空間作りを行う
	実践予定内容	子どもの姿から必要に応じて環境構成を再構築していく
3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践予定内容	必要な物を揃える、定期的な環境点検 教材の見直しを適宜おこなっていく

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
I	現在なし		

5．危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

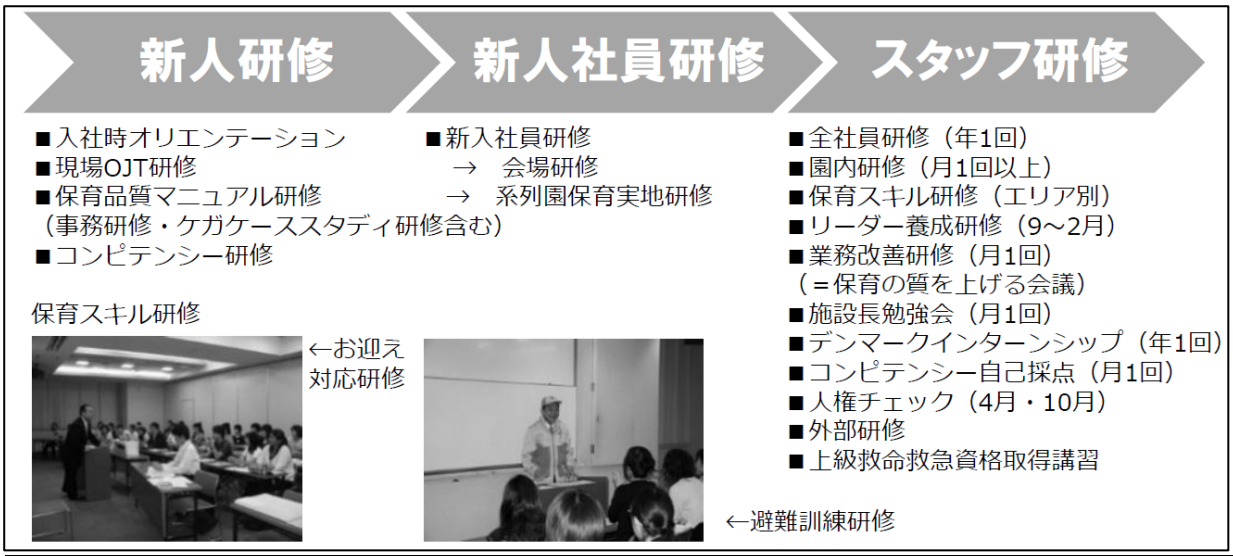
I	防災対策	非常災害時の対策として、相貌計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施
2	通報訓練	Twitterを利用し、保護者との緊急連絡掲示板の使用訓練実施
3	ケガ事故防止	事故防止チェックリスト、設備点検チェックの実施 ケガ発生時、対応フローチャートに従い迅速に対応する ケガを未然に防ぐためにヒヤリハットの共有やインシデント発生時の検証 を行い見直ししていく
4	防犯	年2回の不審者侵入訓練実施 笛の所持、インターホンでの確認、地域と連携し安全・防犯への意識付け をしていく
5	光化学スモック	光化学スモックの知識を身につけ、市からの注意情報を把握する 久化学スモックが発令された際は窓を閉め、室内で過ごす

6．実習生・中高生の受入

〈I〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。 種類）中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生 の各種ボランティアの受け入れ

I	実習生の受け入	近隣の中学校や高等学校、専門学校、大学などから実習生の受け入れ依頼



	れ 近	があった際に積極的に受け入れを行う
2	職業体験の受け入れ	依頼があった際は随時受け入れを行う
3	ボランティアの受け入れ	依頼があった際は随時受け入れを行う

7． スタッフ育成と研修計画

〈I〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月４日	I8:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理について ③ 人権チェック ④ 虐待防止研修	・子どもの人権保障 ・虐待防止のための措置や対応 ・マニュアルの確認・理解
5月９日	I8:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・年齢ごと発達過程および保育実践に必要な知識の学び合い ・ディスカッション皆で学び合う
6月６日	I8:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水の事故ロールプレイ ③ テーマに沿った勉強会	・マニュアルの確認・理解の促進 ・プール遊びの役割分担、配置の確認 ・

7月４日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　テーマに沿った勉強会	・発達を理解した上で保育実践していけるようディスカッションをしながら学び合う
8月８日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 テーマにそった勉強会	・現状の保育・支援の課題よりテーマを抽出し内容を決定する
9月５日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　テーマに沿った勉強会	・現状の保育・支援の課題よりテーマを抽出し内容を決定する
10月３日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　人権チェック 虐待防止研修	・人権チェックを行い虐待防止について研修を受ける
11月７日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　テーマにそった勉強会	・現状の保育・支援の課題より テーマを抽出し内容を決定する
12月５日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採 ②　テーマにそった勉強会	・現状の保育・支援の課題より テーマを抽出し内容を決定する
1月９日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採 ②　テーマにそった勉強会	・現状の保育・支援の課題より テーマを抽出し内容を決定する
2月上旬	18:00～20:00	策定会議①	・次年度事業計画発表 ・年間計画の策定
3月上旬	18:00～20:00	策定会議②	・プロポーサル内容の発表 ・次年度年間計画作成 ・畝づくり、環境整備

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8． 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

併設園であるふじみ野どろんこ保育園と共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事 業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会を設けていく。また、スタッフが地域の行事に参加するなど積極的に関わる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：亀久保西公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流（伝承遊び会実施）
異年齢交流	小学校、他保育園、子育て支援センター利用者との交流や、園の園児との交流
地域拠点活動	地域支援センターとの連携

9． 小学校との連携の計画

① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た

上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈I〉今年度方針・テーマ

併設園であるふじみ野どろんこ保育園と共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会を設けていく。また、スタッフが地域の行事に参加するなど、積極的に関わる。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を３月３日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	三角小学校 I年	２０名予定	三角小学校 （三角小校庭）	子ども間交流
７月頃	近隣小学校	２０名予定	どろんこ祭り （ふじみ野どろんこ保育園）	子ども間交流
I月頃	三角小学校 I年	２名予定	授業参観 （三角小教室）	スタッフ間交流

１０．個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。

⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもや家族への面談を行い、専門的視点からアセスメントを実施する。アセスメントでの情報を多 面的に捉えて、課題を整理し具体的な手立てを検討し個別支援計画を作成する。支援内容について課 題に着目しすぎずに、個の強みに注目し更に伸ばしていくことができるような支援計画の作成を行う。

〈２〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１名予定）

園と情報共有と支援内容の検討

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートの作成を行い、行ってきた支援や手立てを引き継ぐ

１１．子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（木）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：亀久保西公園にて開催

１２．施設運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

１３．3カ年計画の具体化

〈１〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	保育園に併設された児童発達支援事業所として、インクルーシブ保育の実践をおこなってきた。人と人との関りの中で友だちと過ごす楽しさを感じられるよう、生活を共にすることで互いを知り、更に関わる姿が見られたことや、関わり合いの中で学び合える環境の構築をおこなっていた。 そのため、環境整備の見直しや、丁寧な保育・支援を行うことに重点を向けて取り組んだ。
	振り返り	マンスリーでは更に園の生活に混ざることができるよう日課活動を行っている時間から支援を開始したことで、日課に対してその子なりの興味を持ちその子なりの参加をすることができた。また、日課を楽しそうに行っている園児の姿がモデルとなり、子どもの姿に変化が見られることは併設園としての何よりの強みとしてあげられる。 また、子ども同士生活を共にすることで、他者と自分との違いに触れ、まずは疑問を持ち、更に知ろうとし、互いを理解するという段階を経ている子どもたちは様々な個性に触れ「自分も自分でよい」と個性を受け入れ、更には自分を受け入れられている姿が見られています。 この共育ちこそがインクルーシブ保育の効果と思います。 ビジターでも活動内容を大人が組み立て過ぎず、主体性を育むことを強化するため、戸外での活動を多く取り入れて進めてきた。戸外、散歩へ行くことで自然な環境の中で支援をしていくことの良さを私たち支援者も感じることができた。 次年度も更に子どもたちの主体性を育むことのできる環境の構築を運営本部missionのもと検討し構築していく。 また、ここに来てよかったとどの利用者様からも安心、信頼してもらえるような事業所運営をおこなっていきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	子どもを中心とし、主体性を育める環境を構築する 気付きを言語化し「ねらい」「願い」を持った保育・支援ができる職員集団となる
	重点施策	気付きをその日のうちに共有し合う仕組み作りを行う 自分の思いを話すことのできる雰囲づくりを行う
２６年度	目指す姿	インクルーシブ保育の実践をし、交じり合うことの最高品質を構築する
	重点施策	併設園という強みを最大限に発揮し、発信し続けることで、地域の中のモデル園となる
２７年度	目指す姿	児童発達支援の保育園併設園モデルとして選ばれる園になる
	重点施策	地域と連動しながら支援を行える多機能型事業所となるため地域との連携を強化する

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ ふじみ野ルーム 施設長　佐藤　愛香

２０２５年度　発達支援つむぎ 池尻ルーム
事業計画書

１．基本方針

昨年度に引き続き、「好きなこと」「やりたいこと」から広がる活動を中心とした支援を展開していくことを基本方針とする。より多くの刺激を五感で感じることのできる、戸外活動を基本とし、子どもの可能性を最大限に引き出しながら、つむぎで培った経験がそれぞれの日常生活につなげていく。子どもは大人から与えられた課題をこなすのではなく、自分で考え、自分で選択し、自分から動くことができる子を育てる。また、自分の考えを相手に伝える力や自分で状況を判断して行動することができる力を身につけられるように支援する。その中で、時には他者に助けを求め、支え合い、子ども同士での学びや葛藤を大切にする。
畑仕事や生き物の世話を通して、毎回の支援で自分の仕事を認識することで、社会の一員として役に立つことを実感できるような子育てをしていく。

保護者に対しては、相談や日常の子どもの姿が気軽に共有できる雰囲気を作り、スタッフからの積極的な言葉かけをしていく。同じ不安や悩みを抱える保護者同士の繋がりを作り、いつでも相談し合える場を提供する。必要に応じて、所属している保育園や幼稚園、他事業所との他機関との連携を密に行っていく。

地域とのつながりにおいては、例えば、近隣の高校の畑を借りて一緒に農業をする、昨年度実施した和食調理専門学校で生鮮食品を目の前で捌いて食する、など地域にある資源の活用をしていく。
引き続き、社会福祉協議会をはじめとした地域とのつながりを継続・拡大させていく。近隣施設で行われている地域のイベントにも積極的に参加することで、地域から認知されるルームを目指す。池尻商店会とのつながりを継続し、子どもたちと足を運び、地域の方と直接対話する機会を積極的に作っていく。
そのためにスタッフは、活動場所や道具を制限することなく、健康状態や発達状態を理解し、大人になった姿を見据えた学びができるように環境設定をしていく。また、子どもが自分から活動の選択が自由にできる環境設定を常に考え続け、環境の見直しを繰り返していく。また、与えられた環境の中で「どうすればできるか」思考を常に持ち続け、考えることをやめないことで、子どもにとっての最善の利益を考え続けられるようになる。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	「基本活動を充実させ、生活力を体得する」 基本活動が子どもにもたらす影響を深く考え、必要性を理解する
	実践予定内容	・免疫を獲得するための、土に触れる環境を設定する ・危険なものとの距離の取り方を教える ・子ども同士での話し合いや意見を述べ合うことができる環境を整える ・子どもが自分の力でできることは、必要以上に介入せず見守り、見届ける支援をする
２	計画・ねらい	「畑仕事、生き物の世話を確実に丁寧に行う」 自分のすべきことを自覚し、社会の一員として役に立つことを実感する
	実践予定内容	・畑仕事、生き物の世話が毎回できるように、役割を決めて実行する ・週に一度の来所でも、成長がわかるように成長の経過を子どもと一緒に

		追っていく ・育てた食材を加工し、食の循環を学ぶ
3	計画・ねらい	「子どもが自分で考えて自由に選択できる物的環境の設定」 大人が活動を制限することなく、大人になった姿を見据えた学びができるようになる
	実践予定内容	・室内は部屋の扉を開放し、常にどの部屋も行き来ができる環境にする ・おもちゃや道具は棚にしまい込むなどの制限をせず、自由に選び取れるようにする ・子どもの成長によって常に環境の見直しをする ・戸外の活動では、公園の行き先や散歩先が選べるようにする
4	計画・ねらい	「命をいただく活動の実践」 食の循環を知り、食への興味関心を高める。命ある生き物が食べ物になることを知り、「いただきます」の意味を考える
	実践予定内容	・調理専門学校と連携し、魚を捌く体験をする 鶏を絞めて食す活動を実施する園に見学に行く

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	「保護者同士の繋がりをつくる」 同じ悩みを持った保護者と話したり、先輩ママとの繋がりができたりするような場を提供する
	実践予定内容	・座談会や就学相談会の開催 ・支援をしている時間に保護者同士で話ができる機会を設ける
2	計画・ねらい	「園や他事業所との連携や共通理解を図る」 所属園や他事業所との連携を図り、子どもにかかわる機関全体で子どもを支援できるようにする
	実践予定内容	・園訪問の実施 ・連携内容を保護者と共有する ・事業所間連携を利用し、他事業所での支援方針や内容についてスタッフ間で共有する
3	計画・ねらい	「リフレッシュできる時間の確保」 保護者が自身の時間を確保することができ、安心してゆっくりと過ごすことができるようにする
	実践予定内容	・季節に合わせて過ごしやすいカフェの環境を整備する ・保護者が手に取りやすい雑誌や本を用意する ・スタッフから声をかけ、居心地の良い空間作りをする

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	「地域に積極的に出向く」 地域住民と顔の見える関係性を築き、地域との繋がりを継続させる
	実践予定内容	・地域の商店街や学校に訪問し、交流をする ・地域のイベントに参加することで、つむぎの存在を知ってもらう

2	計画・ねらい	「子育て支援ネットワークの構築」 地域全体で子育て支援の力を高め、地域の支援者と関係性を築く
	実践予定内容	・地区の社会福祉協議会が開催する、子育て支援ネットワークやまちなか作品展に積極的に参加し、スタッフと情報共有する ・近隣の児童館や団体につむぎのパンフレットを配布する ・近隣の団体が主催しているイベントに子どもと一緒に参加する
3	計画・ねらい	「青空保育の実施」 公園で過ごす地域の子どもや保護者と接し、つむぎの存在を知ってもらう
	実践予定内容	・絵本や紙芝居の読み聞かせ、シャボン玉遊びを地域の公園で実施する ・希望者には、その場で子育て相談や支援の見学を受ける・

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「基本活動の深い理解」 子どもに必要な真のホンモノの体験とは何か、追及する
	実践予定内容	・戸外活動（長距離散歩、木登り、商店街ツアー） ・焚火体験、土と関わる活動 ・畑仕事、生き物の世話 ・命をいただく これらの自園でできる活動の必要性を話し合い、実践し、振り返る
2	計画・ねらい	「インクルーシブ保育の理解」 スタッフ全員で全ての子どもを保育することができる環境にする
	実践予定内容	・インクルーシブ保育の必要性をスタッフ間で話し合う ・近隣保育園と連携し、利用児が保育園で生活を共にできるようになる ・中目黒どろんこ保育園との話し合いを重ね、共通認識をもつ
3	計画・ねらい	「自己研鑽」 自分の頭で考え、「自分ならどうするか」ということを他のスタッフに伝えられるようになる
	実践予定内容	・園長大学、保育士大学を活用し、自分に必要なスキルを身につける ・学んだ内容を他のスタッフにも共有し、アウトプットをする ・学んだことを支援にどう活かしていくか、園会議の場で話し合う

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「畑（プランター）で採れた野菜で調理」 種植えから収穫、調理までの流れを理解し、食の循環について考える
	実践予定内容	・日々の畑仕事を通じて、野菜の成長を感じ、収穫まで実施する ・収穫した野菜を使用して調理活動を実施する ・調理した野菜をその場で食べたり、保護者に振る舞ったりすることで、調理から食事までの流れを体験する
2	計画・ねらい	「木を使ったモノづくり」 木が日常の何に使われているのか、見て・触って・体験して学ぶ

	実践予定内容	・木製玩具で遊び、その玩具ができる前の木（お散歩中の公園など）に触れ、木を使ったモノ作りを体験する ・近隣の木材店と連携し、木材を触る体験や木材を使用した製作を実施

〈6〉 各関係機関との連携

1	計画・ねらい	「所属の保育園・幼稚園との連携」 つむぎに通っている時間以外の子どもの姿を捉え、支援につなげる
	実践予定内容	・積極的な園訪問の実施を提案する ・所属園との情報共有を定期的に行う ・所属園で抱える課題や困りごとについて一緒に考えていく
2	計画・ねらい	「他事業所との情報交換」 他事業所で提供されている支援を知り、多角的な視点で捉えられるようになる
	実践予定内容	・子どもが利用している事業所との情報共有を定期的に行う ・相談支援事業所や区の障害福祉課と連携し、支援を必要とする家庭とつながる
3	計画・ねらい	「小学校との接続」 進学先の情報を知ることで、就学に向けての不安感を和らげる
	実践予定内容	・就学支援シートを活用し、進学先への情報共有を行う ・近隣の小学校と連携し、見学や学校公開に参加する ・支援級のクラスを見学、体験する

〈7〉 通いやすいルーム運営

1	計画・ねらい	「子どもが主体的に活動できる」 利用児や保護者がまた来たいと思える環境を整える
	実践予定内容	・子どもの好きなものを中心とした遊びを展開していき、子どもが自分から活動したくなるような環境構成を工夫する ・子どものやりたい気持ちをかなえられるような環境を設定し、子どもが夢中になれるものを探す ・カフェでゆっくり過ごすことができるよう清潔な空間を保つ
2	計画・ねらい	「スタッフが話し相手になる」
	実践予定内容	・来所した利用者に対してスタッフから挨拶をして話しかける ・子どもや家庭のことについて、気軽に話すことができる雰囲気を作る ・スタッフ全員が突然の来訪者にも対応できるようにする

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士2名
機能訓練担当スタッフ2名（作業療法士2名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・造形、音楽、自然、食などのテーマを設け、資料を使った研修を行う ・法人内から講師を招いた研修を行う
事故防止委員会	月1回	・法人保育園の重要事故を振り返る ・つむぎで起こった事故を振り返り、自園での発生を防ぐ ・自園のヒヤリハット、インシデントを振り返り、再発防止策を検討する
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど

施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育の推進、意見交換、取り組みの共有
保健会議	年4回	健康増進、アレルギー、感染症等について
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した計画的な研修の遂行をする。 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進を行う。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理
畑係	・ベランダ、プランターの整備栽培計画の立案 ・計画的な作物の栽培計画 ・栽培活動に関する予算管理 ・子どもと共に活動することの提案 ・食育へ繋げることを前提とした活動の提案
生き物係	・生き物の世話に関する統括（カブトムシ、ザリガニ、金魚、蚕） ・新たな生き物との触れ合いの機会の充実 ・子どもたちと共に世話をしていくことへの提案 ・戸外での動物や植物に触れる機会の検討立案 ・生死を知る、食の循環を考える

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
地域連携係	・地域と連携した体験学習企画、実施 ・近隣住民との連携 ・商店会との連携
中目黒どろんこ保育園連携係	・行事などへの積極的な参加 ・園会議、要支援児対応会議への出席 ・勉強会、スタッフ交流会の企画、実施 ・合同行事の立案、実施
青空保育係	・チラシの掲示 ・月ごとの内容を企画
小学校連携係	・地域小学校の学校公開やイベントの情報収集 ・小学校への見学や交流会の計画 ・卒園児の見学

4. 支援方針

〈1〉基本方針

リトルグループ（0～2歳児、未就園児）	上半期	・つむぎやつむぎスタッフに慣れ、通うことが楽しいと思えるようになる ・保護者の思いに寄り添いながら、ともに子育てを考えていく ・戸外活動を基本とし、運動機能の発達を伸ばしていく ・着替えやトイレトレーニングに繋がる活動を取り込み、生活動作獲得のサポートをしていく ・子どもが自ら選んで自分の意志で取り組める環境を設定する ・他者と同じ空間で活動することを通して、他者に関心を向ける場所及び時間となるように環境を整える
	下半期	・各々の就園先に向けた集団活動への準備をしていく ・自分のことは自分でするという心身共に自立するような環境を用意する ・就園に向けて子どもが少しずつ保護者と分離して主体的に活動できるよう、見守りを大切にした支援を行う ・スタッフが仲介に入ることで、他の子どもとかかわりをもって遊び、他者とのかかわりが増えるよう支援を行う
キッズグループ（3～5歳児）	上半期	・友達とぶつかる中で、自分の気持ちをコントロールする経験を積む

		・戸外活動を通して、自由に体を動かす楽しさと気持ちよさを知る経験を積む ・生き物の世話を通し、生命の尊さや「生きること」を感じる ・プランターで食物栽培をし、収穫したものを調理や加工して食することを通して食への関心を高める ・生産から食卓までの「食べ物の循環」を知り、食を楽しめる経験をする ・心身の健康維持、食べる楽しみ、作る楽しみ、食文化、生産者への感謝など、食育を通した豊かな生活のきっかけづくりをする ・地域での活動や戸外活動で、多様な人々との関わりを持ち、多様な人々と触れ合う機会を持つ
	下半期	・友達とぶつかる中で、自分の気持ちと相手の気持ちが調整できるように支援する ・活動を通し、友達と一緒に活動する楽しみを知り、協調性や主体性、思いやりの心を育む ・子どもたち自身で活動内容を計画し実行するという機会を通して達成感を味わえるようにする ・安全に配慮した行動ができるように、危険な場所や遊び方などを考える時間を設ける ・就学に向けて、一人一人の将来を共に描き、保護者と相談の場を持つ
ビジター支援 （未就園、長期休みのみ）	長期休み	・保護者からの預かりニーズに対応 ・長時間過ごすことで、食事や排泄など、より生活に根付いた支援を行う ・公共交通機関の利用や公共施設見学など活動の幅を広げ、ホンモノの経験を得る機会を増やす ・焚火保育や長距離散歩など、短時間では完了しない活動に参加する機会を提供する ・子どもの興味や関心に応じて、主体的かつ意欲的に活動に取り組む姿勢をサポートする ・じっくり遊びこむ時間を設けることで、活動に達成感や満足感を味わう経験をする ・保護者と分離する時間を設けることで、保護者がリフレッシュできる時間を確保する
個別支援	通年	・グループ支援を利用していることを基本とし、希望する保護者とつむぎから必要だと思われる児童に対して、スタッフ間で検討した上、利用を決定する ・機能訓練士をはじめとした、専門職が個々にあった支援内容を提供し、機能の向上を支援する
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・保護者の思いに寄り添い、傾聴すると共に現状や問題点、つむぎとして取り組む事項などを整理し、今後の支援の道筋を探る

		・家庭や所属事業所、関係事業所と連携して取り組める方向性を、保護者と一緒に考える ・保護者の希望だけでなく、つむぎからも必要だと思われる家庭に声をかけ、必要に応じて相談にあたる ・「相談支援記録」を残す
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う
意見・要望への対応	随時	・書面、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉 年間行事計画

2025年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	「プランターで野菜を育てる」 食物を育てることから携わり、食材の変化や食の循環を知る
	実践予定内容	・種まき、水やり、間引き、収穫、加工、食するという一連の流れを経験する ・子どもそれぞれにオリジナルのプランターを作ったり調理活動の計画を立てたりすることで、子どもたちがモチベーションを持って栽培活動を楽しめるような工夫をする
2	計画・ねらい	「調理活動を行う」 食材の加工を経験し、その変化に気付き楽しむ
	実践予定内容	・大豆から味噌を作り、収穫した野菜でみそ汁を作る ・梅から梅干しと梅ジュースを作る ・トマトを収穫し、手作りケチャップに挑戦する
3	計画・ねらい	「スタッフと一緒に食べる」 他者と食事をするという楽しさの体験をする
	実践予定内容	・調理したものをスタッフや他児と一緒に食べることで、味やおいしさ、楽しさを共有して、コミュニケーションとしての食の役割を知る
4	計画・ねらい	「命をいただく経験をする」 実際に生きた状態からお店に並ぶまでという一連の流れの中で、命をいただくということを体験する
	実践予定内容	・食にまつわる絵本の読み聞かせを行う ・調理専門学校と連携し、魚を捌いているところを見学する ・魚を捌く体験をする

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～7月頃…ヘルパンギーナ 7～8月頃…咽頭結膜炎（プール熱） 11～3月…インフルエンザ 11～12月頃…感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	預かりなし エピペンの使用時は、保護者に連絡
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	「子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定」 子どもが主体的に関わることができるようにする
	実践予定内容	・子どもたち自身で選択できるように、どのような玩具の配置がよいか考える ・施設内で飼っている生き物にいつでも触れられるように配置する ・本棚の整理整頓を行い、定期的に本を入れ替えるようにする ・子どもたちの興味、関心に合わせた道具や教材を適宜追加する
2	計画・ねらい	「戸外活動の実施」 ホンモノに触れる機会を作り、生活に根付いた環境を大切にする
	実践予定内容	・カードや玩具、絵本での知識に留めず、畑仕事で収穫した野菜に触れたり、商店に並ぶ野菜や果物、魚などにも触れたりする経験を提供する ・緑道にある季節の植物、生き物に触れる機会を作る
3	計画・ねらい	「自分で考え、自分で選択し、自分で行動する」 どこの場所であっても子どもが活動の場として選択できるようにする
	実践予定内容	・支援室を自由に行き来できるようにしておく ・カフェや事務所も自由に行き来でき、子どもたちが安全に活動できるように、常に整理整頓された状態を保っておく
3	計画・ねらい	「子どもを見守る関わりを大切にする」 子どもが自信をもって行動し、試行錯誤をする機会を保障する
	実践予定内容	・スタッフが適切な立ち位置で子どもを見守り、必要な言葉かけができるように勉強会や事例検討を行う

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	避難訓練を月に1回実施し、緊急時にスタッフ全員が最善の対応ができるように努める。全スタッフが、避難場所・避難経路・避難対応の仕方を熟知している状態でいる。また、支援内で避難訓練を実施するなど、子どもや保護者の防災意識も高めるようにする。

2	ケガ事故防止	活動前に予想されるケガや事故について話し合い、未然に防げるように対策を考える。また、毎日の夕礼でヒヤリハットを出し合い、その場で環境や対応を改善していく。起きた怪我や事故に対しては、原因の究明を怠らず、再発防止や改善に努める。
3	防犯	不審者侵入対応訓練を年に2回実施する。誰もが自由に出入りできるカフェであることが前提であるため、来客者とは日々コミュニケー ションを取り、異変に気付ける目を養う。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグの知識を身に着け、自治体からの注意情報を把握する。また、光化学スモッグ注意報が発令された場合は、光化学スモッグ発生時の対応及び行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

1	中高生の体験学習受け入れ	・世田谷区桜木中学校の華道部の生徒の方に来所頂き、子どもたちと生け花体験を実施する
2	一般および学生の各種ボランティアの受け入れ	・調理専門学校の学生と先生に来所頂き、子どもたちと魚を捌く、調理する体験を実施

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 法人理念・発達支援ガイドライン・2025年度ミッション ③ ケガ・ケーススタディ ① 園長大学®・保育士大学「すべての保育者に見てほしいはじめての人権」 ② 人権チェック	・改めて法人内のミッション等の共通理解を図り、自ルームに照らし合わせて考える ・スタッフの立ち位置や声掛けなどについて学び、集団で起きうる事故を想定した動きができるようにする ・子どもの人権を第一に考えられるようになるため、その定義や対応について理解を深める

5月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「子どものケガには意味がある ポジティブに考える再発防止策」	・怪我への認識を深め、再発防止策を考えられるようになる ・怪我をマイナスな面だけでなく、ポジティブに捉えられるようになる
6月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「保育を嫌いになりそうになった時の処方箋」	保育、発達支援について考える
7月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「触って感じる・表現する（実践編）」	さまざまな表現について学び、支援に活かす
8月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「保育における食育の基本」	・食べること、食に興味を持つこと、口腔機能について学ぶ ・畑活動と食育を連動させた、食の循環について考える
9月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「魅力あるおもちゃの選び方」	・物的環境構成について考え、環境の見直しをする ・子どもが主体的に遊び込める環境作りについて学ぶ
10月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② ハザードマップの見直し ③ 園長大学®・保育士大学「障害児コースと健常児コースに分かれた姉弟の行く末」	・保護者支援について学ぶ ・保護者目線になって捉え、自分事として置き換えて考える
11月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査 ③ 園長大学®・保育士大学「保育と自然を未来志向で考えてみよう①」	・内部監査項目の共通理解を図ると共に、子育てサービスや環境整備について振り返る ・半期の戸外での活動を振り返り、遊びの引き出しを増やす
12月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「性教育は生教育」	・性教育について学ぶ ・子どもの人権について再度考え、意見交換をする
1月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「実践!子どもから学ぶインクルーシブ保育」	・インクルーシブ保育の必要性について深く考える ・インクルーシブ保育を実践していくために必要なことを考える

2月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「幼児期に育みたい力とは?」	・小学校との接続について学ぶ ・就学に向けて育みたい力について考える
3月	9:30～11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®・保育士大学「子どものこころの育ちと保育者の言葉がけ」 ③ 次年度に向けての研修内容検討	・今年度の自分自身の支援を見つめ直し、次年度に活かす ・今年度を振り返り、次年度学びたい内容について話し合う

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

これまでに築いてきた商店街の方との関係性を継続し、商店街のイベントに参加するなど、スタッフが積極的に地域に出ていき、イベントや行事に参加するようにする。

また、昨年度子育て支援ネットワークで繋がった団体との関係性も強化し、地域で開催されるイベントにも積極的に関わっていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：世田谷公園にて　　集客目標：10名／月
商店街ツアー	随時　買い物やハロウィンイベントを実施する
世代間交流	・緑道での活動を通じて、地域の方々との交流を図る
異年齢交流	・体験学習などのイベントでは積極的にきょうだい児の参加を促し、幅広い異年齢交流の場を設ける ・卒児と利用児が交流できるようなイベントを開催する ・地域の公園を活動の場とし、そこに集まる小学生も共に遊びを展開する
地域拠点活動	・「みちあそび」「まちなか作品展」：社会福祉協議会主催。道路もしくは施設にて、伝承遊びなどを通して、地域の方々が一緒に遊んで楽しめる機会を作る
中目黒どろんこ保育園	・園児との交流の機会を持てるように、公園での活動を共に行う ・運動会やどろんこ祭りなどに参加する

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

以前、見学させていただいた小学校にアポを取り、スタッフの学校見学や子どもたち同士の交流会を実施する。スタッフが小学生の姿を見て、その姿から逆算した必要な支援や経験を熟考し、子どもたちに提供できるようにする。子どもたち自身も実際に学校の施設や小学1年生の姿を見て、自分が小学生になるときのイメージを膨らませて期待を持てるようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を５月１日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
適宜	東山小学校	2～3名予定	学校見学（特別支援教室）	スタッフ間交流 小学校の雰囲気を知る
適宜	多聞小学校	2～3名予定	学校見学（特別支援学級） 子どもたちの交流会	スタッフ間交流 小学校の雰囲気を知る 子ども自身が小学生になったときの姿を想像する

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。これらの情報を策定会議で話し合い、子どもの課題と支援方法を検討した上で、個別支援計画書の作成を行う。作成した個別支援計画は保護者に説明を行い、同意を得てから計画に沿った支援の提供をする。また、6か月に1回以上のモニタリングを実施することを原則とする。

〈2〉毎月のケース会議開催　（適宜開催予定　参加者：６名予定）

保護者の困り感が強いケースや、支援が難しいケースなどを中心に事例を挙げ、対応や支援策について検討する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

保護者の希望により、就学支援シートを作成し、小学校への引継ぎを行う。就学支援シートには、利用の状況、当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要な配慮事項などを記載する。子ども自身の強みや得意なことなども伝えて、就学後にその子が自分らしく過ごせるための情報提供となるようにする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～18:00
子育て相談	随時受付　集客目標：1名／月
青空保育	月1回　　公園名：世田谷公園にて開催　集客目標：10名／月

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２４年８月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である
自己評価開始予定時刻：９時３０分
自己評価終了予定時刻：１６時００分
自己評価実施予定者：森谷、田中のいずれか

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. ３カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	１支援の質の安定 ・子どもの「好き」を中心とした支援を展開する。その中で、子どもたちは、自分で考える、自分で判断する、自分で行動することが実現できるように、また生きる力を身につけられるようにする。 ・スタッフは、生きる力を身に付けるためには何が必要なのかをそれぞれが考え、適切な環境設定と支援の提案ができるようになる。 ２保護者支援 ・保護者同士の懇談会を実施 ・就学先の情報収集 ３近隣の幼稚園、保育園、小学校との連携を図る ・スタッフが小学校の見学に行き、小学生の姿から逆算しつむぎに通う子どもたちの成長を１０の姿に沿って考えられるようになる。 ４地域の方との結びつきを深めて継続的に関わっていく ・社会福祉協議会と協力し、現在企画中のみちあそびなど、地域の方との合同行事を企画、実行していく。 ・商店街の方にご協力いただいて、商店街ツアーやお仕事体験などを行う
	振り返り	子どもがやりたいことを中心とした支援が展開できるようになってきて、やりたいことができる場として、安定して通う利用者が増えている。次年度は、言葉での指示を減らし、子どもが自分で考えて行動する姿をスタッフが見守る支援をすすめていきたい。

		保護者が参加する座談会を2回開催することができた。今後は、日常的に相談し合える場を作っていくために、定期開催を視野にいれていきたい。 地域交流については、地域団体主催のイベントに参加することができた。イベント等がない普段からも、自ら地域に出向いて関りを持っていくことで、さらなる関係性を構築していきたい。

〈2〉当年度以降の３カ年計画

２５年度	目指す姿	インクルーシブ保育に向けた近隣保育園や関係機関との連携
	重点施策	１．インクルーシブ保育の実現 中目黒どろんこ保育園、上目黒どろんこ保育園、発達支援つむぎ 上目黒ルーム、発達支援つむぎ 駒沢ルームと連携し、地域で支援を必要とする家庭に対してアプローチができるようにする。 すべての子どもが所属園で過ごすことに充実感を得られるように、大人のサポート体制を作る。 ２．近隣の幼稚園、保育園、小学校との連携を図る 所属園に対しての園訪問やヒアリングを定期的に行い、さまざまな面から子どもを捉え、多角的な支援ができるようにする。 スタッフが近隣小学校の見学に行き、就学後の姿がイメージできるようになる。就学に向けて伸ばしていきたい10の姿を具体的に支援に取り入れられるようになる。 ３．地域の保健師や中核となる相談事業所とつながる 保健所や相談支援事業所へ訪問し、地域で支援を必要としている家庭を繋げる役割である専門職と密な連携を図ることで、つむぎの存在を知ってもらう。
２６年度	目指す姿	支援を確立させ、つむぎ単独園のモデル園となる
	重点施策	・支援の質を安定させ、単独園としての意義を確立する。 ・単独園としての役割を周囲に伝え、小集団と大集団を繋げる施設になる。 ・専門職としての役割を活かし、保育園の巡回や機能訓練の必要な子どもへの個別的な関りなど、さまざまな場面で活躍できるようになる。
２７年度	目指す姿	地域からの認知度を上げ、選ばれる施設になる
	重点施策	・無料子育て相談会実施やカフェスペースを改善する。 ・地域の施設や団体に訪問し、つむぎの存在を周知する。 ・近隣の保育園や幼稚園、小学校、他事業所と繋がりを広げ、顔の見える関係性になることで、紹介や就園後・就学後のサポートができるようになる。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 池尻ルーム 施設長　恩田 奈央

２０２５年度　発達支援つむぎ 横浜東口ルーム
事業計画書

１．基本方針

横浜東口ルームは「みんなでやり抜く」をスローガンに、子どもにとって最大の環境である大人一人ひとりが勇気を持って自分を出し、互いを知り、変化してゆく。

個性を支え補い合い、みんなが横浜東口ルームを「わたしの場所」と感じられ、存在し続けてゆくために、一人ひとりがルームに関わるあらゆることを「我が事」として捉え、携われるようになってゆくことを目指す。

そうして踏み固めた基盤の上に法人理念「にんげん力。育てます」の旗幟を掲げ、子どもたち一人ひとりが安心して楽しく、ありのままの自分を知り他者を知り、刺激し関わり合えるルームとなる。

そして、この社会に生きてゆくために必要とされるさまざまな力が子どもたち一人ひとりに、それぞれに求められる形となって涵養する。

そうした、子どもも大人も一人ひとりが尊重され、それぞれがそれぞれらしく成熟できる機会が十全にある、魅力にあふれたルームとなることを目指す。

●運営部missionの遂行

① 「基本活動」を深く理解する～ホンモノの体験を～

「日課や戸外活動を通じて強い体を育てる」ことを目標として、その達成に向けて体幹を鍛える、ボディイメージを育むといった短期・中期的な指標を定め、子どもたち一人ひとりの発達段階や課題を深く理解し、そのねらいに合わせて子どもたちが楽しく意欲的に基本活動に取り組めるよう柔軟にプログラムを構築してゆく。

② 「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～

これまでの取り組みを通じて定着した畑仕事は引き続き、土に触れること、食材への関心や興味、食べる意欲を育むことを目指して定期的な活動として年間を通じて取り組んでゆく。

さらに、これまでの「自分たちで栽培し、自分たちで食べる」という食育活動の深化を目指し、命や環境の循環に触れられるような活動を盛り込んでゆく。

そのため、子どもたちがどじょうやメダカなどの生き物を飼育し世話できる環境をルームに整え、より愛着や達成感を持って畑仕事に勤しめるように土作りなどから活動に取り組んでゆく。

③ 「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

情緒豊かな商店街や昔ながらの銭湯が今も息づく町に立地する恩恵を活かし、これまで築いてきた地域との関わりをさらに深め、市井の人々との交流を通じて子どもたちの成長を育んでゆく。

そのため、訪問や買い物といった一方向的な点としての関わりでなく、子どもたちが愛着を持って地域と関われるよう継続的な線の活動として取り組んでゆく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの最善の利益のために互いを高め合える、「子どもの将来に携わるプロのチーム」を目指す。
	実践予定内容	・日々の支援で感じたことや気付きを伝え合い、目指す支援の在り方や子どもの姿を話し合える風土を作る。 ・自分の意見を伝わるように主張し、相手の意見を尊重して聞き、子どもの最善の利益に向けて協力する関係性を築く。
2	計画・ねらい	日々の活動の指標となる支援計画、その前提となるモニタリング、基盤となる策定会議をより深化させ、より丁寧な支援に繋げる。
	実践予定内容	・保護者との日々のコミュニケーションを通じて関係性を構築し、園訪問や相談支援などから子どもの様子を多角的に把握する。 ・子どもの様子を注意深く観察し、支援計画および活動が適切に提供できているかをルーム全体で確認、共有できる会議を定期的に実施する。 ・子どもたちが楽しく意欲的に活動に取り組めるよう、ケース会議の実施や支援計画の見直しなどを行い、柔軟にプログラムを構築できる体制を築く。 ・法人理念やミッションの掘り下げを行い、どのように日々の活動に落とし込めているかを話し合い、活動の振り返りや具体的目標などを協議してゆく。
3	計画・ねらい	活動を点ではなく年間を通じた線として実施し定着させることで、子どもたち一人ひとりに生きる力が育まれてゆくことを目指す。そのため、大人一人ひとりが決められた役割や責任を果たし、やり抜く。
	実践予定内容	・子どもやグループの様子、状況を確認し共有するための場を、ルーム会議を用いて定期的に実施する。 ・ルーム全体でスタッフ各人の業務進捗を把握し、優先順位の設定や業務の最適化を図る。また、状況の共有を通じてコミュニケーションを円滑にし、問題の早期発見や解決促進を目指す。 ・十分な時間的余裕を持って業務に当たれるよう見通しを持って遂行する。また、進捗や問題点などを定期的に共有し、突発的な状況にもチームとして対応、カバーし合える体制を築く。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが保護者の気持ちに寄り添った接遇ができるよう、保護者が抱く不安や悩みに気が付ける関係性を築いていく。
	実践予定内容	・子どもだけでなく保護者も気持ちよく通えるよう、挨拶はもちろん、会話やコミュニケーションを取る時間を大切にする。 ・保護者との関係性を「サービスの受益者と提供者」といったビジネスの言葉づかいでくくらず、「子どもの最善の利益を共に模索する対等なパートナー」として捉える。保護者の心情や置かれた状況を慮りつつ、支援のプロとして、保護者の要望だけを適えるのではなく子どもの最善の利益という観点から適切な対応を行ってゆく。
2	計画・ねらい	保護者がルームを「この子の大切な、一つの社会」と感じられるよう、保護者同士の交流を深める。

	実践予定内容	・振り返りにおいて子ども同士の関わりやグループ全体の成長などを、個別だけではなく保護者全体に伝えてゆく。 ・就学の相談会、つむぎを卒業した保護者を招聘し、実際の学校生活の様子を聞ける場を設ける。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の他事業所との連携を計るため、西区児童部会や療育教育福祉連携会を中心に、横の繋がりを築く。
	実践予定内容	施設長、児童発達支援管理責任者だけでなく、すべてのスタッフが研修や見学会に積極的に参加し、顔の見える関係性を作る。
2	計画・ねらい	つむぎの周知を図り地域との関わりを深め、行事やイベントなどで子どもたちが地域の人々と交流を持つ場を作る。
	実践予定内容	自分たちで作ったシロップを用いた「つむぎジュース屋さん」、利用者でなくても参加できる「誰でもイベント」、つむぎ夏祭りなど、地域に向けて開放した活動を行う。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・個人もチームも成長し、より質の高い支援を提供できるように法人理念やミッションの理解を深め、共有する。
	実践予定内容	・法人理念やミッションの掘り下げを行い、それらをどのようにルームの日々の活動に落とし込めているかを話し合い、その進捗振り返りや具体的目標などを協議する。
2	計画・ねらい	・専門分野や得意分野、興味あることを学びインプットして、スタッフに向けてアウトプットする。 ・自分が学び感じたことや吸収したことを多角的客観的に捉えることで、学びの定着を目指す。またそれを相互に行うことで、相乗効果や学びの深化を目指す。
	実践予定内容	・園長大学®保育士大学の講座を積極的に活用し、スタッフは年間で受講する数やテーマなどを決定し共有する。 ・スタッフで話し合ってテーマを設け、ルーム会議の時間を用いて園長大学®保育士大学の講座を視聴し、実際にどのように行動すれば自分たちの業務に落とし込めるかを話し合い、実践できる具体策を出し合う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環リサイクル。
	実践予定内容	プランターで栽培した紫蘇を加工してジュースやかき氷のシロップを作り、地域に提供する。

2	計画・ねらい	食の循環サイクル
	実践予定内容	畑仕事で作付けした枝豆を大豆に栽培し、加工して味噌や豆腐作りを行なう。

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名
児童発達支援管理責任者I名
機能訓練担当スタッフ４名（言語聴覚士２名、作業療法士１名、理学療法士０名）
児童指導員１名
その他指導員０名

3. 運営方針

〈I〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月I回I20分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食など）を設け、資料を使った研修を行う。
事故防止委員会	月I回	・ヒヤリハット、インシデント、事故の共有。 ・再発防止策の確認。

支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食など）を設け、資料を使った研修を行う。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
食育会議	年4回	議事内容の情報共有
保健会議	年4回	議事内容の情報共有
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した実践と成果報告
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒や月１回の清掃の点検と管理、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	・事業所内、また周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 ・計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月１回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	他施設屋上に借りている庭園の整備、計画的な活動の立案

生き物係	どじょうの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
体験学習	体験学習を通常の活動では体験できないイベントとして位置付け、保護者や地域にも協力を仰ぎながら開催する。

4. 支援方針

〈I〉基本方針

マンスリー	上半期	・子どもたちが安心して楽しく活動に取り組める環境を整える。 ・いろいろな遊びを経験し、興味と関心の幅を広げてゆく。
	下半期	・遊び込む力を育んでゆく。 ・感じたことを表現したい、伝えたいという気持ちを育んでゆく。 ・大人や友だちと楽しく過ごし、対人意識を育んでゆく。
グループ	上半期 3～5歳児	・子どもたちが主体的に活動に取り組み、友だちと関わり合える環境を整える。 ・自分の気持ちを言葉で伝える経験を重ねてゆく。 ・遊びや畑仕事などを通じて、相手の気持ちや考えに触れる。
	下半期 3～5歳児	・自分の気持ちを大切にしながら、友だちとの関わりや集団での活動を楽しいと感じる経験を重ねる。 ・どんな遊びをするか、散歩でどこに行くかなどを子ども同士で話し合う、みんなで決めた活動に参加し取り組むなど、集団で楽しむ力や活動する力を育んでゆく。
個別支援	随時	・個別支援を子どもと大人のI対Iの時間としてのみ完結させるのではなく、子どもの特性に応じて小集団や集団に繋げるためのステップの時間と捉えてゆく。 ・グループ活動の様子を見てみる、部分的に場所や時間を共有するなど、交流できる機会を子どもとグループの様子や状況に応じて設けてゆく。
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」

保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

１	計画・ねらい	【食に対しての興味・関心を高める】 ・自らが畑で育てたものを収穫し、素材の味を活かした調理を行い、食べる経験をする。
	実践予定内容	・年間を通じて毎月畑仕事を実施する。 ・子どもたちが主体的に畑仕事を行える環境を整え、栽培した作物はできるだけその場で食べる。 ・ルームに持ち帰って調理活動を行うときは、できるだけ素材本来の味を感じることができるものを料り、子どもたちが主体的に調理できる環境を整える。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年１回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	手洗い・うがいや雑巾がけなど、清潔な環境への誘導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月～９月：手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ １２月～３月頃･･･インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス感染症
エピペン使用できるスタッフ	本日現在５名が研修受講し、修得済み

AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在６名が研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック及び虐待防止研修	年2回／4･10月の施設内会議時
	施設内虐待防止委員会	年2回／９・２月
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子ども、保護者共に居心地が良く、また来たくなる環境を提供する。
	実践予定内容	日中の定期的な換気や消毒などの衛生管理を行い、整理整頓や清掃を日常的に取り入れ、常に安心して過ごせるルーム環境を作る。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊び込める、安全安心な環境をスタッフ全員で確保する。
	実践予定内容	・活動が始まったら子どもも大人も全力で遊べるよう、打ち合わせや準備は事前に入念に行う。

		・戸外での活動では全体把握を法人ルールに沿って行うとともに、公園到着時の危険物チェックの徹底、不審者などに注意する。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	実践予定内容	法人の定める、マニュアルに則って行動をする。
2	実践予定内容	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努める。なお、個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真などを用い、起こりうる事故やケガを協議する。
3	実践予定内容	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行う。訓練の訓練とならないよう、参加者が実際に起こりうるという意識を持ちながら参加できるようにする。なお、全利用児が年にI回は訓練に参加できるようにし、有事に備える。
4	実践予定内容	光化学スモッグについては、自治体の情報をスタッフに即座に伝達し、マニュ アルに則って戸外活動を避けたり、戸外活動を切り上げて戻ってきたりと いう判断が迅速に行えるようにする。

6. 実習生・中高生の受入

臨床心理実習をはじめとする外部からの実習受け入れの依頼については積極的に受け入れ、保育園訪問実習など法人全体を通して実習地とし学びの場を準備し提供してゆく。

7. スタッフ育成と研修計画

① ルーム内ケース会議：アセスメント・目標・プログラムを全員で見直すケース会議を毎月行っていく。
② ルーム内勉強会：年間で一つのテーマを定め、それについて勉強会を開きルーム全体の学びを深めていく。
③ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、知見を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低I名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
④ 西区の児童発達支援施設連絡会、療育教育福祉連絡会の集まりに参加し、地域と共に子どもや福祉の支援を考える。
⑤ 園長大学®保育士大学の公開講座を積極的に活用し、スタッフ一人ひとりの知見を増やし、ディスカッションを通じてスタッフ全体のレベルアップや学びの深化を目指す。また、スタッフで話し合ってテーマを設け、ルーム会議の時間などを用いて全員で講座を視聴し、話し合う場なども設けていく。年間を通じての受講予定やディスカッションのスケジュールなども相互に発表し合い、計画的に取り組めるようにする。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月16日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止研修 ④ 総合訓練 ⑤ 怪我、ケーススタディ ⑥ 接遇研修	・人権と虐待防止について研修 ・怪我、ケーススタディについて ・電話対応、接遇について
5月14日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学支援	・就学に向けた動きやスケジュール、具体的なサポートの検討
6月11日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学 ③ 四半期振り返り	・園長大学®保育士大学講座を活用した研修 ・四半期振り返り、活動の共有
7月16日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 四半期振り返り	・四半期振り返り、活動の共有
8月13日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上期振り返り	・上半期振り返り、活動の共有
9月17日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上期振り返り	・上半期振り返り、活動の共有
10月15日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修 ③ 就学支援シート	・人権について研修 ・虐待防止について研修 ・就学支援シートについて
11月12日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学支援シート ③ 今年度の振り返り	・就学支援シートについて ・今年度の支援内容やルーム運営の振り返り、今からできる取り組み
12月17日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り	・今年度の支援内容やルーム運営の振り返り、今からできる取り組み
1月14日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	・今年度の振り返りを踏まえ、次年度の支援内容とルームの取り組みの話し合い
2月18日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修 ③ 次年度に向けて	・虐待防止について研修 ・今年度の振り返りを踏まえ、次年度の支援内容とルームの取り組みの話し合い

3月18日	10:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	・今年度の振り返りを踏まえ、次年度の支援内容とルームの取り組みの話し合い

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

横浜市西区という情緒あふれる魅力的な地域に立地することを活かし、これまで以上に積極的に地域へ関わってゆく。活動を「買い物」や「訪問」といった単一的な関わり合いに限定せず、多様なバックボーンを持つ人々との触れ合いを通じ、自分たちを包括する地域というものを肌で感じ、人々の営み、人々との関わりを学んでゆける活動を行ってゆく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
青空保育	月１回　　公園名：石崎川公園にて　　目標：１０名
商店街ツアー	週１回
世代間交流	銭湯や高齢者など、世代を越えた交流ができる機会を設ける。
異年齢交流	グループ支援の中で常に取り入れる。
地域拠点活動	夏祭りだけでなく、自分たちで漬けた梅や紫蘇を用いた「つむぎジュース屋」の開催、施設を開放した体験会など、地域の方々との交流の場を設ける。

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

就学支援シートを主な連絡ツールとし、利用児童がスムーズに就学先に適応できるように情報提供し、連携を図っていく。

また、近隣小学校が地域に公開する取り組みについてはスタッフと子どもが積極的に参加することで、地域の一員として連携が図れるようコミュニケーションを取っていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を９月１日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
１０月頃	保土ヶ谷特別支援学校	３名予定	保土ヶ谷特別支援学校 支援学校の様子や連携についての検討	学級見学
１２月頃	戸部小学校	３名予定	戸部小学校 支援級の様子や連携についての検討	学級見学

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

・児発管が中心となり、ルーム内会議の場でスタッフ全員が策定会議に参加していく。
・半年を待たずして目標を達成したり、幼稚園や保育園、その他関係機関とのケース検討の結果必要 と考えられたりする場合には随時更新していくこととする。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：６名予定）

策定会議だけでなくケース検討会を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深めていき、支援内容の充実に繋げていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートの作成を行い、行ってきた支援や手立てを引き継ぐ。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
青空保育	月１回　　公園名：石崎川公園にて　　目標：１０名
つむぎカフェ	（月）～（土）10:00～17:00
子育て相談	随時
ランチ交流	随時
卒園児交流会	年１～２回
就学に向けた保護者座談会	年１～２回

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年９月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１６時００分
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２５年１１月に評価結果を開示予定である。同時期にスタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	チーム力の向上
	振り返り	・前年度に引き続き、稼働率やNPS、内部監査などにおいて前年を上回る結果を出すことができた。 ・食育活動が定着し、自分たちが食べるものを自分たちで栽培するスタイルができた。 ・自分が目指す支援や、子どもの最善の利益のために必要な環境や課題点などを率直に話し合い、共有する機会が少なかった。 ・法人理念やミッションについて理解を深めていくために、意見や考えを共有する機会が少なかった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２６年度	目指す姿	子どもの最善の利益を目指す、プロとしてのチーム力向上
	重点施策	・チームが目指す支援と子どもの最善の利益のために、各々の意見や考えを共有させ、必要な環境や課題点などを率直に話し合えるようになる。 ・個人はチームに貢献し、チームは個人を支える。個人だけでなく、チームとしても成長できるように、自分を変化する勇気を持つ。
２７年度	目指す姿	保護者との連携強化
	重点施策	・つむぎを卒業した保護者が参加できる企画やイベントを定着させ、年度を越えた関係性作りを進めてゆく。 ・つむぎを利用する子どもの所属園との関係性構築を図る。
２８年度	目指す姿	地域との連携強化
	重点施策	・地域の保育園などにも関係性構築の範囲を広げる。 ・西区児童部会、横浜市療育教育福祉連絡協議会を通じて各関係機関との情報共有や関係強化を図る。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 横浜東口ルーム 施設長　田川 信政

２０２５年度　発達支援つむぎ 府中ルーム
事業計画書

１．基本方針

２０２５年度　施設運営メインテーマ「原点回帰～毎日の時間を大切に・人格形成を質高く確実に丁寧に」のもと、基本活動を通して「６つの力」を確実に丁寧に育むために、子どもと共に大人が率先して「にんげん力」の更なる向上を目指すことを基本方針とする。その中で、子どもが自ら五感を使って感じ取り、考え、伝え合い、表現できるような支援を提供し、生きる力を育める環境を自分で選べる支援を継続して実践する。大人は、支援者として常に背中を見せながら子どもと関わり、子どもに必要な経験を子どもが主体的に重ねていけるように努める。

この地域社会で学齢期を迎えることを見据えた上で、今の子どもたちにとって何が必要で大切なことなのかを見定め、スタッフ全員が一丸となって地域との連携強化に向けた取り組みを行う。そして、地域社会の中で生きる力を育める子育て支援事業所としての役割を確実に果たすと共に、地域からも選ばれ、存在感のある事業所になることを引き続き目指す。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

２０２５年度は、地域に定着してきた府中ルームだからこそできる支援内容を「原点回帰」という視点で振り返り、「１０の姿」と共に「６つの力」を確実に育める基本活動の在り方を多角的に検討していく。そして、児童発達支援ガイドラインの5領域にバランスよく繋がる支援を実践することで支援内容の充実と質の向上を図る。

1	計画・ねらい	充実した食育活動の展開 ・子どもが自ら行う　・日常的に食と食材の循環を意識する
	実践予定内容	・畑で食育活動を行うことを日常化し、食育活動と堆肥づくりを関連付け、食の循環をより意識する。 ・焚き火を日常的に行い、火との関わり方を知る。 ・準備、調理、盛付、片付けなど、子どもが自分でできることは全て自分で行う。
2	計画・ねらい	充実した戸外活動の展開 ・子どもが主体的に戸外資源を活用する
	実践予定内容	・近隣公園を園庭代わりとして活用する。 ・子どもが行先を選択しやすい「戸外ブック」を作成する。 ・基本的に支援は全て戸外で行う。 ・さくらさくらんぼリズムを戸外で行い、「青空リズム」を定着させる。 ・危険なものや不思議なもの等に対し、子どもが自分で考えて行動する。 ・散歩コースを見直し、子どもが選択した行先やルートに対応できるハザードマップを作成する。
3	計画・ねらい	充実した異年齢活動の展開 ・自立心、道徳心、規範意識、協同意識が向上する ・生活力を体得する

	実践予定内容	・造形、歌唱、感覚、運動、相談、発表などの表現活動を通して、集団活動で必要な「思考し判断する」「ホンモノを扱う」体験ができる環境設定を実施する。 ・子ども同士で日本の伝統遊び（缶蹴り、あやとり、こま回し等）をすることや、協同作業を行う中でたくさんのTrial&Errorを経験する。 ・「小学生」を意識し就学を楽しみに感じられる環境設定を実施する。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

保護者の不安が減り安心して子育てができるように、日々の対話や環境におもてなしの心を込めて支援する。子育てを一緒にしているという認識がお互いに持てるように、保護者との信頼関係を作っていく。

1	計画・ねらい	丁寧な保護者対応、接遇の実施 ・保護者の不安軽減を図る ・保護者と信頼関係を作る ・安心できる環境を目指す
	実践予定内容	・来所時のお迎えや見送り時など、スタッフの丁寧な対応を徹底し継続する。 ・その日に不必要な物は排除し、常にカフェや廊下、室内が整理整頓されている環境を維持する。 ・リラックスできる雰囲気で待ち時間を過ごせるよう、対応や環境について見直しを行う。
2	計画・ねらい	保護者座談会の実施 ・情報を共有する ・保護者同士の繋がりを作る
	実践予定内容	・計画的に説明会（就学相談、就学、就園、放課後デイサービスなど）を実施する。 ・スタッフが特別支援学校や特別支援学級、通常級を見学し、知り得た情報の発信と共に、各学校に就学した保護者を招いて保護者座談会を実施する。 ・テーマを決めて定期的に体験学習内で座談会を実施する。
3	計画・ねらい	家族支援の充実 ・保護者の不安軽減を図る ・子どもの共通理解を図る ・就学や就園に向けた保護者支援を行う
	実践予定内容	・保護者が気軽に話せるような雰囲気の中で対話を行い、定期的に利用したいと思えるように信頼関係を築く。 ・保護者と支援のフィードバック時間が足りない場合や、他児保護者の前では話しづらい場合などに、積極的に活用する。 ・園訪問の報告や、個別支援計画書作成におけるモニタリングなど、保護者と対面でじっくり話ができる時間を設ける。 ・電話相談も可能なことを保護者に周知する。 ・家庭で実践できる支援やヒントを伝える。 ・スタッフのスキルアップを図る。

4	計画・ねらい	充実した所属園や他事業所との連携 ・支援の共通理解を図る　　・地域連携を行う
	実践予定内容	・子どもが所属する保育園や幼稚園、他事業所などへ訪問し対面で子どもについての意見交換を行う。電話での連携も含めて、継続的に行う。 ・子どもに対して多角的な視野のもとで支援する。 ・内容を保護者に報告し、子どもを中心とした連携支援を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

地域で学齢期を過ごすことを見据えた不安や、子育ての困りごとなど、「つむぎに聞いてみよう」と思ってもらえるように地域支援の質向上を目指す。スタッフ全員で府中市についての知見を深め、スタッフも地域の一員としての自覚を持ち積極的に地域の資源を活用していく。

1	計画・ねらい	小学校との連携 ・就学を見据えた支援を提供する
	実践予定内容	・武蔵台学園や府中けやきの森学園（特別支援学校）、近隣小学校（特別支援学級、通常級）の学校公開等にスタッフが参加し、小学一年生の学校生活ついて知り学ぶ。 ・教員との座談会を企画実行し、教員より現場の話を聞いて学ぶ。 ・知り得た内容をまとめ、保護者に開示する。 ・近隣小学校の校庭開放を利用し、小学生との関わりを持つ。 ・府中市立若松小学校校内で体験学習を実施し、和太鼓クラブとの交流を持つ。
2	計画・ねらい	地域の子育て支援事業所との連携 ・自ルームも地域資源である自覚を持つ ・情報収集を行い連携に繋げる
	実践予定内容	・府中市児童発達支援センター「はばたき」の事業内容を把握理解し、必要に応じた連携に努める。 ・スタッフは地域の子育て研修や子育て勉強会、子育てイベントに積極的に参加し、地域で求められている子育てについて情報収集を行う。 ・子どもが地域で成長していくことを見据えて、センターだけでなく市内の相談支援事業所や子ども家庭支援センターなどの機関との連携にも努める。 ・NPO法人「ママチャーリーズ」や、府中市発達障害児母の会「虹色てんとう虫」との関わりを深める。 ・スタッフが知り得た情報や学びは必ず全体会議で共有する。また、必要に応じてカフェに掲示し、保護者も閲覧できるようにする。
3	計画・ねらい	青空保育の発展 ・身近な子育て支援事業所としての周知を図る ・情報提供できる場として活用する
	実践予定内容	・毎月の開催についてSNSで告知する。 ・カフェの利用を勧め、気軽に立ち寄れるような看板を製作する。 ・子育て情報を誰でも閲覧できる場として、カフェに子育て支援情報や、就学資料、勉強会資料を設置し内容を充実させる。 ・身近な子育て支援事業所と感じられるように、環境を適宜見直し改善していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

スタッフは自ら仕事の目標や自身の規範を打ち立て、それに沿って行動できる力の向上に努める。そして、支援者としての自覚を持ち、スタッフ一人ひとりの専門性を共有して柔軟に議論できる環境での育成を目指し、スタッフ一人ひとりの支援スキルが向上するように取り組む。

1	計画・ねらい	小学校との連携 ・学齢期を見据えた支援の提供　・小学校を知る
	実践予定内容	・小学校を見学訪問し、就学先についての学びを深める。 ・小学校学習指導要領を読み解き、成長と共にどのように学習が進んでいくのかを知り得た上で、就学前に必要な力は何かを学び、支援に展開する。
2	計画・ねらい	自己実現 ・やりたいことを実現する　・支援者としての自覚と成長を図る
	実践予定内容	・スタッフの「やりたいこと」を活動計画に取り入れ、主体性を持って計画から振り返りまで丁寧に行い実現に向けて努力する。 ・子どもと一緒にスタッフの「にんげん力」が向上し成長できる活動や環境を考えて実行する。
3	計画・ねらい	スタッフ勉強会の充実 ・大人のにんげん力が向上する　・専門性を共有する
	実践予定内容	・スタッフ一人ひとりが、職場や自身の課題を真摯に見立て、学ぶべきことを見極める。 ・目の前の子どもや保護者にどのように役立つかを考えながら学び続ける。 ・スタッフ勉強会で全員が講師を務める。人に分かりやすくアウトプットし、学んだ内容を整理して自己研鑽に繋げる。 ・園長大学®保育士大学を受講し、適宜報告会を実施する。

〈5〉環境実施目標

畑活動では「食」と「生き物」を得ることができている。その環境を活かした内容を支援に盛り込み、出来ることから環境への取り組みを実践していく。

1	計画・ねらい	食育残渣の削減 ・食材や食の循環を理解する　・環境教育を実践する
	実践予定内容	・畑から収穫したものを使った食育活動の企画を子どもと一緒に行う。 ・野外または室内で食育活動を行い、あらゆる環境で「生きる力」が育めるようにスタッフも全力で取り組む。 ・子どもが自分で考えて食べられる量を盛り付け、残渣削減に取り組む。 ・食べ物を大切に消費することで廃棄にかかる環境負荷を減らす。
2	計画・ねらい	生き物の世話 ・生死を理解する　・環境教育を実践する
	実践予定内容	・畑で捕まえた魚やザリガニの飼育する方法を子どもと一緒に考え、計画的に実践する。 ・水槽掃除カレンダーを作成し、子どもが定期的且つ主体的に飼育環境を整える。

〈6〉他ルームとの連携

自ルーム内の環境課題や支援の課題解決の一助として、客観的な考察を得る場を設ける。他園のスタッフと対話を持ち、多様な視点でより効果的な対応策を導けるように取り組む。解決に向けた一連の連携や取り組みを丁寧に且つ計画的に遂行できるように実施する。

I	計画・ねらい	他園とのケース検討会実施 ・課題解決を図る ・他園連携を図る ・スタッフ育成を行う
	実践予定内容	・つむぎ他ルームと定期的にケース検討会や勉強会を実施する。 ・法人内小規模保育園とスタッフの交換研修を行い、スタッフ間の繋がりを作ると共に、ケース検討会を実施する。

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

９時００分～１８時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名
児童発達支援管理責任者I名
保育士３名
児童指導員I名

3. 運営方針

〈I〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
全体会議	月I回 （第I月曜） 80分	・コンピテンシー ・施設内研修 ・支援内容検討会
部分会議	週I回 ３０分	・ケース会議：月I回（第３木曜）以上 ・各会議、各委員会、研修、勉強会の報告：適宜

		・スタッフ勉強会：月1回（第４金曜） ・必要なテーマの会議や委員会：適宜
グループ支援ミーティング	毎日 5分	・当日グループ支援の打ち合わせ ・活動の目的、流れ、人員配置、配慮事項、見たい姿の確認
事故防止委員会	月1回 （第2火曜）	・ヒヤリハットや事故報告書の共有、検証 ・自ルームにおける事故防止についての検討
支援計画策定会議	適宜	・担当者と児童発達支援管理者は必ず参加する ・基本的には全員参加とし、全員が支援できる体制を整える

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年２回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育計画振り返り、実践報告
保健会議	年4回	衛生、感染症マニュアルの確認、検討実践報告
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理

畑係	畑管理者との連絡調整、畑仕事および食育活動の計画
生き物係	動物や植物に触れる機会の検討及び立案　環境設定
広報係	SNSおよびブログ、創園の実践記録への発信 社用携帯およびパソコン内の画像動画管理
環境整備係	事業所内の環境整備、清掃計画、備品在庫管理
教材絵本管理係	教材や絵本の管理、修理、見直し
支援内容検討係	支援内容の立案および全体会議への議案提示
実績及び稼働管理係	実績および日報入力、稼働動向管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
体験学習係	体験学習の立案、計画、実行、振り返り
企画立案係	保護者参加型企画の立案（勉強会、座談会など）、計画、実行、振り返り

4. 支援方針

〈1〉基本方針

グループ支援	上半期	・異年齢集団の中で、場の共有、時間の共有、活動の共有を通して他児に関心が向くような活動を行う。 ・日課活動、戸外活動、畑仕事、食育活動、さくらさくらんぼリズム、表現活動などを行い「やってみたい」という気持ちを育てる。
	下半期	・他児と協同の中で互いに思いや考えを共有し共通の目的を実現できる活動を行う。 ・日課活動や戸外活動、食育活動、表現活動、さくらさくらんぼリズムや畑仕事など、身体を動かす活動や労働を通して、様々な感覚を心身に受け、人とのコミュニケーションが豊かになることを目指す。
個別支援	通年	・室内活動や畑仕事、戸外活動、食育活動、さくらさくらんぼリ

		ズム、表現活動などを行い、その中で子どもの強みに焦点をあてて、Trial&Errorを繰り返す。 ・子どもの「できた」が増えるような支援を行う
家族支援	随時	・計画的に案内し、随時希望する保護者に対し実施する。 ・「家族支援記録」を作成する。
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施する。 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を作成し活用する。
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関と連携や連絡調整を行う。 ・所属している保育園・幼稚園と連携し、自ルームにおける支援内容の共有と今後の連携を行う。
意見・要望への対応	随時	・ご意見ボックスや、口頭でのご意見について苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用する

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

畑仕事から繋がる食育活動を毎月行っている。２０２５年度は子ども主体で食育活動に取り組めるように、「自分でできることは自分でする」を意識して行う。

1	計画・ねらい	子ども主体の食育活動 ・協同性や自立心を育む ・判断して行動する力を育む
	実践予定内容	・収穫した野菜からどのような料理ができるか、どんな料理を作り食したいかを子どもが考えて計画する。 ・食育活動に必要な食材の買い物、役割分担、調理、盛付、実食、片付けまでを子ども主体で行う。食への関心を深めると共に「できた」「食べられた」経験を増やしていく。
2	計画・ねらい	生を食す経験 ・命をいただくことを理解する
	実践予定内容	・子どもたちが自ら魚類を捌いて食す調理活動をグループ支援と個別支援で実施する。 ・乳牛から生乳を搾って食す体験学習を実施する。
3	計画・ねらい	コンポストの充実 ・食材の循環を理解する　・自然を感じる
	実践予定内容	・畑の畝にコンポストを設置し、堆肥になっていく様子を観察する。 ・できあがった堆肥で作物を育てる。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃･･･手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎（はやり目）伝染性症軟属腫（水いぼ）、伝染性膿痂疹（とびひ）、アデノウイルス感染症など 11～２月頃･･･溶血性連鎖球菌感染症、ウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症、インフルエンザなど
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在６名が、研修受講し、修得済み 未受講者なし
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED設置なし 本日現在6名が動画研修受講済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う 消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	食育活動開始前

	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の全体会議時
	施設内虐待防止委員会	年2回/9･2月の全体会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/全体会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	教材や玩具の配置の整備 ・危機管理を意識する　・美観に向けて取り組む ・子どもが主体で過ごせる環境にする
	実践予定内容	・必要なもの、不必要なものの整備や整理整頓を行う。 ・子どもが自分でやりたいことを考え、選択し、安全に取り組むためにはどうしたら良いかを判断して行動できる環境を整備する。
2	計画・ねらい	清掃時間の確保 ・美観に向けて取り組む　・危機管理を意識する
	実践予定内容	・日々の清掃だけではなく、月に2回15分間スタッフ全員で集中清掃の時間を作る。 ・危険箇所の早期発見に努める。
3	計画・ねらい	子どもを見守る関わり ・子どもが自分で考えて行動する機会を保障する
	実践予定内容	・支援の振り返りではスタッフ同士で意見を出し合い、一定の距離を保って見守る関わりができたか話し合う。 ・スタッフの立ち位置や声かけなどの事例検討を適宜行う。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	靴箱	支援室入口	月1回
2	椅子	北島体験農園	月1回

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災への対応	火災や災害を想定して月1回避難訓練を行う。訓練後の反省点の改善に努め、防災の意識を高める。また支援で防災に関係した活動を行い、保護者や子どもの防災意識を高める。
2	ケガ事故防止への対応	日々、ヒヤリハットな出来事の検証を行い、けがを未然に防ぐ意識を高める。グループ支援や体験学習など、複数の子どもが参加する活動では、必

		ず活動前にミーティングを行い、配慮事項や危険予測などを話し合う。
3	防犯への対応	不審者侵入訓練を行う。笛の所持、インターフォンドア解除の際の確認、施設周辺の変化への気づきなど、日々の行動を徹底する。
4	光化学スモックへの対応	光化学スモックの知識を身につけ、市からの注意情報を把握する。光化学スモック注意報発令時には室内で過ごす。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

〈1〉今年度の方針・テーマ

中高生の体験学習の依頼や保育養成校および専門士養成校の学生の実習受け入れの打診があった場合には可能な限り受け入れ、次の世代を担う保育・福祉への人材育成に向けて努める。また、一般の方も含め学生からのボランティア希望があった場合も同様に受け入れる。そのためには、市報やSNS等で実習やボランティアを受け入れているという情報の発信に取り組む。

1	情報発信	市報やSNSを活用して、ボランティアや実習を受け入れていることの情報を発信する ボランティアや実習の依頼元となる学校などを調べ、連携する準備を行う
2	受け入れ	依頼や問い合わせが合った場合は積極的に受け入れる 職員の受け入れ体制を整え、準備を行う

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月7日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック、虐待防止研修 ③保育運営マニュアル ④ケガ・ケーススタディ研修	①自己の振り返り ②支援における人権侵害と虐待 ③保育運営マニュアルNo.1～8 ④ケガについての学び
5月12日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②地域連携 ③就学支援	①自己の振り返り ②はばたき、たっち、みらい等子育て支援事業所の理解、連携内容 ③就学への流れ確認、共通理解

6月２日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②児童発達支援ガイドライン	①自己の振り返り ②ガイドラインについての学びと共通理解
7月７日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②熱中症、感染症 ③水辺のリスクマネジメント ④保育所保育指針	①自己の振り返り ②熱中症・感染症の知識、対応 ③水の事故についての学び ④10の姿の確認、共通理解
8月４日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②火災地震災害時対応 ③内部監査	①自己の振り返り ②消化器の使い方、非常食の試食 ③監査項目の共通理解
9月１日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者対応	①自己の振り返り ②支援者としてのあり方、接遇
10月６日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②食育、衛生 ③人権チェック、虐待防止研修	①自己の振り返り ②食育内容、衛生面の見直し ③虐待防止の再確認
11月10日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②発達の見立て理解	①自己の振り返り ②支援における見立て理解、確認
12月１日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②就学支援シート	①自己の振り返り ②文章の書き方についての学び
1月５日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②支援内容の振り返り	①自己の振り返り ②支援内容の振り返り、確認、発展
2月２日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②ハザードマップ、ルートマップ	①自己の振り返り ②ハザードマップの見直し、戸外活動でのリスクマネジメント
3月２日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②次年度の取り組み	①自己の振り返り ②法人の理念・方針・目標・Missionの確認

〈２〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈３〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～9月末までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

多様な世代との交流を積極的に行う。また地域のイベントに参加する機会を得て「人」「モノ」との交流を行う。そのために市役所や市報、文化センターなどを活用し、情報収集に努める。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
青空保育	月1回　　公園名：美好町公園
商店街ツアー	月1回
世代間交流	北島体験農園にて子どもの祖父母世代の方々との交流を行う 畑仕事を教えてもらう、道具の使い方を教えてもらうなどを通して交流を行う。
異年齢交流	利用児のきょうだい児や卒園児、学童及び放課後デイサービスを利用し

	ている小学生と交流を行い、その姿を通して「小学生」を知る。
地域拠点活動	地域のイベント（府中市美術館、生涯学習センター、片町文化センター等）に参加する。 子育てサークルとの交流や青空保育での交流を行い、情報交換やつむぎカフェの周知に繋げる。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

（ア）通常級、特別支援教室、特別支援学級、特別支援学校にスタッフが出向き直接学ぶ機会を設ける。就学後を見据えた支援に向けてスタッフ全員で取り組む。
（イ）希望者には就学支援シートを作成して積極的な連携を行う。
（ウ）小学校の校庭開放を利用し、子どもと一緒に「小学生」を体験する機会を設ける。
（エ）府中市内の小学校の特色を調べ、情報を得ることで、子どもにとって豊かな連携になるように努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１４日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
２月頃	府中第１小学校	２名	校庭開放の利用	子ども間交流
６月頃	府中第１小学校	２名	学校公開への参加	スタッフの学び 職員間交流
５月頃	府中第２小学校	２名	学校公開への参加	スタッフの学び 職員間交流
５月頃	府中第５小学校	２名	学校公開への参加	スタッフの学び 職員間交流
９月頃	府中第９小学校	２名	学校公開への参加	スタッフの学び 職員間交流
７月毎	武蔵台学園	２名	一般公開への参加	スタッフの学び 職員間交流
１０月頃	府中けやきの森学園	２名	一般公開への参加	スタッフの学び 職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

原則6か月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実施して、短期目標および支援目標やその実施方法を策定会議に教示して、個別支援計画書の作成を行う。保護者に説明して同意を得てから計画書に沿った支援を提供する。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：3名予定）

子どもや保護者の困り感が強いケース、支援が難しいケース、また、支援が良好なケースや発達が良好なケースなどもケース会議を行いスタッフで共有する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートおよび電話などで進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行う。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	随時

青空保育	月１回　（第１木曜）　公園名：美好町公園にて開催 集客目標：３名/月

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし。

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年度6月15日
「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である
自己評価開始予定時刻：１０時００分
自己評価終了予定時刻：１５時００分
自己評価実施予定者：佐藤 史恵

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	地域の子育て支援事業所との連携
	振り返り	・２０２４年度は３名のスタッフを中心に、府中市児童発達支援センター「はばたき」主催の講習会に７回参加した。その内容はルーム内で共有され、全スタッフの学びとなった。 ・所属園が「はばたき」通園である自ルームの利用者が、夏休みなどの長期休みに自ルームの契約日数を一時的に増やして利用した。それに伴い「はばたき」と数多く連絡取り合うことになった。「はばたき」に府中ルームの支援内容の詳細を知ってもらうきっかけになった。 ・「はばたき」から紹介されたという問合せが増えた。 ・他児童発達支援事業所と併用している利用児について、保護者希望にて支援内容の共有を行った。この事業所は完全個別支援を提供しており、支援内容の確認をお互いにすることで、利用児に対してバランス良く支援提供を行うことができた。 ・府中ルームの支援の形が確立しつつある。「戸外支援が多い」「食育活動が充実している」「様々な体験ができる」と保護者より賛同の声をいただいている。また、府中ルーム＝ホンモノの体験ができる、という認識から府中

		ルームの支援が適していると判断された子どもが他事業所から紹介されたケースもあった。 ・２０２４年度はスタッフの入替えがあり、まずは支援業務の育成に力をいれた。その為、ルーム内外の勉強会・研修の講師を務める人材を輩出するまでには至らなかった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	地域に根付く、地域の子育て支援事業所との連携継続
	重点施策	・引き続き府中市児童発達支援センター「はばたき」主催の講習会に随時参加する。また地域の児童発達支援事業所としての連携やその体制づくりに努める。 ・府中ルームやスタッフ一人ひとりが子どもにとっての「地域資源」である自覚を持ちながら、市内の相談支援事業所や、発達支援センター、子ども家庭支援センターなどの機関と連携する。 ・「つむぎ府中ルーム」の看板を工夫して製作し、外観からも認識しやすくする。 ・青空保育を含め、地域の子育て事業所としての役割を果たしていく。 ・部課内、法人内で勉強会・研修の講師を務める人材を育成する。
２０２６年度	目指す姿	・地域の子育て支援事業所との連携強化
	重点施策	・常軌を継続することで、地域の児童発達支援事業所として認識を得ていく。 ・部課内、法人内での勉強会・研修の講師を務める人材を輩出する。
２０２７年度	目指す姿	地域における子育て支援活動の発展
	重点施策	・地域の子育てイベントに積極的に参加し、地域から連携を求められるように取り組む。 ・積極的に地域に発信していく。 ・子育て広場の実施に向けて取り組む。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 府中ルーム 施設長　佐藤 史恵

２０２５年度　発達支援つむぎ 桶川ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

急速な少子化の進行、地域とのつながりの希薄化、経済的理由による共働き世帯の増加と子育てへの不安が高まる中、発達支援つむぎ 桶川ルームは、認可保育園メリー★ポピンズ 桶川ルームを併設している特色と駅前という利便性の高さから、多数の方にご利用いただき今後も高い需要が見込まれる。発達支援つむぎ 桶川ルームでは、地域の先駆けとして、併設のメリー★ポピンズ 桶川ルームと協働し、障害の有無に関わらず、全ての子どもと大人が共に暮らし協働的に関わりながら、生涯にわたる「意欲」と「生きる力」を育むため、自ら選び、考え、行動できる環境を用意し、多くのホンモノの経験が出来るインクルーシブ保育を実践する。さらに、全ての人が途切れることなく生涯にわたって自立してよりよく生きられる社会の実現のため、地域関係機関との連携を深めていく。

① 心身ともに健康で安全にのびのびと自分らしく過ごせる環境の中で、子どもも大人も主体性を発揮し、互いに学び、支え合い、成長する集団となる。

② 畑仕事、生き物の世話、調理、清掃、針仕事といった労働を通して、自らの役割に気づき行動し、やり遂げる達成感を味わうことで、将来にわたり生きる力と意欲を育む。

③ 戸外で土・水・風・木・光・火を五感で感じとる原体験を重視し、魅力あふれる物的・人的環境を提供し、子ども自ら「好き」を探求し自己選択できる力を育てる。

④ 実習、職業体験、ボランティアを広く受け入れ、インクルーシブ保育を実践する支援者を育成するとともに、インクルーシブ保育と発達支援についての実践を可視化し、子ども、保護者、地域に向けて情報発信し、地域から愛され選ばれる施設となる。

⑤ 自立したよりよい一生を歩むため、支援の切れ目のない社会の実現を目指し、自治体、関係機関と協働し、子育て相談や地域向け講座、施設訪問などを広く実施し、地域のセンター的役割を担えるよう地域に開けた施設運営を行う。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的・人的環境を設定する。
	実践予定内容	・子どもたちが好むもの、興味のあるもの等を子どもたちの姿や言葉、保護者の聴き取り等から把握し、自己選択ができる環境を提供する。 ・併設のメリー★ポピンズ 桶川ルームのスタッフと協働して、施設全体でゾーン保育を展開し、運動遊び、音楽、表現等、子どもの成長に合わせたプログラムを年間の見通しをもって提供する。 ・あやとりや缶蹴り、ハンカチ落とし等、大人と一緒に遊びを経験することで、子どもの遊びの選択肢を増やしていく。

		・毎日、子どもたちと歌を歌ったり、読み聞かせをしたりして、子どもたちが歌いたくなる曲、語りたい話の幅を拡げる。
2	計画・ねらい	戸外活動を充実させ、ホンモノに触れる原体験から子ども自身が学び取ることのできる支援を提供する。
	実践予定内容	・日課である散歩や畑活動等の戸外活動を中心に、子どもがホンモノに触れる機会を提供していく。 ・針や包丁、鍬、のこぎり等、危険を伴う生活の道具については、安全に触れられるようにスタッフが見守り、子ども自身が経験から道具の扱い方を学び取れるようにしていく。 ・調理活動を通して、火・熱の活用方法と安全な距離の取り方を教える。
3	計画・ねらい	子ども自ら判断し、他者や環境に働きかけ協働し、「やりたい」を実現できる力を育てる。
	実践予定内容	・サークルになって集団で話をする等、対話をする経験を積み重ね、表現力、聴く力を育てる。 ・子どもから表現された内容をタイムリーにキャッチし、実現するために必要な行動を考えるきっかけを促し、他者と協働しながら自ら問題解決できる力を育む。 ・子ども同士のぶつかり合い、葛藤を充分に経験し、自分や相手の気持ちに気付き、行動を振り返り考えることができるよう、適切な言葉がけ、介入を行う。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	常に丁寧な接遇・高い美観意識をもち、相手の気持ちに寄り添い、安心できる場を提供する。
	実践予定内容	・スタッフ全員が丁寧にあいさつ、お迎えを実施し、常に温かい雰囲気の施設を作っていく。 ・施設内は常に清潔感を意識し、リラックスできる環境を構築する。
2	計画・ねらい	保護者交流の機会を提供し、安心して相談できる環境を設定する。
	実践予定内容	・保護者が参加できる交流会を実施し、保護者同士、保護者とスタッフが繋がることのできる機会を提供していく。 ・園保護者、地域保護者に対しても積極的に広報し、保護者が広く繋がれる機会を設けていく。
3	計画・ねらい	事業所における支援内容を可視化し、子ども、保護者とともに子どもたちの姿を見て成長を実感できるように情報共有する。
	実践予定内容	・ポートフォリオ等を用いることで支援内容と子どもの姿を視覚的に提示し、子どもの成長を相互的に確認できる環境を設定する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育てをしている保護者の安らぎの場となる。
	実践予定内容	・散歩、青空保育などで、地域の保護者と語り合い、子育て支援室「ちき

		んえっぐ」を紹介し、地域の子育てしている保護者が気軽に利用できる場であることを広める。 ・来所された全ての子どもや保護者、スタッフ、保護者同士のコミュニケーションを大切にし、気がかりを相談できる環境を作る。
2	計画・ねらい	スタッフの専門性を活かした子育て支援を実践する。
	実践予定内容	・地域における子育て支援の重要性をスタッフ全員が理解し、自らの専門性を活かした地域子育て支援を考え実践する。 ・地域に向けて、相談会や勉強会等を実施し、子育てに役立つ情報を発信する。
3	計画・ねらい	地域の子育て支援施設との連携
	実践予定内容	・地域の子育て支援施設に積極的に訪問し、連携を深めるとともに、子育て支援に関する地域のニーズを把握し、地域に向けて自施設の役割を理解し実践する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	施設内研修を通してスタッフの発信力と子育ての質の向上を図る
	実践予定内容	・各職種のスタッフを講師として施設内研修を行い、自らの専門性をわかりやすく解説し、子どもの姿をみる専門的視点を共有し、子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。 ・研修に主体的に参加し、自ら必要な知識を学びとり、日頃の子育ての質の向上を図る。 ・法人内施設との連携を通し、常に学びを深められる環境を提供する。
2	計画・ねらい	大人のにんげん力を高める。
	実践予定内容	・園長大学®･保育士大学の動画視聴を通して、にんげん力を育てるために真に必要なホンモノの体験を考える機会を提供する。 ・スタッフの体験からの学びや面白さを共有し、大人の「やってみたい」を引き出し、スタッフの主体的なアクションにつながるきっかけを作る。 ・主体性について理解を深め、子どもと大人が互いに学び、ともに成長しあう環境構築につなげる。
3	計画・ねらい	地域における各種会議への参加、他事業所見学を積極的に行い、知見を広げる。
	実践予定内容	・地域行政が行う会議、研修、自立支援協議会等に参加し連携を深めるとともに、人と人との間に立ちネットワークを構築できる人材を育成する。 ・近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや小学校、特別支援学校等、関係機関に見学に行く機会を設定し知見を広げ、将来を見据えた支援を提供する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、調理、食材加工、捌いて食べる等の活動を通し、食材や食の循環や環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践予定内容	・自分たちが畑で野菜を育て、収穫し、食する経験を通じ、食について実際に経験することのできる環境を提供する。 ・魚や鶏等を解体して食べる体験を通して、命をいただき生きていることを知り、食の循環について学ぶ。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで、廃棄に係る環境負荷を減らし、食べ物を大切に消費する。
	実践予定内容	・野菜を皮付きで調理したり、皮を使ったメニューを考えたりして、給食残渣を減らす。 ・調理くずを用いて、コンポストで堆肥を作り、畑へと循環するシステムを構築する。
3	計画・ねらい	木や花等に触れる機会を作り、生き物の生育環境を知り、木育を行うことで、環境保全の意識を持つ。また、自然の循環について知る。
	実践予定内容	・植物と虫、魚、鳥等が共存する雑木林や園庭ビオトープに触れる機会をもち、生命の循環と生命維持に必要な環境について経験を通して知る。 ・グリーンカーテンとしてつる性の野菜や花を栽培し、室内外の気温上昇を和らげる。 ・桶川市の緑化ボランティア団体と協力し、木工遊び、苗木の育成、花の植栽などを行うことで緑化意識の向上と実践を行う。 ・自然の循環について関心を持てるよう、微生物について学び、コンポストに繋げる。

〈6〉インクルーシブ保育の実践と発信

1	計画・ねらい	併設園の強みを活かしたインクルーシブ保育を実践する。
	実践予定内容	・保育園、つむぎのスタッフの垣根はなく、チームで子育てする。 ・支援計画策定会議には、保育園のスタッフも参加し助言を得て策定し、支援目標を共有し、子ども一人ひとりの支援に必要な併設園全体の環境設定を行う。 ・保育園の要支援児のケース会議には、つむぎスタッフも参加し各自の専門性を活かし、日頃の行動観察等アセスメントした内容、支援策について共有し、チーム全体で必要な支援が行えるよう環境設定、実践、振り返りをする。
2	計画・ねらい	全ての子どもの育ちを全てのスタッフが共有する。
	実践予定内容	・スタッフ間の情報共有が徹底されるよう、事務所で会議を行い、内容は議事録を全員が回覧し共有する。 ・子ども一人ひとりを全てのスタッフで見守ることの必要さ、面白さ、難しさを共有し、目の前の子どもの姿を全員で理解する。
3	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりがチームとしての意識を高め専門性を発揮する。
	実践予定内容	・スタッフ間での連携を密にし、言葉を交わし、チームとして子どもの成長を促し、子どもの自発的な学びを見守っていく際に必要なスキルを培う。

		・スタッフ一人ひとりが主体的に学び、自らの専門性を高め、併設園の環境でこそ実現できる支援を実践しまとめ共有し、チームの子育て力を高める。
4	計画・ねらい	インクルーシブ保育の実践を地域に向けて発信する。
	実践予定内容	・メリー★ポピンズ 桶川ルームと協働で実施したインクルーシブ保育の実践から得た知見を集約、言語化し、地域に向けて発信する機会を多く持つ。

2. 施設運営

〈１〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈２〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈３〉スタッフ構成　（3月１日時点）

施設長１名
児童発達支援管理責任者１名
保育士２名
機能訓練担当スタッフ５名（公認心理師２名、作業療法士１名、理学療法士１名）

3. 運営方針

〈１〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月１回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。

給食運営会議	月1回	・食育会議の策定 ・食育活動実施内容の共有 ・喫食状況（残渣記録）の確認 ・給食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントを分析 ・ハザードマップの見直し ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策を策定 ・全園事故防止委員会の内容共有
虐待防止委員会	年2回 9月・2月	・日常的支援をモニタリングと共有 ・虐待防止策の検討 ・虐待防止研修の実施 ・ケーススタディ
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・主担当、専門的支援担当と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	適宜	・支援目標の振り返り及び省察 ・支援目標、支援内容の見直し ・併設園ケース会議への参加（月1回） ・法人内他園ケース会議への参加（要請に応じて）

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	献立の内容改善・提案 給食提供マニュアル及び運用ルールの見直し 食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成・改善 保健計画策定 保健指導についての共有
子育ての質を上げる	月1回	環境設定、美観、日課の見直し等、改善アクションプランの

会議		進捗確認と共有

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
製作チーム	年間を通して継続的な製作遊びの企画・提案、園内研修
運動チーム	年間を通して継続的な運動遊びの企画・提案、園内研修
音楽チーム	年間を通して継続的な音楽遊びの企画・提案、園内研修

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重しながら、計画、準備、活動を共に行う。
運動会係	行事の企画、立案、実施
生活発表会係	行事の企画、立案、実施
入園式・卒園式係	行事の企画、立案、実施

4. 支援方針

〈1〉基本方針

本人支援 マンスリー	児童発達支援計画書をもとに子どもの姿から発達段階を捉えて支援する。 ・基本活動は併設の保育園と合同で自然や街の中で行い、「ホンモノ」に触れ

	る経験を積む。 ・日課や散歩を通して、健康な心と身体を育てる。 ・障害の有無にかかわらず、子どもも大人も共に生活する中で、互いに学び、助け合い、生きる力を育てる。	
	上半期	・人との関わりの中で愛着を形成し、安心して過ごしていくことができる支援をしていく。 ・身辺動作や人との関わり等を経験することで生活スキルを獲得し、生きるために必要な表現力や社会性を育む。 ・散歩や畑仕事、生き物の世話などの日課を通して、活動の見通しをもてるよう、リズムのある生活を送る。 ・集団の中で、人やモノ、環境、活動を知り、「やってみたい」という子どもの主体性を引き出せる支援をしていく。
	下半期	・好きなことを介して自ら親しみをもって相手に働きかけられるよう、子どもの好みを把握した上で環境構成する。 ・自ら「やってみたい」を周囲に発信できる力が育つよう、心理的安全を確保し発言しやすい関係性を築く。 ・1日の生活の流れを理解し、見通しをもって自ら考え行動できるよう言葉がけは最低限とし見守り必要に応じて導く。 ・異年齢の集団活動の中で自らの役割に気づき、行動する力を培う環境を提供する。
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」を活用
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・「就学支援シート」を活用 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	意欲的に食べる子どもが増えるよう、食への関心を広げる。
	実践予定内容	・十分に遊び、身体を動かし、自然と空腹を感じることのできる環境を作

		る。 ・生活の中で、食事作りや準備に関わる。 ・献立を栄養素毎に視覚化し、食への興味に繋げる。 ・楽しく食事ができるように子どもも大人も食を共にし、丁寧に関わる。
2	計画・ねらい	全てのスタッフが口腔発達を理解し、食べる力を育む。
	実践予定内容	・園内研修で口腔発達について学び、子どもの噛む力を育て、素材の味を味わえる状態で提供する。 ・盛り付け、配膳を子ども自身が行いやすい環境を構築し、自分の食べられる量を把握、調節できるようにする。
3	計画・ねらい	自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践予定内容	・畑やプランターで野菜を自分たちで栽培し、食する機会を多く作る。 ・梅ジュース作り、干し野菜作り、漬け物作り等、季節のある日本ならではの食材加工を経験する。 ・魚や鶏等、命を頂いて食べるという経験を通し、生と死の循環を学ぶ。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年I回
スタッフ検便	全スタッフ月I回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 II月頃･･･胃腸炎 I月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり（併設園全体）	ダイアップ･･･2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 オロパタジン･･･I名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在8名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在8名が、研修受講し、修得済み テナント内、4階桶川医療クリニック、桶川マイン歯科クリニック、3階桶川市図書館、東武ストアサービスカウンターに設置あり 散歩先のAED設置場所に関してはハザードマップに記載
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また室内の温湿度調整、消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･I月の25日

	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもの主体性を引き出す、自己選択、挑戦ができる環境づくり
	実践予定内容	子どもの好み、発達段階、行動を把握し、子ども自らがアクションを起こして自己選択できる物的及び人的環境を作る。 室内・戸外ともに天候・状況等を子ども自身が感じて理解し、自らが過ごす場所、活動内容を自己決定できるように言葉がけの量を調整する。
2	計画・ねらい	ホンモノに触れる経験のできる機会の提供
	実践予定内容	子ども自身が探索し、自然や生き物に直接触れ感じることのできる機会を提供していく。 針や包丁、火等、危険な物との距離の取り方、扱い方を教える。
3	計画・ねらい	自ら問題解決できる経験が充分に積める環境構成
	実践予定内容	子ども同士でぶつかり合い、葛藤し、自身の気持ちや行動を自分の力で調整する、他者と話し合い協力するなどして、問題解決する経験を充分に積めるよう、物の数、置き場所を構成し、必要な量のみの言葉がけ・介入を行う。

4	計画・ねらい	整理整頓を徹底し「必要なもの以外置かない」施設づくり
	実践予定内容	子どもや保護者が居心地の良いと思える施設づくりを目指し、美観意識、物品の管理や整理、毎日の清掃や消毒を徹底する。 子どもやスタッフの動線を分析、再構成し、子どもも大人も行動しやすい環境を構築する。 内部監査指摘項目ゼロを目指し、スタッフ一人ひとりが内部監査項目に対して深く理解し、高い意識をもって主体的に働く。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
I	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	安全管理	施設における事故に関する安全管理危機マニュアルを設置しており、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。
2	危機管理	事故発生時における危機管理マニュアルを設置しており、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。
3	救急救命講習の実施	スタッフは、応急処置に関する基本的な知識を持ち、事故発生時には適切な連携を図り処置する。
4	防火管理	防火管理者を選任し、所轄の消防署に遅滞なく届け出る。消防法に定められた必要事項を満たした消防計画を作成し、消防計画の内容を全スタッフに周知する。避難、消火、通報訓練は法令・通達で定められている回数実施する。少なくとも年I回は引き取り訓練を実施するが、実施の際は保護者の負担をできる限り少なくする配慮をする。防火管理者は、消防設備等の自主点検を実施し、不良個所があった場合には即時に改善する。避難機器や消火器を、適正な場所に設置する。非常ベルまたは非常警報設備を設置、点検を行う。
5	光化学スモッグ対応	埼玉県または桶川市からの情報を素早くスタッフに周知し、園外にいる場合には素早く日陰に入る等の対応を取り、子どもたちの健康状態などに留意する。
6	熱中症対策	夏場は熱中症警戒アラートを確認し、戸外遊びの活動を検討する。
7	事業継続計画	大規模災害、未知の感染症の発生等の緊急事態における事業継続について事業継続計画（BCP）を作成し、緊急時にはその計画に沿って事業を継続する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

当施設は、児童発達支援事業所と保育園が併設しているという特色を持つことから、最先端のインクルーシブ環境を学ぶことができると考え、実習生や学生、ボランティアの受け入れを積極的に行い、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

1	保育・福祉現場で働く人材育成	近隣の中学校や高校等からの体験学習、保育養成校、専門士養成校の学生の実習、一般および学生各種ボランティアを積極的に受け入れ、子どもとの遊びや支援を通して、子どもと関わり働くことの楽しさや喜びを実感し、保育・福祉の現場で働く意欲を高める環境を提供する。
2	子どもの姿を捉え主体的に考え行動する	子どもの姿を観察し、一人ひとりの特徴や性格、好みを把握する力を養い、遊びや支援内容の立案を学ぶ。子どもの育ちに合わせた遊びや支援内容、環境設定を主体的に考え行動する。
3	保護者支援・接遇を学ぶ機会の提供	保護者と接するスタッフの姿から、子どもの成長の見守り方、接し方、支援後の保護者に対するフィードバックの仕方等、子どもだけでなく保護者に対しての支援・接遇を学ぶ。
4	専門性とチームで働く姿勢を知る	保育士や理学療法士等各種専門士の働き方、専門性、視点に触れ、互いの専門性を活かした保育・支援について理解を深める。スタッフ同士のやり取りに触れ、チームで働く上で必要となる姿勢を知る。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止研修 ④ ＢＣＰ ⑤ ケーススタディ研修	非常時に備えた行動ができるよう、スタッフ周知する。 怪我についての対応について事例を通して学ぶ
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル研修 ③ 接遇・保護者対応 ④ 共主体①（主体性・共主体の考え方）	マニュアルの徹底。全スタッフ同レベルで行えるようにする。 相手の気持ちに寄り添い、最高の接遇を学ぶ 主体性を理解し、共主体の保育を考える

6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水の事故 ③ 共主体②（日課①）	水の事故への対応、危機管理 共主体の観点から日課を考え見直す
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体③（日課②）	実践を振り返り、共主体の理解を深める
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体④（環境）	共主体の観点から環境を見直す
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体⑤（経過報告） ③ 小学校への接続	実践の経過を確認する 小学校の今を知り、接続に向けた子育てを考える
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止研修 ④ 利用者アンケート分析 ⑤ 共主体⑥（環境②）	利用者アンケートの分析を行い、園運営について考える 上期の環境を見直し、子どもの育ちを捉えた環境設定をする
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全社員研修	全社員研修をうけて、スタッフ一人ひとりが次年度に向けた自らのMissionを確認し理解する
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体⑦（振り返り）	今年度の取り組みを分析・整理し、次年度に向けた課題を共有する
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進級、進学に向けて ③ 共主体⑧（年度末までにできること）	次年度に向けた課題から、アクションプランを立て実践する
2月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り	体験活動の振り返り、及び次年度の課題抽出
3月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度目標設定	課題への共通理解を深め、次年度の目標を設定する

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
施設長勉強会	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回	I回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月I日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

近隣の保育園や、幼稚園、認定こども園、商業施設等との関わりを持ち、コミュニケーションを大切にしていく。当ルームが保護者や地域の方を対象とした子育てに関する講座や相談会を実施し、地域に貢献できる事業所を目指す。また、つむぎカフェやだれでもアトリエでは、子育て世代のみならず、全ての地域の人に気軽に利用していただき、地域の人が集い安心できる場を作り、人と人とのつながりを実感できる地域の拠点を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　集客目標：450名
青空保育	月I回　　公園名：駅西口公園にて　　集客目標：70名
商店街ツアー	週I回
世代間交流	高齢者との交流 中高生の職業体験学習、ボランティアの受け入れ
異年齢交流	小学校訪問

	近隣園、近隣事業所との交流
地域拠点活動	ちきんえっぐ（自然食堂・寺親屋・芸術学校・自然学校）の開催 子育て相談（保育士・心理師 つむぎカフェ だれでもアトリエ（リサイクル品を活用したアート活動） 園庭開放 地域公開講座（子育て相談会） 救急救命講習

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもの発達の連続性を見据え、子どもたちの生活が学校へつながるものとして就学を見通した支援を行っていく。実際に学校に訪問する子ども間交流を実施し、子どもたちが学校に対して期待感を持てるようにする。また、スタッフ一人ひとりが現在の教育を見て知り、子どもたちの将来の姿から逆算した支援を遂行できるよう、スタッフ間交流や架け橋期の子育ての理解を深める勉強会を実施する等して学ぶ。就学先決定後は、保護者からの要請に応じて就学支援シートを積極的に活用し学校や放課後等デイサービスと連携し、子ども本人の発達の状況や特性、支援内容等について情報共有を図り、子どもも保護者も安心して進学できるように環境調整していく。就学後も一生涯に渡り切れ目のない地域支援体制が構築できるよう、地域の子育て会議、地域自立支援協議会等へ積極的に参加し、関係機関、団体等と連携していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を２月２８日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	桶川西小学校	4名予定	授業見学（1年生教室）	職員間交流
6月頃	上尾特別支援学校	20名予定	保護者交流会	保護者交流 職員間交流
9月頃	朝日小学校	12名予定	小学校に行こう （校内）	子ども間交流
11月頃	桶川西小学校	12名予定	公開授業（校内）	子ども間交流
11月頃	上尾特別支援学校	4名予定	公開授業（校内）	職員間交流
1月頃	桶川小学校	15名予定	小学校の先生と遊ぼう （園内）	子ども間交流
2月頃	桶川小学校	12名予定	校内探検（校内）	子ども間交流

2月下旬	桶川市内小学校	2名予定	幼保小連絡協議会 （市役所）	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

① 個別支援計画は、障害の有無にかかわらず、子どもの多様なニーズを総合的に把握するためにアセスメントを行い、特性や発達段階、適応行動等を丁寧に把握し、それに応じた支援目標を設定する。

② 支援目標を達成するために必要な支援について、「本人支援」「家族支援」「地域支援」等における具体的な支援内容を設定する。

③ 策定会議では、個別の支援計画と合わせて、日々の保育、発達支援の共有の場とし、専門性を活かした多角的な視点を共有する。

④ 原則として6か月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合等は、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：2名予定）

全児童を対象とし、日頃の様子及び保護者の不安等の情報をもとに優先順位を決め、開催していく。また、併設のメリー★ポピンズ 桶川ルームが開催するケース会議に参加し、多角的な視点から支援が行えるように留意する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

積極的に就学支援シートを活用することで、これまでに実施した支援を就学先に引継ぎ、入学後の円滑な学校生活を送れるように支援していく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：1200名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：24名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：120名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：70名

勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回　　公園名：駅西口公園にて開催　集客目標：70名
子育て相談会	月1回　　集客目標：60名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２６年２月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１２時００分
自己評価終了予定時刻：１４時００分
自己評価実施予定者：施設長・児童発達支援管理責任者

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子どもが主体的に選択できる環境をさらに発展する上で、大人主導ではなく、子ども主導で環境設定できるよう、自分で考える力を養う支援を展開していく。 ・自分たちの実践、及び支援を記録にまとめ、どのようなかかわりが望ましいのかを記録をベースに振り返る。また、そのスキルを獲得するために記録の取り方に関しての研修を随時実践する。
	振り返り	併設の保育園と協働して環境・活動内容を見直し、施設内全体を使用したゾーン保育を展開し、子ども自身が探索し活動を選択できる環境を構築し支援を実践することができた。その環境の中で、子ども自身が考え行動できる力を育てられるよう適切な距離で支援に臨むことができるようになってきているものの課題が残るため、引き続き支援の質の向上を図っていく。そのためには、記録をベースに自分たちの実践を客観的に振り返る意識を常に持つ必要があり、次年度以降その点を強化していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	・スタッフのスキル向上と支援内容の質の向上① ・幼保小との交流を含めた地域連携の強化
	重点施策	・ポートフォリオ等を活用し、子どもの成長をスタッフ間、保護者に対し見える形でわかりやすく提示できるスキルを身に付け、日々実践する。 ・近隣市区町村の架け橋プログラムを積極的に学び、小学校への接続を見据えた支援内容の質の向上を図る。 ・地域行事や会議等、地域や自治体との関係を密接に持てるように外に活動の幅を拡げ、地域の支援ニーズを円滑につかめるようにする。
２０２６年度	目指す姿	・スタッフのスキル向上と支援内容の質の向上② ・就学を見据えた接続期モデルの確立
	重点施策	・蓄積した記録からインクルーシブ保育と支援の実践についてまとめ、スタッフ一人ひとりが自らの言葉で語れるようになる。 ・小学校への円滑な接続が可能になるよう、併設の保育園と協働しモデルを確立していく
２０２７年度	目指す姿	・地域におけるインクルーシブ保育のモデルになる ・地域の発達支援における中心的役割を担えるようになる
	重点施策	・実践しているインクルーシブ保育を対外的に発信していき、自分たちの実践を評価してもらえるように常に意識を高く持った支援を心がける。 ・自治体、関係機関と協働し、地域全体でインクルーシブ保育を実践できる基盤をつくる。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 桶川ルーム 施設長　糸賀 若奈

２０２５年度　発達支援つむぎ 北千住ルーム
事業計画書

1．基本方針

今年度開所から9年目を迎える発達支援つむぎ北千住ルームは、自然豊かな荒川の土手に隣接し、宿場町として栄えた北千住の地域に根差した支援を行ってきた。併設する北千住どろんこ保育園と2020年度から始まった園児と生活を共にするマンスリー支援を基盤とし、グループ支援でも畑仕事や、生き物の世話、公園や図書館、商店街等、地域資源を活用した支援を図ってきた。

2025年度は、施設運営方針の「原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～」を目標に北千住の地域資源や環境を最大限に活かし、１０よりも100の経験を積み上げ、にんげん力を育てる支援を行っていく。

① 「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～
　友達との関わりの中で、相手に気持ちを表出することや、言葉や動作での伝え合い、順番や相手を意識することが増える環境構成やスタッフによる仲介、支援を行う。
　道具の適切な使用方法や刃物や危険な物との距離の取り方を活動の中で育む。

② 「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～
　マンスリー支援やグループ支援で畑活動を積極的に取り入れ、日課としての定着、および成果物を加工し、食する経験を展開していく。成果物が取れない際も、どうしてか友達やスタッフと考える思考を大切にし、トライアル＆エラーによる、成功体験につなげていく。

③ 「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する
　北千住どろんこ保育園との併設施設という利点を最大限に活かすためのインクルーシブ保育の支援の質の向上、および障害の有無に関わらず、自分で活動を選択する、友達とのぶつかり合いによる葛藤の調整、気持ちの調整の機会を最大限提供していく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブな環境での選択できる支援
	実践予定内容	併設する北千住どろんこ保育園の園児との活動を通して、双方のスタッフが適正な距離で見守る支援を行う。活動を自由に選択できるように環境設定を行い、散歩先での遊びや、目的地、室内での遊びの選択ができるように環境調整を行う。またどの友達と遊びたいか、何をしたいのか子どもの気持ちに寄り添い、選択がしやすいように必要に応じた仲介やコミュニケーション方法を育んでいく。
2	計画・ねらい	日々の積み重ねができる、丁寧な支援
	実践予定内容	マンスリー支援やグループ支援の支援形態を問わず、畑活動や生き物の世話、戸外での地域交流を最大限取り入れていく。マンスリーでは日常生活動作や日課活動に重点を置きつつ、繰り返し積み上げる中で生活の流れやるべき仕事、遊びを自ら考え、見通しを持って取り組むことが増えるように支援していく。 グループ活動では、畑活動での農作業や育てたものを食す体験、命をいた

		だく活動を通して、生活の基盤となる食への興味ややらなければならない仕事の経験を積める支援を行う。また日々の取り組みが線となってつながることが成果として実感できるように、連続した活動を提案し、作物を育て、加工して、調理する工程の見通しを持ち、支援を展開していく。
3	計画・ねらい	友達に伝える、話し合う活動の実践
	実践予定内容	やりたいことを選択できる環境において、友達同士で話し合う場面や意見を伝え合う場面を設定し、相手に意見を伝えることや気持ちを伝える経験が積める環境を設定していく。また伝え合いのなかで、意見が割れることや衝突する場面を見守り、スタッフも一緒に考えることで、合意形成エラーを積み上げ、解決する方法や気持ちの折り合いのつけ方、相手を思いやる気持ち、他者意識を育む支援を展開していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の安心できる場所、不安感を取り除ける場所
	実践予定内容	保護者同士の憩いの場所であり、安心して過ごせる場所として、日々の子どもの成長や成功体験、葛藤等をお伝えし、共に成長を分かち合うことができる場を構成していく。保護者の相談に適時応じ、不安感やつらい気持ちが解消し、親子共に安心できる場所として支援を行っていく。
2	計画・ねらい	保護者同士がつながることができる場
	実践予定内容	日々の支援の中で、保護者同士が情報交換できるようなカフェの運用を行う。保護者座談会や就学後の様子を聞くことができる先輩保護者との交流の場を設定し、保護者の日々の困りごとの解消、および就学に向けた情報交換などを行っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の発達支援事業所や相談支援事業所との密な連携
	実践予定内容	足立区や近隣他区の障がい福祉課、および障がい福祉センター、相談支援事業所と連携を図っていく。 自立支援協議会や足立区障がい福祉課による地域ネットワーク会議に積極的に出席することや情報収集を行い、近隣の他事業所や地域との連携を図り、地域の支援力向上に努めていく。
2	計画・ねらい	地域に開かれた事業所、相談がしやすい事業所
	実践予定内容	併設する北千住どろんこ保育園の保護者、系列園であるメリー★ポピンズ北千住ルームの保護者、地域子育て事業利用者等、地域の方が気軽に相談しに来やすいように、園庭やカフェの解放、子育て相談ができることを周知し、地域に開かれた事業所として、安心できる場所や子育てについて相談できる場所にしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自立・自律したチームの構築
	実践予定内容	日々の業務、仕事の分担を視覚的に明確にし、それぞれの業務量を把握した上で、自分がやるべき業務や他のスタッフのフォローを行い、業務時間内で効率よく、支援の質を担保しながら遂行していく。日々の朝礼、終礼での振り返り、業務連絡を密にとり、スタッフ全員が見通しを持ち業務に遂行できるように情報共有を図っていく。
2	計画・ねらい	風通しの良いチームの構築
	実践予定内容	日々の業務の中で、お互いの考えや意見を建設的に話し合う時間を設定し、それぞれが意見を尊重し合いながら、子どもを中心に置き、チーム全体で支援を実施していく。お互いの良いところを認め、不足している部分を補い合い、支え合い連携を密にし、より良い支援を展開できるチーム作りを行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	必要な物を選択できる整った環境
	実践予定内容	支援室、保育室、事務所など必要なものが整理されて、使いたいものや必要なものがわかりやすく、使いやすい環境設定を行っていく。 日々の清掃や整理整頓を徹底し、子どもや保護者が使用する際、心地よく使うことができるように、環境を整備していく。
2	計画・ねらい	心地よく過ごしやすい環境づくり
	実践予定内容	門前の駐輪場から、園庭、カフェ、裏の駐車場を含め、敷地内周辺の美化に取り組み、来訪者目線で、日々の清掃、美観、環境構成を行っていく。 コンピテンシーや環境マネジメントマニュアルなどを用いて、振り返りを大切にし、PDCAサイクルを用いてより良い環境を構成していく。

〈6〉併設モデル園としてのチームビルディング

1	計画・ねらい	専門的な視点の理解、発達を理解した連携力の向上
	実践予定内容	併設園の強みとしての多職種の専門的な視点や通常発達や発達特性の視点を園内研修や、園長大学・保育士大学の動画視聴、支援児会議などを活用し、双方の視点を理解し、双方向での保育支援の質の向上に努める。 日々の支援、保育の振り返りを積極的に行い、マンスリー支援における利用児の支援のねらいや環境設定、双方向での支援保育の質が向上するように、お互いを認め合い、話し合いがしやすい風通しの良いチーム作りを行っていく。
2	計画・ねらい	子どものねらいを理解した双方向支援の実践
	実践予定内容	保育園の週案や月案、つむぎの個別支援計画を共有し、一緒に考える時間を作り、それぞれのスタッフが一人ひとりの支援のねらい、保育のねらいを理解し、目の前の子どもに必要な環境や遊び、関わりを考えて提供できるように話し合いや連携を高めていく。 散歩先や園内での活動などそれぞれの配置を考え、見守る支援、選択できる支援を双方向で実践できるように努めていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長・児童発達支援管理責任者1名（兼務）
保育士3名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・スタッフ同士による支援技術の共有 ・併設園として両施設のスタッフの支援の質向上 ・施設内研修年間計画を設け、資料を使った研修を行う。
給食運営会議	月1回	・食育計画策定、食育活動実施内容の共有 ・喫食状況（残食記録簿）確認 ・検食簿指摘事項改善 ・配膳方法
事故防止委員会	月1回	・事故報告書の事故分析、再発防止、ヒヤリハット、インシデントの報告を実施
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
乳児会議	隔週1回	・月案・週案を基に園の保育者と共に子どもの姿を共有
幼児会議	隔週1回	・月案・週案を基に園の保育者と共に子どもの姿を共有

要支援児会議	月1回	・個別支援計画を基に、園の保育者と共に子どもの姿を振り返り共有する。その中で、子どもにとってよりよい関わり方について、見直し検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	・各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	・テーマに即した計画的な研究の遂行 ・どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	・障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	・インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	・法人全体での共有 ・エリア開催の食育会議の内容を、施設長から調理員を始め園の保育者に伝え、園内で協議する
保健会議	年4回	・法人全体での共有 ・感染症対策やガイドラインの作成、改善 ・保健計画策定
子育ての質を上げる会議	月1回	・マネジメント、コンプライアンスなど ・各園/課題改善計画立案及び取組成果発表
サービス担当者会議	適宜	・相談支援事業所が開催する、子どもを取り巻く社会資源である事業所および保育所が集まり支援方針を共有する
自治体集団指導	年1回	・虐待防止研修、児童福祉法に基づく支援についての指導

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進

食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑や玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	ヤギや鶏の健康管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	併設園として一緒に企画、運営を行う。保護者と協働的に準備・進行を行う。地域の方々が多く来ていただけるような企画を行う。
運動会係	併設園として子どもの日々の成長を、会を通して見てもらい、保護者にも一緒に参加できる運動会を開催する
生活発表会係	併設園として日々の成長を保護者に伝える場として設定し、開催する

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・併設園として、共に見守る支援の実践に力を入れる ・養護の視点を大切にし、一人ひとりが安心できる環境づくりを行う ・情緒の安定を図り、生活リズムや日課の流れの定着を図る ・戸外での関わりの中で、原体験の経験を積み上げ、感性を育む ・繋がりある遊びや活動を展開し、継続する楽しさを伝える
	下半期	・安定した生活リズムで、見通しをもって過ごすことができるように支援する ・異年齢の友達との遊びの中で、コミュニケーションの楽しさや人との関わりの楽しさを伝えていく ・同意形成エラーを積めるように環境を設定し、他者の意見を知る機会を設定する ・やりたい、行きたいなどの選択を意思表示し、主体的に活動に関わる機会を増やす
グループ支援	上半期	・異年齢でのグループによるリーダー、フォロアーの相互作用を経験していく ・大人や友達との関係を深め、対人意識を伸ばしていく

		・友だちと一緒に楽しさを共感できる支援を行う ・日課や製作など共同で何かを創り上げる経験を積む
	下半期	・困った時に誰かにヘルプを出すことができる ・友だちと一緒に遊びを相談し、展開することができる ・自分を様々な形で表現できる ・「どうすればよかったか」「どうすればよいか」を一緒に考えることができる ・就学に向けて、接続期に必要な力を、接続期カリキュラムを基に育てていく
個別支援		・ビジターグループとの併用や園児との関わりを持つ時間を設定し、人と一緒に過ごすことの楽しさを知ることに繋がる活動を展開していく。 ・子どもの発達段階により個別支援の形式から、少しずつ2人など少ない人数の関わりから、4～5名の小集団での活動へと繋げる最終的には、園などの小集団で安心して楽しく活動できることを目指す。
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施する ・「家族支援記録」を活用する
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施する ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用する
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用する

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食への興味を広げる
	実践予定内容	・食物が調理され、違う形や味に変化する過程を知り、興味へと繋げる調理活動を実施する ・食材や食の循環・環境への意識へ繋がるよう、畑活動や商店街の散歩などの活動を展開する ・食物が育つまでを日々の日課として経験する中で食物への興味を広げる
2	計画・ねらい	食育から五感で感じる喜びを知り、生活の中で感じる感覚を豊かにする

	実践予定内容	・食感のあるものをよく噛むことで味を知ることに繋げる ・五感を育てる食の体験活動としての食育活動の実施する ・土や風、日光に触れることで視覚・触覚・嗅覚の感覚を養う
3	計画・ねらい	食を豊かにする取り組みを展開することで豊かな心を育む
	実践予定内容	・好きな場所で、好きな人と一緒に食べる喜びに繋げる ・相手の食べているものへの興味を広げる ・子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる ・食事を通して溢れる言葉や身振り、手振りでの表現、やり取りを大切にする

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃･･･ヘルパンギーナ・手足口病 12～２月頃･･･インフルエンザ 冬場･･･ロタウイルス・アデノウィルス・ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･現時点では、預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在3名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月25日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在3名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については5月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよびその他感染症予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を適時実施する。 室温計を用い、湿度管理を実施。必要に応じて加湿器を使用し湿度調整を行う。 併設園年長児と共に、希望児童家庭は性教育を実施予定。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日

	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	主体的に遊びを選択する環境設定
	実践予定内容	手が届く範囲に玩具や素材が取れるような環境設定を行い、主体的に活動を選択ができるように環境設定を行っていく。 それぞれの発達段階に応じた玩具や興味の幅が広がるように定期的に選択できる環境の見直しを図り、主体性を高めていく。
2	計画・ねらい	コミュニケーションを育む環境設定
	実践予定内容	子ども同士のやり取りが広がるように、玩具や道具の個数を絞り、貸し借りや取り組みができる環境設定を行う。 協働して遊ぶ玩具や、複数名で遊ぶ玩具等、ルールのあるやり取りや環境設定を行い、コミュニケーション能力が育まれる環境を設定していく
3	計画・ねらい	北千住周辺の社会資源を活用し、戸外活動の選択ができる環境設定
	実践予定内容	図書館、児童館、ビジターセンターなど周辺の地域資源を活用した支援環境を構成していく 土手や公園など、行きたいところ、遊びたい活動を選択でき、主体的に活動を展開できる仕組み作りを行う。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ベンチ	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災（消防訓練・避難訓練）の実施	危機管理意識を高めるだけでなく、未曾有の事態に対応できるように訓練を実施する。また、災害時スタッフ是認が災害発生時対応マニュアルに基づいた対応をできるように管理する。
2	ケガ事故防止	保育品質マニュアルに基づき、重大インシデントに繋がる前のヒヤリハットをルームスタッフ間で共有すると共に、人的・物的環境にアプローチし安全で安心できる場の設定を常時行う。ケガ・事故発生時には、ケガ事故発生時対応フローチャートに基づき、対応を実施する。
3	光化学スモッグ	戸外活動を展開する際、光化学スモッグの知識を持って、注意報が発令されているか否かの把握を行い、発生時には保育品質マニュアル光化学スモッグ注意報発令時対応に基づき対応する。
4	不審者対応	不審者対応訓練を実施すると共に、不審者発見時には保育品質マニュアル不審者侵入時対応フローチャートに基づき対応する。また、常時防犯意識を高めるため、特に戸外活動時など広い場所で子どもが活動していることを想定し、スタッフ間で活動場所に応じた対応を実施できるように共有する。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。併設園としてのインクルーシブ保育の支援の在り方を知ってもらうことで、障害の有無に関わらずすべての人が同じ環境で生きる力を獲得できるということを伝え、次世代に新しい知見が広がるようにしていく。

また、併設園として保育園側が受け入れる保育実習生や中高生の体験学習の受入等にも積極的に介入し、インクルーシブ保育を共に実践する中で、児童発達支援事業所の役割についても知ってもらう機会とする。

種類）中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

〈1〉今年度の方針・テーマ

インクルーシブ保育の現場での支援を保育養成校・専門士養成校の学生の実習や中高生の体験学習において伝えていく。今後の保育業界や発達支援の動向を早期に伝えることで、より専門性を高めて子育ての質を向上できるような学生の育成に努める。

1	実践予定内容	児童発達支援事業所について基礎的な仕組みを知る。職員構成や支援の枠組み、一人ひとりに合わせた支援について知る。
2	実践予定内容	専門職の連携、お子様の発達特性に応じた支援の展開を知り、実際に支援に携わり、関わり方を学ぶ。
3	実践予定内容	インクルーシブ保育について、マンスリー活動に一緒に携わり、双方への相乗効果を体験する。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止、接遇	虐待について研修、および接遇について日々の振り返りを行う 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
5月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育運営マニュアルの読み合せ	マニュアルの読み合せを行い、適切な保育・支援について振り返る 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水の事故・救急救命	ハザード・水の事故について/救急対応/感染症について 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 乳幼児の発達①	乳幼児の発達について研修 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理・ハザード	戸外活動、散歩時の危機管理、園内外のハザードについて考える 園長大学の視聴、ディスカッションを行う

9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修	上期の保育、支援について園全体で振り返る 全体研修の動画視聴、意見討論を行う
10月24日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止・命を知る	虐待防止について園全体で振り返る。命を知る（鶏を捌く、性教育について学ぶ） 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学支援・移行支援について	就学支援シートの書き方、他機関や就園などの移行支援について 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 乳幼児の発達②	乳幼児の発達について研修、就学前までに必要な10の姿の確認 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 一年の振り返り	一年間の振り返り（併設園の取り組みについて）
2月20日	18:00～21:00	策定会議①	翌年度の方針を全員が理解する
3月1日	9:00～18:00	策定会議②	翌年度の方針を全員が理解する

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた事業所として、併設する北千住どろんこ保育園と共に、地域に根付いた支援を行っていく。また地域資源を活用した支援を展開し、地域の方々に認知していただき日々の子育ての相談や発達支援をより身近なものとして活用していただけるように地域交流を行っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：400名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：千住旭公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域にある高齢者施設との関わりを設定 小中高校生の職場体験や幅広い年齢層のボランティアの受け入れを併設園と共に実施
異年齢交流	併設園と共に、異年齢保育・小学校訪問を実施
地域拠点活動	近隣商店街や近隣保育園との関わりを実施 子育て支援センター「ちきんえっぐ」および園庭、つむぎカフェの開放

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

あだち幼保小接続期カリキュラムをもとに、北千住どろんこ保育園と共に足立区内の小学校との連携を密に図っていく。小学校への移行に大切な視点を支援に取り入れていき、近隣他区の小学校との連携を図っていく。特別支援学校や特別支援学級との情報交換や学校見学も積極的に行い、利用者に情報発信を行っていく。
また、地域の情報なども収集し、支援学級や支援学校との連携も検討し、より具体的な見通しをもって支援に反映していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月14日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	千寿小学校	３名予定	幼保小連携会議	協議会
7月頃	千寿常東小学校	３名予定	職員間交流研修	見学
11月頃	千寿常東小学校	20名予定	展覧会見学	見学
1月頃	千寿常東小学校	３名予定	幼保小連携会議	協議会
2月頃	千寿常東小学校	３名予定	給食交流会	参加・交流
２月頃	千寿本町小学校	20名予定	一年生との交流会	見学・交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があっ

た場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況と保護者ニーズをふまえ、児童発達支援ガイドラインに沿って個別支援計画を作成する。この計画は、子どもの成長と共に定期的に見直し、策定会議を経て書き換えを行うものとする。作成については、必ずモニタリングを実施し、子どもの現状と保護者ニーズを把握した上で策定会議を実施する。子どもの現状と課題にずれが生じていないか、設定している課題が適切であるか策定会議を開催しスタッフ間で討議する。評価は日々の指導の中で毎回実施するものと、モニタリングで半期の状態を振り返る際のものと合わせて実施していくこととする。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：6名予定）

日々の支援を通して、ケース会議資料を基に、活動内容及びアプローチ方法・見立ての共有を図り、よりよい支援を提供すると同時に、スタッフ全員が子どもの理解に努める。その中で、使える社会資源等を検討し、子どもを主体とし包括的に捉えることを大切にする。また、職種間でのアプローチ方法を共有し、日々の支援にそれぞれが汎化できるように設定する。併設園としてマンスリー支援を利用する子どもや北千住どろんこ保育園在籍の利用児に関して、保育園のスタッフの参加も依頼し、包括的なアプローチができるように実施していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級引継については、必要に応じて、子どもの通う母体園に直接訪問、子どもの姿を園と共有し引継ぎを実施する。小学校への引継に関しては、就学支援シートを作成し、まず保護者と共有、その上で小学校に提出し、就学支援シートを持って引継とする。必要に応じて、小学校側と直接やり取りを図り、安心して小学校生活を送れるように支援する。

新しい環境となり、子ども自身も保護者も持つ期待と不安な気持ちに寄り添い、いつでも相談援助を受けることが可能であることを周知して継続的な支援を行っていく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：10名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：５名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標：３名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　集客目標：3名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00

ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：千住旭公園にて開催　集客目標：10名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年１０月24日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１７時３０分
自己評価実施予定者：施設長、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	インクルーシブの基盤強化を強固にする。 保育、支援の視点を交えながら、つむぎの利用児、園児が双方向に認め合い、切磋琢磨できるインクルーシブな環境を作っていく。 つむぎ利用児が周囲から見守られる環境の中で自ら選択し、活動に意欲的に取り組むことができる
	振り返り	併設園として、マンスリー支援の中で園児たちとの活動に参加することや他者意識を育む活動を展開した。園児在籍の利用児も支援の中で遊びの広がりや他者意識が伸びている姿が増えている。双方向での支援ではスタッフの情報共有や話し合いの時間が不十分な点があり、次年度より強化する必要がある。 選択できる活動環境の設定は、自分たちの遊びを話し合いで決める場面や、やりたい活動を選択しやすいように調整を図った。次年度はより選択の幅を広げることや、様々な経験を積めるように支援環境の見直しを図っていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	インクルーシブ保育の再構築、基盤の構築
	重点施策	保育と支援の視点の融合、どの職員も丁寧な関わりができる事業所になる 足立区内の他事業所、うめだあけぼの学園や近隣小学校、保育園、幼稚園、事業所にインクルーシブのモデル園としての取り組みを伝え、広めていく。
２０２６年度	目指す姿	地域から認知されるインクルーシブ保育のモデル園となる
	重点施策	保育と支援の垣根をこえ、混ざるの先にある相互支援の質を向上し、近隣の他事業所、足立区内の保育園、幼稚園、小学校などに取り組みを伝え、地域に根づいた事業所になる
２０２７年度	目指す姿	足立区近隣にインクルーシブ保育を発信できるモデル園となる
	重点施策	発達支援事業所として、足立区内および近隣他区・他市にインクルーシブの取り組みを発信する。他事業所や小学校、保育園、幼稚園などの近隣機関との連携を密に図り、障害の有無に関わらず、すべての子どもが生きる力を育むことができる支援の取り組みを地域に発信していく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 北千住ルーム 施設長　奥秋　優太

２０２５年度　発達支援つむぎ 調布ルーム
事業計画書

1．基本方針

児童発達支援事業所として、児童発達支援ガイドラインに基づき法人理念である「にんげん力。育てます。」および子育て方針である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を鑑みて、子どもを中心とし保護者と共に地域社会と協調し合い、子育てを実践する。
Doronkoが目指す社会として2025年度施設運営方針に基づき、いま行うべき支援を施設ぐるみで考えて行動することを目指すと共に、知識を吸収し学び続けるスタッフを育成し、自立した園運営を一丸となり実施していく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動の深い理解を行い「どうしたらできるか」を考える
	実践予定内容	・基本活動の意図や意味、子どもにもたらす影響力を考える ・やらせるではなく「どうしたらできるか」をチームとして考える ・発達段階を考え子どもに合わせた支援を実施していく
2	計画・ねらい	10の姿の体得から自分で選択し、考えて行動できる子どもを育てる
	実践予定内容	・子どもたちが必要なことを体験できるよう環境を設定する ・混ざるのその先について深く理解し、つむぎでできることを考え実践していく ・子どもが選びとれる環境の設定 ・子どもの遊びや活動を見守る・見届ける支援の実施
3	計画・ねらい	自立した園運営を行う
	実践予定内容	・次年度の集客までを考えた運営を実施する ・支援を必要とする子どもの平等性を考えながらの稼働率の確保 ・地域の動向を自ら取りに行く ・コンピテンシーを毎月実施する中で、保育・接遇など多角的な視点から自己各知し、大人のにんげん力向上を図る

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	選ばれる施設、推奨される事業所となる
	実践予定内容	・相手の意図や感情を理解し配慮できる力をつけることができるよう、日常生活の中で、相手の意見を一度は受容し、その上で考えを伝えることができるスタッフの育成を行う ・年1回のアンケートの実施

		・アンケートの実施に伴い改善を行いより良い施設運営につなげる ・事業所として大切にしていることをスタッフ一人一人が語ることができるようコミュニケーションを図る
2	計画・ねらい	保護者同士が繋がることができる場の設定
	実践予定内容	・保護者同士が些細な悩みを相談し合えるよう環境を設定する ・体験学習やイベントの実施を行う中で、保護者同士が関わりを持つことができる仕組みをつくる ・保護者はどのような繋がりを求めているのかアンケートを実施する
3	計画・ねらい	生活に根付いた支援を行うことで、日々の生活に汎化させる
	実践予定内容	・日頃から支援以外でのコミュニケーションを大切にし、保護者の些細な悩みを聞き取ることができる関係性を構築する ・生活に根付いた支援の提案（家庭で取り入れることの提案） ・子どもの母体園である、幼稚園・保育園との連携の強化 ・子どもの他事業所である、児童発達支援事業所との連携
4	計画・ねらい	質の高いフィードバックの実施
	実践予定内容	・保護者に合わせたフィードバックを行うことができるよう、保護者の特性やニーズを理解する ・スタッフの知識をさらに深めフィードバックに汎用することができるよう勉強会の実施

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域から選ばれる社会資源になる
	実践予定内容	・調布市および府中市の子育て支援包括支援センターとの連携強化 ・調布市および府中市の子育て家庭センターとの連携強化 ・調布市および府中市の発達支援センターとの連携の強化 ・近隣保育園または利用児童が所属する幼稚園・保育園への園訪問 ・近隣児童発達支援および放課後等デイサービスへの連携強化
2	計画・ねらい	地域との繋がりをさらに深め広め続ける事業所となる
	実践予定内容	・地域と共同して行うイベントや企画の実施 ・継続して関わりを持つことができる支援の実施 ・近隣児童発達支援および放課後等デイサービスとのイベントや企画の実施
3	計画・ねらい	地域に事業所の存在や方針を発信し開かれた事業所へ
	実践予定内容	・ブログおよびSNSでの発信 ・調布市および地域の会議への出席 ・地域における社会資源の活用（公園・図書館・児童館・図書館・商店街・幼稚園・保育園・小学校・放課後等デイサービス・飲食店との繋がり）

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	ワンチームとしての理解を深め、チームとして働く意識や良さを持つ
	実践予定内容	・自身の得意と不得意を認識する ・相手の得意不得意を認識する ・得意を活かし苦手をカバーし合える働き方の実施 ・ルームとして稼働率の維持を目指す ・支援の悩みや課題を共有し合えるよう振り返りの実施
2	計画・ねらい	スタッフのやりたいことが実践できる場所となる
	実践予定内容	・スタッフのやりたいや楽しいを支援やイベントに入れていく ・スタッフ同士での話し合いの場を持ち、やりたいことを共有できる場を設定 ・やりたいことを網羅し計画的に実施できるよう、年間活動計画へ落とし込み、活動計画を基に支援を実施する
3	計画・ねらい	コンピテンシー、人権チェックを活用することで自省する
	実践予定内容	・毎月のコンピテンシーを実施し、個人としての目標・事業所としても目標を設定 ・自己覚知を深める

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	SDGsを支援に汎化する
	実践予定内容	・支援の中にSDGsを取り入れていき、様々な年齢で取り組みを行う ・コンポストの実施を行うことで、食の循環について学びを深める ・畑仕事から水やり・収穫・調理・廃棄物の処理（コンポスト）の一連の流れを経験し、食の循環について知る ・勝手籠の設置（リサイクル・リユース・リデュースについて考える） ・地域の職業を知り労働についての理解を深める ・人と社会との繋がりを知る体験（商店街ツアーの展開、職業体験） ・生命の大切さを知る（性（生）教育の実施 ・子育てを支える地域拠点へ ・互いを認め合い、よりよく生きる支援の展開（心の傷を分かりやすく可視化する、チクチク言葉・ふわふわ言葉の影響を子どもと考える）

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　I０人／日

〈2〉開所時間

9時00分～I8時00分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名
児童発達支援管理責任者I名
保育士I名
機能訓練担当スタッフ2名（臨床発達心理士I名、理学療法士I名）
他I名

3. 運営方針

〈I〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	週I回60分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。 ・美観・コンピテンシーの実施 ・支援やイベントの企画検討 ・質上げ会議の共有
給食運営会議	月I回	食育計画の策定、食育活動実施内容の共有、感染症予防や対策についての検討
事故防止委員会	月I回	事故報告書の事故分析、再発防止、ヒヤリハット・インシデントの報告実施
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース検討会議	適宜	子どもや家族に対する支援について、ルーム内で協議・対応し、よりよい支援を検討する

虐待防止委員会	年4回	虐待につながりやすいケースの検討 ネグレクト・虐待につながる前の防止策の検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
主任児発管会議	年4回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	・法人全体での共有 ・エリア開催の食育の食育会議の内容を、施設長から園の保育者に伝え、事業所内で協議する
保健会議	年4回	・法人全体での共有 ・感染症対策やガイドラインの作成、改善 ・保健計画策定
子育ての質を上げる会議	月1回	・マネジメント、コンプライアンスなど ・各園、課題改善計画立案および取組成果発表、共有
サービス担当者会議	適宜	相談支援事業所が開催する、子どもを取り巻く社会資源である、事業所および保育所が集まり支援方針を検討・共有
事業所連携会議	適宜	セルフプランで複数事業所を併用する児童を対象に、児童の状態や支援状況の共有など事業所間で情報連携を行う
自治体集団指導	年2回	感染症対策および虐待防止研修、児童福祉法に基づく支援についての指導
調布市児童発達支援事業所連絡会	適宜	同地区にある、児童発達支援事業所同士の交流および、調布市の現状・課題・ニーズの把握

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策

	計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
ハザード係	ルーム内および地域の社会資源（公園・児童館など）道中、公園内のハザード見直し、マップの作成
美観・コンピテンシー係	毎月のルーム内美観・コンピテンシーの目標設定および振り返りの実施
体験学習係	体験学習の内容の検討やスケジュールの組み立て等

4. 支援方針

〈1〉基本方針

乳児	・自宅でできる遊びや関わりの提案（家族支援） ・見守る、見届ける支援の実践 ・ホンモノに触れ体験し、感覚を養う ・好奇心を満たすことのできる遊びや活動から感性を育てる ・身近な大人に受け入れてもらうことで、自己肯定感の基盤を育てる ・愛着形成を行う ・伝える力、人関わる力の基盤を養う ・自ら健康・安全な生活を作り出す力の基盤を養う ・養護の視点を大切に働きかける
幼児	・自分で考え成功した経験を重ね自己肯定感を高める 養護と教育の一体性 ・繋がりのある遊びや活動の展開の実践 ・遊びや活動を通して「思考力」「判断力」「表現力」を育てる ・遊びや活動を通して、社会性を育てる ・異年齢保育の実践 ・遊びを通して、非認知能力を育む ・共感力を育てる ・美しいものや、心を動かす出来事に触れる機会を作る（センス・オブ・ワン

	ダー） ・遊びや興味の幅を広げる ・協働で何かを創り上げる経験 ・満足感や達成感を持てる機会を設定 ・「どうすればよかったか」「どうしたいか」を共に考える支援 ・誰かにヘルプを出すことができるような働きかける ・友達と一緒に遊びを展開することができる	
グループ支援	・子ども同士のやり取りに発展できるように、スタッフはあくまでも環境設定・きっかけ作りを行い、最後まで見守る支援を実施 ・共感力を育む ・互いの表現を認め合えるような支援 ・人との関わりの中で、共に過ごすことが安心感に繋がるような支援の実施 ・段階に応じて、場の共有・物の共有・やり取りに発展できるような人的・物的環境設定の実施 ・協働性を育む中で、対話を大切にする	
個別支援	・子供の“やってみたい”と挑戦する気持ちを育む ・子どもの主体性を大切にし、人や物への興味関心が広がるように支援する ・従来のスタッフと1対1で実施する支援に捉われない形態での関わりを実施 ・人と過ごすことの心地よさや楽しさを知ることができるように段階的に活動を展開 ・子どもの発達段階に応じて、個別支援の形態を残しつつ、まずは少ない人数との関わりから場所の共有などから始め、安心して過ごすことができるように支援する ・最終的には幼稚園・保育園などの集団で安心して楽しく活動できることを目指す	
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食への興味を広げる
	実践予定内容	・畑仕事を通して、食物ができる過程、自分たちで育てた愛着から興味を広げる ・食物が調理され、違う形や色、味へと変化する過程を知り、興味へと繋げる調理活動の実施 ・食材や食の循環・環境意識へ繋がる活動の展開、食品ロスについて考える支援の実施（コンポストの実施） ・生産・加工・流通の過程を知ることができるような支援の展開
2	計画・ねらい	年間通して、畑仕事を実施し、食への興味関心、豊かな心を育む
	実践予定内容	・土づくりから行うことで、植物の育つ環境を知る ・種まき（苗植え）、雑草抜き、水やり、間引き、収穫を行うことで、植物が育ち収穫までの過程を実体験から学ぶ ・畑仕事における道具の操作から、食具の操作性を広げ自分で食べることの喜びへと繋げる ・畑仕事を通して、畑を共同利用する方との関わりを持つ
3	計画・ねらい	食を豊かにする取り組みの展開をすることで、豊かな心を育む
	実践予定内容	・支援を通して、好きな場所で友達と一緒に食べる喜びに繋げる ・友達の食べている姿から食への興味を広げる ・食べることを通して、そこから溢れる言葉や身振り・手振りでの伝え合い、やり取りを大切にする

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	・手洗いの正しい実施方法を子どもが分かりやすい仕様にイラストを活用したものをカフェ・トイレに掲示し保護者にも併せて実施していただけるように伝える。来所時および支援終了後に含嗽ができるように。紙コップを設置し、含嗽指導を行う。 ・身体をつくる取り組みとして、戸外活動と食育を併せて実施する ・自分で健康管理ができるように指導する（衣服の調整・水分補給・適度な休息） ・生活リズムを整えることに繋がる指導（保護者との連携） ・健康的な体づくり（戸外活動の実践、怪我をしない体づくり） ・心の成長に関わる指導の実施（生命を尊重する心、他者を思いやる心、倫理観や正義感、豊かな心の育成の充実）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃･･･ヘルパンギーナ・手足口病 9～10月･･･マイコプラズマ肺炎

	12～2月･･･インフルエンザ 冬場･･･ロタウイルス・アデノウイルス・ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･現時点では、預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ・室温計を用い、温度管理を実施。必要に応じて加湿器を使用し、加湿を行う。 ・年長児の希望児童家庭は性教育の実施を行う

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	つむぎカフェの環境設定の見直し
	実践予定内容	・子どもの作品を掲示し、またやってみたい気持ちを育むと共に友達の作品を見て違う物への興味を持つきっかけとなる空間の設定 ・子ども同士のやり取りに発展できるような空間の設定 ・子ども同士が一緒に遊ぶ中で、ごっこ遊びに発展できるような玩具の設置 ・子どもがやりたい遊びを選択し、展開できるような設定
2	計画・ねらい	子どもが主体的に遊びを選択し展開することができる空間設定
	実践予定内容	・子どもがやりたいことを自ら選択することができる環境構成 ・人的環境に配慮（見守る・見届ける支援の実施）
3	計画・ねらい	子どもを取り巻く社会資源の活用を行う中で、生活に根付いた支援の実施
	実践予定内容	・地域の社会資源および活用できる安全な環境を知り、支援の中で活用 ・ハザードマップの更新

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	掲示板	カフェ	毎日
2	下駄箱	廊下	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災 （消防訓練・避難訓練の実施）	危機管理意識を高めるだけでなく、未曾有の事態に対応できるように訓練を実施する。また、災害時スタッフ全員が災害発生時対応マニュアルに基づいた対応をできるように管理する。
2	ケガ事故防止	保育品質マニュアルに基づき、重大インシデントに繋がる前のヒヤリハットをルームスタッフ間で共有すると共に、人的・物的環境にアプローチし、安全で安心して過ごすことできる場づくりを行う。ケガ・事故発生時には、ケガ事故発生時対応フローチャートに基づき、対応を実施する。
3	不審者対応	不審者対応訓練を実施すると共に、不審者発見時には保育品質マニュアル不審者侵入時対応フローチャートに基づき対応する。また、常時防犯意識を高めること、特に戸外活動時など広い場所で子どもが活動していることを想定した訓練も併せて実施する。
4	光化学スモッグ	戸外活動を実施する際、光化学スモッグの知識を持って、注意報が発令されているか否かの把握を行い、発生時には保育品質マニュアル光化学スモッグ注意報発令時対応に基づき、対応を行う。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

調布市市民活動センターと連携を図り、様々な年代のボランティアを受け入れることで地域の中核になる開かれた児童発達支援事業所となる

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性や得意としているものを活かし、全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や活用方法、一人ひとりの子どもに対する支援にどのように繋がるかについて全体で共有し、学びを深める。一人ひとりの強みが施設の強みとなり、施設目標の達成に繋げられるように計画する。また、インプットしたものをアウトプットすることで、スタッフの『伝える力』の向上を図る。

② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「日課」「家族支援」「地域支援」「SDGs」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。

③ ケース検討会議：支援の現状や方針、課題について、またグループ支援の在り方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証を行う。基本的には月I回とし、ケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケースの重要度などに応じて回数を増やし、随時開催を行う。

④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。

⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間以上を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。

⑥ 外部施設への見学（子どもを取り巻く社会資源の理解）：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、見地を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低I名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。

⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

⑧ 「園長大学・保育士大学」の受講：社内で企画される園長大学・保育士大学の講座で学びを深め、施設内で共有する。

⑨ 日本の社会福祉の現状や動向、子どもを取り巻く環境についてメディアや研修などを通して知り、地域課題と併せて施設としての在り方について考える時間を設定する。

⑩ 選ばれる施設に向けた姿勢の強化：自分がされて嬉しいこと感じることを必ずI日I回以上、誰かに言葉や行動として返すことでスタッフの接遇意識への向上へと繋げる。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月３日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止・身体拘束 ④ 美観・接遇について ハザードマップ見直し	・コンピテンシーの実施 ・虐待防止、身体拘束についての研修実施 ・美観意識の向上、最上級のサービスについて考える ・地域の社会資源に於けるハザードマップの見直し、戸外活動ルートの危険個所見直し
5月8日	11:00～12:00	(ア)　コンピテンシー自己採点 (イ)　地域の社会資源について (ウ)　日課について 保護者支援	・コンピテンシーの実施 ・地域の社会資源を知り活用に向けて動く ・日課についての理解を深める、法人理念の追求 ・卒園児の保護者を招き勉強会を開催する（成長と小学校で抱える悩みについて）
6月5日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 放課後の過ごし方について	・コンピテンシーの実施 ・学童・放課後等デイサービス・遊び場についての基礎知識および理解を深める
7月3日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学について リスクマネジメント	・コンピテンシーの実施 ・地域の小学校（普通学級・通級指導教室・支援級・特別支援学校）への理解を深める ・保護者勉強会の実施 ・水辺を含め、火・水のリスクマネジメント勉強会
8月７日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 発達検査について	・コンピテンシーの実施 ・発達指標となる検査についての知識を深める
9月４日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 事業計画半期振り返り	・コンピテンシーの実施 ・事業計画に沿って半期を振り返り、下期に向けて整理する
10月２日	11:00～12:00	コンピテンシー自己採点 全体研修 虐待防止研修	・コンピテンシーの実施 ・全体研修を通して、法人理念の追求の実施 ・虐待防止研修の実施

11月6日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症の理解 文章の書き方	・コンピテンシーの実施 ・感染症の知識及び対応について ・就学支援シートなど外部および保護者に提示する文章表現について
12月4日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラム BCP研修	・コンピテンシーの実施 ・アプローチカリキュラムへの理解を深める ・災害時などに於ける事業継続計画について
1月8日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 今後の振り返り、来期の事業計画作成に繋がる見直し	・コンピテンシーの実施 ・事業計画に沿って今期の振り返りを実施
2月5日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 性（生）教育	・コンピテンシーの実施 ・性（生）教育への知識および理解を深める ・性（生）教育、保護者勉強会の実施
3月5日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 マニュアル・コンプライアンス	・コンピテンシーの実施 ・法令順守、マニュアルの読み合わせ

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～11月21日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた子育て支援を提供する事業所として、地域に根付いた支援を実施していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：高速下第５・６公園にて
商店街ツアー	適宜
世代間交流	地域にある高齢者施設との関わりを設定 小中高校生の幅広い年齢層のボランティアや卒園児との交流機会を設定
異年齢交流	小学校訪問を実施　支援の中で異年齢との関わり
地域拠点活動	近隣商店街や近隣保育園との関わりを実施 つむぎカフェの開放

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。

⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

スタッフ間で勉強会を実施し、アプローチカリキュラムおよび、小学校学習指導要領への学びと理解を深め、地域の小学校との連携を図り、小学校との接続がスムーズに行えるようにする。
児童発達支援事業所の役割を地域の小学校に知ってもらい連携を図ることで、子どもも保護者も就学に向けてのモチベーションが上がり安心して就学できるように働きかけを行う。
就学支援シートを基に、就学先と連携を図る上で、幼児期までに育ってほしい10の姿への理解を深める勉強会を実施する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	調布市市立小学校 ・南白糸台小学校 ・石原小学校 ・調布第3小学校	各1～2名予定	学校公開見学 地域小学校の理解を深める	見学 スタッフ間交流
7月頃	府中市市立小学校 ・府中市立第5小学校 ・府中市立第4小学校 ・府中市立小柳小学校 ・府中市立第8小学校 ・府中市立第9小学校	各1～2名予定	学校公開見学 地域小学校の理解を深める	見学 スタッフ間交流
8月頃	調布・府中 特別支援学校	各1名ずつ予定	学校公開見学	見学 スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容に

なっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況と保護者ニーズを踏まえ、児童発達支援ガイドラインに沿って最長半年間の個別支援計画を作成する。この計画は、子どもの成長と共に定期的に見直し、策定会議を経て書き換えを実施する。作成については、必ずモニタリングを実施し、子どもの現状と保護者ニーズを把握した上で策定会議を実施。子どもの現状と支援目標、手立てにずれが生じていないか、設定している支援目標が適切であるか、策定会議を開催し、スタッフ間で討議する。評価は日々の支援の中で毎回実施するものと。モニタリングとして半期の状態を振り返る際のものと併せて実施していき、状況に応じて書き換えを行うものとする。

〈２〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定）

日々の支援を通して、活動内容およびアプローチ方法・見立ての共有を図り、よりよい支援を提供すると同時に、スタッフ全員が子どもの理解が深まるように検討会議を実施する。その中で、使える社会資源の検討や母体園、他事業所での様子を含め、子ども主体として包括的に捉えることで、保護者支援にも繋がるような会議とし、日常生活に般化できるようにする。また、職種間でのアプローチ方法を共有していく中で、アプローチ方法を広げていく。

〈３〉進級引継、および、小学校への引継

進級、引継ぎに関しては、必要に応じて子どもの通う母体園と連携を図り実施する。小学校の引継ぎに関しては、就学支援シートを作成し、まず保護者と共有、その上で小学校に提出し就学支援シートをもって引継とする。必要に応じて、小学校側と直接やり取りを図り、安心して小学校生活を送ることができるように支援する。
新しい環境下で、子ども自身も保護者も期待と不安でいっぱいであろう気持ちに寄り添い、いつでも相談援助を受けることが可能であること、つむぎカフェを開放していることを周知し、継続的な支援を実施できる環境を整えていく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:00～17:00
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
勝手籠設置	（月）～（土）9:00～18：00

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２5年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：9時00分
自己評価終了予定時刻：18時00分
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

〈4〉２０２４年８月に利用者アンケートを実施し、２０２５年１月に評価結果を開示予定である。
同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	・地域子育ての拠点となるよう、地域との関わりを深く持つ ・地域から選ばれる拠点となるよう、保護者へGoogleロコミの協力依頼と ・利用者の理解をさらに深めるため、他事業所との連携強化
	振り返り	地域と深く関わりをさらに深めることができるよう、繋がりのある地域資源とのイベント・支援の実施を行うことができた。特に西調布にある上石原郵便局とは深く関わりを持つことができ、郵便局に出向き施設内見学を始め、切手の購入やはがきの投函などを行った。また、郵便局の局長を招き子どもたちへ「はがきが届くまで」の授業を行っていただいた。 地域への発信はブログを始めとし、今年度よりGoogleロコミを開始した。つむぎのブログで活動の取り組みを発信することで法人としての取り組みや理念の発信にも繋がり、何を大切に支援する事業所であるのかを発信し続けている。また、Googleロコミでは地域に子育てや発達に困りごとがある方が情報を検索しやすいように取り組みを続けている。 今年度より、コア事業所として保護者の方がつむぎを選んでいただくことが増えており、事業所との連携が増加している。引き続き利用者を取り巻く事業所との連携を深め。利用児へのさらなる理解とよりよい支援を提供できるようになることを目指していく必要がある。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２5年度	目指す姿	地域の療育に対する敷居が下がる
	重点施策	・地域の幼保小からの理解が広がり、児童発達支援への理解が深まる ・利用を検討している方はもちろんのこと、悩みを抱える方が気軽にドアを叩ける環境へ
２6年度	目指す姿	地域の子育て支援拠点事業所となる
	重点施策	・公的機関との密な連携 ・子育て相談利用者の増加 ・利用者ニーズに合わせて幅広く選択可能な提案をできるスタッフの育成
２7年度	目指す姿	近隣地域だけでない子育て支援拠点事業所となる
	重点施策	・調布市という地域を活かし、他事業所からの訪問の増加 ・当社の課題のみでなく、他事業所の課題解決・利用ニーズの相談の受け入れ ・発達センター、子ども支援家庭センター、子育て包括支援センター、幼稚園、保育園からの訪問の増加

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 調布ルーム 施設長　山内　優里奈

２０２５年度　発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム
事業計画書

１．基本方針

「子どもも大人も共に認め合い、共に育ち合い、にんげん力を育む」という事を心掛け、保育園と発達支援が併設されている施設としてつつじヶ丘どろんこ保育園と共に、各所属の壁を越えて子どもたちが安心して過ごせる「大きな家」を目指し、この７年間歩んできた。大人も子どもも多様性を認め合い、互いに助け合い、共に育ち合う環境の中で、子どもたちが成長に必要な経験を積み重ね、にんげん力を育めるようスタッフ皆がチームとして保育・支援を行うことを軸とする。

生活力・選択力・思考力の体得を目指し、日課・基本保育活動を実施する。つむぎマンスリーを利用している子どもたちも保育園児と共に８時３０分に登園し、雑巾がけ、朝の会、戸外活動9時出発、生き物の世話、畑仕事などの日課を行い、子どもの成長に必要な体験を日常的に繰り返し、ホンモノの経験を通してにんげん力を身に着ける環境を用意する。

あくまでも大人がやらせたい事を子どもにさせるのではなく、子どもたちが自ら選んで活動を選択できる環境を用意し、自己決定を行う力・考える力を育んでいく。

生きるために必要なことの１つである「食べる」意欲を育めるよう食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践するため、ゴミ・糞のたい肥化を行い、種をまき、間引きや雑草取りをして育て、収穫したものを使って、焚き火で調理または加工し、食べることを年間通して行っていく。また、保育園で飼っている鶏など生きているものを捌く、解体する、焚き火で焼き、食べる経験を通して、命をいただいていることを知る。

各自治体・教育委員会・学校と連携を取り、就学先の小学校や支援学校へ、実際の授業を見に行き、子ども間の交流・教職員間の交流が実施できるよう交渉を行う。就学後の教育指導要領を把握し、保育所保育指針で示されている「幼児期の終わりまでに育てたい１０の姿」を念頭においた支援・保育を行う。

大人のにんげん力UPを図るため、園内研修や園長大学・保育士大学の講義を受けるなど、スタッフ一人ひとりが学びたい時に学べる環境を確保する。また、スタッフが学んだことを施設内・課内・部内・法人でアウトプットできる場を通して自己改革につなげる。

つつじヶ丘の強みを強化させるべく接遇・環境整備を継続して行い、誰にとっても居心地がよい「大きな家」を作り上げることができるよう、保護者や来訪者に対して大きな声で気持ち良い挨拶をし、相手の気持ちに寄り添い、「つむぎつつじヶ丘」に来て良かったと心から思っていただける施設を目指す。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	子どもたちが安心して楽しく通うことができる。
	実践予定内容	・あらゆる場面や状況において、大人都合で子どもを動かしたり、「危ないからダメ」を言ったりせずに子どもが過ごしやすい安心できる環境を心掛ける。 ・子どもの主体性を考え、子どもの気持ちや状況を考慮し、考え、言葉をかけ応答的に関わる。

		・家庭と連携を取り、子どもの様子や体調の変化などを共有し、スタッフ間で対応の統一を図り、保護者や子どもを不安にさせることがないようにする。
2	計画・ねらい	日課・基本保育活動の定着を図り、子どもの成長に繋げていく。
	実践予定内容	・１０より１００のホンモノの経験を計画・実施する。 ・個々の発達過程や個性、特性を理解し、見通しをもって意欲的に日課・基本活動に参加できるよう工夫し、計画的かつ継続的に進めていく。 ・常に子どもが選択できる環境を設け、自分で選び取り、経験する機会へとつなげていく。
3	計画・ねらい	人と関わる力を育む。
	実践予定内容	・見守ることを大切にし、過度に子ども同士の関りに入らずに育ちあいを目指していく。 ・Trial & Errorは見守り、自分で考えやってみる環境を設ける。 ・言葉で指示する、大人が意図的に環境をつくるのではなく、子どもたちが挑戦したいと思えるような環境設定をする。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者にとって居心地が良い場所となる。 全スタッフが自信を持って挨拶・お迎え対応する。
	実践予定内容	・スタッフ一人ひとりが手を止め、顔をあげて挨拶をする。 ・お迎え時には、支援のねらいと子どもの様子を振り返り、今後の支援の方針と見立てを伝え、質問や疑問などに対して丁寧に誠意をもって答える。 ・家庭での様子を聞き取り、相互の情報を共有しながら子育てをしていく事で「とも育て」を目指していく。
2	計画・ねらい	安心して子どもを託すことができる場所となる。 保護者が知りたい情報を提供する。
	実践予定内容	・口頭の説明だけでなく、お知らせなど目でみてわかる情報の提供を定期的に行う。 ・支援の内容や意図を理解していただけるよう活動のねらいや個別の支援目標を分かりやすく伝える。 ・保護者懇談会を実施し、子どもの成長を共有・相談できる機会を設ける。
3	計画・ねらい	地域との連携を積極的に図る。 地域全体で子育てを共にし、子どもの成長につながるあらゆる手段を活用する。
	実践予定内容	・スタッフ間で、地域からの連絡や相談事項などの共有を行い、迅速かつ確実に対応できる体制を整える。 ・必要に応じて、行政、保育園、幼稚園、他事業所、就学先との連携を図る。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	相談したい時に、いつでも相談できる場所となる。 誰でも子育てや発達に関する相談ができることを周知する
	実践予定内容	・行政機関へのパンフレットの配布を継続的に行い、市報などを活用しながら、誰もが利用できる場所として周知する。 ・発達支援について地域の方々に知っていただけるよう園外掲示板やブログを活用する。 ・子育て相談会を年２回実施し、支援が必要な子どもの早期発見に努め、社会資源へつなげる。
2	計画・ねらい	地域の人たちがつながる場所となる。 いつでも訪れたくなるような、安心できるつむぎカフェを目指す。
	実践予定内容	・子育てに関する情報を収集し、お知らせや雑誌などを置き、定期的に新しい情報を提供する。 ・つむぎカフェでくつろげるよう飲み物、絵本、玩具の充実を図る。 ・いつでも安心して気持ちよく使っていただけるようカフェに置いてある物品（家電類・家具・絵本・おもちゃ）の整理整頓と消毒を定期的に行う。 ・カフェにいる方に適宜お声がけをして、「きてよかった」「話せてよかった」と思えるように相談援助・接遇面の向上を図る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解・把握して支援を行うことができるようにする。 子どもの成長に必要な経験について学び直す場を設ける。
	実践予定内容	・保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインを使って、保育・支援のねらいを理解する。 ・園長大学®･保育士大学を活用し、実践に活かせる学びの場を提供する。 ・学習指導要領を把握し、長期的な目標を見通した支援計画と支援を提供する。 ・定期的に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を振り返りながら学習し、子どもの見立てに活用する。
2	計画・ねらい	自身の意見や考えを持ち、主体的に動く。
	実践予定内容	・新しいものを生み出すことを意識し実現する力を養う。 ・研修参加後、報告書を提出し、全スタッフと共有、学びを進化させ、議事録を残す。 ・言いたい事や提案したい事をいつでも話せる職場づくりをそれぞれのスタッフ・施設長が心掛ける。

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践。 日課である畑仕事を通して、子どもたちが食の循環を体験する。
	実践予定内容	・コンポストや糞を使って、たい肥を作る。 ・畑を耕し、土壌を整え、種をまき、水をやるなど、畑仕事に積極的に取り組む環境を設ける。 ・火をおこし、収穫したものを調理し、食べる。調理する際に出たゴミはコンポストへ入れる一連のサイクルを体験する機会を設ける。

〈6〉保育園との併設園としてのインクージョンに向けて

I	計画・ねらい	子どもの成長を共に喜び合う 保育園・つむぎスタッフがチームとして子育てをする
	実践予定内容	・保育園・発達支援の壁を乗り越え、Iどろんこスタッフとして、チームで子どもたち育てていく。 ・スタッフ間の言葉がけや共有を徹底し、言葉にして伝え合う。 ・互いの立場や役割を理解し、対等な立場で意見交換し合う。 ・行事は、計画から行事終了後の反省と記録まで、両スタッフで一緒に進めていく。 ・支援を必要とする子どもに対し、多角的・多面的な視点で保育計画を作り、実践、振り返り、改善を重ね、子どもにとっての最善の利益を追求する。

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　I０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～I７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名
児童発達支援管理責任者I名
保育士4名
児童指導員

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	離乳食進行・食育計画・アレルギー確認・給食状況
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデントの振り返り・危機管理・安全対策
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	要支援児の姿・個別計画の立案・子どもの様子共有
リーダー会議	月1回	園全体の運営、人材育成
つむぎ会議	月1回	業務の伝達、共有など、つむぎ運営に関する内容

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	献立内容の改善、提案・食育計画作成 給食提供マニュアルおよび運用ルールの作成や見直し
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成 食育計画作成・実践共有
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上係る相互学習、実践的な業務改善

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	生き物の飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズと連携し計画、実行
子育て支援担当	子育て支援事業の計画、実行

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・安心して過ごせる場所と人がいる中で、集団での生活を経験する。 ・自ら興味関心のもてるような環境の中、発見や工夫を楽しめる遊びを保障していく。 ・自分で選び、遊びこめる環境を保証する。
	下半期	・異年齢の関わりがいつでも持てるようゾーン保育や子ども自ら自主的に遊びが選択できる環境を設定する。 ・様々な人との関わりの中、様々な葛藤を経験し自分で考え、工夫し自ら行動 できるよう、また自分たちで約束やルールを決め、活動できるようにしていく。

グループ支援	上半期 3～5歳児	・戸外での活動や原体験を通して、豊かな感性や表現力を育む。 ・自分で考え、工夫し行動できるよう、見守り、見届ける。 ・自分で選び取り、最後までやり遂げる経験を積み重ねられるよう支援する。
	下半期 2～5歳児	・主体的に取り組める活動が増え、協調性や社会性の向上が見られ、自己肯定感が高まることを目指す。 ・戸外での活動を通して、社会生活を送る上で必要なルールを知り、対応の仕方を学ぶ機会を設ける。
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の３大食育方針
（１）調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる
（２）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
（３）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践予定内容	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし子ども達に提供する。
2	計画・ねらい	月1回の給食会議にて情報の共有を行う。
	実践予定内容	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていく。
3	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、たき火を活用したクッキングを行っていく。たき火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わう。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃･･･インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎 1月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･該当なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在6名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前

	検便・細菌検査	毎月I回/5日/全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･I0月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月I回/施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年I回

〈6〉環境整備

I	計画・ねらい	子どもが自分で選択して遊ぶ場所・遊ぶものを決めることが出来る環境を整備する。
	実践予定内容	環境整備を分担し、月毎に振り返り・更新を行う。また子どもたちの発達や、年間を見通した計画的な更新を継続する。
2	計画・ねらい	生き物や植物が育つ力を持った園庭作り。
	実践予定内容	落ち葉やたい肥を子どもたちと一緒にすき込み、植物が育ち虫が集まる園庭を目指す。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
I	長椅子(4台)	幼児保育室	毎日
2	おままごと机(I台)	ひえ組保育室	毎日
3	ヤギ小屋	園庭	毎日
4	飼育ケース台	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

I	防災	緊急時における対応について「緊急時対応マニュアル」に従い、全スタッフが対応を理解し、それぞれが役割を実行できるように訓練する。 非常災害に備えて消火設備等の点検をするとともに年間防災計画に沿って訓練を実施し、避難方法や関係機関・団体への通報及び連絡体制を確認する。また、それらを定期的に保護者へ周知する。特性ごとの災害対応についても理解しておく。
2	ケガ事故防止	不必要なケガや事故を防止するために、室内や屋外のハザードマップの作成と定期的な見直しを行う。他園で起きたものも含め、ヒヤリハットやインシデント、事故記録簿をスタッフ間で共有し改善策を出す。
3	防犯	外部からの不審者の侵入など、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所としての防犯マニュアルを定期的に確認するとともに関係機関、団体と

		連携して見守り活動や防犯にかかわる安全確保への取り組みを行う。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグに対しての正しい知識を身につけ、注意報発令の把握に努める。発生時には、危機管理マニュアルに則って対応し行政判断を仰ぐ。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

種類）中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

1	情報の発信	インターネットやSNSを活用して、ボランティアや実習を受け入れていることの情報を発信する ボランティアや実習の依頼元となる学校などを調べ、連携する準備を行う
2	受け入れ	スタッフの受け入れ体制を整え、準備を行う

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月17日	18:00～20:00	①園内研修「保育を嫌いになった時の処方箋」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
5月15日	18:00～20:00	①園内研修「不適切保育～なぜ起きる、どう防ぐ～」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施

6月19日	18:00～20:00	①園内研修「見守る保育と放任は大間違え」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有 ⑤水遊びのリスクマネジメント研修	リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施 プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。
7月17日	18:00～20:00	①園内研修「すべての保育者に見てほしい「人権」」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
8月21日	18:00～20:00	① 園内研修「食育の基本」「食べる、食べないの境界線」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
9月18日	18:00～20:00	①園内研修「子どもの心の育ちと保育者の言葉」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
10月16日	18:00～20:00	①園内研修「子どものケガには意味がある」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施

11月20日	18:00～20:00	①園内研修「気になる子への視点」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
12月18日	18:00～20:00	①園内研修「インクルーシブ保育①」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
1月22日	18:00～20:00	①園内研修「インクルーシブ保育②」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
2月19日	18:00～20:00	① 策定会議一回目	今年度の課題をもとに次年度の園 目標、方向性を決定し、行事のあ りかたについて話し合う。
3月19日	18:00～20:00	① 策定会議二回目	今年度の課題をもとに次年度の次 年度の行事を具体的に決める。 く。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得た上で出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。また積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：西つつじヶ丘児童遊園にて　　集客目標：50名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・地域との連携を積極的に行い、多様な年齢層との交流の中で人との繋がりを大切にしていく。「物おじせず、誰とでも目を見て話が出来る子ども」を育む。

	・お年寄りを大切にする優しい心を育む
異年齢交流	小学校、中学校、近隣保育園との交流
地域拠点活動	どろんこ祭り 子育て支援事業「ちきんえっぐ」 青空保育・地域に向けた子育てスキル講座

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

幼保小連絡会に参加し、子どもたちが小学校へ安心して就学できるよう、アプローチカリキュラムと スタートカリキュラムを共有しながら積極な情報交換や意見交換を行う 。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を５月１日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	滝坂小学校　1年	5名予定	滝坂小学校	子ども間交流
10月頃	上ノ原小学校　1年	5名予定	上ノ原小校庭	子ども間交流
２月頃	緑ヶ丘小学校、滝坂小学校	5名予定	緑ヶ丘小学校校庭、 1年生交流	子ども間交流
2月頃	滝坂小学校　1年	２名予定	保幼小連携	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するとい

うことが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適正、特性を踏まえ、提供するサービスの適切な支援内容等について検討し作成する。
提示の2ヶ月前に保護者にモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズなどについて適切に把握。1ヶ月前に児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達を捉え、適切な支援を考える。6ヶ月に一度以上個別支援計画の作成を行うが、子どもの状態や家庭状況などの変化に合わせて支援の見直しをする場合がある。また、個別指導担当者が支援計画を作成し、児童発達支援管理責任者が確認して提示する。

所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加える。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：6名予定）

通所している子どもへの支援の妥当性をケース会議にて、さまざまな職種のスタッフより検討を行っていく。つむぎで見せる姿だけではなく、家庭、所属園、つむぎそれぞれの場所での様子を踏まえて子どもにとって最善の支援を考えていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートおよび電話などで進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行う。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：40名（月間）
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00　　集客目標：10名（月間）
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名（月間）
自然食堂…親子ランチ交流	第二（水）10:00～12:00　　集客目標：30名（月間）

どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	第三（水）10:00～12:00　　集客目標：20名（月間）
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：西つつじヶ丘公園にて開催　集客目標：10名（月間）

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年7月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１７時００分
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年8月に利用者アンケートを実施し、２０２６年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	インクルーシブ保育の向上を目指す。異年齢で生活しているが各年齢の発達、子どもの興味、乳児と幼児の遊びの保障を考えた上で、現場での意見交換を活発に行いよりよい環境作りをしていく。
	振り返り	日々の保育・支援において、インクルーシブ保育が少しずつ進歩・洗練されてきた。現場でつむぎ・保育園スタッフの分け隔てなく意見交換することでより良い環境設定を考えることができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】＝定着の年（にんげん力UP）
	重点施策	ゾーン保育、チーム保育の定着を目指す。子どもたちが一緒に暮らし、大きな家の兄弟姉妹のように関わっていく。園全体を自由に行き来し、自らが遊びを選び、没頭して遊べる環境を保育者が整える
２０２６年	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】＝充実の年（にんげん力UP）

度	重点施策	子どもが主体的にやりたいことを提案し、実現に向け考える力を育む。 また大人はそっと子どもたちに寄り添える環境を用意する。
２０２７年度	目指す姿	当たり前ににんげん力を育ちあえる併設園
	重点施策	異年齢・インクルージョンが当たり前にできている環境下にて、どろんこ会が大切にしている日課・基本活動を通して６つの力を子ども同士で育ちあえる環境づくりを行う。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム 施設長　増田 義之

２０２５年度　発達支援つむぎ 宮下ルーム
事業計画書

１．基本方針

【原点回帰～一人ひとりにあった支援をみんなで行い、様々な経験をする～】

・法人が掲げる6つの姿を基本に、様々な体験を通して、心身ともに健康的に、のびのびと過ごせるような支援を、スタッフ一同で目指していく。
・混ざり合う保育を目指し、昨年度は宮下として一緒に考えることの大切さに気付くことが出来た。その一歩を大切にし、更に前進したインクルーシブ保育を目指していく。
・併設園としての強みを、スタッフみんなで考え、理解して、自信を持って進められるチームになる。

〇併設園として、一緒に活動していく中で、様々な体験を通し、自分でやりたいことを選び、のびのびと楽しむ。
・平日の活動は、マンスリー利用とし、宮下どろんこ保育園と生活や活動を一緒にしていく。その中で、法人が大切にしている日課や6つの姿、労働も体験し、出来ることを増やしていく。
・道具の使い方や、危険なものとの距離感、友達の存在を知り、たくさんの経験の中からやりたいことを自分で選び、のびのびと楽しめるようにする。

〇宮下として、混ざり合う保育を目指していく中で、今何が出来るのかを話し合い、学び合っていく。
・併設園として、園・つむぎスタッフ分け隔てなく、一緒に子どもについて語り合えるチームを作っていく。
・宮下として、今できること、出来ていないことを話し合い、混ざり合うことを目指して、一丸となって学び合っていく。

〇子ども一人ひとりと向き合い、一人ひとりを理解する。
・一人ひとりとの信頼関係や愛着関係を大切に築いていきながら、毎日を安心してのびのびと過ごせるようにする。
・養護面を大切にしていきながら、一人ひとりの今の成長をとらえ、日々を振り返り、支援をしていく。
・

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	意識的に「養護面」のねらい、及び内容を理解するとともに、子ども一人ひとりに最善の利益を保障していく。
	実践予定内容	・児童発達支援の提供すべき支援として、保育指針の「養護」のねらい及び内容を理解し、大切にしながら、一人ひとりの子どもの健康状態や発育及び、発達状態を的確に把握していく。 ・一人ひとりの欲求を的確に満たし、応答的な触れ合いや言葉がけを行っていく。また、子どもの気持ちの受容し、共感しながら、継続的な信頼関係を築いていく。

2	計画・ねらい	大人が決めてしまうのでなく、子どもが自分で活動を選び、生きる力を身に着けていく。
	実践予定内容	・大人が壁になってしまう事の無いよう、一定の距離を取って見守り、子どもが自ら経験を選び取れるようにしていく。その中で、危険なものとの距離の取り方を学び、生きる力を身に着けていけるようにする。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	日ごろの様子を丁寧に伝え、保護者との信頼関係を築き、相談しやすい環境を作っていく。
	実践予定内容	・法人の理念を丁寧に伝えていきながら、保護者に寄り添い、一人ひとりの成長を一緒に喜び共感し合いながら、信頼関係を築いていく。 ・保護者が安心して相談しやすい環境設定を工夫し、丁寧に対応していく。
2	計画・ねらい	保育者同士が交流できる場を作り、情報交換をしながら、地域交流にもつなげていく。
	実践予定内容	・定期的に保護者同士の交流会や、親子イベントを行い、情報交換が出来るような環境を作っていく。 ・情報交換の場から、地域の方との交流を広げていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保護者の交流会を通じて、地域の方も参加できるようなイベントを開催していく。
	実践予定内容	保護者交流会を行っていく中で、相談できる場としての働きかけをし、地域交流が出来るようなイベントを開催していく。
2	計画・ねらい	他事業所との連携を図り、積極的に見学に行く。
	実践予定内容	園児が併用している園との連携を密に行いながら、様子を共有し、必要な支援が適切に行えるようにしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	併設園として、つむぎについて(運営及び仕組み等)の理解を深めていくとともに、つむぎのガイドラインの読み解きをしていく。
	実践予定内容	園スタッフとのディスカッションをしていく中で、混ざり合う保育、支援についての学びを深めていく。
2	計画・ねらい	報告・連絡・相談の徹底と共に、責任を持って確認をする。
	実践予定内容	スタッフ間の連携の基本となる報・連・相を徹底していくと共に、「伝えたはず、伝えたつもり」にはならず、最後まで後追いをしていく。また、発信するだけではなく、自ら考えて行動し、必要な情報を積極的に取りに行くことで、スタッフ同士の円滑な連携、業務の効率化と質の向上につなげる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	給食残差減少に向けて
	実践予定内容	給食残差を昨年比７０％に減少させていく。そのために、日々の畑仕事を通じて食材の加工を知り、味わうなど食に興味関心を持ち、食べたくなるような環境つくりや言葉がけを園全体の取り組みとして行っていく。
2	計画・ねらい	日々の畑仕事を通じて、野菜の成長を喜び、収穫まで見届ける。
	実践予定内容	園庭の畑で育てている作物の世話を日課として行っている。日頃食べている食物がどのように育ち、私たちの食卓に運ばれてくるのか、その過程や苦労を知ることで、食べ物へのありがたさを感じる。

〈6〉インクルーシブ保育の実現

1	計画・ねらい	混ざり合う保育について、語り合う。
	実践予定内容	自分が思うインクルーシブ保育について、スタッフと語り合い、出来ることを見つけていくことで、同じねらいを持った混ざり合う保育を行っていく。
2	計画・ねらい	スタッフ全体で、子ども一人ひとりを理解し、同じ目標をもって関わっていくことで、全体で見守っていくチームになる。
	実践予定内容	一人ひとりの発達段階や、成長の目標を共有し合い、ケース会議を改善していきながら、宮下のスタッフ全員で、同じ目標をもって見守っていけるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～17時30分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士1名
機能訓練担当スタッフ１名（作業療法士１名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・保育園と合同で行う。つむぎ及び保育園各クラスの様子、行事進捗、園内研修
給食運営会議	月1回	食育活動実施報告、喫食状況確認、配膳方法
事故防止委員会	月1回	事故のケーススタディ、改善策、各月のヒヤリハット、インシデント分析
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ルーム会議	月1回	利用児の様子、行事進捗、園内研修
ケース会議	適宜	情報共有、支援内容の検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	マニュアル、レシピの見直し、ルームの取り組み発表、アレルギー食検討
保健会議	年4回	マニュアルの見直し、感染症対策、衛生管理
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行、どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑・プランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、調整
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画、調整

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・保育者との信頼関係・愛着関係を丁寧に築いていき、安心してのびのびと過ごせるようにする。 ・子ども一人ひとりの特性をしっかり捉え。スタッフ間で共有し、同じ目標をもって支援していく。
	下半期	・築いてきた信頼関係の下で、保育者に見守られながら、好きな遊びを自分で選んで、楽しめるようにする。 ・自分でできることは、自ら進んでやってみようとする気持ちを持ち、自信を持って取り組めるようにしていく。

ビジター (土曜日利用)	随時	・一人ひとりの特性を、保育者全体で共有していき、同じねらいをもって支援していく。 ・一人ひとりの個性を理解し、大切にした支援をしていく。
事業所内相談支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
保護者面談 発達相談	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
関係機関との連携	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第Ｉ回・第２回」にて決定し、別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

Ｉ	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、薪や炭を利用した調理方法を体験し、直火ならではの魅力を感じる。日頃から焚火を行い、自然の２面性を知ることで、火の取り扱いを安全に身に付けていく
２	計画・ねらい	お米を知る
	実践予定内容	日本人に慣れ親しんでいるお米について学んでいく。知識だけでなく、実際に釜や飯盒、災害時の米の炊き方等を子どもたちと学んだり食べ比べたりしながら違いを知る。また、園庭の田んぼを活用し田植えや稲刈りを通して労働の大変さや食材のありがたみを知る

〈4〉保健計画

歯科検診	年２回（６月・ＩＩ月）
スタッフ健康診断	年Ｉ回
スタッフ検便	全スタッフ月Ｉ回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 Ｉ月頃･･･インフルエンザ・胃腸炎

エピペン使用できるスタッフ	本日現在３名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ３名については５月までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年２回／6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	「やりたいことを止めない保育」を目指した環境作りをする。
	実践予定内容	使うものを制限する、危険だからやらせないのではなく、子ども自ら経験を選び取り、危険であることも学びながら、生きていく力が身に着けられるような環境を作る。
2	計画・ねらい	一人ひとりの特性に合わせた、落ち着ける場所を工夫していく。
	実践予定内容	気持ちの切り替えが出来るよう、落ち着いた場所を考え、子どもの気持ちに寄り添って、安心して過ごせるようにしていく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	光化学スモッグ	市が発信する光化学スモッグ情報を随時共有するとともに、園外で活動についてはマニュアルに基づいた対応を行っていく。 園内についても窓を閉め、子ども達の健康状況について留意する。
2	水辺のリスクマネジメント	川遊びの資格を有するスタッフが中心となり、川遊びやプール遊びの際の事故防止についての研修をおこなう。プール活動時期においては事故防止だけでなく事故発生時のシミュレーションを行い有事に備える。
3	応急救命	怪我の応急手当や心肺蘇生方法について学ぶ。また、スタッフも積極的に上級救命等の講習へ参加し資格を取得していく。
4	危険生物対策	危険生物や危険植物についての基礎知識を学び、戸外活動時におけるリスクを未然に防ぐ。また、危険生物に対する応急手当についても学ぶ。
5	防犯対策	不審者訓練実施や警察との連携を図る。 消防計画に基づいた訓練の実施、振り返りをおこなう。
6	怪我防止	ヒヤリハット、ハザードマップの集計分析を行う。他園の記録も活用することで、自園で発生しうる可能性がある事故を未然に防いでいく。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2025年度 施設内研修計画

毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施。

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解・ハザードマップの留意点 ③ケース会議について	子どもの目線、視点を実際に体験することで日々の保育やハザードマップ作製に生かす

5月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リズム体操研修	ピアノの弾き方や作業療法士の目線から、リズム体操における体の使い方や効果について学ぶ
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント ③ 応急手当について	プールの事故防止についてディスカッションを行うと共に、夏に発生しやすい事例をもとに応急手当てについても学んでいく。
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード記録	子どもの日常を切り取り、子どもの感性や保育者の気づきの視点を共有し学びあう
8月29日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 支援計画について	支援計画の重要性や立て方、注意点など踏まえ、改めて発達支援について考える。
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学関係について	学校で求められる必要な力を考え、就学に向けて今できることを改めて考える。
10月31日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートについて ③ 虐待防止研修 ④ SIDS予防研修	利用者アンケートの結果をもとに改善点を洗い出し、保育の質や保護者満足度向上につなげていく。 虐待防止、SIDS事故防止について話し合い意識を高めていく。
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 質の高い戸外活動・散歩	目的地に向けて歩いていくだけでなく、ねらいを明確に持ち散歩先でも質の高い活動ができるよう、野外での活動等を学んでいく。
12月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症における基礎知識 ③ 嘔吐発生時におけるロールプレイング	感染症における基礎知識を身に付けると共にロールプレイングを通して、冬の感染症拡大に備える。
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間の振り返り実施	年度の振り返りを行い、残り２か月間で課題解決を行いながら、次年度へ繋げていく。
2月20日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 第1回策定会議	次年度に向けての計画を行う。
3月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② 第二回策定会議	次年度に向けての計画を行う。

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に根付いた園であることから、今後も近隣住民の方や、学校、老人ホーム施設等の交流を積極的に行っていく。地域を見守ると同時に見守られる園として近隣地域と密に連携を取りながら運営を行っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　目標：４００名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：宮下公園にて　　目標：12名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事への参加、高齢者施設みのりへの訪問交流、 小中高生の体験学習受け入れ

異年齢交流	散歩先で小学生との交流、青空保育での交流等
地域拠点活動	青空保育、子育て相談、ちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校に隣接している環境を最大限に生かし、小学校教諭との意見交換を積極的に行う。保育者は学習指導要領やスタートアップカリキュラムを理解したうえで、小学校への接続が円滑に行えるように意識していく。また、必要に応じて、就学支援相談を行う。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月7日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月 ３０日	周南小学校 １年生	１９名予定	「小学校ってどんなところ?」校舎内探検　1回目	子ども間交流
10月 ２４日	周南小学校 1年生	１９名予定	「小学校ってどんなところ?」校舎内探検　２回目	子ども間交流
10月 ２５日	周南小学校 校庭	１９名予定	授業見学	スタッフ間交流 就学支援相談
2月 １４日	周南小学校	１９名予定	児童要録を基に園児の引継ぎを行う予定	(教スタッフ保育士間連携) 就学支援シートの作成

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

併設園として、混ざり合った保育をしていく上で、園スタッフと一緒に策定会議を行い、個別支援計画を立案し、具体的な対応を共有していく。

保育所保育指針の養護のねらい及び、内容を理解するとともに、一人ひとりに寄り添った支援を心掛け、必要に応じて見直しながら、作成を行っていく。
児発管を中心に、保護者との面談の重視し、子どもの成長発達を同じ視点で得られるようにしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：10名予定）

支援計画の段階で一緒に立てているので、同じ目標であることを前提に、同じ目線で支援や関わり方ができるよう、ケース会議の在り方も見直し共有していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体と連携を図り、就学相談の流れに沿って進めていく。早期の段階で保護者の相談を受けながら、子どもたちが安心して就学できるように、適切な援助をしていく。就学先や放課後デイサービス事業所などにしっかりとした引継ぎを行い、支援が途切れないようにする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：１２名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　目標：１２０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　目標：１２０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：宮下公園にて開催　目標：３６名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年１０月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：１３時００分
自己評価終了予定時刻：１４時００分
自己評価実施予定者：羽澤佑太・佐藤宏美・髙橋美桜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・園、つむぎ両スタッフで、子どもについて語り合い、一人ひとりにあった関りを考える。 ・つむぎのガイドラインについて、読み解きをしていく。 ・保育者が付きっきりにならず、一定の距離から見守る。
	振り返り	・園、つむぎ両スタッフで、子どもについて語り合う時間が多く持てた。混ざり合う保育を目指した思いを感じる反面、目指していくねらいや目標の違いに悩む姿も多く見られた。 ・付きっきりにならない保育を実現していく中で、子どもがのびのびと好きな遊びを楽しみ、無理なく集団に入って活動する様子が見られるようになった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・園との併用、混ざり合う保育をしていく中で、スタッフ全体で一人ひとりを理解し、同じ目標をもって支援していく。 ・保育者が付きっきりにならず、一定の距離から見守る支援をする。
	重点施策	・支援計画の作成から、園スタッフと一緒に行っていくことで、同じ目標を持ち、園全体で見守っていく環境と関係性作りを大切にしていく。 ・子どもについて、語り合える現場作りをする。 ・子どもが自ら選んでのびのびと活動ができる支援をする。
2026年度	目指す姿	・園スタッフ全体で子どもたちを見守り、子どもたちが自分で選んだ活動がのびのびとできるようにしていく。 ・混ざり合う保育の中で、自分で出来ることを自分で行う。

	重点施策	・子どもたちが、いつでも自分でやってみたいものに関われるような支援を目指し、様々な体験を選び取れるようにしていく。 ・一人ひとりに合った、適切な支援について知り、同じ目線で見守ることが出来る。
2027年度	目指す姿	・子どもが、保育者に見守られていることで、安心してのびのびと好きな活動ができる施設になる。
	重点施策	・保育者が全体を見る目を持つことで、子ども同士が自分たちで考えて助け合える保育園となり、自分の足で人生を歩むための支援ができる施設になる。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 宮下ルーム 施設長　佐藤　宏美

２０２５年度　子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園
事業計画書

Ⅰ．基本方針

「ホンモノの経験」を大切にし、子どもたちが活き活きと過ごしながら「心づくり」や「身体づくり」を行い、自分自身で歩んでいける人間力を育んでいく。毎日、戸外で畑活動や生き物の世話を行い、免疫力を高め健康な身体を作り、シニア交流や商店街ツアーを通じて地域に溶け込み、近隣施設との定期的な交流を継続させ、子ども同士の関わりを深め、仲間づくりを行っていく。活動を通じて危険なものとの距離の取り方を学び、自分で自分の命を守れる子どもたちを育んでいく。一緒に活動する大人も、自身の人間力向上に努める。また、施設を訪れるすべての方に快適な空間を感じてもらえるよう、美観を意識し、自主的に行動するチームとなる。

センターの支援方針や目標は、全スタッフで意見を交換しながら決定し、子どもの最善の利益を守りつつ、自己選択・自己決定できる環境を整えていく。

＜支援方針＞
個々に寄り添い、思いを受け止め、互いを思いやり、世界を広げる

＜支援目標＞
心づくり・身体づくり・仲間づくり
好きからやりたい、実行実践する力～ホンモノの経験へ～

安心できる環境の中で、自分の好きなことを見つけ、大人や仲間と共に試行錯誤を繰り返しながら自己選択・自己決定する力を育む。自身の気持ちを十分に受け止めてもらう心地よさを感じながら、自分だけの思いではなく、相手にも思いを寄せながら過ごせるようになる。さまざまな実体験を通じて「しなければならないこと」を自覚し、実践することで生活力を身につけ、危険なものとの距離の取り方を学び、社会の一員として生きてく力を育てる。

「命をいただく活動の実践」では、畑活動の充実を図り、収穫した野菜を使ったおやつ作りや食育活動を行い、労働から得られる充実感を味わう。また、肉や魚をさばいて食す経験を先ずは大人がやって見せ、子どもたちと共に向き合う機会とする。さらに、地域連携を充実させ、中核施設となっていくために、「自立運営」を目指し、地域で必要とされる施設の運営に努めていく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得と仲間づくり ・しなければならないことを実践する力を身につけ、相談や協力を通じて仲間を得る喜びを知る
	実践予定内容	自分のことを自分で行う力を獲得し、共に過ごす仲間と楽しみながら生活することを目指す
2	計画・ねらい	地域交流 ・近隣施設との交流を継続し、さまざまな場所での活動を充実させる

	実践予定内容	近隣園との交流や移動保育を実施し、つむぎ以外の環境を知る機会を設け、子どもたちの世界を広げる
3	計画・ねらい	労働から食育活動の充実 ・土に触れ、健康な身体を育み、食生活を豊かにする
	実践予定内容	生き物の世話、畑仕事、堆肥作りなどの労働経験を通じて免疫力を高め、自然の恵みに恩恵を感じながら「食」や「生」への意識を深める

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育て相談・地域講座の開催 ・保護者同士が繋がる場をつくり、相談しながら学び合える施設を目指す
	実践予定内容	継続して地域講座を開催し、センターを利用する保護者同士が顔見知りになり、相談し合える場をつくる
2	計画・ねらい	安心して過ごせる施設づくり ・不要なものを整理し、気持ちの良い環境を提供する
	実践予定内容	清掃が行き届いており、掲示物などが分かりやすく配置されていて、いつ来ても居心地よく過ごせる空間になっている施設をつくる
3	計画・ねらい	充実したフィードバック ・丁寧な対応を心がけ、子どもの成長を相談し合える関係づくり
	実践予定内容	家族支援やモニタリングを含め、日々の子どもの様子を分かりやすく伝えるために、大人の学びの場を充実させ、より良い支援につなげる

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域講座の開催 ・近隣施設や地域の方々に、つむぎでの取り組みを発信する
	実践予定内容	毎月「つむぎdeほっとカフェ」を開催し、地域参加型の講座を開催する 学びたいことや知りたい情報などを発信するとともに、保護者同士が繋がり合える場をつくる
2	計画・ねらい	青空保育　～地域に開かれた子育て支援～ ・青空保育を通じて、近隣施設や地域の方々につむぎを知ってもらう
	実践予定内容	毎月の青空保育を通じて、地域の方々や近隣施設との繋がりを深め、気軽に訪れ、相談できる身近な施設を目指す
3	計画・ねらい	他園との交流 ・近隣施設、法人内施設、学校との連携を強化し、子ども同士の交流を促進する
	実践予定内容	近隣施設や法人内施設との交流を継続し、同年代の仲間づくりや異年齢交流の機会を増やす 地域の中核施設となるため、地域連携を担っていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	地域講座 ・保護者、関係機関、地域に向けた講座を開催する
	実践予定内容	「つむぎdeほっとカフェ」を通じて地域講座を開催し、外部発信を行うことで、自己研鑽や接遇スキルの向上を図り、講座の質を高める
2	計画・ねらい	自立運営 ・全スタッフが内部監査項目を理解し、実践できるようにする
	実践予定内容	業務内容を見える化し、個々が責任をもって向き合えるチームになり、より良い支援、質の向上につなげる
3	計画・ねらい	地域連携の充実 ・近隣施設、法人内施設、小学校等への訪問実施
	実践予定内容	保育所等訪問支援や近隣施設交流を通じて連携を図り、全スタッフが関係施設を知っていく。現状を知り、より良い支援に努める

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自己選択できる環境づくり ・自己選択、自己決定、自己実現を育む環境整備
	実践予定内容	子どもたちが選び取れる環境構成を行い、毎月室内外の環境構成の見直しを行う
2	計画・ねらい	「ホンモノの経験」を通して生活力の向上 ・戸外・室内活動を通してホンモノに触れ、危険なものとの距離を知っていく
	実践予定内容	畑仕事や散歩、戸外活動を繰り返す中で季節ごとの変化を感じていく 好きなことや得意なことを自由に表現できる環境づくりを行っていく
3	計画・ねらい	命をいただく活動の実践 ・肉や魚がどのように食材になるのかを知る体験
	実践予定内容	毎日の畑仕事や給食を通じて食べ物に興味を持っていく支援を実践する 肉や魚を大人がさばく様子を見せ、子どもたちと共に食に向かい合う

〈6〉地域に開かれた施設づくり

1	計画・ねらい	地域交流・移動保育 ・地域に出かけ仲間をつくり、自身の世界を広げていく
	実践予定内容	近隣園との定期的な交流を図り、地域の仲間づくりの場となっていく 法人内施設を活用し、つむぎ以外の場所での活動経験を重ねる
2	計画・ねらい	地域講座・勉強会の開催 ・保護者や近隣施設と共に地域課題を学びあう
	実践予定内容	保護者や関係機関を招き、地域課題を吸い上げ、学びを深める場に努めていく
3	計画・ねらい	実体験の充実

		・保護者や地域と共に体験活動を実践していく
	実践予定内容	年間計画に沿って体験活動を実施する。保護者や地域への発信を行い、一緒に活動できる機会を提供する

〈7〉生活力の向上と危険なものとの距離の取り方を知る

1	計画・ねらい	生活力の体得 ・試行錯誤を繰り返し自己選択自己決定する力を育む
	実践予定内容	自身で活動を選び取り、考え、学び、仲間を得て自己実現する場をとなるように、人的物的環境を整える
2	計画・ねらい	危険なものとの距離を知る ・実体験から自分の身を守る力を獲得する
	実践予定内容	活動の中で道具の使い方や火の扱いなどを体験し、自身の身体の使い方や知識を学び、自分で自分の身を守る方法を知っていく
3	計画・ねらい	食育活動の充実 ・労働から収穫の喜びを得て自分たちで調理し食べる
	実践予定内容	田んぼや畑活動を通して自身の身体を使って作物を育て、生長や収穫を体験し、食の広がりにつなげる

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　４０人／日
放課後等デイサービス　２０人／日

〈2〉開所時間

9時００分～18時００分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者2名
事務スタッフ１名
相談支援員２名
用務１名

保育士10名

機能訓練担当スタッフ6名（言語聴覚士3名、作業療法士2名、理学療法士1名）
心理士1名
児童指導員３名
社会福祉士３名
栄養士２名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	食に関する子どもの共有、献立検討、代案の抽出、残渣などの検証、畑仕事との連携
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証（自園、他園）、改善に向けての検討
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	情報共有、支援計画、活動の計画・検討、見直し
朝礼・終礼	毎日	子どもの様子、活動のねらい、内容、ヒヤリハット、インシデント、その他連絡事項の共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表

併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	給食改善検討・給食計画振り返り・実践報告等給食改善検討・
保健会議	年4回	衛生・感染症マニュアルの確認・検討、実践報告等
子育ての質を上げる会議	月1回	情報共有、実践報告、研修等

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導 給食保健委員会（毎月）
安全対策係 （生き物・環境整備・畑）	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起、生き物の飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案、畑仕事の計画的な活動立案 事故防止委員会（毎月） インシデント、ヒヤリハット、事故記録簿（自園・他園）の検証、改善
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者 （給食関係全般）	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
地域交流係	見学、実習生、OJT等の受け入れ、青空保育、つむぎカフェ等の地域交流、図書の管理、勝手かごの管理、掲示物管理
写真係	どろんこだより（毎月）、写真販売（毎月）

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	計画立案、開催、保護者、地域へのアナウンス
体験学習係	策定会議に基づく体験活動の開催、保護者、地域へのアナウンス

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー (2歳児)	目標	・つむぎの環境を知る、慣れる ・安心できる環境の中で、大人や友だちと関わる心地よさや楽しさを感じる
	ねらい	・好きなことを見つけ、大人との関係を深めていく ・保護者と共に成長を楽しむ
マンスリー （３歳児）	目標	・つむぎの生活を知り、友だちと過ごす心地よさを経験していく
	ねらい	・集団生活の中で、心地よいと感じる経験を積んでいく ・自分で考え、自分で決めて、自分の思いを表現する
マンスリー （4,5歳児）	目標	・友だちとの関りを十分に楽しみ、意欲的に遊びや日課に取り組んでいく
	ねらい	・さまざまな人と関わる中で、自分や相手の気持ちに気付いていく ・自分で考え、仲間と決めて、楽しい時間を共有する
グループ （児発）	目標	・自分の気持ちや考えが伝わる喜びから、集団で安心して過ごす心地よさを感じていく
	ねらい	・少人数でさまざまな経験を積み重ね、他者と活動していく面白さを感じていく ・自分の思いを表現し、相手の思いに気付き、輪を広げていく・
平日グループ （放デイ）	目標	安心できる環境の中で、自分の気持ちに向き合い自分自身を認める力と他者を思いやる力を育んでいく
	ねらい	・集団の中で過ごすことで、自分自身の気持ちに向き合い自分自身を認める力、他者を思いやる力を育んでいく
土曜日グループ （放デイ）	目標	小集団の中で他者とのやり取りを楽しみ、葛藤を調整する力を育む
	ねらい	・活動の中で、自分のやりたいことを表現するとともに他者の気持ちに触れる経験を積んでいく ・他者と協力して活動する心地よさを知っていく
個別支援	目標	自分自身を理解し、認める力を育む

（放デイ）	ねらい	・実体験を通して日常生活のコミュニケーション力や生活につながる経験を積み重ねていく
保育所等訪問支援（児発・放デイ）	通年	・定期的な訪問を実施し、子どもや保護者が安心して過ごせるように所属先、家庭、つむぎが連携を図り支援を共有していく ・それぞれの所属園から小学校への引継ぎが円滑に行えるように、連携を図っていく
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	大人と一緒に食を楽しむ環境づくり ・温かく楽しい雰囲気で安心して食べられる場を作る
	実践予定内容	子どもたちの摂食状況を把握しながら、食べることが訓練、苦痛にならないように、食事の場を楽しめる空間を作っていく
2	計画・ねらい	縁側給食、バイキング給食の充実 ・季節を感じながら好きな人と好きなものを自分でよそって食す経験
	実践予定内容	充実した戸外活動の後に空腹に気づき、食べたいという気持ちを育む バイキング給食を通して盛り付けや配膳などの経験を積み、食べる量を知ることや後片付けなどを行う機会を作っていく
3	計画・ねらい	畑の収穫物を味わう ・畑仕事を通して日々育っていく過程を知り、収穫野菜を食べてみる
	実践予定内容	毎日の畑仕事を通して作物を育てていく経験を重ねる 自分たちが育てた野菜をどのようにして食べるかを考えたり調理工程を行ったりしながら、食への興味関心を広げていく

〈4〉保健計画

児童健康診断	年２回（６月・１２月） 児発マンスリー利用児対象
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	年間保健計画に基づき保健指導を行う ・手洗い、うがい、体力づくり、食育活動、湿温度等環境管理
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス、インフルエンザ 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃･･･手足口病、流行性結膜炎 11～2月頃･･･流行性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･1名より預かり済み／薬ポケットにて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在30名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在30名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	関係機関からのお知らせの掲示 受け入れ時の健康観察、うがい、手洗い、消毒、換気の徹底

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	遊び込める環境づくり ・自身でさまざまなものに主体的に関わり、自己選択・自己決定・自己実現につながる環境整備
	実践予定内容	子どもたちの成長発達を中心に、毎月室内外の環境構成の見直しを行う。 日々の振り返りを基に継続や変更等を検討し、ハザードの見直しを行う
2	計画・ねらい	ホンモノの経験 ・戸外活動の充実を図り、実体験から生きる力の獲得を図る
	実践予定内容	畑仕事や散歩、戸外活動を繰り返し季節ごとの変化を五感で感じていく。 好きなことや得意なことを自由に表現できる環境づくりを行っていく。
3	計画・ねらい	清潔で快適な環境づくり ・必要なものが必要な場所にあり整理整頓が行き届いた環境
	実践予定内容	動線を確保し安心して活動に取り組めるように環境を整えていく。 施設を利用するすべての人が使いやすい場所になっていく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	配膳台	1階室内	毎日

2	机	1階室内	毎日
3	下駄箱	玄関	毎日
4	パーテーション	外	毎日
5	荷物棚	2階室内	毎日
6	ベンチ	園庭	毎日
7	虫ハウス	園庭	毎日
8	一本橋	園庭	毎日
9	ヤギ小屋	園庭	毎日
10	黒板	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	設備点検チェック	年4回/4，7，10，1月の２５日
2	事故防止チェック	年4回/4，7，10，1月の２５日
3	防災自主点検 備蓄品点検	年２回/6，12月の25日
4	避難訓練　（避難・消火）	毎月１回/１５日
5	不審者侵入訓練	年２回/6，12月の25日
6	事故防止委員会	毎月１回/15日
7	光化学スモッグ	さいたま市からの発令共有

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

オリエンテーションの充実を図り、学生が安心して学べる環境を整え積極的に受け入れていく。他職種が存在する利点を生かし、それぞれの視点から実習生を支え次世代を担う学生が学びを深めていかれる環境になっていく。

異世代のボランティアを受け入れることで様々な観点からの思いを受け入れ、地域に開かれた施設となっていくことを目指していく。

1	保育実習	保育士資格取得のため、各学校からの受け入れ
2	言語聴覚士実習	言語聴覚士資格取得のため、各学校からの受け入れ
3	ボランティア	地域ボランティア、社会科体験学習の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

学びのアウトプットを充実するために、一人一人が主体的に考え、学び、動いていく自立した集団となっていく。園長大学や保育士大学を活用し必要な知識を得ていくと共に、自らの考えを自分のことばで発信できる施設なっていく。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待研修 ③ 重説、契約内容、各業務研修	・子どもの人権保障、虐待に対する意識合わせ ・つむぎ業務内容の園内研修
5月16日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル研修 ③ 専門士研修（保育士）	・業務の見直し、改善検討 ・専門士から学ぶ ・
6月20日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 水防訓練・BCPについて学ぶ ③ 専門士研修（相談支援員）	・避難訓練のあり方、大規模災害への対策、水の危険性を学ぶ ・テーマに沿って研修実施
7月18日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブを学ぶ ③ 専門士研修（心理士）	・異年齢児が交じり合って生活すること、地域連携について学ぶ ・テーマに沿って研修実施
8月15日	17:00～19:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇研修 ③ 専門士研修 （児童指導員）	・環境整備、接遇について学ぶ ・テーマに沿って研修実施
9月19日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修	・毎月の避難訓練を振り返り、ロールプレイを実施、危機管理について

		③ 専門士研修（作業療法士）	学ぶ ・テーマに沿って研修実施
10月17日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待研修 ③ 利用者アンケートの分析	・子どもの人権、性教育について学ぶ ・アンケート結果の分析、改善検討
11月14日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成研修 ③ 専門士研修（言語聴覚士）	・活動、環境について学び、ディスカッション ・テーマに沿って研修実施
12月19日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度振り返り ③ 専門士研修（社会福祉士）	・今年度の振り返りから次年度の方針、目標検討 ・テーマに沿って研修実施
1月16日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度について	・自身の振り返り、次年度に向けての内容検討
2月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議①	・次年度事業計画 ・方針、目標に向かって年間計画作成
3月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議② ③ キックオフ	・次年度年間計画作成 ・畝づくり、環境整備 ・ロールプレイ研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉つむぎdeほっとカフェ（地域公開講座）の講師

スタッフ全員が講師となり自身の専門性を自分のことばで伝える地域講座を開催し、保護者や関係機関への発信を行う。スタッフひとり一人が自身の言葉で伝える機会を設けることで、学び続けるチームになっていく。朝礼終礼、センター会議を利用して互いの学びを検討し、知識の共有だけでなく接遇や美観についても切磋琢磨していかれる施設を目指していく。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

定期的な近隣施設との交流を継続する。商店街ツアーやシニア交流、青空保育やつむぎdeほっとカフェを充実させ地域に開かれた施設となっていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：300名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：美園台公園にて　　集客目標：100名
商店街ツアー	週1回　イオンスタイル、シャトレーゼ、駅前交番、郵便局、浦和美園駅、図書館、イオンモール浦和美園、フラワーショップ　オリオンなど
世代間交流	年間活動計画に沿って地域の方や家族を招き畑活動や伝承遊びを行う
異年齢交流	園庭解放、近隣施設との交流、移動保育
地域拠点活動	つむぎdeほっとカフェ（地域講座開催）

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育所等訪問支援の拡大を図り、小学校訪問を充実させていく。スタッフが実際の訪問を通して小学校の現状を知っていき、学びを深めていく機会とする。

施設公開を定期的に行い、近隣施設との交流を図る。幅広い関係機関に地域公開講座を周知し、情報共有を行い、小学校への接続が円滑に行えるように連携を強化する。

園庭解放や戸外活動を通して近隣施設との子ども間交流を行う。同年代の仲間づくりから施設を利用する入り口が広がり、地域に開かれた施設になっていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
通年	浦和美園小学校 支援学級　通常学級	2名予定	保育所等訪問支援 公開授業	スタッフ間交流
通年	大門小学校 支援学級　通常学級	2名予定	保育所等訪問支援 公開授業	スタッフ間交流
通年	美園北小学校 支援学級　通常学級	2名予定	保育所等訪問支援 公開授業	スタッフ間交流
通年	遍照浦和美園保育園	年長児	遍照浦和美園保育園 つむぎ浦和美園	子ども間交流 スタッフ間交流
通年	越谷どろんこ保育園	適宜	越谷どろんこ保育園	子ども間交流 スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

一人一人の状況に即した児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の個別支援計画を作成し提示する。保護者とのモニタリング、スタッフによる策定会議を計画的に行い、子どもの特性や成長に合わせた支援計画の作成に努め、子ども自身の生きる力、人間力が育まれるように内容の充実に努めていく。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：各担当）

定期的に会議を開催し子どもの状況の共有、保護者支援（サポート）支援内容の見直し等を行っていく。児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援が連携を図り、センター全体で子どもたちの状況を多角的に捉え、より良い支援につなげていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援が一体となって、子どもや保護者、関係する各機関を支えていく。進級時には潤いファイルや就学支援シートを活用し小学校への円滑な接続を行い、入学後は、保育所等訪問支援の継続や放課後等デイサービスの利用などを含め、小学校との連携を図っていく。児童発達支援、

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：60名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）9:00～18:00
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：美園台公園にて開催　集客目標：100名
つむぎdeほっとカフェ	月1回

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

実施時期未定だが、「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：8時30分
自己評価終了予定時刻：18時00分
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・自分を知り理解することから他者への意識を向けていく。 ・1つのことを一緒に行ったり、決まりを守ることを知ったりしながら共生していく力を育てていく。 ・定期的に子ども間交流を行い、同世代の仲間づくりにつなげていく。 ・商店街ツアーや日々の散歩を通して地域や社会で生活する上で必要な力を育んでいく。
	振り返り	・サークル活動を通じて自分の思いを伝えたり友だちの思いを知る機会を設けたり、言葉の表出が難しい場合も視覚的に伝えられる環境を用意した。年間計画に沿って子どもたちに体験させたい活動を実施し、個々に寄り添いながら集団で過ごす経験を重ねた。 ・定期的な子ども間交流、商店街ツアーやシニア交流の実施を通して地域との関わりが充実していた。同世代の仲間との交流を通して、挨拶や集団遊び等を体験する機会となった。継続して、他園交流、地域交流を実施し地域や社会で生活していく力を育む。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	・生活力の体得、日課の充実を図り、自分自身で考え、動き出せる力を育む。 ・地域交流を継続し、共に学び合える関係性を担う。 ・保育所等訪問支援や施設間交流を通して連携を図り、移行支援を円滑に行う。
	重点施策	・生きる力を身に付けていくための実体験を通して、大人が背中を見せながら共に成長を楽しむ。 ・複数園との交流を継続し、子ども同士の関わりを充実させ世界を広げていく。計画に沿って地域に出かけていき、地域に受け入れられながら子どもたちに必要な経験を充実させる。 ・小学校訪問を通しての情報共有や連携を強化し、見通しを持って生活していける基盤となる。
２０２６年度	目指す姿	・生きる力の充実を図り、実体験を通して自己実現を楽しめる集団になる。 ・公開講座を地域に拡大し学びを深め、地域の保護者や他施設の地域拠点となる。 ・質の向上を図り各事業が一体となって地域と連携し、親子が安心して生活していけるように支援する。
	重点施策	・毎日の活動を積み重ね、自己実現のための発信力や考察力を培い、自己選択自己決定する力を身に付ける。 ・定期講座の案内を近隣施設へ行い、地域課題を基に学び合える拠点となる。 ・センター間交流や地域の事業所との連携強化を図り、地域支援の質の向上を図る。

２０２７年度	目指す姿	・労働や必要な経験を重ねていき、毎日を楽しんで生活していく力を育む。 ・地域課題を抽出し近隣施設との連携を深めていき、スムーズな移行支援の担い手となる。 ・専門機関としての研修や育成体制を確立し、各事業の質の向上を図る。
	重点施策	・生活力の向上を目指し、しなければならないことを自覚し自分の仕事として取り組む。 ・移行支援の適切な時期を見極め、保育所等訪問支援や関係機関との連携を図る。 ・研修の機会を充実させ、各事業所に必要な学びを得てセンター全体への還元を図る。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：子ども発達支援つむぎ 浦和美園 施設長　橋本　千穂

２０２５年度　発達支援つむぎ 八山田ルーム 事業計画書

1．基本方針

保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインに則りどろんこ会グループの理念「にんげん力。育てます」「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を基盤に地域に根ざした児童発達支援事業所を目指す。
保育園と併設された児童発達支援事業所としてインクルージョンの実践、一人ひとりが受け止め、多様性を互いに認め合い、活かしあえるようなインクルーシブな保育を行う。また、日々の生活において守る支援・矯正する支援を終え、自分で経験を選択していける環境を用意し、生活の体得を目指す。

① 基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操、散歩9時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食の意味を理解し、一人ひとり丁寧に行う。
② 異年齢の関わりの中でホンモノの経験・体験をもとに他者との協働や感情のコントロールを繰り返し積み重ねていき、他者との思いや考えを共有する中で目標達成ができる環境を作る。
③ 「やってみたい」という気持ちを大切にして、自然・物・人・事・生活に積極的、意欲的に関り生きる力を身に付ける。
④ 畑仕事を通して、育てる事の喜びや大変さを知り、循環している事を大人も子どもも共に経験し学ぶ。
⑤ 開所5年目になり、現在よりも地域の方々とコミュニケーションを豊かにしていき、スタッフ一人ひとりが地域の一員である自覚を持ち、地域に根ざした事業所となるよう努める。
⑥ 日頃の挨拶や振る舞い気配りを大切にし、保護者、利用者、来訪者、誰が見ても綺麗な環境、気持ちの良い空間造りをしていき、地域に愛され選ばれる施設を目指す。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

法人が大切にしている日課、基本保育活動を理解し実践する。戸外活動や遊び、生活を通して多様な人との関わりの中で力を身に付け生活力を育む。

1	計画・ねらい	インクルーシブな環境の中で様々な経験積む。
	実践予定内容	日課や保育活動から、子どもが主体的に取り組める活動を用意し、個々に合わせた配慮、支援を行う。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して、生活力を身に付けられるよう物的環境を整える。
	実践予定内容	様々な経験を自らが選択し実行していける環境を用意し、その中で葛藤やTrial＆Errorを繰り返し、生活力を体得する。
3	計画・ねらい	受け入れられた環境の中で自分の得意を伸ばす。
	実践予定内容	得意不得意を理解しながら、自分が挑戦できる環境を用意し自信を持って生活できる場を整える。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

保護者が安心して利用させる事ができるよう、コミュニケーションを取り、悩みや課題を一緒に考え利用者のニーズを抽出し、保護者に寄り添った支援をしていく。関係機関との連携を図り、地域全体での支援を行う。

1	計画・ねらい	保護者へのフィードバックを丁寧に行い、質の向上を図る。
	実践予定内容	子どもの様子をエピソードで話していき、連続した支援の中での成長や課題を保護者様に伝えていく。また、支援しているポイントやアプローチの内容を分かりやすく伝えていく。
2	計画・ねらい	事業所内相談支援を活用し、丁寧な保護者支援を行う。
	実践予定内容	保護者の意向や気持ちを受け止め、障害の特性や発達の各段階に応じて「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に家族支援を行う。
3	計画・ねらい	関連機関との連携（関係連携加算）を利用し関係機関との連携を密に行う。
	実践予定内容	相談支援、保育園、幼稚園と他事業所と連携を図り、地域全体で支援を行う。 小学校、放課後等デイサービスなど就学に向けてのアプローチを行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

保護者が安心して子育てができるよう、日頃から保護者とのコミュニケーションを豊かにする。日々の支援を外部に発信し、保護者や地域の方に知ってもらい子育て支援の拠点となる。

1	計画・ねらい	SNS・ブログによる外部への発信
	実践予定内容	活動内容や取り組みを地域に発信し、子育てのヒントや活動内容の見える化を図る。
2	計画・ねらい	TSUMUGIカフェの周知・園庭開放
	実践予定内容	地域の方が気軽にカフェや園庭に集い、繋がる場を提供する。 地域の方同士が繋がれる場所として、発信を行う。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

子どもの最善の利益を考え、サービスとスキルの向上を図ると共にスタッフ自身の人間力のアップをする。

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインを理解し支援の内容を充実させる。
	実践予定内容	研修会を開き、それぞれの理解を深め、再確認する場を設ける 日々生活の中での支援のあり方を考えていき、個に合わせた手立てを考える。

2	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目標設定をしていく中で、自己分析、自己研鑽をしていき、プロとしの自覚を持つ。
	実践予定内容	コンピテンシーの追及、MBOにて目標の設定をする。また、都度振り返り面談を行い、目標に対して進捗確認を行う。自身でPDCAサイクルを回す。
3	計画・ねらい	学ぶ姿勢を持ち、学び続ける集団の育成。
	実践予定内容	園長大学®保育士大学を活用しながら自身のスキルアップを目指す。また研修会で学んだ事を事業所でアウトプットし、また学びに繋げる。

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践。
	実践予定内容	畑仕事・食材加工・命を頂く活動を行う。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行。
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など捨てるではなく有効活動をする。SDGsを意識した取り組みを行う。

〈6〉インクルーシブな保育の実践

I	計画・ねらい	多様な子、大人との関わりの中で、受け入れられる経験を積み、生活力の体得を目指す。
	実践予定内容	生活や遊びの中で、友だちや身近な大人と数多く触れあい、葛藤する経験を設け、生きる力を身に着けさせる。
2	計画・ねらい	一人ひとりの成長に合わせた支援内容の充実を図る
	実践予定内容	一人ひとりの特性を理解し、支援の内容を考えその子に必要なアプローチを行う。
3	計画・ねらい	併設園の機能の充実を図る。
	実践予定内容	保育園・つむぎ間でコミュニケーションを取る機会を多く設け、連携強化を図る。

〈7〉食の循環への直接体験

1	計画・ねらい	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動の実行を進める。
	実践予定内容	食育3大方針「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」ことの実践を行う。
2	計画・ねらい	SDGsを考える場をつくる
	実践予定内容	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動の実践を計画し、実行する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日
保育所等訪問支援　　３０人/月

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長　1名
児童発達支援管理責任者　1名
社会福祉士　１名
精神保健福祉士　１名
児童指導員　1名
作業療法士　1名
理学療法士　1名
訪問支援員　1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・検証・研修・ヒヤリハット・インシデント
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ルーム会議	適宜	利用者の様子・行事進捗・支援内容の検討
ケース会議	適宜	情報共有・支援内容の検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年4回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催する
保健会議	年4回	グループ全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催する。
子育ての質を上げる会議	月1回	若手スタッフのスキルアップを図る

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者とともに企画・運営
運動会係	計画の立案・調整・実施
生活発表会	計画の立案・調整・実施

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・1日の生活に慣れ、安心して生活を送れるようにする ・戸外活動を通して異年齢や友だちとやり取りを楽しみ、遊びを見つけられるように環境を設定し、丁寧にかかわっていく ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたり遊びにとりいれ。
	下半期	・異年齢のかかわりの中で、生活や遊びに達成感や充実感を味わう経験を保証する ・様々な体験を通して感性を豊かにし創造性の芽生えを育てる ・友だちへの興味を広げ、遊びの中で共に育ちあう ・自分で活動を選択し、経験を重ねる

ビジターグループ	上半期 3～5歳児	・環境に慣れ、安心して過ごせる場を作る ・見通しを持てるように関わり、身の回りの事を自分で行 ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたり遊びにとりいれる ・自らが遊びや活動を選択し、経験を選び取れるようにする
	下半期 2～5歳児	・集団の中での簡単なルールや約束を守れるようにしていく ・遊びを通して興味関心を広げ、友だちとのかかわりを増やし、様々な葛藤を味わう ・友だちの様々な考えに触れる中で、自ら判断したり、考えたりし自己決定する
個別支援	随時	・個々の発達課題に合わせ、就学に向けてアプローチを行う
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整
保育所等訪問支援	随時	・保護者のニーズの元、保育園、幼稚園等関係機関に出向き、利用者と繋ぐ
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	身近な人と食べて美味しいと思う子を育む
	実践予定内容	調理員・保育士・施設長と子どもが一緒に食べ、日々の変化に気づき、丁寧に関わる
2	計画・ねらい	食べたいもの、好きなものが多い子を育てる
	実践予定内容	食に旬があることを知り、季節を感じながら様々な地域の産物を生かした食事を体験する
3	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する
	実践予定内容	食の循環野菜等の栽培や収穫し自ら食べる

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	手洗い指導。 歯磨き指導。
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 1月頃･･･ウイルス性胃腸炎 2月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在 7名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ 2名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日

	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

安心・安全で活動しやすい環境を整え、その中で一人ひとりが遊びを選択し遊び込める環境の場を作っていく。
室内の整理整頓を心掛け、清掃・消毒・換気を丁寧に行うことで、安全に過ごせるようにする。

1	計画・ねらい	居心地の良い場を創る
	実践予定内容	安心で居心地の良い空間から隣り合う空間(０歳から５歳)の行き来を大切にする。夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障する。ありのままを受け止められている環境を考える。
2	計画・ねらい	子どもの興味・関心を引立てる環境を設定する
	実践予定内容	日々の関わりから子どもの興味関・心を察知し、必要な環境を設定する。また、環境を再構成できるスタッフの育成に注力する。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	各クラス	毎日
2	丸テーブル	地域の窓	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	防災：消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月１回実施。震度５弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先・を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備える。マニュアルの徹底
2	ケガ、事故防止対策	ケガ事故防止 事故防止チェックリスト年４回設備点検年６回を行い事故防止の徹底を図るまた、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図る インシデント・ヒヤリハット報告の分析 グループ内で状況を共有し日々の保育の中で事故防止策を探る
3	防犯対策	防犯：年２回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・通報の訓練でスタッフ全員を対象とする
4	光化学スモッグ	光化学スモッグ・光化学スモックが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示する。園児・スタッフは室内で過ごす
5	危機管理	リスク管理委員会によるリスクマネジメント

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成し、インクルーシブな現場を体験してもらうことで、地域全体での子育てや社会における福祉サービスを認知してもらう。
保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れを行う。

〈１〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。近隣中学校および高等学校、大学校、専門学校などから実習受け入れ依頼が来るよう、自治体や学校に周知する。

1	実践予定内容	実習生の受け入れを継続する
2	実践予定内容	外部に積極的にアプローチし、積極的に職場体験を受け入れる

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月１回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：年間６回を目標とし、課長・施設長で機会の調整を行い、積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援に繋げる。
⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低１名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・マニュアルの確認 ・虐待防止研修・人権チェック子どもの人権について	基本理念を据える 自園の事故から 虐待の定義について
5月9日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・危機管理について ・安全衛生管理について ・子どもの育ちについて ・事故防止について	遊びの捉え方・環境の捉え方 指示をしない保育 人数確認・アレルギー確認・ヒヤリハットから
6月13日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・さくらさくらんぼリズム体操について ・３分間対応について	・生活を子どもたちが創るとは

7月11日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・覚醒について ・３分間対応と連絡帳について ・水と土のマップ	・遊びの子どもへのまなざし。子どもの育ち ・子どものエピソードを保護者への伝え方
8月8日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・守らなくてはいけない基本事項について ・子どもにとって安心できる場・伝える場を引き出す場へ	・子どもにとって安心できる場・伝える場から引き出す場へ
9月12日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・見失い事故の事例から考える ・窒息事故について考える	・他園の事故記録簿から
10月10日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・虐待防止研修 ・見失い事故の事例から考える ・窒息事故について考える	・時間・場・空間・仲間から据える ・他園の事故記録簿から ・虐待に関して再確認する。
11月14日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・乳児幼児の姿から捉える（環境について） ・リスクマネジメント	環境を支えるスタッフの眼差し 他園の事故記録簿から
12月12日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・リスクマネジメント ・同僚性と専門性、チームとして	チームとして・同僚性と専門性 災害の対応・自園のヒヤリハット分析・他園事故分析と要因
1月16日	18:00～20:00	・コンピテンシー自己採点 ・乳児幼児の姿から捉える ・リスクマネジメント研修	・保育の中で目指している理由を再考する ・ヒヤリハット分析・他園事故分析と要因
2月中	18:00～20:00	来年度の運営方針	策定会議
3月中	18:00～20:00	策定会議	策定会議

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月末までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

核家族化や地域のつながりの希薄化、子育ての負担や不安、孤独感が高まっているため、保育園・ 地域・家庭が一体となって、子ども子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り 組む。地域の方が自由に園を利用し地域の相談しあえる仲間でいられるようにとの思いから、月1回「ちきんえっぐ」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標　　250名

青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：八山田子ども広場公園にて　　集客目標24名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問
異年齢交流	青空保育・体験活動参加・小学校交流
地域拠点活動	子育て相談・地域拠点活動

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

２１世紀の教育の在り方が模索され「小学校学習指導要領」「保育所保育指針」が改訂された。また、子どもの生活の連続性を踏まえ小学校と連携が円滑にいくように連携・接続していく。キーワードになっている「主体的・対話的学び」とへの教育のありかたを具体的に小学校の教諭と共に要領・指針の相互理解を図っていく。 以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（土）より開始する。小学校との交流活動（小 学校見学・運動会未就園児プログラムへの参加）を通じて小学校との交流を図る。また、幼保小連絡 会議への参加を通じての情報交換を行う。また、小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育 所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	行健第二小学校 1年	3名予定	交流会（行健第二小学校）	子ども間交流
9月頃	行健第二小学校 1年	3名予定	交流会（当園幼児保育室）	子ども間交流
12月頃	行健第二小学校 1年	3名予定	授業参観（行健第二小教室）	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向を聞き、子どもの適正、特性を踏まえて適切な支援内容を検討し作成する。また、6カ月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実戦し、子どもの様子や保護者のニーズ、それに伴う適切な支援を提供する。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：6名予定）

策定会議だけでなく、ケース会議を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深め、支援の内容を充実させていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体、関係機関と連携を図り、就学支援シートを作成し小学校への接続をスムーズにすると共に放課後等デイサービスへの接続にも円滑に行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標　　20名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標　　10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）11:00～12:00　　集客目標　　5名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　集客目標　　10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：八山田子ども広場にて開催　集客目標名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２６年３月１日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：９時００分
自己評価終了予定時刻：１２時００分
自己評価実施予定者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	インクルーシブな保育、支援の実践。子ども一人ひとりが受け入れられ、安心して過す中で様々な葛藤を味わいながら成長していける環境
	振り返り	併設している保育園と共にインクルージョンを実践していく中で、個々に必要なアプローチを考えていった。また、経験や葛藤を味わう中で子どもも大人も試行錯誤しながら、その子にとっての最善の利益を考えて行った。 支援の質・内容では日々の支援の共有を意識して行く中で時間の捻出に課題が見られ、共有に必要な時間を確保する仕組み作りが大事である。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	地域で選ばれる事業所としての確立。県内でのインクルーシブな保育、支援の在り方、併設園のモデル化にしていく。
	重点施策	自事業者だけの支援に留まらず、地域と連動しながら支援を行えるよう他機関との連携をしていく。
2026年度	目指す姿	国内におけるインクルーシブな施設の代表となる。
	重点施策	PDCAサイクルの意識を定着させ、プロ意識を持ち学び続ける集団にする。
2027年度	目指す姿	併設園のモデル園として、市内の児童発達支援の在り方を広めていく。
	重点施策	地域に広報活動を行い、インクルーシブの推進を図る。自施設のノウハウを発信する。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 八山田ルーム 施設長　阿久津 祐太

２０２５年度　発達支援つむぎ 新羽ルーム
事業計画書

1．基本方針

児童発達支援事業所として、児童発達支援ガイドラインに基づき法人理念である「にんげん力。育てます。」及び保育方針である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を鑑みて、併設された新羽どろんこ保育園と共に生活を送り、ひとつの組織として共に協力し合いながらインクルーシブ保育を実施していく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	すべての子どもが安心して充実した日々を過ごせる場所を作る
	実践予定内容	・一人ひとりの子どもが安心して自己を発揮しながら生活できるように子どもとの信頼関係を築き丁寧な関わりを行い、役割分担をしながら子どもの育ちを保証できる環境を充実させる。
2	計画・ねらい	生活や遊びの中で保育・支援の連続性を保証する
	実践予定内容	・個別支援計画に基づき子どもの発達を理解し、興味関心に合わせた日々の支援のねらいを立案する。 ・ホンモノの経験を通して好きな活動を見つけ、探求できるように「点」ではなく「線」で行う支援を実施し、子どもの主体性を大切にした経験が行えるようにする。
3	計画・ねらい	生活力の体得
	実践予定内容	・自分で考え行動する力を育むために、生活力と危険なものとの距離の取り方を大人が背中を見せ教えることや子ども同士の関わりの中で学び合い、経験から身に着けられるようにする。
4	計画・ねらい	10の姿の体得
	実践予定内容	・子どもの選択や表現を受け止め、丁寧に応答することで自己肯定感を高め、10の姿の体得に向けた新たな経験に繋げられるようにする。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育ての悩みや不安を相談しやすい場所となるよう受け入れやフィードバック時に丁寧でわかりやすい会話を行う
	実践予定内容	・受け入れや帰りのフィードバック時に子どもの成長や課題をわかりやすく伝えると共に保護者の悩みや不安に寄り添い、親子で安心して通える場となる。

2	計画・ねらい	保護者同士の交流を深める場所を提供する
	実践予定内容	・保護者参加行事を実施し、保護者同士の交流のきっかけづくりをする。 ・保護者のみでのおはなし会を実施し、就学や就園、日々の生活での困りごとなどテーマを決め保護者同士で話す場を作ることで保護者同士の交流を深める機会を設ける。
3	計画・ねらい	事業所内相談支援や幼保連携を必要に応じて実施し、子どもの育ちや日々の不安などを気軽に話せる場となる
	実践予定内容	・必要に応じて事業所内相談支援を行い、落ち着いた環境で日々の様子を聞き取ることで不安や悩みに寄り添い保護者支援を行う。 ・内容に応じて専門性を活かしながら対応していき、保護者と共に考え、家庭と園、つむぎの様子を共有し子どもにとって生活がしやすい環境を作れるようにする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て支援事業所として地域に開かれたルーム運営を行う
	実践予定内容	・ルームや保育園見学の際に併設している互いの施設の紹介をパンフレット等を用いながら全スタッフが行えるようにする。
2	計画・ねらい	専門性を地域に発信する
	実践予定内容	・併設している保育園スタッフに専門性を用いた話を行い、保育者自身が保護者とのやり取りに活かすことや保育者自身の知識の向上につなげていく。必要時にはスタッフを紹介し、共に考えていく体制づくりを行う。 ・スタッフの専門性を活かしながら子育て支援や相談会を行い、保護者の相談に寄り添って対応し地域の子育て支援事業としての役割を広げていく。 ・相談会の実施から新規利用者獲得やルームの特徴を地域に発信できるよう、支援のねらいや支援内容をブログで外部に発信する。
3	計画・ねらい	実体験のできる場の提供
	実践予定内容	・園庭の畑を利用して堆肥を使った土づくりや畝づくり、種まき、栽培、収穫、加工を体験できるようにする。 ・園庭開放やルーム見学時に戸外活動を通して自然の中での体験を行うことやヤギに触れたり世話をしたりし、生き物を身近に感じる体験の場を提供する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	チーム保育・支援の充実化
	実践予定内容	・インクルーシブ保育を実施する併設園のスタッフとして、全ての子どもを全スタッフで見ることを念頭に置く。 ・子ども同士の育ちのためにどのような関わりが必要かを検討し、適切な距離で保育・支援を行えるよう、両施設の思いを伝え合い、最善を考えて進んでいくチームになる。

		・ブログやドキュメンテーション、リフレクションを用いて周囲のスタッフと共に保育・支援を振り返り、内容を高める。 ・子どもの気持ちに寄り添い、子どもに必要な言葉かけや関わり、見守る距離感を見極めることができるスタッフを目指す。
2	計画・ねらい	子どもが自分で考えて選択し、夢中になれる環境の設定が行える
	実践予定内容	・子どもの発達や子どもの興味関心に合わせて室内環境や散歩先、戸外での活動内容を考え、散歩先や遊びなどを子ども自身が考えて選択し、夢中になれる人的・物的環境を整える。 ・支援時間や日数に関わらず、点ではなく線で行う継続した活動を実施していくことで経験を重ね、自分の意思を伝える力を育てる。
3	計画・ねらい	基本活動の理解を深め、専門性を発揮する
	実践予定内容	・法人の基本活動・労働に対する理解を深め、活動の意味を理解したうえで専門的知識を用いながら併設園との活動を検討し、子どもにとって必要な経験ができるようにする。 ・互いの専門性や強みを学び、各会議でケース検討やエピソードの共有を行うことで子どもを真ん中にした保育・支援の内容の充実化を図れるようにする。 ・自園だけでなく系列園にも力を発揮できるスタッフを育成する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自然の恵みとして食材や食の循環教育
	実践予定内容	・畑を耕す、種を植える、生長を見守り世話をする、収穫する、加工する、食べるまでを子ども自身が経験することで食の循環を知る。 ・畑で育てた食材を使用した調理活動を行い、食材の加工を学び継続した活動になるように計画を立て実施する。
2	計画・ねらい	残渣のリサイクルやヤギの糞の堆肥化をし、畑に還元する
	実践予定内容	・調理過程での廃棄食材やヤギの糞の堆肥化を行う。 ・堆肥の作り方を学び、園内外の畑やプランターに活用できるよう、計画的に堆肥づくりを行う。
3	計画・ねらい	ホンモノの体験を通して学ぶ
	実践予定内容	・季節の物に触れ四季の違いを感じながら自然の中での体験を通して、気持ちの変化を体験できるようにする。 ・身近な生き物の世話を行いながら生命の大切さを知り、労わったり、大切にしたりしようとする。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	子ども一人ひとりが安心して共に学び、共に過ごすインクルーシブ保育
	実践予定内容	・一人ひとりの子どもが安心して自己発揮をしながら生活が送れるよう、園とつむぎが協働して双方の役割を担いながら丁寧な関わりと保育・支援の充実を図る。

		・一人ひとりの子どもにとって必要な関わりを見極め、適切な距離で保育支援を行うことで子ども同士での育ち合いができる環境を作る。
2	計画・ねらい	情報共有を密に行い、子どもの理解を深める
	実践予定内容	・必要な情報共有を密に行い、子どもの理解を深めるために日々の活動の組み立ての相談やクラス会議、ケース会議、策定会議以外での共有以外にも全スタッフが自ら考え必要な情報の共有ができるようにする。 ・発達支援と保育双方の専門知識を互いに学び合い、併設園として課題に対して多角的視点で話し合いながらよりよい解決方法を導き出していく。

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　I０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～I７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名
児童発達支援管理責任者I名
保育士I名
機能訓練担当スタッフ2名（作業療法士I名、臨床心理士I名）
児童指導員I名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	献立の振り返り、食育活動の立案・検討他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿から傾向分析と対策の共有。子どもの姿に合わせた園内外のハザードの確認と配慮店の共有。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	適宜	気になる子、配慮を要する子の状況と関わりについて検討する。
クラス会議	適宜	子どもの興味関心に合わせた活動の選定と安全に配慮した職員の配置、環境構成の見直しを園スタッフと共に行う。
管理職会議	月１回	園施設長、主任、つむぎ施設長、児童発達支援管理責任者が参加し、併設園としての現状と課題を共有し、共通認識のもと併設園を運営する。
各行事会議	適宜	各行事の計画、立案、進行、振り返りとまとめを行う。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年２回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育の推進、意見交換、取り組みの共有
保健会議	年4回	健康増進、アレルギー、感染予防

子育ての質を上げる会議	月1回	ミドルリーダーとしての質上げ、園全体への質上げの研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	年間食育計画の主導と管理（子どもと行う作業計画）、畑の管理
生き物係	飼育全般に関する管理
体験学習係	体験学習の計画立案、実施

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行う。
運動会	併設園スタッフとして準備・進行を行う。保護者にも参加していただき子どもの日々の成長を見てもらう機会にする。
生活発表会	併設園スタッフとして準備・進行を行う。保護者にも参加していただき子どもの日々の成長を見てもらう機会にする

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー （乳児）	上半期	・保育園児と生活を共にし、つむぎでの生活の流れを覚え自分で選択し、実施する土台をつくる ・スタッフとの愛着形成を行い、安心して過ごせるようになる ・戸外活動を通して身体の土台作りを行う ・他者への興味・関心を育てる
	下半期	・他者と関わる楽しさを味わう ・自分の気持ちを他者に伝えようとする意欲を育む ・戸外活動を通して身体の土台作りを行う
マンスリー （幼児）	上半期 3～5歳児	・戸外活動を通して自然と触れ合い、豊かな心と体を育てる ・保育園児と過ごすことや異年齢の関わりの中で他児と遊ぶことを楽しむ気持ちを育てる ・自分の気持ちを表現しようとする意欲を育む
	下半期 2～5歳児	・異年齢での関わりを通してルールの理解や遊びなど他児との関わりを深める ・自分で選択し、考え、行動できるようになる ・様々な体験、経験を通して豊かな感性と表現を育てる ・困ったときには自分から他者に助けを求めることができる力を育てる
グループ支援	1年間	・戸外活動を通して自然と触れ合い、豊かな心と体を育てる ・異年齢の関わりの中で役割分担をしながら活動に主体的に取り組む ・見立て遊びやルール遊びを通して他児との関わりを深める
ロンググループ支援	1年間	・戸外活動を通して自然と触れ合い、豊かな心と体を育てる ・異年齢の関わりの中で役割分担をしながら活動に主体的に取り組む ・見立て遊びやルール遊びを通して他児との関わりを深める
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、

別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	畑仕事を通して、食べ物への興味・関心を広げる
	実践予定内容	・土を耕し、種を植え、水をあげ、成長を観察し、育ったものを収穫し、調理をして食べる一連の流れを体験し、食べ物への興味・関心を広げる。
2	計画・ねらい	食べる力・意欲を育む
	実践予定内容	・他者と一緒に食事を囲むことで食べる楽しさを知ることや自分で配膳を行い、食べたいものを選んで食べることで食べる意欲を引き出す ・食事場面から生まれる感情を他者と共有しながら食への興味や食具の使い方、椅子の座り方などへの関心を高め、口腔機能や姿勢保持能力の発達につなげていく。
3	計画・ねらい	食育活動を通して、五感を刺激し、感性を豊かにする
	実践予定内容	・食物を育てる、収穫する、調理活動の様々な工程の中で視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の刺激をうけ、様々な感覚を感じ、食す活動以外の工程でも食への興味・関心を高められるようにする。 ・食材の加工を通して、形や色の変化などに気づき、感性を豊かにする。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	外出後や飲食前の手洗い・うがいの習慣づけ、歯磨き指導・水分補給や休息の大切さについての話、衣服調整の仕方、年長児性教育
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６～９月頃･･･手足口病・咽頭結膜炎・ヘルパンギーナ・とびひ １１～３月頃･･･インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス感染症・ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在６名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。室内の温湿度管理を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもがやりたいこと・遊びたい場所、ものを選び主体的に戸外活動に参加する環境を作る
	実践予定内容	・散歩先の選択や何を持っていき遊ぶかなど子どもたちが自分たちで考え選択し、行動できる働きかけを行う ・子どもたちの興味・関心に対応できるよう、事前の準備を行い子ども自ら選びとれる環境をスタッフ全員で作る ・季節ごとに室内、園庭の環境を見直し、子どもの発達に合わせた環境にできるよう、保育園スタッフと意見交換を行いながら環境整備をする
2	計画・ねらい	子どもたちが安心安全に遊べる環境の確保
	実践予定内容	・子どもが遊ぶ場所に危険物がないかの確認を行う ・ヒヤリハットにつながるものを職員が把握し、行動、環境の改善を速や

		かに行い、必要時にはハザードマップに起票し全体周知ができるようにする ・保育園スタッフと連携し、子どもの居場所の把握や好きな遊びの共有を行い好きな場所が増え、安心して遊べる環境を作る
3	計画・ねらい	誰が見ても気持ちの良い環境を目指すため、清掃や整理整頓・挨拶を行う。
	実践予定内容	・来園者には手を止めて挨拶をし、丁寧で親切な対応を心掛ける。月に1度は環境を振り返ることや清掃・整理整頓は第三者目線で確認をし、誰が見ても気持ちの良い環境にする。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	非常災害時の対策として、消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し年間避難訓練計画に沿って消火訓練、避難訓練を行う。
2	洪水計画	消防計画に基づき大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報収集をし、被害の未然防止の為、対策を行う。
3	事故防止委員会	事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危機管理・危険予測を実施し、事故を未然に防ぐよう努める。
4	不信者侵入訓練	年２回の不審者訓練を実施し、安全・防犯への意識づけをする。
5	光化学スモッグ	光化学スモッグ発生時には、自治体などから発信される情報を活用し、発令があった際には速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行う。
6	救命救急講習	新年度キックオフミーティングにてエピペン講習、AED講習を行い必要時には全職員が正しく使用できるようにする。
7	事故防止、設備点検チェック	年４回の事故防止チェック・設備点検チェックはクラス・ルーム会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所として次世代育成の観点から、積極的に実習生やボランティアの受け入れを実施し、一人ひとりに応じて保育・福祉の現場で活躍する人材育成を実施する。また、地域に根付いた開かれた事業所となるよう、積極的に受け入れを実施する。

1	実践予定内容	中高生の職場体験の受け入れを行い、施設を知ってもらう
2	実践予定内容	保育養成校・専門士養成校の学生の実習を受け入れ、学びを深める場とする。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ ケガ・ケーススタディ ④ 虐待防止研修	・ ケガ・ケーススタディ ・子どもの人権、虐待の定義 ・目の数キープ ・乳幼児突然死症候群（SIDS）
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 園外保育リスクマネジメント	・散歩ロープレ① ・リスクマップ
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 危機管理	・プール事故防止訓練・水遊び時のリスクを想定した危機管理。夏の遊びと熱中症対策
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 保護者対応/応答的な関わり	・相手の立場に立った対応 ・子どもの育ちを考える
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 運動会に向けて	・一人ひとりが主役になる運動会とは
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 園外保育リスクマネジメント	・散歩ロープレ② ・子どもの行動を予測して行動する（子どもの育ちの振り返り）
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 虐待防止研修	・自己評価、虐待の定義 ・子どもを真ん中にした保育とは
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 生活発表会に向けて	・一人ひとりが主役になる発表会とは（上期の育ちと下期のねらいから考える）

12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 年度の振り返り（事業計画の振り返り）	・年間の振り返り①（事業計画、行事、係、クラス）
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 各会議の共有と学び ③ 次年度のMISSIONについて	・年間の振り返り② ・次年度に向けて
2月20日	18:00～21:00	策定会議１日目	次年度に向けて
3月1日	9:00～18:00	策定会議２日目	次年度に向けて

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年１回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた子育て支援事業所として、併設園である新羽どろんこ保育園と共に地域に根付いた支援を実施していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：20名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：新田公園にて　　集客目標：15名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	併設園と共に地域にある高齢者施設との関わりを設定。
異年齢交流	併設園と共に異年齢児で支援・保育を行う。
地域拠点活動	近隣商店街や近隣保育園とのかかわりを実施。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

就学支援シートを活用し、児童発達支援が行ってきた支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項など小学校生活がより豊かになるように情報提供に努める。放課後等デイサービスを利用する際には、保護者の同意を得たうえで放課後等デイサービス計画が適切に計画されるよう、必要な情報提供や助言を行う。地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで関係機関や団体と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
６月頃	新羽小学校	２名予定	・小学校へスタッフが	地域の小学校を知る

			訪問し、一般級と個別支援級の違いを学ぶ	
１０月頃	新田小学校	２名予定	小学校へスタッフが訪問し、一般級と個別支援級の違いを学ぶ	地域の小学校を知る
２月頃	新羽小学校	４名予定	授業見学（新羽小学校）	子ども間交流
２月頃	新田小学校	４名予定	授業見学（新羽小学校）	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

６か月に１度モニタリングを保護者と行い、支援内容の振り返りや保護者・子どもの希望、困りごとなどを聞く。児童発達支援管理責任者が中心となり、策定会議を実施し個別支援計画の作成・見直しを行う。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：数名予定）

担当者が実施したいケースを選出し、スタッフ間で子どもの姿の共有や必要な支援を考察し、支援計画に基づき日々の支援を実施できるようにする。

併設園としてインクルーシブ保育を視点に専門性を取り入れながらチームでケース検討を行うことで集団の中での関わり方や子どもに対する考察を深め、広い視野で保育・支援を実施していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

保護者の同意を得たうえで、進級する幼稚園・保育園・小学校等の関係機関に情報提供を行う。必要に応じて関係機関への見学・相談を行い、助言を行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：２０名

つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　集客目標：５名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　集客目標：１０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00　集客目標：１５名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２６年１月２３日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１４時００分
自己評価終了予定時刻：１７時００分
自己評価実施予定者：つむぎ施設長、保育園施設長、児童発達支援管理責任者、主任、スタッフ代表

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	支援の質の向上と自ルームの強みの強化 保育園と共にインクルーシブ保育の実践
	振り返り	支援を点ではなく線で捉え子どもの支援をつなげていく視点作りができた。戸外活動、ヤギの世話、畑仕事をルームの強みにするべく、子どもたち

		の意見を取り入れつつ、大人が背中を見せながら活動を行い、体験学習など保護者にも取り組みを伝えていくことでルームの強みの強化ができた。 　保育園との仕組みの違いや協力できることを明確にすることでお互いの理解が高まり、一緒に取り組んでいく土台作りができた。集団活動の中での発達支援の意味や子ども同士の育ちを進めていくために互いの専門性を理解し、協力し合う仕組みづくりを続けていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

25年度	目指す姿	大人のインクルーシブ
	重点施策	・一人ひとりの子どもが安心して自己発揮をしながら生活が送れるよう、園とつむぎが協働して双方の役割を担いながら丁寧な関わりと保育・支援の充実を図る ・スタッフ一人ひとりの専門性を理解する ・子どもの育ちを共有し、悩みや不安に合わせてスタッフ同士で連携を取り合い解決に導けるようになる
26年度	目指す姿	インクルーシブ保育・支援の質の向上 地域に根ざした施設になる
	重点施策	・発達支援事業所と保育園の双方の特徴を最大限に生かしながらインクルーシブ保育・支援を実践する ・専門性を活かした相談会を行い、地域の相談の場となる ・近隣系列園との連携を取り、地域全体での子育て・支援を行う
27年度	目指す姿	併設園のモデル園になる
	重点施策	・併設園として専門性の高いインクルーシブ保育・支援を実施する。 ・発達支援事業所の役割と保育所の役割を明確にし、協力し合いながら併設園としての仕組みを確立させ、地域の子育ての拠点になる

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 新羽ルーム 施設長　吉田 侑加

２０２５年度　発達支援つむぎ 生田ルーム
事業計画書

1．基本方針

当法人の理念「にんげん力、育てます」、子育て方針「センスオブワンダー」「人対人コミュニケーション」を前提として、2025年度の運営本部ミッションを指針として運営する。またつむぎ生田ルームが開所以来大切にしている、「生活の延長線上の支援」「10より100の経験を」「子どもたち自ら選び思考して行動する」この３点を支援の軸としながら、今年度の基本方針とする。

・大人が事前に配慮し、経験する機会を取り除くことなく、子どもたちが「ジブン」で考え、選択できる環境を設定し、意欲的に取り組みたいと思える活動内容を複数設定する。子ども一人ひとりの発達過程を十分に理解したうえで、これから育とうとする心情や意欲を見極め、「ホンモノの体験」を提供し、生きる力を獲得できるよう支援を実施する。

また子どもたちの人格形成が完成する、限られた時間に私たちも子育てをする一人ということ自覚し、子どもたち一人ひとりの支援を丁寧に実施していかねばならない。そのためにはスタッフ一人ひとりの専門性を伸ばすための学びの場の提供、また子どもたちの様子と環境構成を振り返り、次回の支援に活かすためのPDCAを行い、支援の質の向上を図る一年とする。

・マンスリー支援については、多くの子ども達同士が関り合い、ぶつかり合い、様々な経験ができる環境でインクルーシブ保育を実践し、子どもたちの成長を促していく。
また一人ひとりの発達段階を見極め、適切な環境（自施設や園、地域）での支援を提供していきながら、つむぎ生田の発達の専門性と園スタッフの保育の専門性を掛け合わせ子育ての質を高めていく。

・保育所等訪問支援については、その子の発達や過ごしている環境をより多角的に観察、分析した結果を園スタッフや教員、保護者、各事業所スタッフ等との話し合いを実施し、子どもたちが自分らしく集団や地域の中で生活していけるよう支援を実施していく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生きる力を育む活動の理解と体験の提供
	実践予定内容	・「危険な物との距離の取り方」を経験するために、子どもの興味関心に合わせた活動や物的環境を用意する。（針仕事、三角巾づくり） ・水の危険性を事前に学ぶ機会を用意する。実際に水辺での活動を実施し、水に触れる気持ちよさや危険性を経験し、距離の取り方や正しい遊び方についての理解を深める。 ・雑巾がけやリズム体操、畑仕事などの日課を取組みについて、各曜日担当者が子どもの様子を含めて振り返る時間を設け、日課の定着を図る。
2	計画・ねらい	子ども同士が考え、語り、作り上げる生田子ども年間計画
	実践予定内容	・毎月の調理活動、畑の年間計画等、子どもたち同士が話し合い、考え試行錯誤しながら作り上げる、生田こども会議を実施。労働の楽しさや大変さを体験し、責任をもって自分の仕事をする意識を育む。 ・日本の四季や伝統文化にちなんだ調理活動を実施する。収穫物の加工、保存物を作り、連続性を大切にし、食への興味関心を広げる。

3	計画・ねらい	「ジブン」で選択できる活動・環境設定
	実践予定内容	・子どもの選択を尊重しながら、安心して過ごせるまたは集中して遊び込める環境を設定する。 ・自分で考え、過ごす場所、活動を選択できるように、活動を複数用意する。その活動や環境構成に対しての子どもの様子や、スタッフが壁になっていないか、人的環境も含めて会議の中で定期的に振り返りを実施する。環境を再構成しながら、発達過程にあった活動内容、環境を用意する。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	関係機関や家庭と密な情報共有を行う
	実践予定内容	・所属する母集団や家庭との連携を密に、子どもに関わる大人たち全員で共通理解し支援を実施できるよう、全利用児の小学校また園や地域療育センターや各事業所等に月一回以上訪問を行い、積極的な連携を図る。
2	計画・ねらい	子育てについての悩みや不安を軽減し、子育てのサポートを行う。
	実践予定内容	・月2回以上事業所内相談の機会を設定し、子育てに関する悩みや不安を聞き、整理を行いながら、現在の子どもの姿や今後の見通しを伝え合い、子どもの成長を共に確認する場を設ける。 ・全保護者と相談支援が実施できるよう、月1回事業所内相談についての説明と案内を実施する。
3	計画・ねらい	保護者同士が繋がれる、子育てについて共有・学べる場の設定
	実践予定内容	・２か月に１回程度保護者交流会を実施。子育てに関する共通した話題や就学に向けて等、回毎にテーマを設定する。 ・就学相談や、長期休暇明けなどの子どもたちや保護者がストレスを感じやすい時期に、子育てに関する講座を年３回開催し、学べる環境を用意する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	発達相談会を開催し地域と繋がれる場になる マンスリー支援を地域に届ける
	実践予定内容	・自施設で年4回発達相談会を実施する。また、読売ランド前どろんこ保育園のちきんえっぐや地域施設にて出張発達相談会を年４回実施する。定期的に相談会を設け、子育てをしている保護者が、安心して悩みや困り感を話せる環境を作る。 ・マンスリー支援を発達相談会の中で説明を実施。より多くの方達にマンスリー支援について広め、支援を届けていき、地域全体の子育てに貢献する。
2	計画・ねらい	地域との交流を行い、自施設の支援を発信する。
	実践予定内容	・毎月第４土曜日の11：00～11：30に生田緑地また夏季は生田支所下校庭広場で実施。地域と繋がれる場を提供するとともに、自施設の支援を地域に発信する。 ・SNS等を通じて、活動内容や地域交流の場についての情報を発信し、よ

		り多くの子育て世代に届け、地域に開かれた施設を目指す。
3	計画・ねらい	地域の保育・教育施設との共同活動
	実践予定内容	・地域の保育施設、小学校や大学と連携し、戸外先での共同活動や、子ども食堂等のイベントを実施する。自施設の支援内容や法人の理念を発信しながら、地域全体で地域の子育て支援を実施できる場を作る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	児童発達、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の各ガイドラインを学ぶ
	実践予定内容	・各事業のガイドラインを読み解き、理解を深め、連続した支援の重要性と発達段階にあった活動内容や環境構成について話し合い、発達にあった支援、環境構成について検討実践する。 ・読売ランド前どろんこ保育園のスタッフと子どもの姿について学び合う時間を設定し、発達段階と子どもへの関り方や環境構成について検討、実践、振り返りを行う。
2	計画・ねらい	アセスメント、分析する力を高める
	実践予定内容	・アセスメントの基礎や５領域について学ぶ時間を設け、子どもの行動や成長または困り感を正確に捉える力を高める。 ・５領域の中で支援が必要としている分野について、全スタッフが分析した内容を発信し分析力を高め支援の質の向上を図る。
3	計画・ねらい	小学校の学び、就学先を知る
	実践予定内容	・学習指導要領やアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを学び、小学1年を見据えた支援を行う。 ・授業参観や学校の様子を知る環境を設定やスタッフとの意見交換ができる場を設定し逆算した支援を考え提供する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	堆肥づくりから畑仕事の循環を知る。
	実践予定内容	・今年度「循環」を１年間のテーマとして、子どもたちと一からコンポスト作りを実施する。子どもたちが調べ、準備し、堆肥を作り、その堆肥を使った畑仕事を行い、食に関わる環境の循環を学び、取り組む環境を用意する。
2	計画・ねらい	生き物の世話を通して、生命を尊重する気持ちを育む
	実践予定内容	・メダカやザリガニの掃除や観察を行い、成長過程や生き物の生態に触れる経験を積み、生きていくために世話が必要なことを理解し、命の大切さを感じられるような活動を設定する。
3	計画・ねらい	保存食の活用とその文化について学ぶ
	実践予定内容	・身近にある保存食を一から作る経験を行いながら、保存食についての文化を学び、食を大切にする気持ちを育む。

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　5人／日
放課後等デイサービス　5人／日
保育所等訪問支援　　2人/日

〈2〉開所時間

9時00分～I8時00分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名
児童発達支援管理責任者I名
保育士I名
社会福祉士I名
機能訓練担当スタッフI名（心理士）
児童指導員3名

3. 運営方針

〈I〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月I回 I20分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。） ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月I回	・当月に起きた事故、インシデント、ヒヤリハットの原因分析と対策を検討する。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
虐待防止委員会	9月 2月	・虐待の定義（法人の定義を含む）を知り、虐待防止に向けた支援員としての行動を考える。
マンスリー会議	月I回	・読売ランド前どろんこ保育園の園スタッフとインクルーシブ保育についての学び合う場を設け、子ども達の発達段階の見極めと支援方針についての検討を行う。

子どもの姿共有会議	月2回	・各曜日リーダーが、月ごとのねらいと現状の子どもの姿を共有し、全スタッフが子どもの姿を捉え、必要な経験や環境構成についての話し合いを行う。
週会議	月2回	・業務や支援の中での気づきや疑問点について話し合う場を設ける。また各スタッフの強みを活かし、ルーム内での勉強会を開催し、支援の質を高める。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年4回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育計画の振り返り、実践報告
保健会議	年4回	衛星、感染症マニュアルの確認、検討、実践報告
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報共有

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	里山の畑やプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだか、ザリガニの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
環境実践及び備	環境取組みの実施、美観取組み、備品及び在庫管理

品管理係	
外部連携調整係	外部機関への挨拶回り、当事業所の宣伝

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
体験学習係	体験学習の立案、計画、実施、振り返り
読売ランド前どろんこ保育園 主催どろんこ祭り係	読売ランド前どろんこ保育園との連絡調整、稟議申請、計画及び準備、実施、振り返り
地域向け企画係	青空保育、地域の子育て相談会、地域向けの企画計画、実施、振り返り
保護者交流会	保護者会の立案、計画、実施、振り返り

4. 支援方針

〈1〉基本方針

放課後デイサービス	上半期	・学校での疲れを癒しながら、子どもが自分のしたいことに没頭できる安全な場所としての役割を果たす。 ・日課活動や調理活動を行い、活動が選択できる環境の中においても「自分ですること」の意識を持つ。
	下半期	・利用児の主体性を受け止めながら、地域の方や他児者との関わりを増やし、豊かなコミュニケーションを育む。 ・地域での活動の中で、職業体験や地域交流を増やし社会性を育む。 ・畑仕事や食育を行い、労働の意味を理解し取り組む。 ・子どもたちで話し合い、活動や遊ぶ場を決める。
児童発達 午前グループ	上半期 2～3歳児	・新しい友達や環境に慣れる ・安心して過ごす場所としての役割を果たす。 ・生き物の世話や畑仕事、食育・調理活動などを行い、生き物や食材に触れる
	下半期 2～3歳児	・友達を意識することで、遊びや興味の幅を広げていく。 ・自分の気持ちを自分なりに表出する場面を増やしていく。
児童発達 午後グループ	上半期 3～5歳児	・新しい友達や環境に慣れる ・安心して過ごす場所としての役割を果たす。

		・生き物の世話や畑仕事、食育・調理活動などを行い、生命の尊さ、食や食材の循環を知る。
	下半期 3～5歳児	・子ども同士で遊んだり、話したりできる環境を用意し、豊かなコミュニケーションを育む。 ・子ども一人ひとりの表現方法で自分の気持ちを他者に伝えることができる。 ・畑仕事、生き物の世話を子どもたちが自ら進んで行う。 ・子どもたちで話し合い活動を決める。 ・小学生との関りを増やし、小学校１年生を意識して活動に参加する。
マンスリー	マンスリー児 ビジター児	・新しい友達や集団生活の環境に慣れる。 ・進級に伴う環境の変化に慣れる。 ・子ども一人ひとりの表現方法で自分の気持ちを他者に伝えることができる。 ・興味関心を広がり、子どもたちが自主的に活動に参加する。 ・子どもたち同士で関わり合い、話し合える環境を用意し、自分で考え行動できる力を育む。
保育所等訪問支援	対象者	・訪問先の園や学校、家庭との連携を行いう ・こどもたちの気持ちやペースを大切にしたうえで、集団での過ごし方のサポートを行う。
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子どもたちが考え、計画、実行する食育年間計画
	実践予定内容	・子どもたちで何を育て、何を食べたいのかを話し合い、計画を立てる。

		・必要なもの、ことを子どもたちで考え、実行しながら、育てる～食すまでの連続性を経験し、食への興味関心や大切にする心を育む。
2	計画・ねらい	調理くずや提供後残渣を子どもたちと理解する。
	実践予定内容	・子どもたちが実施している毎日の調理活動の中で、調理くずや残渣量を毎調理時、子どもたちと計測し残渣について理解を深める。 ・またコンポストについての座学を実施し、堆肥作りを行い食の循環を学び経験する環境を用意する。
3	計画・ねらい	身体の中の食の働き、食べることの大切さについて理解を深める
	実践予定内容	・なぜ野菜を食べるのか。なぜお菓子ばかりではいけないのかなど健康的に生きていくために必要な食への理解を深められるよう、収穫物についての栄養素などを視覚的に用意する。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃･･･手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎（はやり目）、伝染性症軟属腫（水いぼ）、伝染性膿痂疹（とびひ）、アデノウイルス感染症など 11～２月頃･･･溶血性連鎖球菌感染症、ウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症、インフルエンザなど
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在7名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日

	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが選び取り、夢中になれる関り合える環境構成
	実践予定内容	・子どもたちが夢中になれる、遊び込める環境を設定するために、発達段階に適した様々な道具を設置する。 ・子どもたち同士が話し合い、考え、調整する経験ができる量を用意する。 ・環境構成に対しての子どもたちの様子を振り返り、記録に残し次回の支援に活かすサイクルを作り、環境構成についてのスタッフの意識を高める。
2	計画・ねらい	保護者や地域の利用者の憩いの場となるカフェ作り
	実践予定内容	・子どもたちの制作物や子育てに関する本や地域関連の情報などを設置し、「待った気がしない」お迎え時間、または一息つける憩いの場を提供する。 ・カフェの設置物やメンテナンス、掃除については定期的に実施する。またその日程回数を記録に残し美観を保つ。
3	計画・ねらい	地域環境への意識を育て、地域を大切にする。
	実践予定内容	普段何気なく活動している地域でのゴミ拾いを定期的に実施し、地域環境への意識と公園や商店街など自分たちが暮らしている街を大切にする気持ちを育む。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

・該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	地震や火災、河川の氾濫などを想定して月1回の避難訓練を行う。訓練の実施前計画、実施後の反省、次回の課題などを話し合い、スタッフ全員が防災の意識を高める。また、防災に関する活動を支援内で行うなど、子ども及び保護者も防災への意識が高まることを期待する。
2	実践予定内容	活動前にはミーティングを適宜行い、予想されるケガやその対応について話し合う。また、ヒヤリハットをスタッフで出し合い、事故を未然に防ぐ物的及び人的環境や活動場所の検証を行う。
3	実践予定内容	不審者訓練を年2回行う。笛の所持、インターホンの確認、ドアロックの解除、施設周辺の点検、合言葉の確認を適宜行う。
4	実践予定内容	光化学スモックの知識を身に着け、自治体からの注意情報を把握する。また、光化学スモック注意報が発令された場合は室内で活動する。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。
種類）中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

〈1〉今年度の方針・テーマ

実習受け入れやボランティア活動ができることをSNSで周知する。ボランティアや実習生を積極的に受け入れ、福祉に関心を向けるきっかけ作り、保育や福祉で活躍する人材を育成する。

1	実践予定内容	中学生や高校生の体験学習や職業体験の受け入れを行い、保育や福祉に関心を向けるきっかけ作りをおこなう。
2	実践予定内容	近隣大学生、専門学生の実習生受け入れを行い、保育や福祉を担う人材を育成に努める。
3	実践予定内容	地域の方や学生などのボランティア活動の受け入れを行い、地域の保育や福祉が豊かになるようボランティアの育成に努める。

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。

③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切りロを変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月１回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間６回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低１名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈１〉2025年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月8日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 環境構成について ④ 人権チェック ⑤ ケース会議	現在の環境構成から見える子どもの姿を捉え、成長にあった環境構成について考え、構成する。
5月13日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② アセスメントと５領域について ③ 今月の食育/について ④ ケース会議	アセスメントの基礎と５領域について学び、子どもたちの行動や成長または困り感を正確に捉える。
6月3日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 水辺のリスクについて ④ ケース会議	水遊びの危険性やチェックするポイントを学び、活動内容を検討する。
7月1日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 児童発達ガイドライン ④ ケース会議	ガイドラインを読み解き、児童発達支援についての理解を深め、支援の在り方について検討する。

8月5日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 放課後等デイサービスガイドライン ④ ケース会議	ガイドラインを読み解き、放課後等デイサービスについての理解を深め、支援の在り方について検討する。
9月2日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 虐待防止委員会 ④ 保育所等訪問支援ガイドラインについて ⑤ ケース会議	ガイドラインを読み解き、保育所等訪問支援についての理解と連続した支援について考える。
10月7日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 人権チェック ④ 保育所保育指針について ⑤ ケース会議	保育所等保育指針から発達の支援を学び、支援を組み立てる
11月4日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 小学校学習指導要領について ④ ケース会議	園長大学@保育士大学を用いて小学校についての学びを深め、逆算した支援を考える。
12月2日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 今年度の振り返りと次年度について ④ ケース会議	今年度を振り返り、次年度に繋げるための話し合い、支援の質の向上を図る。
1月6日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ インクルーシブ保育について ケース会議	マンスリー支援、通所支援を振り返りながら、園長大学@保育士大学を用いて、インクルーシブ保育についての理解を深める。
2月3日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 保護者支援について	保護者支援について事例を用いながら、対応について検討し保護者支援の質の向上を図る。

		ケース会議	
3月3日	13:00～14:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 次年度について ④ ケース会議	次年度についての共有、達成に向けて具体的なアクションプランを立てる。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

日々の戸外活動や地域交流を通して、生田ルームという存在が認知され始めている。地域に開かれた施設として、地域を招く体験活動や、職業体験などをより関係性を深める活動を実施する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：生田緑地（中央広場）にて。夏季は生田支所下校庭広場にて。
商店街ツアー	週1回
世代間交流	近隣大学生との交流。近隣の高齢者施設での交流。
異年齢交流	法人内外の保育園との交流、近隣小学校との交流
地域拠点活動	つむぎカフェにて、地域の方や近隣保育園を招き、子どもたちが作ったものを提供する活動を行う。

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

園長大学@保育士大学を活用し、小1についての学びを深める。またスタッフ全員が公開授業や学校見学に出向き、実際の小学校1年生の姿や保育所等訪問で見えた姿を理解したうえで逆算した支援が行えるように努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を5月12日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	生田小学校	当日の利用人数	放課後での校庭遊び	子ども間交流
9月頃	生田小学校	若干名予定	授業参観	スタッフ間交流
10月頃	生田小学校	当日の利用人数	放課後での校庭遊び	子ども間交流
11月頃	西生田小学校	若干名予定	授業参観	スタッフ間交流
1月頃	南生田小学校	若干名予定	スタッフ意見交換	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

原則６か月以内に１回以上のモニタリングを保護者に実施する。目標及び支援方法、見立てなどを策定会議にて話し合い、個別支援計画書の作成を行う。個別支援計画書の内容を保護者に説明をして同意を得てから、計画書に沿った支援を提供する。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：8名予定）

毎月のルーム会議の中でケース会議を行う。子どもや保護者の困り感が強いケース、支援が難しいケース、また、支援が良好なケースや発達が良好なケースなども含め会議を行い、スタッフ間の情報共有とともに、適切な支援を再考する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シート及び電話、来訪にて進級引継ぎまたは小学校への引継ぎを行う。自施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などの児の強みを積極的に伝え、進学先及び進級先での新しい生活における見通しとなるように引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～17:00　　集客目標：50名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:30～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）9:00～17:30
青空保育	月1回　　公園名：生田緑地中央広場にて開催　集客目標：60名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年10月10日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１０時００分
自己評価終了予定時刻：１３時００分
自己評価実施予定者：渡邊朋子、森谷太郎、田中誠

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・子どもたちが主体的に選びとれる活動内容の充実
	振り返り	・自施設の環境を最大限に活かしながら、子どもたちにとって遊び込める環境とは、必要な物資は何かを話し合い考えた一年であった。 児童発達支援・放課後等デイサービスともに、静と動また制作のゾーンを作り、選び取れる環境構成を設定した。また支援者を各曜日担当制にしたことで、子どもの姿を捉えやすくなり、一人ひとりの発達段階に応じた物資を用意し、日々の支援についても連続性のある活動内容を提供することができた。しかし、考え環境を構成していくことを振り返ることができていないことや、子どもたちの成長や活動内容に合っていない環境構成であったことが多くあった。 ・今年度からは、生き物の世話を開始した。普段見ていた生き物たち（サリガニ、メダカ、ヤギ、鶏）は、人が世話をしていかなければ生きてはいけないことを知り、またその命を頂き生きていることを学び、命に触れ「生と死」について体験し考える環境を提供することができた。継続的に世話をすることができていないことが課題なため、労働が必要な理由を説明しながら継続して取り組めるように努めていく。 ・近隣園でのマンスリー支援を開始し、集団生活の中で子ども同士関り合いながら、自らが考え、行動できる環境を提供できるよう園スタッフと話し合いながら進めてきたが、子どもの見立てや子ども一人ひとりに対する関り方についてのすれ違いがみられた。そこについて、各スタッフの見解や思い、子どもの育ってほしい姿について園スタッフと話し合う時間の確保が難しく苦戦した一年であった。今後も自施設ができることを考え、実践していきながら、子どもが自分らしく生きていくための力を育めるよう園と連携しながら支援を行う。 ・生田全スタッフの学びの場や各スタッフの強みを活かした業務を実施することができなかった。 まずはスタッフ一人ひとりと対話し、各スタッフの強みや苦手な部分を分析した上で、必要な研修会を実施し自施設全体のスキル向上を図る。 また自施設の運営についての課題を整理できていなかった。まずは稼働や業務についての分析を行い、具体的な営業施策を考え実施する。その結果について自施設で話し合い、次のアクションプランを立て実行しながら、地域に根差した施設となる。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

25年度	目指す姿	・自ら考え、学び、発信するスタッフの育成 ・インクルーシブを地域に深く拡大
	重点施策	・子どもの育ちについて常に考え、必要な経験、活動について話し合うため、「こどもの姿会議」を実施。 ・業務や支援の中での気づきや疑問点、または自身の強みについて理解し、調べ、ルーム内で発信する。スタッフ全員が刺激し合い学び合える場を設定する。

		・マンスリービジター利用児を獲得し、地域の子どもたちにも支援を届け、子どもたち、保護者、保育者、教育者から、信頼され相談される、地域に開かれ根付いた施設となるために、インクルーシブ保育を広げていく。 ・20名定員と定員数を広げ、より多くの子に支援を提供し、地域の子育てに貢献する。
26年度	目指す姿	・断捨離：必要なもの、ことの見直し ・地域の子ども達、保護者、保育者、教育者、他事業所から必要とされる事業所
	重点施策	・開所してからこれまでを振り返り、必要なもの・ことの整理を行い、より子どもたちのために必要な支援について注力できる施設を構成する。 ・マンスリー支援、保育所等訪問支援と繋げ、連続した支援を自施設で実施してきた。当年度は地域や他事業所との連携強化し、子ども一人ひとりに必要な支援経験を提供する。地域で切れ目のない支援を提供できるよう働きかけ、必要とされる事業所となる。
27年度	目指す姿	・活動拠点場所の拡大 ・食を通して環境、自分自身と向き合い大切にできる心をはぐくむ
	重点施策	・地域に開かれた施設であるために、全ての大人や環境に働きかけ、地域で切れ目のない支援の土台を作ってきた。当年度はより地域の子育てに貢献するために、活動拠点場所を増やしインクルーシブ保育を自施設から発信拡大し、引き続き子どもに必要な支援経験を提供し続ける施設を目指す。 ・命の大切さ、食と環境の見直しを経て、食べ物を大切にする気持ちや自分たちが住む地域の環境について考え、大切にする気持ちを育む。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 生田ルーム 施設長　辻　美怜

２０２５年度　発達支援つむぎ 武蔵野ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

理念「にんげん力。育てます」
目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人　コミュニケーション」
を基本としながら、2025年度運営本部Missionである「基本活動の深い理解」「畑仕事・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧に行う」「～混ざるのその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する」「自走に向けて」を目指す組織作りを行っていく。

児童発達支援では、園とのインクルーシブ保育を継続しながら、子ども同士の交流、感情のコントロール、社会性を遊びから学び、「生きる力」を育んでいく。
放課後等デイサービスでは、「ホンモノの経験」を通して、働くことの楽しさを感じ、働く意欲を高め、利用者の未来へと繋げていく。
自身で考え行動判断し、生活力、選択力、思考力を育んでいける環境を構築していき、大人が物事を決めずに子ども自身が考えながら、本物に触れていけるようにしていく。
またスタッフも混ざり合い、保育園、つむぎ共に同じ目線で子どもを見守り、共に子どもの成長を促し、お互いに学びを深めていける関係性を構築していく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	園児、つむぎ利用児、スタッフ全員が混じりあい、今必要な保育、支援を行っていく
	実践予定内容	インクルーシブ保育を行っていく中で、全員が分け隔てなく共に過ごし、特性あるなしに関わらず、お互いを尊重しあいながら生活できる環境を構築していく。 放課後等デイサービスでは様々な人物事との交流を通して、人との関りから社会性を学び、働くことへの意欲を高めていく
2	計画・ねらい	支援内容の充実
	実践予定内容	全ての活動の意味軸を個々が理解したうえで、支援にあたれるよう定期的な研修を通して、学びを深めていく。 ホンモノの体験を経験していく中で、考察を常に行い、子どもの成長に合った支援を行っていく。 散歩時に長い距離を歩くだけではなく、道中の自然や子どもの興味関心の引く物に注目しながら学びに繋げていく。昔ながらの伝承遊びを子どもたちに伝えていく。 放課後等デイサービスでは労働を介して、協働性、社会性、規範意識を学ぶとともに、感謝の言葉に触れ、満足感を得られるよう支援する。 地域の情報をこまめに確認し、地域資源を活かし、地域交流を行っていく。

3	計画・ねらい	畑仕事、生き物の世話、堆肥作り
	実践予定内容	成功体験だけでなく、失敗経験も含めて、全て自分で経験が積めるよう計画性を持って支援を行う。 ビオトープなど新しい物にもチャレンジし、経験値を増やしていく。 命をいただく活動を行い、子どもだけでなく大人も改めて命の大切さを知る経験を積む。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者懇談会開催
	実践予定内容	就学後の福祉サービス、就学先情報などを伝えていき、保護者の不安軽減に努めていくとともに、保護者間交流機会を設けていき、保護者同士の繋がりを作っていく。
2	計画・ねらい	公共施設、関係機関との連携構築
	実践予定内容	公共機関と繋がりを作ることで、地域交流機会を増やしていく。 学校、関係機関、保育園及び幼稚園を知ることで、就学、就労へと繋げていく。関係機関と繋がることで、保護者に還元していく。関係機関の研修会にも積極的に参加していき、横の繋がりを構築していく。
3	計画・ねらい	日々の成長を伝えていく。
	実践予定内容	フィードバックだけではなく、タイムライン、インスタ、おたよりを通して、活動の様子や日々の友だちとの関り等を伝えていき、安心して預けられる場所になる。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育園利用者へのつむぎ紹介、発達についての学び
	実践予定内容	毎月保育園掲示物として、つむぎの紹介、発達についての紹介等を作成し掲示していく。保護者に児童発達支援事業、放課後等デイサービスを知ってもらう機会を作っていく。
2	計画・ねらい	発達相談室開催
	実践予定内容	ちきんえっぐを活用し、武蔵野どろんこ保育園と共に相談会を開き、園児、地域の方向けに相談室を行うことで、つむぎを知ってもらう。 保育園児の面談にも同席する機会を設け、保護者にとって安心材料となる情報を提供していく。
3	計画・ねらい	地域貢献活動からの認知度ＵＰ
	実践予定内容	放課後等デイサービスの活動で、勝手かごの活用、事業所周辺・地域の公園のゴミ拾い、児童館との関係を構築し掃除の手伝いなど、地域貢献活動を通して認知度を上げる。 地域との繋がりを作っていくとともに、連携して公共施設の企画に参加するなど、地域イベントに積極的に参加をしていくことで、様々な経験を積めるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	ルーム内会議にて発達研修会実施
	実践予定内容	支援、保育の質を上げるために、毎月ルーム内会議にて研修会を実施。発表者を決め、全員がアウトプットから学びを深めていけるようにしていく。つむぎ内だけでなく、園スタッフ含めて学びを深めていける機会を設けていく。
2	計画・ねらい	他ルーム、他園研修実施
	実践予定内容	毎月1名以上を他ルーム、他園を見に行く機会を設け、自ルーム以外を見て学び、違いに気付き、発表に繋げていくことで、自身だけでなく、園含め全体の底上げに繋げていく。 知識向上だけでなく、環境構成にも目を向けていけるようにする。
3	計画・ねらい	コンピテンシーから社会人としての基盤を学び、課題に対して実践
	実践予定内容	コンピテンシーから自身、ルームの課題を個々が抽出し、課題に取り組み、自身の学び、業務効率化に繋げていく。また報連相や自己管理など当たり前のことを当たり前に行えるよう自律運営に向けて取り組んでいく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物、農作物と触れ合える環境作り
	実践予定内容	生き物や農作物と直接触れ合うことで、生命の尊さ、食育に繋げていく。 年間を通して、触れ合える環境を用意し、成功失敗体験を直接的に経験できるようにする。 ビオトープを畑に展開し、生物多様性を学び、守り育てる経験を積んでいける環境を作る。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員
　児童発達支援　６人／日
　放課後等デイサービス　４人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者１名
保育士３名
他３名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回60分	・施設長会議共有 ・質会議共有 ・専門士による支援技術の共有 ・ケース検討 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う）
給食運営会議	月1回	・メニューについて ・利用者の給食状況について共有
事故防止委員会	月1回	・法人内及びつむぎ全体の事故、インシデント、ヒヤリハットの共有、検討
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
園会議	月1回120分	・保育園の懸案事項、園内研修、コンピテンシー、行事内容の確認、ディスカッション等、武蔵野どろんこ保育園と合同開催

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	適宜	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表

食育会議	年4回	食育計画作成など
保健会議	年4回	感染症対策などの情報共有
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士の情報共有と連携の推進

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑の整備、計画的な活動の立案
生き物係	飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
広報係	インスタグラム管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域交流を目的とし、武蔵野どろんこ保育園と共に準備、進行を行う。
運動会係	子どもの日々の成長を、会を通して保護者に見てもらう。武蔵野どろんこ保育園と共に行う。
生活発表係	子どもの日々の活動を保護者に伝える場として、武蔵野どろんこ保育園と共に行う。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	通年	・日々園児と共に生活をしていく中で、生きる力を育んでいけるよう武蔵野どろんこ保育園と協力し、友だちとの交流、物事場の共有を大切にしていく。また自己選択できる環境を構築していく中で、自然とコミュニケーションが生まれる環境を作り、子ども同士で学んでいける場を提供していく。 ・戸外活動を中心に自然体験を取り入れ、感覚を刺激しながら成長を育む。 ・園児、つむぎ利用児と分けるのではなく、一緒に生活し、お互いに学びあえる環境を構成していく。
異年齢グループ	通年	・戸外活動を中心に、子ども同士の交流、園児との交流機会、地域交流を推進する。 ・主体性を大切にしながら協同性を学び、自分の気持ちを表出しながら相手の気持ちを知る経験を増やす。 ・表現機会を取り入れ、自己表出場面を増やし、自己肯定感を育む。 ・自身が取捨選択し楽しめる環境を用意する。
放課後等デイサービス	通年	・卒業後の就労を意識した労働の経験を提供する。就労支援つむぎ武蔵野ルームの業務を共に行える場を作る。 ・武蔵野どろんこ保育園、地域との交流機会を大切にし、地域貢献を通して自己肯定感を育む。 ・就労を意識した中でも、原体験、戸外活動を大切に自己発信が出来るようにしていく。
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食を楽しむ。
	実践予定内容	午前活動でしっかり体を動かし、給食を友だちやスタッフと一緒に食べ楽しむ経験をしていけるよう日々の活動を行う。 食事を通して溢れる言葉や身振り・手振りでの表現機会を大切にする。 土曜支援と放課後等デイサービスでは、畑で取れた野菜での調理活動などを通して、友だちやスタッフと一緒に食事を作る機会、食べる機会を提供し食への関心を高めていけるよう取り組んでいく。
2	計画・ねらい	畑仕事を通して食育
	実践予定内容	畑を通して一連の畑仕事を学び、食べるだけでなく、管理、収穫、調理に繋げていく。放課後等デイサービスでは販売業務にも繋がる場面を作り、就労に繋げていく。
3	計画・ねらい	命をいただく経験
	実践予定内容	武蔵野どろんこ保育園と共に、ニワトリのお世話をしながら、実際に食す場面を提供していく。食の循環、命の尊さを学んでいく。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６～９月頃･･･手足口病、はしか、プール熱 １１～３月頃･･･インフルエンザ、ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･該当児童無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	未設置
その他保健に関する取組	衛生管理に努める。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	自己選択できる環境作り
	実践予定内容	武蔵野どろんこ保育園と共に子どもがやりたいと思ったことができる環境を作っていく。自己選択環境を作っていく中で、自然と友だちとのコミュニケーションが生まれる環境作りにも努めていく。 土曜グループにおいても、自ら選択してプログラムを行っていく中で、課題面を抽出し、成長を促せるよう努めていく。 放課後等デイサービスでは自己選択を大切にしながら、就労を意識し、自身で学びが深めていけるようプログラムを提供していく。
2	計画・ねらい	室内環境整備
	実践予定内容	保護者や地域の方にとって心地よい環境にするために、就労支援つむぎ 武蔵野ルームと共に適宜室内環境を見直し、よりよい環境構築を目指す。 ただの待機場とするのではなく、待っている間にも保護者にとっても学びの場となれるよう地域資源情報、福祉サービス情報などを開示していく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対応	地震や火災を想定して月1回の避難訓練を行う。訓練の実施前計画、実施後の反省、次回の課題などを話し合い、スタッフ全員が防災の意識を高める。また防災に関する活動を支援内で行うなど、子ども及び保護者も防災への意識を高めていく。
2	ケガ事故防止への対応	活動前にはミーティングを適宜行い、予想されるケガやその対応について話し合う。ヒヤリハットを出し合い、事故を未然に防ぐため、物的および人的環境や活動場所の検証を行う。
3	防犯対応	不審者訓練を年2回行う。笛の所持、インターホンの確認、ドアロックの解除、施設周辺の点検、合言葉の確認を適宜行う。
4	光化学スモッグ	光化学スモックの知識を身に着け、自治体からの注意情報を把握する。また光化学スモック注意報が発令された場合は室内で活動を行う。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。
種類）中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

〈1〉今年度の方針・テーマ

地域に根付き、将来的に地域全体で見守っていくうえでも、地域の方につむぎを知り理解をしてもらう必要がある。ボランティアや実習生を受け入れることで、つむぎを知ってもらうきっかけ作りにしていく。杏林大学の学生を受け入れ、新卒採用に繋げていく。

1	ボランティア受け入れ	ボランティアセンターと繋がり、子どもや利用者に様々な方との触れ合い経験を提供していく。
2	実習生受け入れ	実習生を受け入れることで、つむぎを知ってもらい、つむぎの採用に繋げていく。定期的に杏林大学の学生の受け入れを行っていく。

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、また一人ひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月１回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間６回を目標とし、課長・施設長で機会を調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、見地を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低１名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。
⑧ 園長大学・保育士大学への参加と企画提案：社内で企画される園長大学・保育士大学講座に積極的に参加。
⑨ コンピテンシーを行っていくうえで毎月面談を行い、自身が深めていきたい内容を決め、実施、振り返りを行い、自身の成長へと繋げていく。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 虐待防止研修 ④ 運営基準について	発達についての学び 虐待について話し合い 都が定める運営基準について学び理解する
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ ガイドライン	発達についての学び 児童発達・放課後等デイサービスのガイドライン読み合わせ
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 水難事故研修	発達についての学び 水遊び、プール活動の危険性について

7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 個別支援計画	発達について 個別支援計画の作成・重要点
8月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 小学校指導要領について	発達について 小学校指導要領の読み込み
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 就学支援シートについて	発達について 就学に向けて
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 虐待防止研修	発達について 虐待について話し合い
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 感染症対策	発達について 感染症について
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修	発達について
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 園長大学®保育士大学視聴	発達について 運営本部Mission視聴
2月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 2025年度振り返り	発達について 2025年の振り返りから次年度に向けての話し合い
3月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 保育運営マニュアル	発達について マニュアル読み合わせ

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®・保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた子育て支援事業所として、併設園である武蔵野どろんこ保育園と共に地域に根付いた支援を目指していく。保育園に通う子どもの保護者、地域の子育て家庭、高齢者施設、つむぎカフェ利用客など、つむぎを知ってもらう機会を作っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：99名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：おおぞら公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設に行き、交流会
異年齢交流	中高生交流、つむぎ就労利用者との交流、児童館での交流
地域拠点活動	ボランティア、実習生の受け入れ

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校だけではなく、中学校、高等学校、特別支援学校、就労支援事業所との連携を持ち、支援がよりスムーズに引継ぎが出来るよう連携体制を深めていく。

また保育所保育指針、学習指導要領の読み込み、中身を理解し、就学・就労に繋げていけるよう努めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月７日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
9月頃	田無特別支援学校 石神井特別支援学校	1名予定	学校公開 （田無特別支援学校） （石神井特別支援学校）	学校見学 スタッフ間交流
9月頃	武蔵野市立大野田小学校（あさがお教室）	1名予定	学校公開 （大野田小学校）	学校見学 卒園児見守り
11月頃	上向台小学校	1名予定	授業体験 （上向台小学校）	子ども間交流
11月頃	向台小学校	1名予定	授業体験 （1年生教室）	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもに合わせた支援の目的、内容を児童発達支援管理責任者、担当者とケース検討し、6ヶ月に1回以上モニタリングを行い、支援計画を更新し、子どもまたは保護者の同意のもと作成を行う。また相談支援事業所との連携、他事業所、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、保育園等での様子、家庭での様子を含め、連携を密に取りながら作成していく。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：6名予定）

毎月ケース検討会議を行い、利用者にとっての最善の利益を考え、より良い質のある支援を提供できるようスタッフ全員で検討していく。園のケース会議にも参加し、子どもにとって必要な支援を考えていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学先には就学支援シートを活用し、児童発達支援が行ってきた支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項等、小学校生活がより豊かになるように情報提供に努める。就労先も同様、特性や状況、配慮事項を伝えられるよう努めていく。

学校公開や交流会などを通して、安心して進級できるよう連携を取っていく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：10名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（土）12:00～13:00　　集客目標：10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔週（木）10:00～12:00　　集客目標：20名
つむぎだより	毎月1日発行

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年上期、下期に１回ずつ「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：８時３０分

自己評価終了予定時刻：１７時００分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	武蔵野どろんこ保育園、就労支援つむぎ武蔵野、地域、関係機関との交流 自己選択できる環境作り 命をいただく活動
	振り返り	武蔵野どろんこ保育園とのインクルーシブ保育では、園児とつむぎ利用児が

		交わる機会も多く出てきており、共に楽しむ場面も見られるようになってきている。スタッフ間での連携不足感があり、コミュニケーションを密に取り、園、つむぎと分けることなく共に子どもの成長を見守れるようにしていく。 高齢者施設、児童館等、地域にある施設を利用し、交流することは出来た。継続して関係性を構築していき、行事にも参加し交流を深めていく。 命をいただく活動について、活動の重要性をスタッフに落とし込んでいき、子ども含め全員で前向きに取り組んでいけるよう、命について学べる場を展開していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

25年度	目指す姿	連携を深め、保育園、つむぎ関係なく混ざりあう 支援の質向上（ホンモノの体験からの成長） 地域、関係機関との連携
	重点施策	特性あるなしに関わらず混ざりあい、共に生きる力を獲得し、壁のない保育、支援を行っていく。 ホンモノの体験を通して、生活力を学び、主体性を大切にしながら得意部分を伸ばしていく。 インクルーシブ社会実現に向けて、地域、関係機関との連携を密に行い、お互いを知り、関係構築に繋げていく。 学生の実習受け入れを行い、採用に繋げる。
26年度	目指す姿	混じりあいを継続し、かつ支援を深める 地域連携を深める
	重点施策	保育園スタッフ、つむぎスタッフ全員が同等の目線を持てるよう、保育、支援を共に学び、成長を目指す。 構築した地域連携を継続して行っていき、基盤を固めていく。
27年度	目指す姿	地域で頼られる存在に。
	重点施策	保育園スタッフ、つむぎスタッフ全員が保育、発達支援について同じ目線を持って保育、支援にあたる。 地域との繋がりを深め、つむぎを頼れる存在になる。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 武蔵野ルーム 施設長　御殿谷　雄二

２０２５年度　発達支援つむぎ 内箕輪ルーム
事業計画書

1．基本方針

２０２５年度運営本部Missionに基づきDoronkoが構想する社会を目指していく。
内箕輪どろんこ保育園と併設する児童発達支援事業所として、インクルーシブな環境の中、園児とつむぎの利用児が一緒に生活し、多様性を認め合う子育てを提供していく。政府のインクルーシブ重点視点からも保育園とつむぎが混ざり、互いの領域を超えて保育と支援を行う併設園としてインクルーシブ保育に力を入れていく。

① 子どもの「生きる力」を育むために、法人の日課・基本保育活動をマンスリー、ビジター共に実施する。活動の意図を深く理解し、大人が背中を見せ、子どもたちが楽しみ取り組むことができる環境を創っていく。

② 畑仕事や生き物の世話を通して、他者と協働し取り組み自己有用感を育んでいく。
また堆肥づくりや種まき、収穫、加工を通して循環教育を行って行く

③ 園を取り囲む豊かな自然環境を存分に活かしながら、子ども自ら主体的に関われる物的環境を戸外・室内に設定し自分で考え、選択し、行動する力を育んでいく。

児童福祉法、保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインをすべての基盤に君津市の子ども・子育て支援計画やどろんこ会グループ理念・方針運営本部ミッションに沿って、常に子どもの最善の利益と真に必要な体験を追求しながら、保育を行って行くことを保育者一人ひとりが前提としたうえで、以下の保育目標を達成する。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	**計画：日課・基本活動の充実** ねらい：スタッフ一人ひとりが子どもたちに必要な活動の意図を理解し保育・支援を展開していく。
	実践予定内容	・園会議や策定会議の場を活用し、入園のしおりなどを元に法人の基本活動への理解を深める。 ・日課・基本活動の意図やねらいをスタッフ一人ひとりが理解し、保護者対応の場面や見学対応の場面で自分の言葉で伝えられるようになる。 ・子どもたちへの言葉掛け、援助だけでなく大人が背中を見せ、日課・基本活動を実践していく。
2	計画・ねらい	**計画：子どもの発達に関する理解を深め、アタッチメントを意識し個々に寄り添った保育と支援の実施** ねらい：子どもの発達に関しての学びを深め、個々の発達を理解し、受容的な関わりから自己肯定感を育む。
	実践予定内容	・子どもの発達を理解し、個々にあった保育と支援を実施していく。

		・エピソード、ドキュメンテーション、リフレクションなど様々な技法を用いて園内研修を行い、「発達段階」「子ども理解」について学び合う。 ・子どもたちの姿（遊ぶ様子）を見守り心情を探り、必要な場面で必要なだけの関わりを行うことを意識し保育・支援を行う。
3	計画・ねらい	**計画：連続性のある保育・支援の実施** ねらい：スタッフひとり一人が点ではなく線を意識した保育・支援計画を立案し、展開していく。
	実践予定内容	・行事などが日々の遊びから発展し展開できるよう、点ではなく線を意識し保育・支援を行う。 ・子どもたちの今好きな遊びなどをスタッフ間で共有し、発展させていく。今日で終わるのでなく、明日も続きができるような保育環境をつくっていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	**計画：安心・信頼できる丁寧な保護者対応** ねらい：安心して預けられる場、保護者の方が相談しやすい環境をつくる
	実践予定内容	・日々丁寧な保護者対応（フィードバック）を行う。必要に応じてその日の姿を動画や写真で残し、手に取り分かるようなフィードバックを行う。 ・モニタリング等の面談だけでなく、家族支援（事業所内相談支援）などを活用し、保護者のニーズに合わせ面談の機会を設けていく。
2	計画・ねらい	**計画：土曜日を利用した体験学習の実施** ねらい：つむぎでの活動を実際に保護者の方にも体験して頂き、つむぎの支援を知ってもらう。普段関わらない子ども同士の関わりの場をつくる。
	実践予定内容	・親子、子どものみ対象とした体験学習を年３回程度計画し、実施する。体験学習後、アンケートを実施し、アンケートで出た内容を次年度の支援・体験学習に組み込む。
3	計画・ねらい	**計画：保護者交流会や講座の実施** ねらい：園の懇談会やつむぎ利用の保護者のみでの交流を通して、気軽に会話できる場を提供していく。
	実践予定内容	・マンスリー、ビジター利用児対象の保護者交流会の実施 内容としては、懇談の場だけでなく就学相談、放課後等デイサービスなど就学に関しての講座や、保護者のニーズを伺いながら各スタッフの専門性を活かした講座などを実施する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	**計画：地域の事業所・小学校との連携を図る** ねらい：就学時、事業所間で円滑な引継ぎを行い移行時の不安を少しでも減らし、途切れのない支援を行う。
	実践予定内容	・利用者の通っている保育所、幼稚園や事業所との連携を密に行い、必要に応じて個別支援計画書の見直しを行い、支援の質を向上させていく。 ・就学時には、必要に応じて小学校との連携を行い、途切れのない支援を行っていく。

2	計画・ねらい	**計画：ちきんえっぐとの共同企画の実施** （青空保育・芸術学校・寺親屋等） ねらい：地域の方が気軽に足を運ぶことができる場所となり、つむぎについて認知度を高める。地域の中で気軽に相談できる場所となる。
	実践予定内容	・ちきんえっぐと共同イベントの企画・実施 地域の子育て家庭のニーズを理解し、ニーズ合わせ各スタッフの専門性を盛り込みイベントを企画・運営していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	**計画：チーム保育の確立** ねらい：スタッフ間の連携の強化・PDCAサイクルを意識した保育・支援を行う。
	実践予定内容	・子どもたち一人ひとりをスタッフみんなで見守ることの「面白さ」「必要さ」「難しさ」を共有し、現在の子どもの姿を全員で理解する ・保育者同士でのコミュニケーションは“子どもを真ん中にした対話”を密に行い、子ども理解に努めることで、最善の利益を考えていく。また、保育者同士の密な共有から、子どもの集団を複数で見守り怪我や事故を防いでいく。
2	計画・ねらい	**計画：園目標・個人・組織目標に対して各自の進捗を明確化していく** ねらい：スタッフひとり一人が参画し、園を創っていく意識をもつ。 目的意識をもち保育・支援を行う。
	実践予定内容	・スタッフは自身で個人目標を設定し、定期的にPDCAを行う中で、１歩ずつステップアップが出来るようにしていく。 ・園目標を達成するために、各月どんなことを意識して日々を過ごすかを全スタッフが考え行動していく。 ・年間を通し施設長のフィードバックを丁寧に行い、目標をもち前進してくことができる環境を創っていく。
3	計画・ねらい	**計画：保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの学びを深める** ねらい：土台である指針やガイドラインを園・つむぎ共に全スタッフが理解し、指針やガイドラインに基づいた保育・支援を展開する。
	実践予定内容	・園会議内で保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインに関しての学びの場を設ける。園・つむぎスタッフ共に相互で学びを深めることで、一貫した保育・支援を展開していく。常に学びをアップデートしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	**計画：循環を意識した環境教育の実施** ねらい：自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける
	実践予定内容	課である畑仕事を通し、食や循環について興味を持つことができる環境づくりに取り組む。野菜の収穫だけでなく、種の収穫を行い、翌年植えるなど連続した活動を行う。循環を意識した畑作りを行う。
2	計画・ねらい	**計画：残渣を意識した子どもへのアプローチ** ねらい：子どもたちが残渣量を知る機会をつくり、給食の盛り付け量の調

		整など残渣への意識をもつ。
	実践予定内容	・毎日の給食で出ている残渣について、子どもたちが理解できるような環境（残渣の見える化）を考えていく。 ・どうしたら、残渣がなくなっていくのかを子どもたちと対話し、楽しみながら残渣が減っていくように進めていく。
3	計画・ねらい	**計画：様々な活動を通して自然の豊かさを知る** ねらい：ホンモノの体験を通して自然との関わり方を知る。
	実践予定内容	川や山など近隣の自然と関わり、自然の豊かさや面白さを感じることができる戸外活動を計画的に行っていく。散歩の目的地や目的を子どもと共有し、四季を五感で感じながら楽しめる戸外活動を支援・保育の中で展開していく。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	**計画：子どもの姿の共有をスタッフ間で密に行う** ねらい：ひとり一人の姿を捉え、共通認識をもち保育・支援を行う。
	実践予定内容	・共有ツール（チャット）などを活用し、子どもの姿の共有を密に行っていく。 ・個別支援計画書作成における策定会議やケース会議などに必ず園・つむぎスタッフが参加し、対話を重ね同じ目線をもち保育・支援を行っていく。また会議の中では子どもの姿の共有だけでなく、具体的にどのように環境をつくって行くか、大人が関わっていくかを多角的な視点で話し合い子どもへの関わりを考えていく。
2	計画・ねらい	**計画：子ども同士の関わり合い、協同性が育まれる保育・支援の実施** ねらい：子ども同士の関わりの場面で、個々に応じた適切な介入を行う。
	実践予定内容	・保育者は子ども同士が話し合えるようにサポートし、子どもたちの様子や言動・思考を記録に取り子どもたちの心情を理解する。 ・子ども同士の関わりが育まれるような人的・物的環境を創っていく。
3	計画・ねらい	**計画：自然に協働する関係性の構築** ねらい：PDCAサイクルを意識し、対話しながら園、つむぎ連携し保育・支援を展開する。
	実践予定内容	・普段の保育活動に留まらず、行事・研修・会議体・園内整備など施設内のおおむねの物事において共に協力し合う体制を取っていく。 ・互いの専門性を認め合い、活かしながら日々の業務を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
機能訓練担当スタッフ２名（公認心理士1名、理学療法士1名）
児童指導員1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・保育園と合同で行う。行事進捗共有。 ・テーマを決め、資料を使った園内研修を行う。
給食運営会議	月1回	・食育活動実践報告、喫食状況の確認、配膳方法
事故防止委員会	月1回	・事故のケーススタディ、各月のインシデント・ヒヤリハットの共有、改善策の検討
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	適宜	・情報共有、支援内容の検討
朝礼・昼礼・夕礼	毎日	・その日の確認と振り返り、情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容

施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	・マニュアル、レシピの見直し、ルームの取り組み発表、アレルギー食検討
保健会議	年4回	・マニュアルの見直し、感染症対策、衛生管理
子育ての質を上げる会議	月1回	・テーマに即した計画的な研修の遂行 ・どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
室内・戸外環境整備係	室内・戸外の玩具の点検を行う 必要に応じて環境の話し合いの場を設け、子どもの発達に即した環境を創る
危機管理係	園内で起きたインシデント・ヒヤリハット等の集計、原因分析 事故防止委員会にて各スタッフへの共有
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
畑係	園内の畑・プランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	かめ・やぎ・にわとりの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、調整、どろんこサポーターとの連携
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画、調整

卒園・入園式係	卒園式・入園式の企画、調整、卒園アルバムの作成

4. 支援方針

〈I〉基本方針

マンスリー	0～2歳	・受容的、応答的な関わりの下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。 ・五感を使い感覚の発達が促されるよう環境構成を行う。 ・一人ひとりの発達の理解を図りながら、子どもが育とうとする力を見極めて適切な環境を用意する。 ・身振りや簡単な言葉などで、経験したことや考えたことを表現する力を養う。
	3～5歳	・１日の生活リズムをつくり、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 ・異年齢の関わりの中で、共に達成する喜びや楽しさを味わう経験から協調性や思いやりの心、充実感を育む。 ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味関心をもつことができるようにする。 ・集団生活の中でのルールやマナーを知り、習得できるようにする。 ・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、想像力を育む。
ビジター	0～2歳児	・様々な興味関心をもつことができる環境づくりを行う。 ・受容的、応答的な関わりの下で大人との信頼関係を育て、安心して通える場となる。 ・見る・聞く・触るなどの経験を通し、感覚の働きを豊かにする。
	3～5歳児	・役割分担、ルールを守って遊ぶ共同遊びを通して、社会性の発達を促す。 ・遊びや生活の中で数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ね、興味関心を高める。 ・活動を自ら選択し、主体的に様々な人・物に関わる環境を設定する。 ・見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すことができるようにする。
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」

保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	**計画：心地良い「食」の時間を保証する** ねらい：落ち着ける環境をつくり、個々に応じた食育を行う。
	実践予定内容	・食事の際にゆったりと落ち着ける人的・物的環境をつくっていく。 ・衛生面も意識し、常に整った環境で食事がとれるようにしていく。
2	計画・ねらい	**計画：空腹の延長で食べる中で「食」への意欲を育む** ねらい：生活リズムの獲得、食の時間に期待をもつ。
	実践予定内容	・午前中は目一杯戸外活動を行い、空腹の延長で食事の時間を迎えられるようにしていく。 ・午前の活動から昼食・午睡などスムーズな動線を意識し、生活リズムの獲得に繋げていく。
3	計画・ねらい	**計画：畑仕事、下処理を行う中で「食」への興味関心を広げる** ねらい：畑仕事の充実、年間を通して食材に触れる機会を増やす。
	実践予定内容	・食事の下ごしらえを栄養士や保育士と行うことで、食への関心を深め野菜などの知識を得る。 ・畑活動を充実させ、自ら育てた野菜などを食することで、自然の恵み命の大切さに気付き食への関心を深める。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 6月頃･･･手足口病

	12月頃･･･流行性胃腸炎 1月頃･･･インフルエンザ 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ1名については4月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 行政からのお知らせの掲示、保健関係研修の受講

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	**計画：子ども自ら考え選択できる環境を創る（人的・物的）** ねらい：10よりも100の探索、好きや得意を見つける環境を保証する。
	実践予定内容	・室内外に問わず、子どもたちの興味関心から今必要な事物は何かを常に考えていく。 ・大人の言葉がけは、指示・命令するのではなく、子ども姿を捉え、子ども自身が考えて行動できるように行っていく ・子ども一人ひとりの発達を丁寧に捉え、発達に即した玩具や遊びを設定していく。
2	計画・ねらい	**計画：保育者ひとり一人が豊かな感性を持つ** ねらい：保育者の感性を磨き、豊かな保育・支援に必要な環境構成を行っていく。
	実践予定内容	・保育者が様々な物事に興味を持ち、面白さを感じられる感性を磨き続ける努力を行っていく。自分が目の前にいる子どもと同じ年齢だったらどう感じるのかを考え、美しさや心地よさ、面白さなど遊び心を持って環境構成に取り組む。
3	計画・ねらい	**計画：整理整頓を意識し、子ども・大人ともに片付けやすい環境を創る** ねらい：棚や床など衛生的で整えられた環境を維持する。
	実践予定内容	・必要に応じて片づける場所を可視化し、子どもにとっても大人にとっても片づけやすい環境をつくっていく。 ・常に保護者の方や子どもたちにとって心地よい環境となるよう、保育室内、玄関、事務室など不必要な物は置かず、床や棚など常に整理された環境を維持していく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具・玩具はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施
2	実践予定内容	防災設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故防止記録記載による事故の防止 事故防止委員会による検討会議 リスクマネジメント研修
4	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知 環境変化や状況によりその都度見直し、更新をはかる
5	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、自治体などより発信される情報をチェックし、発生時には屋外での活動を控える

6	実践予定内容	年2回の不審者訓練実施 オートロックでの外部侵入者の立ち入り防止 警察との連携（不審者情報共有、交通安全教室）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材の育成に尽力する。
ボランティア、専門士の実習・職場体験を通し、インクルーシブ保育の理解を深める。

1	実践予定内容	保育士・機能訓練士の受け入れを行う。 受け入れのマニュアルを元に、受け入れ側の配慮を学ぶ
2	実践予定内容	中高生の職場体験を行い、保育・福祉の仕事について知ってもらう
3	実践予定内容	地域のボランティアを受け入れ、地域におけるインクルーシブ保育の推進をはかる

7. スタッフ育成と研修計画

毎月全体会議の中で園内研修をテーマに沿って園長大学動画を活用し、討議を行い、スタッフ全体で意見を出し合い、スタッフ自らOODAに即して子どもの観察から大切にしたいことを見出せる力をつけていく。また、その場限りで話が終わることなく、次の日からの保育に活かし、実践の経過を翌月の園内研修の場で振り返るといった流れの中で、通年通して連続性のある園内研修の運営をつむぎと内箕輪どろんこ保育園が協働し行って行く。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 危機管理 （ケガ・ケース スタディ） ① 子どもの人権	マニュアルを理解し、基本に沿った 対応を全スタッフができるようにする。**（子どもの権利を尊重した保育のあり方とは？）**
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 環境について	・子どもたちの発達や興味関心に合わせて見直す。 **（その室内環境大丈夫？空間設計の視点から学ぶ「心を育てる保育**

			環境」）
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 水辺のリスクマネジメントについて	・プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。**（楽しく安全な「水遊び」のために～水辺のリスクマネジメント～）**
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 見守る保育について ④ インクルーシブ保育について	・子どもたちの姿を見ていく中で、子どもの興味関心がどこへ向いているか事例を通して検討していく。**（見守ると放任は大違い「信じて待つ保育」）**
8月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 食育について	・保育における「食」の大切さ、食育に対しての学びを深める **（食べることは生きること 子ども主体の「食」を考える）**
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上半期の振り返り ③ 環境について	・室内環境についての現状の振り返りと下期を迎えるにあたっての環境を考える
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 学習指導要領に基づいたアプローチカリキュラムについて	・小学校1年生のカリキュラムを理解して、逆算をしたアプローチを検討する。**（スムーズな小学校進学は保育者次第）**
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り ③ 焚火研修	・各スタッフが焚火を学び保育実戦として生かせるようにしていく。 **（ゼロから学ぶ野外教育　野外教育～焚火編）**
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画振り返り	・今期の事業計画にある目標に対して取り組めた事、課題点を抽出する
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画振り返り	・次年度に向けて、力を入れて園として取り組みたいこと、方針を決める
2月中旬	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第一回 策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定
3月上旬	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第二回 策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～9月30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。また、年1回以上のキャリア面談を実施し各スタッフ役割を明確化し、先のキャリアビジョンを持ち業務を遂行していける環境を創っていく。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域子育て支援センター「ちきんえっぐ」と連携を図り、保護者向け、親子向けのイベントを計画し実施する。地域の子育て世帯が気軽に足を運べる場として認知してもらえるよう地域に活動の様子を発信していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　目標：200名

青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：内箕輪運動公園にて　　目標：３名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加、高齢者施設訪問（ウィステリア八重原）
異年齢交流	近隣小学生・中学生・高校生と交流、卒園児交流
地域拠点活動	青空保育、寺親屋、子育て相談

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。

② 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。

③ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。

④ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。

⑤ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

スタッフ間交流を通し、就学までに育てたい力について知り、逆算し保育・支援内容を検討していく。
子ども間交流を年２回以上実施し、小学校就学に対して期待を持てるようにしていく。
縦の連携を深め、情報共有を図り円滑に支援が引き継がれるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的

5月頃	八重原小学校	20名予定	運動会見学 （八重原小校庭）	子ども間交流
10月頃	八重原小学校	20名予定	小学校見学 （八重原小校内）	子ども間交流
3月頃	八重原小学校	1～2名 予定	年長児引継ぎ （八重原小校内）	スタッフ間交流・連携
未定	八重原小学校 支援学級	1～2名 予定	授業参観 （八重原小学校教室）	スタッフの学び
未定	君津特別支援学校	1～2名 予定	授業参観 （君津特別支援学校教室）	スタッフの学び

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。

② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。

③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。

④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。

⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援・マンスリー支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。

⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

原則6ヶ月に1回以上支援計画の見直しを行い、保護者にモニタリングを実施する。保護者の希望を聞き取り、子どもの心身の状況、日常生活の様子を整理する。児童発達管理責任者を中心とし、策定会議を行い、目標設定と具体的な支援を検討し、個別支援計画書を作成する。

個別支援計画書は保護者に提示し、説明と同意を得て支援を行う。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：1～3名予定）

毎月1回、児童個人の支援や現状や課題について、またはマンスリー・ビジター支援のあり方についてなど様々なケースを題材にし、支援の検証をする。
ケース会議を希望するスタッフがいれば回数を増やし随時開催する。

また、内箕輪どろんこ保育園と連携しながら、共に子どもを見る中で要支援児の個別支援計画書、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中で子どもの姿の変化をスタッフ同士で共有し、多様な視点から子どもを援助していくようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体と連携を図り、就学相談の流れに沿って進めていく。早期の段階で保護者の相談を受けながら、子どもたちが安心して就学できるように、適切な支援をしていく。
就学先や放課後デイサービス事業所などにしっかりとした引継ぎを行い、支援が途切れないようにする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：月30名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　目標：月10名
自然食堂…親子ランチ交流	第2、4（金）10:00～12:00　　目標：月10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	第4（月）10:00～12:00　　目標：月10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：内箕輪運動公園にて開催　目標：月5名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年４月１５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１７時３０分
自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	つむぎ・保育園スタッフ共に対話し今必要な経験を考え、子どもと共に保育を創っていく。また、立場を超えて対話できる関係性を構築する。 法人の日課、６つの力の意図やねらいを理解し、自分の言葉で語れるようになる。 インクルーシブ保育の様子、変化などを可視化し保護者、スタッフ、子どもが見て理解できる機会をつくる。
	振り返り	毎週固定で話し合いの場を設け、保育の中での課題・悩みなどの共有を行った。また課題に対してどのように取り組んでいくか園・つむぎスタッフで考え取り組むことができた。 日課活動に関しては、鶏の飼育が始まったこともあり意欲的に生き物の世話を行う子どもたちの姿が見られた。また、朝の活動の流れを見直し9:00の散歩出発を意識し子どもたちに対して働きかけることができた。 スタッフひとり一人の基本活動・日課活動のねらいや意図を学ぶ場が不足していたため、次年度に向けて学びの場をつくり、ひとり一人の理解を深め自分の言葉で伝えることができる状態になる。 子どもの姿を可視化し発信する場面は月一回のブログのみであった。園内での遊びの様子の掲示など今後行っていけると良い。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	心地よいコミュニケーションをとって活動の幅を広げられる
	重点施策	地域の小学校・園・他事業所と円滑に連携を行える。 法人内だけでなく、地域に対してインクルーシブ保育を発信していく。 ちきんえっぐと連携し、地域の保護者・子どもに対してのイベントの実施。保護者や地域の人が「また来たい」と思える地域の拠り所となる。

2026年度	目指す姿	PDCAサイクルの定着、スタッフ間で提案し合い保育・支援を創っていく
	重点施策	施設長、主任、リーダーだけでなく各スタッフが目の前の子どもたちの姿を捉え必要な経験を考え、対話し保育・支援を展開していく。 日々の業務内容・動きを可視化し、各スタッフの役割を明確にしていく。 適宜話し合いの時間を設け、日々保育・支援をアップデートしていく。
2027年度	目指す姿	地域におけるインクルーシブ保育の実践、保育・支援の中核となる
	重点施策	市内での保育所・児童発達支援事業所間の連携の強化。 一人ひとりにあった事業所の選択ができる環境づくりを行う。 保育・支援の視点を明確にもち、支援を行う次世代のスタッフ育成をしていく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 内箕輪ルーム 施設長　鈴木 真歩

２０２５年度　発達支援つむぎ 見附ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

開所2年目となる発達支援つむぎ 見附ルームは、子どもを取り巻くすべての環境を受け止め、支える施設を目標とし、地域に開かれた児童発達支援事業所となる。

併設園である見附どろんこ保育園の園目標を受け、つむぎの支援方針・目標をスタッフ全員で決めることで一人ひとりが専門性を活かし、リーダーとして動ける職員を育成する。

つむぎ職員、保育園職員が連携し、子どもも大人も保育園・事業所の壁を取り払い共に生活する。子どもたちが自ら考え、動くことができる環境づくりに力を入れる。毎日の時間を大切に過ごし、子ども同士関わり合い、共に生活をすることで学び合い、助け合い真の「生きる力」を獲得する。

子どもたちを真ん中に、関わる全ての関係機関や近隣施設との連携に努め、共に成長を見守り、喜べる地域の頼れる施設を目指していく。

《支援方針》
「面白い、やりたい」の気持ちを育み、挑戦する意欲を受け止め共に楽しむ

《支援目標》
全身で感じる・心を動かす

子ども自らが活動を選び取ることができる人的・物的環境を整えていくことに努め、ホンモノの体験、心を揺さぶる体験から真の経験を積むことができる施設を目指していく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ホンモノの体験から生活の体得へとつながる支援に向けた研修の実施
	実践予定内容	・併設見附どろんこ保育園と共に生活し子ども同士関わり合うことで、自身で考え動くことができる機会を増やしていく。 ・毎日大人と一緒に行う畑仕事と、しなければいけないことを子どもが自覚し自分の仕事をすることでは大人の関わり、距離の取り方が違うことを知る。事例を上げ、ディスカッションを通して学ぶ場を作る。 ・個々に合わせ無理なく取り組むことができる環境を設定していく。
2	計画・ねらい	・本人支援だけではなく、家族支援にも力を入れる ・早期支援へと繋げていく
	実践予定内容	ちきんえっぐと連携を図り、保護者が気軽に子育てや発達についての話や相談ができるつむぎカフェを開催する。
3	計画・ねらい	一人ひとりのこどもが健康で安全に生き生きと過ごすための環境作りをする
	実践予定内容	・スタッフ一人ひとりが養護とは何かを考え学び、理解することでより質の高い支援の提供に努めていく。 ・スタッフのリスクマネジメント意識を高めるために、定期的に研修を実施する。清潔で安全な環境を設定し、子どもが意欲的に生活できるよう適

		切な支援に努める。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の方が気軽に相談のできる開かれた環境つくり
	実践予定内容	・定期的につむぎカフェを開催し、保護者の方がゆっくりと過ごしながら、日常の悩みなど気軽に話せる場を作る。 ・スタッフそれぞれの専門性を活かし、家庭でできる発達を促す遊び等を伝える。 ・また、利用したいと思えるような丁寧な対応や日頃から美化に努める。
2	計画・ねらい	保護者同士の繋がりを広げる
	実践予定内容	就学や進級についての疑問や心配ごとなど先輩保護者から話を聞くなど横だけでなく、保護者同士縦のつながりを持てる機会を作る。
3	計画・ねらい	関係機関との連携を強化し、包括的な支援体制つくり ・必要に応じて、所属の園や家庭に訪問し相談支援を行う
	実践予定内容	・利用児を中心に保護者だけでなく、保育園、幼稚園、相談支援事業所、行政とすべての関係機関と連携し、子どもの背景や状態、支援内容など情報を共有し、地域全体で支援し育てていく。 ・卒園後の移行がスムーズに行えるよう、放課後等デイサービスや学童保育の現状へも目を向け、連携を取っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	定期的なつむぎカフェの開催 ・ちきんえっぐ×つむぎカフェ
	実践予定内容	・地域の方が気軽に利用し、集い繋がれる場を提供する。 ・子育てや発達の悩みなど気軽に相談したり、趣味や興味のあることなどを話したりとホッとして過ごすことのできる場所を作る。 ・ちきんえっぐと連携し、子育て支援イベントにつむぎ職員も参加する。
2	計画・ねらい	乳児や未就園児などの保護者に向けたつむぎカフェの開催
	実践予定内容	・親子の遊びの提供と共に、子育て、発達の相談できる場の提供をする。 ・子どもたちに必要な支援を確実に届けるために、子どもたちを取り巻くすべての関係機関との連携に努める。 ・利用児が在籍している園に出向くなどして、パンフレットや支援内容を伝えるなどして児童発達支援の案内を行い後方支援の役割を担っていく。実際に出向くことで、地域の保育活動、内容を知る。
3	計画・ねらい	ブログ等のSNSを活用し、児童発達支援事業の周知
	実践予定内容	・保育園と児童発達支援事業所でのインクルーシブ保育や活動、ねらいからどのような成長、発達が見られるのかなど写真と文章で見える化し、伝えていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

I	計画・ねらい	保育所保育指針の理解からＩ０の姿の体得へ ・子どもを知る ・地域性を知る
	実践予定内容	・子どもたちと一緒に生活することで、子どもの実際を学び、知る。 ・上記を理解した上で、保育所保育指針を学び、子どもの育ちに必要なことや保育、支援での課題を明らかにし、振り返り等で見直していく。 ・子どもたちの生活している地域を理解することから、子どもたちの背景、環境を知っていく。
2	計画・ねらい	児童発達支援を知る ・役割を理解し、保育園、事業所の壁を越えた保育、支援の展開を目指す ・全スタッフが保護者の方や見学者につむぎの目指す支援や活動・意図を説明することができる
	実践予定内容	・実例を基に子どもやその家族を包括的に支援していくことの必要性を学ぶ。 ・日々の活動がどのような育ちに繋がるかを、振り返りの中でスタッフそれぞれの視点から伝え合い、誰もが説明をすることができるようにする。
3	計画・ねらい	一人ひとりの専門性を活かしたアウトプットタイムをつくる ・専門士からみる日課の効果や学びをそれぞれの視点で捉える
	実践予定内容	・園会議を利用し、それぞれの視点を学び合う。 ・学びをアウトプットすることで、より確実な知識として身に着けていく。 ・保護者や関係機関への発信を行う。内容の検討、説明の仕方を考えることで相手の立場、気持ちに寄り添う大切さを学んでいく。 ・アウトプットで終わらず、さらにその力を実際の保育・支援環境にどのように活かしていくか検討を行う。

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	・給食残渣の減と有効活用と堆肥づくり ・適切な給食食材量の把握で残渣を減らし、残渣は有効に活用する
	実践予定内容	・給食の残渣を常時把握し、残渣を減らす取り組みと同時に残渣を有効活用した堆肥づくりに取り組む。 ・山羊の糞、園庭の枯葉など堆肥となるものを集めて園庭の一角に堆肥場を作り、日課としての堆肥づくりを実施する。 ・野菜くずや野菜収穫時の間引き野菜等を山羊に与えるなど、無駄なく活用する。 ・ゴミサーの活用。
2	計画・ねらい	・本物の食の循環を知る活動。 ・畑づくり、稲づくりは土壌づくりから苗の栽培、収穫まで本物の食の循環を通して、協同性、社会性、規範意識の芽生えへと導く

	実践予定内容	・日課としての畑活動等を通して、本物の食の循環を知る。 ・畑の作物は一朝一夕にできるのもではなく、毎日、手間暇かける必要があることを体験から学べるように全スタッフ、全園児で取り組む。 ・自分の意志で動くことができるようになった０歳児から参加することで、卒園までの育ちの中に自然に協同性、社会性、規範意識が育つよう、日課活動の目的をスタッフが明確に持ち、保育を実施する。
3	計画・ねらい	・様々な食品の加工体験 ・食品を加工する意義を知り、食品加工技術を体験する
	実践予定内容	・梅干し、味噌、干し柿、干し椎茸など食品を加工して食す体験を年間通して実施する。 ・食品の多くは長期間保存することができないことから、食品の品質保存、有効利用、安定供給を目的として、古くから生活の知恵として行われてきた食品加工技術を子どもたちとスタッフが共に試行錯誤しながら体験していく。
4	計画・ねらい	・樹木を保育環境に取り入れる ・様々な木に関心を持ち、木に触れる遊び環境を作る ・自然物を使った造形活動、焚き火体験
	実践予定内容	・雑木林に出かけ、四季を通して木の変化に気付き、興味を広げる。 ・薪づくり体験活動。（薪拾い、薪割り） ・年輪、木のかたさ、香りなど木々の特質について知る機会を作る。 ・身近に木がある保育環境を作る。 ・自然物の素材を五感で感じながら、気楽で大胆な造形表現活動を日常保育に取り入れる。 ・焚き火で木の性質、有効活用について知る。

〈6〉地域に根差した施設づくり（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	地域連携 ・インクルーシブ保育、つむぎの取り組みを発信していく
	実践予定内容	・地域コミュニティーに積極的に参加する。 ・関係機関に向けたつむぎカフェを開催し、日常の保育の取り組み悩みなどを話し合い繋がれる場を提供する。
2	計画・ねらい	親子グループの開設 ・早期支援につなげる ・家庭での親子の過ごし方のヒントやアドバイスを得ることができる場になるよう努める
	実践予定内容	・親子で一緒に行えるプログラムの設定。 ・保護者同士が繋がれる場の提供。 ・ちきんえっぐと連携し、青空保育・出前保育等一緒に企画参加をしていく。
3	計画・ねらい	相談支援事業所との連携強化
	実践予定内容	・市内の相談支援事業所と密な連携体制の継続から、さらに関係を深め、他事業所や近隣市外との結びつきを強めていく。

〈7〉繋がる支援の提供へ向けたスタッフ育成（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

I	計画・ねらい	将来を見越した支援 ・その場の支援ではなく、繋がる支援へ
	実践予定内容	・子どもたちが生きていく社会情勢、現状など日頃から意識をして情報を得る。振り返りの時間を使い情報を交換していく。 ・この先のライフステージを知るために、小学校や放課後等デイサービスを実際に見学する機会を作る。
2	計画・ねらい	支援の具体的内容を伝える ・丁寧なフィードバックを行い、家庭での支援に繋なげる
	実践予定内容	・一方的にならないよう保護者の話を傾聴する。 ・活動や支援がどのような育ちに繋がるのか具体的かつ簡潔に伝えていく。 ・つむぎ以外の場（家庭や園など）でも継続して行える支援や方法を伝えていく。 ・上記ＦＢができるよう、振り返りの時間などを使い研修を行う。

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者I名
保育士２名
機能訓練担当スタッフ3名（言語聴覚士I名、作業療法士2名）

3. 運営方針

〈I〉施設内会議の開催(勤務時間内)※全ての会議にどろんこ保育園、つむぎスタッフが参加

施設内会議名	頻度	会議内容

施設内会議	月1回120分	子育ての質の向上をめざしたスタッフの園内研修。 運営部Missionへの深い理解のため研修。 ケース会議、給食会議、事故防止委員会等の内容共有。
給食運営会議	月1回	喫食状況、嗜好、アレルギー児等に係ることの共有、検討。
事故防止委員会	月1回	法人から発信された事故の情報や自園のヒヤリハット・インシデント・事故分析の結果から改善の検討。 発生した自園の事故は都度実施。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。 ・支援計画、支援内容の評価、見直し。
ケース会議	月1回 随時	要支援児のアセスメント実施、モニタリングの結果を共有。 保育園、つむぎ連携して行う。
リーダー会議	月1回	業務の課題を洗い出し、改善策を検討。 保育の質の向上に向けた取組み。 業務効率化の検討。
園＆つむぎ融合会議	毎日	その日の振返りと翌日の保育計画提案の共有。 17:15から毎日実施。(１５分)
乳児クラス会議 幼児クラス会議	随時	クラス別に共有事項や課題の検討などを実施。 保育の質を向上させるための検討。 つむぎスタッフも参加必須。
年齢別3層会議 ・新卒から2年目まで ・3年目から10年まで ・10年以上	年各2回	それぞれの保育の経験年数を3層に分けて、それぞれの年代での思いを共有し、さらなる融合に向けてディスカッションする。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人による連絡、共有事項。事故防止委員会。
施設長勉強会	月1回	施設長のマネジメント力の向上のための勉強会。
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	施設長、調理担当者による食育の取り組み状況、給食に関する情報共有とレベルアップのための内容。

保健会議	年4回	施設長、看護師による保健・衛生指導関係の情報共有とレベルアップのための内容。
子育ての質を上げる会議	月1回	情報共有、実践報告、研修等のミドルリーダー育成

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	看護師を中心に、毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事故防止に関する事項　ヒヤリハット集計・分析　改善策の検討と周知 施設設備点検及び管理
防火管理者	園長：若杉絵里子　　防火設備点検管理　消防計画作成
食品衛生責任者	調理師：関口理絵 飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
田んぼ・畑係	畑・田んぼに関わる管理運営
生き物係	山羊・鶏・飼育コーナー小動物に関わる管理運営
ハザードマップ係	散歩コース・園内外のハザードマップ作成（4・7・10・1月改定）
マニュアル向上係	保育・支援業務全般に渡り、リーダー的な視点で園全体の運営に関わる委員 保育・支援の質の向上・研修・内部監査項目理解などを主に担当

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ募集。どろんこ祭り企画運営。
運動会係	運動会開催に関わる計画運営
生活発表会係	生活発表会に関わる計画運営
塞の神係	地域交流の機会として、日本の伝統行事を子どもたちに伝える。
見附まつり係	民謡流し、樽はやし大会への参加計画。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・午前中、思い切り身体を使って遊ぶことで食事への意欲を持つ、睡眠をとって体を休めるという生活リズムを作っていく。 ・自分の好きな場所や遊びを見つけ、安心できる居場所を作る。
	下半期	・友だちと過ごす楽しさを知る。一緒に遊ぶ中で相手の気持ちを意識したり、気づいたりしていく。 ・自分の好きな遊びを選び取り友だちと共有し育ちあっていく。
個別支援	通年	「できた」を積み重ねることで自己肯定感を上げ、「やりたい、やってみたい」の気持ちを育んでいく。
家庭連携	随時	・ 随時、希望する保護者に対し児童及び家族に対する相談援助を実施 ・「相談支援記録」を活用
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携をし、自施設における支援内容の調整を行う
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	・子どもたちと全スタッフが共に味わう縁側給食の実施。 ・園庭や景色を眺めながら、共に味わう縁側給食を日常の食事風景とする。
	実践予定内容	・毎日、子どもたちと全スタッフが園庭の景色を眺めながら四季を感じながら共に味わう縁側給食を実施する。 ・大人も子どもも一緒に味わい、食を楽しむ。
2	計画・ねらい	・素材の味を噛みしめて味わい、噛む力を育てる給食提供。 ・発達に配慮しながら、給食の素材の旨味を味わうことができる調理に配慮し、噛む力を育てることに配慮する。

	実践予定内容	・調理担当者と保育者、つむぎスタッフの給食会議や施設長の日々の検食の機会を重視し、子どもたちの体つくりの基本である給食提供に関しては、緊密な連携を行う。 ・食材の大きさ、硬さなど子どもたちの噛む力に留意する。
3	計画・ねらい	・バイキング給食の実施で、食べることが好きになる。 ・自分で盛付・配膳をスムーズに行える食事環境を作り、好きな人と食べる給食で食への意欲を育てる。
	実践予定内容	・食べる順番、食べる量などを制限するのではなく、食べることが楽しみになるように、子どもたち一人ひとりの状態に配慮しながら、バイキング給食を実施する。 ・子どもの動線に配慮し、年齢の異なる子どもたちがスムーズに盛付や配膳が行えるように配慮する。
4	計画・ねらい	・計画的に沿って食育を推進し、豊かな食の経験を大切にする。 ・生きるために必要な食についての関心を高め、食べる意欲を育てるために必要な経験を盛り込んだ計画的な食育の実施。
	実践予定内容	・計画的に健康な体つくりに必要な食育に関する体験を実施する。 ・栄養士による食育指導を計画的に行い食への関心を高める。 （食事マナー・栄養素の話・郷土食など） ・雨天の日等　戸外活動に出られない日は、給食で使用する野菜の下処理を日課として実施する。 ※年間食育計画は別紙あり。
5	計画・ねらい	・子どもたちの目の前で大きな魚をさばいて食す体験実施。 ・マグロ等の大きな魚の命について考え、食すことへの感謝の気持ちを持つ。 ・体験したことない物のイメージが苦手な児も実際に見ることで、まな板の上の魚と、売っている切り身の魚が同じものだと気づく。
	実施予定内容	・まな板からはみ出す大きさの魚を子どもたちの目の前でさばく。 ・命あるものを頂くことへの感謝の気持ちを持てるように導入から、丁寧に計画する。

〈4〉保健計画

スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃…感染性胃腸炎等流行予想 12月頃･･･インフルエンザ流行予想
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･3名より預かり済み／事務室冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在４名が、研修受講し、修得済み 未受講の職員２名については４月３０日までに受講予定

AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED設置なし 本日現在６名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	通年で新型コロナウイルス感染等に考慮し、消毒・換気の徹底 手洗い指導、うがい指導は定期的に実施、感染予防に努める 法定伝染病その他の感染症発症時はタイムライン・玄関掲示で保護者にお知らせする 流行する感染症により、アルコール消毒、塩素消毒を区別し対策を講じる ※10人以上の感染を確認した場合は法人本部、県、市に報告対応

〈５〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈６〉環境整備

1	計画・ねらい	・子どもが自分で遊びを選べる室内コーナー保育環境 ・子どもたちの興味、関心にあったコーナー遊びの玩具が十分に整えられ、子どもたちが毎日、意欲を持って遊べる環境設定
	実践予定内容	・保育室の動のスペースと静のスペースを区分けし、一人ひとりの子どものやりたい遊びが実現できるコーナー環境を整える。 ・年齢や発達に合わせて選べるように、十分な玩具を揃え、子どもの興味、関心に応じて環境を変更する。
2	計画・ねらい	・探索行動が十分に行え、子どもの興味を引き出す園庭 ・子どもたちの探索意欲を高めるために保育者が意図とねらいを持って、園庭の環境を整備する
	実践予定内容	・園庭の広さを有効に活かして、子どもたちの探索意欲を高める環境設定においては、安全管理を基盤として、保育者が明確な意図とねらいを持って設定する。 ・子どもたちが夢中で遊び試行錯誤する環境づくり。
3	計画・ねらい	・探索意欲が高まる園庭のレイアウトを作成し、魅力ある環境づくり ・魅力ある園庭にするためのねらいを持ってスタッフ間で話合い、レイアウトし、子どもたちが夢中で遊べる環境にする
	実践予定内容	・子どもたちが遊びに見通しを持ち、様々な素材に触れ試行錯誤でき、探索意欲が高まる環境整備。 ・遊びを充実させるレイアウトされた園庭の整備と維持管理。 ・冬は雪国であることを、最大限生かした雪遊びを積極的に実施する。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	設置なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	・非常事態発生の場合は法人のマニュアルに従い迅速な対応が出来るよう、緊急時の連絡体制などを掲示するなど対応に最善を期す。
2	実践予定内容	・毎月の避難訓練を基本に、日ごろより、火災・地震・風水害等に対する意識を高める。災害は突然に起こるものであり、日ごろよりシミュレーションを行い、避難訓練の動作を基本として、どんな状況でも最善を尽くす意識を高める。 ・風水害については、刈谷田川の側に位置する浸水地域内にあるため水害対策マニュアルに従い、移動が困難な乳幼児であることに配慮し、早めの情報キャッチと避難を心がける。近隣施設との連携、協働を図る。 ・水害防災計画を見附市に提出済み。 ・医療ケアが必要な児、ほふくしない児、歩行が不安定な児に対する避難体制は、毎月の避難訓練にて、さらし帯・抱っこ紐を使用して確実に実践する。

3	実践予定内容	・事故・怪我においては、法人ルールに従い迅速かつ的確な対応をする。 ・園内の事故防止委員会設置。 ・ヒヤリハットの収集に努め、園内で集計・分析・改善・実行のPDCAサイクルで重大事故防止に努める。 ・園内外のハザードのスタッフ間共有と園庭でのタスキルール、園内のリスクなど安全管理には十分な配慮をする。 ※ケガ・ケーススタディ研修　４月に実施
4	実践予定内容	・防犯、不審者に対する訓練は年２回実施する。日々の生活の中で常に意識することが重要であり、年１回、新町交番の警察官より訓練時に指導を受ける。 ・散歩時における対応や園内における対応の仕方など、会議などで意識統一をする。
5	実践予定内容	・Ｊアラートが発令された際に備え、市からの防災メール情報を頼りに、避難場所は屋内幼児室と定める。
6	実践予定内容	・個人情報漏洩や管理については万全を期し、定期的にスタッフの意識を高めるための啓発を行う。
7	実践予定内容	・広域災害によるライフライン停止、調理担当者感染症発生による給食提供停止などを想定した、外注による食事提供訓練の実施。《広域災害食訓練の実施》 ・その他、年１回、非常時の炊き出し訓練を実施する。 ・備蓄品の点検は定期的に行う。 （業務継続計画　作成）
8	実践予定内容	・新潟県柏崎市に原子力発電所があることを踏まえ、災害対策重点区域（半径３０キロ圏内）にあるため、影響を受けやすい乳幼児の安全に最大限配慮し、屋内にとどまって待機する。原子力事故の際には見附市の対応マニュアルに従い、速やかに行動する。ヨウ素剤の服用、圏外への移動などが必要となる避難勧告が出された場合は、保護者へ緊急連絡アプリで速やかな迎え要請をする。 ・原子力災害避難計画マニュアルを見附市に提出済み。
9	実践予定内容	・熊の出没が相次ぎ園外保育を見合わせる事態が発生しており、熊出没情報を常に把握して万全を期す。
10	実践予定内容	・コロナウイルス等の地域の感染状況を把握し、法人や県市町村からの指示に従い、対応しつつ、園内での感染対策には万全を期す。
11	実践予定内容	・雪害についての意識を高め、降雪量などの気象状況の情報収集に努め、こまめな除雪で安全を確保する。 ・気象状況を把握し、落雪、陥没、転落事故などの防止に努める。 ・降雪期は戸外に出る際は都度、安全確認を怠らない。 ・施設長、主任、ビブス担当者は注意喚起を怠らないように努める。
12	実践予定内容	・新採用を含む全スタッフが参加して、3月にリスクの高いマニュアル（おむつ交換、さらし帯の使い方、呼吸チェック、嘔吐処理など）、児童虐待等について、再認識するためのロールプレイを行うキックオフ会議実施。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

次世代を担う実習生・中高生・ボランティア等の受け入れについては、地域の社会資源としての役割と共に将来、福祉の現場で活躍する人材育成の一助になることを願い積極的な受け入れを行う。各校等とも連携し、一人ひとりの学生に対する指導援助が適切に行われ、生徒にとって将来、目指したい職業に夢と希望を持ち、実りある体験の機会となるように配慮する。特に保育実習生についてはコロナ禍で学生生活を過ごし、コミュニケーションの機会が十分でないことを踏まえ、受け入れ側としては不安を取り除き、保育現場の楽しさを伝えることが最優先であると考える。さらにはスタッフも自己の振り返りの機会と捉え、次世代の人材育成についての学びを深める機会とする。

1	実践予定内容	・実習受け入れ担当窓口として担当者を置く。 ・丁寧なオリエンテーションの実施。 ・不安のない現場実習とする。
2	実践予定内容	・各校との緊密な連携体制の確立。 ・事前打ち合わせと情報交換。信頼関係の確立。
3	実践予定内容	・実習中の日々の振り返りの実施。フォロー体制づくり。 ・保育の楽しさを実習への伝える配慮。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月15日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　どろんこ会基本活動の意義＝保育所保育指針とリンクさせて理解を深める。 ③人権チェック・虐待防止研修	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②保育所保育指針の組み立ての理解から基本方針の意義を考える。 ③児童憲章から人権の再認識。
5月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②　本物の体験　食の循環を通して体得するもの ③畑・田んぼ作り・堆肥作りに本気で取り組む	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②本物の食の循環を知らせる。 ③全スタッフで本気で取り組む田んぼ・畑・堆肥づくりの共有。
6月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②　当たり前のインクルーシブ保育 ※園長大学・保育士大学動画活用「困っている子にしないための視点と園・事業所での	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②当たり前のインクルーシブ環境のための保育者の援助の在り方 ※動画視聴を通してディスカッション。

		合理的配慮」	
7月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活の体得 心の育ちと発達理解 ③思考を育くむ環境 援助の在り方	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②「自分で出来ることは自分でやる」環境。 ③思考力を育む環境とは何か、保育場面の具体的事例抽出。
8月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所保育指針５領域から「就学までに育みたい１０の姿」を目指す保育 ※園長大学・保育士大学動画活用「スムーズな小学校進学は保育者次第」	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②10の姿は目指すべき姿、日頃の保育の積み重ねの重要性の理解。 ※動画視聴を通してディスカッションと意見交換。
9月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 思考し、自己判断できる保育環境とは何か。	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②事例を交えた思考を働かせる環境から、判断力が育ち、表現となる子どもの姿の捉え方。
10月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ②人的環境としての保育者援助・支援の姿勢の共有 ③ 人権チェック・虐待防止研修	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②人的環境としての、自分自身の援助についての振り返り。 ③人権についての振返り、気付き。
11月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 半期の振り返り 自分自身の成長とこれから	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②半期を振返って、次年度に向けて期待される役割認識。（スタッフのアウトプット）
12月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園を取り囲む社会情勢 園の社会的役割とは	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②園の社会的役割の理解と視野を広げて事業計画を全スタッフでイメージする。
1月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修を視聴して、次年度に目指すMissionの共有。	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②全体研修を視聴して、一人ひとりが確実に2026Missionを理解し、レベルアップしていくためのディスカッション。

2月20日	18:00～21:00	第1回　策定会議 ① コンピテンシー自己採点 ②　次年度の方針説明	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②事業計画説明。
3月1日	9:00～18:00	第2回　策定会議 ① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の提案と計画策定【園会議】 ③子どもの人権・虐待研修 ④保育のリスク管理 ⑤組織つくり（マニュアルの意義とスタートに当たって再確認事項） ⑥畝研修【座学】	①自施設の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②2026年度計画策定 2026年度に向けて【園会議】 ③子どもの人権（児童憲章・児童福祉法・保育所保育指針） ④保育のリスク管理 ⑤組織づくりとは何か再確認 ⑥本気で取り組む畝作り座学

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉基本活動理解と充実

見附の豊かな自然や環境を活かした支援を行う。畑仕事・生き物の世話・たい肥作りを子どもたちと一緒に行い、どのような育ちに繋がるのかを専門的な視点からとらえていく。豊かな環境を利用し、発達を促す遊びのきっかけを作る。子ども同士話し合い遊びを発展できる環境構成を提供していく。

大人も焚火や針仕事を実際に体験し、火や針の便利性と共に危険性を知り、距離の取り方を子どもたちに教えていく。

つむぎの会議を利用し、園長大学保育士大学の「保育と自然を未来志向で考えよう（散歩編、畑編）を視聴し、実際に子どもたちと触れ合うことで子どもの興味からの遊びの広がり、発展を学ぶ。大人も試行錯誤し遊ぶことでスタッフも学びを得る。

個々が学んだことを園会議で全スタッフへとアウトプットし、保育の中で実践する。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園と共に地域に根差し、地域に必要とされる施設になることが社会的役割であると考える。少子化で子どもが減少し、地域の活気が薄れていく中で未来を担う子どもたちの姿が身近にあることが活気となるように、園の保育活動を地域に溶け込ませ、散歩や商店街ツアーでの子どもの姿が地域の日常の風景となることを期待する。

地域に育てていただき、地域と共に生きる施設を目指していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：南本町東児童公園にて　　集客目標：30名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・老人施設「古志乃里」様　月1回　訪問交流 ・就労支援事業所「見附ワークス」様　日常交流 ・山羊の「おもち」の魅力を感じて下さる方々との自然な交流
異年齢交流	・他園交流訪問受け入れ　遠足目的地として交流保育 ・名木野小学校　草薙太鼓見学　マラソン大会・運動会応援 ・田井小学校　みつば太鼓見学 ・葛巻小学校　アルパカ見学 ・見附南中学校　体育祭練習見学
地域拠点活動	・北谷北部くさなぎコミュニティー参加 ・自園の田んぼ　昔ながらの耕法での耕作協力者募集 ・塞の神の伝統行事実施
見附まつり	希望者が地域コミュニティーの民謡流しに参加
塞の神	年1回（小正月）　集客目標100名

銭湯でお風呂の日	月I回　〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈I〉今年度方針・テーマ

名木野小学校、田井小学校、葛巻小学校、見附小学校、新潟小学校の５校が就学先となることを視野に、各小学校の特色を把握し春期から職員間の連携体制を確立する。子ども間交流が可能な限り実現するように散歩コースとして、意図的に運動会の練習風景などを見学に行く。I0月に実施される見附市内小中学校で行われるオープンスクールにスタッフが参加するなどして理解を深める。就学に向けては、見附市スタートカリキュラムを参照に、アプローチカリキュラムを備え、保育所保育指針に示されている「就学までに育てたいI0の姿」を目指して保育を実践する。さらに幼児期に目指すべき姿と小学校からの学習指導要領が到達目標へと変わる流れによるギャップが生じないような接続期の在り方について、就学先小学校、保護者と連携する。

また、市外からの利用児も増えているので、近隣の市の就学に向けての取り組みなども参照していく。相談支援事業所と連携しながらスムーズな接続に繋げる。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月30日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	田井小学校	I I名予定	運動会練習見学（田井小学校小校庭）	子ども間交流 職員間交流
5月頃	名木野小学校	I I名予定	運動会練習見学（名木野小学校校庭）	子ども間交流 職員間交流
6月頃	葛巻小学校	I I名予定	運動会練習見学（見附小学校校庭）	子ども間交流 職員間交流
8月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校 今町小学校 見附小学校 新潟小学校	各５名予定	就学相談会 見附どろんこ保育園	職員間交流
９月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校 今町小学校 見附小学校 新潟小学校	各2名予定	授業参観（各校I年生教室）	職員間交流
I0月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校	I I名予定	マラソン大会応援見学	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

一人ひとりの状況、背景に即した個別支援計画を作成し提示する。保護者とのモニタリング、子どもの成長発達、特性等の現状を把握し計画的に策定会議をスタッフ全員で行う。つむぎスタッフだけでなく、併設園のスタッフも交えて行い具体的な手立てや内容を検討していく。多角的な視点、観点から個別の支援計画を見直し・作成を行う。子ども一人ひとりの持つ力を発揮し、生きる力が育まれるように支援内容を充実させていく。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１０名予定）

併設園利用児は、つむぎスタッフと園スタッフで連携して開催し、子どもの成長・発達段階や特性などを共有する。支援の内容や関わり方のディスカッションを通し、子どもを中心とした背景や状況を知り考えていくことで理解を深めていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

法人の就学支援シートを活用する。つむぎで行った支援内容や特性、状況、配慮事項を記載し、就学先へ提出することで、子どもの情報を共有し小学校就学への接続をスムーズに行えるようにする。

小学校や放課後等デイサービスの現状を把握できるよう、学校公開や見学などの機会を利用し連携を図れる体制を作っていく。

就学に向けての保護者支援として面談等を行い、利用児の支援だけでなく保護者も支えていく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：南本町東児童公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

実施時期未定だが、「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１７時３０分
自己評価実施予定者：

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２４年８月に利用者アンケートを実施し、２０２５年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	・保育園と協働し、インクルーシブ保育を目指す。 ・インクルーシブ保育・支援を地域に知ってもらう。 ・親子グループの開設。
	振り返り	・上半期は保育園、つむぎとそれぞれに意識と責任を持ち連携し保育支援にあたることができた。どこまでが、どこからかの葛藤はあったが、日々振り返りをし、課題点を見直すことができた。下半期は更に職員間の中で保育

		園、つむぎではなく子どもを中心に連携をとることができたので、次年度は保育業務を園、つむぎの壁をなくし皆で子どもを見ていく。 ・併設園としてのインクルーシブ保育が実践し、ブログ等を活用して外部への発信はできた。相談支援事業所を通して少しずつインクルーシブの取り組み内容を発信することはできたが、そこから広げるまでには至らなかった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	・見附市内に児童発達支援の役割、必要性を周知 ・本人支援、保護者支援、地域支援に力を入れ、地域の中で児童発達支援としての役割を担っていく ・稼働率80%以上を保つ
	重点施策	・地域コミュニティへの参加。 ・相談支援事業所との連携をより深め、サービス担当者会議などを利用して保育園、幼稚園とも情報の共有をしていく。 ・近隣の長岡市、三条市、燕市の相談支援事業所に営業に行き、連携体制を作る。インクルーシブ保育・支援を市外へも広げていく。 ・児童発達支援の役割をスタッフ一人一人が理解できるよう研修を行う。 ・戸外活動、遊びがどのような成長・発達に繋がるのか実体験を通してスタッフが学び、検証し園会議でスタッフに、つむぎカフェを通して保護者に発信していく。
2026年度	目指す姿	・近隣（長岡、三条、燕）の市の中で、児童発達支援事業所の役割の確立、インクルーシブ保育・支援のモデルとなる ・切れ目のない支援、縦のつながりの強化 ・稼働率100%を維持
	重点施策	・横のつながりだけでなく、小学校、放課後等デイサービス、学童などとも連携体制を取り、スムーズに移行ができるようにしていく。 ・常に学び、アウトプット、そして実践することで支援を充実させる。
2027年度	目指す姿	・関係機関との連携会議の定着 ・保育所等訪問支援サービスの開始 ・利用定員を１０人/日から１５人/日に拡大
	重点施策	・関係機関同士のパイプ役となり、子どもを真ん中にすべての機関が連携できる機会、場所を提供していく。 ・子どもだけでなく、保護者の方も安心して過ごせる施設として丁寧な保育・支援を定着させ、利用児の継続希望や口コミにより利用希望児を拡大する。

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 見附ルーム 施設長　大塚 由美子

２０２５年度　発達支援つむぎ 袖ケ浦ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

　児童発達支援事業所として、併設された袖ケ浦どろんこ保育園と共に生活を送り、ひとつの組織として共に協力し合いながら壁のない大きなおうちを目指し、インクルーシブ保育を推進していく。

運営本部mission「原点回帰」毎日の時間を大切に・人格形成を質高く確実に丁寧に
人格形成に関わる大事な時期だからこそ、日々を丁寧にどんな子にも今必要なことを公平に提供することができるよう下記の項目を重点的に行っていく。

①応答的な関わりの中で、１０より１００の実体験の積み重ねをする。
身の回りの人との応答的な関わりの中で、やりたいことを実現させる方法を自ら学び、自身を取り巻く社会の中で経験をつかみ取る力を育てていく。
②よく食べよく遊び、自らが活動を選択し考え、行動ができる子どもを育てる。
日々の生活の中でよく食べよく遊び、生活リズムを整えていく。「じぶんで」を大切に、積み重ねの経験の中で、基本的生活動作の獲得、心身の行動調節力の向上を目指す。
③専門性を生かし、子どもを真ん中においた支援を追求する集団でいる。
子育てに関わる支援者として丁寧なアセスメント、フィードバックの実施をし、子どもを真ん中においた支援を追求していく。
④ありのままの姿を受け止め、苦楽を共にし、助け合える仲間がいる園
全ての人のありのままの姿を受け止め、様々な経験の中で助け合える仲間を増やしていく。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	毎日を丁寧に暮らす
	実践予定内容	その時その時を丁寧に過ごす。日々のささやかな事象を大事にし、子どもの「やってみたい」を引き出しながら発達を促していく。
２	計画・ねらい	子ども同士の関わり
	実践予定内容	年齢や特性に関わらず子どもが互いに関わることができる環境を作り、様々な経験の中から生活力の体得を促す。
３	計画・ねらい	子どもを真ん中にした個別支援計画の作成
	実践予定内容	日々一緒に過ごす中で、子どもの育ちや困り感をスタッフ間で共有し、家庭や関係機関での様子を踏まえたうえで個別支援計画を作成する。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者同士の交流の場を作り、楽しみや悩みを共有することができるようにしていく。
	実践予定内容	保護者懇談会や体験活動などを通して、同世代の子を持つ親同士の関わりや、同じ悩みや不安ごとを抱える親同士の関わりを作る。
2	計画・ねらい	子育ての伴走者として相談してもらえる関係を作っていく。
	実践予定内容	一緒に子育てをしているような気持ちを持ってもらえるような、子どもの気持ちや保護者の気持ちに寄り添ったフィードバックを行っていく。
3	計画・ねらい	きょうだい児も気軽に立ち寄り遊べる施設づくり
	実践予定内容	きょうだい児も一緒に気兼ねなく思い切り遊べるイベントの開催を企画する。
4	計画・ねらい	接遇力の強化（観察力、 傾聴力、 伝達力を上げる）
	実践予定内容	清々しい挨拶を心掛け、おもてなしの気持ちを常に持ちいつ来ても心地よい雰囲気をつくる。相手をよく看て、話をよく聴き、丁寧な関わりや相手に伝わる伝えかたで話をする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ブログを活用する。
	実践予定内容	つむぎの支援についてブログで積極的に発信していく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐの企画を併設施設と一緒に行う。
	実践予定内容	ちきんえっぐの年間行事に組み込んでいく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	専門性を活かした個別支援計画素案の作成
	実践予定内容	終礼で子どもの姿を共有し、日常が線になる支援を行う。丁寧なアセスメントや専門的な視点を共有する中で多角的な考え方、視点が持てるようにしていく。
2	計画・ねらい	学習したい分野を学習し、併設園を巻き込んだ研修会の実施
	実践予定内容	スタッフそれぞれの専門性や気になる分野の学習を進め、講師となり併設園と合同で研修会を開催する。

3	計画・ねらい	どろんこ会の保育についてさらに理解を深め、その実践からわくわくする支援を提供できる保育者になる
	実践予定内容	日課、長距離散歩、だめと言わない保育を実践していきながら、子どもの成長をポートフォリオに記録し、保育の楽しさや魅力、探求心につなげる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	コンポスト、たい肥作り、命をいただく活動を行う
2	計画・ねらい	日本の伝統的な食品加工の体験
	実践予定内容	塩・味噌・梅干し・漬物などの日本食の加工体験を実施する。
3	計画・ねらい	園内緑化計画
	実践予定内容	施設内にある観葉植物の挿し木を行い、緑化を促すとともに植物への関心を高める。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	保育者の混ざり合い
	実践予定内容	目の前に居る子どもと真剣に関わり、施設の垣根を越えて助言や情報共有を行う。
2	計画・ねらい	子の理解、個の理解
	実践予定内容	日常の中でスタッフ間の会話を密にし、子どもの発達や特性、性格の理解を深める。
3	計画・ねらい	ユニバーサルデザインの理解
	実践予定内容	誰が見てもわかる環境づくり

〈7〉語り合い学び合い高め合うチームにする

1	計画・ねらい	語り合い
	実践予定内容	日常の中で子どもについて相談しやすい雰囲気を作る。会議ではケースを持ち寄り、多角的に子どもについて語り合う時間を設ける。
2	計画・ねらい	学び合い
	実践予定内容	園長大学保育士大学の動画を視聴し意見交換を盛んに行える集団を作る。
3	計画・ねらい	高め合う
	実践予定内容	それぞれの専門性を活かし、教え合いながら支援の質向上を図っていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
保育士1名（施設長兼務）
児童指導員２名
社会福祉士１名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	各クラス食事の様子、食育、アレルギー対応、 クッキング内容共有
事故防止委員会	月1回	当月のヒヤリハット、インシデント、事故記録の振り返り、分析と再発防止
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
クラス会議	毎日	子どもの姿の共有、支援内容や活動の流れの振り返り
リーダー会議	隔週	各クラスの問題点、保育内容、環境について

インクルーシブ推進会議	月１回	併設園と利用児の情報共有を行う。 ユニバーサルデザインの学びを深める。 専門士による勉強会

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年２回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	エリアごとに課題やスキルアップのため、討議を重ねる
保健会議	年4回	各園の状況報告や衛生面などについて意識の統一を図る
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のミドルリーダーが自園の保育の質の向上推進のため、アクティビティを実践しながら保育を深めることについて学び合う

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案

体験学習係	体験学習の企画、運営

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営、どろんこサポーターズとの連携
運動会係 生活発表会	運動会の企画、調整 生活発表会の企画、調整
卒園・入園式係	卒園式・入園式の企画、調整、卒園アルバムの作成

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・応答的な関わりや見守りのもと、子ども自身のやってみたい気持ちを引き出し、やりたいことをするにはどうしたらいいか考えたり、周りの人に協力を求めたりすることができるようにしていく。
	下半期	・生活を送る中で仲間を意識し、子ども同士で助け合ったり関りあったりする姿が増えるようにしていく。
家族支援 保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携 意見・要望への対応	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、

別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べる楽しさや心身が満たされる感覚を味わい、食べる意欲や関心につなげる
	実践予定内容	子どもに関わる全ての人が食卓を共にする。一緒に食事をする仲間との会話や雰囲気など通して食べる楽しさやマナー、食への意欲や関心につなげていく。
2	計画・ねらい	自分の食べられる適量を知り、満足いくまで食べる
	実践予定内容	バイキング給食を通して、自分が食べられる食材の判断や量の調整ができるようにしていく。姿勢を整え、よく噛んで食べることを伝えながら、身体に合った適量の食事で満足感が得られるように支援していく。
3	計画・ねらい	食の循環を意識した環境づくり
	実践予定内容	コンポストの実施、土づくりからの季節ならではの野菜栽培を行う。 畑係を中心に収穫から調理、食すまでの一連の流れを一年通して体験していく。

〈4〉保健計画

保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	手洗いうがい指導、歯磨き指導、感染症の話
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月頃･･･手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ、 11月頃…RSウイルス感染症、溶連菌感染症 12～２月頃･･･インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	対象児なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在４名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED未設置

その他保健に関する取組	自治体からのお知らせ掲示、保健関係研修の受講 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024 年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	「外で遊びたい」気持ちをかき立てる園庭づくり。
	実践予定内容	登りたくなる築山、思い切り遊びたくなる泥場や砂場、虫探しをしたくなる花壇や植え込みなど、子どもたちが様々な経験を重ね「やりたい」が実現できる園庭整備。 石拾いなどの安全対策は、定期的に子どもたちと行う。
2	計画・ねらい	無駄なものがない室内
	実践予定内容	子どもたちの成長発達を理解し、興味関心に常にアンテナを張り、その時々に必要な環境を提供する。
3	計画・ねらい	食べてみたい気持ちを引き出す畑と田んぼ
	実践予定内容	季節の野菜の栽培、泥や水に触れながら米作りを行い、脱穀～食すところまで行う。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	鶏小屋	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 事故防止委員会	過去の事例や予測される事故には、自園だったらどのような課題があり、それを防ぐ為にはどのように行動しなければならないかなど検証し、スタッフ全員周知の上、事故に発展することが無いようにリスクマネジメントを行う。保育者は見通しや予測を立ててそれを互いに共有しながら行動する。 ・ヒヤリハット・インシデントの事例は、事故防止委員会やクラス会議の中で様々な視点から統計を出した上でケース検証を行い、事故防止につなげる。
2	実践予定内容 避難訓練・不審者侵入訓練	・事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高める。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用する。 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	実践予定内容 光化学スモッグ	光化学スモッグ発生時には、市役所などが発信する情報をこまめにチェックし、屋外の活動を控えるなど対応する。
4	実践予定内容 ハザードマップ	園内外のハザードマップを作成し、危険箇所の確認と安全確認の周知を都度更新していく。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

地域における福祉サービスへのやりがいや楽しさを知っていただき未来の担い手を増やす。

1	実践予定内容	子どもたちと実際にふれ合い、全力で遊んでもらう
2	実践予定内容	どろんこ祭り、運動会、生活発表会などの運営ボランティアの募集
3	実践予定内容	各世代の実習生の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月２５日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　新人研修怪我・ケーススタディ ③ 子どもの人権	怪我のケーススタディを行い、危機管理の基礎を学ぶ。 子どもの人権を「守り」「育む」ために、まずはこどもの権利条約について理解を深める。
5月２３日	18:00～20:00	②　コンピテンシー自己採点 ② 日常・基本活動の理解を深める	「なぜやるのか？」を語り合いにより深めていく。形だけ行うのではなく、意味を持って日々実践できるよう理解する。
6月２７日	18:00～20:00	②　コンピテンシー自己採点 ② 危機管理	・危険予測トレーニング、園のルール、ケガ発生時の対応などの再確認。 ・園長大学®・保育士大学の動画視聴（水辺のリスクマネジメント）
7月２５日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　専門的視点	スタッフの得意分野から専門的知見を深める内容の研修を行う。
8月２２日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　専門的視点 ③ 散歩の安全管理	スタッフの得意分野から専門的知見を深める内容の研修を行う。 散歩ルールの再確認

9月２６日	18:00～20:00	②　コンピテンシー自己採点 ③　専門的視点	スタッフの得意分野から専門的知見を深める内容の研修を行う。
10月２４日	18:00～20:00	②　コンピテンシー自己採点 ② 専門的視点	スタッフの得意分野から専門的知見を深める内容の研修を行う。
11月２１日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　専門的視点	スタッフの得意分野から専門的知見を深める内容の研修を行う。
12月２６日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ②　感染症対策 ③ 事業計画振り返り	嘔吐処理、衛生管理、感染症流行時の対策 事業計画の振り返り
1月２３日	18:00～20:00	①　コンピテンシー自己採点 ③　来園度に向けた事業計画 ④　保育所児童保育要録の書き方	来年度の事業計画素案の発表とスタッフとのすり合わせ 保育所児童保育要録の要点を園長大学®・保育士大学を活用して学ぶ
2月２７日	18:00～20:00	策定会議のためなし	メ
3月２７日	18:00～20:00	キックオフのためなし	メ

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月I日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年I回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈I〉今年度方針・テーマ

近隣施設との交流が図れるよう徐々に計画をしていく。

日々の散歩時にすれ違う近隣の方々や商店街ツアーなどの園外活動中に出会うすべての方に、スタッフ自ら笑顔で挨拶をし、その背中を見て子どもたちも元気よく挨拶をすることを習慣化する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年I回　　目標：５００名
青空保育（保育園主催）	月I回 公園名：袖ケ浦駅海側地区近隣公園にて　目標：１００名/年
商店街ツアー	週I回
世代間交流	月I回　老人施設「シェアハウス彩輝」に訪問予定
異年齢交流	きょうだい児の保育体験
地域拠点活動	体験活動　２回/年

9. 小学校との連携の計画

〈I〉今年度方針・テーマ

小学校接続に向けて、近隣の支援学校や福祉施設へアプローチしていき、できるだけ多くの選択肢ができるような連携が取れるように関わりを作っていく。併設の袖ケ浦どろんこ保育園の園児や地域

の小学生など、同年代の子ども同士の関わりを多くとりながら、段差を感じにくい環境づくりを行い、スムーズな小学校接続が行えるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
６月頃	奈良輪小学校 1年1組	25名予定	保育園探検 （当園）	子ども間交流
６月頃	千葉県立袖ケ浦特別支援学校	２名予定	学校見学	スタッフ間交流
８月頃	奈良輪小学校 学童	７名予定	学童体験 （奈良輪小学童）	子ども間交流
11月頃	奈良輪小学校 1年全クラス、支援級	４名予定	授業参観 （奈良輪小教室）	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

原則6ヶ月に1回以上支援計画の見直しを行い、保護者にモニタリングを実施する。保護者の希望を聞き取り、子どもの心身の状況、日常生活の様子を整理する。児童発達管理責任者を中心とし、策定会議を行い、目標設定と具体的な支援を検討し、個別支援計画書を作成する。

個別支援計画書は保護者に提示し、説明と同意を得て支援を行う。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：６名予定）

支援児については毎月ケース会議を行い、現在の様子などの情報共有、支援計画書を元に次月の支援目標を確認し、全スタッフが同じ関わりができるように周知していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

児童要録や支援記録をもとに、小学校接続への段差がないように引継ぎを行っていく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：２００名/年
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　目標：２０名/年
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00　　目標：５０名/年
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00　　目標：６０名/年
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：袖ケ浦駅海側近隣公園にて開催　目標：１００名/年

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年６月４日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１２時００分
自己評価終了予定時刻：１４時００分
自己評価実施予定者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２５年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・つむぎ袖ケ浦ルームとして地域の方に認知してもらうために他事業所との連携や交流会に参加する。 ・つむぎ園としてにんげん力を育てる支援の基礎を作る。
	振り返り	・つむぎ袖ケ浦ルームとして地域の方に認知してもらうために役所や他事業所との連携や交流会の参加などを行った。認知度はロコミや関連施設の紹介などから広がり、３市の方から利用される施設になっている。 ・つむぎの併設園としての強みを見出し、子どものやってみたい気持ちから様々な力を発揮できるような支援の基礎固めを行った。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	壁のない大きなおうち
	重点施策	つむぎ、併設の保育園、壁のないひとつの大きなおうちになるようなインクルーシブ支援の推進 どんな子どもでも『やってみたい気持ち』から公平に機会が持てる支援
2026年度	目指す姿	地域を巻き込んだ壁のない大きなおうち
	重点施策	子どもたちと戸外へ積極的に出て行き地域資源を大いに活用し、つむぎ袖ケ浦の認知を進めながら地域全体で子どもたちを見守ってもらえるような拠点にする。
2027年度	目指す姿	地域に馴染み、発達に躓きのある子や悩みを持つ保護者が気軽に立ち寄れる発達支援の拠点
	重点施策	インクルーシブ支援の定着 どんな境遇の子どもでも公平に様々な経験ができる機会を作れる支援を提供できる集団になる。 地域のコミュニティーと積極的に関わりをもつ

以上

作成日：２０２５年3月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 袖ケ浦ルーム 施設長　坂井　直子

２０２５年度　発達支援つむぎ 前原ルーム
事業計画書

1．基本方針

前原どろんこ保育園と併設される発達支援事業所「つむぎ前原ルーム」は、法人理念である「にんげん力。育てます。」及び子育て方針である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を鑑みて、併設された前原どろんこ保育園と共に生活を送り、一つの組織として共に協力し合いながらインクルーシブ保育を推進していく。そして、インクルーシブ子育てをスタンダードとしていくために、つむぎ前原ルームの周知活動を行う。利用する子ども・保護者支援、併設園だからこそできる支援を計画し、一人ひとりに最善の支援ができるように、研修を行いスタッフの支援の質、アプローチ内容等を積み上げていく。

【主題】原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～

① 「保育品質マニュアル4-2　基本活動」の深く理解する～ホンモノの体験を～

② 「畑仕事・生き物の世話・たい肥作り」を確実に丁寧に行う～毎日の活動を大切に～

③「混ざる」その先へ　健常児も障害児も生きる力を獲得する

【つむぎ前原ルームが今年度目指す姿】

・生活力の体得

・幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿の体得

・子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

・命をいただく活動の実践

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	他者と過ごす時間を深め、子ども同士のやり取りが広がる
	実践予定内容	・様々な大人や子どもと信頼関係を築き、安心して生活できるように寄り添いながら大人が適切な距離で支援を行い、子ども自らが他者と関わるきっかけづくりを行う
2	計画・ねらい	・保育の安全管理体制づくり ・保育の安全管理への意識を高め、安全管理体制を作り、安全な保育環境を整備する
	実践予定内容	・マニュアルの意義について確認し、マニュアルを遵守する。 ・室内、園庭、散歩コース等のリスクの把握に努める。 ・事故防止のためヒヤリハットの収集に努め、重大事故防止の体制を整備する。 ・子どもの豊かな体験を保証するための安全管理であることを共有する

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・インクルーシブ保育の保護者理解と周知への取り組み ・インクルーシブ保育の本質について、すべての子どもに必要な保育であることを発信し広めていく
	実践予定内容	行事、保護者会、日々のタイムラインなどで、インクルーシブ保育はすべての子どもたちに必要な保育であることを発信する ・集団の中での、子ども同士の関わりにおける成長の姿について、エピソードを通して保護者に伝える ・保護者の意向や気持ちを受け止め、障害の特性や発達の各段階に応じて「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に保護者支援を行う
2	計画・ねらい	・関係機関との連携を密にしていき、地域資源を活用しながら、地域全体で支援を考えていく
	実践予定内容	・相談支援事業所、保育園、幼稚園と他機関との連携を図り、地域全体で支援をしていく ・小学校、放課後等デイサービスなど就学に向けてのアプローチもしていく
3	計画・ねらい	・保護者交流会
	実践予定内容	・利用児の保護者を中心に参加を呼びかけ、子どもの成長を共有したり、日々の困りごとや不安、就学などについて気楽に話したりする場をつくる

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	・広い園庭環境を活かした親子交流、地域交流の促進。 ・広い園庭環境で様々な人が交流できる機会を持ち、地域に開かれたルームとなる。
	実践予定内容	・生き物との触れ合い、畑づくり、米づくりなど自園の特徴を生かして地域の方々を巻き込み、広い園庭を活用した子育て親子、地域の方々など世代を超えた交流を図る。 ・近隣の園や学校、老人施設、発達支援事業所などとの交流の機会を積極的に持つ。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・インクルーシブ保育の中でより良い支援を考え、学びを深める。スタッフ間の情報共有を自主的に行い、質の高い支援につなげる。
	実践予定内容	・保育所保育指針・児童発達ガイドラインの内容の理解を深め、実践する。実践する中で専門職が各会議で積極的に情報共有することで、併設施設としてより良い支援を目指し、質の高いスタッフを育成する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	・生き物の世話
	実践予定内容	・毎日の小屋掃除と糞の始末・堆肥作り・堆肥の畑活用・命の循環教育を丁寧に行う
2	計画・ねらい	・畑仕事・堆肥作り
	実践予定内容	・毎日、大人と子どもで一緒に畑仕事をし、耕し、苗植え、水やり、間引き、雑草むしり、収穫を行う

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	・職種の違いを超えた連携。 ・スタッフの専門性を活かした保育が実践できるように、職種の理解を深める。
	実践予定内容	・保育の場面やケースを通して、互いの理解を深め、共有する機会を持ち、インクルーシブを確立して行く。 ・子どもの姿を共通の軸にして、意見交換できる風土を作る。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名
児童発達支援管理責任者1名
機能訓練担当スタッフ3名（作業療法士2名、理学療法士1名）
児童指導員1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの前月分検証、法人内で起きた事故の共有、危機管理、安全対策
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月2回	気になる子についての状況共有、支援計画書の見直し
リーダー会議	週1回	園の課題を抽出し、解決策を検討
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討
管理者会議	週1回	円滑に園運営ができるよう課題の抽出し、解決策を検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	つむぎガイドラインについて インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	法人全体での食育活動の共有、意見交換、成果発表　等
保健会議	年4回	保健衛生に関する事項についての共有、意見交換　等
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み　等

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑、田んぼの年間計画作成と実施 用具類の管理と補充
生き物係	鶏、ヤギの健康管理、飼育環境の整備・改善 命の尊さや自然事象への関心を広める機会の設定
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	併設園スタッフ、保護者と協力し計画、準備、進行を行う
運動会係	併設園スタッフと協力し計画、準備、進行を行う
生活発表会係	併設園スタッフと協力し計画、準備、進行を行う

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・1日の生活に慣れ、安心して生活を送れるようにする ・スタッフとの愛着形成を行い、安心して過ごせるようになる ・戸外活動を通して身体の土台作りを行う ・他者への興味・関心が持てるような関わり、体験を実施する
	下半期	・自分の気持ちを他者に伝えようとする意欲を育む

		・戸外活動を通して身体の土台作りを行い、異年齢や友だちとのやり取りを楽しむ ・人と関わる中で集団性や社会性が育む支援を行う
家族支援	随時	・保護者と信頼関係を築き、相談しやすい関係性、環境を整える ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心を持つ
	実践予定内容	鶏やヤギの糞、廃棄食材で肥料を作り、畑に使用して、食の循環を認知する ・季節に応じた作物を育てて畑活動の充実を図り、失敗と成功を経験しながら、作物が育つまでの世話の大変さ、収穫、食すことのうれしさや喜びを感じられるようにする ・食材を加工し、手間をかけることで食べられるものや長期保存できるものを知らせ、魚の解体を通して命をいただくことの意味を実体験として伝えるなど食の知識を学びながら食べることの大切さを学んでいく
2	計画・ねらい	食べる意欲を育てる
	実践予定内容	食べたい環境を自分で選択できるようにし、共に食べる喜びを感じながら心地よく食事を楽しめるようにする ・バイキング給食を実施し、自分の食べたいものを自分で盛り付け、自分の食べきれる量を知る ・日々の活動の中で、空腹感を感じることのできる活動を保証し、食欲につなげる。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6から8月頃･･･胃腸炎、手足口病、プール熱 1から2月頃･･･インフルエンザ、溶連菌、胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･０名より預かり済み
エピペン使用できるスタッフ	本日現在６名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在６名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	・日々の子どもの健康状態の把握、近隣園、地域での感染症流行情報の把握、情報発信 ・生存確認、嘔吐処理、おむつ交換、与薬、アレルギー食の提供、定期的なロールプレイを実施 ・新型コロナウイルス及び他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また、消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日

	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子ども自身が活動・玩具・教材・絵本・運動遊具を選び、手に取れる環境を整える
	実践予定内容	子どもたちの「やりたい」を実現するためにスタッフと子どもたちが試行錯誤し実践を繰り返す
2	計画・ねらい	掃除や管理の行き届いた環境の維持
	実践予定内容	衛生管理に配慮し園舎内外の清掃、物の管理を行う。 スタッフ一人ひとりが身近な大人として子どもたちの手本となるよう率先して実施する

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	マルチ棒	屋上園庭倉庫	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実施予定内容【防災】	・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月１回の避難訓練を行い、火災・地震の避難方法を確認する ・アプリの災害時緊急掲示板を使って、安否情報（園児数・保育者数・ケガ人・建物の被害状況・避難場所）を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる
2	実施予定内容【ケガ事故防止】	・ヒヤリハット・インシデント報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証を行い、事故を未然に防ぐ ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し、事故防止策を探る ・ハザードマップを作成・更新し、ケガや事故防止に努めていく
3	実施予定内容【不審者対策】	・年２回不審者侵入訓練を行う ・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく（笛の携帯・代理送迎者の把握など）
4	実施予定内容【光化学スモッグPM2.5】	・光化学スモッグ、PM2.5の知識を身に着け、発生時には光化学スモッグ発生時対応、および行政連絡に従い対応する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所として次世代育成の観点から、積極的に実習生やボランティアの受け入れを実施し、一人ひとりに応じた保育・福祉の現場で活躍する人材育成を実施する。また、地域に根付いた開かれた事業所となるよう、積極的に受け入れを実施する。

1	実践予定内容	中高生の職場体験の受け入れを行い、施設を知ってもらう
2	実践予定内容	保育養成校・専門士養成校の学生の実習を受け入れ、学びを深める場とする

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育理念・日課の理解 子どもの人権について	虐待の定義について マニュアル理解、日課についてディスカッション

			保育のねらいや計画の重要性 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
5月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② つむぎガイドラインについて	インクルーシブ保育への理解 つむぎ担当 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う リズム研修・室内環境について
6月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リスクマネジメント研修 保護者支援	プールや水遊び活動時におけるリスクの抽出や活動の見守り方について学ぶ
7月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 0歳：3つの視点	乳児リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
8月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ③ 5領域について	５領域について 幼児リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
9月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校との接続	就学リーダーによる研修 就学前教育の意義の必要性 「架け橋プログラム」の理解を深める
10月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修	事業計画進歩状況確認 虐待防止研修 安全計画・人権チェック
11月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 相手の視点から考える接遇	接遇リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
12月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ②今年度の振り返り	今年度の振り返りを行い、次年度へつなげていく
1月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り	園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
2月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	次年度に向けての計画を行う
3月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	次年度に向けての計画を行う

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉児童発達管理責任者の育成

スタッフから希望があれば児童発達支援管理責任者資格取得に向けて協力する。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の公民館、施設等との交流を通してつむぎ前原ルームを知ってもらい、地域の方が足を運びたくなる施設となる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：500名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：前原公園広場にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	併設園と地域の高齢者施設、公民館行事を通した交流
異年齢交流	中高生ボランティアの受入れ
地域拠点活動	青空保育、近隣保育園との交流

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣小学校への訪問を通して丁寧な情報交換ができる関係性の構築。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を　5月1日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	近隣小学校	2～4名予定	学校見学 （つむぎ、園スタッフ）	地域の小学校を知る 小学校の現状を知る
10月頃	近隣小学校	2～4名予定	行事見学 （つむぎ、園スタッフ）	地域の小学校を知る 小学校の現状を知る
2月頃	近隣小学校	2～4名予定	情報交換	次年度準備

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

6カ月に1回モニタリングを保護者と実施する。前原どろんこ保育園と連携し、共に子どもたちを見る中で、要支援児の個別支援計画、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中での子どもの姿、変化をスタッフ同士で共有し、多様な視点から、子どもを援助していくようにする。また、保護者との対話を密に行う中で、子どもの成長を保護者、スタッフ間で共有していく。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：数名予定）

支援児のみではなく、気になる子の様子についても記録し経過を観る。発達段階の関わり方の共有を目的として施設長と各リーダーで開催し、必要な情報は関係するスタッフに共有する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

安心して新旧・進学ができるように必要な情報の開示及び交流を積極的に行う。
保護者や関係機関、小学校との連携を重視し、情報の共有を密にする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：１０名
つむぎカフェ	（月）～（土）９:00～16:30
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：３名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00　　集客目標：５名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：５名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：前原公園広場にて開催　集客目標：１０名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年８月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１４時００分
自己評価終了予定時刻：１７時００分
自己評価実施予定者：施設長、児童発達支援管理責任者、児童発達支援員

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	・組織づくりとは何かをスタッフが理解し、仕組み化に取り組む。 ・つむぎ前原ルームが目指す、インクルーシブ保育・支援を地域に知ってもらう。
	振り返り	・前半はスタッフの入れ替えがあり仕組みづくりに取り組むことが難しかったが後半はスタッフも安定し、日々の業務から組織づくりに対しての意見が出るようになり園と協力して仕組みづくりができつつある。 ・インクルーシブ保育については日々の支援を通して話し合うことが多く、それぞれの意見を出しあい、時には園のスタッフとの意見交換をすることでつむぎ前原ルームだけでなく、併設施設として取り組むことができた。インクルーシブ保育、支援を安定させる事が中心となり地域への周知が足りず稼働率を伸ばすことができていないため、次年度は地域に知ってもらえるよう営業、その他イベント等を組み込んでいく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	・組織づくりのとは何かをスタッフが理解し、仕組み化の基盤ができあがり、稼働している ・業務改善がスタッフの提案を中心に具体的改善策となっている ・つむぎ前原ルームが目指す、インクルーシブ保育・支援を地域に知ってもらう
	重点施策	・組織づくり、仕組み化を適宜見直し、調整し担当者、管理職の確認のもと進めていく ・現場における課題を通して、園内で更なる学びの機会を設ける ・近隣園との交流、イベント等を通して、地域に広く様々な形で視察、見学者を増やす ・保育、支援の質をあげるため園長大学®保育士大学等を活用し学びあえる環境をつくる
２０２６年度	目指す姿	・組織を基盤とし、全スタッフの保育の質の向上が図られている ・前原どろんこ保育園との連携によりインクルーシブ保育が実現している ・連携の基盤が確立し、インクルーシブ保育が実践されている
	重点施策	・業務の仕組み化の定着しスタッフ自ら提案し、計画、実行する ・園内研修をスタッフ主導で実施し、共に学び合える
２０２７年度	目指す姿	・どろんこ会が目指す方針が理解され、保育内容に共感して、利用児が定員に達している ・地域から認められるインクルーシブ保育のモデル施設となり、見学などの受け入れを行う

	重点施策	・ロコミによる入園児数拡大 ・専門性の高いインクルーシブ保育、支援の実施 ・スタッフ一人ひとりがインクルーシブ保育について語れる

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 前原ルーム 施設長　山田　千秋

２０２５年度　発達支援つむぎ 篠栗ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

当事業所では、どろんこ会グループの理念「にんげん力。育てます」「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を基本として、様々な人との触れ合いを通して、生活力、選択力、思考力を育める環境を構築していく。そして、保育園と併設された児童発達支援事業所としてインクルージョンの実践、一人ひとりを受け止め、多様性を互いに認め合い、活かし合えるようなインクルーシブな保育を行っていく。

2025年度施設運営missionである（主題は、原点回帰～毎日の生活を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～）「基本活動の深い理解」「畑仕事・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧に行う」「～混ざるのその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する」「自走に向けて」を目指す組織づくりを行っていく。

また開所2年目を迎え、地域の皆様につむぎの理念や方針を理解して頂けるよう、積極的に地域に出向き交流の機会を増やしていく。

福岡で唯一の保育園、児童発達支援事業所の併設園として真のインクルーシブを目指していく～障がいのある子どもも障がいがない子どもも一緒に生活することを日常とする。そしてやがて大人になり、社会に出たときに自立し助け合いながら生活出来るように、この大切な乳幼児期を共に過ごす中で自己肯定感を養っていく～

〈１〉支援内容の充実・質の向上

法人が大切にしている日課、基本保育活動を理解し実践していく中で、つむぎ篠栗ルーム・篠栗どろんこ保育園が協働し、戸外活動や遊び、生活を通して子ども同士のかかわり、大人とのかかわりを通して、生きる力を身に着けていく。

1	計画・ねらい	・子どもたちが安心して楽しく通うことができる。 ・子どもの発信を受け止めて、応答的に関わる。
	実践予定内容	・あらゆる場面において、大人の都合で子どもを動かしたり、「危ないからダメ」などと言ったりせずに子どもが自分で選択して安心できる環境を心掛ける。 ・子どもの主体性を考えて、子どもの気持ちや状況を考慮し、考え、言葉を手渡すようにして応答的に関わる。 ・家庭と連携して、子どもの様子や体調の変化などを共有、保育園のスタッフとも共有し、対応の統一を図り、保護者や子どもを不安にすることがないようにする。
2	計画・ねらい	・日課、基本保育活動の定着を図り、子どもの成長につなげていく。 ・大人が子どもに背中を見せる。
	実践予定内容	・異年齢保育、インクルーシブ保育の中でどの年齢の子どもも障害がある子どもも自分がやってみたいこと、思い通りにならないこと全て実際に経験する。探索が出来るように環境を構成する。

		・個々の発達過程や個性、特性を理解し、見通しをもって意欲的に日課や基本活動に参加できるように工夫し、計画的かつ継続的にそして、丁寧に進めていく。
3	計画・ねらい	・人と関わる力を育む。 ・子ども同士で伝え合い、関わり合える環境を用意する。
	実践予定内容	・発達支援の専門士のスタッフや保育園のスタッフとともに個々の子どもの発達状態に合わせて、日常のプログラムを実施していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

保護者が安心して利用させることが出来るように、コミュニケーションを取り、悩みや課題を一緒に考え、利用者のニーズを抽出して、保護者に寄り添った支援をしていく。関係機関との連携を図り、地域全体での支援をしていく。

1	計画・ねらい	・保護者にとって居心地が良い場所になる。 ・全スタッフが自信をもって挨拶、お迎え対応をする。
	実践予定内容	・スタッフ一人ひとりが手を止めて、顔を上げて挨拶をする。 ・お迎え時には、支援のねらいと子どもの様子を振り返り、今後の支援の方針と見立てを伝え、質問や疑問などに対して丁寧に誠一をもってお答えする。
2	計画・ねらい	・安心してお子様を託すことができる場所となる。 ・保護者が知りたい情報を提供する。
	実践予定内容	・口頭のみのお伝えだけでなく、お知らせなど目で見て分かる情報の提供を定期的に行う。 ・支援の内容や意図をご理解頂けるよう、活動のねらいや個別の支援目標を丁寧に分かりやすく伝える。 ・保護者懇談会を実施して、子どもの成長を共有、相談できる機会を設ける。
3	計画・ねらい	・地域との連携を積極的に図る。 ・いずれは地域の中で安心して自分で生活していくために、この乳幼児期の自己肯定感を培うことを大切にしていく。
	実践予定内容	・スタッフ間で、地域からの連絡や相談事項の共有を行い、迅速かつ丁寧な対応が出来るような体制を整える。 ・必要に応じて、行政、保育園、幼稚園、他事業所、就学先との連携を図る。

〈3〉地域の子育て支援事業

保護者が安心して子育てが出来るように、日頃から保護者とのコミュニケーションを豊かにする。
日々の支援を外部の方へ発信して、保護者や地域の方々に知ってもらい子育て支援の拠点になる。

1	計画・ねらい	・SNS、ブログによる外部の方々への発信
	実践予定内容	・活動内容や取り組みを地域の方々へ発信して、子育てのヒントや活動内

		容の見える化を図っていく。
2	計画・ねらい	・ＴＳＵＭＵＧＩカフェの周知・園庭開放
	実践予定内容	・地域の方々が気軽にカフェや園庭に集い繋がる場を提供する。 ・地域の方同士が繋がれる場所の提供をする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

保育園のスタッフ、つむぎのスタッフが常に子どもの事を真ん中に考え、子どもの最善の利益を考える。サービスとスキルの向上を図るとともに、スタッフ自身のにんげん力のアップをする。

1	計画・ねらい	・「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解、把握をして支援を行えるようになる。 ・子どもの成長に必要な経験について学ぶ場を設ける。
	実践予定内容	・保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインを用いて、保育や支援のねらいを理解する。 ・園長大学、保育士大学を活用して、実践に活かせる学びの場を提供する。 ・定期的に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を振り返りながら学習して、子どもの見立てに活用する。
2	計画・ねらい	自身の意見や考えを持ち、主体的に動く。
	実践予定内容	・新しいものを生み出す意識を常に持ち、またそれを実現する力を養う。 ・言いたいことや提案したいことをいつでも話せる職場づくりをそれぞれのスタッフ、施設長が心掛ける。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	・誰もが心地よく過ごせる場所づくり。 ・大人も子どもも一緒に掃除、整理整頓を行う。
	実践予定内容	・大人も子どもも使ったものをきちんと元の場所に戻せるような、工夫を凝らした物の配置や提示の仕方をする。
2	計画・ねらい	・食材や食の循環、環境への意識を育む環境教育の実践。 ・日課である畑仕事を通して、子どもたちが食の循環を体験する。
	実践予定内容	・コンポストでヤギの糞を使って、たい肥づくりをする。 ・畑を耕し、土壌を整えて、種まきや苗の植え付けして、水やり、雑草取り、収穫、加工などを実際に経験する。（梅干し、味噌づくり、たくあんなど）
3	計画・ねらい	・室内環境、園庭環境の充実を図る。 ・子どもたちが遊びこめる環境づくりを行う。
	実践予定内容	・室内や園庭にある玩具や遊びの選別、メンテナンスを定期的に行う。 ・保育園のスタッフとつむぎのスタッフが一人ひとりの発達を鑑み、遊びの工夫や活動の提供をしていく。 ・子どもが安心できる場所を確保する。

〈6〉篠栗どろんこ保育園との連携と協働

I	計画・ねらい	・子どもの成長を共に喜び合う、保育園とつむぎスタッフがワンチームとして子育てをしていく。
	実践予定内容	・保育園、発達支援事業所の壁を乗り越えて、（～混ざるのその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得するために）一つのどろんこスタッフとして混ざってワンチームで子どもたちを育てていく。 ・スタッフ間の言葉がけや共有を密にして、また言葉にして伝え合う。 ・互いの立場や役割を理解し、対等な立場で意見交換をしあう。 ・行事は、計画から行事終了後の反省と記録まで、両スタッフで一緒に行っていく。 ・支援を必要とするこどもに対して、多角的、多面的な視点で保育計画を作成し実践、振り返り、改善といったPDCAサイクルを重ねて、子どもにとっての最善の利益を追求する。

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員　児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名
児童発達支援管理責任者I名
児童指導員2名
保育士I名
機能訓練担当スタッフ１名（作業療法士I名）

3. 運営方針

〈I〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月I回I20分	園内研修、コンピテンシーによる自己評価、研修報告、共有事項、活動の振り返り

給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラスの状況共有、アレルギーへの対応、食育
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿から傾向分析と検証、再発防止策の共有
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについての情報共有
週案会議	週1回	全クラスの保育計画の調整と連携
リーダー会議	適宜	園全体の課題検討、職員の連携状況確認
支援計画策定会議	適宜	支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 対象児に関わる保育園スタッフ、つむぎのスタッフと児童発達支援管理責任者が必ず参加する

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内事項、各部署からの連絡・確認事項の伝達 事故防止委員会、運営状況報告　等
施設長勉強会	月1回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション・課題の取り組み共有　等
主任児発管会議	年4回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表 課題の取り組み共有　等
食育会議	年4回	法人全体での食育活動の共有、意見交換、成果発表　等
保健会議	月1回	保健衛生に関する事項についての共有、意見交換　等
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有　等
併設園会議	年2回	意見交換・ディスカッションでの学び合い

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理・清掃及び備品の管理・発注、感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保護者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、施設内外の設備点

	検・事故防止点検の実施、ハザードマップの作成・更新
防火管理者	消防計画の作成と届出、それに基づく各種訓練の実施
食品衛生責任者	食材発注、給食提供食材の衛生管理と在庫状況の把握管理
畑係	畑・田んぼの年間計画作成と実施、用具類の管理と補充
生き物係	ヤギの健康管理、飼育環境の整備・改善 命の尊さや自然事象への関心を広める機会の設定

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの計画・実行・地域への広報
運動会係	運動会の計画・実行・地域への広報
生活発表会係	生活発表会の計画・実行・地域への広報

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・安心して過ごせる場所と人がいる中で、集団での生活を経験する。 ・自ら興味関心の持てるような環境の中、発見や工夫を楽しめる遊びを保障していく。 ・自分で選び、遊びこめる環境を保証する。
	下半期	・異年齢の関わりがいつでも持てるようゾーン保育や子ども自ら自主的に遊びが選択できる環境を設定する。 ・関わりの中、様々な葛藤を経験し自分で考え、工夫し自ら行動できるよう、また自分たちで約束やルールを決めて活動できるようにしていく。
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針の理解
	実践予定内容	『調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる』『噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供』『子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる』を基本とし、子どもが食に対して興味・関心が持てるようにする。
あ 喜 び を	計画・ねらい	子どもの「食べたい」という意欲を育てる。
	実践予定内容	「食べることは生きること」であり、楽しい給食の時間を前提にする。食事は、食べたい分だけよそい、食べたい席を選ぶ事を大事とする。そのために、環境設定を大切にして食事を楽しめるようにする。
3	計画・ねらい	実体験を通して、食材や食の循環に対して興味関心を持つ
	実践予定内容	・畑活動の充実を図り、失敗と成功を繰り返しながら、作物が育って食すことの嬉しさを感じられるようにする。 ・食材の加工や命をいただく経験が出来るよう計画し、食の知識を学びながら、食べることの大切さを学んでいく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年２回（６月・１１月）
歯科検診	年２回（６月・１１月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	安全な歯磨き指導、正しい手洗いやうがいの指導、体の仕組み等

流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６月～７月頃･･･アデノウイルス １１月頃･･･ウイルス性胃腸炎 １２月頃･･･感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	緊急時薬　預り無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在３名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他のウイルス感染予防のため、元気な体づくりの体操・うがい指導・手洗い指導などを行う。また消毒・換気をする。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	年2回/6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間

	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	全ての子どもが混ざり合い、育ちあう「一つの大きな家」を意識した室内環境づくり
	実践予定内容	・全ての子どもが自由に行き来し、好きな場所で好きな遊びを楽しみ、満足するまで遊びこめる環境、安心して過ごせる環境づくりをする。 ・保育園、つむぎのスタッフは子供の興味関心を知り、スタッフ間で共通認識をする場を定期的に持ち、子どもの姿に合わせて変化し続け、必要なものが揃った環境を目指していく。
2	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた保育環境づくり
	実践予定内容	子どもたちの遊びの姿や発達に沿った環境づくりを行い、一年を通して常に同じ環境ということをなくし、季節やその時の子どもの成長、 遊びに合わせた保育環境づくりに努める。
3	計画・ねらい	大人も子どもも整理整頓しやすく、必要なものしかない環境づくり
	実践予定内容	・日常的に整理整頓されている環境を、一人ひとりが意識する。誰でも片付けがしやすく、わかりやすい工夫を行っていく。 ・いつ誰が見ても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓と清掃が行き届いた環境づくりに努める。美観を継続する為に必要なものしかない環境を心掛け、随時園内外の環境の見直しを行う。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月一回の避難訓練を行い、火災、地震の避難方法を確認する。 ・X（旧Twitter）の災害時緊急掲示板を使って安否情報（ルーム名・園児数・支援者数・けが人・建物の被害状況・避難場所）を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる。
2	ケガ、事故防止対策	・ヒヤリハットやインシデント報告書の運用を徹底し、再発防止とともに危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努める。 ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し事故防止策を探る。 ・園内外の危険個所の見直しながら更新し、ケガや事故防止に努めていく。
3	防犯対策	・年2回の不審者侵入訓練を行う。 ・ちきんえっぐ利用者のインターホンでの確認、名簿記入。

		・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく。（笛の携帯・代理送迎者の把握等）
4	光化学スモッグ	光化学スモッグに対しての正しい知識を身につけ、注意報発令の把握に努める。発生時には、危機管理マニュアルに則り対応し行政判断を仰ぐ。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成し、インクルーシブな現場を体験してもうことで、地域全体での子育てや社会における福祉サービスを認知してもらう。
保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ/一般及び学生の各種ボランティアの受け入れをしていく。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月１８日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止 園長大学動画視聴 「はじめての人権」	子どもの人権について考え、常日頃の園でのかかわりについて振り返り、改善をはかる 子どもに対する見方捉え方を学ぶ。
5月１６日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②日課・基本活動の理解を深める	「なぜやるのか？」を語り合いにより深めていく。形だけ行うのではなく、意味を持って日々実践出来るよう理解する。
６月２０日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②プール実施前事故防止 園長大学動画視聴 「飼育・栽培・散歩どうしてる？」	・子どもを水遊びの危険から守るためのリスクの共有、水遊び、プールが始まる前の注意すべき点の共有、水の事故事例検証と事故防止について学ぶ。 ・危機管理意識について、災害時の対応、ロールプレイ
7月２５日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②インクルーシブ保育園長大学動画視聴 「わからない」から「やってみたい」に変える	・インクルーシブ保育の理解を深め、現状の課題に活かす。 ・大人の見守りの中で、年齢関係なく多様な関わりができ、それぞれが自分で考えて行動できる力が身につくように学ぶ。

8月２９日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②丁寧な保育 園長大学動画視聴 「子どもの心の育ちと言葉がけ」	・子どもの発達を理解し、年齢ではなく一人ひとりに合わせた関わりや環境構成の事例報告・ディスカッションを通じて学ぶ。
9月１９日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②利用者アンケートについて ③保護者支援 園長大学動画視聴「おもてなし力」	・利用者アンケートを受けて、保護者の思いを受け止め、園の課題点の洗い出し・是正計画を行う ・保護者が感動するような支援・関わり、保護者支援について学ぶ
10月２４日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②感染症対策	・季節性の感染症の特徴、感染経路予防方法などを学ぶ ・嘔吐処理冬の感染症について マニュアル読み合わせ 正しい処理の仕方
11月２１日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②全体研修動画の視聴	・次年度に目指すMissionの共有 ・一人ひとりが確実に２０２６Missionを理解し、レベルアップしていくためのディスカッション
12月１９日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②丁寧な保育 冬のあそび実践	・様々な側面から丁寧な保育について考え実践に生かす ・冬ならではのあそびの実践共有
1月２３日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度、保育実践の振り返り	・園全体・クラス・個人で今年度の保育を振り返り、目標達成状況確認を含む、今年度の学び発表
2月２０日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②第一回策定会議	・次年度事業計画の発表、次年度に向けての目標発表 ・全体的な計画・年間計画書の作成
3月１日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②第二回策定会議	・次年度年間行事計画作成（プロポーザルを基に子どもに経験させたい行事を話し合う）

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

法人理念における保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々なかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域で愛される存在になるように計画し実践する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：３００名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：公民館にて　　集客目標：１０名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設とのふれあい交流
異年齢交流	・地域の小学校、近隣の保育園との交流 ・小・中・高校生のボランティア、職場体験の受け入れも積極的に行う。

地域拠点活動	・地域行事への参加やどろんこ祭り・運動会・生活発表会に地域の方をお招きして、保育園を地域に開いていく。 ・ちきんえっぐの活動を発信することで、園に足を運んでくださる地域親子を増やして、子育て相談をしやすい地域拠点を目指す。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校との関係性を重視し、積極的に幼保小の連携をすることで、子どもたちがスムーズに就学に向かえるようにする。スタートカリキュラムに基づき、年間を通して計画的に連携を進めていく。
また、幼保小連携会議・授業参観に積極的に参加し、地域の実態を把握しながらこれからの未来のために、幼児期の子どもにとって必要な経験は何かを具体的に学んでいく。就学時には保育所保育要録を送付し。必要に応じて一人ひとりの子どもの情報の申し送り等を丁寧に実施していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
５月頃	篠栗小学校 1年次クラス	１～２名 予定	授業参観 運動会見学	職員間交流 行事見学
１月頃	篠栗小学校 1年生	２９名予定	就学前健診 （各校体育館）	子ども間交流
３月頃	篠栗小学校等	１～２名 予定	保幼小連絡協議会	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容に

なっているかどうか、同意を得る。
⑤ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援責任者が、保護者の意向を聞き、子どもの適正、特性を踏まえて適切な支援内容を検討し作成する。また、6ヶ月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実践して、子どもの様子や保護者のニーズ、それに伴う適切な支援を提供する。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：６名予定）

策定会議だけではなく、ケース会議を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深め、支援の内容を充実させていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体、関係機関と連携を図り、就学支援シートを作成して小学校への接続をスムーズにすると共に放課後等デイサービスへの接続も円滑に行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：１３０名。
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：４０名
自然食堂…親子ランチ交流	月2回（水）10:00～12:00　　集客目標：４０名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回（水）10:00～12:00　　集客目標：４０名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　図書館にて開催　　集客目標：４０名

12. 施設運営の向上

〈１〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年１１月２８日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：１０時００分
自己評価終了予定時刻：１５時００分
自己評価実施予定者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、同時期に、スタッフアンケートも実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13. 3カ年計画の具体化。

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	つむぎ篠栗ルームと篠栗どろんこ保育園と共に生きるインクルーシブな生活へ。大人も子どももトライ＆エラー。
	振り返り	併設園として基盤づくりを行う中で、インクルーシブな環境づくり・連携はまだまだ不十分と感じる一年であった。来年度の課題として引き続き取り組んでいく。また、子どもを真ん中に自由な選択が出来る、雰囲気の良い、居心地の良い大きな家づくりを引き続き目指していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

‘25年度	目指す姿	つむぎ篠栗ルームと篠栗どろんこ保育園、併設の絆を紡ぐ旅。大人も子どももさらに混ざり合い、語り合いを大切にして互いを知り、併設園の良さや強みを見つける。
	重点施策	それぞれの立場や役割を理解し、認め合い、補い合いながら「全職員」子どもと関わっていく。各年齢の発達、子どもの興味、乳幼児の遊びの保障を考えた上で、現場での屈託のない意見交換を行い、よりよい環境づくりにつなげていく。
‘26年度	目指す姿	お互いを認め合えるチームでのインクルーシブ保育、非認知能力の発達を意識して更なる質の向上を目指す。地域交流、地域周知を深め、開かれた事業所づくり。
	重点施策	視野の広い、決して偏りのない支援、保育の質の向上を目指し、併設園での年に一回以上の研修会を実施する。また、利用者のみならず、地域に開かれた施設として利用されるよう環境を整え、気軽に足を運べる居場所づくりを行う。
‘27年度	目指す姿	地域で選ばれる事業所としての確立。県内でのインクルーシブな保育、支援

		の在り方、併設園のモデル化にしていく。
	重点施策	自事業所だけの支援に留まらず、地域と連動しながら支援を行えるような他機関との連携を進めていく。

以上

作成日：２０２５年3月15日　　作成者：発達支援つむぎ 篠栗ルーム 施設長　藤井　美香

２０２５年度　発達支援つむぎ 百目木ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

袖ヶ浦市で２番目に広大な面積を誇る公園で地域や千葉県内からも多くの利用者がある
『百目木公園』内に新規開園する認定こども園に併設する発達支援事業所として
どろんこ会の「基本理念、保育目標」を掲げ子どもたちの生きる力を育み成長を見守る。

2025年度運営本部Missionに基づきDoronkoが構想する社会を目指していく。
百目木どろんこ保育園と併設する児童発達支援事業所として、インクルーシブな環境の中、園児とつむぎの利用児が一緒に生活し、多様性を認め合う子育てを提供していく。政府のインクルーシブ重点視点からも保育園とつむぎが混ざり、互いの領域を超えて保育と支援を行う併設園としてインクルーシブ保育に力を入れていく。

①子どもの「生きる力を育む」ために、法人の日課・基本保育活動（畑仕事・雑巾がけ・リズム体操・生き物の世話）をマンスリー、ビジター共に実施する。活動の意図を深く理解し、大人が背中を見せ、子どもたちが楽しみ取り組むことができる環境を創っていく。

②畑仕事や生き物の世話を通して、他者と協働し取り組み自己有用感を育んでいく。
また堆肥づくりや種まき、収穫、加工を通して循環教育を行って行く

③園を取り囲む豊かな自然環境を存分に活かしながら、子ども自ら主体的に関われる物的環境を戸外・室内に設定し自分で考え、選択し、行動する力を育んでいく。

児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領、児童発達支援ガイドラインをすべての基盤に袖ケ浦市の子ども・子育て支援計画やどろんこ会グループ理念・方針運営本部ミッションに沿って、常に子どもの最善の利益と真に必要な体験を追求しながら、保育を行って行くことを保育者一人ひとりが前提としたうえで、以下の保育目標を達成する。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

１	計画・ねらい	**計画：日課・基本活動の充実** ねらい：一人ひとりが子どもたちに必要な活動の意図を理解し保育・支援を展開していく
	実践予定内容	・園会議や策定会議の場を活用し、入園のしおりなどを元に法人の基本活動への理解を深める。 ・園長大学などの動画を活用し、リズム体操の際の援助の仕方・意図などを理解し保育の中で実践していく。 ・子どもたちへの言葉掛け、援助だけでなく大人が背中を見せ、日課・基本活動を実践していく。

2	計画・ねらい	**計画：子どもの発達に関する理解を深め、個々の発達に応じた保育・支援を展開していく** ねらい：一人ひとりの保育者が子どもの発達を理解し、受容的に関わり保育・支援を行う。
	実践予定内容	・園内で活用できるツール(チャット)や朝礼・昼礼・夕礼などの場を活用し、子どもたちの姿を密に共有していく。 ・子どもの遊びを通しての育ちや子ども同士の関わりに着目し、子どもの姿を追ったエピソードを共有していく中で、子ども理解を深めていく。
3	計画・ねらい	**計画：誰にとっても心地の良い居場所をつくる** ねらい：子どもの発達に応じた環境構成、整った環境をつくっていく
	実践予定内容	・静と動を意識した環境構成を行い、その時により過ごしたい場所が選択できる環境を保証する。 ・棚・玩具・床など常に整えられた環境をつくり、気持ち良く居心地の良い場をつくっていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	**計画：安心・信頼できる丁寧な保護者対応** ねらい：安心して預けられる場、保護者の方が相談しやすい環境をつくる
	実践予定内容	・日々丁寧な保護者対応（フィードバック）を行う。必要に応じてその日の姿を動画や写真で残し、手に取り分かるようなフィードバックを行う。 ・モニタリング等の面談だけでなく、家族支援（事業所内相談支援）などを活用し、保護者のニーズに合わせ面談の機会を設けていく。
2	計画・ねらい	**計画： 保育・支援の姿や子どもの育ちを視覚的に発信していく** ねらい：つむぎの支援について地域・園・つむぎ利用の保護者の方に知って頂く。
	実践予定内容	・日々の子どもたちの遊びの姿や日課・基本活動を通しての育ちの姿を写真で残し、園と共同でポートフォリオを作成する。お迎え対応などの場面で待っている際に閲覧できる場所に掲示する。
3	計画・ねらい	**計画：保護者交流会や講座の実施** ねらい：園の懇談会やつむぎ利用の保護者のみでの交流を通して、気軽に会話できる場を提供していく。
	実践予定内容	・マンスリー利用の方対象の保護者交流会の実施。 ・就学相談、放課後等デイサービスなど就学に関しての講座を実施。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	**計画：自治体・近隣事業所・小学校との連携を図る** ねらい：事業所の特性を知ってもらう。連携を通して、一人ひとりの発達に応じた支援を受けられるよう移行支援を行う。
	実践予定内容	・自治体、近隣の事業所、小学校への挨拶回りを行う。パンフレット等を元に併設園としての特色・どろんこ会の発達支援について知って頂く。 ・適宜連携を取り、その時の子どもの姿に合わせて利用日数等検討し、必要に応じて移行支援を行っていく。

2	計画・ねらい	**計画：ちきんえっぐとの共同企画の実施** （青空保育・芸術学校・寺親屋等） ねらい：地域の方が気軽に足を運ぶことができる場所となり、つむぎについて認知度を高める。地域の中で気軽に相談できる場所となる。
	実践予定内容	ちきんえっぐと共同イベントの企画・実施 地域の子育て家庭のニーズを理解し、ニーズに応じたイベントを提案していく。平日だけでなく、土曜日近隣の公園での青空保育を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	**計画：保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの学びを深める** ねらい：スタッフ全員が保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインを理解し、保育・支援を行う。
	実践予定内容	・園会議内で保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインに関しての学びの場を設ける。園・つむぎスタッフ共に相互で学びを深めることで、一貫した保育・支援を展開していく。常に学びをアップデートしていく。
2	計画・ねらい	**計画：大人のにんげん力を育てる『一人ひとりの特技を磨く』** ねらい：個々・園全体での学びを保育・支援に活かす
	実践予定内容	・策定会議の場などを活用しスタッフ間で互いを知る機会を設け、それぞれの得意を知っていく。また、一人ひとりのスタッフの専門性や得意を活かし保育・支援を展開する中で子どもたちの100の体験に繋げていく。
3	計画・ねらい	**計画：事業計画・園目標・個人目標に対して各自の明確化** ねらい：自分の園への意識を高める
	実践予定内容	・事業計画や園目標に基づき、個人・組織目標を各スタッフが立てていく。園会議の場などで振り返りの機会を設け、園全体での目標の進捗などを明確化し、年間を通して個々の役割を理解し実践していく。 ・年間を通し、施設長のフィードバックを丁寧に行い、目標をもち前進してくことができる環境を創っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	**計画：食物残渣の減量** ねらい：食物残渣に対する意識を高める
	実践予定内容	・調理スタッフと連携し、日々の残渣を削減していく ・必要に応じて残渣量を視覚的に子どもたちへ伝え、食事の際の盛り付け量など残渣への意識をもてる環境をつくっていく。
2	計画・ねらい	**計画：循環を意識した環境教育の実施** ねらい：生き物の世話・堆肥づくりを通し循環を知る
	実践予定内容	・コンポストを作り、野菜くずやヤギ・鶏の糞をたい肥化し、畑の土への再利用していく。コンポストに触れる経験を通して循環教育を行っていく。
3	計画・ねらい	**計画：年間農業計画に沿った畑仕事の実践** ねらい：年間を通して豊かな田・畑を子どもと大人で創っていく

	実践予定内容	年間農業計画に基づき子どもたちと一緒に大人が日課である畑仕事を行う。１年を通して種・苗植え、間引き、水やり、雑草取り、収穫など一連の活動を経験できる機会をつくる。また、野菜の収穫だけでなく、種の収穫を行い、翌年植えるなど連続した活動を行う。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	**計画：子ども同士・大人同士の 混ざりあい** ねらい：子ども同士・大人同士の関係性の構築
	実践予定内容	・園会議の際にディスカッションの機会を多く設け、園・つむぎスタッフ関係なく対話する関係性を構築していく。 ・子ども同士の関わりが育まれる人的・物的環境をつくっていく。大人は必要に応じて子どもと距離をもち保育・支援をおこなっていく。
2	計画・ねらい	**計画：インクルーシブ保育・発達特性に関する学びを深める** ねらい：インクルーシブ保育の学びを深め、自園に置き換えどう保育・支援を展開していくか園全体で考える
	実践予定内容	・園会議で「インクルーシブ保育」を題材とした研修を実施する。 ・つむぎスタッフの専門性を活かし、発達特性などに関しての学びの場をつくる。
3	計画・ねらい	**計画：自然に協働する関係性の構築** ねらい：PDCAサイクルを意識し、対話しながら園、つむぎスタッフ共に連携し保育・支援を展開する。
	実践予定内容	・行事や係など園・つむぎスタッフ共に連携し行い、協働する関係性をつくっていく。互いの専門性を活かし保育・支援を行っていく。 ・個別支援計画書作成における策定会議やケース会議などに必ず園・つむぎスタッフが参加し、対話を重ね同じ目線をもち保育・支援を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者I名
機能訓練担当スタッフ１名（理学療法士I名）
児童指導員２名

3. 運営方針

〈１〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月I回I20分	・保育園と合同で行う。行事進捗共有。 ・テーマを決め、資料を使った園内研修を行う。
給食運営会議	月I回	・食育活動実践報告、喫食状況の確認、配膳方法
事故防止委員会	月I回	・事故のケーススタディ、各月のインシデント・ヒヤリハットの共有、改善策の検討
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	適宜	・情報共有、支援内容の検討
朝礼・昼礼・夕礼	毎日	・その日の確認と振り返り、情報共有

〈２〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月I回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月I回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	・マニュアル、レシピの見直し、ルームの取り組み発表、アレルギー食検討
保健会議	年4回	・マニュアルの見直し、感染症対策、衛生管理
子育ての質を上げる	月I回	・テーマに即した計画的な研修の遂行

会議		・どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
室内・戸外環境整備係	室内・戸外の玩具の点検を行う 必要に応じて環境の話し合いの場を設け、子どもの発達に即した環境を創る
危機管理係	園内で起きたインシデント・ヒヤリハット等の集計、原因分析 事故防止委員会にて各スタッフへの共有
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
畑係	園内の畑・プランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	ヤギ・鶏の飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、調整、どろんこサポーターとの連携
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画、調整
卒園・入園式係	卒園式・入園式の企画、調整、卒園アルバムの作成

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	0～2歳	・受容的、応答的な関わりの下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。 ・五感を使い感覚の発達が促されるよう環境構成を行う。 ・一人ひとりの発達の理解を図りながら、子どもが育とうとする力を見極めて適切な環境を用意する。 ・身振りや簡単な言葉などで、経験したことや考えたことを表現する力を養う。
	3～5歳	・1日の生活リズムをつくり、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 ・異年齢の関わりの中で、共に達成する喜びや楽しさを味わう経験から協調性や思いやりの心、充実感を育む。 ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味関心をもつことができるようにする。 ・集団生活の中でのルールやマナーを知り、習得できるようにする。 ・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、想像力を育む。
ビジター	0～2歳児	・様々な興味関心をもつことができる環境づくりを行う。 ・受容的、応答的な関わりの下で大人との信頼関係を育て、安心して通える場となる。 ・見る・聞く・触るなどの経験を通し、感覚の働きを豊かにする。
	3～5歳児	・役割分担、ルールを守って遊ぶ共同遊びを通して、社会性の発達を促す。 ・遊びや生活の中で数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ね、興味関心を高める。 ・活動を自ら選択し、主体的に様々な人・物に関わる環境を設定する。 ・見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すことができるようにする。
家族支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第Ｉ回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

I	計画・ねらい	**計画：心地良い「食」の時間を保証する** ねらい：落ち着ける環境をつくり、個々に応じた食育を行う。
	実践予定内容	・食事の際にゆったりと落ち着ける人的・物的環境をつくっていく。 ・衛生面も意識し、常に整った環境で食事がとれるようにしていく。
2	計画・ねらい	**計画：空腹の延長で食べる中で「食」への意欲を育む** ねらい：生活リズムの獲得、食の時間に期待をもつ。
	実践予定内容	・午前中は目一杯戸外活動を行い、空腹の延長で食事の時間を迎えられるようにしていく。 ・午前の活動から昼食・午睡などスムーズな動線を意識し、生活リズムの獲得に繋げていく。
3	計画・ねらい	**計画：畑仕事、下処理を行う中で「食」への興味関心を広げる** ねらい：畑仕事の充実、年間を通して食材に触れる機会を増やす。
	実践予定内容	・米とぎや野菜の皮むきなど調理スタッフと下処理を子どもたちが行う中で、五感を使い、食材を知っていく。 ・畑仕事を通して、育てる・収穫・加工を経験するなかで食への興味関心に繋げていく。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年I回
スタッフ検便	全スタッフ月I回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 6月頃･･･手足口病 I2月頃･･･流行性胃腸炎 I月頃･･･インフルエンザ 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフI名については4月I日までに受講予定

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 行政からのお知らせの掲示、保健関係研修の受講

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	**計画：子ども自ら考え選択できる環境を創る（人的・物的）** ねらい：季節感や子どもたちの興味を広げることを意識した環境構成を行う
	実践予定内容	・子どもの姿に応じて保育環境の見直しを行う。四季に触れることができるような環境（ゾーン）を保育室内に設定する。 ・子ども一人ひとりの発達を丁寧に捉え、発達に即した玩具や遊びを設定していく。

2	計画・ねらい	**計画：動線・整理整頓を意識した園舎内の環境づくり** ねらい：保護者や子どもたちにとって気持ちの良い環境をつくる
	実践予定内容	・玄関やちきんえっぐなど不必要な物は置かず、常に整えられた環境をつくっていく。 ・必要に応じて片づける場所を可視化し、子どもにとっても大人にとっても片づけやすい環境をつくっていく。
3	計画・ねらい	**計画：連続性のある保育・支援の実施** ねらい：スタッフひとり一人が点ではなく線を意識した保育・支援計画を立案し、展開していく。
	実践予定内容	・行事などが日々の遊びから発展し展開できるよう、点ではなく線を意識し保育・支援を行う。 ・子どもたちの今好きな遊びなどをスタッフ間で共有し、発展させていく。今日で終わるのでなく、明日も続きができるような保育環境をつくっていく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具・玩具はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施
2	実践予定内容	防災設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故防止記録記載による事故の防止 事故防止委員会による検討会議 リスクマネジメント研修
4	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知 環境変化や状況によりその都度見直し、更新をはかる
5	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、自治体などより発信される情報をチェックし、発生時には屋外での活動を控える
6	実践予定内容	年2回の不審者訓練実施 オートロックでの外部侵入者の立ち入り防止 警察との連携（不審者情報共有、交通安全教室）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材の育成に尽力する。
ボランティア、専門士の実習・職場体験を通し、インクルーシブ保育の理解を深める。

1	実践予定内容	保育士・機能訓練士の受け入れを行う。 受け入れのマニュアルを元に、受け入れ側の配慮を学ぶ
2	実践予定内容	中高生の職場体験を行い、保育・福祉の仕事について知ってもらう
3	実践予定内容	地域のボランティアを受け入れ、地域におけるインクルーシブ保育の推進をはかる

7. スタッフ育成と研修計画

毎月全体会議の中で園内研修をテーマに沿って園長大学動画を活用し、討議を行い、スタッフ全体で意見を出し合い、スタッフ自らOODAに即して子どもの観察から大切にしたいことを見出せる力をつけていく。また、その場限りで話が終わることなく、次の日からの保育に活かし、実践の経過を翌月の園内研修の場で振り返るといった流れの中で、通年通して連続性のある園内研修の運営をつむぎと百目木どろんこ保育園が協働し行って行く。

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マナー研修 ③ 危機管理 （ケガケース スタディ） ① 子どもの人権	マニュアルを理解し、基本に沿った 対応を全スタッフができるようにする。**（はじめての人権）**
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇	・保護者対応に活かせる接遇のスキルを学ぶ。 **（おもてなし力）**
6月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ③ 水辺のリスクマネジメントについて	・プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。 **（楽しく安全な「水遊び」のために～水辺のリスクマネジメント～）**
7月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育について	・インクルーシブ保育についての学びを深める。**（「わからない」から「やってみたい」に変える）**
8月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本方針の振り返り	・室内環境についての現状の振り返りと下期を迎えるにあたっての

		③ 環境について	環境を考える。 **（心を育てる保育環境）**
9月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ③ アプローチカリキュラムについて	・小学校1年生のカリキュラムを理解して、逆算をしたアプローチを検討する。**（スムーズな小学校進学は保育者次第）**
10月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権・虐待防止	・人権について学びを深め日々の保育を見直す。 **（不適切保育）**
11月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 表現活動について	・保育の中で実践できる表現活動を知る。 **（「造形＝表現」の誤解）**
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子ども観共有 ③ 事業計画書の振り返り	・子どもの姿エピソード記録の共有。
1月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食育について	・食事の場面での保育者の関わりを考える。学びを深める。 **（子ども主体の食を考える）**
2月中旬	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第一回 策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定
3月上旬	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第二回 策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月1日～9月30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。また、年1回以上のキャリア面談を実施し各スタッフ役割を明確化し、先のキャリアビジョンを持ち業務を遂行していける環境を創っていく。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域子育て支援センター「ちきんえっぐ」と連携を図り、保護者向け、親子向けのイベントを計画し実施する。地域の子育て世帯が気軽に足を運べる場として認知してもらえるよう地域に活動の様子を発信していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　目標：200名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：百目木公園にて　　目標：３名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加、高齢者施設訪問
異年齢交流	近隣小学生・中学生・高校生と交流、卒園児交流
地域拠点活動	青空保育、寺親屋、子育て相談

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。

② 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。

③ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。

④ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。

⑤ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

スタッフ間交流を通し、就学までに育てたい力について知り、逆算し保育・支援内容を検討していく。
子ども間交流を年２回以上実施し、小学校就学に対して期待を持てるようにしていく。
縦の連携を深め、情報共有を図り円滑に支援が引き継がれるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月10日（木）より開始する。（園と合同で実施）

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	中川小学校	10名予定	小学校見学 （中川小校庭）	子ども間交流
10月頃	中川小学校	10名予定	小学校見学 （中川小校内）	子ども間交流
3月頃	中川小学校	1～2名 予定	年長児引継ぎ （中川小校内）	スタッフ間交流・連携
未定	槙の実特別支援学校	1～2名 予定	授業参観 （槙の実特別支援学校 教室）	スタッフの学び

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。

② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。

③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。

④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。

⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援・マンスリー支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。

⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈１〉個別支援計画の作成・見直し

原則6ヶ月に1回以上支援計画の見直しを行い、保護者にモニタリングを実施する。保護者の希望を聞き取り、子どもの心身の状況、日常生活の様子を整理する。児童発達管理責任者を中心とし、策定会議を行い、目標設定と具体的な支援を検討し、個別支援計画書を作成する。
個別支援計画書は保護者に提示し、説明と同意を得て支援を行う。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：１～３名予定）

毎月１回、児童個人の支援や現状や課題について、またはマンスリー・ビジター支援のあり方についてなど様々なケースを題材にし、支援の検証をする。
ケース会議を希望するスタッフがいれば回数を増やし随時開催する。

また、百目木どろんこ保育園と連携しながら、共に子どもを見る中で要支援児の個別支援計画書、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中で子どもの姿の変化をスタッフ同士で共有し、多様な視点から子どもを援助していくようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体と連携を図り、就学相談の流れに沿って進めていく。早期の段階で保護者の相談を受けながら、子どもたちが安心して就学できるように、適切な支援をしていく。
就学先や放課後デイサービス事業所などにしっかりとした引継ぎを行い、支援が途切れないようにする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　目標：月30名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　目標：月10名
自然食堂…親子ランチ交流	月2回　10:00～12:00　　目標：月10名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回　10:00～12:00　　目標：月10名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：百目木公園にて開催　集客目標：月5名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年５月１５日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１７時３０分
自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２５年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

※新規開所園のためなし

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	『チーム保育の確立』異年齢・インクルーシブ保育の推進
	重点施策	・園、つむぎスタッフ間での連携を深め、スタッフ一人ひとりの専門性を活かしながら保育・支援を展開していく。 ・子どものエピソードをスタッフ間で語り合える関係性を構築していく。 ・インクルーシブ保育、異年齢保育の中での子どもの育ちに着目し、スタッフひとり一人がインクルーシブ保育や異年齢保育についての理解を深め実践していく。
2026年度	目指す姿	どろんこ保育園・つむぎの保育、支援方針を地域に発信していく
	重点施策	・ブログやインスタグラムなどのSNSを活用し、保育や支援の活動の姿を発信していく。 ・地域事業所との連携を深め、適宜情報共有を行っていく。 ・６つの力や日課・基本活動の意図やねらいを一人ひとりのスタッフが理解し・保育、支援を展開していく。
2027年度	目指す姿	地域の子育て拠点となる。近隣事業所や自治体と連携し、一人ひとりの発達に応じた事業所選べる環境を創出する
	重点施策	・ちきんえっぐとの共同イベントの機会を増やし、地域の子育て家庭の心の拠り所となる園を目指していく。 ・また、地域でのインクルーシブ保育推進の先駆者と園がなることができるよう連携を強化し、地域での研修等学びの場を創っていく。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　　作成者：発達支援つむぎ 百目木ルーム 施設長　榊原 里紗

２０２５年度　発達支援つむぎ 大山ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

施設運営方針「原点回帰～毎日の時間を大切に人格形成の基本を確実に丁寧に～」のもと、「生活力の体得」「１０の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定」「命をいただく活動の実践」「自律運営」の運営本部ミッションを実践していく。子ども発達支援センターと認可保育園の併設という新しい取り組みが、日本の保育・療育の先駆者としての実績と結果を残せるように、法人が目指すインクルーシブ保育の実践と、質の向上を目指していく。

障害があるからと分ける・守るのでなく、ホンモノの体験を保育園児と同じ目線、同じ気持ちで一緒に体験できるよう、環境設定や人員配置を行う。毎日の活動の1分1秒を大切にしながら丁寧に実施していき、発達支援つむぎ 大山ルームを利用する子どもの生きる力(非認知能力)を育むよう支援していく。

子どものにんげん力を育てることと並行して、大人のにんげん力を高めることも大切にし、幅広く様々なことを学び、学んだことを子どもへの支援や現場にどう反映するのか考え、子どものにんげん力と生きる力を育むために、主体的に行動するスタッフを育成していく。スタッフが同じ目線で自身の経験や専門性を活かしながら、支援の立案、提供、振り返り、改善のサイクルを日常的に行い、より質の高い、子どもにとって最善の利益となる支援の実践に力を入れていく。

板橋区の障害福祉課や児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、保育園や幼稚園等の関係機関との連携を図り、関係性を構築していく。また、地域の方々との交流を増やし、地域の多くの方に発達支援つむぎ 大山ルームを知ってもらい、様々な相談の窓口となれるように努める。来所される方にとって、くつろげ安心できる場所、また来たいと思える場所となるよう、挨拶や立ち振る舞いなどスタッフの接遇のレベルを高め、美観の維持と向上に努めていく。またブログやSNSなどを用いて外部への発信にも力を入れ、社会にも認知されるよう働きかけていく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども一人ひとりに合わせた支援
	実践予定内容	・子どもの特性や発達段階を理解し、最善の利益を追求した支援を行う。 ・利用する子どもや保護者が安全で安心し、安定して過ごすための環境や関係の構築を行う。 ・スタッフが研修で学んだことや自身の知識や技術をアウトプットする機会やケース検討で話し合う機会を設け、ルームとして、どろんこ会としてどのように支援を展開していくのかを考え、支援の質の向上に努める。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育を実践する環境を充実させる
	実践予定内容	・日課、戸外活動、遊びを自ら選択できる環境、体験活動などに取り組む中で、一人ひとりに合わせて配慮・支援をし、受け入れられ混ざり合いながら生活を送れるよう努める。
3	計画・ねらい	大人のにんげん力向上

	実践予定内容	・子どものために、保護者のために、社会のために、一緒に働くスタッフのために、様々な相手の立場に立って物事を考え、速やかに行動できる人材を育成する。 ・スタッフ一人ひとりの価値観や考え方、これまでの生き方などを把握し、個人の主張は尊重しつつ、どろんこ会の一員として何をすべきなのかを皆で考え実践していく。 ・「こうするもの」「こうすべき」という固定概念にとらわれず、最善の利益の追求をするために常に思考を止めず、新しいことに挑戦し続ける。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添いながら関わる
	実践予定内容	・家庭での子どもの様子、保護者の悩みや不安などを日々のフィードバックの中で丁寧に聞き取り、適時助言などを行っていく。一緒に子育てをしていく気持ちを常に忘れず、継続して関わり続ける。 ・日々の子どもの様子や成長を感じるエピソードなどを、口頭だけでなく写真や動画も用いてお伝えし、子どもの成長を点でなく線で捉えて一緒に成長を感じていくよう努める。
2	計画・ねらい	安心できる場の提供
	実践予定内容	・つむぎカフェを利用する保護者やちきんえっぐなどで来所される地域の方が、安心をしてスタッフや保護者同士で話をできる人間関係や環境を構築する。
3	計画・ねらい	誰もが気持ちよく過ごせる環境
	実践予定内容	・いつ誰が来ても、ゆっくり落ちついてくつろげる環境を整備し、美観を維持していく。 ・急な来訪や忙しい中でも声をかけたたら手を止め丁寧に接する接遇や、スタッフの整理整頓清潔清掃の意識を高める。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援、相談支援
	実践予定内容	・初めて我が子について悩みを相談する保護者もいるため、まずは丁寧に話を聞き、子育て支援を行っていく。 ・必要な福祉の提案や提供のために、地域資源の把握と連携を強める。
2	計画・ねらい	園訪問
	実践予定内容	・発達支援つむぎ大山ルームを利用する子どもが在籍する、保育園や幼稚

		園、子ども園などに訪問をし、専門的な助言をしていく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援のために、地域に情報を発信していく
	実践予定内容	・事業所を利用している保護者だけでなく、子育てについて相談をする機会がない地域の保護者様にも発達支援つむぎ大山ルームを知り、頼ってもらえるよう、地域に発信をしていく。誰もが訪れやすい、敷居のない施設運営を目指す。 ・地域の小学校や放課後等デイサービス、保育園・幼稚園や関係機関との連携を図り、自治体が主催する情報交換会などにも参加をし、地域との連携を強化していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校学習指導要領の理解
	実践予定内容	・児童発達支援を行う上で必要な知識を学ぶ機会を定期的に設け、自分たちの仕事の根拠・目的・目標を理解する。自分たちの支援がこれらの指針と齟齬がないか振り返り話し合い、質の高い支援を行えるスタッフを育成していく。
2	計画・ねらい	人財育成
	実践予定内容	・新人育成・異動スタッフ・中途採用スタッフの育成を丁寧に行い、課題や問題は早期発見早期対処に努め、長く働く意欲をもつスタッフを育成する。 ・法人の理念、実践内容、インクルーシブ保育を語れるスタッフの育成に努め、他のスタッフを育成することができる人財を育成していく。 ・人対人コミュニケーションの理念のもと、研修や意見交換、面談の場を設け、スタッフ一人ひとりのコミュニケーションスキルの向上を目指す。
3	計画・ねらい	業務の効率化
	実践予定内容	・業務の可視化、無駄の排除、効率化と最適化を行い、スタッフの負担軽減に努める。
4	計画・ねらい	リスク管理(事故、怪我、病気)の知識と対応方法の理解を深める
	実践予定内容	・事故、病気、怪我が発生した際に、全スタッフが冷静に対処できるよう、フローチャートの読み合わせやロールプレイを行う。管理職、リーダー層は不測の事態にスタッフへ的確な指示ができるよう、より理解を深める。 ・他園や過去の事故事例などを検討する機会を設け、見失いや大きな怪我を予防するために必要なことを共通認識し、実行する。スタッフの立ち位置、報連相、コミュニケーション、子どもの動きを予測する力など、スタッフ一人ひとりの危機管理意識の向上に努める。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	子どもが経験を自ら選び取ることができる環境
	実践予定内容	・園内、園外共に子どもが遊びや経験を選び取れる様々な物的環境をスタッフ全員で考え構成していく。園スタッフ、つむぎスタッフ共にお互いを尊重し、混ざり合いやすい心の環境整備も行っていく。 ・子どもが生きる力を身に着けるために必要な経験や環境の仕掛けづくりについて、他園や他事業所の取り組みを学び、自園に活かす方法を考える。 ・子どもが主体的に参加したくなる体験活動を複数用意し実行する。
2	計画・ねらい	日課活動の実践
	実践予定内容	・さくらさくらんぼリズム、雑巾がけ、座禅、生き物の世話、9時散歩出発、裸足保育、畑仕事などの日課に取り組む中で、健康な体と心づくりを行っていく。
3	計画・ねらい	食材や食の循環教育
	実践予定内容	・プランターの土壌作り、種を植える、毎日の水やり、収穫、調理、実食などの畑仕事からの労働や、命をいただく活動を通して、食材や食について興味関心をもって関われるよう支援に取り入れてく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	ゼロから環境と関係を作る
	実践予定内容	・インクルーシブ保育について、生活環境、生活方法、行事などについて、園のスタッフとゼロから一緒に計画を立て、実行する。 ・保育、支援共にお互いのことを学び合い、尊敬し合い、混ざり合う環境と関係を作っていく。スタッフ同士が語り合う時間を定期的に設ける。
2	計画・ねらい	多様性の受容
	実践予定内容	・園とつむぎの子ども、保護者、スタッフがお互いの存在を受け入れ認め合い、尊敬し合える保育と支援を行っていく。
3	計画・ねらい	一人ひとりの成長に合わせた支援
	実践予定内容	・園児、つむぎの子ども一人ひとりに目を向け、専門性をもってチームで最善の利益を追求した支援をしていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
機能訓練士１名（作業療法士）
児童指導員２名
保育士1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	食に関する子どもの共有、介助方法の検討、献立検討、畑仕事との連携。
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証（自園他園）、改善方法の検討。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
幼児会議	隔週	・月案、週案を基に園の保育者と共に子どもの姿を共有
乳児会議	隔週	・月案、週案を基に園の保育者と共に子どもの姿を共有
ケース会議	随時	・園の保育者と共に子どもの姿を振り 返り共有する。その中

		で、子どもにとって最善の関わり方について検討をする。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	・法人全体での共有、勉強 ・食育会議の内容を施設長や調理員から全スタッフに伝え、園内で協議する
保健会議	年4回	・法人全体での共有、勉強 ・感染症対策やガイドラインの作成、改善
子育ての質を上げる会議	月1回	・子育ての質を上げるための共有と学び ・会議参加者から全スタッフへ情報や課題を共有。園として、課題に取り組む

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保育園と一緒に企画、運営を行う。保護者と協働的に準備・進 行を行う。地域の方々が多く来ていただけるような企画を行う。
運動会係	会を通して子どもの日々の成長を通して見てもらい、保護者も一緒に参加できる運動会を開催する。
生活発表会係	日々の成長を保護者に伝える場として設定し、開催する。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・つむぎでの一日の生活の流れに慣れ、安心して通える環境を整える。 ・個々の発達特性や性格などを把握し、一人ひとりに合った支援を行う。必要時、専門職による専門的な支援も行う。 ・園児との触れ合う機会や環境を設定し、子どもたちが主体的に関われるよう支援をする。 ・一人ひとりの人権、生活、主張や要求を守ることで情緒の安定を図り、安定した生活を送る。 ・日課については、子どもの発達状況を鑑みながら、できる部分から取り組んでいく。
	下半期	・見たい、触りたい、やりたい、行きたいなどの意思や要求を表出し、主体的に行動する姿が増えるよう支援する。 ・園児や異年齢児と関わる中で、一緒に遊ぶ楽しさやコミュニケーションの楽しさを感じ、自ら表現する姿が増えるよう支援する。 ・日課に意欲的に取り組めるよう関わる。 ・園との合同行事や体験活動に主体的に参加できるよう環境を整えていく。
ビジターグループ	上半期 2～5歳児	・つむぎに慣れ、安心して通える環境を整える。 ・個々の発達特性や性格を把握し、一人ひとりを理解しながら小集団での活動を楽しめるよう活動を計画する。 ・子どもが主体的に活動を選択して参加できるよう、様々な体験活動を準備する。 ・戸外活動は近い公園から徐々に遠い公園へ行き、交通ルールの意識や歩き方を身に付ける。

		・ピアノや楽器、オーガンジーなどを使い、音楽に合わせて体を動かして表現することを楽しむ活動も取り入れていく。
	下半期 2～5歳児	・活動内容を子どもたちで話し合い、考え、決める。子どもがやりたいことは実現可能な限り取り組めるよう、スタッフも一緒に入りながら準備を進めていく。 ・なるべく長距離を歩けるよう、現地集合解散や、支援の時間を延ばすなどの対応もしていく。 ・畑仕事や協働作業を通して、労働をすることの良さや他児と協力をする大切さを感じる。
個別支援	適時	・個別支援計画に基づき、個々の発達に合わせた支援や機能訓練を行っていく。 ・フィードバックの際には、子どもの成長を保護者と一緒に感じられるように話をすると共に、保護者の悩みや相談なども聞き、保護者支援も行っていく。必要であれば、事業所内相談支援も勧めていく。
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	大人と一緒に食を楽しむ
	実践予定内容	楽しい雰囲気で安心して食べられる環境を整える。
2	計画・ねらい	児に合わせた食事の提供
	実践予定内容	子どもたちの摂食状況を把握しながら、食べることが訓練、苦痛とならないように、場を楽しむことから始められる空間を作っていく。
3	計画・ねらい	収穫したものを調理
	実践予定内容	その場で食べたり、加工したり、献立を考えることを子どもと一緒に取り

		組んでいき、食への興味関心の幅を拡げていく。

〈4〉保健計画

児童健康診断	年2回（5月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	手洗い指導・うがい歯磨き指導・鼻のかみ方指導
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃･･･ヒトメタニューモウイルス、ＲＳウイルス、アデノウイルス、手足口病、ヘルパンギーナ 12月頃から1月・2月にかけて…インフルエンザ 、感染性胃腸炎 冬場…ロタウイルス・アデノウィルス・ノロウイル
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	現時点で預かりの予定なし
エピペン使用できるスタッフ	3月18日のキックオフで講習を実施予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	AED未設置
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 室温計を用い、湿度管理を実施。必要に応じて加湿器を使用し加湿を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日

	避難消火訓練	毎月I回/I5日
	不審者侵入訓練	6･I2月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･II月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･I0･I月の25日
	フロン点検（定期I回/3年）	業者による対象物の定期点検
	フロン点検（簡易）	年4回/4･7･I0･I月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月I0日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便･細菌検査	毎月I回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況･既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･I0月
	身長体重測定	毎月I回/20日
	児童健康診断	年2回/6･II月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･I0月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月I回/施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年I回

〈6〉環境整備

I	計画・ねらい	子どもが主体的に経験を選択できる環境
	実践予定内容	・生き物と触れ合う場所、労働をする場所、身体を動かす場所、静かに遊びこむ場所、それらに必要な道具や玩具を常設し、いつでも子どもが主体的に経験を選択できるよう環境を構成していく。 ・危険が予測されることも排除をせず、子どもが危険なものとの距離の取り方、使い方を考え、学び、身に付けられるようにする。
2	計画・ねらい	５S(整理、整頓、清掃、清潔、躾)に取り組む
	実践予定内容	・環境整備係を設定し、毎月皆で掃除をする時間を設ける。 ・整理(必要なものだけを用意し、不要なものは処分)、整頓(決められた場所で保管、原状復帰)、清掃(マニュアルに則って正しい掃除をする)、清潔(汚れがない状態を維持する)、躾(習慣やルールを作る)を徹底し、来所さ

		れる方が気持ちよく過ごせる環境を維持していく。
3	計画・ねらい	地域との繋がり、社会資源の把握
	実践予定内容	・地域の社会資源、公共施設、関係機関、学校情報など様々な情報を収集し、繋がりを構築していく。社会資源や就学に関する情報などは、保護者にも提供を行っていく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧
未定

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき、避難訓練を月１回行う。安全計画、業務継続計画を全スタッフが熟読し、災害時にはフローチャートに則って対応する。
2	怪我防止	事故防止チェックリスト、設備点検チェックを年４回行う。怪我や事故が発生した際は、フローチャートに則って対応する。 事故や怪我を未然に防ぐために、ヒヤリハット報告書、インシデント報告書、自園・他園の事故記録簿を全スタッフが把握し、検証の機会も設ける。
3	不審者対策	不審者訓練を行う年２回行う。避難訓練に併せ、不審者確保・撃退、通報の訓練を全スタッフで実施する。
4	光化学スモッグ	東大和市からの注意情報を把握する。注意報発令時は、フローチャートに則って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。
種類）中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

〈1〉今年度の方針・テーマ

1	実習生の受け入れ	受け入れ依頼があった際は、随時受け入れを行う。
2	職場体験の受け入れ	受け入れ依頼があった際は、随時受け入れを行う。
3	ボランティアの	受け入れ依頼があった際は、随時受け入れを行う。

	受け入れ	

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日 （金）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック・虐待防止 ③園内研修『子どもの人権』(園長大学@保育士大学のコンテンツ視聴) ④ハザードマップ点検・おむつ替え手順確認 ⑤事業所の仕組みについて・子ども共有 ⑥接遇	・子どもへの理解を深める ・子どもの人権の保障 ・人権チェックを行い、虐待防止について考える ・事業所の基本的な仕組みの理解 ・接遇を学ぶことで、保護者や地域の方への対応の質の向上を図る
5月30日 （金）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修『SIDSについて』(園長大学@保育士大学コンテンツ視聴) ③光化学スモッグ・調乳確認 ④危機管理、災害時の対応 ⑤併設園としての学び	・保育所保育指針の5領域の理解を深める。 ・子どもの理解を深める ・危機管理意識について、災害時の対応、ロールプレイ ・併設園として、インクルーシブ保育を振り返り、目指すべき支援の確認を行う
6月27日 （金）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水の事故防止・危機管理・災害時の対応 ③園内研修『水難事故について』(園長大学@保育士大学のコンテンツ視聴) ④水遊びについて確認 ⑤物的環境の見直し	・保育所保育指針の5領域の理解を深める ・子どもの理解を深める ・水の事故事例検証と事故防止について学ぶ ・物的環境設定の見直し・検討・改善。 ・ハザードマップ見直し
7月25日 （金）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修『情報セキュリティについて』(園長大学@保育士大学のコンテンツ視聴)	・保育所保育指針の5領域の理解を深める。 ・子どもの理解を深める ・子どもの人権の保障

		③感染症対応確認 ④心肺蘇生確認 ⑤人権 ⑥子ども共有	・人権チェックを行い、虐待防止について考える
8月29日 （金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②小学校教育要領の学び ③併設園の学び ④園内研修『性教育について』(園長大学@保育士大学コンテンツ視聴) ④散歩ロールプレイ ⑤子ども共有	・子どもの理解を深める ・子どもの人権の保障 ・見失い無し、目視無しの怪我を防ぐ ・散歩のロールプレイ実施 ・併設園として、インクルーシブ保育を振り返り、目指すべき支援の確認を行う
9月26日 （金）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修『食育について』(園長大学@保育士大学コンテンツ視聴) ③子ども共有 ④保護者支援 ⑤上期振り返り ⑥就学について	・子どもの理解を深める ・保護者が感動をするような支援･関わり、保護者支援について学ぶ ・半年の保育の振り返り ･就学までの流れや就学先などを知る
10月31日 （金）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アプローチカリキュラムを学ぶ ③園内研修『子どもの人権について』(園長大学@保育士大学コンテンツ視聴) ④併設園の学び・子ども共有 ⑤環境設定 ⑥嘔吐処理ロールプレイ	・子どもの理解を深める ・人権チェックを行い、虐待防止について考える ・併設園として、インクルーシブ保育を振り返り、目指すべき支援の確認を行う ・物的環境設定の見直し･検討･改善。子どもが経験を選択できる環境構成を行う。 ・ハザードマップ見直し ･嘔吐処理の方法を再確認する
11月28日 （金）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修『接遇について』(園長大学@保育士大学コンテンツ視聴) ③保育所要録、就学支援シートについて ④全体研修	・子どもの理解を深める ・全社員への研修動画を視聴し、感想や意見を交換する ･保育所要録、就学支援シートについて理解を深める
12月26日 （金）	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修『保護者支援について』 ③併設園の学び	・子どもの理解を深める ・保護者支援についての質の向上を図る ・併設園として、インクルーシブ保育を振り返り、目指すべき支援の確認を行う

1月30日 (金)	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度の振り返り(支援内容や事業計画の取り組みなど) ③園内研修『地域支援について』(園長大学@保育士大学コンテンツ視聴)	・一年間の支援内容や取り組みを、事業計画をもとに振り替える ・地域支援について理解を深める
2月20日	18:00～20:00	策定会議①	・今年度の振り返り、次年度園目標決め、次年度事業計画発表
3月1日	18:00～20:00	策定会議②	・次年度行事決め、畝づくり等

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

併設園であるメリー★ポピンズ 大山ルームと共に、地域との関係を深め、地域に開かれた児童発達支援事業所として、近隣住民や近隣の園、近隣施設との交流の機会を設けていく。また、スタッフも地域のイベントや行事に参加をし、地域交流に積極的に関わっていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：70名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：三葉児童遊園にて(メリー★ポピンズ 大山ルームと合同開催)　　集客目標：70名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域の方との交流を行う
異年齢交流	近隣小・中・高校性等の職場体験、実習生の受け入れを行う
地域拠点活動	子育て相談、園訪問

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の小学校や特別支援学級、特別支援学校について情報を集め、公開授業にも積極的に参加する。スタッフが小学校の現状を知り、保護者へ情報を発信することで、安心して就学へつなげられるように努める。相談支援事業と連携し、幼児期 から小学校の接続だけでなく、成人期までのイメージを持ちながら必要に応じて就学支援シートやサ ポートブックを活用していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月25日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	板橋第七小学校	2名予定	特別支援学級の授業公開	特別支援学級の現状を知り、支援につなげる
6月頃	王子特別支援学校	2名予定	学校公開	特別支援学校の現状を知り、支援につなげる

7月頃	高島特別支援学校	2名予定	学校公開	特別支援学校の現状を知り、支援につなげる

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：　名予定）

併設するメリー★ポピンズ大山ルームのスタッフと共に、園児・つむぎ利用児の情報共有及び支援方法についての検討を行う。インクルーシブ保育を前提に、子どもに配慮した環境や関わり方を真剣に話し、考え、支援案を見いだせるように進行していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への引継ぎに関しては、就学支援シートを作成し、保護者と内容を確認の後、小学校に提出する。就学の流れや必要な書類など、まずはつむぎスタッフがしっかり把握をし、就学の流れを保護者に説明できるように学んでおく。また、就学についての不安や心配な気持ちを受け止め、要望があれば家庭支援加算などの形で保護者と一緒に就学について考えていくように努める。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：70名
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：70名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（●）10:00～12:00　　集客目標：70名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（●）10:00～12:00　　集客目標：70名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　　公園名：三葉児童遊園にて開催　集客目標：70名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

２０２５年６月３０日、「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：８時３０分
自己評価終了予定時刻：１７時３０分
自己評価実施予定者：施設長兼児童発達支援管理責任者、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

今年度開園のため記載なし

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	法人の目指すインクルーシブ保育を実践する
	重点施策	○丁寧な支援の実践 子どもの人権を尊重した保育・支援が確立される。 ○インクルーシブ保育の確立 混ざる(認め合う)：大人も子どもも環境も。“分けず”に全てが混ざり合った活動・環境。子どもがやりたい遊び、経験を自分で考え、自分で決め、自分で行動する。子ども同士のやり取りができる関わり 学び：保育、支援ともにお互いの知識を学びあい、理解しあう。(個を見る力、集団を見る力)。大人のにんげん力向上のために、学びあえる集団。 ○発信し続ける施設 どろんこ会のインクルーシブ保育を社内、地域、関係機関等へ発信をしていく。特に地域の拠点となるべく、発信し続ける。 ○職員育成 インクルーシブ保育を実践するリーダー層の育成。新人への教育を丁寧に行う。どろんこ会のインクルーシブ保育を語れるスタッフの育成。スタッフを育成できる人材の育成。 ○稼働率の安定：新規開設園だが、稼働率90%を目指して運営をしていく
2026年度	目指す姿	地域に開かれた施設になる インクルーシブ保育が根付き、選ばれる施設になる。地域、社内、など外部への発信を広げ、インクルーシブ保育のモデル園として認知される
	重点施策	○接遇や美観を徹底し、地域の方に必要とされ、愛される施設となる ○地域の関係機関に認知され、インクルーシブ保育・支援の見学件数が増える ○選ばれることで、保育園もつむぎも定員を満たす
2027年度	目指す姿	インクルーシブ保育の実践が認知され、選ばれる園のモデルになる
	重点施策	保育園・児童発達支援事業所共に選ばれる園を目指すべく、子ども・保護者との安定し継続的な関係を築く。

以上

作成日：２０２５年３月１５日　作成者：発達支援つむぎ 大山ルーム　施設長　中村大輔

２０２５年度　発達支援つむぎ 上目黒ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

●ルーム理念

　２０２５年５月より、新たにつむぎ上目黒ルームを開設することとなった。併設している上目黒どろんこ保育園と共に、互いのスキル、視点を活かしていきながら、下記のことを大切にしながら保育、支援を行っていく。

・「つむぎだから」「保育園だから」などと分けるのではなく、大人も子どもも様々な人が居る中で、一人ひとりの想いやスキル、考えを知る姿勢を大切にする。
・一人ひとりの個性を大切にしてきながらコミュニケーションを取り合うことを大切にし、『上目黒ごと』として考える。
・安心、安全、丁寧な保育、支援の実施を徹底する。

●運営部mission２０２５の遂行

【原点回帰　～毎日の時間を大切に・人間形成を質高く確実に丁寧に～】

①基本活動の深い理解
・戸外活動を中心とした支援を実施していく。
・散歩を通してジブンの力で歩く力を身につけていく。
・「子どものやりたい」を大切にしていきながら、伝承遊び、制作、様々なルールのある遊びなど、『大人が見せて教えないと知れない遊び』を取り入れていくことで、子どもの遊び、興味の幅を広げていく。
・大人が「この子は〇〇だから」「この子の発達段階はここだから」などと決めつけず、子どもの力の可能性を信じる。
・上目黒の子どもたちにとって必要な「ホンモノの体験」とは何かを追求する。

②畑仕事・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧に行う
・生き物を育てることで、命の大切さを学ぶと共に、食の循環の教育を行う。
・毎日、生き物の世話、畑仕事を実施する。

③～混ざるのその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する
・大人は子ども同士の壁にならないことを徹底する。
・大人は常に子どもにつき支援をするのではなく、子どもと共に遊びに参加しながら、今その子どもにどんな関わりが必要なのか、見守るべきなのかを丁寧に見極め、子どもの力を信じる姿勢で関わっていく。
・子ども同士の関わり合いの中でうまれる人と関わる楽しさ、喜び、葛藤場面などで、子ども一人ひとりの手段(ジェスチャー、言葉など)で相手に伝えられた経験を積んでいけるよう、大人は子どもの様子を見極め、子ども同士の関わり合いが多くうまれるよう必要な導きをしていく。
④自走にむけて

・まずは上目黒全員のスタッフが保育品質マニュアル、内部監査を実施する理由の理解を深める。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの可能性を信じる支援
	実践予定内容	子どもの発達を専門士の視点から学ぶ　会議の実施　年２回
2	計画・ねらい	園、つむぎ、全員で保育、支援を実施する
	実践予定内容	・園、つむぎスタッフ両方で策定会議を実施し、支援計画を作成する ・ケース会議の実施　月１回

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	【安心、安全な保育、支援】 ・第二上目黒保育園への想いや引き継ぎ事項をスタッフ全員が理解、把握する。 ・保育品質マニュアルの理解を徹底し、安心、安全な保育、支援を実施していく。
	実践予定内容	マニュアルの確認(都度実施)
2	計画・ねらい	【全保護者と信頼関係を築き、共に支援を実施する】
	実践予定内容	・臨機応変に保護者面談の実施

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【地域を知り、必要な支援を実施していく】
	実践予定内容	・まずは目黒区にある子育て支援の環境を学び、地域の協議会などに出席していく ・保護者に必要な情報提供を実施する

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	【チームとしての基盤作り(互いを知り、頼り、高め合う)】 ・日々の業務の中で、子どもの様子、感動したこと、悩んだこと、発見など些細なことを語り、共有する ・相手のことを知る姿勢を持ち、互いの特技、不得意なことを補い合い支え合う ・専門士としての視点、保育の視点など、それぞれの視点、分野を活かしていく
	実践予定内容	・朝礼、終礼の実施(毎日) ・月に２回、ルーム内ケース検討会の実施 ・専門スタッフによる園内研修の実施

〈5〉環境実施目標

I	計画・ねらい	【畑活動の充実】
	実践予定内容	・畑仕事を学ぶ ・より良い野菜作りを行う

〈6〉併設園としての土台作り（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

第二上目保育園の想いを引き継ぎ、園の運営を実施していく為、保護者様、子どもの変化や不安、全てを受け止め理解し、園運営を実施していく。

保育園スタッフとつむぎスタッフが分け隔てなく、１年かけ互いを知り、互いのスキル、思いの意見交換を多くしながら保育、支援を行っていく。

I	計画・ねらい	【子ども、大人を知る】 テーマ：上目黒に関わる子ども、大人、保護者、一人ひとりの理解を深める。大人も子どもも、様々な人との関わり合いがうまれる為、喜び、葛藤、協力する達成感など、様々な感情を経験し、成長し合えるルームを目指す。
	実践予定内容	・専門士としての視点、保育としての視点の違いを受け入れ、学び合う ・思ったことはその場で話し解決し合っていく ・発達支援事業所、併設園としてある意義を追求していく

2. 施設運営

〈I〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月I日時点）

施設長I名

児童発達支援管理責任者I名（施設長兼務）

保育士２名

機能訓練担当スタッフ１名（公認心理師）

児童指導員　１名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設　　け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・開催される会議に参加し、議事内容の情報共有をする。
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデント、事故の共有。 ・再発防止策の確認。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	議事内容の情報共有。
保健会議	年4回	議事内容の情報共有。
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した実践と成果報告。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策

	計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	上目黒どろんこ保育園や保護者と協働し、祭りを企画・実施する。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・8時30分の受け入れ開始。朝の職員の動きの確認。 ・「ジブンで歩く」ことや、食べることなどの「生活の中で必要な力」を育てる。 ・戸外活動で全身を使って遊び、お腹が空いた感覚を味わい、食べる意欲に繋げていく。
	下半期	・子ども同士の関わり合いの中で、様々な葛藤場面、成功体験を経験する。 ・友達の遊びを真似ることで、遊び、興味の幅を広げていく。 ・長距離散歩の実施。
家族支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第Ｉ回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

I	計画・ねらい	【「食」を楽しいと感じる】 ・空腹感を味わった上で、自然と「食べたい」という気持ちになるように、9時出発を徹底し戸外での活動を充実させる ・友達と食を一緒にすることで、食への興味が乏しい子どもも、友達が食べている様子を実際に見ていくことで、食への興味関心を高めていく
	実践予定内容	マンスリー活動時は給食を園児と共にとる
2	計画・ねらい	【食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践】 ・自らが畑で育てたものを収穫・調理・食べる経験をする ・「命をいただく」ということを体験し知る
	実践予定内容	・Iか月にI回の畑活動の実施 ・通年で、プランター栽培の実施 ・活動での調理活動の実施（育てるもの、作るものは子どもたちが決める） ・保育園の調理員さんを招き、プロに料理を学ぶ

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年I回
スタッフ検便	全スタッフ月I回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月：手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ12月～3月頃･･･インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス 感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・特になし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在Ｉ名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在Ｉ名が、研修受講し、修得済み

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回/6･12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認/保険証期限確認	年2回/4･10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	年2回/6･11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4･10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	【安心、安全な環境】 保護者様がまずは少しでも早く安心して利用できるように安心、安全を徹底する
	実践予定内容	・保育品質マニュアルを徹底し、安全な保育、支援の実施 ・清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ぶら下がり遊具	幼児室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	法人の定める、マニュアルに則って行動をする。
2	実践予定内容	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努める。なお、個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真などを用い、起こりうる事故やケガを協議する。
3	実践予定内容	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行う。訓練の訓練とならないよう、参加者が実際に起こりうるという意識を持ちながら参加できるようにする。なお、全利用児が年に1回は訓練に参加できるようにし、有事に備える。
4	実践予定内容	光化学スモッグについては、自治体の情報を職員に即座に伝達し、マニュアルに則って戸外活動を避けたり、戸外活動を切り上げて戻ってきたりという判断が迅速に行えるようにする。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

次世代育成の観点から、要請があった場合には積極的に受け入れを行い実習生やボランティア一人ひとりの様子に合わせて、具体的かつ丁寧に援助・指導を行う。

1	実践予定内容	児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。

② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を

行う。

③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切りロを変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月１回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。

④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。

⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間６回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。

⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低１名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。

⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈１〉２０２５年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
４月２４日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保育理念・日課の理解 ③怪我、ケーススタディ研修	①振り返り、アクションプランをたてる ②理念、方針、保育目標、日課の意味を知る ③怪我を対応の基本を学ぶ
５月２９日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②0歳児の心と体の発達 ③避難訓練デモンストレーション	①振り返り、アクションプランをたてる ②発達から事例検証 ③災害時の自園での対応方法を確認する。実際にやってみ役割分担の必要性を知る。
６月２６日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②１歳児の心と体の発達 ③保育中の重大事故(水遊び)	①振り返り、アクションプランをたてる ②発達から事例検証 ③水遊びマニュアルの確認
７月２４日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②２歳児の心と体の発達 ③感動するお迎え対応とは	①振り返り、アクションプランをたてる ②発達から事例検証 ③保護者が感動する内容を考察
８月２８日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②３歳児の心と体の発達 ③子どもが輝く運動会とは	①振り返り、アクションプランをたてる ②発達から事例検証 ③何のために行事をするのかを再確認
９月２５日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②４歳児の心と体の発達	①振り返り、アクションプランをたてる ②発達から事例検証

		③散歩ロールプレイング研修	③散歩のリスクマネジメント
１０月２３日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②５歳児の心と体の発達 ③嘔吐処理デモンストレーション	①振り返り、アクションプランをたてる ②発達から事例検証 ③マニュアル・手順確認
１１月２７日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②6歳児の心と体の発達 ③成長が伝わる生活発表会とは	①振り返り、アクションプランをたてる ②発達から事例検証 ③個性を引き出す表現とは？
１２月２５日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②全体研修動画視聴 ③今年度の振り返り（保育）	①振り返り、アクションプランをたてる ②子どもにとって必要な環境とは何かを ③考察
１月２９日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育 ③今年度の振り返り（行事・係）	①振り返り、アクションプランをたてる ②実践報告 ③今年度に実践した行事を振り返る。
２月１３日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②次年度事業計画発表・園目標決め	①振り返り、アクションプランをたてる ②事業計画を理解し、次年度の目標を決定。
３月１日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②次年度行事計画策定	①振り返り、アクションプランをたてる ②次年度計画。プロポーザルを基に、子どもたちに経験させたい行事を決定する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域開拓係を新たにさらなる交流を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：５００名(園児、つむぎ児童、地域を含む)
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：目黒銀座児童遊園にて　集客目標：５０名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・公園で活動が一緒になった際に近隣の小学生との交流をもつ ・小学校見学の実施。
異年齢交流	・保育園への活動参加 。 ・異年齢グループの実施。
地域拠点活動	・商店街ツアー・中目黒夏祭り参加

9. 小学校との連携の計画

① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害

の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の小学校への見学を実施していき交流を目指す。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を５月１日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
１０月頃	目黒区立八雲小学校 支援学級	２名予定	学校見学(八雲小学校)	・職員間交流 ・子ども間交流
１１月頃	目黒区立 鷹番小学校	２名予定	学校見学(鷹番小学校)	・職員間交流 ・子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があっ

た場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

・児発管が中心となり、ルーム内会議の場でスタッフ全員が策定会議に参加していく。
・半年を待たずして目標を達成したり、幼稚園や保育園、その他関係機関とのケース検討の結果必要と考えられたりする場合には随時更新していくこととする。
・マンスリー児、保育園利用児の計画は園スタッフと共に策定会議を実施し作成する。

〈2〉毎月のケース会議開催　（4～3月に計12回開催予定　参加者：6名予定）

・策定会議だけでなく、ケース検討会を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深め、支援内容の充実に繋げていく。
・つむぎスタッフだけでなく、園のスタッフと共に実施。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートを作成し、子どもの共有を行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	（月）～（土）9:00～17:00
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：3名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：目黒銀座児童遊園にて開催 集客目標：100名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2025年6月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：９時３０分
自己評価終了予定時刻：１０時３０分
自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

２０２５年８月に利用者アンケートを実施し、２０２６年１月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉当年度以降の3カ年計画

２５年度	目指す姿	【大人、子どもを知り、安全な園運営を目指す】 併設園である意義、インクルーシブな施設とは何かをスタッフで追及していき、目黒区で必要とされる事業所となるよう基盤作りを行う。
	重点施策	子ども、大人、保護者、上目黒に関わる全ての人を知る。
２６年度	目指す姿	【併設園としての基盤が固まる・地域のニーズをキャッチし、必要な支援を実施していく】
	重点施策	・専門士を活かし、地域や保護者、様々なところで活躍をする ・他事業所や園などと連携を図り、充実した支援を実施する
２７年度	目指す姿	【地域に認められる事業所となる】
	重点施策	・法人に向けての研修の実施、発信 ・地域と連携した支援の実施

以上

作成日：２０２５年３月15日　　作成者：発達支援つむぎ 上目黒ルーム 施設長　清水　郁

２０２５年度　発達支援つむぎ つくば駅前ルーム
事業計画書

Ⅰ．基本方針

高度IT社会、多様性の時代を生きる力を育む。AI技術の導入、様々なシステムの自動・電動化、インターネットによるコミュニケーション手段の構築などが行われている現代は目まぐるしい勢いで社会システムの変革が続いている。一方で人が介在しないことや容易に世界中へ意見を発信できること、対面でのコミュニケーションが不要になってきていることにより、個々人の社会性や倫理観、ホンモノの体験というものは希薄になりつつある。また、人種や障害、年齢等を超えたインクルーシブな社会の動きがあり、今後は多様性を自然と受け入れることができる人材が求められてくる。特に、基本的な人格形成が行われる幼児期にホンモノの体験をもって社会性や倫理観、多様性を受け入れることを学ぶ必要がある。

つくば市は様々な研究機関、多くの自然、文化的施設が多く、様々な人種の人たちが生活している新しい街であり、子どもにとって多くの人や自然体験に触れる環境である。発達支援と保育においても「多様性」を受け入れお互いを尊重しあうことで、子どもに質の高い支援、保育を行う。スタッフは以下の4つを基本として支援を行っていく。

① 健常児と障害児が自然と混ざり遊びあうことができる環境づくり
② 保育、発達支援スタッフが混ざり合うことで互いの専門性を尊重し、支援の質を高める
③ 子どもの「いま」だけを支援せず、成人になるときを見通した関りを持つ
④ 豊かな環境を利用して多くの戸外活動を行いにんげん力を高める。

〈１〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	５領域を意識した支援プログラムの提供
	実践予定内容	「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の発達を促すことができるように定期的に評価をすること。
2	計画・ねらい	根拠に基づいた支援、フィードバックの提供
	実践予定内容	特に専門的実施加算をとる場合にはエビデンスに基づいた関りを行い、フィードバックで分かりやすく説明することができる。
3	計画・ねらい	保育園との情報共有
	実践予定内容	日常的に保育の技術共有、子どもについての情報共有し、支援の質を高める。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の困り感に丁寧に対応すること
	実践予定内容	積極的に事業所内相談を行い、困り感が改善することができるようにアドバイス、会議で検討し、提示すること。
2	計画・ねらい	関係機関と連携の強化
	実践予定内容	他の利用している事業所や保育園、幼稚園訪問し、連携を強化することで子どもへの理解を高め、保護者の安心感につなげる。
3	計画・ねらい	保護者交流会等の行事の企画
	実践予定内容	子育て支援センターを利用した親子製作活動の企画。戸外施設を利用した親子体験活動の企画。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の方に向けた発達や関りについての情報発信
	実践予定内容	子育て支援センター等を利用し、専門的知見をわかりやすく視覚的に保護者に発信する機会を設ける。
2	計画・ねらい	周辺施設へ子育て支援センター、発達支援つむぎの周知
	実践予定内容	周辺施設を訪問し、パンフレットの設置依頼、主要相談支援事業所と連携し、地域の子育ての悩みに対応する。
3	計画・ねらい	つくば市内のどろんこ保育園訪問
	実践予定内容	市内のどろんこ保育園利用の保護者からの困り感を受けて園訪問し、子どもの様子観察した結果を担当保育士に伝え保護者に伝達する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育を実践し保育士から学びを受け、集団遊びを行う技術、方法を習得する。
	実践予定内容	インクルーシブな環境の中で保育士が日々担っている集団遊び、集団活動の役割を実践し、効果的な集団児童心理、行動心理の習得を目指す。
2	計画・ねらい	スタッフ自ら業務効率化、質の向上に向けて発信、提案をしていく。
	実践予定内容	業務上のことを自己発信する際に、根拠をもって伝えるようにするとともに、必ず他スタッフとの意見のすり合わせをすること。
3	計画・ねらい	スタッフ間のインクルーシブ業務化
	実践予定内容	スタッフの経験年数、年齢、保有資格等によって上下関係を作らず、全スタッフが並列に混ざり合う業務環境にすること。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	命の尊さを知る
	実践予定内容	虫を捕まえて飼育する活動、植物や野菜を育てて観察する活動を行い、命の大切さを学ぶ。
2	計画・ねらい	子どもの「やってみたい」が実現する環境づくり
	実践予定内容	室内には子どもの創造力を発揮させることができる廃材、物品を常設するようにする。
3	計画・ねらい	子どもの「もっと動きたい」が実現する環境づくり
	実践予定内容	室内には子どもが思い切り体を動かすことができるような遊具が常設されている、もしくはすぐに提供することができるようにする。

〈6〉支援以外の業務効率化

1	計画・ねらい	事務的作業の効率化
	実践予定内容	子どもに接する支援よりも事務的作業に時間を要することのないようにデジタルで管理、更新ができるものはなるべくデジタルに移行していく。 様々な事務作業の役割を分担し、一人に負担が偏らないように調整する。
2	計画・ねらい	外部訪問の効率化
	実践予定内容	支援が空いた時間帯では周辺施設への周知活動に移行することができるように園とつむぎで連携調整すること。
3	計画・ねらい	提言することの効率化
	実践予定内容	課題に対して限られた人数で提言することを避け、意見がある際には全体共有の場で提言をするようにし時間のロスを減らすこと。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援　１０人／日

〈2〉開所時間

８時３０分～１７時３０分

〈3〉スタッフ構成　（3月1日時点）

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名
機能訓練担当スタッフ3名（公認心理士　1名　児童指導員　1名　保育士　1名　）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	食事の様子　アレルギー児の確認　食育活動の共有 つむぎから1名出席し　偏食の傾向　食形態の確認
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの分析　危機管理等の共有
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
カンファレンス	適宜	・支援内容の再検討 ・子どもの発達確認とストレングス、問題点共有 ・保護者のニーズ再確認
つむぎ会議	週1回	・利用児の情報共有 ・翌週の動向確認 ・保育への共有事項確認 ・リスク管理について検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
主任・ミドル会議	月1回	主任・ミドルの役割、マネジメントについて情報共有
併設園会議	年2回	インクルーシブ保育の研究と実践発表

食育会議	年4回	食育や食の循環教育活動に関する研修　実践報告
保健会議	年4回	衛生管理や感染症についての研修
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに沿った研修　実践報告、情報交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	健康管理、衛生管理、感染症流行時、発生時の対応
安全対策係	施設内外の遊具、設備等の安全点検　職員の危機管理の共有 利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	マニュアルに基づいた衛生管理　給食の提供
畑係	畑計画の作成　年間を通した畑の管理　種、苗の購入
生き物係	飼育の管理　堆肥作り　エサの管理、購入、管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	サポーターズと協同での企画、運営、地域を巻き込んだ行事の実施
運動会係	体育館を使用し、園児、外部利用児、地域を巻き込んだ企画の実施、運営をする。
生活発表会係	つむぎ利用児も参加できるように保育園と協力して企画、実施する。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

保育内支援	上半期	・保育園の環境や活動に慣れて、安心して通うことができるような環境づくり。 ・大人や他児と一定の関係性を築くことができるような遊びの提供。 ・戸外活動に参加することができるように配慮、人員配置。 ・他児を見て興味の幅が広がるように環境設定。
	下半期	・新しいことに挑戦したくなる気持ちを促す。 ・ADL/IADLの向上を促す。 ・言語発達、運動発達、感覚欲求、社会性など大人が必要に応じて仲介して発達を促す。 ・集団遊びへの参加
就学前支援	上半期	主にむぎ組、こめ組の利用児を対象に、必要に応じて机上遊び（マッチング、運筆、巧緻動作等）を行う。
	下半期	主にむぎ組、こめ組の利用児を対象に、必要に応じて机上課題（書字、数唱、上下大小など概念理解等）を行う。
小集団支援	通年	社会性の発達を希望されている利用児を対象に３～5人のグループ支援を行う。 目的：ルールの理解、他者の尊重
個別支援	毎週土曜日	子どもの発達に合わせて50分間集中して設定したプログラムに取り組む。
家族支援	随時 オンライン可	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

２０２５年２月及び３月に開催の「年間計画策定会議第１回・第２回」にて決定し、
別紙「２０２５年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	家庭的な雰囲気の中で大人も子どもの一緒に食べる 一人ひとりに合わせた

		食事、食生活を整え食への意欲を育む
	実践予定内容	食べたい人と食べたいものをおいしく食べられる環境を整える。家庭と連携を図りながら一人ひとりの食事の様子を把握し食に対する意欲を育んでいく
2	計画・ねらい	四季や伝統行事の食を知る食育活動の実施
	実践予定内容	旬の食材や伝統行事の食事など食育活動を通して知らせ、季節を感じる機会を持つ
3	計画・ねらい	加工する食育体験活動を通して食材に興味関心を持つ 食の循環、環境へ自ら関わろうとする意欲を育む
	実践予定内容	堆肥作り、コンポスト等の取り組みを子どもたちと一緒に行いながら食に対する意欲を育んでいく。素材そのものや、加工する過程を知る活動を行うことで食材や食への興味関心を広げていく

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年I回
スタッフ検便	全スタッフ月I回（5日）
流行が予測される感染症	通年･･･新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい･手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 ６～７月頃･･･胃腸炎　プール熱 I月頃･･･インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ･･･0名より預かり済み／　　にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在0名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員I9名については３月２I日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	緊急時薬の更新確認　　感染症発生時の情報共有 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・ 手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4･7･I0･I月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6･I2月の25日
	避難消火訓練	毎月I回／I5日

	不審者侵入訓練	6･12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5･11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4･7･10･1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4･7･10･1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	自ら選択し遊び込める環境設定
	実践予定内容	子どもの姿を踏まえた環境構成を実施する。遊びが断続的にならないよう昨日の続きができる環境を日々整えていく。
2	計画・ねらい	大人も子どものやってみたいが実現できる環境作り
	実践予定内容	ゾーンの物的環境や人的環境を整えることで、やってみたい遊びや活動 が実践でき、主体的に関わる経験を積んでいく。
3	計画・ねらい	環境の再構築の実践
	実践予定内容	日々子どもの姿を語り合うことで、目の前にいる子どもの興味関心、発 達を把握し適宜環境の再構成を行っていく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	手作り遊具　なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月様々な災害を想定した避難訓練を実施することで非常時にも速やかに対応できるよう訓練を行う。
2	実践予定内容	怪我や事故が発生した場合には、都度検証と分析を行い同じことが起きないよう職員間で共有する。自園、他園の事故記録簿の共有、ヒヤリハット、インシデントを毎月分析することにより危険意識を高めていく。
3	実践予定内容	会議にて光化学スモックについて確認し発生時の対応の共通理解を図る。
4	実践予定内容	水色ビブスを着用したスタッフは人数確認リーダーとして適宜人数確認を行い、他スタッフとwチェックの共有をし、責任を持って行う。
5	実践予定内容	ハザードマップ、ルートマップの作成、年3回の見直しの実施
6	実践予定内容	園内外の死角、危険個所のすり合わせを行い、共通認識を持つ

6. 実習生・中高生の受入

発達支援と保育に興味を持ってもらえるよう、中高生の職場体験を積極的に受け入れていく。実習生は保育の面白さ、魅力を感じてもらえるよう責任をもって丁寧な指導を行う。安心して実習に臨める環境を整えることで次世代の人材育成につなげていく。

1	実践予定内容	中高生の職場体験の受け入れ
2	実践予定内容	実習生の受け入れ
3	実践予定内容	養成校のボランティアの受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉２０２５年度 園内研修計画
（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権擁護について ③ 虐待防止研修	子どもの人権の尊重、虐待について学び、自身の保育について考える。人権擁護チェックリストを活用してスタッフ間で共通認識を持つ
5月9日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「最低限身につけておきた	社会人としての立ち居振る舞い、接遇ができるよう学びの場を設ける。一定の基準で対応できるよう共通認

		い社会人のマナー」を用いてビジネスマナーを学ぶ	識を深める。
6月13日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 夏場の安全管理について	夏に向けて水の扱い方、水分補給などの夏場の過ごし方について学び、危機管理意識を養う。
7月11日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「保育を嫌いになりそうになった時の処方箋」(井上さく子)を用いて丁寧な保育について学ぶ	自分が保育の中で大事にしたいことは何かを考えながら、丁寧な保育実践に向けて学ぶ。丁寧な保育に対する目線を合わせる。
8月8日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「実践から学ぶインクルーシブ保育」を用いて保育を学ぶ	インクルーシブ保育について理解を深め、同じ認識のもと保育実践ができるよう学ぶ。自園の保育を振り返り、実践につなげる
9月12日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「SIDS家族の会から学ぶ命の重さ」(田上克男)を用いて生存確認について学ぶ	生存確認の意味や意義を再度確認することで日々行っていることの重要性の理解を深める。万が一を防ぐための生存確認の方法、緊急時の対応について学ぶ。
10月10日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学「心を育てる保育環境」(佐藤将之)を用いて環境について考える ③虐待防止研修	現状の環境やこれまでの環境を振り返り、遊び込める環境か、主体的に関われる環境かを見直しながら実践につなげていく。
11月14日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ②エピソード研修(対話による保育の視野の充実)	対話を通して様々な保育観や保育の仕方を学び、各自保育の視野を広げ充実を図っていく。
12月12日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修(対話から子ども主体の意義を考える)	対話を通して子どもの育ちを捉え、子ども主体の意義を考えながら学びにつなげていく。
1月16日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保育について考える	7月の園内研修の学びをもとに、丁寧な保育を振り返る。振り返りをもとに今後に向けての保育実践を考える。
2月13日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点	クラスごと一年間の振り返りを行

		①　今年度の振り返り	い、次年度の保育につなげる。
3月13日	18:30～20:30	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の計画	法人の理念や園目標に基づき子どもにとって必要な経験を考え次年度の計画を立てる。

エリア研修予算内訳　救急救命講習（つくばどろんこ保育園・万博公園どろんこ保育園・学園の森どろんこ保育園・守谷どろんこ保育園・香取台どろんこ保育園・アイビー保育園・ほしのこ保育園・おひさま保育園合同開催）
救急救命講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	会場	総予算	按分予算
6月14日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円
6月21日(土)	9:00～12:00	救急救命講習　受講	つくばどろんこ保育園	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
ﾃﾞﾝﾏｰｸｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育

成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈5〉今年度方針・テーマ

子育て世帯に向けて、子育て支援活動や園行事などを発信していくことで地域の遊び場として根付き活用される園になる。学校、商業施設、高齢者施設などとの交流活動が積極的に持てるよう地域を知り、様々な人と関わる機会を設けていく。

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回　　集客目標：200名
青空保育（保育園主催）	月1回　　公園名：つくば市中央公園にて　　集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人福祉施設訪問
異年齢交流	小中高校生との交流
地域拠点活動	子育て支援ちきんえっぐ　実習生受入れ
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

スムーズな接続に向けて、スタッフ授業見学や行事見学等様々な交流の場を設けていく。また、アプローチカリキュラムを作成し保育を実践していく。情報交換会などでは丁寧な引継ぎを行っていく

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を４月１日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
４月頃	吾妻小学校 松代小学校 葛城小学校	３名予定	新年度挨拶 保幼小連携計画について共有	職員間交流

6月頃	吾妻小学校 1年	３名予定	授業見学	職員間交流
11月頃	吾妻小学校 1年	12名予定	校内見学、授業見学	子ども間交流
2月頃	地域の連携校と連携園	1名	就学児の共有連携	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
⑥ 原則として6カ月に１回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

原則6カ月以内に1回以上、支援計画の見直しを行い、保護者にモニタリングを実施する。保護者の希望を聞き取り、子どもの心身の状況、日常生活の様子を整理する。児童発達支援管理責任者と担当者らと策定会議を行い、目標設定と具体的な支援を検討し、個別支援計画を作成する。個別支援計画は保護者に提示し、説明と同意を得て支援を行う。

〈2〉毎月のケース会議開催　（４～３月に計１２回開催予定　参加者：６名予定）

保育や支援の様子、保護者からの聞き取り、個別支援計画内容等をもとにケース会議を開催する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

地域の学校との連携に努め、授業参観や学校見学会に積極的に参加をする。就学や進級に関する情報の収集を行い、保護者に共有していく。相談や就学に関する文書（就学支援シート）の作成等を積極的に勧め、保護者・学校・児童発達支援事業所の３者間で共有していく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30　　集客目標：50名
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30　　集客目標：10名
自然食堂…親子ランチ交流	隔週（水）10:00～12:00　　集客目標：30名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00　　集客目標：20名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回　公園名：つくば市中央公園にて開催　集客目標：10名
地域子育て支援センター運営	（月）～（金）10:00～16:00　（昼休憩１時間）
出張子育て広場	隔週1回　場所：かとりだい交流館

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2026年2月13日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：18時30分
自己評価終了予定時刻：19時00分
自己評価実施予定者：全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：８月２５日

13. ３カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

３月末までに目指した姿	重点施策	2025年4月開園のため　記載なし
	振り返り	同上

〈2〉当年度以降の3カ年計画

２０２５年度	目指す姿	利用者に寄り添ったインクルーシブ支援の実施
	重点施策	・どろんこ会の基本方針をベースに、保護者、利用児のニーズに寄り添った支援を実施する。初めて児童発達支援を利用する方への敷居が低くなるように、訪れやすい環境づくり、気持ちのよい保護者との関りをしていく。 ・地域で生活する利用者一人ひとりのために、丁寧に地域との連携を行っていく。相談支援事業所、児童発達支援事業所、行政、教育機関、医療機関、その他文化的施設と連携することで、質の高い支援、保護者への安心感に繋げる。 ・保育園と協働で安全に、豊かに戸外活動をすることで子どもの心身を健やかにすることができる保育、支援システムの構築。
２０２６年度	目指す姿	インクルーシブ支援の在り方を確立させることができる
	重点施策	・健常児、障害児、保育士、専門職が並列に関わりあうインクルーシブ支援の実績を重ねること。 ・保護者交流会、地域を対象とした公開講座などを開催することで、地域に向けて子どもに関する悩みへの対応、インクルーシブ支援の特色についての発信を行っていく。
２０２７年度	目指す姿	循環する利用サイクルをつくることができる
	重点施策	・支援を受けて発達上の困り感が解消した子どもは利用をせずに地域で過ごすことができるようになり、新たな困り感のある子どもの利用を受けるといった「利用の循環」の構築に努める。 ・事業所内だけではなく、地域へとスタッフの専門性を活かす機会が増えること。 ・就学に関して不安感を感じている保護者、子どもに丁寧に対応することができるよう、就学を見据えた支援、面談、必要に応じて発達検査などを行う体制を整えていく。

以上

作成日：２０２５年３月１5日　　作成者：発達支援つむぎ つくば駅前ルーム 施設長　佐藤　卓朗